

科目一覽

【発行日：2021/4/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

講義・実習科目	【LL001】	アメリカのジャーナリズム [別府 三奈子]	春学期授業/Spring	1
講義・実習科目	【LD305】	意思決定論 [宇野 齊]	春学期授業/Spring	2
講義・実習科目	【LA309】	イスラム社会論 [岡野内 正]	春学期授業/Spring	3
講義・実習科目	【LE105-a】	English Oral Communication I [James Watt]	春学期授業/Spring	4
講義・実習科目	【LE105-b】	English Oral Communication I [GEORGE HANN]	春学期授業/Spring	5
講義・実習科目	【LE105-c】	English Oral Communication I [GEORGE HANN]	春学期授業/Spring	6
講義・実習科目	【LE106-a】	English Oral Communication II [James Watt]	秋学期授業/Fall	7
講義・実習科目	【LE106-b】	English Oral Communication II [GEORGE HANN]	秋学期授業/Fall	8
講義・実習科目	【LE106-c】	English Oral Communication II [GEORGE HANN]	秋学期授業/Fall	9
講義・実習科目	【LE107-a】	English Drama I [GEORGE HANN]	春学期授業/Spring	10
講義・実習科目	【LE107-b】	English Drama I [GEORGE HANN]	春学期授業/Spring	11
講義・実習科目	【LE108-a】	English Drama II [GEORGE HANN]	秋学期授業/Fall	12
講義・実習科目	【LE108-b】	English Drama II [GEORGE HANN]	秋学期授業/Fall	13
講義・実習科目	【LE101-c】	English Reading & Writing A I [佐藤 修一]	春学期授業/Spring	14
講義・実習科目	【LE101-d】	English Reading & Writing A I [佐藤 修一]	春学期授業/Spring	15
講義・実習科目	【LE101-b】	English Reading & Writing A I [JONATHAN D BROWN]	春学期授業/Spring	16
講義・実習科目	【LE102-c】	English Reading & Writing A II [佐藤 修一]	秋学期授業/Fall	17
講義・実習科目	【LE102-d】	English Reading & Writing A II [佐藤 修一]	秋学期授業/Fall	18
講義・実習科目	【LE102-b】	English Reading & Writing A II [JONATHAN D BROWN]	秋学期授業/Fall	19
講義・実習科目	【LE103-a】	English Reading & Writing B I [宮本 裕子]	春学期授業/Spring	20
講義・実習科目	【LE103-b】	English Reading & Writing B I [宮本 裕子]	春学期授業/Spring	21
講義・実習科目	【LE104-a】	English Reading & Writing B II [宮本 裕子]	秋学期授業/Fall	22
講義・実習科目	【LE104-b】	English Reading & Writing B II [宮本 裕子]	秋学期授業/Fall	23
講義・実習科目	【LE110-a】	Intensive TOEIC (R) [鬼島 イヴァン ボテフ]	春学期授業/Spring	24
講義・実習科目	【LE110-b】	Intensive TOEIC (R) [鬼島 イヴァン ボテフ]	秋学期授業/Fall	25
講義・実習科目	【LE110-c】	Intensive TOEIC (R) [鬼島 イヴァン ボテフ]	秋学期授業/Fall	26
講義・実習科目	【LE110-d】	Intensive TOEIC (R) [鬼島 イヴァン ボテフ]	春学期授業/Spring	27
講義・実習科目	【LE109-a】	Intensive TOEFL (R) [James Watt]	春学期授業/Spring	28
講義・実習科目	【LE109-b】	Intensive TOEFL (R) [James Watt]	春学期授業/Spring	29
講義・実習科目	【LD018-b】	ウェブ・プログラミングA [石井 由起]	春学期授業/Spring	30
講義・実習科目	【LD018-a】	ウェブ・プログラミングA [堀 亜砂実]	秋学期授業/Fall	30
講義・実習科目	【LD018-c】	ウェブ・プログラミングA [堀 亜砂実]	春学期授業/Spring	31
講義・実習科目	【LD019】	ウェブ・プログラミングB [加藤 徹郎]	秋学期授業/Fall	31
講義・実習科目	【LE116】	英語講読A I [深松 亮太]	春学期授業/Spring	32
講義・実習科目	【LE117】	英語講読A II [深松 亮太]	秋学期授業/Fall	33
講義・実習科目	【LE118】	英語講読B I [宮本 裕子]	春学期授業/Spring	34
講義・実習科目	【LE119】	英語講読B II [宮本 裕子]	秋学期授業/Fall	35
講義・実習科目	【L0840】	英語講読C I [金原 瑞人]	春学期授業/Spring	36
講義・実習科目	【L0841】	英語講読C II [金原 瑞人]	秋学期授業/Fall	36
講義・実習科目	【LE112】	英語翻訳A I [金原 瑞人]	春学期授業/Spring	37
講義・実習科目	【LE113】	英語翻訳A II [金原 瑞人]	秋学期授業/Fall	37
講義・実習科目	【LE114】	英語翻訳B I [金原 瑞人]	春学期授業/Spring	38
講義・実習科目	【LE115】	英語翻訳B II [金原 瑞人]	秋学期授業/Fall	38
講義・実習科目	【LB110】	エイジングの社会学 [姫野 宏輔]	秋学期授業/Fall	39
講義・実習科目	【LD101-b】	映像制作技法 [石橋 充行]	春学期授業/Spring	40
講義・実習科目	【LD101-a】	映像制作技法 [稲増 龍夫]	春学期授業/Spring	41
講義・実習科目	【LD102-b】	映像制作実習 [石橋 充行]	秋学期授業/Fall	42
講義・実習科目	【LD102-a】	映像制作実習 [稲増 龍夫]	春学期授業/Spring	43
講義・実習科目	【LA206】	エネルギー論 [鞠子 茂]	秋学期授業/Fall	44
専門演習	【L1401】	演習1 [青木 貞茂]	年間授業/Yearly	45
専門演習	【L1406】	演習1 [荒井 容子]	年間授業/Yearly	46
専門演習	【L1671】	演習1 [宇野 齊]	年間授業/Yearly	47
専門演習	【L1666】	演習1 [吉村 真子]	年間授業/Yearly	48

専門演習	[L1446]	演習 1・2 [岡野内 正] 年間授業/Yearly	49
専門演習	[L1466]	演習 1 [堅田 香緒里] 年間授業/Yearly	50
専門演習	[L1796]	演習 1 [鞠子 茂] 年間授業/Yearly	51
専門演習	[L1812]	演習 1 [加藤 寛之] 年間授業/Yearly	52
専門演習	[L1781]	演習 1 [菊澤 佐江子] 年間授業/Yearly	53
専門演習	[L1476]	演習 1 [北浦 康嗣] 年間授業/Yearly	54
専門演習	[L1490]	演習 1 [高 美智] 年間授業/Yearly	55
専門演習	[L1486]	演習 1・2 [越部 清美] 年間授業/Yearly	56
専門演習	[L1784]	演習 1 [小林 直毅] 年間授業/Yearly	57
専門演習	[L1494]	演習 1 [斎藤 友里子] 年間授業/Yearly	58
専門演習	[L1505]	演習 1・2 [吉田 公記] 年間授業/Yearly	59
専門演習	[L1511]	演習 1 [島本 美保子] 年間授業/Yearly	60
専門演習	[L1827]	演習 1 [JONATHAN D BROWN] 年間授業/Yearly	61
専門演習	[L1521]	演習 1 [白田 秀彰] 年間授業/Yearly	62
専門演習	[L1526]	演習 1・2 [白鳥 浩] 年間授業/Yearly	63
専門演習	[L1501]	演習 1 [愼 蒼宇] 年間授業/Yearly	64
専門演習	[L1531]	演習 1 [鈴木 智道] 年間授業/Yearly	65
専門演習	[L1536]	演習 1・2 [鈴木 智之] 年間授業/Yearly	66
専門演習	[L1787]	演習 1 [鈴木 宗徳] 年間授業/Yearly	67
専門演習	[L1707]	演習 1 [関口 浩] 年間授業/Yearly	69
専門演習	[L1680]	演習 1 [長沼 建一郎] 年間授業/Yearly	70
専門演習	[L1626]	演習 1 [藤代 裕之] 年間授業/Yearly	71
専門演習	[L1830]	演習 1 [武田 俊輔] 年間授業/Yearly	72
専門演習	[L1561]	演習 1 [田嶋 淳子] 年間授業/Yearly	73
専門演習	[L1818]	演習 1・2 [多田 和美] 年間授業/Yearly	74
専門演習	[L1677]	演習 1 [谷本 有美子] 年間授業/Yearly	75
専門演習	[L1571]	演習 1 [津田 正太郎] 年間授業/Yearly	76
専門演習	[L1821]	演習 1 [土倉 英志] 年間授業/Yearly	77
専門演習	[L1581]	演習 1・2 [徳安 彰] 年間授業/Yearly	78
専門演習	[L1790]	演習 1 [土橋 臣吾] 年間授業/Yearly	79
専門演習	[L1586]	演習 1 [中筋 直哉] 年間授業/Yearly	80
専門演習	[L1824]	演習 1・2 [橋爪 絢子] 年間授業/Yearly	81
専門演習	[L1591]	演習 1・2 [濱中 春] 年間授業/Yearly	82
専門演習	[L1601]	演習 1 [樋口 明彦] 年間授業/Yearly	83
専門演習	[L1815]	演習 1 [別府 三奈子] 年間授業/Yearly	84
専門演習	[L1621]	演習 1 [堀川 三郎] 年間授業/Yearly	85
専門演習	[L1631]	演習 1 [増田 正人] 年間授業/Yearly	86
専門演習	[L1803]	演習 1 [諸上 茂光] 年間授業/Yearly	87
専門演習	[L1402]	演習 2 [青木 貞茂] 年間授業/Yearly	88
専門演習	[L1417]	演習 2 [池田 寛二] 年間授業/Yearly	89
専門演習	[L1432]	演習 2 [稲増 龍夫] 年間授業/Yearly	90
専門演習	[L1672]	演習 2 [宇野 斉] 年間授業/Yearly	91
専門演習	[L1667]	演習 2 [吉村 真子] 年間授業/Yearly	92
専門演習	[L1467]	演習 2 [堅田 香緒里] 年間授業/Yearly	93
専門演習	[L1797]	演習 2 [鞠子 茂] 年間授業/Yearly	94
専門演習	[L1813]	演習 2 [加藤 寛之] 年間授業/Yearly	95
専門演習	[L1782]	演習 2 [菊澤 佐江子] 年間授業/Yearly	96
専門演習	[L1477]	演習 2 [北浦 康嗣] 年間授業/Yearly	97
専門演習	[L1491]	演習 2 [高 美智] 年間授業/Yearly	98
専門演習	[L1785]	演習 2・3 (卒業論文) [小林 直毅] 年間授業/Yearly	99
専門演習	[L1495]	演習 2 [斎藤 友里子] 年間授業/Yearly	100
専門演習	[L1810]	演習 2・3 (卒業論文) [澤柿 教伸] 年間授業/Yearly	101
専門演習	[L1512]	演習 2 [島本 美保子] 年間授業/Yearly	102
専門演習	[L1522]	演習 2・3 (卒業論文) [白田 秀彰] 年間授業/Yearly	103
専門演習	[L1532]	演習 2 [鈴木 智道] 年間授業/Yearly	104
専門演習	[L1788]	演習 2・3 (卒業論文) [鈴木 宗徳] 年間授業/Yearly	105
専門演習	[L1708]	演習 2 [関口 浩] 年間授業/Yearly	106

専門演習	[L1681]	演習 2	[長沼 建一郎] 年間授業/Yearly	107
専門演習	[L1627]	演習 2	[藤代 裕之] 年間授業/Yearly	108
専門演習	[L1831]	演習 2	[武田 俊輔] 年間授業/Yearly	109
専門演習	[L1562]	演習 2	[田嶋 淳子] 年間授業/Yearly	110
専門演習	[L1572]	演習 2	[津田 正太郎] 年間授業/Yearly	111
専門演習	[L1822]	演習 2	[土倉 英志] 年間授業/Yearly	112
専門演習	[L1791]	演習 2	[土橋 臣吾] 年間授業/Yearly	113
専門演習	[L1587]	演習 2・3 (卒業論文)	[中筋 直哉] 年間授業/Yearly	114
専門演習	[L1632]	演習 2	[増田 正人] 年間授業/Yearly	115
専門演習	[L1546]	演習 2	[多喜 弘文] 年間授業/Yearly	116
専門演習	[L1602]	演習 2	[樋口 明彦] 年間授業/Yearly	117
専門演習	[L1612]	演習 2	[加藤 徹郎] 年間授業/Yearly	118
専門演習	[L1622]	演習 2	[堀川 三郎] 年間授業/Yearly	119
専門演習	[L1804]	演習 2	[諸上 茂光] 年間授業/Yearly	120
専門演習	[L1403]	演習 3 (卒業論文)	[青木 貞茂] 年間授業/Yearly	121
専門演習	[L1418]	演習 3 (卒業論文)	[池田 寛二] 年間授業/Yearly	122
専門演習	[L1433]	演習 3 (卒業論文)	[稲増 龍夫] 年間授業/Yearly	122
専門演習	[L1673]	演習 3 (卒業論文)	[宇野 齐] 年間授業/Yearly	123
専門演習	[L1668]	演習 3 (卒業論文)	[吉村 真子] 年間授業/Yearly	124
専門演習	[L1448]	演習 3 (卒業論文)	[岡野内 正] 年間授業/Yearly	125
専門演習	[L1458]	演習 3 (卒業論文)	[小川 有希子] 年間授業/Yearly	126
専門演習	[L1468]	演習 3 (卒業論文)	[堅田 香緒里] 年間授業/Yearly	127
専門演習	[L1798]	演習 3 (卒業論文)	[鞠子 茂] 年間授業/Yearly	128
専門演習	[L1814]	演習 3 (卒業論文)	[加藤 寛之] 年間授業/Yearly	129
専門演習	[L1783]	演習 3 (卒業論文)	[菊澤 佐江子] 年間授業/Yearly	130
専門演習	[L1478]	演習 3 (卒業論文)	[北浦 康嗣] 年間授業/Yearly	131
専門演習	[L1492]	演習 3 (卒業論文)	[高 美智] 年間授業/Yearly	132
専門演習	[L1488]	演習 3 (卒業論文)	[越部 清美] 年間授業/Yearly	133
専門演習	[L1496]	演習 3 (卒業論文)	[斎藤 友里子] 年間授業/Yearly	133
専門演習	[L1507]	演習 3 (卒業論文)	[吉田 公記] 年間授業/Yearly	134
専門演習	[L1513]	演習 3 (卒業論文)	[島本 美保子] 年間授業/Yearly	135
専門演習	[L1808]	演習 3 (卒業論文)	[志村 真弓] 年間授業/Yearly	136
専門演習	[L1528]	演習 3 (卒業論文)	[白鳥 浩] 年間授業/Yearly	137
専門演習	[L1503]	演習 3 (卒業論文)	[慎 蒼宇] 年間授業/Yearly	138
専門演習	[L1533]	演習 3 (卒業論文)	[鈴木 智道] 年間授業/Yearly	139
専門演習	[L1538]	演習 3 (卒業論文)	[鈴木 智之] 年間授業/Yearly	139
専門演習	[L1709]	演習 3 (卒業論文)	[関口 浩] 年間授業/Yearly	140
専門演習	[L1682]	演習 3 (卒業論文)	[長沼 建一郎] 年間授業/Yearly	141
専門演習	[L1628]	演習 3 (卒業論文)	[藤代 裕之] 年間授業/Yearly	142
専門演習	[L1563]	演習 3 (卒業論文)	[田嶋 淳子] 年間授業/Yearly	143
専門演習	[L1568]	演習 3 (卒業論文)	[田中 充] 年間授業/Yearly	144
専門演習	[L1573]	演習 3 (卒業論文)	[津田 正太郎] 年間授業/Yearly	145
専門演習	[L1823]	演習 3 (卒業論文)	[土倉 英志] 年間授業/Yearly	146
専門演習	[L1583]	演習 3 (卒業論文)	[徳安 彰] 年間授業/Yearly	147
専門演習	[L1792]	演習 3 (卒業論文)	[土橋 臣吾] 年間授業/Yearly	148
専門演習	[L1633]	演習 3 (卒業論文)	[増田 正人] 年間授業/Yearly	148
専門演習	[L1547]	演習 3 (卒業論文)	[多喜 弘文] 年間授業/Yearly	149
専門演習	[L1593]	演習 3 (卒業論文)	[濱中 春] 年間授業/Yearly	150
専門演習	[L1603]	演習 3 (卒業論文)	[樋口 明彦] 年間授業/Yearly	151
専門演習	[L1613]	演習 3 (卒業論文)	[加藤 徹郎] 年間授業/Yearly	152
専門演習	[L1817]	演習 3 (卒業論文)	[別府 三奈子] 年間授業/Yearly	153
専門演習	[L1623]	演習 3 (卒業論文)	[堀川 三郎] 年間授業/Yearly	154
専門演習	[L1643]	演習 3 (卒業論文)	[宮下 阿子] 年間授業/Yearly	155
専門演習	[L1805]	演習 3 (卒業論文)	[諸上 茂光] 年間授業/Yearly	156
講義・実習科目	[LB407]	開発とジェンダー	[吉村 真子] 秋学期授業/Fall	156
講義・実習科目	[K5363]	科学史	[河野 俊哉] 春学期授業/Spring	157
講義・実習科目	[LB104]	家族社会学 I	[菊澤 佐江子] 春学期授業/Spring	157

講義・実習科目	【LB105】	家族社会学Ⅱ	[菊澤 佐江子]	秋学期授業/Fall	158
講義・実習科目	【LA202】	環境経済学Ⅰ	[信澤 由之]	春学期授業/Spring	158
講義・実習科目	【LA203】	環境経済学Ⅱ	[信澤 由之]	秋学期授業/Fall	159
講義・実習科目	【LA205】	環境自治体論	[田中 充]	秋学期授業/Fall	160
講義・実習科目	【LB202】	環境社会学Ⅰ	[堀川 三郎]	春学期授業/Spring	161
講義・実習科目	【LB203】	環境社会学Ⅱ	[堀川 三郎]	秋学期授業/Fall	162
講義・実習科目	【LA204】	環境政策論	[田中 充]	春学期授業/Spring	163
講義・実習科目	【L0114】	環境生態学	[鞠子 茂]	秋学期授業/Fall	164
講義・実習科目	【LA100】	企業と社会論A	[加藤 寛之]	春学期授業/Spring	165
講義・実習科目	【LA101】	企業と社会論B	[多田 和美]	秋学期授業/Fall	166
講義・実習科目	【LA207】	気候変動論	[澤柿 教伸]	春学期授業/Spring	167
基礎演習	【L5027】	基礎演習Ⅰ	[李 舜志]	春学期授業/Spring	168
基礎演習	【L5031】	基礎演習Ⅰ	[飯野 智子]	春学期授業/Spring	169
基礎演習	【L5086】	基礎演習Ⅰ	[古澤 聡司]	春学期授業/Spring	170
基礎演習	【L5013】	基礎演習Ⅰ	[岡野内 正]	春学期授業/Spring	170
基礎演習	【L5015】	基礎演習Ⅰ	[加藤 寛之]	春学期授業/Spring	171
基礎演習	【L5051】	基礎演習Ⅰ	[兼子 諭]	春学期授業/Spring	172
基礎演習	【L5019】	基礎演習Ⅰ	[岩城 邦義]	春学期授業/Spring	173
基礎演習	【L5065】	基礎演習Ⅰ	[山田 唐波里]	春学期授業/Spring	174
基礎演習	【L5088】	基礎演習Ⅰ	[吉村 真子]	春学期授業/Spring	174
基礎演習	【L5045】	基礎演習Ⅰ	[島田 昭仁]	春学期授業/Spring	175
基礎演習	【L5069】	基礎演習Ⅰ	[白田 秀彰]	春学期授業/Spring	176
基礎演習	【L5067】	基礎演習Ⅰ	[愼 蒼宇]	春学期授業/Spring	176
基礎演習	【L5043】	基礎演習Ⅰ	[鈴木 智道]	春学期授業/Spring	177
基礎演習	【L5035】	基礎演習Ⅰ	[吉田 公記]	春学期授業/Spring	178
基礎演習	【L5005】	基礎演習Ⅰ	[山下 大厚]	春学期授業/Spring	178
基礎演習	【L5094】	基礎演習Ⅰ	[高橋 賢次]	春学期授業/Spring	179
基礎演習	【L5039】	基礎演習Ⅰ	[南 宏幸]	春学期授業/Spring	179
基礎演習	【L5063】	基礎演習Ⅰ	[武田 俊輔]	春学期授業/Spring	180
基礎演習	【L5003】	基礎演習Ⅰ	[多田 和美]	春学期授業/Spring	181
基礎演習	【L5011】	基礎演習Ⅰ	[田中 充]	春学期授業/Spring	182
基礎演習	【L5007】	基礎演習Ⅰ	[谷本 有美子]	春学期授業/Spring	183
基礎演習	【L5017】	基礎演習Ⅰ	[津田 正太郎]	春学期授業/Spring	184
基礎演習	【L5001】	基礎演習Ⅰ	[徳安 彰]	春学期授業/Spring	184
基礎演習	【L5041】	基礎演習Ⅰ	[宮下 阿子]	春学期授業/Spring	185
基礎演習	【L5053】	基礎演習Ⅰ	[中村 尚樹]	春学期授業/Spring	186
基礎演習	【L5047】	基礎演習Ⅰ	[惠羅 さとみ]	春学期授業/Spring	186
基礎演習	【L5033】	基礎演習Ⅰ	[古川 早苗]	春学期授業/Spring	187
基礎演習	【L5082】	基礎演習Ⅰ	[増田 正人]	春学期授業/Spring	188
基礎演習	【L5029】	基礎演習Ⅰ	[糸久 正人]	春学期授業/Spring	189
基礎演習	【L5055】	基礎演習Ⅰ	[松下 峻也]	春学期授業/Spring	190
基礎演習	【L5092】	基礎演習Ⅰ	[左古 輝人]	春学期授業/Spring	191
基礎演習	【L5037】	基礎演習Ⅰ	[本田 親史]	春学期授業/Spring	192
基礎演習	【L5009】	基礎演習Ⅰ	[高橋 愛]	春学期授業/Spring	193
基礎演習	【L5023】	基礎演習Ⅰ	[土倉 英志]	春学期授業/Spring	193
基礎演習	【L5028】	基礎演習Ⅱ	[李 舜志]	秋学期授業/Fall	194
基礎演習	【L5032】	基礎演習Ⅱ	[飯野 智子]	秋学期授業/Fall	194
基礎演習	【L5087】	基礎演習Ⅱ	[古澤 聡司]	秋学期授業/Fall	195
基礎演習	【L5014】	基礎演習Ⅱ	[岡野内 正]	秋学期授業/Fall	195
基礎演習	【L5016】	基礎演習Ⅱ	[加藤 寛之]	秋学期授業/Fall	196
基礎演習	【L5052】	基礎演習Ⅱ	[兼子 諭]	秋学期授業/Fall	197
基礎演習	【L5020】	基礎演習Ⅱ	[岩城 邦義]	秋学期授業/Fall	198
基礎演習	【L5066】	基礎演習Ⅱ	[山田 唐波里]	秋学期授業/Fall	199
基礎演習	【L5089】	基礎演習Ⅱ	[吉村 真子]	秋学期授業/Fall	199
基礎演習	【L5046】	基礎演習Ⅱ	[島田 昭仁]	秋学期授業/Fall	200
基礎演習	【L5070】	基礎演習Ⅱ	[白田 秀彰]	秋学期授業/Fall	201
基礎演習	【L5068】	基礎演習Ⅱ	[愼 蒼宇]	秋学期授業/Fall	201

基礎演習	【L5044】	基礎演習Ⅱ	〔鈴木 智道〕	秋学期授業/Fall	202
基礎演習	【L5036】	基礎演習Ⅱ	〔吉田 公記〕	秋学期授業/Fall	203
基礎演習	【L5006】	基礎演習Ⅱ	〔山下 大厚〕	秋学期授業/Fall	203
基礎演習	【L5095】	基礎演習Ⅱ	〔高橋 賢次〕	秋学期授業/Fall	204
基礎演習	【L5040】	基礎演習Ⅱ	〔南 宏幸〕	秋学期授業/Fall	204
基礎演習	【L5064】	基礎演習Ⅱ	〔武田 俊輔〕	秋学期授業/Fall	205
基礎演習	【L5004】	基礎演習Ⅱ	〔多田 和美〕	秋学期授業/Fall	206
基礎演習	【L5012】	基礎演習Ⅱ	〔田中 充〕	秋学期授業/Fall	207
基礎演習	【L5008】	基礎演習Ⅱ	〔谷本 有美子〕	秋学期授業/Fall	208
基礎演習	【L5018】	基礎演習Ⅱ	〔津田 正太郎〕	秋学期授業/Fall	209
基礎演習	【L5002】	基礎演習Ⅱ	〔徳安 彰〕	秋学期授業/Fall	209
基礎演習	【L5042】	基礎演習Ⅱ	〔宮下 阿子〕	秋学期授業/Fall	210
基礎演習	【L5054】	基礎演習Ⅱ	〔中村 尚樹〕	秋学期授業/Fall	211
基礎演習	【L5048】	基礎演習Ⅱ	〔惠羅 さとみ〕	秋学期授業/Fall	211
基礎演習	【L5034】	基礎演習Ⅱ	〔古川 早苗〕	秋学期授業/Fall	212
基礎演習	【L5083】	基礎演習Ⅱ	〔増田 正人〕	秋学期授業/Fall	213
基礎演習	【L5030】	基礎演習Ⅱ	〔糸久 正人〕	秋学期授業/Fall	214
基礎演習	【L5056】	基礎演習Ⅱ	〔松下 峻也〕	秋学期授業/Fall	215
基礎演習	【L5093】	基礎演習Ⅱ	〔左古 輝人〕	秋学期授業/Fall	216
基礎演習	【L5038】	基礎演習Ⅱ	〔本田 親史〕	秋学期授業/Fall	217
基礎演習	【L5010】	基礎演習Ⅱ	〔高橋 愛〕	秋学期授業/Fall	218
基礎演習	【L5024】	基礎演習Ⅱ	〔土倉 英志〕	秋学期授業/Fall	218
講義・実習科目	【L0078】	基礎数学Ⅰ	〔鈴木 麻美〕	春学期授業/Spring	219
講義・実習科目	【L0079】	基礎数学Ⅱ	〔鈴木 麻美〕	秋学期授業/Fall	220
講義・実習科目	【K8501】	キャリアデザイン論	〔大八木 智一〕	春学期授業/Spring	221
講義・実習科目	【K8502】	キャリアデザイン論	〔大八木 智一〕	春学期授業/Spring	222
講義・実習科目	【LA016】	行政学	〔谷本 有美子〕	春学期授業/Spring	223
講義・実習科目	【LA017】	行政法Ⅰ	〔氏家 裕順〕	春学期授業/Spring	224
講義・実習科目	【LA018】	行政法Ⅱ	〔氏家 裕順〕	秋学期授業/Fall	225
講義・実習科目	【LA112】	金融システム論	〔八木 勲〕	春学期授業/Spring	225
講義・実習科目	【LD010-a】	クリエイティブ・ライティング	〔梨屋 アリエ〕	春学期授業/Spring	226
講義・実習科目	【LD010-b】	クリエイティブ・ライティング	〔梨屋 アリエ〕	秋学期授業/Fall	227
講義・実習科目	【LD010-c】	クリエイティブ・ライティング	〔梨屋 アリエ〕	春学期授業/Spring	228
講義・実習科目	【LD010-d】	クリエイティブ・ライティング	〔梨屋 アリエ〕	秋学期授業/Fall	229
講義・実習科目	【LA300】	グローバル市民社会論A	〔岡野内 正〕	春学期授業/Spring	230
講義・実習科目	【LA301】	グローバル市民社会論B	〔中筋 直哉〕	秋学期授業/Fall	231
講義・実習科目	【LA302】	グローバル社会のローカリティ	〔中筋 直哉〕	秋学期授業/Fall	232
講義・実習科目	【LA111】	経済政策論	〔北浦 康嗣〕	秋学期授業/Fall	232
講義・実習科目	【L0054】	現代史Ⅰ	〔愼 蒼宇〕	春学期授業/Spring	233
講義・実習科目	【L0055】	現代史Ⅱ	〔愼 蒼宇〕	秋学期授業/Fall	234
講義・実習科目	【LB204】	現代農業・農村の社会学	〔池田 寛二〕	春学期授業/Spring	235
講義・実習科目	【LB017】	原典講読	〔鈴木 智道〕	秋学期授業/Fall	236
講義・実習科目	【LA007】	憲法	〔田中 美里〕	秋学期授業/Fall	237
講義・実習科目	【LD015】	公共性と民主主義Ⅰ	〔鈴木 宗徳〕	春学期授業/Spring	238
講義・実習科目	【LD016】	公共性と民主主義Ⅱ	〔鈴木 宗徳〕	秋学期授業/Fall	239
講義・実習科目	【LD103】	広告・消費文化論	〔青木 貞茂〕	春学期授業/Spring	240
講義・実習科目	【LD104】	広告・PR論	〔青木 貞茂〕	秋学期授業/Fall	241
講義・実習科目	【LD105】	広告制作実習	〔青木 貞茂〕	春学期授業/Spring	242
講義・実習科目	【LD125】	広告制作実習	〔青木 貞茂〕	秋学期授業/Fall	243
講義・実習科目	【LB404】	国際関係論Ⅰ	〔志村 真弓〕	春学期授業/Spring	244
講義・実習科目	【LB405】	国際関係論Ⅱ	〔志村 真弓〕	秋学期授業/Fall	244
講義・実習科目	【LA308】	国際協力論	〔岡野内 正〕	秋学期授業/Fall	245
講義・実習科目	【LA109】	国際経営論Ⅰ	〔多田 和美〕	春学期授業/Spring	246
講義・実習科目	【LA110】	国際経営論Ⅱ	〔多田 和美〕	秋学期授業/Fall	247
講義・実習科目	【LA310】	国際経済論Ⅰ	〔増田 正人〕	春学期授業/Spring	247
講義・実習科目	【LA311】	国際経済論Ⅱ	〔増田 正人〕	秋学期授業/Fall	248
講義・実習科目	【LB402】	国際社会学Ⅰ	〔田嶋 淳子〕	春学期授業/Spring	249

講義・実習科目	【LB403】	国際社会学Ⅱ [田嶋 淳子] 秋学期授業/Fall	250
講義・実習科目	【LB401】	国際社会と言語文化 [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	251
講義・実習科目	【LB400】	国際社会と日本 [慎 蒼宇] 秋学期授業/Fall	252
講義・実習科目	【LB406】	国際社会と民族 [高橋 誠一] 春学期授業/Spring	253
講義・実習科目	【L0096】	国際社会論 [吉村 真子] 春学期授業/Spring	254
講義・実習科目	【LA307】	国際政治論 [白鳥 浩] 春学期授業/Spring	255
講義・実習科目	【LA312】	国際法 [妻木 伸之] 秋学期授業/Fall	255
講義・実習科目	【LD023】	特講 (コミュニケーション・デザイン論) [石寺 修三、青木 貞茂] 春学期授業/Spring	256
講義・実習科目	【LB200】	コミュニティ・デザイン論Ⅰ [樋口 明彦] 春学期授業/Spring	257
講義・実習科目	【LB201】	コミュニティ・デザイン論Ⅱ [樋口 明彦] 秋学期授業/Fall	257
講義・実習科目	【LL004】	雇用と法 [山本 圭子] 秋学期授業/Fall	258
情報教育基礎	【L0133】	コンピュータ入門 [石井 由起] 春学期授業/Spring	258
情報教育基礎	【L0165】	コンピュータ入門 [石井 由起] 春学期授業/Spring	259
情報教育基礎	【L0139】	コンピュータ入門 [小川 有希子] 春学期授業/Spring	260
情報教育基礎	【L0149】	コンピュータ入門 [小川 有希子] 春学期授業/Spring	261
情報教育基礎	【L0159】	コンピュータ入門 [橋本 政樹] 春学期授業/Spring	262
情報教育基礎	【L0145】	コンピュータ入門 [加藤 徹郎] 春学期授業/Spring	263
情報教育基礎	【L0147】	コンピュータ入門 [加藤 徹郎] 春学期授業/Spring	264
情報教育基礎	【L0137】	コンピュータ入門 [近藤 恵子] 春学期授業/Spring	265
情報教育基礎	【L0161】	コンピュータ入門 [近藤 恵子] 春学期授業/Spring	266
情報教育基礎	【L0143】	コンピュータ入門 [橋爪 絢子] 春学期授業/Spring	266
情報教育基礎	【L0151】	コンピュータ入門 [林田 和人] 春学期授業/Spring	267
情報教育基礎	【L0153】	コンピュータ入門 [林田 和人] 春学期授業/Spring	268
情報教育基礎	【L0155】	コンピュータ入門 [堀 亜砂実] 春学期授業/Spring	269
情報教育基礎	【L0167】	コンピュータ入門 [堀 亜砂実] 春学期授業/Spring	270
情報教育基礎	【L0163】	コンピュータ入門 [高村 恒人] 春学期授業/Spring	270
情報教育基礎	【L0141】	コンピュータ入門 [諸上 茂光] 春学期授業/Spring	271
情報教育基礎	【L0131】	コンピュータ入門 [湯本 正実] 春学期授業/Spring	271
講義・実習科目	【LA014】	財政学Ⅰ [関口 浩] 春学期授業/Spring	272
講義・実習科目	【LA015】	財政学Ⅱ [関口 浩] 秋学期授業/Fall	273
講義・実習科目	【LA200】	サステナビリティ論A [田中 充] 春学期授業/Spring	274
講義・実習科目	【LA201】	サステナビリティ論B [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	275
講義・実習科目	【LA107】	産業社会学Ⅰ [恵羅 さとみ] 春学期授業/Spring	275
講義・実習科目	【LA108】	産業社会学Ⅱ [恵羅 さとみ] 秋学期授業/Fall	276
講義・実習科目	【LB101】	ジェンダー論 [飯野 智子] 春学期授業/Spring	277
講義・実習科目	【LD020-a】	システム・プログラミングA [堀 亜砂実] 春学期授業/Spring	278
講義・実習科目	【LD020-b】	システム・プログラミングA [堀 亜砂実] 秋学期授業/Fall	279
講義・実習科目	【LD021】	システム・プログラミングB [西辻 崇] 秋学期授業/Fall	279
講義・実習科目	【L0086】	自然科学特講 (数学) [鈴木 麻美] 春学期授業/Spring	280
講義・実習科目	【L0087】	自然科学特講 (数学) [鈴木 麻美] 秋学期授業/Fall	281
講義・実習科目	【L0084】	自然科学特講 (生命科学) [鞠子 茂] 春学期授業/Spring	282
講義・実習科目	【L0085】	自然科学特講 (生命科学) [鞠子 茂] 秋学期授業/Fall	283
講義・実習科目	【L0088】	自然科学特講 (地学) [澤柿 教伸] 春学期授業/Spring	283
講義・実習科目	【L0089】	自然科学特講 (地学) [吉岡 美紀] 秋学期授業/Fall	284
講義・実習科目	【LA303】	市民運動論 [中筋 直哉] 春学期授業/Spring	285
講義・実習科目	【LD109】	ジャーナリズムの歴史と思想Ⅰ [別府 三奈子] 春学期授業/Spring	286
講義・実習科目	【LD110】	ジャーナリズムの歴史と思想Ⅱ [別府 三奈子] 秋学期授業/Fall	286
講義・実習科目	【LA102】	社会・イノベーション論Ⅰ [糸久 正人] 春学期授業/Spring	287
講義・実習科目	【LA103】	社会・イノベーション論Ⅱ [糸久 正人] 秋学期授業/Fall	288
講義・実習科目	【LB011】	社会学史Ⅰ [徳安 彰] 春学期授業/Spring	289
講義・実習科目	【LB012】	社会学史Ⅱ [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	290
講義・実習科目	【LB018】	社会学総合特講A [多喜 弘文] 春学期授業/Spring	291
講義・実習科目	【LB019】	社会学総合特講B [斎藤 友里子] 秋学期授業/Fall	292
講義・実習科目	【LB001-a】	社会学入門A [徳安 彰、兼子 諭] 春学期授業/Spring	293
講義・実習科目	【LB001-b】	社会学入門A [徳安 彰、兼子 諭] 秋学期授業/Fall	294
講義・実習科目	【LB002-a】	社会学入門B [斎藤 友里子、鈴木 智之] 春学期授業/Spring	295
講義・実習科目	【LB002-b】	社会学入門B [斎藤 友里子、鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	296

講義・実習科目	[LB000]	社会学への招待	[武田 俊輔]	秋学期授業/Fall	297
講義・実習科目	[LB004]	社会学理論A I	[鈴木 智之]	春学期授業/Spring	298
講義・実習科目	[LB005]	社会学理論A II	[鈴木 智之]	秋学期授業/Fall	299
講義・実習科目	[LB006]	社会学理論B I	[穉山 新]	春学期授業/Spring	300
講義・実習科目	[LB007]	社会学理論B II	[穉山 新]	秋学期授業/Fall	300
講義・実習科目	[LB111]	社会教育概論 I	[荒井 容子]	春学期授業/Spring	301
講義・実習科目	[LB112]	社会教育概論 II	[荒井 容子]	秋学期授業/Fall	302
講義・実習科目	[LL002]	社会思想史 I	[明戸 隆浩]	春学期授業/Spring	303
講義・実習科目	[LL003]	社会思想史 II	[明戸 隆浩]	秋学期授業/Fall	304
講義・実習科目	[LB108]	社会心理学 I	[土倉 英志]	春学期授業/Spring	305
講義・実習科目	[LB109]	社会心理学 II	[土倉 英志]	秋学期授業/Fall	305
講義・実習科目	[LA000]	社会政策科学入門A	[恵羅 さとみ]	秋学期授業/Fall	306
講義・実習科目	[LA001]	社会政策科学入門B	[北浦 康嗣]	秋学期授業/Fall	307
講義・実習科目	[LA002]	社会政策科学入門C	[白鳥 浩]	春学期授業/Spring	308
講義・実習科目	[LA003]	社会政策科学入門D	[長沼 建一郎]	春学期授業/Spring	309
講義・実習科目	[LB027-a]	社会調査実習	[池田 寛二]	年間授業/Yearly	310
講義・実習科目	[LB027-b]	社会調査実習	[田嶋 淳子]	年間授業/Yearly	311
講義・実習科目	[LB027-d]	社会調査実習	[中筋 直哉]	年間授業/Yearly	312
講義・実習科目	[LB003]	社会調査入門	[多喜 弘文]	春学期授業/Spring	313
講義・実習科目	[LB008]	社会調査の方法	[多喜 弘文]	秋学期授業/Fall	314
講義・実習科目	[LB009]	社会調査のリテラシー	[多喜 弘文]	秋学期授業/Fall	315
講義・実習科目	[LD303]	社会ネットワーク論 I	[宇野 斉]	春学期授業/Spring	315
講義・実習科目	[LD304]	社会ネットワーク論 II	[宇野 斉]	秋学期授業/Fall	316
講義・実習科目	[LA210]	社会保障法 I	[長沼 建一郎]	春学期授業/Spring	317
講義・実習科目	[LA211]	社会保障法 II	[長沼 建一郎]	秋学期授業/Fall	318
講義・実習科目	[LD011]	社会問題とメディア	[津田 正太郎]	秋学期授業/Fall	318
講義・実習科目	[L0120]	社会を変えるための実践論	[荒井 容子]	秋学期授業/Fall	319
講義・実習科目	[LB305]	宗教社会学	[永井 美紀子]	春学期授業/Spring	320
講義・実習科目	[LD200]	消費者行動論	[諸上 茂光]	春学期授業/Spring	321
講義・実習科目	[LD106]	情報科学とコミュニケーション	[小川 有希子]	春学期授業/Spring	322
講義・実習科目	[L0106]	職業社会論	[依田 素味]	春学期授業/Spring	323
講義・実習科目	[L0066]	身体論	[越部 清美]	春学期授業/Spring	324
講義・実習科目	[LA020]	人的資源論	[恵羅 さとみ]	春学期授業/Spring	324
講義・実習科目	[L0051]	心理学 I	[山下 大厚]	春学期授業/Spring	325
講義・実習科目	[L0052]	心理学 II	[山下 大厚]	秋学期授業/Fall	326
講義・実習科目	[LB015]	数理社会学 I	[斎藤 友里子]	春学期授業/Spring	326
講義・実習科目	[LB016]	数理社会学 II	[斎藤 友里子]	秋学期授業/Fall	327
諸外国語初級	[L0411]	スペイン語初級A	[乾 隆政、増山 久美]	春学期授業/Spring	328
諸外国語初級	[L0415]	スペイン語初級A	[乾 隆政、増山 久美]	春学期授業/Spring	329
諸外国語初級	[L0413]	スペイン語初級A	[松井 賢治、杉守 慶太]	春学期授業/Spring	329
諸外国語初級	[L0417]	スペイン語初級A	[松井 賢治、杉守 慶太]	春学期授業/Spring	330
諸外国語初級	[L0412]	スペイン語初級B	[乾 隆政、増山 久美]	秋学期授業/Fall	330
諸外国語初級	[L0416]	スペイン語初級B	[乾 隆政、増山 久美]	秋学期授業/Fall	331
諸外国語初級	[L0414]	スペイン語初級B	[松井 賢治、杉守 慶太]	秋学期授業/Fall	331
諸外国語初級	[L0418]	スペイン語初級B	[松井 賢治、杉守 慶太]	秋学期授業/Fall	332
講義・実習科目	[L1321]	スペイン語中級1	[杉守 慶太]	春学期授業/Spring	332
講義・実習科目	[L1323]	スペイン語中級2	[乾 隆政]	春学期授業/Spring	333
講義・実習科目	[L1322]	スペイン語中級3	[杉守 慶太]	秋学期授業/Fall	333
講義・実習科目	[L1324]	スペイン語中級4	[乾 隆政]	秋学期授業/Fall	334
保健体育科目	[L0459]	スポーツ総合1-I	[國井 和彦]	春学期授業/Spring	334
保健体育科目	[L0461]	スポーツ総合1-I	[國井 和彦]	春学期授業/Spring	335
保健体育科目	[L0487]	スポーツ総合1-I (補講)	[國井 和彦]	春学期授業/Spring	335
保健体育科目	[L0451]	スポーツ総合1-I	[越部 清美]	春学期授業/Spring	336
保健体育科目	[L0453]	スポーツ総合1-I	[越部 清美]	春学期授業/Spring	336
保健体育科目	[L0483]	スポーツ総合1-I	[清水 貴司]	春学期授業/Spring	337
保健体育科目	[L0485]	スポーツ総合1-I	[清水 貴司]	春学期授業/Spring	337
保健体育科目	[L0463]	スポーツ総合1-I	[高梨 泰彦]	春学期授業/Spring	338

保健体育科目	[L0465]	スポーツ総合1-I	[高梨 泰彦]	春学期授業/Spring	338
保健体育科目	[L0471]	スポーツ総合1-I	[永嶋 秀敏]	春学期授業/Spring	339
保健体育科目	[L0473]	スポーツ総合1-I	[永嶋 秀敏]	春学期授業/Spring	339
保健体育科目	[L0455]	スポーツ総合1-I	[平澤 愛]	春学期授業/Spring	340
保健体育科目	[L0457]	スポーツ総合1-I	[平澤 愛]	春学期授業/Spring	340
保健体育科目	[L0475]	スポーツ総合1-I	[星 貴洋]	春学期授業/Spring	341
保健体育科目	[L0479]	スポーツ総合1-I	[天野 勝弘]	春学期授業/Spring	341
保健体育科目	[L0481]	スポーツ総合1-I	[天野 勝弘]	春学期授業/Spring	342
保健体育科目	[L0477]	スポーツ総合1-I	[堀籠 佳宏]	春学期授業/Spring	342
保健体育科目	[L0467]	スポーツ総合1-I	[宮下 信一]	春学期授業/Spring	343
保健体育科目	[L0469]	スポーツ総合1-I	[宮下 信一]	春学期授業/Spring	343
保健体育科目	[L0460]	スポーツ総合1-II	[國井 和彦]	秋学期授業/Fall	344
保健体育科目	[L0462]	スポーツ総合1-II	[國井 和彦]	秋学期授業/Fall	344
保健体育科目	[L0488]	スポーツ総合1-II (補講)	[國井 和彦]	秋学期授業/Fall	345
保健体育科目	[L0452]	スポーツ総合1-II	[越部 清美]	秋学期授業/Fall	345
保健体育科目	[L0454]	スポーツ総合1-II	[越部 清美]	秋学期授業/Fall	346
保健体育科目	[L0484]	スポーツ総合1-II	[清水 貴司]	秋学期授業/Fall	346
保健体育科目	[L0486]	スポーツ総合1-II	[清水 貴司]	秋学期授業/Fall	347
保健体育科目	[L0464]	スポーツ総合1-II	[高梨 泰彦]	秋学期授業/Fall	347
保健体育科目	[L0466]	スポーツ総合1-II	[高梨 泰彦]	秋学期授業/Fall	348
保健体育科目	[L0472]	スポーツ総合1-II	[永嶋 秀敏]	秋学期授業/Fall	348
保健体育科目	[L0474]	スポーツ総合1-II	[永嶋 秀敏]	秋学期授業/Fall	349
保健体育科目	[L0456]	スポーツ総合1-II	[平澤 愛]	秋学期授業/Fall	349
保健体育科目	[L0458]	スポーツ総合1-II	[平澤 愛]	秋学期授業/Fall	350
保健体育科目	[L0476]	スポーツ総合1-II	[星 貴洋]	秋学期授業/Fall	350
保健体育科目	[L0480]	スポーツ総合1-II	[天野 勝弘]	秋学期授業/Fall	351
保健体育科目	[L0482]	スポーツ総合1-II	[天野 勝弘]	秋学期授業/Fall	351
保健体育科目	[L0478]	スポーツ総合1-II	[堀籠 佳宏]	秋学期授業/Fall	352
保健体育科目	[L0468]	スポーツ総合1-II	[宮下 信一]	秋学期授業/Fall	352
保健体育科目	[L0470]	スポーツ総合1-II	[宮下 信一]	秋学期授業/Fall	353
保健体育科目	[L0509]	スポーツ総合2-I (バドミントン)	[升 佑二郎]	春学期授業/Spring	353
保健体育科目	[L0511]	スポーツ総合2-I (バドミントン)	[升 佑二郎]	春学期授業/Spring	354
保健体育科目	[L0513]	スポーツ総合2-I (太極拳)	[シン イェンリン]	春学期授業/Spring	354
保健体育科目	[L0517]	スポーツ総合2-I (太極拳)	[シン イェンリン]	春学期授業/Spring	355
保健体育科目	[L0501]	スポーツ総合2-I (ヨガ)	[鈴木 伸枝]	春学期授業/Spring	356
保健体育科目	[L0503]	スポーツ総合2-I (ヨガ)	[鈴木 伸枝]	春学期授業/Spring	357
保健体育科目	[L0505]	スポーツ総合2-I (野球・ソフトボール)	[田中 善則]	春学期授業/Spring	358
保健体育科目	[L0507]	スポーツ総合2-I (野球・ソフトボール)	[田中 善則]	春学期授業/Spring	359
保健体育科目	[L0519]	スポーツ総合2-I (ユニバーサル・スポーツ)	[坪内 友美]	春学期授業/Spring	360
保健体育科目	[L0521]	スポーツ総合2-I (サッカー)	[星 貴洋]	春学期授業/Spring	361
保健体育科目	[L0523]	スポーツ総合2-I (サッカー)	[星 貴洋]	春学期授業/Spring	362
保健体育科目	[L0515]	スポーツ総合2-I (テニス)	[宮崎 靖雄]	春学期授業/Spring	363
保健体育科目	[K4101]	スポーツ総合2-I (バレーボール基礎)	[野中 俊英]	春学期授業/Spring	364
保健体育科目	[K4103]	スポーツ総合2-I (サッカー・フットサル基礎)	[水野 浩幸]	春学期授業/Spring	365
保健体育科目	[L0510]	スポーツ総合2-II (バドミントン)	[升 佑二郎]	秋学期授業/Fall	365
保健体育科目	[L0512]	スポーツ総合2-II (バドミントン)	[升 佑二郎]	秋学期授業/Fall	366
保健体育科目	[L0514]	スポーツ総合2-II (太極拳)	[シン イェンリン]	秋学期授業/Fall	366
保健体育科目	[L0518]	スポーツ総合2-II (太極拳)	[シン イェンリン]	秋学期授業/Fall	367
保健体育科目	[L0502]	スポーツ総合2-II (ヨガ)	[鈴木 伸枝]	秋学期授業/Fall	368
保健体育科目	[L0504]	スポーツ総合2-II (ヨガ)	[鈴木 伸枝]	秋学期授業/Fall	369
保健体育科目	[L0506]	スポーツ総合2-II (野球・ソフトボール)	[田中 善則]	秋学期授業/Fall	370
保健体育科目	[L0508]	スポーツ総合2-II (野球・ソフトボール)	[田中 善則]	秋学期授業/Fall	371
保健体育科目	[L0520]	スポーツ総合2-II (ユニバーサル・スポーツ)	[坪内 友美]	秋学期授業/Fall	372
保健体育科目	[L0522]	スポーツ総合2-II (サッカー)	[星 貴洋]	秋学期授業/Fall	373
保健体育科目	[L0524]	スポーツ総合2-II (サッカー)	[星 貴洋]	秋学期授業/Fall	374
保健体育科目	[L0516]	スポーツ総合2-II (テニス)	[宮崎 靖雄]	秋学期授業/Fall	375
保健体育科目	[K4102]	スポーツ総合2-II (バレーボール応用)	[野中 俊英]	秋学期授業/Fall	376

保健体育科目	[K4104]	スポーツ総合2-II (サッカー・フットサル応用) [水野 浩幸] 秋学期授業/Fall	377
講義・実習科目	[LB306]	スポーツ文化論 [越部 清美] 秋学期授業/Fall	377
講義・実習科目	[LA013]	政策データ分析実習 [中筋 直哉] 秋学期授業/Fall	378
講義・実習科目	[LA019]	政策と制度 [田中 充] 秋学期授業/Fall	378
講義・実習科目	[LA021]	政策フィールドワーク実習 [堅田 香緒里] 秋学期授業/Fall	379
講義・実習科目	[LA004]	政治学理論Ⅰ [白鳥 浩] 春学期授業/Spring	380
講義・実習科目	[LA005]	政治学理論Ⅱ [白鳥 浩] 秋学期授業/Fall	381
講義・実習科目	[L0113]	生命の科学 [鞠子 茂] 春学期授業/Spring	381
講義・実習科目	[L0061]	創作表現論Ⅰ [金原 瑞人] 春学期授業/Spring	382
講義・実習科目	[L0062]	創作表現論Ⅱ [金原 瑞人] 秋学期授業/Fall	383
講義・実習科目	[LD311]	ソーシャルメディア実習 [藤代 裕之] 春学期授業/Spring	383
講義・実習科目	[LD310]	ソーシャルメディア分析 [藤代 裕之] 秋学期授業/Fall	384
講義・実習科目	[LD309]	ソーシャルメディア論 [藤代 裕之] 春学期授業/Spring	385
講義・実習科目	[LA012]	組織論 [多田 和美] 春学期授業/Spring	385
講義・実習科目	[LL005]	多摩地域形成論 [池田 寛二] 秋学期授業/Fall	386
講義・実習科目	[LB205]	地域環境論 [池田 寛二] 秋学期授業/Fall	387
講義・実習科目	[LB409]	地域研究 (アジア) [吉村 真子] 春学期授業/Spring	388
講義・実習科目	[LB410]	地域研究 (中国) [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	388
講義・実習科目	[LB408]	地域研究 (ヨーロッパ) [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	389
講義・実習科目	[LA105]	地域産業論Ⅰ [加藤 寛之] 春学期授業/Spring	390
講義・実習科目	[LA106]	地域産業論Ⅱ [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall	391
講義・実習科目	[L0115]	地球と自然Ⅰ [澤柿 教伸] 春学期授業/Spring	392
講義・実習科目	[L0116]	地球と自然Ⅱ [吉岡 美紀] 秋学期授業/Fall	393
講義・実習科目	[LD013]	知的財産権法 [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	393
講義・実習科目	[LA304]	地方財政論 [関口 浩] 秋学期授業/Fall	394
講義・実習科目	[LA305]	地方自治論Ⅰ [谷本 有美子] 春学期授業/Spring	395
講義・実習科目	[LA306]	地方自治論Ⅱ [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall	396
講義・実習科目	[L1301]	中国語上級A1・B1 [大崎 雄二] 春学期授業/Spring	397
講義・実習科目	[L1303]	中国語上級A2・B2 [謝 荔] 春学期授業/Spring	398
講義・実習科目	[L1305]	中国語上級A3・B3 [謝 荔] 春学期授業/Spring	399
講義・実習科目	[L1302]	中国語上級A4・B4 [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	399
講義・実習科目	[L1304]	中国語上級A5・B5 [謝 荔] 秋学期授業/Fall	400
講義・実習科目	[L1306]	中国語上級A6・B6 [謝 荔] 秋学期授業/Fall	401
講義・実習科目	[L1308]	中国語上級A7・B7 [謝 荔] 春学期授業/Spring	401
諸外国語初級	[L0371]	中国語初級A [池田 麻希子、渡辺 浩司] 春学期授業/Spring	402
諸外国語初級	[L0381]	中国語初級A [池田 麻希子、加藤 昌弘] 春学期授業/Spring	403
諸外国語初級	[L0377]	中国語初級A [康 宏理、大崎 雄二] 春学期授業/Spring	404
諸外国語初級	[L0387]	中国語初級A [康 宏理、上村 陽子] 春学期授業/Spring	405
諸外国語初級	[L0373]	中国語初級A [加藤 昌弘、田中 理恵] 春学期授業/Spring	406
諸外国語初級	[L0383]	中国語初級A [加藤 昌弘、田中 理恵] 春学期授業/Spring	407
諸外国語初級	[L0375]	中国語初級A [大崎 雄二、上村 陽子] 春学期授業/Spring	408
諸外国語初級	[L0379]	中国語初級A [篠田 幸夫、杜 瑶琳] 春学期授業/Spring	409
諸外国語初級	[L0389]	中国語初級A [篠田 幸夫、杜 瑶琳] 春学期授業/Spring	410
諸外国語初級	[L0385]	中国語初級A [謝 荔、渡辺 浩司] 春学期授業/Spring	411
諸外国語初級	[L0393]	中国語初級A [渡辺 浩司、大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	412
諸外国語初級	[L0372]	中国語初級B [池田 麻希子、渡辺 浩司] 秋学期授業/Fall	413
諸外国語初級	[L0382]	中国語初級B [池田 麻希子、加藤 昌弘] 秋学期授業/Fall	414
諸外国語初級	[L0378]	中国語初級B [康 宏理、大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	415
諸外国語初級	[L0388]	中国語初級B [康 宏理、上村 陽子] 秋学期授業/Fall	416
諸外国語初級	[L0374]	中国語初級B [加藤 昌弘、田中 理恵] 秋学期授業/Fall	417
諸外国語初級	[L0384]	中国語初級B [加藤 昌弘、田中 理恵] 秋学期授業/Fall	418
諸外国語初級	[L0376]	中国語初級B [大崎 雄二、上村 陽子] 秋学期授業/Fall	419
諸外国語初級	[L0380]	中国語初級B [篠田 幸夫、杜 瑶琳] 秋学期授業/Fall	420
諸外国語初級	[L0390]	中国語初級B [篠田 幸夫、杜 瑶琳] 秋学期授業/Fall	421
諸外国語初級	[L0386]	中国語初級B [謝 荔、渡辺 浩司] 秋学期授業/Fall	422
諸外国語初級	[L0392]	中国語初級B [渡辺 浩司、大崎 雄二] 春学期授業/Spring	423
講義・実習科目	[LH401]	中国語中級1 [篠田 幸夫] 春学期授業/Spring	424

講義・実習科目	【LH411】	中国語中級1・2・3 [謝 荔]	秋学期授業/Fall	425
講義・実習科目	【LH403】	中国語中級2 [大崎 雄二]	春学期授業/Spring	425
講義・実習科目	【LH405】	中国語中級3 [謝 荔]	春学期授業/Spring	426
講義・実習科目	【LH402】	中国語中級4 [篠田 幸夫]	秋学期授業/Fall	427
講義・実習科目	【LH414】	中国語中級4・5・6 [謝 荔]	春学期授業/Spring	428
講義・実習科目	【LH404】	中国語中級5 [大崎 雄二]	秋学期授業/Fall	428
講義・実習科目	【LH406】	中国語中級6 [謝 荔]	秋学期授業/Fall	429
講義・実習科目	【LA104】	中小企業論 [糸久 正人]	春学期授業/Spring	430
講義・実習科目	【LB029-a】	調査研究法B [池田 寛二]	春学期授業/Spring	431
講義・実習科目	【LB029-b】	調査研究法B [田嶋 淳子]	春学期授業/Spring	432
諸外国語初級	【L0421】	朝鮮語初級A [荻野 優子、李 相旭]	春学期授業/Spring	433
諸外国語初級	【L0423】	朝鮮語初級A [荻野 優子、李 相旭]	春学期授業/Spring	433
諸外国語初級	【L0422】	朝鮮語初級B [荻野 優子、李 相旭]	秋学期授業/Fall	434
諸外国語初級	【L0424】	朝鮮語初級B [荻野 優子、李 相旭]	秋学期授業/Fall	434
講義・実習科目	【L1341】	朝鮮語中級1 [荻野 優子]	春学期授業/Spring	435
講義・実習科目	【L1343】	朝鮮語中級2 [李 相旭]	春学期授業/Spring	436
講義・実習科目	【L1342】	朝鮮語中級3 [荻野 優子]	秋学期授業/Fall	436
講義・実習科目	【L1344】	朝鮮語中級4 [李 相旭]	秋学期授業/Fall	437
講義・実習科目	【K5253】	地理学Ⅰ [朴 宗玄]	春学期授業/Spring	437
講義・実習科目	【K5254】	地理学Ⅱ [朴 宗玄]	秋学期授業/Fall	438
講義・実習科目	【LD308】	デジタル情報環境実習 [土橋 臣吾]	春学期授業/Spring	439
講義・実習科目	【LD307】	デジタル情報環境分析 [土橋 臣吾]	秋学期授業/Fall	440
講義・実習科目	【LD306】	デジタル情報環境論 [土橋 臣吾]	春学期授業/Spring	440
講義・実習科目	【L0071】	哲学Ⅰ [大橋 基]	春学期授業/Spring	441
講義・実習科目	【L0072】	哲学Ⅱ [大橋 基]	秋学期授業/Fall	442
講義・実習科目	【L1261】	ドイツ語上級A1・B1 [三浦 美紀子]	春学期授業/Spring	443
講義・実習科目	【L1263】	ドイツ語上級A2・B2 [MARKUS GRASMUECK]	春学期授業/Spring	444
講義・実習科目	【L1265】	ドイツ語上級A3・B3 [MARKUS GRASMUECK]	春学期授業/Spring	444
講義・実習科目	【L1262】	ドイツ語上級A4・B4 [三浦 美紀子]	秋学期授業/Fall	445
講義・実習科目	【L1264】	ドイツ語上級A5・B5 [MARKUS GRASMUECK]	秋学期授業/Fall	446
講義・実習科目	【L1266】	ドイツ語上級A6・B6 [MARKUS GRASMUECK]	秋学期授業/Fall	446
諸外国語初級	【L0331】	ドイツ語初級A [齋藤 萌、武藤 陽子]	春学期授業/Spring	447
諸外国語初級	【L0335】	ドイツ語初級A [齋藤 萌、武藤 陽子]	春学期授業/Spring	448
諸外国語初級	【L0333】	ドイツ語初級A [本田 博之、布川 恭子]	春学期授業/Spring	449
諸外国語初級	【L0337】	ドイツ語初級A [本田 博之、布川 恭子]	春学期授業/Spring	450
諸外国語初級	【L0340】	ドイツ語初級A [脇田 淳、濱中 春]	秋学期授業/Fall	451
諸外国語初級	【L0332】	ドイツ語初級B [齋藤 萌、武藤 陽子]	秋学期授業/Fall	452
諸外国語初級	【L0336】	ドイツ語初級B [齋藤 萌、武藤 陽子]	秋学期授業/Fall	453
諸外国語初級	【L0334】	ドイツ語初級B [本田 博之、布川 恭子]	秋学期授業/Fall	454
諸外国語初級	【L0338】	ドイツ語初級B [本田 博之、布川 恭子]	秋学期授業/Fall	455
諸外国語初級	【L0339】	ドイツ語初級B [脇田 淳、濱中 春]	春学期授業/Spring	456
講義・実習科目	【LG201】	ドイツ語中級1 [兼子 安弘]	春学期授業/Spring	457
講義・実習科目	【LG211】	ドイツ語中級1・2・3 [兼子 安弘]	秋学期授業/Fall	458
講義・実習科目	【LG203】	ドイツ語中級2 [三浦 美紀子]	春学期授業/Spring	459
講義・実習科目	【LG205】	ドイツ語中級3 [MARKUS GRASMUECK]	春学期授業/Spring	460
講義・実習科目	【LG202】	ドイツ語中級4 [兼子 安弘]	秋学期授業/Fall	460
講義・実習科目	【LG214】	ドイツ語中級4・5・6 [兼子 安弘]	春学期授業/Spring	461
講義・実習科目	【LG204】	ドイツ語中級5 [三浦 美紀子]	秋学期授業/Fall	462
講義・実習科目	【LG206】	ドイツ語中級6 [MARKUS GRASMUECK]	秋学期授業/Fall	463
講義・実習科目	【L0080】	統計学Ⅰ [鈴木 麻美]	春学期授業/Spring	464
講義・実習科目	【L0081】	統計学Ⅱ [鈴木 麻美]	秋学期授業/Fall	465
講義・実習科目	【LL008-a】	統計基礎実習 [橋本 政樹]	春学期授業/Spring	466
講義・実習科目	【LL008-b】	統計基礎実習 [橋本 政樹]	秋学期授業/Fall	467
講義・実習科目	【LB026】	統計調査法 [斎藤 友里子]	春学期授業/Spring	468
講義・実習科目	【LD203】	都市空間とデザインⅠ [齋藤 伊久太郎]	春学期授業/Spring	468
講義・実習科目	【LD204】	都市空間とデザインⅡ [齋藤 伊久太郎]	秋学期授業/Fall	469
講義・実習科目	【LD205】	都市空間分析 [郭 東潤]	春学期授業/Spring	470

日本語【L7461】	特講（ビジネス日本語）[村上 佳恵] 春学期授業/Spring	471
日本語【L7462】	特講（ビジネス日本語）[村上 佳恵] 秋学期授業/Fall	471
講義・実習科目【LD901】	特講（ローカルジャーナリズム論）[藤代 裕之] オータムセッション/Autumn Session	472
講義・実習科目【LE111】	Topics in Comparative Culture [GEORGE HANN] 春学期授業/Spring	472
講義・実習科目【LA006】	日本経済論 [澁谷 朋樹] 秋学期授業/Fall	473
日本語【L7431】	日本語 1-I [李 址遠] 春学期授業/Spring	474
日本語【L7433】	日本語 1-I [乾 浩] 春学期授業/Spring	474
日本語【L7451】	日本語 1-I [村上 佳恵] 春学期授業/Spring	475
日本語【L7435】	日本語 1-I [乾 浩] 春学期授業/Spring	475
日本語【L7432】	日本語 1-II [李 址遠] 秋学期授業/Fall	476
日本語【L7434】	日本語 1-II [乾 浩] 秋学期授業/Fall	476
日本語【L7452】	日本語 1-II [村上 佳恵] 秋学期授業/Fall	477
日本語【L7436】	日本語 1-II [乾 浩] 秋学期授業/Fall	477
日本語【L7437】	日本語 2-I [乾 浩] 春学期授業/Spring	478
日本語【L7439】	日本語 2-I [乾 浩] 春学期授業/Spring	478
日本語【L7441】	日本語 2-I [乾 浩] 春学期授業/Spring	479
日本語【L7453】	日本語 2-I [村上 佳恵] 春学期授業/Spring	479
日本語【L7438】	日本語 2-II [乾 浩] 秋学期授業/Fall	480
日本語【L7440】	日本語 2-II [乾 浩] 秋学期授業/Fall	480
日本語【L7442】	日本語 2-II [乾 浩] 秋学期授業/Fall	481
日本語【L7454】	日本語 2-II [村上 佳恵] 秋学期授業/Fall	481
日本語【L7443】	日本語 3-I [宮本 典以子] 春学期授業/Spring	482
日本語【L7445】	日本語 3-I [宮本 典以子] 春学期授業/Spring	483
日本語【L7447】	日本語 3-I [宮本 典以子] 春学期授業/Spring	484
日本語【L7455】	日本語 3-I [村上 佳恵] 春学期授業/Spring	485
日本語【L7444】	日本語 3-II [宮本 典以子] 秋学期授業/Fall	485
日本語【L7446】	日本語 3-II [宮本 典以子] 秋学期授業/Fall	486
日本語【L7448】	日本語 3-II [宮本 典以子] 秋学期授業/Fall	487
日本語【L7456】	日本語 3-II [村上 佳恵] 秋学期授業/Fall	488
講義・実習科目【LD111-d】	ニュース・ライティング [飯田 裕美子] 春学期授業/Spring	489
講義・実習科目【LD111-a】	ニュース・ライティング [別府 三奈子] 秋学期授業/Fall	489
講義・実習科目【LB100】	人間・社会論 [荒井 容子] 秋学期授業/Fall	490
講義・実習科目【LL000】	人間論 [鈴木 智之] 春学期授業/Spring	491
講義・実習科目【LD107】	認知映像論 [小川 有希子] 秋学期授業/Fall	492
講義・実習科目【LD012】	認知科学 [森 健治] 春学期授業/Spring	493
講義・実習科目【LB102】	発達・教育の理論 I [山下 大厚] 春学期授業/Spring	494
講義・実習科目【LB103】	発達・教育の理論 II [山下 大厚] 秋学期授業/Fall	495
講義・実習科目【LB302】	表象文化論 A [高橋 愛] 春学期授業/Spring	495
講義・実習科目【LB303】	表象文化論 B [野田 吉郎] 秋学期授業/Fall	496
講義・実習科目【LA208】	福祉社会学 I [堅田 香緒里] 春学期授業/Spring	496
講義・実習科目【LA209】	福祉社会学 II [堅田 香緒里] 秋学期授業/Fall	497
講義・実習科目【K5353】	物理学 I [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	497
講義・実習科目【K5354】	物理学 II [藤田 貢崇] 秋学期授業/Fall	498
講義・実習科目【K5355】	物理学 I [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	499
講義・実習科目【K5356】	物理学 II [藤田 貢崇] 秋学期授業/Fall	500
講義・実習科目【L1281】	フランス語上級 A 1・B 1 [高橋 愛] 春学期授業/Spring	501
講義・実習科目【L1283】	フランス語上級 A 2・B 2 [瀬谷グロンドン アンヌオレリ] 春学期授業/Spring	502
講義・実習科目【L1285】	フランス語上級 A 3・B 3 [瀬谷グロンドン アンヌオレリ] 春学期授業/Spring	503
講義・実習科目【L1282】	フランス語上級 A 4・B 4 [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	503
講義・実習科目【L1284】	フランス語上級 A 5・B 5 [瀬谷グロンドン アンヌオレリ] 秋学期授業/Fall	504
講義・実習科目【L1286】	フランス語上級 A 6・B 6 [瀬谷グロンドン アンヌオレリ] 秋学期授業/Fall	505
諸外国語初級【L0353】	フランス語初級 A [大澤 瑞綺、村上 由美] 春学期授業/Spring	506
諸外国語初級【L0357】	フランス語初級 A [大澤 瑞綺、村上 由美] 春学期授業/Spring	507
諸外国語初級【L0351】	フランス語初級 A [高橋 久美、佐藤 久仁子] 春学期授業/Spring	508
諸外国語初級【L0355】	フランス語初級 A [高橋 久美、佐藤 久仁子] 春学期授業/Spring	509
諸外国語初級【L0360】	フランス語初級 A [美頭 千不美、高橋 愛] 秋学期授業/Fall	510
諸外国語初級【L0354】	フランス語初級 B [大澤 瑞綺、村上 由美] 秋学期授業/Fall	511

諸外国語初級	[L0358]	フランス語初級B	[大澤 瑞綺、村上 由美]	秋学期授業/Fall	512
諸外国語初級	[L0352]	フランス語初級B	[高橋 久美、佐藤 久仁子]	秋学期授業/Fall	513
諸外国語初級	[L0356]	フランス語初級B	[高橋 久美、佐藤 久仁子]	秋学期授業/Fall	514
諸外国語初級	[L0359]	フランス語初級B	[美頭 千不美、高橋 愛]	春学期授業/Spring	515
講義・実習科目	[LF301]	フランス語中級1	[高橋 久美]	春学期授業/Spring	516
講義・実習科目	[LF311]	フランス語中級1・2・3	[美頭 千不美]	秋学期授業/Fall	517
講義・実習科目	[LF303]	フランス語中級2	[高橋 愛]	春学期授業/Spring	518
講義・実習科目	[LF305]	フランス語中級3	[瀬谷グロンダン アンヌオレリ]	春学期授業/Spring	518
講義・実習科目	[LF302]	フランス語中級4	[高橋 久美]	秋学期授業/Fall	519
講義・実習科目	[LF314]	フランス語中級4・5・6	[美頭 千不美]	春学期授業/Spring	520
講義・実習科目	[LF304]	フランス語中級5	[高橋 愛]	秋学期授業/Fall	521
講義・実習科目	[LF306]	フランス語中級6	[瀬谷グロンダン アンヌオレリ]	秋学期授業/Fall	521
講義・実習科目	[LL007-c]	プログラミング初級	[高村 恒人]	春学期授業/Spring	522
講義・実習科目	[LL007-b]	プログラミング初級	[加藤 徹郎]	春学期授業/Spring	522
講義・実習科目	[LL007-e]	プログラミング初級	[近藤 恵子]	春学期授業/Spring	523
講義・実習科目	[LL007-a]	プログラミング初級	[諸上 茂光]	春学期授業/Spring	523
講義・実習科目	[LL007-d]	プログラミング初級	[湯本 正実]	秋学期授業/Fall	524
講義・実習科目	[LD017]	プログラミングと論理的思考	[鈴木 麻美]	秋学期授業/Fall	524
情報教育基礎	[L0134]	プログラミング入門	[石井 由起]	秋学期授業/Fall	525
情報教育基礎	[L0166]	プログラミング入門	[石井 由起]	秋学期授業/Fall	526
情報教育基礎	[L0140]	プログラミング入門	[小川 有希子]	秋学期授業/Fall	526
情報教育基礎	[L0150]	プログラミング入門	[小川 有希子]	秋学期授業/Fall	527
情報教育基礎	[L0160]	プログラミング入門	[橋本 政樹]	秋学期授業/Fall	527
情報教育基礎	[L0146]	プログラミング入門	[加藤 徹郎]	秋学期授業/Fall	528
情報教育基礎	[L0148]	プログラミング入門	[加藤 徹郎]	秋学期授業/Fall	529
情報教育基礎	[L0138]	プログラミング入門	[近藤 恵子]	秋学期授業/Fall	530
情報教育基礎	[L0162]	プログラミング入門	[近藤 恵子]	秋学期授業/Fall	531
情報教育基礎	[L0144]	プログラミング入門	[橋爪 絢子]	秋学期授業/Fall	531
情報教育基礎	[L0152]	プログラミング入門	[林田 和人]	秋学期授業/Fall	532
情報教育基礎	[L0154]	プログラミング入門	[林田 和人]	秋学期授業/Fall	533
情報教育基礎	[L0156]	プログラミング入門	[堀 亜砂実]	秋学期授業/Fall	534
情報教育基礎	[L0168]	プログラミング入門	[堀 亜砂実]	秋学期授業/Fall	535
情報教育基礎	[L0164]	プログラミング入門	[高村 恒人]	秋学期授業/Fall	535
情報教育基礎	[L0142]	プログラミング入門	[諸上 茂光]	秋学期授業/Fall	536
情報教育基礎	[L0132]	プログラミング入門	[湯本 正実]	秋学期授業/Fall	537
講義・実習科目	[L0056]	文学	[彭 丹]	春学期授業/Spring	537
講義・実習科目	[LB300]	文化社会学A	[武田 俊輔]	春学期授業/Spring	538
講義・実習科目	[LB301]	文化社会学B	[武田 俊輔]	秋学期授業/Fall	539
講義・実習科目	[LB304]	文化人類学	[謝 荔]	秋学期授業/Fall	540
講義・実習科目	[L0099]	平和論	[中村 長史]	春学期授業/Spring	541
Basic English	[L0201]	Basic English 1-I	1 [井上 里]	春学期授業/Spring	542
Basic English	[L0206]	Basic English 1-I	1 4 [井上 里]	春学期授業/Spring	543
Basic English	[L0202]	Basic English 1-I	2 [石垣 弥麻]	春学期授業/Spring	544
Basic English	[L0205]	Basic English 1-I	4 [市川 由季子]	春学期授業/Spring	545
Basic English	[L0207]	Basic English 1-I	1 5 [岡村 盛雄]	春学期授業/Spring	546
Basic English	[L0208]	Basic English 1-I	1 6 [岡村 盛雄]	春学期授業/Spring	547
Basic English	[L0218]	Basic English 1-I	9 [小林 テレサ]	春学期授業/Spring	548
Basic English	[L0203]	Basic English 1-I	3 [佐藤 修一]	春学期授業/Spring	549
Basic English	[L0223]	Basic English 1-I	2 2 [佐藤 修一]	春学期授業/Spring	550
Basic English	[L0204]	Basic English 1-I	1 1 [JONATHAN D BROWN]	春学期授業/Spring	551
Basic English	[L0224]	Basic English 1-I	2 3 [JONATHAN D BROWN]	春学期授業/Spring	552
Basic English	[L0214]	Basic English 1-I	5 [田中 邦佳]	春学期授業/Spring	553
Basic English	[L0215]	Basic English 1-I	6 [田中 邦佳]	春学期授業/Spring	554
Basic English	[L0210]	Basic English 1-I	7 [東郷 裕]	春学期授業/Spring	555
Basic English	[L0213]	Basic English 1-I	1 0 [東郷 裕]	春学期授業/Spring	556
Basic English	[L0217]	Basic English 1-I	1 2 [西田 佳子]	春学期授業/Spring	557
Basic English	[L0216]	Basic English 1-I	1 3 [GEORGE HANN]	春学期授業/Spring	557

Basic English	[L0219]	Basic English 1-I	17	[広川 治]	春学期授業/Spring	558
Basic English	[L0220]	Basic English 1-I	18	[広川 治]	春学期授業/Spring	559
Basic English	[L0212]	Basic English 1-I	24	[深松 亮太]	春学期授業/Spring	560
Basic English	[L0211]	Basic English 1-I	8	[藤井 道行]	春学期授業/Spring	561
Basic English	[L0209]	Basic English 1-I	19	[藤井 道行]	春学期授業/Spring	562
Basic English	[L0221]	Basic English 1-I	20	[堀 いづみ]	春学期授業/Spring	563
Basic English	[L0222]	Basic English 1-I	21	[堀 いづみ]	春学期授業/Spring	564
Basic English	[L0226]	Basic English 1-II	1	[井上 里]	秋学期授業/Fall	564
Basic English	[L0231]	Basic English 1-II	14	[井上 里]	秋学期授業/Fall	565
Basic English	[L0227]	Basic English 1-II	2	[石垣 弥麻]	秋学期授業/Fall	566
Basic English	[L0230]	Basic English 1-II	4	[市川 由季子]	秋学期授業/Fall	567
Basic English	[L0232]	Basic English 1-II	15	[岡村 盛雄]	秋学期授業/Fall	568
Basic English	[L0233]	Basic English 1-II	16	[岡村 盛雄]	秋学期授業/Fall	569
Basic English	[L0243]	Basic English 1-II	9	[小林 テレサ]	秋学期授業/Fall	570
Basic English	[L0228]	Basic English 1-II	3	[佐藤 修一]	秋学期授業/Fall	571
Basic English	[L0248]	Basic English 1-II	22	[佐藤 修一]	秋学期授業/Fall	572
Basic English	[L0229]	Basic English 1-II	11	[JONATHAN D BROWN]	秋学期授業/Fall	573
Basic English	[L0249]	Basic English 1-II	23	[JONATHAN D BROWN]	秋学期授業/Fall	574
Basic English	[L0239]	Basic English 1-II	5	[田中 邦佳]	秋学期授業/Fall	575
Basic English	[L0240]	Basic English 1-II	6	[田中 邦佳]	秋学期授業/Fall	576
Basic English	[L0235]	Basic English 1-II	7	[東郷 裕]	秋学期授業/Fall	577
Basic English	[L0238]	Basic English 1-II	10	[東郷 裕]	秋学期授業/Fall	578
Basic English	[L0242]	Basic English 1-II	12	[西田 佳子]	秋学期授業/Fall	579
Basic English	[L0241]	Basic English 1-II	13	[GEORGE HANN]	秋学期授業/Fall	579
Basic English	[L0244]	Basic English 1-II	17	[広川 治]	秋学期授業/Fall	580
Basic English	[L0245]	Basic English 1-II	18	[広川 治]	秋学期授業/Fall	581
Basic English	[L0237]	Basic English 1-II	24	[深松 亮太]	秋学期授業/Fall	582
Basic English	[L0236]	Basic English 1-II	8	[藤井 道行]	秋学期授業/Fall	583
Basic English	[L0234]	Basic English 1-II	19	[藤井 道行]	秋学期授業/Fall	584
Basic English	[L0246]	Basic English 1-II	20	[堀 いづみ]	秋学期授業/Fall	585
Basic English	[L0247]	Basic English 1-II	21	[堀 いづみ]	秋学期授業/Fall	586
Basic English	[L0260]	Basic English 2-I	11	[井上 里]	春学期授業/Spring	586
Basic English	[L0252]	Basic English 2-I	2	[石垣 弥麻]	春学期授業/Spring	587
Basic English	[L0253]	Basic English 2-I	3	[石垣 弥麻]	春学期授業/Spring	588
Basic English	[L0254]	Basic English 2-I	4	[市川 由季子]	春学期授業/Spring	589
Basic English	[L0255]	Basic English 2-I	5	[市川 由季子]	春学期授業/Spring	590
Basic English	[L0257]	Basic English 2-I	16	[岡村 盛雄]	春学期授業/Spring	590
Basic English	[L0263]	Basic English 2-I	13	[岡村 盛雄]	春学期授業/Spring	591
Basic English	[L0258]	Basic English 2-I	7	[高 美智]	春学期授業/Spring	592
Basic English	[L0259]	Basic English 2-I	8	[高 美智]	春学期授業/Spring	593
Basic English	[L0261]	Basic English 2-I	9	[小林 テレサ]	春学期授業/Spring	594
Basic English	[L0266]	Basic English 2-I	10	[小林 テレサ]	春学期授業/Spring	595
Basic English	[L0276]	Basic English 2-I	1	[佐藤 修一]	秋学期授業/Fall	596
Basic English	[L0256]	Basic English 2-I	6	[田中 邦佳]	春学期授業/Spring	597
Basic English	[L0264]	Basic English 2-I	14	[東郷 裕]	春学期授業/Spring	598
Basic English	[L0265]	Basic English 2-I	15	[東郷 裕]	春学期授業/Spring	599
Basic English	[L0267]	Basic English 2-I	17	[西田 佳子]	春学期授業/Spring	600
Basic English	[L0268]	Basic English 2-I	18	[西田 佳子]	春学期授業/Spring	601
Basic English	[L0262]	Basic English 2-I	12	[広川 治]	春学期授業/Spring	601
Basic English	[L0269]	Basic English 2-I	19	[広川 治]	春学期授業/Spring	602
Basic English	[L0273]	Basic English 2-I	24	[深松 亮太]	春学期授業/Spring	603
Basic English	[L0274]	Basic English 2-I	23	[深松 亮太]	春学期授業/Spring	604
Basic English	[L0270]	Basic English 2-I	20	[藤井 道行]	春学期授業/Spring	604
Basic English	[L0271]	Basic English 2-I	21	[藤井 道行]	春学期授業/Spring	605
Basic English	[L0272]	Basic English 2-I	22	[堀 いづみ]	春学期授業/Spring	606
Basic English	[L0285]	Basic English 2-II	11	[井上 里]	秋学期授業/Fall	607
Basic English	[L0277]	Basic English 2-II	2	[石垣 弥麻]	秋学期授業/Fall	608

Basic English	[L0278]	Basic English 2-II	3	[石垣 弥麻]	秋学期授業/Fall	609
Basic English	[L0279]	Basic English 2-II	4	[市川 由季子]	秋学期授業/Fall	610
Basic English	[L0280]	Basic English 2-II	5	[市川 由季子]	秋学期授業/Fall	610
Basic English	[L0282]	Basic English 2-II	1 6	[岡村 盛雄]	秋学期授業/Fall	611
Basic English	[L0288]	Basic English 2-II	1 3	[岡村 盛雄]	秋学期授業/Fall	612
Basic English	[L0283]	Basic English 2-II	7	[高 美智]	秋学期授業/Fall	613
Basic English	[L0284]	Basic English 2-II	8	[高 美智]	秋学期授業/Fall	614
Basic English	[L0286]	Basic English 2-II	9	[小林 テレサ]	秋学期授業/Fall	615
Basic English	[L0291]	Basic English 2-II	1 0	[小林 テレサ]	秋学期授業/Fall	616
Basic English	[L0251]	Basic English 2-II	1	[佐藤 修一]	春学期授業/Spring	617
Basic English	[L0281]	Basic English 2-II	6	[田中 邦佳]	秋学期授業/Fall	618
Basic English	[L0289]	Basic English 2-II	1 4	[東郷 裕]	秋学期授業/Fall	619
Basic English	[L0290]	Basic English 2-II	1 5	[東郷 裕]	秋学期授業/Fall	620
Basic English	[L0292]	Basic English 2-II	1 7	[西田 佳子]	秋学期授業/Fall	621
Basic English	[L0293]	Basic English 2-II	1 8	[西田 佳子]	秋学期授業/Fall	621
Basic English	[L0287]	Basic English 2-II	1 2	[広川 治]	秋学期授業/Fall	622
Basic English	[L0294]	Basic English 2-II	1 9	[広川 治]	秋学期授業/Fall	623
Basic English	[L0298]	Basic English 2-II	2 4	[深松 亮太]	秋学期授業/Fall	624
Basic English	[L0299]	Basic English 2-II	2 3	[深松 亮太]	秋学期授業/Fall	624
Basic English	[L0295]	Basic English 2-II	2 0	[藤井 道行]	秋学期授業/Fall	625
Basic English	[L0296]	Basic English 2-II	2 1	[藤井 道行]	秋学期授業/Fall	626
Basic English	[L0297]	Basic English 2-II	2 2	[堀 いづみ]	秋学期授業/Fall	627
講義・実習科目	[L0100]	法と社会	[白田 秀彰]	春学期授業/Spring	627	
講義・実習科目	[L0103]	法律学	[清水 弥生]	秋学期授業/Fall	628	
講義・実習科目	[L0102]	法律学 (日本国憲法)	[清水 弥生]	春学期授業/Spring	629	
講義・実習科目	[LD202]	マーケティング実践	[諸上 茂光]	秋学期授業/Fall	630	
講義・実習科目	[LA011]	マクロ経済学	[北浦 康嗣]	秋学期授業/Fall	631	
講義・実習科目	[LD209]	マス・コミュニケーション論	[加藤 徹郎]	春学期授業/Spring	632	
講義・実習科目	[LA010]	ミクロ経済学	[北浦 康嗣]	春学期授業/Spring	632	
講義・実習科目	[LA009]	民法 (財産法)	[松田 佳久]	秋学期授業/Fall	633	
講義・実習科目	[LA008]	民法 (総則)	[松田 佳久]	春学期授業/Spring	634	
講義・実習科目	[LD000]	メディア研究法入門A	[土橋 臣吾]	春学期授業/Spring	635	
講義・実習科目	[LD001]	メディア研究法入門B	[宇野 齊]	秋学期授業/Fall	636	
講義・実習科目	[LD211]	メディアコンテンツ分析	[西田 善行]	春学期授業/Spring	637	
講義・実習科目	[LD210]	メディアコンテンツ論	[西田 善行]	秋学期授業/Fall	637	
講義・実習科目	[LD004]	メディア社会学基礎A	[土橋 臣吾]	秋学期授業/Fall	638	
講義・実習科目	[LD005]	メディア社会学基礎B	[稲増 龍夫]	春学期授業/Spring	639	
講義・実習科目	[LD006]	メディア社会学基礎C	[白田 秀彰]	春学期授業/Spring	640	
講義・実習科目	[LD002]	メディア社会入門I	[津田 正太郎]	春学期授業/Spring	641	
講義・実習科目	[LD003]	メディア社会入門II	[藤代 裕之]	秋学期授業/Fall	642	
講義・実習科目	[LD300]	メディアテクノロジーと社会	[橋爪 絢子]	春学期授業/Spring	643	
講義・実習科目	[LD302]	メディアテクノロジーと社会実習	[橋爪 絢子]	秋学期授業/Fall	643	
講義・実習科目	[LD301]	メディアテクノロジーと社会分析	[橋爪 絢子]	秋学期授業/Fall	644	
講義・実習科目	[LD007]	メディアと人間I	[李 舜志]	春学期授業/Spring	645	
講義・実習科目	[LD008]	メディアと人間II	[李 舜志]	秋学期授業/Fall	646	
講義・実習科目	[LD009]	メディアの思想	[小林 直毅]	秋学期授業/Fall	647	
講義・実習科目	[LD206]	メディアの歴史	[小林 直毅]	春学期授業/Spring	648	
講義・実習科目	[LD022-a]	メディアプログラミング実習	[湯本 正実]	秋学期授業/Fall	649	
講義・実習科目	[LD022-b]	メディアプログラミング実習	[湯本 正実]	春学期授業/Spring	649	
講義・実習科目	[LD100]	メディア文化論	[稲増 龍夫]	秋学期授業/Fall	650	
講義・実習科目	[LD207]	メディア分析技法	[小林 直毅]	秋学期授業/Fall	651	
講義・実習科目	[LD208]	メディア分析実践	[小林 直毅]	春学期授業/Spring	652	
講義・実習科目	[LD014]	メディア法	[白田 秀彰]	秋学期授業/Fall	653	
講義・実習科目	[LD108]	物語シミュレーション	[小川 有希子]	秋学期授業/Fall	654	
講義・実習科目	[LB010]	理論社会学	[鈴木 智之]	秋学期授業/Fall	655	
講義・実習科目	[LB106]	臨床社会学I	[木矢 幸孝]	春学期授業/Spring	656	
講義・実習科目	[LB107]	臨床社会学II	[木矢 幸孝]	秋学期授業/Fall	656	

講義・実習科目	【LB013】	歴史社会学Ⅰ	[鈴木 智道]	春学期授業/Spring	657
講義・実習科目	【LB014】	歴史社会学Ⅱ	[鈴木 智道]	秋学期授業/Fall	657
諸外国語初級	【L0401】	ロシア語初級A	[佐藤 裕子、中堀 正洋]	春学期授業/Spring	658
諸外国語初級	【L0402】	ロシア語初級B	[佐藤 裕子、中堀 正洋]	秋学期授業/Fall	659
講義・実習科目	【L1331】	ロシア語中級1	[清沢 紫織]	春学期授業/Spring	660
講義・実習科目	【L1333】	ロシア語中級2	[中堀 正洋]	春学期授業/Spring	660
講義・実習科目	【L1332】	ロシア語中級3	[清沢 紫織]	秋学期授業/Fall	661
講義・実習科目	【L1334】	ロシア語中級4	[中堀 正洋]	秋学期授業/Fall	662

SOC200EA

アメリカのジャーナリズム

別府 三奈子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アグレッシブ・ジャーナリズムとも呼ばれる米国ジャーナリズムの歩みと特徴について学ぶ。米国史の基本知識をベースに、写真ジャーナリズムの専門的な事例を用い、メディア理論の専門知を含めて概説する。

【到達目標】

民主主義と言論の自由の関係、ジャーナリズムとプロパガンダの違い、社会問題解決のための大きな原動力となるノンバーバル・コミュニケーションの力について、米国現代史の背景を含めて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

時間割に定められた時間を軸に、1 週間ごとに教材を配布するオンデマンド型授業を予定している。質問へのリプライのほか、学期末までに中間レポートに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ジャーナリズムの定義
第 2 回	植民地新聞	ゼンガー事件と修正第一条の意味
第 3 回	目の複製技術	メディア技術と写真史の概説
第 4 回	南北戦争	認識を変えた戦場写真
第 5 回	草創期の写真史	イメージによるアメリカの誕生
第 6 回	社会改良主義と写真	J. リースのセツルメント運動と移民の定着
第 7 回	フォト・キャンペーン	ルイス・ハインの児童労働撲滅運動
第 8 回	ロバート・キャパ	5つの戦争記録の変化と戦争ジャーナリズム
第 9 回	硫黄島と原爆	情報操作とジャーナリズム
第 10 回	ベトナム戦争	「アンド・ベイビーズ？」の意味の多層性
第 11 回	記録者の立ち位置	コン・ウト、沢田恭一、マルク・リプー
第 12 回	記録する側の思想	J. ナクトウエイの願い
第 13 回	公共奉仕	写真ジャーナリズムの影響
第 14 回	ピューリツァ賞写真	ピューリツァーの理念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関する資料動画の参照など毎週 4 時間の自習を要する。

【テキスト（教科書）】

配布教材による解説と、そこに提示する URL を利用したとネット上の写真画像を組み合わせて授業内容を提示する。

【参考書】

『ピューリツァー賞 受賞写真 全記録 第 2 版』ハル・ビュエル編、日経ナショナルジオグラフィック社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 40%、期末の筆記試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため、フィードバックは特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

インターネット上の資料画像を自習できるパソコン

【Outline and objectives】

We observe the profession theory of American photo-Journalists and the concept of freedom of speech with many famous cases.

SSS300ED

意思決定論

宇野 齊

サブタイトル：Operations Research

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

意思決定のためのモデルとプロセスの理解。意思決定の実践的な進め方や注意点を理解し、より有効な意思決定ができるようになります。

【到達目標】

以下が実行できるようになります。

- 1 問題状況の把握とモデル化
- 2 意思決定プロセスの理解とし段階的実行
- 3 いくつかのタイプの問題について既存手法による分析

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

問題の捉え方、考え方、モデル化の方法、意思決定のプロセスと情報を概観します。個人、組織、社会の各レベルでの意思決定問題の分析手法を学び、例題演習、グループ学習で理解します。

毎回学習支援システムへのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	ガイダンスとイントロ、問題とは何か	授業内容を学生と教員で確認、問題と意思決定の見方・考え方を共有します。
第 02 回	状況モデル化と意思決定プロセス	状況の把握、分析のモデル化、問題解決への一連の行動プロセスを考察します。
第 03 回	意思決定と情報 1	情報の種類、程度、確からしさ等による意思決定への影響を学びます。
第 04 回	意思決定と情報 2	情報処理の不確かさ、信念、個別の利害に基づく意思決定を知ります。
第 05 回	価値基準と代替案の評価 1	階層分析法 (AHP) による分析を学び例題の演習により理解します。
第 06 回	価値基準と代替案の評価 2	複数主体の価値基準と代替案評価での意思決定をグループで演習します。
第 07 回	価値基準と代替案の評価 3	現実例から、価値基準と代替案の評価を演習します。
第 08 回	彼我の状況 1	二主体間の競争的状況をゲーム理論で分析します。
第 09 回	彼我の状況 2	二主体間の協力的状況をゲーム理論で分析します。
第 10 回	彼我の状況 3	多主体間での個別の決定と全体の結果についてグループで演習します。
第 11 回	複雑状況の把握と意思決定 1	ソフトシステム方法論 (SSM) の考え方を学び、例題で演習します。
第 12 回	複雑状況の把握と意思決定 2	ケースに関する SSM による分析をグループで行います。
第 13 回	複雑状況の把握と意思決定 3	実際の事例について分析を各自の問題としてグループで演習します。
第 14 回	まとめと質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムに掲載します。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、学習支援システムに掲載します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 25%、個別レポート 25%、グループレポート 25%、期末試験 25%。グループレポートが実施できない場合は、別の個人レポートを設定します。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。大学付与のメールアドレスを設定してください。少なくとも表計算ソフト、ワープロソフトを使用します。その他必要に応じてインターネット上のサービスも利用します。

授業内で PC を使用する場合があります。事前案内に対応して個人用または多摩情報センター貸出用を持参してください。

【その他の重要事項】

受講許可が必要な科目です。事務課等からの事前指示等に対応してください。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

対面開講でない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。

メディア社会学科 2018 年度以降入学者は、社会ネットワーク論 I・II の受講に引続き受講することが望ましいです。

なるべく統計学 I・II を（先行・並行）履修して下さい。

【Outline and objectives】

Understand theoretical models and processes for decision making. Understand practical ways of making decisions and precautions. You can make more effective decisions.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内 正

サブタイトル：地域研究（イスラーム）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラーム社会とは、イスラーム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラーム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】

①イスラーム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラーム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方になっていますが、さらに変更される場合の詳細は、学習支援システムを参照してください。>

中東・イスラーム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」（テキストの該当部分について以下の4点を含むこと。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと。）を作成してることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えることになる。それがこの授業の狙いである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中東・イスラーム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。テーマについて知りたいことに関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラーム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレンティア国家：レンティア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト——民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家＝社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容・イスラエルの国家安全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民	受講生報告と教員を交えた議論

- | | | |
|----|---------------------------------|----------------|
| 9 | トルコ—新自由主義・親イスラーム政党・外交 | 受講生報告と教員を交えた議論 |
| 10 | 中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉 | 受講生報告と教員を交えた議論 |
| 11 | イランのイスラーム統治体制の現状 | 受講生報告と教員を交えた議論 |
| 12 | イラク「政治体制を巡る迷路」 | 受講生報告と教員を交えた議論 |
| 13 | ヨルダン——紛争との共生 | 受講生報告と教員を交えた議論 |
| 14 | 中東・イスラーム研究の課題 | 受講生報告と教員を交えた議論 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。準備・復習時間は2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年

【参考書】

長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。

岡野内 正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、毎回の授業日誌の4項目について、25%ずつ、合計100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

LANe200EA

English Oral Communication I

James Watt

サブタイトル：English Speech & Debate I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The emphasis this class will be expressing written opinions about discussion/debate topics and online presentations.

【到達目標】

Because of going online the course goals are having students be able to express a written opinion about a topic which they will be able to support with facts or examples and to make online presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Because of going online, student read and research about a given topic and will be able to expressive a written opinion about the topic. Students are also expected to make online presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	technology discussion	listening, research and write about findings
week 2	travel discussion	listening, express opinion in writing
week 3	hometown presentation	watch DVD, make an online presentation about your hometown
week 4	volunteering discussion	listening, research the topic, write about findings
week 5	gesture presentation	make a presentation online using gestures.
week 6	voice inflection	listening, do activities using voice inflection
week 7	recipe presentation	present a recipe online using voice inflection and gestures.
week 8	beliefs discussion	listening, research the topic, write about findings
week 9	visuals	listening, do activities using visuals
week 10	a country comparison presentation	make an online presentation comparing two countries
week 11	ecotourism -discussion	listening, research the topic, write about findings
week 12	education - discussion	listening, research the topic, write about findings
week 13	a restaurant recommendation presentation	make an online presentation about your favorite restaurant
week 14	the environment - discussion	listening, research the topic, write about findings

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare written assignments and presentations.

Because we are online, students must do activities, complete assignments, and write essays outside of the actual class.

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

The class text for presentations is SPEAKING OF SPEECH (Macmillan Languagehouse) by David Harrington and Charles LeBeau. Discussion materials will be provided online by the instructor.

【参考書】

There are none this semester, but the students should use the Internet to research their topics.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on the completion of assignments submitted online.

【学生の意見等からの気づき】

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

The syllabus is subject to change based on students's needs and the needs of the situation.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need a computer with access to the Internet and a cell phone to film online presentation. It would also be helpful to have a way to play the DVD that come with the textbook.

【その他の重要事項】

All work should be submitted by the stated deadline.

Feedback will be given via email on assignments submitted.

This semester has been affected by the Coronavirus Pandemic, and the syllabus has changed. There may be additional changes as the situation changes.

【Outline and objectives】

Because of going online, students will be asked to express written opinions about selected topics and to make presentations on line.

LANe200EA

English Oral Communication I

GEORGE HANN

サブタイトル：English Speech & Debate I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

【到達目標】

Students who take this course will improve their ability to make speeches and presentations in English, as well as participate in academic debates. These skills are especially useful for students considering careers in international business, foreign service, or academic research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, classes will be conducted entirely online (using Zoom Software).

Students will learn a method of speech making based on the Toastmasters model. These skills will then be applied to presentations, and finally to theme-based discussions and debates. Feedback will be in the form of annotated speech evaluations from the instructor, with points awarded for form, clarity, vocal and body dynamics, etc.

IMPORTANT :

- 1) Ideally, this class will be taken over BOTH semesters. この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
- 2) This class is conducted entirely in English. Students with only basic-level English listening or speaking ability should not take this class.
- 3 Students in this class must arrive on time and participate fully. 2 consecutive lates = one absence. Students who miss 5 classes for any reason will automatically receive a failing grade. Students who speak any language other than English during class time, or who otherwise engage in disruptive behavior will be marked absent for that day.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to speech technique
2	Speechmaking	Introduction to speech technique (cont'd)
3	Speech 1	Student speeches
4	Speech 2	Student speeches
5	Speech 3	Student speeches
6	Speech 4	Student speeches
7	Presentation	Introduction to presentation technique
8	Presentations 1	Student group presentations
9	Presentations 2	Student group presentations
10	Presentations 3	Student group presentations
11	Debate	Introduction to debate format and technique
12	Debate 1	Discussion and debate
13	Debate 2	Discussion and debate
14	Debate 3	Discussion and debate

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

A good Japanese-English dictionary is vital for this class. 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts provided by instructor

【参考書】

To be announced in class

【成績評価の方法と基準】

Participation : 50 %

Speech/Presentation/Debate evaluation : 50 %

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

Presenting and debating in a foreign language is not easy. Only students who work very hard will receive a good grade, so think carefully before you decide to take this class.

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

LANe200EA

English Oral Communication I

GEORGE HANN

サブタイトル：English Speech & Debate I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【その他の重要事項】

Presenting and debating in a foreign language is not easy. Only students who work very hard will receive a good grade, so think carefully before you decide to take this class.

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

【到達目標】

Students who take this course will improve their ability to make speeches and presentations in English, as well as participate in academic debates. These skills are especially useful for students considering careers in international business, foreign service, or academic research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, classes will be conducted entirely online (using Zoom Software).

Students will learn a method of speech making based on the Toastmasters model. These skills will then be applied to presentations, and finally to theme-based discussions and debates. Feedback will be in the form of annotated speech evaluations from the instructor, with points awarded for form, clarity, vocal and body dynamics, etc.

IMPORTANT :

1) Ideally, this class will be taken over BOTH semesters. この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

2) This class is conducted entirely in English. Students with only basic-level English listening or speaking ability should not take this class.

3 Students in this class must arrive on time and participate fully. 2 consecutive lates = one absence. Students who miss 5 classes for any reason will automatically receive a failing grade. Students who speak any language other than English during class time, or who otherwise engage in disruptive behavior will be marked absent for that day.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to speech technique
2	Speechmaking	Introduction to speech technique (cont'd)
3	Speech 1	Student speeches
4	Speech 2	Student speeches
5	Speech 3	Student speeches
6	Speech 4	Student speeches
7	Presentation	Introduction to presentation technique
8	Presentations 1	Student group presentations
9	Presentations 2	Student group presentations
10	Presentations 3	Student group presentations
11	Debate	Introduction to debate format and technique
12	Debate 1	Discussion and debate
13	Debate 2	Discussion and debate
14	Debate 3	Discussion and debate

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

A good Japanese-English dictionary is vital for this class. 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts provided by instructor

【参考書】

To be announced in class

【成績評価の方法と基準】

Participation : 50 %

Speech/Presentation/Debate evaluation : 50 %

【学生の意見等からの気づき】

なし

LANe300EA

English Oral Communication II

James Watt

サブタイトル：English Speech & Debate II
 開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 1/Thu.1
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The emphasis of this class will be expressing written opinions about discussion/debate topics and online presentations.

【到達目標】

Because of going online the course goals are having students be able to express a written opinion about a topic which they will be able to support with facts or examples and to make online presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Because of going online, student read and research about a given topic and will be able to expressive a written opinion about the topic. Students are also expected to make online presentations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	marriage - discussion	reading, expressing a written opinion
week 2	a speech introduction	listening, written activities
week 3	why study a foreign language - discussion	reading, expressing a written opinion
week 4	a speech body	listening, written activities
week 5	speech transitions and sequencers	listening, written activities
week 6	a speech conclusion	listening, written activities
week 7	a comparison presentation	students will make an online comparison presentation
week 8	Deciding How to Buy - discussion	reading, expressing a written opinion
week 9	a self-introduction presentation preparation	listening, written activities
week 10	a self-introduction presentation	an online presentation
week 11	fact vs. opinion	listening, written activities
week 12	cause and effect	listening, written activities
week 13	defending an opinion - presentation	an online presentation
week 14	Japan's gay geinojin - discussion	reading, expressing a written opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare written assignments and presentations.

Because we are online, students must do activities, complete assignments, and write essays outside of the actual class.

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

The class text for presentations is SPEAKING OF SPEECH (Macmillan Languagehouse) by David Harrington and Charles LeBeau. Discussion materials will be provided online by the instructor.

【参考書】

There are no reference books.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on the completion of assignments submitted online.

【学生の意見等からの気づき】

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need a computer with access to the Internet and a cell phone to film online presentation. It would also be helpful to have a way to play the DVD that come with the textbook.

【その他の重要事項】

All work should be submitted by the stated deadline.

Feedback will be given via email on assignments submitted.

This semester has been affected by the Coronavirus Pandemic, and the syllabus has changed. There may be additional changes as the situation changes.

【Outline and objectives】

Because of going online, students will be asked to express written opinions about selected topics and to make presentations on line.

LANe300EA

English Oral Communication II

GEORGE HANN

サブタイトル：English Speech & Debate II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【その他の重要事項】

Presenting and debating in a foreign language is not easy. Only students who work very hard will receive a good grade, so think carefully before you decide to take this class.

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

【到達目標】

Students who take this course will improve their ability to make speeches and presentations in English, as well as participate in academic debates. These skills are especially useful for students considering careers in international business, foreign service, or academic research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, classes will be conducted entirely online (using Zoom Software).

Students will learn a method of speech making based on the Toastmasters model. These skills will then be applied to presentations, and finally to theme-based discussions and debates. Feedback will be in the form of annotated speech evaluations from the instructor, with points awarded for form, clarity, vocal and body dynamics, etc.

IMPORTANT :

1) Ideally, this class will be taken over BOTH semesters. この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

2) This class is conducted entirely in English. Students with only basic-level English listening or speaking ability should not take this class.

3 Students in this class must arrive on time and participate fully. 2 consecutive lates = one absence. Students who miss 5 classes for any reason will automatically receive a failing grade. Students who speak any language other than English during class time, or who otherwise engage in disruptive behavior will be marked absent for that day.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to class	Introduction/review of speech technique
2	Speechmaking	Intermediate speech techniques
3	Speech 1	Student speeches
4	Speech 2	Student speeches
5	Speech 3	Student speeches
6	Speech 4	Student speeches
7	Presentation	Introduction/review of presentation technique
8	Presentations 1	Student group presentations
9	Presentations 2	Student group presentations
10	Presentations 3	Student group presentations
11	Debate	Introduction/review of debate format and technique
12	Debate 1	Discussion and debate
13	Debate 2	Discussion and debate
14	Debate 3	Discussion and debate

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

A good Japanese-English dictionary is vital for this class. 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts provided by instructor

【参考書】

To be announced in class

【成績評価の方法と基準】

Participation : 50 %

Speech/Presentation/Debate evaluation : 50 %

【学生の意見等からの気づき】

なし

LANe300EA

English Oral Communication II

GEORGE HANN

サブタイトル：English Speech & Debate II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

【到達目標】

Students who take this course will improve their ability to make speeches and presentations in English, as well as participate in academic debates. These skills are especially useful for students considering careers in international business, foreign service, or academic research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, classes will be conducted entirely online (using Zoom Software).

Students will learn a method of speech making based on the Toastmasters model. These skills will then be applied to presentations, and finally to theme-based discussions and debates. Feedback will be in the form of annotated speech evaluations from the instructor, with points awarded for form, clarity, vocal and body dynamics, etc.

IMPORTANT :

- 1) Ideally, this class will be taken over BOTH semesters. この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
- 2) This class is conducted entirely in English. Students with only basic-level English listening or speaking ability should not take this class.
- 3 Students in this class must arrive on time and participate fully. 2 consecutive lates = one absence. Students who miss 5 classes for any reason will automatically receive a failing grade. Students who speak any language other than English during class time, or who otherwise engage in disruptive behavior will be marked absent for that day.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to class	Introduction/review of speech technique
2	Speechmaking	Intermediate speech techniques
3	Speech 1	Student speeches
4	Speech 2	Student speeches
5	Speech 3	Student speeches
6	Speech 4	Student speeches
7	Presentation	Introduction/review of presentation technique
8	Presentations 1	Student group presentations
9	Presentations 2	Student group presentations
10	Presentations 3	Student group presentations
11	Debate	Introduction/review of debate format and technique
12	Debate 1	Discussion and debate
13	Debate 2	Discussion and debate
14	Debate 3	Discussion and debate

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

A good Japanese-English dictionary is vital for this class. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts provided by instructor

【参考書】

To be announced in class

【成績評価の方法と基準】

Participation : 50 %

Speech/Presentation/Debate evaluation : 50 %

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

Presenting and debating in a foreign language is not easy. Only students who work very hard will receive a good grade, so think carefully before you decide to take this class.

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

This class is for students who want to strengthen their ability to make English speeches and presentations, and participate in English debates.

LANe200EA

English Drama I

GEORGE HANN

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【到達目標】

From the plays, students will gain a deeper understanding of the culture of English-speaking societies, and a greater ability to apply interaction rules with people from those societies. Students will also be able to make their English communication sound more "natural".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, classes will be conducted entirely online (using Zoom Software).

The lesson cycle follows this flow:

1. Read the scene/play aloud (for pronunciation/intonation patterns etc.)
2. Script analysis (for character motivations, subtexts, etc.)
3. Assigning roles
4. Scene rehearsal
5. Performance.

After the performance, students in groups write original scenes based on themes and vocabulary from the given scene. They then perform their new scene the following week. Feedback will be in the form of annotated evaluations from the instructor, with points awarded for clarity, vocal and body dynamics, etc. There will also be short scene quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Short play 01; improvisation activities
2	Short Play 01	Plot analysis; language explanation
3	Application	Play 01 quiz; original scene writing
4	Performance 01	Student performance of original scenes; scene critique
5	Short Play 02	Play 02 reading; plot analysis; language explanation
6	Application	Play 02 quiz; original scene writing
7	Performance 02	Student performance of original scenes; scene critique
8	Short Play 03	Play 03 reading; plot analysis; language explanation
9	Application	Play 03 quiz; original scene writing
10	Performance 03	Student performance of original scenes; scene critique
11	Short Play 04	Play 04 reading; plot analysis; language explanation
12	Application	Play 04 quiz; original scene writing
13	Performance 04	Student performance of original scenes; scene critique
14	Short Play 05	Play 05 reading; plot analysis; language explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントは担当教員が配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

パフォーマンス：30%

クイズ：20%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

LANe200EA

English Drama I

GEORGE HANN

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【到達目標】

From the plays, students will gain a deeper understanding of the culture of English-speaking societies, and a greater ability to apply interaction rules with people from those societies. Students will also be able to make their English communication sound more "natural".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, classes will be conducted entirely online (using Zoom Software).

The lesson cycle follows this flow:

1. Read the scene/play aloud (for pronunciation/intonation patterns etc.)
2. Script analysis (for character motivations, subtexts, etc.)
3. Assigning roles
4. Scene rehearsal
5. Performance.

After the performance, students in groups write original scenes based on themes and vocabulary from the given scene. They then perform their new scene the following week. Feedback will be in the form of annotated evaluations from the instructor, with points awarded for clarity, vocal and body dynamics, etc. There will also be short scene quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Short play 01; improvisation activities
2	Short Play 01	Plot analysis; language explanation
3	Application	Play 01 quiz; original scene writing
4	Performance 01	Student performance of original scenes; scene critique
5	Short Play 02	Play 02 reading; plot analysis; language explanation
6	Application	Play 02 quiz; original scene writing
7	Performance 02	Student performance of original scenes; scene critique
8	Short Play 03	Play 03 reading; plot analysis; language explanation
9	Application	Play 03 quiz; original scene writing
10	Performance 03	Student performance of original scenes; scene critique
11	Short Play 04	Play 04 reading; plot analysis; language explanation
12	Application	Play 04 quiz; original scene writing
13	Performance 04	Student performance of original scenes; scene critique
14	Short Play 05	Play 05 reading; plot analysis; language explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントは担当教員が配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

パフォーマンス：30%

クイズ：20%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

LANe300EA

English Drama II

GEORGE HANN

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【到達目標】

From the plays, students will gain a deeper understanding of the culture of English-speaking societies, and a greater ability to apply interaction rules with people from those societies. Students will also be able to make their English communication sound more "natural".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, classes will be conducted entirely online (using Zoom Software).

The lesson cycle follows this flow:

1. Read the scene/play aloud (for pronunciation/intonation patterns etc.)
2. Script analysis (for character motivations, subtexts, etc.)
3. Assigning roles
4. Scene rehearsal
5. Performance.

After the performance, students in groups write original scenes based on themes and vocabulary from the given scene. They then perform their new scene the following week. Feedback will be in the form of annotated evaluations from the instructor, with points awarded for clarity, vocal and body dynamics, etc. There will also be short scene quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Short play 01; improvisation activities
2	Short Play 01	Plot analysis; language explanation
3	Application	Play 01 quiz; original scene writing
4	Performance 01	Student performance of original scenes; scene critique
5	Short Play 02	Plot analysis; language explanation
6	Application	Play 02 quiz; original scene writing
7	Performance 02	Student performance of original scenes; scene critique
8	Short Play 03	Plot analysis; language explanation
9	Application	Play 03 quiz; original scene writing
10	Performance 03	Student performance of original scenes; scene critique
11	Short Play 04	Plot analysis; language explanation
12	Application	Play 04 quiz; original scene writing
13	Performance 04	Student performance of original scenes; scene critique
14	Short Play 05	Plot analysis; language explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントは担当教員が配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

パフォーマンス：30%

クイズ：20%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

LANe300EA

English Drama II

GEORGE HANN

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

【到達目標】

From the plays, students will gain a deeper understanding of the culture of English-speaking societies, and a greater ability to apply interaction rules with people from those societies. Students will also be able to make their English communication sound more "natural".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, classes will be conducted entirely online (using Zoom Software).

The lesson cycle follows this flow:

1. Read the scene/play aloud (for pronunciation/intonation patterns etc.)
2. Script analysis (for character motivations, subtexts, etc.)
3. Assigning roles
4. Scene rehearsal
5. Performance.

After the performance, students in groups write original scenes based on themes and vocabulary from the given scene. They then perform their new scene the following week. Feedback will be in the form of annotated evaluations from the instructor, with points awarded for clarity, vocal and body dynamics, etc. There will also be short scene quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Short play 01; improvisation activities
2	Short Play 01	Plot analysis; language explanation
3	Application	Play 01 quiz; original scene writing
4	Performance 01	Student performance of original scenes; scene critique
5	Short Play 02	Plot analysis; language explanation
6	Application	Play 02 quiz; original scene writing
7	Performance 02	Student performance of original scenes; scene critique
8	Short Play 03	Plot analysis; language explanation
9	Application	Play 03 quiz; original scene writing
10	Performance 03	Student performance of original scenes; scene critique
11	Short Play 04	Plot analysis; language explanation
12	Application	Play 04 quiz; original scene writing
13	Performance 04	Student performance of original scenes; scene critique
14	Short Play 05	Plot analysis; language explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントは担当教員が配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%

パフォーマンス：30%

クイズ：20%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

This class aims to improve students' English listening and speaking abilities, as well as their ability to recognize and use non-verbal communication (NVC) strategies, through the use of short dramatic scenes and plays. Students will also learn acting techniques drawn from the Western drama tradition, including the Stanislavski, Meisner and Adler approaches.

LANe200EA

English Reading & Writing A I

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語のリーディング及びライティングの能力の向上を目的とする。リーディングは英文読解の速さと正確さの向上を目指す。ライティングは、英文の論理的な基本単位であるパラグラフの作文練習を行う。

さらに全体的な英語力向上のため音声教材（リスニング、音読用）も使用する。

【到達目標】

- ・英文読解の速さと正確さを向上させる。
- ・パラグラフの基本パターンを身につけ、様々なトピックのパラグラフが書けるようになる。
- ・理解でき利用できる語彙・英語表現を増やす。
- ・Web上の教材を利用して独学できるようになる。
- ・自分で選んだ英語の本を一冊読み切る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【注意】オンライン授業。Zoomによるリアルタイム授業とHoppiiを併用する。受講するためにはこれらを安定して利用できる機器と環境が必須

【注意】春・秋学期を連続したものとして授業を行うため、秋の授業は春の内容を前提とする。

- ・リーディング：指定教材の読解練習
- ・ライティング：様々なパラグラフの作文練習
- ・その他：英語の本を各自一冊選び、読書レポート提出
- ・教材配布等はHoppii上で行う。
- ・テスト、課題などへのフィードバックはHoppii上で行う。
- ・授業に関する連絡はHoppii「お知らせ」で行う。定期的に確認すること。
- *詳しくは初回ガイダンスで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 英文 1.0 Traveling Chef	授業の説明。読解練習、小テスト
第2回	Writing 1 Understanding Paragraphs	パラグラフの基礎
第3回	英文 1.1 Traumatic Event	読解練習、小テスト、パラグラフ作文練習
第4回	英文 2.0 Ed Pulaski Writing 2 Time Order	読解練習、小テスト。時系列パラグラフの基礎。Pleasure Reading用の本情報
第5回	英文 2.1 Pulaski (Tool)	読解練習、小テスト。時系列パラグラフ作文練習
第6回	英文 2.2 Wildfires	読解練習、小テスト
第7回	中間テスト	第1～6回内容の確認テスト。学習相談
第8回	Pleasure Reading Reportについて Writing 3 Process	学期末レポートの説明。基本的な作文プロセス
第9回	学期末作文について 英文 3.0 Ocean of Plastic	学期末作文課題の説明。読解練習、小テスト
第10回	英文 3.1 Great Pacific Garbage Patch, Part 1	読解練習、課題作文準備
第11回	英文 3.2 Great Pacific Garbage Patch, Part 2	読解練習、課題作文準備
第12回	Pleasure Reading Report 提出 Web教材	レポート提出。Web上の英語資料の読解
第13回	学期末作文課題提出 Web教材	作文課題提出。Web上の英語資料の読解
第14回	読書レポート 学期末テスト	全学習内容の確認テスト。学習相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・復習、予習、宿題、課題の作成
- ・リスニング&音読の反復練習（英語力全般を伸ばすため）

- ・Web上の教材の自習
- ・上記の時間は毎回4時間程度

【テキスト（教科書）】

- ①教材はHoppii上で随時指示、配布する。
- ②英語辞書（Web上のものではなく一般的な学習辞書が望ましい）

【参考書】

- ・文法参考書：評判の良いものが一冊あると便利。文法参考書を参照する習慣を身につけてほしい。例：『ジーニアス総合英語』、『総合英語 Evergreen』（＝『総合英語 Forest』の後継）
- ・自習向け Web サイト：
BBC Learning English < <https://www.bbc.co.uk/learningenglish/> >
VOA Learning English < <https://learningenglish.voanews.com> >

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 50 %（Quiz、宿題、Zoom参加など）
- ・中間&学期末テスト 20 %
- ・Pleasure Reading Report 15 %
- ・学期末作文課題 15 %

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講者のニーズに応じた柔軟な指導を目指す。必要に応じて追加教材の提案や個別相談を行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のため、パソコン等のIT機器とHoppiiやZoomが安定して使用できるネット環境が必須

【その他の重要事項】

初回ガイダンスに必ず出席すること。AEPには多様な科目がある。ガイダンスで授業内容が自分に合っているかチェックしてから履修すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop their English reading and writing skills, with particular attention paid to the speed and accuracy of reading comprehension and the basics of paragraph writing.

LANe200EA

English Reading & Writing A I

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語のリーディング及びライティングの能力の向上を目的とする。リーディングは英文読解の速さと正確さの向上を目指す。ライティングは、英文の論理的な基本単位であるパラグラフの作文練習を行う。

さらに全体的な英語力向上のため音声教材（リスニング、音読用）も使用する。

【到達目標】

- ・英文読解の速さと正確さを向上させる。
- ・パラグラフの基本パターンを身につけ、様々なトピックのパラグラフが書けるようになる。
- ・理解でき利用できる語彙・英語表現を増やす。
- ・Web上の教材を利用して独学できるようになる。
- ・自分で選んだ英語の本を一冊読み切る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【注意】オンライン授業。Zoomによるリアルタイム授業とHoppiiを併用する。受講するためにはこれらを安定して利用できる機器と環境が必須

【注意】春・秋学期を連続したものとして授業を行うため、秋の授業は春の内容を前提とする。

- ・リーディング：指定教材の読解練習
- ・ライティング：様々なパラグラフの作文練習
- ・その他：英語の本を各自一冊選び、読書レポート提出
- ・教材配布等はHoppii上で行う。
- ・テスト、課題などへのフィードバックはHoppii上で行う。
- ・授業に関する連絡はHoppii「お知らせ」で行う。定期的に確認すること。
- *詳しくは初回ガイダンスで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 英文 1.0 Traveling Chef	授業の説明。読解練習、小テスト
第2回	Writing 1 Understanding Paragraphs	パラグラフの基礎
第3回	英文 1.1 Traumatic Event	読解練習、小テスト、パラグラフ作文練習
第4回	英文 2.0 Ed Pulaski Writing 2 Time Order	読解練習、小テスト。時系列パラグラフの基礎。Pleasure Reading用の本情報
第5回	英文 2.1 Pulaski (Tool)	読解練習、小テスト。時系列パラグラフ作文練習
第6回	英文 2.2 Wildfires	読解練習、小テスト
第7回	中間テスト	第1～6回内容の確認テスト。学習相談
第8回	Pleasure Reading Reportについて Writing 3 Process	学期末レポートの説明。基本的な作文プロセス
第9回	学期末作文について 英文 3.0 Ocean of Plastic	学期末作文課題の説明。読解練習、小テスト
第10回	英文 3.1 Great Pacific Garbage Patch, Part 1	読解練習、課題作文準備
第11回	英文 3.2 Great Pacific Garbage Patch, Part 2	読解練習、課題作文準備
第12回	Pleasure Reading Report 提出 Web教材	レポート提出。Web上の英語資料の読解
第13回	学期末作文課題提出 Web教材	作文課題提出。Web上の英語資料の読解
第14回	読書レポート 学期末テスト	全学習内容の確認テスト。学習相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・復習、予習、宿題、課題の作成
- ・リスニング&音読の反復練習（英語力全般を伸ばすため）

- ・Web上の教材の自習
- ・上記の時間は毎回4時間程度

【テキスト（教科書）】

- ①教材はHoppii上で随時指示、配布する。
- ②英語辞書（Web上のものではなく一般的な学習辞書が望ましい）

【参考書】

- ・文法参考書：評判の良いものが一冊あると便利。文法参考書を参照する習慣を身につけてほしい。例：『ジーニアス総合英語』、『総合英語 Evergreen』（＝『総合英語 Forest』の後継）
- ・自習向け Web サイト：
BBC Learning English < <https://www.bbc.co.uk/learningenglish/> >
VOA Learning English < <https://learningenglish.voanews.com> >

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 50 %（Quiz、宿題、Zoom参加など）
- ・中間&学期末テスト 20 %
- ・Pleasure Reading Report 15 %
- ・学期末作文課題 15 %

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講者のニーズに応じた柔軟な指導を目指す。必要に応じて追加教材の提案や個別相談を行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のため、パソコン等のIT機器とHoppiiやZoomが安定して使用できるネット環境が必須

【その他の重要事項】

初回ガイダンスに必ず出席すること。AEPには多様な科目がある。ガイダンスで授業内容が自分に合っているかチェックしてから履修すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop their English reading and writing skills, with particular attention paid to the speed and accuracy of reading comprehension and the basics of paragraph writing.

LANe200EA

English Reading & Writing A I

JONATHAN D BROWN

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will focus on the development of reading skills and reading practice at the intermediate to high-intermediate level so that students can effectively read and enjoy literature in English.

【到達目標】

- Learn PQ4R (previewing, questioning, reading, reflecting, reciting, reviewing).
- Improve reading fluency: reading faster with better comprehension.
- Recognize, understand and analyze the basic organization of a text.
- Read for main ideas and supporting details.
- Write summaries and responses of written texts.
- Reading one entire literary work in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This course involves reading a literary work in English. Students will be introduced to some basic literary concepts and terms and will be expected to participate in classroom discussions following each section in the book. Themes from the book and how they apply to current social and cultural issues will be explored. Due to the COVID-19 situation, this course will be conducted online through Zoom and Google Classroom. Assignments should be submitted via Google Classroom and/or email. Feedback will be provided by direct comments to the student on Google Classroom or by email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ZOOM Orientation; Introduction to reading; To Kill A Mocking Bird	Explanation of course and syllabus; Self- introductions; Read "To Kill a Mocking Bird" summary; Vocabulary List for "To Kill a Mocking Bird"; Read Chs. 1-2
第 2 回	GOOGLE CLASSROOM To Kill A Mocking Bird	The Great Depression research project; Read Chs. 3-5
第 3 回	GOOGLE CLASSROOM To Kill A Mocking Bird	The Great Depression research project continued; Chapters 1-5 Discussion; Read Chs. 6-8
第 4 回	ZOOM To Kill A Mocking Bird	The Great Depression Presentation; Read Chs. 9-11
第 5 回	Google Classroom To Kill A Mocking Bird	Chapters 6-11 Discussion; Idioms; Read Chs. 12-13
第 6 回	GOOGLE CLASSROOM To Kill A Mocking Bird	Myths and Urban Myths; Read Chs. 14-15
第 7 回	ZOOM To Kill A Mocking Bird	Japanese Myths Presentation; Read Chs. 16-17
第 8 回	GOOGLE CLASSROOM To Kill A Mocking Bird	Allusions; Read Chs. 18-20
第 9 回	GOOGLE CLASSROOM To Kill A Mocking Bird	Similes and Metaphors; Read Chs. 21-23
第 10 回	GOOGLE CLASSROOM To Kill A Mocking Bird	Chapters 18-24 Discussion; Racial Hatred and Discrimination; Read Chs. 24-26
第 11 回	ZOOM To Kill A Mocking Bird	Racial Hatred and Discrimination Presentation; Read Chs. 27-29
第 12 回	GOOGLE CLASSROOM To Kill A Mocking Bird	Read Chs. 30-31; Character Analysis
第 13 回	GOOGLE CLASSROOM To Kill A Mocking Bird	Chapters 25-31 Discussion; Final exam

第 14 回 ZOOM Watch movie; Final report due
To Kill A Mocking Bird (Character analysis)
Movie

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Chapter readings; presentation preparation; report writing

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

To Kill a Mocking Bird by Harper Lee
Other materials provided by instructor

【参考書】

アラバマ物語 和訳 (recommended)

【成績評価の方法と基準】

Classroom Activities - 30%

Presentations - 30%

Final Report - 20%

Final Exam - 20%

(15分以上の遅刻で欠席とする。遅刻を3回した場合、1回の欠席として数えます。)

【学生の意見等からの気づき】

I revised this course to be more centered on reading and less "academic."

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

ウェブカメラ

インターネット接続

【その他の重要事項】

秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。初回授業に出席して担当教員の受講許可を得ること。秋学期のみ履修の場合も春学期初回の授業で担当教員の許可を得ること。

【Outline and objectives】

The course aims to create independent learners who are able to read with a critical mind and respond both orally and in writing to what they have read. The course will focus on both extensive reading and intensive reading skills, and reading strategies at a low academic level. As such this course is a basic foundation course for a wide range of reading skills and vocabulary learning essential for more advanced reading activities.

LANe300EA

English Reading & Writing A II

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語のリーディング及びライティングの能力の向上を目的とする。リーディングは英文読解の速さと正確さの向上を目指す。ライティングは、英文の論理的な基本単位であるパラグラフの作文練習を行う。

さらに全体的な英語力向上のため音声教材（リスニング、音読用）も使用する。

【到達目標】

- ・英文読解の速さと正確さを向上させる。
- ・パラグラフの基本パターンを身につけ、様々なトピックのパラグラフが書けるようになる。
- ・理解でき利用できる語彙・英語表現を増やす。
- ・Web上の教材を利用して独学できるようになる。
- ・自分で選んだ英語の本を一冊読み切る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【注意】オンライン授業。Zoomによるリアルタイム授業とHoppiiを併用する。受講するためにはこれらを安定して利用できる機器と環境が必須

【注意】春・秋学期を連続したものとして授業を行うため、秋の授業は春の内容を前提とする。

- ・リーディング：指定教材の読解練習
 - ・ライティング：様々なパラグラフの作文練習
 - ・その他：英語の本を各自一冊選び、読書レポート提出
 - ・教材配布等はHoppii上で行う。
 - ・テスト、課題などへのフィードバックはHoppii上で行う。
 - ・授業に関する連絡はHoppii「お知らせ」で行う。定期的に確認すること。
- *詳しくは初回ガイダンスで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス パラグラフ基礎	授業の説明。パラグラフの基礎復習
第2回	英文 4.0 The Flying Housewife (1) Writing 4 Order of Importance	読解練習、小テスト。重要度パラグラフの基本
第3回	英文 4.1 The Flying Housewife (2)	読解練習、小テスト、パラグラフ作文練習
第4回	英文 4.2 Flying Dutch Woman	読解練習、小テスト。Pleasure Reading用の本情報
第5回	英文 5.0 The Big Fish Writing 5 Instructions	読解練習、小テスト。指示のパラグラフの基礎
第6回	Web教材 Martin Strel	語彙増強、小テスト。パラグラフ作文練習
第7回	中間テスト	第1～6回内容の確認テスト。学習相談
第8回	Pleasure Reading Reportについて 英文 6.0 A Famous Work of Art Finds Its Home Writing 6 Opinions	学期末レポートの説明。読解練習、小テスト。意見のパラグラフの基礎
第9回	学期末作文について 英文 6.1 Guernica	学期末作文課題の説明。読解練習、小テスト
第10回	英文 7.0 Revision Skills	読解練習、課題作文準備
第11回	英文 8.0 Minimum Legal Drinking Age	読解練習、課題作文準備
第12回	Pleasure Reading Report 提出 英文 9.0 The Power of Media	レポート提出。読解練習、小テスト
第13回	学期末作文課題提出 英文 9.1 Nixon Resigns over Watergate	作文課題提出。読解練習、小テスト
第14回	読書レポート 学期末テスト	全学習内容の確認テスト。学習相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・復習、予習、宿題、課題の作成
- ・リスニング&音読の反復練習（英語力全般を伸ばすため）
- ・Web上の教材の自習
- ・上記の時間は毎回4時間程度

【テキスト（教科書）】

- ①教材はHoppii上で随時指示、配布する。
- ②英語辞書（Web上のものではなく一般的な学習辞書が望ましい）

【参考書】

- ・文法参考書：評判の良いものが一冊あると便利。文法参考書を参照する習慣を身につけてほしい。例：『ジーニアス総合英語』、『総合英語 Evergreen』（＝『総合英語 Forest』の後継）
- ・自習向けWebサイト：

BBC Learning English < <https://www.bbc.co.uk/learningenglish/> >
VOA Learning English < <https://learningenglish.voanews.com> >

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 50 % (Quiz、宿題、Zoom参加など)
- ・中間&学期末テスト 20 %
- ・Pleasure Reading Report 15 %
- ・学期末作文課題 15 %

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講者のニーズに応じた柔軟な指導を目指す。必要に応じて追加教材の提案や個別相談を行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のため、パソコン等のIT機器とHoppiiやZoomが安定して使用できるネット環境が必須

【その他の重要事項】

初回ガイダンスに必ず出席すること。AEPには多様な科目がある。ガイダンスで授業内容が自分に合っているかチェックしてから履修すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop their English reading and writing skills, with particular attention paid to the speed and accuracy of reading comprehension and the basics of paragraph writing.

LANe300EA

English Reading & Writing A II

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語のリーディング及びライティングの能力の向上を目的とする。リーディングは英文読解の速さと正確さの向上を目指す。ライティングは、英文の論理的な基本単位であるパラグラフの作文練習を行う。

さらに全体的な英語力向上のため音声教材（リスニング、音読用）も使用する。

【到達目標】

- ・英文読解の速さと正確さを向上させる。
- ・パラグラフの基本パターンを身につけ、様々なトピックのパラグラフが書けるようになる。
- ・理解でき利用できる語彙・英語表現を増やす。
- ・Web 上の教材を利用して独学できるようになる。
- ・自分で選んだ英語の本を一冊読み切る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【注意】オンライン授業。Zoom によるリアルタイム授業と Hoppii を併用する。受講するためにはこれらを安定して利用できる機器と環境が必須

【注意】春・秋学期を連続したものとして授業を行うため、秋の授業は春の内容を前提とする。

- ・リーディング：指定教材の読解練習
- ・ライティング：様々なパラグラフの作文練習
- ・その他：英語の本を各自一冊選び、読書レポート提出
- ・教材配布等は Hoppii 上で行う。
- ・テスト、課題などへのフィードバックは Hoppii 上で行う。
- ・授業に関する連絡は Hoppii 「お知らせ」で行う。定期的に確認すること。
- *詳しくは初回ガイダンスで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス パラグラフ基礎	授業の説明。パラグラフの基礎復習
第 2 回	英文 4.0 The Flying Housewife (1) Writing 4 Order of Importance	読解練習、小テスト。重要度パラグラフの基本
第 3 回	英文 4.1 The Flying Housewife (2)	読解練習、小テスト、パラグラフ作文練習
第 4 回	英文 4.2 Flying Dutch Woman	読解練習、小テスト。Pleasure Reading 用の本情報
第 5 回	英文 5.0 The Big Fish Writing 5 Instructions	読解練習、小テスト。指示のパラグラフの基礎
第 6 回	Web 教材 Martin Strel	語彙増強、小テスト。パラグラフ作文練習
第 7 回	中間テスト	第 1 ～ 6 回内容の確認テスト。学習相談
第 8 回	Pleasure Reading Report について 英文 6.0 A Famous Work of Art Finds Its Home Writing 6 Opinions	学期末レポートの説明。読解練習、小テスト。意見のパラグラフの基礎
第 9 回	学期末作文について 英文 6.1 Guernica	学期末作文課題の説明。読解練習、小テスト
第 10 回	英文 7.0 Revision Skills	読解練習、課題作文準備
第 11 回	英文 8.0 Minimum Legal Drinking Age	読解練習、課題作文準備
第 12 回	Pleasure Reading Report 提出 英文 9.0 The Power of Media	レポート提出。読解練習、小テスト
第 13 回	学期末作文課題提出 英文 9.1 Nixon Resigns over Watergate	作文課題提出。読解練習、小テスト
第 14 回	読書レポート 学期末テスト	全学習内容の確認テスト。学習相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・復習、予習、宿題、課題の作成
- ・リスニング&音読の反復練習（英語力全般を伸ばすため）
- ・Web 上の教材の自習
- ・上記の時間は毎回 4 時間程度

【テキスト（教科書）】

- ①教材は Hoppii 上で随時指示、配布する。
- ②英語辞書（Web 上のものではなく一般的な学習辞書が望ましい）

【参考書】

- ・文法参考書：評判の良いものが一冊あると便利。文法参考書を参照する習慣を身につけてほしい。例：『ジーニアス総合英語』、『総合英語 Evergreen』（＝『総合英語 Forest』の後継）
- ・自習向け Web サイト：

BBC Learning English < <https://www.bbc.co.uk/learningenglish/> >
VOA Learning English < <https://learningenglish.voanews.com> >

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 50 % (Quiz、宿題、Zoom 参加など)
- ・中間&学期末テスト 20 %
- ・Pleasure Reading Report 15 %
- ・学期末作文課題 15 %

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講者のニーズに応じた柔軟な指導を目指す。必要に応じて追加教材の提案や個別相談を行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のため、パソコン等の IT 機器と Hoppii や Zoom が安定して使用できるネット環境が必須

【その他の重要事項】

初回ガイダンスに必ず出席すること。AEP には多様な科目がある。ガイダンスで授業内容が自分に合っているかチェックしてから履修すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop their English reading and writing skills, with particular attention paid to the speed and accuracy of reading comprehension and the basics of paragraph writing.

LANe300EA

English Reading & Writing A II

JONATHAN D BROWN

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will focus on the development of reading skills and reading practice at the intermediate to high-intermediate level so that students can effectively read and enjoy literature in English.

【到達目標】

- Learn PQ4R (previewing, questioning, reading, reflecting, reciting, reviewing).
- Improve reading fluency: reading faster with better comprehension.
- Recognize, understand and analyze the basic organization of a text.
- Read for main ideas and supporting details.
- Write summaries and responses of written texts.
- Reading one entire literary work in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This course involves reading a literary work in English. Students will be introduced to some basic literary concepts and terms and will be expected to participate in classroom discussions following each section in the book. Themes from the book and how they apply to current social and cultural issues will be explored. Due to the COVID-19 situation, this course will be conducted online through Zoom and Google Classroom. Assignments should be submitted via Google Classroom and/or email. Feedback will be provided by direct comments to the student on Google Classroom or by email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ZOOM Course Guidance/Introductions	Explanation of course and syllabus A Christmas Carol – About the author; Book summary; Vocabulary list; Read Stave 1
第 2 回	GOOGLE CLASSROOM A Christmas Carol: Stave 1	Class Discussion: An Unexpected Visitor; Read Stave 1 continued
第 3 回	GOOGLE CLASSROOM A Christmas Carol: Stave 1 continued	Study group activities 1; Quiz 1; Read Stave 2
第 4 回	GOOGLE CLASSROOM A Christmas Carol: Stave 2	Comparing past to present; Read Stave 2 continued
第 5 回	GOOGLE CLASSROOM A Christmas Carol: Stave 2 continued	Study group activities 2; Quiz 2; Read Stave 3
第 6 回	GOOGLE CLASSROOM A Christmas Carol: Stave 3	This is your life; Read Stave 3 continued
第 7 回	GOOGLE CLASSROOM A Christmas Carol: Stave 3 continued	Study group activities 3; Quiz 3; Read Stave 4
第 8 回	GOOGLE CLASSROOM A Christmas Carol: Stave 4	What do you see in your future?; Read Stave 4 continued
第 9 回	GOOGLE CLASSROOM A Christmas Carol: Stave 4 continued	Study group activities 4; Quiz 4; Read Stave 5

第 10 回	GOOGLE CLASSROOM A Christmas Carol: Stave 5	Begin research project; Read Stave 5 continued
第 11 回	A Christmas Carol: Stave 5 continued	Continue research project; Study group activities 5; Quiz 5
第 12 回	GOOGLE CLASSROOM A Christmas Carol: Final Exam	Final exam; continue research project
第 13 回	ZOOM Research Project Presentation	Research project presentation
第 14 回	ZOOM A Christmas Carol Movie	Watch A Christmas Carol Movie

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Chapter readings; presentation preparation; report writing
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

A Christmas Carol by Charles Dickens
Other materials provided by the instructor

【参考書】

クリスマスキャロル 和訳 (recommended)

【成績評価の方法と基準】

Classroom Activities - 40%

Quizzes - 20%

Final Presentation - 20%

Final Exam - 20%

(15分以上の遅刻で欠席とする。遅刻を3回した場合、1回の欠席として数えます。)

【学生の意見等からの気づき】

I revised this course to be more centered on reading and less "academic."

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

ウェブカメラ

インターネット接続

【その他の重要事項】

秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。初回授業に出席して担当教員の受講許可を得ること。秋学期のみ履修の場合も春学期初回の授業で担当教員の許可を得ること。

【Outline and objectives】

The course aims to create independent learners who are able to read with a critical mind and respond both orally and in writing to what they have read. The course will focus on both extensive reading and intensive reading skills, and reading strategies at a low academic level. As such this course is a basic foundation course for a wide range of reading skills and vocabulary learning essential for more advanced reading activities.

LANe200EA

English Reading & Writing B I

宮本 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ映画に現れるジェンダーやセクシュアリティ、階級、人種、「能力」などの問題に焦点化して書かれた文章を読み、英語による学術的な文章の読解を学ぶ。

社会・文化的な視点から書かれた映画批評について理解を深める。それらを生かして、自らの意見を英語で記述する訓練を行う。

【到達目標】

学術的な文章を読む能力を獲得する。

社会・文化的な問題に関する基本的な知識と考え方を身に着ける。

学んだ内容を元に、社会・文化的な問題を自ら考え、意見を英語で記述できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書を章ごとに進めるほか、課題作成の時間も設ける。

前週の課題や質問については、翌週の授業内でフィードバックする。

精読を基本とするが、議論の大意を掴むことを重視する。

受講方法については初回授業で説明するため、必ず初回授業日に学習支援システムにログインすること。

初回授業日は 4 月 13 日（火）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業内容の概説
第 2 回	Chapter1-1 What is Ability?	語彙の確認 ability という考え方についての文章を読む（前半）
第 3 回	Chapter1-2 What is Ability?	ability という考え方についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 4 回	Chapter2-1 Cinematic Images of (Dis)Ability	語彙の確認 ability と disability の表象についての文章を読む（前半）
第 5 回	Chapter2-2 Cinematic Images of (Dis)Ability	ability と disability の表象についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 6 回	Screening	課題映画の鑑賞
第 7 回	Chapter3-1 Queen Christina (1933)	語彙の確認 1933 年の映画『クリスチナ女王』と「異性愛規範 (heteronormativity)」についての文章を読む（前半）
第 8 回	Chapter3-2 Queen Christina (1933)	1933 年の映画『クリスチナ女王』と「異性愛規範 (heteronormativity)」についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 9 回	Chapter4-1 The Old Maid (1939)	語彙の確認 1939 年の映画『オールド・メイド』と「女性映画 (Woman's Film)」についての文章を読む（前半）
第 10 回	Chapter4-2 The Old Maid (1939)	1939 年の映画『オールド・メイド』と「女性映画 (Woman's Film)」についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 11 回	Chapter5-1 The Gang's all Here (1943)	語彙の確認 1943 年の映画『バスビー・パークリーの集まれ！仲間たち』と「強制的異性愛 (heterosexism)」、「キャンプ (Champ)」についての文章を読む（前半）
第 12 回	Chapter5-2 The Gang's all Here (1943)	1943 年の映画『バスビー・パークリーの集まれ！仲間たち』と「強制的異性愛 (heterosexism)」、「キャンプ (Champ)」についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 13 回	Writing a Report	レポートを英語で書く

第 14 回 期末試験/課題

期末試験（課題作成）
まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

テキストを事前に読み、課された宿題を行う。

授業で学んだ語彙や表現、文法を復習する。

授業で取り扱う映画を可能な限り見る。

課題の作成など。

【テキスト（教科書）】

『アビリティとアメリカン・フィルム (Ability and American Film)』（編註：國友万裕、安田優）、英宝社、1,900 円（税別）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・各回の宿題・課題の提出とその内容（30 %）

・レポート（30 %）

・期末テスト（40 %）

各回の宿題・課題を 4 回以上提出しなかった者は期末試験の受験資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業の進め方や詳細について説明するため、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。

【Outline and objectives】

By reading articles about representations of gender, sexuality, class, race and "(dis)ability" in American films, this course aims to help students not only develop their English reading and writing skills but also comprehend socio-cultural film criticism.

LANe200EA

English Reading & Writing B I

宮本 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ映画に現れるジェンダーやセクシュアリティ、階級、人種、「能力」などの問題に焦点化して書かれた文章を読み、英語による学術的な文章の読解を学ぶ。

社会・文化的な視点から書かれた映画批評について理解を深める。

それらを生かして、自らの意見を英語で記述する訓練を行う。

【到達目標】

学術的な文章を読む能力を獲得する。

社会・文化的な問題に関する基本的な知識と考え方を身に着ける。

学んだ内容を元に、社会・文化的な問題を自ら考え、意見を英語で記述できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書を章ごとに進めるほか、課題作成の時間も設ける。

前週の課題や質問については、翌週の授業内でフィードバックする。

精読を基本とするが、議論の大意を掴むことを重視する。

受講方法については初回授業で説明するため、必ず初回授業日に学習支援システムにログインすること。

初回授業日は 4 月 13 日（火）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業内容の概説
第 2 回	Chapter1-1 What is Ability?	語彙の確認 ability という考え方についての文章を読む（前半）
第 3 回	Chapter1-2 What is Ability?	ability という考え方についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 4 回	Chapter2-1 Cinematic Images of (Dis)Ability	語彙の確認 ability と disability の表象についての文章を読む（前半）
第 5 回	Chapter2-2 Cinematic Images of (Dis)Ability	ability と disability の表象についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 6 回	Screening	課題映画の鑑賞
第 7 回	Chapter3-1 Queen Christina (1933)	語彙の確認 1933 年の映画『クリスチナ女王』と「異性愛規範 (heteronormativity)」についての文章を読む（前半）
第 8 回	Chapter3-2 Queen Christina (1933)	1933 年の映画『クリスチナ女王』と「異性愛規範 (heteronormativity)」についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 9 回	Chapter4-1 The Old Maid (1939)	語彙の確認 1939 年の映画『オールド・メイド』と「女性映画 (Woman's Film)」についての文章を読む（前半）
第 10 回	Chapter4-2 The Old Maid (1939)	1939 年の映画『オールド・メイド』と「女性映画 (Woman's Film)」についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 11 回	Chapter5-1 The Gang's all Here (1943)	語彙の確認 1943 年の映画『バスビー・パークリーの集まれ！仲間たち』と「強制的異性愛 (heterosexism)」、「キャンプ (Champ)」についての文章を読む（前半）
第 12 回	Chapter5-2 The Gang's all Here (1943)	1943 年の映画『バスビー・パークリーの集まれ！仲間たち』と「強制的異性愛 (heterosexism)」、「キャンプ (Champ)」についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 13 回	Writing a Report	レポートを英語で書く

第 14 回 期末試験/課題

期末試験（課題作成）
まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

テキストを事前に読み、課された宿題を行う。

授業で学んだ語彙や表現、文法を復習する。

授業で取り扱う映画を可能な限り見る。

課題の作成など。

【テキスト（教科書）】

『アビリティとアメリカン・フィルム (Ability and American Film)』（編註：國友万裕、安田優）、英宝社、1,900 円（税別）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・各回の宿題・課題の提出とその内容（30 %）

・レポート（30 %）

・期末テスト（40 %）

各回の宿題・課題を 4 回以上提出しなかった者は期末試験の受験資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業の進め方や詳細について説明するため、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。

【Outline and objectives】

By reading articles about representations of gender, sexuality, class, race and "(dis)ability" in American films, this course aims to help students not only develop their English reading and writing skills but also comprehend socio-cultural film criticism.

LANe300EA

English Reading & Writing B II

宮本 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ映画に現れるジェンダーやセクシュアリティ、階級、人種、「能力」などの問題に焦点化して書かれた文章を読み、英語による学術的な文章の読解を学ぶ。

社会・文化的な視点から書かれた映画批評について理解を深める。

それらを生かして、自らの意見を英語で記述する訓練を行う。

【到達目標】

学術的な文章を読む能力を獲得する。

社会・文化的な問題に関する基本的な知識と考え方を身に着ける。

学んだ内容を元に、社会・文化的な問題を自ら考え、意見を英語で記述できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の内容を前提として授業を進める。

教科書を章ごとに進めるほか、課題作成の時間も設ける。

前週の課題や質問については、翌週の授業内でフィードバックする。

精読を基本とするが、議論の大意を掴むことを重視する。

受講方法については初回授業で説明するため、必ず初回授業日に学習支援システムにログインすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、授業の概要について
第 2 回	Chapter 6-1 A patch of Blue (1965)	語彙の確認 1965 年の映画『いつか見た青空』と視覚障害者、「黒人」キャラクターについての文章を読む（前半）
第 3 回	Chapter 6-2 A patch of Blue (1965)	1965 年の映画『いつか見た青空』と視覚障害者、「黒人」キャラクターについての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 4 回	Chapter 7-1 Children of a Lesser God (1986)	語彙の確認 1986 年の映画『愛は静けさのなかに』と視覚障害者キャラクターについての文章を読む（前半）
第 5 回	Chapter 7-2 Children of a Lesser God (1986)	1986 年の映画『愛は静けさのなかに』と視覚障害者キャラクターについての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 6 回	Chapter 8-1 Erin Brockovich (2000)	語彙の確認 2000 年の映画『エリン・プロコビッチ』と現代の「女性映画」についての文章を読む（前半）
第 7 回	Chapter 8-2 Erin Brockovich (2000)	2000 年の映画『エリン・プロコビッチ』と現代の「女性映画」についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 8 回	Screening	課題映画の上映
第 9 回	Chapter 9-1 8 Mile (2002)	語彙の確認 2002 年の映画『8 マイル』と白人労働者階級 (white working-class, "White Trash") についての文章を読む（前半）
第 10 回	Chapter 9-2 8 Mile (2002)	2002 年の映画『8 マイル』と白人労働者階級 (white working-class, "White Trash") についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 11 回	Chapter 10-1 Better Luck Tomorrow (2002)	語彙の確認 2002 年の映画『ベター・ラック・トゥモロー』とアジア系アメリカ人の表象についての文章を読む（前半）
第 12 回	Chapter 10-2 Better Luck Tomorrow (2002)	2002 年の映画『ベター・ラック・トゥモロー』とアジア系アメリカ人の表象についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 13 回	Writing a Report	レポートを英語で書く

第 14 回 期末試験/課題

期末試験（課題作成）
まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

テキストを事前に読み、課された宿題を行う。

授業で学んだ語彙や表現、文法を復習する。

授業で取り扱う映画を可能な限り見る。

課題の作成など。

【テキスト（教科書）】

『アビリティとアメリカン・フィルム (Ability and American Film)』（編註：國友万裕、安田優）、英宝社、1,900 円（税別）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・各回の宿題・課題の提出とその内容（30 %）

・レポート（30 %）

・期末テスト（40 %）

各回の宿題・課題を 4 回以上提出しなかった者は期末試験の受験資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。

【Outline and objectives】

By reading articles about representations of gender, sexuality, class, race and "(dis)ability" in American films, this course aims to help students not only develop their English reading and writing skills but also comprehend socio-cultural film criticism.

LANe300EA

English Reading & Writing B II

宮本 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ映画に現れるジェンダーやセクシュアリティ、階級、人種、「能力」などの問題に焦点化して書かれた文章を読み、英語による学術的な文章の読解を学ぶ。

社会・文化的な視点から書かれた映画批評について理解を深める。

それらを生かして、自らの意見を英語で記述する訓練を行う。

【到達目標】

学術的な文章を読む能力を獲得する。

社会・文化的な問題に関する基本的な知識と考え方を身に着ける。

学んだ内容を元に、社会・文化的な問題を自ら考え、意見を英語で記述できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の内容を前提として授業を進める。

教科書を章ごとに進めるほか、課題作成の時間も設ける。

前週の課題や質問については、翌週の授業内でフィードバックする。

精読を基本とするが、議論の大意を掴むことを重視する。

受講方法をについては初回授業で説明するため、必ず初回授業日に学習支援システムにログインすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、授業の概要について
第 2 回	Chapter 6-1 A patch of Blue (1965)	語彙の確認 1965 年の映画『いつか見た青空』と視覚障害者、「黒人」キャラクターについての文章を読む（前半）
第 3 回	Chapter 6-2 A patch of Blue (1965)	1965 年の映画『いつか見た青空』と視覚障害者、「黒人」キャラクターについての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 4 回	Chapter 7-1 Children of a Lesser God (1986)	語彙の確認 1986 年の映画『愛は静けさのなかに』と視覚障害者キャラクターについての文章を読む（前半）
第 5 回	Chapter 7-2 Children of a Lesser God (1986)	1986 年の映画『愛は静けさのなかに』と視覚障害者キャラクターについての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 6 回	Chapter 8-1 Erin Brockovich (2000)	語彙の確認 2000 年の映画『エリン・プロコピッチ』と現代の「女性映画」についての文章を読む（前半）
第 7 回	Chapter 8-2 Erin Brockovich (2000)	2000 年の映画『エリン・プロコピッチ』と現代の「女性映画」についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 8 回	Screening	課題映画の上映
第 9 回	Chapter 9-1 8 Mile (2002)	語彙の確認 2002 年の映画『8 マイル』と白人労働者階級 (white working-class, "White Trash") についての文章を読む（前半）
第 10 回	Chapter 9-2 8 Mile (2002)	2002 年の映画『8 マイル』と白人労働者階級 (white working-class, "White Trash") についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 11 回	Chapter 10-1 Better Luck Tomorrow (2002)	語彙の確認 2002 年の映画『ベター・ラック・トゥモロー』とアジア系アメリカ人の表象についての文章を読む（前半）
第 12 回	Chapter 10-2 Better Luck Tomorrow (2002)	2002 年の映画『ベター・ラック・トゥモロー』とアジア系アメリカ人の表象についての文章を読む（後半） 文章全体の理解度確認
第 13 回	Writing a Report	レポートを英語で書く

第 14 回 期末試験/課題

期末試験（課題作成）
まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

テキストを事前に読み、課された宿題を行う。

授業で学んだ語彙や表現、文法を復習する。

授業で取り扱う映画を可能な限り見る。

課題の作成など。

【テキスト（教科書）】

『アビリティとアメリカン・フィルム (Ability and American Film)』（編註：國友万裕、安田優）、英宝社、1,900 円（税別）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・各回の宿題・課題の提出とその内容（30 %）

・レポート（30 %）

・期末テスト（40 %）

各回の宿題・課題を 4 回以上提出しなかった者は期末試験の受験資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。

【Outline and objectives】

By reading articles about representations of gender, sexuality, class, race and "(dis)ability" in American films, this course aims to help students not only develop their English reading and writing skills but also comprehend socio-cultural film criticism.

LANe200EA

Intensive TOEIC (R)

鬼島 イヴァン ボテフ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students enlarge their vocabularies, learn test-taking strategies and build overall English proficiency. The course prepares students to study on their own for the TOEIC test. It is not a substitute for self-study.

【到達目標】

Students will develop test-related skills and review typical grammar patterns, business vocabulary and test-taking strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

We work through the text weekly to practice test-taking skills, and use other techniques.

Throughout the academic year, in-class feedback will be given to students individually and to class as a whole.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Rules, tips, Mini-TOEIC
2	Listening test	Root words, tips, listening test
3	Reading test	Test only
4	Chap. 1 Outdoor Sports	Root words, vocabulary, collocations
5	Chap. 2 Outdoor Sports	Root words, vocabulary, prepositions, connectors
6	Chap. 3 Job Hunting	Root words, vocabulary, special assignments
7	Chap. 4 Job Hunting	Root words, vocabulary, relatives
8	Chap. 5 At the Office	Root words, vocabulary, verbs
9	Chap. 6 At the Office	Root words, vocabulary, particles
10	Chap. 7 Working Conditions	Root words, vocabulary, utilities
11	Chap. 8 Working Conditions	Root words, vocabulary, transpo schedule
12	Chap. 9 Being Transferred	Root words, vocabulary, graphs and surveys, 2-part readings
13	Chap. 10 Being Transferred	Root words vocabulary, confusing pairs
14	TOEIC New Test	Vocabulary, test tips and suggested study materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must have a high weekly test average to pass the class. Students wishing a B must complete textbook chapters for homework weekly. Students wishing an A must complete textbook chapters and make vocabulary study cards weekly. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。All students must do 4hr. review and preparation weekly.

【テキスト（教科書）】

Textbook:

Primary Trainer for the TOEIC L&R Test. Junnosuke Hamasaki. National Geographic Learning. 2019

【参考書】

none

【成績評価の方法と基準】

I may make changes to meet learner needs. Online: homework 60%; weekly participation 40%.

【学生の意見等からの気づき】

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

The syllabus is subject to change based on students's needs.

【学生が準備すべき機器他】

A dictionary.

【その他の重要事項】

This class is designed for highly motivated, high intermediate and advanced students. It is not easy. If you are a low student or have no interest in TOEIC, do not choose this class.

【Outline and objectives】

We will begin each class with word roots, continue with vocabulary and text, and end with special focus exercises. The main objective is to improve reading skills.

LANe200EA

Intensive TOEIC (R)

鬼島 イヴァン ボテフ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To train students to independently raise their TOEIC scores through efficient vocabulary study and use of good techniques. Stress will be on the Reading section.

【到達目標】

Students do initial vocabulary exercises followed by technique practice and general TOEIC test exercises. Each chapter of the text works with one test part.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

We work through the text weekly to practice test-taking skills. Throughout the academic year, in-class feedback will be given to students individually and to class as a whole.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to TOEIC	Rules, tips, Mini-TOEIC
2	Intro to TOEIC	TOEIC 1-4 practice test
	Listening Test	
3	Intro to TOEIC	TOEIC 5-7 practice test
	Reading Test	
4	Part 5 sentence completion	Identify part of speech
5	Part 6 text completion	Use context for meaning
6	Part 7 longer readings	Use 2-step answer method.
7	Part 5	Review gerunds, infinitives
8	Part 6	Contrast nouns, adjectives
9	Part 7	Answer inference questions
10	Part 5	Review prefixes, suffixes
11	Part 6	Practice with verb forms
12	Part 7	Respond to negative questions
13	Parts 5,6,7	Do pronoun practice
14	Newest TOEIC Test	Work with recent changes

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must have a high weekly test average to pass the class. Students wishing a B must complete textbook chapters for homework weekly. Students wishing an A must complete textbook chapters and make vocabulary study cards weekly. 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。All students must do 4hr. review and preparation weekly.

【テキスト（教科書）】

Textbook:

Fast Pass for the TOEIC L&R Test. R. Uenaka, S. Korechika. National Geographic Learning 2019.

【参考書】

none

【成績評価の方法と基準】

I may make changes to meet learner needs. Online: homework 70%; weekly participation 30%.

【学生の意見等からの気づき】

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

The syllabus is subject to change based on students's needs.

【学生が準備すべき機器他】

A dictionary.

【その他の重要事項】

This class is designed for highly motivated, high intermediate and advanced students. It is not easy. If you are a low student or have no interest in TOEIC, do not choose this class.

【Outline and objectives】

Goal 1: To learn textbook vocabulary and test-taking techniques necessary to achieve a higher TOEIC score. 2: To use additional study aids.

LANe200EA

Intensive TOEIC (R)

鬼島 イヴァン ボテフ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To train students to independently raise their TOEIC scores through efficient vocabulary study and use of good techniques. Stress will be on the Reading section.

【到達目標】

Students do initial vocabulary exercises followed by technique practice and general TOEIC test exercises. Each chapter of the text works with one test part.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

We work through the text weekly to practice test-taking skills. Throughout the academic year, in-class feedback will be given to students individually and to class as a whole.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to TOEIC	Rules, tips, Mini-TOEIC
2	Intro to TOEIC	TOEIC 1-4 practice test
	Listening Test	
3	Intro to TOEIC	TOEIC 5-7 practice test
	Reading Test	
4	Part 5 sentence completion	Identify part of speech
5	Part 6 text completion	Use context for meaning
6	Part 7 longer readings	Use 2-step answer method.
7	Part 5	Review gerunds, infinitives
8	Part 6	Contrast nouns, adjectives
9	Part 7	Answer inference questions
10	Part 5	Review prefixes, suffixes
11	Part 6	Practice with verb forms
12	Part 7	Respond to negative questions
13	Parts 5,6,7	Do pronoun practice
14	Newest TOEIC Test	Work with recent changes

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must have a high weekly test average to pass the class. Students wishing a B must complete textbook chapters for homework weekly. Students wishing an A must complete textbook chapters and make vocabulary study cards weekly. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。All students must do 4hr. review and preparation weekly.

【テキスト（教科書）】

Textbook:

Fast Pass for the TOEIC L&R Test. R. Uenaka, S. Korechika. National Geographic Learning 2019.

【参考書】

none

【成績評価の方法と基準】

I may make changes to meet learner needs. Online: homework 70%; weekly participation 30%.

【学生の意見等からの気づき】

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

The syllabus is subject to change based on students's needs.

【学生が準備すべき機器他】

A dictionary.

【その他の重要事項】

This class is designed for highly motivated, high intermediate and advanced students. It is not easy. If you are a low student or have no interest in TOEIC, do not choose this class.

【Outline and objectives】

Goal 1: To learn textbook vocabulary and test-taking techniques necessary to achieve a higher TOEIC score. 2: To use additional study aids.

LANe200EA

Intensive TOEIC (R)

鬼島 イヴァン ボテフ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students enlarge their vocabularies, learn test-taking strategies and build overall English proficiency. The course prepares students to study on their own for the TOEIC test. It is not a substitute for self-study.

【到達目標】

Students will develop test-related skills and review typical grammar patterns, business vocabulary and test-taking strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

We work through the text weekly to practice test-taking skills, and use other techniques.

Throughout the academic year, in-class feedback will be given to students individually and to class as a whole.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Rules, tips, Mini-TOEIC
2	Listening test	Root words, tips, listening test
3	Reading test	Test only
4	Chap. 1 Outdoor Sports	Root words, vocabulary, collocations
5	Chap. 2 Outdoor Sports	Root words, vocabulary, prepositions, connectors
6	Chap. 3 Job Hunting	Root words, vocabulary, special assignments
7	Chap. 4 Job Hunting	Root words, vocabulary, relatives
8	Chap. 5 At the Office	Root words, vocabulary, verbs
9	Chap. 6 At the Office	Root words, vocabulary, particles
10	Chap. 7 Working Conditions	Root words, vocabulary, utilities
11	Chap. 8 Working Conditions	Root words, vocabulary, transpo schedule
12	Chap. 9 Being Transferred	Root words, vocabulary, graphs and surveys, 2-part readings
13	Chap. 10 Being Transferred	Root words vocabulary, confusing pairs
14	TOEIC New Test	Vocabulary, test tips and suggested study materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must have a high weekly test average to pass the class. Students wishing a B must complete textbook chapters for homework weekly. Students wishing an A must complete textbook chapters and make vocabulary study cards weekly. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。All students must do 4hr. review and preparation weekly.

【テキスト（教科書）】

Textbook:

Primary Trainer for the TOEIC L&R Test. Junnosuke Hamasaki. National Geographic Learning. 2019

【参考書】

none

【成績評価の方法と基準】

I may make changes to meet learner needs. Online: homework 60%; weekly participation 40%.

【学生の意見等からの気づき】

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

The syllabus is subject to change based on students's needs.

【学生が準備すべき機器他】

A dictionary.

【その他の重要事項】

This class is designed for highly motivated, high intermediate and advanced students. It is not easy. If you are a low student or have no interest in TOEIC, do not choose this class.

【Outline and objectives】

We will begin each class with word roots, continue with vocabulary and text, and end with special focus exercises. The main objective is to improve reading skills.

LANe200EA

Intensive TOEFL (R)

James Watt

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this class is to develop students' academic skills in English, while building test-taking confidence.

【到達目標】

The goal of the course is for students to improve their TOEFL scores.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The course will cover listening, vocabulary development, reading, writing, and item-analysis.

It was decided that this semester the course will be online.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	unit 1 Advertising	Pre-listening Vocabulary, Campus Conversation listening comprehension, Academic Listening-comprehension
week 2	unit 1 Advertising	Reading Comprehension activity, test item analysis
week 3	unit 1 Advertising	listening comprehension, thesis statements, writing task
week 4	complete unit 1 Advertising and begin unit 2 Extreme Sports	skill focus - tips, reading comprehension - skimming and scanning; Pre-listening Vocabulary, Campus Conversation listening comprehension
week 5	unit 2 Extreme Sports	Academic Listening comprehension, Reading Comprehension activity
week 6	unit 2 Extreme Sports	reading, listening comprehension, writing
week 7	complete unit 2 Extreme Sports and begin unit 3 Fraud	skill focus - tips, listening comprehension practice, reading comprehension; Pre-listening Vocabulary
week 8	unit 3 Fraud	Campus Conversation listening comprehension, Academic Listening comprehension
week 9	unit 3 Fraud	vocabulary, Reading comprehension
week 10	unit 3 Fraud	reading comprehension, writing
week 11	unit 3 Fraud	skill focus - tips on context clues and inference, reading comprehension
week 12	unit 4 Storytelling	Pre-listening Vocabulary, Campus Conversation listening comprehension, Academic Listening-comprehension
week 13	unit 4 Storytelling	question analysis, reading comprehension, listening comprehension
week 14	unit 4 Storytelling	reading comprehension, writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Because we are online, students must do activities, complete assignments, and write essays outside of the actual class.

Learning outside of class hours such as preparation, assignments, and review should require at least 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

The class textbook is Building Skills for the TOEFL iBT (intermediate) by John Beaumont published by Pearson Longman.

Students cannot do this class without a textbook.

【参考書】

There is no reference book. However, students may find the textbook's companion website of interest.

<http://www.longman.com/northstar>

【成績評価の方法と基準】

The situation has changed because of pandemic. Grades will be based on the submission online of assignments.

【学生の意見等からの気づき】

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

The syllabus is subject to change based on students's needs and the needs of the situation.

【学生が準備すべき機器他】

a computer with access to the Internet

【その他の重要事項】

All work should be submitted by the stated deadline.

Feedback will be given via email on assignments submitted.

This semester has been affected by the Coronavirus Pandemic, and the syllabus has changed. There may be additional changes as the situation changes.

【Outline and objectives】

The course will follow closely activities in the textbook which include vocabulary exercises, listening comprehension, reading comprehension, test taking recommendations, and essay writing.

LANe200EA

Intensive TOEFL (R)

James Watt

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this class is to develop students' academic skills in English, while building test-taking confidence.

【到達目標】

The goal of the course is for students to improve their TOEFL scores

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The course will cover listening, vocabulary development, reading, writing, and item-analysis.

It was decided that this semester the course will be online.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	unit 1 Advertising	Pre-listening Vocabulary, Campus Conversation listening comprehension, Academic Listening-comprehension
week 2	unit 1 Advertising	Reading Comprehension activity, test item analysis
week 3	unit 1 Advertising	listening comprehension, thesis statements, writing task
week 4	complete unit 1 Advertising and begin unit 2 Extreme Sports	skill focus - tips, reading comprehension - skimming and scanning; Pre-listening Vocabulary, Campus Conversation listening comprehension
week 5	unit 2 Extreme Sports	Academic Listening comprehension, Reading Comprehension activity
week 6	unit 2 Extreme Sports	reading, listening comprehension, writing
week 7	complete unit 2 Extreme Sports and begin unit 3 Fraud	skill focus - tips, listening comprehension practice, reading comprehension; Pre-listening Vocabulary
week 8	unit 3 Fraud	Campus Conversation listening comprehension, Academic Listening comprehension
week 9	unit 3 Fraud	vocabulary, Reading comprehension
week 10	unit 3 Fraud	reading comprehension, writing
week 11	unit 3 Fraud	skill focus - tips on context clues and inference, reading comprehension
week 12	unit 4 Storytelling	Pre-listening Vocabulary, Campus Conversation listening comprehension, Academic Listening-comprehension
week 13	unit 4 Storytelling	question analysis, reading comprehension, listening comprehension
week 14	unit 4 Storytelling	reading comprehension, writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Because we are online, students must do activities, complete assignments, and write essays outside of the actual class.

Learning outside of class hours such as preparation, assignments, and review should require at least 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

The class textbook is Building Skills for the TOEFL iBT (intermediate) by John Beaumont published by Pearson Longman.

Students cannot do this class without a textbook.

【参考書】

There is no reference book. However, students may find the textbook's companion website of interest.

<http://www.longman.com/northstar>

【成績評価の方法と基準】

The situation has changed because of pandemic. Grades will be based on the submission online of assignments.

【学生の意見等からの気づき】

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

The syllabus is subject to change based on students's needs and the needs of the situation.

【学生が準備すべき機器他】

a computer with access to the Internet

【その他の重要事項】

All work should be submitted by the stated deadline.

Feedback will be given via email on assignments submitted.

This semester has been affected by the Coronavirus Pandemic, and the syllabus has changed. There may be additional changes as the situation changes.

【Outline and objectives】

The course will follow closely activities in the textbook which include vocabulary exercises, listening comprehension, reading comprehension, test taking recommendations, and essay writing.

COT300ED

ウェブ・プログラミング A

石井 由起

サブタイトル：表現プログラミング実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ホームページの制作方法、ならびにインターネットから情報の収集と表現方法を学びます。

【到達目標】

- 1) ホームページを制作できること。HTML と CSS を利用したデジタルの世界の表現の特性を理解し、制作課題に活用すること。
- 2) インターネットから必要な情報を抽出し、自作のホームページで伝えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ホームページがどのような仕組みで動作するのかを理解するとともに、制作に必要な HTML5 と CSS3 でホームページを作成する演習。

Web 上のデータを用いて、自作のホームページ上で表現する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	HTML の基本	ホームページの仕組み
第 2 回	見出し・段落・強調表示	見出し・段落・キーワードの強調表示の方法
第 3 回	CSS の基本	デザイン技法の習得
第 4 回	画像表示	画像の加工と表示の方法
第 5 回	ハイパーリンク	別ページへジャンプする方法
第 6 回	絶対パスと相対パス	HTML 文書のフォルダ・ファイル構成
第 7 回	表の作成	簡単な一覧表の表示方法
第 8 回	レイアウトの基本	美しく使いやすいレイアウト
第 9 回	レイアウトの応用	デバイスや内容に応じたレイアウトの応用
第 10 回	JavaScript の基本	ページに色々な動きを与える
第 11 回	Web 上のデータの活用と表現 1	データの抽出
第 12 回	Web 上のデータを活用と表現 2	Web 上のデータの可視化と表現
第 13 回	SEO 対策・自由制作	上位検索を実現する知識
第 14 回	自由制作	ホームページの自由制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別な準備は必要ありませんが、授業期間は長丁場ですから、理解の深まらない回も出てくるものです。資料をよく読みなおしたり、質問したりする姿勢が重要になります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進めます。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点、提出物（授業中に提示する課題）を総合的に判断して、成績を評価します。内訳は、平常点 60 %、課題（提出物）40 %です。平常点は、1 4 回を通した実習への取り組みを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの的を射たご意見は、常々、創意工夫と進取創造を以って、講義に反映したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必要です。

【その他の重要事項】

原則、毎回出席して下さい。止むを得ず欠席した場合は、以後の講義に追いつけるように資料を入手し、講義内容を自習して課題を完成させるようにして下さい。

【Outline and objectives】

To design and create webpages with HTML and CSS.

To extract and process data from across the Internet.

COT300ED

ウェブ・プログラミング A

堀 亜砂実

サブタイトル：表現プログラミング実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Web は情報発信の手段として広く利用されていますが、それらを「作る」としたらどのような視点や知識、技術が必要になるのかを、実習を通じて理解していきます。

【到達目標】

- 1)HTML および css のルールを理解し正しく使用できること、2)Web ページ公開の仕組みを理解し正しく行えること、3) 閲覧者を意識した情報発信ができること、1) から 3) により、4)Web ページの表面的な見栄えにとらわれず情報の内容を吟味できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回テーマに沿った授業内課題を出題するほか、2 回程度の大課題を出題し、積み重ねて復習で技術と知識を習得していきます。実習形式なので自ら考え試行錯誤することが不可欠です。フィードバックは対面または学習支援システム上で、解答例の提示や個別コメントにより行います。なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	実習環境の確認	実習に使用するソフト等を確認する
第 2 回	HTML 基本	HTML の基本を確認する
第 3 回	HTML 活用	より実践的な HTML の演習を行う
第 4 回	HTML5	HTML5 に即したコーディングを行う
第 5 回	Web ページの公開	公開の方法や仕組み、注意点を学ぶ
第 6 回	css 基本	css の考え方や仕組みを確認する
第 7 回	css 活用	より実践的な css の演習を行う
第 8 回	Web サイト作成準備	サイト構成やファイル名を整理する
第 9 回	画像ファイル	画像ファイルの特性等を確認する
第 10 回	Web サイト作成着手	自ら企画した内容を HTML 化する
第 11 回	各種サービスの活用	SNS や地図・動画を埋め込む
第 12 回	css での装飾、レイアウト	css で HTML の見栄えを整える
第 13 回	補足とまとめ	これまでの実習を振り返り修正を行う
第 14 回	相互評価	完成した Web サイトを受講者間で相互評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・復習を必要に応じて行うこと。
- ・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的に取り組むこと。
- ・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで欠席分の授業資料に目を通し、課題に取り組んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

参考書なし。参考サイト等は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の授業内課題の合計点・・・60%
 - ・2 回程度出題する大課題の合計点・・・40%
- 授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はオンラインでの授業でしたが、高いレベルで課題内容をクリアできた人が多く、「作業に集中でき取り組みやすかった」との感想もありました。対面授業では、履修者どうしが切磋琢磨し触れあえる環境と、各人が作業に集中できる環境とを両立できればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

実習なので予習・復習や大課題の作成時にもコンピュータを使用します。

【その他の重要事項】

・質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to understand how to make Web pages, especially the basics of HTML and CSS.

COT300ED

ウェブ・プログラミング A

堀 亜砂実

サブタイトル：表現プログラミング実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Web は情報発信の手段として広く利用されていますが、それらを「作る」としたらどのような視点や知識、技術が必要になるのかを、実習を通じて理解していきます。

【到達目標】

1)HTML および css のルールを理解し正しく使用できること、2)Web ページ公開の仕組みを理解し正しく行えること、3) 閲覧者を意識した情報発信ができること、1) から 3) により、4)Web ページの表面的な見栄えにとらわれず情報の内容を吟味できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回テーマに沿った授業内課題を出題するほか、2 回程度の大課題を出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得していきます。実習形式なので自ら考え試行錯誤することが不可欠です。フィードバックは対面または学習支援システム上で、解答例の提示や個別コメントにより行います。なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	実習環境の確認	実習に使用するソフト等を確認する
第 2 回	HTML 基本	HTML の基本を確認する
第 3 回	HTML 活用	より実践的な HTML の演習を行う
第 4 回	HTML5	HTML5 に即したコーディングを行う
第 5 回	Web ページの公開	公開の方法や仕組み、注意点を学ぶ
第 6 回	css 基本	css の考え方や仕組みを確認する
第 7 回	css 活用	より実践的な css の演習を行う
第 8 回	Web サイト作成準備	サイト構成やファイル名を整理する
第 9 回	画像ファイル	画像ファイルの特性等を確認する
第 10 回	Web サイト作成着手	自ら企画した内容を HTML 化する
第 11 回	各種サービスの活用	SNS や地図・動画を埋め込む
第 12 回	css での装飾、レイアウト	css で HTML の見栄えを整える
第 13 回	補足とまとめ	これまでの実習を振り返り修正を行う
第 14 回	相互評価	完成した Web サイトを受講者間で相互評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・復習を必要に応じて行うこと。
- ・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的に取り組むこと。
- ・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで欠席分の授業資料に目を通し、課題に取り組んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

参考書なし。参考サイト等は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の授業内課題の合計点・・・60%
- ・2 回程度出題する大課題の合計点・・・40%

授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度はオンラインでの授業でしたが、高いレベルで課題内容をクリアできた人が多く、「作業に集中でき取り組みやすかった」との感想もありました。対面授業では、履修者どうしが切磋琢磨し触れあえる環境と、各人が作業に集中できる環境とを両立できればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

実習なので予習・復習や大課題の作成時にもコンピュータを使用します。

【その他の重要事項】

・質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to understand how to make Web pages, especially the basics of HTML and CSS.

COT300ED

ウェブ・プログラミング B

加藤 徹郎

サブタイトル：プログラミング中級 B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング初級で学んだ知識を応用し、web 上で動きのあるコンテンツを作成できるようになることを目指します。

【到達目標】

プログラミングに関する、応用力を兼ねそろえた全般的な知識と技術を一定程度習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この実習では、序盤では初級で学んだ Java プログラミング一連の流れを復習・発展させて応用力を身につけていきます。中盤以降はプログラミングの知識を応用しつつ、Web 上で動きのあるコンテンツ作りの習得を目指します。※ 課題のフィードバックについては、実習中質問があればその都度対応する。※ 授業計画は進行具合によって、変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業進行についての説明。
2	Review (Java)	初級の復習
3	Import (〇)	インポート文と画像の挿入
4	Layout (〇)	GUI 画面のレイアウトについて
5	Implement (〇)	実装の概念理解と使い方
6	Introduction (Android)	Android Studio の基礎。作業画面の説明と使い方。
7	Activity (〇)	画面の部品配置
8	findViewById (〇)	主要メソッドの確認と理解
9	Toast (〇)	トースト機能の設定
10	Adopter (〇)	アダプタークラスとリスト配列の組み合わせ
11	Intent Class (〇)	画面遷移の仕組み
12	Action Bar (〇)	ウィジェットの追加の仕方。「戻る」ボタンの作成。
13	Context Menu (〇)	コンテキストメニューを使用したトーストの設定
14	まとめ	全体のまとめとふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させるつもりでいてください。それが復習の役割を担うはずで、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10 %）、毎回の課題提出（90 %）

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの有益な意見は、なるべく授業に反映できるよう努力します。ともに授業を創り上げていけるような空間にしたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

USB など。ファイル・データの管理に関しては、各自責任をもつこと。

【その他の重要事項】

※ カリキュラム編成の流れを受けて、Android 以外のプログラミングを行う可能性もあります。

【Outline and objectives】

This course deal with the basic of programming with Java / Eclipse and Android studio.It also enhance the development of students' skill in making a program by oneself.

LINE200EA

英語講読 A I

深松 亮太

サブタイトル：英語文献講読 A I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ合衆国の歴史に関する文献を講読する。毎回の授業で概ね 30 ページの分量の英文を読み、読んできた内容を 1200 字以内で要約すると共に、受講者各位の読後の見解をレポートとしてまとめる。（締切厳守）

【到達目標】

大量の英文を読みこなし、大まかな内容を理解する能力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業支援システムでの課題配布を中心として授業を進めていく方針であるが、受講者が少数かつ全員の学習環境が整うようであれば、zoom を利用する。課題のフィードバックについては、個別対応を基本とし、授業支援システムの掲示板あるいはメールで対応をする。毎回課される読書量・課題作成にかかる時間など、受講生にとって相当な負担となることを理解した上で受講してほしい。※課題配布が仮登録締切以後になるが、仮登録を行った学生は課題の難易度を確認し、履修登録変更期間中に適切に対処すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習の仕方、課題（レポート）について学習支援システムを通じて指示する。
2	アメリカ革命	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
3	南部の歴史	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
4	北部の歴史	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
5	西部の歴史	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
6	南北戦争前夜の政治と国家	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
7	南北戦争の時代	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
8	再建期の歴史	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
9	農業都市と産業都市の形成	レポートの提出（締切厳守）次回の課題の提示
10	金びか時代のアメリカ	レポートの提出（締切厳守）
11	革新主義の時代	テキストに関する個別報告とディスカッション
12	帝国主義への道	テキストに関する個別報告とディスカッション
13	世界大恐慌とニューディール	テキストに関する個別報告とディスカッション
14	1960 年代と公民権運動	テキストに関する個別報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ず予習を行い、わからない単語を調べ、テキストの大意をつかんでくること（逐語訳をしてくる必要はない）。読み終えた後、【要約】（1200 字以内）を締切厳守で提出すること。休む回の課題も必ず期限までに提出すること。本授業の準備学習時間は 4 時間以上である。

【テキスト（教科書）】

課題文献の該当ページのコピーを学習支援システムを通じて配布する※課題配布が仮登録締切以後になるが、仮登録を行った学生は課題の難易度を確認し、履修登録変更期間中に適切に対処すること。

【参考書】

授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

毎回のレポートの提出（100%）※課題配布が仮登録締切以後になるが、仮登録を行った学生は課題の難易度を確認し、履修登録変更期間中に適切に対処すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が少数であったため、該当しない。

【その他の重要事項】

授業の準備や課題に相当な準備時間を要することを理解した上で、受講すること。提出期日を過ぎた課題は一切受け取らない。※課題配布が仮登録締切以後になるが、仮登録を行った学生は課題の難易度を確認し、履修登録変更期間中に適切に対処すること。

【Outline and objectives】

This course deals with articles of American History, to enhance English reading skills. The course is for those students with advanced English level.

LINE200EA

英語講読 A II

深松 亮太

サブタイトル：英語文献講読 A II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、英語をとおしてアメリカの文化を学ぶことを目的とする。受講者は、毎回 20 ページ程度の英文を通読し、報告担当者に内容のレクチャーをすることを課題として課す。報告担当者以外の学生は、内容を 1200 字以内で要約し、ディスカッションに積極的に加わってもらう。

【到達目標】

大量の英文を読みこなし、大まかな内容を理解する能力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業支援システムでの課題配布を中心として授業を進めていく方針であるが、受講者が少数かつ全員の学習環境が整うようであれば、zoom を利用する。課題のフィードバックについては、個別対応を基本とし、授業支援システムの掲示板あるいはメールで対応をする。毎回課される読書量・課題作成にかかる時間など、受講生にとって相当な負担となることを理解した上で受講してほしい。※課題配布が仮登録締切以後になるが、仮登録を行った学生は課題の難易度を確認し、履修登録変更期間中に適切に対処すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習の仕方、課題（報告・レポート）について
2	消費社会と格差	テキストに関する個別報告とディスカッション
3	グローバリゼーションとフェア・トレード	テキストに関する個別報告とディスカッション
4	19 世紀の移住とその生活	テキストの和訳と内容把握
5	「文化」の国際移動	テキストに関する個別報告とディスカッション
6	1970 年代と「グローバリゼーション」	テキストに関する個別報告とディスカッション
7	「敵性イメージ」はいかにして造られるのか	テキストに関する個別報告とディスカッション
8	「人種」と「言語」	テキストに関する個別報告とディスカッション
9	「人種」と「文化」：ミンストレル劇	テキストに関する個別報告とディスカッション
10	エルヴィス・プレスリーと人種／階級	テキストに関する個別報告とディスカッション
11	白人貧困層と「保守政治」	テキストに関する個別報告とディスカッション
12	「スラム」と白人文化	テキストに関する個別報告とディスカッション
13	プロパガンダとフェイクニュース	テキストに関する個別報告とディスカッション
14	他人の不幸は蜜の味？	テキストに関する個別報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ず予習を行い、わからない単語を調べ、テキストの大意をつかんでくること（逐語訳をしてくる必要はない）。各論文を読み終えた後、読書ノートを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

課題文献の該当箇所のコピーを指示する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

毎回提出する読書ノート（1200 字以内）（100%）読書ノートは欠席する回も含めて必ず期日までに提出すること。締め切りを過ぎた提出物は一切受け取らない。

【学生の意見等からの気づき】

受講人数が少数であったため、該当しない。

【その他の重要事項】

授業の準備や課題に相当な準備時間を要することを理解した上で受講すること。提出期限を過ぎた課題は一切受け取らない。

【Outline and objectives】

This course deals with articles of American Culture, to enhance English reading skills as well as knowledge on global issues. The course is for those students with advanced English level.

LINE200EA

英語講読 B I

宮本 裕子

サブタイトル：英語文献講読 B I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ディズニー映画における人種・ジェンダー表象を論じた新聞記事や学術論文を読み、英語の読解力を向上させるとともに、映画・メディア研究の基礎的知識・メディア表象の考察の枠組みへの理解を深める。

【到達目標】

学術論文を英語で読むことができるようになる。
メディアにおけるジェンダーや人種表象についての理解を深めメディア・リテラシーを身につける。
文献購読を通して得た表象分析の枠組みを使用して、自分なりの考察を英語で表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ディズニーのアニメーションにおける人種、ジェンダー表象を扱った文章を購読する。

精読を基本とするが、逐語訳ではなく議論の大意をつかむことを重視する。受講方法の詳細については初回授業日までに学習支援システムを通じて指示する。ログインし、受講方法を確認すること。

初回授業日は 4 月 13 日（火）。

前週の課題や質問については、翌週の授業内、あるいは学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 1 Disney Stereotypes 1	授業の進め方の説明 ディズニー映画におけるジェンダーと人種のステレオタイプ表象に関する英語記事を読む (Introduction1)
2	イントロダクション 2 Disney Stereotypes 1	授業の進め方の説明 ディズニー映画におけるジェンダーと人種のステレオタイプ表象に関する英語記事を読む (Introduction2)
3	Disney Stereotypes 2	ディズニー映画におけるジェンダーと人種のステレオタイプ表象に関する英語記事を読む (Section2-3)
4	Disney Stereotypes 3	ディズニー映画におけるジェンダーと人種のステレオタイプ表象に関する英語記事を読む (Summary) 文章全体の理解度確認
5	Repressed Brits, evil Mexicans, Arab villains 1	ハリウッドアニメーション映画における人種のステレオタイプ表象に関する英文記事を読む (Introduction)
6	Repressed Brits, evil Mexicans, Arab villains 2	ハリウッドアニメーション映画における人種のステレオタイプ表象に関する英文記事を読む (Section2-3)
7	Repressed Brits, evil Mexicans, Arab villains 3	ハリウッドアニメーション映画における人種のステレオタイプ表象に関する英文記事を読む (Section4-5) 文章全体の理解度確認
8	Screening	参考映画の鑑賞
9	Academic article on Mulan 1	ムーランのジェンダー表象を考察した学術論文を読む (Introduction)
10	Academic article on Mulan 2	ムーランのジェンダー表象を考察した学術論文を読む (Section3)
11	Academic article on Mulan 3	ムーランのジェンダー表象を考察した学術論文を読む (Section4)
12	Academic article on Mulan 4	ムーランのジェンダー表象を考察した学術論文を読む (section5)
13	Writing a report	文献購読を通して得た表象分析の枠組みを使用して自分の考察を英語で書く
14	期末試験/課題	期末試験（課題の作成）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業課題の提出とその内容）30 %
レポート 20%
期末課題（期末テスト）50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

履修希望者は、第 1 回目、第 2 回目の授業のどちらかに必ず出席すること。

【Outline and objectives】

By using both journalistic and academic writings on the films made by Disney Studio, the course aims to help students develop an advanced level of English reading comprehension skills as well as the basic skills of critically analyzing the media representation of ethnicity, gender, and sexuality.

LINE200EA

英語講読 B II

宮本 裕子

サブタイトル：英語文献講読 B II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ映画におけるジェンダー表象を歴史的に考察した文献を読みながら、英語の読解力を向上させるとともに、映画・メディア研究の基礎的知識・メディア表象の考察の枠組みへの理解を深める。

【到達目標】

学術的論文の英語に慣れ、難易度の高い英語文献を読むことができるようになる。

メディアにおけるジェンダー表象についての理解を深めメディア・リテラシーを身につける。

文献購読を通して得た表象分析の枠組みを使用して、自分なりの考察を英語で表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Gender and American Film という映画研究書を英語教材にしたテキストを用いる。

精読を基本とするが、逐語訳ではなく、議論の大意をつかむことを重視する。受講方法の詳細については初回授業日までに学習支援システムを通じて指示する。ログインし、受講方法を確認すること。

初回授業日は9月21日(火)。

前週の課題や質問については、翌週の授業内、あるいは学習支援システムを介してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション1 Introduction: What is gender?	授業の進め方の説明 ジェンダーについて書かれた文章を読む（前半）
2	イントロダクション2 Introduction: What is gender?	授業の進め方の説明 ジェンダーについて書かれた文章を読む（後半）
3	Chapter 1 - Femininity: Women in American Film	アメリカ映画における女性表象についてのテキストを読む (Images of Women in Early Cinema)
4	Chapter 1-1 Femininity: Women in American Film	アメリカ映画における女性表象についてのテキストを読む (Images of Women in 1930s Classical Hollywood 1)
5	Chapter 1-2 Femininity: Women in American Film	アメリカ映画における女性表象についてのテキストを読む (Images of Women in 1930s Classical Hollywood 2)
6	Chapter 1-3 Femininity: Women in American Film	アメリカ映画における女性表象についてのテキストを読む (World War II and After 1)
7	Chapter 1-4 Femininity: Women in American Film	アメリカ映画における女性表象についてのテキストを読む (World War II and After 2)
8	Screening	課題映画の鑑賞
9	Chapter 2-1 Masculinity: Men in American Film	アメリカ映画における男性表象についてのテキストを読む (Masculinity & Hollywood・Masculinity & Early Cinema)
10	Chapter 2-2 Masculinity: Men in American Film	アメリカ映画における男性表象についてのテキストを読む (Masculinity and the Male Movie Star)
11	Chapter 2-3 Masculinity: Men in American Film	アメリカ映画における男性表象についてのテキストを読む (World War II and Film Noir)
12	Chapter 3 - Gender in American Film since the 1960s	1960年代以降のアメリカ映画におけるジェンダー表象についてのテキストを読む
13	Writing a Report	レポートを書く
14	期末試験/課題	期末試験（課題作成）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ず予習を行い、単語を調べて内容の大意を理解しておくこと。文献で扱われている映画をできるだけみておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業課題の提出とその内容）30%

レポート20%

期末テスト50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

履修希望者は、第1回目、第2回目の授業のどちらかに必ず出席すること。

【Outline and objectives】

By using academic writings on historical representation of gender in Hollywood cinema, the course aims to help students develop an advanced level of English reading comprehension skill as well as the knowledge on the way in which Hollywood cinema has been contributing to constructing certain images of men and women.

LINE300EA

英語講読C I

金原 瑞人

サブタイトル：特講（英語講読C I）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音楽の基礎知識や黒人音楽の歴史についての理解を深めつつ、ゴスペルの歴史に関する英語の文献を読んでいく。

【到達目標】

音楽一般、黒人音楽、ゴスペルなどに関する英語のテキストを正確に読めるようになる。また、現代アメリカにおける黒人問題についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

音楽、黒人音楽、ゴスペルに関する英語のテキストのいくつかの単語や文章を訳して提出してもらい、それをもとに授業を進める。授業は zoom で行う。提出された答案に関するフィードバックは、授業中、口頭で行うので、各自書きとめるように。また、授業中に解説、説明したことを参考に、課題で提出したもらった単語や文章を訂正して、最後にまとめて提出してもらう。さらに、毎週、テーマごとの課題を出す。こちらのフィードバックは、講評の形で簡単にまとめて発表する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	音楽の基本 1	Voices
2	音楽の基本 2	Rhythm
3	音楽の基本 3	Code
4	音楽の基本 4	Melody
5	Africa	Music of Slaves
6	Secret Meetings	Camp Meetings in the Colonies
7	From Slave Songs	Spirituals in The Churches
8	Fisk Jubilee Singers	After the Civil War
9	After Fisk Jubilee Singers	Jubilee Quartets
10	Pentecostal Revival	Thomas Andrew Dorsey
11	Gospel as Popular Music	Quartets and Other Harmony Groups
12	James Cleveland	1930-1991
13	The Here and After	Now
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で読むテキストを予習すること。指定された部分を日本語に訳してくること。さらに毎回の課題をこなすこと。
「本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。」

【テキスト（教科書）】

こちらで用意します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

単語や文章の翻訳（40%）、提出してもらった課題（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

To read English text about basic knowledge about music, a history of Black music and a history of Gospel.

LINE300EA

英語講読C II

金原 瑞人

サブタイトル：特講（英語講読C II）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音楽の基礎知識や黒人音楽の歴史についての理解を深めつつ、ソウルの歴史に関する英語の文献を読んでいく。

【到達目標】

音楽一般、黒人音楽、ソウルなどに関する英語のテキストを正確に読めるようになる。また、現代アメリカにおける黒人問題についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

音楽、黒人音楽、ソウルに関する英語のテキストのいくつかの単語や文章を訳して提出してもらい、それをもとに授業を進める。授業は zoom で行う。提出された答案に関するフィードバックは、授業中、口頭で行うので、各自書きとめるように。また、授業中に解説、説明したことを参考に、課題で提出したもらった単語や文章を訂正して、最後にまとめて提出してもらう。さらに、毎週、テーマごとの課題を出す。こちらのフィードバックは、講評の形で簡単にまとめて発表する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	What Is Soul?
2	Roots	Many Rivers to Cross
3	Early Days	A Change Is Gonna Come
4	Sweet and Dandy	Gosper Quartets
5	Birth of Soul	The 1950s
6	Say It Loud	The 1960s
7	Sitting in Limbo	The 1970s
8	Epilogue	Make It Funky
9	Jackie Wilson	1934-1984
10	Ray Charles	1930-
11	James Brown	1928-
12	Marvin Gaye	1939-1984
13	Otis Redding	1941-1967
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で読むテキストを予習すること。指定された部分を日本語に訳すこと。さらに毎回の課題をこなすこと。
「本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。」

【テキスト（教科書）】

こちらで用意します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

単語や文章の訳（40%）、課題（40%）、平常点（20%）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

To read English text about a history of Black music and a history of Soul

LINE200EA

英語翻訳 A I

金原 瑞人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

毎回、数ページを訳して提出してもらう。その原稿を講評し、注意点を説明する形で授業を進める。また、基本的な文法事項などもていねいに解説する。

【到達目標】

まとまった分量の英文が読めるようになる。読みやすく、かつ個性的な日本語の文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、数ページを訳して授業支援システムで送付してもらい、それをもとに、講評、解説、テキストに関する文法事項などをファイルにまとめて、受講者に送る。また、毎回の授業で学習したことを反映させて訳し直した完成原稿をまとめて、最後の授業のときに提出すること。

毎回、zoom の時間も用意するが、参加は自由で、成績には関係ない。質問のある人、翻訳や英語学習についてもっと知りたい人のためのもの。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などについての説明
2	一人称、二人称、三人称をどう訳すか	テキスト p1-6
3	主語の省略と統一	テキスト p7-15
4	文章の頭から訳す	テキスト p16-20
5	辞書を引くときの注意点	テキスト p21-26
6	英文解釈と翻訳の違いを知る	テキスト p27-32
7	視点を意識する	テキスト p33-38
8	会話文の訳しかた	テキスト p39-45
9	固有名詞の扱い	テキスト p46-51
10	隠れた仮定法に気づく	テキスト p52-57
11	時制に気をつける	テキスト p58-64
12	読みやすい訳文を書く	テキスト p65-70
13	異文化の説明	テキスト p71-75
14	まとめ	春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された範囲の英文を訳して提出すること。その授業支援システムで送られる講評を参考にして、訳し直したものを、最後の授業のときにまとめて提出すること。

本授業の準備学習は 3 時間・復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用するテキストは児童書かヤングアダルトむけの作品の予定。こちらで用意します。

【参考書】

研究社の『リーダーズ英和辞典』、小学館の『ランダムハウス英和大辞典』などの大辞典を必ず用意すること。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出してもらう訳文の評価（60%）、最後の授業に提出してもらう訳し直しの評価（40%）、を総合して評価する。なお、毎回の講評に正解を書くので、遅れて提出された訳文は評価の対象としない。必ず、期日内に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

上に記載した授業のテーマと内容は、学期全体を通じて行うものであり、この順番に行くということではない。またページ数も仮のものであって、状況によって変更があり得る。

【Outline and objectives】

To learn how to understand English accurately and translate it correctly into Japanese.

LINE200EA

英語翻訳 A II

金原 瑞人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

毎回、数ページを訳して提出してもらう。その原稿を講評し、注意点を説明する形で授業を進める。比較的、読みやすいものをテキストに使う予定。また、基本的な文法事項などもていねいに解説する。

【到達目標】

まとまった分量の英文が読めるようになる。読みやすく、かつ個性的な文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、数ページを訳して授業支援システムで送付してもらい、それをもとに、講評、解説、テキストに関する文法事項などをファイルにまとめて、受講者に送る。また、毎回の授業で学習したことを反映させて訳し直した完成原稿をまとめて、最後の授業のときに提出すること。

毎回、zoom の時間も用意するが、参加は自由で、成績には関係ない。質問のある人、翻訳や英語学習についてもっと知りたい人のためのもの。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などについての説明
2	一人称、二人称、三人称をどう訳すか	テキスト p1-6
3	主語の省略と統一	テキスト p7-15
4	文章の頭から訳す	テキスト p16-20
5	辞書を引くときの注意点	テキスト p21-26
6	英文解釈と翻訳の違いを知る	テキスト p27-32
7	視点を意識する	テキスト p33-38
8	会話文の訳しかた	テキスト p39-45
9	固有名詞の扱い	テキスト p46-51
10	隠れた仮定法に気づく	テキスト p52-57
11	時制に気をつける	テキスト p58-64
12	読みやすい訳文を書く	テキスト p65-70
13	異文化の説明	テキスト p71-75
14	まとめ	秋学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された範囲の英文を訳して提出すること。その授業支援システムで送られる講評を参考にして、訳し直したものを、最後の授業のときにまとめて提出すること。

本授業の準備学習は 3 時間・復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

絵本、児童書、ヤングアダルト小説、エッセイなど。こちらで用意します。

【参考書】

研究社の『リーダーズ英和辞典』、小学館の『ランダムハウス英和大辞典』などの大辞典を必ず用意すること。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出してもらう訳文の評価（60%）、最後の授業に提出してもらう訳し直しの評価（40%）、を総合して評価する。

なお、毎回の講評に正解を書くので、遅れて提出された訳文は評価の対象としない。必ず、期日内に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

上に記載した授業のテーマと内容は、学期全体を通じて行うものであり、この順番に行くということではない。またページ数も仮のものであって、状況によって変更があり得る。

【Outline and objectives】

To learn how to understand English accurately and translate it correctly into Japanese.

LINE300EA

英語翻訳 B I

金原 瑞人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた雑誌や新聞を正確に読解し、的確な日本語に翻訳する方法を学ぶ。

【到達目標】

まとまった分量の英文が読めるようになる。読解力がつく。読みやすく適切な日本語の文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、数ページを訳して授業支援システムで提出してもらい、それをもとに、zoom 授業を行います。zoom 授業は普通の対面授業とほぼ同じ形なので、なるべく顔を出して参加してください。指名して、英語を読んでもらって、訳してもらって、それを直して、という形で進めていきます。提出された課題に対するフィードバックはすべて授業中に行います。また、授業で学んだことを自分の訳文に反映させ、訳し直したものをまとめて最後の授業で提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などについての説明
2	一人称、二人称、三人称をどう訳すか	テキスト p1-6
3	主語の省略と統一	テキスト p7-15
4	文章の頭から訳す	テキスト p16-20
5	辞書を引くときの注意点	テキスト p21-26
6	英文解釈と翻訳の違いを知る	テキスト p27-32
7	視点を意識する	テキスト p33-38
8	会話文の訳しかた	テキスト p39-45
9	固有名詞の扱いかた	テキスト p46-51
10	隠れた仮定法に気づく	テキスト p52-57
11	時制に気をつける	テキスト p58-64
12	読みやすい訳文を書く	テキスト p65-70
13	異文化の説明	テキスト p71-75
14	まとめ	春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その回に進む部分を訳したものを授業支援システムで期日までに提出すること。毎回の授業で学習したことを反映させて訳し直した完成原稿を最後の授業のときに提出すること。本授業の準備学習時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

英語圏の雑誌、新聞などをテキストに使う予定。こちらで用意して送ります。

【参考書】

研究社の『リーダーズ英和辞典』、小学館の『ランダムハウス英和大辞典』などの大辞典を必ず用意すること。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出してもらう訳文の評価（70%）、最後の授業に提出してもらう訳し直しの評価（30%）、を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

上に記載した授業のテーマと内容は、学期全体を通じて行うものであり、この順番に行うということではない。またページ数も仮のものであって、状況によって変更があり得る。

【Outline and objectives】

To learn how to understand English accurately and translate it correctly into Japanese.

LINE300EA

英語翻訳 B II

金原 瑞人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた雑誌や新聞を正確に読解し、的確な日本語に翻訳する方法を学ぶ。

【到達目標】

まとまった分量の英文が読めるようになる。読解力がつく。読みやすく正しい日本語の文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、数ページを訳して授業支援システムで提出してもらい、それをもとに、zoom 授業を行います。zoom 授業は普通の対面授業とほぼ同じ形なので、なるべく顔を出して参加してください。指名して、英語を読んでもらって、訳してもらって、それを直して、という形で進めていきます。提出された課題に対するフィードバックはすべて授業中に行います。また、授業で学んだことを自分の訳文に反映させ、訳し直したものをまとめて最後の授業で提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方などについての説明
2	一人称、二人称、三人称をどう訳すか	テキスト p1-6
3	主語の省略と統一	テキスト p7-15
4	文章の頭から訳す	テキスト p16-20
5	辞書を引くときの注意点	テキスト p21-26
6	英文解釈と翻訳の違いを知る	テキスト p27-32
7	視点を意識する	テキスト p33-38
8	会話文の訳しかた	テキスト p39-45
9	固有名詞の扱いかた	テキスト p46-51
10	隠れた仮定法に気づく	テキスト p52-57
11	時制に気をつける	テキスト p58-64
12	読みやすい訳文を書く	テキスト p65-70
13	異文化の説明	テキスト p71-75
14	まとめ	秋学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その回に進む部分を訳したものを授業支援システムで期日までに提出すること。毎回の授業で学習したことを反映させて訳し直した完成原稿を最後の授業のときに提出すること。本授業の準備学習時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

英語圏の雑誌、新聞などをテキストに使う予定。こちらで用意して送ります。

【参考書】

研究社の『リーダーズ英和辞典』、小学館の『ランダムハウス英和大辞典』などの大辞典を必ず用意すること。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出してもらう訳文の評価（70%）、最後の授業に提出してもらう訳し直しの評価（30%）、を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

上に記載した授業のテーマと内容は、学期全体を通じて行うものであり、この順番に行うということではない。またページ数も仮のものであって、状況によって変更があり得る。

【Outline and objectives】

To learn how to understand English accurately and translate it correctly into Japanese.

SOC200EC

エイジングの社会学

姫野 宏輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、現代社会における「エイジング（老い）」がもたらす社会問題に対して、どのような社会のあり方を指すことが望ましいのか、高齢化の進んだ地域の実例から考えていく授業です。先んじて結論を述べてしまうと、「どんな地域もこうすればみんな幸せになれる」といった魔法の万能薬のような社会デザインは存在しません。ひとが老いていくとき、そのひとが暮らす場所では何が問題となるのか、それはなぜなのか、周囲のひとびとはどのような対策をとろうとしているのか、政府はどのような対策をとろうとしているのか、といったことを地道に調べて、できるだけ多くのひとが幸せを感じることができるように試行錯誤を繰り返す他はありません。そのためこの授業では、「教えられたことを覚える」ことよりも、学生の皆さんが「自分で考えてみる」ことを重視します。授業はガイダンスを除いて 2 回を 1 セットにして、(前半)重要なキーワードを学ぶ → (後半)実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。後半の実例を見る授業回では映像作品も使用します。今後さらに高齢化率が上昇していく社会を生きる皆さんが、エイジングのもたらす社会問題に直面したときに参考になるよう、たくさんの事例を見ていきますので、望ましい社会福祉のあり方について、一緒に考えていきましょう。

【到達目標】

次の 2 点を到達目標とする。

- (1) エイジングがもたらす社会問題について、基本的な知識や類型を身につけて理解することができる。
- (2) 自分の身の回りで起こっているエイジングにまつわる社会問題について、その問題点を発見し、解決に向けての行動案を自分なりに考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。ガイダンスを除いて授業は 2 回を 1 セットにして、(前半)重要なキーワードを学ぶ → (後半)実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。1 セット終了ごとに「自分ならこの社会問題に対してどう取り組むか」を考えたコメントカードを提出してもらいます。コメントカードで寄せられた意見や質問はいくつかを取り上げて次の授業の冒頭で解説し、フィードバックします。正しい解内容のコメントといったものはありません。自由な発想で、自分の言葉を使って、自分ならどうするかを考えているかどうかを確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとイントロダクション	・授業の内容、進め方、提出課題等について説明する。 ・ひとが「老いる」ということはどういうことか、多角的に考えてみる。
2	老いとディスアビリティ (1)	・ディスアビリティ概念について

3	老いとディスアビリティ (2)	・実例をもとに、自分がディスアビリティにまつわる社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
4	老いと家族・血縁 (1)	・家族と親族によって支えられてきた日本の高齢者介護について
5	老いと家族・血縁 (2)	・自分の家族・親族が老いに直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
6	老いと人間関係 (1)	・老いと社会的孤立の相関関係について
7	老いと人間関係 (2)	・老いた後にどのような人間関係を結ぶことが望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
8	老いと経済・年金 (1)	・老いたあとの経済活動と日本の社会福祉政策について
9	老いと経済・年金 (2)	・老いて経済活動に携わることが難しくなった人々に対して、どのような社会政策が望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
10	老いと世代間格差 (1)	・日本社会の少子化と労働力人口の減少について
11	老いと世代間格差 (2)	・若年世代と高齢世代が対立しているという言説について、自分なりに社会の将来像を考えてみる。
12	エイジング社会のデザイン (1)	・アメリカ合衆国のような福祉社会のありかたについて
13	エイジング社会のデザイン (2)	・スウェーデンのような福祉社会のありかたについて
14	授業の総括	・授業中でとりあげたトピックを振り返り、自分ならどのようなエイジング社会のデザインが望ましいと思うか、考えてみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で配布される資料を読み返すことを基本にしてください。丸暗記の必要はありません。資料で紹介されている様々な事例で、「自分ならどうするか」を簡単にいいので考えておくことが重要です（授業の目標的にも、課題を提出するうえでも）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【参考書】

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

老いがもたらす社会問題について、自分自身の言葉で問題の要点を説明し、対策を考えることができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。
得点の配分は、2 回の授業ごとに課されるコメントカード提出を平常点として 50 %、期末レポートを到達度の確認として 50 %の配分で、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「老い」によって生じている社会問題についてミクロ的な視点とマクロ的な視点の両方から迫るために、授業の構成を前半部と後半部で分けて組みなおしました。前半部では高齢化の進んだ地域の実例から具体的な問題状況を見て、後半部ではそれらを踏まえたうえで現代日本の社会福祉制度がどのようになっていて、今後どのような方向性がありうるのかを海外の諸制度を参考に考えるという流れになっています。このため、全体を通じて「自分が望ましいと思う福祉社会のデザインを考える」という授業の目的が達成されやすくなったのではないかと考えています。

【Outline and objectives】

This course introduces social problems concerning the aging society. My aim is to help students get the skills and knowledge needed to live in the aging society. At the end of the course, you are expected to describe your ideal vision of the future society. This course will be given by Japanese language.

SOC300ED

映像制作技法

石橋 充行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像表現には、伝えたいことを目に見える形に置き換え、伝達していく力の習得が不可欠です。そのために必要となる基礎的な知識・技術を学んでいきます。

【到達目標】

映像を「つくる」だけでなく、「見る」際にも必要となる映像表現のための基本的な技法や知識の理解を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

映像表現に必要な知識・スキルを様々なジャンルの映像を鑑賞したり、実際に制作してみることを通して学びます。

最後には、与えられたテーマに基づいての簡単な映像制作に挑戦してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スケジュールの確認ならびに各自の興味・関心のヒアリングなど
2	映像編集基本_1	映像編集の基本、ならびに編集ソフトの基本的な使い方を学習
3	映像編集基本_2	実際の映像作品の鑑賞を通して基礎的な技法をまなぶ
4	映像編集基本_3	簡単な映像編集課題への挑戦#1【会話】
5	映像編集基本_4	簡単な映像編集課題への挑戦#2【簡単なアクション】
6	撮影技法__基本_1	最終課題を撮影する際に必要となる撮影の基本を学ぶ
7	撮影技法__基本_2	与えられた台本に沿って素材を撮影・編集
8	撮影技法__基本_3	完成した映像の発表
9	最終課題	テーマに基づいた映像制作、そのための企画づくり
10	企画発表	各自の企画発表ならび講評
11	課題制作_1	企画の映像化に向けての実作業
12	中間発表	途中経過の発表を通して企画をより良いモノに
13	課題制作_2	最終発表にあわせて作品のブラッシュアップ
14	最終発表	制作した課題の発表・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外での活動が、ある程度必要となります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。有用なものに関しては授業内で共有などします。

【成績評価の方法と基準】

課題作品の制作（60%）と平常点（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし、アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

映像制作のための環境が整っていることが理想ではありますが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

様々なジャンルの映像ディレクターとしての経験を持つ教員が、映像表現のために必要となる基礎的な知識・技術を指導します。

【Outline and objectives】

This course introduces students to communication in a creative perspective through visual imagery.

Students will learn basic skills for visual communication, visualization of ideas, and others.

SOC300ED

映像制作技法

稲増 龍夫

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習は、映像初心者を対象に、本年度から稲増1ゼミがなくなってしまったので、従来、稲増1ゼミで行っていた「多摩キャンパスニュース」の制作活動を行います。

【到達目標】

一本の情報番組を自ら取材・撮影・編集することで、送り手の立場を体感し、カット割りや音楽の効果など、映像メディアリテラシーの向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

多摩キャンパスニュースはグループで制作してもらうので、授業時間外に取材・撮影をおこなうので、課外活動に全く参加できないと他の受講者にも迷惑をかけるので、特に6月に入ってから撮影期間の1週間ほどは、実習優先でスケジュールを組んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業スケジュールの確認と課題オリエンテーション
2	参加者自己紹介	授業に期待することを述べてもらいます
3	ニュース・情報番組解題-1	NHK編
4	ニュース・情報番組解題-2	日本テレビ編
5	ニュース・情報番組解題-3	テレビ朝日編
6	ニュース・情報番組解題-4	TBS編
7	ニュース・情報番組解題-5	テレビ東京編
8	ニュース・情報番組解題-6	フジテレビ編
9	多摩キャンパスニュース・ガイダンス	キャンパスニュースの構成
10	企画会議	班に分かれての企画会議
11	制作撮影会議	撮影作業
12	制作撮影会議	撮影作業
13	制作編集会議	編集作業
14	課題発表会	上映と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

映像制作活動はほとんど授業時間外の活動です。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)と、課題作品の制作=提出(30+30%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規カリキュラム科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

映像制作の経験がなくても大丈夫ですが、相応の努力で経験者に追いついてもらいます。機材も101教室のカメラ、PCを利用できるので、個人で持っている必要はありません。

【Outline and objectives】

Artistic Techniques of Video Art

SOC300ED

映像制作実習

石橋 充行

サブタイトル：特講（映像制作実習）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

Students will learn the concepts, theories, and skills of visual communication, covering visual persuasion, visualization of ideas, and others.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像を用いて、伝えたいことを形にし、コミュニケーションしていくために必要となる知識・技術を実習を通して学んでいきます。

【到達目標】

- ・映像を見る力の獲得。
 - ・課題制作を通して「考え → 作り → 伝える力」を成長させる。
 - ・各種映像ソフトウェアの使い方、その基本の理解。
- これらを到達目標として設定しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- (1) 各種ソフトウェアの使い方の基本を理解のするための練習課題
 - (2) テーマに基づいての制作 → 制作物発表 → 講評
- 上記 2 点が、授業形態の基本的な柱となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	年間スケジュールの確認ならびに各自の興味・経験などのヒアリング
2	映像制作_基礎 1	制作アプリケーションの基本的な使い方を復習する
3	映像制作_基礎 2	簡単な映像編集課題への挑戦
4	映像制作_基礎 3	映像を撮影する上での基本的な知識のおさらい
5	映像制作_基礎まとめ_1	テーマに基づいたシンプルな映像の企画・撮影・編集を体験する
6	映像制作_基礎まとめ_2	完成作品の発表ならびに講評
7	映像制作_応用_1	複雑な映像編集への挑戦 [MUSIC VIDEO を想定]
8	映像制作_応用_2	完成作品の発表ならびに講評
9	最終課題	テーマに基づいた映像の企画書づくりに挑戦する
10	企画発表	企画発表ならびに講評
11	課題制作_1	各自、企画の映像化に向けての撮影などの実作業
12	課題制作_2	各自、企画の完成に向けての編集作業をおこなう
13	中間発表	途中経過の発表を通して作品のブラッシュアップ
14	最終発表	完成作品試写・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外での活動が、必要となります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。有用なものに関しては授業内で共有などします。

【成績評価の方法と基準】

課題作品の制作（60%）と平常点（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

映像制作のための環境が整っていることが理想ではありますが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

様々なジャンルの映像ディレクターとしての経験を持つ教員が映像表現のために必要となる基本的な知識・技術を指導します。
映像制作の経験が多少でもであると望ましいですが、必須ではありません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to communication in a creative perspective through visual imagery.

SOC300ED

映像制作実習

稲増 龍夫

サブタイトル：特講（映像制作実習）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像制作の初級～中級者を対象に、映像制作活動の基礎技術を獲得するために、応用映像制作技法を習得してもらい、法政大学デジタルコンテンツコンテストへの作品出品を目指します。

【到達目標】

映像制作活動がメインで、特にコマ撮り、アニメ、CGなどのデジタル技法をブラッシュアップし、秋の法政大学デジタルコンテンツコンテスト出品に活用してもらいます。その前に、春クールのテレビドラマの演出分析を行い、基礎的な映像リテラシーの獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

映像制作活動に関心がある学生を対象に、デジタル技法などの応用政策を学び、その実践として、各自で、法政大学デジタルコンテンツコンテストに作品を出品してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	前期スケジュールの確認
2	受講者自己紹介	ベストテレビドラマの発表
3	テレビドラマ演出分析のオリエンテーション	ドラマ分析の基本フレームを学ぶ
4	ドラマ分析企画会議	分析担当のドラマ決定
5	テレビドラマ演出分析概論	ゲスト講師による分析紹介
6	テレビドラマ演出分析-1	春クールドラマの演出分析発表-1
7	テレビドラマ演出分析-2	春クールドラマの演出分析発表-2
8	テレビドラマ演出分析-3	春クールドラマの演出分析発表-3
9	デジタルコンテンツコンテストのガイダンス	2020 年度受賞作品の上映
10	過去の受賞作品-1	過去のデジコン受賞作品の上映=解題-1
11	過去の受賞作品-2	過去のデジコン受賞作品の上映=解題-2
12	出品作品の企画コンセプトの発表	発表検討会
13	出品作品の絵コンテの発表	発表検討会
14	出品作品の最終プレゼン	プレゼンと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題制作はすべて課外活動となります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）+課題（70%）

【学生の意見等からの気づき】

実習授業につきアンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

Production of Video Art

EVN200EB

エネルギー論

鞠子 茂

サブタイトル：特講（エネルギー論）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの生活や社会活動を行うにはエネルギーが必要である。そのエネルギーは有限な化石燃料と核燃料を燃やすことで供給されているが、それに伴って排出される物質は地球環境を汚染している。エネルギーとやエネルギーに関する諸問題について基本的な知識を学んだうえで、これからのエネルギー問題について考える力を身につける。

【到達目標】

- ①エネルギーを通じて人間社会の成り立ちについて理解・説明できる。
- ②エネルギーの利用技術について科学的に理解・説明できる。
- ③エネルギー社会のあり方について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使った講義を行う。事前に学習支援システムで配布資料をダウンロードし、予習をしたうえで授業に臨む。理解度確認のために課題を課し、解答を提出させる。次回の授業で提示された解答例をみて各自理解度をチェックする。理解度の高低により授業テーマの順序や内容は多少変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと全体像	授業の概要と進め方と全体像の説明
2	エネルギー消費と人類	人とエネルギーの関係を歴史的に説明
3	エネルギーとは何か	エネルギーに関する基本的ことがら
4	暮らしの中のエネルギー	エネルギーへの依存性についての認識
5	情報化によるエネルギー消費の変化	情報化社会がエネルギー消費形態に与える影響について概説する
6	化石燃料消費と地球環境	CO2 排出が地球に与える影響を解説
7	CO2 削減と原子力発電	原子力発電が抱える諸問題を解説する
8	自然エネルギーの利用	太陽光・風力・水力を利用した発電
9	熱エネルギーの利用	地熱・太陽熱・排熱による発電を紹介
10	生体携炭素循環機能とバイオマスの利用	バイオマス生産のメカニズムと利用
11	エネルギー自治の現状と課題	エネルギーの地産地消に関する現状と課題
12	エネルギー有効利用のための科学と政策	省エネを推進するための科学技術と政策
13	未来のエネルギー技術と社会システム	エネルギー技術の最新研究と社会システムの紹介
14	エネルギー文明の限界点	人類存続を可能にするためのエネルギー社会の条件を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで配布される資料を事前にダウンロードし、あらかじめ予習しておくこと。また、授業で出された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。資料は授業支援システムにて事前に配布する。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

〔配分〕 期末試験（80%）、平常点（20%）

〔評価基準〕 期末試験では、3～4 題の小問からなる大問を 10 問程度作成し、出題する。平常点は課題提出率と回答内容から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない

【Outline and objectives】

The overall objective of this course is for students to learn the electric power generation with fossil fuel and the ways we use energy in our everyday lives. The main focus of this course is on the interrelatedness between energy use and environmental risk. Students will also learn about conversion of wind and solar energy to electricity and to hydrogen, which is the most promising, efficient utilization of renewable energy sources.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

青木 貞茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TV、新聞、雑誌、インターネット等の広告を分析することを通じて、なぜ自分にとって広告効果があるのか、そのメカニズムを理解する。特に、どのようなメッセージ、表現方法、メディア選定が効果的なのかをブランド・コミュニケーションを中心として考察した結果、様々な対象をテーマとした広告プランニングの基礎を習得する。

【到達目標】

大学生としての研究・調査能力をより高度化し、分析課題に対して仮説を立案し、仮説に沿って資料収集、データ分析を行い、その仮説証明に関して説得的かつ効果的なプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

分析のための理論、手法の基礎を学び、実践していく。同時に広告を中心とした消費情報の読解を通じて自己のテキスト読解に至る方法論も学んでいく。受講者は、広告の収集、分析作業を実施した上で結果発表を行なう。演習内で発表内容へのフィードバックを行なう。本クラスでは、分析まとめ、プレゼンテーション、ディスカッションへの受講者の積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	演習のオリエンテーション	演習のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第 2 回	広告研究に関する基本知識	広告研究に関して必要な基礎知識
第 3 回	広告企画事例の設定	広告に関する企画事例を設定
第 4 回	事例分析方法の習得 (1)	広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第 5 回	事例分析方法の習得 (2)	広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第 6 回	事例分析方法の習得 (3)	広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第 7 回	プレゼンテーション方法	分析結果のまとめとプレゼンテーション技法の習得
第 8 回	広告分析の発表とディスカッション (1)	ケース広告の優れている理由の発表、ディスカッション
第 9 回	広告分析の発表とディスカッション (2)	ケース広告の優れている理由の発表、ディスカッション
第 10 回	広告分析の発表とディスカッション (3)	ケース広告の優れている理由の発表、ディスカッション
第 11 回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション (1)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第 12 回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション (2)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施

第 13 回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション (3)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第 14 回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション (4) および前半のまとめ	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第 15 回	後半のオリエンテーションとフィールドワーク（タウンウォッチング）の成果発表	合宿でのフィールドワーク＝タウンウォッチングの成果をプレゼン、新たな研究テーマの設定
第 16 回	効果的なブランド広告の構造	効果的なブランド広告の分析方法について学ぶ
第 17 回	研究対象の設定	効果的なブランド広告のケース選定
第 18 回	ケース発表 (1)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 19 回	ケース発表 (2)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 20 回	ケース発表 (3)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 21 回	ケース発表 (4)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 22 回	ケース発表 (5)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 23 回	ケース発表 (6)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 24 回	ケース発表 (7)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 25 回	グループ研究	グループ研究の広告企画設定
第 26 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (1)	企画プレゼンとディスカッション
第 27 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (2)	企画プレゼンとディスカッション
第 28 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (3) およびまとめ	企画プレゼンとディスカッション 全体への講評とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TV ドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。なお、夏休み期間にゼミ合宿として日本国内のタウンウォッチング（フィールドワーク）を実施する。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（50 %）と課題作成物（50 %）で行う。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。立案した広告企画は、実施までゼミ員が担当するので、積極的にゼミに参加することを求める。なお個別の面談は事前にメールで連絡し、調整する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

【Outline and objectives】

This class will look into the mechanism of advertising effect on us through analyzing advertisements such as TV, newspapers, magazines, the Internet, etc. In particular, we will examine what kind of message, expression method, or media selection is effective based on brand communication. The class provides the basics of advertisement planning on various subjects.

EDU200EB, EDU200EC, EDU200ED

演習 1

荒井 容子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育・社会教育に関する認識を深め、各自の研究テーマを検討し合い論文にまとめる。

【到達目標】

人々の学習・文化・スポーツ活動を支える社会教育実践について理解を深め、演習3で卒業論文を書くための問題意識の深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は「教育」「社会教育」の本質について学び、秋学期は各自の研究にテーマを深め、ゼミ論にまとめ、全員で検討する。

全学行動制限が0になるまでは、オンラインのバーチャル教室と実際の教室での対面授業とを併用して進める。

報告時にはその場で、また、最後に提出してもらったゼミ論文は演習2の受講生とともに全員で検討し合う口頭試問の場で、コメントを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講生の自己紹介、今後予定の確認
2	「教育」に関する一冊の本	各自で選んだ本について報告 1
3	「教育」に関する一冊の本	各自で選んだ本について報告 2
4	「教育」に関する一冊の本	各自で選んだ本について報告 3
5	「教育」に関する一冊の本	各自で選んだ本について報告 4
6	「教育」の本質について	「教育の本質」の検討 1
7	「教育」の本質について	「教育の本質」の検討 2
8	「教育」の本質について	「教育の概念と教育学」の検討 1
9	「教育」の本質について	「教育の概念と教育学」の検討 2
10	「教育」の本質について	「教育の概念と教育学」の検討 3
11	「社会教育」の本質	「社会教育の本質」の検討 1
12	「社会教育」の本質	「社会教育の本質」の検討 2
13	「社会教育」の本質	宮原誠一「社会教育の本質」の検討 3
14	総括と相談	春学期の総括と秋学期の相談
1	各自の調査研究	報告と相談 1
2	各自の調査研究	報告と相談 2
3	各自の調査研究	報告と相談 3
4	第1ラウンド	研究成果の報告とその検討 1
5	第1ラウンド	研究成果の報告とその検討 2
6	第1ラウンド	研究成果の報告とその検討 3
7	第2ラウンド	研究成果の報告とその検討 1
8	第2ラウンド	研究成果の報告とその検討 2
9	第2ラウンド	研究成果の報告とその検討 3
10	第3ラウンド	研究成果の報告とその検討 1
11	第3ラウンド	研究成果の報告とその検討 2
12	第3ラウンド	研究成果の報告とその検討 3
13	ゼミ論の骨子・構成	最終検討
14	ゼミ論提出	論文集編集作業と口頭試問の打合わせ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

人々の学びの営みに関心を寄せ、社会教育活動・研究集会に参加し、感性を磨いておく。本授業の準備学習は報告者になった場合計 16 時間以上必要であり、報告後も次の報告の準備のための内省として 1 時間は必要である。全 28 回中最低 8 回は報告することになるので、各回に平均すると 5 時間弱、すなわち準備学習・復習に各 2 時間以上必要となることになる。

【テキスト（教科書）】

春学期第 6 回から第 13 回までで検討する文献は配布する。

【参考書】

雑誌『月刊社会教育』、社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所、その他講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義時の理解度・学習成果（他者の学習への貢献も含め）50 %と最終のゼミ論の質 50 %を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が 10 人以下のため授業改善アンケートを行っていない。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを活用するのでアクセス、e メールアドレスの登録を確実にしておくこと。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to gain an understanding of basic theory of education and social education. After that, students are required to engage in own research and report at the class in turn for the class discussion. Students are required to write the final report on their own theme.

MAN200EB, MAN200EC, MAN200ED

演習 1

宇野 齊

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期：テーマごとのグループで担当文献について発表し理解します。
秋学期：個別のテーマごとに研究発表をします。年度末に論文としてまとめます。

【到達目標】

文献を適切に要約する技能と必要な内容をまとめ発表する技能とを修得します。論文として適切な体裁と十分な内容とが備わっているものを完成させます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

グループまたは個人での発表、質疑、議論と評価が時間内の主な内容です。年度末には各自の研究内容を論文としてまとめます。自己の研究のみならず、他のグループ、他のメンバーの研究への理解とコメントも必須です。他大学との共同研究発表や、そのための学外調査を行う場合があります。すべての発表はフィードバックとして相互評価を受けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	演習テーマと進行計画を学生と教員で確認します。
02	グループ分けと課題設定	各グループにメンバーを分けグループ別課題文献を決定します。
03	発表、質疑、議論 (01)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
04	発表、質疑、議論 (02)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
05	発表、質疑、議論 (03)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
06	発表、質疑、議論 (04)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
07	発表、質疑、議論 (05)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
08	発表、質疑、議論 (06)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
09	発表、質疑、議論 (07)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
10	発表、質疑、議論 (08)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
11	発表、質疑、議論 (09)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
12	発表、質疑、議論 (10)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
13	発表、質疑、議論 (11)	グループ別課題について発表し、質疑、議論します。
14	グループのまとめと秋学期個別研究テーマ発表	グループ別にまとめを作成します。秋学期への夏休み中の個別課題を確認します。
15	個別の課題テーマの確認	各人の夏休み中の成果と個人研究の方向付け、進行計画を確認します。
16	発表、質疑、議論 (01)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
17	発表、質疑、議論 (02)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
18	発表、質疑、議論 (03)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
19	発表、質疑、議論 (04)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
20	発表、質疑、議論 (05)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
21	発表、質疑、議論 (06)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
22	発表、質疑、議論 (07)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
23	発表、質疑、議論 (08)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。

24	発表、質疑、議論 (09)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
25	発表、質疑、議論 (10)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
26	発表、質疑、議論 (11)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
27	発表、質疑、議論 (12)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
28	論文の整備	個人研究論文の形式を整備する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備として調査の上で発表資料を作成、提出、配布します。発表後、発表資料の改訂版を提出し、評価シートの集計と質問内容への回答を作成し、配布します。

合同ゼミ合宿や研究発表大会に向けてグループミーティングまたは個人での作業時間、場合によっては実地調査が必要です。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期は受講者グループごとに相談し教員が決定します。秋学期は使用しません。

【参考書】

グループまたは個別に、適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%、設定された課題に対して真摯に取り組み、期日を守って、成果を示してください。メンバーの研究への理解とコメントも重要です。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、電子メール、メーリングリスト、ブログ、ツイッター、グループウェア等を使用します。

【その他の重要事項】

基礎演習 I・II を履修していることが前提です（転編入学生は除く）。

秋学期末に個別研究成果を論文としてまとめます。

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。

対面で開講できない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。

【Outline and objectives】

Spring semester: Participants understand by summarizing designated books, announcing them mutually and examining them.

Fall semester: Participants make research presentations sequentially. Participants create thesis at the end.

ARS200EB, ARS200EC, ARS200ED

演習 1

吉村 真子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、国際社会（アジア）をめぐる諸問題をテーマとし、アジア（東アジア、東南アジア、南アジア）の社会、経済、政治、文化などの問題を議論することを目的としています。

【到達目標】

一年間のゼミをとおして、文献報告や議論を進めていく中で、アジアに関する見方を深め、「自分のテーマ」を獲得することを演習1の目標とします。アジアに関心があって、「自分のテーマ」を持ちたい、やる気のある学生の参加を期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・春学期は、レジュメの書き方や時事問題を学んだ上で、テキスト報告と議論。秋学期はテーマを設定してグループ報告と議論、また各自のゼミ論文の報告と執筆。また春学期・秋学期にディベートも行います。

・今年度は COVID-19 対応で、対面授業とオンラインの混合の実施の可能性もありますので、注意してください。

・各回のレジュメや課題などは、適宜、報告前にも教員の助言を受け、ゼミでの報告の後にも教員の講評を行います。ゼミ論文についても、報告前に教員の助言を受け、ゼミ報告および提出後に、ゼミで教員から講評を行うなど、常にフィードバックを行う形で進めていきます。

※通常は夏のゼミ合宿でチーム・プロジェクトとしてフィールドワークを実施しますが、今年度の実施については COVID-19 の状況によりります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミの説明とテキストの検討
第2回	アジアの時事問題	レジュメの書き方について
第3回	時事問題プレゼン①	アジアの時事問題
第4回	時事問題プレゼン②	新聞や雑誌からトピック選択
第5回	時事問題プレゼン③	レジュメ準備し、報告と議論
第6回	時事問題プレゼン④	レジュメ準備し、報告と議論
第7回	アジアに関する学術論文	学術論文を検索・選択
第8回	テキスト報告と議論①	1班の報告と議論
第9回	テキスト報告と議論②	2班の報告と議論
第10回	テキスト報告と議論③	3班の報告と議論
第11回	テキスト報告と議論④	4班の報告と議論
第12回	ディベート①	学生が選んだテーマでディベート
第13回	ディベート②	残りのゼミ生は審査にあたる
第14回	夏休みの課題について	ゼミ論文の準備など
第15回	秋学期日程とゼミ論文準備	夏休みの課題など
第16回	テキスト報告と議論①	1班の報告
第17回	テキスト報告と議論②	2班の報告
第18回	テキスト報告と議論③	3班の報告
第19回	テキスト報告と議論④	4班の報告
第20回	時事問題	ドキュメンタリーを見て議論

第21回	ゼミ論文の報告①	各自、研究テーマを決める
第22回	ゼミ論文の報告②	各自、レジュメを用意して報告
第23回	ゼミ論文の報告③	それぞれの報告について議論
第24回	ゼミ論文の報告④	全体の議論
第25回	ゼミ論文の報告⑤	報告と議論
第26回	ディベート①	ゼミ生のテーマでディベート
第27回	ディベート②	残りのゼミ生は審査
第28回	1年間の振り返りとゼミ論文の講評	ゼミの1年間の振り返りとゼミ論文の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考資料、レジュメ準備など勉強が必要です。とくに報告やディベートは、個別の勉強に加えて、グループでの作業が求められます。またゼミ論文の執筆もあります。本授業の準備。復習時間は、各5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、アジアについて学べる本、もしくは学術論文を対象として、議論して決めます。

【参考書】

参考書は、必要に応じて適時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価の基準は、①ゼミの報告準備や発言・議論など(70%)、②ゼミ論文(30%)などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミにおける学生の自主的な運営と積極的な議論参加に期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

COVID-19 対応で、対面授業とオンライン（Zoom など）でのゼミの混合での実施の可能性も有るので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline and objectives】

This course is a tutorial seminar on Asian studies in a small class of second-year students. This course is to study analyzing Asian social issues with presentations, discussion, debates, thesis, and so on. Students are required to prepare for class discussion and presentations each week and to submit the final term-paper.

ARS200EB, ARS200EC, ARS200ED

演習 1・2

岡野内 正

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の学問的業績と向き合って議論することを通じて、現代という時代を生きることと、学問的にものごとを考えることを、受講生ひとりひとりが自分なりに結びつけることができるようにしたい。

【到達目標】

①学術書・論文の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることから問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

＜新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方になっていますが、さらに変更がある場合は、学習支援システムなどでお知らせします。＞

春学期（4月初めから7月初めまでの3か月間）は、ゼミ時間以外の火曜と金曜の夕方にオンラインで行われる国際系十大学合同セミナーに参加して、国際問題系のテーマに関する合同論文執筆に参加し、他流試合(?)の経験をしてもらいます。議論のフィールドワークとして取り組んでください。夏休み明けくらいに関西の私大のゼミとの合同合宿（中止あるいはオンラインの可能性あり）、11月には学部研究発表会に参加します。秋学期は、各自のテーマでじっくりとゼミ論文を書いていきます。

以上が大枠ですが、内容については、学びの主体が受講生である以上、受講生と話し合っ決めてのが基本だと考えています。受講生によるゼミ運営の自治組織をつかって、連絡網、楽しいことの企画などをやってもらいます。修正提案については、議論しますので、いつでもどうぞ！ さしあたりの提案は、以下のとおりです。

社会科学の古典中の古典である『資本論』の第1巻を1年かけて読む。受講生は毎週の読了する部分について、わかったこと、わからなかったこと、調べたこと、議論してみたいことを、学習支援システムの掲示板に書き込んでいく。ZOOMを用いた毎回の授業時間では、最後の少人数での分科会と全員での討論で話し合い、知識を付けるとともに、各自の疑問をより深く発展させていく。その間、春学期は、十大学合同セミナーで共同論文、秋学期は、各自の自由論題でのゼミ個人論文を書く。なお、9月の関西の私大との合同ゼミ合宿（前述のように開催は未定）での共同報告、11月のゼミ研究発表会での共同報告にも取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代の学問状況と社会問題	授業説明と顔合わせ。ゼミ運営の役割分担。合同ゼミ合宿や学部研究発表会での報告準備などの年間計画、報告の順番などの決定。
2	商品論	報告と討論：自給自足と市場経済はどこが違うか？
3	価値形態論	報告と討論：社会的なものとの物理的なものとはどこが違うか？
4	物神性論	報告と議論：人類史上のさまざまな社会の仕組みと「資本主義」と言われる現代社会との違いは何か？
5	交換過程論	報告と議論：市場を通じる社会的分業の危うさとは何か？
6	貨幣論	報告と討論：なぜお金には不思議な力があるのか？
7	貨幣と資本との違い	報告と討論：お金もちと資本家は違うか？
8	労働過程論	報告と討論：地球の大自然と人間たちとの交わりという面から見て、人が働くことにどんな意味があるか？
9	剰余価値生産過程論	報告と討論：お金のためにはたらくという面から見て、働くことの意味は何か？
10	不変資本と可変資本	報告と討論：長い歴史の中でいる人な形をとってこれまでの労働の成果と、新しい労働の成果との違いは何か？

11	剰余価値率論	報告と討論：お金儲けにとって大事なことは何か？
12	労働日論	報告と討論：人間の生理的限界を超えて働くひとがいるのはなぜ？
13	相対的剰余価値論	報告と議論：人をこき使わずにお金儲けをする秘訣は何か？
14	協業論	報告と議論：いっしょにはたらくことの意味は何か？働く人にとって、働かせる人にとって、それは違うか？
15	分業とマニファクチャ論	報告と議論：一緒にはたらくときに、同じことをするのではなくて、手分けしてはたらくことにすることの意味は何か？働く人、働かせる人にとっての違いは？
16	機械論	報告と討論：機械を使って働くことの意味は何か？
17	工場論	報告と討論：機械を並べて工場を作って、そこで働く・働かせることの意味は何か？
18	工場法論	報告と議論：機械ができて、工場ができて、労働問題、貧困問題、社会問題が発生し、そこで人々を働かせるやり方について、新しい法律ができるのはなぜか？
19	絶対的かつ相対的剰余価値生産論	報告と議論：働く人の数を減らしながら、なおかつ働く人をこき使う工場が増えるのはなぜか？
20	賃金論	報告と討論：働く人が受け取る賃金は、どこから来るか？それは正当なものか？
21	単純再生産と蓄積論	報告と討論：雇用契約が繰り返されることにどんな意味があるか？
22	蓄積の一般法則論	報告と討論：なぜいつまでたっても就職難か？
23	相対的過剰人口論	報告と討論：雇う人と、雇われる人では、雇われる人の数が多すぎるのはなぜか？雇い口がないために貧困が世界に広がる理由は？
24	本源的蓄積論	報告と討論：そもそも雇う人と雇われる人との違いはどうしてできたのか？
25	資本蓄積の歴史的傾向と近代植民論	報告と討論：雇う人と雇われる人との違いが世界に広まり、人類はどうなるか？
26	資本論第1巻の総括	報告と討論：19世紀、20世紀、21世紀の変わらなさとは違いは何か？
27	ゼミ論文報告会	報告と討論：ゼミ論文のプレゼンと討論。
28	ゼミ論文報告会	ゼミ論文のプレゼンと討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は十大学合同セミナーに参加して共同論文を書く。秋は、関西との合同ゼミ、学部研究発表会での報告に参加する。その間、授業のテキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業の前に掲示板に書き込む。最終回の2回前までに、自由論題で学術論文形式のゼミ論文を書く。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。なお春学期については、十大学合同セミナーのためにさらに毎週4時間のオンライン参加とそのための4時間程度の準備が必要となります。

【テキスト（教科書）】

カール・マルクス『資本論』（数種類の翻訳があり、インターネットからも入手できます。英和訳『資本論』のサイトは、いつでも無料で使え、しかも英語訳・ドイツ語、フランス語版へのリンクもついているので便利です。どれも大丈夫です。ただし、新しい訳のほうが読みやすく、岩波文庫などの古い訳は読みにくいので古本購入の場合は注意のこと）

【参考書】

岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年、定価2000円プラス税）。
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2021年、7月刊行予定）
ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアート』（法律文化社、2016年、3000円プラス税）
ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』（集英社新書、2008年、定価777円）

【成績評価の方法と基準】

掲示板に提出された毎回の書き込みと、ゼミ論文について、50%ずつ100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

春学期の10大セミナーへの参加を必修にし、学習支援システムの掲示板と、ZOOMのブレイクアウトセッションを用いた分科会と全体討論の組み合わせによって、活気ある議論のできる関係ができるように工夫しました。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOMに参加できるように、機器、通信環境などを整えておいてください。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権NGOでの長年の活動経験と観察を踏まえて、教室での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

SOW200EB, SOW200EC, SOW200ED

演習 1

堅田 香緒里

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジェンダーと福祉との関わりについて、インターセクショナルリティ（交差性）という観点から理解する。

【到達目標】

- 1) ジェンダーと福祉との関わりを、貧困・労働・シティズンシップ・グローバルイゼーション等の多様な観点から理解すること
- 2) 「女」に限らず、福祉国家においてマイノリティと位置付けられる人びとの生活や労働の意味を各自が問い直していくこと
- 3) 既存の制度や事実を、批判的/反省的に捉える方法を学ぶこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、ジェンダーと福祉との関わりに関する基本的な文献の講読と、グループごとに調査・研究発表を行うグループワークが中心となる。

秋学期は、文献の講読と、個人別の調査・研究発表を中心に行う。

※なお、授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更の可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（春）	イントロダクション（春学期）
第 2 回	文献の選定	基本文献の選定・担当決定
第 3 回	課題文献の検討①	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第 4 回	課題文献の検討②	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第 5 回	課題文献の検討③	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第 6 回	課題文献の検討④	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第 7 回	課題文献の検討⑤	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第 8 回	グループ別研究テーマの選定	グループ分け、研究テーマの選定
第 9 回	グループワーク①	グループ別研究テーマの検討・先行研究の整理
第 10 回	グループワーク②	グループ別研究テーマの検討・論点整理と掘り下げ
第 11 回	グループワーク③	グループ別研究テーマの検討・発表資料の作成
第 12 回	グループ別研究発表①	グループ別研究発表、ディスカッション
第 13 回	グループ別研究発表②	グループ別研究発表、ディスカッション
第 14 回	まとめ	ふりかえり・秋学期に向けて
第 15 回	イントロダクション（秋）	イントロダクション（秋学期）
第 16 回	個人別研究テーマ案の発表①	各自の研究テーマ案の発表、ディスカッション
第 17 回	個人別研究テーマ案の発表②	各自の研究テーマ案の発表、ディスカッション
第 18 回	課題文献の検討⑥	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第 19 回	課題文献の検討⑦	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第 20 回	課題文献の検討⑧	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第 21 回	課題文献の検討⑨	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第 22 回	課題文献の検討⑩	基本文献の講読、レジュメ作成、議論
第 23 回	個人別研究報告①	個人別研究報告、ディスカッション
第 24 回	個人別研究報告②	個人別研究報告、ディスカッション
第 25 回	個人別研究報告③	個人別研究報告、ディスカッション
第 26 回	個人別研究報告④	個人別研究報告、ディスカッション
第 27 回	個人別研究報告⑤	個人別研究報告、ディスカッション
第 28 回	ふりかえり	ふりかえり、個人別研究論文の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の講読・レジュメ作成の他、各グループ・個人の研究テーマに沿った自己学習等を要します。

本授業の準備学習（文献を事前に読む等）・復習時間（授業内で提示された課題に取り組む等）は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業時間内に提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業時間内に提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（グループへの貢献、ディスカッション含む）40%、提出物（読書ノート・プレゼンテーション資料・個人別研究論文含む）60%で行います。提出物の締切は厳守とします。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

受講者の関心により、学外での勉強会やヒアリング・イベント等への参画も検討しています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the concept of "intersexuality".

SEE200EB, SEE200EC, SEE200ED

演習 1**鞠子 茂**

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

野生生物や自然生態系についての基礎知識と研究のためのスキルをフィールドワーク、室内実験を通して学ぶ。夏休みの自由研究やグループ研究を通して、自然を研究する目的、方法、解析方法について学ぶ。自然環境の保全的管理のあり方や人と自然とのかかわり方について一人一人が答えを導いていく。

【到達目標】

生物を中心とした自然システムについて学び、人間とはどんな生物であるのか、人間と自然が共生できる社会とはどんなものであるのかを考究するための科学リテラシー、あるいは人間力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、多摩キャンパスの自然や生物を観察したり、室内で実験したりして、自然と生物を科学的に理解するための知識とスキルについて学ぶ。夏休みには、その年の気象状況にも依存するが、集中合宿を行って自然と生物についてディープに学ぶ場合もある。また、夏休み期間中には自由研究を個人で実施し、秋学期の最初に成果を発表する。その後、グループでの共同研究を実施する。自然や生物に関する研究テーマの設定、研究計画の立案、データの整理・分析、成果のプレゼンについて指導する。毎回の授業において、次回の授業内容に関する簡単な説明と必要な資料を配布し、事前学習や復習に役立ててもらおう。習得度や理解度の確認のために課題を課し、解答を提出させる。次回の授業で提示された解答例をみて各自習得度と理解度をチェックする。自然や野生生物を相手にするので、授業スケジュール等を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	事前に与えた課題の成果物の提出と授業内容についての概要説明
第 2 回	野鳥観察法	野鳥観察の基本知識を得るための講義を行う
第 3 回	野鳥観察法	多摩キャンにてバードウォッチングを行う
第 4 回	植物観察法	植物観察の基本知識を得るための講義を行う
第 5 回	植物観察法	多摩キャンに生息する植物観察を行う
第 6 回	動物観察法	動物観察の基本知識を得るための講義を行う
第 7 回	動物観察法	多摩キャンに生息する動物の観察を行う
第 8 回	予備日（天候により実施日は前後する）	天候等を考慮したフィールドワーク調整日であり、代わりに室内実験を行う
第 9 回	水生生物観察法	水生生物観察の知識を得るための講義を行う
第 10 回	水生生物観察法	4号調整池に生息する生物の観察を行う
第 11 回	夏休み自由研究の実施について	夏休み自由研究を実施することの意義について説明する
第 12 回	夏休み自由研究課題の設定	夏休み自由研究の課題名について各自検討し、話し合いのうえ決定する
第 13 回	夏休み自由研究計画の立案方法について	夏休み自由研究をどのように行うのか、研究計画の立案方法について解説する
第 14 回	夏休み自由研究の課題と計画に関するプレゼン	夏休み自由研究の課題と計画についてパワポを用いてプレゼンする
第 15 回	夏休み自由研究の成果発表会（前半）	夏休みの実施した自由研究の成果について各自パワポでプレゼンする
第 16 回	夏休み自由研究の成果発表会（後半）	夏休みの実施した自由研究の成果について各自パワポでプレゼンする
第 17 回	グループ研究の実施について	グループ研究の実施意義について説明する
第 18 回	グループ研究課題とグループ分け	各自が行いたい研究課題を出し合ったのち、共同研究が可能になるよう、グループ分けを行う
第 19 回	グループ研究課題の設定方法について	どのようにグループ研究の課題を設定すべきか、具体例をもとに解説する

第 20 回	グループ研究の計画立案について	グループ研究の研究計画を立案することのコツについて解説する
第 21 回	グループ研究の課題と研究計画についてのプレゼン	各グループ研究の課題と研究計画についてパワポを使って発表する
第 22 回	グループ研究の実施と指導	グループごとに研究を進める。必要に応じて研究指導を行う
第 23 回	グループ研究の実施と指導	グループごとに研究を進める。必要に応じて研究指導を行う
第 24 回	グループ研究の実施と指導	グループごとに研究を進める。必要に応じて研究指導を行う
第 25 回	グループ研究の実施と指導	グループごとに研究を進める。必要に応じて研究指導を行う
第 26 回	グループ研究の中間発表会	それまでに得られたグループ研究の成果についてパワポで発表し、最終成果発表会に向けての修正を行う
第 27 回	グループ研究の最終成果発表会に向けた準備	中間発表の時の助言をもとに発表原稿を再検討する
第 28 回	グループ研究の最終成果発表会	グループ研究の成果についてパワポを作成し、最終発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習と復習の時間はそれぞれ 2 時間を標準とする。準備学習のための説明と資料配布や復習のための課題を与える。これらの学習については授業でも触れて、学んだことを全体にフィードバックさせる。夏休みの自由研究を実施するので、夏休み期間中に各自の研究テーマに沿った調査や実験を行う。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。随時、関連資料を配布する。

【参考書】

「くらべてわかる野鳥 文庫版」叶内 拓哉著，山と溪谷社（2016）；「さとやま——生物多様性と生態系模様」鷲谷 いづみ（2011）；「観察する目が変わる植物学入門」矢野興一著，ベレ出版（2012）；「観察する目が変わる昆虫学入門」野村昌史著，ベレ出版（2013）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、夏休み自由研究課題（25%）、グループ研究課題の発表内容（25 %）から成績を評価する。平常点では、授業への真摯で積極的な関与、授業外で課した課題の達成度を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の目標を確認しながら進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

フィールドワークや実験の際には相応の服装や履物を準備する。文献検索、データの整理・分析、プレゼンでは、必要に応じてパソコンを使う。

【その他の重要事項】

生物や自然が大好きで、真摯に対応する人が望ましい。そこで、履修を希望する人は初回の授業の時までに、自然環境や生物に関する書籍をできるだけ読んでおくこと。グループ研究があるので共同作業は必須の授業である。

【Outline and objectives】

This seminar focuses on structure and function of nature such as biodiversity and matter cycle in the Tama region, including the forest of Tama Campus. In the spring semester, the students will learn how to study living organisms in the field and laboratory.

MAN200EB, MAN200EC, MAN200ED

演習 1

加藤 寛之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業調査と戦略論の基礎を学び、各人が産業調査マン・調査ウーマン企業戦略立案者になることを目指します。

【到達目標】

特定の地域産業の概要を各自で調べ上げることができるようになることが目標です。今年度は具体的には、人口減少の影響を大きく受けているであろう、産婦人科業界、幼稚園・保育園業界、学習塾業界、教育業界、アパレル産業、ブライダル産業等について、皆で調査します。戦略論の基本を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

最初はやさしめの本をやや大量に消化し、自分の言葉でレジュメを作成する練習をします。次に産業調査の方法について学び、最後に実際に自分で個別産業を調べるができるようになるように進めていきます。原則対面で実施し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	通年ガイダンス	ゼミの進め方・年間計画などについて
第 2 回	リサーチ・デザイン（1）	リサーチ・デザインとは何か
第 3 回	リサーチ・デザイン（2）	リサーチ・デザインの基本形
第 4 回	リサーチ・デザイン（3）	変数による思考
第 5 回	リサーチ・デザイン（4）	事例をいかに選択するか
第 6 回	リサーチ・デザイン（5）	因果関係のコンセプト
第 7 回	リサーチ・デザイン（6）	定量的因果推論の技法・ディスカッション
第 8 回	リサーチ・デザイン（7）	比較事例での因果推論技法・ディスカッション
第 9 回	リサーチ・デザイン（8）	単独事例での因果推論技法・ディスカッション
第 10 回	下調べ（1）	業種別審査辞典を読み込む（1）・ディスカッション
第 11 回	下調べ（2）	業種別審査辞典を読み込む（2）・ディスカッション
第 12 回	下調べ（3）	業種別審査辞典を読み込む（3）・ディスカッション
第 13 回	下調べ（4）	業界団体を調べる。（1）
第 14 回	下調べ（5）	業界団体を調べてる（2）
第 15 回	後期ガイダンス	後期のゼミの進め方について
第 16 回	夏休みの宿題の講評	夏休みの宿題の講評・ディスカッション
第 17 回	産婦人科業界（1）	産婦人科業界の業界構造の推移の把握・ディスカッション
第 18 回	産婦人科業界（2）	産婦人科業界でのイノベーションの把握・ディスカッション
第 19 回	幼稚園・保育園業界（1）	幼稚園・保育園業界の業界構造の推移の把握・ディスカッション
第 20 回	幼稚園・保育園業界（2）	幼稚園・保育園業界のイノベーションの把握・ディスカッション
第 21 回	学習塾業界（1）	学習塾業界の業界構造の推移の把握・ディスカッション
第 22 回	学習塾業界（2）	学習塾業界でのイノベーションの把握・ディスカッション
第 23 回	教育業界（1）	教育業界の業界構造の推移の把握・ディスカッション
第 24 回	教育業界（2）	教育業界でのイノベーションの把握・ディスカッション
第 25 回	アパレル産業（1）	アパレル産業の業界構造の推移の把握・ディスカッション
第 26 回	アパレル産業（2）	アパレル産業でのイノベーションの把握・ディスカッション
第 27 回	ブライダル産業（1）	ブライダル産業の業界構造の推移の把握・ディスカッション
第 28 回	ブライダル産業（2）	ブライダル産業の業界構造の推移の把握・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読み、消化することが求められます。また、授業時間内に発現するためには、指定した文献以外の文献を幅広く消化しておく必要があります。授業時間外の学習時間として、各2時間が求められます。

【テキスト（教科書）】

田村正紀『リサーチ・デザイン』白桃書房

【参考書】

様々な業界の業界団体のホームページおよび業界団体発行の資料を参考書とします。

【成績評価の方法と基準】

演習時の発表内容や発現頻度、運営への貢献度などによる平常点 (40%)

自身が設定した課題に対する取組度 (30%)

最終提出課題の内容 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

課題は盛りだくさんですが、取り組みやすい課題が多いとの意見が多いです。

【Outline and objectives】

To study how to research various industries.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

菊澤 佐江子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：家族と社会を考える

テーマに関するゼミ学習を通じて、研究過程の基礎を学ぶ。

【到達目標】

家族社会学の諸領域について理解を深め、研究の手がかりをつかむとともに、研究に関連する基礎的な事柄を理解し、各課題に応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、班単位による家族社会学の基礎文献の講読を通じて、家族社会学の主な研究領域について学びます。秋学期は、班単位で関心のあるテーマについて関連する文献を講読・発表しながら、そのテーマについて何が分かっているか、何が分からないのか、研究上の課題は何かを明らかにし、ゼミ論文にまとめることを目標とします。

授業は演習形式で、毎回、受講者の中から担当を決めて、文献の内容や、研究の進行状況について報告してもらい、議論する予定です。課題等へのフィードバックは、可能な限り各回の授業内で行います。課題によって「演習2」の受講生も交え、議論の充実を図る予定です。授業計画は概ね以下を予定しています（ただし、授業の展開等によって、若干変更の可能性あり）。進め方の詳細は、初回授業で説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	春学期授業の説明
2	図書館ガイダンス	春学期課題における図書館活用法の説明
3	今「家族」に何が起きているのか	新聞記事等を用いた報告と議論
4	文献講読 (1)	報告と議論
5	文献講読 (2)	報告と議論
6	文献講読 (3)	報告と議論
7	文献講読 (4)	報告と議論
8	文献講読 (5)	報告と議論
9	文献講読 (6)	報告と議論
10	文献講読 (7)	報告と議論
11	文献講読 (8)	報告と議論
12	期末レポート（初稿）の検討 (1)	検討会
13	期末レポート（初稿）の検討 (2)	個別指導
14	春学期の総括	期末レポート（最終稿）の提出と夏休み課題の説明
15	秋学期オリエンテーション	秋学期授業の説明
16	図書館ガイダンス	秋学期課題における図書館活用法の説明
17	共同研究報告 (1)	報告と議論
18	共同研究報告 (2)	報告と議論
19	共同研究報告 (3)	報告と議論
20	共同研究報告 (4)	報告と議論
21	共同研究報告 (5)	報告と議論
22	共同研究報告 (6)	報告と議論
23	共同研究報告 (7)	報告と議論
24	共同研究報告 (8)	報告と議論
25	共同研究報告 (9)	報告と議論
26	ゼミ論文の書き方	ゼミ論文の執筆方法の説明
27	ゼミ論文（初稿）の検討	検討会
28	秋学期の総括	ゼミ論文（最終稿）の提出とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読にあたっては、受講者全員が毎回必ず事前に文献を読み、要約とコメントをまとめた読書レポート（A4一枚程度）を作成したうえで議論に参加する。報告者は、効果的な報告・議論が出来るよう準備する。各課題（個別・グループ別）の達成に必要な活動（文献の探索・収集・講読、執筆、関連する打合わせ等）への取り組みが随時求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加（発表、議論への参加・貢献等）60%、課題（ゼミ論文・レポート等）40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

毎回出席し、議論に参加すること（一回以上発言すること）を原則とします。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to help students to acquire an understanding of the processes of sociological research, especially on family issues.

ECN200EB, ECN200EC, ECN200ED

演習 1

北浦 康嗣

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の基礎理論を踏まえた上で、データに基づいて議論できるような学生になることが目標です。とくに「行動経済学」を取り上げて、教員による講義部分を授業外に事前学習させた上で、ゼミ内での学習にもとづく演習を行わせる反転授業や、学生を少人数のグループに分け、与えられた課題に協同で取り組ませる方法によって理解を深めます。

【到達目標】

- ① 経済学的な発想ができる。
- ② 経済学的な効果についてグラフなどを用いて説明できる。
- ③ 行動経済学の枠組みを用いて、社会課題について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

まず、身近なことにも経済学という考え方が取り入れられていることを確認します。数式やグラフをほとんど用いずに、経済学的な発想を身につけることに重点を置きます。本年度も行動経済学を中心に勉強する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	行動経済学 ①	アノマリーについて解説します。
2	行動経済学 ②	ヒューリスティクスについて解説します。
3	行動経済学 ③	ヒューリスティクスについて対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
4	行動経済学 ④	ヒューリスティクスについて解説します。
5	行動経済学 ⑤	ヒューリスティクスについて対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
6	行動経済学 ⑥	プロスペクト理論について解説します。
7	行動経済学 ⑦	プロスペクト理論について対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
8	行動経済学 ⑧	プロスペクト理論について解説します。
9	行動経済学 ⑨	プロスペクト理論について対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
10	行動経済学 ⑩	双曲割引について解説します。
11	行動経済学 ⑪	双曲割引について解説します。
12	行動経済学 ⑫	双曲割引について対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
13	行動経済学 ⑬	双曲割引について解説します。
14	前期のまとめ	行動経済学について、理解したかどうかの確認を行います。

15	行動経済学 ⑭	ヒューリスティクスについて、グループ別に分けて、反転授業を行います。
16	行動経済学 ⑮	ヒューリスティクスについて対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
17	行動経済学 ⑯	ヒューリスティクスについてグループ別に分けて、反転授業を行います。
18	行動経済学 ⑰	ヒューリスティクスについて対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
19	行動経済学 ⑱	プロスペクト理論についてグループ別に分けて、反転授業を行います。
20	行動経済学 ⑲	プロスペクト理論について対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
21	行動経済学 ⑳	プロスペクト理論についてグループ別に分けて、反転授業を行います。
22	行動経済学 ㉑	プロスペクト理論について対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
23	行動経済学 ㉒	双曲割引についてグループ別に分けて、反転授業を行います。
24	行動経済学 ㉓	双曲割引について対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
25	行動経済学 ㉔	双曲割引についてグループ別に分けて、反転授業を行います。
26	行動経済学 ㉕	双曲割引について対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。
27	行動経済学 ㉖	フレーミングについてグループ別に分けて、反転授業を行います。
28	行動経済学 ㉗	フレーミングについて対話またはグループディスカッションを通して理解を深めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：

報告は Word や PowerPoint を使って行います。いずれの課題も演習時間外の準備が必要となります。（最低2時間以上）

復習時間：

議論の後、修正等して再提出するため、復習時間を設けます。（最低2時間以上）

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【参考書】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(20%) 課題・レポート(80%)で評価します。欠席は3回までとします。4回以上欠席すると単位認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

「出席は必ず毎回とってほしい」という意見がありましたので、授業開始後すぐに出席を取ることにします。

【Outline and objectives】

The goal is to be a student who can discuss based on "data-based" on the basic theory of economics. This class focuses on "behavioral economics" and incorporates the following approaches:

A method where students study in advance with lectures and have collaborative learning in the classroom.

A method where small groups are formed and students are given tasks to solve cooperatively.

ART200EB, ART200EC, ART200ED

演習 1

高 美智

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画研究の基本として、ショット分析の方法や、ジャンル批評・ジェンダー批評・歴史的批評など批評的視座を学び、映画を学術的に研究します。2021年度は主にジェンダーとセクシュアリティ表象を中心に扱います。

【到達目標】

映画研究の基礎を身につけ、映画を題材に、単なる映画レビューや感想文ではなく、学術的な視座から論文が書けるようになることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献の講読と映画作品の分析が基本。

演習2との合同授業（3限・4限の両時限に参加すること）

毎回、全員がレジメを作成し授業に参加し、グループで議論の後全体討議を行う。

授業の最後に講評という形でフィードバックを出す。

*毎回授業後に翌週の課題映画の鑑賞を行う（参加は必須）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期オリエンテーション	春学期授業の説明
第2回	映画分析入門・イデオロギー分析	論点の報告と作品分析・議論
第3回	映画分析入門・イデオロギー分析	論点の報告と作品分析・議論
第4回	映画分析入門・イデオロギー分析	論点の報告と作品分析・議論
第5回	無声映画における活動弁士の役割（文献購読）	無声映画における活動弁士の役割について文献を読む
第6回	無声映画における活動弁士の役割（ゲスト講義）	ゲスト講義 活動弁士の実演と歴史的役割についての講義
第7回	ジェンダー批評の基礎 女性性と映画（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第8回	ジェンダー批評の基礎 女性性と映画（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第9回	ジェンダー批評の基礎 男性性と映画（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第10回	ジェンダー批評の基礎 男性性と映画（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第11回	ジェンダー批評の基礎 LGBTQ映画とクィア映画 （文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第12回	ジェンダー批評の基礎 LGBTQ映画とクィア映画 （文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第13回	研究計画書の作成	夏のグループ研究に向けて計画書を作成する
第14回	先行研究のまとめ	先行研究のまとめ
第15回	秋学期オリエンテーション 夏休み課題の発表	秋学期授業の説明 夏休み課題の発表
第16回	夏休み課題の発表	夏休み課題の発表
第17回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論

第 18 回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 19 回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 20 回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 21 回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 22 回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 23 回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 24 回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 25 回	グループ研究 1（計画）	問いの設定、映画選択
第 26 回	グループ研究 2（中間報告）	先行研究の評価
第 27 回	グループ研究 3（中間報告）	映画分析・考察の確認
第 28 回	グループ研究 4（発表）	研究報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献購読にあたっては、受講者は毎回必ず念入りに文献を読み、指定されたやり方にしたがってレジメを作成したうえで討論に参加する。課題映画も必ず事前に視聴し、分析をしたうえで授業に参加することが必須。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業でプリントを配布する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・30%、課題 30%、学期末研究報告・レポート 40%

*学期中、特別な理由なく 3 回を超える欠席があった場合はゼミの継続を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

現代の娯楽作品だけでなく、古い作品や政治的な映画、芸術映画にも興味があり、映画を観ることに意欲的な学生の受講をすすめる。

【Outline and objectives】

In this course, the students will be introduced to the key theories in Film Studies. The course emphasizes an understanding of the historical, cultural, commercial, and aesthetic contexts that influence film, but also develops the students' understanding of a film's narrative and visual structure and its place within established theoretical traditions. The goal of the course is that the students will acquire the essential skills to analyze films.

HSS200EB, HSS200EC, HSS200ED

演習 1・2

越部 清美

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体文化や非言語コミュニケーションに関する知識を学び、実践を通して深めていく。自己のからだや動きについて意識化していく。

【到達目標】

自己の身体感覚や運動感覚が、人間のアイデンティティを構成する根源であることを理解し、各々の方法で自己表現できること。言語および非言語によるコミュニケーション能力の向上。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「からだ」や「身体文化」、「非言語コミュニケーション」に関する文献の輪読を行ったり、実際に自分の 5 感を使っている体感を行ったりする。また、個人によるテーマ研究とグループによるプロジェクトを計画している。小学校や福祉施設など、地域での活動も検討中である。高尾山ハイキング、ダンスフェスティバル等への参加、春・夏に合宿を予定している。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

授業計画は授業の展開によって若干の変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	顔合わせと打ち合わせ。係の決定
第 2 回	からだワーク①	五感を意識した実践トレーニング
第 3 回	からだワーク②	ボディワーク各種及び民族芸能
第 4 回	からだワーク③	ボディワーク各種及び民族芸能
第 5 回	チームプロジェクト①	グループごとに企画、打ち合わせ
第 6 回	チームプロジェクト②	現場において実施
第 7 回	振り返り	チームプロジェクトの反省
第 8 回	お楽しみ課題①	各々による表現課題の発表・鑑賞
第 9 回	文献購読・発表①	文献の読解と討議
第 10 回	文献購読・発表②	文献の読解と討議
第 11 回	文献購読・発表③	文献の読解と討議
第 12 回	文献購読・発表④	文献の読解と討議
第 13 回	お楽しみ課題②	各々による表現課題の発表・鑑賞
第 14 回	個人による研究報告会① まとめ①	各々による研究の中間報告・検討。春学期の振り返りと夏合宿の打ち合わせ
第 15 回	お楽しみ課題③	各々による表現課題の発表・鑑賞
第 16 回	からだワーク④	ボディワーク各種
第 17 回	チームプロジェクト③	グループごとに企画・打ち合わせ
第 18 回	チームプロジェクト④	現場において実施
第 19 回	個人による研究報告会②	各々による研究の中間報告・検討
第 20 回	文献購読・発表⑤	文献の読解と討議
第 21 回	文献購読・発表⑥	文献の読解と討議
第 22 回	文献購読・発表⑦	文献の読解と討議
第 23 回	文献購読・発表⑧	文献の読解と討議
第 24 回	お楽しみ課題④	二人表現課題の発表・鑑賞
第 25 回	からだワーク⑤	ボディワーク各種及び民族芸能
第 26 回	からだワーク⑥	ボディワーク各種及び民族芸能
第 27 回	お楽しみ課題⑤	グループ表現課題の発表・鑑賞
第 28 回	個人による研究報告会③ まとめ②	各々による研究報告の発表。秋学期の振り返りと春合宿の打ち合わせ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する情報収集を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講後に指示する。

【参考書】

開講後に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論（または報告書）20%、平常点（ゼミ運営・活動への参加状況）80%

【学生の意見等からの気づき】

学生たちが非言語コミュニケーションを学ぶことで、自分に自信を持ち、人として大きく成長できるよう働きかけていきたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve nonverbal communication ability.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

小林 直毅

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「メディア表象としての現代社会を読み解く」が、この演習のテーマです。とくに今年度は、まず春学期に「COVID-19 禍を生きること」の現状認識を深めて、そのような現代における「メディアとは何か」を問う根本的で基礎的な考察から始めます。その上で、秋学期には、映画、ドキュメンタリー番組、音楽、文学作品などのさまざまなメディア表象によって、近現代社会の何が、どのように描かれているのかを考えていきます。

【到達目標】

メディア研究は、どのようなメディアで、何が顕著に描かれ、語られ、記憶として共有されるのか、逆に、何が描かれず、語られず、忘却されていくのかを問うことから出発します。そこから、メディアで描かれ、語られ、記憶されている出来事の特徴を、現代史や現代社会の在り様として解明できるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期はテキストクリティークを中心に進めます。秋学期は研究成果を共同研究発表に集約していく作業が中心になります。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	問題関心の共有。
第2回	問題構成	課題の見取り図を作る。
第3回	テーマ概説	テキストと関連文献の概説。
第4回	「アールノート」	春学期前半のテキスト 5-35 頁の報告と討論
第5回	利己と利他	春学期前半のテキスト 36-69 頁の報告と討論
第6回	忘れたくないこと	春学期前半のテキスト 70-112 頁の報告と討論
第7回	コロナの時代と「メディア」への問い	中間総括
第8回	メディアと〈心の装置〉	春学期後半テキストの第1章の報告と討論
第9回	〈テクノロジーの文字〉と〈技術的無意識〉	春学期後半テキストの第2章の報告と討論。
第10回	現代資本主義と文化産業	春学期後半テキストの第3章の報告と討論
第11回	メディアの〈デジタル転回〉	春学期後半テキストの第4章の報告と討論
第12回	「注意力の経済」と「精神のエコロジー」	春学期後半テキストの第5章の報告と討論
第13回	メディア再帰社会のために	春学期後半テキストの第6章の報告と討論
第14回	総括討論	これまでのテキスト・クリティークの総括
第15回	近現代社会のメディア表象	共同研究と秋学期に向けたオリエンテーション
第16回	共同研究のラフデザイン	共同研究の計画の検討
第17回	野蛮な西洋文明	秋学期テキストの第1章の報告と討論
第18回	すれちがいが、集まる眼差し	秋学期テキストの第2章の報告と討論
第19回	水俣から流浪の風景へ	秋学期テキストの第3章の報告と討論
第20回	ドキュメンタリー番組・音楽・映画	テキスト後半に向けたオリエンテーション
第21回	「天然の美」という音楽を追って	秋学期テキストの第4章の報告と討論
第22回	演歌の源流	秋学期テキストの第5章の報告と討論
第23回	大衆文化の肉体	秋学期テキストの第6章の報告と討論
第24回	亡命ロシア人の東アジア	秋学期テキストの第7章の報告と討論
第25回	インディ・ジョーンズとパンスキング	秋学期テキストの第8章の報告と討論
第26回	映画と想像力	秋学期テキストの第9章の報告と討論

- 第 27 回 共同研究の取りまとめ 分担した研究成果の集約と検討
 第 28 回 共同研究発表の総括 共同研究の評価と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を読んで出席することは必須です。積極的な発言、討論への参加を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期：P・ジョルダノ（2020）『コロナの時代の僕ら』早川書房、石田英敬（2016）『大人のためのメディア論講義』ちくま新書。

秋学期：姜信子（2002）『安住しない私たちの文化——東アジア流浪——』晶文社

ドキュメンタリー番組：熊本放送（2003）『流転～追放の高麗人と日本のメロディー』

*ドキュメンタリー番組については開講後説明します。

【参考書】

年度初めに、「参考文献リスト」を配布します。

【成績評価の方法と基準】

分担報告 20 %、討論への参加の度合い 20 %、学年末のゼミ論文 60 %によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは実施していません。

【Outline and objectives】

Students will be able to understand contemporary society as media representation.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

齋藤 友里子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマ 「公平さと公共性」を手がかりに社会学的視角とロジックを学ぶ。

この演習の目的はふたつある。第一は、公共性・公平さ、そして共同性に関わる諸問題について考えることを通して「社会学的想像力」を鍛えること。第二は、科学的な考え方や説得の作法を身につけることである。

【到達目標】

自分自身の「社会学的な問題関心」を見つけるとともに、(自分のものかどうかに関わらず)「問い」に対する答えを、客観的・中立的な方法で見つけ、それを説得的に提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は「公平性・公共性」に関する基本的な文献を読む。目的は基本的な考え方やテクニカルタームをいくつか学習し、テーマを見つける「めがね」を作ることである。秋学期はグループごとに設定した研究テーマについて文献講読・資料収集・調査などにより研究を進める。この作業を通して、テーマに関する知識のみならず「疑問を明確にし、答えをみつけ、根拠を示して論じる」方法を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：ゼミの進め方	ゼミの進め方・レジュメ準備の方法などについて説明する
第 2 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された基本文献について担当者による発表と質疑応答を行う(3回以降も同様)
第 3 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 4 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 5 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 6 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 7 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 8 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 9 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 10 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 11 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 12 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 13 回	基本文献の講読・発表と議論	指定された文献に関する発表と質疑応答
第 14 回	資料収集の方法	社会学における基本的な資料収集の方法のいくつかを紹介する
第 15 回	各自の関心の発表	グループ研究のテーマを決定するため、各自の研究関心を発表し共有する
第 16 回	研究テーマの探索	グループ研究のテーマを決定するために各自のアイデアをひとつに練り上げる
第 17 回	研究テーマの探索	グループ研究のテーマを決定するために各自のアイデアをひとつに練り上げる
第 18 回	研究テーマの発表	グループ研究のテーマに関する質疑応答。研究の進め方について議論する
第 19 回	データ構築の方法	グループ研究で利用することの多い、データベースの使用方法を図書館で学ぶ

第 20 回	ゼミ研究進捗状況の報告	発表担当のグループがゼミ研究について進捗状況を報告し、他のグループとの討論を行うことで研究を進める（21回以降も同様）
第 21 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 22 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 23 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 24 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 25 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 26 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 27 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 28 回	次年度の研究に向けて	次年度の研究計画を議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は指定された文献を講読し理解する。これとともに、新聞・テレビ・ウェブや、各自の実生活の中で、テーマを見つけるべくアンテナをはる。秋学期はグループ研究のための作業を進める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加（発表・議論への参加）により評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is to learn "how to see and think sociologically", by looking at the issue of fairness, justice, and togetherness in our daily lives. Students should grasp the essence of "sociological imagination" and the scientific thinking as well.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1・2

吉田 公記

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、現代の欧米諸国における排外主義の問題を主要テーマとして研究を行う。

【到達目標】

①文献講読をとおして、排外主義の分析枠組みや各国事例の先行研究に関する知識を習得すること。②その知識を踏まえて各自で問いを設定して研究を行ない、ゼミ論文を執筆すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で進める。①文献講読では、報告担当者が要旨をレジュメにまとめ、全員で議論する。また、②定期的に各自の研究の進捗状況を報告し、教員や他の受講者がコメントする。提出物へのフィードバックは授業内に行なう。なお、授業計画は展開によって、若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の概要説明
2	個別研究報告	構想の報告①
3	個別研究報告	構想の報告②
4	個別研究報告	構想の報告③
5	文献講読（各国中心）	【排外主義の国際比較】序章・第 1 章
6	文献講読（各国中心）	【排外主義の国際比較】第 2 章
7	文献講読（各国中心）	【排外主義の国際比較】第 3 章
8	文献講読（各国中心）	【排外主義の国際比較】第 4 章
9	文献講読（各国中心）	【排外主義の国際比較】第 5 章
10	文献講読（各国中心）	【排外主義の国際比較】第 6 章
11	文献講読（各国中心）	【排外主義の国際比較】第 7 章
12	文献講読（各国中心）	【排外主義の国際比較】第 8 章
13	文献講読（各国中心）	【排外主義の国際比較】第 9 章
14	文献講読（各国中心）	【排外主義の国際比較】終章
15	秋学期ガイダンス	報告順等の決定
16	個別研究報告	中間報告 1 - ①
17	個別研究報告	中間報告 1 - ②
18	文献講読（分析枠組み）	Matt Golder, 2016
19	文献講読（分析枠組み）	Hans-George Betz, 1993
20	文献講読（分析枠組み）	Ronald Inglehart and Pippa Norris, 2017
21	個別研究報告	中間報告 2 - ①
22	個別研究報告	中間報告 2 - ②
23	文献講読（分析枠組み）	Jens Rydgren, 2005
24	文献講読（分析枠組み）	Elisabeth Carter, 2004
25	個別研究報告	最終報告①
26	個別研究報告	最終報告②
27	個別研究報告	最終報告③
28	まとめ	年間の研究内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告を担当する際のレジュメ作成や、各自の研究テーマに関するデータの収集・分析など。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

樽本英樹（編）2018『排外主義の国際比較』ミネルヴァ書房。

* 以下は論文（大学図書館で閲覧可能）

Matt Golder, 2016, "Far Right Parties in Europe," *Annual Review of Political Science*, 19: 477-497.

Hans-George Betz, 1993, "The New Politics of Resentment," *Comparative Politics*, 25(4): 413-427.

Ronald Inglehart and Pippa Norris, 2017, "Trump and the Populist Authoritarian Parties," *Perspectives on Politics*, 15(2): 443-454.

Jens Rydgren, 2005, "Is extreme right-wing populism contagious?," *European Journal of Political Research*, 44(3): 413-437.

Elisabeth Carter, 2004, "Does PR promote political extremism?," *Representation*, 40(2): 82-100.

【参考書】

宮島喬・佐藤成基（編）2019『包摂・共生の政治か、排除の政治か』明石書店。

【成績評価の方法と基準】

以下の配分を目安として、総合的に評価する。
 ・平常点（授業内の報告やコメントなどの評価）：50 %
 ・ゼミ論文：50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Through this course, students will study right-wing populism in contemporary Europe and the United States.

SES200EB, SES200EC, SES200ED

演習 1

島本 美保子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題の中で資源管理に関する諸問題、具体的には世界の食料、森林、エネルギーの動向についての知識を深め、これらの問題を分析するための方法論についても探索していきます。

【到達目標】

まず文献から世界の食料、森林、エネルギー等の資源管理について事実関係を理解できる事です。その次に環境問題の事実の背景について深く分析した文献を輪読することによって、課題解決のためには、方法論を伴った論理的考察が必要であることを気づく事です。またグループ研究で環境問題について能動的にリサーチし、論理的に課題を探索する手法を駆使することができるようになる事です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は基礎固め文献の輪読を行います。レジュメは毎回全員が書いてくるという方式で、レポーターに報告していただき、徹底的に議論します。その後マクロ（貿易や農林水産や資源政策）分析班とマイクロ（地域おこし等）分析班に分かれてリサーチを行い、それをもとに学部研究発表会のゼミ全体のプレゼンまとめ上げていきます。なお演習 I の時間で十分でない場合、サブゼミを行うことがあります。冬はより高度な文献の輪読を行い、論理的思考を身につけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介	自己紹介と役割分担の決定
2	生源寺『農業が・・・』	輪読（1）
3	生源寺『農業が・・・』	輪読（2）
4	鈴木『食の戦争』	輪読（3）
5	鈴木『食の戦争』	輪読（4）
6	島本『熱帯林・・・』	輪読（5）
7	和田『再エネ・・・』	輪読（6）
8	グループ研究に向けての	グループづくり
9	図書館の文献検索についての講習	Cinii、MagazinPlusなどを学ぶ
10	文献リサーチ①	グループ研究
11	文献リサーチ②	グループ研究
12	文献リサーチ③	グループ研究
13	グループ発表①	研究の進捗を報告、議論
14	グループ発表②	研究の進捗を報告、議論
15	PPTの講習	PPTの簡単な使い方を講習
16	班ごとのリサーチ	文献リサーチ
17	班ごとのリサーチ	文献リサーチ
18	中間報告	グループ研究中間報告
19	班ごとのリサーチ	文献リサーチ
20	班ごとのリサーチ	文献リサーチ
21	中間報告	グループ研究中間報告
22	学部研究発表会準備①	報告のストーリーについて話し合う
23	学部研究発表会準備②	学部研究発表会のリサーチ
24	学部研究発表会準備③	学部研究発表会のプレゼン作成
25	輪読1	スーザン・ジョージの輪読
26	輪読2	スーザン・ジョージの輪読
27	輪読3	スーザン・ジョージの輪読
28	1年間のまとめ	来年度に向けての検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界の食料、森林、エネルギー等について知識を集積したり、見聞を広めておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

生源寺真一 (2018)『農業がわかると、社会のしくみが見えてくる』家の光協会
 鈴木 宣弘 (2013)『食の戦争 米国の罠に落ちる日本』(文春新書) 新書。
 島本美保子 (2015)「熱帯林を中心とした国際的な森林保全」、『シリーズ環境政策の新天地 5 資源を未来につなぐ』第3章、岩波書店。

和田武 (2016) 『再生可能エネルギー 100%時代の到来』, あげび書房。
 スーザン・ジョージ著 (1984) 『なぜ世界の半分が飢えるのか』, 東京：朝日新聞社。

【参考書】

堤未果著 (2018) 『日本が売られる』, 幻冬舎新書。
 堤未果著 (2013) 『(株) 貧困大国アメリカ』, 岩波新書。
 杉山修一 (2013) 『すごい畑のすごい土 無農薬・無肥料・自然栽培の生態学』, 幻冬舎新書。
 鈴木達治郎・猿田佐世編 (2016) 『アメリカは日本の原子力政策をどうみているか』, 岩波ブックレット。
 青野由利 (2019) 『ゲノム編集の光と闇』, ちくま新書。
 暉峻 兼三編 (2003) 『日本の農業 150年—1850～2000年』, 有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

輪読のレジュメ 60%、夏休みの課題 10%、グループ研究における貢献度 10%、学部研究発表会への取り組み 10%、平常点 10%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習 2 の学生の演習 1 への参加度を高めるべきとの意見があり、少しずつ実現していきたい。

【その他の重要事項】

コロナ感染の様子次第ですが、春 (1泊2日) と夏 (2泊3日) に農村 (昨年度は新潟県柏崎市高柳町の門出集落) でフィールドワークを行います。田植え稲刈りや過疎山村の状況や村おこしについてのヒアリングなどを行います。学部研究発表会にも関連しますので、参加を前提とします。

【Outline and objectives】

We will explore the resource management in the environmental issues, deepening the knowledge about the trend of food, forest and energy of the world, and also the methodology to analyze these issues.

ARSk200EB, ARSk200EC, ARSk200ED

演習 1

JONATHAN D BROWN

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this course, students will investigate a number of social/cultural issues through readings, videos, and class discussions.

【到達目標】

- We will learn how to read and critique academic articles in English.
- We will learn how to verify and synthesize data across sources.
- We will learn how to discuss and debate important topics in the field at an academic level in English.
- We will learn how to report on other ideas and respond to those ideas through writing and oral presentations.
- We will learn basic research methods/approaches for conducting comparative investigations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. We will read English articles and watch videos about various social/cultural issues around the world and discuss them in class.
2. We will then prepare written summary-responses of the readings/videos and present them through both formal and informal presentations to the class.
3. We will work together as a class to identify similarities and differences, support and contradictions, and, strengths and weaknesses across the readings/videos.
4. At the end of the course, students will put together all that they learned into a final report/presentation.

Feedback will be given through comments applied directly on assignments.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course guidance; Get-to-know-one-another activity; Opening discussion on education
第 2 回	Education	"Time for School" documentary part 1; Part 1 discussion
第 3 回	Education continued	"Time for School" documentary part 2; Part 2 discussion
第 4 回	Education continued	Reading 1; Reading 1 discussion Hw: Reading 1 Summary & Reaction
第 5 回	Education continued	Reading 2; Reading 2 discussion; HW: Reading 2 Summary & Reaction
第 6 回	Education continued	"The Finland Phenomenon" documentary
第 7 回	Education continued	Documentary 2 discussion
第 8 回	Education continued	Reading 3; Reading 3 discussion HW: Reading 3 Summary & Reaction
第 9 回	Education continued	Reading 4; Reading 4 discussion HW: Reading 4 Summary & Reaction
第 10 回	Education continued	"Girl Rising" documentary part 1; Part 1 discussion
第 11 回	Education continued	"Girl Rising" documentary part 2; Part 2 discussion HW: Choose your presentation topic
第 12 回	Education continued	Learn how to make and give effective presentations in English; Work on presentations
第 13 回	Presentation 1	Presentations
第 14 回	Presentation 1 continued	Presentations

第 15 回	Poverty/Social class	Opening discussion on poverty/social class: India's "untouchables"
第 16 回	Poverty/Social class continued	"Daughters of Destiny - The Untouchables" documentary; discussion
第 17 回	Poverty/Social class continued	Reading 5; Reading 5 discussion HW: Reading 5 Summary & Reaction
第 18 回	Poverty/Social class continued	Reading 6; Reading 6 discussion HW: Reading 6 Summary & Reaction
第 19 回	Poverty/Social class continued	"People like us: Social class in America" documentary part 1; Part 1 discussion
第 20 回	Poverty/Social class continued	"People like us: Social class in America" documentary part 2; Part 2 discussion
第 21 回	Poverty/Social class continued	Reading 7; Reading 8 discussion HW: Reading 7 Summary & Reaction
第 22 回	Poverty/Social class continued	Reading 8; Reading 8 discussion HW: Reading 8 Summary & Reaction
第 23 回	Comparative research	Principles of conducting a comparative study part 1
第 24 回	Comparative research continued	Principles of conducting a comparative study part 2
第 25 回	Comparative research continued	How to write a research paper HW: Choose your research topic (Education, poverty, or social class)
第 26 回	Comparative research continued	Peer-review; work on Draft 2 HW: Final presentations
第 27 回	Final Presentations (Research paper topic)	Final presentations
第 28 回	Final Presentations continued	Final presentations Research paper final drafts due

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Materials provided by the instructor.

【参考書】

English-Japanese/Japanese-English Dictionary

【成績評価の方法と基準】

Summary & Response Papers: 20%

Presentations: 20%

Class Discussions/Activities: 30%

Research Paper: 30%

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

Laptop computer

【その他の重要事項】

All discussions, materials, and assignments will be done in English, so students need good English skills. More than a high-level of English skills, however, students need to have a high-level of motivation and a willingness to work hard and learn. I do not expect perfect English, but I do hope students will try and keep an open mind, not only with English but with the topics we investigate.

【Outline and objectives】

This course will help students develop the language, thinking, academic, and research skills they need to carry out comparative research in English. Students will learn how to critically read academic texts, summarize the main points, synthesize concepts across sources, and respond to the various sources covered in Class with their own ideas/opinions in both written essays and oral presentations.

SOS200EB, SOS200EC, SOS200ED

演習 1

白田 秀彰

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課題を遂行するにあたって、「計画し・実行し・報告する」という一連の作業手順を的確に行うこと。課題内容については、演習で固定化されている事項に加えて、ゼミ生の意向を斟酌して決める。また、社会に出て活動するにあたっての基礎的規律を実践する。

【到達目標】

「計画し・実行し・報告する」技法・技能を身につけることを目標とする。さらに、興味関心領域を社会的・法学的学問へと接続することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、形式面と内容面において大学生水準のレポートを書く技能を向上させる。秋学期は、指定されたテーマによる、フィールドワークの訓練と、グループ・プレゼンテーションを行う。ゼミ活動・連絡等では、Google Classroom を活用するので、対応しうる機器等を保有していることが条件となる。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面とはほぼ同内容の Zoom による演習となる可能性がある。演習に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。課題に対する講評は、Zoom または Google Classroom にて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	調べる 1	ライブラリツアーを行う。
2	調べる 2	データベース講習を行う。
3	調べる 3	テーマに沿って文献を発見する方法について指導する。
4	整理する 1	集めた文献や資料を整理する方法を指導する。
5	整理する 2	集めた資料を論文の形式に沿って構成する方法を指導する。
6	整理する 3	全体構成から段落構成へと構造的に配置する方法を指導する。
7	整理する 4	情報の取扱に関する法に関する講習を行う。
8	執筆する 1	レジュメ執筆にあたっての形式面を遵守できるよう指導する。
9	執筆する 2	指示された課題図書を整理する。
10	執筆する 3	レジュメを執筆し提出する。
11	執筆する 4	論文執筆にあたっての形式面を遵守できるよう指導する。
12	執筆する 5	指示された課題について文献調査し資料を集める。
13	執筆する 6	論文を執筆し提出する。
14	計画を立てる 1	夏合宿にて行う、実地調査・現地調査の計画を作成する。
15	前期提出論文の講評	前期に提出された論文についての講評を行う。
16	調査する 1	夏合宿で行った調査内容の資料整理を行う。
17	調査する 2	夏合宿での調査報告を行う。
18	調査する 3	指定されたテーマについての調査計画を作成する。
19	調査する 4	先の調査計画を実行する。
20	調査する 5	報告書形式での調査結果の報告を行う。
21	調査する 6	電子機器を用いた調査技法について練習を行う。
22	調査する 7	調査用機器の運用計画について。
23	調査する 8	調査用機器の実践的利用について。
24	制作する 1	調査内容を整理して、プレゼンテーションのシナリオを作成する。
25	制作する 2	シナリオに沿ってプレゼンテーションを作成する。
26	制作する 3	プレゼンテーションの事前試演を行い、問題点の発見と修正を行う。

27	報告する 4	秋学期での調査を総合し、プレゼンテーションを行う。全体を三分したうちの最初の三分の二。
28	報告する 5	秋学期での調査を総合し、プレゼンテーションを行う。全体を三分したうち残りの三分の一。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この演習は、「計画・実行・報告」を目的とするため、課外活動がほぼ毎月設定されている。年間予定は 4 月段階で決定されるため、不参加が許されない。自主的に情報収集したり、手配したりすることが強く要求される。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。新型コロナ状況下であるため、課外活動が不可能になる場合には、オンラインでの情報収集や発表になる可能性がある。

【テキスト（教科書）】

演習のテーマに沿ったものを適宜指示する。

【参考書】

演習中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

演習中に何度か小論文の提出を求める。また期末にゼミ論文を提出させる。小論文について 40%、ゼミ論文について 60%で評価を行う。単位取得できない学生は次年度の受講を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

演習ゆえ、授業改善アンケートの対象外。

【Outline and objectives】

Students are expected to plan, to practice and to report appropriately in the series of work procedures. Assignments are designated as seminar routine and also be decided in consideration of those who attend the seminar. In addition, practicing social standard is assigned in order to make a start in life.

This subject is aimed at achieving abilities to plan, to practice and to report. Furthermore, it is also aimed at connecting students' area of interest to sociological and juristic learnings.

POL200EB, POL200EC, POL200ED

演習 1・2

白鳥 浩

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治と国内政治の体系的理解

【到達目標】

政治学を通じて社会で要求される知見を獲得する。また、ゼミという小集団で要求される、今後社会で要請される協調性、社会性を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

政治は「未来の選択」であり、「可能性のアート」であるといわれる。そうした政治についてこのゼミでは学びます。

ゼミのテーマは「現代政治の分析」です。具体的には、国際、国内の政治過程におけるさまざまな問題を、理論的に分析することを目指します。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	日本政治のイントロダクション	日本の政治
2)	国内の政治分析 (1)	民主主義とは
3)	国内の政治分析 (2)	政策の決定者
4)	国内の政治分析 (3)	政府の形態
5)	国内の政治分析 (4)	日本の選挙
6)	国内の政治分析 (5)	日本の政党
7)	国内の政治分析 (6)	政党の発展
8)	国内の政治分析 (7)	比較政治
9)	国内の政治分析 (8)	圧力団体
10)	国内の政治分析 (9)	後援会
11)	国内の政治分析 (10)	地方自治
12)	国内の政治分析 (11)	首長
13)	国内の政治分析 (12)	議会
14)	国内の総合的政治分析	選挙制度と政党システム
15)	国際政治のイントロダクション	国際政治とは
16)	国際の政治分析 (1)	国際政治と国内政治
17)	国際の政治分析 (2)	国益
18)	国際の政治分析 (3)	国民国家
19)	国際の政治分析 (4)	国際統合
20)	国際の政治分析 (5)	民主的平和論
21)	国際の政治分析 (6)	欧州連合
22)	国際の政治分析 (7)	国際政治と国際経済
23)	国際の政治分析 (8)	安全保障
24)	国際の政治分析 (9)	国際機構
25)	国際の政治分析 (10)	ブレグジット
26)	国際の政治分析 (11)	テロとの戦争と暴力
27)	国際の政治分析 (12)	平和構築
28)	国際の総合的政治分析	国民国家と国際政治

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %。平常点 50 %。平常点は、発表、発言等のゼミ運営への積極的な貢献を中心に評価する。協調性、社会性を備えた学生同士の交流による平常点が重要である。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic knowledges for the writing of academic papers.

HIS200EB, HIS200EC, HIS200ED

演習 1

慎 蒼宇

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史」から現代社会・世界の諸問題を考える（入門編）

【到達目標】

①現代社会のなかの「歴史」への関心を深める、②文献を通じて歴史学の方法に慣れ親しむ、③テーマを立てて歴史的事実を探索するための資料調査・フィールドワークの方法の基礎を身につけることが大枠の目標です。歴史学入門、歴史認識問題、東アジアと日本の関係史、朝鮮半島の歴史、日本史・世界史の出来事などを幅広く取り扱います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は①と②に重点を置き、関心ある社会問題の発見と関連文献の講読、方法論の文献講読、ドキュメンタリー分析などによる歴史的思考の基礎作りをします。夏合宿では「社会の中の歴史・記憶」をテーマに史跡フィールドワークを行い、秋学期は③を重点にグループ学習で「企画展示」を構想します。ただし、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本演習の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期イントロダクション	演習1の方向・ゼミ運営に関する取り決め。自己紹介。共同文献講読の内容を決める。
第2回	【個人課題】-関心の所在	関心ある社会問題の一つ決め、関連する新聞記事などを探す
第3回	【個人課題】-関心の所在	関心ある社会問題の一つ決め、関連する新聞記事などを探す
第4回	【個人課題】-関心の所在	関心ある社会問題の一つ決め、関連する新聞記事などを探す
第5回	【学習方法の確認】	レジュメ、パワポ、レポートの作り方、資料調査の方法の確認（講義を含む）
第6回	【ゼミ課題Ⅰ】-歴史に触れる	全員共通の文献講読-歴史学入門。
第7回	【ゼミ課題Ⅰ】-歴史に触れる	全員共通の文献講読-歴史学入門。
第8回	【ゼミ課題Ⅰ】-歴史に触れる	全員共通の文献講読-歴史学入門。
第9回	【ゼミ課題Ⅰ】-歴史に触れる	全員共通の文献講読-歴史学入門。
第10回	【ゼミ課題Ⅱ】-現代の歴史認識を考える	全員共通の文献講読-歴史認識をめぐる問題
第11回	【ゼミ課題Ⅱ】-現代の歴史認識を考える	全員共通の文献講読-歴史認識をめぐる問題
第12回	【ゼミ課題Ⅱ】-現代の歴史認識を考える	全員共通の文献講読-歴史認識をめぐる問題
第13回	夏合宿準備会	夏合宿に関する準備学習

第14回	夏合宿	調査学習
第15回	秋学期イントロダクション	後期の予定+夏合宿の総括討議
第16回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループの形成/テーマの設定
第17回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	報告に向けた事前学習
第18回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	報告に向けた事前学習
第19回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	事前学習+調査
第20回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	中間報告+調査
第21回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	中間報告+調査
第22回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	中間報告+ゼミ研究発表会準備
第23回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループ①の発表
第24回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループ②の発表
第25回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループ③の発表
第26回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループ④の発表
第27回	【ゼミ課題Ⅲ】-テーマ型企画展示をつくる	グループ⑤の発表
第28回	まとめ	後期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共同講読の文献は購入し、報告者はレジュメを作成（あるいはパワーポイント）、ゼミ生は必ず読んでくること。報告に関する論文を提出する。また、個人・グループごとの課題への取り組みについても、積極的に関連書籍を読んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

演習の中で適宜選択する。

【参考書】

演習の中で適宜選択する。

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期の論文と報告の内容、ゼミでの討論への参加、貢献度などを総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【Outline and objectives】

The problem that modern society and the world are various is considered from "history".

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

鈴木 智道

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「〈日常生活〉の社会学」
日常、何気なく生活している上では、さして気にも留めないこと、普段であれば、やり過ぎしていたりするようなものにこそ、あえて立ち止まって、その「意味」を考えてみる価値がある——そのような問題意識を共有した上で、個人での活動とゼミ生全体での共同活動を組み合わせながら、社会的な発想や視点を培っていく。

【到達目標】

適切な「問い」を立てることと自らの研究を貫くオリジナルな視点にこだわりながら、自身で設定したテーマと格闘した成果をゼミ論としてまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で進める。
諸課題に対する講評等は、授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明・スケジュール確認
2	問題関心報告	選考時の問題関心の再報告
3	問いの立て方	文献の講読・課題の確認
4	サブゼミガイダンス	サブゼミ概要説明
5	テーマ設定①	第1次リサーチプロポーザル検討
6	テーマ設定②	第1次リサーチプロポーザル検討
7	テーマ設定③	第1次リサーチプロポーザル検討
8	テーマ設定④	第1次リサーチプロポーザル検討
9	サブゼミ調査報告	調査テーマの再検討
10	個人研究進展報告①	第2次リサーチプロポーザル検討
11	個人研究進展報告②	第2次リサーチプロポーザル検討
12	個人研究進展報告③	第2次リサーチプロポーザル検討
13	個人研究進展報告④	第2次リサーチプロポーザル検討
14	個人研究進展再報告	夏合宿に向けて
15	サブゼミ再調査①	調査のリデザイン
16	サブゼミ再調査②	調査結果の集計
17	サブゼミ再調査③	調査結果の検討
18	サブゼミ再調査④	調査結果のストーリー化
19	個人研究中間報告①	進展状況の報告と課題の確認
20	個人研究中間報告②	進展状況の報告と課題の確認
21	個人研究中間報告③	進展状況の報告と課題の確認
22	サブゼミ再調査⑤	調査報告に向けて
23	サブゼミ再調査⑥	調査報告に向けて
24	ゼミ論の作成に向けて①	形式要件の確認
25	ゼミ論節立て報告①	ゼミ論の構成をイメージする
26	ゼミ論節立て報告②	ゼミ論の構成をイメージする
27	ゼミ論節立て報告③	ゼミ論の構成をイメージする
28	ゼミ論の作成に向けて②	注意事項の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の収集、必要とされる文献の講読、構想の精緻化、レジュメの作成、ゼミ論の作成等、必要とされるすべての活動は、その都度、授業外での活動となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席・担当部分の報告・議論への参加を含むゼミへの参加度（50%）、およびゼミ論の執筆に至るプロセスとその最終的な水準（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to plan the details of individual research and write an academic essay on a sociological theme.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1・2

鈴木 智之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生活史の社会学」の実践の場をつくる。

他者の語りを聞くという作業を通じて、他者の経験と生活を理解する可能性を探求する。個人の生活の背後にある歴史的・社会的状況への想像力を養う。

【到達目標】

物語論的なアプローチの基本的な考え方を学習しつつ、「語る／聴く」ことの実践を通じて、「他者の経験」にアプローチするための方法を模索する。その上で、インタビュー（生活史の聞き取り）を通じて、他者の経験を受け取り、これを再構成し、伝える実践を重ねる。

本年度は、「病い」の語りを聴くことに関する基本文献の講読から始め、聞き取り調査の実践を通じて、他者の生のリアリティに迫ることを試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、「病い」と「障害」の経験に関する「文献講読」を行い、同時に他者の語りを聞く・読む・伝えるための実践的なトレーニングを行う。

秋学期は、共同研究として、ライフストーリーの「聞き取り」とその「分析」を行う。

その間に、個人研究の報告と討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	このゼミは何をしたらいいか
第2回	テキストの講読（1）	【傷ついた物語の語り手】
第3回	テキストの講読（2）	【傷ついた物語の語り手】
第4回	テキストの講読（3）	【傷ついた物語の語り手】
第5回	テキストの講読（4）	【傷ついた物語の語り手】
第6回	テキストの講読（5）	【傷ついた物語の語り手】
第7回	テキストの講読（6）	【傷ついた物語の語り手】
第8回	テキストの講読（7）	【傷ついた物語の語り手】
第9回	テキストの講読（8）	【傷ついた物語の語り手】
第10回	個人研究報告（1）	個人研究の構想を報告する（1）
第11回	個人研究報告（2）	個人研究の構想を報告する（2）
第12回	個人研究報告（3）	個人研究の構想を報告する（3）
第13回	個人研究報告（4）	個人研究の構想を報告する（4）
第14回	個人研究報告（5）	個人研究の構想を報告する（5）
秋学期第1回	共同研究報告（1）	インタビュー記録から問いを立てる（1）
第2回	共同研究報告（2）	インタビュー記録から問いを立てる（2）
第3回	共同研究報告（3）	インタビュー記録の読み込み（1）
第4回	共同研究報告（4）	インタビュー記録の読み込み（2）
第5回	共同研究報告（5）	インタビューに基づく研究報告（1）
第6回	共同研究報告（6）	インタビューに基づく研究報告（2）
第7回	共同研究報告（7）	インタビューに基づく研究報告（3）
第8回	共同研究報告（8）	インタビューに基づく研究報告（4）
第9回	共同研究報告（9）	「伝える」ための方法を考える
第10回	共同研究報告（10）	「伝える」ことを試みる（1）
第11回	共同研究報告（11）	「伝える」ことを試みる（2）
第12回	個人研究報告1	+ 共同研究報告書の作成
第13回	個人研究報告2	+ 共同研究報告書の作成（つづき）
第14回	個人研究報告3	+ 共同研究報告書作成（つづき）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の講読、ストーリーの構想、データの整理、個人研究レポートの作成など、課題はたくさんあります。たくさん勉強してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

A. W. フランク『傷ついた物語の語り手』ゆみる出版

【参考書】

岸・石岡・丸山『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』、有斐閣、2016年

【成績評価の方法と基準】

毎回の報告や討論への参加、聞き取り調査への参加、報告への貢献、その内容、個人研究レポートの内容などを総合的に評価（100％）します

【学生の意見等からの気づき】

正直なところ、ゼミの進め方については、試行錯誤が続いています。この「試行」につきあって、ともに新しい研究の進め方を考えてくれる人を求めています。

【その他の重要事項】

年間の予定は、ゼミ生の人数等によって変更されることがあります。

【Outline and objectives】

In this seminar, we inquire the possibility to understand the lives of others through the practices of biographic research.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

鈴木 宗徳

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代における批判的社会理論の可能性

【到達目標】

社会理論を精密に読解する力を養うとともに、現代の社会問題および社会変動を説明し批判する上でどのような理論枠組みが必要かについて、考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

担当教員の専門はドイツを中心とする社会学理論で、ゼミでも社会科学の主要な理論的著作の輪読をおこなう。ただし「理論のための理論」を探求することが目的ではなく、あくまで、われわれが直面する社会問題や社会変動を説明する枠組みとしてどのような理論が要請されているかを考えながら、それぞれの理論の可能性と限界について検討したい。

春学期はテキスト講読が中心となる。夏休みは研修旅行（フィールドワーク）を行ない、秋学期に各自が成果を報告書にまとめるとともに、学部研究発表会で発表を行なう。2011年は静岡県御前崎市の浜岡原発周辺を訪ね、反対運動家や市議会議員をはじめ地域の様々なアクターに話を伺った。2012年は被災地の復興を視察するため宮城県石巻市を訪ね、市議会議員、漁協、病院等に話を伺った。2013年は、大阪市釜ヶ崎の高齢の日雇労働者が集住する地域を訪ね、ホームレス支援、子どもの支援、高齢者への仕事の斡旋を行うNPO等で話を伺った。2年間の在外研究をはさみ、2016年は大阪市と京都市を訪ね、ヘイトスピーチ問題に取り組む在日朝鮮人の団体やジャーナリストらに話を伺った。2017年度は福島県福島市や郡山市を訪ね、原発事故被害への補償や被ばくの不安の問題にとり組む被害者団体や母親たちのグループ、農業団体等で話を伺った。2018年度は静岡県浜松市の日系ブラジル人労働者が集住する地域を訪ね、多文化共生政策や日本語学習支援の担当者、ブラジル人学校や保育園で話を伺った。2019年度は日雇労働者が多かった横浜市寿町で、医療、ホームレス支援、就労支援に携わる方々に話を伺った。2020年度は朝鮮学校をとりまく情勢と自治体による多文化共生施策について、横浜と川崎で話を伺った。

今年度は「外国人技能実習生問題」をテーマに訪問先を検討する予定である。

秋学期は、二冊目のテキスト講読と並行して、個人研究報告を行なってもらう。個人研究は教員と相談しながら進めてもらうが、どのようなテーマを選ぶかは（そのテーマについて指導できるより適切なゼミがほかにある場合を除いて）基本的に自由である。

「演習 1」（2年）と「演習 2・3」（3・4年）を連続する時間帯に設定し、もう一方のゼミにも（単位にはならないが）出席することを義務とする（毎週 100 分×2 コマの出席）。議論が充実するため、ゼミ生には好評である。授業時間割を計画する上で制約が生じることを理解した上で、希望票を提出してほしい。三月末の演習説明会に出席することを、希望票を提出する要件とする。

提出物については、翌週の演習もしくはメールを使ってフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス (1)	自己紹介など
第2回	ガイダンス (2)	研究の進め方について
第3回	3年生の研究報告	(1) (2)
第4回	3年生の研究報告	(3) (4)
第5回	テキスト講読 (1)	並行して研修旅行の準備 (1)
第6回	テキスト講読 (2)	並行して研修旅行の準備 (2)
第7回	テキスト講読 (3)	並行して研修旅行の準備 (3)
第8回	テキスト講読 (4)	並行して研修旅行の準備 (4)
第9回	テキスト講読 (5)	並行して研修旅行の準備 (5)
第10回	秋学期の研究計画の発表表	2・4年生による
第11回	テキスト講読 (6)	並行して研修旅行の準備 (6)
第12回	テキスト講読 (7)	並行して研修旅行の準備 (7)
第13回	テキスト講読 (8)	並行して研修旅行の準備 (8)
第14回	テキスト講読 (9)	並行して研修旅行の準備 (9)
第15回	テキスト講読 (1)	並行して2年生の研究報告 (1)
第16回	テキスト講読 (2)	並行して2年生の研究報告 (2)
第17回	テキスト講読 (3)	並行して2年生の研究報告 (3)
第18回	テキスト講読 (4)	並行して2年生の研究報告 (4)
第19回	2年生の研究報告 (5)	並行して学部研究発表会の準備 (1)
第20回	2年生の研究報告 (6)	並行して学部研究発表会の準備 (2)
第21回	4年生の研究報告 (1)	並行して学部研究発表会の準備 (3)
第22回	4年生の研究報告 (2)	並行して学部研究発表会の準備 (4)
第23回	4年生の研究報告 (3)	並行して学部研究発表会の準備 (5)
第24回	4年生の研究報告 (4)	並行して学部研究発表会の準備 (6)
第25回	3年生の研究報告	(1) (2)
第26回	3年生の研究報告	(3) (4)
第27回	テキスト講読	(5) (6)
第28回	テキスト講読	(7) (8)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

素晴らしいレジメを作ることに全力を注いでほしい。また、時間割が許すならば、鈴木が担当する「公共性と民主主義Ⅰ・Ⅱ」を履修すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期のテキストは、参加者と相談した上で第一回目のゼミで決める。候補は次の5冊である。

A. R. ホックシールド『管理される心——感情が商品になるとき』
ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体——ナショナルリズムの起源と流行』

ウルリッヒ・ベック『危険社会——新しい近代への道』

ブルーノ・ラトゥール『虚構の「近代」——科学人類学は警告する』
ピーター＝ポール・フェルバーク『技術の道徳化——事物の道徳性を理解し設計する』

これまでも毎年2～3冊ずつ、アーレント『全体主義の起源 3』、
ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』、
バウマン『コミュニティ』、ファノン『黒い皮膚・白い仮面』、石田勇治
『過去の克服』、アンダーソン『想像の共同体』、ブルデュー『ディスタ
ンクシオン』、ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主
義の精神』、ドゥルーズ『差異と反復』、フロム『自由からの逃走』、
フーコー『生政治・統治』、リッツァ『消費社会の魔術的体系』、ア
レント『人間の条件』などを、講読してきた。

【参考書】

必要な参考書は、授業内で適宜指示する。履修希望者は、担当教員が執筆した論文をDropBoxからダウンロードし(<http://ur0.link/sZeb>)、選考までに必ず一つ以上読んでおくこと。

【成績評価の方法と基準】

レジメと口頭発表の内容 (30%)、議論への参加姿勢 (30%)、ゼミ論文 (40%)。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

質問は担当教員にメールで連絡すること (munenori@hosei.ac.jp)。

【Outline and objectives】

This course explores the possibility of critical social theories in contemporary society.

ECN200EB, ECN200EC, ECN200ED

演習 1**関口 浩**

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地方分権時代における税財政システムおよび教育・福祉政策の研究」をテーマとする。

【到達目標】

本演習では、社会科（公民的分野）に源泉のある「財政学」を中心に研究し、卒業後に「学生時代には財政学を研究した」と胸を張っていえることと、将来にわたるゼミ生同士の友好を深めることを目標とする。「財政学」の知識の深めることはもとより、多面的なゼミ活動を通じて伝統を重んじつつ新しいものを創造できる能力を養い、協調性ある人間となることをゼミ3年間の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 「財政学演習」は、学年別ゼミと上級生との合併ゼミを実施している。「財政学演習1」は2年次で構成されるため、旧・教養課程段階で学ぶべき専門研究の基礎をまず固める必要がある。その上で、上級生の研究姿勢を見ながら、またその指導を受けながら、財政学研究に入っていく。

2. 新型コロナウイルス感染症対応が可能な場合は対面演習とする。また、演習冒頭で前時間の出席票相当提出物に受講者が記載した内容等に担当者が回答する。また個別に質問・照会したいことがある場合は演習中に担当者がそれを提起したとき、あるいは演習終了後に時間を設けるので、対面・遠隔ともに受講者はその場で解決するようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	3年間の演習計画説明	各年度の研究、ゼミ活動の説明
第2回	I. 財政学の文献輪読	税とは何か
第3回	I. 財政学の文献輪読	税の体系
第4回	I. 財政学の文献輪読	所得税
第5回	I. 財政学の文献輪読	法人税
第6回	II. 合同ゼミ合宿準備	報告論題の決定
第7回	II. 合同ゼミ合宿準備	報告目次の作成
第8回	III. 財政学基礎の習得	財政民主主義・財政学説史
第9回	III. 財政学基礎の習得	公債の意義と公債負担論
第10回	III. 財政学基礎の習得	日本の予算決算制度・市場の失敗・費用便益分析
第11回	III. 財政学基礎の習得	社会保障財政・教育財政
第12回	III. 財政学基礎の習得	租税理論
第13回	II. 合同ゼミ合宿準備	報告論文執筆経過報告
第14回	II. 合同ゼミ合宿準備	報告論文執筆討論
第15回	合同ゼミ研究報告会	沖縄国際大学前村財政学演習と第24回合同ゼミ研究報告会を令和3年度は沖縄開催。
第16回	IV. 『財政学研究』編集	合同ゼミ合宿の成果を報告
第17回	IV. 『財政学研究』編集	『財政学研究(第25巻)』編集作業開始
第18回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(租税の概念)
第19回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(租税の基本概念)
第20回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(租税の作用)
第21回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(租税原則と租税体系)
第22回	IV. 『財政学研究』編集	『財政学研究(第25巻)』編集中間報告
第23回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(個人所得税)
第24回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(法人税)
第25回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(付加価値税)
第26回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(資産課税)
第27回	I. 財政学の文献輪読	租税論文献輪読(日本税制論)
第28回	IV. 『財政学研究』編集	『財政学研究(第25巻)』編集最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ初年度は「財政学」の知識がないといえる。毎回、前時間に指示した教科書該当箇所を2時間以上かけて丹念に通読し、分からない点を明らかにしておく。各回のゼミ終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、教科書、配付資料や演習問題を頼りに2時間以上かけて復習すること。

【テキスト（教科書）】

佐藤進・関口浩『財政学入門【新版】』同文館、令和元年。

【参考書】

[1] 池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、平成31年。

[2] その他の参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

報告資料作成水準(40%)、出席票記述事項(30%)、『財政学研究』論文執筆水準(30%)で総合して、ゼミ活動への取り組み状況(100%)を評価する。詳細はゼミ活動を通じて説明するので日々確認してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

忍耐力と協調性を有したゼミ生が増えてつつある。上級生の姿勢からよく学び、ゼミ生として誇りある行動をとって欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

遠隔演習を受信したり、学習支援システムの掲示を閲覧・印刷等できる装置を、大学の貸与を含めて、受講者各自で準備されたい。

【その他の重要事項】

1. 財政学の文献を教材とした「外書講読(社会政策科学)1A・1B」(水・3限)の受講を、原則ゼミ登録の要件とする。財政学の理解を深めるためである。必修科目等との重複がある場合等は事前に相談の上指示を受けること。
2. ゼミ所属3年間のできるだけ早い時期に、「財政学I・II」(火・2限)、「地方財政論」(水・秋学期3限)をすべて受講すること。
3. ゼミホームページ(<http://sekiguchizemi.ws.hosei.ac.jp>)か停止中の(<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/~sekiguch/>)を参照。

【Outline and objectives】

We learn knowledge of "the public finance" and will be a cooperative human being.

LAW200EB, LAW200EC, LAW200ED

演習 1

長沼 建一郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会問題への政策対応を主たるテーマとして、大学生としての、さらには社会人としても通用する高度な学問的センス——とくに論理的な思考力・物事を判断する能力——を涵養します。

【到達目標】

学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

社会問題（おもに社会保障・福祉、雇用・労働、生命倫理など）のなかから、各参加者が興味のあるテーマを取り上げて、報告および討議を中心に進めていきます。

担当教員は、政策論・法的分析を専門としており、また年金や介護関係を中心的な研究領域としていますが、この演習ではそれらに限定せず、幅広いテーマを取り上げ、多様なアプローチを試みたいと思います。

現代社会の諸問題について、自分の頭で考えて、判断を下す能力を養うことが目標です。

とりあえず春学期は、基本的なテキストを会読するとともに、いくつかの具体的な政策問題（基本文献・新聞記事・裁判例等）を中心に運営・討議したいと思っています。

秋学期以降は、参加者の興味・関心によって、各回で扱うテーマを決めていきたいと思っています。あわせて学部研究発表会も見据えて、共通テーマを検討する機会も探ります。

レポート等の課題については、ゼミ内で個々にコメントしつつフィードバックします。ゼミ生相互の査読も重視します。

なお定期的に、演習2との合同開催を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期のガイダンス	スケジュールの確認、ゼミで学ぶことの確認
2	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目(1)	文献の読解方法
3	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目(2)	討議への参画方法
4	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目(3)	文献の収集・分析方法
5	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目(4)	統計・資料の収集・分析方法
6	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目(5)	報告資料の作成方法
7	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目(6)	レポート・論文の執筆方法
8	社会問題への政策対応(1)	社会保障を中心とした問題群の検討
9	社会問題への政策対応(2)	社会福祉・福祉国家を中心とした問題群の検討
10	社会問題への政策対応(3)	雇用・労働を中心とした問題群の検討
11	社会問題への政策対応(4)	生命倫理を中心とした問題群の検討
12	社会問題への政策対応(5)	家族・企業を中心とした問題群の検討
13	社会問題への政策対応(6)	小括、各報告へのフィードバック
14	論文執筆に向けて	論文執筆のテーマ報告と相互討議
15	学部研究発表会準備(1)	発表テーマの検討・選定
16	社会問題の個別問題(1)	第1グループの執筆論文の報告と討議
17	社会問題の個別問題(2)	第2グループの執筆論文の報告と討議
18	社会問題の個別問題(3)	第3グループの執筆論文の報告と討議
19	学部研究発表会準備(2)	発表内容の検討
20	社会問題への具体的政策対応(1)	第1グループの報告と討議
21	社会問題への具体的政策対応(2)	第1グループの報告へのフィードバックとフォローアップ

22	社会問題への具体的政策対応(3)	第2グループの報告と討議
23	学部研究発表会準備(3)	発表内容の決定、リハーサル
24	学部研究発表会準備(4)	発表内容の精査、最終リハーサル
25	社会問題への具体的政策対応(4)	第2グループの報告へのフィードバックとフォローアップ
26	社会問題への具体的政策対応(5)	第3グループの報告と討議
27	社会問題への具体的政策対応(6)	第3グループの最終へのフィードバックとフォローアップ
28	まとめと振り返り	総括、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の討議等に積極的に参加できるように確実に準備してくる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期は、基本的なテキストを選定するとともに（『人口減少社会のデザイン』あるいは『変わる福祉社会の論点』が一応の候補）、具体的な裁判事例や政策問題に関する資料や文献を配布します。秋学期は、個々の報告が中心となります。

【参考書】

演習内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告、討議参画等）（80%）及びレポート提出（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【その他の重要事項】

担当教員は理論研究・制度研究を主としてやっていますので、このゼミでも、多角的に物事を考えて、判断を下す能力を磨く機会は提供できると思います。また人前で話す力、討議に参画する力やレポート執筆能力も、ゼミで努力すれば、経験的にはかなり上達します。

【Outline and objectives】

This seminar deals with social problems and social policies.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

藤代 裕之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

制作と研究を通してソーシャルメディア時代の情報生態系の設計を学びます。ソーシャルメディアを中心に、様々なメディアの特徴や構造を理解し、情報が伝わる仕組みを考えます。

【到達目標】

面白いと思ったり、違和感を持ったり、何気ない日常で感じる自分の問題意識を理解して「視点」を獲得する。紙、ウェブ、ソーシャル、イベントなど、様々なメディアの特徴を理解し、その構造を捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義と実習を組み合わせて行います。春学期は、ゼミ紹介冊子の制作を通して、自分の問題意識を理解し、メディアの特徴と構造を学びます。夏休みに取材合宿を行い、秋学期は制作を進めながら、研究に取り組むことで「視点」を獲得します。制作や研究に対するコメントをフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	方針の確認と自己紹介
第 2 回	制作	インタビューの手法
第 3 回	制作	インタビューの実施
第 4 回	制作	記事執筆の手法
第 5 回	制作	記事執筆の実施
第 6 回	制作	関心の整理
第 7 回	制作	関心の整理の議論
第 8 回	制作	事例の検討
第 9 回	制作	事例の検討の議論
第 10 回	制作	構造分析の手法
第 11 回	制作	構造分析の実施
第 12 回	制作	レイアウトの手法
第 13 回	制作	レイアウトの実施
第 14 回	制作	制作の振り返り
第 15 回	ガイダンス	方針の確認
第 16 回	研究	研究テーマの検討
第 17 回	研究	研究テーマの調査
第 18 回	研究	研究テーマの整理
第 19 回	研究	先行研究の検討
第 20 回	研究	先行研究の調査
第 21 回	研究	先行研究の整理
第 22 回	研究	調査設計の検討
第 23 回	研究	調査設計の整理
第 24 回	研究	調査実施の検討
第 25 回	研究	調査の実施
第 26 回	研究	調査の整理
第 27 回	研究	調査の分析
第 28 回	研究	調査のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外の準備が相当時間必要です。土日、長期休暇を利用しての合宿、他大学との合同ゼミへや学会への参加などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間以上です。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。活動に対する取り組みで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、カメラ、デザインソフトなどを使用します。大半がゼミに用意してありますが、パソコンは購入する必要があります。

【その他の重要事項】

表現活動に大切なのは好奇心です。人と異なっている、自分の考えを大切にすることが重要です。ソーシャルメディア時代のメディア実践や研究にはテクノロジーへの理解が必須になりますが、ゼミ生同士の勉強会や講師を招いての講座で学ぶことが出来ます。

【Outline and objectives】

This seminar will focus on practice and research of communication design in social media.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

武田 俊輔

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化とまちづくりから見る地域社会というテーマについて、文献の講読とフィールドワークを通じて学ぶ。

【到達目標】

都市・農山漁村における文化、祭り・イベント、観光、まちづくり、メディアなどを手がかりとして、地域社会について分析できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面の授業となるが、オンラインになる可能性もある。

4 年生で卒業論文を書けるようになるための一里塚として (1) 文献の読解、(2) 学外での共同でのフィールドワーク、(3) ゼミ論の執筆を行う。

文献は文化社会学・地域社会学・都市社会学を中心とするが、社会学の古典的著作をできるだけ選ぶつもりである。また休暇中のフィールドワークを予定している。ただしコロナウイルスの今後の流行状況によっては、中止・延期の可能性もある。

年度の最後にゼミ論の提出を求める。

リアクションペーパーは特に設けないが、毎回の報告に対する質疑応答を通じて、学生の理解に資するものとする。

なお授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの目的と進め方についての説明、文献担当の決定
2	入門的な文献の講読 (1)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (1)
3	入門的な文献の講読 (2)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (2)
4	入門的な文献の講読 (3)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (3)
5	入門的な文献の講読 (4)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (4)
6	入門的な文献の講読 (5)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (5)
7	入門的な文献の講読 (6)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (6)
8	入門的な文献の講読 (7)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (7)
9	入門的な文献の講読 (8)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する入門的な文献の講読 (8)
10	フィールドワークに向けた文献講読 (1)	フィールドワークに向けた文献講読 (1)
11	フィールドワークに向けた文献講読 (2)	フィールドワークに向けた文献講読 (2)
12	フィールドワークに向けた文献講読 (3)	フィールドワークに向けた文献講読 (3)
13	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (1)	夏期休暇中のフィールドワークに向けたレジュメと質問項目の作成 (1)
14	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (2)	夏期休暇中のフィールドワークに向けたレジュメと質問項目の作成 (2)
15	フィールドワークの成果報告とディスカッション (1)	夏期休暇中のフィールドワークの成果のまとめ (1)
16	フィールドワークの成果報告とディスカッション (2)	夏期休暇中のフィールドワークの成果のまとめ (2)
17	基礎的文献の講読 (1)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (1)
18	基礎的文献の講読 (2)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (2)
19	基礎的文献の講読 (3)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (3)
20	基礎的文献の講読 (4)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (4)

21	基礎的文献の講読 (5)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (5)
22	基礎的文献の講読 (6)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する古典的文献の講読 (6)
23	基礎的文献の講読 (7)	春季休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (7)
24	フィールドワークに向けた文献講読 (1)	春季休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (1)
25	フィールドワークに向けた文献講読 (2)	春季休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (2)
26	フィールドワークに向けた文献講読 (3)	春季休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (3)
27	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (1)	春季休暇中のフィールドワークに向けたレジュメと質問項目の作成 (1)
28	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (2) とまとめ	春季休暇中のフィールドワークに向けたレジュメと質問項目の作成 (2)、および 1 年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成。共同でのフィールドワーク。フィールドワークのための下調べやその内容のまとめ、学生同士のディスカッションと成果報告の準備。ゼミ論の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミの時間に指示する。

【参考書】

初回、また必要になるごとに文献リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

文献報告のレジュメの内容 (25%)
 討論への参加度 (25%)
 フィールドワークでの貢献度 (25%)
 ゼミ論の内容 (25%)

【学生の意見等からの気づき】

学生間のディスカッションをより活性化させるべく、グループワークを行う。

【その他の重要事項】

フィールドワークを実施できる場合は、授業時間外に学生のみで下調べやディスカッションの時間を持つこと。時間については初回に相談する。

【Outline and objectives】

Studying local communities and culture through reading books and fieldwork.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

田嶋 淳子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コロナ禍の地域社会を考える

【到達目標】

日本地域社会の変容プロセスを対象として、さまざまな社会現象から社会的な視点で問題を自らテーマ化できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

サブ・グループごとに問題を設定し、文献の講読と議論、発表を進める。社会調査の方法の基礎をさまざまなフィールドワークを通じて学んでいきます（2020年度の調査はオンラインで実施しました）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方について	概要紹介
2	社会学入門一歩前	文献検索の方法（統計資料等の読み方）および観察記録
3	テキストの概説と参考文献について（図書館利用）	東京に関する資料の収集
4	身近な地域を歩く	コロナ禍の変容を自らの視点で描く（写真撮影）
5	移住の社会学事始め（1）	これまでの地域社会研究を振り返る
6	移住の社会学事始め（2）	昨年度のゼミ論を分担に応じて報告
7	移住の社会学事始め（3）	テキスト『田嶋ゼミの東京スタディーズ Part III』から自らのテーマを考える。
8	移住の社会学事始め（4）	長年にわたり、地域社会で活動されてきた方をお呼びし、ゼミでのインタビュー。
9	フィールドの何が問題かを考える	先輩たちの論文に学ぶ。
10	テーマ設定	グループ発表準備作業
11	グループ研究発表（1）	グループ発表準備作業
12	グループ研究発表（2）	グループごとの研究発表（個人テーマの明確化）
13	夏休み調査計画	夏休み中に実施する調査計画の発表
14	前期末まとめ	レポートの提出
15	調査結果の集約	秋学期の発表へ向けた調査結果の確認
16	インタビューデータの集約	分析方法を学ぶ
17	プレゼンテーションの作法（1）	発表の仕方を学ぶ
18	プレゼンテーションの作法（2）	プレゼンテーション準備作業
19	プレゼンテーションの作法（3）	プレゼンテーションを作成
20	プレゼンテーションの作法（4）	サブ・ゼミ谷での発表
21	個人テーマ化へのアプローチ（1）	問題意識を深化させる
22	個人テーマ化（2）	文献の再検索
23	個人テーマ化（3）	統計資料の扱い方
24	個人テーマ化（4）	補足的なインタビュー調査
25	個人テーマ化（5）	個人テーマにもとづく発表
26	ゼミ・レポート作成準備作業	レポートを書くために
27	ゼミ・レポート準備（2）	レポートを書くために
28	ゼミ・レポート作成への道しるべ	集大成としてのレポートへ向けた取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書との発表とレポート作成。課題図書についてはグループごとの読み合わせと討論のまとめ・その結果を次回ゼミで発表する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. ゼミ論集 2020 年、『田嶋ゼミの東京スタディーズ Part III』法政大学社会学部。
2. 社会調査実習報告 2020 『グローバル化の中の池袋 Part II』法政大学社会学部。
3. 社会調査実習報告 2010 『グローバル化の中の池袋－中国系移住者コミュニティとは－』
4. 社会調査実習報告,2019『多文化共生のありかを求めて Part III』法政大学社会学部。

【参考書】

1. 田嶋淳子 2010 「アジア系移住者をめぐる調査－新宿・池袋調査からの 20 年」『社会と調査』第 4 号, 有斐閣。
2. N. ハイナー、田嶋淳子訳 1997 『ホテル・ライフ』ハーベスト社。
3. 田嶋淳子著、2010 年、『国際移住の社会学－東アジアのグローバル化を考える』明石書店。
4. 田嶋淳子,1998 『世界都市・東京のアジア系移住者』学文社。

【成績評価の方法と基準】

演習における課題の報告（20%）、春学期レポート（30%）、ゼミ内発表会（20%）および最終レポート（30%）によって総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Students will be given an opportunity to ponder the Local Community of COVID - 19.

MAN200EB, MAN200EC, MAN200ED

演習 1・2

多田 和美

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、「国際社会における多国籍企業の経営戦略と組織」をテーマとしています。国際経営論を主要領域に、今日の世界変化を踏まえて、社会と企業がともに発展していくための国際経営活動を考察することを目的とします。演習では、主に基本文献の輪読と日本多国籍企業の事例研究に取り組みます。この学習内容を踏まえて、実証研究にも挑戦します。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営の基本理論を理解し、実践的に活用できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を説得的に提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で実施します。受講者は、ただ出席するだけでなく、積極的に発言するなどの能動的な受講が望まれます。課題を提示した際は、次の授業回で解説するなど随時フィードバックします。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	国際経営と環境	文献購読とディスカッション
第3回	国際経営の利点と課題	文献購読とディスカッション
第4回	国際経営の理論①	文献購読とディスカッション
第5回	国際経営の理論②	文献購読とディスカッション
第6回	国際経営の基本視座①	文献購読とディスカッション
第7回	国際経営の基本視座②	文献購読とディスカッション
第8回	国際マーケティング	文献購読とディスカッション
第9回	海外生産	文献購読とディスカッション
第10回	国際研究開発	文献購読とディスカッション
第11回	国際パートナーシップ	文献購読とディスカッション
第12回	国際人的資源管理	文献購読とディスカッション
第13回	国際経営と CSR	文献購読とディスカッション
第14回	小括	ディスカッション
第15回	事例研究の方法	文献購読と議論
第16回	研究計画	リサーチ・クエスチョン、研究対象、研究方法
第17回	先行研究の検討と分析枠組①	文献レビュー①
第18回	先行研究の検討と分析枠組②	文献レビュー②
第19回	企業調査①	パイロット・スタディ
第20回	企業調査②	1次データと2次データの収集①
第21回	企業調査③	1次データと2次データの収集②
第22回	企業調査④	1次データと2次データの収集③
第23回	事例分析①	データの分析①
第24回	事例分析②	データの分析②
第25回	事例研究のまとめ①	事例研究の結論・含意・課題
第26回	事例研究のまとめ②	事例研究の発表準備
第27回	研究発表①	発表とディスカッション①
第28回	研究発表②	発表とディスカッション②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究課題に向けて相応の授業時間外の学習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業内で提示します。

【参考書】

下記の文献のほか、適宜授業内で提示します。
田村正紀（2006）『リサーチ・デザイン』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢：70%、課題の完成度：30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

随時、受講生との意見交換を実施し、授業内容の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、適宜連絡します。

【Outline and objectives】

The course is mainly composed of the followings:

- 1) Review of basic literature on international business
- 2) Discussion about theoretical topics of international business
- 3) Case study of Japanese multinational company
- 4) Writing a report on international business
- 5) Empirical research

POL200EB, POL200EC, POL200ED

演習 1

谷本 有美子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、人口減少期の都市自治体の政策課題を対象に、マルチステークホルダー・パートナーシップを通じた課題解決の可能性を、市民自治の理念から探求することを目的としています。

主に東京圏の都市自治体における人口減少期の公共的な政策課題に着目し、それらの課題解決に関わる企業・NPO・地域団体などの多様な主体と自治体との関係や、提供されている資源の現状を分析します。さらに民主的統制の側面からの検討も加えつつ、21 世紀における都市自治体のマルチステークホルダー・パートナーシップによる政策展開の可能性を実践的に検討していきます。

【到達目標】

- ・自治体の政策課題の基本的事項について、理解を深める
- ・チームによる政策検討の説明力、討議力、思考力を身につける
- ・プレゼンテーションスキルを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期前半は、指定した文献について担当を決め受講生が順次内容をレポートする形式で進めます。後半は、都市自治体における具体的な課題や実践事例を用いたグループディスカッションを行います。秋学期は、各々の卒論テーマに関連する自治体の政策課題について受講生による報告（問題提起）とそれに対するグループ討議を行っていきます。発表やレポート等に対する講評は適宜行い、授業内で全体にフィードバックします。

なお、授業計画は受講生の関心に応じて、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス－自治体と政策課題	自己紹介とゼミの進め方についての説明
第 2 回	21 世紀の自治体を取り巻く課題	人口減少期の自治体が抱える政策課題についての概要説明と討議
第 3 回	テキスト報告の担当決め	テキストの紹介と報告担当者の決定
第 4 回	テキストの輪読 (1)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 5 回	テキストの輪読 (2)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 6 回	テキストの輪読 (3)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 7 回	テキストの輪読 (4)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 8 回	テキストの輪読 (5)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 9 回	テキストの輪読 (6)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 10 回	テキストの輪読 (7)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 11 回	テキストの輪読 (8)	受講生が担当の章を報告し、内容について討議する
第 12 回	テキストの総括	テキストから学んだ自治体の政策課題と関連事項を検討する
第 13 回	研究テーマの抽出と検討－グループワーク	テキストの内容を中心に、秋学期の検討テーマを選択する
第 14 回	自治体調査の計画づくり	夏季休業中に予定する自治体調査の計画を立てる
第 15 回	自治体の政策課題の検討 (1)－グループワーク	春学期に選択した政策課題についてグループで解決案を検討する
第 16 回	自治体の政策課題の検討 (2)－グループワーク	春学期に選択した政策課題についてグループで解決案を検討する
第 17 回	自治体の政策課題の検討 (3)－グループワーク	春学期に選択した政策課題についてグループで解決案を検討する
第 18 回	課題解決案の発表 (1)	グループで検討した政策課題の解決案を発表する
第 19 回	課題解決案の発表 (2)	グループで検討した政策課題の解決案を発表する
第 20 回	課題解決案の発表 (3)	グループで検討した政策課題の解決案を発表する

第 21 回	グループ研究のまとめ	グループが発表した内容をもとに政策の展開図を作成・俯瞰する
第 22 回	研究案の作成	卒論に予定するテーマについて、研究案を作成する
第 23 回	研究案の提示とディスカッション (1)	各自の研究案を報告し、内容について討議する
第 24 回	研究案の提示とディスカッション (2)	各自の研究案を報告し、内容について討議する
第 25 回	研究案の提示とディスカッション (3)	各自の研究案を報告し、内容について討議する
第 26 回	研究案の提示とディスカッション (4)	各自の研究案を報告し、内容について討議する
第 27 回	研究案の提示とディスカッション (5)	各自の研究案を報告し、内容について討議する
第 28 回	ふりかえりと総括	次年度に向けた課題整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

テキスト購読のレジュメ作成、グループワークと発表の事前準備、研究テーマの発表準備等、授業前に指示された準備作業を行う。討議内容のメモを取り、検討したことの振り返りや論点整理等を自主的に行う。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

柴田直子・松井望『地方自治論入門』（ミネルヴァ書房）

その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内の報告 40 %、討議への参加姿勢 30 %、卒論研究案の提出 30 % を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や個別研究課題に即して、補足説明や追加資料の配付等を行います。

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is from the aspect of the philosophy of citizens' self-government to explore the possibility of solving the policy issues of municipalities in the declining population term through multi-stakeholder partnerships.

Focusing on public policy issues during the declining population period, mainly in municipalities in the Tokyo metropolitan area, we'll analyze the resources provided to public problems by local governments and various actors, such as companies, NPOs and local organizations. In addition, we will consider the possibility of policy development through multi-stakeholder partnership at urban municipalities in the 21st century, while taking into account democratic control.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

津田 正太郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではメディアに関する基本的な知識を学ぶとともに、広い意味でのメディア現象について政治学・社会学的な観点からグループ研究を行う。

【到達目標】

この演習の目標は、参加者が現代社会におけるメディアの役割に関する理解を深めるとともに、分析のための視角や手法を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この演習では基本的な文献の輪読を行い、メディアに関する基礎知識や調査のための方法論を学ぶ。また、グループに分かれて、それぞれの興味関心に沿ったテーマについて研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	今年度の演習を進めていくための基盤整備	ゼミ運営
第 2 回	文献輪読『質的社会調査の方法』（序章）	文献輪読
第 3 回	文献輪読『質的社会調査の方法』（1 章）	文献輪読
第 4 回	文献輪読『質的社会調査の方法』（2 章）	文献輪読
第 5 回	文献輪読『質的社会調査の方法』（3 章）	文献輪読
第 6 回	研究テーマ決定	グループ研究
第 7 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（1 章、2 章）	文献輪読
第 8 回	インタビュー成果報告（1）	研究準備
第 9 回	インタビュー成果報告（2）	研究準備
第 10 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（3 章、4 章）	文献輪読
第 11 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（5 章、6 章）	文献輪読
第 12 回	研究初回報告（1）	グループ研究
第 13 回	研究初回報告（2）	グループ研究
第 14 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（7 章、8 章）	文献輪読
第 15 回	後期を始めるにあたっての打ち合わせ	ゼミ運営
第 16 回	夏季休暇中成果報告（1）	グループ研究
第 17 回	夏季休暇中成果報告（2）	グループ研究
第 18 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（9 章、10 章）	文献輪読
第 19 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（11 章、12 章）	文献輪読
第 20 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（13 章、14 章）	文献輪読
第 21 回	グループ研究中間報告（1）	グループ研究
第 22 回	グループ研究中間報告（2）	グループ研究
第 23 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（15 章、16 章）	文献輪読

第 24 回	文献輪読『メディアは社会を変えるのか』（17 章、18 章）	文献輪読
第 25 回	グループ研究最終報告（1）	グループ研究
第 26 回	グループ研究最終報告（2）	グループ研究
第 27 回	メディア研究のための文献輪読	文献輪読
第 28 回	1 年のふりかえり	ゼミ運営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習に関しては輪読の準備、レジュメの作成、グループ研究の実施、打ち合わせ、報告書の作成等、授業時間外での長時間の活動が必要になる。また、新歓合宿および夏合宿への参加も求められる。フィールドワークについては、グループ研究や合宿時においてインタビュー調査を実施する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸政彦ほか（2016）『質的社会調査の方法 他者の合理性の理解社会学』有斐閣／津田正太郎（2016）『メディアは社会を変えるのか メディア社会論入門』世界思想社

【参考書】

初回の演習において、メディアを学ぶうえで是非読んでもらいたい文献のリストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、年度末レポート（70%）。なお、遅刻・欠席が多い者については演習への参加を取りやめてもらう。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は急速、オンライン授業となったため、様々な活動を実施することができなかった。今年度はより多くの活動を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメや最終レポートの作成にあたっては PC の利用が必須である。オンラインで実施せざるをえない状況になった場合には、家庭からインターネットに接続できることが望ましい。

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to help participants learn the basics of media studies, and to facilitate group research on media from the viewpoint of sociology and political science.

PSY200EB, PSY200EC, PSY200ED

演習 1

土倉 英志

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学の視点から人びとの行為や活動をとらえ、それをよりよいものにすることをめざして活動に取り組む。まず、ターゲットとする対象を設定し、その対象について調査を行なう。つぎに、さまざまな人と協力しながら、対象をリデザインすることに挑戦する。活動に取り組むだけでは十分ではなく、それを学術的に位置づけていくことが重要となる。秋学期には成果報告書の作成とプレゼンを実施する。

【到達目標】

- ・人びとの行為や活動を理解するスキルを習得する
- ・他者と協力して目標を実現するスキルを磨く
- ・活動をふりかえり、成果を報告するスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、文献講読、対象の研究、対象のリデザインに向けた活動、活動のふりかえり、報告書の作成、プレゼンといった一連の過程からなる。
- ・授業時間外にも多くの作業が必要となる。
- ・受講者が中心になって活動を展開していく。必要に応じて教員が解説を行なう。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。
- ・テーマに即したフィールドワークを実施することを予定している。ただし社会状況を踏まえて対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要の説明、自己紹介、役割分担
2	対象と方法の検討	対象とそれを理解する方法を考える
3	対象と方法の検討	対象とそれを理解する方法を考える
4	対象と方法の検討	対象とそれを理解する方法を考える
5	対象と方法の検討	対象とそれを理解する方法を考える
6	対象と方法の検討	対象とそれを理解する方法を考える
7	改善案の検討	対象がどうなるとよいかを討論する
8	改善案の検討	対象がどうなるとよいかを討論する
9	改善案の検討	改善案の実現手段を検討する
10	改善案の検討	改善案の実現手段を検討する
11	改善案の検討	改善案の実現手段を検討する
12	改善案の実行準備	改善案の実現に向けて活動を準備する
13	改善案の実行準備	改善案の実現に向けて活動を準備する
14	まとめ	夏休みの課題の説明
15	夏の課題の報告	夏休みの課題の成果を報告する
16	活動の実施	対象の改善に向けた活動に取り組む
17	活動の実施	対象の改善に向けた活動に取り組む
18	活動の実施	対象の改善に向けた活動に取り組む
19	活動の実施	対象の改善に向けた活動に取り組む
20	成果の可視化	活動の成果をまとめる
21	成果の可視化	活動の成果をまとめる
22	成果報告の準備	活動の成果をプレゼンにまとめる
23	成果報告の準備	活動の成果をプレゼンにまとめる
24	成果報告	研究成果を報告する
25	成果報告	研究成果を報告する
26	ゼミ論の作成	研究成果をゼミ論にまとめる
27	ゼミ論の作成	研究成果をゼミ論にまとめる
28	まとめ	一年間の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文献講読の準備を行なう
- ・対象の改善に向けた諸活動に取り組む
- ・適宜課される課題に取り組む
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

- ・初回の授業で指示します。

【参考書】

- ・授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（報告と質疑応答・グループディスカッションへの参加）と授業内外で課す課題の質（40%）、対象の改善に向けた活動への貢献度（40%）、ゼミ論（20%）で判断します。
- ・なお、対象の改善に向けた活動に取り組むこと、ゼミ論の提出を単位修得の必須条件とします。
- ・指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となります。無断欠席は厳しく評価します。
- ・詳細は初回の授業で説明するので必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生のふりかえりをふまえて、早々に活動の準備に取りかかりたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業計画や進めかたは、受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがあります。
- ・方法論を修得するために、教員が担当する別の授業や研究会に出席することを求めることがあります。
- ・授業時間外や夏休みにも活動の準備等を行なうことになります。
- ・諸活動にともなう交通費や製作費は原則自己負担となります。

【Outline and objectives】

In this course students engage in action research projects. Action research is one of the research methods of social psychology. The goal of this method is to change societies for the better. The objective of this course is to acquire skills in analyzing the problems of societies and in developing action research projects.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1・2

徳安 彰

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「社会システムと人間」。さまざまな社会現象をとりあげて、構造的条件下にある社会システムと、社会で生きる人間の両面から、社会学的に考察していく。各ゼミ生の取り組むテーマは、なるべく多様性を持たせる。

【到達目標】

社会学の基礎概念や主要理論を学び、それを社会現象の分析に適用できる。自分の研究のための社会学的なテーマ設定、研究方法の選択、文献・資料・データ等の収集・分析、基礎概念や理論を用いて結論を導く論証ができる。研究の経過や成果を、プレゼンテーションや論文によって他者に伝達し、他者と討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面型で行い、必要に応じてハイブリッド型にする。春学期は、個人研究の発表と討議を行う。秋学期は、研究の基礎となる理論や方法を学習し、グループワークに基づいて成果のプレゼンテーションを2ラウンド行う。年度末にゼミ論を作成する。春学期のグループワークについては、プレゼンテーションまでの作業中の指導に加え、プレゼンテーションのさいに講評を行って、次のグループワークの改善につなげる。秋学期の個人研究については、授業での発表にたいする講評・指導によって論文作成の道筋を明確化するとともに、提出された論文にたいする講評を行って、次年度の研究の発展につなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	春学期の学習目標の確認
第2回	学習ガイダンス	文献、資料、データ等の検索法や論証構成の仕方を学ぶ
第3回	グループワーク1（1）	テーマと問題の設定。方法の決定。作業分担、スケジュールの決定
第4回	グループワーク1（2）	文献・資料検索と学習
第5回	グループワーク1（3）	文献・資料検索と学習
第6回	グループワーク1（4）	結論を導く論証構成の検討
第7回	グループワーク1（5）	資料作成と報告の練習
第8回	グループワーク1（6）	成果のプレゼンテーションと討論
第9回	グループワーク2（1）	テーマと問題の設定。方法の決定。作業分担、スケジュールの決定
第10回	グループワーク2（2）	文献・資料検索と学習
第11回	グループワーク2（3）	文献・資料検索と学習
第12回	グループワーク2（4）	結論を導く論証構成の検討
第13回	グループワーク2（5）	資料作成と報告の練習
第14回	グループワーク2（6）	成果のプレゼンテーションと討論
第15回	イントロダクション	秋学期の学習目標の確認
第16回	個人研究報告（1）	個人報告と討論
第17回	個人研究報告（2）	個人報告と討論
第18回	個人研究報告（3）	個人報告と討論
第19回	個人研究報告（4）	個人報告と討論
第20回	個人研究報告（5）	個人報告と討論
第21回	個人研究報告（6）	個人報告と討論
第22回	ゼミ論の書き方	ゼミ論執筆方法の説明
第23回	個人研究報告（7）	個人報告と討論
第24回	個人研究報告（8）	個人報告と討論
第25回	個人研究報告（9）	個人報告と討論
第26回	個人研究報告（10）	個人報告と討論
第27回	個人研究報告（11）	個人報告と討論
第28回	個人研究報告（12）	個人報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークでは各グループ、個人研究では各人の作業の進捗状況に応じて、研究にかかわる文献・資料・データの収集・分析、プレゼンテーションの準備等を行う。必要に応じて、個人相談も行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とするが、グループワーク、個人研究のいずれも、研究成果のプレゼンテーションや論文作成に至るために、必要に応じてそれ以上の作業時間を確保することが求められる。

【テキスト（教科書）】

とくに用いない。

【参考書】

ケン・ブラマー『21世紀を生きるための社会学の教科書』（ちくま学芸文庫、2021年）
日本社会学会「社会学評論スタイルガイド」(<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>)

【成績評価の方法と基準】

単位認定にあたっては、以下の3つの要件を満たす必要がある。

- ①グループワーク報告：前期に2回の発表を厳守。グループ全員がプレゼンテーションを行うようにすること。
- ②個人研究報告：後期に1回の発表を厳守。こちらについては、どんな事情があっても必ず発表すること。
- ③ゼミ論の提出：演習1は8,000字以上、演習2は12,000字以上。評価は、グループワークおよび個人の研究報告（30%）、ゼミ論（50%）、ゼミにおける討論への貢献（20%）による。

【学生の意見等からの気づき】

学年の垣根を越えた学問的コミュニケーション（相互の研究テーマの理解、討議や相互批判）を促進できるような環境作りに留意して、ゼミを運営したい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、ノートPC、プロジェクタ等の機器を適宜用いる。

【その他の重要事項】

教員と学生という垣根もない、自由闊達な議論が許される場がゼミナールです。より充実した議論がなされるための、皆さんの積極的なかかわりを期待します。

【Outline and objectives】

We explore various social phenomena sociologically from the viewpoint of the social system and human life.

FRI200EB, FRI200EC, FRI200ED

演習 1

土橋 臣吾

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「デジタルメディアの実践的研究」です。調査プロジェクトでは、指定されたテーマに関するデザインリサーチを行い、新しいサービス・アプリのプロトタイプ制作を行います。制作プロジェクトでは、Processing、Unity、TouchDesigner などを使って、インタラクティブ作品の制作に取り組みます。また、並行して、メディア研究の重要文献輪読も行います。

【到達目標】

上記の活動を通じて、デジタルメディア環境を前提にした企画力を身につけることが目標です。また、日々の制作活動を通じて、プログラミングやデザインの実践に取り組んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

調査プロジェクト：指定された調査テーマで、ゼミ生自身を対象にした各種のユーザー調査を行い、その知見に基づいてプロトタイプを制作します。
制作プロジェクト：春学期の序盤でプロジェクトの企画立案を行い、春学期中盤には制作物のイメージと開発環境を確定します。春学期終盤から制作に入り、年度末までひとつの作品制作に取り組みます。
・課題についてのフィードバックはゼミの内外で個別で行います。
・授業の形式（対面/オンライン）については、学習支援システムで周知します。
・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方について
2	文献輪読	指定文献輪読
3	制作プロジェクト	プロジェクトテーマ領域の解説
	調査プロジェクト	調査テーマ発表
4	制作プロジェクト	テーマ領域の事例検討
	文献輪読	指定文献輪読
5	制作プロジェクト	テーマ領域の事例検討
	調査プロジェクト	行動文脈調査
6	制作プロジェクト	制作チーム発足
	文献輪読	指定文献輪読
7	制作プロジェクト	「哲学」の設定
	調査プロジェクト	行動文脈調査の分析
8	制作プロジェクト	「ビジョン」の設定
	文献輪読	指定文献輪読
9	制作プロジェクト	先行事例の検討
	調査プロジェクト	インタビュー調査の企画
10	制作プロジェクト	先行事例の検討
	文献輪読	指定文献輪読
11	制作プロジェクト	プロトタイピングと開発環境の検討
	調査プロジェクト	インタビュー調査の実施
12	制作プロジェクト	プロトタイピングと開発環境の検討
	文献輪読	指定文献輪読
13	制作プロジェクト	制作企画書のプレゼン
	調査プロジェクト	インタビュー調査の実施
14	制作プロジェクト	基本機能の開発
	文献輪読	指定文献輪読
15	制作プロジェクト	基本機能の開発
	ガイダンス	秋学期の進め方について
16	調査プロジェクト	インタビュー調査の分析
	制作プロジェクト	制作進捗報告とグループ作業
17	文献輪読	指定文献輪読
	制作プロジェクト	制作進捗報告とグループ作業
18	調査プロジェクト	インタビュー調査の分析
	制作プロジェクト	制作進捗報告とグループ作業
19	文献輪読	指定文献輪読
	制作プロジェクト	制作進捗報告とグループ作業
20	調査プロジェクト	行動観察調査
	制作プロジェクト	制作進捗報告とグループ作業
21	文献輪読	指定文献輪読
	制作プロジェクト	制作進捗報告とグループ作業

22	試作版完成報告 学部研究発表会準備	制作物の試作版プレゼン 学部研究発表会準備
23	調査プロジェクト	行動観察調査の分析
	制作プロジェクト	修正作業進捗報告
24	文献輪読	指定文献の輪読
	制作プロジェクト	修正作業進捗報告
25	調査プロジェクト	プロトタイプ制作
	制作プロジェクト	修正作業進捗報告
26	文献輪読	指定文献の輪読
	制作プロジェクト	修正作業進捗報告
27	調査プロジェクト	プロトタイプ制作
	制作プロジェクト	修正作業進捗報告
28	文献輪読	指定文献の輪読
	制作プロジェクト	修正作業進捗報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

制作活動は課外の時間に行います。また、文献のレジュメ作成なども課外の時間に行います。さらに、土日その他を使って、外部講師による技術講習、企業とのワークショップなどが行われることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ドミニク・チェン、2015、『脳のレリギオービッグデータ社会で心をつくる』NTT 出版

【参考書】

必要に応じて具体的に指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動への参加（40 %）プロジェクトの評価（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンが必須となります。

【その他の重要事項】

プログラミングやデザインの作業を中心とした制作活動が中心なので、授業時間外での活動が相当程度生じます。また、週末や長期休暇中に勉強会やワークショップが開催されることがありますので、そちらも積極的に参加して下さい。また、通常のゼミは連続で2コマ分の時間行います。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and theory of digital sociology. It also enhances the development of students' skill in sociological analyses of digital media use and user experience design.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1**中筋 直哉**

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習1のテーマは「グローバル社会のローカルな生活」である。入門的な文献を複数講読して、世界史を「グローバル・ヒストリー」として勉強し直す。さらに、さまざまなローカルな生活についてグループで調べ、議論する。

【到達目標】

議論を通して自分自身のグローバル化とローカリティのイメージを練り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教室で対面で実施（予定）。教科書の各章を報告者と論点提示者の2人で報告し、全員で議論する。夏期休暇中の合宿と秋学期の校外見学を行う予定。演習はグループディスカッション形式、見学と合宿ではフィールドワークを行う。課題やレポートの評価は個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介とスケジュールの確認
2	レポート作成術	専門的なりポート作成術を学ぶ
3	議論の進め方	生産的な議論の進め方を学ぶ
4	教科書1の講読1	教員による教科書の解説
5	教科書1の講読2	第1章の発表と討論
6	教科書1の講読3	第2章の発表と討論
7	教科書1の講読4	第3章の発表と討論
8	教科書1の講読5	第4章の発表と討論
9	教科書1の講読6	第5章の発表と討論
10	教科書2の講読1	講師による教科書の解説
11	教科書2の講読2	第1章の発表と討論
12	夏期合宿の計画	合宿の企画を全員で作成
13	メディア視聴	テーマに関するコンテンツを視聴し、討論
14	春学期のまとめ	春学期の学修について振り返り
15	ゼミ合宿の総括	討論と夏期課題の提出
16	夏期課題の報告1	報告と討論
17	夏期課題の報告2	報告と討論
18	教科書2の講読3	第4章の報告と討論
19	教科書2の講読4	第5章の報告と討論
20	教科書2の講読5	第6章の報告と討論
21	教科書2の講読6	第7章の報告と討論
22	現地見学	演習2, 3と合同の校外学習
23	現地見学の検証	校外学習の報告と討論
24	グループ調査研究1	グループ報告と討論
25	グループ調査研究2	グループ報告と討論
26	グループ調査研究3	グループ報告と討論
27	グループ調査研究4	グループ報告と討論
28	まとめ	各自レポートの提出と年度の総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1年間の演習を踏まえた、A4×1枚程度のレポートを秋学期末に紙で提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 水島司,2010,『グローバル・ヒストリー入門』山川出版社,729円+税。
- ダイアモンド,J. 他,2018,『歴史は実験できるのか』慶應義塾大学出版会,2800円+税。

【参考書】

演習中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の発表と討論への積極的参加が60%（それが見られないときはD）、レポートの出来が40%。

【学生の意見等からの気づき】

討論の題材になるような具体的資料の提示に努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。ただ漫然と参加するのではなく自分のノートをつくることが重要

【Outline and objectives】

This seminar aims to study the relation of globalization and local lives. In the 1st year, We read some books about global history, and research some regional society under globalization.

SOS200EB, SOS200EC, SOS200ED

演習 1・2

橋爪 絢子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユーザ中心設計に関する英語の文献を輪読し、関連文献を調べながら内容を理解します。また、関心のあるテーマの文献を調べ、その内容を要約して発表します。さらに、テーマごとに調査を計画し、実施しながら、調査研究の一連の流れを学びます。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計における各活動を組織に適用する方法の理解
- (2) 文献を要約し、伝える技術の習得
- (3) 調査の計画から実施、分析までの流れの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

演習形式で行い、個人かグループでの発表と質疑で構成されます。ゲストの招聘を行うなど、授業計画を変更することがあります。

最初は、指定の英語の文献を輪読しますが、英語の意味を理解することが目的ではありません。書かれている内容について理解したうえで説明し、メンバー間で情報を共有します。文献調査も同様に、各自が調べた文献の内容を要約して発表し、メンバー間で情報を共有したり、議論を通じて意見の交換を行ったりします。さらに、関心のあるテーマごとに調査を計画して実施しながら、その状況を毎回報告し、最後に最終報告を行います。

各メンバーからの発表内容や進捗状況、コメントなどに対して、それぞれフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 1	方針の確認、自己紹介
2	文献①の輪読 1	文献輪読とその内容の発表、および質疑
3	文献①の輪読 2	文献輪読とその内容の発表、および質疑
4	文献①の輪読 3	文献輪読とその内容の発表、および質疑
5	文献①の輪読 4	文献輪読とその内容の発表、および質疑
6	文献①の輪読 5	文献輪読とその内容の発表、および質疑
7	文献②の輪読 1	文献輪読とその内容の発表、および質疑
8	文献②の輪読 2	文献輪読とその内容の発表、および質疑
9	文献②の輪読 3	文献輪読とその内容の発表、および質疑
10	文献②の輪読 4	文献輪読とその内容の発表、および質疑
11	文献②の輪読 5	文献輪読とその内容の発表、および質疑
12	文献調査 1	テーマを決めるための文献調査とその内容の発表、および質疑
13	文献調査 2	テーマを決めるための文献調査とその内容の発表、および質疑
14	秋学期に向けて	夏休み中の課題などを確認
15	ガイダンス 2	方針の確認
16	文献調査 3	テーマを深掘りするための文献調査とその内容の発表、および質疑
17	文献調査 4	テーマを深掘りするための文献調査とその内容の発表、および質疑
18	文献調査 5	テーマを深掘りするための文献調査とその内容の発表、および質疑
19	調査の計画 1	テーマごとに調査計画の確認、質疑
20	調査の計画 2	テーマごとに調査計画の確認、質疑
21	調査の実施 1	調査の進捗報告、質疑
22	調査の実施 2	調査の進捗報告、質疑
23	調査の実施 3	調査の進捗報告、質疑

24	調査の分析 1	分析の進捗報告、質疑
25	調査の分析 2	分析の進捗報告、質疑
26	結果のまとめ 1	調査結果の発表と質疑
27	結果のまとめ 2	調査結果の発表と質疑
28	結果のまとめ 3	調査結果の発表と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最初は、指定の英語の文献を輪読してもらいますが、内容を理解するためには、英語の辞書を引くだけでなく、ほかの文献も調べて、情報を補う必要があります。また、毎回、自身の活動の内容を伝えるための資料の準備が必要です。テーマの設定によって、学外での活動が必要になることもあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。
課題への取り組みやグループへの貢献、メンバーへのコメント等を考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望を取り入れながら行っていきます。

【Outline and objectives】

We will deepen the understanding of the User Centered Design (UCD) by examining relevant documents. We will also search the documents on the theme that students are interested in and summarize the information to give a presentation on the contents. In addition, we will learn the sequence of research by planning and doing surveys on each theme.

HUM200EB, HUM200EC, HUM200ED

演習 1・2**濱中 春**

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな媒体によって表現された場所や風景の意味を考察するとともに、表象文化の可能性を探ります。

【到達目標】

- ・「場所」や「風景」にアプローチするさまざまな論点を理解する。
- ・表象分析の方法を実践を通して習得する。
- ・学術的な文献の要点を読みとり、考察をくわえることができる。
- ・自分でテーマを設定して研究を行い、その内容を論文の形式でアウトプットすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・場所／風景論・表象文化論の文献講読と、場所・風景の表象の分析にもとづく研究（演習1）、あるいは場所・風景にかかわる文化現象やなんらかの表象文化を対象とした研究（演習2）を行います。
- ・演習1・2の合同ゼミとして開講し、春学期の文献講読は学年横断的なグループで、秋学期は2年生はグループ研究、3年生は個人研究を行い、ゼミの時間にその内容について報告して議論します。
- ・報告については授業中に講評します。また、ゼミ論文は、添削・コメントして各自・各グループに返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (1)	自己紹介、春学期の予定
2	グループワーク (1)	文献講読の準備
3	グループワーク (2)	文献講読の準備
4	文献講読 (1)	報告と議論
5	文献講読 (2)	報告と議論
6	研究テーマ	研究のテーマや題材についての検討
7	文献講読 (3)	報告と議論
8	文献講読 (4)	報告と議論
9	文献講読 (5)	報告と議論
10	文献講読 (6)	報告と議論
11	文献講読 (7)	報告と議論
12	文献講読 (8)	報告と議論
13	研究計画 (1ゼミ)	グループ研究のテーマと方法
14	文献講読のまとめ	報告と議論
15	イントロダクション (2)	秋学期の予定
	中間報告 (2ゼミ) (1)	研究の構想
16	中間報告 (2ゼミ) (2)	研究の構想
17	中間報告 (1ゼミ) (1)	研究の内容と課題
18	中間報告 (1ゼミ) (2)	研究の内容と課題
19	中間報告 (2ゼミ) (3)	先行研究の紹介と考察
20	中間報告 (2ゼミ) (4)	先行研究の紹介と考察
21	中間報告 (1ゼミ) (3)	研究のタイトルと構成、内容
22	中間報告 (1ゼミ) (4)	研究のタイトルと構成、内容
23	中間報告 (2ゼミ) (5)	先行研究の紹介と考察
24	中間報告 (1ゼミ) (5)	学部研究発表会の準備
25	中間報告 (2ゼミ) (6)	研究対象についての考察
26	中間報告 (2ゼミ) (7)	研究対象についての考察
27	中間報告 (2ゼミ) (8)	研究対象についての考察
28	中間報告 (2ゼミ) (9)	研究対象についての考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・報告の担当者はレジュメを用意する。
- ・文献講読の担当回には十分に準備をして臨む。また、担当グループ以外の受講者もかならず文献を予習してくる。
- ・グループ研究・個人研究を計画的に進め、論文を執筆する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

文献講読でとりあげる文献は、授業開始時に伝えます。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

報告のしかたと内容、議論への参加 50%

論文 50%

【学生の意見等からの気づき】

少人数のためアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to help students to analyze the meaning of the representations of landscape and place and to investigate the potentials of culture and representation.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

樋口 明彦

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「コミュニティの活性化」をテーマに、地域の課題に対して、社会的企業・NPO・町内会・行政・企業などが果たす役割を検討する。

【到達目標】

- ①インタビューを通じて、データを獲得するスキルを身につける。
- ②プレゼンテーションを通じて、聴衆に対して説得的に報告するスキルを身につける。
- ③論文執筆を通じて、見解を論理的に述べるスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ①インタビュー方法の基礎（春学期）
ゼミでの共同研究テーマの設定、質問票作成、グループ・インタビュー
- ②プレゼンテーションの基礎（秋学期）
PowerPoint を使ったプレゼンテーション
学部主催の「ゼミ研究発表会」で、インタビュー結果を報告する。
- ③論文執筆の基礎（秋学期）
ゼミ論（10,000 字）を執筆する。
※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期ゼミの進め方
2	論文とは何か	論文の構造
3	インタビュー準備①	調査方法のタイプ
4	インタビュー準備②	資料収集・文献講読
5	インタビュー準備③	資料収集・文献講読
6	インタビュー準備④	資料収集・文献講読
7	インタビュー準備⑤	テーマの設定
8	インタビュー準備⑥	質問票の作成
9	インタビュー準備⑦	質問票の作成
10	インタビュー準備⑧	質問票の作成
11	インタビュー準備⑨	質問票の作成
12	インタビュー準備⑩	インタビューのやり方
13	インタビュー	インタビューの実施
14	インタビュー反省	振り返り
15	オリエンテーション	後期ゼミの進め方
16	プレゼンテーション準備	PowerPoint の作り方
17	インタビューの分析①	テーマの設定
18	インタビューの分析②	指標の設定
19	インタビューの分析③	結果の評価
20	インタビュー結果の報告会①	PowerPoint によるプレゼン
21	インタビュー結果の報告会②	PowerPoint によるプレゼン
22	研究発表会準備①	PowerPoint 作成
23	研究発表会準備②	PowerPoint 作成
24	論文準備	論文の書き方
25	ゼミ論の合評会①	ゼミ論の構想発表
26	ゼミ論の合評会②	ゼミ論の構想発表

- | | | |
|----|----------|----------|
| 27 | ゼミ論の合評会③ | ゼミ論の構想発表 |
| 28 | まとめ | 進捗状況の確認 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①グループ・インタビューの実施
- ②ゼミ論の執筆（10,000 字）
- ③本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、指示する。

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①ゼミ論文（70 %）
- ②プレゼンテーション（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

学生に合わせて、スケジュールの見直しを行った。

【Outline and objectives】

First-year seminar

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

別府 三奈子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ジャーナリズム史：ポートレート」研究のゼミです。演習1では、無名の人びとの姿を通して、人権侵害の現場に接近し、社会問題の輪郭や社会的記録の存在意義を学びます。研究の目的は「不可視化への挑戦」です。

【到達目標】

- ①国際人権法の基本的な考え方を理解する。
- ②公的記録によって社会問題（差別・貧困・暴力など）の解決が促されてきた歴史を知る。
- ③マスコミュニケーション理論に基づき、情報社会の偏向や封印の構造的特性に気づく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業を予定しています。社会問題を捉える視覚を獲得するために、共通テキストの輪読や映像資料の共有と、ピアレビューや学生同士の意見交換を重ねます。不可視化されている社会問題の広がり、不可視化が起こるしくみ、不可視化の壁をこえようとした人びとの挑戦、などについて理解を深め、独自の問いをたてる練習をします。年度末には、こぶりのゼミ論作成をする予定です。レジュメや課題に対するフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の研究計画	共通テキストの解題（社会権と自由権の考え方）、分担当め
第 2 回	自分自身を描く	ポートレートの基本・ピアレビュー
第 3 回	自分の考えを描く	根拠と意見の区別・ピアレビュー
第 4 回	輪読：奨学金ローン	教育をめぐる経済格差と学ぶ権利
第 5 回	輪読：性暴力	女性の生きづらさの回想
第 6 回	自己決定権の考察	社会的役割と個人の希望
第 7 回	輪読：難民と国家	生きる場所の選択、単一民族国家の幻想
第 8 回	輪読：ヘイトスピーチ	言論の自由の考え方
第 9 回	差別を受けない権利	社会制度が生み出す違和感への気づきと抗い
第 10 回	輪読：マタハラ	誰が何のために？ 多数者の好都合と不可視化の構造
第 11 回	輪読：見た目の問題	当たり前を疑い、違和感の根を探す
第 12 回	同じと違うのどちらから考える？	国際人権法の考え方・社会権と自由権、差別や排除への気づき
第 13 回	伝えると伝えないのどちらを選ぶ？	ジャーナリズムの考え方、棄民を可視化する
第 14 回	無名の人びとの声に耳を傾ける理由	全体討論
第 15 回	秋学期の研究計画	可視化への挑戦：ドキュメンタリー研究の企画
第 16 回	研究企画プレゼン 2 回目	リサーチクエスションの確認（グループ分け）
第 17 回	新聞データベース調査	テーマに関する公論の広がりを確認する
第 18 回	図書館文献リスト調査	専門研究の広がりを知る
第 19 回	リサーチ・クエスション再確認と事例の発掘	違和感の根源を熟考し、問題解明のための事例を探す
第 20 回	事例調査	事例の概要整理とキーワードの定義

第 21 回	事例の詳細	問題の当事者への接近&当事者のおかれた背景
第 22 回	プレゼンの準備	問題意識・リサーチクエスション・事例の紹介、キーワードの全体像を描く・年表と当事者の人間関係図
第 23 回	プレゼンの振り返り	当事者の想いを別角度から考える追加調査の検討
第 24 回	考察の検討	原因や別の視点からの検討
第 25 回	ゼミ論の目次案	論旨の背骨をつくる
第 26 回	結論の討議 1	グループ・ピアレビュー
第 27 回	結論の討議 2	グループ・ピアレビュー
第 28 回	社会の当たり前を疑う	不可視化された問題に気づく、という手法の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

映像資料の視聴と日々のニュース観察を積み重ねる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『友だちを助けるための国際人権法入門』申恵丰、影書房、2020/4/28
『現場 記者たちの九州戦後秘史』西日本新聞社、2020 年

【参考書】

『排除と差別の社会学 新版』好井裕明著、有斐閣選書、2016 年
『初学者のための質的研究 26 の教え』中野洋著、医学書院、2015 年

【成績評価の方法と基準】

レジュメ・討議 50%、研究発表&報告レポート 50%。

【学生の意見等からの気づき】

理解度を見ながら、必要に応じて進み具合を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

モバイルパソコン（可能であれば）

【その他の重要事項】

社会問題の解決に向けた社会情報の在り方や人と社会の関係性を深く学びたい人、歴史や映像が好きな人、記者職や広報職、NPOなどに関心がある人向きの研究内容です。専門基礎から積み上げていくので、所属学科は問いません。リテラシーが上がってくると、そこに居ながら見えていなかった人の姿が見えるようになってきます。演習2の後半から演習3では、なぜ見えないのか、どうすれば解決に近づくのか、を、各自の関心に合わせて探究していきます。履修した学生さんたちの関心あるテーマ内容によって、個人・グループなど研究の形は調整する予定です。

【Outline and objectives】

This is a seminar on "History of Journalism: Portrait" research. In Exercise 1, you will observe the history of photographic records that have passed through unknown people to the scene of human rights violations and the dignity of life, and learn the significance of social records. The research purpose is "Challenge for invisibility."

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

堀川 三郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市問題・都市環境問題・まちづくりの社会学

【到達目標】

論理的に思考し、それを明晰に表現できるようになることを目指す。端的に言うなら、方法を獲得する、ということ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

卒業論文へ向けての系統的指導の第一段階として、このゼミでは(1)文献の読破、(2)各自のフィールドワーク、(3)ゼミ論文の執筆、を行います。基礎的な文献を読破する過程で、物事を深く考え、分析する「方法」を身に付けていくことが目指されます。文献は、環境社会学や都市社会学にとどまらず、良質な社会学的専門書（いわゆる「古典」）も含め、良質かつ興味深いものを選んで講読します。年度の最後には、1年間の勉学のまとめとして、「1ゼミ修了論文」を仕上げます。提出された修了論文は、その後皆で読んで改善点を洗い出す「合評会」を開催してフィードバックを行います。受講者と相談して授業形態を決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミ入門	ゼミおよび学習方法についての説明
2	入門文献講読 (1)	社会学の入門的文献講読 (1)
3	入門文献講読 (2)	社会学の入門的文献講読 (2)
4	入門文献講読 (3)	社会学の入門的文献講読 (3)
5	入門文献講読 (4)	社会学の入門的文献講読 (4)
6	入門文献講読 (5)	社会学の入門的文献講読 (5)
7	入門文献講読 (6)	社会学の入門的文献講読 (6)
8	入門文献講読 (7)	社会学の入門的文献講読 (7)
9	入門文献講読 (8)	社会学の入門的文献講読 (8)
10	入門文献講読 (9)	社会学の入門的文献講読 (9)
11	各自のテーマ報告 (1)	1ゼミ修了論文構想報告 (1)
12	各自のテーマ報告 (2)	1ゼミ修了論文構想報告 (2)
13	各自のテーマ報告 (3)	1ゼミ修了論文構想報告 (3)
14	春学期のまとめ	春学期の総括討論
15	基礎文献の講読 (1)	古典の講読 (1)
16	基礎文献の講読 (2)	古典の講読 (2)
17	基礎文献の講読 (3)	古典の講読 (3)
18	基礎文献の講読 (4)	古典の講読 (4)
19	基礎文献の講読 (5)	古典の講読 (5)
20	基礎文献の講読 (6)	古典の講読 (6)
21	専門文献の講読 (1)	専門文献の講読 (1)
22	専門文献の講読 (2)	専門文献の講読 (2)
23	専門文献の講読 (3)	専門文献の講読 (3)
24	専門文献の講読 (4)	専門文献の講読 (4)
25	各自のテーマ報告 (1)	論文内容報告 (1)
26	各自のテーマ報告 (2)	論文内容報告 (2)
27	各自のテーマ報告 (3)	論文内容報告 (3)
28	全体のまとめ	総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サブゼミ本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミの時間に指示する

【参考書】

文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

論文(50%)および議論への貢献度(50%)で評価します。論理的かつ首尾一貫してテーマについて論じているかが、評価のポイントになります。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミの運営方法などについて、適宜、話し合いを持つ

【その他の重要事項】

正規の時間以外に週1回実施するサブゼミに参加できること

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing and the fundamentals of academic research to students taking this seminar. It is particularly designed to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write a better term paper.

ECN200EB, ECN200EC, ECN200ED

演習 1

増田 正人

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは、「グローバルイゼーションを考える」です。現代のグローバル経済の現状について、社会科学に基づく分析を行い、一人ひとりが自分の見解を持てるようにすることです。

【到達目標】

ゼミの目標は、社会科学、特に経済学の知識を学びながら、以下の3つにまとめられる。

- ①現代のグローバル世界について、ゼミ参加者が基本的な認識を持つことができるようになること。
- ②グローバル世界の功罪をきちんと把握したうえで、時代に流されるのではなく、自分の見解を持って将来を考えていけるような力量を身につけ、自分の意見を論理的に発表できるようになること。
- ③ゼミでの学びを通じて、ゼミ生同士また先輩や後輩との豊かな人間関係を形成すること。そして、それぞれが卒業後の進路をしっかりと歩んでいけるような力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

以下、1月時点でのシラバスの記載ですが、コロナウイルスの感染拡大の状況から、相当程度の変更が想定されます。状況を踏まえ、変更については、学習支援システム上で指示しますので、そちらを必ず毎週見るようにしてください。

ゼミは、Iゼミ、IIゼミを合同で行います。Iゼミの時は、基本的な文献を読んだり、映像や資料等に基づいて討論をしたりして、グローバルイゼーションについての基本的事項の勉強をします。通常は、ゼミ室での勉強になりますが、大学の外に出て学ぶことも重視しています。

夏休みには、現場を見ることを中心にするゼミ合宿をしますが、2020年度は実施できませんでした。2019年度は、ベトナムに行きました。ベトナムでは、ホーチミン市内の博物館、元大統領官邸、植民地時代の建物等を見学しました。また、彼は財の問題を学ぶため、ツーズ病院と平和村を訪問し、枯葉剤の被害を受けた子供たちとの懇親を行いました。

現代の日ベトナム関係を学ぶという観点で、ベトナムで最初の自由貿易区にある日本企業のグンゼで工場見学を行い、花王のベトナム工場、ミツバの工場見学も行いました。現地でも働く法政 OBOG と合同で懇親会も開催し、ベトナムで働くということについてたくさんのお話をもらいました。日本とのかかわりや日本企業の発展途上国戦略の実際を現地で学んできました。

今年度、海外でゼミ合宿を行える可能性はかなり低いと思いますが、可能な場合には行おうと考えています。海外で行えない場合には、夏休みに、沖縄でのゼミ合宿を行うつもりです。時期については、感染状況を見て変更することもあるかと思っています。

また、ゼミでは、毎年、立教大学や神戸外国語大学の学生たちと合同での研究発表会（合同ゼミ）を行っています。12月にテーマを決めてディベート形式やプレゼン形式で研究発表を行い、ディスカッションをするというものです。秋学期はこの準備のために、グループごとのサブゼミが多くなります。昨年度は神戸で開催する予定でしたが、オンラインでの開催となりました。こちらは今年度も実施する予定です。

2020年度は、工場見学（昨年は、クノールの食品工場、サントリー武蔵野工場、他）を実施できませんでした。施設見学として、東京ジャーミー（イスラム寺院）の見学を行いました。多文化共生を肌感覚で身につけていくために、今年度も可能な見学を行う予定にしています。

こうしたものは、原則として全員参加です。やむを得ない事情で欠席するときは、事前に教員の許可を求めるようにしてください。

ゼミでは、人前で論理的に話すことができるようにするため、2分間スピーチ、頭の体操、ミニ発表会などを行います。

また、毎回、全員がゼミのまとめを作り、担当者が発表します。発表者以外はそれを教員に提出します。毎回、ゼミの最初の時間で、前週の復習として、ゼミのまとめを活用してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスと自己紹介
2	テキストの輪読①	レジメの書き方など
3	テキストの輪読②	テキスト 1 章の輪読
4	テキストの輪読③	テキスト 2 章

5	グループ別学習①	テーマ別、グループ別学習
6	グループ学習②	テーマ別、グループ別学習
7	グループ学習③	テーマ別、グループ別学習
8	テキストの輪読④	テキスト 4 章
9	テキストの輪読⑤	テキスト（ゼミ生と相談して決める）
10	テキストの輪読⑥	テキスト（ゼミ生と相談して決める）
11	夏合宿向け学習①	海外または沖縄で行うフィールドワークに関する基礎的な文献の購読
12	夏合宿向け学習②	海外または沖縄で行うフィールドワークに関する基礎的な文献の購読
13	夏合宿向け学習③	海外または沖縄で行うフィールドワークに向けた課題別のグループ学習
14	夏合宿向け学習④	海外または沖縄で行うフィールドワークに向けた課題別のグループ学習
15	夏合宿の準備 夏合宿の振り返り、まとめ	まとめと秋学期の打ち合わせ
16	合同ゼミのための文献講読①	基礎文献の輪読
17	文献の講読②	基礎文献の輪読
18	文献の講読③	基礎文献の輪読
19	文献の講読④	基礎文献の輪読
20	文献の輪読⑤	基礎文献の輪読
21	合同ゼミに向けた中間発表④	合同ゼミに向けた中間発表
22	発表の論点整理と検討①	発表グループの論点整理と検討
23	発表の論点整理と検討②	発表グループの論点整理と検討
24	模擬発表会	合同ゼミの模擬発表会
25	合同ゼミの準備①	合同ゼミの準備 他大学の発表への質問、意見のとりまとめ
26	合同ゼミの準備②	合同ゼミの準備 他大学からの質問への回答の作成
27	合同ゼミの反省会	合同ゼミについての反省会、など。
28	まとめ	1 年間の学習のまとめと春休み、新学期の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの内容は、Iゼミの時にマスターすることが目標なので、繰り返しよく読んでおくこと。授業では取り上げない章は各自で読んで、理解すること。わからない点などは教員に質問して、理解できないところを博すようにしてください。

前期は、毎週宿題が出ます。翌週のゼミのときに提出してください。最低でも予習1時間、復習2時間はかかります。自分で発表するときは、準備にそれ以上の時間がかかります。

また、12月には、合同ゼミ発表会（共通のテーマを決めてディベートする。）を行うので、秋学期はサブゼミが多くなります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『21世紀、大転換期の国際社会』羽場久美子編、法律文化社、2019年。
『21世紀国際社会への招待』羽場久美子・増田正人編、有斐閣、2002年、は絶版になっているので、必要なところはコピーして使います。古本で購入してもらえると助かります。
その他は、適宜、指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

発表の頻度、内容、ゼミ討論への参加度、ゼミのまとめ等の提出物で総合的に平常点（100%）として評価します。オンラインで行う間は、参加度と提出物で評価しますが、具体的には授業支援システム内で説明します。ゼミは、3回以上無断で欠席すると、単位が得られません。

【学生の意見等からの気づき】

板書の工夫。

【学生が準備すべき機器他】

合同ゼミはPCを使い、パワーポイントで発表するので、それに習熟することが大事です。マルチメディア室を利用するときなどは、教室変更の指示をするので、掲示板等に注意すること。

【その他の重要事項】

コロナ対応によっても変わりますが、ゼミは、通常の時間帯以外に、新歓合宿、夏合宿、ディベート大会直前合宿、卒論発表会など、ゼミ単位の行事があります。それらの実施が可能な場合、それへの参加は必要です。やむを得ない事情で参加できない場合は、事前に教員に説明し、欠席の許可を得ること。

【Outline and objectives】

The theme of my seminar is to think about globalization.

The purpose of my seminar is to analyze the global economy based on social science, so that each person can have their own views.

MAN200EB, MAN200EC, MAN200ED

演習 1

諸上 茂光

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文献講読（輪読）及びディスカッション（グループディスカッション・ブレインストーミング等）を通じて、消費者行動と、その基となる心理過程の理解を深めることを目標とする。さらにこうした理論に基づいた効果的な広告手法やマーケティング手法について討議する。

【到達目標】

消費者行動の基本的理解とディスカッション技術の修得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミでは毎時間文献の指定された部分を予習し、関連する文献を自主学習することが求められる。授業では、こうした事前学習の成果を持ち寄り、教員も含めたディスカッションを行う。参加者全員の積極的な発言が求められる。ディスカッション内容についてのフィードバックはその場で行う。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方について
2.	文献講読と討議 1	消費者行動とマーケティング①
3.	文献講読と討議 2	消費者行動とマーケティング②
4.	文献講読と討議 3	消費者行動の心理モデル
5.	文献講読と討議 4	購買意思決定過程
6.	文献講読と討議 5	消費者の情報探索
7.	文献講読と討議 6	購買後の諸過程
8.	文献講読と討議 7	消費者の知覚
9.	文献講読と討議 8	消費者の記憶
10.	文献講読と討議 9	消費者の学習
11.	文献講読と討議 10	消費者の感情
12.	文献講読と討議 11	消費者の態度形成
13.	文献講読と討議 12	消費者の個人特性
14.	文献講読と討議 13	消費者の状況要因
15.	輪読・グループ研究 1	ブランドコミュニケーション①
16.	輪読・グループ研究 2	ブランドコミュニケーション②
17.	輪読・グループ研究 3	ブランドコミュニケーション③
18.	輪読・グループ研究 4	広告効果モデル①
19.	輪読・グループ研究 5	広告効果モデル②
20.	中間発表①	グループ研究の中間発表
21.	輪読・グループ研究 6	広告媒体の効果モデル①
22.	輪読・グループ研究 7	広告媒体の効果モデル②
23.	輪読・グループ研究 8	心理効果と広告戦略①
24.	輪読・グループ研究 9	心理効果と広告戦略②
25.	中間発表②	グループ研究の中間発表、討議
26.	グループ研究 10（フィールドワーク）	心理効果調査①
27.	グループ研究 11（フィールドワーク）	心理効果調査②
28.	輪読・グループ研究 12	成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

通学中の電車の中をはじめ、身の回りに溢れている広告活動やマーケティング活動を見て、その背後にある意図や理論を探索する習慣をつけることが望ましい。また、常に新しい社会情勢をチェックし、新しい視点を議論に取り入れられるように努力することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

杉本徹雄編著『消費者理解のための心理学』（福村出版）

仁科貞文 他著『広告心理』（電通）

その他適宜授業内で指定する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

討議への参加姿勢 50%

各種成果物 50%

で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実施せず

【Outline and objectives】

To obtain the basic knowledge and have group discussions about consumer behavior.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2

青木 貞茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブランド広告の分析および企画の理論と方法を事例により身につけ、効果的なブランド・コミュニケーションのやり方を学ぶ。その上で自分自身のブランディングに応用をしていくことを目指す。

【到達目標】

単なるブランド広告の分析に止まらずブランド・コミュニケーションを効果的に実践するレベルまで到達することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

分析のための理論、手法の基礎を学び、実践していく。同時に広告を中心とした消費情報の読解を通じて自分自身のブランド分析と構築を実現する方法論を身につける。受講者は、広告の収集、分析作業を実施した上で結果発表を行なう。演習内で発表内容へのフィードバックを行なう。本クラスでは、分析まとめ、プレゼンテーション、ディスカッションへの受講者の積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	演習のオリエンテーション	演習のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明。
第2回	ブランド広告企画に関する基本知識	ブランド広告企画立案に関する基本知識
第3回	ブランド広告企画事例	ブランド広告企画事例を設定するの設定
第4回	ブランド広告事例分析	ブランド広告の成功理由を詳細な方法の習得(1)
第5回	ブランド広告事例分析	ブランド広告の成功理由を詳細な方法の習得(2)
第6回	ブランド広告事例分析	ブランド広告の成功理由を詳細な方法の習得(3)
第7回	具体的なブランド広告	具体的なブランド広告企画の基本
第8回	具体的なブランド広告	具体的なブランド広告企画の基本
第9回	具体的なブランド広告	具体的なブランド広告企画の基本
第10回	具体的な施策案、表現	自己ブランディング広告企画の立案
第11回	具体的な施策案、表現	自己ブランディング広告企画の立案
第12回	具体的な施策案、表現	自己ブランディング広告の決定

第13回	具体的な施策案、表現	グループ研究のテーマ設定
第14回	ブランド広告企画の選	複数のアイデアからブランド広告
第15回	後半のオリエンター	合宿でのフィールドワーク=タウン
第16回	自己ブランディングと	自己ブランディングについてのグ
第17回	自己ブランディング広	自己ブランディング広告企画の基
第18回	自己ブランディング広	自己ブランディング広告企画の立
第19回	自己ブランディング広	自己ブランディング広告企画の立
第20回	自己ブランディング広	自己ブランディング広告企画の立
第21回	自己ブランディング広	自己ブランディング広告企画完成
第22回	自己ブランディング広	自己ブランディング広告企画完成
第23回	自己ブランディング広	自己ブランディング広告企画完成
第24回	自己ブランディング広	自己ブランディング広告について
第25回	グループ研究オリエン	グループ研究のテーマ設定
第26回	グループ・プレゼン	研究結果プレゼンとディスカッ
第27回	グループ・プレゼン	研究結果プレゼンとディスカッ
第28回	グループ・プレゼン	研究結果プレゼンとディスカッ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ブランド広告に関する知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TVドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。なお、夏休み期間にゼミ合宿として日本国内のタウンウォッチング（フィールドワーク）を実施する。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（50%）と課題作成物（50%）で行う。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。立案した広告企画は、実施までゼミ員が担当するので、積極的にゼミに参加することを求める。なお個別面談は事前にメールで連絡した上で個別調整する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

【Outline and objectives】

Here we will first study the theory and method of analyzing and planning brand advertisement for effective brand communication through case studies. Then we will try to apply this to our own branding.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

池田 寛二

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本と世界の農業・食糧・環境・エネルギー問題の実態解明を主なテーマとして学びます。

【到達目標】

演習参加者全員が、実際に今日本と世界各国、各地域で施行されている環境・エネルギー政策の実状と有効性や問題点、政策転換への課題などについて、社会の動向と関連させながら明らかにすることによって、社会学的な調査方法と思考方法にもとづく政策批判・政策提言能力を習得することが最終的な到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

参加者の人数にもよる（最大 25 人）が、原則として 1 回に 3 人、自分が関心を持つ環境・エネルギー政策について報告し（各 15 分）、それを受けて討論者がコメントと質問を行って全体の議論を方向づけ（各 5 分）、それにもとづいて司会者の進行によって教員を含めて全員で討論する（各 10 分）。この流れを 3 回繰り返して 90 分経過した後、残りの 10 分で教員が総括的にコメントし、各自の次回の報告までの課題を指示する。次回の報告を受けて、教員が指示した課題への対応を評価し、口頭でフィードバックする。個人報告が一段落した後は、研究テーマを共有できる者同士でグループワークも実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	顔合わせ	演習参加者全員の自己紹介、演習の進め方等の相談
2	役割分担、年間計画	ゼミ長その他の恒常的運営上の役割分担の決定、各回の報告者、討論者、司会者の決定
3	第 1 回演習	報告と討論
4	第 2 回演習	報告と討論
5	第 3 回演習	報告と討論
6	第 4 回演習	報告と討論
7	第 5 回演習	報告と討論
8	第 6 回演習	報告と討論
9	第 7 回演習	報告と討論
10	第 8 回演習	報告と討論
11	第 9 回演習	報告と討論
12	第 10 回演習	報告と討論
13	第 11 回演習	報告と討論
14	春学期の演習の成果確認、演習運営方法の反省、夏季ゼミ合宿の計画	全員で議論
15	秋学期の改善点等確認、秋学期の役割分担、報告者等のスケジュール再調整	全員で議論
16	第 13 回演習	報告と討論
17	第 14 回演習	報告と討論
18	第 15 回演習	報告と討論
19	第 16 回演習	報告と討論
20	第 17 回演習	報告と討論
21	第 18 回演習	報告と討論
22	第 19 回演習	報告と討論
23	第 20 回演習	報告と討論
24	第 21 回演習	報告と討論
25	第 22 回演習	報告と討論
26	第 23 回演習	報告と討論
27	第 24 回演習	報告と討論
28	年間総括、次年度の計画、卒業論文（演習 3）に向けて、各自の研究テーマに関する小論文の提出指示	全員で議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告の準備（文献・資料の収集と分析、調査活動の実施）とそれにもとづく報告資料（レジュメ等）の作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各自の課題に応じて指示します。

【参考書】

各自の課題に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告の内容（50%）、司会者としての議論の進行の仕方および討論への参加度（50%）等によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特筆事項はありません。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてプロジェクターなど。

【その他の重要事項】

演習中はスマホとの「対話？」は厳禁します。

【Outline and objectives】

The main theme of this seminar is to discuss on the realities of agriculture, food, environment, and energy problems in contemporary Japan and the world.

FRI300EB, FRI300EC, FRI300ED

演習 2

稲増 龍夫

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像制作活動を通してのメディアリテラシーとコミュニケーション能力のさらなる向上と、現代メディア事情に関する実践的理解を目指します。

【到達目標】

1 ゼミでは「映像が好き」を「映像を作る」に高めましたが、さらに、たんなる自己満足ではなく、他人や社会からの評価に耐えうる映像制作を目指します。

その延長線上に、自らのスキルを武器とした「就職活動」を明確にゼミ活動に組み込み、「自分探し」と「社会＝時代のニーズの分析」をおこないます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

映像制作活動を軸に、テレビ局やメディア関係者OBなどとの連携をはかった実践的プログラムに取り組みます。なお、前期は「映像制作技法」の制作をサポートします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	稲増ゼミプロモ制作会議	ゼミプロモ試写と最終チェック
2	ガイダンス	年間スケジュールの確認
3	ゼミプロモ上映会	上映会の実施
4	多摩キャンパスニュースの企画の準備作業	ニュース企画のガイダンス準備
5	多摩キャンパスニュースの撮影ガイダンスの準備作業	機材ガイダンスの準備
6	多摩キャンパスニュースの編集ガイダンスの準備作業	編集ガイダンスの準備
7	ゼミ実践プロジェクト企画会議-1	稲増ゼミの成果を、社会実践に展開できる可能性を検討
8	ゼミ実践プロジェクト企画会議-2	ゼミ活動の有効活用ならびに映像ビジネスモデルの研究
9	ゼミ実践プロジェクト企画会議-3	ゼミ活動の有効活用ならびに映像ビジネスモデルの研究
10	ゼミ実践プロジェクト企画会議-4	ゼミ生によるプレスト大会
11	ゼミ実践プロジェクト企画会議-5	OBを招いての懇談とフィージビリティの検討
12	ゼミ実践プロジェクト企画会議-6	OBによるプロジェクト企画評価
13	進路個人面談-1	進路希望に関する個人面談
14	進路個人面談-2	希望進路に関する個人面談
15	ゼミ連携プロジェクトの中間報告	タイムテーブルの構築
16	ゼミ連携プロジェクトの最終報告	タイムテーブルの確定
17	「ゼミ物語」企画会議	「ゼミ物語 2020」の概略と企画内容の決定
18	「ゼミ物語」制作	「ゼミ物語 2021」撮影
19	「ゼミ物語」制作	「ゼミ物語 2021」撮影
20	「ゼミ物語」制作	「ゼミ物語 2021」編集

21	「ゼミ物語 2021」上映	「ゼミ物語 2021」の上映会
22	就活ガイダンス講座	就活の概要と準備のオリエンテーション
23	業界研究講座-1	ゼミOB講師によるメディア系企業の解説
24	業界研究講座-2	ゼミOB講師によるIT系、一般企業の解説
25	自己分析講座	各自の自己分析を深める
26	面接講座	ゼミ生同士の相互模擬面接
27	3ゼミ生との合同ゼミ	3ゼミ生の就活報告&アドバイス
28	就活進路面談	進路に関する直前個人面談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

映像制作活動はほとんど授業時間外となります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

稲増龍夫「就活は最強の教育プログラムである」(中央公論新社)

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、プロジェクトへの貢献(30%)、映像制作課題(40%)を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習につき実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

高度な映像編集ソフトをインストールしたノートパソコン(Macbook Proなど)を個人的に所持していることが望ましい

【その他の重要事項】

外部コンテストへの出品を推奨しています。今までのゼミ生は、法政大学デジタルコンテンツコンテスト動画部門で、グランプリ/優秀賞/佳作/入選の各賞を50名以上が受賞しました。その他に、外部のコンテストでも何度も受賞しています

【Outline and objectives】

Through Video Production, we aim to improve Media Literacy and Communication Skills, and to have a Practical Understanding of Contemporary Media Cultures.

MAN300EB, MAN300EC, MAN300ED

演習2

宇野 齊

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別のテーマごとに研究発表をします。年度末に論文としてまとめます。

【到達目標】

論文として適切な体裁と十分な内容とが備わっているものを完成させます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個人での発表、質疑、議論と評価が時間内の主な内容です。年度末には各自の研究内容を論文としてまとめます。自己の研究のみならず、メンバーの研究への理解とコメントも必須です。他大学との共同研究発表や、そのための学外調査を行う場合があります。すべての発表はフィードバックとして相互評価を受けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	個別研究テーマ候補案と進行計画を学生と教員で確認します。
02	今後の目標・テーマ発表	各自決定した研究テーマを発表し、研究の方向を確認します。
03	発表、質疑、議論 (01)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
04	発表、質疑、議論 (02)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
05	発表、質疑、議論 (03)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
06	発表、質疑、議論 (04)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
07	発表、質疑、議論 (05)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
08	発表、質疑、議論 (06)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
09	発表、質疑、議論 (07)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
10	発表、質疑、議論 (08)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
11	発表、質疑、議論 (09)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
12	発表、質疑、議論 (10)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
13	発表、質疑、議論 (11)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
14	春学期のまとめと秋学期への課題の確認	秋学期への夏休み中の課題を確認します。
15	個別成果と今後への確認	夏休み中の成果と研究の方向付け、進行計画を確認します。
16	発表、質疑、議論 (12)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
17	発表、質疑、議論 (13)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
18	発表、質疑、議論 (14)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
19	発表、質疑、議論 (15)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
20	発表、質疑、議論 (16)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
21	発表、質疑、議論 (17)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
22	発表、質疑、議論 (18)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
23	発表、質疑、議論 (19)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
24	発表、質疑、議論 (20)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
25	発表、質疑、議論 (21)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。

26	発表、質疑、議論 (22)	個人発表：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
27	論文の整備 (01)	個人研究論文の形式を整備します。
28	論文の整備 (02)	個人研究論文の形式を整備します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備として調査の上で発表資料を作成、提出、配布します。発表後翌週に、発表資料の改訂版を提出し、評価シートの集計と質問内容への回答を作成し、配布します。

合同ゼミ合宿や研究発表大会に向けてグループミーティングまたは個人での作業時間、場合によっては実地調査が必要です。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

個別に適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%、設定された課題に対して真摯に取り組み、期日を守って、成果を示してください。メンバーの研究への理解とコメントも重要です。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、電子メール、メーリングリスト、ブログ、ツイッター、グループウェア等を使用します。

【その他の重要事項】

演習1を履修していることが前提です。演習1に引き続いての履修が望ましいです。

年度末に成果を個別に論文としてまとめます。

授業計画は、受講者の状況と進行の状況によって、若干の変更があります。対面で開講できない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。

【Outline and objectives】

Participants make research presentations sequentially. Participants create thesis at the end.

ARS300EB, ARS300EC, ARS300ED

演習2

吉村 真子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、国際社会（アジア）をめぐる諸問題をテーマとし、アジア（東アジア、東南アジア、南アジア）の社会、経済、政治、文化などの問題を議論することを目的としています。

【到達目標】

演習2は、3年生のゼミとして、2年次の演習1での議論の中で得た知識と「自分の研究テーマ」を中心として、文献報告や議論を進めていく中で、アジアに関する見方を深めていくことを目標とします。また上級生としてゼミの2年生の指導も含めて、ゼミの運営を主体的に進めていくことも課題となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・春学期は、レジュメの書き方や時事問題を学んだ上で、テキスト報告と議論。秋学期はテーマを設定してグループ報告と議論、また各自のゼミ論文の報告と執筆。また春学期・秋学期にディベートも行います。

・今年度は COVID-19 対応で、対面授業とオンラインの混合の実施の可能性もありますので、注意してください。

・各回のレジュメや課題などは、適宜、報告前にも教員の助言を受け、ゼミでの報告の後にも教員の講評を行います。ゼミ論文についても、報告前に教員の助言を受け、ゼミ報告および提出後に、ゼミで教員から講評を行うなど、常にフィードバックを行う形で進めていきます。

※通常は夏のゼミ合宿でチーム・プロジェクトとしてフィールドワークを実施しますが、今年度の実施については COVID-19 の状況によります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミの説明とテキストの検討
第2回	アジアの時事問題	レジュメの書き方について
第3回	時事問題プレゼン①	アジアの時事問題
第4回	時事問題プレゼン②	新聞や雑誌からトピック選択
第5回	時事問題プレゼン③	レジュメ準備し、報告と議論
第6回	時事問題プレゼン④	レジュメ準備し、報告と議論
第7回	アジアに関する学術論文	学術論文を検索・選択
第8回	テキスト報告と議論①	1班の報告と議論
第9回	テキスト報告と議論②	2班の報告と議論
第10回	テキスト報告と議論③	3班の報告と議論
第11回	テキスト報告と議論④	4班の報告と議論
第12回	ディベート①	学生が選んだテーマでディベート
第13回	ディベート②	残りのゼミ生は審査にあたる
第14回	夏休みの課題について	ゼミ論文の準備など
第15回	秋学期日程とゼミ論文準備	夏休みの課題など
第16回	テキスト報告と議論①	1班の報告
第17回	テキスト報告と議論②	2班の報告
第18回	テキスト報告と議論③	3班の報告
第19回	テキスト報告と議論④	4班の報告

第20回	時事問題	ドキュメンタリーを見て議論
第21回	ゼミ論文の報告①	各自、研究テーマを決める
第22回	ゼミ論文の報告②	各自、レジュメを用意して報告
第23回	ゼミ論文の報告③	それぞれの報告について議論
第24回	ゼミ論文の報告④	全体の議論
第25回	ゼミ論文の報告⑤	報告と議論
第26回	ディベート①	ゼミ生のテーマでディベート
第27回	ディベート②	残りのゼミ生は審査
第28回	1年間の振り返りとゼミ論文の講評	ゼミの1年間の振り返りとゼミ論文の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考資料、レジュメ準備など勉強が必要です。とくに報告やディベートは、個別の勉強に加えて、グループでの作業が求められます。またゼミ論文の執筆もあります。本授業の準備・復習時間は、各5時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、アジアについて学べる本、もしくは学術論文を対象として、議論して決めます。

【参考書】

参考書は、必要に応じて適時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価の基準は、①ゼミの報告準備や発言・議論など(70%)、②ゼミ論文(30%)などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミにおける学生の自主的な運営と積極的な議論参加に期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

COVID-19 対応で、対面授業とオンライン（Zoom など）でのゼミの混合での実施の可能性も有るので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline and objectives】

This course is a tutorial seminar on Asian studies in a small class of second-year students. This course is to study analyzing Asian social issues with presentations, discussion, debates, thesis, and so on. Students are required to prepare for class discussion and presentations each week and to submit the final term-paper.

SOW300EB, SOW300EC, SOW300ED

演習2

堅田 香緒里

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習2では、文献の購読の他、インタビュー調査等も視野に入れ、グループ別・個人別の研究を随時遂行することを通して、ジェンダーや福祉に関連して各自が立てた問いをさらに追求していく。

【到達目標】

演習1での学びを踏まえつつ、自らの問いをさらに深く追求し、演習3（卒業論文）に向けた下準備まで行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は、文献の講読と、グループごとに調査・研究発表を行うグループワークが中心となる。

秋学期は、文献の講読と、個人別の調査・研究発表を中心に行う。

※なお、授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更の可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（春学期）	イントロダクション（春学期）
第2回	個人研究の構想発表	個人研究の構想発表
第3回	文献の選定	課題文献の選定・担当決定
第4回	課題文献の検討①	文献の講読、レジュメ作成、議論
第5回	課題文献の検討②	文献の講読、レジュメ作成、議論
第6回	課題文献の検討③	文献の講読、レジュメ作成、議論
第7回	課題文献の検討④	文献の講読、レジュメ作成、議論
第8回	課題文献の検討⑤	文献の講読、レジュメ作成、議論
第9回	グループ別研究テーマの選定	グループ分け、研究テーマの選定
第10回	グループワーク①	グループ別研究テーマの検討・先行研究の整理
第11回	グループワーク②	グループ別研究テーマの検討・論点整理と掘り下げ
第12回	グループワーク③	グループ別研究テーマの検討・発表資料の作成
第13回	グループ別研究発表①	グループ別研究発表、ディスカッション
第14回	グループ別研究発表②	グループ別研究発表、ディスカッション
第15回	イントロダクション（秋学期）	イントロダクション（秋学期）
第16回	個人別研究テーマ案の発表①	各自の研究テーマ案の発表、ディスカッション
第17回	個人別研究テーマ案の発表②	各自の研究テーマ案の発表、ディスカッション
第18回	個人別研究テーマ案の発表③	各自の研究テーマ案の発表、ディスカッション
第19回	課題文献の検討⑥	文献の講読、レジュメ作成、議論
第20回	課題文献の検討⑦	文献の講読、レジュメ作成、議論
第21回	課題文献の検討⑧	文献の講読、レジュメ作成、議論
第22回	課題文献の検討⑨	文献の講読、レジュメ作成、議論
第23回	課題文献の検討⑩	文献の講読、レジュメ作成、議論
第24回	個人別研究報告①	個人別研究報告、ディスカッション
第25回	個人別研究報告②	個人別研究報告、ディスカッション
第26回	個人別研究報告③	個人別研究報告、ディスカッション
第27回	個人別研究報告④	個人別研究報告、ディスカッション
第28回	まとめ	ふりかえり、個人別研究論文の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題文献の講読・レジュメ作成の他、各研究テーマに沿った自己学習等を行います。また、研究テーマによってはインタビュー調査等を行うこともあります。

本授業の準備学習（文献を事前に読む等）・復習時間（授業内で提示された課題に取り組む等）は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業時間内に提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業時間内に提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（グループへの貢献、ディスカッション含む）40%、提出物（読書ノート・プレゼンテーション資料・個人別研究論文含む）60%で行います。提出物の締切は厳守とします。

【学生の意見等からの気づき】

演習形式の授業のため、遅刻・欠席は厳禁。

【その他の重要事項】

受講者の関心により、学外での勉強会やヒアリング・見学イベント等への参加も検討しています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn how to write a thesis and present the research outcomes related to their research interests.

SEE300EB, SEE300EC, SEE300ED

演習2

鞠子 茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は一人一人が生物や自然環境に関する研究テーマを設定し、年間計画を立て、実施する。授業は個人指導と全体指導の2本立ての授業を通じて、研究の遂行に必要な知識やスキルを獲得し、授業終了時まで成果をレポートにまとめ、卒業研究に向けた準備を整える。

【到達目標】

卒業研究に向けて準備を整えることができる。自然環境や生物についてゼミ生間で議論を繰り返すことにより、自然との付き合い方や環境問題の解決に向けた新たな規範やライフスタイルを提案し、それを実践できる人間力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個人研究を一年間を行う。多摩キャンパスの自然環境や生物を対象とした研究テーマを設定し、研究計画を立案し、一年間実施したのちレポート作成と成果のプレゼンを行う。テーマ設定からプレゼンまでに必要な知識とスキルは個人指導と全体指導の二本立てで得ることが出来る。例えば、調査・実験方法は個人指導、文献の収集・読解やプレゼンは全体指導を行う。授業最終日には、卒業論文に準ずる研究レポートを提出するとともに、成果をパワポでプレゼンする。途中何回かレポート研究の進捗状況をチェックするために、全員がパワポによる中間発表を行う。毎回の授業では、授業でトピックとなったことに関連した課題が提示される。次の授業までに自身の研究との関りを考えながら解答をまとめ、提出する。提出物はコメントを添えて返却されるので、コメントに従って自身の研究を改善する。自然や野生生物を相手にするので、授業スケジュール等を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	年間の授業内容に関して説明する
第2回	卒業研究テーマの再確認	演習1で設定した卒業研究のテーマを再確認し、今後の準備を進める
第3回	卒業研究テーマの計画発表	卒業研究の個々のテーマについて年間計画について順次紹介する
第4回	卒業研究テーマの計画発表	卒業研究の個々のテーマについて年間計画について順次紹介する
第5回	野外調査・実験手法	調査地の選び方の習得
第6回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第7回	野外調査・実験手法	各テーマに必要な調査法の習得
第8回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第9回	野外調査・実験手法	各テーマに必要な調査法の習得
第10回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第11回	野外調査・実験手法	各テーマに必要な調査法の習得
第12回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第13回	データ整理とプレゼン	ExcelとPowerPointの基本の習得
第14回	研究成果の中間発表（1回目）	各テーマの進捗状況のプレゼン
第15回	野外調査と実験	調査または状況により文献講読
第16回	野外調査と実験	調査または状況により文献講読
第17回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第18回	野外調査と実験	調査または状況により文献講読
第19回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第20回	野外調査と実験	調査または状況により文献講読
第21回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第22回	野外調査と実験	調査または状況により文献講読
第23回	文献講読と知識深化	文献を精読し、知識を習得し、研究内容を議論する
第24回	データ解析方法	データ解析の方針を議論する

第25回 合同ゼミ

演習2と3を履修する学生が集まって共通のテーマで合同ゼミを行う

第26回 合同ゼミ

演習2と3を履修する学生が集まって共通のテーマで合同ゼミを行う

第27回 研究成果の中間発表会（2回目）

卒業研究に準ずる研究成果をパワポで発表し、いろいろな助言を得て次回の最終発表会に向けて準備をする

第28回 研究成果の最終発表会

卒業研究に準ずる研究成果をパワポで最終発表し、内容をレポートに作成して提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習と復習の時間はそれぞれ2時間を標準とする。準備学習のための説明と資料配布や復習のための課題を与える。これらの学習については授業でも触れて、学んだことを全体にフィードバックさせる。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。随時、関連資料を配布する。

【参考書】

自分で文献を探し出し、個人もしくは全員で講読する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（50%）と平常点（50%）から成績を評価する。平常点では、授業への真摯で積極的な関与、授業外で課した課題の達成度を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の目標を確認しながら進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

文献検索、データの整理・分析、プレゼンでは、必要に応じてパソコンを使う。学習支援システムへのアクセスができる端末。

【その他の重要事項】

自然や生き物を研究対象とするので、環境倫理や生命倫理についても一定程度の知識を持っていることが望ましい。

【Outline and objectives】

In this course, each student will do an independent research project on a topic related to biology and environmental sciences. For this, students will choose their own topic, conduct a presentation and write a report about their research findings.

MAN300EB, MAN300EC, MAN300ED

演習2

加藤 寛之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業調査の基本を学び、自ら調査ができるようになることが目的です。

【到達目標】

現実の各種産業について、各自が問題意識を持ち、業界の財務諸表を読みこなし、自ら調査分析ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

最初はやさしめの本をやや大量に消化し、自分の言葉でレジュメを作成する練習をします。次に産業調査の方法について学び、最後に実際に自分で個別産業を調べることができるように進めていきます。原則対面で実施し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マーケティング・ミックス	4P・ディスカッション
2	ターゲット市場の選定	セグメンテーション・ディスカッション
3	製品ライフサイクル	導入期、成長期、成熟期、衰退期・ディスカッション
4	市場地位別のマーケティング戦略	リーダー、チャレンジャー、ニッチャー、フォロワー・
5	業界の構造分析	競争要因と利益ポテンシャル
6	全社戦略	多角化、PPM・ディスカッション
7	事業とドメインの定義	ドメイン定義の注意点・ディスカッション
8	戦略的思考に向かって	3つのスタンス 集中せよ・ディスカッション
9	戦略はストーリー	論理と実践 戦略の論理化・ディスカッション
10	競争戦略の基本論理	SPとOC・ディスカッション
11	静止画から動画へ	ストーリーの強さ、太さ、長さ・ディスカッション
12	始まりはコンセプト	起承転結の起・ディスカッション
13	キラーパスを組み込む	スターバックスのストーリー・ディスカッション
14	戦略ストーリーを読解する	ガリバーインターナショナル・ディスカッション
15	夏休みの課題の講評	夏休みの課題の講評・ディスカッション
16	戦略ストーリーの骨法1	エンディングから考える・ディスカッション
17	骨法2	普通の人々の本姓を直視する・ディスカッション
18	骨法3	悲観主義で論理を詰める・ディスカッション
19	骨法4	物事が起こる順序にこだわる・ディスカッション
20	骨法5	過去から未来を構想する・ディスカッション
21	骨法6	失敗を避けようとしなない・ディスカッション
22	骨法7	賢者の盲点を衝く・ディスカッション
23	骨法8	競合他社に対してオープンに構える・ディスカッション
24	骨法9	抽象化で本質をつかむ・ディスカッション
25	骨法10	思わず人に話したくなる話をする・ディスカッション
26	調査実習1	業界団体を検索する。ディスカッション
27	調査実習2	業界の資料を検索して集めまくる・ディスカッション

28 調査実習3

資料を整理しまとめる・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の読み込みや資料の収集、現地調査、データの解析、結果の考察などは、あらかじめ授業外の時間に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

沼上幹著『わかりやすいマーケティング入門』有斐閣アルマ

楠木健著『ストーリーとしての競争戦略』東洋経済新報社

【参考書】

様々な業界の業界団体のホームページおよび業界団体発行の資料を参考書とします。

【成績評価の方法と基準】

演習時の発表内容や発現頻度、運営への貢献度などによる平常点 (40%)

自身が設定した課題に対する取組度 (30%)

最終提出課題の内容 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The theme is to blush up yourself of industry researchers.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

菊澤 佐江子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：家族と社会を考える

テーマに関するゼミ学習を通じて、研究過程の基礎を学ぶ。

【到達目標】

各自の研究関心を深めるとともに、研究を企画する過程を理解し、卒業論文のテーマへと発展させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

春学期は、各自の問題関心にもとづいて独自に調査・研究を行い、その成果をゼミ論文にまとめます。秋学期は、卒業論文を視野に入れつつ、問題関心を研究企画に発展させ、研究計画書の作成を行います。

授業は演習形式で、毎回、受講者の中から担当者を決めて、文献の内容や、研究の進行状況等について報告してもらい、議論する予定です。課題等へのフィードバックは、可能な限り各回の授業内で行います。授業計画は概ね以下を予定しています（ただし、授業の展開等によって、若干変更の可能性あり）。進め方の詳細は、初回授業で説明します。

なお、担当教員の「演習 1」未履修の受講生は、連続する時間帯に開講する「演習 1」（2 年）にも（単位にはなりません）部分的に出席することを義務とします。この点で、授業時間割を計画する上で制約が生じることを理解した上で受講するよう留意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	春学期授業の説明
2	研究報告 (1)	報告と議論
3	研究報告 (2)	報告と議論
4	研究報告 (3)	報告と議論
5	研究報告 (4)	報告と議論
6	研究報告 (5)	報告と議論
7	研究報告 (6)	報告と議論
8	研究報告 (7)	報告と議論
9	研究報告 (8)	報告と議論
10	研究報告 (9)	報告と議論
11	研究報告 (10)	報告と議論
12	ゼミ論文（初稿）の検討 (1)	検討会
13	ゼミ論文（初稿）の検討 (2)	個別指導
14	春学期の総括	ゼミ論文（最終稿）の提出と夏休み課題の説明
15	秋学期オリエンテーション	秋学期授業の説明
16	研究報告 (1)	報告と議論
17	研究報告 (2)	報告と議論
18	研究報告 (3)	報告と議論
19	研究報告 (4)	報告と議論
20	研究報告 (5)	報告と議論
21	研究報告 (6)	報告と議論
22	研究報告 (7)	報告と議論
23	研究報告 (8)	報告と議論
24	研究報告 (9)	報告と議論
25	研究報告 (10)	報告と議論
26	研究計画書（初稿）の検討 (1)	検討会
27	研究計画書（初稿）の検討 (2)	個別指導
28	秋学期の総括	研究計画書（最終稿）の提出とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各学期末にゼミ論文・研究計画書（各 A4×10 枚以上）を提出する。これに関連して、学期中、小課題が順次提示される。各期限を念頭に、計画的に文献を探索・収集し、読み進め、執筆することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加（発表、議論への参加・貢献等）60%、課題（ゼミ論文・レポート等）40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

毎回出席し、議論に参加すること（一回以上発言すること）を原則とします。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to help students to acquire an understanding of the processes of sociological research, especially on family issues.

ECN300EB, ECN300EC, ECN300ED

演習2

北浦 康嗣

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の基礎理論を踏まえた上で、データに基づいて議論できるようなゼミ生を育成することが目標です。とくに演習2では研究テーマについて報告してもらいます。

【到達目標】

- (1) 関心のある経済社会問題をデータに基づいて議論できる。
- (2) 各自のテーマに基づいた仮説を検証するためにアンケートを作成する。
- (3) ゼミ論（10,000 字以上）を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

まず、公共サービス、教育・健康、環境に関する諸問題や貧困・高齢化などの社会問題について、各自関心のあるテーマを決めます。次に、対象となる国や地域（地方自治体）を決めます。それに基づいて、Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。他のメンバーと討論することで、自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。このようにゼミ生同士の相互作用を重視します。この他に挙げたテーマに応じて「現場」を見ることも予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミ論の報告（1 回目）①	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。他のメンバーと討論することで、自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
2	ゼミ論の報告（1 回目）②	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。他のメンバーと討論することで、自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
3	ゼミ論の報告（1 回目）③	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。他のメンバーと討論することで、自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
4	研究テーマの紹介①（指導教員による）	ゼミ論の報告を踏まえて、たくさんの経済データの中から各自関心があるものを紹介します。
5	ゼミ論の報告（2 回目）①	1 回目の報告をもとに修正点等を報告します。
6	ゼミ論の報告（2 回目）②	1 回目の報告をもとに修正点等を報告します。
7	ゼミ論の報告（2 回目）③	1 回目の報告をもとに修正点等を報告します。
8	研究テーマの紹介②（指導教員による）	ゼミ論の報告を踏まえて、たくさんの経済データの中から各自関心があるものを紹介します。

9	ゼミ論の報告（3 回目）①	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
10	ゼミ論の報告（3 回目）②	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
11	ゼミ論の報告（3 回目）③	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
12	研究テーマの紹介③（指導教員による）	ゼミ論の報告を踏まえて、たくさんの経済データの中から各自関心があるものを紹介します。
13	ゼミ論の報告（4 回目）①	3 回目の報告を踏まえて、参考文献を整理して報告します。
14	ゼミ論の報告（4 回目）②	3 回目の報告を踏まえて、参考文献を整理して報告します。
15	ゼミ論の報告（5 回目）①	関心のテーマに基づいたデータを整理して報告します。
16	ゼミ論の報告（5 回目）②	関心のテーマに基づいたデータを整理して報告します。
17	ゼミ論の報告（5 回目）③	関心のテーマに基づいたデータを整理して報告します。
18	ゼミ論の報告（5 回目）④	関心のテーマに基づいたデータを整理して報告します。
19	研究テーマの紹介④（指導教員による）	論文の書き方について説明します。
20	ゼミ論の報告（6 回目）①	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
21	ゼミ論の報告（6 回目）②	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
22	ゼミ論の報告（6 回目）③	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
23	研究テーマの紹介⑤（指導教員による）	論文の書き方について説明します。
24	ゼミ論の報告（7 回目）①	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
25	ゼミ論の報告（7 回目）②	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
26	ゼミ論の報告（7 回目）③	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。
27	研究テーマの紹介⑥（指導教員による）	論文の書き方について説明します。
28	ゼミ論の報告（8 回目）	データ収集を行い、集めたデータをもとに Word, Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告は各自のテーマについて Word や PowerPoint を使って行います。いずれの課題も演習時間外の準備が必要となります。本演習の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【参考書】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

8 回以上のゼミ論報告（20 %）およびゼミ論 10,000 字以上（80 %）で評価します。欠席は 3 回までとします。4 回以上欠席すると単位認定しません。

【学生の意見等からの気づき】

「出席は必ず毎回とってほしい」という意見がありましたので、授業開始後すぐに出席を取ることにします。

【Outline and objectives】

The goal is to be a student who can discuss based on "data-based" on the basic theory of economics.

ART300EB, ART300EC, ART300ED

演習 2

高 美智

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画研究の基本として、ショット分析の方法や、ジャンル批評・ジェンダー批評・歴史的批評など批評的視座を学び、映画を学術的に研究します。2021 年度は主にジェンダーとセクシュアリティ表象を中心に扱います。

【到達目標】

映画研究の基礎を身につけ、映画を題材に、単なる映画レビューや感想文ではなく、学術的な視座から論文が書けるようになることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献の講読と映画作品の分析が基本。

演習 1 との合同授業（3 限・4 限の両時限に参加すること）

毎回、全員がレジュメを作成し授業に参加し、グループで議論の後全体討議を行う。

授業の最後に講評という形でフィードバックを出す。

* 毎回授業後に翌週の課題映画の鑑賞を行う（参加は必須）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期オリエンテーション	春学期授業の説明
第 2 回	映画分析入門・イデオロギー分析	論点の報告と作品分析・議論
第 3 回	映画分析入門・イデオロギー分析	論点の報告と作品分析・議論
第 4 回	映画分析入門・イデオロギー分析	論点の報告と作品分析・議論
第 5 回	無声映画における活動弁士の役割（文献購読）	無声映画における活動弁士の役割について文献を読む
第 6 回	無声映画における活動弁士の役割（ゲスト講義）	ゲスト講義 活動弁士の実演と歴史的役割についての講義
第 7 回	ジェンダー批評の基礎 女性性と映画（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 8 回	ジェンダー批評の基礎 女性性と映画（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 9 回	ジェンダー批評の基礎 男性性と映画（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 10 回	ジェンダー批評の基礎 男性性と映画（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 11 回	ジェンダー批評の基礎 LGBTQ 映画とクィア映画 （文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 12 回	ジェンダー批評の基礎 LGBTQ 映画とクィア映画 （文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 13 回	研究計画書の作成	夏のグループ研究に向けて計画書を作成する
第 14 回	先行研究のまとめ	先行研究のまとめ
第 15 回	秋学期オリエンテーション	秋学期授業の説明 夏休み課題の発表
第 16 回	夏休み課題の発表	夏休み課題の発表
第 17 回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論

第 18 回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 19 回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 20 回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 21 回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 22 回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 23 回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 24 回	映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象考察 応用編（文献購読・作品分析）	論点の報告と作品分析・議論
第 25 回	個人研究 1（計画）	問いの設定、映画選択
第 26 回	個人研究 2（中間報告）	先行研究の評価
第 27 回	個人研究 3（中間報告）	映画分析・考察の確認
第 28 回	個人研究 4（発表）	研究報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献購読にあたっては、受講者は毎回必ず念入りに文献を読み、指定されたやり方にしたがってレジュメを作成したうえで討論に参加する。課題映画も必ず事前に視聴し、分析をしたうえで授業に参加することが必須。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業でプリントを配布する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・30%、課題 30%、学期末研究報告・レポート 40%
*学期中、特別な理由なしに欠席が3回を超えた場合は期末試験の受験（=期末課題の提出）を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

現代の娯楽作品だけでなく、古い作品や政治的な映画、芸術映画にも興味があり、映画を観ることに意欲的な学生の受講をすすめる。

【Outline and objectives】

In this course, the students will be introduced to the key theories in Film Studies. The course emphasizes an understanding of the historical, cultural, commercial, and aesthetic contexts that influence film, but also develops the students' understanding of a film's narrative and visual structure and its place within established theoretical traditions. The goal of the course is that the students will acquire the essential skills to analyze films.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2・3（卒業論文）

小林 直毅

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「メディア表象としての現代社会を読み解く」が、この演習のテーマです。複雑な言葉と論理を振り回したり、狭苦しい世界に引きこもったりする「メディア論」から脱却して、描かれ、語られた出来事を繊細かつ緻密に読み解くことを目指します。その上で、現代社会が避けて通ることのできない課題としての「長崎」「水俣」を、時間的空間的に広がりのもとで再構成していきます。

【到達目標】

現代社会を特徴づける出来事、何が、どのように顕著に描かれ、語られ、記憶が共有されるのか、逆に、何が描かれず、語られず、忘却されていくのかを問うことから研究を出発します。そこから、描かれ、語られ、記憶されている出来事の特長と、逆に、描かれず、語られず、忘却されている出来事の特長を現代史や現代社会の在り様として解明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期はテキストクリティークを中心に進めます。秋学期はフィールドワークによる研究成果を共同研究発表に集約していく作業が中心になります。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。

課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	問題関心の共有。
第 2 回	問題構成	課題の見取り図を作る。
第 3 回	テーマ概説	テキストと関連文献の概説。
第 4 回	イメージの変容	前半のテキストの第 1 章の報告と討論
第 5 回	「見ること」と「見られること」	前半のテキストの第 2～3 章の報告と討論
第 6 回	所有するタブロー	前半のテキストの第 4～5 章の報告と討論
第 7 回	広告の宇宙	前半テキストの第 6～7 章の報告と討論
第 8 回	視覚とその技術と制度	中間総括
第 9 回	フィールドワークの準備(1)	フィールドワークのラフデザインの検討
第 10 回	「記録と記憶」としての写真	後半に向けた問題構成
第 11 回	「写真」の特殊性	後半のテキスト 7-17 頁の報告と討論
第 12 回	冒険としての「写真」	後半のテキスト 17-31 頁の報告と討論
第 13 回	二重性	後半のテキスト 32-41 頁の報告と討論
第 14 回	フィールドワークの準備(2)	フィールドワークの計画の検討
第 15 回	共同研究のテーマ設定	フィールドワークの結果の確認と共同研究の準備
第 16 回	不意にとらえること	後半のテキスト 42-51 頁の報告と討論
第 17 回	無意志的特徴	後半のテキスト 52-61 頁の報告と討論
第 18 回	事後と沈黙	後半のテキスト 62-72 頁の報告と討論
第 19 回	分け隔てるもの、「歴史」	後半のテキスト 75-87 頁の報告と討論
第 20 回	《それはかつてあった》	後半のテキスト 88-98 頁の報告と討論
第 21 回	確実性の証明	後半のテキスト 99-113 頁の報告と討論
第 22 回	「私的なもの」／「公的なもの」	後半のテキスト 114-129 頁の報告と討論
第 23 回	明るい部屋	後半のテキスト 130-146 頁の報告と討論
第 24 回	共同研究の分担報告 1	分担した研究成果の報告と検討
第 25 回	共同研究の分担報告 2	分担した研究成果の報告と検討
第 26 回	共同研究の取りまとめ 1	分担した研究成果の集約と検討
第 27 回	共同研究の取りまとめ 2	分担した研究成果の集約と検討
第 28 回	共同研究発表の総括	共同研究発表の評価と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を読んで出席することは必須です。積極的な発言、討論への参加を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

前半：J・バージャー（2013）『イメージ：視覚とメディア』ちくま学芸文庫
 後半：R・バルト（1997）『明るい部屋：写真についての覚書』みすず書房

【参考書】

年度初めに、「参考文献リスト」を配布します。

【成績評価の方法と基準】

分担報告 20 %、討論への参加の度合い 20 %、学年末のゼミ論文 60 % によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは実施していません。

【Outline and objectives】

Students will be able to understand contemporary society as media representation.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

齋藤 友里子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマ 「公平さと公共性」を手がかりに社会学的視角とロジックを学ぶ。

この演習の目的はふたつある。第一は、公共性・公平さ、そして共同性に関わる諸問題について考えることを通して「社会学的想像力」を鍛えること。第二は、科学的な考え方や説得の作法を身につけることである。

【到達目標】

自分自身の「社会学的な問題関心」を見つけるとともに、(自分のものかどうかに関わらず)「問い」に対する答えを、客観的・中立的な方法で見つけ、それを説得的に提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミの前半は、演習 1 の後半に開始したグループ研究を引き続き進めゼミ論文を執筆する。この間に、各グループの研究の進捗状況と必要に応じ、研究方法やスキルに関するワークショップをゼミ中に行う。ゼミの後半は、卒業研究に向けた各自の関心の深化とテーマの探索を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミ研究進捗状況の報告	発表担当のグループがゼミ研究について進捗状況を報告し、他のグループとの討論を行うことで研究を進める（2 回以降も同様）
第 2 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 3 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 4 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 5 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 6 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 7 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 8 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 9 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 10 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 11 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 12 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 13 回	ゼミ研究進捗状況の報告	担当グループの発表・討論
第 14 回	ゼミ研究論文の構成について	各グループのゼミ研究論文の構成について発表し、検討する
第 15 回	ゼミ論文提出	ゼミ論文の提出と内容に関する簡単な報告
第 16 回	卒業論文に関する個別相談	テーマ設定に関する個別相談を実施する
第 17 回	卒業論文に関する個別相談	テーマ設定に関する個別相談を実施する
第 18 回	各自の研究報告	卒業論文のテーマ設定・研究方法について個別に報告し、討議を行う（19 回以降も同様）
第 19 回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第 20 回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第 21 回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第 22 回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第 23 回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第 24 回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第 25 回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第 26 回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第 27 回	各自の研究報告	卒業論文に関する個別報告と討議
第 28 回	春休みの研究計画報告	卒業論文に関する春休みの作業計画の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ論文完成までは、グループ別にゼミ研究を進め、ゼミでの報告準備を行う。ゼミ論文完成後は、個別の研究関心を深化させるために資料収集を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加（発表・議論への参加）とゼミ論文により評価する（60 % : 40 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is to learn "how to see and think sociologically", by looking at the issue of fairness, justice, and togetherness in our daily lives. Students should grasp the essence of "sociological imagination" and the scientific thinking as well.

PLN300EB, PLN300EC, PLN300ED

演習2・3（卒業論文）

澤柿 教伸

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：月3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学と第四紀地球科学の分野を基礎として、社会と自然環境とのつながりを人類史の時間スケールで考えます。文献資料の収集と分析、電子地図や人工衛星画像の解析、野外での測量や観察などの手法を使いこなすスキルを習得し、それによって知りえた自然や社会現象を考察して、問題の解決や新しいコンセプトの創出につなげる能力を養います。最終的に、その結果を論理的にプレゼンしたり論文としてまとめたりする能力を磨きます。

【到達目標】

地球科学に関する基礎的な思考力・論理展開力・調査手法を習得し、学術的に通用する水準の文章の執筆と討議への参画能力を身につける。社会と自然環境とのつながりを人類史の時間スケールで理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・従来の「演習2」（3年生）と「演習3・卒論」（4年生）を合同で実施します。
- ・オンライン・対面を問わず、グループディスカッションやディベート等により課題に取り組みます。
- ・対面授業が可能な場合は、週末巡検を企画してフィールドワークを行います。
- ・ゼミ論や卒論を前提としたレポートや論文を書き進めてもらい、その原稿をへの添削のやりとりを通じてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	通年ガイダンス	ゼミの進め方
第2回	ゼミ論・卒論研究方針検討	自分の興味についてプレゼン
第3回	ゼミ論・卒論研究方針検討	自分の興味についてプレゼン
第4回	ゼミ論・卒論研究方針検討	自分の興味についてプレゼン
第5回	ゼミ論・卒論の企画・報告1	巡検報告次回の下調べ
第6回	ゼミ論・卒論の企画・報告2	巡検報告次回の下調べ
第7回	ゼミ論・卒論の企画・報告3	巡検報告次回の下調べ
第8回	ゼミ論・卒論の企画・報告4	巡検報告次回の下調べ
第9回	ゼミ論・卒論研究事前準備1	卒論研究にむけた下調べ
第10回	ゼミ論・卒論研究事前準備2	卒論研究にむけた下調べ
第11回	ゼミ論・卒論研究事前準備3	卒論研究にむけた下調べ
第12回	ゼミ論・卒論研究事前準備4	卒論研究にむけたプレゼン
第13回	ゼミ論・卒論の夏期休暇課題検討1	夏期課題のプレゼン
第14回	ゼミ論・卒論の夏期休暇課題の検討2	夏期課題のプレゼン
第15回	秋学期ガイダンス	秋学期の進め方について
第16回	ゼミ論・卒論の夏期課題成果発表1	夏期調査の成果発表
第17回	ゼミ論・卒論の夏期課題の成果発表2	夏期調査の成果発表
第18回	ゼミ論・卒論のハンズオンと討論1	文献・理論の検討
第19回	ゼミ論・卒論のハンズオンと討論2	文献・理論の検討
第20回	ゼミ論・卒論のハンズオンと討論3	課題研究進捗状況報告
第21回	ゼミ論・卒論のハンズオンと討論4	課題研究進捗状況報告
第22回	ゼミ論・卒論のハンズオンと討論5	課題研究進捗状況報告

第 23 回	ゼミ論・卒論の添削 1	本文執筆の指針ガイダンス
第 24 回	ゼミ論・卒論の添削 2	本文の構成の検討
第 25 回	ゼミ論・卒論の添削 3	原稿の添削
第 26 回	ゼミ論・卒論プレゼン 1	研究成果のプレゼン
第 27 回	ゼミ論・卒論プレゼン 2	研究成果のプレゼン
第 28 回	ゼミ論・卒論の総まとめ	ゼミ論・卒論の総仕上げ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・セミナーは、日頃の各自の成果をお互いに問う場であり、文献の読み込みや資料の収集、現地調査、データの解析、結果の考察などは、あらかじめ授業外の時間に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

ナショナル・ジオグラフィックという月刊誌の講読

【成績評価の方法と基準】

演習時の発表内容や発現頻度、運営への貢献度などによる平常点 (40%)、自身が設定した課題に対する取組 (30%)、最終提出課題の内容 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

ネット上でもゼミ内の先輩・後輩との交流ができる機会を持つように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

・コロナ感染対策で Zoom によるリアルタイム双方向形式も併用します。ネットや PC 機材を準備してください。

【その他の重要事項】

秋学期は代講の先生に担当していただく予定です。

【Outline and objectives】

Based on the physical geography and Quaternary sciences, this course helps students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their Sociological studies. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and self-regulated learning, along with academic writing tutorial.

SES200EB, SES200EC, SES200ED

演習 2

島本 美保子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題の中で資源管理に関する問題、具体的には世界の食料、森林、エネルギーについて各々のテーマを決め、これらの問題を分析するための方法論についても探索し、ゼミ論文を執筆します。

【到達目標】

演習 2 では、自分のテーマを決め、基本的な事実関係をリサーチし、方法論を用いたアプローチに意識をおきながら論理的に構築し、年末にはゼミ論を提出します。ゼミ論は 8000 字以上で web 以外の参考文献が 10 件以上ついでなければなりません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自の研究テーマについてリサーチして報告します。方法論をもって論理を構築する事が卒業論文作成に必要なので、環境・資源管理に親和的な方法論のアプローチのいくつかを文献の輪読によって学ぶことがあります。なお演習Ⅱの時間内で十分でない場合、サブゼミを行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミ論テーマ発表	各自のゼミ論テーマについてチェック
2	ゼミ論報告 1 回目①	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
3	ゼミ論報告 1 回目②	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
4	ゼミ論報告 1 回目③	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
5	ゼミ論報告 1 回目④	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
6	ゼミ論報告 1 回目⑤	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
7	ゼミ論報告 1 回目⑥	テーマ、対象が適切かどうか、という点をチェック
8	ゼミ論報告 2 回目①	テーマに適合した筋立て、文献集めができていないかチェック
9	ゼミ論報告 2 回目②	テーマに適合した筋立て、文献集めができていないかチェック
10	ゼミ論報告 2 回目③	テーマに適合した筋立て、文献集めができていないかチェック
11	ゼミ論報告 2 回目④	テーマに適合した筋立て、文献集めができていないかチェック
12	ゼミ論報告 2 回目⑤	テーマに適合した筋立て、文献集めができていないかチェック
13	ゼミ論報告 2 回目⑥	テーマに適合した筋立て、文献集めができていないかチェック
14	ゼミ論報告補足	2 回目の報告の中から再報告
15	ゼミ論報告 3 回目①	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
16	ゼミ論報告 3 回目②	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
17	ゼミ論報告 3 回目③	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
18	ゼミ論報告 3 回目④	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
19	ゼミ論報告 3 回目⑤	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
20	ゼミ論報告 3 回目⑥	リサーチが質的量的に進んでいるかどうかをチェック
21	ゼミ論報告 4 回目①	筋書きとリサーチの進捗をチェック
22	ゼミ論報告 4 回目②	筋書きとリサーチの進捗をチェック
23	ゼミ論報告 4 回目③	筋書きとリサーチの進捗をチェック
24	ゼミ論報告 4 回目④	筋書きとリサーチの進捗をチェック
25	ゼミ論報告 4 回目⑤	筋書きとリサーチの進捗をチェック
26	ゼミ論報告 4 回目⑥	筋書きとリサーチの進捗をチェック
27	ゼミ論報告補足	保続報告が必要な人の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界の食料、森林、エネルギーの分野で、自分が研究したいテーマについて、文献を読んだり、見聞を広めておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論中間報告を中心とした平常点20%とゼミ論（A4 7-8枚程度）80%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

コロナ感染拡大の状況次第ですが、春（1泊2日）と夏（2泊3日）に農村（昨年度は新潟県柏崎市高柳町の門出集落）でフィールドワークを行います。田植え稲刈りや過疎山村の状況や村おこしについてのヒアリングなどを行います。参加が前提となります。

【Outline and objectives】

Each student will decide a theme for his seminar thesis about resource management, specifically among the world food, forest, energy issues and etc., also will explore the methodology to analyze these issues. At the end of the year he will submit the thesis.

SOS300EB, SOS300EC, SOS300ED

演習2・3（卒業論文）

白田 秀彰

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：月5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課題を遂行するにあたって、「計画し・実行し・報告する」という一連の作業手順を的確に行うこと。課題内容については、演習で固定化されている事項に加えて、ゼミ生の意向を斟酌して決める。また、社会に出て活動するにあたっての基礎的規律を実践する。

【到達目標】

「計画し・実行し・報告する」技法・技能を身につけることを目標とする。さらに、興味関心領域を社会的・法学的学問へと接続することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

指定されたテーマによる、フィールドワークの訓練と、グループ・プレゼンテーションを行います。いずれにしても積極的に取り組むことを強く要求する。ゼミ活動・連絡等では、Google Classroomを活用するので、対応しうる機器等を保有していることが条件となる。演習3については、個別テーマでの卒業論文の指導をおこなう。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面とはほぼ同内容の動画による演習となる可能性がある。演習に関する連絡その他は、指定されたGoogle Classroomにて行う。課題に対する講評は、Google Classroomのストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	調査する 1	外部の図書館・公共機関・研究機関を用いての情報収集の練習を行う。
2	調査する 2	ゼミ全体での調査の計画立案の前提となる資料を集める。
3	構想する 1	ゼミ全体での調査計画を作成する。
4	調査する 3	ゼミ全体での調査を実施する。
5	調査する 4	ゼミ全体での調査を再度実施する。
6	整理する 1	調査結果の評価を行う。
7	整理する 2	調査結果を整理し、報告についての構想を検討する。
8	構想する 2	構想を具体化するための検討を行う。
9	構想する 3	構想を確定し、制作手順について計画する。
10	制作する 1	報告プレゼンテーションの作成を行う。
11	制作する 2	報告プレゼンテーションの作成を続けて行う。
12	制作する 3	報告プレゼンテーションの進捗報告を行う。
13	制作する 4	報告プレゼンテーションの改善を行う。
14	報告する 1	報告プレゼンテーションを行う。
15	前期報告プレゼンテーションについての評価と反省	前期に行ったプレゼンテーションについての講評を行う。
16	<個人テーマ> 調査する 1	各個人テーマによるゼミ論へ向けて、事前調査を行う。
17	<個人テーマ> 調査する 2	ゼミ論のための文献調査を行う。
18	<個人テーマ> 調査する 3	ゼミ論のためのさらなる文献調査を行う。
19	<個人テーマ> 整理する 1	資料を整理し、論点を明確にする。
20	<個人テーマ> 整理する 2	資料を配列し、構想を検討する。
21	<個人テーマ> 整理する 3	さらに追加的な資料が必要でないかを検討する。
22	<個人テーマ> 構成する 1	ゼミ論の構成案を作成する。
23	<個人テーマ> 構成する 2	構成案の再検討を行う。
24	<個人テーマ> 構成する 3	ゼミ論の構想を簡易なプレゼンテーションとして発表する。

- 25 <個人テーマ> 構成する 構成案の再々検討を行う。
4
26 <個人テーマ> 執筆する ゼミ論の執筆を行う。
1
27 <個人テーマ> 執筆する ゼミ論の進捗報告を行う。
2
28 <個人テーマ> 執筆する ゼミ論について口頭報告を行う。
3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この演習は、「計画・実行・報告」を目的とするため、課外活動がほぼ毎月設定されている。年間予定は4月段階で決定されるため、不参加や欠席が許されないことに留意すること。自主的に情報収集したり、手配したりすることが強く要求される。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。新型コロナ状況下であるため、課外活動が不可能になる場合には、オンラインでの情報収集や発表になる可能性がある。

【テキスト（教科書）】

演習中に適宜指示する。

【参考書】

演習中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

演習中に何度か課題の提出を求める。また期末にゼミ論文あるいは制作物を提出させる。課題提出物について40%、ゼミ論文あるいは制作物について60%で評価を行う。単位取得できない学生は次年度の受講を認めない。演習3については、卒業論文(100%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習ゆえ、授業改善アンケートの対象外。

【Outline and objectives】

Students are expected to plan, to practice and to report appropriately in the series of work procedures. Assignments are designated as seminar routine and also be decided in consideration of those who attend the seminar. In addition, practicing social standard is assigned in order to make a start in life.

This subject is aimed at achieving abilities to plan, to practice and to report. Furthermore, it is also aimed at connecting students' area of interest to sociological and juristic learnings.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2

鈴木 智道

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「〈日常生活〉の社会学」

演習1で培ってきた様々なスキルをふまえながら、特定の《現場》をめぐって、共通テーマに基づく共同研究に取り組む。研究対象へは、主として、インタビュー調査をおこなうことでアプローチしていくことになる。

【到達目標】

インタビュー調査の可能性と限界をふまえながら、「他者の声」と格闘したその足跡を論文として再構成することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で進める。

諸課題に対する講評等は、授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明・スケジュール確認
2	全体テーマの検討①	プレストとKJ法
3	全体テーマの検討②	テーマ群の整理
4	全体テーマの検討③	テーマ群の再整理
5	問題関心の明確化①	テーマの絞り込み
6	問題関心の明確化②	テーマから問いへ
7	問題関心の明確化③	問題関心のブラッシュアップ
8	テーマの確定	班構成と役割分担
9	方法の習得	調査方法の概要説明
10	予備調査報告①	研究課題の明確化
11	予備調査報告②	研究課題の明確化
12	リスト検討①	インタビューリスト・一次案作成
13	リスト検討②	ブラッシュアップ
14	リスト検討③	リスト確定作業
15	秋学期ガイダンス	スケジュールの確認
16	調査結果の検討①	グループ別報告
17	調査結果の検討②	グループ別報告
18	調査結果の検討③	グループ別報告
19	調査結果の検討④	グループ別報告
20	調査結果の検討⑤	グループ別報告
21	研究報告に向けて①	データの集約
22	研究報告に向けて②	問題の析出
23	研究報告に向けて③	ストーリー確定
24	資料集の作成ガイダンス	概要説明
25	資料集の作成①	データの整理
26	資料集の作成②	役割分担確定
27	資料集の作成③	原稿提出
28	演習3ガイダンス	卒論執筆に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の収集、必要とされる文献の講読、構想の精緻化、レジュメの作成、ゼミ論の作成等、必要とされるすべての活動は、その都度、授業外での活動となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの出席・調査活動への参加度（50%）、およびゼミ論の執筆に至るプロセスとその最終的な水準（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to do research on a sociological theme in collaboration with other students. Students have to use interviews in qualitative research to approach the theme.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2・3 (卒業論文)

鈴木 宗徳

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代における批判的社會理論の可能性

【到達目標】

社會理論を精密に読解する力を養うとともに、現代の社會問題および社會変動を説明し批判する上でどのような理論枠組みが必要かについて、考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社會学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

担当教員の専門はドイツを中心とする社會学理論で、ゼミでも社會学的主要な理論的著作の輪読をおこなう。ただし「理論のための理論」を採求することが目的ではなく、あくまで、われわれが直面する社會問題や社會変動を説明する枠組みとしてどのような理論が要請されているかを考えながら、それぞれの理論の可能性と限界について検討したい。

春学期はテキスト講読が中心となる。夏休みは研修旅行（フィールドワーク）を行ない、秋学期に各自が成果を報告書にまとめるとともに、学部研究発表会で発表を行なう。2011 年は静岡県御前崎市の浜岡原発周辺を訪ね、反対運動家や市議会議員をはじめ地域の様々なアクターに話を伺った。2012 年は被災地の復興を視察するため宮城県石巻市を訪ね、市議会議員、漁協、病院等に話を伺った。2013 年は、大阪市釜ヶ崎の高齢の日雇労働者が集住する地域を訪ね、ホームレス支援、子どもの支援、高齢者への仕事の斡旋を行う NPO 等で話を伺った。2 年間の在外研究をはさみ、2016 年は大阪府 N 市と京都市を訪ね、ヘイトスピーチ問題に取り組む在日朝鮮人の団体やジャーナリストらに話を伺った。2017 年度は福島県福島市や郡山市を訪ね、原発事故被害への補償や被ばくの不安の問題にとり組む被害者団体や母親たちのグループ、農業団体等で話を伺った。2018 年度は静岡県浜松市の日系ブラジル人労働者が集住する地域を訪ね、多文化共生政策や日本語学習支援の担当者、ブラジル人学校や保育園で話を伺った。2019 年度は日雇労働者が多かった横浜市寿町で、医療、ホームレス支援、就労支援に携わる方々に話を伺った。2020 年度は朝鮮学校をとりまく情勢と自治体による多文化共生施策について、横浜と川崎で話を伺った。

今年度は「外国人技能実習生問題」をテーマに訪問先を検討する予定である。

秋学期は、二冊目のテキスト講読と並行して、個人研究報告を行なってもらう。個人研究は教員と相談しながら進めてもらうが、どのようなテーマを選ぶかは（そのテーマについて指導できるより適切なゼミがほかにある場合を除いて）基本的に自由である。

「演習 1」（2 年）と「演習 2・3」（3・4 年）を連続する時間帯に設定し、もう一方のゼミにも（単位にはならないが）出席することを義務とする（毎週 100 分×2 コマの出席）。議論が充実するため、ゼミ生には好評である。授業時間割を計画する上で制約が生じることを理解した上で、希望票を提出してほしい。三月末の演習説明会に出席することを、希望票を提出する要件とする。

提出物については、翌週の演習もしくはメールを使ってフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス (1)	自己紹介など
第 2 回	ガイダンス (2)	研究の進め方について
第 3 回	3 年生の研究報告	(1) (2)
第 4 回	3 年生の研究報告	(3) (4)
第 5 回	テキスト講読 (1)	並行して研修旅行の準備 (1)
第 6 回	テキスト講読 (2)	並行して研修旅行の準備 (2)
第 7 回	テキスト講読 (3)	並行して研修旅行の準備 (3)
第 8 回	テキスト講読 (4)	並行して研修旅行の準備 (4)
第 9 回	テキスト講読 (5)	並行して研修旅行の準備 (5)
第 10 回	秋学期の研究計画の発表	2・4 年生による
第 11 回	テキスト講読 (6)	並行して研修旅行の準備 (6)
第 12 回	テキスト講読 (7)	並行して研修旅行の準備 (7)
第 13 回	テキスト講読 (8)	並行して研修旅行の準備 (8)
第 14 回	テキスト講読 (9)	並行して研修旅行の準備 (9)
第 15 回	テキスト講読 (1)	並行して 2 年生の研究報告 (1)
第 16 回	テキスト講読 (2)	並行して 2 年生の研究報告 (2)
第 17 回	テキスト講読 (3)	並行して 2 年生の研究報告 (3)
第 18 回	テキスト講読 (4)	並行して 2 年生の研究報告 (4)
第 19 回	2 年生の研究報告 (5)	並行して学部研究発表会の準備 (1)
第 20 回	2 年生の研究報告 (6)	並行して学部研究発表会の準備 (2)
第 21 回	4 年生の研究報告 (1)	並行して学部研究発表会の準備 (3)
第 22 回	4 年生の研究報告 (2)	並行して学部研究発表会の準備 (4)
第 23 回	4 年生の研究報告 (3)	並行して学部研究発表会の準備 (5)
第 24 回	4 年生の研究報告 (4)	並行して学部研究発表会の準備 (6)
第 25 回	3 年生の研究報告	(1) (2)
第 26 回	3 年生の研究報告	(3) (4)
第 27 回	テキスト講読	(1) (2)
第 28 回	テキスト講読	(3) (4)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

素晴らしいレジュメを作ることに全力を注いでほしい。また、時間割が許すならば、鈴木が担当する「公共性と民主主義 1・2」を履修すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期のテキストは、参加者と相談した上で第一回目のゼミで決める。候補は次の 5 冊である。

A. R. ホックシールド『管理される心——感情が商品になるとき』
ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体——ナショナルリズムの起源と流行』

ウルリッヒ・ベック『危険社会——新しい近代への道』

ブルーノ・ラトゥール『虚構の「近代」——科学人類学は警告する』
ピーター・ポール・フェルバーク『技術の道德化——事物の道德性を理解し設計する』

これまでも毎年 2~3 冊ずつ、アーレント『全体主義の起源 3』、ヴェーバー『社會学と社會政策にかかわる認識の「客観性」』、バウマン『コミュニティ』、ファノン『黒い皮膚・白い仮面』、石田勇治『過去の克服』、アンダーソン『想像の共同体』、ブルデュー『ディスタシオン』、ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、ドゥルーズ『差異と反復』、フロム『自由からの逃走』、フーコー『生政治・統治』、リッツァ『消費社會の魔術的体系』、アーレント『人間の条件』などを、講読してきた。

【参考書】

必要な参考書は、授業内で適宜指示する。履修希望者は、担当教員が執筆した論文を Dropbox からダウンロードし (<http://ur0.link/sZeb>)、選考までに必ず一つ以上読んでおくこと。

【成績評価の方法と基準】

レジュメと口頭発表の内容 (30%)、議論への参加姿勢 (30%)、ゼミ論文 (40%)。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

質問は担当教員にメールで連絡すること（munenori@hosei.ac.jp）。

【Outline and objectives】

This course explores the possibility of critical social theories in contemporary society.

ECN300EB, ECN300EC, ECN300ED

演習 2

関口 浩

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは「地方分権時代の税財政システムおよび教育・福祉政策の研究」である。

【到達目標】

令和3年度の「財政学演習2」は、ゼミのテーマ「地方分権時代の税財政システムおよび教育・福祉政策の研究」の観点からの研究を進め、他大学との研究報告会での報告を成功させ、その成果をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 「財政学演習2」は3年次から構成され、本来、名実ともに専門課程に入るのでゼミの支柱である「財政学」の研究を演習形式で深化させる時期である。

2. 新型コロナウイルス感染症対応が可能な場合は対面演習とする。また、演習冒頭で前時間の出席票相当提出物に受講者が記載した内容等に担当者が回答する。また個別に質問・照会したいことがある場合は演習中に担当者がそれを提起したとき、あるいは演習終了後に時間を設けるので、対面・遠隔ともに受講者はその場で解決するようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	1年間の演習計画説明	本年度の研究、ゼミ活動の説明
第2回	I. 財政学の文献輪読	租税利益説の適用
第3回	I. 財政学の文献輪読	担税力と課税ベース
第4回	I. 財政学の文献輪読	担税力と垂直的公平
第5回	I. 財政学の文献輪読	租税の帰着概念
第6回	II. 合同ゼミ合宿準備	2年次に昨年度の説明
第7回	II. 合同ゼミ合宿準備	報告論題・目次の作成
第8回	III. 財政学基礎の確認	財政民主主義・財政学説史
第9回	III. 財政学基礎の確認	公債の意義と公債負担論
第10回	III. 財政学基礎の確認	日本の予算決算制度・市場の失敗・費用便益分析
第11回	III. 財政学基礎の確認	社会保障財政・教育財政
第12回	III. 財政学基礎の確認	租税理論
第13回	II. 合同ゼミ合宿準備	合同ゼミ沖繩開催の企画案検討
第14回	II. 合同ゼミ合宿準備	報告論文執筆討論
第15回	合同ゼミ研究報告会	沖繩国際大学前村財政学演習と第24回合同ゼミ研究報告会を令和3年度は沖繩開催。
第16回	IV. 『財政学研究』編集	合同ゼミ合宿の成果を報告
第17回	IV. 『財政学研究』編集	『財政学研究(第25巻)』編集指揮
第18回	I. 財政学の文献輪読	外国文献講読(予算)
第19回	I. 財政学の文献輪読	外国文献講読(決算)
第20回	I. 財政学の文献輪読	外国文献講読(公共経済学)
第21回	I. 財政学の文献輪読	外国文献講読(経費)
第22回	IV. 『財政学研究』編集	『財政学研究(第25巻)』編集中間報告
第23回	IV. 『財政学研究』編集	『財政学研究(第25巻)』編集再検討
第24回	IV. 『財政学研究』編集	『財政学研究(第25巻)』ゲラ作成
第25回	I. 財政学の文献輪読	外国文献講読(公債)
第26回	I. 財政学の文献輪読	外国文献講読(地方財政)
第27回	I. 財政学の文献輪読	外国文献講読(財政政策)
第28回	III. 『財政学研究』編集	『財政学研究(第25巻)』編集最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

専門ゼミ2年度で「財政学」の基礎知識を講義等で習得している。毎回、前時間に指示した教科書該当箇所を2時間以上かけて丹念に通読し、学問的により深化すべき点を明らかにしておく。各回のゼミ終了後にはより深化すべき点をいかに考究したかを確認すべく、教科書、配付資料や演習問題を頼りに2時間以上かけて復習すること。

【テキスト（教科書）】

佐藤進・関口浩『財政学入門【新版】』同文館、令和元年。

【参考書】

1. Richard A.MUSGRAVE & Peggy B.MUSGRAVE, "Public Finance in Theory and Practice," McGraw-Hill, 1980.(木下和夫監修『マスケレイブ財政学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』有斐閣、昭和58～59年。)

※名著として一部輪読する。

2. その他の参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

報告資料作成水準 (40 %)、出席票記述事項 (30 %)、『財政学研究』論文執筆水準・編集への関与 (30 %) で総合して、ゼミ活動への取り組み状況 (100 %) を評価する。詳細はゼミ活動を通じて説明するので日々確認してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

卒業生および現在登録ゼミ生から継続要請のあった春学期後半の市ヶ谷での大学院合同ゼミを全学年で行うので、財政学の基礎を確認する機会としてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

遠隔演習を受信したり、学習支援システムの掲示を閲覧・印刷等できる装置を、大学の貸与を含めて、受講者各自で準備されたい。

【その他の重要事項】

1. 「財政学演習2」受講の要件は「演習1」と同じであるので、「演習1」を参照のこと。
2. 昨年度蓄積されたチームワークを活かし、新たなゼミづくりに邁進してほしい。

【Outline and objectives】

We learn knowledge of "the public finance" and will be a cooperative human being.

LAW300EB, LAW300EC, LAW300ED

演習2

長沼 建一郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

引き続き、社会問題への政策対応を主たるテーマとして、大学生としての、さらには社会人としても通用する高度な学問的センス——とくに論理的な思考力・物事を判断する能力——を涵養します。

【到達目標】

学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

社会問題への政策対応領域のなかから、各参加者が興味のあるテーマを取り上げて、報告および討議を中心に進めていきます。

担当教員は、政策論・法的分析を専門としており、また年金や介護関係を中心的な研究領域としていますが、この演習ではそれらに限定せず、幅広いテーマを取り上げ、多様なアプローチを試みたいと思います。現代社会の諸問題について、自分の頭で考えて、判断を下す能力を養うことが目標です。

演習2では個人単位での研究と、ゼミ共通テーマの検討を並行してお願いする予定です。

レポート等の課題については、ゼミ内で個々にコメントしつつフィードバックします。ゼミ生相互の査読も重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	演習2のガイダンス (1)	スケジュールの確認、演習2で学ぶことの確認
2	演習2のガイダンス (2)	演習1の提出論文へのフィードバック
3	演習2のガイダンス (3)	政策研究の基礎
4	共通文献の講読 (1)	社会保障関係の文献検討
5	共通文献の講読 (2)	社会福祉・福祉国家関係の文献検討
6	共通文献の講読 (3)	雇用・労働関係の文献検討
7	共通文献の講読 (4)	生命倫理・家族関係の文献検討
8	個人研究のガイダンス (1)	研究テーマの設定
9	個人研究のガイダンス (2)	研究方法の選定
10	個人研究のガイダンス (3)	報告資料作成の方法
11	個人研究構想報告 (1)	第1グループの構想報告と討議
12	個人研究構想報告 (2)	第2グループの構想報告と討議
13	個人研究構想報告 (3)	第3グループの構想報告と討議
14	個人研究構想報告 (4)	構想報告の総括、フィードバック
15	学部研究発表会準備 (1)	発表テーマの検討・選定
16	個人研究中間報告 (1)	第1グループの中間報告と討議
17	個人研究中間報告 (2)	第1グループの中間報告へのフィードバックとフォローアップ
18	個人研究中間報告 (3)	第2グループの中間報告と討議
19	学部研究発表会準備 (2)	発表内容の検討
20	個人研究中間報告 (4)	第2グループの中間報告へのフィードバックとフォローアップ
21	個人研究中間報告 (5)	第3グループの中間報告と討議
22	個人研究中間報告 (6)	第3グループの中間報告へのフィードバックとフォローアップ
23	学部研究発表会準備 (3)	発表内容の確定・リハーサル
24	学部研究発表会準備 (4)	発表内容の精査・最終リハーサル
25	個人研究最終報告 (1)	第1グループの最終報告と討議
26	個人研究最終報告 (2)	第2グループの最終報告と討議
27	個人研究最終報告 (3)	第3グループの最終報告と討議
28	個人研究のまとめ	自己評価・相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の討議等に積極的に参加できるよう、確実に準備してくる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しませんが、共通に読むべき文献等については適宜配布します。

【参考書】

演習内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告、討議参画等）（80%）及びレポート提出（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

This seminar deals with social problems and social policies.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 2

藤代 裕之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

制作と研究を通してソーシャルメディア時代の情報生態系の設計を学びます。ソーシャルメディアを中心に、様々なメディアの特徴や構造を理解し、情報が伝わる仕組みを考えます。

【到達目標】

自分の問題意識から獲得した「視点」を社会的な問題に結びつけて考えられるようになる。様々なメディアの特徴と構造を理解した上で、人間的に伝えることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義と実習を組み合わせで行います。制作と並行して一人ひとりが研究テーマを持ち、調査と論文執筆を行います。制作や研究に対するコメントをフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	方針の確認と自己紹介
第2回	調査	研究テーマの事前調査
第3回	調査	研究テーマの事前整理
第4回	調査	研究テーマの事前まとめ
第5回	調査	先行研究の検討
第6回	調査	先行研究の調査
第7回	調査	先行研究の整理
第8回	調査	先行研究のまとめ
第9回	調査	関心の検討
第10回	調査	関心の調査
第11回	調査	関心のまとめ
第12回	調査	研究テーマの整理
第13回	研究	研究テーマのまとめ
第14回	研究	研究テーマの決定
第15回	ガイダンス	振り返りと方針の確認
第16回	研究	調査設計の検討
第17回	研究	調査設計の整理
第18回	研究	調査設計のまとめ
第19回	研究	調査実施の検討
第20回	研究	調査実施の整理
第21回	研究	調査の実施
第22回	研究	調査の確認
第23回	研究	調査の整理
第24回	研究	調査のまとめ
第25回	研究	調査報告の検討
第26回	研究	調査報告の整理
第27回	研究	調査報告のまとめ
第28回	研究	調査報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時間外の準備が相当時間必要です。土日、長期休暇を利用しての合宿、他大学との合同ゼミや学会への参加などがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上です。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。活動に対する取り組みで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、カメラ、デザインソフトなどを使用します。大半がゼミに用意してありますがパソコンは購入する必要があります。

【その他の重要事項】

これまでの研究テーマには、地域からの情報発信、ニュースパーク（日本新聞博物館）の展示提案、フェイクニュース調査、などがあります。

【Outline and objectives】

This seminar will focus on practice and research of communication design in social media.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2**武田 俊輔**

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化とまちづくりから見る地域社会というテーマに即して、古典的文献・基本的文献を読む。それと共に、卒業論文研究計画書の執筆と報告を進め、4 年次における卒業論文執筆に必要な能力を養う。

【到達目標】

3 年次までにそれぞれの研究テーマについて決定するとともに、その先行研究に関するレビューを一通り完成させること。フィールドワークや史資料の分析を行う上で必要なスキルを身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

対面の授業となるが、オンラインになる可能性もある。春学期は前半で基本的・古典的文献を講読することで社会的な考え方について理解を深める。後半では演習 1 と連携しつつ共同でのフィールドワークに向けた下調べを行う。それによってフィールドワークや史資料の分析に関する基本的なスキルについても学ぶ。

秋学期は学生がそれぞれ個人での研究テーマを設定して、文献の報告とフィールドワーク・史資料の分析にもとづく研究報告を行ってもらうことで、4 回生で卒業論文を執筆するための準備を進める。

なお演習 1 との合同でゼミやフィールドワークを行うことがある。今年度については、連続する時間帯に開講する「演習 1」（2 年）にも（単位にはならないが）部分的に出席することが必要となる。そのため、授業時間割の計画に制約が生じることを理解した上で受講するよう留意してほしい。

リアクションペーパーは特に設けないが、毎回の報告に対する質疑応答を通じて、学生の理解に資するものとする。

なお授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの目的と進め方についての説明、 文献担当の決定
2	基礎的・古典的な文献の講読 (1)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (1)
3	基礎的・古典的な文献の講読 (2)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (2)
4	基礎的・古典的な文献の講読 (3)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (3)
5	基礎的・古典的な文献の講読 (4)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (4)
6	基礎的・古典的な文献の講読 (5)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (5)
7	基礎的・古典的な文献の講読 (6)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (6)
8	基礎的・古典的な文献の講読 (7)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (7)
9	基礎的・古典的な文献の講読 (8)	文化社会学・地域社会学・都市社会学に関する基礎的・古典的な文献の講読 (8)
10	フィールドワークに向けた文献講読 (1)	夏期休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (1)
11	フィールドワークに向けた文献講読 (2)	夏期休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (2)
12	フィールドワークに向けた文献講読 (3)	夏期休暇中のフィールドワークに向けた文献講読 (3)
13	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (1)	夏期休暇中のフィールドワークに向けたレジュメと質問項目の作成 (1)
14	フィールドワークに向けたレジュメの報告 (2)	夏期休暇中のフィールドワークに向けたしおりの内容と質問項目の作成 (2)

15	フィールドワークの成果報告とディスカッション(1)	夏期休暇中でのフィールドワークの成果のまとめ(1)
16	フィールドワークの成果報告とディスカッション(2)	夏期休暇中でのフィールドワークの成果のまとめ(2)
17	学生による研究テーマと先行研究レビューの報告(1)	学生自身による卒論に向けた研究テーマの説明と先行研究のレビュー(1)
18	学生による研究テーマと先行研究レビューの報告(2)	学生自身による卒論に向けた研究テーマの説明と先行研究のレビュー(2)
19	調査方法・調査倫理に関する文献講読(1)	学生がそれぞれ調査を進めていく上で必要なスキルを身につけるための文献講読(1)
20	調査方法・調査倫理に関する文献講読(2)	学生がそれぞれ調査を進めていく上で必要なスキルを身につけるための文献講読(2)
21	調査方法・調査倫理に関する文献講読(3)	学生がそれぞれ調査を進めていく上で必要なスキルを身につけるための文献講読(3)
22	学生による研究計画書案の報告(1)	調査方法・対象・スケジュールなども含めた、学生による研究計画書案の報告(1)
23	学生による研究計画書案の報告(2)	調査方法・対象・スケジュールなども含めた、学生による研究計画書案の報告(2)
24	フィールドワークに向けた文献講読(1)	春季休暇中のフィールドワークに向けた文献講読(1)
25	フィールドワークに向けた文献講読(2)	春季休暇中のフィールドワーク合宿に向けた文献講読(2)
26	フィールドワークに向けた文献講読(3)	春季休暇中のフィールドワーク合宿に向けた文献講読(3)
27	最終的な研究計画書に関する報告(1)	卒論の研究計画書の完成に向けた学生の報告(1)
28	最終的な研究計画書に関する報告(2)	卒論の研究計画書の完成に向けた学生の報告(2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの作成。共同でのフィールドワーク。フィールドワークのための下調べやその内容のまとめ、学生同士のディスカッションと成果報告の準備。卒業論文研究計画書の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミの時間に指示する。

【参考書】

初回、また必要になるごとに文献リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

文献報告および研究報告レジュメの内容(30%)

討論への参加度(25%)

フィールドワークでの貢献度(15%)

ゼミ論の内容(30%)

【学生の意見等からの気づき】

グループワークを通して学生同士のディスカッションを活性化させる。

【その他の重要事項】

上でも述べたように、演習1の時間にも出席してもらうことがある。またフィールドワークを行うことができる場合は、授業時間外に学生のみでのための下調べやディスカッションの時間を持つ必要がある。時間については初回に相談する。

【Outline and objectives】

Studying local communities and culture through reading literatures and fieldwork.

Students need to proceed their research plan to write a graduation thesis in fourth grade.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2

田嶋 淳子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「コロナ禍の地域社会変容」

【到達目標】

演習を通じ、社会調査の一連のプロセスを学び、各自のテーマと問題意識を深め、ゼミ論文を書く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本演習においては、各自のテーマを中心に、調査研究を進め、最終的にはゼミ論文の作成をめざします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	1年間のスケジュールと課題を説明
2	各自のテーマ選定（春休み中の作業確認）	テーマの絞り込み
3	論文を書くために	研究の進め方
4	既存データの収集	（官庁統計の読み方・作り方）
5	文献の収集・検討	参考文献の検索方法および既存データを読む
6	既往研究の検討	既往研究の批判的検討
7	既往研究の検討(2)	資料の収集と講読、発表
8	インタビュー実施	地域関連組織へのインタビューを予定
9	インタビュー結果のとりまとめ、	インタビュー参加者による報告（結果の集約）
10	調査準備	グループごとに調査対象者の選定作業
11	調査準備	アポイントの取り方、インタビュー項目の作成
12	インタビュー実施へ向けた準備作業	インタビュー日程の設定と質問項目の完成
13	調査を実施するために	インタビュー日程の確定
14	夏休み課題準備	インタビューの実施
15	論文構成と春学期レポートの提出	独自の調査へ向けて
16	夏休み中の課題発表	夏休み中の課題
17	テーマの再検討	各自の研究テーマ
18	研究領域の見直し	文献検索
19	学部研究発表へ向けて	テーマの選定
20	テーマの報告	プレゼンテーションの方法
21	テーマの報告	プレゼンテーションの方法
22	テーマの報告	プレゼンテーションの方法
23	学部研究発表準備	プレゼンテーションの方法
24	学部研究発表準備	プレゼンテーションの方法
25	学部研究発表会	各自のテーマ
26	学部研究発表会の反省会	プレゼンテーションの問題点
27	論文とは何か	研究を仕上げる
28	論文とは何か	書くということ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回ゼミで出された課題を個人あるいはグループで実施するため、準備作業（サブ・ゼミ）が重要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田嶋ゼミ2010年度演習2（調査演習）報告書『グローバル化の中の池袋』ほか各年度で作成したゼミの報告書（これらは配布または貸し出し予定）

【参考書】

田嶋淳子「池袋・新宿調査からの20年」『社会と調査』第4号、2010年。
田嶋淳子、2010『国際移住の社会学—東アジアのグローバル化を考える』明石書店。

【成績評価の方法と基準】

演習のすべての段階における参加度(30%)、
春学期レポート(30%)および最終レポート(40%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Students will be given an opportunity to ponder the sociology of international migration.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

津田 正太郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではグループ研究を通じて、個々の受講者がメディアに関する理解を深めることを目的とする。グループ研究の成果については報告書を刊行し、広く周知する。

【到達目標】

個々の受講者が主体的にグループ研究に参加することで、研究に必要となる方法論の理解、論理的思考、文章力などを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この演習ではテーマに沿った文献の輪読を行うとともに、グループ研究の報告を繰り返し行い、その完成度を高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	今年度の演習を進めていくための基盤整備	ゼミ運営
第 2 回	グループ研究テーマ決定	グループ研究
第 3 回	グループ研究関連文献輪読（1）	文献輪読
第 4 回	グループ研究関連文献輪読（2）	文献輪読
第 5 回	グループ研究関連文献輪読（3）	文献輪読
第 6 回	グループ研究関連文献輪読（4）	文献輪読
第 7 回	グループ研究初回報告（1）	グループ研究
第 8 回	グループ研究初回報告（2）	グループ研究
第 9 回	グループ研究関連文献輪読（5）	文献輪読
第 10 回	グループ研究関連文献輪読（6）	文献輪読
第 11 回	文章論評会（1）	研究準備
第 12 回	文章論評会（2）	研究準備
第 13 回	グループ研究中間報告（1）	グループ研究
第 14 回	グループ研究中間報告（2）	グループ研究
第 15 回	後期に関する打ち合わせ	ゼミ運営
第 16 回	夏季休暇研究成果報告（1）	グループ研究
第 17 回	夏季休暇研究成果報告（2）	グループ研究
第 18 回	グループ研究関連文献輪読（7）	文献輪読
第 19 回	グループ研究関連文献輪読（8）	文献輪読
第 20 回	卒業後の進路について考える	キャリアガイダンス
第 21 回	グループ研究中間報告（1）	グループ研究
第 22 回	グループ研究中間報告（2）	グループ研究
第 23 回	卒論執筆のための文献輪読（1）	文献輪読
第 24 回	卒論執筆のための文献輪読（2）	文献輪読
第 25 回	グループ研究最終報告（1）	グループ研究
第 26 回	グループ研究最終報告（2）	グループ研究
第 27 回	卒論執筆のための文献輪読（3）	文献輪読

第 28 回 卒論執筆のための文献輪 文献輪読
読 (4)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

レジュメの作成、グループ研究の実施、打ち合わせ、報告書の作成等、授業時間外での長時間の活動が必要になる。また、新歓合宿および夏合宿への参加も求められる。フィールドワークについては、グループ研究や合宿時においてインタビュー調査を実施する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

グループ研究のテーマが決定したのちに決定する。

【参考書】

必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、年度末レポート (70%)。なお、遅刻・欠席が多い者については演習への参加を取りやめてもらう。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は急遽、オンライン授業となったため、様々な活動を実施することができなかった。今年度はより多くの活動を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメや最終レポートの作成にあたっては PC の利用が必須である。オンラインで実施せざるをえない状況になった場合には、家庭からインターネットに接続できることが望ましい。

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to help participants learn the advanced media studies through their own research projects. The results of their research will be published as a research report at the end of the school year.

PSY300EB, PSY300EC, PSY300ED

演習 2

土倉 英志

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

広義の社会心理学の文献 (専門書、学術論文) の講読とそれにもとづく討論を通じて、自分の関心を学術的に位置づけ、問いに鍛え上げていくことを目指す。この活動を通して、研究手続きに習熟すること、文献の読解力を養うこと、コミュニケーションや議論のスキルを磨くことを目標とする。

【到達目標】

- ・人の行動・認知・感情を社会心理学的に解釈できる
- ・心理学の研究手法を理解できる
- ・文献の読解力を向上させる
- ・プレゼンテーションや議論のスキルを磨く

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・指定の文献および各自の問題関心に関連する文献の講読を行なう。発表担当者はレジュメやパワーポイントの資料を作成・発表し、全員で議論を行なう。
- ・秋学期は並行して経験的データの収集と分析に取りくむ。
- ・必要に応じて教員が研究手法の解説を行なう。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要の説明、役割分担
2	文献講読の説明	文献の読み方・レジュメの作成方法の説明
3	文献講読	担当者による報告、全体討論
4	文献講読	担当者による報告、全体討論
5	文献講読	担当者による報告、全体討論
6	文献講読	担当者による報告、全体討論
7	文献講読	担当者による報告、全体討論
8	文献講読	担当者による報告、全体討論
9	文献講読	担当者による報告、全体討論
10	文献講読	担当者による報告、全体討論
11	文献講読	担当者による報告、全体討論
12	文献講読	担当者による報告、全体討論
13	文献講読	担当者による報告、全体討論
14	文献講読	担当者による報告、全体討論。夏休みの課題の説明
15	夏の課題の報告	夏休みの課題の成果を報告する
16	夏の課題の報告	夏休みの課題の成果を報告する
17	研究構想の報告	研究の構想の報告、全体討論
18	研究構想の報告	研究の構想の報告、全体討論
19	研究構想の報告	研究の構想の報告、全体討論
20	研究計画の報告	研究の計画の報告、全体討論
21	研究計画の報告	研究の計画の報告、全体討論
22	研究計画の報告	研究の計画の報告、全体討論
23	データの収集	データを収集する
24	データの収集	データを収集する
25	データの収集	データを収集する
26	ゼミ論のプレゼン	ゼミ論の要旨をプレゼンする
27	ゼミ論のプレゼン	ゼミ論の要旨をプレゼンする
28	ゼミ論の提出・総括	ゼミ論を提出する。年度のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・課題を発表する準備を行なう。
- ・適宜課される課題に取り組む。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

・初回の授業で指示します。

【参考書】

・授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 (報告と質疑応答・グループディスカッションへの参加) と授業内外で課す課題の質 (70%)、ゼミ論 (30%) で判断します。なお、ゼミ論の提出は必須条件とします。

・指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となります。無断欠席は厳しく評価します。

・詳細は初回の授業で説明するので必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

・データ収集計画を早めにとるようにながしたい。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

・授業計画や進めかたは、受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがあります。

・方法論を修得するために、教員が担当する別の授業に出席することを求めることがあります。

・演習1に協力・支援をお願いすることがあります。

・これらの点に留意して受講するようにしてください。

【Outline and objectives】

Research seminar on social psychology: We read various articles pertaining to social psychology and hold group discussions. We also explore and investigate research themes. The objective of this seminar is to develop your research skills through engaging with research projects.

FRI300EB, FRI300EC, FRI300ED

演習2

土橋 臣吾

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1ゼミに引き続き、テーマは「デジタルメディアの実践的研究」です。調査プロジェクトでは、指定されたテーマに関するデザインリサーチを行い、新しいサービス・アプリのプロトタイプ制作を行います。制作プロジェクトでは、Processing、Unity、TouchDesigner などを使って、インタラクティブ作品の制作に取り組みます。また、並行して、メディア研究の重要文献輪読も行います。

【到達目標】

上記の活動を通じて、デジタルメディア環境を前提にした企画力を身につけることが目標です。また、日々の制作活動を通じて、プログラミングやデザインの実践に取り組んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

調査プロジェクト：指定された調査テーマで、ゼミ生自身を対象にした各種のユーザー調査を行い、その知見に基づいてプロトタイプを制作します。
制作プロジェクト：春学期の序盤でプロジェクトの企画立案を行い、春学期中盤には制作物のイメージと開発環境を確定します。春学期終盤から制作に入り、年度末までひとつの作品制作に取り組みます。

・課題についてのフィードバックはゼミの内外で個別で行います。

・授業の形式（対面/オンライン）については、学習支援システムで周知します。

・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方について
2	文献輪読	指定文献輪読
3	制作プロジェクト 調査プロジェクト 制作プロジェクト	プロジェクトテーマ領域の解説 調査テーマ発表 テーマ領域の事例検討
4	文献輪読	指定文献輪読
5	制作プロジェクト 調査プロジェクト 制作プロジェクト	テーマ領域の事例検討 行動文脈調査 制作チーム発足
6	文献輪読	指定文献輪読
7	制作プロジェクト 調査プロジェクト 制作プロジェクト	「哲学」の設定 行動文脈調査の分析 「ビジョン」の設定
8	文献輪読	指定文献輪読
9	制作プロジェクト 調査プロジェクト 制作プロジェクト	先行事例の検討 インタビュー調査の企画 先行事例の検討
10	文献輪読	指定文献輪読
11	制作プロジェクト 調査プロジェクト 制作プロジェクト	プロトタイピングと開発環境の検討 インタビュー調査の実施 プロトタイピングと開発環境の検討
12	文献輪読	指定文献輪読
13	制作プロジェクト 調査プロジェクト 制作プロジェクト	制作企画案のプレゼン インタビュー調査の実施 基本機能の開発
14	文献輪読	指定文献輪読
15	制作プロジェクト ガイダンス	基本機能の開発 秋学期の進め方について
16	調査プロジェクト 制作プロジェクト	インタビュー調査の分析 制作進捗報告とグループ作業
17	文献輪読	指定文献輪読
18	制作プロジェクト 調査プロジェクト 制作プロジェクト	制作進捗報告とグループ作業 インタビュー調査の分析 制作進捗報告とグループ作業
19	文献輪読	指定文献輪読
20	制作プロジェクト 調査プロジェクト 制作プロジェクト	制作進捗報告とグループ作業 行動観察調査 制作進捗報告とグループ作業
21	文献輪読	指定文献輪読
	制作プロジェクト	制作進捗報告とグループ作業

22	試作版完成報告 学部研究発表会準備	制作物の試作版プレゼン 学部研究発表会準備
23	調査プロジェクト 制作プロジェクト	行動観察調査の分析 修正作業進捗報告
24	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献の輪読 修正作業進捗報告
25	調査プロジェクト 制作プロジェクト	プロトタイプ制作 修正作業進捗報告
26	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献の輪読 修正作業進捗報告
27	調査プロジェクト 制作プロジェクト	プロトタイプ制作 修正作業進捗報告
28	文献輪読 制作プロジェクト	指定文献の輪読 修正作業進捗報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

制作活動は課外の時間に行います。また、文献のレジュメ作成なども課外の時間に行います。さらに、土日その他を使って、外部講師による技術講習、企業とのワークショップなどが行われることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤守編、近刊、『ポストメディア・セオリーズ』ミネルヴァ書房

【参考書】

必要に応じて具体的に指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動への参加（40％）プロジェクトの評価（60％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンが必須となります。

【その他の重要事項】

1ゼミのときと同様、プログラミングやデザインの作業を中心とした制作活動が中心なので、授業時間外での活動が相当程度生じます。また、週末や長期休暇中に勉強会やワークショップが開催されることがありますので、そこらも積極的に参加して下さい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and theory of digital sociology. It also enhances the development of students' skill in sociological analyses of digital media use and user experience design.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習2・3（卒業論文）

中筋 直哉

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習2,3の共通テーマは「グローバル社会のローカルな生活」である。演習2では地域社会における多文化共生に関する学術的・実践的知識を深め、卒業論文のテーマを確定する。演習3(卒論演習)では、個別指導を通して卒業論文のより高い水準での完成をめざす。演習2は2020年度演習1履修者を主たる対象とするが、若干名は追加受け入れ可能。演習3は2019年度演習2履修者を対象とする。

【到達目標】

学術的な精度とオリジナリティのあるレポート、卒業論文を完成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教室で対面で実施(予定)。合同演習形式で、春学期は3年生は教科書の文獻講読。4年生は個別の卒論準備指導。秋学期は4年生の卒論草稿と3年生の卒論構想を検討。演習自体はグループディスカッション形式、見学や合宿ではフィールドワークを行う。課題、レポート、卒業論文の評価は個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間スケジュールの確認
2	都市社会学の講義	都市社会学の専門的講義
3	都市問題に関する講義	現代日本の都市問題に関する講義
4	教科書1の講読1	4年生は卒論個別指導
5	教科書1の講読2	4年生は卒論個別指導
6	教科書1の講読3	4年生は卒論個別指導
7	教科書1の講読4	4年生は卒論個別指導
8	教科書1の講読5	4年生は卒論個別指導
9	教科書1の講読6	4年生は卒論個別指導
10	教科書1の講読7	4年生は卒論個別指導
11	教科書1の講読8	4年生は卒論個別指導
12	夏期合宿の計画	合宿の企画を3年生全員で作成
13	メディア視聴	テーマに関するコンテンツを視聴し、討論
14	春学期のまとめ	春学期学修の振り返り
15	ゼミ合宿の総括	討論と夏期課題の提出
16	卒論中間報告会1	演習2,3 合同の討論
17	卒論中間報告会2	演習2,3 合同の討論
18	卒論中間報告会3	演習2,3 合同の討論
19	卒論中間報告会4	演習2,3 合同の討論
20	卒論中間報告会5	演習2,3 合同の討論
21	卒論中間報告会6	演習2,3 合同の討論
22	現地見学	演習1と合同の校外学習
23	現地見学の検証	校外学習の報告と討論
24	卒論構想検討会1	4年生は卒論個別指導
25	卒論構想検討会2	4年生は卒論個別指導
26	卒論構想検討会3	4年生は卒論個別指導
27	卒論構想検討会4	4年生は卒論個別指導
28	まとめ	卒論構想レポートの提出(4年生は卒論の提出と口述試験)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習2は卒論構想をA4×2枚程度のレポートにして紙で提出。

演習3(卒論演習)は2万字程度の卒業論文を執筆。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 宮島喬,2014,「多文化であることとは」岩波書店,2300円+税。

【参考書】

演習中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

演習2は演習への積極的参加が60%（それらが見られないときはD）、レポートの出来が40%。演習3は卒論の出来が100%。

【学生の意見等からの気づき】

教員の発言以上に、履修者の表現と相互討論に重点を置く。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。ただ漫然と参加するのではなく自分のノートをつくることが重要。

【Outline and objectives】

This seminar aims to promote student's graduation thesis by discussing each other.

ECN300EB, ECN300EC, ECN300ED

演習 2

増田 正人

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは、「グローバル化を考える」です。
ゼミ I の学習を基にして、年度末に、ゼミ論文の執筆を目標にします。

【到達目標】

- ①目標は、一人ひとりが主体的に学び、発言し、行動できるようになること。
- ②Iゼミと合同で行うので、先輩としての役割をきちんと果たすことが求められます。
- ③ゼミ論文をきちんと仕上げること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミは、I・IIゼミを合同で行いますが、秋学期には分けても行います。秋学期の最初に、ゼミ論文の構想の発表を行い、年度末にゼミ論文（400字×40枚程度）を執筆します。IIIゼミでは、ゼミ論文を下地にして、卒業論文の執筆を柱にしていきます。

前期についてはゼミのまとめの時間に、毎回、前週のゼミの復習を行い、フィードバックをします。後期は、各自の発表に基づいて授業を進め、その都度、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスと自己紹介
2	テキストの輪読 (1)	テキスト 1 章
3	テキストの輪読 (2)	テキスト 1 章
4	テキストの輪読 (3)	テキスト 2 章
5	グループ別学習 (1)	テーマ別、グループ別学習
6	グループ別学習 (2)	テーマ別、グループ別学習
7	グループ別学習 (3)	テーマ別、グループ別学習
8	テキストの輪読 (4)	テキスト 21 章
9	テキストの輪読 (5)	テキスト 19 章
10	テキストの輪読 (6)	テキスト 22 章
11	合宿に向けた学習 (1)	夏合宿に向けた基礎文献の講読
12	合宿に向けた学習 (2)	夏合宿に向けた基礎文献の講読
13	合宿に向けた学習 (3)	テーマ別のグループ学習
14	合宿に向けた学習 (4)	テーマ別のグループ学習
15	春学期ゼミのまとめ	合同ゼミ、卒論中間発表会
16	合宿のまとめ	秋学期の打ち合わせ
17	ゼミ論文のテーマ発表	ゼミ論文執筆に向けた構想の発表。各回5人程度。
18	ゼミ論文の執筆準備	続き
19	ゼミ論文の執筆準備	続き、文献リストの提出
20	合同ゼミに向けた基礎文献の講読 (1)	合同ゼミに向けた基礎文献の講読 (1)
21	基礎文献の講読 (2)	基礎文献の講読 (2)
22	基礎文献の講読 (3)	基礎文献の講読 (3)
23	合同ゼミの中間発表会	合同ゼミの中間発表会
24	合同ゼミに向けた基礎文献の講読 (4)	合同ゼミに向けた基礎文献の講読 (4)
25	合同ゼミに向けた論点の整理と検討	合同ゼミに向けた論点の整理と検討
26	合同ゼミの模擬発表会	合同ゼミの模擬発表会
27	合同ゼミの準備	合同ゼミの準備
28	合同ゼミの反省会	合同ゼミの反省会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

IIゼミの学生は、ゼミの中で、Iゼミ学生の疑問に応えられるように、しっかりとテキストを予習しておいてください。合同ゼミでは、Iゼミ生の力を引き出しながら、頑張ってください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『21世紀国際社会への招待』羽場久美子・増田正人編、有斐閣、2002年。その他、適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの討論への参加度、発表の内容をみて、総合的に評価します。
平常点で 60 点、ゼミ論で 40 点、合計 100 点で評価します。
ゼミは、3 回以上、無断で欠席すると、単位が与えられません。

【学生の意見等からの気づき】

板書の工夫。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミはオンラインで行うこともあると思うので、PC を用意していることが望ましい。

【その他の重要事項】

ゼミで行う取り組みには必ず参加してください。

【Outline and objectives】

The theme of the seminar is "Thinking about Globalization".
Based on the study of Seminar I and II, the goal is for students to write a seminar paper at the end of the year.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

多喜 弘文

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育・労働・格差に関する社会学の考え方を理解し、自らの関心に基づいて研究を進める

【到達目標】

学生それぞれが関心をもつ様々なテーマに対して、実証的にアプローチする方法を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で文献購読と研究報告を中心に進めていく。ただし、受講人数によっては、グループワークではなく個人での作業に切り替える。授業方法の詳細は学習支援システムを通じてお知らせする。課題提出を求めた際は授業時にフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究関心の報告	各自が研究関心を報告し、それに関して全員で議論する
2	研究関心の報告	各自が研究関心を報告し、それに関して全員で議論する
3	担当文献の割り振り	読む文献を選ぶ、報告の順番を決める
4	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で議論する
5	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で議論する
6	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で議論する
7	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で議論する
8	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で議論する
9	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で議論する
10	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で議論する
11	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で議論する
12	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で議論する
13	文献購読	各自が担当する文献について報告し、全員で議論する
14	総括	春学期に学んだ内容について議論する
15	秋学期のスケジュールを決める	グループ決めなど
16	課題設定	グループごとに設定したテーマを報告する
17	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
18	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
19	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
20	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
21	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
22	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
23	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
24	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める
25	データ分析・報告	グループごとに設定したテーマに沿って分析を進める

26	研究報告	各自が関心にもとづいて調べてきた内容を報告し、それについて全員で議論する
27	研究報告	各自が関心にもとづいて調べてきた内容を報告し、それについて全員で議論する
28	総括	まとめと課題について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前期の文献購読に関しては、授業までに全員が必ず読んでおくこと。また、各回の報告者は報告準備を念入りにおこない、授業時には報告資料（レジュメ）を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する

【参考書】

授業中に適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告の内容、討論への積極的な参加）60%、レポート課題40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業をパソコンで受けられる環境を準備しておくこと

【Outline and objectives】

To develop an understanding of the sociological traditions and methodologies in inequality

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

樋口 明彦

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「コミュニティの活性化」をテーマに、地域の課題に対して、社会的企業・NPO・町内会・行政・企業などが果たす役割を検討する。

【到達目標】

- ①インタビューを通じて、データを獲得するスキルを向上させる。
- ②プレゼンテーションを通じて、聴衆に対して説得的に報告するスキルを向上させる。
- ③論文執筆を通じて、見解を論理的に述べるスキルを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ①インタビューの技術の向上
各自、研究テーマを設定し、独自の質問票を作成する。
アポイントメントを取り、質問票に基づいてインタビューを実施する。
- ②プレゼンテーションの技術の向上
PowerPoint を使ってプレゼンテーションを行う。
- ③論文の書き方の習熟
ゼミ論（20,000字）を執筆する。
※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期ゼミの進め方
2	旧ゼミ論の報告会①	PowerPoint による報告
3	旧ゼミ論の報告会②	PowerPoint による報告
4	旧ゼミ論の報告会③	PowerPoint による報告
5	先行研究の輪読①	テキスト講読
6	先行研究の輪読②	テキスト講読
7	先行研究の輪読③	テキスト講読
8	先行研究の輪読④	テキスト講読
9	先行研究の輪読⑤	テキスト講読
10	先行研究の輪読⑥	テキスト講読
11	先行研究の輪読⑦	テキスト講読
12	ゼミ論計画の合評会①	各自の研究テーマを検討
13	ゼミ論計画の合評会②	各自の研究テーマを検討
14	ゼミ論計画の合評会③	各自の研究テーマを検討
15	オリエンテーション	後期ゼミの進め方
16	インタビューの方法論	アポイントメントの取り方
17	質問票の合評会①	各自の質問票を検討
18	質問票の合評会②	各自の質問票を検討
19	質問票の合評会③	各自の質問票を検討
20	ゼミ論の個人面談①	質問票の修正
21	ゼミ論の個人面談②	質問票の修正
22	ゼミ論の個人面談③	質問票の修正
23	ゼミ論の進捗状況報告会	ゼミ論の進捗状況を確認
24	研究発表会準備①	PowerPoint 作成
25	研究発表会準備②	PowerPoint 作成
26	ゼミ論の報告会①	ゼミ論の分析結果報告
27	ゼミ論の報告会②	ゼミ論の分析結果報告
28	ゼミ論の報告会③	ゼミ論の分析結果報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①インタビューの実施、②ゼミ論の執筆（20,000字）
- ③本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、指示する。

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①ゼミ論文（80%）
- ②プレゼンテーション（20%）

【学生の意見等からの気づき】

学生に合わせて、スケジュールの見直しを行った。

【Outline and objectives】

Second-year seminar

FRI300EB, FRI300EC, FRI300ED

演習2

加藤 徹郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期はマス・メディア産業（放送、広告、ITなど）の現状を様々な資料を駆使して分析します。秋学期は放送番組の企画書を作成して放送関係者の外部評価をもらいます。

【到達目標】

マス・メディア産業（放送、広告、ITなど）の現状を分析するとともに、番組を企画し外部評価を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

①テキストのレポーター報告 ②グループ作業による取りまとめを繰り返しながら、理解を深めていく。

※ 授業内容は、場合により変更もあり得る。

※ フィードバックは、演習時にディスカッションの中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	今年度ゼミの進行	ガイダンス
第2回	放送産業調査	現状分析
第3回	放送産業分析①	現状分析
第4回	放送産業分析②	現状分析
第5回	広告産業調査	現状分析
第6回	広告産業分析①	現状分析
第7回	広告産業分析②	現状分析
第8回	IT産業調査	現状分析
第9回	IT産業分析①	現状分析
第10回	IT産業分析②	現状分析
第11回	放送産業分析発展①	現状分析
第12回	放送産業分析発展②	現状分析
第13回	広告産業分析発展①	現状分析
第14回	広告産業分析発展②	現状分析
第15回	放送関係者からのオリエンテーション	ガイダンス
第16回	視聴行動の分析	企画書作成
第17回	視聴者層の分析	企画書作成

第 18 回	企画意図の確定	企画書作成
第 19 回	企画詳細の調査	企画書作成
第 20 回	企画詳細の確定	企画書作成
第 21 回	番組展開の発想	企画書作成
第 22 回	番組展開の確定	企画書作成
第 23 回	企画書報告①	企画書作成
第 24 回	企画書報告②	企画書作成
第 25 回	放送関係者からの評価	企画書作成
第 26 回	卒業研究・テーマ発表①	卒業研究準備
第 27 回	卒業研究・テーマ発表②	卒業研究準備
第 28 回	卒業研究・テーマ発表③	卒業研究準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 授業のシラバスを熟読する
 第 2 回～ 14 回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
 第 15 回～ 25 回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
 第 26 回～ 28 回 卒業研究に向けた準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

【参考書】

各回の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①レポーター報告（評価の 40 %）②グループ作業への貢献（評価の 40 %）③授業内での発言（評価の 20 %）

【学生の意見等からの気づき】

少人数科目につき該当なし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of media analysis.

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習 2

堀川 三郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市問題・都市環境問題・まちづくりの社会学

【到達目標】

専門文献（邦語および英語）の基礎的読解方法の習得と、それを自分の研究計画に反映させる道筋をつけられるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒業論文へ向けての第二段階です。英文文献も含め、文献を読破し、さらに方法論を深く学びます。年度の終わりまでに 2 ゼミ修了論文を仕上げます。す。年度の最後には、1 年間の勉学のまとめとして、「1 ゼミ修了論文」を仕上げます。提出された修了論文は、その後皆で読んで改善点を洗い出す「合評会」を開催してフィードバックを行います。受講者と相談して授業形態を決める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	社会学と（都市）環境問題に関する重要文献の講読。リストは開講時に配付し、参加者との合議で決定します。
第 2 回	文献講読（1）	環境問題に関する重要文献の講読
第 3 回	文献講読（2）	環境問題に関する重要文献の講読
第 4 回	文献講読（3）	環境問題に関する重要文献の講読
第 5 回	文献講読（4）	環境問題に関する重要文献の講読
第 6 回	文献講読（5）	環境問題に関する重要文献の講読
第 7 回	文献講読（6）	環境問題に関する重要文献の講読
第 8 回	文献講読（7）	環境問題に関する重要文献の講読
第 9 回	文献講読（8）	環境問題に関する重要文献の講読
第 10 回	文献講読（9）	環境問題に関する重要文献の講読
第 11 回	文献講読（10）	環境問題に関する重要文献の講読
第 12 回	文献講読（11）	環境問題に関する重要文献の講読
第 13 回	文献講読（12）	環境問題に関する重要文献の講読
第 14 回	春学期のまとめ・総合討論	総合討論
第 15 回	導入	秋学期への導入
第 16 回	ゼミ論文の執筆指導（1）	各人の問題意識に基づいたゼミ論文を執筆します（「2 ゼミ修了論文」）。個別に相談にのり、場合によって添削指導をする場合もあります。指導の眼目は、各自のアイディアに私が介入・干渉することではなく、「そのアイディアを展開するにはどうしたら良いのか・いかに説得的に論述できるか」といった「君自身のアイディアの洗練化」です。ですから、自分のテーマのない学生や自ら積極的に取り組まない学生には、指導がなされませんから注意してください。
第 17 回	ゼミ論文の執筆指導（2）	ゼミ論文の執筆指導
第 18 回	ゼミ論文の執筆指導（3）	ゼミ論文の執筆指導
第 19 回	ゼミ論文の執筆指導（4）	ゼミ論文の執筆指導
第 20 回	ゼミ論文の執筆指導（5）	ゼミ論文の執筆指導
第 21 回	ゼミ論文の執筆指導（6）	ゼミ論文の執筆指導
第 22 回	ゼミ論文の執筆指導（7）	ゼミ論文の執筆指導
第 23 回	ゼミ論文の執筆指導（8）	ゼミ論文の執筆指導
第 24 回	ゼミ論文の執筆指導（9）	ゼミ論文の執筆指導
第 25 回	ゼミ論文の執筆指導（10）	ゼミ論文の執筆指導
第 26 回	ゼミ論文の執筆指導（11）	ゼミ論文の執筆指導
第 27 回	ゼミ論文の執筆指導（12）	ゼミ論文の執筆指導
第 28 回	総括討論	総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

綿密な予習・復習及び各自のフィールドワークが必須です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者と相談して決定します

【参考書】

演習中に適宜指示します

【成績評価の方法と基準】

学年末提出の「2ゼミ修了論文」(50%) および演習での議論への貢献度(50%)

【学生の意見等からの気づき】

定期的にゼミ運営について、ゼミ生と話し合いを持ちます。

【その他の重要事項】

正規の時間以外に週1回実施するサブゼミに参加できること
原則として新規募集はしませんが、年度によっては募集する場合があります。事務課前のゼミ掲示板に注意してください。

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing and the fundamentals of academic research to students taking this seminar. It enhances the development of students' skill in carrying out fieldworks by themselves. At the end of the seminar, students should be able to do the following:

- recognize and recall major terms and concepts in sociology,
- describe and explain major methods and theories.

MAN300EB, MAN300EC, MAN300ED

演習2

諸上 茂光

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者の認知や行動についての調査方法を習得し、実際に各自でテーマ設定を行い、仮説検証型の研究を進める。

【到達目標】

各種懸賞論文等への投稿を目指し、文献調査、仮説の構築、調査・分析まで行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

専門書の輪読により消費者の心理や行動についての理解を深め、調査手法を学ぶ。また、一年間に渡り、各自が設定したテーマに沿って研究を進める。毎週の授業時には進捗状況報告を行い、その場でフィードバックとディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方について
2.	文献講読①	文献の輪読
3.	文献講読②	文献の輪読
4.	文献講読③	文献の輪読
5.	文献講読④	文献の輪読
6.	テーマ設定と討議	テーマ発表
7.	テーマ設定と討議	テーマ発表
8.	テーマ設定と討議	テーマ発表
9.	テーマ設定と討議	テーマ発表
10.	仮説構築①	各自の研究仮説の発表
11.	仮説構築②	各自の研究仮説の発表
12.	仮説構築③	各自の研究仮説の発表
13.	調査法①	消費者行動調査（フィールドワーク）
14.	調査法②	消費者行動調査（フィールドワーク）
15.	調査結果発表①	調査結果の発表・グループ討論
16.	調査結果発表②	調査結果の発表・グループ討論
17.	調査結果発表③	調査結果の発表・グループ討論
18.	分析法①	調査結果の詳細な分析
19.	分析法②	調査結果の詳細な分析
20.	分析法③	調査結果の詳細な分析方法の検討
21.	論文作成 1	進捗状況報告
22.	論文作成 2	進捗状況報告
23.	論文作成 3	進捗状況報告
24.	論文作成 4	進捗状況報告
25.	論文作成 5	進捗状況報告
26.	論文作成 6	進捗状況報告
27.	論文作成 7	進捗状況報告
28.	研究発表	成果発表・グループ討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アンケート調査や実証実験などを行う。
また、学年横断型グループワークを行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指定する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況報告内容 80%
授業への参加姿勢 20%
で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実施せず

【Outline and objectives】

To obtain fundamental knowledge about survey and enhance the development of students' skill in carrying out a quantitative survey of consumers.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

青木 貞茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文のテーマ設定と論文作成に必要なデータ、文献収集等、分析についての方法を学びつつ、論文作成に必要な全体構成、引用方法等の基本を習得する。研究のための仮説立案力、分析力、思考力と論文作成力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

設定した卒業論文のテーマに基づき研究を進め、首尾一貫した仮説を論証するアカデミックな論文作成を行なう。自身の仮説を様々な方法を用いて論証することでテーマを設定して解決に向けた考え抜く力とその内容を的確に伝達する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

広告に関連した卒業論文のテーマとなる問題意識を明確にし、演習受講者の間の積極的・主体的なディスカッションを通じて具体的なテーマと仮説を定める。設定した卒業論文のテーマの論文作成に必要な全体構成、引用方法等の基本を学んだ上で、研究の進捗に沿ってより具体的な論文内容のプレゼンテーションを段階的に行なう。演習内で発表内容へのフィードバックを行なう。最終的な完成論文に対して口頭試問を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒業論文とは何か、執筆の進め方
第2回	論文のテーマ設定とは	問題意識に沿った論文テーマの設定の仕方
第3回	問題意識と論文テーマの発表(1)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第4回	問題意識と論文テーマの発表(2)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第5回	問題意識と論文テーマの発表(3)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第6回	問題意識と論文テーマの発表(4)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第7回	論文の構成と参考資料の収集、分析の仕方	論文の構成と参考資料の収集、分析の仕方
第8回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(1)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第9回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(2)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第10回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(3)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第11回	仮説と論文構成案、参考資料の発表(4)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第12回	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子の発表(1)	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第13回	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子の発表(2)	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定

第14回	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子の発表(3)	テーマ、仮説、構成 分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第15回	論文執筆のオリエンテーション	前期に決定した基本概要に沿った論文執筆の方法をガイダンス
第16回	論文発表の方法	前期に執筆した段階での論文発表の方法をガイダンス
第17回	論文内容の中間発表(1)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第18回	論文内容の中間発表(2)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第19回	論文内容の中間発表(3)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第20回	論文内容の中間発表(4)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第21回	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールのチェック(1)	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールの再確認
第22回	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールのチェック(2)	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールの再確認
第23回	論文内容の最終発表(1)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第24回	論文内容の最終発表(2)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第25回	論文内容の最終発表(3)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第26回	論文内容の最終発表(4)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第27回	論文内容の最終発表(5)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第28回	論文内容の最終発表(6)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料収集、読み込み、論文執筆は、演習時間外で行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（30％）と論文内容（70％）で行う。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。論文作成の指導を積極的に受け、自ら主体的に資料、参考文献収集、調査等を実行することを求める。なお、個別面談は事前にメールで調整する。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して広告に関する卒論指導を行なう。

【Outline and objectives】

Students will learn how to gather literature and analyze data necessary for selecting a theme and preparing their graduation thesis. At the same time, students will acquire the basics of citation method and the overall composition required for producing a paper. The class aims to provide hypothesis planning skills, analytical skills, thinking skills and ability to prepare a research paper.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

池田 寛二

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員の指導のもとで、卒業論文のテーマを各自で明確にして調査・研究を実践し、その成果にもとづいて卒業論文を執筆する。

【到達目標】

各自が卒業論文を完成し提出すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自の卒業論文に関する報告と討論。報告のために教員が次回までの課題を指示し、次回の報告を受けて、卒論のための調査・研究や執筆の進捗状況に即して適宜口頭でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	年間スケジュールの作成	役割分担、各自のテーマの確認と共有、発表順番の確定
2	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
3	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
4	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
5	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
6	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
7	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
8	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
9	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
10	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
11	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
12	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
13	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
14	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
15	春学期の総括と秋学期の課題	春学期の各自の進捗状況の確認と共有、秋学期の発表順番の確定
16	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
17	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
18	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
19	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
20	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
21	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
22	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
23	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
24	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
25	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
26	各自の研究報告と討論	報告と討論、次のステップの確認
27	最終執筆指導（1）	報告と討論、執筆指導
28	最終執筆指導（2）	報告と討論、執筆指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の卒業論文に関する文献・資料収集とその他の調査研究活動。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各自の論文テーマに即して適宜指示する。

【参考書】

各自の論文テーマに即して適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容によって100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文は学生生活の集大成です。各自が納得のできる卒業論文を仕上げられるよう力を尽くしてください。テーマの選び方や問いの立て方には、唯一の正解はありません。自らの問題意識に基づいて問い学ぶという貴重な経験を存分に楽しんでください。卒論に関して迷いや悩みが生じたときには、できるだけ早めに相談してください。

【Outline and objectives】

Instructing research and writing of graduation thesis.

FRI400EB, FRI400EC, FRI400ED

演習3（卒業論文）

稲増 龍夫

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業制作活動を通してメディアリテラシーの向上と、社会人として通用するための実践的コミュニケーション能力やイベントプロデュース能力を磨きます。

【到達目標】

「映像が好き」段階から「映像を作る」となって、3ゼミは「映像を仕事にする」というのが基本スタンスです。その意味で、「就活」を明確な学習目標に掲げています。

ここ数年、毎年、10人近くがテレビ局に就職し、その他、広告代理店、出版社、番組制作会社、レコード会社など、全体で8割ほどがメディア業界に進んでいます。また、卒業後も頻りに同期会／同窓会がおこなわれ、現役ゼミ生とOB、あるいはOB間の交流はきわめて盛んです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

就職活動の個人指導と卒論指導が中心です。ただ、2005年以降、ゼミ生自らが自主映像祭を企画＝実行しており、3年間の映像制作活動の集大成としています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間スケジュールの確認
2	就活の現状報告	本年度就活の動向とアドバイス
3	卒論ガイダンス-1	卒論のオリエンテーション
4	卒論ガイダンス-2	卒論テーマの構想プレゼン
5	卒論ガイダンス-3	卒論テーマの構想プレゼン
6	卒論ガイダンス-4	卒論テーマの構想プレゼン
7	映像イベントのガイダンス	映像イベントの時期とテーマを検討
8	就活面談-1	就活に関する個人面談
9	就活面談-2	就活に関する個人面談
10	就活面談-3	就活に関する個人面談
11	就活面談-4	就活に関する個人面談
12	就活面談-5	就活に関する個人面談
13	就活面談-6	就活に関する個人面談
14	就活面談-7	就活に関する個人面談
15	映像イベントのガイダンス	2003年から続いている卒業制作イベント「eizou+」の歴史と概要
16	イベント企画会議-1	映像作品の内容確定
17	イベント企画会議-2	仕事の分担決定と初回企画会議
18	卒論構想の発表-1	メディア論関連の卒論構想
19	卒論構想の発表-2	コンテンツ論関連の卒論構想
20	卒論構想の発表-3	現代若者論関連の卒論構想発表
21	卒論構想の発表-4	上記以外の卒論構想発表
22	映像イベント会議-1	映像制作の進捗状況報告
23	映像イベント会議-2	広報活動の戦略
24	映像イベント会議-3	映像イベントの最終チェック
25	映像イベント会議-4	映像作品の試写
26	映像イベント eizou+	上映会本番
27	2ゼミ生との合同ゼミ	就活報告&アドバイス
28	卒論仮発表	卒論の最終構想の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3ゼミでは自主映像イベント以外の課外活動はありません。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

稲増龍夫『就活は最強の教育プログラムである』（中央公論新社）

【参考書】

卒論テーマに則して個人的にアドバイスします。

【成績評価の方法と基準】

卒論（60％）とイベント実施への貢献（40％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

演習につき実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

高度な映像編集ソフトをインストールしたノートパソコン（Macbook Pro など）を個人的に所有していることが望ましい

【その他の重要事項】

進路はマスコミ関係が多く、NHK、日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京など全国60を超える放送局に80人以上の人材を輩出。その他、電通、博報堂、朝日新聞、読売新聞、集英社、文藝春秋、ソニーミュージック、吉本興業、アミューズ、ホリプロなどの主要マスコミ、ならびに、近年はグーグル、フェイスブックス、アマゾン、ヤフー、サイバーエージェント、楽天などのIT企業への就職・転職も盛んです。2018年におこなわれたゼミ35周年記念パーティには350人を超える出席者があり、OBからすれば現役生は高感度モニターであり、現役生からすればOBは頼りになる就活アドバイザーです。

【Outline and objectives】

Planning and Production of Our Graduation Anniversary Film, and Producing Screening Event.

MAN400EB, MAN400EC, MAN400ED

演習3（卒業論文）

宇野 斉

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位

曜日・時限：月2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

個別のテーマごとに研究発表を通じて研究を進め、卒業論文としてまとめます。

【到達目標】

論文として適切な体裁と十分な内容とが備わっているものを完成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個人での発表、質疑、議論と評価が時間内の主な内容です。年度末に各自研究内容をまとめ卒業論文を作成します。自己の研究のみならず、メンバーの研究への理解とコメントも必須です。すべての発表はフィードバックとして相互評価を受けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	学生と教員で受講者ごとの進行計画を確認します。
02	以前の研究と今後	前年度までの研究内容のまとめと今後の目標・テーマ発表をします。
03	発表、質疑、議論(01)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
04	発表、質疑、議論(02)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
05	発表、質疑、議論(03)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
06	発表、質疑、議論(04)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
07	発表、質疑、議論(05)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
08	発表、質疑、議論(06)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
09	発表、質疑、議論(07)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
10	発表、質疑、議論(08)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
11	発表、質疑、議論(09)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
12	発表、質疑、議論(10)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
13	発表、質疑、議論(11)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
14	春学期のまとめと秋学期への課題の確認	秋学期への夏休み中の課題を確認します。
15	卒業論文作成にむけての確認	夏休み中の成果と論文の方向付け、進行計画を確認します。
16	発表、質疑、議論(12)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
17	発表、質疑、議論(13)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
18	発表、質疑、議論(14)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
19	発表、質疑、議論(15)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
20	発表、質疑、議論(16)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
21	発表、質疑、議論(17)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
22	発表、質疑、議論(18)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
23	発表、質疑、議論(19)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
24	発表、質疑、議論(20)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。
25	発表、質疑、議論(21)	個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。

- | | | |
|----|---------------|------------------------------|
| 26 | 発表、質疑、議論 (22) | 個人研究：進行状況と内容を相互に発表し質疑、議論します。 |
| 27 | 卒業論文の整備 | 提出予定の卒業論文について形式と記述を整備します。 |
| 28 | 口頭試問の準備 | 口頭試問の準備をします。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備として調査の上で発表資料を作成、提出、配布が必要です。発表後翌週に、発表資料の改訂版を提出し、評価シートの集計と質問内容への回答を作成し、配布が必要です。研究内容によっては実地調査が必要な場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

個別に適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%、設定された課題に対して真摯に取り組み、期日を守って、成果を示してください。メンバーの研究への理解とコメントも重要です。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、電子メール、メーリングリスト、ブログ、ツイッター、グループウェア等を使用します。

【その他の重要事項】

演習Ⅱを履修していることが前提です。

授業計画は、受講者の状況と進行の状況によって、若干の変更があります。対面で開講できない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。

【Outline and objectives】

Participants make research presentations sequentially. The participants finish the graduation thesis at the end.

ARS400EB, ARS400EC, ARS400ED

演習3（卒業論文）

吉村 真子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、国際社会（アジア）をめぐる諸問題を研究テーマとし、卒業論文の執筆と議論を中心にゼミを進めていきます。とくに自分自身の研究テーマに関連した研究書をそれぞれ読んで、卒業論文の作成に集中してほしいと思います。

【到達目標】

演習1・2の成果を活かし、問題関心を深く掘り下げ、きちんと分析しすることを目的とします。とくに基本的な文献や資料の読み取り方や議論の構成や分析の仕方、論文の書き方などを身につけることを基本的な目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・本演習では、各自の卒業論文の研究テーマを掘り下げて、卒業論文の執筆を進めていきます。まず、論文のテーマと議論の流れを考えながら、論文の構成である章構成を立てていき、参考文献や資料にあたりながら、詳細なレジュメを作成していきます。夏合宿では、卒業論文の中間報告として、詳細なレジュメの報告を行い、下級生も含めて、議論を行い、秋学期は、さらに内容を詰めていき、卒業論文の執筆を進めていきます。

・毎回、ゼミの前にレジュメを作成・提出し、教員の助言を受けて、やり直し、ゼミでも他の学生との議論を経て、再度、教員の講評を受けるなど、常にフィードバックを受ける形で進めていきます。

・今年度も COVID-19 対応で、対面授業とオンライン（Zoom）での開講の組み合わせになる可能性もあり、春学期・秋学期の初めに実施形式や日程について打ち合わせます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	卒業論文の執筆に向けて
第2回	卒業論文のテーマ	論文のテーマについて
第3回	テーマと章構成 (1)	論文の視角について
第4回	テーマと章構成 (2)	論文の構成について
第5回	テーマと章構成 (3)	論文の章・節の構成について
第6回	トピック報告 (1)	研究テーマについて
第7回	トピック報告 (2)	参考文献について
第8回	トピック報告 (3)	各章の内容について
第9回	章構成の2次報告 (1)	章構成のレジュメの報告
第10回	章構成の2次報告 (2)	詳細なレジュメの作成
第11回	章構成の2次報告 (3)	各自の報告と議論
第12回	論文の書き方 (1)	論文の形式について
第13回	論文の書き方 (2)	引用注の付け方など
第14回	中間報告に向けて	夏合宿について 秋学期の打合せ
第15回	卒論中間報告の詳細レジュメ改訂作業について	卒論中間報告の詳細レジュメ改訂作業について
第16回	トピック報告 (1)	論文のテーマについて
第17回	トピック報告 (2)	各章の内容について
第18回	詳細レジュメ (1)	全体の構成の再チェック
第19回	詳細レジュメ (2)	論文全体の議論

第20回	詳細レジュメ (3)	各章の内容
第21回	詳細レジュメ (4)	結論
第22回	詳細レジュメ (5)	まとめ
第23回	論文の執筆	参考文献・引用注の書き方など
第24回	執筆の進行 (1)	執筆を進めていく
第25回	執筆の進行 (2)	論文の形式と注意
第26回	卒論のドラフトチェックと提出に向けて	卒論ドラフト (原稿) チェックと提出に向けて
第27回	卒論の提出	最終的なまとめ
第28回	1年間の振り返り	ゼミの1年間の振り返りと論文の内容の講評

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

卒業論文は、ゼミでの報告の準備や執筆も含めて、自分で進める研究が多くなります。頑張りましょう。本授業の準備学習・復習時間は各7時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

演習3の性格から、テキストは指定しません。

【参考書】

各自の卒業論文に合わせて、参考文献は適時、紹介します。それぞれの研究テーマにあわせて、自分で参考文献リストの作成とレビューを進めるとともに、必要に応じて参考文献や資料について助言します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、①ゼミの報告準備・議論参加 (30%)、②卒業論文・口述試験 (70%) などから総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生の卒業論文への取り組みと積極的な議論参加に期待しています。

【Outline and objectives】

This course is a tutorial seminar on Asian studies in a small class of final-year students. This course is to study analyzing Asian/International social issues with presentations and discussion for graduate dissertations. Students are required to prepare for class discussion and presentations each week and to submit graduate dissertations.

ARS400EB, ARS400EC, ARS400ED

演習3 (卒業論文)

岡野内 正

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

これまで各自が大学で研究してきたことを卒業論文としてまとめる作業を行い、最後に完成したものを発表する。

【到達目標】

現代社会の問題に関して、自らが設定したテーマについて、先行研究を調べ、研究状況と到達点を明らかにした上で、独自のデータあるいは見解に基づいて考察を行い、今後の研究課題を問題提起するような、2万字程度の卒業論文を、学術論文の形式をふまえて作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方になっていますが、さらなる変更については、学習支援システムを参照してください。>
受講生は、簡単な卒論の中間報告を毎回行い、より詳細な報告を順番に行う。卒論作成の第一段階として、春学期末には、論文を完成して、大学の懸賞論文に応募できる水準までもってくる。秋学期は、それをもとに毎回の報告で修正しながら、卒論を作成していく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業説明と顔合わせ。ゼミ運営の役割分担。合同ゼミ合宿や学部研究発表会での報告準備などの年間計画、卒論中間報告などの決定
2	卒論構想の検討①受講生からのテーマ報告。	卒論構想の報告と討論 (1)
3	卒論構想の検討②参考文献の報告。	報告と討論 (2)
4	卒論構想の検討③先行研究の整理について。	報告と討論 (3)
5	プレカリアートの時代①階級論。	テキストについての論点提起と議論 (1)
6	プレカリアートの時代②新自由主義論。	論点提起と議論 (2)
7	プレカリアートの時代③多国籍企業論。	論点提起と議論 (3)
8	プレカリアートの時代④権力論。	論点提起と議論 (4)
9	グローバル・ベーシック・インカム (GBI) 入門①ベーシック・インカム論。	テキストについての論点提起と議論 (1)
10	GBI 入門②ナミビアの事例。	論点提起と議論 (2)
11	GBI 入門③ブラジルの事例。	論点提起と議論 (3)
12	GBI 入門④インドの事例。	論点提起と議論 (4)
13	卒論構想の再検討①テーマと章立て。	半期のあいだ進めた作業をもとに、卒論構想の報告と討論 (1)
14	卒論構想の再検討②先行研究の整理。	報告と討論 (2)
15	ガイダンス	秋学期の計画の詳細を決定
16	卒論の中間報告①テーマと章立て。	夏のあいだに進めた卒論作成の中間報告と討論 (1)
17	卒論の中間報告②論理的一貫性。	報告と討論 (2)
18	卒論の中間報告③実証性。	報告と討論 (3)
19	卒論の中間報告④学術論文という形式。	報告と討論 (4)
20	グローバル・ベーシック・インカム構想の射程①	テキストについての論点提起と議論 (1)
21	GBI 構想の射程②ベーシック・インカム論	論点提起と議論 (2)
22	GBI 構想の射程③開発戦略論。	論点提起と議論 (3)

23	GBI 構想の射程④開発援助論。	論点提起と議論（4）
24	GBI 構想の射程⑤多国籍企業論。	論点提起と議論（5）
25	卒論草稿の検討①テーマと構成。	卒論草稿の報告と討論（1）
26	卒論草稿の検討②論理性と実証性。	報告と討論（2）
27	卒論草稿の検討③先行研究の整理。	報告と討論（3）
28	卒論草稿の検討④学術論文形式。	報告と討論（4）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期終了後には、大学の懸賞論文に応募できる水準のものを作成する。11月末までに卒論を完成させる。したがって、授業外の時間を用いて、自分の興味のあるテーマについて資料を集め、ひたすら論文の作成作業をする必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正著『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。
 ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年。
 岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021年7月（刊行予定）。

【参考書】

ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』（集英社新書、2008年、定価777円）

【成績評価の方法と基準】

卒論の学術的水準で成績評価します。学術論文の形式（引用や参照にかかわる注があり、先行研究や研究状況の整理があり、適切な参考文献目録がある）と内容（論理的に首尾一貫している）があれば、単位取得が可能な60%とし、着想のユニークさ、先行研究の整理の適切さ、フィールドワークや文献調査などの実証的データの新鮮さ、今後の研究課題の提起における発想の豊かさなどの点で加点し、100%で採点します。

【学生の意見等からの気づき】

早めに草稿を完成させ、仕上げていけるように工夫しました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。長年の国際開発・人権NGOでの活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A seminar class for academic writing in order to support the participants in writing the graduation Thesis.

HUI400EB, HUI400EC, HUI400ED

演習3（卒業論文）

小川 有希子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位

曜日・時限：月5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像と、その物語および環境に、認知科学の立場からアプローチし、卒業論文を完成させる。

【到達目標】

映像と物語に関して、データや実験・制作映像・シミュレーションなどを基に認知科学的観点から分析し、それを学術論文としてまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒業論文の作成を行う。映像と、その物語の関係を分析し、修辞と効果に認知科学の立場からアプローチする。また、卒業論文に向け、分析・実験・制作・シミュレーションなどその記述を精緻化していく。通常のゼミにおいては受講生はレジュメを作成して発表し、それに基づいて議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの内容について
第2回	卒論に向けて	卒論に向けた解説
第3回	ゼミ論の復習	先年度のまとめと今後に向けた議論
第4回	春学期の計画	春学期の研究計画に関する議論
第5回	研究計画発表1	個人発表
第6回	研究計画発表2	個人発表
第7回	研究計画発表3	個人発表
第8回	研究計画発表4	個人発表
第9回	映像上映 学外	学外での映像認知体験
第10回	映像認知の議論	映像認知体験について
第11回	映像データ発表1	映像とデータの発表
第12回	映像データ発表2	映像とデータの発表
第13回	映像データ発表3	映像とデータの発表
第14回	映像データ発表4	映像とデータの発表
第15回	春学期の復習	夏合宿の総括
第16回	秋学期の計画	秋学期の研究計画に関する議論
第17回	研究経過発表1	個人発表
第18回	研究経過発表2	個人発表
第19回	研究経過発表3	個人発表
第20回	研究経過発表4	個人発表
第21回	研究経過発表5	個人発表
第22回	映像上映 祭	映画祭など
第23回	映像と環境について	映像環境に関する議論
第24回	研究成果発表1	研究成果の議論
第25回	研究成果発表2	研究成果の議論
第26回	研究成果発表3	研究成果の議論
第27回	研究成果発表4	研究成果の議論
第28回	卒論提出に向けたまとめ	卒論についてのこれまでの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人研究を進めておくこと。また、サブゼミ課題を指定した場合は、成果をグループでまとめてくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文(50%)と、通常のゼミでの発表および議論・課題内容(50%)などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

個人面談の回数を増やすと共に、よりきめ細かい指導をしていきたい。

【Outline and objectives】

This seminar deals with the film and image theory, narratology and cognitive science.

SOW400EB, SOW400EC, SOW400ED

演習3（卒業論文）

堅田 香緒里

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文執筆に必要な基本的な技法を身につけ、卒業論文を執筆する。

【到達目標】

演習1・演習2での学びを踏まえて、自らの問いをさらに深く追求する。
1年間かけて、自らの問いと向き合いながら、卒業論文を完成させる。
論文のテーマは原則的に自由（各自が1年間かけて取り組みたい、と思えるものであれば）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自が、自分の問いと向き合いながら研究を遂行し、その成果を卒業論文としてまとめていく。毎回の授業は、各自の研究の進捗状況の報告と検討を中心に進めていく。目安としては、春学期中に研究計画を完成させ、夏季休暇中に研究を進め、秋学期後半は各自の草稿を検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明、卒業論文の説明
第2回	問いの設定(1)	先行研究の整理と、問いの設定
第3回	問いの設定(2)	先行研究の整理と、問いの設定
第4回	問いの設定(3)	先行研究の整理と、問いの設定
第5回	問いの設定(4)	先行研究の整理と、問いの設定
第6回	問いの設定(5)	先行研究の整理と、問いの設定
第7回	卒業論文の技法(1)	優秀卒業論文集からピックアップした複数の論文の輪読・批評
第8回	卒業論文の技法(2)	優秀卒業論文集からピックアップした複数の論文の輪読・批評
第9回	研究計画の発表(1)	研究の進捗状況・今後の研究計画の発表
第10回	研究計画の発表(2)	研究の進捗状況・今後の研究計画の発表
第11回	研究計画の発表(3)	研究の進捗状況・今後の研究計画の発表
第12回	研究計画の発表(4)	研究の進捗状況・今後の研究計画の発表
第13回	研究計画の発表(5)	研究の進捗状況・今後の研究計画の発表
第14回	夏季休暇中の作業について(1)	夏季休暇中に取り組むべき課題の整理
第15回	イントロダクション(秋学期)	イントロダクション(秋学期)
第16回	研究の中間報告(1)	夏季休暇中の研究の進捗状況報告/論文の構成の発表
第17回	研究の中間報告(2)	夏季休暇中の研究の進捗状況報告/論文の構成の発表
第18回	研究の中間報告(3)	夏季休暇中の研究の進捗状況報告/論文の構成の発表
第19回	研究の中間報告(4)	夏季休暇中の研究の進捗状況報告/論文の構成の発表
第20回	研究の中間報告(5)	夏季休暇中の研究の進捗状況報告/論文の構成の発表
第21回	論文の書き方について	論文執筆における基本的マナーについて改めて確認
第22回	初稿の相互批評(1)	初稿の提出、相互批評
第23回	初稿の相互批評(2)	初稿の提出、相互批評
第24回	研究の最終報告(1)	問いの設定から考察、結論までの流れを報告
第25回	研究の最終報告(2)	問いの設定から考察、結論までの流れを報告
第26回	研究の最終報告(3)	問いの設定から考察、結論までの流れを報告
第27回	研究の最終報告(4)	問いの設定から考察、結論までの流れを報告
第28回	ふりかえり	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文完成まで、各自の研究テーマについて計画的な学習を要します。
また、ゼミ生同士での相互批評と相互扶助を大事にしてほしいと思っています。
本授業の準備学習（文献を事前に読む等）・復習時間（授業内で提示された課題に取り組む等）は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業時間内に提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業時間内に提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、発表の内容（10%）、相互批評の内容（20%）、卒業論文の内容（60%）等から総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this course is to prepare students for writing a graduation thesis related to their research interests.

SEE400EB, SEE400EC, SEE400ED

演習3（卒業論文）

鞠子 茂

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多摩キャンパスおよびその周辺の自然と生物を題材とした卒業研究のテーマを設定し、年間計画を立て、実施する。卒業研究は三年間の演習で習得したアカデミックスキルズを使って解く応用問題と位置づけ、問題解決能力がどれくらい身に付いたかを確認する。

【到達目標】

自然環境や生物に関するテーマを研究し、深く理解することにより、自然や生物との付き合い方や環境問題の解決に向けた新たな規範やライフスタイルを提案し、それを実践できる人間力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

研究テーマを確認した後、年間計画を立てる。ローテーションを組んで、論文紹介や研究の進捗状況を報告する。徹底した議論を行い、自身の研究にフィードバックさせる。年数回、卒業研究の進捗状況について確認するための発表会を行う。自然や生物を対象とするため、授業スケジュール等の変更がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要について	ゼミの進め方、一年間の大まかなスケジュール説明
第 2 回	研究テーマの最終決定（前半）	卒業研究のテーマについて発表し、議論を経て最終決定する
第 3 回	研究テーマの最終決定（後半）	卒業研究のテーマについて発表し、議論を経て最終決定する
第 4 回	研究テーマの決定	卒業研究のテーマについて発表し、議論を経て決定する
第 5 回	研究計画の決定（前半）	一年間の研究計画について発表し、教員と学生で議論する
第 6 回	研究計画の決定（後半）	一年間の研究計画について発表し、教員と学生で議論する
第 7 回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第 8 回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第 9 回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第 10 回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第 11 回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第 12 回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第 13 回	中間発表の準備	パワポによる発表原稿の内容チェック
第 14 回	春学期中間発表会	春学期の研究成果、進捗状況、夏休み期間中の研究計画についてプレゼンし、助言を得る
第 15 回	秋学期の予定確認と研究経過と計画の報告	夏休み期間中の研究成果を報告するとともに、秋学期の研究計画を確認する
第 16 回	経過報告と計画確認	夏休み期間中の研究成果を報告するとともに、秋学期の研究計画を確認する
第 17 回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第 18 回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第 19 回	研究の進捗状況または論文紹介	研究計画に基づいて、それぞれの研究を行う
第 20 回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第 21 回	研究の進捗状況または論文紹介	ローテーションで卒業研究の進捗状況を報告するか、関連論文を紹介する
第 22 回	論文作成・提出に向けての指導	卒業論文提出までのスケジュール確認と論文作成の指導
第 23 回	図表作成指導	図表の描き方について指導する

第 24 回	論文添削	事前に論文原稿を提出させ、添削指導する
第 25 回	論文添削	事前に論文原稿を提出させ、添削指導する
第 26 回	論文添削	事前に論文原稿を提出させ、添削指導する
第 27 回	最終発表の準備	卒業研究の最終発表に向けた指導を行う
第 28 回	最終発表	卒業研究の成果をパワポで発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自然環境や生物を対象とした研究では、通常データは自分自身で取ることになる。その場合、授業時間外のワークは必須となるが、どれくらいの時間が必要となるかは研究内容によって異なる。既往文献からデータや情報を収集したり、論文を執筆したりする場合、授業時間外の時間を使って行う。本授業における平均的な準備学習・復習時間は各々 2 時間程度とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

「生物多様性と生態学—遺伝子・種・生態系」宮下直ほか著、朝倉書店（2012）；「森のバランス」森林立地学会編、東海大学出版（2012）；「オオカミが日本を救う! 生態系での役割と復活の必要性」丸山直樹編集、白水社；「気候変動を理學する」多田隆治著、朝倉書店（2017）；「人類と気候の 10 万年史 過去に何が起きたのか、これから何が起るのか（ブルーボックス）」中川毅著、講談社（2017）；「人と生態系のダイナミクス 2 森林の歴史と未来」鈴木牧ほか著、朝倉書店（2019）；

【成績評価の方法と基準】

〔配分〕卒業論文（70%）、平常点（30%）

〔評価基準〕卒業論文については、提出の有無、論理性の有無、文章表現の洗練度、データの質と量、適切な文献の引用、プレゼンスキルなどを総合的に評価する。平常点については、出席するだけでなく、積極的に授業に関与する姿勢も合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業に対する学生の意見を随時聞き取り、適切に配慮しながら進めて行く。

【学生が準備すべき機器他】

文献検索、データの整理・分析、プレゼンでは、必要に応じてパソコンを使う。学習支援システムへのアクセスができる端末。

【その他の重要事項】

自然や生き物を研究対象とするので、環境倫理や生命倫理についても一定程度の知識を持っていることが望ましい。

【Outline and objectives】

In this course, each student will do an independent research project on a topic related to biology and environmental sciences. For this, students will choose their own topic, conduct a few presentations and write a senior thesis.

MAN400EB, MAN400EC, MAN400ED

演習3（卒業論文）

加藤 寛之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1年をかけて卒業論文を作成する能力を蓄積し、論理的にプレゼンテーションできる能力を養います。

4月21日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】

自分で設定した卒業論文のテーマについて、先行研究を消化し、仮説を立て、論証する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒業論文の執筆が主たる課題です。執筆途中の論文原稿の添削を繰り返すことで完成度を高めていきます。ゼミの時間には、進捗状況の報告プレゼンと研究に関する相談を受け付けます。最終段階で学生相互によるピアレビューを行い、完成度を高めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	卒論の執筆に向けて指針を示す
第2回	卒論テーマプレゼン 1	各自の卒論テーマを紹介
第3回	卒論テーマプレゼン 2	各自の卒論テーマを紹介
第4回	卒論の全体構成 1	卒論の章立や全体像構想
第5回	卒論の全体構成 2	卒論の章立や全体像構想
第6回	卒論研究の中間報告 1	卒論研究の中間報告
第7回	卒論研究の中間報告 2	卒論研究の中間報告
第8回	卒論研究の中間報告 3	卒論研究の中間報告
第9回	卒論研究の中間報告 4	卒論研究の中間報告
第10回	卒論研究の中間報告 5	卒論研究の中間報告
第11回	卒論研究の中間報告 6	卒論研究の中間報告
第12回	卒論研究の中間報告 7	卒論研究の中間報告
第13回	卒論第一稿提出	論文提出初回
第14回	卒論第一稿チェック	卒論の添削
第15回	夏休後ミーティング	夏休み中の進捗状況を報告
第16回	夏休後ミーティング	夏休み中の進捗状況を報告
第17回	卒論中間報告 8	卒論研究の中間報告
第18回	卒論中間報告 9	卒論研究の中間報告
第19回	卒論中間報告 10	卒論研究の中間報告
第20回	卒論中間報告 11	卒論研究の中間報告
第21回	卒論中間報告 12	卒論研究の中間報告
第22回	卒論添削	論文の仕上がりをチェック
第23回	卒論添削	論文の仕上がりをチェック
第24回	卒論添削	導入・手法の章チェック
第25回	卒論添削	結果の章チェック
第26回	卒論添削	考察の章チェック
第27回	卒論添削	全章を完成させる
第28回	卒論提出直前面談	最終提出にむけたチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論は、自分が大学で学んだことの総集編です。卒論の完成度を高めるためには、提出間際まで努力を要します。一定レベルに達した論文を卒業論文と認定します。最後の最後で大化けする可能性もありますので、あきらめずに取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

それぞれの研究テーマに添った文献を指示します。

【参考書】

・論文やレポートの書き方指南書を参考にしてください。

【成績評価の方法と基準】

・卒論研究への取組み（30%）やプレゼンスキル（30%）、卒論本文の完成度（40%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

卒論執筆には、構想・調査/実践・粗稿執筆・推敲・プレゼン・校了、といった多くのプロセスからなり、思った以上に日時を要します。

【学生が準備すべき機器他】

・卒論はワープロで執筆すること。

【Outline and objectives】

To make your graduation thesis and to bluish up your presentation skill.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習 3 (卒業論文)

菊澤 佐江子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学部ゼミ学習の集大成として、卒業論文を完成させる。

【到達目標】

演習 1・2 で学んだことを基礎として、各自の問題関心にもとづいて独自に調査・研究を行い、卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

各自、自分の研究テーマについて研究を行い、その成果を卒業論文にまとめていく。授業は、卒業研究の各段階において課される課題の提出・報告・検討・個別指導を中心に進める。春学期は研究計画書の完成、夏休みは調査・資料収集と分析、秋学期は卒業論文の草稿の提出と検討を主な課題として進める予定である。課題等へのフィードバックは、可能な限り各回の授業内で行う。授業の進め方の詳細は、初回授業で相談するので、履修予定者は必ず初回授業に参加すること (各自、演習 2 で作成した研究計画書を持参すること)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	卒業論文初回報告 (1)	研究計画書についての報告と検討
3	卒業論文初回報告 (2)	研究計画書についての報告と検討
4	卒業論文初回報告 (3)	研究計画書についての報告と検討
5	卒業論文初回報告 (4)	研究計画書についての報告と検討
6	卒業論文中間報告 (1)	研究経過の報告と検討
7	卒業論文中間報告 (2)	研究経過の報告と検討
8	卒業論文中間報告 (3)	研究経過の報告と検討
9	卒業論文中間報告 (4)	研究経過の報告と検討
10	卒業論文第 2 回中間報告 (1)	研究経過の報告と検討
11	卒業論文第 2 回中間報告 (2)	研究経過の報告と検討
12	卒業論文第 2 回中間報告 (3)	研究経過の報告と検討
13	卒業論文第 2 回中間報告 (4)	研究経過の報告と検討
14	春学期の総括	春学期の成果の検討と今後のスケジュールの確認
15	卒業論文第 3 回中間報告 (1)	研究経過の報告と検討
16	卒業論文第 3 回中間報告 (2)	研究経過の報告と検討
17	卒業論文第 3 回中間報告 (3)	研究経過の報告と検討
18	卒業論文第 3 回中間報告 (4)	研究経過の報告と検討
19	卒業論文第 4 回中間報告 (1)	研究経過の報告と検討
20	卒業論文第 4 回中間報告 (2)	研究経過の報告と検討
21	卒業論文第 4 回中間報告 (3)	研究経過の報告と検討
22	卒業論文第 4 回中間報告 (4)	研究経過の報告と検討
23	卒業論文最終報告 (1)	原稿の検討
24	卒業論文最終報告 (2)	原稿の検討
25	卒業論文最終報告 (3)	原稿の検討
26	卒業論文最終報告 (4)	原稿の検討
27	卒業論文発表会について	発表方法の説明と準備
28	卒業論文発表会	卒業論文の発表と相互討論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自、各課題および卒業論文の完成に向けて、計画的に文献探索・収集、読書、調査、執筆等をすすめることが求められる。本授業の事前学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】卒業論文 70%、ゼミへの参加 (報告、議論への貢献等) 30 %。
(ただし、卒業論文の提出は、ゼミ参加を前提条件とする)**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

卒業論文執筆のためのゼミであるため、執筆予定者以外は履修しないこと。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to help students to write graduation thesis.

ECN400EB, ECN400EC, ECN400ED

演習3（卒業論文）

北浦 康嗣

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の基礎理論を踏まえた上で、データに基づいて議論できるようなゼミ生を育成することが目標です。学生を少人数のグループに分け、執筆している論文に対して、対話、またはディスカッションを通して理解を深めます。

【到達目標】

世界を見渡すと、日本のように経済が発展している国となかなか経済が発展できない国があります。「どうしてこんなに格差が出たのか?」「このような格差を埋めるには、どのようにするのがよいか?」経済発展にまつわる様々な問題について事実と経済理論の両面から考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

まず、対象となる要因（公共サービス、教育・健康、環境など）や社会問題（貧困問題や高齢化問題など）を決めます。次に、対象となる国や地域（地方自治体）を決めます。それに基づいて、Word、Excel や PowerPoint を使って報告・討論します。他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。このようにゼミ生同士の相互作用を重視します。この他に取り上げたテーマに応じて「現場」を見ることも予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの進め方など
2	研究テーマの報告①	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。
3	研究テーマの報告②	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。
4	研究テーマの報告③	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。
5	研究テーマの報告④	各自関心のあるテーマを設定し、報告します。
6	研究テーマの報告および討論①	他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
7	研究テーマの報告および討論②	他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
8	研究テーマの報告および討論③	他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
9	研究テーマの報告および討論④	他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
10	研究テーマの報告および討論⑤	他のメンバーと討論することで自分では気づかなかった視点で改めて考えてみます。
11	研究テーマについて検討①	他のメンバーと討論したことを踏まえて再び関心のあるテーマについて報告します。

12	研究テーマについて検討②	他のメンバーと討論したことを踏まえて再び関心のあるテーマについて報告します。
13	研究テーマについて検討③	他のメンバーと討論したことを踏まえて再び関心のあるテーマについて報告します。
14	研究テーマについて検討④	他のメンバーと討論したことを踏まえて、再び関心のあるテーマについて報告します。
15	収集したデータを中心に整理・報告①	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
16	収集したデータを中心に整理・報告②	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
17	収集したデータを中心に整理・報告③	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
18	収集したデータを中心に整理・報告④	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
19	収集したデータを中心に整理・報告⑤	関心のテーマに基づいた参考文献を整理して報告します。
20	論文作成①	論文作成の進捗状況を報告します。
21	論文作成②	論文作成の進捗状況を報告します。
22	論文作成③	論文作成の進捗状況を報告します。
23	論文作成④	論文作成の進捗状況を報告します。
24	論文作成⑤	論文作成の進捗状況を報告します。
25	研究発表①	卒論の発表を行います。
26	研究発表②	卒論の発表を行います。
27	研究発表③	卒論の発表を行います。
28	研究発表④	卒論の発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告は各自のテーマについて Word や Excel を使って発表します。いずれの課題も演習時間外の準備が必要となります。本演習の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【参考書】

とくに指定しません。必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況、卒業論文の内容（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「出席は必ず毎回とってほしい」という意見がありましたので、授業開始後すぐに出席を取ることにします。

【Outline and objectives】

The goal is to be a student who can discuss based on "data-based" on the basic theory of economics. In this class, students will be divided into small groups to understand the paper they write, and discuss the paper to interpret and describe the significance of their findings.

ART400EB, ART400EC, ART400ED

演習3（卒業論文）

高 美賀

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミ1、ゼミ2での学習の集大成として卒業論文の作成を行う。

【到達目標】

各自テーマを設定し、具体的な問いをたてて研究を行い、その成果を論文にまとめる。

設定した問題関心（問い）について、歴史的、理論的、美学的視座から論理的に考察・検証するとともに、映画テキストの詳細な分析を行うことが必須。感想でも批評でもなく、映画についての「研究論文」として卒論を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

各自、自分の研究テーマについて研究をすすめ、論文を完成する。中間報告を定期的に行い、他のゼミ生との質疑応答から改善点を得て研究に役立てる。別途、教員の個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期オリエンテーション	春学期のについての説明
第2回	研究計画書の作成	研究計画書の作成
第3回	先行研究の整理	先行研究を収集し整理する
第4回	先行研究のまとめ	既存の研究をまとめ自分の問いを再確認する
第5回	第1章(1):進捗報告1	第1章の構成報告・討議
第6回	第1章(2):進捗報告2	第1章の映像分析・考察を報告・討議
第7回	第1章(3):初稿発表	第1章のドラフトを発表・討議
第8回	第1章(4):改稿	前回の発表討議を踏まえて改稿作業
第9回	第1章(5):完成・発表	第1章を完成・発表
第10回	第2章(1):進捗報告1	第2章の構成報告・討議
第11回	第2章(2):進捗報告2	第2章の映像分析・考察を報告・討議
第12回	第2章(3):初稿発表	第2章のドラフトを発表・討議
第13回	第2章(4):改稿	前回の発表討議を踏まえて改稿作業
第14回	第2章(5):完成・発表	第2章を完成・発表
第16回	第3章(1):進捗報告1	第3章の構成報告・討議
第16回	第3章(2):進捗報告2	第3章の映像分析・考察を報告・討議
第17回	第3章(3):初稿発表	第3章のドラフトを発表・討議
第18回	第3章(4):改稿	前回の発表討議を踏まえて改稿作業
第19回	第3章(5):完成・発表	第3章を完成・発表
第20回	序論(1)	序論の問いの背景部分を執筆・報告
第21回	序論(2)	序論のドラフト完成・報告
第22回	序論(3)	序論の完成と報告
第23回	結論(1)	結論部分のドラフト作成と報告
第24回	結論(2)	結論の完成と報告
第25回	論文全体の初稿完成	論文全体の初稿完成
第26回	研究報告1	初稿をもとに発表・討議
第27回	論文全体の改稿	前回の発表・討議をもとに改稿
第28回	研究報告2	完成した卒業論文の概要を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、卒業論文の完成に向けて計画的に、映画視聴・分析、文献探索、購読、考察、執筆を計画的にすすめること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文 70 %

ゼミへの参加（中間報告等）30 %

* 論文提出はゼミ参加（中間報告）を前提条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline and objectives】

The course offers students the opportunity of personal advanced study and writing a dissertation on a topic of their own choice in Film Studies. The dissertation should be written strictly from an academic perspective involving historical, theoretical and aesthetic analyses. The length of the dissertation should be more than 20,000 letters.

HSS400EB, HSS400EC, HSS400ED

演習3（卒業論文）

越部 清美

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自が、自分の興味や関心あるテーマを設定し、卒業論文を仕上げる。

【到達目標】

卒業論文を仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

個別指導が中心であるが、毎回、各自の研究の進捗状況について報告する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	年間の予定の説明
第2回	研究報告	テーマ設定についての報告1
第3回	研究報告	テーマ設定についての報告2
第4回	研究報告	テーマ設定についての報告3
第5回	研究報告	テーマ設定についての報告4
第6回	研究報告	構想についての報告1
第7回	研究報告	構想についての報告2
第8回	研究報告	構想についての報告3
第9回	研究報告	構想についての報告4
第10回	研究報告	構想についての報告5
第11回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告1
第12回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告2
第13回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告3
第14回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告4
第15回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告5
第16回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告6
第17回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告7
第18回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告8
第19回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告9
第20回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告10
第21回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告11
第22回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告12
第23回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告13
第24回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告14
第25回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告15
第26回	研究報告	具体的な執筆内容についての報告16
第27回	研究報告	卒業論文最終完成版の提出
第28回	試験・まとめと解説	授業の総括として口頭試問を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自のテーマに関する情報収集を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文70%ゼミへの参加30%（報告、発言等）として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to write a graduation thesis.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

斎藤 友里子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年次までの漠然とした問題関心を深化させ、卒業研究へと結実させる（できれば3年次までのテーマであった、公共性や公平さに関心のあることが望ましい）。

【到達目標】

卒業論文の完成と、完成までのプロセスを通して、社会現象を客観的に分析し、主張を説得的に提示する技法を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

卒業研究の進捗状況について発表し討議を行う形で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第2回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第3回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第4回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第5回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第6回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第7回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第8回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第9回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第10回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第11回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第12回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第13回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第14回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第15回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第16回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第17回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第18回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第19回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第20回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第21回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第22回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第23回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第24回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第25回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う

第 26 回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第 27 回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う
第 28 回	研究報告	卒業論文の進捗状況について個別に報告し、討議を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文作成に向けて、先行研究の消化と、資料やデータの収集・分析を行い執筆を進める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加（発表・議論への参加）と論文により評価する（30%：70%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

In this seminar, students should complete their graduation thesis by deepening sociological insight into one's own theme that they have developed through their work in Seminars 1 and 2.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習 3（卒業論文）

吉田 公記

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、現代の欧米諸国における排外主義の問題にかんする問いを各自で設定し、卒業論文を執筆する。

【到達目標】

先行研究の検討とデータを用いた論証を踏まえ、卒業論文を完成させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒論研究の進捗状況等を報告してもらい、それに対して教員がフィードバックを行なう。なお、授業計画は展開によって、若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間スケジュールの説明
2	研究テーマの検討	問いの設定に向けて大まかなテーマを検討する
3	先行研究の検討①	テーマ関連文献を批判的に考察する
4	先行研究の検討②	テーマ関連文献を批判的に考察する
5	先行研究の検討③	テーマ関連文献を批判的に考察する
6	先行研究の検討④	テーマ関連文献を批判的に考察する
7	先行研究の検討⑤	テーマ関連文献を批判的に考察する
8	卒業論文の問いの設定	先行研究を踏まえて卒業論文の問いを絞り込む
9	データの収集①	問いの論証のためのデータを収集する
10	データの収集②	問いの論証のためのデータを収集する
11	データの収集③	問いの論証のためのデータを収集する
12	データの分析①	収集したデータを分析する
13	データの分析②	収集したデータを分析する
14	データの分析③	収集したデータを分析する
15	章構成の検討	卒業論文の章構成を考える
16	執筆スタイルの確認	注記や文献リストの書き方などを確認する
17	卒業論文の進捗報告①	進捗を報告しフィードバックを受ける
18	卒業論文の進捗報告②	進捗を報告しフィードバックを受ける
19	卒業論文の進捗報告③	進捗を報告しフィードバックを受ける
20	卒業論文の進捗報告④	進捗を報告しフィードバックを受ける
21	卒業論文の進捗報告⑤	進捗を報告しフィードバックを受ける
22	卒業論文の進捗報告⑥	進捗を報告しフィードバックを受ける
23	卒業論文の進捗報告⑦	進捗を報告しフィードバックを受ける
24	卒業論文の進捗報告⑧	進捗を報告しフィードバックを受ける
25	卒業論文の進捗報告⑨	進捗を報告しフィードバックを受ける
26	論文提出前の最終確認①	書式等を確認する
27	論文提出前の最終確認②	提出の最終準備をする
28	まとめ	卒論研究を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の執筆に必要な文献の講読、データの収集・分析、そして論文の執筆。本授業の準備学習・復習時間等は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜指示する。

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の評価：100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

Through this course, students will write B.A. theses on right-wing populism in contemporary Europe and the United States.

SES400EB, SES400EC, SES400ED

演習3（卒業論文）

島本 美保子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

年間 4 回の中間報告を行い、卒業論文の作成を行います。

【到達目標】

論文はレポートとは異なります。単に文献を調べてまとめただけでは論文とはいえません。各自の問題関心に基づいて命題を構築し、社会科学の理論的な枠組みを用いて分析し、その命題に対する何らかの答え（結論）が見いだされていること、そしてそれぞれの論点に対してきちんと実証的または理論的サポートがなされているものが論文です。そのような論文の基本的要件を満たし、次のいずれかに当てはまるものを卒業論文とみなします。

- ①ヒアリングに基づいて書かれているもの
- ②アンケート調査を行っているもの
- ③統計的データやその他の既存のデータを用いて論理的に分析しているもの
- ④文献研究のみではあるが、理論的に整理され、オリジナリティのあるまとめ方をしているもの
- ⑤外国語文献を用いて理論または実証的なまとめ方をしているもの

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

年間 4 回卒業論文の中間発表を行い、他のゼミ生と質疑応答を行います。要件に達しないとみなされた場合、中間報告をやり直してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	卒業論文に向けて	ゼミ論文からどう発展させるか、について報告
2	中間報告 step1	卒論の論理展開についてのまとまったイメージの提示
3	中間報告 step1	卒論の論理展開についてのまとまったイメージの提示
4	中間報告 step1	卒論の論理展開についてのまとまったイメージの提示
5	中間報告 step1	卒論の論理展開についてのまとまったイメージの提示
6	中間報告 step1 補足	step1 の追加報告
7	中間報告 step1 補足	step1 の追加報告
8	中間報告 step2	卒論の目次案、リサーチ計画
9	中間報告 step2	卒論の目次案、リサーチ計画
10	中間報告 step2	卒論の目次案、リサーチ計画
11	中間報告 step2	卒論の目次案、リサーチ計画
12	中間報告 step2 補足	step2 の追加報告
13	中間報告 step2 補足	step2 の追加報告
14	中間報告 step2 補足	step2 の追加報告
15	中間報告 step3	夏休みのリサーチ結果のまとめ
16	中間報告 step3	夏休みのリサーチ結果のまとめ
17	中間報告 step3	夏休みのリサーチ結果のまとめ
18	中間報告 step3	夏休みのリサーチ結果のまとめ
19	中間報告 step3 の補足	step3 の追加報告
20	中間報告 step3 の補足	step3 の追加報告
21	最終報告	卒論全体の内容のまとめ
22	最終報告	卒論全体の内容のまとめ
23	最終報告	卒論全体の内容のまとめ
24	最終報告	卒論全体の内容のまとめ
25	最終報告の補足	最終報告の追加報告
26	最終報告の補足	最終報告の追加報告
27	個別相談	卒業論文の仕上げ
28	個別相談	卒業論文の仕上げ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の執筆に必要な文献調査、フィールドワークやデータ収集など。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 4 回の中間報告 step をクリアすること
 - ・ 分量 24000 字以上
 - ・ web 以外の引用文献 30 件程度
 - ・ 書式、文献作法などをきちんと踏まえた論文
- 上記の条件を満たす卒業論文を提出することを単位取得の最低要件とし、最終評定は卒業論文の内容 100 % によって行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

We will make an interim report four times a year and will write a graduation thesis.

POL400EB, POL400EC, POL400ED

演習3（卒業論文）

志村 真弓

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代国際社会が直面する問題、あるいは国際政治において関係諸主体が直面する問題について、国際関係論分野の先行研究成果を踏まえて構造的に理解したうえで、自ら批判的検討を行う。各自で研究課題を設定し、卒業論文を作成する。

【到達目標】

現代国際社会ならではの地球規模問題群、越境的事象、国際政治・外交問題などについて、先行学術成果を可能な限り広く正確に理解し、これに対する自身の見解を批判的・実証的・論理整合的に論文にまとめ上げることが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

卒業論文の完成に向けて、研究テーマの検討、先行研究の整理、各自の研究見通しの発表とフィードバック（学習支援システム利用）、学術論文の執筆作法の確認を含む執筆作業、研究成果の発表とディスカッションなどを行う。授業計画は授業の進度により変更の可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習の進め方について
2	学術論文執筆スキル①	学術論文の構成と形式
3	学術論文執筆スキル②	先行研究の見つけ方
4	学術論文執筆スキル③	学術研究における問いの立て方
5	研究テーマの検討①	研究テーマの発表とフィードバック
6	研究テーマの検討②	研究テーマの発表とフィードバック
7	研究テーマの検討③	研究テーマの発表とフィードバック
8	研究テーマの検討④	研究テーマの発表とフィードバック
9	研究テーマの検討⑤	研究テーマの発表とフィードバック
10	研究テーマの検討⑥	研究テーマの発表とフィードバック
11	研究テーマの検討⑦	研究テーマの発表とフィードバック
12	研究テーマの検討⑧	研究テーマの発表とフィードバック
13	研究テーマの検討⑨	研究テーマの発表とフィードバック
14	学術論文スキル④	引用・注釈の作法、参考文献一覧の重要性
15	ガイダンス	個人研究発表の予定調整
16	第1回個人研究発表①	研究課題とアウトラインの発表・質疑
17	第1回個人研究発表②	研究課題とアウトラインの発表・質疑
18	第1回個人研究発表③	研究課題とアウトラインの発表・質疑
19	第1回個人研究発表④	研究課題とアウトラインの発表・質疑
20	第1回個人研究発表⑤	研究課題とアウトラインの発表・質疑
21	第1回個人研究発表⑥	研究課題とアウトラインの発表・質疑
22	第2回個人研究発表①	研究成果の発表・ディスカッション
23	第2回個人研究発表②	研究成果の発表・ディスカッション
24	第2回個人研究発表③	研究成果の発表・ディスカッション
25	第2回個人研究発表④	研究成果の発表・ディスカッション
26	第2回個人研究発表⑤	研究成果の発表・ディスカッション
27	第2回個人研究発表⑥	研究成果の発表・ディスカッション

28 論文報告会

口頭発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文完成に向けて、段階別に先行研究調査、研究課題の分析作業、本文執筆などを進めること。標準学習時間は授業時間と合わせて毎週約13時間。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文：100%

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の質疑応答時間をさらに充実させる。

【Outline and objectives】

This course is designed for undergraduate students to independently research and write the thesis on their own specific topics in international relations and world politics.

POL400EB, POL400EC, POL400ED

演習 3 (卒業論文)

白鳥 浩

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際政治と国内政治の体系的理解に基づく卒業論文作成

【到達目標】

政治学の卒業論文を通じて論理的に思考・表現することを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

政治は「未来の選択」であり、「可能性のアート」であるといわれる。そうした政治についてこのゼミでは学びます。

ゼミのテーマは「現代政治の分析」です。具体的には、国際、国内の政治過程におけるさまざまな問題を、理論的に分析し、卒業論文を作成することを目指します。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	卒業論文作成のイントロダクション	論文の書き方
2)	卒業論文に向けた政治分析 (1)	事例研究
3)	卒業論文に向けた政治分析 (2)	事例研究
4)	卒業論文に向けた政治分析 (3)	事例研究
5)	卒業論文に向けた政治分析 (4)	事例研究
6)	卒業論文に向けた政治分析 (5)	事例研究
7)	卒業論文に向けた政治分析 (6)	事例研究
8)	卒業論文に向けた政治分析 (7)	事例研究
9)	卒業論文に向けた政治分析 (8)	事例研究
10)	卒業論文に向けた政治分析 (9)	事例研究
11)	卒業論文に向けた政治分析 (10)	事例研究
12)	卒業論文に向けた政治分析 (11)	事例研究
13)	卒業論文に向けた政治分析 (12)	事例研究
14)	卒業論文に向けた総合的政治分析	事例研究
15)	秋学期のイントロダクション	卒論の進捗状況
16)	卒業論文作成の政治分析 (1)	事例研究
17)	卒業論文作成の政治分析 (2)	事例研究
18)	卒業論文作成の政治分析 (3)	事例研究
19)	卒業論文作成の政治分析 (4)	事例研究
20)	卒業論文作成の政治分析 (5)	事例研究
21)	卒業論文作成の政治分析 (6)	事例研究
22)	卒業論文作成の政治分析 (7)	事例研究
23)	卒業論文作成の政治分析 (8)	事例研究
24)	卒業論文作成の政治分析 (9)	事例研究

- 25) 卒業論文作成の政治分析 (10) 事例研究
 26) 卒業論文作成の政治分析 (11) 事例研究
 27) 卒業論文作成の政治分析 (12) 事例研究
 28) 卒業論文提出の総合的政治分析 事例研究

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

講義時に適宜指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文 50%。平常点 50 %。授業への積極性はもとより、発表、発言等のゼミ運営への貢献なども考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic knowledges for the writing of an Academic Thesis.

HIS400EB, HIS400EC, HIS400ED

演習3（卒業論文）

慎 蒼宇

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史」から現代社会や世界の諸問題を考える（卒業論文）

【到達目標】

現代史をテーマに、これまでの二年間でテーマを設定し研究を進めてきた個人研究を、学術論文としての体裁を整えた卒業論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

個人報告とゼミ生によるディスカッションを重ねながら卒業論文を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の計画確認
2	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
3	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
4	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
5	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
6	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
7	中間報告①	卒業論文の全体構想・研究計画の発表
8	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
9	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
10	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
11	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
12	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
13	中間報告②	先行研究整理に関する成果報告、文献・資料分析の経過報告
14	春学期総括	春学期の進捗状況の整理、夏以降の課題を確認する。
15	秋学期イントロダクション	秋学期の研究計画確認
16	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
17	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
18	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
19	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
20	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
21	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告
22	中間報告③	卒業論文執筆計画に関する報告

23	最終報告	卒業論文執筆の進捗状況に関する最終報告
24	最終報告	卒業論文執筆の進捗状況に関する最終報告
25	最終報告	卒業論文執筆の進捗状況に関する最終報告
26	最終報告	卒業論文執筆の進捗状況に関する最終報告
27	最終報告	卒業論文執筆の進捗状況に関する最終報告
28	個別面談	卒業論文の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の執筆に必要な文献調査・講読、研究史の整理、資料調査・収集・分析など。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

学生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの中間報告や討議への参加内容（40 %）、卒業論文の内容（60 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Create a graduation thesis

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

鈴木 智道

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の執筆に向けて、過去 2 年間のゼミ活動のなかで培ってきた研究活動をふりかえりつつ、まずはのちのち悔いの残らない研究テーマを慎重に吟味・選定し、確定する。その上で、問いの設定 → 資料の渉猟 → 章立て構成の検討 → 論文の執筆へと順を追って進めていく。

【到達目標】

演習 2 までの経験をふまえながら、納得の卒業論文を完成させることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

演習形式で進める。

諸課題に対する講評等は、授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	スケジュールの確認
2	テーマの検討①	個人報告
3	テーマの検討②	個人報告
4	テーマの検討③	個人報告
5	テーマの検討④	個人報告
6	問いの設定①	個人報告
7	問いの設定②	個人報告
8	問いの設定③	個人報告
9	問いの設定④	個人報告
10	問いの明確化①	個人報告
11	問いの明確化②	個人報告
12	問いの明確化③	個人報告
13	問いの明確化④	個人報告
14	進展状況報告	全体報告
15	各自課題の確認	スケジュールの確認
16	章立て構成の検討①	個人報告
17	章立て構成の検討②	個人報告
18	章立て構成の検討③	個人報告
19	章立て構成の検討④	個人報告
20	中間報告①	個人報告
21	中間報告②	個人報告
22	中間報告③	個人報告
23	中間報告④	個人報告
24	卒論執筆に向けて	執筆要領の確認
25	執筆状況進展報告①	個人報告
26	執筆状況進展報告②	個人報告
27	初稿チェック	個人報告
28	卒論提出に向けて	注意事項の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の収集、必要とされる文献の講読、構想の精緻化、レジユメの作成、卒論の作成等、必要とされるすべての活動は、その都度、授業外での活動となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒論作成の取り組み・プロセス（50 %）と卒論そのものの最終的な水準（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to write and present a graduation thesis based on a sociological way of thinking.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

鈴木 智之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成

【到達目標】

卒業論文を完成させること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

毎回、各自の研究経過の報告にもとづき討論を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	卒業論文の執筆に向けて
第 2 回	テーマの提出	各自の研究テーマについて
第 3 回	研究報告 (1)	問題設定の確認 (1)
第 4 回	研究報告 (2)	問題設定の確認 (2)
第 5 回	研究報告 (3)	問題設定の確認 (3)
第 6 回	研究報告 (4)	先行研究の整理 (1)
第 7 回	研究報告 (5)	先行研究の整理 (2)
第 8 回	研究報告 (6)	先行研究の整理 (3)
第 9 回	研究報告 (7)	資料・データの報告と検討 (1)
第 10 回	研究報告 (8)	資料・データの報告と検討 (2)
第 11 回	研究報告 (9)	資料・データの報告と検討 (3)
第 12 回	研究報告 (10)	資料・データの報告と検討 (4)
第 13 回	研究報告 (11)	資料・データの報告と検討 (5)
第 14 回	研究報告 (12)	資料・データの報告と検討 (6)
第 15 回	秋学期について	今後の予定と進捗状況の確認
第 16 回	章構成の報告 (1)	各章の内容について (1)
第 17 回	章構成の報告 (2)	各章の内容について (2)
第 18 回	章構成の報告 (3)	各章の内容について (3)
第 19 回	章構成の報告 (4)	各章の内容について (4)
第 20 回	章構成の報告 (5)	各章の内容について (5)
第 21 回	章構成の報告 (6)	各章の内容について (6)
第 22 回	章構成の報告 (7)	各章の内容について (7)
第 23 回	論文の作成にあたって	論文の書き方を確認する
第 24 回	論文の作成 (1)	結論の報告と論文の再構成 (1)
第 25 回	論文の作成 (2)	結論の報告と論文の再構成 (2)
第 26 回	論文の作成 (3)	結論の報告と論文の再構成 (3)
第 27 回	論文の作成 (4)	結論の報告と論文の再構成 (4)
第 28 回	論文の完成に向けて	最終的な確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の完成に向けて、各自の研究テーマに沿った学習（参考文献の整理、調査など）を進めてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません

【参考書】

授業中に適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容によって評価します (100%)。

なお、論文の提出は、研究経過の報告がされていることを条件とします

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is to write a graduation thesis.

ECN400EB, ECN400EC, ECN400ED

演習3（卒業論文）

関口 浩

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは「地方分権時代における税財政システムおよび教育・福祉政策の研究」である。

【到達目標】

「財政学演習3」は、学部生活の最終局面として、ゼミのテーマ「地方分権時代における税財政システムおよび教育・福祉政策の研究」の観点、あるいはこれまで関心を持ってきた財政学をめぐる問題から興味のある分野を取り上げて卒業論文を執筆することと、日本人として国際的に恥ずかしくない人格を完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 令和3年度の「財政学演習3」は、まず各自卒業論文のテーマを決定し、続いて毎回卒業論文に関する報告を重ねていくこととする。全力で打ち込み、推敲をするうちに、次第に自信も出てくるものである。「財政学演習3」は人格形成とともに、学部の集大成ともいえる「卒業論文の執筆」を主軸にする。
2. 新型コロナウイルス感染症対応が可能な場合は対面演習とする。また、演習冒頭で前時間の出席票相当提出物に受講者が記載した内容等に担当者が回答する。また個別に質問・照会したいことがある場合は演習中に担当者がそれを提起したとき、あるいは演習終了後に時間を設けるので、対面・遠隔ともに受講者はその場で解決するようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	1年間の演習計画説明	本年度の研究、ゼミ活動の説明
第2回	I. 卒業論文執筆指導	卒業論文の目次作成
第3回	I. 卒業論文執筆指導	卒業論文構成検討
第4回	I. 卒業論文執筆指導	就職活動経過報告
第5回	I. 卒業論文執筆指導	卒業論文執筆経過報告
第6回	I. 卒業論文執筆指導	卒業論文執筆経過報告討論
第7回	I. 卒業論文執筆指導	就職活動経過報告
第8回	II. 財政学基礎の確認	財政民主主義・財政学説史
第9回	II. 財政学基礎の確認	公債の意義と公債負担論
第10回	II. 財政学基礎の確認	日本の予算決算制度・市場の失敗・費用便益分析
第11回	II. 財政学基礎の確認	社会保障財政・教育財政
第12回	II. 財政学基礎の確認	租税理論
第13回	III. 合同ゼミ合宿準備	合同ゼミ東京開催の企画案検討
第14回	III. 合同ゼミ合宿準備	報告論文執筆討論
第15回	合同ゼミ研究報告会	沖縄国際大学前村財政学演習と第24回合同ゼミ研究報告会を令和3年度は沖縄開催。
第16回	IV. 『財政学研究』編集	合同ゼミ合宿の成果を報告
第17回	V. 卒業論文経過報告	卒業論文執筆進捗報告
第18回	V. 卒業論文経過報告	卒業論文執筆報告
第19回	VI. 卒論・修論経過報告	大学院生を交えての報告
第20回	VI. 卒論・修論経過報告	大学院生を交えての論評
第21回	VIII. 財政学の文献輪読	相続税（遺産税的要素を加味した遺産取得税方式）
第22回	VIII. 財政学の文献輪読	相続税（相続時精算課税制度）
第23回	VII. 卒論・修論秋学期中間報告	学部4年次と修士2年次の論文中間報告と論評
第24回	V. 卒業論文経過報告	執筆論文全体の報告・討論
第25回	V. 卒業論文経過報告	執筆論文全体の報告・再検討
第26回	V. 卒業論文経過報告	参考文献と論文の関係の再確認
第27回	V. 卒業論文経過報告	執筆論文全体の報告・討論
第28回	VI. 卒業論文最終報告	執筆論文の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の卒論評価で指摘された修正点の修正と新たな論点の探究のために2時間以上の予習をすること。演習の後は、今回修正を指示された箇所についての文献収集と修正による論文体の構成の均衡のために2時間以上の復習を求める。

【テキスト（教科書）】

佐藤進・関口浩『財政学入門【新版】』同文館、令和元年。

【参考書】

参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の審査結果 (60%) および、出席票記述事項 (30%)、後輩への指導 (10%) で総合して、ゼミ活動への取り組み状況 (100%) を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

これまで通り、積極的なゼミ活動を行い、ゼミ生相互の親交を深める。

【学生が準備すべき機器他】

遠隔演習を受信したり、学習支援システムの掲示を閲覧・印刷等できる装置を、大学の貸与を含めて、受講者各自で準備されたい。

【その他の重要事項】

1. 近年、日本の若者の生き方の問題点がさまざまな形で指摘されている。かつて本研究室に所属されていた法政大学史上最高齢のゼミ生(院生)持木邦子さんがいわれた「明日の日本を担うのは皆さん、若い人たちですよ」という意味をよく考え、礼儀を重んじる良識ある人間となりうるように、個人あるいは組織として活動する術をゼミ活動から学び取り、果立ってほしい。
2. 就職活動があるため多摩での演習は不可能なため、一部市ヶ谷で大学院生と演習を行う。大学院生の修士論文執筆経過報告の姿勢、論文の指摘を自らの卒業論文執筆に役立ててほしい。
3. ゼミ活動については「演習1」や「演習2」を参照のこと。

【Outline and objectives】

We learn knowledge of "the public finance" and will be a cooperative human being.

LAW400EB, LAW400EC, LAW400ED

演習 3 (卒業論文)

長沼 建一郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文を執筆します。研究計画を立てて、資料を集め、分析と考察を加えて、一篇の論文を完成させることで、演習 1～3 の、また大学生活の総決算として下さい。

【到達目標】

学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

論文を執筆するための基本的な技法に関する指導を行います。テーマは各人が一年間かけて追求できるものであれば、どのような領域のものでも構いません。レポート等の課題については、ゼミ内で個々にコメントしつつフィードバックします。ゼミ生相互の査読も重視します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期のガイダンス	演習 3 で学ぶことの確認、スケジュールの確認
2	卒論ガイダンス (1)	卒論テーマの選定
3	卒論ガイダンス (2)	研究方法の選定
4	卒論ガイダンス (3)	資料および統計の収集・分析の方法
5	卒論ガイダンス (4)	文献の収集・分析の方法
6	卒論ガイダンス (5)	論文執筆の進め方
7	卒論ガイダンス (6)	論文の細かい執筆技術
8	卒論構想報告 (1)	第 1 グループの執筆者ごとの構想報告
9	卒論構想報告 (2)	第 1 グループの構想報告へのフィードバック・フォローアップ
10	卒論構想報告 (3)	第 2 グループの執筆者ごとの構想報告
11	卒論構想報告 (4)	第 2 グループの構想報告へのフィードバック・フォローアップ
12	卒論構想報告 (5)	第 3 グループの執筆者ごとの構想報告
13	卒論構想報告 (6)	第 3 グループの構想報告へのフィードバック・フォローアップ
14	卒論構想報告 (7)	構想報告の総括、フィードバック
15	秋学期のガイダンス	本格的な執筆に向けた留意点、スケジュールの確認
16	卒論中間報告 (1)	第 1 グループの執筆者ごとの中間報告
17	卒論中間報告 (2)	第 1 グループの中間報告へのフィードバック・フォローアップ
18	卒論中間報告 (3)	第 2 グループの執筆者ごとの中間報告
19	卒論中間報告 (4)	第 2 グループの中間報告へのフィードバック・フォローアップ
20	卒論中間報告 (5)	第 3 グループの執筆者ごとの中間報告
21	卒論中間報告 (6)	第 3 グループの中間報告へのフィードバック・フォローアップ
22	卒論最終報告 (1)	第 1 グループの執筆者ごとの最終報告
23	卒論最終報告 (2)	第 1 グループの最終報告へのフィードバック・フォローアップ
24	卒論最終報告 (3)	第 2 グループの執筆者ごとの最終報告
25	卒論最終報告 (4)	第 2 グループの最終報告へのフィードバック・フォローアップ
26	卒論最終報告 (5)	第 3 グループの執筆者ごとの最終報告
27	卒論最終報告 (6)	第 3 グループの最終報告へのフィードバック・フォローアップ
28	卒論報告のまとめ	自己評価・相互評価

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

論文完成に向けて、各およびゼミ生相互で研鑽に努める。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

とくに指定しませんが、共通に読むべき文献等については適宜配布します。

【参考書】

演習内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容 (80%) とその他の参画 (他の卒論へのアドバイス等) (20%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

This seminar deals with social problems and social policies.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

藤代 裕之

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディア時代の情報生態系の設計に関連した卒業論文を執筆します。

【到達目標】

演習1・2での学びを生かし、社会的に意義ある質の高い卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自が設定したテーマに沿って研究を進めます。研究に対するコメントをフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	方針の確認
第2回	調査	研究テーマの検討
第3回	調査	研究テーマの整理
第4回	調査	研究テーマの決定
第5回	調査	先行研究の調査
第6回	調査	先行研究の整理
第7回	調査	文献リストの作成
第8回	調査	文献リストの整理
第9回	調査	調査手法の検討
第10回	調査	調査手法の整理
第11回	調査	調査手法のまとめ
第12回	調査	予備調査
第13回	調査	予備調査の確認
第14回	調査	調査準備
第15回	報告	調査結果の確認
第16回	調査	調査結果の検討
第17回	調査	調査結果の整理
第18回	論文作成	調査結果のまとめ
第19回	論文作成	構成の検討
第20回	論文作成	構成のまとめ
第21回	論文作成	構成の決定
第22回	論文作成	論文執筆の報告
第23回	論文作成	論文の見直し
第24回	論文作成	修正点の報告
第25回	論文作成	論文第一稿提出
第26回	論文作成	第一稿の課題整理
第27回	論文作成	第一稿の課題修正
第28回	まとめ	最終稿提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は研究の進捗報告で、調査、執筆の大半が授業外の学習となります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上です。

【テキスト（教科書）】

各自が設定したテーマに沿って適宜指示します。

【参考書】

藤田真文（2011年）『メディアの卒論—テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

提出された卒論の内容・完成度 60%、卒論発表会 40%。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

ゼミのOB/OGや関係者が参加した卒論発表会での発表が必須です。

【Outline and objectives】

This seminar will focus on practice and research of communication design in social media.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

田嶋 淳子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Students will learn the entire process of graduation thesis writing.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文を書くための一連のプロセスを学ぶ。

【到達目標】

演習を通じ、必要な調査を自ら計画・実施し、論文を書き上げることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

本演習においては、オリジナリティのある卒業論文を完成させるために、2年間の蓄積を活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業論文の里程標
2	問題意識の明確化	参考文献の検索
3	先行研究の一覧作成	検索した文献一覧を持参
4	論文タイトルの確定	既存データを読み、問題の所在を把握する
5	文献の収集・検討	既存研究データ・ベースの作成作業、文献の講読
6	既往研究の検討	既往研究の批判的検討。調査研究計画の立案
7	既存データの批判的検討	統計、ドキュメントなど資料の収集と講読、レポート
8	調査へのアプローチ	テーマごとに調査の可能性を探索
9	対象領域における調査対象者を選定	調査方法の検討
10	実査へ向けた準備	調査対象者一覧の作成
11	調査の準備作業	データ・ベースの作成
12	調査の準備作業	調査対象へのアプローチ方法の検討
13	調査計画の立案	夏休み中の調査計画立案
14	春学期のまとめ	春学期レポートの作成作業（卒論序章の完成）
15	夏休み作業の確認	調査対象者へのアプローチとアポイントの確定
16	調査結果の検討	調査結果の批判的検討
17	データ・クリーニング	データ・クリーニング
18	データの分析作業	分析作業を進める
19	データの分析作業	サブ・グループを作り、データ分析作業
20	データの分析作業	データ分析から各自のテーマ化
21	補足調査実施	各自のテーマに必要な補足調査を実施
22	統計資料の検討	統計資料の収集と作成
23	既往文献の再検索	既往文献を再検索する
24	卒論構成の検討	各自の論文文化へ向けた作業
25	卒論構成の確定	調査報告書の構成を確定し、論文のテーマを調整
26	完成プロセスの報告	卒論の完成に向けたブラッシュアップ
27	卒論の執筆作業	論文の書き方
28	卒論の完成	参考文献、脚注の点検

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に出された課題を個人で実施するために2時間程度の準備作業が必要である。また、指摘した内容に応じて、資料の収集および講読を各2時間程度実施する。

【テキスト（教科書）】

石川淳志・佐藤健二・山田一成編『見えないものを見る力』八千代出版（ただし、入手が難しい場合には、必要部分を配布します）。

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期における論文テーマ選定理由、文献講読を通じたゼミでの報告（40%）、調査実施のプロセス検証および最終的に提出された卒業論文（60%）

SES400EB, SES400EC, SES400ED

演習3（卒業論文）

田中 充

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題を中心とした社会問題について、専門的・研究的な観点から掘り下げて問題構造を調査・分析・考察し、卒業論文を執筆します。大学（社会学部）での学びの集大成となる成果を卒業論文にまとめます。

【到達目標】

環境問題の専門的知識と環境マインドについて学び、修得します。具体的な社会問題を対象とし、社会科学的思考法や調査研究技法、論文執筆手法等を活かして構造や要因を調査・分析し、卒業論文にまとめることにより、問題の分析力や論文の執筆能力を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナ問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行います。到達目標を達成するため、専門文献の講読、発表、研究調査活動を行います。演習の成果として卒業論文を執筆します。希望に応じて現地見学等を行います。ゼミの状況により予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方	ゼミの進め方とスケジュール、注意事項等を確認します。
2	研究テーマの検討	卒業研究テーマについて意見交換し、研究テーマを絞り込みます。
3	研究テーマの情報収集と資料検索	研究テーマに関して現状と背景などの情報収集と文献検索を行います。一次文献リストを作成します。
4	研究テーマの情報収集と資料検索	研究テーマに関して現状と背景などの情報収集と文献検索を行います。一次文献リストを作成します。
5	研究テーマに関する文献講読	研究テーマに関連する資料収集と文献講読を行います。
6	卒業論文構想の中間報告（第1回）	研究計画の中間報告を行い進め方や論文構想について助言します。
7	研究テーマの文献講読と資料調査	研究文献を講読するとともに、資料調査を実施し情報収集します。
8	研究テーマの文献講読と資料調査	研究文献を講読するとともに、資料調査を実施し情報収集します。
9	研究テーマの文献講読と資料調査	研究文献を講読するとともに、資料調査を実施し情報収集します。必要に応じて現地調査を行います。
10	卒業論文構想の中間報告（第2回）	研究論文テーマの現状、課題等について中間報告を行います。
11	研究テーマの文献講読と資料調査	研究文献を講読するとともに、資料調査を実施し情報収集します。必要に応じて現地調査を行います。
12	研究テーマに関する資料収集	文献講読や情報収集によりテーマの現状把握等を行います。
13	研究テーマに関する情報収集	文献講読や情報収集によりテーマの現状把握等を行います。
14	卒業論文構想の中間報告（第3回）	春学期のまとめとして、論文テーマの課題等について報告を行います。
15	研究テーマに関する情報収集	文献講読や情報収集によりテーマの現状把握等を行います。
16	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。
17	卒業論文構想の中間報告（第4回）	夏休みの調査研究成果を受けて、論文構想の報告（第3回）を行います。
18	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。
19	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。

20	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。
21	卒業論文構想の中間報告（第5回）	卒業論文執筆に向けて研究内容、論文構成、記述面等に関して報告会（第5回）を行います。
22	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。
23	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。
24	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。
25	研究テーマに関する資料収集と調査	資料収集により現状分析を行います。現地調査、ヒアリング等を実施し、追加情報を収集します。
26	卒業論文構想の中間報告（第6回）	卒業論文の執筆に向けた論文構想の中間報告会（第6回）を行います。
27	論文構想の点検と指導、執筆	卒業論文の構成や記述面等を点検し、指導します。指摘等を受けて論文を修正します。
28	卒業論文の完成、提出	指摘等を受けて卒業論文を修正し、完成させます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに関する専門文献の収集・講読、ヒアリング調査、メール調査等を行います。最終的に2万字程度の卒業研究論文を執筆します。研究内容はゼミ内で報告します。本授業の準備・復習時間は各4時間を目安にします。

【テキスト（教科書）】

受講生と相談しながら決定します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

<配分>

・授業参加（平常点）：30%、卒業論文：70%

<評価基準>

・授業参加は、単に出席するだけでなく、積極的な学習と発言を評価します。満点を30点とし、欠席（遅刻2回で欠席1回分）は1回ごとに-5点つけます。無断欠席は厳禁です（-15点、欠席3回分）。欠席の多い受講態度は成績評価の対象外とします。

・卒業論文の提出を満点70点として、論文構成、論理性、事例研究、文章表現などのポイントについて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

・受講生への連絡、資料配布等は学習支援システムと電子メールで行います。メールを随時チェックできるような通信環境の設定が必要です。

・授業方式（対面またはオンライン）は、学習支援システムによりお知らせします。

・オンライン授業の場合は、Wi-Fi等のインターネット接続が必要です。

【その他の重要事項】

新規のゼミ生は募集しません。

【Outline and objectives】

This Seminar 3 deals with academic writing on social issues, especially environmental problems and students taking this course are required to write graduation thesis.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習 3 (卒業論文)

津田 正太郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to help participants write undergraduate dissertations.

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この演習では卒業論文の完成に向けた指導を行う。

【到達目標】

より完成度の高い卒業論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

受講者による中間報告を中心として実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	今年度の運営体制の検討	ゼミ運営
第 2 回	卒業論文初回報告 (1)	卒業論文の準備
第 3 回	卒業論文初回報告 (2)	卒業論文の準備
第 4 回	卒業論文初回報告 (3)	卒業論文の準備
第 5 回	卒業論文初回報告 (4)	卒業論文の準備
第 6 回	卒業論文初回報告 (5)	卒業論文の準備
第 7 回	卒業論文初回報告 (6)	卒業論文の準備
第 8 回	卒業論文相談会	卒業論文の準備
第 9 回	卒業論文中間報告 (1)	卒業論文の準備
第 10 回	卒業論文中間報告 (2)	卒業論文の準備
第 11 回	卒業論文中間報告 (3)	卒業論文の準備
第 12 回	卒業論文中間報告 (4)	卒業論文の準備
第 13 回	卒業論文中間報告 (5)	卒業論文の準備
第 14 回	卒業論文中間報告 (6)	卒業論文の準備
第 16 回	後期運営体制の相談	ゼミ運営
第 16 回	卒業論文第 2 回中間報告 (1)	卒業論文の準備
第 17 回	卒業論文第 2 回中間報告 (2)	卒業論文の準備
第 18 回	卒業論文第 2 回中間報告 (3)	卒業論文の準備
第 19 回	卒業論文第 2 回中間報告 (4)	卒業論文の準備
第 20 回	卒業論文第 2 回中間報告 (5)	卒業論文の準備
第 21 回	卒業論文第 2 回中間報告 (6)	卒業論文の準備
第 22 回	卒業論文相談会	卒業論文の準備
第 23 回	卒業論文最終報告 (1)	卒業論文の準備
第 24 回	卒業論文最終報告 (2)	卒業論文の準備
第 25 回	卒業論文最終報告 (3)	卒業論文の準備
第 26 回	卒業論文最終報告 (4)	卒業論文の準備
第 27 回	卒業論文最終報告 (5)	卒業論文の準備
第 28 回	卒業論文最終報告 (6)	卒業論文の準備

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

卒業論文の準備および執筆については授業外での作業が主となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指示しない。

【参考書】

特に指示しない。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文完成へと至るプロセス (20%)、および完成した論文の完成度 (80%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで実施せざるをえない状況になった場合には、家庭からインターネットに接続できることが望ましい。

PSY400EB, PSY400EC, PSY400ED

演習3（卒業論文）

土倉 英志

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでに習得した知識とスキルを活かして、各自が設定した研究テーマを追究し、成果を卒業論文にまとめる。研究報告と討論を通じて、自分の考えを深めたり、洗練させたりするスキルを習得することも目的とする。

【到達目標】

- ・現象を社会心理学の視点からとらえることができる
- ・データに基づいて思考することができる
- ・自分の考えを他者と共有し、議論することで、考えを深めたり、洗練させることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・受講者の研究報告を中心に進める。
- ・発表担当者はレジュメやパワーポイントの資料を作成・発表し、全員で議論を行なう。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	担当者による報告、全体討論
2	研究の報告	担当者による報告、全体討論
3	研究の報告	担当者による報告、全体討論
4	研究の報告	担当者による報告、全体討論
5	研究の報告	担当者による報告、全体討論
6	研究の報告	担当者による報告、全体討論
7	研究の報告	担当者による報告、全体討論
8	研究の報告	担当者による報告、全体討論
9	研究の報告	担当者による報告、全体討論
10	研究の報告	担当者による報告、全体討論
11	研究の報告	担当者による報告、全体討論
12	研究の報告	担当者による報告、全体討論
13	研究の報告	担当者による報告、全体討論
14	研究の報告	担当者による報告、全体討論、春学期のまとめ
15	ガイダンス、研究の報告	担当者による報告、全体討論
16	研究の報告	担当者による報告、全体討論
17	研究の報告	担当者による報告、全体討論
18	研究の報告	担当者による報告、全体討論
19	研究の報告	担当者による報告、全体討論
20	研究の報告	担当者による報告、全体討論
21	研究の報告	担当者による報告、全体討論
22	研究の報告	担当者による報告、全体討論
23	研究の報告	担当者による報告、全体討論
24	研究の報告	担当者による報告、全体討論
25	研究の報告	担当者による報告、全体討論
26	研究の報告	担当者による報告、全体討論
27	研究の報告	担当者による報告、全体討論
28	研究の報告	担当者による報告、全体討論、1年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自分の研究テーマをひたすらに追究する。

・ひとつの研究をまとめるには、自ら調べ、読み、報告し、他者と意見を交換することが重要になる。これらの活動に積極的にとりくむことが求められる。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・特になし

【参考書】

・適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

- ・卒業論文と口頭試問で評価する（100 %）。
- ・ただし、授業で定期的に報告を行なうこと、中間発表会で発表を行なうこと、卒論発表会で発表を行ない、口頭試問を受けることを単位修得の前提条件とする。
- ・無断欠席は厳しく評価する。
- ・卒業論文は、定められた期間に、所定の形式に則ったものを提出することが求められるので注意すること。
- ・卒業論文では原則として経験的研究を実施し、20,000 字以上とする。

【学生の意見等からの気づき】

・データ収集計画を早めにとるよううながしたい。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

・演習 1、2 に協力・支援をお願いすることがあります。

【Outline and objectives】

Research seminar on social psychology: Students are required to write a senior thesis using knowledge and skills acquired from previous studies. Students investigate their own research projects from a social psychological perspective. They must report on the progress of their research and regularly discuss their projects with seminar members. The objective of this seminar is to develop students' research and communication skills.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

徳安 彰

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年次、3年次までのゼミでの研究の集大成として、卒業論文を作成する。個別指導を中心として質の高い卒業論文の作成を目指す。

【到達目標】

3年次までのゼミ論を基礎にして、一本の論文としての内容の深化・洗練を図りながら、自分の研究テーマについての卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面型で行い、必要に応じてオンラインとのハイブリッド型にする。

卒業論文の作成については、個別指導と発表にもとづく全員での討議の両方を行う。構想発表については、半期に1度はまとまった構想を順次発表し、全員で討議する。個別指導については、各自の進捗状況を個別に報告し、論文構成、文献参照、資料・データ分析、文章作成等について指導を受ける。春学期は論文構成の方向性の確定に重点をおき、秋学期は論文作成の具体的な指導に重点をおく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	卒論作成方法（1）	卒業論文の作成方法と作業の進め方について概説する
第2回	卒業論文個別指導（1）	卒業論文の構想報告・相談
第3回	卒業論文個別指導（2）	卒業論文の構想報告・相談
第4回	卒業論文個別指導（3）	卒業論文の構想報告・相談
第5回	卒業論文個別指導（4）	卒業論文の構想報告・相談
第6回	卒業論文個別指導（5）	卒業論文の構想報告・相談
第7回	卒業論文個別指導（6）	卒業論文の構想報告・相談
第8回	卒論構想発表（1）	卒業論文の構想発表・討議（1回目）
第9回	卒論構想発表（2）	卒業論文の構想発表・討議（1回目）
第10回	卒論構想発表（3）	卒業論文の構想発表・討議（1回目）
第11回	卒論構想発表（4）	卒業論文の構想発表・討議（1回目）
第12回	卒論構想発表（5）	卒業論文の構想発表・討議（1回目）
第13回	卒論構想発表（6）	卒業論文の構想発表・討議（1回目）
第14回	卒論構想発表（7）	卒業論文の構想発表・討議（1回目）
第15回	卒論構想発表（8）	卒業論文の構想発表・討議（2回目）
第16回	卒論構想発表（9）	卒業論文の構想発表・討議（2回目）
第17回	卒論構想発表（10）	卒業論文の構想発表・討議（2回目）
第18回	卒論構想発表（11）	卒業論文の構想発表・討議（2回目）
第19回	卒論構想発表（12）	卒業論文の構想発表・討議（2回目）
第20回	卒論構想発表（13）	卒業論文の構想発表・討議（2回目）
第21回	卒論構想発表（14）	卒業論文の構想発表・討議（2回目）
第22回	卒論作成方法（2）	卒論の詳細な形式を概説し、完成までの工程を確認する
第23回	卒業論文個別指導（7）	卒業論文の作成状況報告・相談
第24回	卒業論文個別指導（8）	卒業論文の作成状況報告・相談
第25回	卒業論文個別指導（9）	卒業論文の作成状況報告・相談
第26回	卒業論文個別指導（10）	卒業論文の作成状況報告・相談
第27回	卒業論文個別指導（11）	卒業論文の作成状況報告・相談
第28回	卒業論文個別指導（12）	卒業論文の作成状況報告・相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3年次までの研究成果を踏まえ、卒業論文の研究・執筆を進める。それぞれのテーマ・目標に対する現在の進展具合と課題点を明らかにするよう意識し、構想報告・相談の機会をより充実させるよう努めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。ただし、卒業論文執筆という学生にとっては負荷の大きな内容なので、各自の論文の完成にむけては、必要に応じてそれ以上の作業時間を確保することが求められる。

【テキスト（教科書）】

とくに用いない。

【参考書】

ケン・プラマー『21世紀を生きるための社会学の教科書』（ちくま学芸文庫、2021年）

日本社会学会「社会学評論スタイルガイド」(<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>)

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容によって評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

個別指導中心の運営となるが、ゼミとしてのコミュニケーション（卒業論文の内容の共有や討議・相互批判など）が促進されるように留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付などに授業支援システムを適宜使用する。また、ゼミ内での連絡には適宜電子メールを用いる。

【その他の重要事項】

1ゼミからの研究の蓄積の集大成が卒業論文です。完成は決して容易なものではありませんが、これまでの成果を総括する貴重な機会でもあります。皆で一緒にゴールまでたどり着きましょう。

【Outline and objectives】

Every participant write a graduation thesis on her/his own sociological theme based on the study and research in the last two years.

FRI400EB, FRI400EC, FRI400ED

演習3（卒業論文）

土橋 臣吾

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 ゼミ、2 ゼミの成果を踏まえて卒業論文を執筆します。

【到達目標】

ゼミ活動の集大成として、卒業論文を完成させることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

個別指導と各種の報告会の組み合わせにより、卒論の執筆を支援します。受講生には、それぞれの段階で、テーマ、論文構成、進捗などについての報告をしてもらいます。

・課題についてのフィードバックはゼミの内外で個別で行います。
・授業の形式（対面/オンライン）については、学習支援システムで周知します。
・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒論作成に関するガイダンス
2	テーマ設定 1	テーマ設定の考え方
3	テーマ設定 2	文献リストの作成
4	テーマ設定 3	先行研究のレビュー（1）
5	テーマ設定 4	先行研究のレビュー（2）
6	調査手法の検討 1	先行事例の検討
7	調査手法の検討 2	調査手法の確定
8	予備調査 1	予備調査の計画
9	予備調査 2	予備調査の実施
10	卒論構想発表 1	構想発表と議論
11	卒論構想発表 2	構想発表と議論
12	卒論構想発表 3	構想発表と議論
13	調査計画の立案 1	夏休み中に実施する調査の計画
14	調査計画の立案 2	夏休み中に実施する調査の計画
15	調査報告 1	夏休み中に実施した調査の知見報告
16	調査報告 2	夏休み中に実施した調査の知見報告
17	調査報告 3	夏休み中に実施した調査の知見報告
18	論文構成検討 1	論文構想レジュメの検討
19	論文構成検討 2	論文構想レジュメの検討
20	論文作成	執筆中原稿の検討 1
21	論文作成	執筆中原稿の検討 2
22	論文作成	執筆中原稿の検討 3
23	論文作成	執筆中原稿の検討 4
24	論文作成	執筆中原稿の検討 5
25	卒業論文第一稿提出	第一稿の相互チェックと議論
26	完成稿執筆へ向けての個別指導 1	完成稿へ向けての加筆修正の指導
27	完成稿執筆へ向けての個別指導 2	完成稿へ向けての加筆修正の指導
28	最終稿提出	最終稿提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミの時間での議論・指導をベースにしつつ、課外の時間で、論文執筆に取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。

【参考書】

進捗に応じて、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

提出された卒論の内容・完成度によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Based on research and practice in seminar 1 and seminar 2, students write graduation thesis.

ECN400EB, ECN400EC, ECN400ED

演習3（卒業論文）

増田 正人

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマは、「グローバルゼミを考える」です。

演習 1、2 で学んだことを踏まえて、卒業論文を執筆することを目標にします。

【到達目標】

目標は、参加者全員が卒業論文を執筆すること。卒業論文は、カリキュラム上は必修ではないが、執筆者の能力を飛躍的に向上させるものであるため、厳しい状況の中でもあきらめずに執筆することがとても大切であると思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

授業は、各自の卒論執筆に向けた作業を中心に行う。日程の調整もあるので、最初の授業時に全員出席すること。（その場で、就職活動との調整も行う。）参加者の状況を考慮しつつ、可能であれば、春学期に必要な文献の輪読を行う。テキストは、第一回の授業時に相談して決める。中間発表を複数回行い、その都度、コメント等をもとにしながら修正を重ねていきます。最終発表のレジュメをもとに下書きを書いて事前に提出してください。提出後、教員によるコメントを踏まえて最終稿を書くようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンスと打ち合わせ
2	卒論のテーマの確定	卒論テーマの確定
3	テキストの輪読①	卒論の相談、テキスト輪読
4	テキストの輪読②	卒論の相談、テキスト輪読
5	テキストの輪読③	卒論の相談、テキスト輪読
6	テキストの輪読④	卒論の相談、テキスト輪読
7	テキストの輪読⑤	卒論の相談、テキスト輪読
8	テキストの輪読⑥	卒論の相談、テキスト輪読
9	テキストの輪読⑦	卒論の相談、テキスト輪読
10	テキストの輪読⑧	卒論の相談、テキスト輪読
11	テキストの輪読⑨	卒論の相談、テキスト輪読
12	テキストの輪読⑩	卒論の相談、テキスト輪読
13	卒論の中間発表①	卒論の中間発表。各回 2～3 人。
14	卒論の中間発表②	卒論の中間発表。各回 2～3 人。
15	秋学期、卒論の進捗状況の報告会	夏休み期間中の学び、卒論の進捗状況の報告会
16	卒論の中間発表①	夏休みに行った研究を中心にして、卒論の中間発表を行う。各回 2～3 人。
17	卒論の中間発表②	卒論の中間発表
18	テキストの輪読①	卒論の相談、テキスト輪読
19	テキストの輪読②	卒論の相談、テキスト輪読
20	テキストの輪読③	卒論の相談、テキスト輪読
21	テキストの輪読④	卒論の相談、テキスト輪読
22	テキストの輪読⑤	卒論の相談、テキスト輪読
23	テキストの輪読⑥	卒論の相談、テキスト輪読
24	テキストの輪読⑦	卒論の相談、テキスト輪読
25	卒論の最終発表①	卒論の最終レジュメの提出
26	テキストの輪読⑧	卒論の相談、テキスト輪読
27	卒論の仕上げ①	卒論の下書きの提出
28	卒論の仕上げ②	下書き原稿に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論執筆が中心になるので、就職活動の期間中もきちんと準備を進めていくこと。

最初の授業時に、日程の確認を行うので、必ず出席すること。

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ロバート・B. ライシュ、清家篤訳『勝者の代償—ニューエコノミーの深淵と未来』東洋経済新報社、2002 年。

その他は受講生と相談して決める。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容で 100 % 評価する。

【学生の意見等からの気づき】

板書の工夫

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで行うこともあるので、PC を用意していることが望ましい。

【Outline and objectives】

The theme of the seminar is "Thinking about Globalization".
Based on the study of Seminar I and II, the goal is for students to write a graduation paper at the end of the year.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習 3 (卒業論文)

多喜 弘文

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生それぞれが自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、それに対して適切な問いを立てて答えを与える方法を学ぶ

【到達目標】

卒業論文を執筆する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミでの研究報告と個別相談を繰り返しながら卒業論文の完成に向けて進めていく。

授業方法の詳細は学習支援システムを通じてお知らせする。草稿提出に対してはフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	卒論に向けての研究報告 (1)	各自が研究テーマや先行研究を報告し、それに関して議論する
2	卒論に向けての研究報告 (2)	各自が研究テーマや先行研究を報告し、それに関して議論する
3	卒論に向けての研究報告 (3)	各自が研究テーマや先行研究を報告し、それに関して議論する
4	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
5	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
6	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
7	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
8	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
9	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
10	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
11	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
12	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
13	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
14	卒論相談	卒論の進行状況確認と今後の方針の相談をおこなう
15	秋学期のスケジュールを決める	卒論の進行状況を確認する
16	秋学期のスケジュールを決める	卒論の進行状況を確認する
17	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
18	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
19	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
20	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
21	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
22	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
23	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
24	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する
25	卒論に関する報告	各ゼミ生が卒論に関する報告をおこない、それに対してゼミ全体で議論する

26	卒論に関する報告	卒論執筆状況の確認と相談をおこなう
27	卒論に関する報告	卒論執筆状況の確認と相談をおこなう
28	卒論に関する報告	卒論執筆状況の確認と相談をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は基本的に卒論の内容報告や相談をおこなう時間であり、実際の執筆は授業時間外におこなうことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

伊丹敬之, 2001, 『創造的論文の書き方』有斐閣.
 苅谷剛彦, 2002, 『知的複眼思考法』講談社.
 木下是雄, 1981, 『理科系の作文技術』中公新書.
 本多勝一, 1976, 『日本語の作文技術』朝日文庫.

【成績評価の方法と基準】

卒業論文（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業をパソコンで受けられる環境を整えておくこと

【その他の重要事項】

卒論相談の無断欠席・遅刻には厳しく対処する

【Outline and objectives】

To write a thesis adding value to an existing research on topics of students' interests

HUM400EB, HUM400EC, HUM400ED

演習3（卒業論文）**濱中 春**

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原則として「場所／風景」あるいは「表象文化」のいずれか、あるいは両方にかかわるテーマの下で研究を行い、卒業論文を執筆します。

【到達目標】

課題発見力、資料調査力、学問的探究力、論理的思考力、言語表現力を向上させ、論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・各自がこれまでの研究を土台としてテーマを設定し、参考文献の調査とその要点の把握、研究対象の分析と考察、ゼミでの中間報告と議論をへて、論文（20000字以上）を執筆します。

・ゼミの時間には個別指導と研究報告およびそれについての議論をおこないます。

・執筆途中の論文はその都度添削・コメントして返却し、完成した論文については面接（発表会）で講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (1)	春学期の予定
2	個別指導 (1)	論文へのコメント
3	研究報告 1 (1)	演習 2 の論文の内容と自己評価
4	研究報告 1 (2)	演習 2 の論文の内容と自己評価
5	個別指導 (2)	テーマや研究方法の再検討
6	個別指導 (3)	テーマや研究方法の再検討
7	個別指導 (4)	テーマや研究方法の再検討
8	研究報告 2 (1)	先行研究・参考文献の紹介と考察
9	研究報告 2 (2)	先行研究・参考文献の紹介と考察
10	個別指導 (5)	研究対象についての検討
11	個別指導 (6)	研究対象についての検討
12	個別指導 (7)	研究対象についての検討
13	研究報告 3 (1)	研究の進捗状況と今後の計画
14	研究報告 3 (2)	研究の進捗状況と今後の計画
15	イントロダクション (2)	秋学期の予定
16	個別指導 (8)	論文へのコメント
17	研究報告 4 (1)	研究の内容と成果
18	研究報告 4 (2)	研究の内容と成果
19	個別指導 (9)	論文の構成
20	個別指導 (10)	論文の構成
21	研究報告 5 (1)	研究の内容と成果
22	研究報告 5 (2)	研究の内容と成果
23	個別指導 (11)	論文の形式
24	個別指導 (12)	論文の形式
25	研究報告 6 (1)	研究の内容と成果
26	研究報告 6 (2)	研究の内容と成果
27	個別指導 (13)	論文のタイトル・構成・内容の調整
28	論文の点検	原稿のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の構想にもとづいて研究を進め、論文を執筆する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

各自のテーマにあわせて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミで研究報告を行っていることを前提として、提出された論文の内容と形式（問いの立て方、資料の活用、分析・考察の精度、論理性、言語表現、論文の形式）にもとづいて（100%）評価します。

【学生の意見等からの気づき】

少人数のためアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to help students to write graduation thesis.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

樋口 明彦

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「コミュニティの活性化」をテーマに、地域の課題に対して、社会的企業・NPO・町内会・行政・企業などが果たす役割を検討する。

【到達目標】

- ①インタビューを通じて、データを獲得するスキルを向上させる。
- ②プレゼンテーションを通じて、聴衆に対して説得的に報告するスキルを向上させる。
- ③論文執筆を通じて、見解を論理的に述べるスキルを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ①インタビューの実施

研究テーマ設定、質問票作成、アポイントメント、インタビュー

- ②プレゼンテーションの活用

PowerPointを使ったプレゼンテーション

- ③論文執筆の集大成

卒論（30,000字）の執筆

※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	前期ゼミの進め方
2	前年度ゼミ論の報告会	PowerPointによる報告
	①	
3	前年度ゼミ論の報告会	PowerPointによる報告
	②	
4	前年度ゼミ論の報告会	PowerPointによる報告
	③	
5	先行研究の輪読①	テキスト講読
6	先行研究の輪読②	テキスト講読
7	先行研究の輪読③	テキスト講読
8	先行研究の輪読④	テキスト講読
9	先行研究の輪読⑤	テキスト講読
10	先行研究の輪読⑥	テキスト講読
11	先行研究の輪読⑦	テキスト講読
12	卒論計画の合評会①	各自の研究テーマを検討
13	卒論計画の合評会②	各自の研究テーマを検討
14	卒論計画の合評会③	各自の研究テーマを検討
15	質問票の個人面談①	質問票の検討
16	質問票の個人面談②	質問票の検討
17	質問票の個人面談③	質問票の検討
18	卒論の合評会①	卒論の構想発表
19	卒論の合評会②	卒論の構想発表
20	卒論の合評会③	卒論の構想発表
21	インタビュー結果報告	卒論の検討
	①	
22	インタビュー結果報告	卒論の検討
	②	
23	インタビュー結果報告	卒論の検討
	③	

24	インタビュー結果の合 評会	ディスカッション
25	卒論の個人面談①	卒論の最終確認
26	卒論の個人面談②	卒論の最終確認
27	卒論の個人面談③	卒論の最終確認
28	まとめ	卒論提出の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①インタビューの実施、②卒論の執筆（30,000字）
- ②本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、指示する。

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①卒論（90%）
- ②プレゼンテーション（10%）

【学生の意見等からの気づき】

学生に合わせて、スケジュールの見直しを行った。

【Outline and objectives】

Third-year seminar

FRI400EB, FRI400EC, FRI400ED

演習3（卒業論文）

加藤 徹郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業研究の計画と卒業論文執筆

【到達目標】

卒業研究を段階的に進め卒業論文の完成を目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・
DP11・DP12・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は卒業研究を段階的に進めるために、テーマ発表、関連文献
報告、調査計画を報告してもらいます。秋学期は卒業論文の完成に
向けて個別指導を中心に進めていきます。

※ 授業内容は、場合により変更もあり得る。

※ フィードバックは、演習時にディスカッションの中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	本年度ゼミの進行	ガイダンス
第2回	テーマ最終チェック①	卒業研究準備
第3回	テーマ最終チェック②	卒業研究準備
第4回	テーマ最終チェック③	卒業研究準備
第5回	参考文献調査①	卒業研究準備
第6回	参考文献調査②	卒業研究準備
第7回	参考文献調査③	卒業研究準備
第8回	参考文献報告①	卒業研究準備
第9回	参考文献報告②	卒業研究準備
第10回	参考文献報告③	卒業研究準備
第11回	卒業研究調査計画①	卒業研究発展
第12回	卒業研究調査計画②	卒業研究発展
第13回	卒業研究調査計画③	卒業研究発展
第14回	卒業研究調査計画④	卒業研究発展
第15回	卒業研究進行チェック ①	ガイダンス
第16回	卒業研究進行チェック ②	卒業研究発展
第17回	卒業研究進行チェック ③	卒業研究発展
第18回	卒業研究進行チェック ④	卒業研究発展

第19回	卒業研究最終報告①	卒業研究発展
第20回	卒業研究最終報告②	卒業研究発展
第21回	卒業研究最終報告③	卒業研究発展
第22回	卒業研究最終報告④	卒業研究発展
第23回	最終報告からの修正①	卒業研究発展
第24回	最終報告からの修正②	卒業研究発展
第25回	卒論の文章表現①	卒論執筆
第26回	卒論の文章表現②	卒論執筆
第27回	論文執筆個別指導①	卒論執筆
第28回	論文執筆個別指導②	卒論執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回 授業のシラバスを熟読する
 第2回～14回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
 第15回～26回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
 第27回～28回 論文執筆の最終チェックを行う
 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田真文編著『メディアの卒論 テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房、2016年、3200円

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

- ①レポーター報告（評価の40%）②卒業論文（評価の40%）③平常点（評価の20%）

【学生の意見等からの気づき】

少人数科目につき該当なし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write a better graduation thesis

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

別府 三奈子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位
 曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会に属するがゆえに発生している問題の中から、自らの関心に即してテーマを設定しする。新聞データベース調査、および、先行研究となる文献調査によって、核となるリサーチクエストとアプローチを明確にします。文献調査を踏まえて、現場の聞き取り調査を行い、実社会における問題の実相を構造的に理解し、考察を深めて学位論文を書いていきます。

【到達目標】

個別研究テーマを深く掘り下げる。先行研究の広がり、扱っている事例の普遍性と特殊性に対する分析・考察の深まり、論旨展開の具体的根拠の提示を踏まえて、卒業研究論文を書きあげる。考察においては、国際人権法の思想、マスメディア理論の先行知、無名の個人の経験を記録する意義、の3点を踏まえ、テーマに沿って熟考するもとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業を予定している。学生のレジュメをもとに、疑問の実態を把握する調査を行い、分析・考察の上、論文執筆を進めていく。フィードバックは、提出されるレジュメに対して、その都度行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	年間予定	研究手法の流れの概説
第2回	リサーチトピック案	テーマ案の検討
第3回	新聞データベース作成	キーワードの検討
第4回	先行研究の調査	ブックリストの作成
第5回	仮説・調査法の検討	研究方法論の整理
第6回	論文構成案の発表	研究実施計画
第7回	先行研究の調査	ブックレビューの蓄積
第8回	先行研究の分析	先行する知見の整理
第9回	実証の設計	仮説の検証方法の精査
第10回	調査準備	調査の実施準備
第11回	調査の実施	調査シュミレーション
第12回	調査の実施1	聞き取り調査のコード化
第13回	調査の実施2	聞き取り調査の分析
第14回	研究発表	前期調査の結果報告と討議
第15回	秋学期の作業計画の作成	計画案の検討
第16回	調査情報の整理	論文構成案の検討
第17回	追加調査	調査の実施計画
第18回	追加調査の分析	調査報告
第19回	追加調査の考察	調査結果の分析
第20回	中間発表	論文目次の検討
第21回	先行研究整理	1章. 先行知の広がり
第22回	方法論と仮説の整理	2章. 方法論の検討
第23回	検証	3章. 調査の実施
第24回	分析	4章. 調査結果の分析
第25回	考察	5章. 結果の考察
第26回	研究発表会	考察・結論の論旨確認

第27回 文献リスト・資料 文章表記、引用確認

第28回 論文の論旨・表記確認 卒業論文の最終調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本ゼミは、授業外での調査研究の結果をもとに討議を重ねる場となります。調査自体は校外で自主的、日々取り組みます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『友だちを助けるための国際人権法入門』申恵丰、影書房、2020/4/28

【参考書】

『現場 記者たちの九州戦後秘史』西日本新聞編、西日本新聞社、2020年

『ハーフ・ザ・スカイ』ニコラス・D・クリストフ、シュリル・ウーダン著、北村陽子著、英治出版、2010年

『社会を変えるには』小熊英二著、講談社現代新書、2012年

『社会はいかに記憶するか 個人と社会の関係』ホール・コナトン、新曜社、2011年

【成績評価の方法と基準】

日頃の研究活動を踏まえた研究発表内容40%、論文の完成度60%

【学生の意見等からの気づき】

前年度記入なし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

継続は力なり、です。工夫しながら取りくみ続け、書き上げる意志をもって、思索する筋力をつけていきましょう。

【Outline and objectives】

From the problems that arise because of belonging to society, set themes according to their own interests, conduct a field interview based on the literature survey, and write a dissertation.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

堀川 三郎

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自のテーマによる卒業論文指導

【到達目標】

卒業論文の執筆を到達目標地点とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には演習(II)の延長ですが、卒業論文へ向けての最終段階にあたりますので質的・量的にさらなるレベル・アップを図り、質の高い卒業論文の作成を目指します。

春学期は、各自の論文テーマの中間報告と文献リスト、そしてその後の作業日程リストを提出してもらいます。秋学期は、卒論構想の個別報告と検討を行います。卒論の口頭試問は、1月末～2月初旬に公開形式で行います。例年、ゼミ生全員に加えOB/OG院生、一般聴衆の前で3年間の成果を発表し、ともに学びあう場になっています。9月中旬にゼミ合宿を実施する予定です。必ず参加してください。これにもOB/OG院生が参加して議論をリードしたり、鋭い批判を投げ掛けてくれるはず。受講者と相談して授業形態を決めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期への導入	受講者との相談の上、決定します。基本的には、チュートリアル指導による密度の濃い論文指導となります。
第2回	卒論執筆指導(1)	卒論の構想案の検討、討論
第3回	卒論執筆指導(2)	卒論の構想案の検討、討論
第4回	卒論執筆指導(3)	卒論の構想案の検討、討論
第5回	卒論執筆指導(4)	卒論の構想案の検討、討論
第6回	卒論執筆指導(5)	卒論の構想案の検討、討論
第7回	卒論執筆指導(6)	卒論の構想案の検討、討論
第8回	卒論執筆指導(7)	卒論の構想案の検討、討論
第9回	卒論執筆指導(8)	卒論の構想案の検討、討論
第10回	卒論執筆指導(9)	卒論の構想案の検討、討論
第11回	卒論執筆指導(10)	卒論の構想案の検討、討論
第12回	卒論執筆指導(11)	卒論の構想案の検討、討論
第13回	卒論執筆指導(12)	卒論の構想案の検討、討論
第14回	卒論執筆指導(13)	卒論の構想案の検討、討論
第15回	秋学期への導入	導入および卒論書式の確認
第16回	卒論執筆指導(14)	卒論の構想案の検討、討論
第17回	卒論執筆指導(15)	卒論の構想案の検討、討論
第18回	卒論執筆指導(16)	卒論の構想案の検討、討論
第19回	卒論執筆指導(17)	卒論の構想案の検討、討論
第20回	卒論執筆指導(18)	卒論の構想案の検討、討論
第21回	卒論執筆指導(19)	卒論の構想案の検討、討論
第22回	卒論執筆指導(20)	卒論の構想案の検討、討論
第23回	卒論執筆指導(21)	卒論の構想案の検討、討論
第24回	卒論執筆指導(22)	卒論の構想案の検討、討論
第25回	卒論執筆指導(23)	卒論の構想案の検討、討論
第26回	卒論執筆指導(24)	卒論の構想案の検討、討論
第27回	卒論執筆指導(25)	卒論の構想案の検討、討論
第28回	卒論執筆指導(26)	卒論の構想案の検討、討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

綿密な予習・復習及び各自のフィールドワーク、卒論の執筆・推敲・完成が必須です。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各自の専門研究を展開するため、特にテキストは指定しません

【参考書】

各自の問題関心に応じたものを適宜、指示します

【成績評価の方法と基準】

学年末提出の「III ゼミ修了論文」すなわち「卒業論文」で評価します。出席は当然のことながら必須です。論理的かつ首尾一貫してテーマについて論じているか、II ゼミ修了論文を量・質ともに超えているか、が評価の中軸になります。端的に表現すれば「自己ベスト更新」がなされているかが評価のポイントだということです。

【学生の意見等からの気づき】

定期的にゼミ運営について、ゼミ生と話し合いを持ちます。

【その他の重要事項】

原則として、新規募集は行いません

【Outline and objectives】

This course is designed to help students write a B.A. thesis that is based on firsthand data obtained by their own fieldwork. At the end of the seminar, students should be able to do the following:

- evaluate major studies in terms of their methods, results, conclusions and implications,
- apply theories or findings to real world situations.

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習3（卒業論文）

宮下 阿子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文を執筆する。自ら問いを立ち上げ、1年間の取り組みを通して1本の論文にまとめ上げることを目的とする。

【到達目標】

各自の問題関心にしたがって、卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP8・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自の研究報告とその検討を中心に進める。また、授業中に課題に対する講評を行う。

この演習では、自分が何に関心を持っているのかを繰り返し問いなおし、必要な情報を集め、そこから自分の考えを言語化してまとめていくという、一連のプロセスを重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期について	概要の説明とスケジュールの確認
第2回	題材とテーマを見つける	すすめ方の解説
第3回	素案の報告①	題材とテーマを報告+先行研究の整理
第4回	素案の報告②	題材とテーマを報告+先行研究の整理
第5回	素案の報告③	題材とテーマを報告+先行研究の整理
第6回	素案の報告④	題材とテーマを報告+先行研究の整理
第7回	素案の報告⑤	題材とテーマを報告+先行研究の整理
第8回	現場へのアプローチ	調査倫理・手法の解説
第9回	中間報告 1-①	進捗状況と今後の方向性について
第10回	中間報告 1-②	進捗状況と今後の方向性について
第11回	中間報告 1-③	進捗状況と今後の方向性について
第12回	中間報告 1-④	進捗状況と今後の方向性について
第13回	中間報告 1-⑤	進捗状況と今後の方向性について
第14回	夏休みに向けて	各自の課題の確認
第15回	秋学期について	概要の説明とスケジュールの確認
第16回	章立てをつくる	論文構成の解説
第17回	中間報告 2-①	各章の内容と構成を報告
第18回	中間報告 2-②	各章の内容と構成を報告
第19回	中間報告 2-③	各章の内容と構成を報告
第20回	中間報告 2-④	各章の内容と構成を報告
第21回	中間報告 2-⑤	各章の内容と構成を報告
第22回	問いと結論を対応させる	まとめ方の解説
第23回	最終報告①	最終的な結論を報告
第24回	最終報告②	最終的な結論を報告
第25回	最終報告③	最終的な結論を報告
第26回	最終報告④	最終的な結論を報告
第27回	最終報告⑤	最終的な結論を報告
第28回	卒業論文の提出に向けて	最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の完成に向けて、各自の研究テーマに沿った学習を進めること。1年かけて、粘り強く、自らの問いと向き合ってほしい。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文を完成させるまでの取り組み、および、卒業論文の内容によって、総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students write a graduation thesis.

MAN400EB, MAN400EC, MAN400ED

演習3（卒業論文）

諸上 茂光

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

三年間の演習の総まとめとして、卒業論文に取り組む。

【到達目標】

文献調査および実証実験を基に、卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

専門書の輪読により消費者の心理や行動についての理解を深め、調査手法を学ぶ。また、一年間に渡り、各自が設定したテーマに沿って研究を進める。毎週の授業時には進捗状況報告を行い、その場でフィードバックとディスカッションを行う。

なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方について
2.	文献講読 1	文献の輪読
3.	文献講読 2	文献の輪読
4.	文献講読 3	文献の輪読
5.	文献講読 4	文献の輪読
6.	テーマ設定と討議 1	テーマ発表
7.	テーマ設定と討議 2	テーマ発表
8.	テーマ設定と討議 3	テーマ発表
9.	テーマ設定と討議 4	テーマ発表
10.	文献講読 5	文献の輪読
11.	文献講読 6	文献の輪読
12.	文献講読 7	文献の輪読
13.	実証実験 1	消費者行動調査
14.	実証実験 2	消費者行動調査
15.	調査結果発表 1	調査結果の発表
16.	調査結果発表 2	調査結果の発表
17.	調査結果発表 3	調査結果の発表
18.	調査結果発表 4	調査結果の発表
19.	データ分析 1	調査結果の詳細な分析
20.	データ分析 2	調査結果の詳細な分析
21.	データ分析 3	調査結果の詳細な分析
22.	論文作成 1	進捗状況報告
23.	論文作成 2	進捗状況報告
24.	論文作成 3	進捗状況報告
25.	論文作成 4	進捗状況報告
26.	論文作成 5	進捗状況報告
27.	論文作成 6	進捗状況報告
28.	研究発表 7	成果報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アンケート調査や実証実験などを行う。

また、学年横断型グループワークを行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究の進捗状況報告内容 20%、

卒業論文の内容 60%、

口述試験 20%

による総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

実施せず

【Outline and objectives】

To brush up the graduation thesis.

GDR200EC

開発とジェンダー

吉村 真子

サブタイトル：国研：開発とジェンダー

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、開発とジェンダーについて、開発途上国の開発や問題点、ジェンダーをめぐる議論など、多様な観点から議論します。

【到達目標】

開発とジェンダーについて学び、ジェンダーという視点を入れると問題がどう見えるか、具体的に考えていくこと、問題を構造的に議論できるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義は、開発とジェンダーについて、開発の理論やジェンダー論から具体的な開発途上国の現状を分析、多角的に議論します。最終回は13回までのまとめや復習に加え、授業内での課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業のテーマと目的を紹介
第2回	開発と「女性」「男性」の視点	「女性」「男性」の視点から開発途上国の社会と開発を見直す
第3回	「農村の近代化」：「農民=男性」か？	農村社会におけるジェンダーと開発プロジェクトを考える
第4回	貧困、ジェンダー、女性	開発途上国のケースから考える
第5回	開発途上国の女性の生活	教育や妊娠・出産などについて考える
第6回	開発政策とジェンダー	国連などの議論などを紹介する
第7回	開発途上国の少女	伝統的慣習や女子割礼
第8回	グローバル経済と女性	経済開発と途上国の女性への影響
第9回	「器用な指先」	多国籍企業の途上国進出と女性労働者
第10回	移住労働とジェンダー	移住（出稼ぎ）労働、ケア労働など
第11回	セックス産業と人身売買	人身売買とジェンダー
第12回	代理母ビジネス	インドの代理母ビジネス
第13回	女性のエンパワーメント	国際 NGOs の人材育成プロジェクト
第14回	人間の安全保障	開発・貧困・ジェンダー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を読むなど、授業以外の勉強も必須です。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考文獻などは適宜、紹介します。

【参考書】

吉村真子「開発とジェンダー」『性と文化』法政大学出版局（2004）；宇田川妙子ほか編『ジェンダー人類学を読む』世界思想社（2007）；田中由美子『はじめてのジェンダーと開発：現場の実体験から』新水社（2017）など。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①授業に関するコメント・課題（40%）、②定期試験（60%）などから総合的に評価します。なお、COVID-19 対応で学習支援システムなどのオンライン授業の形式になる可能性もあり、毎週の授業資料の聴講や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

開発とジェンダー、国際社会問題など、授業以外の視点につながる議論にしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

COVID-19 対応で、学習支援システムなどを使ったオンライン授業になる可能性もありますので、準備しておいてください。

【Outline and objectives】

This course is to study Gender and Development. The issues include discussion on gender issues in politics, education, UN programs, rural development, industrialization, reproduction health, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in developing countries in globalization. Students are required to study gender issues in developing countries, to submit comment sheets and to take a final term examination.

SHS100CA

科学史

河野 俊哉

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルスや原発問題をみればわかるように、文・理を問わず多くのの人々にとっても、科学研究やその結果の持つ意味について通じていること（科学リテラシー）が必須となりつつあります。それを踏まえて科学とは何かについて歴史的に考察し科学に対する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、リスク社会とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し科学リテラシーの習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めますが、適宜視聴覚教材を用いたり、小レポートを課したりクリッカーを使用する等して、双方向の授業を目指します。【オンライン授業の場合】学習支援システムや Googleclassroom にレジュメ、音声付きパワーポイントをアップし、授業の後半は zoom で授業を行い課題提出。【フィードバックの方法】課題等の提出・フィードバックは Googleclassroom を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび「科学」の誕生（前半）	講義の概要、成績評価等について説明。アンケート実施。要出席。
第 2 回	「科学」の誕生（後半）	「歴史観」について説明。
第 3 回	「古代ギリシャの自然観」	アリストテレスの「宇宙論」等。
第 4 回	「錬金術と絵画」	『ハリー・ポッターと賢者の石』を手掛かりに錬金術について概観。
第 5 回	「12 世紀ルネサンス」と「大学の誕生」	12 世紀ルネサンスと大学の誕生について説明
第 6 回	「科学革命論」再考 I	「科学革命論」の概略とその問題点を説明。映画『薔薇の名前』。
第 7 回	「科学革命論」再考 II	「中国の科学」と「暦の誕生」
第 8 回	「科学革命論」再考 III	ガリレオ、コペルニクス、ケプラー
第 9 回	「科学革命論」再考 IV	「魔術的自然観」と「機械論的自然観」
第 10 回	「科学革命論」再考 V：「化学革命の検討」	「化学革命」再考。『においの歴史』、『パヒューム』
第 11 回	「酸素の発見」と「パラダイム論」	「酸素の発見」と「パラダイム論」。絵画と科学、啓蒙主義と聖俗革命
第 12 回	BSE と科学コミュニケーション	BSE（狂牛病）と科学コミュニケーション。
第 13 回	原発問題とリスク社会	原発問題・リスク社会・科学リテラシーについて
第 14 回	本講義のまとめ	「教養教育の再構築」。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

化学史学会編『化学史への招待』（オーム社、2019 年）
河野俊哉他共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（ベレ出版、2009 年）

【参考書】

古川安『科学の社会史』（筑摩書房、2018 年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート）40 % 授業外レポート 30 % 試験 30 %

【オンライン授業の場合】平常点（課題）70 % 授業外レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

時間配分には配慮しますが、短時間で自分の考えをまとめ、表現するスキルをマスターしましょう。

【学生が準備すべき機器用】

携帯電話（クリッカー用）、授業支援システム、【オンライン授業の場合】Google Classroom を導入します。

【Outline and objectives】

As you can see from COVID-19 and the nuclear power plant incidental problem, for many people, the understanding of the meaning of scientific research and the result (science literacy) are becoming indispensable. With that in mind, this lecture aims to deepen the understanding of "science" by historically considering what "science" is.

SOC200EC

家族社会学 I

菊澤 佐江子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、「家族の弱体化」等々の言葉で「家族が変わった」と指摘する声が増えるが、本当に家族は変わったのだろうか。そもそも家族とは何なのか。変わったとすれば、それは何故、またどのように変わったのか。今、家族はどのような状況にあり、これからどのように変わっていくのだろうか。本授業は、こうした疑問を糸口に、身近な「家族」について社会学的観点から考察を行うとともに、家族社会学に関する基礎的事項を学ぶ。

【到達目標】

家族社会学の基礎となる概念、視点、方法、研究動向等を学び、家族をめぐる諸現象について社会学的視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は主に講義形式によるが、授業内課題（ミニテスト等）を通じて、受講者の理解を確認しながら進める。課題については、可能な限り次の授業でフィードバックを行う。この授業は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。授業計画は概ね以下の内容を予定している（ただし、受講者の状況や授業の展開等により変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	家族とは (1)	集団としての家族定義について概説する
3	家族とは (2)	近年の様々な家族定義について概説する
4	家族の類型と分類	家族の類型と分類について概説する
5	近代化と家族 (1)	構造機能主義的視点からの考察
6	近代化と家族 (2)	ジェンダー視点からの考察
7	近代化と家族 (3)	歴史社会学的視点からの考察
8	現代家族をみる視点	現代家族をみる視点について概説する
9	配偶者選択と結婚	配偶者選択と結婚について近年の動向をとりあげ考察する
10	性別役割分業	性別役割分業について近年の動向をとりあげ考察する
11	離婚とその後	離婚と家族について近年の動向をとりあげ考察する
12	家族・貧困・福祉	家族・貧困・福祉について近年の動向をとりあげ考察する
13	家族の行く末	家族の行く末について考察する
14	まとめと質疑	授業のまとめと質疑を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配付するスケジュールに沿って、テキストや参考書の指定された箇所を各自で読みこなし課題に取り組むことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する（複数予定）

【参考書】

授業で指示する（複数予定）

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（20%）とレポート（40%×2 回）により評価する。（ただし、対面授業での実施となった場合、評価方法を変更する可能性がある。）

【学生の意見等からの気づき】

授業内課題を通じて受講者の理解度を確認する。

【その他の重要事項】

授業の進め方や成績評価方法等の詳細は、初回授業で説明するので、履修予定者は、必ず初回を受講すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamentals of sociology of families.

SOC300EB, SOC300EC

家族社会学Ⅱ

菊澤 佐江子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

家族社会学において近年研究が蓄積されつつある家族とケアの諸問題をとりあげ、当該領域における現状や研究動向等を学ぶとともに、家族社会学的視点から考察を深める。

【到達目標】

家族とケアに関する現状や研究動向を理解し、家族社会学的視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は主に講義形式によるが、授業内課題（ミニテスト等）を通じて、受講者の理解を確認しながら進める。課題については、可能な限り次回の授業でフィードバックを行う。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。秋学期のみの受講者は、学期序盤に指定文献を通読することが受講の前提となる。授業計画は概ね以下の内容を予定している（ただし、受講者の状況や授業の展開等により変更する可能性もある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	育児期の親子関係	育児期の親子関係の歴史の変遷について概説する
3	家族社会学における育児研究の変遷	家族社会学における育児研究の変遷について概説する
4	母親と育児	育児不安とネットワークを中心に考察する
5	父親と育児	父親の育児をめぐる実態と研究動向を概説する
6	日本における子育て支援	日本の状況について概説する
7	諸外国における子育て支援	諸外国の状況について概説する
8	高齢期の親子関係	高齢期の親子関係の歴史の変遷について概説する
9	高齢期の親子をめぐる研究の変遷	高齢期の親子をめぐる研究の変遷について概説する
10	高齢期と社会的ネットワーク	高齢期の社会的ネットワークについて考察する
11	高齢期の親子同居は望ましいか	高齢期の成人子との同居について考察する
12	介護保険制度下の高齢者と家族	介護保険制度下の高齢者と家族について概説する
13	諸外国の高齢者・家族支援	諸外国の状況について概説する
14	まとめと質疑	授業のまとめと質疑を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配付するスケジュールに沿って、文献等を読みこなし課題に取り組むことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する（複数予定）

【参考書】

授業で指示する（複数予定）

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（20%）とレポート（40%×2回）により評価する。（ただし、対面授業での実施となった場合、評価方法を変更する可能性がある。）

【学生の意見等からの気づき】

授業内課題を通じて受講者の理解度を確認する。

【その他の重要事項】

授業の進め方や成績評価方法等の詳細は、初回授業で説明するので、履修予定者は、必ず初回を受講すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the sociological research on family and care.

SES200EB

環境経済学Ⅰ

信澤 由之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

温暖化防止、循環型社会構築など環境保全を対象とした環境経済・政策論を講述する。なぜ、環境破壊が発生するのか、経済学的な視点（市場の失敗）から学ぶ。さらに、環境負荷軽減を目的とした政府・自治体の政策手法（規制的手法、経済的手法、奨励的手法）について、どのような効果があるのか、について考える。とりわけ、環境問題に用いる政策手法を経済学的に理解し、地球温暖化、原子力政策と放射性廃棄物の問題と政策効果について学ぶ。

【到達目標】

環境経済学Ⅰでは、問題解決型学習を実施する。履修者が環境破壊のメカニズムを把握した上で、地球環境問題と経済学の関係について、市場の失敗の観点から環境問題の関係について説明できるようにする。特に、外部性以外にも、独占や情報の非対称性、公共財においてもケーススタディからなぜこの問題が起こったのか考えるまとめられることを目標とする。「身近な環境問題」ないし、「地球環境問題」に関心を持ち、地球環境問題を通じて問題提起を起し、考察し、文章にまとめる力を養うことを目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

hoppii に公開するレジュメを用いて講義形式で実施する。できる限り具体的な事例の紹介や客観的なデータ等に基づく説明をするとともに、環境問題を経済学的視点から解決できるようにする。また、授業内容をベースとした課題を出題し、授業内容の理解度を確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/地球環境破壊の現状	シラバスの内容確認/9つの地球環境問題とその影響について考える。
第2回	環境破壊のメカニズム	なぜ、環境は破壊されるのか、事例を用いてそのメカニズム考える。
第3回	市場メカニズムと市場の失敗	市場メカニズムは万能か、市場の失敗は、何が問題かを考える。
第4回	環境問題と経済	環境問題と経済学の関係について考える。
第5回	外部性・情報の非対称性と環境問題	外部性と情報の非対称性の観点から環境問題を考える。
第6回	地球温暖化とエネルギー資源	地球温暖化の発生メカニズムを把握し、どのエネルギー資源が、温暖化防止に望ましいのかを考える。
第7回	独占と環境問題	独占の視点から再生可能エネルギー固定価格買取制度の欠陥を考える。
第8回	日本の原子力政策	日本における原子力政策について学び、今後、原発ゼロが可能かどうかを考える。

第9回	放射性廃棄物の処分問題－世代間の環境問題	放射性廃棄物とは何か、どのような影響を及ぼすかを学び、安全な処分方法について考える。
第10回	公共財と環境問題	地球公共財とグローバルコモンズの視点から環境破壊について考える。
第11回	外部不経済の理論的考察	経済学で環境問題を考える上で重要な外部不経済を費用の視点から理解する。
第12回	環境汚染の責任と費用負担	地球環境問題において汚染者とは誰か、誰が責任を負うべきか、環境に係わる費用は誰が負担すべきかを考える。
第13回	外部不経済の内部化のための方法	環境政策手法で用いられる規制的手法と経済的手法、奨励的手法について理解する。
第14回	環境経済学の理論のまとめ／期末試験	環境経済学の理論のまとめ／期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習1時間、復習時間3時間を標準とする。
また、期末試験・小テストなどを実施する場合、準備学習3時間以上、復習時間1時間以上とする。
事前学習では、Hoppiiに公開するレジュメを読んでおくこと
事後学習においては、レジュメを文章にまとめた上で、課題に取り組むこと

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

日引 聡、有村俊秀『入門環境経済学』中公新書、2002年
倉坂秀史『環境政策論 第3版』信山社、2015年
講義内容の範囲が広いため、履修者から質問があれば、助言する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（58%）、平常点（42%）で評価をする。
期末試験については、論述試験または、レポートを実施する。平常点については、課題（さまざまな形式）を毎回出題する。授業の進捗状況で課題の回数は変動するが、全体の比率としては、平常点42%とする。

【学生の意見等からの気づき】

課題の解答とレジュメのスライド番号がリンクできるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメの公開及び課題の出題及び回収は、Hoppiiで行います。レジュメについては、各自印刷して授業に持ってきてください。レジュメなどは、マイクロソフトのPowerPointファイル、WordファイルやPDFファイルを利用して行いますので、これらに対応した端末及びインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

授業内容の理解度を把握するために、レジュメごとの課題を出し、解説をしていく。

【Outline and objectives】

Lectures will be held on environmental economics and policy theories that focus on environmental conservation, such as the prevention of global warming and the construction of a recycling society. We will learn why environmental destruction occurs from the perspective of economic studies (market failures).

SES300EB

環境経済学Ⅱ

信澤 由之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

温暖化防止、循環型社会構築など環境保全を対象とした環境経済・政策論を講述する。なぜ、環境破壊が発生するのか、経済学的な視点（市場の失敗）から学ぶ。さらに、環境負荷軽減を目的とした政府・自治体の政策手法（規制的手法、経済的手法、奨励的手法）の事例を用いて、その効果について考える。とりわけ、ヒートアイランド、都市交通問題、ごみ問題、地方環境税を事例に考える。

【到達目標】

環境経済学Ⅱでは、問題解決型学習を実施する。履修者が個別の環境問題について政策効果のある政策手法を論理的に説明できるようにする。特に、廃棄物問題と資源問題、環境配慮型製品の普及と、その消費行動を把握した上で、持続可能な開発実現に向けた施策を考える。「環境意識」を持ち、生活環境問題・地球環境問題を通じて問題提起し、考える力を養うことを目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

hoppiiに公開するレジュメを用いて講義見識で実施する。できる限り具体的な事例の紹介や客観的なデータ等に基づく説明をするとともに、環境問題を経済学の視点から解決できるようにする。また、授業内容をベースとした課題を出題し、授業内容の理解度を確認していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／SDGsについて	シラバスの内容確認 SGDs、持続可能な社会について考える。
第2回	水俣病と国際条約	世界の水俣病問題の状況と水俣条約について理解する
第3回	廃棄物問題とその責任	廃棄物問題とは何か、誰が処理を処理・処分をするのか、その責任は誰にあるのかを考える。
第4回	家庭系一般廃棄物の削減施策	家庭ごみ有料化とその他廃棄物減量施策の効果を理論的に考察する。
第5回	先進国における食品ロス問題	日本の食品ロス問題を中心に、なぜ食品ロスが問題であるか、グローバルの視点で考える。
第6回	廃プラスチックとマイクロプラスチック汚染問題	プラスチックやマイクロプラスチックが海洋生物に与える影響と、プラスチックの排出源からの排出抑制策を考える。
第7回	産業廃棄物問題とゼロ・エミッション	有害性の高い産業廃棄物の不法投棄問題と、ゼロ・エミッション工場について考える
第8回	産業廃棄物税とその効果	地方自治体が導入する産業廃棄物税の効果について理論的考察をする。

第9回	ヒートアイランド問題とその施策	ヒートアイランド問題に取り組みと先進的自治体の事例からヒートアイランド対策を考える
第10回	森林保全と森林環境税	地方自治体が独自課税として導入した森林環境税について、その効果を考える。
第11回	環境配慮型技術・製品の普及と環境配慮型の消費行動	環境配慮型技術・製品を普及させるためには、消費者が環境配慮型の消費行動にならないといけない。そのための方策を考える。
第12回	途上国における環境問題	貧困問題からもたらされる環境破壊について考える。
第13回	コモンズの悲劇と資源問題	コモンズとは何か、水資源と生物資源の観点から考える。
第14回	SDGsの実現に向けて/期末試験	SDGsの実現に向けて考える/期末試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習1時間、復習時間3時間を標準とし、これを踏まえて、課題に取り組んでください。また、小テストを実施する場合、準備学習3時間以上、復習時間1時間以上とします。
事前学習では、Hoppiiに公開するレジメを読んでおくこと
事後学習においては、レジメを文章にまとめた上で、課題に取り組むこと

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

日引 聡、有村俊秀『入門環境経済学』中公新書、2002年
倉坂秀史『環境政策論 第3版』信山社、2015年
和田尚久『地域環境税』日本評論社、2002年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（58%）と、平常点（42%）で評価をします。
期末試験については、論述試験または、レポートを実施する。平常点については、課題（さまざまな形式）を毎回出題する。授業の進捗状況で課題の回数は、変動するが、全体の比率として、平常点42%とする。

【学生の意見等からの気づき】

課題の解答と、レジメのスライド番号がリンクできるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

レジメの公開及び課題の出題及び回収は、Hoppiiで行います。レジメについては、各自印刷して授業に持ってきてください。レジメなどは、マイクロソフトのPowerPointファイル、WordファイルやPDFファイルを利用して行いますので、これらに対応した端末及びインターネット環境が必要です。

【その他の重要事項】

授業内容の理解度を把握するために、レジメごとに課題を出していきます。
環境経済学Iを履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Lectures will be held on environmental economics and policy theories that focus on environmental conservation, such as the prevention of global warming and the construction of a recycling society. We will learn why environmental destruction occurs from the perspective of economic studies (market failures).

SES200EB

環境自治体論

田中 充

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

住民生活や事業活動の現場を抱える地域・自治体に注目し、廃棄物対策、地球温暖化防止、環境マネジメントを事例として行政施策の条例・計画、住民参加手法などを学びます。

【到達目標】

廃棄物問題、地球温暖化・エネルギー問題等の具体的な環境問題について、その原因・経過・対策の構造を学び、自治体環境行政の視点に即して地域環境政策の概念と体系について修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナ問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行います。授業終了時に授業内の課題に関するリアクションペーパーの記入・提出を求めます。授業の初めに、前回のリアクションペーパーを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。環境問題の映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。進行状況により予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール、廃棄物問題の基礎	講義の進め方とスケジュールを紹介し、廃棄物問題の基礎を学びます。
2	廃棄物の現状と処理・処分	廃棄物の処理・処分の仕組みと現状、問題の所在について学びます。
3	廃棄物の再資源化・リサイクル	廃棄物の再資源化について日本の現状と課題を学びます。
4	資源循環型社会の構築：水俣の循環型地域づくり	資源循環型社会の構築の事例として水俣市の資源循環型地域づくりを学びます。
5	環境基本条例・環境基本計画の体系	自治体環境行政の枠組みとして基本条例と基本計画の理念と体系を学びます。
6	公害克服とエコタウンの推進	川崎の公害問題の改善とまちづくり、環境と産業の調和を目指すエコタウン構想を学びます。
7	地球温暖化問題の要因と影響、構造	今日の経済社会に内在する温暖化問題の原因と影響、その構造を学びます。
8	気候変動対策－緩和と適応	地球温暖化対策の国際社会の経緯とともに、対策の柱である緩和策と適応策について学びます。
9	地域の温暖化対策：京都市温暖化条例	全国初の京都市の地球温暖化対策条例とその取り組みを学びます。
10	飯田市の地域環境マネジメント	地域の環境マネジメントシステムとして飯田市のマネジメントの取り組みを学びます。
11	自治体環境行政と市民参加	今日の自治体環境行政の柱となる市民参加の仕組みを学びます。
12	自治体のエネルギー政策	自治体エネルギー政策の枠組みと政策マトリックの概念を学びます。
13	庄内町のエネルギーコミュニティ	再生可能エネルギー政策の事例として風力発電を進める庄内町（旧立川町）を学びます。
14	環境自治体と持続可能な地域づくり（まとめ）	自治体環境政策の総合体系として環境自治体の概念、持続可能性のあり方を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。期間中に2回の課題レポートの提出が求められます。本授業の準備・復習時間は各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。授業時に映像を視聴します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい 2008）、田中充編著『地域からはじまる低炭素・エネルギー政策の実践』（ぎょうせい 2014）ほか、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

・配分は、授業参加（平常点）60％、課題レポート 40％（2回）とします。
 ・授業参加として、毎回アクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーは記述内容に応じて採点（1回 1～5点）し、全回提出で満点 60点とします。
 ・課題レポートを 2回（うち 1回を小テストに代える場合がある）行い、各回満点 20点とし、合計 40点とします。
 ・欠席の多い受講態度（概ね 3割以上、14回中 4回以上の欠席）は、平常点を大きくマイナスし、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン方式による動画上映時への指摘、レポート提出期限などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

・資料配布、課題提出等のために学習支援システム等を利用する場合があります。システムに随時アクセスできる通信環境が必要です。
 ・授業方式（対面またはオンライン）は、学習支援システムでお知らせします。
 ・オンライン授業の場合は、Wi-Fi 等のインターネット接続が必要です。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
 ・担当教員は、自治体行政における環境政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等について解説します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>環境政策論
 <研究テーマ>自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This lecture deals with local governmental policies on issues of waste disposal, global warming measures and environmental management system, etc.

SOC200EB, SOC200EC

環境社会学 I

堀川 三郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年台頭してきた環境社会学について概説する。ここでは、環境社会学を便宜的に「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」という 2つのサブカテゴリーに分類し、本講義では、前者を取り扱う。具体的には、足尾鉍毒事件と水俣病問題を取り上げて「公害・環境問題」の内実を理解する。こうした事例の検討を通じて、被害構造論等の諸理論を検討する。

【到達目標】

理系の学問ではなく、社会学で環境問題を分析可能なのだということを理解できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

先ず詳細な事例研究を行って「環境問題」の内実を理解した上で、そうした「環境問題」を学問的に分析しようとして産み出されてきた諸理論（被害構造論、社会的ディレンマ論）を詳しく検討する。このように、事例研究の基盤の上に理論の検討がなされるという講義の構成は、問題の発生に促されて形成されてきた環境社会学の成立過程をいわば「追体験」するものだ。未曾有の公害に直面した時、既存の知の枠組みが対応できずにいたのはなぜか、そこにどのような人と言葉（概念）が集まって新たな学問を創り上げてきたのか。講義ではこうした重要な問いを、受講生と一緒に考えてゆきたい。そのためにグループに分かれてディスカッションを行うこともある。必ず、秋学期の「環境社会学【II】」とセットで履修すること。対面授業か、オンラインか、あるいはその組み合わせか—コロナ感染状況に依存するので、臨機応変に授業形態を決める予定である。対面授業になっても対応できるように準備しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会学・再入門	環境社会学とはどのような社会学か
2	「3.11」の衝撃	今、問うべきは何か
3	公害・環境問題の考古学	問題史の概観
4	足尾鉍毒事件（1）	事件の概要
5	足尾鉍毒事件（2）	別紙銅山との比較
6	水俣病事件（1）	事件の概説
7	水俣病事件（2）	漁民の視点
8	水俣病事件（3）	支援者の視点
9	水俣病事件（4）	チソの視点
10	水俣病事件（5）	行政の視点
11	水俣病事件（6）	認定制度の視点
12	環境問題の社会学における理論（1）	被害構造論
13	環境問題の社会学における理論（2）	社会的ディレンマ論
14	期末テスト	春学期の理解内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて随時指示するが、基本的に、文献を事前に読んでおくことが必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

毎時間、リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の場合は、毎回の課題レポートで評価する（100%）。全期間、対面授業が実施できた場合は期末試験（100%）で評価する。両者の組み合わせの場合は毎回の課題レポートで評価する（100%）予定である。初回のガイダンスに必ず出席すること。

なお、レポート課題は、毎日が論文試験に相当するものであり、したがって不正行為は学則によって処分されるので十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、リアクション・ペーパーを提出してもらい、必要に応じてそれに担当教員が応答するスタイルをとっている。昨年度も好評だったので継続する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、学習支援システムを使ってプリント類を配布するので、各自で使い方に習熟しておくこと。

対面授業が実施可能な場合には、ビデオ映像などを随時使用する。

【Outline and objectives】

Social life never happens in a vacuum. What kind of changes are induced in communality by changes in the physical urban environment, and how does that in turn alter the urban environment? Those are basic questions this course addresses. To do this, we take a social and historical approach to understand contemporary environmental challenges. At the end of the course, students are expected to explain the essential concepts of environmental sociology, identify the policies and understand key challenges related to Japanese environmental policies.

SOC300EB, SOC300EC

環境社会学Ⅱ

堀川 三郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年台頭してきた環境社会学について概説する。ここでは、環境社会学を便宜的に「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」という2つのサブカテゴリーに分類し、本講義では、後者を取り扱う。具体的には、国内諸都市やアメリカの事例を取り上げて「環境共存」の内実を理解する。さらに、地球温暖化や福島原発事故も取り上げながら、「我々は原子力と共存できるのか」という愁眉の課題の考察を行ない、エコロジカル近代化論等の諸理論を検討する。

【到達目標】

理系の学問ではなく、社会学で環境問題を分析可能なのだということを理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

先ず詳細な事例研究を行って「環境問題」の内実を理解した上で、そうした「環境問題」を学問的に分析しようとして産み出されてきた諸理論（生活環境主義、歴史的環境の社会学）を詳しく検討する。このように、事例研究の基盤の上に理論の検討がなされるという講義の構成は、問題の発生に促されて形成されてきた環境社会学の成立過程をいわば「追体験」するものだ。そこにとどのような人と言葉（概念）が集まって新たな学問を創り上げてきたのか。講義ではこうした重要な問いを、受講生と一緒に考えてゆきたい。そのためにグループに分かれてディスカッションを行うこともある。必ず、春学期の「環境社会学Ⅰ」とセットで履修すること。対面授業か、オンラインか、あるいはその組み合わせか—コロナ感染状況に依存するので、臨機応変に授業形態を決める予定である。対面授業になっても対応できるように準備しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ	秋学期への導入
2	環境問題の深化	視えない構造
3	「3.11」と温暖化	構造と政策
4	「共存」の社会学 (1)	小樽 (1)
5	「共存」の社会学 (2)	小樽 (2)
6	「共存」の社会学 (3)	小樽 (3)
7	「共存」の社会学 (4)	竹富島
8	「共存」の社会学 (5)	セントルイス (1)
9	「共存」の社会学 (6)	セントルイス (2)
10	「共存」の社会学 (7)	気候変動
11	「共存」の社会学 (8)	福島原発事故
12	環境問題の社会学における理論 (1)	生活環境主義
13	環境問題の社会学における理論 (2)	エコロジカル近代化論
14	期末テスト	理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて随時指示するが、基本的に、文献を事前に読んでおくことが必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

毎時間、リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の場合は、毎回の課題レポートで評価する（100%）。全期間、対面授業が実施できた場合は期末試験（100%）で評価する。両者の組み合わせの場合は毎回の課題レポートで評価する（100%）予定である。初回のガイダンスに必ず出席すること。

なお、レポート課題は、毎度が論文試験に相当するものであり、したがって不正行為は学則によって処分されるので十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、提出してもらいうりアクション・ペーパーに担当教員が応答することで授業内容を改善している。昨年度も好評であったため、継続する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、学習支援システムを使ってプリント類を配布するので、各自で使い方に習熟しておくこと。

対面授業が実施可能な場合には、ビデオ映像などを随時使用する。

【Outline and objectives】

Social life never happens in a vacuum. What kind of changes are induced in communality by changes in the physical urban environment, and how does that in turn alter the urban environment? Those are basic questions this course addresses. To do this, we take a social and historical approach to understand contemporary environmental challenges. At the end of the course, students are expected to explain the essential concepts of environmental sociology, identify the policies and understand key challenges related to Japanese environmental policies.

SES200EB

環境政策論

田中 充

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済社会活動に起因する環境問題に対して、適切な環境政策を実施していくことが求められます。本授業は、現代社会が直面する環境問題の基本的構造を学ぶとともに、具体的事例に即して問題の解決をめざす環境政策の体系と考え方を修得します。

【到達目標】

水俣病や地球温暖化問題等の環境問題に関する専門的な知見を修得します。環境問題を解決に導く環境政策の考え方を理解し、政策を体系的に実践できる「環境マインド」を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナ問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行います。授業終了時に授業内の課題に関するリアクションペーパーの記入・提出を求めます。授業の初めに、前回のリアクションペーパーを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。環境問題の映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。進行状況により予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール、環境政策の理念	講義の進め方とスケジュール、受講上の注意を紹介します。環境政策の理念を学びます。
2	人間活動と環境問題	環境負荷の発生と環境問題との係わり、環境問題による文明崩壊の事例を学びます。
3	環境問題の発生と政策の役割	複雑な環境問題を解決する環境政策の位置づけと役割を学びます。
4	環境政策における市民参加	環境問題の解決に向けた市民参加・協働の意義と、その事例（アサザ事業、市民風車）を学びます。
5	環境ガバナンスの視点	多様な主体が関わり新しい公共を担う環境ガバナンスの仕組みを学びます。
6	環境政策の基本原則	政策の基本原則として持続性やロジカルフットプリント等を学び、政策への適用について考えます。
7	環境政策の基本原則と対策手法	政策の基本原則である汚染者負担原則、拡大生産者責任、予防原則などの考え方から対策手法を学びます。
8	水俣病の発生と問題構造	最大の公害問題である水俣病について、地域社会との関わりなど問題構造を学びます。
9	水俣病の拡大防止策の失敗	水俣病の被害と患者の状況を学び、拡大防止の不備、失敗の要因を説明します。
10	水俣病への行政の不作為と裁判	水俣病被害の拡大防止に向けた政策主体の行政の役割を学びます。水俣病裁判の経緯を理解します。
11	水俣病に学ぶ環境政策の教訓	多数の被害者を発生させた水俣病の特質を抽出し、今後の環境政策の教訓を学びます。
12	地球温暖化対策の実施	低炭素対策の枠組みと温暖化防止の国際社会の連携について学びます。
13	環境政策の手法	地球温暖化等の多様な環境問題を解決する環境政策手法（直接規制、経済的手法等）を学びます。
14	環境問題の解決に向けて（まとめ）	21世紀の環境文明社会の構築に向けて環境問題の解決のあり方を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。期間中に2回の課題レポートを作成し提出します。本授業の準備・復習時間は各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。授業時に映像を視聴します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい、2008）、田中充編著『地域からはじまる 低炭素・エネルギー政策の実践』（ぎょうせい 2014）ほか、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

・配分は、授業参加（平常点）60％、課題レポート 40％（2回）とします。
 ・授業参加として毎回アクションペーパーの提出を求めます。アクションペーパーは記述内容に応じて採点（1回につき5～1点）し、全回提出で60満点とします。
 ・課題レポートは2回（うち1回を小テストに代える場合がある）行い、各回20満点、合計40点とします。
 ・欠席の多い受講態度（授業回数のうち概ね3割以上の欠席）は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン方式による動画上映時への指摘、レポート提出期限などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

・資料配布、課題提出等のために学習支援システム等を利用する場合があります。
 ・授業方式（対面またはオンライン）は学習支援システムによりお知らせします。
 ・オンライン授業の場合は、Wi-Fi等のインターネット接続が必要です。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
 ・担当教員は、環境行政における政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等について事例を交えて解説します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>環境政策論
 <研究テーマ>自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This lecture deals with the basic structure of environmental issues and the system of environmental policies to solve those issues.

BAB200EA

環境生態学

鞠子 茂

サブタイトル：生命の科学Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学をディシプリンとして、環境論、環境と生物の関わり、生物の多様性、グローバルな環境問題、人類存続に関する具体的なテーマを設定・詳説し、人類の未来について考える。

【到達目標】

人間の脱生物的活動によって生じた多種多様な環境問題の理解と解決に資する科学リテラシー・リスクリテラシーを習得し、人類存続を可能とする規範やライフスタイルを大胆に発想する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

バロボを使った講義を行う。事前に学習支援システムで配布資料をダウンロードし、予習をしたうえで授業に臨む。理解度確認のために課題を課し、解答を提出させる。次回の授業で提示された解答例をみて各自理解度をチェックする。理解度の高低により授業テーマの順序や内容は多少変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業内容と生態学の説明	授業の進め方と生態学の紹介
第2回	環境とは何か	環境の定義について考える
第3回	生物と生態系の多様性と地理的分布	生物多様性の地理的变化を概説する
第4回	生態系は常に変化している	最新の生態学が描く生態系の姿について紹介する
第5回	生物適応の戦略的進化	環境適応の具体例を挙げて説明する
第6回	生態系からの恩恵としつべ返し	生態系サービスの持続的享受の条件を考える
第7回	公害から学ぶべきこと	水俣病から学ぶ科学リテラシーの必要性
第8回	環境ホルモン再考	内分泌かく乱ホルモンについて考える
第9回	外来生物は悪か	外来種問題の是非論について考究する
第10回	地球環境問題におけるウソとホント	地球環境問題の是非論について最新のデータをもとに論述する
第11回	地球温暖化と生物および生態系	地球温暖化が生物と生態系に与える影響について最新の成果を紹介する
第12回	紫外線と人類の進化	人類が紫外線との戦いで獲得した機能について考究する
第13回	衣食住環境とヒトの健康	衣食住環境の問題点について考える
第14回	人類存続のための生態学と全体のみとめ	人類存続に関する講義と全体のみとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで配布される資料を事前にダウンロードし、あらかじめ予習しておくこと。また、授業で出された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

「生物多様性と生態学—遺伝子・種・生態系」宮下直ほか著、朝倉書店（2012）；「森のバランス」森林立地学会編、東海大学出版（2012）；「大学1年生のなっとく!生態学」鷺谷いづみ著、講談社（2017）；「環境サイエンス入門 人と自然の持続可能な関係を考える」前迫ゆり他著、学術研究出版（2017）；「生態学は環境問題を解決できるか?」巖佐庸・伊勢武史著、（2020）

【成績評価の方法と基準】

〔配分〕期末試験（80％）、平常点（20％）

〔評価基準〕期末試験では、3～4題の小問からなる大問を10問程度作成し、出題する。平常点は課題提出率と回答内容から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【Outline and objectives】

The students will learn about definitions and need-to-know basics of “environment” and “ecology”, and acquire science literacy from an ecological viewpoint to solve environmental crisis on local to global scales.

ECN100EB

企業と社会論 A

加藤 寛之

サブタイトル：産業・企業論 A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、受講生が企業に関する正確な理解をもつことにおきます。次のような問い、企業とは何か、企業はなぜ存在するのか、企業は経済活動上どんな役割を果たすのか、への答えを説明します。経済学の企業論は20世紀に入って生まれた理論です。その概要を理解することが目的です。

【到達目標】

基礎理論を踏まえつつ、最新の理論的成果と現代企業が直面する主要な活動を学ぶことを通じて、受講生各自が、様々な企業を分析理解できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前日までに毎回の教材と簡単な課題を授業支援システム上にアップロードします。課題には提出締切を設けます。最初の数回は試行錯誤が続きますので、提出遅延をしても提出できるように設定しておきます。

個別企業のケースを取り上げながら説明します。そのためパワーポイントを使った説明が主になります。

課題へのフィードバックはその都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代の企業社会	企業の発展と企業の理論
2	損益計算書	5つの利益、付加価値
3	貸借対照表	ROE、ROA
4	キャッシュフロー計算書	黒字倒産
5	近代企業の登場	専門経営者
6	所有と支配の分離	経営者支配
7	財閥の形成と解体	企業集団、買収・合併
8	資本主義と企業の発展	工場と経営体の誕生 経営管理の生成
9	経営管理の系統図	科学的管理法
10	経営管理の諸理論	大量生産方式、コンティンジェンシー理論
11	組織のデザイン	機能別組織 事業部制組織
12	日本型組織デザイン	日本型組織デザインの特異性と普遍性
13	構造は戦略に従う	戦略と組織の適合性
14	資源の束としての企業	ベンロース 資源配分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考文献をいくつか指定するので読んでおくこと。問題意識を持って講義に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いません。プリントを配布します。

【参考書】

毎回の講義の最後に、参考文献をお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、企業の理論を理解し説明できること、に置きます。

評価方法は、次の二つの要素の総合です。

毎回の課題の評価70点、レポート30点。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

講義では必要に応じてパワーポイントを利用します。

【その他の重要事項】

授業開始は延期後の学年通りです。最初は授業の進め方に試行錯誤が続きますが、どうかお付き合いください。

授業前日までに毎回の教材と簡単な課題を授業支援システム上にアップロードします。課題には提出締切を設けます。最初の数回は試行錯誤が続きますので、提出遅延をしても提出できるように設定しておきます。

【Outline and objectives】

To study about modern firms and modern societies.

ECN100EB

企業と社会論 B

多田 和美

サブタイトル：産業・企業論 B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、社会の主要な構成要素の1つである企業に焦点を当てます。企業経営に関する基本理論の修得を通じて、企業が社会に及ぼす影響や果たす役割を考察します。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 企業経営に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、実践的に活用できる。
- 2) 現代社会における企業の役割や課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義資料の配布と解説を通じた講義形式で実施しますが、オンライン授業の実施にともない変更の可能性があります。授業に関する情報は、「学習支援システム」に掲載するので随時確認してください。課題を提示した際は、次回の授業で課題のフィードバック（解答・解説）を行います。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	企業経営の仕組み
第2回	企業形態論①	企業の各形態
第3回	企業形態論②	営利企業の特徴
第4回	企業統治論①	コーポレート・ガバナンスの基本
第5回	企業統治論②	今日のコーポレート・ガバナンス
第6回	経営戦略とは何か	経営戦略の基本
第7回	競争戦略①	事業構造の分析
第8回	競争戦略②	3つの基本戦略
第9回	競争戦略③	ビジネス・システム
第10回	多角化戦略①	多角化の論理
第11回	多角化戦略②	多角化のパターン
第12回	企業構造再編の戦略①	他企業も含めた企業構造の再編
第13回	企業構造再編の戦略②	M&A と戦略的提携
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社。
井原久光（2008）『テキスト経営学（第3版）』ミネルヴァ書房。
大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智（2016）『経営戦略（第3版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題：50%と期末試験もしくはレポート：50%で評価します。

- ・課題の提出は期限厳守です。
- ・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、受講生の意見を把握し授業改善に努めます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand the fundamentals of management theories. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Forms of business ownership
- 2)Corporate governance
- 3)Strategic management

EVN200EB

気候変動論

澤柿 教伸

サブタイトル：特講（気候変動論）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候の変化や変動は、人間社会の歴史にさまざまな要因の影響を与えてきた要因のひとつである。どんな気候の変化や変動が人間社会にどんな影響を与えたのかについて、事実をあきらかにしていく科学的営みを知り、事実相互の因果関係を理解するとともに、人間社会が直面する問題の解決にむけての動き考える素養を身につける。

【到達目標】

気候変動の歴史的経緯や現在の状況および将来起こりうる現象を読み解くにあたって、必要とされる自然科学的な基礎知識を獲得するとともに、変動する気候の中で人間社会が持続するためにとるべき予防策や適応策について、社会科学的視点から理解し実践できる素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コロナ感染防止対策で遠隔授業になっている期間は特に、学習支援システムを通じて授業形態を指示します。こまめに学習支援システムのおしらせをチェックするようにしてください。

通常の座学(LC)に加えて、グループワークやディベート(GW)を適宜とりいれます。気候変動が現代社会が直面する複雑かつ重要な問題の一つであることを示す事例を受講生各自で発掘・取材し発表し討論します。そのプロセスを通じて、自然科学的な理解なしには気候変動問題が抱える論点的確な把握が難しいことを認識し適切な予防策や適応策を構築しようとする実際の試みについて知り、さまざまなレベルでの社会的合意形成が求められていることを学びます。

対面・オンラインにかかわらず、毎回の授業でリアクションペーパーを提出してもらい、そこに記載された疑問や質問には学習支援システムを通じて、全体・個別に回答します。授業進行に従い、全体の理解度に応じて、資料を捕捉で提供したりやWebコンテンツを追加で紹介したりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	気候変動の見方(LC・GW)
第2回	IPCCの現状認識	IPCCの紹介・考え方・認識(LC・GW)
第3回	温暖化懐疑論	地球温暖化論争の紹介(LC・GW)
第4回	地球の構造	地球表層部に限定した一大気・海洋・大陸・宇宙空間の構造と相互関係(LC・GW)
第5回	気象と気候	時々刻々の大気現象と広域・長期の気象状態、因果関係(LC・GW)
第6回	地球の循環システム	物質とエネルギーの循環、熱・水・炭素などの循環(LC・GW)
第7回	気候変動と歴史	第四紀環境変遷と人類世の提案(LC・GW)
第8回	温暖化の原理	放射強制力・温室効果・フィードバック・エアロゾル(LC・GW)
第9回	大気現象の時空スケール	テレコネクション・極端現象・局地現象・エルニーニョ・集中豪雨(LC・GW)
第10回	気候変動の検出と予測	観測技術とシミュレーション技術、その可能性と限界(LC・GW)
第11回	再び温暖化懐疑論へ	これまでの授業内容に基づいて論争をふりかえり、温暖化懐疑論への反論(LC・GW)
第12回	国際協調にむけて	これまでの授業内容に基づいてIPCCの指針とCOPなどの国際協調の動き(LC・GW)
第13回	温暖化への対応策	気候変動への「緩和策・適応策・持続可能性」(LC・GW)
第14回	まとめと試験	これまでの授業内容のふりかえりと授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学習支援システムを通じて配布されるレジュメを毎回持参すること。

・問題発掘課題を事前実施して授業内のディスカッションに備えること。
 ・リアクションペーパーを指定。事前にキャンパス内の印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「絵でわかる地球温暖化」渡部 雅浩（講談社 KS 絵でわかるシリーズ）、2018
 を教科書として使いますので、事前に準備しておいてください。

【参考書】

「温暖化の“発見”とは何か」スペンサー・ワート（著）、増田耕一・熊井ひろ美（翻訳）、みすず書房、2005。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出。その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価（50%）および定期試験による評価（50%）

【学生の意見等からの気づき】

受講生の基礎素養にばらつきがあります。関連分野をそれなりに学んできた学生には平易に感じられたり、まったく触れたことのない学生には難易に感じられたりするようです。全体構成の前半では、この差異を埋めるように受講生の素養を見極めながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】

コロナ感染対策で Zoom によるリアルタイムネット配信授業となる場合もあります。それに備えて、Zoom を視聴しながらノートテイクもできるネット・PC 環境を整えてください。

【Outline and objectives】

This course provides clear, concise and up-to-date information for a general understanding about climate change, focusing on particular interest to explain the fundamentals of climate change science, the international climate change legal and policy framework.

BSP100EA

基礎演習 I

李 舜志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①高校から大学への軟着陸を図る
- ②「大学での学び方」を学ぶ
- ③「話す・聞く・読む・書く」能力を向上させることを通して「考える力」を磨く

【到達目標】

- ①文献やデータを読み込み、批判的に検討し、「作文」ではなく「レポート」が書けるようになること
- ②レジュメやレポートを作成するための基本的な文章力と論理的思考を身につけること
- ③他者と意見を交換し、研究を進めていける力を身につけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に
 関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

レジュメやレポートを作成するための基本的なスキルを学ぶ。たとえば文献やデータの収集、専門書・論文の読解、客観的な文章表現など。

他の学生との意見交換や、レポートの相互閲覧などを通して、コミュニケーションスキルを磨く。

以上を総合して、指定した文献に関するレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のイントロダクションと自己紹介
2	文献・データの集め方	文献・データの集め方を学ぶ
3	文献を読む①	専門的な内容の文献を読むために何が必要か
4	文献を読む②	要約する技術を学ぶ
5	文献を読む③	批判的に読解し、自分の意見を付す
6	レポートを書く①	レポートのテーマを決める
7	レポートを書く②	レポートの構成を決める
8	レポートを書く③	客観的な表現、論理的な文章を書く
9	文献について議論する①	ひとつの文献について、多様な視点があることを学ぶ
10	文献について議論する②	他者と「議論」する方法を学ぶ
11	レポート途中経過の報告①	各自が最終レポートの途中経過を報告する
12	レポートの途中経過の報告②	同上
13	レポートの途中経過の報告③	同上
14	まとめ	これまでの授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①課題に沿った文献・資料収集、レポート執筆
 - ②他の学生のレジュメへの意見の提示
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

井下千以子『思考を鍛える レポート・論文作成法第三版』、2019年、慶應義塾出版会。

【参考書】

佐藤卓己『現代メディア史』、2018年、岩波書店。

【成績評価の方法と基準】

レジュメと口頭発表の内容（60%）、議論への参加姿勢など平常点（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当するため、特になし。

【Outline and objectives】

- ① To learn the way in which we learn in university
- ② To improve the capacity of thinking ability through speaking, hearing, reading and writing

BSP100EA

基礎演習 I

飯野 智子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の問題意識を掘り下げ、何を専門的に学びたいのか、目的を明確にする。研究に必要な基本的な能力（図書館の利用方法、資料収集と活用の仕方、レジュメの作成、発表の仕方）を身につける。また、他者と協力し作業を行い、発表し、討論する事を通して、討論マナーや効果的なプレゼンテーションの仕方を身につける。

【到達目標】

設定したテーマに従って研究計画を立て、関連資料を収集し、データを活用できるようにする。また、それらを基に分析を行い、レジュメを作成する。さらに、討論マナーを守った上で効果的な発表の仕方、説得力ある発表ができるようにする。他者の発表を聞き、自分と比較し冷静に評価できるようにする。議論を通して他者の考えと自分の考えを比較検討した上で結論を述べる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で行う。グループでのテーマ設定、資料収集、議論、発表を行う。ディベートで討論マナーを学ぶ。新聞批評では、記事の内容そのものと報道に対する批評を行う。学習した事についてレポートを作成し提出する。オンライン授業でもグループ作業や発表は変わらない。個人及びグループ発表、レジュメや討論に対して授業で毎回講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	自己紹介、学習計画、基礎演習の位置づけ
第 2 回	個人発表	各自関心のある本、雑誌記事、新聞記事、音楽などの発表
第 3 回	図書館ガイダンス	図書館の利用、資料の収集方法
第 4 回	共通テーマ作業	テーマについてグループ毎に討論、分析
第 5 回	共通テーマ討論	レジュメの作成
第 6 回	グループ発表前半	発表と全体討論
第 7 回	グループ発表後半	発表と全体討論
第 8 回	ディベート	ディベートを行い討論マナーを身につけ、批評し合う
第 9 回	新聞記事収集	資料収集とテーマの設定
第 10 回	新聞記事分析	新聞記事の比較、分析
第 11 回	記事のまとめ及び個人レポートについて	討論とレジュメ作成、個人レポートの書き方について
第 12 回	新聞批評発表前半	発表と全体討論
第 13 回	新聞批評発表後半	発表と全体討論
第 14 回	個人レポートの構想発表	個人レポートの中間発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要な資料を収集する。グループ毎に話しあい、レジュメを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が標準。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

ディベートやグループ討論のテーマにより、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（平常点）40%、課題の提出 20%、学期末レポート 40%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業でも学生は積極的に協力的であった。しかし、個人レポートの進め方がよくわからない面があったようである。今年度は個人レポートの書き方について詳しく解説する。

【Outline and objectives】

Students will look deeper at the issues, decide what they want to specialize in and clarify their objective. They will learn the basic competences required in research (using the library, collecting and using data, making presentation handouts, making presentations). Also, through cooperation with others, presentations and discussions, they will pick up discussion manners and effective presentations skills.

BSP100EA

基礎演習 I

古澤 聡司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次生を対象とした大学生に必要な勉強の仕方や技術を学びます。必要な文献を読み、仲間の意見にも耳を傾け、皆で討論し、自分なりの考えをまとめていくためのスキルを中心に学びます。

【到達目標】

自分なりの考えをレポートや論文としてまとめあげることができるようになるために必要となるスキルの習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

演習での報告の仕方、レジュメの書き方、資料収集の方法、討論の仕方、論文・レポートの書き方など、具体的な勉強の方法、技術の習得を演習形式で学びます。最終授業で、課題に対する講評を行います。なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては、授業計画に若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画と自己紹介など。
第 2 回	受講の準備	テキストの入手、仲間づくりなど。
第 3 回	テキスト第 4 講の講読	文献の「要約の仕方」を学びます。
第 4 回	テキスト第 9 講の講読	「レジュメの作り方」を学びます。
第 5 回	レジュメの作り方の実習	パソコンの文章作成機能を使ってレジュメを作る実習を行います。
第 6 回	テキスト第 10 講の講読	「ゼミ発表の仕方」を学びます。
第 7 回	テキスト第 3 講の講読	「テキストの読み方」を学びます
第 8 回	テキスト第 5 講の講読	「きちんと考える方法」を学びます。
第 9 回	図書館ガイダンス	OPAC などの利用法と図書館の活用方法を学びます。
第 10 回	テキスト第 6 講の講読	「図書館の利用」を読み、ガイダンスの復習を行います。
第 11 回	テキスト第 7 講と第 8 講の講読	「レポート・論文の書き方」を学びます。
第 12 回	秋学期のゼミ論文のテーマ設定	自分でテーマを探して秋学期の準備学習を行います。
第 13 回	ゼミ論文の先行研究の文献調査	図書館などの情報検索システムをとおして先行研究を探します。
第 14 回	春学期のまとめと講評	春学期の学習を振り返るとともに夏休みの過ごし方について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献の講読は各自、事前学習しておくこととする。なお、準備学習・復習時間の目安は、各 2 時間とする。

【テキスト（教科書）】

藤田哲也（編著）『大学基礎講座 改増版』北大路書房。

【参考書】

授業の進行にしたがって提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発言、報告の仕方、レジュメの書き方、討論の仕方、レポートの提出など平常点を 50%、レポートの内容評価を 50% で、合計点を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業が学生との相互作用の過程であることをいつもながら思い知らされます。

【Outline and objectives】

You must learn about the way of learning in university.

BSP100EA

基礎演習 I

岡野内 正

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員および他の受講生との議論を通じて、現代社会の諸問題と自分の生き方を結び付けて考える。

【到達目標】

① 学術書の内容を的確に理解する力をつける。② さらに批判的に読解する力をつける。③ 学術的討論の流れをつかむ力をつける。④ 学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤ あらゆることがらについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**< 新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方にしてありますが、さらに変更になる場合は、学習支援システムを参照してください。 >
読書会形式でテキストを精読します。受講生は、授業の前に毎回「授業日誌」を作成して、それをもとに少人数グループで共有しながら、全員が発表して議論を進めます。そのあとに、少人数グループの代表が議論の状況を報告し、講師を含む全員で討論していくとともに、わからないことを解決し、調べてきたこと、議論した論点を共有していきます。授業に関するさまざまな質問へのフィードバックは、授業時間に行います。**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代社会と学問	授業説明、ゼミ運営の役割分担。
2	日本語版序文および第 1 章プレカリアート前半	報告と討論。
3	第 1 章後半	報告と討論。
4	第 2 章プレカリアートが増える理由前半	報告と討論。
5	第 2 章後半	報告と討論。
6	第 3 章プレカリアートになるのは誰か？ 前半	報告と討論。
7	第 3 章後半	報告と討論。
8	第 4 章移民は犠牲者か、悪者か、それとも英雄か？	報告と討論。
9	第 5 章 労働、仕事、時間圧縮前半	報告と討論。
10	第 5 章後半	報告と討論。
11	第 6 章地獄に至る政治	報告と討論。
12	第 7 章極楽に至る政治	報告と討論。
13	今日の世界とプレカリアートについて	報告と討論。授業日誌提出。
14	私たちの日常生活と社会システムについて	報告と討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を授業支援システムの掲示板に書く。「授業日誌」は、以下の 3 項目を含むこと。各回のテキスト部分について、① わかったこと、② わからなかったこと、③ 調べてみたこと、④ みんなで話し合ってみてみたいこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアートの時代』法律文化社、2016 年（英語版原書 Guy Standing, "The Precariat: The New Dangerous Class", Bloomsbury, 2011 は、出版社サイト < <https://www.bloomsburycollections.com/book/the-precariat-the-new-dangerous-class/> > で全文無料公開されている）。**【参考書】**岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、定価 2000 円プラス税。
ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』集英社新書、2008 年、定価 777 円。**【成績評価の方法と基準】**

提出された授業日誌について、各項目 50% ずつ 100% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験やレポートではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権 NGO での長年の活動経験を生かして教室での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

BSP100EA

基礎演習 I

加藤 寛之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習の際に必要なとされる基本的な態度・作法を身につけるとともに、社会的問題への関心と好奇心を醸成する。

4 月 21 日の学事日程開始日以降、通常授業が開始されます。

【到達目標】

個別単位及びグループ単位で種々の課題に取り組むことにより、読む能力、聞きとる能力、話し発表する能力、書く能力という、大学で学習する際に必要となる基礎的な能力と態度を醸成する。

さらに、社会科学の学習で求められる、先行研究や資料収集、実地調査などの基本的な手法について理解し、それらを課題に利用することにより、主体的に考える能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献の講読、資料の収集、レジュメの作成、報告・発表、ゼミ生との論議や協力、図書館の利用、レポートの作成などのプロセスを体験することにより、基本的な学習態度と学習作法を身につける。さらに、文献講読や議論などを通じて、複眼的思考方法を体得し、今後の大学生活に活かしていく。

授業計画はおおむね以下のとおりであるが、受講者の状況や授業の進行状況などを踏まえ、変更する可能性もある。原則対面で実施し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と教員・ゼミ生の自己紹介
2	興味ある問題を発表する（1）	各自の身近な問題を素材として発表の練習
3	興味ある問題を発表する（2）	各自の身近な問題を素材として発表の練習
4	図書館ガイダンス	図書館の使い方を学ぶ
5	グループ研究（1）	グループ研究のテーマ候補検討
6	グループ研究（2）	グループ研究のテーマ決定
7	著書を読み、議論する（1）	輪読と議論
8	著書を読み、議論する（2）	輪読と議論
9	グループ研究中間報告	グループ研究の進行状況の報告・ディスカッション
10	著書を読み、議論する（3）	輪読と議論
11	著書を読み、議論する（4）	輪読と議論
12	グループ研究発表（1）	グループ研究結果の報告・発表 議論とコメント
13	グループ研究発表（2）	グループ研究結果の報告・発表 議論とコメント
14	グループ研究の補足説明	グループ発表での質問・意見に関する補足説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題ごとに、文献の講読、資料収集、レポート作成など、種々の授業時間外の学習が要請される。各自、発表日・提出日に間に合うよう、計画的、主体的な準備を進めること。授業時間外の学習時間として各2時間が求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

大学で学習する際に必要な基礎的な知識、ものごとを主体的に考える考察力について、以下の方法で評価する。

課題（報告・発表、レポート等）70%，平常点（授業への主体的参加・発言・貢献 等）30%

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

毎回の出席と授業への参加が基本です。授業では、毎回、質問や意見を求められた際に積極的に発言すること、ほかのゼミ生の意見を聞き取り自分なりの考えを発信することが期待されています。

詳しい事項は初回の授業説明するので、履修予定者は、初回授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students needed to achieve a better performance in their university studies.

BSP100EA

基礎演習 I

兼子 諭

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での研究活動のための重要なルール・マナーを身につけることが、基礎演習の目的である。

【到達目標】

この演習では、以下の能力の養成を目指す。

①文献読解、②資料収集、③学術的議論、④レジュメ作成、⑤プレゼンテーション、⑥レポート執筆（夏季休暇中に初稿：5000字以上、後期に完成原稿：7000字以上）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献読解、学術的議論、レジュメ作成、資料収集、プレゼンテーションといった、大学での研究活動に必要な能力の養成に従事する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の進め方の説明
2	レジュメ作成とプレゼンテーション	自己紹介レジュメの作成と発表
3	文献読解トレーニング①	社会学文献の批判的読解
4	文献読解トレーニング②	社会学文献の批判的読解
5	資料収集トレーニング①	図書館ガイダンス
6	資料収集トレーニング②	社会学に関する文献・資料の収集
7	資料収集トレーニング③	収集した文献・資料の発表
8	グループワーキング①	グループワーキングの実施
9	グループワーキング②	グループワーキングの実施
10	グループワーキング③	グループワーキングの実施
11	グループワーキング④	グループワーキングの実施
12	グループ発表	グループごとの発表
13	レポートトレーニング①	レポート執筆について講義
14	レポートトレーニング②	レポートのフォーマットの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己紹介、文献読解、資料収集、グループワーキングのそれぞれについて、参加者全員に発表を求める。そのため、講義時間外には発表のための準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

前期の成績評価の基準は次の通り。

①自己紹介レジュメ（5%）、②文献読解の発表（25%）、③資料収集（25%）
④グループワーキング（25%）、⑤平常点（出席状況、演習内での発言など）（20%）

・自己紹介、文献講読、資料収集、グループ発表のひとつでも欠けたら単位は落第。また4回欠席でも落第とする。

・15分以内の遅刻は1/2の出席、15分以上の遅刻は欠席とみなす。

・レポート（5000字以上）の第1稿の執筆を夏季休暇の課題とする。このレポートが提出されなかった場合、原則的に後期の履修登録は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

個人およびグループ研究の進め方について、昨年度の参加者から有意義な意見を頂いた。それらを考慮して、今年度の基礎演習を開講したい。

【学生が準備すべき機器他】

回によってはノートパソコンの準備をお願いするかもしれない。

【その他の重要事項】

・有意義な演習を進めるためには学生の積極的な参加が不可欠である。充実した大学生活を過ごすためのスタートを一緒に切りましょう。

・講義時間が100分と長時間に及びます。リラックスしながらも緊張感のある演習になるよう心がけたいと思います。

【Outline and objectives】

The purpose of basis seminar is learned important rule and manner for research activities in university.

BSP100EA

基礎演習 I

岩城 邦義

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学び方の基本的な作法を習得していく中で、自分が何に興味があるのかを発見し、次年度のゼミ選択の際の研究領域やテーマ、大学において何を学びたいのかを明確にしていくことが目的となる。

【到達目標】

大学での発表や議論の仕方を身に付け、各自が興味関心のあることについて能動的に学んでいく姿勢を習得することが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

課題となる文献についての発表の仕方、グループでの課題の取り組み、ディベート、レポートの書き方について、オンライン授業を交え学んでいく。また、適時課題に対して講評する。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の説明など
2	「自己紹介シート」の作成	「自己紹介シート」を完成させる
3	自己紹介をかねた発表の練習①	各自が興味関心のあることを発表し、自己紹介をする
4	文献・資料の収集方法について	文献・資料の収集方法について学ぶ
5	自己紹介をかねた発表の練習②	各自が興味関心のあることを発表し、自己紹介をする
6	レジュメの書き方	レジュメの書き方について
7	文献購読①	レジュメの作成と報告、議論
8	文献購読②	レジュメの作成と報告、議論
9	文献購読③	レジュメの作成と報告、議論
10	文献購読④	レジュメの作成と報告、議論
11	文献購読⑤	レジュメの作成と報告、議論
12	レポートの書き方	レポートの書き方について
13	ディベート	所定のテーマについてディベート
14	春学期のまとめ	春学期の課題などについての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で使用する文献の精読、発表に向けた資料の作成、教室外でのグループ活動など。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ全体ならびにグループ活動への参加（60%）、課題提出（40%）をもとにし、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The main aims of this course are to give students the opportunity to develop knowledge and skills and to make them realize what they are interested in.

BSP100EA

基礎演習 I

山田 唐波里

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が大学における初歩的な学びを実際に経験することで、「大学での学び方」の基本的な作法を身につけることを目的とする。

【到達目標】

「話す・聞く・読む・書く・考える」ことについて、大学で求められる基本的な水準に達することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

社会学に関連する文献の講読を中心に、レジュメの作成、発表、ディスカッションなどを交えて授業を進めていく。それらに加えて、図書館利用の方法や、レポートの作成方法など、授業時間外における準備作業の仕方についても一通り授業で取り上げる。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行（ただし、授業計画は授業の展開により、若干の変更があり得る）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本演習の概要説明・各自自己紹介
2	文献講読に向けて	文献講読の進め方の説明と選書
3	資料収集の方法	図書館ガイダンス・講読担当決め
4	レジュメ作成法	レジュメ作成法の説明
5	文献講読 I	レジュメ報告とディスカッション
6	文献講読 I	レジュメ報告とディスカッション
7	文献講読 I	レジュメ報告とディスカッション
8	文献講読 I	レジュメ報告とディスカッション
9	レポートの執筆に向けて	レポートの書き方の説明
10	文献講読 II	レジュメ報告とグループディスカッション
11	文献講読 II	レジュメ報告とグループディスカッション
12	文献講読 II	レジュメ報告とグループディスカッション
13	文献講読 II	レジュメ報告とグループディスカッション
14	まとめ	期末課題の解説と授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の軸となる文献講読を行うにあたって、必ず報告担当者以外も事前に文献を読み、疑問点やディスカッションのテーマになりそうな論点を見つけておくこと。また、報告担当者は、レジュメの作成・印刷等の準備を授業時間までに必ず終えておく必要がある。以上に加えて、授業終盤は期末レポートの準備を各自で進めておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加姿勢・貢献）40 %、レジュメ報告と期末レポート 60 %。
・文献講読のレジュメ報告、期末レポートの提出のいずれかが欠けた場合でも落第とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の交流の機会をもう少し設けて欲しかった、という要望があったため、グループディスカッションを多めに設定した。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの授業の回は、学習支援システムを通じて資料を配布する。

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is for students to acquire the basic manners of "how to study at university" through actually experiencing elementary studying at university.

BSP100EA

基礎演習 I

吉村 真子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎演習は、「演習（ゼミナール）とは何か」を体験し、学ぶことが課題です。演習での報告・議論・司会の仕方、レジュメの書き方、ゼミ論文の準備と執筆、ディベートの仕方などをきちんと学ぶことを課題とします。

【到達目標】

演習での報告・議論・司会の仕方、ゼミ論文の書き方、ディベートの仕方などを学び、また、演習での報告や議論を進めていく中で、自分自身の研究テーマを考えていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基礎演習は、1 年生が演習を体験し、2 年以降の専門演習の準備をする場です。また同時に、大学に入って「自分の居場所」、「仲間との出会い」を実感できる場でもあります。基礎演習では、演習での報告・議論・司会の仕方、ゼミ論文の書き方、ディベートの仕方などを学びます。とにかく「出席」することそして何かしゃべってみましょう。「出席」と「参加」が演習（ゼミ）の基本です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミのテーマと目的、内容の説明。班分け、自己紹介など。
第 2 回	時事問題プレゼンテーション	各自、新聞記事を選び、プレゼンテーションを行う。
第 3 回	図書館を使おう	図書館の本を借りて、プレゼンテーションを行う。
第 4 回	レジュメの書き方 (1)	レジュメの書き方と報告の説明。
第 5 回	レジュメの書き方 (2)	全員がレジュメを準備し、班ごとに模擬報告と議論。
第 6 回	テキスト報告 (1)	1 班の報告と議論①
第 7 回	テキスト報告 (2)	2 班の報告と議論①
第 8 回	テキスト報告 (3)	3 班の報告と議論①
第 9 回	テキスト報告 (4)	4 班の報告と議論①
第 10 回	テキスト報告 (5)	1 班の報告と議論②
第 11 回	テキスト報告 (6)	2 班の報告と議論②
第 12 回	ゼミ論文の準備 (1)	ゼミ論文のテーマ検討と参考文献リストの作成
第 13 回	ゼミ論文の準備 (2)	テーマ報告と参考文献リストの提出
第 14 回	まとめと秋学期に向けて	春学期の振り返りと秋学期の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告や議論のため事前の勉強やレジュメ準備、ディベートの準備やゼミ論文準備など、教室外での個人・チームでの学習が求められます。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期テキストは、ゼミの初回に紹介します。

【参考書】

参考書などは適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①ゼミの準備・発言・議論への参加（60 %）、②レジュメや小レポートなど、提出物（40 %）、を基本として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の積極的な議論がさらに進展するということと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

今年度は、対面授業とオンライン/Zoom を隔週で行う可能性もあるため、その準備をしておいてください。

【Outline and objectives】

This course is a tutorial seminar in a small class of first-year students. This course is to study analyzing social issues with presentations, discussion, debates, thesis, and so on. Students are required to prepare for class discussion and presentations each week and to submit the final term-paper.

BSP100EA

基礎演習 I

島田 昭仁

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【Outline and objectives】

It's learned about the manner of the learning and the attitude in the university (in particular, the social science).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学における学問の仕方、ゼミにおける基本的態度について学ぶ。

【到達目標】

基礎的素養を習得し海外の社会学学生とも討議できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回テキストを輪読し、レジュメを順番に発表する。夏合宿の企画を立て、フィールド調査も行う。(状況によってはZoomを使用する。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	テキスト『大学とは何か』
2	「私」とは何か	『旧約聖書を知っていますか』3話
3	「私」とは何か	『旧約聖書を知っていますか』8話
4	「私」とは何か	『THE LAST GIRL』サミア・ムト
5	「私」とは何か	『人は愛するに足り…』中村哲
6	フェミニズム	『境界線を破る!』5章
7	フェミニズム	『境界線を破る!』6章
8	フェミニズム	『境界線を破る!』7章
9	フェミニズム	『境界線を破る!』8章
10	社会的弱者	『NHK 名著 資本論』前半
11	社会的弱者	『NHK 名著 資本論』後半
12	社会的格差	『NHK 名著 デイスタンクション』前半
13	社会的格差	『NHK 名著 デイスタンクション』後半
14	フィールドワーク準備	夏合宿の企画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業までに「マンガでわかるこんなに危ない!?消費税」2019, ビジネス社, を読んでおくこと。準備・復習時間は毎回4時間とする。

【テキスト（教科書）】

『大学とは何か(岩波新書)』,2011

『旧約聖書を知っていますか』阿刀田高,1991, 新潮社

『THE LAST GIRL』2018, サミア・ムト, 東洋館出版社

『カール・マルクス『資本論』2020,(NHK100分 de 名著)

『ブルデュー『デイスタンクション』2020,(NHK100分 de 名著)

※以下のテキストは授業内で配布します。(購入不要)

『境界線を破る!: エコ・フェミ社会主義に向かって』1993, 新評論

『人は愛するに足り, 真心は信ずるに足る-アガンとの約束』2010, 岩波

【参考書】

初回授業内で説明する。

【成績評価の方法と基準】

以下①②の平常点から評価する。①毎回のレジュメ発表における読解力と口頭説明能力を評価(60%)。②参加度や学習状況から評価(40%)。

【学生の意見等からの気づき】

重要なことを何度も繰り返して説明します。

【学生が準備すべき機器他】

カメラ付きPCないしスマホ、wifi環境

【その他の重要事項】

初回授業内で説明する。

BSP100EA

基礎演習 I

白田 秀彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「調べる・整理する・構成する・執筆する」ための技法を学び、大学の講義に支障のない能力を得ること。

【到達目標】

「調べる・整理する・構成する・執筆する」ための技法を滞りなく実践できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「調べる・整理する・構成する・執筆する」という課程を繰り返すことで定着させる。

新型コロナウイルス状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面とはほぼ同内容の Zoom による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	調べる 1	ライブラリー・ツアーを行う。指定されたテーマについて資料を集める。
2	整理する 1	資料整理の技法について学ぶ。
3	構成する 1	整理された資料を論文の形として整理する。
4	執筆する 1	論文の形式について学ぶ。最初の小論文を提出する。
5	調べる 2	新たに指定されたテーマについて資料を集める。
6	整理する 2	資料整理の技法を再度実践して確認する。
7	構成する 2	整理された資料を論文の形として整理することを再度実践して確認する。
8	執筆する 2	二度目の小論文を提出する。
9	要約する 1	書籍を要約する技法を学ぶ。
10	整理する 1	指定された書籍について要点を抽出する。
11	構成する 2	レジュメの形式について学ぶ。要点を形式に合わせて構成する。
12	執筆する 3	レジュメを提出する。
13	調べる 3	自由課題について主として文献調査を行い、資料を集める。
14	構成する 3	三度目の小論文を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習中は方法の指導を中心とするため、課題は時間外学習として行うことが主となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。新型コロナウイルス状況下であるため、演習に伴う課外活動が不可能になる場合には、オンラインでの情報収集や発表になる可能性がある。

【テキスト（教科書）】

基本的に用いない。演習中に適宜指示する。

【参考書】

演習中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

課題毎の評価 (33%)、提出物の評価 (33%)、平常点 (34%) で行う。ただし、いずれかの項目が著しく悪い評価である場合には、不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

演習ゆえ、授業改善アンケートの対象外。

【Outline and objectives】

Learning skills to research, to consolidate, to organize and to write to achieve abilities to manage lectures in the university.

BSP100EA

基礎演習 I

慎 蒼宇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎ゼミでは、大学生活、あるいはこれからの人生に必要な基礎的思考力を身につけるために、さまざまな課題に取り組んでいきます。

【到達目標】

この演習の到達目標は、来年度以降、a) 専門科目（社会学科）での学習能力向上の基盤となる、b) 基本的な思考力やスキルを身につけてもらうことです。具体的には、主に、

①資料・文献を集め、調査する力を身につける。②読書する力を身につける、③論理的に思考する力を身につける、④グループで討議し、調べる力を身につける、⑤レジュメを作成し報告する力を身につける、⑥研究倫理について理解を深めるです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前期では、①②をベースにして、文献購読班を編成し、レジュメによる文献要約と内容検討に関する報告を行います。ただし、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	演習ガイダンス	概要の説明/簡単な自己紹介
第 2 回	大学の環境を知る①	キャンパス案内
第 3 回	自己紹介する	関心ある社会問題/大学生活について
第 4 回	大学の環境を知る②	図書館ガイダンス
第 5 回	文献購読の作法とレジュメ	図書館購読/文献購読班の編成
第 6 回	大学の環境を知る③	障がい学生支援
第 7 回	文献購読①	班ごとの文献決定/役割分担の決定・構想報告
第 8 回	レポート・論文①	レポート・論文作成に関する学習
第 9 回	文献購読②	班による報告①
第 10 回	文献購読	班による報告②
第 11 回	文献購読	班による報告③
第 12 回	文献購読	班による報告④
第 13 回	文献購読	班による報告⑤
第 14 回	まとめ	基礎演習 I の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメ作成、資料収集など報告に向けた準備を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にはありません。使用する場合は適宜指示します。

【参考書】

特にはありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、課題点 50 %（報告、レジュメ等）。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

Everyone works on various problems to put on the basic thinking power necessary to a study life at the university.

BSP100EA

基礎演習 I

鈴木 智道

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レジュメを作成する、発表する、他者の報告を聞く、それに対してコメントするなどといった一連の作業を通して、大学における「学び方」の基本的な作法を習得することを目的とする。

【到達目標】

大学における「学び方」の基本的な作法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

大学での学び方や思考法に関する文献を講読することを通して、この社会に生起する現象を読み解くための社会学（社会科学）的な思考や認識について理解を深めていく。また、そうした議論を踏まえたうえで、より個別具体的なテーマに関する文献を読みながら、論点をまとめる、自分の意見を「作る」、「討論」を通して自分の意見を表現するといった経験をしていく。諸課題に対する講評等は、授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション①	本演習の概要説明・自己紹介
2	イントロダクション②	演習の進め方・レジュメの書き方の説明
3	ディスカッションのすすめ	小課題をめぐってグループ活動
4	クリティカル・リーディングの作法	指定文献の講読と練習
5	作文の技法	指定文献の講読と練習
6	ディスカッションする①	担当班による文献の報告と議論
7	ディスカッションする②	担当班による文献の報告と議論
8	ディスカッションする③	担当班によるテーマの提示と討論
9	ディスカッションする④	担当班によるテーマの提示と討論
10	問いを立てる	指定文献の講読と個人テーマの検討
11	「考え方」の技術	指定文献の講読と個人テーマの検討
12	情報収集の技術	図書館ガイダンス
13	企画書を作る	個人テーマの検討
14	企画書の更新	個人テーマの再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、小レポートの作成など何らかの課題が課せられる。そのほか、文献を事前に読んでおくこと、報告班になった場合は、レジュメ・資料をあらかじめ作成し、印刷することなど、必要に応じて、授業外での活動が必要とされる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

荻谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社 + a 文庫、2002）

そのほかの文献については、授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ全体ならびにグループ活動への関与（50%）、ならびに、個人としてのスキルアップの度合い（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to acquire academic skills and develop critical thinking through doing some practical activities.

BSP100EA

基礎演習 I

吉田 公記

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、大学での学び方の基礎を習得するとともに、これからの4年間で探究していきたいテーマを見つけることを目的とする。

【到達目標】

①文献や資料の集め方、レジュメやレポートの書き方といった大学での学習の基礎的技術を習得すること。②2年次以降のゼミ選択に向けて、各自で問題関心を見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。レポート等の課題へのフィードバックは、基本的に授業内で行なう。なお、下記【授業計画】は展開に応じて若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要について説明する
2	研究テーマの検討	これから深く学びたい分野・テーマを各自で検討し発表する
3	基礎的技術の習得①	文献や資料の集め方を学ぶ
4	基礎的技術の習得②	レジュメやレポートの書き方を学ぶ
5	研究テーマ関連調査①	関心のある事柄に関する具体的な内容について資料を用いて発表する
6	研究テーマ関連調査②	第5回授業の続き
7	研究テーマ関連調査③	第6回授業の続き
8	入門文献の講読①	下記【テキスト】欄の文献を読む
9	入門文献の講読②	第8回授業の続き
10	入門文献の講読③	第9回授業の続き
11	個別の文献書評①	関心のある事柄に関する文献を各自で読み、書評を発表する
12	個別の文献書評②	第11回授業の続き
13	個別の文献書評③	第12回授業の続き
14	まとめ	これまでの学習内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での報告に必要な文献・資料等の収集・講読およびレジュメやレポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

船橋晴俊『社会学をいかに学ぶか』（2012年、弘文堂）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

下記の配分を目安として総合的に評価する。

- ・平常点（授業への参加姿勢等）：40%
- ・課題点（レポート等）：60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Through this course, students will (1) gain basic skills for academic study and (2) find academic themes to explore.

BSP100EA

基礎演習 I

山下 大厚

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎演習 I では学部での学び方、研究の進め方、自律的に学ぶことについて異なる「大学での学び」を経験する。文献・資料を批判的に読める／グループで課題解決のために協働できる／レジュメ・スライドを作成し発表できる／忌憚なく意見交換できる／図書館利用・情報検索できる／著作権・剽窃・盗用を理解し適切に資料を利用できる／研究テーマを設定できる／アカデミック・ライティングの基礎を学びレポート・論文を適切に書ける。

【到達目標】

「話す・聞く・読む・書く」力の向上を通して「考える力」を磨き、高校とは異なる「大学での学び」を経験する。文献・資料を批判的に読める／グループで課題解決のために協働できる／レジュメ・スライドを作成し発表できる／忌憚なく意見交換できる／図書館利用・情報検索できる／著作権・剽窃・盗用を理解し適切に資料を利用できる／研究テーマを設定できる／アカデミック・ライティングの基礎を学びレポート・論文を適切に書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

グループ活動による共同発表と討論を通じて問題意識を深め、各自の研究テーマを見つけていく。各回のゼミ活動や発表・討論の内容のフィードバックはチャット・カード等で対話的に講評や意見交換を行なう。なお授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基礎演習 I ガイダンス	本演習の進め方、すべきことについて。
第2回	問題発見と資料の探索	興味関心を探り資料・文献を見つける。
第3回	文書資料を読みとる	文書資料の検討と討論。
第4回	映像資料を読みとる	映像資料の検討と討論。
第5回	問題意識の探索	問題意識の共有と協働の足掛りを得る。
第6回	グループ課題の設定	課題設定と協働の仕方について。
第7回	何に、どう取り組むか	主題設定と方略について。
第8回	図書館ガイダンス	情報検索と資料の適切な利用について。
第9回	資料の活用と研究倫理	引用、文献示しの作法と剽窃・コピー。
第10回	グループ活動の報告	発表と討論
第11回	グループ活動の報告	発表と討論
第12回	グループ活動の報告	発表と討論
第13回	グループ活動の報告	発表と討論
第14回	振り返りと秋学期の準備	反省と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマの設定には、さまざまなフィールドの探索が必要だが、ネットで情報を入手するだけにとどまらず、活字を読み考えることで世界が広がることを自覚して欲しい。また、その都度、指示した内容について予習、復習、課題を行なうこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定はないが、各自テーマを掘り起こすための文献を選び読む必要がある。

【参考書】

特定の参考書は指定しない。各自のテーマに応じて個別にアドバイスしたい。

【成績評価の方法と基準】

評価のウェイト：平常点（参加度、メンバーシップ）20%、発表・討論 40%、書いて提出されたもの 40%、評価基準：協働活動、発言の充実度、発表などは資料の利用・挙示、主題に応じた議論の適切さなど。

【学生の意見等からの気づき】

距離を取る必要もあり、なかなか打ち解けにくいと思うが、協働活動が円滑にできるよう、ゼミ生同士が早く馴染めるよう配慮を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムなどインターネットの利用が不可欠です。必要な機器、環境を準備してください。

【その他の重要事項】

仲間同士刺激しあうところにゼミの醍醐味がある。積極的な参加を期待している。また、質問・相談はゼミの後やチャット・カード、メールで対応します。なお、基礎演習 I での学びの成果は、基礎演習 II に引き継がれることを想定している。本科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces the fundamentals of academic learning skill, research, writing, citation style of The Japan Sociological Society.

BSP100EA

基礎演習 I

高橋 賢次

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「大学で学ぶこと」の意味を理解し、そのために必要な基礎的な知識やスキル、作法を身につけること。

【到達目標】

大学における「学び」の目的は、既存の知識の上に「問い」を立ち上げ、新たな／オリジナルな「答え」を産出することにあります。本演習では文献講読を通じて、①文献の内容を正確に把握し、批判的に検討する力、②自分の考えを他者に理解可能な形で表現し、お互いを尊重しながら議論する力、③文献・資料の探し方やレジュメの作り方などの基礎的なスキルの習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・春学期の授業は、対面とオンラインで交互に実施する予定です。4/13（火）の初回までに「学習支援システム」上で詳細なアナウンスを行いますので、受講生はそれまでに必ず「仮登録」を行い、お知らせを確認してください。
・オフィスアワーを設定し、受講生に対するフィードバックを行います。
・授業の展開によって、授業計画に若干の変更があり得ます。また、この科目は春学期・秋学期と継続的に履修することが望まれます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習の概要説明
2	個人発表	自己紹介プレゼン
3	ディスカッション	討論の体験的学習
4	文献・資料の探し方	図書館ガイダンス
5	文献講読に向けて（1）	文献講読の進め方にかんする説明
6	文献講読に向けて（2）	レジュメの作り方の説明
7	文献講読（1）	レジュメ報告とディスカッション
8	文献講読（2）	レジュメ報告とディスカッション
9	文献講読（3）	レジュメ報告とディスカッション
10	「読書ノート」に向けて	期末課題の説明
11	文献講読（4）	レジュメ報告とディスカッション
12	文献講読（5）	レジュメ報告とディスカッション
13	文献講読（6）	レジュメ報告とディスカッション
14	まとめ	演習 I のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「文献を事前に読み、疑問点やコメントをまとめる」「レジュメを作成する」といった文献講読の事前準備や、期末課題となる「読書ノート」の執筆を中心として、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講生の希望にあわせて、適宜指定します。

【参考書】

上野千鶴子、2018、『情報生産者になる』筑摩書房。
荻谷剛彦、2002、『知的複眼思考法』講談社。

【成績評価の方法と基準】

①授業での報告や発言、授業で出されるミニ課題などを含む演習への参加（60%）
②期末課題：読書ノート（40%）
※授業での報告と期末課題の提出は単位修得の必須条件とし、いずれか一方でも欠けた場合は落第とします。また、忌引きなどやむをえない場合を除き、無断欠席や正当な理由のない欠席は累計 3 回、病欠も含めた場合は累計 4 回で落第とします。

【学生の意見等からの気づき】

演習中の積極的な発言を促し、受講生が関心と意欲をもって取り組めるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の受講や課題の執筆・提出に、PC 等の情報機器を使用します。

【その他の重要事項】

やむをえない理由で授業に遅刻・欠席する場合は、かならず理由を添えて事前に担当教員に連絡してください。

【Outline and objectives】

This course introduces basic knowledge, skills and manners necessary for academic research to student taking this course.

BSP100EA

基礎演習 I

南 宏幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間、大学生ともなると、先生から教わったことを憶えれば済む、というわけにはいなくなる。自力で新しい認識を生み出し、その認識を的確に他人に伝えられるようになることが、求められるのである。「人から教わる生徒」であるだけでなく、「新たに知り、それを他人に教えられる探究者」ともなる、という課題である。学問というものは、この探究の一形式であり、大学に行って「学問する」ということは、この探究に主体的に参加する、ということをも意味するのだ。そして「生徒」から「探究者」へのこの大転換を実践するのが、「演習」という大学特有の場である。しかし「教わる生徒」から「教える探究者」への転換は、やはりそれほど簡単ではない。学問には考え方の異なる多様な人間が「認識を共有する」ために、様々な制約・約束事があるが、まずはそれを習得しないと、探究者となる土台もできない。本授業は、学生諸氏が学問の制約を習得し、探究者となる土台を作って、今後の演習で各自の探究を実践できるよう、準備と予行演習をしてもらうために存在する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、①学問上の探究を通じて達成できること・できないことを知ること。②学生諸氏が、現実の社会生活の中から、「なぜこうしているのか」という知的な関心を選び取って、それを一定の仮説（「○○だからではないか」と結び付けられるようにすること。③自らの仮説を確認・検証するためには、何をどのように調べればいいのか、目星をつけられるようにすること。④演習参加の心構え、「レジュメ」の作成方法、発表の仕方等、演習で必要となる諸作法を経験し、習得すること。以上である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員が、資料を授業内で逐次提示し、それらを元に学生諸氏に意見を聞く、といった形で授業を進める予定。しかし対面授業の実施が大きく制限される状況等があれば、授業の進め方に変更を強いられる可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	顔を見知り、授業に備える。	演習とは何か、なぜ特別に重要なのか等の説明。学生諸氏の自己紹介。
2	実験される側として研究の実例に触れる	メディアリテラシーに関わる簡素な実験の被験者になって、自分たちが示した反応を、自分たちで分析してみる、経験学習。
3	自分たちの反応を研究者視点で考察する	第二回で行った実験で得られたデータを見つめ、仮説構築をする。
4	自分はなぜそう反応したのか、探究を経験する	仮説と、その検証に必要な調査・追加実験について、別班に発表。
5	学問的探究でできること、できないことの解説。	「価値自由」原則の説明。
6	「事実に基づいた議論」の意義解説。	常識に反する研究を提示し、「事実に基づいた議論」、対話的思考の必要性を考える。同時に「レジュメ」作成のガイダンス。
7	難解な文章を読解してみる。	「難解」な文章を読み解き、レジュメ作成する練習。
8	自分の関心を特定する。	幾つかの問題カテゴリー・ジャンル別に作られた班に分かれ、問題設定・仮説構築・検証方法の検討を行う。
9	研究のヴィジョンを仮説し、発表する。	第八回で設定した班毎に、研究ヴィジョン発表。
10	各自の関心特定を進める（第1班）	第1班が、各自の関心に従って「謎」を見つけ、「答え」を作り、発表する。発表者以外は「異論・反論」を述べる。
11	各自の関心特定を進める（第2班）	同上。
12	仮説の検証をしてみる	各自が立てた仮説を検証できそうな調査・実験を考案し、ゼミレベルで実行する課題設定。
13	検証結果発表	検証結果の発表と、質疑応答。
14	レポート提出と発表	前期暫定レポート提出と発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

逐次指定する以外の事前読書は、特に求めない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「教科書」は用いない（必要資料は教員がプリントないし学習支援システム内にアップロードし、配布する）。

【参考書】

授業内では、数冊の文献を活用するが、部分的な利用であり、共通の参考書指定はしない。

【成績評価の方法と基準】

期末に提出する、「研究構想レポート」（問題設定・仮説暫定レポート）の評価比重 60 %、その他的小レポート等の比重が 20 %、平常点 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

「演習」という授業の「特別さ」「重さ」を解っていない学生が増えた気がする。これをどうやったら伝えられるのか、模索中。

【学生が準備すべき機器他】

大学からのメール連絡や、学習支援システムにアクセスできる機器が必要。状況によっては、オンライン授業を強いられる可能性もあり、その場合には、Zoom ミーティングに参加できるように、ウェブカメラ・マイクを有する端末（スマホ、できれば PC）が、学生側にも必要となる。

【その他の重要事項】

「言われた事をやる」だけで満足せず、「自分のために自分で動く」態度を身につける場として、大学と基礎演習を役立ててほしい。春・秋学期合わせての履修推奨。

【Outline and objectives】

As university students, it is not enough to be submissive learners. you will be required to create new recognition by yourself and to be able to accurately convey it to others. It is the task of "becoming intellectual explorers who can understand what was not understood". Academic research is a form of this exploration. However, switching from 'taught pupils' to 'teaching explorers' is not so easy. In order to "share recognition", Academic research has various restrictions / promises. This "basic exercise class" exists to help you learn those restrictions / promises of academic disciplines, get foundations to be intellectual explorers, and have preparations and pre-exercises so that you can practice your own in future exercises.

BSP100EA

基礎演習 I

武田 俊輔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶために必要な能力とスキルを学生が身につけることを目的とする。特に文献の探し方や読み方、レジュメの作り方、学生たちが協力してゼミをどう運営するかを学ぶ。

【到達目標】

大学のゼミにおいて必要とされる基本的な能力・スキルを習得すること。より具体的には以下の 3 点となる。

- 1) 文献やデータを自ら収集して内容を理解するとともに、その内容を批判的に読み、課題を発見することができるようになること。
- 2) レジュメやレポートを書くために必要な、基本的な文章力を習得すること。
- 3) ゼミに主体的に参加し、学生同士による意見交換を通して、研究を進めていく能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献やデータの検索、専門書・論文の読解、レポートの作成、ゼミでの報告とディスカッションの方法等について学ぶ。

第 2 回までで文献やデータの収集方法を学んだ上で、第 3 回以降は報告と、学生同士による相互評価が中心となる。自分の報告や他の人の報告に関する評価表を毎回提出してもらい、共有する。それらの積み重ねを通して自分自身の報告の仕方を改善するとともに、成長の過程を実感してもらい、最後に夏休みの宿題として個人レポートを提出してもらい、全体のまとめとする。

なお授業計画は授業の展開と学生のインターネット環境の状況に応じて、若干の変更があり得る。リアクションペーパーはとくに設けないが、課題について授業内で毎回コメントと質疑を行うことで学生の理解に資するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	概要の説明、自己紹介
2	文献・データを収集する	文献・データの検索の仕方、図書館の使い方
3	文献を読む (1)	正確に文献を理解するために何が必要か
4	文献を読む (2)	正確な要約と生産的な批判、コメントの重要性
5	文献を読む (3)	レジュメの作成・報告と相互批評、ディスカッションをどう行うか
6	情報やデータの収集 (1)	マスメディアやインターネットによる情報やデータの収集をどう行うかの課題の提示
7	情報やデータの収集 (2)	課題に基づく結果の提出と批評
8	報告の準備	各自のテーマの決定
9	各自の報告 (1)	文献・データに基づく報告と討論の実践（学籍番号で前から 6 人目までのメンバーの報告）

10	各自の報告 (2)	文献・データに基づく報告と討論の実践 (学籍番号で前から 7 ~ 12 人目までのメンバーの報告)
11	各自の報告 (3)	文献・データに基づく報告と討論の実践 (学籍番号で前から 13 ~ 18 人目までのメンバーの報告)
12	各自の報告 (4)	文献・データに基づく報告と討論の実践 (学籍番号で前から 19 ~ 23 人目までのメンバーの報告)
13	夏休みの課題に向けた準備 (1)	最終レポートに向けた方向性についての相談
14	夏休みの課題に向けた準備 (2)	最終レポートの方向性についての確定

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題に沿った文献・資料収集、レポート執筆。他の学生のレジюмеへの意見の提示。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

野村一夫,2014,『ゼミ入門』文化書房博文社。

【参考書】

橋本努,2013,『学問の技法』筑摩書房。

野村一夫「社会学の作法・初級編：社会学的リテラシー構築のためのレッスン」

https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の授業への積極的な参加度を通した平常点評価 (10 点)。
- ・第 3 回以降のレジюмеの報告に基づく評価 (30 点)。
- ・第 3 回以降の自己評価表・他者評価表の提出による評価 (30 点)。
- ・夏休み個人レポートに基づく評価 (30 点)。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当するため、特になし。

【Outline and objectives】

It is the purpose of this class for students to acquire the abilities and skills necessary to study at university. In particular, they learn how to search and read papers, how to make resumes, and how they cooperate in managing seminars.

BSP100EA

基礎演習 I

多田 和美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、主に、これから大学で学習するために必要な「調べる・読む・書く」ことに関する基本スキルの修得と知的好奇心の喚起を目的とします。

【到達目標】

本授業では、次の 2 点に到達することを目標とします。

- 1) 文献等の情報を調査し正しく参照・引用したうえで、レポートを作成できる。
- 2) 調査結果や自分の意見を、文章によって論理的に表明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で実施します。受講者は、ただ出席するだけではなく、積極的に発言するなどの能動的な受講が望まれます。課題を提示した際は、次の授業回で解説するなど随時フィードバックします。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。「学習支援システム」上で必要な情報を公開するので、随時確認をお願いします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	大学での学び方①	ガイダンス
第 2 回	プレゼンテーション	自己紹介を兼ねた報告・発表
第 3 回	情報のとらえ方①	情報の読みとり方
第 4 回	情報のとらえ方②	批判的読書法
第 5 回	文献調査	各種調査方法
第 6 回	文献講読①	文献講読
第 7 回	文献講読②	要約の練習
第 8 回	文献講読③	レジюмеの作成
第 9 回	レポートの作成①	レポートの基本
第 10 回	レポートの作成②	テーマ設定, 研究方法
第 11 回	レポートの作成③	文献調査
第 12 回	レポートの作成④	文章の書き方
第 13 回	レポートの作成⑤	引用, 図表等の作法
第 14 回	まとめ	秋学期に向けた意見交換

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢：70 %、期末レポート：30 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

随時、受講生との意見交換を実施し、授業内容の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline and objectives】

The aim of this course to help student acquire the skills and knowledge necessary for learning at university. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Literature review
- 2)Reading exercises
- 3)Writing exercises

BSP100EA

基礎演習 I

田中 充

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎演習 I は、大学生として求められる専門的な思考力を身につけること、研究調査活動を自ら実施するための基礎的な技術（情報収集、読解、分析、思考、記述、発表等）を修得することを目的とします。

【到達目標】

受講生は、基礎的な研究調査技法と文献講読、グループ活動などを通じて「考える力」を修得することを目標とします。具体的な到達点として、文献を読みレジメを作成する、プレゼンテーションを行う、討議を通じて考えを深めるなどの学習・研究能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナウイルス問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行います。文献講読、レジメの作成と発表、討論・ディベート、図書館利用等の活動を行います。受講生は、これらを様々な形で実施することにより、基礎的な研究分析の作法や思考法を体得します。提出・発表のレジメ等については、授業の中でコメント等を行います。授業計画は進行状況によって若干の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の概要を説明します。受講生は相互に自己紹介を行います。
2	関心ある物事の発表 (1)	身近な事柄を題材として関心のある物事を発表します。
3	関心ある物事の発表 (2)	身近な事柄を題材として関心のある物事を発表します。
4	図書館の資料検索	書籍や新聞記事、雑誌記事・論文の検索の仕方について学びます。
5	レジメの作成	指定された文章を読み、内容の要約とレジメの作成の仕方を学びます。
6	討論・ディベートの実施	関心あるテーマについて討論を行います。
7	文献講読と発表、討論 (1)	担当した該当頁についてレジメ（要約と論点）を作成し、討論を行います。
8	文献講読と発表、討論 (2)	担当した該当頁についてレジメを作成し、討論を行います。
9	文献講読と発表、討論 (3)	担当した該当頁についてレジメを作成し、討論を行います。
10	文献講読と発表、討論 (4)	担当した該当頁についてレジメを作成し、討論を行います。
11	グループ発表と討論 (1)	グループでレジメを作成し発表します。これについて全体で意見交換を行います。
12	文献講読と発表、討論 (5)	担当した該当頁についてレジメを作成し、討論を行います。
13	討論・ディベートの実施	関心あるテーマについて討論を行います。
14	授業のまとめと夏休みの課題	春学期の授業の振り返りを行います。夏休みの過ごし方と課題について話し合います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題ごとに文献講読、レジメ作成、グループワーク等の授業外学習を行います。発表・提出に間に合うよう作業を完了するなど、計画的に授業準備を進める必要があります。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

<配分>

・授業参加（平常点）：40 %、討論:30 %、レジメ等の課題提出：30 %

<評価基準>

・授業参加は、出席した上で積極的な学習と発言することを評価します。満点を 40 % (点) とし、欠席 (遅刻 2 回で欠席 1 回分) した場合は減点します。欠席の多い (2 割以上) 受講態度は成績評価の対象外とします。

・討論は、文献発表や班活動への積極的な参加について満点 30 % (点) で評価します。

・レジメ等の課題提出は満点 30 % (点) として、調査内容、文章表現、論理性などをポイントに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

文献講読と発表、討論は「講読シート」を用いて行います。

【学生が準備すべき機器他】

・受講生への連絡、資料配布等は、学習支援システムと電子メールで行います。メールを随時チェックできるような通信環境の設定が必要です。

・授業方式（対面またはオンライン）は、学習支援システムでお知らせします。

・オンライン授業の場合は、Wi-Fi 等のインターネット接続が必要です。

【その他の重要事項】

授業は、毎回の出席と授業への参加が原則です。出席することはもちろん、質問・意見を求められたときに積極的に発表すること、他の人の意見をしっかりと聞いて意見を述べる必要があります。

【Outline and objectives】

The aim of Basic Seminar I is to help students acquire the basic research skills and knowledge in their university studies.

BSP100EA

基礎演習 I

谷本 有美子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶために必要な自主学習の方法や基本的な技術を習得すること、また、議論を通じて他者の多様な関心を知る中から、自ら学ぶことに対しての意欲を高めていくことを目的とする。

【到達目標】

- ・文献や情報を収集する方法を習得する
- ・レジュメやレポートのつくり方を習得する
- ・討議の作法を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

人に伝える、聴く、文献を読む、調べる、書面にまとめる等の基本的な技法の説明をしながら、発表、グループ討議、レポート提出などの方法で学生自身がそれらを実践する機会を作っていきます。発表やレポート等に対する講評は授業時に適宜行い、全体にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明と受講生の自己紹介
第 2 回	出来事やニュースを伝える ーグループワーク	身近な出来事やニュースをグループで説明して、意見交換をする
第 3 回	レジュメをつくる	指定された教材を元にレジュメを作り、報告の準備をする
第 4 回	発表する	第 3 回に作成したレジュメに沿って、クラスで発表する
第 5 回	発表に対する質疑 ーグループワーク	第 4 回に発表した内容について、グループで互いに質疑し合う
第 6 回	図書館の利用と文献・資料の探し方	図書館ガイダンスを利用して、図書館の利用とデータベース・インターネット等を使った文献・資料の探し方を学ぶ
第 7 回	討議する ーグループワーク	各自が関心を持った文献から問題を提起し、それをテーマにグループで討議する
第 8 回	レポートの書き方	レポートの書き方を学び、第 7 回で取り上げたテーマについて、レポートを作成する
第 9 回	論文の構成を学ぶ	指定された文献から、論文の組立や構成を学ぶ
第 10 回	テキストの講読 (1)	指定された文献を章・節の単位で担当し、要約と説明を行う
第 11 回	テキストの講読 (2)	指定された文献を章・節の単位で担当し、要約と説明を行う
第 12 回	問題の発見と課題の整理 ーグループワーク	与えられたテーマ（時事問題）から各自で問題を発見した上で、グループで課題を整理、検討対象を抽出する

第 13 回 課題解決案を検討する
ーグループワーク

第 12 回で抽出した課題について、文献やインターネットを活用して、グループでの解決案をまとめる

第 14 回 解決案の発表と春学期のまとめ

第 13 回でまとめたグループごとの解決案を発表する
・春学期に学んだことを整理し、夏休みの課題を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。文献を読む、発表の準備を行う、レポートを作成するなど、授業中に指示した課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30%）、発表等の準備状況（30%）、最終レポート（40%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や理解度に応じて、補足説明や追加資料の配付等を行います。

【Outline and objectives】

Students will acquire basic skills such as self-learning methods of collecting literature and information necessary for studying at the university, basic skills of preparing resumes and making reports. And also through knowing various interests of others on discussions, students will be expected to motivate to study by themselves.

BSP100EA

基礎演習 I

津田 正太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの意味を考えることから始め、レポートの書き方、研究の進め方、社会科学の方法論について学習する。

【到達目標】

大学での学びに求められる動機づけを向上させるとともに、社会学部の学生として求められる基本的な学習・研究スキルを修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

参加者同士でのディスカッションや個人単位での調査を実施する。また、基礎的な文献の輪読を通じてレジュメの作成法や文献の読み方についても学習する。個人研究発表に対するコメントなどを通じて随時フィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	受講にあたっての諸注意	イントロダクション
第 2 回	何のために大学で学ぶのか	大学での学び
第 3 回	文献輪読『メディア不信』序章	基礎知識習得とレジュメの作成
第 4 回	文献輪読『メディア不信』1 章	基礎知識習得とレジュメの作成
第 5 回	研究テーマ発表（1）	個人研究準備
第 6 回	研究テーマ発表（2）	個人研究準備
第 7 回	文献輪読『メディア不信』2 章 / 3 章	基礎知識習得とレジュメの作成
第 8 回	図書館ガイダンス	アカデミック・スキル
第 9 回	文献輪読『メディア不信』4 章 / 5 章	基礎知識習得とレジュメの作成
第 10 回	研究中間報告（1）	個人研究
第 11 回	研究中間報告（2）	個人研究
第 12 回	文献輪読『メディア不信』最終章	基礎知識習得とレジュメの作成
第 13 回	研究最終報告（1）	個人研究
第 14 回	研究最終報告（2）	個人研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習内でも話し合いの時間を設けるが、輪読の準備やレジュメの作成、個人研究に関しては演習の時間外に行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林香里（2017）『メディア不信 何が問われているのか』岩波新書。

【参考書】

参考書については適宜紹介する。社会学部の学生としては是非読んでほしい文献のリストも配布する。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート（70%）、提出された課題（30%）の評価を通じて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生の主体的な参加を可能にする授業運営を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメや最終レポートの作成にあたっては PC の利用が必須である。オンラインで実施せざるをえない状況になった場合には、家庭からインターネットに接続できることが望ましい。

【Outline and objectives】

The purpose of this basic seminar is to help participants consider the reasons for studying at university by themselves, as well as learn academic skills needed for it.

BSP100EA

基礎演習 I

徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での研究活動のための重要なルール、マナー、技法を身につけることが、基礎演習の目的である。

【到達目標】

学術的なルール、マナー、技法の修得にもとづいて、以下のことが実践できるようになる。

①文献読解、②資料収集、③学術的議論、④レジュメ作成、⑤プレゼンテーション、⑥レポート執筆

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面型とオンライン型を併用する。春学期開始時は、隔週で対面型を行う予定である。

文献読解、学術的議論、レジュメ作成、資料収集、プレゼンテーションといった、大学での研究活動に必要な能力を修得する。

かなりの回の授業で課題を出し、次週に講評することによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の進め方の説明
2	レジュメ作成とプレゼンテーション	自己紹介レジュメの作成と発表
3	文献読解トレーニング①	社会学文献の読み方を学ぶ
4	文献読解トレーニング②	社会学文献の読み方を学ぶ
5	資料収集トレーニング①	文献・資料の収集法を学ぶ
6	資料収集トレーニング②	社会学に関連する文献・資料を収集する
7	資料収集トレーニング③	収集した文献・資料について発表する
8	グループワーキング①	研究の進め方についてブレインストーミングをする
9	グループワーキング②	発表に向けて作業を進める
10	グループワーキング③	発表に向けて作業を進める
11	グループワーキング④	プレゼンテーションの準備をする
12	グループ発表	グループごとの発表をする
13	レポートトレーニング①	レポート執筆のテーマ設定や構成の仕方について学ぶ
14	レポートトレーニング②	レポート執筆の具体的な方法について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。自己紹介、文献読解、資料収集、グループワーキングのそれぞれについて、参加者全員に発表を求める。そのため、時間外には発表のための準備が必要となる。また授業のフィードバックにもとづく復習も必要となる。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

ケン・ブラマー『21世紀を生きるための社会学の教科書』（ちくま学芸文庫、2021年）

日本社会学会「社会学評論スタイルガイド」（<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>）

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は次の通り。

- ①自己紹介レジュメ（5%）、②文献読解の発表（25%）、③資料収集（25%）
④グループワーキング（25%）、⑤平常点（出席状況、演習内での発言など）（20%）

・自己紹介、文献講読、資料収集、グループ発表のひとつでも欠けたら単位は落第とする。また4回欠席でも落第とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のオンライン型授業での経験を生かし、学生の参加意識と達成感を高められるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

可能なら自分用のノートパソコンを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

有意義な演習を進めるためには学生の積極的な参加が不可欠です。充実した大学生活を過ごすためのスタートを一緒に切りましょう。

【Outline and objectives】

The purpose of this basic seminar I is to learn important rules, manners, and techniques for research activities in the university.

BSP100EA

基礎演習 I

宮下 阿子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自ら学び、自ら考える力を養うとともに、大学で学ぶために必要となる基礎的な知識やスキルを習得することを目的とする。

【到達目標】

- 1) 文献の内容を理解し、批判的に検討する力を身につける。
 - 2) 自分の考えを言葉にして伝える力、お互いの考えを尊重しながら議論を交わす力を身につける。
 - 3) 資料収集、レジュメの作成、レポートの作成等の基本的なスキルを身につける。
- 上記を通して、高校から大学への軟着陸を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献講読とディスカッションを中心に進める。授業の中で必要に応じて課題に対する講評を行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の説明と簡単な自己紹介
第2回	個人発表①	作品紹介を通したプレゼンテーションの練習
第3回	個人発表②	作品紹介を通したプレゼンテーションの練習
第4回	レジュメの作成に向けて	レジュメの作り方の説明
第5回	ディスカッション	テーマを選びディスカッションの練習
第6回	文献講読①	担当班による報告と議論
第7回	文献講読②	担当班による報告と議論
第8回	レポートの作成に向けて	レポートの書き方の説明
第9回	図書館ガイダンス	文献・資料の収集方法の説明
第10回	文献講読③	担当班による報告と議論
第11回	文献講読④	担当班による報告と議論
第12回	文献講読⑤	担当班による報告と議論
第13回	文献講読⑥	担当班による報告と議論
第14回	まとめ	読書レポートの提出と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、文献を読み、自分の考えをまとめておくこと。また、各自の発表やレポートの提出に向けて、計画的に準備を進めておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（発表、発言、参加姿勢など）
課題点 50%（レジュメ、読書レポート）

【学生の意見等からの気づき】

受講生が主体的に参加できるような場づくりを心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

BSP100EA

基礎演習 I

中村 尚樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

“モビリティ”に着目しながら日本の将来を展望する文献をテキストに、レジュメ作成と発表、コメントを通して、参加者のまなざしの違いを確認する。社会課題の解決策を検討しながら、主体的かつ論理的な思考力の習得を目的とする。

【到達目標】

- 1) 文献の意図を正確に理解することができる。
- 2) 問題意識をもって「問い」を発し、結論を導くことができる。
- 3) 以上を簡潔にまとめ、発表することができる。
- 4) 比較的短い文章で的確に自分の意見をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストからそれぞれ希望する章を選び、レジュメを準備したうえで毎回数人ずつ報告する。全員による質疑応答を踏まえ、授業終了後に報告者は概要をまとめたりレポートを、他の参加者はミニレポートを提出する。最終授業で、全体のまとめや復習をはじめ、授業で課したレポート等に対する講評や解説も行う。

なお、授業計画は受講生の報告希望内容や社会情勢の変化によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	報告順と内容決定。
第2回	報告の仕方ガイダンス	レジュメ作成の方法。
第3回	MaaSとCASEなど	担当者がレジュメで発表する。
第4回	移動弱者対策など	担当者がレジュメで発表する。
第5回	観光型MaaSなど	担当者がレジュメで発表する。
第6回	DiDi・クルーなど	担当者がレジュメで発表する。
第7回	電動キックボードなど	担当者がレジュメで発表する。
第8回	駐車場シェアリングなど	担当者がレジュメで発表する。
第9回	物流改革など	担当者がレジュメで発表する。
第10回	空飛ぶクルマなど	担当者がレジュメで発表する。
第11回	自動運転など	担当者がレジュメで発表する。
第12回	医療型MaaSなど	担当者がレジュメで発表する。
第13回	スマートシティなど	担当者がレジュメで発表する。
第14回	春学期のまとめ	全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テキストを事前に精読し、報告者はレジュメにまとめる。

【テキスト（教科書）】

中村尚樹「ストーリーで理解する日本一わかりやすいMaaS & CASE」(2020年4月、プレジデント社)

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

【報告回】報告担当者はレジュメ・プレゼンテーション 20点+終了後のレポート 15点=35点で評価する。

【ミニレポート】報告者以外は各回提出のミニレポートを5点満点で評価する。

【合計】ミニレポート提出は13回×5点=65点満点となる。報告回の評価とあわせ、100点満点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメ作成のポイントを授業冒頭で解説する。

【その他の重要事項】

テレビと雑誌メディアで報道経験のある担当者が、最新のトピックスを題材にしながら、社会分析の方法と、コミュニケーションスキルも学ぶ授業となる。

【Outline and objectives】

We will confirm the difference in the eyes of the participants through the creation of resumes, presentations, and comments, using the literature that looks at the future of Japan while focusing on "mobility". The purpose is to acquire independent and logical thinking ability.

BSP100EA

基礎演習 I

惠羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶための基本的な能力を身につけると共に、現代社会に対する自らの問題関心を深める。文献収集、レジュメ作成、発表・ディスカッション、レポート作成などのスキルを習得する。

【到達目標】

大学での学びにおいて必要な能力・スキルを習得すること。

- ・文献を読みこなす
- ・レジュメを作成し、討議する
- ・自らの問題関心を深め、文献やデータを自ら収集・読解し、学習を進める
- ・レポートを作成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基礎的な文献の輪読を通じてレジュメの作成法や文献の読み方について学習する。ディスカッションや個人研究に基づいたレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	大学での学び、ゼミの進め方
第2回	プレゼンテーション	参加者の自己紹介・関心を持ったニュースなどの紹介
第3回	文献購読1	創造的読書・批判的読書法
第4回	文献購読2	レジュメの作成とディスカッションの仕方
第5回	文献輪読1	報告と討議
第6回	文献輪読2	報告と討議
第7回	文献輪読3	報告と討議
第8回	文献輪読4	報告と討議
第9回	レポートの書き方	レポートの基本、研究方法、文章の書き方、作法
第10回	文献輪読5	報告と討議
第11回	文献輪読6	報告と討議
第12回	文献輪読7	報告と討議
第13回	文献輪読8	報告と討議
第14回	まとめ	レポートの報告と相互評価、秋学期に向けた相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読の準備（テキストを事前に読み、論点・疑問点をまとめておく）、レジュメの作成、レポート作成。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点—授業への参加度（10点）。
- ・レジュメの報告（30点）。

- ・各輪読回についての評価（10点）
- ・期末レポート（50点）

【学生の意見等からの気づき】

今年度より担当するため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ作成、レポート執筆などのための PC

【Outline and objectives】

The aim of this course is to develop students' basic academic skills.

BSP100EA

基礎演習 I

古川 早苗

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで、問題を与えられそれに答えていくというスタイルに慣れてきたのではないだろうか。しかし、大学では問題も自分で探すものであり設定していくものである。自分の設定した問題について自分自身で追求・探求していくための「基礎体力」を養うことが本演習の目的である。

【到達目標】

この演習を通じて、聞く・話す・読む・書く・調べる、そして何より考えることが、少しでも億劫でなくなり、面白く興味深いと感じられるようになることを目指す。と同時に、人間事象や社会事象についての視野や興味が柔軟さを持って広がっていくことが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

春学期は、レジュメの書き方や文献の探し方を学びつつ、教員の用意した文章や文献を読んで、レジュメの作成（→ 報告）、批判的検討、討論を中心に行う。また、秋学期でのゼミ論作成に向けて、論文とは何かということについての心づもり（準備）をしてもらう。

なお、春学期は教室での対面授業と Zoom を使用したオンライン授業を交互で行う予定である。初回がどちらになるか、また具体的な連絡事項（変更事項を含む）は、「学習支援システム」の「お知らせ」で伝えるので確認してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本演習の進め方についての説明／ゼミ参加者の自己紹介
第 2 回	本を用いた自己紹介＋「レジュメ」とは	図書館の本を借り出し、それを用いての自己紹介 ／「レジュメ」の説明
第 3 回	レジュメの書き方の練習＋討論 (1)	短い文章を用いてレジュメの作成
第 4 回	レジュメの書き方の練習＋討論 (2)	各自が準備してきたレジュメを用いてグループ毎に検討
第 5 回	文献の批判的検討 (1)	担当者がレジュメを準備して全体で検討・討論
第 6 回	文献の批判的検討 (2)	担当者がレジュメを準備して全体で検討・討論
第 7 回	文献の批判的検討 (3)	担当者がレジュメを準備して全体で検討・討論
第 8 回	文献の批判的検討 (4)＋「ゼミ論」とは	担当者がレジュメを準備して全体で検討・討論／ゼミ論作成（後期）に向け、「論文」の説明
第 9 回	文献の批判的検討 (5)	担当者がレジュメを準備して全体で検討・討論
第 10 回	文献の批判的検討 (6)	担当者がレジュメを準備して全体で検討・討論
第 11 回	文献の批判的検討 (7)	担当者がレジュメを準備して全体で検討・討論
第 12 回	図書館の利用ガイダンス	OPAC やデータベースの利用法、活用方法を知る（時期が前後する場合がある）
第 13 回	ゼミ論作成に向けた報告	各自、現時点でのゼミ論テーマ（案）とアプローチ方法について報告
第 14 回	小レポートの提出／秋学期からのゼミ論作成について	秋学期からの進め方とゼミ論作成に向けて夏休み中にしておいて欲しいことの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎回、レジュメ作成等の HW を課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『自分を知るための社会学入門』（岩本茂樹著、中央公論新社、2015）

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

提出物（50%）、平常点（50%）で行う。

【学生の意見等からの気づき】

春学期の演習内容から秋学期のゼミ論作成作業への移行を違和感がないように進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付や課題提出等のために「学習支援システム」を利用する。

【Outline and objectives】

The purpose of this exercise is to cultivate intellectual "basic physical strength" to explore the problems that you set yourself.

BSP100EA

基礎演習 I

増田 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学における「学び」のための基本的なルールや方法などを、基礎演習という集団の中で身につけることを目的としています。また、基礎演習での共同作業を通じて、自分の価値観を相対化し、視野を広げ、新しい友人を作ってほしいと思います。

【到達目標】

- ①文献を読み、レジメを作る。
- ②どのような資料をどのような方法で集めるのか、資料収集の方法の基礎を身につけられる。
- ③根拠に基づいて、論理的に議論できる。
- ④レジメを使ってプレゼンテーションが行える
- ⑤自ら課題を設定して、レポートを書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面とオンラインの併用で行います。奇数回が対面、偶数回がオンラインを予定しますが、変更になるかもしれません。

日程は不確定ですが、図書館ガイダンスを受講します。シラバスでは、第7回にしましたが、日程はまだ未定です。

また、いいお天気の時には屋外で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の進め方の説明 対面とオンラインの併用等 自己紹介①
2	自己紹介とプレゼンテーション	自己紹介② 各自が用意したトピックに基づいてやります。
3	キーワードを使った要約①	キーワードの大切さ、専門用語の大切さを学ぶ。
4	キーワードを使った要約②	キーワードの大切さ、専門用語の大切さを学ぶ。
5	レジメを書く①	文献を丁寧に読むというのを学ぶ
6	レジメを書く②	レジメの書き方を学ぶ
7	図書館の活用	本学の図書館ガイダンスを受ける
8	レジメを書く③	レジメの書き方を学ぶ
9	レジメを使った発表①	文献を使つての輪読の方法を学ぶ
10	レジメを使った発表②	文献を使つての輪読の方法を学ぶ
11	レジメを使った発表③	文献を使つての輪読の方法を学ぶ
12	レポートを書く①	レポート執筆のテーマ設定や構成の仕方について学ぶ
13	レポートを書く②	文献リストを作る。 レポート執筆の具体的方法について学ぶ
14	前期のまとめ	前期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。自己紹介、キーワードを使った要約等、各回のそれぞれについて、参加者全員に発表してもらいます。そのため、授業時間外には発表のための準備が必要となります。また授業後には、課題等も出ますので、しっかりとした復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示します。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は次のとおり。

- ①提出された課題（40 %）
- ②図書館ガイダンスへの参加（10 %）
- ③平常点（出席状況、演習内での発言など）（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当しなかったので、とくにない。

【学生が準備すべき機器他】

携行する必要はありませんが、可能なら自分用のノートパソコンを準備することが望ましいです。

【その他の重要事項】

基礎演習Ⅰ、Ⅱはセットで受講してください。

出席を重視するので、休まずに出席してください。

基礎演習は少人数で学べるいい機会です。コロナの中で、対面授業が少なくなりがちですが、新しい友人を作り、充実した大学生活を送れるように頑張っていきましょう。

【Outline and objectives】

The purpose of this basic seminar I is to learn basic rules, and techniques for further activities in the university.

BSP100EA

基礎演習Ⅰ

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、各学生の学術的好奇心を育成するとともに、研究活動を実施するための基礎的な素養を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

- ・問題意識を醸成する
- ・指定された文献を読み、レジюмеを作成する
- ・プレゼンテーションを行う
- ・グループで討議し、考えを深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的な講義のスタイルは、文献を指定し、受講者は毎回レジюмеを作成すると同時に、担当を決めて報告したのち、グループでディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	ガイダンス	授業の概要と自己紹介
第02回	関心ある物事の発表（1）	自分が関心のある物事をみんなの前で発表する
第03回	関心ある物事の発表（2）	自分が関心のある物事をみんなの前で発表する
第04回	キャンパスツアー	多摩キャンパスを散策する
第05回	レジюмеの作成	指定された文章を読み、レジюмеを作成する
第06回	資料収集の方法	資料や文献のリサーチの仕方について学ぶ
第07回	文献講読（1）	担当学生がレジюмеを発表し、質疑と討議を行う
第08回	文献講読（2）	担当学生がレジюмеを発表し、質疑と討議を行う
第09回	文献講読（3）	担当学生がレジюмеを発表し、質疑と討議を行う
第10回	文献講読（4）	担当学生がレジюмеを発表し、質疑と討議を行う
第11回	文献講読（5）	担当学生がレジюмеを発表し、質疑と討議を行う
第12回	文献講読（6）	担当学生がレジюмеを発表し、質疑と討議を行う
第13回	文献講読（7）	担当学生がレジюмеを発表し、質疑と討議を行う
第14回	文献講読（8）	担当学生がレジюмеを発表し、質疑と討議を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献はきちんと読み、基本的には毎回レジюмеを提出すること。

【テキスト（教科書）】

授業内で指定します

【参考書】

授業内で指定します

【成績評価の方法と基準】

授業に対する積極的な参加や発言などの平常点 50 %
レジュメなどの課題の提出 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

授業計画は、受講者や進行の状況によって若干の変更があります

【Outline and objectives】

The purpose of this introductory seminar is to cultivate your academic interests and to acquire fundamental skills for you to conduct an intellectual activity.

BSP100EA

基礎演習 I

松下 峻也

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、「大学で学ぶ」ために必要な技能と作法を取得します。具体的には、学術書を読む力、みずから問いを立てる力、史資料を調べ、その成果を報告し、他者と議論する力を、学生が身につけることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、文献講読をとおして既存の知識や知見から学ぶとともに、ディスカッションによってその成果を共有します。学生が、学術書を精確に読み解き、その内容を他者にたいして報告/他者とともに議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員によるレクチャーをくわえながら、学生による文献講読の報告とディスカッションを中心に進めていきます。学生の課題（提出物）にたいするリプライは、毎回の演習で口頭によっておこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の概要や目的の解説と、教員と学生による自己紹介
2	文献講読の準備①	学術書の「読みかた」のレクチャーと、講読文献の決定
3	文献講読の準備②	「報告のしかた」のレクチャー
4	文献講読①	レジュメの報告とディスカッション
5	文献講読②	レジュメの報告とディスカッション
6	文献講読③	レジュメの報告とディスカッション
7	文献講読④	レジュメの報告とディスカッション
8	記者という職に学ぶ	社会に問いを立て、調査し、報道する職業である「記者」の検討
9	文献講読⑤	レジュメの報告とディスカッション
10	文献講読⑥	レジュメの報告とディスカッション
11	文献講読⑦	レジュメの報告とディスカッション
12	文献講読⑧	レジュメの報告とディスカッション
13	課題レポートの作成の準備	レポートの「書きかた」のレクチャー
14	総括	本科目の総括と、期末課題（レポート）の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、文献講読の報告とディスカッションの準備が求められます。また、期末課題（レポート）の作成も授業時間外におこないます。本科目の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義のなかで指定します。

【参考書】

上野千鶴子, 2018, 『情報生産者になる』筑摩書房。
好井裕明, 2014, 『違和感から始まる社会学——日常性のフィールドワークへの招待』光文社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（文献講読の報告とディスカッションへの参加）を 50 %、期末課題（レポート）を 50 % として評価します。特別な理由（必要な書類の提出）のない欠席は、累計 4 回で落第とします。

【学生の意見等からの気づき】

初学者でも理解できるよう、レクチャーをゆっくりとおこないます。

【Outline and objectives】

In this class, students learn skills and manners necessary for academic research.

BSP100EA

基礎演習 I

左古 輝人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学び方を知り、社会学を学ぶために必要な前提知識を修得する

【到達目標】

文化・常識の多様性・相対性を理解する
 仮説、検証、考察のサイクルを修得する
 文献を探し、読み、理解する基本的なやり方を身につける
 自分が学んだ事柄を他者に説明するやり方を身につける
 他者の発表の聞き方を身につける
 ディスカッションのやり方を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミナール形式。テキストを講読し、上記の到達目標を目指す。
 90 分のうち、最初の 40 分で発表。次の 30 分で質疑応答、補足。最後の 30 分でグループディスカッションとまとめ。
 授業を対面でおこなうか、オンラインでおこなうかについては、大学の判断に基づき、国や都の動向を考慮に入れ、その都度担当教員が判断し、学習支援システムを通して告知する。
 不測の事態によって各回の授業計画を変更する必要がある場合には、学習支援システムでその都度告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	最低限順守すべき事項の確認。自己紹介。大学での学びが高校までとどう違うか。
2	レジュメ作成の方法	形式。何を記載するか。図書の読み方。引用・参照。
3	産業資本制 テキスト第 3 章	産業資本制の構造と歴史を概観する。
4	社会学の生成 テキスト第 1 章	19 世紀、社会学はなぜ生まれ、何を問題にしたか窺部。
5	賃労働群衆の生成 テキスト第 5 章	産業資本制が全面展開することで、人々の暮らしがどう劇的に変わったか学ぶ。
6	大量生産システムの完成 テキスト第 6 章	20 世紀初頭の米国について学ぶ。
7	世界大戦の時代 テキスト第 7 章	20 世紀を特徴づけた 2 つの世界大戦について学ぶ。
8	消費化時代の開幕 テキスト第 8 章	1920 年代から 30 年代米国の模索について学ぶ。
9	消費化の確立 テキスト第 8 章	1950 年代米国における使い捨て文化の確立について学ぶ。
10	家庭と女性 テキスト第 9 章	産業化・消費化による女性の暮らしの変化を学ぶ。
11	恋愛結婚 テキスト第 9 章	産業化・消費化による親密関係の変化を学ぶ。
12	公害から環境問題へ テキスト第 10 章	消費化社会の負の帰結について学ぶ。
13	情報革命 テキスト第 1 章	情報革命が消費化社会に対して持つ意味を学ぶ。
14	グローバル化 テキスト第 12 章	グローバル化がなぜ進行し、何をもたらしているのか学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所を予習してくる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

左古輝人『畏怖する近代』法大出版局 2006 年。

【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書 1998 年。
 佐伯啓思『欲望と資本主義』講談社現代新書 1998 年。

【成績評価の方法と基準】

発表の質30%、ディスカッションにおける発言の量と質40%、提出物の質30%。

【学生の意見等からの気づき】

運営の適切さが確認できた。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、インターネットに接続された端末機（スマートフォン、タブレット、PCなど）を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設定しない。電子メールでの質問に答える。面談したい場合は事前に電子メールにて問い合わせること。

【Outline and objectives】

This seminar introduces students to the scientific thinking especially in the study of modern social phenomena.

BSP100EA

基礎演習 I

本田 親史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

比較的平易な文章を通じ専門的な勉強に入る前の教養力をつける。

【到達目標】

1) 概念等について自ら調べて内容を深めながら批判的に読み解いていく力をつける 2) そうして得た知識を分かりやすく説明していく力をつける一の 2 点です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は新聞などに掲載された専門家の各種知見を一定量購読し、その内容について理解・検証・議論していく。後半はその蓄積の上で教科書に記載されている各専門家の知見を同様の方法で読み解いていく。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロ	ガイダンスなどと班作成
第 2 回	論壇記事解読演習 A-1	用語を調べ内容を吟味する
第 3 回	論壇記事解読演習 A-2	レジュメ化し深く解読する
第 4 回	論壇記事解読演習 B-1	用語を調べ内容を吟味する
第 5 回	論壇記事解読演習 B-2	レジュメ化し深く解読する
第 6 回	論壇記事解読演習 C-1	用語を調べ内容を吟味する
第 7 回	論壇記事解読演習 C-2	レジュメ化し深く解読する
第 8 回	図書館ガイダンス	図書館の使い方を学ぶ 1
第 9 回	教科書使用開始の説明	最初と最後部分閲読など
第 10 回	I 危機の時代見据える (1)	該当論考の閲読・検証 (1)
第 11 回	I 危機の時代見据える (2)	該当論考の閲読・検証 (2)
第 12 回	I 危機の時代見据える (3)	該当論考の閲読・検証 (3)
第 13 回	春学期まとめ (1)	レポートの書き方解説
第 14 回	春学期まとめ (2)	レポート提出・前期総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者もしくはグループは期日までに発表できる状態しておくこと。それ以外の人・グループも突然の指名に対応できるよう予習や調査をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

村上陽一郎編,2020,「コロナ後の世界を生きる—私たちの提言」, 岩波新書,ISBN978-4-00-431840-8

※授業予定を見てお分りの通り教科書を使うのは途中からになりますので、購入はその段階になってからで結構です。

【参考書】

国語辞典は常に持参してください

【成績評価の方法と基準】

・平常点 50%+レポート 50 %。平常点とは出席状況に加え、プレゼンテーション能力および討論への参加度を総合的に加味したものを指す。

【学生の意見等からの気づき】

・発表者以外の受講者がテキストを読んでこないという指摘があります。全員きちんと授業範囲を読んでおくこと

【その他の重要事項】

・使用書籍の購入については授業中の指示に従ってください。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts on social sciences through basic readings and discussions.

BSP100EA

基礎演習 I

高橋 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶための基本的な姿勢を身につけ、「話す・聞く・読む・書く」能力を向上させる。さまざまな問題への意識を高め、自ら「考える力」を磨く。

【到達目標】

- ・関心があるテーマは何かを考え、図書館を利用しながら関連文献を読み、要約とコメントを作成することができる。
- ・わかりやすく説明し、グループ内で建設的な議論・討論ができる能力を身につける。
- ・レポートを書くうえで基本的なルールを習得し、「基礎演習 II」の準備をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・上記の目標を達成するために、授業内外の各自の学習とグループワークを通じて、授業計画で列挙する課題に取り組んでいく。具体的な進め方については「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明と自己紹介
第 2 回	本・新聞記事の紹介（1）	興味がある本、関心をもった新聞記事を要約・報告
第 3 回	本・新聞記事の紹介（2）	興味がある本、関心をもった新聞記事を要約・報告
第 4 回	グループワークの準備	グループに分かれて、報告に関する議論
第 5 回	ディスカッション	興味・関心のあるテーマは何か、どのような問いが立てられるかをグループで議論
第 6 回	図書館ガイダンス	図書館で OPAC 等の利用法を学ぶ
第 7 回	レジュメを作る	レジュメの書き方と口頭発表の説明
第 8 回	文献講読（1）	レジュメ作成と口頭発表、議論
第 9 回	文献講読（2）	レジュメ作成と口頭発表、議論
第 10 回	文献講読（3）	レジュメ作成と口頭発表、議論
第 11 回	文献講読（4）	レジュメ作成と口頭発表、議論
第 12 回	小レポートの作成へ向けて（1）	レポートの書き方、ルールの説明（著作権についての理解）
第 13 回	小レポートの作成へ向けて（2）	小レポート作成へ向けたテーマの決定、関連文献の調査
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人課題とグループワークに関わる文献の講読、レジュメの作成や小レポートの執筆などがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、課題（報告、小レポート）50%

【学生の意見等からの気づき】

Zoom を用いたオンライン授業もあるが、昨年同様スムーズに進めたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the important skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

BSP100EA

基礎演習 I

土倉 英志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究活動を展開するための基本的なスキルを身につけることを目的とする。「研究するとはどういうことか」「問いを立てるとはどういうことか」「研究にはどのような手法があるのか」といったことを、文献講読を通じて理解することを旨とする。

【到達目標】

- ・文献を批判的に読解するスキルを習得する
- ・レジュメを作成し、報告するスキルを習得する
- ・グループディスカッションに参加するスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・受講者による文献報告を中心に展開する。受講者ごとに、またはチームごとに担当の文献を割りあてる。担当者にはレジュメを作成し、報告してもらおう。これを受けてディスカッションを行なう。必要に応じて教員が説明を行なう。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要の説明、自己紹介、役割分担
2	文献講読の説明	文献の読み方・レジュメの作成方法の説明
3	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
4	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
5	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
6	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
7	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
8	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
9	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
10	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
11	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
12	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
13	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
14	まとめ	まとめ、夏休みの課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文献を報告する準備を行なう。レジュメは指定の期日までに配布/アップすること。
- ・適宜課される課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

・テキストの詳細は初回授業で説明するため必ず出席してください。

【参考書】

・授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（文献報告と質疑応答・グループディスカッションへの参加）（50%）と授業内外で課す課題の質（50%）で判断します。
- ・指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となります。無断欠席は厳しく評価します。詳細は初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

・レポートをまとめるスキルを身につけられるよう課題を設けたい。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業計画や進めかたは、受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがあります。
- ・秋学期とあわせて受講することを求めます。夏休みにも課題があります。

【Outline and objectives】

This course is designed to assist students' learning at university. In this class students read some basic articles in the social sciences and have group discussions. The objective of this course is to develop your study skills: read research articles more insightfully, make good presentations, communicate effectively with others, etc.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

李 舜志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎演習Ⅱでは、専門演習（専門学習）への橋渡しと、個人の問題関心の醸成を目的とする。

【到達目標】

専門演習に進むにあたって、自らの問題関心を見出し、対象への多様なアプローチを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

それぞれの問題関心を見つけ出すことから始め、そのテーマに応じた資料収集や調査、分析を行う。それらの成果を他の受講者の前で発表（プレゼン）する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	今後のスケジュールの確認
2	各自のテーマの深化①	自分の問題関心を見つける
3	各自のテーマの深化②	設定したテーマの先行研究を整理し、資料を探す
4	ディスカッション①	問題関心の近い者同士でグループを作り、ディスカッションを行う
5	ディスカッション②	問題関心の異なるグループ同士でディスカッションを行う
6	問いの練り直し	プレゼンに向けて、再度自らの問いを練り直す
7	プレゼンの方法①	プレゼンテーションの基礎を学ぶ
8	プレゼンの方法②	パワーポイントの作り方を学ぶ
9	プレゼンの方法③	聴衆にいかにか訴えるかを学ぶ
10	プレゼン①	プレゼンテーションを行う
11	プレゼン②	プレゼンテーションを行う
12	プレゼン③	プレゼンテーションを行う
13	プレゼン④	プレゼンテーションを行う
14	まとめ	これまでの授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人のテーマにもとづき、文献の講読や資料の収集、プレゼン資料の作成を必要に応じて行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

井下千以子『思考を鍛える レポート・論文作成法第三版』、2019年、慶應義塾出版会。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

レジュメと口頭発表の内容（60%）、議論への参加姿勢など平常点（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Preparation for seminar and awareness of the issues

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

飯野 智子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グループ作業では、テーマの設定、研究計画の作成、資料収集を行い、分析した結果を発表する。他の発表については評価をし、単に発表するだけで終わらせず、さらによい研究にするにはどうすればよいか検討する。また、社会学の基礎的な文献を講読する。さらに個人の関心に従って研究を進め、個人レポートを作成する。

【到達目標】

図書館、インターネットを十分活用し、必要な資料を収集できるようにする。グループ発表では前期に学んだ議論や発表の仕方を活かし、より効果的な研究発表ができるようにする。さらに、他の発表を評価し、自分たちの発表への評価を聞き、よりよい研究にするためにどうすればよいか検討する。また、自身の関心のある分野から研究テーマを設定し、レポートを書く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で行う。グループ自由テーマについての研究発表、文献の講読と発表を行う。発表は必ず全体討論を伴う。個人レポートのための研究についてもクラスで発表する。発表、課題について毎回講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学習計画、グループ分け
第2回	グループ自由テーマ作業	テーマ決定、資料収集
第3回	グループ自由テーマ討論	分析、グループ討論
第4回	グループ自由テーマまとめ	レジュメの作成
第5回	グループ発表前半	発表と全体討論、批評
第6回	グループ発表後半	発表と全体討論、批評
第7回	ディベート	ディベートを行い、評価し合う
第8回	文献講読 1 班発表	発表と討論
第9回	文献講読 2 班発表	発表と討論
第10回	文献講読 3 班発表	発表と討論
第11回	文献講読 4 班発表	発表と討論
第12回	文献講読 5 班発表	発表と討論
第13回	レポート発表前半	個人レポートの要旨を発表
第14回	レポート発表後半	個人レポートの要旨を発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表についての資料収集や分析、レジュメの作成をする。テキストは事前に読んでおく。個人レポートのための資料収集や分析、個人レポートの執筆を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準。

【テキスト（教科書）】

森下伸也、君塚大学、宮本孝二『パラドックスの社会学 パワーアップ版』1998、新曜社

【参考書】

ディベートやグループ討論のテーマにより、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 40%（責任を持って作業しているか、積極的に討論に参加しているか） 課題の提出 20%（レジュメの評価） 学年末個人レポート 40%（書式、資料の活用、内容）

【学生の意見等からの気づき】

一人一人のレポートを充実させるよう、計画書の提出とアドバイスなどを頻繁に行う。

【Outline and objectives】

In group work, students will set their own research theme, create a research plan, collect data and present their analytical findings. They will critique other students' presentations, and think about how to improve their research beyond the presentation. They will also read basic literature on sociology. In addition, they will continue research based on their area of interest and make a report.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

古澤 聡司

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、「基礎演習Ⅰ」を学んだ学生を対象とした大学での勉強の仕方や技術を身につけてもらう科目です。一人ひとりがテーマを設定して、必要な文献を探し読み、仲間の意見にも耳を傾け、自分なりの答えを導き出していきます。

【到達目標】

自分で設定したテーマに関する自分なりの考えをゼミ論文としてまとめあげることができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「基礎演習Ⅰ」で学んだ演習での報告の仕方、レジュメの書き方、資料収集の方法、討論の仕方を踏まえ、ゼミ論文を演習形式でまとめあげていきます。最終授業で、課題に対する講評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	秋学期の授業計画。
第2回	ゼミ論文の執筆指導（その1）	先行研究の紹介への個別指導。
第3回	ゼミ論文の執筆指導（その2）	先行研究の紹介への個別指導。
第4回	ゼミ論文の執筆指導（その3）	先行研究の紹介への個別指導。
第5回	ゼミ論文の執筆指導（その4）	先行研究の紹介への個別指導。
第6回	ゼミ論文中間報告会	論文の構成の個別発表。
第7回	ゼミ論文中間報告会	論文の構成の個別発表。
第8回	ゼミ論文中間報告会	論文の構成の個別発表。
第9回	ゼミ論文中間報告会	論文の構成の個別発表。
第10回	ゼミ論文の執筆指導（その5）	論文の骨子への個別指導。
第11回	ゼミ論文の執筆指導（その6）	論文の骨子への個別指導。
第12回	ゼミ論文の執筆指導（その7）	論文の骨子への個別指導。
第13回	ゼミ論文の執筆指導（その8）	論文の骨子への個別指導。
第14回	ゼミ論文提出および講評	秋学期の反省会。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分で設定したテーマに関する文献の講読は各自、事前学習しておくこととする。レポート役を担当する個人は、事前にレジュメの作成を必須とする。なお、準備学習・復習時間の目安は、各2時間とする。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。

【参考書】

とくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業内での発言、報告の仕方、レジュメの書き方、討論の仕方、ゼミ論文の提出など平常点を50%、ゼミ論文の内容評価を50%で、合計点を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業が学生との相互作用の過程であることをいつもながら思い知らされる。

【Outline and objectives】

The final goal in this class is to write out an article in Japanese.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の諸問題と自分の生き方とを結び付けて、学問的に考えて、議論しあう。

【到達目標】

①学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。>

読書会形式でやや短めのテキストを精読します。担当学生が要旨と論点を報告し、講師を含めて議論していきます。受講生は、毎回「授業日誌」を作成し、それをもとに少人数グループと全体とで議論を進めます。最後の2回は、各自が自由論題で学術論文形式で作成してきたゼミ自由論文の報告会を行います。授業に関するさまざまな質問などへのフィードバックは、授業時間に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代社会の諸問題の学問的解明と私たちの生き方	授業説明と報告者決定、役割分担など。
2	はじめに	報告と討論
3	第2部1章ナミビア	報告と討論
4	第2部2章ブラジル	報告と討論
5	第2部3章ナミビア	報告と討論
6	第2部4章インド	報告と討論
7	第2部5章アラスカ	報告と討論
8	第2部6章イラン	報告と討論
9	第1部神学的まえがき、1章社会実験	報告と討論
10	第1部2章影響評価前半	報告と討論
11	第1部2章影響評価後半	報告と討論
12	第1部第3章全国の実施	報告と討論
13	第1部第3章全国の実施後半	報告と討論、授業日誌提出。
14	ゼミ自由論文検討会	各自のゼミ論文を回覧して、評価を書き入れていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の4項目を含むこと。各回のテキスト部分について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんな話合ってみようこと。さらに、最後の2回までに、自由論題での学術論文形式のゼミ自由論文を作成していただく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年、定価2000円プラス税）。

【参考書】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2021年7月刊行予定）。
ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアート』（法律文化社、2016年）。

【成績評価の方法と基準】

最終回に提出された授業日誌およびゼミ自由論文について、50%ずつ100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験やレポートではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発 NGO での長年の活動経験と観察を生かした教室での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

加藤 寛之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学習するに際しての基本的な態度と作法を学ぶとともに、社会的問題への関心と好奇心を養成する。

【到達目標】

個別単位、グループ単位で種々の課題に取り組むことにより、社会科学を学習するうえで必要な、読む能力、聞き取る能力、話し発表する能力、書く能力、そして主体的に考える能力を醸成する。春学期で学んだ学問的な研究方法を課題に活用することにより、各自の研究能力を進め、その結果を論文にまとめて、発表する能力を強化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献の講読、資料の収集、レジュメの作成、ゼミ生との議論や協力、図書館の利用、論文の作成、報告・発表などのプロセスを体験することにより、基本的な学習態度と学習作法を身につける。

授業計画は、概ね、以下のとおりである。なお、受講者の状況や授業の進行状況を踏まえ、変更する可能性もある。

原則対面で実施し、フィードバックは毎回課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明 基礎演習Ⅰの総括
2	解くべき問題を設定する（1）	問題意識を踏まえての研究テーマの発表
3	解くべき問題を設定する（2）	問題意識を踏まえての研究テーマの発表
4	先行研究を調査する	図書館等を利用した情報収集
5	先行研究を読み、議論する（1）	文献講読を踏まえてのディスカッション
6	先行研究を読み、議論する（2）	文献講読を踏まえてのディスカッション
7	先行研究を読み、議論する（3）	文献講読を踏まえてのディスカッション
8	ストーリーを創る（1）	研究テーマのアウトライン発表
9	ストーリーを創る（2）	研究テーマのアウトライン発表
10	論文骨子の作成	研究テーマについての論文骨子作成に向けての検討
11	論文骨子発表（1）	研究テーマについての論文骨子発表と議論
12	論文骨子発表（2）	研究テーマについての論文骨子発表と議論
13	ゼミ論をまとめる（1）	ゼミ論作成の検討会
14	ゼミ論をまとめる（2）	論文作成についての個別相談を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題ごとに、文献講読、レポート・論文作成など、種々の授業時間外学習が要請される。発表・提出日に間に合うように、各自、計画的かつ主体的に準備を進めることが望まれる。授業時間外の学習時間として各2時間が求められます。

【テキスト（教科書）】

授業で指示する。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

大学で学習する際に必要な基礎的な知識と主体的な考察力、考えをまとめ発表する能力について、以下の方法で評価する。

課題（報告、レポート、論文等）70%、平常点（授業への主体的参加、発言、貢献等）30%

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

毎回の出席と授業への主体的な参加が原則です。授業では毎回、質問や意見を求められた際に積極的に発言すること、他のゼミ生の意見を踏まえつつ自分なりの考えを発信することが期待されています。秋学期における詳細な事項は、初回授業で説明・相談するので、履修予定者は必ず初回の授業に参加すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students needed to achieve a better performance in their university studies.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ**兼子 諭**

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レポートの完成が後期演習の目的である。

【到達目標】

レポート（7000字以上）の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会科学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

夏季休暇中に執筆したレポートを発表し、形式や内容を参加者で検討する。また、それをもとに完成稿の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	各自のテーマ発表
2	グループでの検討①	学生間でのレポートの検討
3	グループでの検討②	学生間でのレポートの検討
4	レポート発表①	各自のレポートの発表と検討
5	レポート発表②	各自のレポートの発表と検討
6	レポート発表③	各自のレポートの発表と検討
7	レポート発表④	各自のレポートの発表と検討
8	レポート発表⑤	各自のレポートの発表と検討
9	レポート発表⑥	各自のレポートの発表と検討
10	レポート発表⑦	各自のレポートの発表と検討
11	レポート発表⑧	各自のレポートの発表と検討
12	2年次以降の研究テーマの検討	2年次以降の研究テーマの検討
13	専門演習の検討	専門演習の検討
14	レポートの総評	レポートの総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人発表やレポートの加筆・修正のための準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

後期の成績評価の基準は次の通り。

①レポートの発表（30%）

②レポート完成稿（7000字以上）の提出（60%）

③平常点（出席状況、演習内での発言など）（10%）

①から③のいずれかが欠ければ単位は落第とする。出席や欠席、遅刻については前期と同様。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講生より、個人研究の発表に後期は特化する、自身の発表以外の回の参加意欲がやや低下するという意見があった。このことを考慮して、学生同士での検討時間を拡充しつつ、個人発表に対する質問・コメントなどを平常点として採点対象とすることとした。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってはノートパソコンの準備をお願いする。

【その他の重要事項】

自分のレポートはもちろんのこと、参加者全員のレポートが充実するよう積極的なコメントをお願いします。特に、グループでの検討の際には、他の参加者のレポートの充実も図るよう心がけましょう。

【Outline and objectives】

The purpose of latter seminar is completed report.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

岩城 邦義

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学び方の基本的な作法を習得していく中で、自分が何に興味があるのかを発見し、次年度のゼミ選択の際の研究領域やテーマ、また大学において何を学びたいのかを明確にしていくことが目的となる。

【到達目標】

大学での発表や議論の仕方を身に付け、各自が興味関心のあることについて能動的に学んでいく姿勢の習得を目指し、ゼミ論文を提出してもらうことが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

グループでのテーマ決定や課題への取り組み、各自が興味関心のあるテーマや領域を発表し、論文の書き方について、オンライン授業を交え学んでいく。また、適時課題に対して講評する。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期のガイダンス	秋学期についての説明
2	グループワーク①	テーマの決定と課題への取り組み
3	グループワーク②	課題への取り組み
4	グループワーク③	課題への取り組み
5	グループ発表①	担当グループの報告と討議
6	ゼミ論文のテーマ探し	各自ゼミ論文のテーマ探し
7	グループ発表②	担当グループの報告と討議
8	先行研究	各自ゼミ論文の先行研究についてのまとめ
9	グループ発表③	担当グループの報告と討議
10	個人研究報告①	ゼミ論文の中間発表
11	グループ発表④	担当グループの報告と討議
12	個人研究報告②	ゼミ論文の中間発表
13	ゼミ論文についての確認	形式についての確認
14	年間のまとめ	年間のまとめ、ゼミ論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ発表に向けたグループ活動・資料の作成、ゼミ論文執筆のための発表準備など。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ全体ならびにグループ活動への参加（60%）、ゼミ論文（40%）をもとにして総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The main aims of this course are to give students the opportunity to develop knowledge and skills and to make them realize what they are interested in.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

山田 唐波里

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生がそれぞれの問題関心を「研究」として具体化できるようにすることを目的とする。

【到達目標】

それぞれの問題関心を探ることから始まり、それを学問的な「問い」として立て、その「問い」にアプローチするために必要な「資料収集」を行い、最終的に「論文（ゼミ論）」という形でまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自の問題関心に沿った発表をもとにディスカッションを重ねることで内容を深めていく。それと並行して、「ゼミ論」を書くうえで必要となる基本的なスキルについては、適宜授業で取り上げる。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う（ただし、授業計画は授業の展開により、若干の変更があり得る）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本演習の概要説明
2	「問い」を立ててみる	各自の研究テーマの報告
3	「問い」の立て方	先行研究の整理法の説明
4	「問い」を深める	先行研究の整理をふまえた「問い」の報告
5	ゼミ論の執筆に向けて	ゼミ論の書き方の説明
6	中間報告Ⅰ	各自のゼミ論の中間報告と検討
7	中間報告Ⅰ	各自のゼミ論の中間報告と検討
8	中間報告Ⅰ	各自のゼミ論の中間報告と検討
9	中間報告Ⅰ	各自のゼミ論の中間報告と検討
10	中間報告Ⅱ	各自のゼミ論の中間報告と検討
11	中間報告Ⅱ	各自のゼミ論の中間報告と検討
12	中間報告Ⅱ	各自のゼミ論の中間報告と検討
13	中間報告Ⅱ	各自のゼミ論の中間報告と検討
14	まとめ	ゼミ論の提出と授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最終目標となる「ゼミ論」の完成に向けて、各自授業時間外に問題関心の探求、資料の収集、報告資料の作成、ゼミ論の執筆などが必要となる。

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加姿勢・貢献）30%、レジュメ報告とゼミ論 70%。
・ゼミ論の中間報告、ゼミ論の提出のいずれかが欠けた場合でも落第とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの授業の回は、学習支援システムを通じて資料を配布する。

【Outline and objectives】

The objective of this seminar is to enable students to materialize their interests in the form of research.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

吉村 真子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎演習は、「演習（ゼミナール）」とは何かを体験し、学ぶことが課題です。演習での報告・議論・司会の仕方、レジュメの書き方、ゼミ論文の準備と執筆、ディベートの仕方などをきちんと学ぶことを課題とします。

【到達目標】

演習での報告・議論・司会の仕方、ゼミ論文の書き方、ディベートの仕方などを学び、また、演習での報告や議論を進めていく中で、自分自身の研究テーマを考えていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基礎演習は、1 年生が演習を体験し、2 年以降の専門演習の準備をする場です。また同時に、大学に入って「自分の居場所」「仲間との出会い」の場でもあります。基礎演習では、演習での報告・議論・司会の仕方、ゼミ論文の書き方、ディベートの仕方などを学びます。とにかく「出席」すること—そして何かしゃべってみましょう。「出席」と「参加」が演習/ゼミの基本です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期の打ち合わせ	秋学期のゼミの日程と課題、ディベートについて打ち合わせ。
第 2 回	テキストの報告と議論 (1)	3 班の報告と議論①
第 3 回	テキストの報告と議論 (2)	4 班の報告と議論②
第 4 回	テキスト全体のまとめと議論	テキスト全体の論点とコメントの提出と議論。
第 5 回	ディベートの準備	ディベートの準備と実施について
第 6 回	ディベート (1)	ディベートの実施 (2 つの班で対抗)、残りのゼミ生は審査。
第 7 回	ディベート (2)	ディベートの実施 (2 つの班で対抗)、残りのゼミ生は審査。
第 8 回	ゼミ論文のレジュメと章構成	ゼミ論文のテーマと章構成、レジュメの書き方。
第 9 回	ゼミ論文の報告 (1)	ゼミ論文のレジュメ報告と議論①
第 10 回	ゼミ論文の報告 (2)	ゼミ論文の報告と議論②
第 11 回	ゼミ論文の報告 (3)	ゼミ論文の報告と議論③
第 12 回	ゼミ論文の報告 (4)	ゼミ論文の報告と議論④
第 13 回	ゼミ論文の提出と専門ゼミ・ガイダンス	ゼミ論文の提出、専門演習の説明と議論。
第 14 回	ゼミ論文の講評と専門演習について考える	ゼミ論文の講評、専門演習について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告や議論のため事前の勉強やレジュメ準備、ディベートの準備やゼミ論文準備など、教室外での個人・チームでの学習が求められます。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、ゼミの初回に紹介します。

【参考書】

参考書などは適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①ゼミの準備・発言・議論への参加 (60%)、②レジュメや小レポート、ゼミ論文など提出物 (40%)、を基本として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の積極的な議論がさらに進展するとういと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

今年度は、対面授業とオンラインの実施を隔週で行う可能性もあるので、その準備をしておいてください。

【Outline and objectives】

This course is a tutorial seminar in a small class of first-year students. This course is to study analyzing social issues with presentations, discussion, debates, thesis, and so on. Students are required to prepare for class discussion and presentations each week and to submit the final term-paper.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

島田 昭仁

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学の学び方、論文の書き方について基本的な能力をつけることを目標とします。

【到達目標】

社会科学系の論文構想ができる。質的社会調査及び量的社会調査が企画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は質的調査・量的調査のちがひ、理論研究・実践研究・創造研究のちがひ、帰納法・演繹法のちがひ、後半は社会学的構想力について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	フィールドワーク発表	夏合宿のふりかえり
2	論文の書き方	『住民権の都市計画』第1章
3	論文の書き方	『住民権の都市計画』第2章
4	論文の書き方	『住民権の都市計画』第3章
5	論文の書き方	『住民権の都市計画』第4章
6	研究方法	『会話顕微鏡』1章
7	研究方法	『会話顕微鏡』2章
8	研究方法	『会話顕微鏡』3章
9	社会学的構想力	『ハーバート・スペンサー』前
10	社会学的構想力	『ハーバート・スペンサー』中
11	社会学的構想力	『ハーバート・スペンサー』後
12	社会学的構想力	『プロテスタンティズムの倫理…』前
13	社会学的構想力	『プロテスタンティズムの倫理…』後
14	プレゼン方法	各班発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『住民権の都市計画』, 岩見ほか, 自治体研究社, 2019

『会話顕微鏡』 島田, コミュニティ科学出版, 2020

『ハーバート・スペンサー コレクション』(ちくま学芸文庫), 2017

『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(岩波文庫), 1989

【参考書】

参考書は授業内で配布します。

【成績評価の方法と基準】

以下、平常点によって評価する。レジュメ発表における要約能力(50%)、プレゼン能力(50%)を評価。

【学生の意見等からの気づき】

重要なことは繰り返して説明します。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom に対応した環境

【その他の重要事項】

授業内で説明する。

【Outline and objectives】

It's learned about the manner of the learning and the attitude in the university (in particular, the social science system).

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

白田 秀彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「調べる・整理する・構成する・発表する」ための技法を学び、大学の講義に支障のない能力を得ること。

【到達目標】

「調べる・整理する・構成する・発表する」ための技法を計画的かつ着実に実践できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**「調べる・整理する・構成する・発表する」という課程を計画的に遂行することでその手順を理解する。
新型コロナウイルス状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面とはほぼ同内容の Zoom による演習となる可能性がある。演習に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	計画する 1	プレゼンテーション形式による発表のテーマを選定するための事前調査を行う。
2	計画する 2	発表を行うための作業計画を作成する。
3	計画する 3	作業計画の評価と計画の見直しのうえ、計画を決定する。
4	調べる 1	図書館等を用いて資料を集める。
5	調べる 2	インタビューやアンケートの基本的な技法について学ぶ。
6	調べる 3	インタビューやアンケートの結果について整理する技法を学ぶ。
7	整理する 1	資料を整理し、発表の内容を構成する。
8	構成する 1	発表の構成案の報告を行う。
9	制作する 1	構成案に沿って、各種資料をどのようにレイアウトするのか、コンテを作成する。
10	制作する 2	主として画像を発表に用いることができるように処理する技法について学ぶ。
11	制作する 3	コンテに沿って発表用資料の作成を行う。
12	制作する 4	コンテに沿って発表用資料の作成を行う。
13	発表する 1	編成された班のうち前半の班の発表を行う。報告の技法について実践する。
14	発表する 2	編成された班のうち後半の班の発表を行う。報告の技法について実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】演習中は方法の指導を中心とするため、課題は時間外学習として行うことが主となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
新型コロナウイルス状況下であるため、演習に関連する課外活動が不可能になる場合には、オンラインでの情報収集や発表になる可能性がある。**【テキスト（教科書）】**

基本的に用いない。演習中に適宜指示する。

【参考書】

演習中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

課題毎の評価 (33%)、提出物の評価 (33%)、平常点 (34%) で行う。ただしいずれかの項目が著しく悪い評価である場合には、不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

演習ゆえ、授業改善アンケートの対象外。

【Outline and objectives】

Learning skills to research, to consolidate, to organize and to write to achieve abilities to manage lectures in the university.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

慎 蒼宇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎ゼミでは、大学生活、あるいはこれからの人生に必要な基礎的思考力を身につけるために、さまざまな課題に取り組んでいきます。

【到達目標】

この演習の到達目標は、来年度以降、a) 専門科目(社会学科)での学習能力向上の基盤となる、b) 基本的な思考力やスキルを身につけてもらうことです。具体的には、主に、①資料・文献を集め、調査する力を身につける。②読書する力を身につける、③論理的に思考する力を身につける、④個人でテーマを設定する、⑤レジュメを作成し報告する力を身につける、⑥プレゼンテーションのしかたを経験する、⑦論文を書く、⑧研究倫理について理解を深めるです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

後期では「関心ある出来事・人物」に関する個人報告、ゼミ論文作成を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習内容の作業工程の説明・確認
第 2 回	個人発表：構想の提示	「関心ある出来事・人物」に関する研究構想提示
第 3 回	文献・資料調査方法	図書館での学習
第 4 回	大学の環境を知る	障がい者支援学習
第 5 回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第 6 回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第 7 回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第 8 回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第 9 回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第 10 回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第 11 回	個人発表	「関心ある出来事・人物」に関する発表
第 12 回	論文を書く	論文作成概要と学習／執筆
第 13 回	論文を書く	論文執筆＋第一次原稿提出
第 14 回	論文を書く	添削原稿返却＋修正作業＋第 2 次提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメ作成、資料収集など報告に向けた準備を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にはありません。使用する場合は適宜指示します。

【参考書】

特にはありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 点

課題点 50 点（報告、レジュメ等）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Everyone works on various problems to put on the basic thinking power necessary to a study life at the university.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

鈴木 智道

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自らの問題関心を「問い」へと展開し、それに対して分析的・論理的にアプローチしていく技術を身に付けていくなかで、今後、各自の抱く様々な問題関心にも対処できるような基礎的な土壌を作ることを目的とする。

【到達目標】

自らの問題関心を「問い」へと展開し、それに対して分析的・論理的にアプローチしていく技術を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

個別に関心のあるテーマを検討・決定し、そのテーマを問いへの展開することからはじめる。その後、それぞれの問題関心（問い）に応じて資料を収集したり調査していきながら、研究を分析的に練り上げていく作業へと進んでいく。さらに、そうした作業の成果を、①全受講者の前での発表（プレゼン）、②それをふまえた「ゼミ論」の執筆という2つの異なる表現手段で報告する。諸課題に対する講評等は、授業内でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	スケジュールの確認
2	各自テーマの深化①	個人テーマの再検討
3	各自テーマの深化②	先行研究を整理する／問いを明確化する
4	各自テーマの深化③	アウトラインを考える
5	各自テーマの深化④	ストーリーを練り上げる
6	プレゼン①	各自の調査報告と受講者によるディスカッション
7	プレゼン②	各自の調査報告と受講者によるディスカッション
8	プレゼン③	各自の調査報告と受講者によるディスカッション
9	ゼミ論の書き方について	論文作成の作法と注意事項
10	個人テーマの再検討①	問いを明確化する
11	個人テーマの再検討②	節立てを考える
12	個人テーマの再検討③	提出直前チェック
13	ゼミ論提出	体裁の確認・校正
14	まとめ	口述試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人のテーマにもとづき、文献の講読、資料の収集、プレゼン資料の作成、ゼミ論の作成等、必要に応じて、授業外活動が必要とされる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤望編『アカデミック・スキルズ（第3版）』（慶應義塾大学出版会、2020）そのほかの文献については、授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンに対する取り組み（50 %）、ならびに、ゼミ論の執筆に至るプロセスおよびその最終的な水準（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to acquire academic skills and develop critical thinking through doing some practical activities.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

吉田 公記

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、大学での学び方の基礎を習得するとともに、これからの4年間で探究していきたいテーマを見つけることを目的とする。

【到達目標】

①文献や資料の集め方、レジュメやレポートの書き方といった大学での学習の基礎的技術を習得すること。②2年次以降のゼミ選択に向けて、各自で問題関心を見つけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。レポート等の課題へのフィードバックは、基本的に授業内で行なう。なお、下記【授業計画】は展開に応じて若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要について説明する
2	レポート執筆テーマの報告①	期末レポートで執筆するテーマを決め、具体的な研究計画を発表する
3	レポート執筆テーマの報告②	第2回授業の続き
4	調査・分析法の学習①	下記【テキスト】欄の文献を読む
5	調査・分析法の学習②	第4回授業の続き
6	レポートの進捗状況の報告①	収集した文献や資料、および直面している課題等について発表する
7	レポートの進捗状況の報告②	第6回授業の続き
8	調査・分析法の学習③	第5回授業の続き
9	調査・分析法の学習④	第8回授業の続き
10	調査・分析法の学習⑤	第9回授業の続き
11	個別の研究報告①	期末レポートの内容を発表する
12	個別の研究報告②	第11回授業の続き
13	個別の研究報告③	第12回授業の続き
14	まとめ	これまでの学習内容を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での報告に必要な文献・資料等の収集・講読およびレジュメやレポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

第4～5・8～10回授業で受講生は下記の文献の書評を発表する。
・岸政彦ほか『質的社会調査の方法』（2016年、有斐閣）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

下記の配分を目安として総合的に評価する。
・平常点（授業への参加姿勢等）：40%
・課題点（レポート等）：60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Through this course, students will (1) gain basic skills for academic study and (2) find academic themes to explore.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

山下 大厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎演習Ⅰは大学に慣れることが優先される助走期間であるが、基礎演習Ⅱでは、春学期に得たアイデアを具体化する難しさを経験し、他者の知見や考察に驚きや興味をもって耳を傾け意見を交わし合うことが期待される。

【到達目標】

春学期の学習を足がかりに、問題関心を醸成し、2年次からの専門演習に橋渡しすることが目標である。具体的には研究テーマを設定できる（自分の興味関心に「問い」の形を与える）/図書館やインターネットが活用できる（調べながら考える）/研究成果や考察をプレゼンテーションできる（スライドを作りながら考える）/論文スタイルで書くことができる（書くことを通じて自分の問いに答える）/研究倫理の理解などが挙げられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

秋学期は準備期間を経て中間プレゼン、論文執筆と進む。プレゼンの聴き手は受け身になりがちだが討論や批評カードで全員が対話的に学ぶ過程にした。またシャトルカードで各回のゼミ活動についてフィードバックを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	秋学期ガイダンス	進め方とすべきことについて。
第2回	ゲストによる特別講義	卒業生が語る 試行する人生。
第3回	論文執筆とプレゼン	論文書式とスライド制作のポイント。
第4回	論文テーマと文献リスト	資料蒐集と文献リスト作成の手はどき。
第5回	ゼミ論文の設計図を作成	論文構想、章立てを練る。
第6回	序文らしきものを書く	論文執筆の足掛かりとなる短文を書く。
第7回	分析・考察を書いてみる	分析、結果、考察はどのようなものか
第8回	プレゼンの構成を考える	スライドの構成をスケッチし相互批評。
第9回	プレゼンテーション	発表と討論
第10回	プレゼンテーション	発表と討論
第11回	プレゼンテーション	発表と討論
第12回	プレゼンテーション	発表と討論
第13回	プレゼンテーション	発表と討論
第14回	ゼミ論文提出	今年度のゼミ活動を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期の中間プレゼンとゼミ論文執筆は、何よりも本人が努力し時間を割かねばならない。作りながら考え、考えながら作り、書きながら考え、考えながら書く必要がある。発表の準備、スライド作成、論文執筆など授業の準備と復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しないが、各自の関心に沿ってテーマの核心となる文献を選び読む必要がある。

【参考書】

特定の参考書は指定しないが、各自のテーマに応じて個別にアドバイスしたい。

【成績評価の方法と基準】

評価のウェイト：平常点（参加度、メンバーシップ）30%、プレゼン 40%、論文 30% 評価基準：各課題、討論への取り組み、プレゼン・論文は、資料の使い方、書き方の適切さ、文章推敲、主題に応じた議論の適切な展開など。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期は、発表者と教員のやり取りに時間を割かれがちだが、ゼミ生同士の討論にも十分な時間が確保できるように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムなどインターネットの利用、プレゼン作成、ゼミ論文の執筆にPCが不可欠です。必要な機器、環境を準備してください。

【その他の重要事項】

仲間同士刺激しあうところにゼミの醍醐味がある。積極的な参加を期待している。また、質問・相談はゼミの後やシャトル・カード、メールで応じます。なお基礎演習Ⅱは、基礎演習Ⅰでの学びの成果を前提としており、春・秋を通じて履修することが望ましい。なお授業計画は展開をみて変更する場合がある。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the development of students' skill in making oral presentation and academic writing.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

高橋 賢次

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「大学で学ぶこと」の意味を理解し、そのために必要な基礎的な知識やスキル、作法を身につけること。

【到達目標】

大学における「学び」の目的は、既存の知識の上に「問い」を立ち上げ、新たなオリジナルな「答え」を産出することにあります。本演習ではグループワークと個人研究を通じて、①各自の関心から「学問的な問い」を立てる力、②先行研究を整理・検討する力、③必要なデータを集めて分析する力、以上の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・秋学期の授業は、①グループワークと②個人研究を軸に進めます。①では、グループごとに「研究」のプロセスを実践し、②では、各自が設定したテーマにもとづいて、期末課題となる「研究ノート」を執筆します。
・オフィスアワーを設定し、受講生に対するフィードバックを行います。
・授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。また、秋学期授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習の概要説明
2	グループワークの準備	グループ分けとテーマ設定
3	グループワークの準備	学問的な研究プロセスの説明
4	グループワーク（1）	「問い」を立てる
5	グループワーク（2）	先行研究の整理と検討
6	グループワーク（3）	分析対象と分析方法の設定
7	グループワーク（4）	データの収集と分析
8	中間報告（1）	グループワークの進捗状況の報告
9	中間報告（2）	グループワークの進捗状況の報告
10	グループワーク（5）	最終報告に向けた準備
11	「研究ノート」に向けて	期末課題の説明
12	最終報告（1）	グループワークの研究結果の発表
13	最終報告（2）	グループワークの研究結果の発表
14	まとめ	演習Ⅱのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループごとの話し合いや発表に向けた事前準備、また、「研究ノート」の執筆に向けた、先行研究の整理や検討、資料の収集と分析を中心として、本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講生の希望に合わせて、適宜指定します。

【参考書】

上野千鶴子、2018、『情報生産者になる』筑摩書房。
荻谷剛彦、2002、『知的複眼思考法』講談社。

【成績評価の方法と基準】

・グループワークにおける報告や発言などの、演習への参加（60%）
・期末課題：研究ノート（40%）

※授業における 2 回のグループ発表と期末課題の提出は単位修得の必須条件とし、いずれか一方でも欠けた場合は落第とします。また、忌引などのやむをえない場合を除き、無断欠席や正当な理由のない欠席については累計 3 回、病欠も併せて累計 4 回で落第とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗に合わせて課題や目標を設定するなど、受講生が研究のプロセスをよりよく理解できるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

グループ発表の準備や課題の執筆・提出に、PC 等の情報機器を使用します。

【その他の重要事項】

やむをえない理由で授業に遅刻・欠席する場合は、必ず理由を添えて事前に担当教員まで連絡してください。

【Outline and objectives】

This course introduces basic knowledge, skills and manners necessary for academic research to student taking this course.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

南 宏幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の概要に記載したように、大学では「教えられる生徒」であるだけでなく、「他人にも教えられる探究者」であることが求められる。比喩的に言えば、「従順な子羊」であるだけでは足りず、「食欲で自立した開拓者」ともなる必要がある、ということだ。基本的に演習は、学生各自が自らの関心に従って新たな知見を生み出す「開拓」を実行していく場であり、その準備と予行演習に当たるのが基礎演習である。

【到達目標】

学生各自が、問題設定・仮説構築・検証・発表という一連のプロセスを経験し、進級後も各演習で自らの探究を継続していきける土台を築くのが、この授業の到達目標である。この経験から、自分がどういった事象に知的な興味を抱くか、どういった問題設定をすれば自らの知的な好奇心を学問的研究に活かせるか、問題に対するどのような答えが、意義深い認識を生み出す、検証可能な仮説になるか、何をどう調べたら、その仮説を検証できるのか、実際に調べたら、どのような結果が出るか、その結果から、どのような知見を導き出せるのか、この一連の研究成果を、どのようにして他人に説得力ある形で伝えられるのか・・・これらの目星をつけ、自らの糧としてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春期基礎演習での学習を元に、より本格的な研究構想を組み、発表し、改良し、研究論文という形で最終成果をまとめるのが、本授業である。時間の多くは、学生各自の研究構想発表に使われ、発表者以外の学生は、発表に対するコメントをその都度求められる。期末近くには論文執筆の具体的な注意事項が述べられ、期末に論文提出となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	第 1 班論文構想発表	第 1 班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
2	第 2 班論文構想発表	第 2 班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
3	第 3 班論文構想発表	第 3 班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
4	第 4 班論文構想発表	第 4 班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
5	第 5 班論文構想発表	第 5 班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
6	第 6 班論文構想発表	第 6 班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
7	第 7 班論文構想発表	第 7 班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
8	第 8 班論文構想発表	第 8 班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
9	第 9 班論文構想発表	第 9 班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
10	第 10 班論文構想発表	第 10 班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
11	第 11 班論文構想発表	第 11 班学生が自らの研究論文の構想を発表。発表者以外は、コメント担当。
12	「敗者復活戦」	研究構想を大幅に変えた者・再挑戦を望む者などのための、再発表枠。
13	論文執筆に際しての注意事項&期末大相談会	原稿用紙の使い方、表紙の様式、引用の仕方、参考文献一覧の様式等の指導。
14	論文提出。クラスメートへの概要報告	研究論文を提出し、他のゼミ生に研究成果を報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

構想発表という機会を活かせるよう、発表者は事前に、必要な予備知識を得て、可能な限り練り込まれた研究構想を組み立てておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

ゼミ生共通の参考文献指定はない。

【成績評価の方法と基準】

期末に提出する、最終成果である研究論文に対する評価が 60 %。構想発表の充実度評価が 30 %、発表に対するコメント等、平常点が 10 %。

【学生の意見等からの気づき】

他の授業と並べて、「ちょっとめんどくさい授業」「コスパが悪い授業」などと認識している学生が増えた気がする。「自分の考えを事実に基づいて組み立て、自分とは価値観も道徳観も異なる『他人』にも納得してもらう」という実践を通じて、演習の特別さを体得してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

大学からのメール連絡や、学習支援システムにアクセスできる機器が必要。状況によっては、オンライン授業を強いらられる可能性もあり、その場合には、Zoom ミーティングに参加できるように、ウェブカメラ・マイクを有する端末（スマホ、できれば PC）が、学生側にも必要となる。

【その他の重要事項】

春・秋学期合わせての履修推奨。

【Outline and objectives】

As described in the summary of the spring season, university students are required not only to be 'taught pupils' but also to be 'teaching explorers'. In other words, it means that it is not enough just to be a 'compliant lamb', and it also needs to be 'greedy and self-sustaining pioneer'. Basically, the exercise is a place where each student carries out his own "pioneering = academic research". Through this "basic class", I hope you will prepare for your own pioneering in future exercises.

BSP100EA

基礎演習 II

武田 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で社会学を学ぶために必要な能力とスキルを身につけること、基礎演習 I で学んだことをふまえつつ、学生が自分でレポートを書き、プレゼンテーションを行うことを通じて、グループで研究を進めていくことができるようになることを目的とする。

【到達目標】

大学のゼミにおいて自ら問いを設定し、研究を進めていくための基本的な能力・スキルを習得すること。より具体的には以下の 4 点となる。

- 1) 文献やデータを自ら収集して内容を理解できるようになること。
- 2) 先行研究を批判的に読みつつ課題を発見し、自分のテーマを設定し、それに回答できるようになること。
- 3) 第三者に対して自分の研究内容やその意義について、プレゼンテーションを通じて伝えることができるようになること。
- 4) 研究倫理についての基本的な理解を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

文献やデータの検索、専門書・論文の読解、レポートの作成、ゼミでの報告とディスカッションの方法等について学ぶ。

基礎演習 I の内容を復習しつつ、学生が自分自身のテーマに即して文献やデータの収集方法を学ぶ。その上で報告とディスカッション、報告に対する学生同士の相互評価が中心となる。自分の報告に関する自己評価表、および他の学生の報告に対する評価表を毎回提出してもらい、共有する。それらの積み重ねを通して自分自身の報告の仕方を改善するとともに、成長の過程を実感してもらう。

授業計画は授業の展開や対面授業が可能な回数によって若干の変更があり得る。

リアクションペーパーは特に設けないが、毎回の報告に対する質疑応答を通じて、学生の理解に資するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	概要とスケジュール、各自の報告の評価方法の説明、グループ分け。
2	テーマの設定 (1)	各グループでどのようなテーマで文献レビュー報告をするかを決定する。
3	テーマの設定 (2)	各グループでどのようなテーマで文献レビュー報告をするかを報告する。
4	先行研究と問題設定	先行研究のレビューと問いの設定の仕方について具体的な事例をもとに考える。
5	研究方法と対象、研究をめぐる倫理	研究方法と対象の設定、また研究をめぐる倫理について具体的な事例を元に考える。
6	問題設定・文献レビューの検討 (1)	各グループによる問題設定・文献レビューの検討 (1)

7	問題設定・文献レビューの検討 (2)	各グループによる問題設定・文献レビューの検討 (2)
8	問題設定・文献レビューの検討 (3)	各グループによる問題設定・研究レビューの検討 (3)
9	各グループの中間経過報告 (1)	各グループによる研究報告の進行状況についての経過報告 (1)
10	各グループの中間経過報告 (2)	各グループによる研究報告の進行状況についての経過報告 (2)
11	各グループの中間経過報告 (3)	各グループによる研究報告の進行状況についての経過報告 (3)
12	各グループの最終報告 (1)	各グループがまとめた報告の最終的な内容をプレゼンテーションする (1)
13	各グループの最終報告 (2)	各グループがまとめた報告の最終的な内容をプレゼンテーションする (2)
14	各グループの最終報告 (3)	各グループがまとめた報告の最終的な内容をプレゼンテーションする (3)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

グループでの課題に沿った文献・資料収集、レジュメおよびプレゼンテーション、ゼミ論の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業中に指示します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の授業への積極的な参加度を通した平常点評価 (20 点)。
- ・第 2 回・3 回・6 回～ 14 回までのグループ報告の内容に基づく評価 (50 点)。
- ・第 2 回・3 回・6 回～ 14 回の相互評価表の提出による評価 (30 点)。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より担当するため、特になし。

【Outline and objectives】

It is the purpose of this class for students to acquire abilities and skills necessary to study sociology by themselves at this university. They need to write reports and make presentation to develop their ability of conducting research on their own.

BSP100EA

基礎演習 II

多田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、主に、これから大学で学習するために必要な「調べる・発表する・議論する」ことに関する基本スキルおよび研究方法の基本を修得することを目的とします。

【到達目標】

- 本授業では、次の 2 点に到達することを目標とします。
- 1) 企業等の事例を調査し調査結果を正しく報告するとともに、自分の意見を説得的に発表できる。
 - 2) 事実や他者の意見を踏まえて、自分の意見を論理的に表明し議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で実施します。受講者は、ただ出席するだけではなく、積極的に発言するなどの能動的な受講が望まれます。課題を提示した際は、次の授業回で解説するなど随時フィードバックします。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。「学習支援システム」上で必要な情報を公開するので、随時確認をお願いします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期のオリエンテーション
第 2 回	ケース・スタディ①	研究計画
第 3 回	ケース・スタディ②	1 次資料と 2 次資料の調査
第 4 回	ケース・スタディ③	調査結果をまとめる
第 5 回	ケース・スタディ④	調査結果を分析する
第 6 回	ケース・スタディ⑤	レポートの執筆
第 7 回	プレゼンテーション①	発表の作法
第 8 回	プレゼンテーション②	ケース・スタディの個人発表とディスカッション
第 9 回	プレゼンテーション③	ケース・スタディの個人発表とディスカッション
第 10 回	グループワーク①	研究計画と調査
第 11 回	グループワーク②	調査と分析
第 12 回	グループワーク③	分析と発表準備
第 13 回	グループワーク④	最終発表とディスカッション①
第 14 回	グループワーク⑤	最終発表とディスカッション②

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢：70 %、期末レポート：30 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

随時、受講生と意見交換し、授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、連絡します。

【Outline and objectives】

The aim of this course to help student acquire the skills and knowledge necessary for learning at university based on previous course in spring semester. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Case study
- 2)Presentation
- 3)Discussion

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

田中 充

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎演習Ⅰの修了を経て、基礎的な研究調査能力を向上させ、身につけることを目的とします。到達点として、専門的要素を組み込んだ小論文を執筆します。

【到達目標】

専門的な思考力を向上させ、問題関心の醸成と問いの立案手法を修得します。プレゼンテーションとディスカッション力の向上、小論文の執筆により、専門演習につなげる研究調査能力を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナ問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行います。レジュメ作成と発表・討議、意見交換する方式で実施します。論文執筆に向けて適宜、論文構想発表を行い、論文執筆に向けて作業を進めていきます。提出・発表のレジュメ等については、授業の中でコメント等を行います。授業計画は進行状況等によって若干の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	夏休みの報告と研究テーマの意見交換	夏休みの結果を発表します。研究テーマに関して意見交換します。
2	文献講読と発表、討論 (1)	担当頁についてレジュメを作成し、討論を行います。
3	文献講読と発表、討論 (2)	担当頁についてレジュメを作成し、討論を行います。
4	文献講読と発表、討論 (3)	担当頁についてレジュメを作成し、討論を行います。
5	論文のテーマ等の絞り込みと発表	執筆するゼミ論文のテーマについて発表し、意見交換を行います。
6	ゼミ論文構想の発表 (1)	各自のゼミ論文の構想を発表し、意見交換します。
7	文献講読と発表、討論 (4)	担当頁についてレジュメを作成し、討論を行います。
8	論文執筆の書式・技法の修得	論文に関する情報収集や文献リストの記載、論文書式等を学びます。
9	文献講読と発表、討論 (5)	担当頁についてレジュメを作成し、討論を行います。
10	ゼミ論文構想の発表 (2)	各自のゼミ論文の構想を発表し、意見交換します。
11	関連文献レビューと調査結果の発表	論文テーマに関する関連文献の報告と調査結果を報告します。
13	文献講読と発表、討論 (6)	担当頁についてレジュメを作成し、討論を行います。
13	ゼミ論文構想の発表 (3)	レジュメにより論文構想の概要を発表します。
14	論文の提出とまとめ	ゼミ論文を完成します。基礎演習Ⅰ年間の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読、レジュメ等の作成、論文構想の準備、基礎調査の実施、論文執筆等の学習が必要になります。発表等に間に合うよう前日までに作業を完了するなど、計画的に授業準備を進める必要があります。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

<配分>

・授業参加（平常点）：30%、討論：20%、課題提出：20%、論文：30%
<評価基準>

・授業参加は、出席した上で積極的な学習と発言することを評価します。満点を40%（点）とし、欠席（遅刻2回で欠席1回分）した場合は減点します。欠席の多い（2割以上）受講態度は成績評価の対象外とします。

・討論は、文献発表やレジュメ発表への積極的な参加について満点20%（点）で評価します。課題提出は、講読シートの提出などについて満点20%（点）で評価します。

・論文は満点30%（点）として、論文書式、引用文献表記の仕方、調査内容、文章表現、論理性などをポイントに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

文献講読と発表、討論は「講読シート」を用いて行います。

【学生が準備すべき機器他】

・受講生への連絡、資料配布等は学習支援システムと電子メールで行います。メールを随時チェックできるような通信環境の設定が必要です。
・授業方式（対面またはオンライン）は、学習支援システムでお知らせします。
・オンライン授業の場合は、Wi-Fi等のインターネット接続が必要です。

【その他の重要事項】

授業は、毎回の出席と授業への参加が原則です。出席することはもちろん、質問・意見を求められたときに積極的に発表すること、他の人の意見をしっかりと聴いて意見を述べる必要があります。

【Outline and objectives】

The aim of Basic Seminar II is to help students improve the basic research skills and knowledge in their university studies, and write essays combining specialized elements.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

谷本 有美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幅広い社会現象の中から時事問題を入りに、自らの問題関心に基づくテーマを見つけ出し、それに対する「解」の可能性を考えて、小論文やプレゼンテーションを通じて「人に伝える」ことを学ぶ。

【到達目標】

- ・自分で研究テーマを見出すこと
- ・立てた問題への「解」を学んだ調査技術を駆使して考え抜くこと
- ・パワーポイントを利用したプレゼンテーションを行うこと
- ・小論文を書くこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半ではグループ討議を中心にしながら、他者との議論を通じて、社会課題解決に向けた「解」を導き出すことをめざします。後半は、プレゼンテーション技法の基礎や小論文の書き方を学ぶとともに、それらを利用して「人に伝えること」を実践する機会を設けます。発表やレポート等に対する講評は授業時に適宜行い、全体にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期のレポート検証と秋学期の進め方の説明
第 2 回	個人課題の発表	後半に予定するプレゼンテーションで、各自が扱うテーマと主な問題認識を発表する
第 3 回	時事問題と解決策の検討（討議）－グループワーク	指定された時事問題に対する解決策についてグループで討議する
第 4 回	時事問題と解決策の検討－発表と全体討議(1)	第 3 回のグループ討議でまとめた解決策をクラスで発表し、全体討議を行う
第 5 回	時事問題と解決策の検討－発表と全体討議(2)	第 3 回のグループ討議でまとめた解決策をクラスで発表し、全体討議を行う
第 6 回	社会課題へのアプローチ	身近な問題と公共的な課題とのつながりを学ぶ
第 7 回	プレゼンテーションの技法	パワーポイントを用いたプレゼンテーションについて解説
第 8 回	プレゼンテーションの実践(1)	各自のリサーチエスチョンとその「解」について、パワーポイントによるプレゼンテーションを行い、質疑に答える
第 9 回	プレゼンテーションの実践(2)	各自のリサーチエスチョンとその「解」について、パワーポイントによるプレゼンテーションを行い、質疑に答える
第 10 回	プレゼンテーションの実践(3)	各自のリサーチエスチョンとその「解」について、パワーポイントによるプレゼンテーションを行い、質疑に答える

第 11 回 プレゼンテーションの実践(4) 各自のリサーチエスチョンとその「解」について、パワーポイントによるプレゼンテーションを行い、質疑に答える

第 12 回 プレゼンテーションの実践(5) 各自のリサーチエスチョンとその「解」について、パワーポイントによるプレゼンテーションを行い、質疑に答える

第 13 回 小論文の書き方 小論文をまとめる際の基本事項の解説と小論文提出の指示

第 14 回 作業の振り返りと総括 1 年間に学んだ技術の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。プレゼンテーション及び小論文の作成に向け、文献やインターネットを利用した調査を行う。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30%）、プレゼンテーション（30%）、小論文（40%）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や理解度に応じた補足説明や追加資料の配付等を行います。

【Outline and objectives】

Starting from current affairs issues, students will discover their themes based on their own interests from the wide range of social phenomena. Then work on finding solution of their problems with the research skills they've got. At last will learn to "telling others" by essays and presentations.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

津田 正太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎演習Ⅰに引き続き、大学で学ぶための基本的なスキルや知識を学ぶ。

【到達目標】

社会学部の学生として求められる基本的な学習・研究スキルを修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

参加者同士での話し合いやグループ単位での調査を実施する。また、基礎的な文献の輪読を通じてレジュメの作成法や文献の読み方についても学習する。グループ研究への発表、提出された最終レポートへの講評などによってフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	リサーチの進め方について	リサーチスキル
第2回	グループ研究のテーマ決め	グループ研究
第3回	文献輪読『メディア社会論』第1章、第2章	基礎知識習得およびレジュメ作成
第4回	研究中間発表(1)	グループ研究
第5回	研究中間発表(2)	グループ研究
第6回	文献輪読『メディア社会論』第3章、第4章	基礎知識習得およびレジュメ作成
第7回	文献輪読『メディア社会論』第5章、第6章	基礎知識習得およびレジュメ作成
第8回	2年生以降の進路について考える	大学での学び
第9回	研究中間発表(3)	グループ研究
第10回	研究中間発表(4)	基礎知識習得およびレジュメ作成
第11回	文献輪読『メディア社会論』第7章、第8章	基礎知識習得およびレジュメ作成
第12回	文献輪読『メディア社会論』第9章、第10章	基礎知識習得およびレジュメ作成
第13回	研究最終発表(1)	グループ研究
第14回	研究最終発表(2)	グループ研究

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読の準備やレジュメの作成、グループ研究に関しては演習の時間外に行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻泉・南田勝也・土橋臣吾編（2018）『メディア社会論』有斐閣。

【参考書】

参考書については適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループ研究の最終レポート（70%）、その他の課題（30%）などの評価を通じて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生の主体的な参加を可能にする授業運営を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメや最終レポートの作成にあたってはPCの利用が必須である。オンラインで実施せざるをえない状況になった場合には、家庭からインターネットに接続できることが望ましい。

【Outline and objectives】

Following the Basic Seminar I, the purpose of this seminar is to help students learn basic skills for studying at university.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

徳安 彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習は論文を執筆し、完成させることを目的とする。

【到達目標】

学術的なフォーマットに即した論文を執筆することができるようになる。

- ①適切な問いを立てることができる。
- ②適切な論証構成ができる。
- ③適切な文章が書ける。
- ④適切な引用・参照ができる。
- ⑤適切な文献・資料リストを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面型とオンライン型を併用する。状況に応じて方式は変更される可能性がある。

自分の問題意識にもとづく論文の構想を発表し、形式や内容を参加者で検討する。また、それをもとに提出稿の完成を目指す。

個人の構想発表にたいして授業内で講評して、論文作成の助けとする。また期末に提出する論文にたいしては、事後にコメントを返し、各自の次年度以降の研究に資するようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テーマ発表	各自の論文のテーマを発表する
2	グループでの検討①	グループでおたがいの論文について議論する
3	グループでの検討②	グループでおたがいの論文について議論する
4	グループでの検討③	グループでおたがいの論文について議論する
5	グループでの検討④	グループでおたがいの論文について議論する
6	レポート発表①	各自の論文内容を発表して全員で検討する
7	レポート発表②	各自の論文内容を発表して全員で検討する
8	レポート発表③	各自の論文内容を発表して全員で検討する
9	レポート発表④	各自の論文内容を発表して全員で検討する
10	レポート発表⑤	各自の論文内容を発表して全員で検討する
11	レポート発表⑥	各自の論文内容を発表して全員で検討する
12	専門演習のガイダンス	専門演習についてガイダンスを行う
13	レポートの執筆概要の確認	レポートの執筆概要について全体で再度確認する
14	レポートの総評	レポートの総評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。個人発表や、論文の加筆・修正のための準備が必要となる。また授業でのフィードバックにもとづく復習も必要となる。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

ケン・ブラマー『21 世紀を生きるための社会学の教科書』（ちくま学芸文庫、2021 年）

日本社会学会「社会学評論スタイルガイド」(<https://jss-sociology.org/bulletin/guide/>)

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は次の通り。

- ①論文の発表（30 %）
 - ②論文完成稿の提出（60 %）
 - ③平常点（出席状況、演習内での発言など）（10 %）
- ①から③のいずれかが欠ければ単位は取得できない。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は担当していないので、とくにない。

【学生が準備すべき機器他】

可能なら自分用のノートパソコンを準備するのが望ましい。

【その他の重要事項】

自分の論文はもちろんのこと、参加者全員の論文が充実するよう積極的なコメントをお願いします。特に、グループでの検討の際には、他の参加者の論文の充実も図るよう心がけましょう。

【Outline and objectives】

The purpose of this basic seminar II is to write and complete your article.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

宮下 阿子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自ら学び、自ら考える力を養うとともに、大学で学ぶために必要となる基礎的な知識やスキルを習得することを目的とする。

【到達目標】

- 1) 各自の問題関心にしたがって、必要な情報を収集し、自らの考えをまとめる力を身につける。
 - 2) ゼミ論を作成するための基本的なスキルを身につける。
- 上記を通して、専門演習への橋渡しをする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各自の研究報告とその検討を中心に進める。授業の中で必要に応じて課題に対する講評を行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の説明とスケジュールの確認
第 2 回	ゼミ論の作成に向けて (1)	研究のすすめ方の説明
第 3 回	素案報告①	各自の研究テーマの発表と検討
第 4 回	素案報告②	各自の研究テーマの発表と検討
第 5 回	素案報告③	各自の研究テーマの発表と検討
第 6 回	ゼミ論の作成に向けて (2)	研究のまとめ方の説明
第 7 回	中間報告①	各自の研究経過の発表と検討
第 8 回	中間報告②	各自の研究経過の発表と検討
第 9 回	中間報告③	各自の研究経過の発表と検討
第 10 回	中間報告④	各自の研究経過の発表と検討
第 11 回	中間報告⑤	各自の研究経過の発表と検討
第 12 回	中間報告⑥	各自の研究経過の発表と検討
第 13 回	ゼミ論の提出に向けて	最終確認と個別相談
第 14 回	まとめ	研究成果の発表と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の問題関心に沿って、日頃から情報収集をしておくこと。また、研究報告やゼミ論の提出に向けて、計画的に準備を進めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（発表、発言、参加姿勢など）
課題点 50%（レジュメ、ゼミ論）

【学生の意見等からの気づき】

受講生が主体的に参加できるような場づくりを心がけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

中村 尚樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

参加者は自ら課題を設定し、ひとつのテーマに関する体系的な論文をまとめる。論文作成の作法を学ぶとともに、幅広い知識に裏打ちされた、独創的な思考力を習得する。

【到達目標】

- 1) 適切な論文テーマを設定できる。
- 2) 文献や資料を的確に検索し、利用できる。
- 3) 問題意識を持ち、他者との議論を通じて理解を深めることができる。
- 4) 論理的に独創的な論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期で学んだ内容を展開し、各自がそれぞれのテーマを設定する。そのうえでレジュメを作成して論文の構想を発表する。これを踏まえて、暫定的な論文を作成する。質疑応答や講師によるアドバイスを踏まえて、最終論文を作成する。春学期履修が前提となる。

授業では論文作成の作法はもちろん、テーマの決め方や論考の進め方を学ぶ。レジュメ、論文ともメールに添付して提出する。

なお、授業計画は授業の展開や社会情勢の変化によって、若干の変更があり得る。

最終授業で、全体のまとめや復習をはじめ、各受講生に対し、提出してもらった論文に対する講評やアドバイスをを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文テーマ設定	テーマ設定、報告順、報告日程決定。
第2回	レジュメ・論文作成の作法、図書館案内	レジュメ・論文作成の作法や執筆方法、図書館の有効活用について学ぶ。
第3回	論文作成の思考	内容面を中心に論文の書き方。
第4回	論文構想発表①	テーマを掘り下げて報告する。
第5回	論文構想発表②	テーマを掘り下げて報告する。
第6回	論文構想発表③	テーマを掘り下げて報告する。
第7回	論文構想発表④	テーマを掘り下げて報告する。
第8回	論文構想発表⑤	テーマを掘り下げて報告する。
第9回	暫定論文発表①	各自の暫定論文発表と検討。
第10回	暫定論文発表②	各自の暫定論文発表と検討。
第11回	暫定論文発表③	各自の暫定論文発表と検討。
第12回	暫定論文発表④	各自の暫定論文発表と検討。
第13回	暫定論文発表⑤	各自の暫定論文発表と検討。
第14回	確定論文講評 全体まとめ	講評とまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間ともに各2時間を標準とする。夏季休業期間中に関連書籍を検索、読了しておくことが望ましい。発表の担当者は、前半ではレジュメ、後半では暫定論文を準備する。そのうえで確定論文を提出する。

【テキスト（教科書）】

中村尚樹「ストーリーで理解する日本一わかりやすい MaaS & CASE」(2020年4月、プレジデント社)

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

論文構想 20 点、暫定論文 20 点、確定論文 60 点

【学生の意見等からの気づき】

作文と論文の違いに戸惑う学生が多いため、論文執筆のスタイルを授業冒頭で明確に提示する。

【その他の重要事項】

テレビと雑誌メディアで報道経験のある担当者が、最新のトピックスを題材にしながら、社会分析の方法と、コミュニケーションスキルも学ぶ授業となる。

【Outline and objectives】

Participants set their own questions and compile a systematic treatise on one theme. While learning how to write a treatise, you will acquire creative thinking skills based on a wide range of knowledge.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

惠羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶための基本的な能力を身につけると共に、現代社会に対する自らの問題関心を深める。基礎演習Ⅰで学んだことをふまえて、自ら研究を進め、ゼミ論執筆や発表のスキルを身につける。

【到達目標】

- 大学での学びにおいて必要な能力・スキルを習得すること
- ・文献やデータを自ら収集して内容を理解する
 - ・先行研究をまとめ、課題を発見し、テーマを設定する
 - ・プレゼンテーションを通じて他者に伝え、質疑に答える
 - ・自らの研究に基づきレポートを作成する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テーマに即した文献やデータの収集方法を学ぶ。研究に基づき、報告とディスカッションを行い、相互に評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	進め方と各自の関心に基づくグループ分け
第2回	リサーチの進め方とグループ研究のテーマ決め	グループ研究に向けた方法と問題設定
第3回	リサーチ・ゼミ論計画	各グループによる検討の検討1
第4回	リサーチ・ゼミ論計画	各グループによる検討の検討2
第5回	リサーチ・ゼミ論計画	各グループによる検討の検討3
第6回	各グループの文献報告1	各グループによる報告
第7回	各グループの文献報告2	各グループによる報告
第8回	各グループの文献報告3	各グループによる報告
第9回	各グループの中間報告1	各グループによる報告
第10回	各グループの中間報告2	各グループによる報告
第11回	各グループの中間報告3	各グループによる報告
第12回	各グループの最終報告1	プレゼンテーション
第13回	各グループの最終報告2	プレゼンテーション
第14回	各グループの最終報告3	プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ研究に沿った文献・資料収集、グループ報告におけるレジュメ作成およびプレゼンテーション、各自ゼミ論の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点＝授業への参加度（10点）。
- ・グループ報告の内容（40点）。
- ・ゼミ論（50点）

【学生の意見等からの気づき】

今年度より担当するため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・プレゼン資料作成、ゼミ論執筆などのためのPC

【Outline and objectives】

The aim of this course is to develop students' basic academic skills.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

古川 早苗

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでは、問題を与えられそれに答えていくというスタイルに慣れてきたのではないだろうか。しかし、大学では問題も自分で探すものであり設定していくものである。自分の設定した問題について自分自身で追求・探求していくための「基礎体力」を養うことが本演習の目的である。

【到達目標】

この演習を通じて、聞く・話す・読む・書く・調べる、そして何より考えることが、少しでも億劫でなくなり、面白く興味深くと感じられるようになることを目指す。と同時に、人間事象や社会事象についての視野や興味が柔軟さを持って広がっていくことが期待される。秋学期はこれらの目標をゼミ論の作成を通じて行ってもらおう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期に学んだことを生かしながら、ゼミ論執筆に向けた各自の報告（プレゼンテーション）を中心に進めていく。問題が与えられるものではなく自分で設定し自分で答えを求め与えていくものであるという過程を、ゼミ論作成の作業を通じて経験してもらおうことになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	次回からの発表方法について	次回からの発表方法について具体的な説明/ゼミ論作成の意味・意義について再確認する
第2回	ゼミ論の構想発表(1)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表→皆で検討
第3回	ゼミ論の構想発表(2)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表→皆で検討
第4回	ゼミ論の構想発表(3)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表→皆で検討
第5回	ゼミ論の構想発表(4)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表→皆で検討
第6回	ゼミ論の構想発表(5)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表→皆で検討
第7回	ゼミ論の構想発表(6)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表→皆で検討
第8回	ゼミ論の構想発表(7)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表→皆で検討
第9回	ゼミ論の構想発表(8)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表→皆で検討
第10回	ゼミ論の構想発表(9)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表→皆で検討
第11回	ゼミ論の構想発表(10)	報告者がレジュメ等を用意してゼミ論の構想を発表→皆で検討
第12回	ゼミ論の構想発表(11)	再報告を要するゼミ生からの報告→検討
第13回	ゼミ論執筆に関する注意	ゼミ論執筆、提出に関する具体的な注意点を再確認する
第14回	ゼミ論提出	ゼミ論提出/各自のゼミ論内容を口頭で報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の報告時以外にもゼミ論作成に向けた作業を継続しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ論（60%）、ゼミ論構想発表（20%）、平常点（20%）で行う。

【学生の意見等からの気づき】

教員への質問や相談がある場合、先延ばしにさせないようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付や課題提出等のために「学習支援システム」を利用する。

【Outline and objectives】

The purpose of this exercise is to cultivate intellectual "basic physical strength" to explore the problems that you set yourself.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

増田 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学における「学び」のための基本的なルールや方法などを、基礎演習という集団の中で身につけることを目的としています。また、基礎演習での共同作業を通じて、自分の価値観を相対化し、視野を広げ、新しい友人を作ってほしいと思います。

【到達目標】

- ①文献を読み、レジメを作る。
- ②根拠に基づいて、論理的に話すことができる。
- ③ディベートができる。
- ④自ら課題を設定して、小論文を書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に対面でやります。

秋学期はグループに分かれて勉強するという形が多くなります。
また、いいお天気時には屋外で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス レポートの提出	秋学期の進め方のガイダンス グループ分け
2	レポートの発表1	グループごとにレポートを発表する
3	レポートの発表2	グループごとにレポートを発表する
4	小論文の執筆準備	小論文の執筆準備
5	小論文の執筆準備	小論文の執筆準備 テーマの提出
6	テキストの輪読	テキストの輪読
7	ディベートの準備	ディベートのテーマ決め、グループ分け
8	テキストの輪読	テキストの輪読
9	ディベート①	ディベートの1回目
10	テキストの輪読	テキストの輪読
11	ディベート②	ディベートの2回目
12	ディベート③	ディベートの3回目
13	小論文の執筆	小論文の下書きの提出
14	まとめ 小論文の提出	まとめ 小論文の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。自己紹介、キーワードを使った要約等、各回のそれぞれについて、参加者全員に発表してもらいます。そのため、授業時間外には発表のための準備が必要となります。また授業後には、課題等も出ますので、しっかりとした復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指示します。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は次のとおり。

- ①提出されたレポートと発表（20 %）
- ②ディベートへの参加度（20 %）
- ③平常点（10 %）
- ③小論文（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

昨年担当していないので、特になし

【学生が準備すべき機器他】

携行する必要はありませんが、可能なら自分用のノートパソコンを準備することが望ましいです。

【その他の重要事項】

基礎演習Ⅰ、Ⅱはセットで受講してください。
出席を重視するので、休まずに出席してください。

基礎演習は少人数で学べるいい機会です。コロナの中で、対面授業が少なくなりがちですが、新しい友人を作り、充実した大学生活を送れるように頑張っていきましょう。

【Outline and objectives】

The purpose of this basic seminar I is to learn basic rules, and techniques for further activities in the university.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

糸久 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、基礎演習Ⅰで身につけた研究に対する基礎能力をベースに、自分の主張を説得的に述べたゼミ論文の完成を目的とする。

【到達目標】

- ・専門演習につなげるための基礎的な研究能力
- ・自分の主張を説得的にまとめる力
- ・プレゼンテーション&ディスカッション能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には基礎演習Ⅰと同様に、各学生の発表に対して質疑および討議するというスタイルで実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	夏の課題の報告	夏の課題を発表する
第02回	研究テーマの方向性	各学生が研究テーマの方向性を決める
第03回	方法論（1）	原因と結果の関係を理解する
第04回	方法論（2）	定性研究と定量研究の特徴について理解する
第05回	ゼミ論の構想発表（1）	各学生がゼミ論の構想を発表する
第06回	ゼミ論の構想発表（2）	各学生がゼミ論の構想を発表する
第07回	関連文献の発表（1）	各学生は自分の立てた問いに対する関連文献のレビュー結果を報告する
第08回	関連文献の発表（2）	各学生は自分の立てた問いに対する関連文献のレビュー結果を報告する
第09回	関連文献の発表（3）	各学生は自分の立てた問いに対する関連文献のレビュー結果を報告する
第10回	関連文献の発表（4）	各学生は自分の立てた問いに対する関連文献のレビュー結果を報告する
第11回	実態調査報告（1）	実態調査の結果を報告する
第12回	実態調査報告（2）	実態調査の結果を報告する
第13回	ゼミ論のプレゼン（1）	パワーポイントを使ってゼミ論の要旨をプレゼンする
第14回	ゼミ論のプレゼン（2）	パワーポイントを使ってゼミ論の要旨をプレゼンする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課題の発表に向けて各自しっかり準備すること。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、ゼミ論 70 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This seminar aims to organize your thoughts and ideas as an academic paper based on your skills acquired in the previous seminar 1.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

松下 峻也

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、「大学で学ぶ」ために必要な技能と作法を取得します。具体的には、学術書を読む力、みずから問いを立てる力、史資料を調べる力、その成果を報告し、他者と議論する力を、学生が身につけることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、みずからが立てた問いにもとづいて、史資料の調査、分析、考察をおこない、その内容についてディスカッションをおこないます。学生が、各自の研究成果を他者にたいして報告／他者とともに議論し、論文を執筆することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員によるレクチャーをくわえながら、学生による研究内容の報告とディスカッションを中心に進めていきます。学生の課題（提出物）にたいするリプライは、毎回の演習で口頭によっておこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	基礎演習Ⅰのふりかえりと、本科目の概要と目的の解説
2	問いを立てる①	研究計画の「立てかた」のレクチャー
3	問いを立てる②	学生による問題関心の報告
4	史資料に触れる①	図書館の「使いかた」のレクチャー
5	史資料に触れる②	学内のアーカイブ施設の見学
6	中間報告①	研究経過の報告とディスカッション
7	中間報告②	研究経過の報告とディスカッション
8	中間報告③	研究経過の報告とディスカッション
9	中間報告④	研究経過の報告とディスカッション
10	成果報告①	研究成果の報告と課題の検討
11	成果報告②	研究成果の報告と課題の検討
12	成果報告③	研究成果の報告と課題の検討
13	成果報告④	研究成果の報告と課題の検討
14	総括	本科目の総括と、期末課題（論文）の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、研究内容の報告とディスカッションの準備が求められます。また、期末課題（論文）の作成も授業時間外におこないます。本科目の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義のなかで指定します。

【参考書】

上野千鶴子, 2018, 『情報生産者になる』 筑摩書房。
好井裕明, 2014, 『違和感から始まる社会学——日常性のフィールドワークへの招待』 光文社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（研究内容の報告とディスカッションへの参加）を 50 %、期末課題（論文）を 50 %として評価します。特別な理由（必要な書類の提出）のない欠席は、累計 4 回で落第とします。

【学生の意見等からの気づき】

初学者でも理解できるよう、レクチャーをゆっくりとおこないます。

【Outline and objectives】

In this class, students learn skills and manners necessary for academic research.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

左古 輝人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学び方を知り、社会学を学ぶために必要な前提知識を用いて、社会問題への課題関心を形づくる

【到達目標】

文化・常識の多様性・相対性を理解する
仮説、検証、考察のサイクルを修得する
文献を探し、読み、理解する基本的なやり方を身につける
自分が学んだ事柄を他者に説明するやり方を身につける
他者の発表の聞き方を身につける
ディスカッションのやり方を身につける
自分の課題関心を明確化し、研究計画を策定、実行する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ゼミナール形式。テキストを講読し、上記の到達目標を目指す。100分のうち、最初の40分で発表。次の30分で質疑応答、補足。最後の30分でグループディスカッションとまとめ。

授業を対面でおこなうか、オンラインでおこなうかについては、大学の判断に基づき、国や都の動向を考慮に入れ、その都度担当教員が判断し、学習支援システムを通して告知する。

不測の事態によって各回の授業計画を変更する必要がある場合には、学習支援システムでその都度告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	進め方の説明	貧富格差問題への3通りの見解を学び、自分の課題関心に結びつける
2	橋木 前半	橋木が本質的に何を問題視しているかを掴み、それに対する意見を持つ
3	大竹 前半	大竹が本質的に何を問題視しているかを掴み、それに対する意見を持つ
4	佐藤 前半	佐藤が本質的に何を問題視しているかを掴み、それに対する意見を持つ
5	まとめとディスカッション	三者の一致点と対立点を確認する
6	橋木 中盤	橋木がどのような具体例を用いて主張を展開するかを掴み、最新のデータと比較する
7	大竹 中盤	大竹がどのような具体例を用いて主張を展開するかを掴み、最新のデータと比較する
8	佐藤 中盤	佐藤がどのような具体例を用いて主張を展開するかを掴み、最新のデータと比較する
9	まとめとディスカッション	三者の一致点と対立点を確認する
10	橋木 後半	橋木の提案を知り、それに対する意見を持つ
11	大竹 後半	大竹の提案を知り、それに対する意見を持つ
12	佐藤 後半	佐藤の提案を知り、それに対する意見を持つ
13	まとめとディスカッション	最終レポートの作成に向け、自分の意見を裏付ける学者の見解やデータを収集する
14	レポート返却と講評	提出されたレポートに対し、さらなる発展に向けたアドバイスを与える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

橋木『格差社会—何が問題なのか』岩波新書 2006年
大竹文雄『日本の不平等』日本経済新聞社 2005年
佐藤俊樹『不平等社会日本 さよなら総中流』中公新書 2000年

【参考書】

適宜指定する
ウェブリソースとしては、「東京経済オンライン」「現代ビジネス」「荒木優太(youtube)」、「信州読書会の宮澤(youtube)」を毎週巡回してほしい。

【成績評価の方法と基準】

発表の質30%、ディスカッションにおける発言の量と質40%、提出物の質30%。

【学生の意見等からの気づき】

運営の適切さを確認した。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、インターネットに接続された端末機（スマートフォン、タブレット、PCなど）を持参することが望ましい。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設定しない。電子メールでの質問に答える。

【Outline and objectives】

Each student will construct his/her own academic problematics.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

本田 親史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

若干概念性の高い論考を通じ専門的な勉強に入る前の教養力をつける。

【到達目標】

1) 概念、専門用語を自ら調べて内容を深めながら批判的に読み解いていく力をつける 2) そうして得た知識を分かりやすく説明していく力をつける—の 2 点です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コロナ後の時代にどのように対処していけばいいのか、春学期で身につけた方法論を基に、テキストを読みながら考えていく。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期イントロ	秋学期の授業の進め方
第 2 回	Ⅱパンデミックに対峙(1)	該当論考の閲読・検証(1)
第 3 回	Ⅱパンデミックに対峙(2)	該当論考の閲読・検証(2)
第 4 回	Ⅱパンデミックに対峙(3)	該当論考の閲読・検証(3)
第 5 回	Ⅲコロナ禍と日本社会(1)	該当論考の閲読・検証(1)
第 6 回	Ⅲコロナ禍と日本社会(2)	該当論考の閲読・検証(2)
第 7 回	Ⅲコロナ禍と日本社会(3)	該当論考の閲読・検証(3)
第 8 回	障害者支援の体験学習	ノートテイク実践など
第 9 回	Ⅳコロナ禍のその先へ(1)	該当論考の閲読・検証(1)
第 10 回	Ⅳコロナ禍のその先へ(2)	該当論考の閲読・検証(2)
第 11 回	Ⅳコロナ禍のその先へ(3)	該当論考の閲読・検証(3)
第 12 回	Ⅳコロナ禍のその先へ(4)	該当論考の閲読・検証(4)
第 13 回	秋学期まとめ(1)	秋学期レポート作成解説
第 14 回	秋学期まとめ(2)	レポート提出・後期講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表者もしくはグループは期日までに発表できる状態にしておくこと。それ以外の人・グループも突然の指名に対応できるよう予習や調査をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

村上陽一郎編,2020,「コロナ後の世界を生きる—私たちの提言」,岩波新書,ISBN978-4-00-431840-8

【参考書】

国語辞典は常に持参してください

【成績評価の方法と基準】

・平常点 50%+レポート 50%。平常点とは出席状況に加え、プレゼンテーション能力および討論への参加度を総合的に加味したものを指す。

【学生の意見等からの気づき】

・発表当番以外の受講者がテキストを読んでこないという指摘があります。全員きちんと授業範囲を読んでおくこと。

【その他の重要事項】

・使用書籍の購入については授業中の指示に従ってください。

【Outline and objectives】

This course deals with more fundamental concepts on social sciences through basic readings and discussions.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

高橋 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎演習Ⅰ」に続く本演習では、自ら問題を設定し、調べ、考察するという過程を通じて、各々の関心を醸成し、2年以降の専門学習へ向けて準備する。

【到達目標】

- ・自ら問いを立て、それに沿って文献にあたり、考察を深めることができる。
- ・図書館やインターネットを効果的に使い、正しく調べる方法を身につける。
- ・レジュメを作成し、必要に応じてパワーポイント等を利用しながら、プレゼンテーションの仕方を習得する。
- ・一定量の文章を書き、学期末には課題論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・上記の問題を達成するために、授業内外の各自の学習とグループワークを通じて、授業計画で列挙する課題に取り組んでいく。
- ・具体的な進め方については「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	個人課題とグループ発表の進行について説明
第2回	グループ研究の説明	グループ研究の課題について説明
第3回	グループ研究（1）	グループ研究の課題へ向けた準備（テーマの検討、問題点、関連文献の調査）
第4回	グループ研究（2）	グループディスカッション、発表の準備
第5回	グループ研究（3）	レジュメ、パワーポイントの作成とチェック
第6回	グループ発表（1）	担当グループの報告と全体討議
第7回	グループ発表（2）	担当グループの報告と全体討議
第8回	グループ発表（3）	担当グループの報告と全体討議
第9回	グループ発表（4）	担当グループの報告と全体討議
第10回	ゼミ論文へ向けて	ゼミ論文（個人課題）の作成における確認と注意（研究倫理に関する理解と注の付け方等）
第11回	ゼミ論文報告（1）	個人課題に関する検討、発表
第12回	ゼミ論文報告（2）	個人課題に関する検討、発表
第13回	ゼミ論文提出	個人課題の成果をまとめ、提出
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人課題とグループ発表に関わる文献・資料の収集ならびに講読、レジュメの作成やゼミ論文の執筆などがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、課題（発表、ゼミ論文等） 50%

【学生の意見等からの気づき】

Zoom を用いたオンライン授業もあるが、昨年同様スムーズに進めたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the important skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

土倉 英志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習を踏まえて、自ら問いを立て、その問いを追究し、一定の成果としてまとめ、報告するという一連の活動に取り組む。この過程で、研究を実施するための基本的なスキルを身につけることを目的とする。「研究するとはどういうことか」「問いを立てるとはどういうことか」「研究にはどのような手法があるのか」といったことを、実践を通じて理解することを目指す。

【到達目標】

- ・問いを立て、その問いを他者に説明するスキルを習得する
- ・プレゼンテーションのスキルを磨く
- ・レポートを作成するための基本的なスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・受講者による研究報告を中心に展開する。受講者ごとに、またはチームごとに担当の文献を割りあてる。担当者にはレジュメを作成し、報告してもらう。これを受けてディスカッションを行なう。中盤以降は、データ収集/分析に向けて取り組む。必要に応じて教員が解説を行なう。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要の説明、役割分担
2	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
3	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
4	文献講読	文献の報告、質疑応答、討論
5	研究テーマの報告	研究テーマの報告、質疑応答、討論
6	研究テーマの報告	研究テーマの報告、質疑応答、討論
7	研究テーマの報告	研究テーマの報告、質疑応答、討論
8	リサーチクエスションの設定	RQ の報告、質疑応答、討論
9	リサーチクエスションの設定	RQ の報告、質疑応答、討論
10	データの収集/分析計画の立案	データを収集/分析する計画を立てる
11	データの収集/分析計画の立案	データを収集/分析する計画を立てる
12	ゼミ論のプレゼン	ゼミ論の要旨をプレゼンする
13	ゼミ論のプレゼン	ゼミ論の要旨をプレゼンする
14	まとめ	ゼミ論の提出。まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・文献を報告する準備を行なう。適宜課される課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

・初回の授業で指示します。

【参考書】

・授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（文献報告と質疑応答・グループディスカッションへの参加）（50%）と授業内外で課す課題の質（50%）で判断します。
- ・指定の回数を越えた欠席は単位修得不可となります。無断欠席は厳しく評価します。
- ・詳細は初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

・データ分析の指導を充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業計画や進めかたは、受講者のスキルや授業の展開に応じて変更することがあります。
- ・春学期の学習を前提に授業を進めるため、あわせて受講することを求めます。

【Outline and objectives】

This course is designed to assist students' learning at university. In this class students read some basic articles in the social sciences and have group discussions. During the course students explore and investigate research themes. The objective of this course is to develop your study skills and research skills through these activities.

MAT100EA

基礎数学 I

鈴木 麻美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段何気なく接している自然現象や、生活の仕組みは「数学」のもとに成り立っているものが多い。この「数学」とはどんな学問なのか。世界文化の変遷の中での数学のルーツと発展へ目を向け、様々な問題を取り上げて「数学的思考」を学ぶ。その中で「論理的な考え方・数学的思考力の重要性」を考える。

【到達目標】

この講義を通して社会生活における「論理的な考え方・数学的思考力の必要性」と「生活の中に存在する数学」に気づくことを目的とする。この気づきから、その重要性和数学へ興味を持ち、更なる学びのスタートに役立ててほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Zoom による講義では、身近で具体的な問題について取り組む他、それらの問題の時代背景も紹介する。また、数学的論証として「帰納法」・「背理法」の基本を学ぶ。各テーマごとに証明問題や演習問題に取り組み、理解を深める。授業内で行うテストに関しては、採点した結果を返却し、授業内では問題の解説を行うので、間違えている部分は各自確認し、必ず復習すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび数学の始まり。	「数学」の紹介と、講義の進め方・成績評価の説明。および人と数学のルーツと、学問の成り立ちの紹介。
2	ピタゴラス学派の数学上の発見	「ピタゴラスの定理」で有名な、ピタゴラス学派が発見した様々な数学の問題。
3	ピタゴラス数の構築	ピタゴラス数の構築
4	オイラーの等式	いろいろな多面体に注目し、新しい幾何学「位相幾何学」を学ぶ。
5	正多面体の決定	オイラーの等式を用いて、3次元空間の正多面体を定める。
6	グラフ理論と散歩道	位相幾何学・グラフ理論のルーツとグラフ理論の基礎定理。
7	一筆書きの原理	グラフ理論から「一筆書きの原理」を導く。
8	あみだくじ	「あみだくじ」を題材にして、置換・互換を学ぶ。
9	15ゲームの群論的考察	置換から学ぶ身近なゲーム「15ゲーム」。
10	15ゲームの応用	15ゲームの応用問題に取り組む。
11	合同式	日常に見られる「合同式」の仕組みを学ぶ。
12	暗号通信（1）	ある暗号システムの作り方と、解読システムを学ぶ
13	暗号通信（2）	暗号の作成・解読の演習。
14	まとめ。	これまでの講義の内容に関するまとめと総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一つ一つの理論は難しく無くとも、それが積み重なると煩雑に思えるだろう。毎回の授業の内容をノートに丁寧にまとめ、ノートと教科書の内容を毎週復習してから出席して欲しい。特に証明問題に関しては、授業中のノートの内容を何度も読み返し、自分でその証明を繰り返し再現することでしか身につけることはできない。面倒に思えても、その作業により数学的思考が徐々に身につくことであろう。毎回の授業の予習復習は、通常合わせて4時間程度と考えるが、それ以外に試験の準備としては、授業の時間以上に十分な準備を要すると考える。

【テキスト（教科書）】

「数学の視界 改訂版」 志賀弘典 著, 数学書房

【参考書】

適宜指定

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%) および、授業内テスト (60%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを書く科目が少ない中、自分で書くことで、復習の際の理解が深まる様子。丁寧にノートを書くことがこの科目では重要である。

【その他の重要事項】

上記にもあるように、必ず継続してノートを取る必要があります。

【Outline and objectives】

What is "Mathematics"? We consider the history of "Mathematics" and we learn some examples of mathematical problems, Furthermore we learn the mathematical thinking which are very important in the social life.

MAT100EA

基礎数学Ⅱ

鈴木 麻美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然界の現象や、生活の中の現象の仕組みは、様々な「数学」のもとに成り立っているものが多い。この講義では、高校数学で学んだ基礎的な内容の中から数列と微分に関して、その基礎から経済・経営学に関する具体的な問題への応用を学ぶ。

【到達目標】

数列に関しては高校で学んだ等差数列・等比数列さらに無限級数を復習し「金利」のシステムへの応用を学ぶ。次に、変化する量を調べる際に多用される「微分」を応用して、経済活動の変化の様子を調べることを学ぶ事を目的とする。ここで学んだ基礎的な内容を、専門学習に役立ててほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Zoom による講義では、具体的な問題を考えながら、その仕組みの基礎を学ぶ。黒板で説明することをしっかりノートに記録し、授業後に自己学習にて身につけて欲しい。この科目は、一つ一つの積み重ねの学問であるので、前回までの復習を前提として授業を進める。授業内で行うテストに関しては、採点した結果を返却し、授業内では問題の解説を行うので、間違えている部分は各自確認し、必ず復習すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび数列の基本	講義の進め方および成績評価についての説明と、等差数列と等比数列について学ぶ。
2	利息のお話	単利と複利の話し。
3	積み立て預金のお話	数列の和の存在性と積立預金への応用を学ぶ。
4	物やお金は、時とともに価値が変わる？	現在価値と将来価値の概念を導入する。
5	借金の仕組み	現在価値と将来価値の概念と、借金の仕組みを学ぶ。
6	数列の極限と無限級数	数列の極限值について、その概念と極限値の求め方を学ぶ。
7	関数の極限	関数の極限値を学ぶ
8	極限値と微分	極限値の概念と、関数の微分可能性について学ぶ。
9	導関数	簡単な関数について、その微分と導関数の導出方法を学ぶ。
10	導関数の幾何学的意味	導関数と関数の増減の関係を学ぶ。
11	微分の応用（1）	一般の多項式関数について関数の増減表・グラフの概形を学ぶ。
12	微分の応用（2）	経済に表れるいくつかの関数と利潤関数について学ぶ。
13	微分の応用（3）	いくつかの条件の下で、利潤最大化を考える。
14	まとめ	前回までの講義内容のまとめと総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一つ一つ出てくる理論は難しくないので、それらをたくさん積み重ねると、煩雑なものに思えることと思う。授業の内容はすべてノートに丁寧にきちんとまとめ、毎週教科書とノートを復習してから出席して欲しい。毎回の授業の予習復習は、通常合わせ 4 時間程度と考えるが、それ以外に試験の準備としては、授業の時間以上に十分な準備を要すると考える。

【テキスト（教科書）】

「きちんとわかる経済経営数学入門（数列微分編）」鈴木麻美・内藤敏機著、牧野書店。

【参考書】

1. 「例題で学ぶ入門・経済数学〈上〉」エドワード・T. ドウリング(原著), 大住 栄治(著), 川島 康男(著), シーエーピー出版。
2. 「金利利息のしくみがわかる本」小向 宏美(著), 古橋 隆之(監修), 総合法令出版。

【成績評価の方法と基準】

授業内テスト(60%)・期末試験(40%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

数列・微分はほとんどの学生が高校で学んだ経験があるようであるが、この講義のような具体的な問題との関連性を考えることは、初めて学生が多い。数学をより身近な学問として捉えてくれることを期待している。

【Outline and objectives】

Many phenomena in nature and many mechanisms in life are constructed on various "mathematics". Therefore, in this lecture, especially we learn sequence and differential calculus, furthermore we study some examples in economic problems and business problems.

CAR100CA

キャリアデザイン論

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、①大学での学び方や過ごし方、②社会人として活躍していくための在学中の準備、③働くことおよび適職を選択していくための基本的な考え方、④多摩地域で活躍している企業の視点、⑤社会で既に活躍している多摩キャンパスの OB・OG から各自のキャリア形成に関するヒントを学ぶ、という一連の学習を通じて、各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎力を養うことです。

【到達目標】

- ①講義の聴講、多摩で活動する企業人や社会で活躍する OB・OG の話を聞きながら、自分自身の基本的なキャリア形成戦略を具体的にイメージできるようになる。
- ②自分自身の基本的なキャリア形成戦略をもとに、学生時代における具体的な行動計画を考え、必要に応じて自らの行動様式を自律的に変革できるようになる。
- ③各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的な視点と力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【本科目はオンデマンド型での授業実施です】

この科目は教室での対面授業ではありません。授業が予定されている日程から一定の期間内（1週間程度）の内で、各自が自由に時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステムによって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の構成とねらい、受講上の注意について解説するとともに、キャリアデザインとは何かについて学ぶ。
2	大学での学び方・大学時代の過ごし方	法政大学での学び方、大学の有効活用する方法、学生時代の有意義な過ごし方やぶつかるかもしれない課題について学ぶ。
3	社会人として成長するための準備①「インターンシップ」	大学に在学しながら企業活動の経験を積める貴重な機会であるインターンシップへの参加方法について学ぶ。（キャリアセンター）
4	社会人として成長するための準備②「就職への準備活動」	大学在学中に就職に向けた準備活動をどのように進めていったらよいかについて学ぶ。（キャリアセンター）
5	働くことについて考える①「働くことの意味」	働くとはどういう意味があるのか？これまでの労働観にも触れながら、現代における働く意味を考えていく。
6	働くことについて考える②「チャンスを広げる行動様式」	日常的な偶然のできごとを自分にとってチャンスとして生かしていくための行動様式の変革方法について学ぶ。
7	働くことについて考える③「適職選択の戦略」	キャリア選択のための基礎理論を学んだうえで、これまでの研究や調査から好ましい適職探しの考え方について学ぶ。
8	社会で活躍する先輩に学ぶ①	社会で活躍する経済学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
9	社会で活躍する先輩に学ぶ②	社会で活躍する社会学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
10	社会で活躍する先輩に学ぶ③	社会で活躍する現代福祉学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。

11	社会で活躍する先輩に学ぶ④	社会で活躍するスポーツ健康学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
12	多摩で活躍する企業人に聞く①	多摩地域で活躍する企業の方に、多摩地域での企業活動の特徴、法政大学多摩キャンパスの学生に対する期待を伺う。
13	多摩で活躍する企業人に聞く②	多摩地域で活躍する企業の方に、多摩地域での企業活動の特徴、法政大学多摩キャンパスの学生に対する期待を伺う。
14	多摩キャンパス OB・OG 座談会	先輩たちが其々辿ってきた生き方から自らのキャリアをデザインしていくためのヒントを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各 2 時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

ありません。

【参考書】

授業の中で必要に応じて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は毎回提出を求める課題レポート（300 字程度）の合計によって評価します（100 %）。各回の評価では「レポートの内容」によって評価を行います。課題は毎回の授業の中で指示します。授業 1 回あたりの課題レポートの作業期間（提出締め切りまでの期間）は 1 週間です。単位取得には 70 % 以上の授業参加（課題レポートの提出）が不可欠です。

【学生の意見等からの気づき】

より分かりやすい授業資料の提供に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

各自、できるだけ学習がしやすい環境の確保に努めてください。スマートフォンではなく、できるだけ PC またはタブレットでの学習を推奨します。

【その他の重要事項】

質問や連絡事項等があれば、教員直通のメールアドレスで受け付けます。連絡可能なアドレスは、第 1 回授業時に提示します。

【受講上の注意】

月曜 1 限と月曜 3 限は同内容での授業実施になります。

【Outline and objectives】

Under the theme of "designing" one's carrier, we will learn how to connect academic study at the university with working in the real world, within various backgrounds and situations (e.g. private firms, government agencies, and not-for-profit organizations). The course will focus, but not limited to, the following topics: legal knowledge related to working, how to study and understand about a company, communication skills in workplace, work-life balance, diversity, working within local communities, and so on. Each session will be given by lecturers with experience/expertise in the topics.

CAR100CA

キャリアデザイン論

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、①大学での学び方や過ごし方、②社会人として活躍していくための在学中の準備、③働くことおよび適職を選択していくための基本的な考え方、④多摩地域で活躍している企業の視点、⑤社会で既に活躍している多摩キャンパスの OB・OG から各自のキャリア形成に関するヒントを学ぶ、という一連の学習を通じて、各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的力を養うことです。

【到達目標】

- ①講義の聴講、多摩で活動する企業人や社会で活躍する OB・OG の話を聞きながら、自分自身の基本的なキャリア形成戦略を具体的にイメージできるようになる。
- ②自分自身の基本的なキャリア形成戦略をもとに、学生時代における具体的な行動計画を考え、必要に応じて自らの行動様式を自律的に変革できるようになる。
- ③各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的な視点と力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【本科目はオンデマンド型での授業実施です】

この科目は教室での対面授業ではありません。授業が予定されている日程から一定の期間内（1 週間程度）の内で、各自が自由に時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステムによって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の構成とねらい、受講上の注意について解説するとともに、キャリアデザインとは何かについて学ぶ。
2	大学での学び方・大学時代の過ごし方	法政大学での学び方、大学の有効活用の方法、学生時代の有意義な過ごし方やぶつかるかもしれない課題について学ぶ。
3	社会人として成長するための準備①「インターンシップ」	大学に在学しながら企業活動の経験を積める貴重な機会であるインターンシップへの参加方法について学ぶ。（キャリアセンター）
4	社会人として成長するための準備②「就職への準備活動」	大学に在学中に就職に向けた準備活動をどのように進めていったらよいかについて学ぶ。（キャリアセンター）
5	働くことについて考える①「働くことの意味」	働くとはどういう意味があるのか？これまでの労働観にも触れながら、現代における働く意味を考えていく。
6	働くことについて考える②「チャンスを広げる行動様式」	日常的な偶然のできごとを自分にとってチャンスとして生かしていくための行動様式の変革方法について学ぶ。
7	働くことについて考える③「適職選択の戦略」	キャリア選択のための基礎理論を学んだうえで、これまでの研究や調査から好ましい適職探しの考え方について学ぶ。
8	社会で活躍する先輩に学ぶ①	社会で活躍する経済学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
9	社会で活躍する先輩に学ぶ②	社会で活躍する社会学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
10	社会で活躍する先輩に学ぶ③	社会で活躍する現代福祉学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。

11	社会で活躍する先輩に学ぶ④	社会で活躍するスポーツ健康学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
12	多摩で活躍する企業人に聞く①	多摩地域で活躍する企業の方に、多摩地域での企業活動の特徴、法政大学多摩キャンパスの学生に対する期待を伺う。
13	多摩で活躍する企業人に聞く②	多摩地域で活躍する企業の方に、多摩地域での企業活動の特徴、法政大学多摩キャンパスの学生に対する期待を伺う。
14	多摩キャンパス OB・OG 座談会	先輩たちが其々辿ってきた生き方から自らのキャリアをデザインしていくためのヒントを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各 2 時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

ありません。

【参考書】

授業の中で必要に応じて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は毎回提出を求める課題レポート（300 字程度）の合計によって評価します（100 %）。各回の評価では「レポートの内容」によって評価を行います。課題は毎回の授業の中で指示します。授業 1 回あたりの課題レポートの作業期間（提出締め切りまでの期間）は 1 週間です。単位取得には 70 % 以上の授業参加（課題レポートの提出）が不可欠です。

【学生の意見等からの気づき】

より分かりやすい授業資料の提供に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

各自、できるだけ学習がしやすい環境の確保に努めてください。スマートフォンではなく、できるだけ PC またはタブレットでの学習を推奨します。

【その他の重要事項】

質問や連絡事項等があれば、教員直通のメールアドレスで受け付けます。連絡可能なアドレスは、第 1 回授業時に提示します。

【受講上の注意】

月曜 1 限と月曜 3 限は同内容での授業実施になります。

【Outline and objectives】

Under the theme of "designing" one's carrier, we will learn how to connect academic study at the university with working in the real world, within various backgrounds and situations (e.g. private firms, government agencies, and not-for-profit organizations). The course will focus, but not limited to, the following topics: legal knowledge related to working, how to study and understand about a company, communication skills in workplace, work-life balance, diversity, working within local communities, and so on. Each session will be given by lecturers with experience/expertise in the topics.

POL300EB

行政学

谷本 有美子

サブタイトル：政策過程論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政の活動は、私たちの生活に様々な場面で関わりを持つもので、民主主義国家における行政は、国民を代表する議会が決定した法律や予算に基づくことが原則とされます。しかし、複雑化した現代社会のしくみをすべて議会の決定に委ねることは困難で、行政には命令や規則などの一定の裁量権が認められており、その仕事は主に専門家集団としての官僚機構が担っています。行政の活動は、それ自身が自律的に運用される側面を有するため、その不作為や政策実施の不手際が人々の生活に影響を及ぼし、新たな社会課題を生じる可能性は少なくありません。

そうした観点から、この授業のテーマは「行政学から見た社会課題の発見」とします。私たちの暮らしと密接な関わりを有する行政について、制度やしくみとともに基本的な性質を学んだ上で、政治との関係で変化する制度や政策形成を検討し、主権者の立場から行政責任の問題等を考察していきます。

【到達目標】

- ・行政の基本的な制度やしくみ、性質を理解する
- ・行政における政策形成と政治との関係性を検討する
- ・現代行政の問題を主権者の立場で実践的に考察する思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントや、レジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り政治と行政の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、授業内でいくつか取り上げて全体に向けてフィードバックしていきます。

前半は行政の制度や仕組みを中心に、後半は政策の形成過程を中心に解説します。終盤では、現代の行政活動事例について行政責任・行政統制の論点も踏まえながら検討し、行政課題と社会課題との関係性についても考察をすすめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	行政学－身近なところからのアプローチ	私たちの生活と行政との関係について概説し、授業で扱う行政の問題を俯瞰する
第 2 回	行政国家の成り立ち	時代に応じて政府の役割が増大し、行政官僚制が形成されてきたプロセスを詳説する（テキスト第 2 章参照）
第 3 回	日本の内閣制度と国地方関係	現代日本の統治機構と政府体系の側面から、議院内閣制と国地方関係について詳説する（テキスト第 5 章参照）
第 4 回	行政の活動－規制行政	行政による課題解決方法として、規制行政を取り上げ、その権力性についての理解を深める
第 5 回	行政の活動－サービス提供活動	行政による公共財提供の側面を取り上げ、行政資源配分の選択肢について検討する
第 6 回	行政組織と行政管理	日本の行政組織とそのシステムについて概説した上で、1990 年代以降の行政改革の動向について検討する（テキスト第 6 章・第 8 章参照）
第 7 回	公務員制度と人事行政	行政を中心的に担う公務員に関する制度と人事行政のしくみについて概説する（テキスト第 7 章参照）
第 8 回	政策作成と決定	行政による政策案作成と政府案としての決定に至るプロセスを詳説し、理論モデルと実際を検討する（テキスト第 9 章参照）
第 9 回	政策立案の実際－法律・条例	国の法律案と自治体の条例案の作成過程から、合意形成と調整の側面を検討する（テキスト第 10 章参照）
第 10 回	政策立案の実際－予算	予算案の作成過程から合意形成と調整の側面を検討する（テキスト第 11 章参照）

発行日：2021/4/1

第 11 回	政策の実施体制と手法	資金交付行政を取り上げながら、実施体制と手法について実践的に検討する
第 12 回	政策の評価	現代日本で導入されている政策評価の仕組みについて概説し、フィードバックの実際を検討する
第 13 回	行政責任と行政統制	行政活動に対する民主的統制のあり方を中心に検討する
第 14 回	行政学から見た社会課題の発見	行政課題と社会課題とのつながりについて考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
・2021 年度政府予算の重点政策を調べる
・自分たちの生活に影響があると考えた内容の新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔『はじめての行政学』（有斐閣）

【参考書】

今村都南雄・武藤博己・沼田良・佐藤克廣・南島和久『ホーンブック基礎行政学』（北樹出版）
金井利之『行政学概説』（放送大学教育振興会）
西尾勝『行政の活動』（有斐閣）
森田朗『現代の行政』（第一法規）

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80％）に授業内のアクションペーパー・小レポート提出状況等（20％）を加味し、総合的に評価します。大学の行動方針レベルに応じ、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や理解度に応じて、後日授業での補足説明や追加資料配布等を行います。

【Outline and objectives】

In principle, administration in a democratic state is based on laws and budgets determined by the parliament representing the people. As it is difficult to delegate all the complexities of modern society to the decisions of Congress, administration has discretionary powers. Because of being managed mainly by bureaucrats, administration activities have the aspect of being operated autonomously. Therefore, their omissions and negligence on implementing the public policy might cause new social issues.

From such a viewpoint, we'll set the purpose of this class "Discovering social issues from the viewpoint of public administration." After studying the basics, like system, mechanism, and characteristics of public administration, we will study the change by the political influence of administrative system and policy, then we will consider the issue of the administrative responsibility.

LAW300EB

行政法 I

氏家 裕順

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、われわれ個人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、立法活動も行っており、それによって私人の権利義務を規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。授業では、行政活動の主体と組織、法治主義などの基本的事項を学習した後で、行政活動のうち、行政規範の制定（伝統的に行政立法と呼ばれてきた）、行政処分（行政行為と呼ばれることが多い）、行政上の強制執行、即時強制、行政指導に注目して、その法的規制を主に学ぶ。残される行政の行為は、行政法 II で学習する。

【到達目標】

①行政法の法源、②行政の各種の行為、③法治主義の具体的内容、④信頼保護の必要性と方法、⑤行政規範の制定（行政立法）、⑥行政処分（行政行為）、⑦行政上の代執行と行政上の強制徴収の概要、⑧即時強制的法的規制、⑨行政上の制裁の概念と種別、⑩行政指導の概念・種別と法的規制を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業冒頭で、受講者から提出された意見・感想等を紹介しコメントする。なお、通学が困難な場合には、Webex を用い、講義形式で授業する。授業方式の変更などの連絡は、学習支援システムによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	行政法のイメージ	講義概要と進め方
第 2 回	行政と行政法	行政の概念 行政法の法源
第 3 回	行政活動の種別	公行政と私行政 行政の各種の行為
第 4 回	行政活動の主体と組織	行政活動の主体 行政組織の構成
第 5 回	法治主義・信頼保護	法治主義の内容 信頼保護
第 6 回	行政規範の制定	概念 種別 法律の委任のあり方
第 7 回	行政処分（1）	概念と成立過程
第 8 回	行政処分（2）	行政行為の効力
第 9 回	行政処分（3）	行政行為の職権取消しと撤回
第 10 回	行政処分（4）	行政行為の手続
第 11 回	行政上の強制執行	行政上の代執行（代執行） 行政上の強制徴収
第 12 回	即時強制と行政上の制裁	即時強制的法的規制 行政上の制裁の概念・種別
第 13 回	行政指導（1）	概念 種別
第 14 回	行政指導（2）	法的規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定箇所を通読することによって予習し、教科書を用いながら復習する。本授業の準備学習時間は 1 時間を、復習時間は 3 時間を、標準とする。

【テキスト（教科書）】

芝池義一『行政法読本〔第 4 版〕』（有斐閣、2016 年）、¥3,000 + 税

【参考書】

宇賀克也『行政法概説 I 〔第 6 版〕』（有斐閣、2017 年）、藤田宙靖『行政法入門〔第 7 版〕』（有斐閣、2016 年）など初回の授業で紹介するもの。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100％）。通学できない場合にはレポートによる（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや Webex を利用できる通信環境やハードウェア。レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc、.docx の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）。

【Outline and objectives】

In order to establish your best possible foundation for studying administrative law, this course is designed to learn the fundamentals of administrative law.

LAW300EB

行政法 II

氏家 裕順

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法 II では、行政法 I に引き続き行政の行為に注目して、行政契約の法的規制を学習する。また、行政計画、行政調査の法的規制の学習にも取り組む。

また、行政機関の保有する情報の公開に関する法律（行政機関情報公開法）と行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律（行政機関個人情報保護法）の概要を、すなわち、情報公開と個人情報保護の制度を学ぶ。

上記のものや行政法 I で学んだ法的規制によって適法な行政活動が実現し、それにより私人の権利利益が保護されるはずだが、私人が被害を被った場合にはそれが回復され、また、被害の発生は予防されるべきである。行政活動によって被害を被った（被るおそれがある）私人の権利利益の回復（予防）のことを、行政救済という。この行政救済のための各種の制度をも学ぶ。

【到達目標】

行政計画の概念・種別及び法的規制、行政契約の概念・種別及び法的規制、行政調査の概念・種別及び法的規制、行政機関情報公開法の概要、行政機関個人情報保護法の概要、各種の行政救済と行政訴訟の諸形式、取消訴訟の概要、無効確認訴訟の訴訟要件、差止訴訟の訴訟要件、不作為違法確認訴訟の訴訟要件、義務付け訴訟の訴訟要件、公権力行使責任の概要、営造物管理責任の概要、水害と国家賠償責任について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業冒頭で、受講者から提出された意見・感想等を紹介しコメントする。なお、通学が困難な場合には、Webex を用い、講義形式で授業する。授業方式の変更などの連絡は、学習支援システムによって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	行政法 II での学び	講義概要と進め方
第 2 回	行政計画	概念・種別 法的規制
第 3 回	行政契約	概念・種別 法的規制
第 4 回	行政調査	概念・種別 法的規制
第 5 回	情報公開と個人情報保護	行政機関情報公開法と行政機関個人情報保護法の概要
第 6 回	行政救済と行政訴訟	各種の行政救済 行政訴訟の諸形式
第 7 回	取消訴訟（1）	処分性 原告適格
第 8 回	取消訴訟（2）	訴えの客観的利益 事情判決
第 9 回	無効確認訴訟と差止訴訟	各訴訟の訴訟要件
第 10 回	不作為違法確認訴訟と義務付け訴訟	各訴訟の訴訟要件
第 11 回	国家賠償（1）	公権力行使責任の成立要件
第 12 回	国家賠償（2）	規制権限の不行使による国賠責任
第 13 回	国家賠償（3）	営造物管理責任の成立要件
第 14 回	国賠責任（4）	水害と国家賠償責任

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定箇所を通読することによって予習し、教科書を用いながら復習する。本授業の準備学習時間は 1 時間を、復習時間は 3 時間を、標準とする。

【テキスト（教科書）】

芝池義一『行政法読本〔第 4 版〕』（有斐閣、2016 年）、¥3,000 + 税

【参考書】

宇賀克也『行政法概説 II 〔第 6 版〕』（有斐閣、2018 年）、藤田宙靖『行政法入門〔第 7 版〕』（有斐閣、2016 年）など初回の授業で紹介するもの。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100%）。通学できない場合にはレポートによる（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや Webex を利用できる通信環境やハードウェア。レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc、.docx の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）。

【Outline and objectives】

In order to establish your best possible foundation for studying administrative law, this course is designed to learn the fundamentals of administrative law.

ECN200EB

金融システム論

八木 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内の金融政策・金融制度および国際金融の仕組みについて理解するために必要な、伝統的な金融に関する理論および知識とともに、近年のデジタル化に基づいた最新技術動向（ブロックチェーンや金融情報システム）や、それによって得られた知見の修得を目指す。

【到達目標】

現在の国内外の金融問題について理解できるよう、金融および国際金融に関する理論のごく基本的な枠組みおよび金融システムの仕組みに関する実践的な知識を身につける。

また、金融システムに適用された最新技術動向やそれらから得られた知見について理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

PowerPoint ベースのスライドを利用した講義中心に行います。授業の前半では、金融の理論と金融政策運営など伝統的な金融システム論を基礎から学びます。後半では、金融業界および金融システムで利用されている最新技術について学びます。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序章	自己紹介、金融取引と金融システムの概要をみていく
2	日本の金融システム	これまでの日本の金融システムの発展や特色について述べる
3	資金循環と金融構造	資金循環と日本の金融構造の特徴についてみていく
4	貨幣と決済	貨幣の意義と機能、決済システムについて述べる
5	金融市場と新しい金融取引手法	金融市場の機能とその種類についてみていく
6	金融システムの安定性と監督規制	金融システムの安定性とブルーデンス効果、バーゼル規制等を学ぶ
7	金融システムと中央銀行	中央銀行の役割について学ぶ
8	ブロックチェーンと暗号資産の基礎	ブロックチェーンと暗号資産を取り巻く状況を確認する
9	ブロックチェーンを支える技術	ブロックチェーンを支える科学技術について学ぶ
10	ブロックチェーンの最新動向	ブロックチェーンを用いたビジネス等最新の動向をみていく
11	金融情報システム：金融サービスと金融 IT	金融情報システムのしくみを学ぶ
12	金融業界の情報システム	各金融業界で利用されている金融情報システムについて紹介していく
13	データサイエンスと金融ビジネス	金融ビジネスにおけるデータサイエンスの活用方法を紹介する
14	フィンテックと金融ビジネス	情報産業としての金融業の特徴を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。資料が事前に配布されたときはそれを読んで予習する。講義終了後も資料を読んで理解を深めるよう心掛ける。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

以下の図書の内容を中心に授業を行いますので、より理解を深めたいときはこれらを参考にしてください。

- ・金融システム（第4版）、酒井良清・鹿野嘉昭著、有斐閣
- ・現代の金融入門、池田和人著、筑摩書房
- ・エンジニアが学ぶ金融システムの「知識」と「技術」、大和総研フロンティアテクノロジー本部著、翔泳社
- ・ブロックチェーンのしくみと開発がしっかりわかる教科書、コンセンサス・バイズ
- ・デジタルイノベーションと金融システム、木下信行著、きんざい
- ・ブロックチェーン仕組みと理論、赤羽喜治・愛敬真生編著、リックテレコム

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて判定します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

一部の授業回数で試験的に導入した事後確認用授業資料（虫食い版）が好評だったので対象範囲を広げる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料をPDFで配布するので、それを確認できる情報関連機器

【その他の重要事項】

講義の後半は、情報科学技術について深掘りするため、可能な限り平易な説明を心がけますが、数理的な説明が入ってくることもあり得ます。

【Outline and objectives】

In order to understand the monetary policy and financial system in Japan, we will learn the traditional financial system and the latest technology trends (blockchains and financial information systems etc.).

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

サブタイトル：

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火3/Tue.3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

課題作品をエッセイ・アンソロジー集として無料の電子書籍化しWeb公開することで、執筆、校正、編集など作品を本にしていこう過程を体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

すべてオンラインで行う。学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、講義のほか、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1600字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メール、掲示板などで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

初回授業の日までに学習支援システムに仮登録を修了し、学習支援システム内の課題に取り組み始めること。

※実習授業のため、最大で20名までとする。開講初日に仮登録者が多数いた場合は、抽選とする。4月13日までに学習支援システムに本人のアカウントでアクセスし初回課題の締め切り日までに課題を提出した学生の中から抽選し、受講を許可する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業内容の説明
第2回	感想課題	前年度学生作品集の批評
第3回	推敲とは	エッセイ添削例
第4回	作品1提出	テーマは「二年目のコロナの春」
第5回	作品指導1	自作を捉え直す
第6回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第7回	課題1の合評	エッセイ賞選考・質疑応答1
第8回	作品2提出	テーマは「思い出の本」
第9回	作品指導2	自作を捉え直す
第10回	本の構成	本の要素や特性を考える
第11回	課題2の合評	エッセイ賞選考・質疑応答2
第12回	作品集の編集作業	作品集の全体像を捉える
第13回	作品集の校正作業	細部を調整する
第14回	作品集のWeb公開	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『モンテニエ エッセイ抄』みずす書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。

クリエイティブ・ライティング学生作品集 <http://www13.plala.or.jp/aririn/creative.htm>

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 50%・平常点 50%。作品評価は、

課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。
平常点としては、各回の出席課題を期限内に提出することで、授業に参加したとみなして加点する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。
Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。
資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline and objectives】

This course introduces creative writing to students taking this course.

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

サブタイトル：

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

課題作品をエッセイ・アンソロジー集として無料の電子書籍化し Web 公開することで、執筆、校正、編集など作品を本にしておく過程を体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

すべてオンラインで行う。学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、講義のほか、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1600字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メール、掲示板などで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

秋学期の受講生は、秋学期初回授業日までに学習支援システムの課題に取り組むこと。

※実習授業のため、最大で20名までとする。受講希望者が多数いた場合は、4、3年生から優先的に受講を許可する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業内容の説明
第2回	感想課題	前学期の学生作品の合評
第3回	推敲とは	エッセイ添削例
第4回	作品1提出	テーマは初回授業で示す
第5回	作品指導1	自作を捉え直す
第6回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第7回	課題1の合評	エッセイ賞選考・質疑応答1
第8回	作品2提出	テーマは「思い出の本」
第9回	作品指導2	自作を捉え直す
第10回	本の構成	本の要素や特性を考える
第11回	課題2の合評	エッセイ賞選考・質疑応答2
第12回	作品集の編集作業	作品集の全体像を捉える
第13回	作品集の校正作業	細部を調整する
第14回	作品集のWeb公開	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『モニターニュー エッセイ抄』みずす書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。

クリエイティブ・ライティング学生作品集 <http://www13.plala.or.jp/aririn/creative.htm>

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 50%・平常点 50%。作品評価は、

課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の出席課題を期限内に提出することで、授業に参加したとみなして加点する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline and objectives】

This course introduces creative writing to students taking this course.

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

サブタイトル：

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

課題作品をエッセイ・アンソロジー集として無料の電子書籍化し Web 公開することで、執筆、校正、編集など作品を本にしていく過程を体験すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

すべてオンラインで行う。学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、講義のほか、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1600字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メール、掲示板などで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

初回授業の日までに学習支援システムに仮登録を修了し、学習支援システム内の課題に取り組み始めること。

※実習授業のため、最大で20名までとする。開講初日に仮登録者が多数いた場合は、抽選とする。4月13日までに学習支援システムに本人のアカウントでアクセスし初回課題の締め切り日までに課題を提出した学生の中から抽選し、受講を許可する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業内容の説明
第2回	感想課題	前年度学生作品集の批評
第3回	推敲とは	エッセイ添削例
第4回	作品1提出	テーマは「二年目のコロナの春」
第5回	作品指導1	自作を捉え直す
第6回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第7回	課題1の合評	エッセイ賞選考・質疑応答1
第8回	作品2提出	テーマは「思い出の本」
第9回	作品指導2	自作を捉え直す
第10回	本の構成	本の要素や特性を考える
第11回	課題2の合評	エッセイ賞選考・質疑応答2
第12回	作品集の編集作業	作品集の全体像を捉える
第13回	作品集の校正作業	細部を調整する
第14回	作品集のWeb公開	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『モンテニユ エッセイ抄』みずす書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。

クリエイティブ・ライティング学生作品集 <http://www13.plala.or.jp/aririn/creative.htm>

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 50%・平常点 50%。作品評価は、

課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。平常点としては、各回の出席課題を期限内に提出することで、授業に参加したとみなして加点する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline and objectives】

This course introduces creative writing to students taking this course.

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

サブタイトル：

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。

課題作品をエッセイ・アンソロジー集として無料の電子書籍化し Web 公開することで、執筆、校正、編集など作品を本にしておく過程を体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

すべてオンラインで行う。学習支援システムやweb会議室Zoomなどを利用し、講義のほか、作品制作に関する実習を行う。

学生は800字～1600字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。

授業への質問等はリアクションペーパー、メール、掲示板などで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。

課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。

授業の進度により内容は変更する。

作品の制作や提出は授業時間外に行う。

秋学期の受講生は、秋学期初回授業日までに学習支援システムの課題に取り組むこと。

※実習授業のため、最大で20名までとする。受講希望者が多数いた場合は、4、3年生から優先的に受講を許可する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	クリエイティブライティングとは	授業内容の説明
第2回	感想課題	前学期の学生作品の合評
第3回	推敲とは	エッセイ添削例
第4回	作品1提出	テーマは初回授業で示す
第5回	作品指導1	自作を捉え直す
第6回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第7回	課題1の合評	エッセイ賞選考・質疑応答1
第8回	作品2提出	テーマは「思い出の本」
第9回	作品指導2	自作を捉え直す
第10回	本の構成	本の要素や特性を考える
第11回	課題2の合評	エッセイ賞選考・質疑応答2
第12回	作品集の編集作業	作品集の全体像を捉える
第13回	作品集の校正作業	細部を調整する
第14回	作品集のWeb公開	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や調べが必要な場合は、事前に各自準備する。

各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『モニターニュー エッセイ抄』みずす書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。

クリエイティブ・ライティング学生作品集 <http://www13.plala.or.jp/aririn/creative.htm>

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 50%・平常点 50%。作品評価は、

課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。
平常点としては、各回の出席課題を期限内に提出することで、授業に参加したとみなして加点する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるPCを推奨する。
Zoomをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、PC以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。
資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのEメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline and objectives】

This course introduces creative writing to students taking this course.

SOC100EB

グローバル市民社会論A

岡野内 正

サブタイトル：コミュニティ・デザイン論A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

男女ベアの近代家族に基づく国民経済の自立と国民国家の独立に基づいた諸国家（ネイション）の連合体が、近代化を達成して人類を幸せに導くというのが、20世紀の人類の夢であった。その夢はかなわず、21世紀の人類の大多数は、テロリストを次々に生み出す人格形成の危機、女性への構造的暴力、激しい民族対立、地球規模の環境破壊で苦しんでいる。この人類社会の危機を乗り越える新しい夢として、グローバル市民社会という考え方が提唱されてきた。この授業の目的は、この考え方の概略をつかむことだ。

【到達目標】

人類社会を常に男女ベアの近代家族に基づく国民国家の枠組みから捉えようとするやり方を、近代家族イデオロギーに基づく方法論的ナショナリズム、という。一人当たりの生産物の量が絶えず増加することで人類社会が幸福になれるという考え方を、近代化論という。20世紀に支配的だったこの二つの考え方の意義と限界を明確につかむこと。そのうえで、グローバル市民社会論の意義と限界について議論できるようになることが、この授業の目標だ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方になっていますが、さらに変更がある場合は、学習支援システムなどでお知らせします。>

グローバル市民社会に関する学術書を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は、毎回の授業までに全員がテキストの該当部分について、次の4点を含む「授業ノート」を作成し、授業支援システムの掲示板に書き込む。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたいこと。

毎回の授業の前半部分では、ZOOMのブレイクアウトセッション機能を用いて、少人数で全員がそれを共有しつつ報告・議論し、その少人数分科会の座長になった人が、授業後半部分で、自分の分科会の状況を報告し、それをもとに、講師を含む全員で問題を共有して、議論をしながら、わからなかったことを解決して知識を増やすとともに、挙げられてきたさまざまな論点について、より深い問いを共有していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	近代家族イデオロギー、方法論的ナショナリズム、近代化論、グローバル市民社会論の概略。授業の進め方についての説明。
2	グローバル化とプレカリアート	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
3	プレカリアートが増える理由	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
4	プレカリアートになるのは誰か	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
5	移民論	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
6	労働、仕事、時間圧縮	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
7	プレカリアート増加の政治的帰結	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
8	ガイ・スタンディングが提起する政策的展望	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
9	グローバル市民社会とベーシック・インカム（序論）	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
10	ベーシックインカムのナミビア実験の概要と結果	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
11	ナミビア実験後の展望と現状	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
12	ブラジルとインドでのベーシックインカム実験について	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
13	アラスカとイランについて	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。

- 14 コロナ・パンデミックと 分科会と全体討論による、受講生と教
グローバル市民社会 員を交えた議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業について「授業ノート」を書き、掲示板に書き込む。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000 円＋税。
岡野内正他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000 円＋税。

【参考書】

岡野内正研究室のサイト (<https://takunseminar.ws.hosei.ac.jp/wp/>) にある諸論文。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提とする 14 回分の授業ノートの内容によって 100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業ノート」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権 NGO での長年の活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on the issues of Global Civil Society. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

SOC100EB

グローバル市民社会論 B

中筋 直哉

サブタイトル：コミュニティ・デザイン論 B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のグローバル化に対応しつつ、身近な市民社会を主体的に形成するための基本課題を、主に社会学の方法に基づいて理解する。とくに理論的基礎づけに重点を置く。

【到達目標】

・グローバル化が市民社会に与える影響を、事実とデータに基づいて理解、説明できる。
・公共政策を中心とする市民社会形成の諸方法を体系的に理解し、今後の専門的学修に役立てられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教室で対面形式で実施（予定）。参加できない受講者にはオンライン・オンデマンドでも授業を提供する。学習支援システムで講義資料を事前配布する。課題については授業中に期末試験については試験後に、受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	グローバル化の社会理論	世界史からグローバル・ヒストリーへ
3	グローバル化の社会理論 1	世界システム分析の理論
4	グローバル化の社会理論 2	グローバル化とカルチュラル・スタ
5	グローバル市民社会の哲学 1	ダイアーズ
6	グローバル市民社会の哲学 2	カントの「歓待」をめぐって
7	グローバル市民社会の哲学 3	カントを超える現代哲学
8	グローバル市民社会の哲学 4	オンナ・コドモのグローバリズム
9	事例研究的講義	グローバル市民社会の典型事例の紹介
10	事例をめぐる討論	グループディスカッション
11	市民社会形成の方法 1	地域社会の再構築
12	市民社会形成の方法 2	社会運動の提案力
13	市民社会形成の方法 3	地域政府と公共政策の市民化
14	展開的講義	グローバル市民社会の最新事例の探究
14	グローバル市民社会の展望	重要論点の復習と質疑、討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習復習の他、「今日の課題図書」のうちのいくつかを読むことが必要。授業の中盤に A4×1 枚のレポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポートの出来が 35 %（提出しないと D）、論述式の期末試験が 55 %。授業参加の総合的評価が 10 %。試験解答において、市民社会形成についての自らの考えを、事実とデータに基づいて論理的に表明できることが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で最新の事件、事例に基づいて説明するよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。ただ画面を眺めるだけでなく自分のノートを作ることが重要。

【Outline and objectives】

This introductory lecture aims to study some academic approaches to understand global civil society.

SOC200EB, SOC200EC

グローバル社会のローカリティ

中筋 直哉

サブタイトル：地域社会学

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前世紀の国民国家に組み込まれた地域社会とは異なる、グローバル化した現代社会におけるローカルな場所の実態と意味を、主に社会学の方法に基づいて理解する。とくに場所の間を移動していく人びとの生活のリアリティに重点を置く。

【到達目標】

・新しいローカリティの可能性と困難を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
・新しいローカリティを踏まえた社会形成についての自らの考えを論理的に表明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド形式で実施（予定）。学習支援システムで講義資料と音声・動画を事前配布する。質疑応答は指定した時間に学習支援システムを使って行う。課題については授業中に期末試験については試験後に、受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	ローカリティとは何か 1	国民国家の構成要素としての地域社会
3	ローカリティとは何か 2	グローバル化による地域社会の脱構築
4	ローカリティの諸形態 1	親密圏の解体と再生
5	ローカリティの諸形態 2	農山漁村の生存戦略
6	ローカリティの諸形態 3	世界都市と分極化
7	ローカリティの諸形態 4	境界と辺境をめぐるゲーム
8	事例研究的講義	新しいローカリティの典型事例の紹介
9	事例をめぐる討論	グループディスカッション
10	人びとの移動と定着 1	移民・難民たちのレガシズ
11	人びとの移動と定着 2	リアリティ・トランジットとアート
12	人びとの移動と定着 3	旅する信仰と思想
13	ローカリティの未来 1	新しい市民社会形成の方途の探究
14	ローカリティの未来 2	重要論点の復習と質疑、討論

※別途定期試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習復習の他、「今日の課題図書」のうちいくつかを読むことが必要。授業の中盤に A4×1 枚程度のレポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポートの出来が 35 %（提出しないと D）、論述式の期末試験が 55 %。授業参加の総合的評価が 10 %。試験解答において、現代社会のローカルな生活に対する自分の考えを、事実とデータに基づいて論理的に表明できることが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】

理論的説明をよりゆっくりとていねいに行うよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。ただ画面を眺めるだけでなく自分のノートを作ることが重要。

【その他の重要事項】

コースの専門的科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline and objectives】

This lecture aims to study local society making below globalization by sociological perspective.

ECN200EB

経済政策論

北浦 康嗣

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済政策の 1 つとして、効率的な資源配分が達成されるために政府が何らかの手段で市場へ介入することが挙げられます。本講義では、ミクロ経済学の内容を前提として産業組織論の基本的な考え方を解説するとともに、規制政策・競争政策の経済学的根拠を解説します。

【到達目標】

- （1）産業、企業の経済学的行動について、図を用いて説明することができる。
- （2）不完全競争について、図を用いて説明することができる。
- （3）規制政策・競争政策について、図を用いて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は産業、企業の行動について経済学的な分析を行う。その後、不完全競争について解説し、規制政策・競争政策について議論を行う。2021 年度はオンライン授業の実施に伴い、変更の可能性があります。変更内容は学習支援システムで提示します。必ず、毎回、Hoppii を確認するように心がけてください。授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、生産の理論（1）—完全競争市場	ガイダンスを行った後に、利潤・費用・収入といった用語や生産関数・生産要素の限界生産力を解説します。
2	生産の理論（2）—完全競争市場	利潤最大化問題について解説します。
3	生産の理論（3）—完全競争市場	総費用曲線と限界費用曲線の関係を図解します。
4	生産の理論（4）—完全競争市場	総費用曲線と平均費用曲線の関係を図解します。
5	生産の理論（5）—完全競争市場	利潤最大化問題を図解します。
6	生産の理論（6）—完全競争市場	損益分岐点と操業停止点を図解します。
7	中間試験	計算問題を中心として試験を行います。
8	不完全競争	不完全競争について解説します。
9	ゲーム理論（1）	戦略的行動について解説します。
10	ゲーム理論（2）	同時手番ゲームについて解説します。
11	ゲーム理論（3）	ナッシュ均衡について解説します。
12	ゲーム理論（4）	囚人のジレンマについて解説します。
13	クールノー競争（1）	不完全競争における価格競争について解説します。

14 クールノー競争（2） 競争政策・産業政策について議論
します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

家森 信善, 小川 光 [2007] 「基礎からわかるミクロ経済学（第2版）」
中央経済社

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験50%，期末試験50%，両方受験すること。）
で評価します。試験に関しては、Hoppii 上でお知らせします。必
ず、毎回、Hoppii を確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、板書
中心の授業を行います。

【Outline and objectives】

The objective of the course is to provide the students with
the understanding and tools of microeconomics. Students who
complete this course will be able to understand:

- (1) the theory of the firm;
- (2) the theoretical market structures of perfect competition,
monopoly and oligopoly.

HIS200EA

現代史 I

慎 蒼宇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今年は満州事変から 90 年の年です。2021 年の現代史 I では、近代
における諸戦争や革命・独立へと帰結する「世界史」と「東アジア
史」はどのような特徴を帯びているのかを、「戦争」と「植民地主義」
の歴史に焦点をあてて、学んでいきます。

【到達目標】

この講義の目標は、①日本社会において広く流布とされている近現
代史像を疑う思考力を身につけ、②世界、東アジアと日本の関係史
をより豊かに捉え、説明することができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP
についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義では最初に近代の諸戦争の特徴をおおまかに分析したうえで、
これらの戦争を植民地主義との関わりを考察するアプローチ法とその
歴史過程を学んでいきます。なお、講義はオンラインで行い、毎回
リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこで出た質問
については、その次の講義の冒頭で一部紹介することで、双方向的
なコミュニケーションを図っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像と進め方／学問とし ての歴史学について学ぶ
第 2 回	概論① 歴史における 「戦争」とは	世界史における「戦争」の変化を 概観します。
第 3 回	概論② 近現代の「戦 争」を規定する「植民 地主義」	「戦争」と「植民地主義」との関 わりについて考えます。
第 4 回	「植民地戦争」のはじ まり	16～18 世紀におけるヨーロッパ 諸国の植民地戦争について概観し ます
第 5 回	同時期の東アジア	文禄・慶長の役の性格について考 察します
第 6 回	二重革命の時代の戦争 と植民地主義	民主革命・産業革命の時代の植民 地戦争（インド・東南アジア）に ついて考察します
第 7 回	東アジアの戦争①	アヘン戦争とその衝撃について考 察します
第 8 回	東アジアの戦争②	明治維新後の日本の対外膨張につ いて概観します
第 9 回	帝国主義と東アジア①	日清戦争について三つの視座から 考察します
第 10 回	帝国主義と東アジア②	中国の義和団戦争について考察し ます
第 11 回	帝国主義と東アジア③	日露戦争について三つの視座から 考察します
第 12 回	第 1 次世界大戦のな かの「植民地主義」①	第 1 次世界大戦までの植民地主 義の歴史を概観します
第 13 回	第 1 次世界大戦のな かの「植民地主義」②	日本の植民地支配と民族運動につ いて考察します

第14回 現代史Ⅰまとめ 近代の「戦争」を「植民地主義」
との関わりで捉えなおします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代の国際関係に関わる時事問題にも触れながら授業を進めるので、時事問題への関心を深めてほしい。講義では参考文献を必ず示すのでできれば読んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時には講義レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】

講義レジュメにおいて参考文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）+平常点（30%）で成績を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

内容はやや難だが学びの充実感を重視する、

【Outline and objectives】

100 years have passed from the League of Nations start this year. It's learned what kind of feature "world history" and "East Asia history" in which you result to several wars in the modern times, a revolution and independence take on by contemporary history I.

HIS200EA

現代史Ⅱ

慎 蒼宇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代史Ⅱは、現代史Ⅰの問題意識を継承して、二つの世界大戦と「戦後」の世界において、「植民地主義と戦争」はいかに形を変えて「継続」していくのかを、「日本と東アジア」を中心に学んでいきます。

【到達目標】

この講義の目標は、①日本社会において広く流布とされている近現代史像を疑う思考力を身につけ、②世界、東アジアと日本の関係史をより豊かに捉え、説明することができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は現代史Ⅰにおける「戦争」と「植民地主義」の概念を確認した上で、両者が国際的にどのように展開していくのかを、東アジアのケースを中心に考えていきます。なお、講義はオンラインで行い、毎回リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこで出た質問については、その次の講義の冒頭で一部紹介することで、双方向的なコミュニケーションを図っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像・進め方の説明と前期の内容の確認
第2回	概論① 歴史修正主義と歴史学	現代の歴史認識の現状と歴史学について考える。
第3回	戦間期の戦争と植民地主義①	国際法体制の変化と1920年代について考える。
第4回	戦間期の戦争と植民地主義②	世界恐慌と全体主義の1930年代について考える。
第5回	15年戦争① 満州事変	満州事変を三つの視座から再検討します。
第6回	15年戦争② 日中戦争	日中戦争について検討します。
第7回	第2次世界大戦①	第2次世界大戦について概観します
第8回	第2次世界大戦②	アジア太平洋戦争について三つの視座から検討します
第9回	「戦争責任」の展開と「植民地問題」	極東国際軍事裁判の性格を考察します
第10回	複合戦争としての朝鮮戦争	朝鮮戦争について三つの視座から検討します。
第11回	「新植民地主義」と民族独立	戦後アジア・アフリカの民族独立について考察します
第12回	ベトナム戦争の世界史	ベトナム戦争の特徴について考察します。
第13回	現代の戦争へ	1980～90年代の「戦争」について考察します。
第14回	まとめ	現代における「戦争」と「植民地主義」の関わりを捉えなおします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代の国際関係に関わる時事問題にも触れながら授業を進めるので、時事問題への関心を深めてほしい。講義では参考文献を必ず示すのでできれば読んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時には講義レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】

講義レジュメにおいて参考文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）+平常点（30%）で成績を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

内容はやや難だが学びの充実感を重視する、

【Outline and objectives】

It's learned about the feature of "war" and "colonialism" in the 1st, the Second World War and the world of "the postwar".

SOC200EC

現代農業・農村の社会学

池田 寛二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、現代の日本と世界の農業・農村の多様な実情と問題を極力具体的な事例を示して紹介し、それらが急激な都市化とグローバル化の渦中で営まれている私たちの日常生活、特に食生活とどのように関連しているかを、主に社会学の視点から検討することを目的とする。受講生には、自らの食生活を地域から地球規模に至る諸社会のダイナミックな変化と結びつけて考える知的センスを獲得してもらいたいことをめざす。なお、講義内容には、2020年度と同様、もしくはそれ以上に、新型コロナウイルスの感染拡大が日本や世界の農業と農村に及ぼした影響や変化が色濃く反映される。

【到達目標】

この授業では、私たちの食生活が、どのような社会関係（多様な人と人との関係）によって支えられているかを、日本と世界の両面から、主に社会学的な視点から学ぶ。したがって、自分自身の日頃の食生活を意識的に自己点検し、食品が生産されてから自分が口に入れるまでの間に、どのような壮大で複雑な社会関係（生産者と消費者の関係、農村住民と都市住民の関係、食品加工業者・流通業者を介した関係、外食産業やファーストフード、コンビニ業界との関係、コマースやメディアと消費者との関係、食料輸出国の生産者と輸入国の消費者との関係など）が連動して生起しているかを、受講生自らが調べて考える能力を実践的に会得できることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

日本と世界の農業・農村の実情を理解するのに役立つ文献、統計資料および多種多様な映像資料など豊富な資料を提示しながら授業を進め、その都度、リアクション・ペーパーを書かせたりレポートを作成させて受講生の反応を確認し、優れた質問やコメントに対しては、各回の講義の導入部分で紹介しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	農業とは何か？(1)	都市の消費者がイメージする農業は現実の農業と同じか？
第2回	農業とは何か？(2)	世界と日本の農業の歴史と現状、ポスト減反政策のゆくえ
第3回	農村とは何か？(1) 日本の農村社会学は何を明らかにしてきたか？	日本の農村社会学は何を明らかにしてきたか？
第4回	農村とは何か？(2)	世界の農村・農業社会学は何を明らかにしてきたか？
第5回	食の社会学(1)	私たちは何をどのように食べているのか？
第6回	食の社会学(2)	食を支える都市・農村関係、食を支える国際関係
第7回	農業と食の安全学(1)	食品の安全性はどのように保障されているのか？
第8回	農業と食の安全学(2)	食糧生産と環境問題のジレンマ（森林減少と気候変動）
第9回	食品ロスの社会学(1)	社会問題としての飢餓と飽食、飽食の末の棄食（食品廃棄）
第10回	食品ロスの社会学(2)	格差社会と食品ロス、食のサーキュラー・エコノミーおよびシェアード・エコノミーの可能性
第11回	食をめぐる産業連関の地殻変動(1)	農業・農村・都市間関係のイノベーション、農業のデジタル化
第12回	食をめぐる産業連関の地殻変動(2)	都市農業の新たな展開、農村農業の国際化
第13回	食文化の多様性と現代社会のダイバーシティ	地域と世界の新たなつながり
第14回	(まとめ) 私たちの食生活と農業・農村・都市の未来	社会学的想像力の働かせ方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分自身の日常の食生活を研究対象として調査させ、適宜レポートさせる。つまり、自分自身の食生活を観察者の立場に立ってフィールドワークさせる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

エイミー・グブティル&デニス・コプラトン,2016『食の社会学:パラドクスから考える』(原題"Food and Society") (NTT 出版)

Jean-Pierre Poulain,2017,The Sociology of Food (Bloomsbury)

T.スタンデージ・新井崇嗣訳,2017『歴史を変えた6つの飲物』(楽工社)

大原悦子,2016『フードバンクという挑戦—貧困と飽食のあいだで』(岩波書店)

S.クロイツベルガー他・長谷川圭訳,2013『さらば、食料廃棄—捨てない挑戦』(春秋社)

マイケル・ウッズ,高柳・中川監訳,2018『ルーラル：農村とは何か』(農林統計出版)

その他多数

【成績評価の方法と基準】

フィールドワークのレポート(50%)と試験(30%)および授業ごとのリアクションペーパーの内容(質問やコメントの質)(20%)を考慮し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面でもオンラインでも、極力豊富に講義資料を配布もしくは配信し、学生の理解を深めるよう鋭意努力します。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to introduce multifaceted realities and problems of agriculture and rural communities in Japan and the world, and to examine how they relate to our daily eating life mainly from sociology viewpoints.

SOC300EC

原典講読

鈴木 智道

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「耳学問」で聞きかじったことがある思想や概念も、「原典」にじっくりあたり、深く検討してみると、それまでの理解とはずいぶん異なる視界が広がることもある。今年度も昨年度に引き続き、現代思想/現代社会分析に多大な影響を与え続けている 20 世紀後半を代表する哲学者（社会学者？ / 歴史家？）ミシェル・フーコーの諸著作のうち、思想的に中期を画する『監獄の誕生』を取り上げる。社会学のテキストにしばしば登場する「パノプティコン」や「規律権力」といった概念は本書に由来している。しかし、そうした概念は、フーコーのいかなる問題意識（の展開）と文脈のなかで提起されているのだろうか。本授業では、まず本書を精読しながら、フーコーの思考の道筋を追体験してみる。同時にそれを通して、フーコーが「近代社会」なる社会のあり方をいかに理解しようとしたのかを、受講者との議論を通して探索することを目的とする。

【到達目標】

原典にあたることで見えてくる現代（近代）社会分析の深遠さに触れることで、自分自身のものの見方/社会との対峙の仕方とあらためて向き合い考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習形式で授業を進める。受講者には、事前に割り振られた担当章について、レジュメの作成と授業内での報告が求められる。担当者による報告の後、当該内容について受講者全員で議論をしていく。最終授業で、レポートに対する講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概要の説明、スケジュール確認
第 2 回	フーコーを読む前に	『監獄の誕生』以前と以後
第 3 回	第 1 部 身体刑：第 1 章 受刑者の身体	当該箇所の精読と議論
第 4 回	同：第 2 章 身体刑の華々しさ	当該箇所の精読と議論
第 5 回	第 2 部 処罰：第 1 章 一般化される処罰	当該箇所の精読と議論
第 6 回	同：第 2 章 刑罰のおだやかさ	当該箇所の精読と議論
第 7 回	第 3 部 規律・訓練：第 1 章 従順な身体	当該箇所の精読と議論
第 8 回	同：第 2 章 良き訓育の手段	当該箇所の精読と議論
第 9 回	同：第 3 章 一望監視方式	当該箇所の精読と議論
第 10 回	第 4 部 監獄：第 1 章 「完全で厳格な制度」	当該箇所の精読と議論
第 11 回	同：第 2 章 違法行為と非行性	当該箇所の精読と議論
第 12 回	同：第 3 章 監禁的なもの	当該箇所の精読と議論
第 13 回	『監獄の誕生』をふりかえって	受講者とのディスカッション
第 14 回	レポート合評会	受講者のレポートの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全受講者が、文献の指定箇所を事前に読了した上で授業にのぞむこと。報告者は、指定文献についての要約とコメント・問題提起をおこなうべく、レジュメの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ミシェル・フーコー『監獄の誕生—監視の処罰—』新潮社、1975 年=1977 年→改訂新装版：2020 年。

【参考書】

詳細については開講後に指示する。

【成績評価の方法と基準】

出席・議論への積極的関与を含む授業への参加度(40%)、担当章の報告(40%)、および期末レポート(20%)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

はじめに本授業で取り扱う講読文献について、その概要を丁寧に説明するようにする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to read carefully M. Foucault's *Discipline & Punish* (1975) and to learn a way of grasping the modern society, focusing on the birth of the prison.

LAW200EB, LAW200ED

憲法

田中 美里

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、具体的な事例を使いながら、学生の皆さんに、私たちの社会生活と憲法はどのように関わるのか考えてもらいます。

【到達目標】

学生の皆さんが、具体的な問題に関わる権利や理論を的確に洞察し、自分の考えを論理的に説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式をベースに、できる限り皆さんにも発言いただきます。最終回では、小テストや皆さんからの質問への解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと基礎知識の確認	これからの授業で必要となる基礎知識について確認します。
2	命をめぐる問題①：「生まれぬ権利」？	「生まれぬ権利」について検討します。
3	命をめぐる問題②：代理母問題をめぐって	代理出産の問題、子を持つ権利について検討します。
4	宗教をめぐる問題①：ブルカの規制をめぐって	ムスリム女性のスカーフについての規制を考えます。
5	宗教をめぐる問題②：「名誉殺人」ってなに？	一部地域で行われている「名誉殺人」について考えます。
6	宗教をめぐる問題③：宗教と市民社会の関わり方	宗教活動と市民社会との関わりについて考えます。
7	平等①：ポジティブ・アクションの合憲性を考える	積極的差別是正措置の合憲性について考察します。
8	平等②：政治分野における平等	第7回のつづきとして、政治分野における平等を考えます。
9	街頭防犯カメラについて考える	自由と安全のバランスを検討します。
10	職業選択と平等：セックスマン・ワーカーの働く権利	職業選択の自由の限界について考察します。
11	表現の自由①：ポルノ規制問題について考える	表現の自由とその規制のバランスについて考えます。
12	表現の自由②：少年犯罪等に関する報道について考える	少年の権利と知る権利のバランスを考察します。
13	幸福追求権：タトゥーはイケないのか？	入れ墨等についての規制について検討します。
14	まとめと解説	ここまでの授業に関する質問について、お答えします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業資料には、次回取り扱う事例を掲載する予定です。予習として、その事例について自分なりの考察をしてください。（2時間程度の学習を想定。）

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要な情報は講義レジュメに記載します。

【参考書】

この授業で用いる具体的な事例は、以下の書籍の内容を参考にしています。六戸常寿編『憲法演習ノート ―憲法を楽しむ 21 問 第 2 版』（弘文堂、2020）

【成績評価の方法と基準】

小テスト（平常点・30%）、定期試験（70%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

質問は、授業後をお願いします。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to offer practical methods to solve constitutional problems we are currently facing or will likely be facing in future.

SOC300EC, SOC300ED

公共性と民主主義 I

鈴木 宗徳

サブタイトル：公共性と Communication I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性の思想史とその現代的意義を学ぶ

【到達目標】

歴史学・政治学・社会学における「公共性」をめぐる諸思想を理解することによって、参加民主主義のあるべき姿について考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

公共性（または公共圏, public sphere, Öffentlichkeit）は多様な意味をもつ言葉であるが、この講義で扱うのは「市民による開かれた政治的討議の空間」という意味のそれである。ドイツの政治哲学者ユルゲン・ハーバーマスの『公共性の構造転換』（1962）において、18世紀のヨーロッパで議会制民主主義や法治国家といった制度が生まれた背景には、「市民社会」という理念に加え、市民たちが「公共性」という討議の空間（コーヒーハウスや各種メディア）を生み出したという事実があったことを指摘する。

民主主義を実質的なものとするため、つまりそれが利益集団政治・ポピュリズム・大衆の無関心…といった事態に陥らないようにするためには、市民がつねに「公共性」を活性化させなければならない。これは、様々な社会運動や「熟議民主主義」といった現象にかかわる現代政治の課題である。

この講義では、18世紀に生まれた「市民社会」や「公共性」の理念と現実について説明し、それらを現代においてを再興する上で必要とされる要件について検討する。

授業終了時に提出してもらおうリアクションペーパーは、翌週の授業で一部をとり上げてコメントを加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ハーバーマスと公共性
2	フランクフルト学派第一世代の思想	アドルノと啓蒙的理性批判
3	18世紀市民社会とは何だったのか	自由主義と議会制民主主義
4	市民的（ブルジョア的）公共圏の成立	『公共性の…』前半の解説
5	18～19世紀市民社会の実像	コーヒーハウスとドイツ教養市民層
6	19世紀末以降の公共圏の衰退	『公共性の…』後半の解説
7	ハーバーマスと福祉国家	グローバル化時代における再分配家
8	フレイザーによるハーバーマス批判	対抗的公共圏と社会運動の位置づけ
9	新しい社会運動とその後の社会運動論	アソシエーションと中間集団をめぐる
10	ハーバーマスのコミュニケーション的行動論	近代化による生活世界の合理化と植民地化

- | | | |
|----|----------------|-----------------|
| 11 | アーレントの公共性論と複数性 | 全体主義と画一性への批判 |
| 12 | 闘技民主主義と熟議 | ムフの思想とミニ・パブリックス |
| 13 | 地域における社会運動の実践 | ゲスト講師による講演 |
| 14 | まとめ | 全体のふり返り |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメおよび参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントで作成したレジュメを学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未来社）を出発点とし、この本をめぐる展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。その他、授業中にも参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（70%）と期末レポート（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

春学期は動画配信によるオンデマンド授業を予定している。Hoppiiによるメール連絡に気を付けておくこと。質問は担当教員にメールで連絡すること（munenori@hosei.ac.jp）。

【Outline and objectives】

This course explores the history and contemporary significance of public sphere.

SOC300EC, SOC300ED

公共性と民主主義Ⅱ

鈴木 宗徳

サブタイトル：公共性と Communication Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性と社会問題の現実を学ぶ

【到達目標】

公共性や社会運動をめぐる実践的諸問題を理解し、理想的な市民社会を構想するための力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11に
関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

「公共性」とは、現実存在する空間や運動を表す概念であるとともに、存在すべき理想を表す規範的な理念でもある。しかし実際には、理想的な「公共性」の実現を妨げる問題が数多く存在する。春学期（Ⅰ）の授業が主として理想を扱うのに対し、秋学期（Ⅱ）では、公共性の実現がいかに困難であるか、その現実について検討する。

とりわけ外国人／移民の共生というテーマを通して、包括的な公共圏の形成を阻む“壁”がどこにあるのかについて考察する。さらに近年における国内外の政治運動をとり上げ、社会運動を組織する上での課題がどこにあるのかを明らかにする。

授業終了時に提出してもらおうリアクションペーパーは、翌週の授業で一部をとり上げてコメントを加える。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期のまとめ・秋学期の課題	公共性論の理論的困難
2	科学技術と公共性	専門家支配を超える
3	フランクフルト学派の科学技術批判	マルクーゼとハーバーマス
4	フランスにおける移民労働者の排除	ドキュメンタリー鑑賞
5	フランスの「郊外」問題とスカーフ論争	排外主義の原因を探る
6	日系人労働者の生活と教育	定住外国人との共生
7	テイラーの思想と多文化主義政策の是非	マイノリティ文化の保護をめぐる
8	本質主義／アイデンティティという“壁”	ポストコロニアリズムを手がかりに
9	朝鮮学校と差別扇動	排外主義に抗する
10	インターネットと公共性	集団分極化とフェイクニュース
11	不服従と直接行動	“非暴力”的 direct action を理性化する
12	「沈黙」とジェンダー	トーン・ポリシングとマンスプレイング
13	事実の隠蔽と改竄	議会制民主主義の劣化
14	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメを事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントで作成したレジュメを学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未來社）を出発点とし、この本をめぐる展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。

【成績評価の方法と基準】**【秋学期もオンライン授業になる場合】**春学期と同様、オンデマンド授業に対するリアクションペーパー（70％）と期末レポート（30％）。**【秋学期は対面授業を行う場合】**

リアクションペーパー（20％）と期末試験（80％）。適宜提出を求めるリアクションペーパーに必ず意見を書くこと（「代筆」には厳しく対処する）。

期末試験の問題は事前に予告しないので、必ず授業に出席し、試験前には授業で扱った内容全体を復習すること。代替レポートによる救済措置は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

質問は担当教員にメールで連絡すること（munenori@hosei.ac.jp）。

【Outline and objectives】

This course presents a study of theories on public sphere and the reality of social issues.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

広告・消費文化論

青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において広告は、生活者のブランド選択やライフスタイルなどに様々な影響を与えている。またメディアを通じて発信される広義の広告情報は、コンテンツとして消費の対象となっている。この状況をふまえ、広告を幅広く消費文化との関連で捉えてその機能を論じ、高度大衆消費社会で広告が果たす役割を記号論等を用いて明らかにする。私たちの価値観や行動様式がいかに広告環境に組み込まれているかを認識し、自覚的・自律的なメディア情報把握、処理を実践する基礎能力を身につける。

【到達目標】

広告表現、消費文化表象の特徴や構造を学ぶことを通して、コンテンツ・広告分析に必要な知識を獲得し、広告の重層的な意味内容を把握できるようになることを目指す。また、消費文化として広告を捉えることで、広い意味での文化についての教養的な知識を習得することも意図する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10・DP11・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

広告を中心としながら、コンテンツ、デザイン、商品など関連消費文化の表象も取り上げ、領域横断的に記号表現としての構造的な同一性や変換構造、意味内容などを論じる。広告と消費の相互関係を、具体的な事例を通して説明する。毎回課題を学習支援システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと必要な予備知識などについて
第 2 回	現代社会における広告消費・文化	広告・消費文化は、現代社会の中でどのような役割を果たしているのか
第 3 回	広告の力とは何か	広告は、現代社会の中でどのような力を持っているのか
第 4 回	広告消費・文化の理論	米国の大量生産・大量消費を支えた広告とアメリカン・ウェイ・オブ・ライフについて
第 5 回	<広告知>の発展	広告表現開発における<広告知>の発展とはどのようなものか
第 6 回	ブランドと広告 (1)	ブランディングに効果的な広告とは
第 7 回	ブランドと広告 (2)	ブランディングに効果的な広告とは
第 8 回	日本の消費文化と広告の起源	江戸期における消費文化とメディア、広告の発達
第 9 回	明治から昭和初期の広告と消費文化	日本の近代化に伴う広告と消費文化の転換
第 10 回	日本におけるアメリカ型広告の浸透	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフの影響
第 11 回	高度成長期・バブル期の広告消費・文化	選択基準としての<私>の絶対化と日本的な広告表現の到達点

第 12 回 現代の日本と世界の現代の広告表現の動向と課題
広告

第 13 回 文化の力と広告 ソフトパワーの担い手としての広告、およびその文化との関係

第 14 回 試験・まとめ 論述試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に、日常生活において広告・映画・ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT 出版、2008 年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK 出版新書、2014 年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70 %）と試験（30 %）で行う。授業内で提示された課題を学習支援システムに提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回の課題は論述試験の代替として特別な課題を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline and objectives】

Advertisements in modern society influence consumers in many ways including their brand selection and lifestyle. In addition, broad-term advertisement information delivered by the media is a content subject to consumption. Taking this situation into account, we will look at advertising in the broadest sense of the word in relation to consumption culture, discuss its function and clarify the role played by advertisement in our advanced mass consumer society by using semiotics. Students will realize how our values and behavior styles are incorporated in the advertising environment. The class is designed to provide the basic skills to sort out and process subjective and self-directive media information.

SOC200ED

広告・PR論

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広告・PR を中心としたメディアが提供するコンテンツを消費文化の重要な表現として捉えて、その現代的な機能・役割を明らかにするとともに、そのことを念頭に置いた広告・PR プランニングの実践に関わる基礎的な知識を修得することを目的とする。また、広告・PR 産業についての理解を深めることも意図する。

【到達目標】

広告・PR 業界について産業論の視点からその特徴と構造を把握し、その上で基礎的な広告・PR の基本的なプランニングに有用な基礎知識を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コンテンツ、商品、デザイン、ファッションなどにも通じる、消費文化を形成するものとしての広告・PR の意味や、その企画立案の方法や要件などについて論じる。広告・PR とメディア産業の相互関係を念頭に、具体的な映像・画像やキャンペーンの事例をもとに説明を行なう。毎回課題を学習支援システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	広告ビジネスの概要	広告・PR とは何か、ビジネスの視点からの講義と全体のオリエンテーション
第 2 回	広告会社の組織（1）	広告会社の組織の全体像とその内容
第 3 回	広告会社の組織（2）	広告会社の組織における専門職とその内容
第 4 回	生活者インサイトの発見（1）	インサイト発見のための調査方法と効果的なインサイト事例についてディベート
第 5 回	生活者インサイトの発見（2）	インサイト発見のための調査方法とプランニングへの応用
第 6 回	広告計画の流れとアカウント・プランニング	広告のプランニング手法としてのアカウント・プランニング概説
第 7 回	生活者インサイト（1）	生活者インサイトとは何か、その理論的解説
第 8 回	生活者インサイト（2）	生活者インサイトの調査方法と古典的事例のケース詳解
第 9 回	生活者インサイト（3）	生活者インサイトを活用した広告・PR の事例分析
第 10 回	ブランド戦略と言語ゲーム（1）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論
第 11 回	ブランド戦略と言語ゲーム（2）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論のアメリカの事例詳解
第 12 回	クロス・メディア（1）	日本のクロス・メディアの優れた事例について

第 13 回 クロス・メディア（2） 海外のクロス・メディアの優れた事例について

第 14 回 広告の未来 広告・PR の未来と試験課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に置き、日常生活において広告、映画、ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT 出版、2008 年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK 出版、2014 年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70 %）と試験（30 %）で行う。授業内で提示された課題を学習支援システムに提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回の課題は論述試験の代替として特別な課題を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline and objectives】

Advertisement and PR contents provided by the media are considered as an important expression of consumption culture. The class aims to clarify its contemporary functions and roles, and also provides basic knowledge related with the practice of PR planning. It is also intended to deepen the understanding of the advertising / PR industry.

SOC300ED

広告制作実習

青木 貞茂

サブタイトル：特講（広告制作実習）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的な広告の企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

【到達目標】

実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本実習では、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。課題を学習支援【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

■シラバスの記載上、フィールドワークの実施が明らかになっていません。

シラバス上で実施が確認できるよう、内容をご修正ください。

なお、入力ミスにより【あり/Yes】を選択していた場合は、【なし/No】にご修正ください。

システムに提出、フィードバックを行なう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第2回	広告の企画に関する基本知識	企画立案プロセスと必要な作業
第3回	広告企画の方法	広告表現開発の基本知識、ノウハウ
第4回	事例分析のオリエンテーション	成功理由を詳細な表現分析によって説明
第5回	成功した広告の事例分析	成功理由を詳細な表現分析によって説明
第6回	広告制作テーマの選定	広告表現開発のテーマ決定
第7回	市場環境分析と競合広告表現の分析(1)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第8回	市場環境分析と競合広告表現の分析(2)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第9回	生活者インサイトの発見(1)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)
第10回	生活者インサイトの発見(2)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析(観察調査などのフィールドワーク実施)

第11回 広告企画書へのまとめ プリーフシートへのまとめと広告表現開発の前提の確認

第12回 キャッチコピー開発 広告のキャッチコピーを作成

第13回 レトリックの技法 表現のテクニックであるレトリックの技法習得

第14回 広告表現案作成 プリーフシートにもとづいた広告表現開発

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TVドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

小沢正光『プロフェッショナル・アイディア』（インプレスジャパン、2007年）

小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』（インプレスジャパン、2008年）

適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点（70%）、最終課題となる広告制作表現（30%）の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

【Outline and objectives】

Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers. They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it.

SOC300ED

広告制作実習

青木 貞茂

サブタイトル：特講（広告制作実習）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的な広告の企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

【到達目標】

実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本実習では、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。課題を学習システムに提出、フィードバックを行なう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第 2 回	広告の企画に関する基本知識	企画立案プロセスと必要な作業
第 3 回	広告企画の方法	広告表現開発の基本知識、ノウハウ
第 4 回	事例分析のオリエンテーション	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第 5 回	成功した広告の事例分析	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第 6 回	広告制作テーマの選定	広告表現開発のテーマ決定
第 7 回	市場環境分析と競合広告表現の分析 (1)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第 8 回	市場環境分析と競合広告表現の分析 (2)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第 9 回	生活者インサイトの発見 (1)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析（観察調査などのフィールドワーク実施）
第 10 回	生活者インサイトの発見 (2)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析（観察調査などのフィールドワーク実施）
第 11 回	広告企画書へのまとめ	ブリーフシートへのまとめと広告表現開発の前提の確認
第 12 回	キャッチコピー開発	広告のキャッチコピーを作成
第 13 回	レトリックの技法	表現のテクニックであるレトリックの技法習得

第 14 回 広告表現案作成
ブリーフシートにもとづいた広告表現開発

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TV ドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】

小沢正光『プロフェッショナル・アイディア』（インプレスジャパン、2007 年）

小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』（インプレスジャパン、2008 年）

適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点（70 %）、最終課題となる広告制作表現（30 %）の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。

【受講者への要望】 全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。

教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

【Outline and objectives】

Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers. They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it.

POL200EB, POL200EC

国際関係論 I

志村 真弓

サブタイトル：国際関係論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際関係論の学際性を踏まえたうえで、本科目では特に政治学の観点から現代国際関係を考察する。国際政治学の誕生が 20 世紀前半の戦間期に求められることを確認し、戦争原因の分析枠組みとして積み上げられてきた外交論を学ぶ。また、外交論の主な考察対象・分析単位とされる主権国家（体系）の歴史的成立についても学び、「主権国家」や「外交」、「戦争」や「平和」という概念を批判的に検討する。

【到達目標】

国際政治学における外交論の基礎的概念と分析枠組みを習得し、国家間戦争が起こる構造的要因を理解する。それらを通じて、今日の国際問題を批判的・論理的・実証的に検討する視点と方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の指定範囲等を熟読のうえ、オンライン講義を受講し、学習支援システムを通して課される期末レポートに取り組む。レポート課題には、教員が全体講評等を示す。授業計画は授業の進度により変更の可能性ある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要や評価方法について
2	国際関係論とは何か	国際関係論・国際政治学誕生の歴史的文脈：国際政治学の対象とアプローチ
3	草創期の国際政治学 (1)	第一次世界大戦原因論と国際連盟構想
4	草創期の国際政治学 (2)	連盟体制の課題——理想主義と現実主義
5	国際政治の「現実」とは (1)	第二次世界大戦原因論と国際連合構想：冷戦のはじまり
6	国際政治の「現実」とは (2)	リアリズム（現実主義）の主題
7	外交論 (1)	ゲーム理論とは：戦略型ゲーム
8	外交論 (2)	展開型ゲーム
9	外交論 (3)	抑止の論理；安心供与の論理
10	外交論 (4)	強要の論理
11	核戦争の危機 (1)	キューバ・ミサイル危機
12	核戦争の危機 (2)	第四次中東戦争
13	核戦争の危機 (3)	核不拡散条約体制の課題
14	まとめ	レポート課題の全体講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定範囲を熟読し、講義内で紹介する参考書なども積極的に読み込むこと。期末レポート課題に取り組むこと。標準学習時間は授業時間と合わせて毎週約 6 時間。

【テキスト（教科書）】

中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013 年。

【参考書】

日本平和学会編『戦争と平和を考える NHK ドキュメンタリー』法律文化社、2020 年。

木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波新書、2014 年。

小川浩之ほか『国際政治史——主権国家体系のあゆみ』有斐閣ストゥディア、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート課題： 100 %

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでもアクセス可能な資料等についての情報提供を充実させる。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to theories of International Relations. At the end of the course, students will be able to understand how historically the sovereign state system has evolved and how such states interact without central authority in world politics today.

POL300EB, POL300EC

国際関係論 II

志村 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の授業で学んだ国際政治学の基本的な分析視角を踏まえて、本科目では国際法と国際政治が交錯する現代国際秩序の変動過程について考察する。国連の集団安全保障体制における武力不行使原則の課題、国家間の武力行使を禁止する体制のもとで増加した「内戦」の国際的要因と国際的帰結、内戦等への「人道的介入」が「平和」を一層破壊し得るディレンマなどについて考える。

【到達目標】

現代国際社会における《不法で違法な武力行使》と《合法で正当な武力行使》、《国際平和》と《国内平和》、《平和》と《正義》の関係について、国際政治学と国際法学の知見を用いて、批判的・論理的・実証的に検討する視点と方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の指定範囲を熟読のうえ、オンライン講義を受講し、学習支援システムを通して課される期末レポートに取り組む。レポート課題には、教員が全体講評等を示す。本科目は春学期の授業内容を理解していることが前提となる。授業計画は授業の進度により変更の可能性ある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要や評価方法について
2	国際法と国際政治の交錯 (1)	戦争違法化の歴史と現在
3	国連集団安全保障体制 (1)	武力不行使原則の前提と例外：冷戦と国連集団安保体制
4	国連集団安全保障体制 (2)	脱植民地化と国連：冷戦終結と「平和の逆説」
5	国連集団安全保障体制 (3)	1991 年湾岸戦争の開戦過程；2003 年イラク戦争の開戦過程
6	国際平和と国内平和 (1)	「内戦」の増加傾向；内戦の国際的要因と国際的帰結
7	国際平和と国内平和 (2)	国連平和活動の武装化と多機能化
8	国際平和と国内平和 (3)	非国家主体による越境武力攻撃と国家の自衛権
9	国際平和と国内平和 (4)	難民問題とは何か、「難民」とはだれか
10	平和と正義の相克 (1)	国際社会の「共同の利益」？；国際犯罪者の処罰と平和
11	平和と正義の相克 (2)	国際犯罪からの住民保護と武力介入
12	国際法と国際政治の交錯 (2)	内政干渉・武力行使の正当化
13	国際法と国際政治の交錯 (3)	国際独立調査委員会の活動；国際人権・人道 NGO の活動
14	まとめ	レポート課題の全体講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の指定範囲を熟読し、講義内で紹介する参考書なども積極的に読み込むこと。期末レポート課題に取り組むこと。標準学習時間は授業時間と合わせて毎週約 6 時間。

【テキスト（教科書）】

中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013 年。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート： 100%

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでもアクセス可能な資料等についての情報提供を充実させる。

【Outline and objectives】

This course examines how international law and international politics interact with one another to shape and change international relations today. It focuses on how international norms and rules on use of force has changed under the UN collective security system.

SOC200EB, SOC200EC

国際協力論

岡野内 正

サブタイトル：南北問題

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20 世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部でのディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

＜新型コロナウイルスによる非常事態に対応していますが、さらに進め方が変更される場合については、学習支援システムを参照してください。＞
国際協力についての担当教員の著書を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業日誌」を作成して、掲示板に書きこんでいく。「授業日誌」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたいこと、を含むこと。授業前半では ZOOM のブレイクアウトセッションを用いて、少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の座長になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連 SDGs の論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021 年（7 月刊行予定）。

【参考書】

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年、3000 円＋税。

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円＋税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、掲示板に書き込まれた授業日誌の各項目について、25%ずつ 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権 NGO 活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

ECN200EB

国際経営論 I

多田 和美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

- 1)Basic theories of international business
- 2)Basic frameworks of international business
- 3)Advantages/disadvantages of international business
- 4)Social responsibility of multinational companies

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論 I では、国際経営論に関する基本的な考え方と概念を学びます。そのなかでは、国際社会の変化を踏まえて、社会とその一員である企業がともに成長するためにどのような取り組みが必要なのかといった課題も取り上げます。その結果、国際経営論に関する基本知識とその知識の実践的な活用方法を修得することを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、文章によって説明できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際経営とは何か	ガイダンス
第 2 回	国際経営と環境	CAGE フレームワーク
第 3 回	海外直接投資の理論①	優位性の命題、内部化理論
第 4 回	海外直接投資の理論②	OLI パラダイム
第 5 回	多国籍企業の国際競争の歴史	今日に至る歴史
第 6 回	多国籍企業の組織デザイン	国際経営の進展と組織構造
第 7 回	トランスナショナル経営①	グローバル統合とローカル適応
第 8 回	トランスナショナル経営②	国際経営の 4 タイプ
第 9 回	海外子会社の経営①	海外子会社の所有政策
第 10 回	海外子会社の経営②	海外子会社の役割と成長
第 11 回	国際戦略提携	国際戦略提携のメリットとデメリット
第 12 回	異文化経営	各国文化のとらえ方
第 13 回	国際経営と CSR	多国籍企業の社会的責任
第 14 回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

梶浦雅己（2020）『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス（第三版）』文真堂。

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。

吉原英樹（2015）『国際経営（第4版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題：60%、期末試験もしくは期末レポート：40%で評価します。

・課題の提出は期限厳守です。

・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand the fundamentals of international business from the theoretical and practical points of view. The course is mainly composed of the followings:

ECN300EB

国際経営論Ⅱ

多田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論Ⅱでは、実際の国際経営活動の多様な領域を学びます。ここでは、日本多国籍企業による各種国際経営活動の実際にも焦点を当て、その特徴や課題を議論します。後半では、その他の先進国および新興国にも焦点を当てます。その結果、国際経営論の基本知識とその実践的な活用方法に関する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営論の基本知識をもとに、企業の国際経営の現象を論理的に分析できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論の基本視座	I-R フレームワーク
第2回	国際マーケティング①	国際マーケティングの特徴
第3回	国際マーケティング②	日本多国籍企業の事例
第4回	海外生産①	国際生産ネットワーク
第5回	海外生産②	日本多国籍企業の事例
第6回	国際研究開発①	HBE/HBA 型
第7回	国際研究開発②	日本多国籍企業の事例
第8回	国際サプライチェーン・マネジメント	国際的な調達活動と製販統合
第9回	国際人的資源管理①	EPRG プロファイル
第10回	国際人的資源管理②	日本多国籍企業の事例
第11回	先進国と国際経営①	先進国市場の特徴
第12回	先進国と国際経営②	先進国企業の特徴
第13回	新興国と国際経営①	新興国市場の特徴
第14回	新興国と国際経営②	新興国企業の特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。
吉原英樹（2015）『国際経営（第4版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題：60%、期末試験もしくは期末レポート：40%で評価します。
・課題の提出は期限厳守です。
・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand the various fields and activities of international business based on the basic knowledge acquired in International business 1 in Spring semester. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Marketing, Production, R&D and HRM by multinational companies,
- 2)The characteristics of multinational companies in developed and emerging countries.

ECN200EB

国際経済論Ⅰ

増田 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみただけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済を一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的とする。

国際経済論Ⅰでは、貿易と外国為替取引、国際投資、国際労働力移動についての基礎理論について学ぶ。

【到達目標】

国際経済の基礎理論を身につけることができる。
それを身につけることで、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。
オンラインで行う場合は、リアルタイムのオンライン授業の形式でします。この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。事前に、学習支援システムに、レジュメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。
講義では、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
イントロ	国際経済とグローバル経済	授業の目的、国際経済の理論を学ぶことの意義と目標の解説
2回	国際貿易の理論①リカードと比較生産費説	リカードの比較生産費説の紹介、比較生産費説の意味
3回	国際貿易の理論②ミルと2国多数財モデル、HOSモデル	ミルによる比較生産費説、2国多数財モデル、HOSモデルの紹介と説明
4回	国際貿易の理論③貿易の一般均衡論	貿易の一般均衡分析 貿易の利益 オファーカーブ
5回	国際貿易の理論④主流派貿易理論への批判と不等価交換論	主流派貿易理論への批判と不等価交換論
6回	外国為替論 外国為替取引と外国為替市場	外国為替取引の仕組み 外国為替市場とは何か
7回	国際通貨論 国際通貨と国際通貨体制	世界貨幣、国際通貨とは何か 金本位制と国際通貨体制
8回	国際通貨システム論 「ドル本位制」と現代の外国為替市場	「ドル本位制」とはどんなものなのか 現代の外国為替市場の特徴
9回	国際投資の理論 資本輸出の諸形態と多国籍企業	資本輸出の諸形態 多国籍企業の定義、特徴、グローバル経済における多国籍企業の位置
10回	多国籍企業の諸理論	多国籍企業の諸理論の紹介と解説
11回	多国籍銀行とユーロ市場	多国籍銀行とは何か 多国籍銀行論の紹介 ユーロ市場の特徴、その発展の歴史
12回	グローバルマネーの運動と金融危機	資本移動の自由化と累積債務危機、通貨危機、金融危機
13回	国際労働力移動の理論	国際労働力移動の理論とお現状
まとめ	今日のグローバル経済	グローバル経済の不均衡とその特徴について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に、テキストを読み、配布されたプリント、レジュメを読んでおくこと。
講義の後に、再度テキストを読み、自分のノートを整理事務すること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間、合計で4時間になります。

【テキスト（教科書）】

半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。

『現代国際金融論』（第4版）上川孝夫、藤田誠一編、有斐閣、2012年。

『国際経済政策論』新岡智、板木雅彦、増田正人編、有斐閣、2005年。

『現代世界経済をとらえる Ver5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010年。

【参考書】

教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は提出されたレポート課題と期末試験によって行います。

レポート課題 50%

定期テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

春・秋学期を通じて、国際経済論Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。

個の授業は、前半の貿易理論の部分が抽象度が高く、理解するのが一番難しいので、しっかり復習すること。

授業計画は現実の国際経済の展開によって、変更することもある。

【Outline and objectives】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study both traditional international economics and non-traditional international economic theory, especially about trade and foreign exchange trading, international investment, and international labor migration.

ECN300EB

国際経済論Ⅱ

増田 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみなすだけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済を一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的とする。

国際経済論Ⅱでは、第二次世界大戦後の国際経済体制の変化をアメリカ経済を中心にして説明し、それとの対比と関連の中で、欧州経済と発展途上国の経済を説明する。春学期の理論的な解説と合わせて世界経済の概観をもてるようにする。

【到達目標】

ボックスアメリカナと呼ばれた戦後の世界経済秩序の内容について理解できる。

その中でアメリカが果たしてきた役割、また、現在のアメリカの地位についても理解することができる。また、EUの成立と発展、南北問題といわれるグローバル経済の不均衡について、相互関係の中で理解できる。

それらを身につけることで、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。

オンラインで行う場合は、リアルタイムのオンライン授業の形式でします。

この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。

事前に、学習支援システムに、レジメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。

講義では、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロ ダクション	国際経済秩序とグローバル経済
2	アメリカと国際経済秩序 ①	戦後構想とボックス・アメリカナ の基本的枠組み
3	アメリカと国際経済秩序 ②	ボックス・アメリカナの変容と変動 相場体制
4	アメリカと国際経済秩序 ③	レーガノミックスからニュー・エコノ ミーへ
5	アメリカと国際経済秩序 ④	アメリカ経済の「再生」と新たなグ ローバル経済秩序
6	アメリカってどんな国？	アメリカという国家の特徴
7	EU ①	EEC 成立から欧州統合へ ECSC、EEC、EURATOM EC
8	EU ②	92年欧州統合とEU 停滞する欧州 マストリヒト条約 共通通貨ユーロの導入
9	EU ③	EUの発展と動揺 加盟国の拡大 EUの発展と統合の深化 イギリスの離脱
10	南北問題①	植民地体制の崩壊と工業化 輸入代替工業化 輸出志向工業化 UNCTAD
11	南北問題②	NICsと累積債務問題 新興国の工業化 ユーロ市場の役割 累積債務問題

12 回	南北問題③	新興市場諸国と南北問題の今 東アジアの奇跡 中国の経済成長 アフリカ諸国の今
13 回	WTO 体制とグローバル 経済	WTO 体制とグローバル経済
まとめ	今日のグローバル経済	今日のグローバル経済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に、テキストを読み、配布されたプリント、レジュメを読んでおくこと。講義の後に、再度テキストを読み、自分のノートを整理すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間、合計で4時間になります。

【テキスト（教科書）】

半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。

『現代国際金融論』（第4版）上川孝夫、藤田誠一編、有斐閣、2012年。
『国際経済政策論』新岡智、板木雅彦、増田正人編、有斐閣、2005年。
『現代世界経済をとらえる Ver5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010年。

【参考書】

教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は提出されたレポート課題と期末試験によって行います。

レポート課題 50%

定期テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

春・秋学期を通じて、国際経済論Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。この授業は、歴史的な発展を追って説明する形になるが、その説明において、理論的な部分は国際経済論Ⅰを履修していることを前提して行うので、国際経済論Ⅰを履修していない者は、事前に理論的な学習をして講義に臨むこと。授業計画は現実の国際経済の展開によって、変更することもある。

【Outline and objectives】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study the changes in the international economic system after World War II, focusing on the US economy, and explain the European economy and the economies of developing countries in relation to the world economy.

SOC200EB, SOC200EC

国際社会学Ⅰ

田嶋 淳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会学における視点、主要概念、アプローチ方法について学びます。

【到達目標】

グローバル化による社会変容が進む今日、私たちが生きている現代社会の諸問題について国際社会学的な視点やアプローチを用いて読み解き、説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義は4月13日から講義を開始します。方法は学習支援システムに教材としてPPTをアップし、課題あるいはテスト/アンケートに答えるという方法で進めます。課題やテスト/アンケートについては授業内掲示板に必要な回答を示します。また、この科目は春学期の授業内容を踏まえて、秋学期の授業が展開します。そのため、春・秋学期を通じて履修することが望ましいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「国際社会学」とは何か？	授業計画、成績評価についての説明と講義のイントロダクション。
2	グローバル化と社会変容	グローバル化の進展による国家の揺らぎと社会の変容について考えます。
3	「現代の移住」とは何か 社会現象か	移民現象と国民国家の関係について、国際移民の時代をキーワードに考えます。
4	国際移民研究の理論的展開	国際移民システム論を紹介し、その理論的展開について考えます。
5	国際移住と日本社会	日本社会を事例として現代の移住問題を考えます。
6	日本に移民政策は存在するか？	移民問題を政策面から考えていきます。
7	難民問題と日本社会	難民に対する政策変遷と実態について考えます。
8	止められない移住プロセスの展開	移住プロセスをミクロ構造の視点から読み解きます。
9	ニューカマーズと在日韓国・朝鮮人	在日韓国・朝鮮人コミュニティについて現状と課題を考えます。
10	移住第2世代と多文化教育の可能性	アイデンティティと教育を中心に移住第2世代をめぐる諸問題について考えます。
11	複層化するアイデンティティ	エスニック・アイデンティティについて考えます。
12	新しい「市民権」とは	新しい「市民権」論について考えます。
13	グローバル化の帰結	グローバル化がもたらす帰結について考えます。
14	まとめと解説	概念のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書はない。

【参考書】

- 梶田孝道編、2005、『新・国際社会学』名古屋大学出版会。
- 塩原良和、2012、『共に生きる——多民族・多文化社会における対話』弘文堂。
- S. カースルズ・M. J. ミラー／関根政美・関根薫監訳、2009=2011、『国際移民の時代（第4版）』名古屋大学出版会。
- 樽本英樹編、2018、『排外主義の国際比較』ミネルヴァ書房。
- 小井土彰宏編、2017『移民政策の国際比較』名古屋大学出版会。
- 田嶋淳子、2010『国際移住の社会学』明石書店。
(参考文献一覧は授業関連サイトにアップする予定です)

【成績評価の方法と基準】

1. 講義2回に1回あるいは2講を合わせて1回という形でテスト問題を提示します。それに解答することで、春学期の成績とします。

配点は講義ごとに異なりますが、全体が100点になるように構成します。

【学生の意見等からの気づき】

理解度を確認するため、毎回テスト/アンケートにリアクションを求めます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンあるいはパワーポイントが聞き取れる機材を用意してください。

【Outline and objectives】

Students will study main concepts and perspectives in global sociology as well as approaching methods.

SOC300EB, SOC300EC

国際社会学Ⅱ

田嶋 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際移住と東アジアのグローバル化を考える

【到達目標】

東アジアにおけるグローバル化の現実とトランスナショナルな社会空間の生成を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインを基本として、PPT に音声をつけた講義ファイルを教材として学習支援システムにアップロードします。リアクション・ペーパーへのフィードバックは授業内掲示板に示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際移住研究の方法論的課題	方法論的課題について考えていきます。
2	送り出しとしての中国社会の変容－改革・開放 40 年-	国際移住からみた中国社会を理解する上での前提となる基本構造をみていきます。
3	国際移住からみた中国社会	19 世紀後半から現代に至る中国社会と国際移住を考えます。
4	移民社会の中の中国系移住者（その1）オーストラリア	オーストラリアにおける多文化主義政策の中の中国系移住者たちについて考えます。
5	イタリアと温州を繋ぐもの	イタリアに多くの移住者を送り出す温州地域について考えます。
6	移民社会の中の中国系移住者（その2）アメリカ	アメリカ合衆国における中国系移民の歴史的経緯と中国系人の現在を考えます。
7	移民社会の中の中国系移住者（その3）カナダ	カナダにおける多文化主義政策の進展と中国系人の移住について考えます。
8	グローバル化の中の台湾社会	東アジアにおけるグローバル化と台湾社会の変容を考えます。
9	中台関係と外国人労働者問題	台湾における外国人労働者導入の経緯から中台関係を考えます。
10	台湾と香港――一国二制度をめぐる葛藤	一国二制度について取り上げ、香港社会の現状を考えます。
11	ディアスポラとしてのコリアン：北東アジアにおける朝鮮族移住者	北東アジアにおける朝鮮族移住者の現在を考えます。
12	韓国社会の変容過程と南北関係	韓国社会の戦後と南北関係について、考えます。
13	韓国における外国人労働者政策	2000 年以降の韓国における外国人労働者政策の変遷を見ていきます。
14	東アジアのグローバル化と国際移住	東アジアにおけるグローバル化の展開と国際移住問題のこれからについて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 田嶋淳子著『国際移住の社会学』明石書店,2010 年（講義の一部をカバーしています）。

【参考書】

参考文献一覧は学習支援システムを通じて、配布予定です。

【成績評価の方法と基準】

講義1回、ないし2回に1度のテスト/アンケートを実施します。配点はそれぞれの回や方法により異なりますが、全体を通じて100点となるように設定しています。必ずテスト/アンケートや課題をうけて下さい。

【学生の意見等からの気づき】

テスト/アンケートあるいは課題のいずれに問題を設定するのか、明確に示す。

【Outline and objectives】

Students will study main concepts and perspectives in global sociology as well as approaching methods.

LIN100EC

国際社会と言語文化

大崎 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語はヒトのコミュニケーションの「手段」であると同時に、思考や文化の「乗り物」でもある。グローバル化が進む現代の世界や各地域を言語という側面からとらえ直し、検証、考察をすすめる。

【到達目標】

1. 言語の歴史、特に近代以降の国民国家形成と言語（「国語」）との関係を学び、その背景をより深く理解する。
2. それぞれの第一言語と学習中の諸言語について、その言語と文化をさらに積極的に学ぶ態度を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

自らの言語生活を改めて検証する作業を通じて、第一言語や学習中の諸言語を意識的にとらえ直すための考察をすすめる。学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションをとることができる時間と空間としたい。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ヒトの言語	ヒトの移動と言語の機能
2	日本語を検証する ①	「ハイブリッド」の構造
3	日本語を検証する ②	漢字の受容と活用の歴史
4	近代国民国家と言語 ①	「国（家）語」の誕生
5	近代国民国家と言語 ②	「国（家）語」の現在
6	近代国民国家と言語 ③	EU の言語政策（ゲスト）
7	近代国民国家と言語 ④	フランス語の歴史（ゲスト）
8	近代国民国家と言語 ⑤	中国語から考える
9	近代国民国家と言語 ⑥	アジアの諸言語から考える
10	「グローバル言語」	英語から考える（ゲスト）
11	グローバル化と消滅危機言語 ①	言語の多様性と文化の多様性（ゲスト）
12	グローバル化と消滅危機言語 ②	言語・文化の多様性と生物多様性
13	21 世紀の社会とことば ①	言語と文化の未来を考える（グループ、個人発表と議論） ①
14	21 世紀の社会とことば ②	言語と文化の未来を考える（グループ、個人発表と議論） ②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 読書（参考図書その他の書籍について）
 2. 関連する新聞やネットの記事のチェック
 3. 授業支援システム等を利用した時間外の討議、意見交換
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の「教科書」はない。各回必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとになさるだけ多く紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「国民国家語」として「再編」された諸言語、その背後にある歴史と文化をしっかりと考察し、「課題 1」（書評など、20%）と「課題 2」（小論文、50%）を完成させる。これに参加（教員と学生の書面の応答〔「交換日記」や発表=30%）を加えて評価する。

オンライン授業となった場合には、「課題 1」（書評など、35%）と「課題 2」（小論文、65%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討論による相互学習、基本的な事項の確認等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきたい。

教室でも zoom でも従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間とする。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the knowledge and new point of view to the human languages.

SOC100EC

国際社会と日本

慎 蒼宇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①国際社会の歴史と現在、②国際社会のなかの日本、③日本のなかの国際化、という3つの側面から、「国際社会と日本」というテーマについて学び、考えることを課題とします。

【到達目標】

現代の日本と国際社会について、国際社会における日本、もしくは国際社会との関わり方、日本の国際化について、現在の具体的な事例を考察する視角を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義では、最初に「国際社会」「国際化」「グローバル化」などに関する視座を提示した上で、①国際社会の課題と日本、②日本のなかの国際化という側面から、「国際社会と日本」に関わるさまざまな課題を学んでいきます。なお、講義では毎回リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこで出た質問については、その次の講義の冒頭で一部紹介することで、双方向的なコミュニケーションを図っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	ガイダンス：授業のテーマと目的
第2回	国際社会の歴史と現在	現在の国際社会を捉える
第3回	国際社会の歴史と現在	① グローバリゼーションの世界史的位相
第4回	国際社会の歴史と現在	② グローバリゼーションの特徴に接近する
第5回	国際社会のなかの日本	③ 難民の受け入れと日本
第6回	国際社会のなかの日本	④ 戦争と平和をめぐる課題 I
第7回	国際社会のなかの日本	⑤ 戦争と平和をめぐる課題 II
第8回	国際社会のなかの日本	⑥ マイノリティの権利
第9回	日本のなかの国際化①	ヘイト・スピーチ／ヘイト・クライムをめぐる
第10回	日本のなかの国際化②	日本の民族的マイノリティとレイシズム
第11回	日本のなかの国際化③	外国人との共生 教育
第12回	日本のなかの国際化④	外国人との共生 教育
第13回	日本のなかの国際化⑤	外国人労働者の受け入れ
第14回	日本のなかの国際化⑥	総論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも、参考文献やそれ以外の文献などで、国際社会や日本に関する問題についての勉強を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考書は授業で適宜、紹介しますので、受講生はそれぞれ、参考文献を読むようにしてください。

【参考書】

授業で適宜、紹介しますので、それぞれ、参考文献を読むようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、①毎回講義後に提出してもらうリアクションペーパー（30%）、②期末試験（70%）をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline and objectives】

This Lecture's theme is "international society and Japan". The contents are, internationalization in Japan and Japan in the history of an international society, present and the international society.

SOC200EC

国際社会と民族

高橋 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における「民族」をめぐる問題について、理論的・歴史的な視点から捉えるとともに、その今日的なあり方や課題について考える。

【到達目標】

「民族」をめぐる問題を、「国民国家」や国際社会との関係のなかで読み解き、それを理論的にも分析、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインの講義形式で進める（オンデマンド配信とリアルタイム配信を併用する可能性がある）。

受講者は理解度をチェックするために授業後に小テストを受けること。

フィードバックについては、小テストの結果をふまえて、適宜、授業内で補足説明を行う。

また、中間レポートについては採点のうえ、返却する。

なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更が及ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と進め方、成績評価についての説明
第2回	民族問題とは	「民族」をめぐる問題とは何かを考える
第3回	国際社会と国民国家	国際社会と国民国家の成り立ちについて考える
第4回	エスニシティ、ネーション、ナショナリズム	基本的な概念について整理する
第5回	ナショナリズム論のアプローチ (1)	近代主義について考える
第6回	ナショナリズム論のアプローチ (2)	反近代主義について考える
第7回	ナショナリズム論のアプローチ (3)	認知的アプローチについて考える
第8回	エスニック・リバイバル	エスニシティへの回帰について考える
第9回	トランスナショナルなネーション/ナショナリズム	国家や国境を越える/またがるネーションやナショナリズムについて考える
第10回	ケーススタディ (1)	クルド人について考える
第11回	ケーススタディ (2)	日本における在日コリアンについて考える
第12回	ケーススタディ (3)	日本における日系南米人について考える
第13回	グローバル化とナショナリズム	自国第一主義について考える
第14回	まとめ	これまでの内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間レポートおよび期末レポートの作成。
各回の授業の復習として Google フォームを使った小テストに回答すること。
授業の準備・復習は、1 回につき 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書はない。

【参考書】

ゲルナー, E., 2000, 加藤節監訳『民族とナショナリズム』岩波書店。
アンダーソン, B., 2007, 白石隆・白石さや訳『定本 想像の共同体』書籍工房早山。
スミス, A. D., 1999, 巢山精司他訳『ネイションとエスニシティ』名古屋大学出版会。
ホブズボウム, E.・T. レンジャー, 1992, 前川啓治他訳『創られた伝統』紀伊國屋書店。
ブルーベイカー, R., 2016, 佐藤成基・高橋誠一・岩城邦義・吉田公記編訳『グローバル化する世界と「帰属の政治」——移民・シティズンシップ・国民国家』明石書店。
宮島喬・吉村真子編, 2012, 『移民・マイノリティと変容する世界』法政大学出版局。
そのほか、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト (25 %)
中間レポート (25 %)
期末レポート (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course aims to study about "ethnicity", "nation" and "nation-state" relation with international society, from a theoretical and historical and perspective.

SOC100EA

国際社会論

吉村 真子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、国際社会とは何か、現代の国際社会の基本問題について議論し、現代の国際社会についての基礎的な理解を得ることを課題とします。

【到達目標】

現代の国際社会における様々な社会問題について、基本的な知識を身につけて、構造的に議論する視角を学ぶことができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

国境を越えたカネ、モノ、ヒト、サービスの移動や、エスニシティ、ジェンダー、ナショナリズム、人権など、様々な問題を視野に入れ、国際社会を構造的に議論することを課題とします。その際には、よその国のことではなく、日本の私たちに関わる問題として考え、行動することに繋がること、また問題を構造的に捉える視点から議論します。歴史的な説明と理論的な分析の視点も重要です。最終授業では、13 回までの講義内容のまとめや復習に加え、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。なお COVID-19 対応で、授業形式や内容など、変更がある可能性もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに：国際社会とは	国際社会、主権、国民、国民国家
第 2 回	戦争と平和	戦後の国際社会
第 3 回	先住民と歴史的不正義	先住民の権利とアイデンティティ
第 4 回	民族問題とエスニシティ	公民権運動、アフターマティブ・アクション
第 5 回	国際社会とイスラーム	9.11 以降のイスラーム
第 6 回	ヒトの移動	グローバル社会とヒトの移動
第 7 回	難民問題	世界と日本の難民受入れ
第 8 回	地域統合と地域主義	EU、APEC、ASEAN、TPP など
第 9 回	経済格差と貧困	貧困の構造
第 10 回	国際社会とジェンダー	グローバル化、開発、ジェンダー
第 11 回	食料問題	飢餓の構造とフードロス
第 12 回	国際社会と企業	経済進出と現地社会
第 13 回	経済援助	国際援助と日本の ODA
第 14 回	まとめ	人間の安全保障とグローバル市民社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも、文献を読むなど国際社会問題の勉強を必要とし、また授業に関連する課題の提出も求められます。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しません。参考書は授業で適宜、紹介します。

【参考書】

西崎文子ほか編著『紛争・対立・暴力：世界の地域から考える』岩波書店、2016。藤原帰一ほか編『平和構築・入門』有斐閣、2011。宮島喬ほか編『国際社会学』有斐閣、2015。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、①授業の内容に関連する課題の提出 (40 %)、②期末試験 (60 %) として総合的に評価します。COVID-19 対応で学習支援システムなどのオンライン授業になる可能性もあり、毎週の授業資料の聴講や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

国際社会をめぐる学生の関心も含める形で議論を進めたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

COVID-19 対応で、学習支援システムなどを用いたオンライン授業の可能性もありますので、対応できるようにしてください。

【Outline and objectives】

This course is to study the global society and international social issues with Japanese views. The global issues include discussion on migration, ethnicity, gender, nationalism, citizenship, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in the globalizing society. Students are required to study global problems of International Society and Japan with references, to submit comment sheets and to take a final term examination.

POL200EB

国際政治論

白鳥 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、国際政治の体系的理解

【到達目標】

「有権者」の国際政策の選択の基準として、理論のみならず事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといっている。[グローバルイズム]、「ボーダーレス」という時代のキーワードが示すように、国際政治の影響は、我々の生活の上に大きな影響を及ぼしている。この国際政治の現実を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際政治学とは何か？	導入
2	国際政治学の基礎概念	基礎概念
3	冷戦と現実主義	戦後政治の基本
4	デ・タントと相互依存論	戦後政治の変容
5	ガルトウングの平和学	構造的な視点
6	ローズノーのリンケージ・ポリティクス論	国際政治と国内政治
7	ロッキンの国家形成・国民形成論	国家と国民とは
8	ロッキンの「欧州概念地図」	マクロな分析枠組み
9	欧州統合の展開	国際統合の現実態
10	レジーム論	多様なレジーム
11	「帝国」論	帝国と国民国家
12	欧州統合と国民国家の変容	国民国家の変容
13	日本をとりまく国際政治	最近の事例から
14	国際政治論の展望	現在の国際政治論の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある国際感覚のあふれる「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の理解を深めるために読書レポートを準備してもらう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて「現代欧州統合の構造」芦書房、2008年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、教場試験が実現できない場合も想定される。学期末に最終的に教場での試験が行えない場合には、成績評価の方法と基準における試験をレポートで代替することを考える。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大切にしたい。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic understandings of theoretical aspects of International Relations.

LAW200EB

国際法

妻木 伸之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、国際社会を規律する法である国際法の概要について学び、現代国際社会における諸課題解決の手がかりを得ます。

【到達目標】

国際法学について基本的な理解ができること。加えて、可能であれば、現代国際社会の諸課題について国際法に基づき検討できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでのオンデマンド方式（講義時間内はオンタイムでの質疑応答に対応）を現状予定。なお、方式については、状況により変更の可能性はある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 1：「国際法」の歴史的展開	国際法の歴史を通じ、現代国際法の特徴とその課題を学ぶ。
2	導入 2：国際社会における立法・司法・執行	国内法などの比較を通じ、国際社会・国際法の特徴について学ぶ
3	国際法の「法源」—国際法の存在形式	国際法がどのような形で存在するかについて学ぶ。
4	国際法の「主体」—国家・国際組織・その他	国際法をつくり、国際法により規律されるのは誰かについて学ぶ。
5	「主権」と国家の基本的権利・義務	国際法の基本概念である「主権」について学ぶ。
6	陸・海・空に関する国際法	国際法における領域（主に海洋）の取扱いについて学ぶ。
7	個人と国際法—国際刑事法・国際人権法	「国際犯罪」への国際法の対応および国際人権法の展開について学ぶ。
8	国際人権法の実現—国内実現と国際実現	国内平面と国際平面における国際人権法の実現について学ぶ。
9	武力不行使原則の確立と平和的紛争処理手続	戦争の違法化と武力を用いない紛争処理手段について学ぶ。
10	集団安全保障：その限界と克服の努力	戦争抑止のための集団安全保障の展開について学ぶ。
11	自衛権／武力紛争法	武力不行使原則の例外および武力紛争時の法について学ぶ。
12	ブレトンウッズ体制／GATT・WTO体制	WW II 後の西側先進国主導の経済秩序について学ぶ。
13	南北問題と「新国際経済秩序」	「南側」からの経済秩序変革について学ぶ。
14	まとめ	全体のまとめ（調整日）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回合計 2 時間程度、各自で予習・復習をすることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（講義用のレジュメ等は授業支援システムを通じて配布する）。

【参考書】

一例として、横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣、2010年）、玉田大ほか『国際法』（有斐閣、2017年）、柳原正治ほか編『プラクティス国際法講義（第3版）』（信山社、2017年）、渡部茂己ほか編『国際法（第2版）』（弘文堂、2014年）など。

【成績評価の方法と基準】

試験に代替するレポート 100%（追加の救済措置はない点に留意）。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答に迅速・丁寧に応える

【学生が準備すべき機器他】

ネット接続が可能な機器（レポート作成を念頭にすると PC が望ましい）

【Outline and objectives】

This course introduces international public law.

The goals are following,

- (1) to obtain the basic knowledge of the international law,
- (2) as possible, to be able to appraise global issues from the legal perspective.

SOC300ED

特講（コミュニケーション・デザイン論）

石寺 修三、青木 貞茂

サブタイトル：Communication Design

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は広告会社である(株)博報堂との協力関係のもと、広告の現場で活躍する一線級の講師陣による授業で構成します。ただし、単なる事例紹介中心の広告表現論ではなく、広告制作における思考プロセスを辿りながら、コミュニケーションという行為の本質を掘り下げる「刺激と発見の場」を目指します。

【到達目標】

講義を通じて皆さんに学んでほしいことは、以下の通りです。

- ①コミュニケーションという行為において重要な“考えること”と“創りあげること”の難しさと楽しさに気づく。
- ②コミュニケーションのプロが持つ視点やスキルを体験することにより、個人が自律的に創発しあう関係構築に関与できるようになる。
- ③自分の考えを効果的に伝えることに関する基本的な知識とスキルを獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】**【講義の構成】**

本講義はあらかじめ設定した授業全体を貫くテーマのもと、以下の5つのステップに分け、いずれも簡単な演習を挟みながら進めます。

- I. 基調講義 II. 発見するチカラ III. 考え抜くチカラ IV. 創りあげるチカラ V. 伝えるチカラ

【講義の形態】

コロナウイルス禍の影響のため昨年と同様、全講義を zoom によるオンライン形式で行います。ただし、チャット/アンケート/ブレイクアウトルームなどを活用し、リアル講義時のエッセンスを維持することを目指します。

【課題に対するフィードバック】

毎回入力してもらった「学びと気づき」を随時、講義内で引用するほか、個人/グループでの発表に対しても、その場で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	基調講義	講座の概要を共有すると共に、ブランドに関する基本的な知識を学びます。
2 回	発見するチカラ (1)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。(生活者発想の視点から)
3 回	発見するチカラ (2)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。(観察調査の視点から)
4 回	発見するチカラ (3)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。(統計データの視点から)
5 回	考え抜くチカラ (1)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。(論理的とは何か)
6 回	考え抜くチカラ (2)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。(論理を組み立てる構造)
7 回	考え抜くチカラ (3)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。(ロジックチャートの作り方)
8 回	創りあげるチカラ (1)	他者と創発しあい新しいアイデアを生むための手法を学びます。(ワークショップのやり方)
9 回	創りあげるチカラ (2)	他者と創発しあい新しいアイデアを生むための手法を学びます。(ワークショップによるアイデア創出)
10 回	創りあげるチカラ (3)	他者と創発しあい新しいアイデアを生むための手法を学びます。(ワークショップによる課題テーマ解決)
11 回	伝えるチカラ (1)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。(コンセプトを創造する)
12 回	伝えるチカラ (2)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。(キャッチコピーの書き方)

13 回	伝えるチカラ (3)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。(広告表現の作り方)
14 回	試験 (論文課題)	講座を通して学んだことなどについての論考と最終的な成果物 (ポスター) の提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最終回のプレゼンテーションに使用するポスター制作以外に、いくつかの講義で簡単な事前課題を付与します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

本講義は授業で学んだことを日常生活で実践することで大きな気づきを得られる構成となっています。学生諸君がここでの学びを、普段のゼミ活動や論文・レポート作成などで積極的に実践することを期待します。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、講義に関連する参考書を推奨します。(参考書欄を参照のこと)

【参考書】

博報堂生活総合研究所『生活者発想塾』（日本経済新聞社,2010）

博報堂生活総合研究所『生活者の平成 30 年史』（日本経済新聞社,2019）

博報堂生活総合研究所『デジタルグラフィ インサイト発見のためのビッグデータ分析』（宣伝会議,2021）

【成績評価の方法と基準】**【成績評価について】**

出席状況に基づく平常点 (80 %) と論文課題 (20 %) で評価を行います。

【出席確認について】

出席確認は、① zoom 上での出席確認 と ② 講義の翌日 24 時までに学習支援システム内の「課題」欄に入力する「学びと気づき」の2つが揃った者を「出席」と認めます。なお、zoom への講義開始後 30 分以降の入室と、講義終了 30 分以前の退室は「出席」とみなさないで注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義の翌日 24 時までに授業に関する“学びと気づき”を、学習支援システムの「課題」欄に入力することをルールとします。なお、記入された内容は、次回以降の授業に随時反映させていきます。

加えて、学習支援システム内の「授業内掲示板」も活用して、インタラクティブなやりとりを進めたいと思います。学生諸君の積極的な書き込みを期待します。

【学生が準備すべき機器他】

①配布したレジュメに書き込みながら受講する講義が中心となります。あらかじめ紙で出力したレジュメと筆記用具を用意して受講してください。レジュメのファイルと受講用 URL は、講義前日までに学習支援システムの「お知らせ」上で周知・配布します。

②講義はパワーポイントを画面共有して進めるので、受講はスマートフォンよりも、文字を視認しやすいPC上での受講を推奨します。

【その他の重要事項】**【受講者への要望】**

本講義は基本的に各回ないし各ステップで完結しますが、同時に1つのテーマのもとで連続性を持った構成となっています。その効果は全カリキュラムを受講することで最大化するので、“全ての回”に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望します。

【Outline and objectives】

Under collaboration with Hakuhodo Inc., a major advertising company, this special lecture will be directed by forefront business people from the advertisement industry. However, the lecture is not just focused on studying advertisement expressions through case studies. Our aim is to provide “a platform of stimulation and discovery” where the students will explore the essence that lies in the act of communication by following the thinking process in advertisement production.

SOC100EB, SOC100EC

コミュニティ・デザイン論Ⅰ

樋口 明彦

サブタイトル：コミュニティ形成論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、コミュニティという言葉が注目されている。かつては、「ご近所さん」のように、地域性が重要な意味を持っていた。ところが、現在では、NPO やネット・コミュニティのように、伝統的な地域性にとらわれない、新たな共同性の形が出現している。現代社会において、なぜコミュニティは争点になるのか。様々な領域のケース・スタディを通じて、その理由を探る。

【到達目標】

①現代社会において、コミュニティが果たす役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に
関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義。授業内でゲスト講義を 1 回行う予定（ただし、コロナ禍の状況に応じて、変更の可能性あり）。

※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	社会と世間のはざま
2	理論的考察①	地域性と共同性の乖離
3	理論的考察②	「離脱・発言・忠誠」というオプション
4	ケース・スタディ①	相互扶助と社会保障の相克
5	ケース・スタディ②	町内会・自治会と NPO
6	ケース・スタディ③	商人とまちづくり
7	ケース・スタディ④	防犯という戦略
8	ケース・スタディ⑤	アートという新たなメディア
9	ケース・スタディ⑥	孤独をめぐる闘い
10	ケース・スタディ⑦	親密性と公共性
11	将来展望の検討①	社会的企業という事業体
12	将来展望の検討②	サード・セクターの役割
13	将来展望の検討③	社会的包摂という政策フレーム
14	ゲスト講義	（詳細未定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習

本授業の復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

各回の講義にて指示する。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験（90 %）

②ゲスト講義へのリアクションペーパー（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの見やすさを改善

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進行に応じて、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The lecture on community design

SOC100EB, SOC100EC

コミュニティ・デザイン論Ⅱ

樋口 明彦

サブタイトル：コミュニティ思想論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティは、社会学において最も基本的な概念の一つである。しかし、その用途は多岐に渡り、一筋縄では理解できない。本科目では、コミュニティに関する代表的な社会学的著作を一つずつ紹介しながら、この概念が現代社会に与える可能性と限界を検討する。

【到達目標】

①社会学におけるコミュニティ概念の系譜を理解する。

②コミュニティ概念が現代社会に対して有する批判力を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に
関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義

※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コミュニティの 3 類型	B・ウェルマン「コミュニティ問題」
2	コミュニティ喪失論①	F・テンニース『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト』
3	コミュニティ喪失論②	R・M・マッキーヴァー「コミュニティ」
4	コミュニティ存続論①	J・ジェイコブズ『アメリカ大都市の死と生』
5	コミュニティ存続論②	H・J・ガンズ『都市の村人たち』
6	コミュニティ存続論③	M・ヤング&P・ウィルモット『東ロンドンの家族と親族関係』*
7	コミュニティ存続論④	G・デンチ、K・ガブロン&M・ヤング『新しいイーストエンド』*
8	コミュニティ解放論①	R・パットナム『孤独なボウリング』
9	コミュニティ解放論②	C・S・フィッシャー『友人のあいだで暮らす』
10	コミュニティ解放論③	Z・バウマン『コミュニティ』
11	コミュニティ解放論④	A・ボルテス&R・ルンバウト『現代アメリカ移民二世世代の研究』
12	コミュニティ解放論⑤	M・カステル『インターネットの銀河系』
13	日本のコミュニティ①	岩崎信彦編『阪神・淡路大震災の社会学①②③』
14	結論	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習

本授業の復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

「授業計画」の「内容」を参照。*の付いている書籍のみ、邦訳なし。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの見やすさを改善

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進行に応じて、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The lecture on community design

LAW200EA

雇用と法

山本 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雇用に関する法律（労働法）の基礎を学ぶ。労働法の成立過程、個別的労働関係法、集団労働関係法の基礎を理解することを目的とする。

【到達目標】

労働基準法、労働契約法、労働組合法について基礎的な知識を身につける。採用から退職に至るまでの、労働契約の成立・展開・終了と、労働条件の基準、労働条件の変更、労働基本権について、条文に基づいて正しく理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式でパワーポイントを用いながら授業を行う。事前に学習支援システムでレジュメ、資料を配付するので、各自プリントアウトして持参すること。学習支援システムで小テストを随時実施する（小テストは提出期限時の自動採点でフィードバックする）。

なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・労働法とは	労働法の成立過程を学ぶ
第 2 回	就職活動と法	労働契約の成立過程について学ぶ
第 3 回	労働契約	労契法の意義と内容について学ぶ
第 4 回	就業規則	就業規則の意義、労働条件の変更を学ぶ
第 5 回	賃金・賞与・退職金	賃金の決定、支払、最賃法を学ぶ
第 6 回	労働時間（1）	法定労働時間、変形制を学ぶ
第 7 回	労働時間（2）	時間外労働と割増賃金を学ぶ
第 8 回	休日・休暇	法定休日、年休を学ぶ
第 9 回	人事異動	配転・出向・転籍を学ぶ
第 10 回	服務規律と懲戒	企業秩序と懲戒を学ぶ
第 11 回	労働契約の終了（1）	解雇規制、解雇権濫用法理を学ぶ
第 12 回	労働契約の終了（2）	定年、退職、雇止めを学ぶ
第 13 回	安全配慮義務と労災保険	労災、安全配慮義務を学ぶ
第 14 回	労働基本権	労働組合法の意義を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に際して、事前に学習支援システムで配布されたプリントとテキストの該当箇所を熟読のうえで毎回必ず出席する。テレビ、新聞、雑誌等における雇用・労働問題に関わる記事を意識して読み、ノートに記載していく。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良『ファーストステップ労働法』エイデル研究所、2020 年、本体 2,300 円＋税

【参考書】

野川忍・水町勇一郎編『実践・新しい雇用社会と法』有斐閣、2019 年、3100 円＋税、菅野和夫『労働法第 12 版』弘文堂、2019 年、6500 円＋税、川田知子・長谷川聡『労働法』弘文堂、2020 年、2800 円＋税、山田省三・石井保雄『トピック労働法』信山社、2020 年、3200 円＋税

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに実施する小テスト（45%）、期末試験（55%）の合計により評価。労働基準法、労働契約法、労働組合法について基礎的な知識を正しく身につけて、条文に沿って学説、判例を引用しつつ設問に対し論理的に解答できるかを評価する。期末試験を受験しない者には単位を付与しない。

【学生の意見等からの気づき】

法理論と実際の法律適用の場面とを結びつけて理解できるよう、最新の雇用情勢に係る情報を提供するように心がけている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにてレジュメ資料を配付するので、各自プリントアウトのうえ持参すること。

【Outline and objectives】

It aims to understand the foundation of Labor Standards Law, Labor Contract Law, and Labor Union Act

COT100EA

コンピュータ入門

石井 由起

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータとネットワークの基本的な仕組みを理解し、基礎的な操作を習得します。大学での学習と、実社会で必要とされる、発表やレポート作成などの表現を自在にこなすための情報スキルを身につけます。

【到達目標】

大学の授業で横断的に必要なスキルである、情報を検索し、分析し、文書や web ページ、プレゼンテーションで伝える技能を身につけます。具体的には、基礎的なソフトウェア、Microsoft Office を活用して文書や報告の作成、発表ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ワードやエクセル、インターネットなどを利用して、コンピュータ・リテラシーの技量を高めます。コンピュータの仕組みや成り立ち、その発達が社会に与える影響などについても考察します。

課題へのフィードバックは原則として、学習支援システムを活用してコメントを提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	実習室の使用やルールの説明
第 2 回	ネットワーク 前編	メール設定とネチケット
第 3 回	ネットワーク 中編	アカデミックな論文、プレゼンテーションのための情報検索
第 4 回	ネットワーク 後編	ネットワークを活用した情報の共有と発信
第 5 回	ワープロ 前編	ワードの基本操作
第 6 回	ワープロ 後編	ワード文書の作成
第 7 回	表計算 前編	エクセルの基本操作
第 8 回	表計算 中編	エクセルの関数
第 9 回	表計算 後編	エクセルでグラフ作成
第 10 回	ワープロと表計算	マクロ機能
第 11 回	HTML 前編	HTML の基本構造
第 12 回	HTML 後編	HTML によるレイアウト
第 13 回	ホームページ制作	ホームページ制作 前編
第 14 回	ホームページ制作	ホームページ制作 後編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別な準備は必要ありませんが、授業期間は長丁場ですから、理解の深まらない回も出てくるものです。資料をよく読みなおしたり、質問したりする姿勢が重要になります。提示された課題については、授業内に終わらない場合、提出期限内に仕上げるよう努めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

毎回、PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進めます。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点、提出物（授業内で提示する課題）を総合的に判断して、成績を評価します。内訳は、平常点 60%、課題（提出物）40%です。平常点は、普段の実習への取り組みや姿勢に関する評価です。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの的を射たご意見は、常々、創意工夫と進取創造を以って、講義に反映したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセス

【その他の重要事項】

原則、毎回出席して下さい。止むを得ず欠席した場合は、以後の講義に追いつけるように資料を入手し、講義内容を自習して課題に取り組んで下さい。

【Outline and objectives】

To clarify the basic knowledge about computer and network systems. To manipulate OSs and applications for academic works.

To create academic works and analyze data by applying the skills gained in this course.

PRI100EA

コンピュータ入門

石井 由起

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータとネットワークの基本的な仕組みを理解し、基礎的な操作を習得します。大学での学習と、実社会で必要とされる、発表やレポート作成などの表現を自在にこなすための情報スキルを身につけます。

【到達目標】

大学の授業で横断的に必要なスキルである、情報を検索し、分析し、文書や web ページ、プレゼンテーションで伝える技能を身につけます。具体的には、基礎的なソフトウェア、Microsoft Office を活用して文書や報告の作成、発表ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ワードやエクセル、インターネットなどを利用して、コンピュータ・リテラシーの技量を高めます。コンピュータの仕組みや成り立ち、その発達が社会に与える影響などについても考察します。

課題へのフィードバックは原則として、学習支援システムを活用してコメントを提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	実習室の使用やルールの説明
第 2 回	ネットワーク 前編	メール設定とネチケット
第 3 回	ネットワーク 中編	アカデミックな論文、プレゼンテーションのための情報検索
第 4 回	ネットワーク 後編	ネットワークを活用した情報の共有と発信
第 5 回	ワープロ 前編	ワードの基本操作
第 6 回	ワープロ 後編	ワード文書の作成
第 7 回	表計算 前編	エクセルの基本操作
第 8 回	表計算 中編	エクセルの関数
第 9 回	表計算 後編	エクセルでグラフ作成
第 10 回	ワープロと表計算	マクロ機能
第 11 回	HTML 前編	HTML の基本構造
第 12 回	HTML 後編	HTML によるレイアウト
第 13 回	ホームページ制作	ホームページ制作 前編
第 14 回	ホームページ制作	ホームページ制作 後編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別な準備は必要ありませんが、授業期間は長丁場ですから、理解の深まらない回も出てくるものです。資料をよく読みなおしたり、質問したりする姿勢が重要になります。提示された課題については、授業内に終わらない場合、提出期限内に仕上げるよう努めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

毎回、PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進めます。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点、提出物（授業内で提示する課題）を総合的に判断して、成績を評価します。内訳は、平常点 60 %、課題（提出物）40 %です。平常点は、普段の実習への取り組みや姿勢に関する評価です。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの的を射たご意見は、常々、創意工夫と進取創造を以って、講義に反映したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必要です。

【その他の重要事項】

原則、毎回出席して下さい。止むを得ず欠席した場合は、以後の講義に追いつけるように資料を入手し、講義内容を自習して下さい。

【Outline and objectives】

To clarify the basic knowledge about computer and network systems.
To gain knowledge and skills to manipulate OSs and applications for academic works.

To create academic works and analyze data by applying the skills gained.

PRI100EA

コンピュータ入門

小川 有希子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、大学生活においても社会人になってからも必要になる情報処理スキルを習得することを目的とする実習形式の授業である。コンピュータやインターネットに関する基礎知識と、Windows 環境における標準ソフトである Microsoft Word/Excel/PowerPoint の活用法を網羅的に学習する。

【到達目標】

各自の学習や研究を効率的に進めていくための情報リテラシーと情報処理スキルを習得し、自力でソフトを使いこなせるようになることを目標とする。具体的には、1) Word を使って図表や画像を組み込んだ文書を作成できる、2) Excel を使ってデータの集計・計算、編集・加工、関数の適用、見映えの良い図表を作成できる、3) PowerPoint を使ってプレゼンテーション資料を作成できる、4) HTML と CSS を使って簡単な Web ページを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマに沿った小課題に取り組むことでスキルを習得していく。授業の前半はサンプル課題を一緒に試し、後半は応用的な課題に各自が取り組むという構成を予定している。必要に応じて課題の解説も挿入する。「話を聴くだけ」の授業ではなく、「自分の手を動かす」実習形式の授業なので、毎回出席して積極的に取り組む必要がある。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	授業の目標・進め方等の説明、PC の基本操作、メールのリテラシー
第 2 回	Word (1) 初級編	Word の基本設定・基本操作、タッチタイピング、ファイルの保存・管理
第 3 回	Word (2) 中級編	図表の挿入・ワードアート等、文書をワンランクアップさせる Word の技
第 4 回	Powerpoint (1) 初級編	Powerpoint の基本設定・基本操作、プレゼンテーションの組み立て方
第 5 回	Powerpoint (2) 中級編	テンプレートの利用、アニメーションの設定、発表資料の作成と実演
第 6 回	Web ページ制作 (1)	Web ページの仕組みと構造、HTML と CSS による簡単な Web ページ制作
第 7 回	Web ページ制作 (2)	HTML と CSS による簡単な Web ページ制作 (続き)
第 8 回	Excel (1) 初級編	Excel の基本設定・基本操作、データ入力、オートフィル、セルの書式設定
第 9 回	Excel (2) 初級編	Excel による四則演算、集計機能によるデータ処理、相対参照と絶対参照
第 10 回	Excel (3) 中級編	四則演算・集計機能 (続き)、Excel の基本的な関数を使ったデータ処理
第 11 回	Excel (4) 中級編	ピボットテーブルによるクロス集計表の作成、優れた視覚的表現の追求
第 12 回	Excel (5) 中級編	目的に合った見映えの良い各種グラフの作成、優れた視覚的表現の追求
第 13 回	Excel (6) 上級編	Excel による効率的なデータ処理の上級技、Excel と他のソフトの複合技
第 14 回	最終課題作品発表会	最終課題作品を発表し相互評価する、総括および秋学期に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に理解が不十分だった点を復習し、授業中に終わらなかった課題を次週までに完成させてくること。パソコンの操作スキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていくので、授業時間外に自主学習の時間をとる必要がある。日頃から積極的にパソコンを使うことを心掛けてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で出題する課題の提出内容 (50%) と最終課題の提出内容 (50%) で総合的に評価する。平常点も加味する。実習形式の授業であるため、遅刻・欠席回数が一定数を超えた場合には、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

その日の要点を最初に簡潔に説明し、作業時間を十分確保するように努める。

【Outline and objectives】

This lecture is a practical lesson that aims to acquire basic information processing skills that are useful not only in university life but also after becoming a working member of society. In this lecture, we will comprehensively learn basic knowledge about computers and the Internet and how to use Microsoft Word / Excel / PowerPoint which is standard software in the Windows environment.

PRI100EA

コンピュータ入門

小川 有希子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、大学生活においても社会人になってからも必要になる情報処理スキルを習得することを目的とする実習形式の授業である。コンピュータやインターネットに関する基礎知識と、Windows 環境における標準ソフトである Microsoft Word/Excel/PowerPoint の活用法を網羅的に学習する。

【到達目標】

各自の学習や研究を効率的に進めていくための情報リテラシーと情報処理スキルを習得し、自力でソフトを使いこなせるようになることを目標とする。具体的には、1) Word を使って図表や画像を組み込んだ文書を作成できる、2) Excel を使ってデータの集計・計算、編集・加工、関数の適用、見映えの良い図表を作成できる、3) PowerPoint を使ってプレゼンテーション資料を作成できる、4) HTML と CSS を使って簡単な Web ページを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマに沿った小課題に取り組むことでスキルを習得していく。授業の前半はサンプル課題を一緒に試し、後半は応用的な課題に各自が取り組むという構成を予定している。必要に応じて課題の解説も挿入する。「話を聴くだけ」の授業ではなく、「自分の手を動かす」実習形式の授業なので、毎回出席して積極的に取り組む必要がある。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	授業の目標・進め方等の説明、PC の基本操作、メールのリテラシー
第 2 回	Word (1) 初級編	Word の基本設定・基本操作、タッチタイピング、ファイルの保存・管理
第 3 回	Word (2) 中級編	図表の挿入・ワードアート等、文書をワンランクアップさせる Word の技
第 4 回	Powerpoint (1) 初級編	Powerpoint の基本設定・基本操作、プレゼンテーションの組み立て方
第 5 回	Powerpoint (2) 中級編	テンプレートの利用、アニメーションの設定、発表資料の作成と実演
第 6 回	Web ページ制作 (1)	Web ページの仕組みと構造、HTML と CSS による簡単な Web ページ制作
第 7 回	Web ページ制作 (2)	HTML と CSS による簡単な Web ページ制作 (続き)
第 8 回	Excel (1) 初級編	Excel の基本設定・基本操作、データ入力、オートフィル、セルの書式設定
第 9 回	Excel (2) 初級編	Excel による四則演算、集計機能によるデータ処理、相対参照と絶対参照
第 10 回	Excel (3) 中級編	四則演算・集計機能 (続き)、Excel の基本的な関数を使ったデータ処理
第 11 回	Excel (4) 中級編	ピボットテーブルによるクロス集計表の作成、優れた視覚的表現の追求
第 12 回	Excel (5) 中級編	目的に合った見映えの良い各種グラフの作成、優れた視覚的表現の追求
第 13 回	Excel (6) 上級編	Excel による効率的なデータ処理の上級技、Excel と他のソフトの複合技
第 14 回	最終課題作品発表会	最終課題作品を発表し相互評価する、総括および秋学期に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に理解が不十分だった点を復習し、授業中に終わらなかった課題を次週までに完成させてくること。パソコンの操作スキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていくので、授業時間外に自主学習の時間をとる必要がある。日頃から積極的にパソコンを使うことを心掛けてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で出題する課題の提出内容 (50%) と最終課題の提出内容 (50%) で総合的に評価する。平常点も加味する。実習形式の授業であるため、遅刻・欠席回数が一定数を超えた場合には、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

その日の要点を最初に簡潔に説明し、作業時間を十分確保するように努める。

【Outline and objectives】

This lecture is a practical lesson that aims to acquire basic information processing skills that are useful not only in university life but also after becoming a working member of society. In this lecture, we will comprehensively learn basic knowledge about computers and the Internet and how to use Microsoft Word / Excel / PowerPoint which is standard software in the Windows environment.

PRI100EA

コンピュータ入門

橋本 政樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報ツールを使いこなそう、情報社会を体感しよう」

本講座は、初級者を対象として、「パソコンやインターネットについての基礎知識および技法を習得すること」を目的とする。授業はメディア教室において、目的に沿った内容の講義と実習を行う。その中でテーマ別に実習の課題を数回出題し、レポートとして提出してもらう。

【到達目標】

情報ツールの利用法だけでなく、将来のビジネス社会での活用・開発にも繋がる知識と技術を学ぶ。特に、「情報の発信」に関わるネットワーク上での情報のやりとり、WEB の特性、情報セキュリティの重要性について理解を深め、現代の情報社会を俯瞰する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は実習教室において、目的に沿った内容の講義と実習を行う。その中でテーマ別に実習の課題を数回出題し、レポートとして提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
[第 1 回]	イントロダクションと コンピューティング 1 (ハードウェア・ソフトウェア)	本講座の目的・内容、課題、教育支援システム等について説明し、コンピュータの構成を学習する。
[第 2 回]	コンピューティング 2 (システム構成)	情報の単位、システムの形態や信頼性、特にクラウドコンピューティングの概念を理解する。
[第 3 回]	インターネット 1 (ネットワークの歴史と仕組み)	インターネットの歴史、ネットワークの基本構成、通信プロトコル、ネットワークを学ぶ。
[第 4 回]	インターネット 2 (電子メール、情報検索、ファイル転送)	電子メールや情報検索の仕組み、ファイル転送の技術を学ぶ。
[第 5 回]	情報セキュリティと情報倫理	情報社会の特性と法制度の趣旨を理解し、被害者にも加害者にもならない対策を考える。
[第 6 回]	ネットワーク社会の現状と展望 (ノイズ、バイアス、連鎖パズル)	SNS 等のネットワーク技術の進展やこれまでの経験から、ネットワーク社会を俯瞰する。
[第 7 回]	文書作成 (法定文書のまとめ方と図表の作成)	Word を用いて、株主総会議事録とわかりやすい案内図を作成する。
[第 8 回]	表計算 (計算・グラフ化とデータ管理)	Excel を用いて、関数計算・グラフ作成・データベースの機能を学習する。
[第 9 回]	プログラミング (フローチャート・プログラム作成と実行)	Visual Basic または C 言語を用いて、簡単なプログラムを組み、アルゴリズムを理解する。
[第 10 回]	Web アプリケーションと Web 環境	代表的な web アプリケーションとそのフレームワークを理解する。
[第 11 回]	HTML による Web ページ作成 1	HP 記述言語の概要を理解し、簡単な Web ページを作る。
[第 12 回]	HTML による Web ページ作成 2	CSS, JavaScript を取り入れた Web ページを作る。

【第 13 回】 ファイル転送とマルチメディア技術 ネットワークへの公開・編集・管理の方法を学び、実施する。また圧縮・伸長の技術を理解する。

【第 14 回】 プレゼンテーション技法 いくつかの事例を参考にして、発表のための効果的な技法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、席に着いたら、PC を操作しながら、前回の実習内容復習すること。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時参考文献を紹介する。

(参考 URL: <http://www.toranoko.net/web>)

【成績評価の方法と基準】

課題レポート 40 %、授業態度 30 %、小テスト 30 % の割合で成績評価を行う。

期末の定期試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけわかりやすく、進行速度をゆっくり目に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

USBメモリ

【その他の重要事項】

将来の仕事や人的ネットワーク、資格取得（士業）、起業などを真剣に考える人に、有用な課題を心掛けている。

【Outline and objectives】

Let's master the information tool and experience the information society

PRI100EA

コンピュータ入門

加藤 徹郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生としての「学び」を円滑にするための、最低限必要なコンピューターのスキルの習得

【到達目標】

Microsoft Office 関連の操作の習熟。HTML についての理解。ファイル管理の徹底。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この実習では、これから大学生活をおくるために最低限必要な、コンピューターの基礎知識を確認・習得することを目的とします。具体的にはワード/パワーポイント/エクセル/HTML の作成などを行います。単なるスキルの習得を目指すだけではなく、「何故これが必要なのか？」ということを常に考えながら、授業を進めていければと思っています。

※ 課題のフィードバックについては、実習中質問があればその都度対応する。

※ 秋学期の「プログラミング入門」とセットで履修するのが好ましい。

※ 授業の進行は、場合によって変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスの確認。授業の進行についての説明。各自「自己紹介」の作成。
2	Word ①	アウトラインモードによる文章作成。ファイル管理についての説明。
3	Word ②	前回の続き。文章の構造化とは何かについて考える。
4	Power Point ①	word で作成した資料をもとに、プレゼンテーションの作法を学習する。
5	Power Point ②	前回の続き。プレゼンテーション用資料の完成
6	Power Point ③	プレゼンテーションの実際。発表会。
7	Excel ①	表計算ソフトを使用した簡単な集計の説明。基本操作の確認。
8	Excel ②	表計算ソフトを使用したやや難しい集計の実習。基本的な関数の確認と、組み合わせ。
9	Excel ③	マクロを使用したデータベースの処理。
10	Excel ④	文系的表計算ソフト活用術。文献リストの作成。
11	HTML ①	Word～Power Point 作品をもとにした、ホームページの草案づくり。
12	HTML ②	ホームページ（トップページ）の作成。
13	HTML ③	ホームページ（サブページ）の作成。
14	HTML ④	簡単な CSS（スタイルシート）を用いた、ホームページ全体の調整。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させること。それが復習の役割を担うはずです。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）。

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10 %）、HTML 課題（90 %）

※ Microsoft Office 関連の課題評価は、HTML の作成が不十分だった際の補助要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつひとつの作業について、「何故そうなるのか？・なぜそれが必要なのか？」を細かく説明できれば良いと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリを用意してください。ファイル・データの管理に関しては、各自責任をもつこと。

[Outline and objectives]

This course introduces the foundation of personal computer operation to students taking this course.

PRI100EA

コンピュータ入門

加藤 徹郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生としての「学び」を円滑にするための、最低限必要なコンピューターのスキルの習得

【到達目標】

Microsoft Office 関連の操作の習熟。HTML についての理解。ファイル管理の徹底。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この実習では、これから大学生活をおくるために最低限必要な、コンピューターの基礎知識を確認・習得することを目的とします。具体的にはワード/パワーポイント/エクセル/HTML の作成などを行います。単なるスキルの習得を目指すだけでなく、「何故これが必要なのか？」ということを常に考えながら、授業を進めていければと思っています。

※ 課題のフィードバックについては、実習中質問があればその都度対応する。
※ 秋学期の「プログラミング入門」とセットで履修するのが好ましい。

※ 授業の進行は、場合によって変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスの確認。授業の進行についての説明。各自「自己紹介」の作成。
2	Word ①	アウトラインモードによる文章作成。ファイル管理についての説明。
3	Word ②	前回の続き。文章の構造化とは何かについて考える。
4	Power Point ①	word で作成した資料をもとに、プレゼンテーションの作法を学習する。
5	Power Point ②	前回の続き。プレゼンテーション用資料の完成
6	Power Point ③	プレゼンテーションの実際。発表会。
7	Excel ①	表計算ソフトを使用した簡単な集計の説明。基本操作の確認。
8	Excel ②	表計算ソフトを使用したやや難しい集計の実習。基本的な関数の確認と、組み合わせ。
9	Excel ③	マクロを使用したデータベースの処理。
10	Excel ④	文系的表計算ソフト活用術。文献リストの作成。
11	HTML ①	Word～Power Point 作品をもとにした、ホームページの草案づくり。
12	HTML ②	ホームページ（トップページ）の作成。
13	HTML ③	ホームページ（サブページ）の作成。
14	HTML ④	簡単な CSS（スタイルシート）を用いた、ホームページ全体の調整。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させること。それが復習の役割を担うはずです。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）。

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10 %）、HTML 課題（90 %）

※ Microsoft Office 関連の課題評価は、HTML の作成が不十分だった際の補助要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつひとつの作業について、「何故そうなるのか？・なぜそれが必要なのか？」を細かく説明できれば良いと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリを用意してください。ファイル・データの管理に関しては、各自責任をもつこと。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundation of personal computer operation to students taking this course.

PRI100EA

コンピュータ入門

近藤 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータとインターネットをより有効かつ安全に活用するための知識と技術の修得。

【到達目標】

レポートや資料作成のような大学生活に必要な技術を身に付けつつ、その後も実社会で通用するコンピュータの基本的な知識を修得する。

メールや Web 等のインターネットの基本的な仕組みを理解し、ネットワーク社会において必須となる知識とマナーを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業をワープロソフト、表計算ソフト、ネットリテラシー、メールやネット検索等の複数の単元に大きく分け、その中で演習を積み重ね最後に課題を自力で解く。さらに単元間の関係を考えていく事で体系的な理解力を身に付ける。課題についてはその回か次回の授業内で解説する。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	全体の説明、コンピュータの仕組みと基本操作
第 2 回	データの保存、メールの使い方	データの保存、法政大学 Gmail の使い方
第 3 回	インターネット (1)	インターネット概論
第 4 回	インターネット (2)	ネット犯罪と情報倫理
第 5 回	インターネット (3)	レポート制作
第 6 回	Web ページ (1)	HTML の基本構造とレポートの HTML 化
第 7 回	Web ページ (2)	レポートの相互評価
第 8 回	Word(1)	基本操作
第 9 回	Word(2)	レポートの整形
第 10 回	Excel(1)	基本操作とグラフの作成
第 11 回	Excel(2)	式と関数
第 12 回	Excel(3)	課題制作
第 13 回	PowerPoint(1)	基本操作
第 14 回	PowerPoint(2)	課題制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単元相互に関係があるため、一度休むとそれ以降の受講に影響する。やむを得ず欠席した場合には必ず自習しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各単元毎に必須課題を提示しその達成度を重視しつつ、毎回の授業内課題とあわせて総合的に評価する。

インターネット課題 10%

Web ページ課題 10%

Word 課題 10%

Excel 課題 10%

PowerPoint 課題 10%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

難易度の評価にばらつきが大きい。基準は上げ過ぎないようにしつつ応用課題を組み込んでいく。

【Outline and objectives】

This course introduces knowledge and skills to make more effective and safe use of computers and the Internet to students taking this course.

PRI100EA

コンピュータ入門

近藤 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータとインターネットをより有効かつ安全に活用するための知識と技術の修得。

【到達目標】

レポートや資料作成のような大学生活に必要な技術を身に付けつつ、その後も実社会で通用するコンピュータの基本的な知識を修得する。メールや Web 等のインターネットの基本的な仕組みを理解し、ネットワーク社会において必須となる知識とマナーを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業をワープロソフト、表計算ソフト、ネットリテラシー、メールやネット検索等の複数の単元に大きく分け、その中で演習を積み重ね最後に課題を自力で解く。さらに単元間の関係を考えていく事で体系的な理解力を身に付ける。課題についてはその回か次の授業内で解説する。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	全体の説明、コンピュータの仕組みと基本操作
第 2 回	データの保存、メールの使い方	データの保存、法政大学 Gmail の使い方
第 3 回	インターネット (1)	インターネット概論
第 4 回	インターネット (2)	ネット犯罪と情報倫理
第 5 回	インターネット (3)	レポート制作
第 6 回	Web ページ (1)	HTML の基本構造とレポートの HTML 化
第 7 回	Web ページ (2)	レポートの相互評価
第 8 回	Word(1)	基本操作
第 9 回	Word(2)	レポートの整形
第 10 回	Excel(1)	基本操作とグラフの作成
第 11 回	Excel(2)	式と関数
第 12 回	Excel(3)	課題制作
第 13 回	PowerPoint(1)	基本操作
第 14 回	PowerPoint(2)	課題制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単元相互に関係があるため、一度休むとそれ以降の受講に影響する。やむを得ず欠席した場合には必ず自習しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各単元毎に必須課題を提示しその達成度を重視しつつ、毎回の授業内課題とあわせて総合的に評価する。

インターネット課題 10%

Web ページ課題 10%

Word 課題 10%

Excel 課題 10%

PowerPoint 課題 10%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

難易度の評価にはばらつきが大きい。基準は上げ過ぎないようにしつつ応用課題を組み込んでいく。

【Outline and objectives】

This course introduces knowledge and skills to make more effective and safe use of computers and the Internet to students taking this course.

PRI100EA

コンピュータ入門

橋爪 絢子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習は学部教育に必要な基本的情報スキルを身につけることを目的とする。そのため、情報の検索方法、Word/Excel/PowerPoint の操作を網羅的に行う。

【到達目標】

レポートの作成やゼミ研究、卒業論文において一つのテーマに沿って情報検索を行い、Excel を使って分析し、Word を使って報告書にまとめ、Powerpoint を使って発表を行うという、一連の作業ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

本授業ではレポートの作成や研究成果の発表を行う時に必要となる情報を「活用する」スキルを重視する。そのため、ある課題を与えられたときにどのように情報を「検索・分析・まとめ・発表」という一連の作業を行えばいいのかを、毎回一つずつのテーマに沿った実習によって習得する。授業内の成果物は適宜提出してもらい、学期末に最終プレゼンテーションを行う。

情報実習室での実施の場合には、授業内で行う演習課題について適宜フィードバックをしながら進めていくが、オンラインでの実施になった場合には、前回までに提出された課題の内容や得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Windows の基本操作	ガイダンス及びスキルアンケート
2	電子メールの送受信	メールソフトの利用方法とネチケット
3	情報の検索と収集	google 等の検索エンジンを使用した情報の検索、ファクトチェック
4	情報の分析 (1)	Excel の基本操作
5	情報の分析 (2)	表の作成と集計
6	情報の分析 (3)	関数を使用した計算
7	マクロの利用 (1)	Excel 上で簡単なマクロの記録
8	マクロの利用 (2)	VBA の簡単な紹介と基礎的なプログラムの作成
9	情報のまとめ	適切な図表に分析結果をまとめる
10	報告書の作成	Word を用いた報告書の作成
11	発表の考え方	プレゼンテーションの基本的な考え方や計画法
12	発表資料の作成 (1)	PowerPoint の基本操作
13	発表資料の作成 (2)	テーマ・テンプレートの利用、アニメーションの設定
14	ホームページ制作	html を利用した簡単なホームページの制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

タッチタイピングが全ての基本となります。何度も練習して、少しでも早く正確に文字入力ができるように努力してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

必要に応じて適宜プリント配布を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業内課題 (40%)

・最終発表課題 (30%)

・平常点 (30%)

による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度や難易度の調整に心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

【コロナウイルス感染症の状況に応じてオンラインでの実施になった場合、ご自身の PC もしくは貸出し PC を用意していただく必要があります。】

【Outline and objectives】

The goal is to let students acquire basic skills of information processing required in the undergraduate-level education. The study includes the basic knowledge of information retrieval and the practical skill of effectively using the software (Microsoft Office esp. Word, Excel and PowerPoint).

PRI100EA

コンピュータ入門

林田 和人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな問題を解決するためには、コンピュータやインターネットの利用が必須です。

そこで、自分の問題解決のための道具として、コンピュータやインターネットを自在に活用できるように、基礎的な能力を身につけましょう。使い方を覚えるだけでなく、自分で問題を発見し、それに対する解決策を考えるとといった、アウトプットする能力も身につけます。

【到達目標】

コンピュータのいろいろな利用方法を学び、自分の問題解決に使えるようになることを到達目標とします。

具体的には、ワープロ、表計算ソフトの使い方を習得するだけでなく、自分で問題を見つけ、それに対する回答として考えたアイデアを、プレゼンテーションソフトやホームページで表現します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ファイル操作、メールやインターネット検索、また表計算ソフトを活用することで情報力を身につけましょう。そして、プレゼンテーションの作成や、HTMLを用いてホームページを作成することで表現力を身につけます。プレゼンテーションやホームページで、自分の考えたアイデアを表現することで、アウトプットする能力を伸ばします。また、表計算ソフトをさらに活用できるように、並べ替えなどの機能も学びます。

なお、「課題 1」、「課題 2」提出時にクラスで発表、意見交換し、講評を行います。

とにかく使ってみる、やってみることを実践していきましょう。授業内での活動を充実したものにするため、授業へ出席することを期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎的なツールの習得	ガイダンス、パスワード変換、日本語変換（変換対象場所の移動、変換対象の変更）、ショートカットキー、拡張子、階層構造、ファイルの複製、圧縮してメール送信
第 2 回	基礎的なネットワークの習得、「課題 1（こんなのあったらいいな）」の出題	クラウドである R ドライブを知る、課題 1 のポイントは問題の発見と解決策の提案
第 3 回	Excel の習得 1	Excel でグラフの作成、「課題 1（こんなのあったらいいな）」のエスキース
第 4 回	Excel の習得 2	Excel の並べ替えを学ぶ
第 5 回	PowerPoint の使い方	PowerPoint の使い方を学ぶ
第 6 回	「課題 1（こんなのあったらいいな）」の制作 1	「課題 1（こんなのあったらいいな）」を PowerPoint を使って制作する
第 7 回	「課題 1（こんなのあったらいいな）」の制作 2	「課題 1（こんなのあったらいいな）」を PowerPoint を使って制作する
第 8 回	「課題 1（こんなのあったらいいな）」の発表	「課題 1（こんなのあったらいいな）」を発表し意見交換する
第 9 回	ペイントの習得	お絵描きソフトの一つであるペイントで、ホームページ用のボタンやアイコンを作成する
第 10 回	HTML の習得 1	HTML の基礎を習得する、「課題 2（ホームページ）」の出題
第 11 回	HTML の習得 2	習得した HTML を用いて簡単なサンプルを作成する
第 12 回	ホームページの作成 1	HTML を用いてホームページの基本構造を制作する
第 13 回	ホームページの作成 2	HTML を用いてホームページの全体を制作する
第 14 回	「課題 2（ホームページ）」の発表	「課題 2（ホームページ）」を発表し意見交換する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に授業に来れば、それだけで習得できるので、特に授業以外での学習は要求しません。

ただし、課題についての構想は授業外で考えてくるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
授業時に、適宜プリントやデータの配布を行う。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%)

課題点 (40%)

平常点の評価は、積極的な授業への参加、授業開始時間の厳守を基準とする。
課題の評価は、授業で学んだことへの理解、応用度を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための配布物（データ）を配布するようにする。

【その他の重要事項】

欠席は、他の学生の進捗に関わります。病欠など以外は頑張ってください。授業への積極的な参加を期待しています。

【Outline and objectives】

In order to solve the problem, it is necessary to use a computer and the Internet.

You will acquire the ability to freely utilize computers and the Internet. It is not just to remember how to use it.

You will also acquire the ability to discover problems yourself and think about solutions to it.

PRI100EA

コンピュータ入門

林田 和人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな問題を解決するためには、コンピュータやインターネットの利用が必須です。

そこで、自分の問題解決のための道具として、コンピュータやインターネットを自在に活用できるように、基礎的な能力を身につけましょう。

使い方を覚えるだけでなく、自分で問題を発見し、それに対する解決策を考えるとといった、アウトプットする能力も身につけます。

【到達目標】

コンピュータのいろいろな利用方法を学び、自分の問題解決に使えるようになることを到達目標とします。

具体的には、ワープロ、表計算ソフトの使い方を習得するだけでなく、自分で問題を見つけ、それに対する回答として考えたアイデアを、プレゼンテーションソフトやホームページで表現します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ファイル操作、メールやインターネット検索、また表計算ソフトを活用することで情報力を身につけましょう。そして、プレゼンテーションの作成や、HTML を用いてホームページを作成することで表現力を身につけます。プレゼンテーションやホームページで、自分の考えたアイデアを表現することで、アウトプットする能力を伸ばします。また、表計算ソフトをさらに活用できるように、並べ替えなどの機能も学びます。

なお、「課題 1」、「課題 2」提出時にクラスで発表、意見交換し、講評を行います。

とにかく使ってみる、やってみることを実践していきましょう。授業内での活動を充実したものにするため、授業へ出席することを期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎的なツールの習得	ガイダンス、パスワード変換、日本語変換（変換対象場所の移動、変換対象の変更）、ショートカットキー、拡張子、階層構造、ファイルの複製、圧縮してメール送信
第 2 回	基礎的なネットワークの習得、「課題 1（こんなのあったらいいな）」の出題	クラウドである R ドライブを知る、課題 1 のポイントは問題の発見と解決策の提案
第 3 回	Excel の習得 1	Excel でグラフの作成、「課題 1（こんなのあったらいいな）」のエスキース
第 4 回	Excel の習得 2	Excel の並べ替えを学ぶ
第 5 回	PowerPoint の使い方	PowerPoint の使い方を学ぶ
第 6 回	「課題 1（こんなのあったらいいな）」の制作 1	「課題 1（こんなのあったらいいな）」を PowerPoint を使って制作する
第 7 回	「課題 1（こんなのあったらいいな）」の制作 2	「課題 1（こんなのあったらいいな）」を PowerPoint を使って制作する
第 8 回	「課題 1（こんなのあったらいいな）」の発表	「課題 1（こんなのあったらいいな）」を発表し意見交換する
第 9 回	ペイントの習得	お絵描きソフトの一つであるペイントで作成する
第 10 回	HTML の習得 1	HTML の基礎を習得する、「課題 2（ホームページ）」の出題
第 11 回	HTML の習得 2	習得した HTML を用いて簡単なサンプルを作成する
第 12 回	ホームページの作成 1	HTML を用いてホームページの基本構造を制作する
第 13 回	ホームページの作成 2	HTML を用いてホームページの全体を制作する
第 14 回	「課題 2（ホームページ）」の発表	「課題 2（ホームページ）」を発表し意見交換する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に授業に来れば、それだけで習得できるので、特に授業以外での学習は要求しません。

ただし、課題についての構想は授業外で考えてくるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
授業時に、適宜プリントやデータの配布を行う。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%)
課題点 (40%)
平常点の評価は、積極的な授業への参加、授業開始時間の厳守を基準とする。
課題の評価は、授業で学んだことへの理解、応用度を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための配布物（データ）を配布するようにする。

【その他の重要事項】

欠席は、他の学生の進捗に関わります。病欠など以外は頑張っておくこと。
授業への積極的な参加を期待しています。

【Outline and objectives】

In order to solve the problem, it is necessary to use a computer and the Internet.

You will acquire the ability to freely utilize computers and the Internet.
It is not just to remember how to use it.

You will also acquire the ability to discover problems yourself and think about solutions to it.

PRI100EA

コンピュータ入門

堀 亜砂実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生のコンピュータ利用シーンに即した実習を通して、コンピュータを自らの目的に合わせて日々主体的に活用する方法を学びます。

【到達目標】

コンピュータを用いて、着実に情報を収集・保存・蓄積したり、それらを的確に加工・発信できるようにし、今後活かせるコンピュータとの付き合い方を身につけることと上級科目への橋渡しを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各回のテーマに沿った授業内課題を出題するほか、2 回程度の大課題を出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得していきます。実習形式なので自ら考え試行錯誤することが不可欠です。フィードバックは対面または学習支援システム上で、解答例の提示や個別コメントにより行います。
なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本事項の確認	パスワード管理やタイピング方法等
第 2 回	電子メール	仕組み/ルールをふまえた活用法
第 3 回	Word	レポートを想定し文書を編集する
第 4 回	Excel: 表の作成	効率的に見栄えの良い表を作る
第 5 回	Excel: 表計算	関数、参照を利用し表計算を行う
第 6 回	Excel: グラフ	高度なグラフ作成機能を活用する
第 7 回	Excel: 便利な関数	関数による判定や条件分岐を行う
第 8 回	Excel: 相対参照/絶対参照	相対・絶対参照を活用する
第 9 回	PowerPoint	発表効果を意識した資料作成を行う
第 10 回	Web: インターネットと画像ファイル	インターネットの仕組み、情報収集/画像編集
第 11 回	Web: 情報の構造化	情報を構造化し HTML 文書にする
第 12 回	Web: ページの作成	HTML を理解し Web ページを作る
第 13 回	Web: ページの公開	HTML 文書の公開について学ぶ
第 14 回	相互評価と半期のまとめ	Web ページ相互評価を通して半期の学びを総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・キーボードで日本語長文の入力が円滑に行なえるよう、タイピング練習を行なうこと。
・復習を必要に応じて行うこと。
・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的に取り組むこと。
・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時までに欠席分の授業資料に目を通し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

特になし。授業トピックに応じ適宜参考情報を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・授業内課題の合計点・・・60%
・2 回程度出題する大課題の合計点・・・40%
授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

高校での教科「情報」の取り組みに差が大きいのか、これまでコンピュータに触れる機会が十分でなかったために、課題を難しく感じる履修者もいるようです。必要ならば高校の「情報」を復習しておき、焦らず落ち着いて実習できるようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は毎回、実習室のコンピュータ（Windows）を使用します。
課題作成や復習にもコンピュータを使用する必要があります。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to get computer literacies.

PRI100EA

コンピュータ入門

堀 亜砂実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生のコンピュータ利用シーンに即した実習を通して、コンピュータを自らの目的に合わせて日々主体的に活用する方法を学びます。

【到達目標】

コンピュータを用いて、着実に情報を収集・保存・蓄積したり、それらを的確に加工・発信できるようにし、今後活かせるコンピュータとの付き合い方を身につけることと上級科目への橋渡しを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各回のテーマに沿った授業内課題を出題するほか、2回程度の大課題を出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得していきます。実習形式なので自ら考え試行錯誤することが不可欠です。フィードバックは対面または学習支援システム上で、解答例の提示や個別コメントにより行います。なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本事項の確認	パスワード管理やタイピング方法等
第2回	電子メール	仕組み/ルールをふまえた活用法
第3回	Word	レポートを想定し文書を編集する
第4回	Excel: 表の作成	効率的に見栄えの良い表を作る
第5回	Excel: 表計算	関数、参照を利用し表計算を行う
第6回	Excel: グラフ	高度なグラフ作成機能を活用する
第7回	Excel: 便利な関数	関数による判定や条件分岐を行う
第8回	Excel: 相対参照/絶対参照	相対・絶対参照を活用する
第9回	PowerPoint	発表効果を意識した資料作成を行う
第10回	Web: インターネットと画像編集	インターネットの仕組み、情報収集/画像編集
第11回	Web: 情報の構造化	情報を構造化し HTML 文書にする
第12回	Web: ページの作成	HTML を理解し Web ページを作る
第13回	Web: ページの公開	HTML 文書の公開について学ぶ
第14回	相互評価と半期のまとめ	Web ページ相互評価を通して半期の学びを総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・キーボードで日本語長文の入力が円滑に行なえるよう、タイピング練習を行なうこと。

・復習を必要に応じて行うこと。

・大課題は授業外の作業が必要なため、計画的に取り組むこと。

・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで欠席分の授業資料に目を通し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

特になし。授業トピックに応じ適宜参考情報を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・授業内課題の合計点・・・60%

・2回程度出題する大課題の合計点・・・40%

授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

高校での教科「情報」の取り組みに差が大きいのか、これまでコンピュータに触れる機会が十分でなかったために、課題を難しく感じる履修者もいるようです。必要ならば高校の「情報」を復習しておき、焦らず落ち着いて実習できるようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は毎回、実習室のコンピュータ（Windows）を使用します。

課題作成や復習にもコンピュータを使用する必要があります。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to get computer literacies.

PRI100EA

コンピュータ入門

高村 恒人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習は学部教育に必要な基本的情報スキルを身につけることを目的とする。そのため、情報の検索方法、及び Word/Excel/PowerPoint の一連の操作を行うことで、基本的情報スキルを習得する。

【到達目標】

レポートの作成やゼミ研究、卒業論文に必要な"一つのテーマに沿って情報検索を行い、Excel を使って分析し、Word を使って報告書にまとめ、Powerpoint を使って発表を行う"という一連のスキル習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業では、レポートの作成や研究成果の発表を行う時に必要となる情報を「活用する」スキルを重視する。そのため、ある課題を与えられた際、どのように情報を「検索・分析・まとめ・発表」すればいいのかを、毎回一つずつのテーマに沿った実習によって習得する。授業内の成果物は適宜提出してもらい、スキル習得状況の判断材料とする。概ね授業計画に沿って実施する予定であるが、スキル習得状況により、授業計画を変更する場合がある。学期末に行う最終プレゼンテーションをもって、最終的なスキル習得状況の判定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Windows の基本操作	ガイダンス及びスキルアンケート
2.	電子メールの送受信	メールソフトの利用方法とネチケット
3.	情報の検索と収集	google 等の検索エンジンを使用した情報の検索、ファクトチェック
4.	情報の分析（1）	Excel の基本操作
5.	情報の分析（2）	表の作成と集計
6.	情報の分析（3）	関数を使用した計算
7.	マクロの利用（1）	Excel 上で簡単なマクロの記録
8.	マクロの利用（2）	VBA の簡単な紹介と基礎的なプログラムの作成
9.	情報のまとめ	適切な図表に分析結果をまとめる
10.	報告書の作成	Word を用いた報告書の作成
11.	発表の考え方	プレゼンテーションの基本的な考え方や計画法
12.	発表資料の作成（1）	PowerPoint の基本操作
13.	発表資料の作成（2）	テーマ・テンプレートの利用、アニメーションの設定
14.	ホームページ制作	html を利用した簡単なホームページの制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

タッチタイピングが全ての基本となる。何度も練習し、少しでも早く正確に文字入力ができるよう努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 (40%)、最終発表課題 (30%)、平常点 (30%) による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度や難易度の調整に心掛けた。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を実施する。

【Outline and objectives】

The goal is to let students acquire basic skills of information processing required in the undergraduate-level education. The study includes the basic knowledge of information retrieval and the practical skill of effectively using the software (Microsoft Office esp. Word, Excel and PowerPoint).

PRI100EA

コンピュータ入門

諸上 茂光

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習は学部教育に必要な基本的情報スキルを身につけることを目的とする。そのため、情報の検索方法、Word/Excel/PowerPoint の操作を網羅的に行う。

【到達目標】

レポートの作成やゼミ研究、卒業論文において一つのテーマに沿って情報検索を行い、Excel を使って分析し、Word を使って報告書にまとめ、Powerpoint を使って発表を行うという、一連の作業ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業ではレポートの作成や研究成果の発表を行う時に必要となる情報を「活用する」スキルを重視する。そのため、ある課題を与えられたときにどのように情報を「検索・分析・まとめ・発表」という一連の作業を行えばいいのかわ、毎回一つずつのテーマに沿った実習によって習得する。授業内の成果物は適宜提出してもらい、学期末に最終プレゼンテーションとフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Windows の基本操作	ガイダンス及びスキルアンケート
2.	電子メールの送受信	メールソフトの利用方法とネチケット
3.	情報の検索と収集	google 等の検索エンジンを使用した情報の検索、ファクトチェック
4.	情報の分析（1）	Excel の基本操作
5.	情報の分析（2）	表の作成と集計
6.	情報の分析（3）	関数を使用した計算
7.	マクロの利用（1）	Excel 上で簡単なマクロの記録
8.	マクロの利用（2）	VBA の簡単な紹介と基礎的なプログラムの作成
9.	情報のまとめ	適切な図表に分析結果をまとめる
10.	報告書の作成	Word を用いた報告書の作成
11.	発表の考え方	プレゼンテーションの基本的な考え方や計画法
12.	発表資料の作成（1）	PowerPoint の基本操作
13.	発表資料の作成（2）	テーマ・テンプレートの利用、アニメーションの設定
14.	ホームページ制作	html を利用した簡単なホームページの制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

タッチタイピングが全ての基本となります。何度も練習して、少しでも早く正確に文字入力ができるように努力してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
必要に応じて適宜プリント配布を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業内課題（40%）
・最終発表課題（30%）
・平常点（30%）

による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度や難易度の調整に心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

【Outline and objectives】

The goal is to let students acquire basic skills of information processing required in the undergraduate-level education. The study includes the basic knowledge of information retrieval and the practical skill of effectively using the software (Microsoft Office esp. Word, Excel and PowerPoint).

PRI100EA

コンピュータ入門

湯本 正実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実作業上確実に役立つコンピュータについての知識をゼロから体系的に学習する。パソコンと、スマートフォンや PDA（携帯情報端末）との共通点や相違点についても理解する。

【到達目標】

Windows パソコン全体の使い方。および、Word、Excel、PowerPoint の一通りの操作、およびネットワークの概要についても理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

実操作を通して、コンピュータは何が得意で何が不得意かを体系的に学習する。課題については個々に指摘事項をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	導入部、および Windows 基本 1	・Windows 基本操作 電源 On、ログオン、アプリ起動、電源 Off までの一連の操作
第 2 週	Windows 基本 2	・改めてキーボードを見直す（両手を使うこと！） ・ドライブ、フォルダ、ファイル操作
第 3 週	電子メール	・送受信の基本方法 ・転送/返信/CC/BCC の使い方
第 4 週	Word：文書作成ソフト	・フォーマットに沿った文書作成
第 5 週	PowerPoint：発表用資料作成ソフト	・まず手を付ける → 更に凝ったものを作る
第 6 週	Excel(1)：計算表用のソフト。一番飯のタネになるアプリ	・基本操作：サンプル表の作成 ・選択対象の識別と理解 ・ブックとシート
第 7 週	Excel(2)：ちょっと踏み込んだ操作	・書式指定：案外大切
第 8 週	Excel(3)：こんなこともできます	・関数の一部の使用 ・ちょっと複雑な関数の使い方
第 9 週	Web についての基本知識	・超入門：HTML(Web ページの記述)
第 10 週	各アプリを組み合わせる文書作成	・PowerPoint に Excel/画像等を組み込んでみる
第 11 週	覚えておくと便利なこと	・Word, Excel, PowerPoint 等の共通操作について
第 12 週	Web の明と暗、学習および学習棄却	・慣れ親しんだ知識との決別も必要 ・メディア・リテラシーおよびコンピュータ・リテラシー
第 13 週	課題資料の作成	・構想を練る&草稿作成
第 14 週	課題の完成	・最終版作成+提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外での質問等は随時電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
(実習室での対面授業が実施出来ない場合は、課題提出により出席とみなす)

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

参考ウェブページも含めて講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点：30% 提出課題：70% で評価する。
・最終課題提出は必須である。

【学生の意見等からの気づき】

・毎回の授業で必ず覚えてプラスになるものがあるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

大学の実習室での授業が出来ない場合は、各自パソコンの用意が必要になる。

【その他の重要事項】

現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。

【Outline and objectives】

Understand basical operations for using Windows PC

ECN300EB

財政学 I

関口 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「財政学 I」では、自らの経済生活を豊かにするために、経済学・政治学・行政学・経営学・会計学・社会学にまたがり「境界線上の学問」とも称される財政学の歴史と分析方法、財政学の広範な主題の重要部分とされる予算、そして政府の存在根拠を中心に公共経済学の基礎理論について学ぶ。

【到達目標】

講義を契機にして、財政の理論と実際そして財政制度の基本的な知識を習得をし、財政制度および政策の経済的な意義と問題点を明らかにすることを目標とする。また、本講義では財政学の特定分野に特化しないで、財政学全般を対象とするので、現実問題について幅広く受講生自ら考える力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 新型コロナウイルス感染症が収束しない間は遠隔講義形式を基本とする。毎回講義の感想等を学習支援システム経由で提出してもらい、各受講生の意欲を確認するとともに、質問等に応じたい。また、時間的余裕がある場合、討論等も含みたい。
2. 事情のある場合はやむを得ないが、体系的な学習のためには「財政学 I」と「財政学 II」をともに受講することが望ましい。
3. 講義に関する連絡は遠隔講義内で原則行う。講義で触れきれない事項等は大学の学習支援システムによるしかないので、随時同システムを確認してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	I. 緒論（財政と財政学） 〈教科書：開講にあたり〉	1. 法政大学元総長大内兵衛と財政学 2. 経済学と財政学
第 2 回	I. 緒論（財政と財政学）	3. 財政学とは何か（教科書：第 1 章）
第 3 回	I. 緒論（財政と財政学）	4. 財政学と財政思想の変遷（教科書：第 2～3 章）
第 4 回	I. 緒論（財政と財政学）	5. 現代財政学の展開（教科書：第 3 章）
第 5 回	I. 緒論（財政と財政学）	5. 財政の機能と分析方法（教科書：第 3～4 章）
第 6 回	II. 予算論（教科書：第 5 章）	1. 予算の意義 2. 予算原則
第 7 回	II. 予算論	3. 日本の予算・決算制度 (1)（教科書：第 6 章）
第 8 回	II. 予算論	3. 日本の予算・決算制度 (2)（教科書：第 6～7 章）
第 9 回	II. 予算論	4. 財政投融资制度（教科書：第 20 章）
第 10 回	II. 予算論	5. 予算の改革（教科書：第 8 章）
第 11 回	III. 公共経済学の基礎理論	1. 政府が存在するための経済的根拠（教科書：第 9 章）
第 12 回	III. 公共経済学の基礎理論	2. 市場の失敗（独占・外部性）（教科書：第 9 章）
第 13 回	III. 公共経済学の基礎理論	3. 公共財の理論（続・市場の失敗）（教科書：第 9 章）
第 14 回	III. 公共経済学の基礎理論	4. 政府の失敗（教科書：第 9 章）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習にあたり 2 時間以上かけて、各回のシラバスに掲載されている教科書の該当箇所を読み、高等学校までに学んだ内容を確認し、不明語句ないし不明内容を明らかにしておく必要がある。各回の講義終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、教科書、配付資料を頼りに研究問題に 2 時間以上かけて取り組み、復習すること。

【テキスト（教科書）】

佐藤進・関口浩著『財政学入門 [新版]』同文館、令和元年。

【参考書】

1. 池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、平成 31 年。
2. 池上岳彦編『現代財政を学ぶ』有斐閣、平成 27 年。
3. 参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 詳細については第 1 回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。
2. 例年は目安として、夏の定期試験 (70 %) を中心にして、出席票のコメント (30 %)、講義最終回指定提出物 (必須) 等を加味して評価している。本学期もこれに準拠することになるが、具体的方法と基準は学習支援システムで掲示する。

【学生の意見等からの気づき】

特に経済学により深く学ぼうとする学生は、理論経済学（ミクロ経済学・マクロ経済学）を履修済みもしくは同時履修することが望ましい。履修が難しい学生には独学の方法等について講義中に話す予定である。

【学生が準備すべき機器他】

遠隔講義を受信したり、学習支援システムの掲示を閲覧・印刷等のできる装置を、大学の貸与を含めて、受講者各自で準備されたい。

【その他の重要事項】

時間の関係で扱えない「地方財政論」は別枠で半期講義（水・秋学期 3 限）があるので、ぜひとも併せて受講してほしい。

【Outline and objectives】

We learn the basics of "public finance" to do a policy analysis, and study the theory and the practice of it.

ECN300EB

財政学Ⅱ

関口 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「財政学Ⅱ」では、「財政学Ⅰ」を踏まえて財政学の理解をより深めるために、古くから財政学の首座を占めてきた租税、そして社会保障、教育、財政赤字等の今日的な財政問題、また財政政策について学ぶ。

【到達目標】

「財政学Ⅰ」と同様に、財政の理論と実際そして財政制度の基本的知識を習得し、財政制度および政策の経済的意義と問題点を受講者自身が考える手助けをすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 基本的には「財政学Ⅰ」と同じように、講義形式とするが、毎回講義の感想等を提出してもらい、各受講生の意欲を確認するとともに、質問等に応じたい。また、時間的余裕がある場合、討論等も含みたい。
2. 事情のある場合はやむを得ないが、体系的な学習のためには「財政学Ⅰ」と「財政学Ⅱ」をともに受講することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Ⅳ. 経費論〈教科書：第10～11章〉	1. 経費の意義と経費膨張の法則 2. 政府の範囲と国民経済計算・経費区分
第2回	Ⅳ. 経費論	3. 社会保障の財政問題〈教科書：第12章〉
第3回	Ⅳ. 経費論	4. 教育財政〈教科書：第13章〉
第4回	Ⅳ. 経費論	5. 費用便益分析〈教科書：第14章〉
第5回	Ⅴ. 租税論（総論）〈教科書：第15章〉	1. 租税の意義と機能
第6回	Ⅴ. 租税論（総論）	2. 租税負担の根拠と負担配分の公平 3. 租税体系と租税原則〈教科書：第15章〉
第7回	Ⅴ. 租税論（総論）〈教科書：第15章〉	4. 最適課税論
第8回	Ⅴ. 租税論（総論）	5. 租税の転嫁と帰着 6. 租税体系の変遷と国際比較〈教科書：第15～19章〉
第9回	Ⅵ. 租税論（各論）	1. 所得課税の理論と実際〈教科書：第16～17章〉 2. 消費課税の理論と実際〈教科書：第18章〉
第10回	Ⅵ. 租税論（各論）	3. 資産課税の理論と実際〈教科書：第16章〉
第11回	Ⅶ. 公債論〈教科書：第20～21章〉	1. 公債の意義と種類
第12回	Ⅶ. 公債論	2. 公債原則論と公債負担論 3. 日本の公債問題〈教科書：第22章〉
第13回	Ⅷ. 財政政策論〈教科書：第23～24章〉	1. ケインズ経済学の基礎
第14回	Ⅷ. 財政政策論	2. フィスカル・ポリシーとビルト・イン・スタビライザー 3. IS-LM分析とポリシー・ミックス〈教科書：第24章〉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「準備学習にあたり2時間以上かけて、各回のシラバスに掲載されている教科書の該当箇所を読み、高等学校までに学んだ内容を確認し、不明語句ないし不明内容を明らかにしておく必要がある。あわせて、「財政学Ⅰ」で未消化の知識については、教科書を活用して、各自でその補修をしておく必要がある。各回の講義終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、教科書、配付資料を頼りに研究問題に2時間以上かけて取り組み、復習すること。

【テキスト（教科書）】

佐藤進・関口浩著『財政学入門〔新版〕』同文館、令和元年。

【参考書】

1. 池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、平成31年。
2. 片桐正俊編『財政学（第3版）』東洋経済新報社、平成26年。
3. 参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 基本的に「財政学Ⅰ」と同じである。第1回講義の説明を必ず聞くこと。

2. 目安として、冬の定期試験（70%）を中心にして、出席票のコメント（30%）、講義最終回指定提出物（必須）等を加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「財政学Ⅱ」では、より現実的な問題を扱うことになるので、各回の予習、復習を確実にしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

遠隔講義を受信したり、学習支援システムの掲示を閲覧・印刷等できる装置を、大学の貸与を含めて、受講者各自で準備されたい。

【その他の重要事項】

「地方財政論」（水・3限）を受講することを推奨したい。

【Outline and objectives】

We learn the basics of "public finance" to do a policy analysis, and study the theory and the practice of it.

SES100EB

サステナビリティ論 A

田中 充

サブタイトル：環境問題 A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題は人間活動により引き起こされる問題であり、社会の持続性「サステナビリティ」を考える上できわめて重要です。授業では、環境の視点からサステナビリティをとらえ、問題の構造、持続可能な開発目標、文明と環境との関わり、公害・環境問題の原因と解決策について学びます。

【到達目標】

持続可能な社会に向けて環境問題の基礎的な知識を修得し、その発生原因と影響、対策の考え方について理解します。環境問題の考え方・とらえ方、解決の考え方である「環境リテラシー」について学び、理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナウイルス問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行います。授業終了時に授業内の課題に関するリアクションペーパーの記入・提出を求めます。授業の初めに、前回のリアクションペーパーを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。環境問題の映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。進行状況により予定変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方と諸注意 環境問題とサステナビリティ	講義の進め方を解説し、受講上の注意をします。講義の出発点としてサステナビリティと環境問題の概要を学びます。
2	環境問題の意義と構造	環境問題を考える意義と環境問題の構造を解説します。持続可能な開発目標について紹介します。
3	文明の発達と環境問題	人間文明の発達と環境問題との関わりを学びます。
4	イースター島の文明崩壊と環境サステナビリティ	文明社会の発達が環境サステナビリティの破壊を引き起こした事例を学びます。
5	日本における公害問題の経緯～足尾銅毒事件	日本の公害問題の経緯を振り返り、近代化の過程で発生した足尾銅毒事件を学びます。
6	日本の高度経済成長とイタイイタイ病	高度経済成長期に発生したイタイイタイ病の原因・構造を学びます。
7	高度経済成長期の薬品公害・食品公害	産業公害と同時に発生した薬害と食品公害（カネミ油症事件等）を学びます。
8	公害問題の原点「水俣病」の構造	公害問題の原点である水俣病問題の経緯と被害構造を学びます。
9	水俣病による地域社会への影響	加害者・被害者の立場から水俣病が地域社会に及ぼした影響と構造的な要因を学びます。
10	水俣病の拡大と被害者の救済	水俣病被害の拡大の背景、水俣病裁判の経緯を学びます。
11	水俣病に学ぶ教訓－環境サステナビリティの視点	水俣病を例として環境問題の特徴と課題、教訓を抽出し、サステナビリティを考えます。
12	都市の水問題～水不足	グローバルな環境問題として世界の水問題について学びます。
13	都市の水問題～水の汚染	水問題のもう一つの側面である水質汚染の実態と対策について学びます。
14	環境サステナビリティの実現に向けて－講義のまとめ	環境サステナビリティの実現に向けて、何が必要かを受講生との討論形式で考え、まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。授業期間中に課題レポートを作成し提出します。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。プリントを配布します。授業時に映像を視聴します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい、2008）ほか、必要に応じて授業時に指示します。環境問題の映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。

【成績評価の方法と基準】

・配分は、授業参加（平常点）60 %、課題レポート 40 %（2 回）とします。
・授業参加として、毎回リアクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーは記述内容に応じて採点（1 回 5～1 点）し、全回提出で満点 60 点とします。
・課題レポートを 2 回（うち 1 回を授業内小テストに代えることがある）行い、各回満点 20 点、合計 40 点とします。
・欠席の多い受講態度（概ね 3 割以上、14 回中に 4 回以上の欠席）は、平常点を大きくマイナスし、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン方式による動画上映時への指摘、レポート提出期限などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

・資料配布、課題提出等のために学習支援システム等を利用する場合があります。システムに随時アクセスできる通信環境が必要です。
・授業方式（対面またはオンライン）は学習支援システムによりお知らせします。
・オンライン授業の場合は、Wi-Fi 等のインターネット接続が必要です。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
・担当教員は、環境行政における政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等を事例を交えて解説します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境政策論

<研究テーマ>自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This lecture deals with the basic concepts and principles of environmental issues, especially environmental sustainability.

SES100EB

サステナビリティ論 B

長沼 建一郎

サブタイトル：環境問題 B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる社会問題と、その政策的な対応をテーマとします。

【到達目標】

いわゆる社会問題と、それへの政策的な対応についての理解を深め、持続可能性の観点から問題解決の道筋を提案できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

代表的な社会問題（福祉・社会保障、雇用・労働、家族など）をとりあげて、具体的な事例を素材として、その政策的な対応について検討します。皆さんからの質問やコメントなどに次の授業で全体に対して答える予定です。技術的に可能であれば、参加者との意見交換も行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会問題と政策、サステナビリティ
第 2 回	メンタルの問題	自殺、ストレス、うつ病、依存症
第 3 回	健康・医療の問題	生活習慣病、超高額医療、終末医療
第 4 回	ジェンダーの問題	男女差別、マイノリティ
第 5 回	家族の問題	同性婚、ひとり親、人工生殖
第 6 回	子育ての問題	保育所、児童虐待
第 7 回	補説、中間試験	前半部分の補足、中間試験
第 8 回	貧困の問題	生活保護、自立・就労支援
第 9 回	市場経済の問題	経済成長、市場労働
第 10 回	賃金労働の問題	労働市場、失業保険
第 11 回	ワークプレイスの問題	給与、リストラ、ハラスメント、過労死
第 12 回	人口減少の問題	出生率対策、児童手当
第 13 回	年金・介護の問題	公的・私的年金、認知症・介護保険
第 14 回	補説、期末試験	後半部分の補足、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習・復習をおこなう。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

社会問題についての概説書（執筆中）を教科書として指定する予定です。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40%）および期末試験（60%）により評価する予定です。

（試験を実施できない場合はレポートにより評価します。）

（時間及び技術的に、参加者との意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点の勘案も検討したいと思います。）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし（昨年度は担当しませんでした。テキストの使用により、理解しやすいようにする予定です。）

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。

科目名は旧課程の「環境問題B」を引き継いでいますが、今年度は具体的な環境問題は扱わないので注意してください。

【Outline and objectives】

This course deals with social problems and social policies.

SOC200EB, SOC200EC

産業社会学 I

惠羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化と急速な産業構造の変化の下、働きかたは多様化し、人びとの意識や社会的結合のあり方も変容している。「働くこと」とはどのようなことなのか、そこにはどのような課題があるのか。この授業では、産業・労働を捉える様々な見方について学び、産業社会学の学問としての成り立ちと基本的テーマを通じて、基礎的な知識を身に着ける。そして、産業・労働を取り巻く状況を社会動態として捉え、人々の意識や相互関係に着目する社会学の枠組みについて理解し、これまで社会学が「働くこと」をめぐっていかにかに考察してきたのかを理解するとともに、今日のグローバル化の影響について検討する。

【到達目標】

「働くこと」について、産業社会の発展の中で、どのような課題および問いが発生してきたのか、社会学的な観点から考察する方法について学ぶ。「働くこと」を取り巻く構造や制度、ならびに労働者の主体的関わりについて、社会学的な枠組みから理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は 4 月 9 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。各回の授業計画の変更がある場合、学習支援システムでその都度提示する。

課題等に対するフィードバックは、毎回および最終授業において前回まで提出されたリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	産業社会学とはどのような学問か	産業社会学、労働社会学、労働経済学、人的資源論など多様な学問領域の特徴を理解し、産業社会学の方法について学ぶ
第 3 回	経済と社会をめぐる社会学的研究の系譜	社会学における古典理論（デュルケム、ウェーバーなど）、社会関係資本、社会的紐帯などを含む経済社会学の基礎概念について学ぶ
第 4 回	産業化と社会変動	そもそも産業とは何なのか？ 分業、工業化、脱工業化に伴う技術・組織・社会関係・地域社会の変動などについて考察する
第 5 回	職場組織と人間関係	ホーソン実験など職場の人間関係論をめぐる議論を学び、欲求充足、モラル、感情労働などについて理解する
第 6 回	技術革新と労働	テイラーリズム、フォードイズム、ポストフォードイズムなどの議論から技術革新と労働・管理の変容を考える

第7回	労働者意識とイデオロギー	技術や官僚制化をめぐる労働の疎外と人間化、帰属意識、仕事のやりがいや価値観など、労働の主体性について考える
第8回	労資関係と労使関係	働くことを取り巻く利害関係や制度としての労資関係/労使関係について、その重層性を理解する
第9回	労働組合と労働運動	労働組合の類型と機能、および日本の労働組合の特徴を理解し、今日的な労働組合運動のあり方について考える
第10回	日本の産業社会学(1)	日本の産業社会学の系譜から、生活共同体としての労働社会、経営家族主義、産業化と日本の特質などを理解する
第11回	日本の産業社会学(2)	いわゆる日本型雇用システムの特徴を理解し、その変容と多様な働き方について考える
第12回	グローバル化と労働(1)	新国際分業や多国籍企業、経済産業再編成とサービス化、資本と労働の移動の相互関係などについて学ぶ
第13回	グローバル化と労働(2)	アジアおよび日本における移民労働者と労働の変容について考察する
第14回	まとめ	授業のまとめと期末レポートについての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、産業・労働をめぐるテーマについて関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。疑問点や分からないキーワードなどについて調べておく。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50%）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当のため非該当

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（パソコン等、オンライン講義に対応できるもの）

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて適宜連絡するので、こまめに確認すること。授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of sociology of work to students. It also enhances the understanding of current socioeconomic dynamics surrounding industrial relations and workers.

SOC300EB, SOC300EC

産業社会学Ⅱ

惠羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990年代以降の社会構造変動の下での、格差の拡大をめぐる問題について、産業・労働の視点から考える。今日のサービス経済化や少子高齢化する社会において、若年労働、女性労働、外国人労働などが直面している非正規雇用、長時間労働、労働リスクなどの不安定雇用や労働環境をめぐる問題について、その労働実態、構造的背景、組織的特徴などを理解し公正で平等な労使関係の再構築に向けて求められている対策や社会政策について検討する。

【到達目標】

現代の産業社会が直面する、産業と労働に関わる諸問題について、その背景と実態を理解し、問題解決のためにどのような対策・制度政策が求められているのかについて考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となる予定。本授業の開始日は9月17日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。各回の授業計画の変更がある場合、学習支援システムでその都度提示する。

課題等に対するフィードバックは、毎回および最終授業において前回まで提出されたリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	非正規雇用の拡大(1)	雇用システムの変化と多様な働き方の拡大について学ぶ：統計的概観、規制緩和と政策、労働者保護法制など
第3回	非正規雇用の拡大(2)	曖昧な働きかたがもたらすリスクの拡大について考える：個人事業主・個人請負労働、労働者性の問題など
第4回	非正規雇用の拡大(3)	若者の就職について考える：採用の仕組み、教育システム、若者雇用問題など
第5回	労働を取り巻くリスク(1)	ブラック企業について考える：実態、構造的背景、社会的対策など
第6回	労働を取り巻くリスク(2)	長時間労働について考える：労働時間制度の歴史、時間外労働、働き方改革など
第7回	労働を取り巻くリスク(3)	労働安全について考える：労災、職業病、公害などをめぐる労働関連法や補償制度、危機とエッセンシャルワーカーなど
第8回	労働組合と労働運動(1)	日本の雇用システムと労働組合について学ぶ：企業別労働組合の歴史、構造、機能、およびその限界

第9回	労働組合と労働運動 (2)	新たなユニオンズムを考える： 労働相談窓口、非正規労働者の組 織化、多様なコミュニティユニオ ンの役割など
第10回	平等をめぐる視点 (1)	女性の働きかたを考える：男女平 等政策の歴史の変遷、女性と非正 規労働、ワークライフバランスな ど
第11回	平等をめぐる視点 (2)	雇用及び職業における差別に対す る取り組みを学ぶ：差別の禁止、 職場のダイバーシティ、グローバ ル化など
第12回	グローバル化と労働 (1)	日本の移民労働者受入政策を考え る：受け入れ政策の推移、その原 理と変容
第13回	グローバル化と労働 (2)	移民労働者の働きかたを考える： 産業特性、多様な制度（日系人、 技能実習制度、EPA 看護師、特 定技能など）
第14回	まとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、産業・労働をめぐるテーマについて関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。疑問点や分からないキーワードなどについて調べておく。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50％）

リアクション・ペーパー、授業内で出された提出課題など

②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当のため非該当

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（パソコン等、オンライン講義に対応できるもの）

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて適宜連絡するので、こまめに確認すること。授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

This course examines inequality in Japanese society related to work and employment. It deals with various topics such as changing industrial relations, expanding irregular/precarius work, working environments and risks as well as social policy.

GDR100EC

ジェンダー論

飯野 智子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ジェンダー問題を学ぶ上で不可欠な用語や概念を学ぶ。2. 近代家族・フェミニズムと男性学・ジェンダーと暴力・セクシュアリティ（身体・美容・商品化）・リプロダクション（人口政策・生殖医療）といった分野の諸問題について分析する。3. 近代化によってもたらされたジェンダー、セクシュアリティ問題を理解した上で、今日的な問題の解決を考えられるようにする。

【到達目標】

1. 文化と性差、性別の多様性について理解し、多様な生き方を肯定する視点を身につける。2. フェミニズムの問題意識と、男性学の目指すものについて理解した上で、具体的な諸問題を分析できるようにする。3. 近代家族と性別役割分業の今日的課題について検証する。4. 「美・医」と「性・生殖」の関係と国家管理、近代的身体観の成立を、男女の方向性の違いに着目し、理解する。5. 近代化をジェンダー、セクシュアリティといった視点から問い直す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン授業では学習支援システムを使用し、教材を配布、課題を提示する。履修生は教科書と教材を読み、課題を提出する。毎回全体に対して講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	性別とは何か、ジェンダー、セクシズム	性別の多様性、基本用語と概念
2.	近代化と第一波フェミニズム	第一波フェミニズムの問題意識と目的、日本の運動
3.	戦後民主化と第二波フェミニズム	第二波フェミニズムの問題意識と目的
4.	近代家族と性別役割分業	近代家族の特徴と問題、家族の多様性
5.	ドメスティックバイオレンス…被害者支援	ジェンダーと暴力、関係性
6.	ドメスティックバイオレンス…加害者プログラム	加害者プログラムの現状と問題点
7.	身体の二重規範…男女の方向性	「美」と「健康」…身体个国家管理
8.	ダイエットと摂食障害	「美」と「健康」…矛盾と主体性の獲得
9.	美容医療の現状と問題点	美容医療の問題点について検証する
10.	美容医療…是非論の整理	美容医療をめぐる議論及び男性と美容
11.	男性学という視点	男性解放とは何か。男性性を問い直す。
12.	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	概念、人口政策の変遷と問題点
13.	生殖医療…代理出産	生命倫理、身体の手段化、家族を持つ権利をめぐる議論
14.	性の商品化…男女の非対称性	セクシュアリティ問題を様々な視点から分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オンライン授業では、教材を読んだ上で課題を提出する。授本授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準。

【テキスト（教科書）】

伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』、世界思想社、2015、1800円（本体）

【参考書】

参考書は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では全部で12回の課題を提出する。課題提出60％、課題の内容40％として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

課題に対して数行しか書かない学生に対してアドバイスを行う。

【Outline and objectives】

1. Learn terminology and concepts essential in studies on gender problems. 2. Analyze problems in areas such as the modern family, feminism and men's studies, gender and violence and sexuality (body, beauty, commercialization), and reproduction (population policies, reproductive medicine). 3. Be able to consider solutions to current problems after understanding gender and sexuality problems brought about by modernization.

COT300ED

システム・プログラミングA

堀 亜砂実

サブタイトル：UNIXシステム実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Apple 社のコンピュータ用 OS「MacOS」のベースやサーバ用に広く使われる OS「UNIX」の実習により、多様なコンピュータ・携帯端末や、インターネットを用いたサービスの仕組みへの理解を深めます。

【到達目標】

UNIX の基本操作を習得して、さらなる活用につながる基礎を固めます。また、UNIX を搭載したサーバで動くプログラムを作成して、日頃インターネットを通じて利用している様々なサービスの仕組みへの理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回テーマに沿った授業内課題を出題するほか、試験の代わりに大課題を 2 回程度出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得します。実習形式なので自ら考え試行錯誤することが不可欠です。フィードバックは対面または学習支援システム上で、解答例の提示や個別コメントにより行います。なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	実習環境の確認	実習に使用するソフト等を確認する
第 2 回	ファイル操作	UNIX でのファイル操作を学ぶ
第 3 回	ディレクトリ操作	UNIX でのディレクトリ概念を学ぶ
第 4 回	コマンドとオプション	UNIX の様々なコマンドを学ぶ
第 5 回	インターネットと UNIX	ネットワークを介して UNIX を使う
第 6 回	テキストエディタ	「Vi」の基本操作を学ぶ
第 7 回	シェルスクリプト基本	シェルスクリプトを実行する
第 8 回	シェルスクリプト活用	シェルスクリプトを編集・作成する
第 9 回	Web と UNIX	Web と UNIX サーバについて
第 10 回	Web プログラミング基本	サーバで動くプログラムを作る
第 11 回	Web プログラミング活用	インタラクティブな Web ページ作成
第 12 回	復習	学んだ内容を復習し理解を深める
第 13 回	Web システム	簡易的な Web システムを作る
第 14 回	UNIX の活用まとめ	学んだ UNIX の活用法を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回新しい事柄を取り上げるので、復習を積極的に行うこと。
 ・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的・積極的に取り組むこと。
 ・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで、欠席分の授業資料に目を通し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

参考書の指定なし。授業時に参考文献や Web サイトを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・毎回の授業内課題の合計点・・・60%
 ・2 回程度出題する大課題の合計点・・・40%
 授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

UNIX 環境では基本的に全ての操作を文字ベースで行うため、感覚頼みでない概念的な理解が欠かせません。入門科目の内容やプログラミングの基礎をしっかりと習得した上での積極的な取り組みが必要です。例年、特に 2 年次春学期の履修者からは「他の情報科目を先に履修した後で履修すると、より理解が深まったかも」との声があるので参考にして下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業は社会学部棟 101 教室の Mac で行いますが、予習・復習等は Windows のコンピュータでも可能です。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中および授業前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to use many basic commands of UNIX and to get how to make shell scripts.

COT300ED

システム・プログラミングA

堀 亜砂実

サブタイトル：UNIXシステム実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Apple 社のコンピュータ用 OS「MacOS」のベースやサーバ用に広く使われる OS「UNIX」の実習により、多様なコンピュータ・携帯端末や、インターネットを用いたサービスの仕組みへの理解を深めます。

【到達目標】

UNIX の基本操作を習得して、さらなる活用につながる基礎を固めます。また、UNIX を搭載したサーバで動くプログラムを作成して、日頃インターネットを通じて利用している様々なサービスの仕組みへの理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回テーマに沿った授業内課題を出題するほか、試験の代わりに大課題を2 回程度出題し、積み重ねと反復で技術と知識を習得します。実習形式なので自ら考え試行錯誤することが不可欠です。フィードバックは対面または学習支援システム上で、解答例の提示や個別コメントにより行います。なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	実習環境の確認	実習に使用するソフト等を確認する
第 2 回	ファイル操作	UNIX でのファイル操作を学ぶ
第 3 回	ディレクトリ操作	UNIX でのディレクトリ概念を学ぶ
第 4 回	コマンドとオプション	UNIX の様々なコマンドを学ぶ
第 5 回	インターネットと UNIX	ネットワークを介して UNIX を使う
第 6 回	テキストエディタ	「Vi」の基本操作を学ぶ
第 7 回	シェルスクリプト基本	シェルスクリプトを実行する
第 8 回	シェルスクリプト活用	シェルスクリプトを編集・作成する
第 9 回	Web と UNIX	Web と UNIX サーバについて
第 10 回	Web プログラミング基本	サーバで動くプログラムを作る
第 11 回	Web プログラミング活用	インタラクティブな Web ページ作成
第 12 回	復習	学んだ内容を復習し理解を深める
第 13 回	Web システム	簡易的な Web システムを作る
第 14 回	UNIX の活用まとめ	学んだ UNIX の活用法を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回新しい事柄を取り上げるので、復習を積極的に行うこと。
 ・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的・積極的に取り組むこと。
 ・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで、欠席分の授業資料に目を通し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

参考書の指定なし。授業時に参考文献や Web サイトを随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・毎回の授業内課題の合計点・・・60%
 ・2 回程度出題する大課題の合計点・・・40%
 授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

UNIX 環境では基本的に全ての操作を文字ベースで行うため、感覚頼みでない概念的な理解が欠かせません。入門科目の内容やプログラミングの基礎をしっかりと習得した上での積極的な取り組みが必要です。例年、特に 2 年次春学期の履修者からは「他の情報科目を先に履修した後で履修すると、より理解が深まったかも」との声があるので参考にして下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業は社会学部棟 101 教室の Mac で行いますが、予習・復習等は Windows のコンピュータでも可能です。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中および授業前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to use many basic commands of UNIX and to get how to make shell scripts.

COT300ED

システム・プログラミングB

西辻 崇

サブタイトル：プログラミング中級 C

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが普段利用している様々な情報サービス（e.g., web サービス、スマートフォン）の裏側には、サービスを提供する側のコンピュータが働いています。その根幹をなすのがオペレーティングシステム（Operating System: OS）です。Windows, Linux, MacOS, Android など、現代では OS は我々が日常生活のなかで耳にしたり、使ったりすることが多くなっています。本授業では、OS を構成するごく基本的な要素・方式の理解を目的に、フリーの OS である Linux をターゲットに、操作方法や仕組みを概説し、ソフトウェア観点から見たコンピュータの仕組みを大まかに理解します。また、コンピュータの主たる用途であるデータ処理の自動化を実現するための方法として、シェルスクリプトとスクリプト言語の 1 つである Python を学び、基本的な使用方法を学びます。座学+実習をベースにした授業構成により、OS やスクリプトを扱う実践的なスキルを今後学んで行くためのきっかけが得られます。

【到達目標】

毎回のテーマに沿った実習を行い、OS をはじめとするコンピュータシステムの挙動や、プログラミングの基本的な考え方を習得できます。プログラミング言語の文法やテクニックの完全な習得は、この授業だけでは不可能ですが、API リファレンスの引き方など、今後、自分で学習を進めていくための方法についても実習を通じて習得できます。したがって、成績は、学修したプログラミングスキルの習熟度を単に測るだけではなく、レポート課題を通じて、自ら調べ、理解するスキルの習得も狙います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

社会情勢に鑑みリモート授業となる可能性があります。開講前に連絡します。<リモート授業、または、リモート参加の場合>

ご自身の PC を用い、自宅よりご参加いただきます。ブラウザで動作可能な環境を用いた実習を行います。準備方法、使用方法については、授業時に方法を案内いたします。毎回、小さな課題に取り組みます。なお、授業計画は授業の展開によって変更の可能性があることをご了承ください。

<対面授業の場合>

大学備え付けの PC で授業を行います。PC の持ち込みは可能ですが、ネットワーク環境や開発環境等の準備はご自分でなさってください。推奨環境については、こちらからある程度案内します。

<フィードバックの方法について>

各回でレポートを課します。レポートの回答、解説は原則、次回授業の冒頭に実施します。また、メール等での質問も積極的に受け付けます。

<授業計画について>

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の目標、予定、進め方 + a
第 2 回	シェル操作の導入	Linux 環境の使用法について簡単に学びます。
第 3 回	ファイルとディレクトリ	Linux のファイル・ディレクトリ構造と操作方法や関連するコマンドについて学びます。
第 4 回	検索と正規表現	コンピュータシステムにおいて、情報の検索は極めて重要かつ有用な操作の 1 つです。ここでは、テキスト形式のファイルについて、正規表現を用いた検索方法と関連するコマンドについて学びます。
第 5 回	パイプライン	Linux では様々なコマンドが存在しています。また、コマンドを組み合わせることで、複雑な処理をプログラミング等を行うことなく実現できます。ここでは、その要素であるパイプラインについて学びます。

- 第6回 シェルスクリプト (1) パイプラインより、さらに複雑にコマンドを組み合わせることで、より複雑な処理を実現できます。ここでは、その実現方法の1つであるシェルスクリプトについて学びます。
- 第7回 シェルスクリプト (2) パイプラインより、さらに複雑にコマンドを組み合わせることで、より複雑な処理を実現できます。ここでは、その実現方法の1つであるシェルスクリプトについて学びます。
- 第8回 Python 入門 (1) プログラミング言語の1つであるPythonについて学びます。今回は、環境の使用方法、変数やPrint文について学びます。
- 第9回 Python 入門 (2) プログラミング言語の1つであるPythonについて学びます。今回は、制御構文について学びます。
- 第10回 Python 入門 (3) プログラミング言語の1つであるPythonについて学びます。今回は、制御構文について学びます。
- 第11回 Python 入門 (4) プログラミング言語の1つであるPythonについて学びます。今回は、ファイル入出力・ファイル処理について学びます。
- 第12回 Python 入門 (5) プログラミング言語の1つであるPythonについて学びます。今回は、ライブラリの使用方法をpandasを例に学びます。使用するライブラリは変更の可能性があります。
- 第13回 Python 演習 (1) これまでに学んできたPythonの使用法の定着を図るため、基本～やや応用の演習問題に取り組みます。
- 第14回 Python 演習 (2) これまでに学んできたPythonの使用法の定着を図るため、やや応用～応用の演習問題に取り組みます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業は積み上げ式の構成です。各回で理解が不足した場合、あるいはやむを得ない事情で欠席した場合においては、自習の上、続く授業に臨むこと。

【テキスト (教科書)】

教科書の指定はありません。ただし、LinuxやPythonの参考書は無償、有償問わず、自分が理解できそうなもの、自分に合ってそうなものを用意しておくこと。まずは自己解決を試みる体制・姿勢の整備が必要です。

【参考書】

テキストに同じです。

【成績評価の方法と基準】

原則として、平常 (毎回の通常レポート、授業態度) 点 (50%) と演習課題 (50%) を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

PCとインターネット環境をご用意ください。

PCはWindows, Mac, Linuxであること。スマートフォン、タブレットの使用による実習実施はサポートができないため原則認めませんが、トラブル等に対してご自身で対処される場合には、使用を禁止するものではありません。

【その他の重要事項】

質問は原則授業中に受け付けますが、メールでも受け付けます。メール問い合わせの際は、基本的なビジネスマナー (所属、名前等の記載など) を遵守した上、要件を具体的に述べてください。

===実務経験のある教員による授業に関する記載項目===

電機メーカー研究所にてネットワークカメラに関する研究会開発経験がある教員が、システムを構成するLinuxやPythonスクリプトについて解説し、演習を指導する。

【Outline and objectives】

Behind the scenes of various information services (e.g., web services, and smartphones) that we use in our daily lives, the computers that provide the services are working behind the scenes. Operating systems (OSs), such as Windows, Linux, MacOS, Android, etc., are increasingly heard of and used in our daily lives today. In this class, students will learn how to operate Linux, a free operating system, to understand the basic elements and systems that make up an operating system, and to gain a general understanding of how computers work from a software perspective.

Students will also learn about shell scripting and Python, a scripting language, and learn the basics of using it as a way to automate data processing, which is a major use of computers.

This course is based on classroom lecture and practice, which will give you an opportunity to learn practical skills of operating systems and scripts.

MAT100EA

自然科学特講 (数学)

鈴木 麻美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

数学は、必ずある前提の上に理論が成り立っている。中学や高校の数学で「二人でじゃんけんをして勝つ確率は」などの問題にも、前提条件がある。この授業では、具体的な問題に取り組みながら、生活の中の自然現象や数の仕組みなどを考察する。実際に手を動かし、体を使って毎回問題に取り組むことで「試行錯誤しながら問題を解決する能力」を身につける“きっかけ”をつかむことを目的とする。

【到達目標】

自分が解らない問題を提示されたときに「自ら問題を解決する取り組み」ができるようになることをはじめの目標とする。さらに「論理的な考え方・数学的思考力が必要である」ことに気づき更なる学びのスタートに役立ててほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はZoomで行う。はじめに「数学」を取り巻く世界の歴史を振り返りながら数学とはどいった学問なのかを紹介する。オンラインによる授業のため、各自で作図や工作に取り組んだ結果をビデオで紹介するほか、課題に取り組んだ結果を写真に撮り画像をアップするなど、毎回それぞれの課題に取り組む。課題は具体的な問題・理論的なアプローチなど様々である。提出課題に関しては、必ず授業内で解説を行うので、自分の結果との確認を行い復習をすること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと数学のはじまり	「数学」とは何かを説明し、講義の進め方および成績評価について説明をし、数学のルーツと世界史から見る数学の発展を学ぶ。
2	数学と文明	古代の数学と文明の発展との関連を学ぶ。
3	N進法	デジタルの世界で用いられる二進法や近年まで多く使われていたローマ数字などについて学ぶ。
4	きれいな数	計算によってきれいな並びを示す数字について、その美しさの原理を学ぶ。
5	実際の確率を試す	サイコロを投げてデータをとり「数学的確率」を考える。
6	立体を考える (1)	一つの升でいろいろな容積を量ろう。
7	立体を考える (2)	体積をパズルを使って考える。
8	論理パズルに挑戦	帽子の問題他「論理思考」を鍛えよう。
9	図形パズルに挑戦	古代から考えられてきた「土地の分割」パズルを考える。
10	円周率を考える	作図で極限を体験する。
11	和算に挑戦 (1)	江戸時代に日常的に使われていた図形パズルを体験しよう。
12	和算に挑戦 (2)	江戸の庶民も熱中した油分け算に挑戦。

13 数学の鍵を考える。 数学の鍵でもある「命題」について学ぶ。

14 まとめ これまでの講義の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートは丁寧にきちんとまとめ、毎週授業の後には復習をして欲しい。また、翌週までの課題もあるので、提出を忘れないこと。授業後の課題に掛ける時間は毎回通常4時間程度と考えるが、難しい問題に関しては、それ以上の時間を必要とすることもある。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。

【参考書】

適宜指定。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内での取り組みと課題提出（60%）および期末試験（40%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

これまで知識として持っていたことも、実際手を動かして作業をしながら考えると、まったく違う角度で見えてくる。体を動かしながら物を考えることで、自分自身の思考力についても、いろいろ考えるきっかけになったようだ。

【Outline and objectives】

In mathematics, the theory is based on certain assumptions. In this lecture, we will consider natural phenomena in life and the mechanism of numbers while working on concrete problems. The purpose of this study is to get a chance to learn "the ability to solve problems by trial and error" by actually moving hands and using the body to tackle problems each time.

MAT100EA

自然科学特講（数学）

鈴木 麻美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は、必ずある前提の上に理論が成り立っている。中学や高校の数学で「二人でじゃんけんをして勝つ確率は」などの問題にも、前提条件がある。この授業では、具体的な問題に取り組みながら、生活の中の自然現象や数の仕組みなどを考察する。実際に手を動かし、体を使って毎回問題に取り組むことで「試行錯誤しながら問題を解決する能力」を身につける“きっかけ”をつかむことを目的とする。

【到達目標】

自分が解らない問題を提示されたときに「自ら問題を解決する取り組み」ができるようになることをはじめの目標とする。さらに「論理的な考え方・数学的思考力が必要である」ことに気づき更なる学びのスタートに役立ててほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は Zoom で行う。はじめに「数学」を取り巻く世界の歴史を振り返りながら数学とはどいった学問なのかを紹介する。オンラインによる授業のため、各自で作図や工作に取り組んだ結果をビデオで紹介するほか、課題に取り組んだ結果を写真に撮り画像をアップするなど、毎回それぞれの課題に取り組む。課題は具体的な問題・理論的なアプローチなど様々である。提出課題に関しては、必ず授業内で解説を行うので、自分の結果との確認を行い復習をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと数学のはじまり	「数学」とは何かを説明し、講義の進め方および成績評価について説明をする。その後、数学のルーツと世界史から見る数学の発展を学ぶ。
2	数学のはじまり	古代の数学と文明の発展との関連を学ぶ。
3	N 進法	デジタルの世界で用いられる二進法や近年まで多く使われていたローマ数字などについて学ぶ。
4	きれいな数	計算によってきれいな並びを示す数字について、その美しさの原理を学ぶ。
5	実際の確率を試す	サイコロを投げてデータをとり「数学的確率」を考える。
6	立体を考える（1）	一つの升でいろいろな容積を量ろう。
7	立体を考える（2）	体積をパズルを使って考える。
8	論理パズルに挑戦	帽子の問題他「論理思考」を鍛えよう。
9	図形パズルに挑戦	古代から考えられてきた「土地の分割」パズルを考える。
10	円周率を考える	作図で極限を体験する。
11	和算に挑戦（1）	江戸時代に日常的に使われていた図形パズルを体験しよう。

- 12 和算に挑戦（2） 江戸の庶民も熱中した油分け算に挑戦。
- 13 数学の鍵を考える。 数学の鍵でもある「命題」について学ぶ。
- 14 まとめ これまでの講義の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートは丁寧にきちんとまとめ、毎週授業の後には復習をして欲しい。また、翌週までの課題もあるので、提出を忘れないこと。授業後の課題に掛ける時間は毎回通常 4 時間程度と考えるが、難しい問題に関しては、それ以上の時間を必要とすることもある。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。

【参考書】

適宜指定。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内での取り組みと課題提出（60%）および期末試験（40%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

これまで知識として持っていたことも、実際手を動かして作業をしながら考えると、まったく違う角度で見えてくる。体を動かしながら物考えることで、自分自身の思考力についても、いろいろ考えるきっかけになったようだ。

【Outline and objectives】

In mathematics, the theory is based on certain assumptions. In this lecture, we will consider natural phenomena in life and the mechanism of numbers while working on concrete problems. The purpose of this study is to get a chance to learn "the ability to solve problems by trial and error" by actually moving hands and using the body to tackle problems each time.

BAB200EA

自然科学特講（生命科学）

鞠子 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多摩キャンパスの生物や自然を対象として様々な観察・実験を室内外で行い、人と生物・自然との関りについて考える授業を展開する。

【到達目標】

自然と生物を五感で感じ取る力と生物の一員としての人間のあり方について考える力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

生物や自然を対象としていくつかのテーマを設定し、必要に応じてフィールドワークと室内実験を行う。テーマごとにレポートを作成して提出する。提出されたレポートに対する講評と追加説明を行い、テーマの理解度を深める。この科目は受講許可科目であり、コロナ禍のため定員 20 名とする。受講希望者は、学習支援システム上にて 4 月 12 日（月）12:00 までに仮登録すること。仮登録者数が定員を上回った場合は抽選により受講を許可する学生を決定し、4 月 13 日（火）までに受講許可学生の名簿（学生証番号のみ）を学習支援システムの「お知らせ」機能を使って発表する。受講を許可された学生は、各自、履修登録期間中（4 月 10 日～4 月 16 日）に情報システムにて履修登録を行うこと。詳細については、社会学部ウェブサイト履修関係ページで確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと基礎講義	授業内容の説明と生物基礎を講義する
第 2 回	在来タンポポと外来タンポポの見分け方と分布	外来・在来タンポポの見分け方と分布調査を学ぶ
第 3 回	在来タンポポと外来タンポポの見分け方と分布	データを整理・分析する
第 4 回	花色素の発現と環境	花色の発現を制御する環境を調べる
第 5 回	森林バイオマスを測る	森林バイオマス資源の調査方法を学ぶ
第 6 回	バードウォッチング	身近な野鳥の観察を行う
第 7 回	ダンゴムシの生態	ダンゴムシの交代性転向反応を調べる
第 8 回	植物の光合成生産	葉半法で植物の光合成を観察する
第 9 回	光を要求する種子発芽	種子の発芽条件について観察する
第 10 回	植物のアレロパシー	植物を忌避する物質の存在を確認する
第 11 回	DNA の抽出実験	自分の口腔細胞の DNA を抽出する
第 12 回	生物個体数の推定法	標識再捕獲法で個体数を推定する
第 13 回	セミの抜け殻の観察	セミの抜け殻でセミや昆虫の形態を学ぶ
第 14 回	授業の振り返り	授業を振り返って補足説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、事前に資料を配布して授業時間外に準備作業をしたり、フィールドワークや実験の結果を翌週までにまとめるなどの作業を課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（ほぼ毎回の授業で資料を配付する）。

【参考書】

「くらべてわかる野鳥 文庫版」叶内 拓哉著、山と溪谷社（2016）；「観察する目が変わる植物学入門」矢野興一著、ベレ出版（2012）；「観察する目が変わる昆虫学入門」野村昌史著、ベレ出版（2013）

【成績評価の方法と基準】

この授業は体験型なので、授業に取り組む姿勢とレポート課題を重視する。配分は、平常点（50%）、レポート課題（50%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習が少ないとの意見があったので、課題を与えて学習効果を高めるようにした。

【その他の重要事項】

昆虫などの動物が苦手な人は履修にあたっては注意すること。授業計画は授業の進行、扱う生物や天候、機材の状況によって変更があり得る。

【Outline and objectives】

The main aims of this lecture are to survey biota and natural environment in Tama Campus and deepen knowledge and understanding of plants, birds, planktons and mushrooms. The focus is on sustainable coexistence between people and nature.

BAB200EA

自然科学特講（生命科学）

鞠子 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多摩キャンパスの生物や自然を対象として様々な観察・実験を室内外で行い、人と生物・自然との関りについて考える授業を展開する。

【到達目標】

自然と生物を五感で感じ取る力と生物の一員としての人間のあり方について考える力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

生物や自然を対象としていくつかのテーマを設定し、必要に応じてフィールドワークと室内実験を行う。テーマごとにレポートを作成して提出する。提出されたレポートに対する講評と追加説明を行い、テーマの理解度を深める。この科目は受講許可科目であり、コロナ禍のため定員 20 名とする。受講希望者は、学習支援システム上で 4 月 12 日（月）12:00 までに仮登録すること。仮登録者数が定員を上回った場合は抽選により受講を許可する学生を決定し、4 月 13 日（火）までに受講許可学生の名簿（学生証番号のみ）を学習支援システムの「お知らせ」機能を使って発表する。受講を許可された学生は、各自、履修登録期間中（4 月 10 日～4 月 16 日）に情報システムにて履修登録を行うこと。詳細については、社会学部ウェブサイト履修関係ページで確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと基礎講義	授業内容の説明と生物基礎を講義する
第 2 回	植物の光合成生産	葉半法で植物の光合成を観察する
第 3 回	光を要求する種子発芽	種子の発芽条件について観察する
第 4 回	植物のアレロパシー	植物を忌避する物質の存在を確認する
第 5 回	ダンゴムシの生態	ダンゴムシの交代性転向反応を調べる
第 6 回	セミの抜け殻の観察	セミの抜け殻でセミや昆虫の形態を学ぶ
第 7 回	バードウォッチング	身近な野鳥の観察を行う
第 8 回	植物の葉のつき方①	葉の形態、葉序、葉群構造などを調べる
第 9 回	植物の葉のつき方②	前回の観察した結果をまとめる
第 10 回	森林バイオマスを読む	森林バイオマス資源の調査方法を学ぶ
第 11 回	花色の発現と環境	花色の発現を制御する環境を調べる
第 12 回	DNA の抽出実験	自分の口腔細胞の DNA を抽出する
第 13 回	生物個体数の推定法	標識再捕獲法で個体数を推定する
第 14 回	授業の振り返り	授業を振り返って補足説明をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では、事前に資料を配布して授業時間外に準備作業をしたり、フィールドワークや実験の結果を翌週までにまとめるなどの作業を課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（ほぼ毎回の授業で資料を配付する）。

【参考書】

「くらべてわかる野鳥 文庫版」叶内 拓哉著、山と溪谷社（2016）；「観察する目が変わる植物学入門」矢野興一著、ベレ出版（2012）；「観察する目が変わる昆虫学入門」野村昌史著、ベレ出版（2013）

【成績評価の方法と基準】

この授業は体験型なので、授業に取り組む姿勢とレポート課題を重視する。配分は、平常点（50%）、レポート課題（50%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習が少ないとの意見があったので、課題を与えて学習効果を高めるようにした。

【その他の重要事項】

昆虫などの動物が苦手な人は履修にあたっては注意すること。授業計画は授業の進行、扱う生物や天候、機材の状況によって変更があり得る。

【Outline and objectives】

The main aims of this lecture are to survey biota and natural environment in Tama Campus and deepen knowledge and understanding of plants, birds, planktons and mushrooms. The focus is on sustainable coexistence between people and nature.

PLN200EA

自然科学特講（地学）

澤柿 教伸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球を知るためには、野外に出かけて行って、実際に自然の中に身をおきながら、様々な観察・観測・計測手法を駆使することが求められます。本講義では、それらのフィールドワークの実践方法について学びます。

【到達目標】

地学的なフィールドワークの実践方法や考え方を自分の課題にも活用できる素養を身に付けます。野外と室内の作業を通じて、地形図の読図、測位技術の活用、主題図の作成ができるようになること、さらにそれらの手法を批判的思考のツールとしてつかいこなせるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

受講登録手続きは春・秋学期ともに下記の通り行いますので、各自熟読したのち、順次手続きを行ってください。

自然科学特講は、「数学」・「地学」・「生命科学」（いずれも半期授業）のうち、春・秋学期のどちらかを選んで受講します（水曜 3 時限）。1 科目のみでも、春・秋学期で異なる 2 科目を組み合わせて受講することも可能です。受講できる定員枠は、春・秋学期それぞれ「数学」20 名、「地学」20 名、「生命科学」20 名です。なお、コロナウィルスの感染防止を踏まえて、定員枠は例年よりも少なくなっています。

受講希望者は、学習支援システムにログインし、履修を希望する科目について別途アナウンスする期日までに「仮登録」をして下さい。希望者（仮登録者）の数が定員を上回る場合は、抽選により受講を許可する学生を決定します。受講許可が与えられた学生の名簿（学生証番号のみ）を作成して学習支援システムの「お知らせ」機能を使って発表します。

2021 年度に関しては、定員を満たさない科目があったとしても受講希望者を再募集することはありません。

自然科学特講（地学）の授業では、本来は多摩キャンパスの敷地内で屋外作業をしたり室内で手作業したりするのですが、コロナ対策で遠隔授業になっている間はそれともできません。指示する課題を自宅で行っていただく形式にする予定です。学習支援システムのコメント機能を使って、成果物へのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員の自己紹介、進め方の説明
第 2 回	フィールドワークの極意	月面探査にみるフィールドワーク伝授のストーリー
第 3 回	高低差（実践編）	ハンドレベルによる野外実習（GW・FW）
第 4 回	高低差（解析編）	ハンドレベル実習データの解析（GW）
第 5 回	パソコンで地形学	いろいろな地図を実際に見てみる（GW）
第 6 回	地形を数値で表現	数値地図の基本（GW）
第 7 回	地形を三次元で再現	数値地図から 3D 地形モデルを構築する（GW）
第 8 回	地球の大きさを測る	GPS のポジショニング野外実習（GW・FW）
第 9 回	ルートとナビゲーション	GPS のロギング・ナビゲーション野外実習（GW・FW）
第 10 回	多摩キャンパスを測る	平板測量野外実習（GW・FW）
第 11 回	河川を追跡	地形図を用いた縦断面描画（GW）
第 12 回	実体視で峠の謎にせまる	アナグリフによる実体視で碓氷峠と中山道を地形解析（GW）
第 13 回	富士山の謎にせまる	クリティカルシンキングで富士山の地形を社会学する（GW）
第 14 回	ミッションのすべて	野外調査の企画・立案・実践・解析・取りまとめの流れ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段からドキュメンタリー番組・新聞・書籍などに接してフィールドサイエンスに関する話題に興味をもち、その実践者や啓蒙活動に触れる機会を持つことを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、個別の文献を授業中で指示します。

【参考書】

- ・ナショナルジオグラフィック（月刊雑誌）
- ・GISを使った主題図作成講座（古今書院）
- ・カシミール3D入門編（実業之日本社）

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の課題による通常時の評価(50%)
- ・定期試験による評価(50%)

【学生の意見等からの気づき】

作業にあてる時間配分が難しいという声がありますが、オンラインでの課題提示とそのあとの自主学习となるため、十分に対応可能となりました。

【学生が準備すべき機器他】

- ・対面で実施の場合は、多摩キャンパス内の屋外作業用に動きやすい服装と靴を用意してください。室内作業では、定規や色鉛筆を用品。
- ・オンライン授業の場合は、毎回、作業してもらう手順を Zoom で説明します。ネット・PC 環境を整えてください。
- ・オンライン授業になった場合は、事前に実習に必要な機材を郵送します。全回終了後に返却してください。

【Outline and objectives】

This course focuses on the practical skills required to understand geological and geomorphological nature of the earth. Each student will be expected to participate actively in field exercises and laboratory analysis and group gatherings. Participation includes active listening, questioning, hypothesis formulation, use of landscape interpretation techniques.

PLN200EA

自然科学特講（地学）

吉岡 美紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球を知るためには、野外に出かけていって、実際に自然の中に身をおきながら、様々な観察・観測・計測手法を駆使することが求められます。本講義では、それらのフィールドワークの実践方法について学びます。

【到達目標】

地学的なフィールドワークの実践方法や考え方を自分の課題にも応用できる素養を身に付けます。野外と室内の作業を通じて、地形図の読図、測位技術の演習、主題図の作成ができるようになること、さらにそれらの手法を批判的思考のツールとして使いこなせるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

自然科学特講は、「数学」・「地学」・「生命科学」（いずれも半期授業）のうち、春・秋学期のどちらかを選んで受講します（水曜 3 時限）。1 科目のみでも、春・秋学期で異なる 2 科目を組み合わせても受講できます。受講できる定員枠は、春・秋学期それぞれ「数学」20 名、「地学」20 名、「生命科学」20 名とします。

秋学期のみの受講希望者も、春の登録期間中に仮登録および Web 履修登録を行なって下さい。秋学期初めに登録することは一切できないので注意してください。

受講手続きは、以下の流れに沿って行なってください。

①学習支援システムでの仮登録: 受講希望者は、学習支援システム上に希望する科目を仮登録して下さい。仮登録の期限は 4 月 12 日 (月) 12:00 までとします。仮登録者数が定員を上回った場合は抽選により受講を許可する学生を決定します。

②受講許可の発表・確認: 4 月 13 日 (火) までに、受講を許可する学生の名簿(学生証番号のみ)を学習支援システムの「お知らせ」機能を使って発表します。各自、必ず確認してください。

③情報システムでの Web 履修登録: ②で受講を許可された学生は、各自、履修登録期間中(4 月 10 日～4 月 16 日)に情報システムにて履修登録を行ってください。受講許可の権利を放棄あるいは他の自然科学特講科目の受講許可に交換することは認められません。抽選により受講を許可された方は、選ばれなかった方のことも考えて、必ず履修登録を行ない、受講するようにしてください。

自然科学特講(地学)では、室内授業のほか、多摩キャンパス構内で屋外実習(作業)を行ないます。

授業の初めに、前回の課題提出物を元に全体に対してフィードバックを行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明
第 2 回	フィールドワークの極意	月面探査にみるフィールドワーク伝授のストーリー
第 3 回	高低差(実践編)	ハンドレベルによる野外実習 (GW・FW)
第 4 回	高低差(解析編)	ハンドレベル実習データの解析 (GW)
第 5 回	パソコンで地形学	いろいろな地図を実際に見てみる (GW)
第 6 回	地形を数値で表現	数値地図の基本 (GW)
第 7 回	地形を三次元で再現	数値地図から 3D 地形モデルを構築する (GW)
第 8 回	地球の大きさを測る	GPS のポジショニング野外実習 (GW・FW)
第 9 回	ルートとナビゲーション	GPS のロギング・ナビゲーション野外実習 (GW・FW)
第 10 回	多摩キャンパスを測る	平板測量野外実習 (GW・FW)
第 11 回	河川を追跡	地形図を用いた縦断面描画 (GW)
第 12 回	実体視で峠の謎にせまる	アナグリフによる実体視で確永峠と中山道を地形解析 (GW)
第 13 回	富士山の謎にせまる	クリティカルシンキングで富士山の地形を社会学する (GW)
第 14 回	まとめ	全体のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段からドキュメンタリー番組・新聞・書籍などに接してフィールドサイエンスに関する話題に興味をもち、その実践者や啓蒙活動に触れる機会を持つことを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、個別の文献を授業中で指示します。

【参考書】

ナショナルジオグラフィック（月刊雑誌）

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の課題による通常時の評価（50%）
- ・定期試験による評価（50%）

【学生の意見等からの気づき】

前期担当教員からの申し送りで、十分な作業時間を確保するよう注意する。

【学生が準備すべき機器他】

屋外作業（多摩キャンパス内）に適した動きやすい靴と服装で出席してください。室内作業では定規や色鉛筆を用います。

【Outline and objectives】

This course focuses on the practical skills required to understand geological and geomorphological nature of the earth. Each student will be expected to participate actively in field exercises and laboratory analysis and group gatherings. Participation includes active listening, questioning, hypothesis formulation, use of landscape interpretation techniques.

SOC200EB, SOC200EC

市民運動論**中筋 直哉**

サブタイトル：市民運動論 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を主体的に形成する手段の1つである、市民による社会運動の実態と意味を、主に社会学の方法をに基づいて理解する。とくに歴史的な視野とグローバル化への視野に重点を置く。

【到達目標】

- ・現実の市民運動を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
- ・現実の市民運動に対する自らの立ち位置、考えを論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン・オンデマンド形式で実施（予定）。学習支援システムで講義資料と音声・動画を事前配布する。質疑応答に学習支援システムを時間指定で使用する。課題については授業中に期末試験については試験後に、受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	社会運動の理論 1	社会的行為としての合理性
3	社会運動の理論 2	構造変動をもたらす集合的力
4	社会運動の理論 3	文化を創造する言葉と身ぶり
5	社会運動の歴史 1	伝統社会の騒乱の論理
6	社会運動の歴史 2	労働組合運動の消長
7	社会運動の歴史 3	地域開発と住民運動
8	事例研究的講義	現代世界における集合行動の意味
9	グローバルな市民運動 1	正義のフロンティアに向かって
10	グローバルな市民運動 2	越境するアンソニーション
11	グローバルな市民運動 3	小さな運動の構想力
12	展開的講義 1	ジェンダーをめぐる社会問題
13	展開的講義 2	ジェンダーをめぐる市民運動
14	市民運動の未来	重要論点の復習と質疑、討論

※別途定期試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習復習の他、「今日の課題図書」のいくつかを読むことが必須。授業の中盤に A4×1 枚程度のレポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポートの出来が 35 %（提出しないと D）、論述式の定期試験が 55 %。授業参加についての総合的評価が 10 %。試験解答において、市民運動に対する自分の考えを、事実とデータに基づいて論理的に表明できることが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】

理論的説明をよりゆっくりと行いねいに行うよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。ただ画面を眺めるだけでなく自分のノートを作ることが重要。

【その他の重要事項】

コースの専門的科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline and objectives】

This lecture aims to study contemporary social movements by sociological, historical and positive perspective.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

ジャーナリズムの歴史と思想 I

別府 三奈子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、問題解決のための社会装置であるジャーナリズムの形成過程と、その必然的背景となる言論の自由の考え方を中心に、ジャーナリズムの生い立ちと今日の存在意義を学ぶ。

【到達目標】

言論の自由思想の由来と、今日のグローバル・スタンダードとなっているジャーナリズムの基本理念となっているプロフェッション論の考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP5・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

時間割に定められた時間を基本に教材を配布し、1週間ごとに理解を深めていくオンデマンド型授業を行う。授業最終回までに中間レポートなどに対する講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ニュースをめぐる考察
第2回	ジャーナリズムの主体	記者の条件
第3回	マスメディアと技術	マスコミュニケーション発達史
第4回	ジャーナリストの役割	誰のために何をするか
第5回	言論の自由思想の形成	封建社会の自由と不自由
第6回	言論の自由の社会的機能	市民社会の自由と不自由
第7回	ジャーナリズム前史	マスメディア・言論の自由思想・言論統制
第8回	言論の自由の法文化	ポール・リビアの鐘の音
第9回	社会改良主義1	ルイス・ハインの写真
第10回	社会改良主義2	ビュリツァーの生涯
第11回	弱点1：会社益の克服	経営者とジャーナリズム
第12回	弱点2：国益の克服へ	国家とジャーナリズム
第13回	プロフェッション論	パブリックサービスの考察
第14回	制度化された理念	中間レポートほかのリプライと授業全体の補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの事前予習と配布資料の復習などで、毎週4時間以上の学習を要する。

【テキスト（教科書）】

『表現の自由』入門』ナイジェル・ウォーバートン著、岩波書店、2015。
このほか、ハンドライティングの配布資料を、授業内にて扱う事例に即して配布する予定。

【参考書】

『レクチャー 現代ジャーナリズム』早稲田大学ジャーナリズム教育研究所編、早稲田大学出版部、2013年。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

情報、メディア、マス・メディア、ジャーナリズムといった用語の、一般語と専門用語の相違に対する自覚を促す。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具

【その他の重要事項】

春学期はジャーナリズムの歴史と思想の下部構造である言論の自由を主題とする。秋学期は、上部構造に表出する 20 世紀の事例の数々を扱う。ジャーナリズムの理解には 2 科目履修が望ましい。

【Outline and objectives】

Students learn the concept of the freedom of the press, a relationship between journalism and the free press, and the meaning of the first amendment in America.

SOC200EC, SOC200ED

ジャーナリズムの歴史と思想 II

別府 三奈子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア学科のモジュール科目（技法）の科目である。ジャーナリズムの専門基礎知識があることを前提に、言論の自由との攻防の最前線におけるジャーナリズム活動の実践を、理論を踏まえて観察していく。観察事例は、国際調査報道の実例を多数扱う。

【到達目標】

ジャーナリズムを規定しているプロフェッション論と、言論の自由のせめぎあいの前線におけるジャーナリズムの社会的機能を深く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業を予定している（感染状況が厳しい場合は、時間割に定められた時間を基本として1週間ごとに教材を配布するオンデマンド型授業の可能性もある）。授業で扱った事例に関する配布資料をもとに、授業外での自習による観察レポートの提出とリプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ジャーナリズムの定義
第2回	社会的機能不全と調査報道の役割	プロフェッション論の視座
第3回	言論の自由と民主主義	フロイドケース（黒人差別撤廃運動）
第4回	調査報道記者の立ち位置	米国の調査報道記者編集者会（IRE）
第5回	社を超えた記者の連携	アリゾナケース（怒りを共有する）
第6回	国を超えた記者の連携	パナマ文書（国際調査報道の発動）
第7回	調査報道の起源	マックレーキングの思想（テキスト 2 章）
第8回	言論の自由をめぐる攻防	香港ケース（before/after）
第9回	内部告発と国益	スノーデンケース（国益か人権か）
第10回	内部告発者保護制度	マニングケース（国益か公益か）
第11回	公論を耕す	WWYD ケース（社会問題のドッキリ版からの照射）
第12回	調査報道の新たな表現	ユーチューブ局 The I File ケース（メキシコ国境難民調査報道）
第13回	ノイマンの理論の検討	「沈黙の螺旋」理論と調査報道の意義
第14回	市民社会とジャーナリズム	言論の自由とその障壁。中間レポートのリプライと振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材の予習・復習と、授業で扱う事例の追加リサーチ、授業課題の作成などに毎週5時間くらいを要する。

【テキスト（教科書）】

『調査報道ジャーナリズムの挑戦—市民社会と国際支援戦略』花田達郎、別府三奈子、大塚一美、デビッド・カプラン著、旬報社、2017年

【参考書】

『レクチャー 現代ジャーナリズム』早稲田大学ジャーナリズム教育研究所編、早稲田大学出版部、2013年。

【成績評価の方法と基準】

理解度を測る中間レポート 40%、期末筆記試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

政治体制のことなる国ごと、あるいは、同じ国でも時代によって異なるジャーナリズム観について、その違いが生まれる理由への自覚的認識をより強く促す。

【学生が準備すべき機器他】

指定テキストの入手、図書館の新聞データベースへの学外からのアクセス（VPN接続の準備）

【その他の重要事項】

日々のニュース観察

【担当教員の専門分野等】

<主要単著> 『ジャーナリズムの起源』世界思想社、2006年。『アジアでどんな戦争があったのか 戦跡を辿る旅』めこん、2006年。

【Outline and objectives】

We observe the concepts of profession theory and freedom of speech, which govern journalism, through the cases of in east and west.

MAN200EB

社会・イノベーション論 I

糸久 正人

サブタイトル：

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会に新たな価値をもたらすイノベーションに対する理解を深めます。社会・イノベーション論 I では、1) イノベーションが実現される基本的な前提としての社会の仕組み、2) 企業を中心としたイノベーション活動について学びます。

【到達目標】

- ・イノベーションが実現される前提としての社会の仕組みを理解する
- ・企業におけるイノベーション活動を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は、毎回パワーポイントを用いた講義形式で行います。小テストなどの課題に対するフィードバックは講義中に行い、期末試験に関しては学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーションとは何か？	本講義のメインテーマであるイノベーションについて定義し、講義全体の概要を述べる
第 2 回	社会における分業と協業	社会における生産活動を効率的に行うための仕組みとしての分業と協業
第 3 回	資本主義と競争	貨幣の成り立ちと資本主義の基本原則を前提として、必然的に競争が生じるメカニズム
第 4 回	企業の目的と社会的責任	資本家の所有権の概念から企業の目的を考える
第 5 回	技術とイノベーション	イノベーションを実現する技術の役割と関係性
第 6 回	両利き経営の難しさ	企業活動としてオペレーションとイノベーションの必要性と難しさ
第 7 回	制約理論：流れづくりのマネジメント	流れづくりを効率的に行うためのボトルネックの考え方とその解消方法
第 8 回	ブルーオーシャン戦略	コストリーダーシップと差別化を同時に実現するバリューイノベーション
第 9 回	ビジネスエコシステム（産業生態系）論	PC 産業で先駆的に観察された垂直分業から水平分業への産業転換
第 10 回	標準化戦略 I	企業の枠を越えた共通ルールとしての標準：競争ベースの標準化
第 11 回	標準化戦略 II	企業の枠を越えた共通ルールとしての標準：コンセンサスベースの標準化
第 12 回	プラットフォーム戦略と独占問題	あるレイヤーでプラットフォームになるための戦略、および GAF A 問題
第 13 回	ゲスト講師	ゲスト講師を招き、特定のトピックに関する理解を深める

第14回 小括 前期の小括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ビジネス関連の新聞・雑誌・書籍等に日頃から目を向けることを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げます。

【その他の重要事項】

後期の社会・イノベーション論Ⅱを併せて受講することを推奨します。

【Outline and objectives】

This lecture aims to cultivate your understanding of innovation, which providing new values to society. In the first semester, we focus on 1)social contexts and mechanisms in which innovation realize, and 2)innovation activities of firms.

MAN300EB

社会・イノベーション論Ⅱ

糸久 正人

サブタイトル：

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会に新たな価値をもたらすイノベーションに対する理解を深めます。社会・イノベーション論Ⅱでは、1)政策とイノベーション、2)イノベーションの実践、3)新たな技術と社会的価値について学びます。

【到達目標】

- ・政策とイノベーションの関係について理解する
- ・イノベーションを実践するための基本的知識を理解する
- ・新たな技術と社会的価値について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は、毎回パワーポイントを用いた講義形式で行います。小テストなどの課題に対するフィードバックは講義中に行い、期末試験に関しては学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	規制とイノベーション	政府の規制とイノベーションの関係について理論と現実の両側から理解する
第2回	イノベーションと知的財産	イノベーションと知的財産の保護およびオープン化
第3回	欧州を中心としたイノベーション政策	欧州を中心とした汎国家的なイノベーション政策
第4回	リスクとリターン：ベンチャー精神	リスクとリターンの基本的な関係とベンチャー精神について
第5回	リーダーシップ論	仲間づくりを行い、逆境を打破するリーダーシップについて
第6回	三方良しの交渉術	交渉術に関する基本的な理論と近江商人の三方良しの考え方
第7回	ソーシャルイノベーション	社会課題をビジネスの枠組で解決するソーシャルイノベーション
第8回	デザイン思考とイノベーション	イノベーション活動におけるデザインの意義と重要性
第9回	ゲスト講師	ゲスト講師による特定のトピックに関する講演
第10回	シェアリングエコノミー	所有から使用へと変化する消費活動の実態
第11回	人工知能とロボット共生社会	人工知能およびロボットと人間社会の関係について考える
第12回	暗号通貨と金融市場	暗号通貨の歴史と金融市場に与える影響
第13回	モビリティ革命：CASEとMaaS	自動車産業における Connected, Autonomous, Shared, Electric をベースとしたサービス化
第14回	総括	社会イノベーション論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ビジネス関連の新聞・雑誌・書籍等に日頃から目を向けることを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げるようにします。

【その他の重要事項】

前期の社会・イノベーション論Iを受講していることが望ましいです。

【Outline and objectives】

This lecture aims to cultivate your understanding of innovation, which providing new values to society. In the second semester, we focus on 1)policy and innovation, 2)practice of innovation, and 3) new technologies and social values.

SOC300EC

社会学史 I

徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに19世紀から20世紀前半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な古典的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解できるようになり、さらに「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はオンデマンド方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	西洋近代の歴史と社会学の問題意識	西洋近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	古典的近代の主要な社会学者たち	19世紀から20世紀前半の主要な社会学者や学派を知る
3	マルクス(1)	史的唯物論、階級構造と階級闘争
4	マルクス(2)	疎外、使用価値と交換価値
5	ヴェーバー(1)	合理化、合理性の諸類型
6	ヴェーバー(2)	資本主義の精神、鉄の檻
7	ヴェーバー(3)	支配の諸類型、官僚制
8	デュルケム(1)	分業、機械的連帯と有機的連帯
9	デュルケム(2)	自殺の諸類型、近代社会と自殺
10	デュルケム(3)	聖と俗、集合的沸騰
11	ジンメル(1)	社会化の形式、社会圏
12	ジンメル(2)	支配と従属の諸類型
13	ジンメル(3)	宗教の機能分化、宗教と社会の類似性
14	まとめ	扱った主要な社会学者の理論の共通の問題意識をふり返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う社会学者の原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、授業の前後に概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ドン・マーチンデール『現代社会学の系譜』未來社
ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
新陸人（編）『社会学の歩み』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末試験は論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性の2つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容、授業での質疑や討論への参加によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる意義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。また授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】

We study the history of sociology, especially so-called "classic sociology" developed from 19th century to early 20th century. We focus especially on the social background of that time to understand the major sociological theories.

SOC300EC

社会学史Ⅱ

徳安 彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 20 世紀半ばから後半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な現代的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解できるようになり、さらに「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はオンデマンド方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。

この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	後期（高度）近代の歴史と社会学の問題意識	西洋の後期近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	後期（高度）近代の主要な社会学者たち	20 世紀半ばから後半の主要な社会学者や学派を知る
3	ミード	I と me、一般化された他者、役割
4	シュッツ	日常生活世界、間主観性、多面的現実
5	バーガー／ルックマン	社会的世界の複数か、聖なる天蓋
6	ガーフィンケル	エスノメソドロジー、違背実験
7	ゴッフマン	ドラマトウルギー、印象操作
8	パーソンズ	ダブル・コンティンジェンシー、社会進化
9	ルーマン	ダブル・コンティンジェンシー、社会分化
10	ハーバーマス	コミュニケーションの行為
11	ギデンズ	モダニティ
12	フーコー	規律化、主体、生権力
13	ブルデュー	文化資本、再生産
14	ベック	リスク社会、個人化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、各自で事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
 那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
 新睦人（編）『社会学のあゆみ パート2』有斐閣
 新睦人（編）『新しい社会学のあゆみ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末試験は論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性的の 2 つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容、授業での質疑や討論への参加によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。また授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline and objectives】

We study the history of sociology, especially so-called "modern and late modern sociology" developed since the middle of 20th century. We focus especially on the social background of that time to understand the major sociological theories.

SOC300EC

社会学総合特講 A

多喜 弘文

サブタイトル：社会学総合特講 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代日本社会のしくみとその時代変化について、様々なデータを参照しつつ社会的に考えていく。

【到達目標】

日本社会における学校教育、就職、職業的キャリアはどのような仕組みをもち、どのように変化したのかを構造的に理解する。現在の社会の仕組みをそれぞれの制度が相互に支えあっていて、人びとがそれをそれなりに妥当なものとして受け入れている側面があることをイメージできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的にはパワーポイントを用いて講義形式でおこなう。提出物に対しては、授業時に全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要、講義の進め方、評価の方法など
2	現代日本社会の仕組み①	1970年代から現在までの日本社会の大まかな変化を捉える
3	現代日本社会の仕組み②	1970年代から現在までの日本社会の大まかな変化を捉える
4	大衆教育社会日本	誰もが教育に価値を置く社会としての日本
5	大衆教育社会日本を支えていた仕組み	なぜ多くの人が教育に価値を置いていたのか
6	大衆教育社会から学歴分断社会へ	大学に行く人と行かない人の「学歴分断線」
7	短期高等教育の存在感	短大と専門学校、地位達成志向と自己実現志向
8	日本社会における就職	就職と就社、職務のない雇用契約、新卒一括採用
9	日本社会における職業キャリア	ジョブ型とメンバーシップ型、日本的雇用慣行
10	日本社会における職業キャリアの不安定化	1990年代以降の変化
11	日本社会における家族形成	男性稼ぎ主モデルとその変化
12	日本はどのように日本的か	他国との比較
13	格差の正当化と日本の特徴	どのように格差は正当化されているのか
14	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。指定された文献を事前に読んでおくことを要求することがある。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

苅谷剛彦、1995、『大衆教育社会のゆくえ——学歴主義と平等神話の戦後史』中公新書。

濱口桂一郎、2009、『新しい労働社会』岩波新書。

濱口桂一郎、2015、『働く女子の運命』文春新書。吉川徹、2018、『日本の分断』光文社。小熊英二、2019、『日本社会のしくみ』講談社現代新書。その他、文献は適宜授業内に指示する

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーなど）25%、試験 75%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This class aims to develop a basic understanding of the sociological tradition to think about Japanese society and its change. Sessions will blend lecturing and small group discussion.

SOC300EC

社会学総合特講 B

齋藤 友里子

サブタイトル：社会学総合特講 II

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の枠組みを中心として、社会心理学や人類学の知見も援用しつつ、「われわれが自分をどう捉えるか」が、他者との関係性や排除・包摂の問題にどう関わるのかを考える。

【到達目標】

他者の存在を前提として成立する自己の概念化が包摂と排除にもつ意味を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにより予め配布した教材（講義の音声ファイルとPDF資料）を授業当日までに学習し、授業当日はディスカッション（フィードバックを含む）を中心に進める。授業計画は授業の展開により若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらいとすすめかた
2	近代化と個人（1）	分業の進展と連帯
3	近代化と個人（2）	集団の拡大が意味するもの
4	近代化と個人（3）	「その前」となにか違うのか
5	近代化と個人（4）	アイデンティティという問題
6	「居場所」の問題（1）	自己と共同体
7	「居場所」の問題（2）	アイデンティティと共同性
8	「居場所」の問題（3）	アイデンティティと認識
9	「居場所」の問題（4）	アイデンティティとカテゴリー
10	境界の問題（1）	境界の形成と維持
11	境界の問題（2）	境界と近代（境界維持の具体的プロセス）
12	境界の問題（3）	カテゴリーへの包摂と排除
13	「われわれ」と「彼ら」 （1）	カテゴリーと異質性
14	「われわれ」と「彼ら」 （2）	「境界」を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する教材を用いて予・復習すると共に、関連文献を読んで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

試験（90%）と簡単な課題提出（10%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムにテキストファイルを掲出すると展開できないケースが散見されるので、資料はPDF化して配布する。

【Outline and objectives】

This course provides students an opportunity to learn and think about the relation between the process of self-definition and social inclusion-exclusion.

SOC100EC

社会学入門 A

徳安 彰、兼子 諭

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の基本概念のいくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを理解する。

【到達目標】

社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して社会的な思考法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はオンデマンド方式で行う。状況に応じて、授業方式は変更になる可能性がある。

この講義は、これから大学で社会学を学ぼうとする学生のための「入門」科目として設定されている。「社会学はとらえどころがない」、「どうやって勉強していけばよいかかわからない」という声をしばしば耳にする。確かにこの学問は、その対象領域も多様で、理論的にも複数の立場に拡散している。しかし、社会学を研究する者が身につけておくべきベーシックな考え方は確かにある。そして、これをつかみとるためのひとつの方法は、社会学に固有の「言葉」を学ぶことである。言葉には、これを使う人々（社会学者たち）の考え方がしみこんでいる。その意味を学び、用法に触れ、これを使ってみて、自分自身の言葉のうちにとりこんでいくことによって、社会的な思考への第一歩を踏み出すことができるはずである。そこでこの講義では、毎回1つ（または2つ）の「社会学の基礎概念」をとりあげ、これを中心に、社会的に考え、記述し、分析するスタイルを提示していく。その目的は、単に基本的な語彙を学ぶだけでなく、その応用を通じて、学生個々人が自分の社会学を始めるための手がかりを提供することにある。授業の進め方としては、前半を兼子諭が、後半を徳安彰が担当する。講義テーマの順番には変更がありうる。各回の授業については、リアクションペーパー（オンライン）および授業内掲示板によって感想や質問を受けつけ、次週までに担当教員およびTAが回答し、試験準備に資するようにする。試験については事後に授業内掲示板で講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	徳安担当	ガイダンス
第2回	兼子担当第1回	教育と学歴
第3回	兼子担当第2回	権力
第4回	兼子担当第3回	影響力
第5回	兼子担当第4回	リスク
第6回	兼子担当第5回	病気と社会
第7回	兼子担当第6回	市民社会と公共圏
第8回	試験	前半6回分についての試験
第9回	徳安担当第1回	アイデンティティ
第10回	徳安担当第2回	包摂と排除
第11回	徳安担当第3回	親密性
第12回	徳安担当第4回	役割
第13回	徳安担当第5回	社会的機能
第14回	徳安担当第6回	世俗化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のキーワードについて、関連の文献を読んで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

初回のガイダンスでリストを提示する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に1回、期末に1回の試験を行い、その評価を合計して成績をつける。単位を修得するためには、必ず2回の試験を受けなければならない。前半6回分の試験を50%、後半6回分の試験を50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する個々の学生の理解を、その都度リアクション・ペーパー等によって確認する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業を「社会学入門B」とあわせて履修することによって、より多くの領域をカバーできるようにしておくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to provide you an opportunity to know the essence of sociological thinking and introduce its way to approach and grasp social phenomena with some basic sociological concepts.

SOC100EC

社会学入門A

徳安 彰、兼子 諭

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の基本概念のいくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを理解する。

【到達目標】

社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して社会学的な思考法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はオンデマンド方式で行う。状況に応じて、授業方式は変更になる可能性がある。

この講義は、これから大学で社会学を学ぼうとする学生のための「入門」科目として設定されている。「社会学はとらえどころがない」、「どうやって勉強していけばよいかかわからない」という声をしばしば耳にする。確かにこの学問は、その対象領域も多様で、理論的にも複数の立場に拡散している。しかし、社会学を研究する者が身につけておくべきベーシックな考え方は確かにある。そして、これをつかみとるためのひとつの方法は、社会学に固有の「言葉」を学ぶことである。言葉には、これを使う人々（社会学者たち）の考え方がしみこんでいる。その意味を学び、用法に触れ、これを使ってみて、自分自身の言葉のうちにとりこんでいくことによって、社会学的な思考への第一歩を踏み出すことができるはずである。そこでこの講義では、毎回1つ（または2つ）の「社会学の基礎概念」をとりあげ、これを中心に、社会学的に考え、記述し、分析するスタイルを提示していく。その目的は、単に基本的な語彙を学ぶだけでなく、その応用を通じて、学生個人が自分の社会学を始めるための手がかりを提供することにある。授業の進め方としては、前半を佐藤成基が、後半を徳安彰が担当する。講義テーマの順番には変更がありうる。各回の授業については、リアクションペーパー（オンライン）および授業内掲示板によって感想や質問を受けつけ、次週までに担当教員およびTAが回答し、試験準備に資するようにする。試験については事後に授業内掲示板で講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	徳安・兼子担当第1回	ガイダンス／教育と学歴
第2回	兼子担当第2回	権力
第3回	兼子担当第3回	影響力
第4回	兼子担当第4回	リスク
第5回	兼子担当第5回	病気と社会
第6回	兼子担当第6回	市民社会と公共圏
第7回	試験	前半6回分についての試験
第8回	コースガイダンス	社会学入門をもとにより専門的な学修に進むためのガイダンス
第9回	徳安担当第1回	アイデンティティ
第10回	徳安担当第2回	包摂と排除
第11回	徳安担当第3回	親密性
第12回	徳安担当第4回	役割
第13回	徳安担当第5回	社会的機能
第14回	徳安担当第6回	世俗化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のキーワードについて、関連の文献を読んで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

初回のガイダンスでリストを提示する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に1回、期末に1回の試験を行い、その評価を合計して成績をつける。単位を修得するためには、必ず2回の試験を受けなければならない。前半6回分の試験を50%、後半6回分の試験を50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する個々の学生の理解を、その都度リアクション・ペーパー等によって確認する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業を「社会学入門B」とあわせて履修することによって、より多くの領域をカバーできるようにしておくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to provide you an opportunity to know the essence of sociological thinking and introduce its way to approach and grasp social phenomena with some basic sociological concepts.

SOC100EC

社会学入門B

齋藤 友里子、鈴木 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の基本概念のいくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを考える。

【到達目標】

社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して、社会的な思考法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DP1についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この講義は、これから大学で社会学を学ぼうとする学生のための「入門」科目として設定されている。「社会学はとらえどころがない」、「どうやって勉強していけばよいかわからない」という声をしばしば耳にする。確かにこの学問は、その対象領域も多様で、理論的にも複数の立場に拡散している。しかし、社会学を研究する者が身につけておくべきベーシックな考え方は確かにある。そして、これをつかみとるためのひとつの方法は、社会学の固有の「言葉」を学ぶことである。言葉には、これを使う人々（社会学者たち）の考え方がしみこんでいる。その意味を学び、用法に触れ、これを使ってみて、自分自身の言葉のうちにとりこんでいくことによって、社会的な思考への第一歩を踏み出すことができるはずである。

そこでこの講義では、毎回1つ（または2つ）の「社会学の基礎概念」をとりあげ、これを中心に、社会的に考え、記述し、分析するスタイルを提示していく。その目的は、単に基本的な語彙を学ぶだけでなく、その応用を通じて、学生個々が自分の社会学を始めるための手がかりを提供することにある。

授業の進め方としては、前半を鈴木智之が、後半を齋藤友里子が担当する。講義テーマの順番には変更がありうる。講義時に受けつけた授業内容に関する質問に対する回答を教材として活用する形でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	鈴木担当	ガイダンス
2	鈴木担当第1回	アノミー
3	鈴木担当第2回	秘密（社会化の形式としての）
4	鈴木担当第3回	純粋関係
5	鈴木担当第4回	ラベリング
6	鈴木担当第5回	スティグマ
7	鈴木担当第6回	感情労働
8	試験	試験・まとめと解説
9	齋藤担当第1回	予言の自己成就
10	齋藤担当第2回	秩序問題
11	齋藤担当第3回	交換と互酬性
12	齋藤担当第4回	信頼
13	齋藤担当第5回	一般化された他者
14	齋藤担当第6回	相互行為儀礼

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のキーワードについて、関連文献を読んで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に1回、期末に1回の試験を行い、その評価を合計して成績をつける。単位を修得するためには、必ず2回の試験を受けなければならない。前半6回分の試験を50%、後半6回分の試験を50%として評価する。試験の実施方法については授業中に指示するとともに、「学習支援システム」に掲載するので、各自確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する個々の学生の理解を、その都度、確認する。

【その他の重要事項】

この授業を「社会学入門A」とあわせて履修することによって、より多くの領域をカバーできるようにしておくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to provide you an opportunity to know the essence of sociological thinking and introduce its way to approach and grasp social phenomena with some basic sociological concepts.

SOC100EC

社会学入門B

齋藤 友里子、鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の基本概念のいくつかを学習することを通して、「社会学という学問」の考え方に触れ、社会現象を理論的に把握するとはどういうことかを考える。

【到達目標】

社会学における基礎的な概念を、現実的な問題と関連付けながら理解する。それを通して、社会的な思考法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この講義は、これから大学で社会学を学ぼうとする学生のための「入門」科目として設定されている。「社会学はとらえどころがない」、「どうやって勉強していけばよいかわからない」という声をしばしば耳にする。確かにこの学問は、その対象領域も多様で、理論的にも複数の立場に拡散している。しかし、社会学を研究する者が身につけておくべきベーシックな考え方は確かにある。そして、これをつかみとるためのひとつの方法は、社会学の固有の「言葉」を学ぶことである。言葉には、これを使う人々（社会学者たち）の考え方がしみこんでいる。その意味を学び、用法に触れ、これを使ってみて、自分自身の言葉のうちにとりこんでいくことによって、社会的な思考への第一歩を踏み出すことができるはずである。

そこでこの講義では、毎回1つ（または2つ）の「社会学の基礎概念」をとりあげ、これを中心に、社会的に考え、記述し、分析するスタイルを提示していく。その目的は、単に基本的な語彙を学ぶだけでなく、その応用を通じて、学生個々が自分の社会学を始めるための手がかりを提供することにある。

授業の進め方としては、前半を鈴木智之が、後半を齋藤友里子が担当する。講義テーマの順番には変更がありうる。講義時に受けつけた授業内容に関する質問に対する回答を教材として活用する形でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	鈴木担当第1回	アノミー
2	鈴木担当第2回	秘密（社会化の形式としての）
3	鈴木担当第3回	純粋関係
4	鈴木担当第4回	ラベリング
5	鈴木担当第5回	スティグマ
6	鈴木担当第6回	感情労働
7	試験	試験・まとめと解説
8	齋藤担当第1回	予言の自己成就
9	齋藤担当第2回	秩序問題
10	齋藤担当第3回	交換と互酬性
11	齋藤担当第4回	信頼
12	齋藤担当第5回	一般化された他者
13	齋藤担当第6回	相互行為儀礼
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義のキーワードについて、関連文献を読んで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に1回、期末に1回の試験を行い、その評価を合計して成績をつける。単位を修得するためには、必ず2回の試験を受けなければならない。前半6回分の試験を50%、後半6回分の試験を50%として評価する。試験の実施方法については授業中に指示するとともに、「学習支援システム」に掲載するので、各自確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に対する個々の学生の理解を、その都度、確認する。

【その他の重要事項】

この授業を「社会学入門A」とあわせて履修することによって、より多くの領域をカバーできるようにしておくことを推奨する。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to provide you an opportunity to know the essence of sociological thinking and introduce its way to approach and grasp social phenomena with some basic sociological concepts.

SOC100EC

社会学への招待

武田 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学とはいかなる学問領域かということを探求しながら、専門学習に向けて自らの問題関心を醸成することを目的とする。

【到達目標】

社会学という学問領域の特徴・特性を学び、専門学習のための手がかりをつかむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回オムニバス形式で、社会学を専門とする先生方が、それぞれの専門分野をベースに、いま一番おもしろいと感じている研究テーマや研究方法等について講義する。社会学という学問は、何を対象とするかというより、対象に対して向ける視線や姿勢、切り口にこそその特質がある。各先生方の講義を聴くことで、社会学の多様性と同時に、そこに一貫して流れるこの学問のもつ特質・特徴について考えていく。

なお、毎回授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。授業計画は下記の通り（但し、若干の変更可能性あり）。リアクションペーパーについては、各回の担当教員がそれぞれの方法でフィードバックを行う。オンデマンドでの講義を予定している。ただし感染状況に応じて変更もありうるので、学習支援システムの指示に注意すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本科目の概要説明
2	我問う、ゆえに我あり：大学への招待、社会学への入門	堀川三郎先生の講義
3	国際移住の社会学を考える	田嶋淳子先生の講義
4	気候危機とパンデミックの社会学	池田寛二先生の講義
5	地域文化の社会学	武田俊輔の講義
6	学力の不平等を考える	多喜弘文先生の講義
7	社会心理学のまなざし	土倉英志先生の講義
8	家族社会学への招待	菊澤佐江子先生の講義
9	相互理解とはどのようなことか	徳安彰先生の講義
10	近代社会の光と影	鈴木宗徳先生の講義
11	〈歴史〉から問う社会学	鈴木智道先生の講義
12	「ただしさ」を社会学してみよう	斎藤友里子先生の講義
13	記憶と語りの社会学	鈴木智之先生の講義
14	まとめ	各講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業で紹介のあった文献等を読み、授業内容についての理解を深め、発展させる。本授業の復習時間は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

【武田俊輔】武田俊輔, 2019, 『コモズとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社

【鈴木宗徳先生】豊泉周治・鈴木宗徳・伊藤賢一・出口剛司, 2014, 『(私)をひらく社会学—若者のための社会学入門』大月書店

【成績評価の方法と基準】

試験(70%)と平常点(リアクションペーパー等)(30%)で評価する。ただし試験については感染状況に応じて変更もありうるので、学習支援システムの指示に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

This course introduces the nature of sociology to students taking this course.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 A I

鈴木 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「相互作用秩序」の社会学。「相互作用論（interactionism）」の考え方に基いて、日々の社会的現実の成り立ちを社会的に記述・分析するための概念、視点、方法論を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

私たちが日々を経験している社会生活の秩序は、私たちが他者の視点を取りこみつつ、相互的な関与を継続することによって成立している。この「相互作用秩序」の成り立ち方（成り立たせ方）を概念的に対象化する方法を身に付け、これを通じて、日常生活の秩序が破綻する場面（トラブル）の記述を可能にする。と同時に、社会秩序に対する「違和感・不全感」の理由を言語化できるようにすることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回配布する「教材」によって講義を進める。リアクションペーパーの提出は毎回求めるが、これは成績評価につながるものではない。リアクションペーパーから選別して、次週の講義資料において回答する。当面のあいだ、オンラインで「テキスト教材」を提示することによって、講義を行う。毎週、月曜日の昼までに、その週の「教材」を学習支援システムにアップするので、その日の内に確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	相互作用論とは何か？
第2回	相互作用論の理論的基礎(1)	G.H. ミード『精神・自我・社会』から
第3回	相互作用論の理論的基礎(2)	対面的相互行為をめぐる E. ゴフマンの視点
第4回	相互作用論の理論的基礎(3)	「規範」と「秩序」をめぐる相互作用論的視点
第5回	相互作用論の理論的基礎(4)	「レリヴァンス」と「フレーム」
第6回	相互作用秩序とそのトラブル(1)	焦点の定まらない相互作用空間としての「社会空間」
第7回	相互作用秩序とそのトラブル(2)	電車の中で席を譲ることがどうしてこれほど難しいのか？
第8回	相互作用秩序とそのトラブル(3)	トラブルを報告する
第9回	相互作用秩序とそのトラブル(4)	「アラーム」の出現
第10回	「心」の相互作用秩序(1)	感情の社会的構成
第11回	「心」の相互作用秩序(2)	コミュニケーションの要素としての「動機」
第12回	「心」の相互作用秩序(3)	「モーティヴ・トーク」の社会学
第13回	「心」の相互作用秩序(4)	動機の語彙と「心の闇」
第14回	相互作用と心の秩序	春学期の講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介された参考書を各自で読みこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

章柳千早 2015 『日常の最前線としての身体』世界思想社
中河伸俊・渡辺克典（編）2015 『触発するゴフマン』新曜社。
鈴木智之、2014 『心の闇』と動機の語彙』青弓社。
など。他は授業の進行に合わせてその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席はとりません。学期末の「試験」のみを評価の対象とします（100%）。ただし、コロナウィルスの感染状況によって、教室での「試験」が行えない可能性があります。その場合には、採点・評価の方法は変更するかもしれません。「学習支援システム」に提示する情報をよく注意しておいてください。

【学生の意見等からの気づき】

講義そのものが、私とあなたとの相互作用の場面です。リモート環境であっても、相互作用秩序の形成を協働的に達成することが求められています。お互いに、この「場」を大事にして、日々の実践を積み重ねましょう。

【Outline and objectives】

The educational aims of this lecture are to understand the theoretical frames of interactionist sociology and to demonstrate knowledges and analysis of the everyday-life situations.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 A II

鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ハビトゥス」と「ナラティヴ」という二つの概念を軸に、「社会的存在」としての「個人」の成り立ちについて考える

【到達目標】

「私」という存在は、社会生活の累積の中で作られていく、複雑な社会的構成体である。「私」はなぜ今あるような「私」なのか。「私」が「私」であろうとすることが、どのような社会の成り立ちに結びついているのか。これを概念的に分析し、言語化できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回配布するレジュメに沿って講義を進める。

リアクションペーパーの提出を求めるが、これは成績評価につながるものではない。

リアクションペーパーからいくつかを選択し、次週の講義において回答する。（コロナウィルスの感染状況によっては、教室での対面授業は行わず、学習支援システムでの資料配信による講義となる可能性がある）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「個人存在」の社会学という視点
第 2 回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（1）	デュルケム社会学における「個人」
第 3 回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（2）	G.H. ミードの「社会的自己」論
第 4 回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（3）	M. アルヴァックスの「記憶の社会的枠組み」論
第 5 回	「ハビトゥス」の理論（1）	社会的なるものの身体化
第 6 回	「ハビトゥス」の理論（2）	身体化された文化と不平等の再生産
第 7 回	「ハビトゥス」の理論（3）	感覚の社会的依存性
第 8 回	「ハビトゥス」の理論（4）	複数のハビトゥス
第 9 回	物語としての自己（1）	認知と判断の形式としてのナラティヴ
第 10 回	物語としての自己（2）	再帰的な語りと自己の構築
第 11 回	物語としての自己（3）	病いの語り
第 12 回	物語としての自己（4）	自己物語の困難
第 13 回	ハビトゥスとナラティヴ（1）	ハビトゥスをめぐる語り
第 14 回	ハビトゥスとナラティヴ（2）	ナラティヴ・ハビトゥス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義によって提起された問いを、自分自身の現実に適用して、「私」という存在の成り立ちについて考える。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。レジュメを配布する予定。

【参考書】

B. ライール『複数の人間』法政大学出版局、2013 年

A.W. フランク『傷ついた物語の語り手 身体・病い・倫理』ゆみる出版、2002 年
他は随時指示する

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

よく「先生、単位下さい」という学生さんがいますが、「単位」は「あげる／もらう」ものではありません、「取得する」ものです。教員の役割は学生が単位を「取る」ために超えなければならない「ハードル（障害）」を設定することだと思っています。これを超えて（つまり、いやというほど勉強して）この科目の単位を取りに来てください。

【その他の重要事項】

講義内容の構成は、学生のリアクションや、新しいテキストなどとの出会いによって、変更される場合があります。

【Outline and objectives】

The aims of this lecture are to understand the theoretical frames of sociology of the self, and to demonstrate knowledges and analysis on concrete situations.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 B I

穂山 新

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国家 (state)」という社会制度についての社会的な説明・分析のアプローチについて学ぶ。マックス・ウェーバー以来、社会学が「国家」をどう論じてきたのかを、様々な論者の所説を紹介しながら解説していく。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちが、どのような関係にあるのかについて、社会的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回提出されるリアクション・ペーパーへの返答にも時間を割く。また、理解をチェックするための小テストを行う（ただし評価の対象外）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の概要や目的について
2	国家とは何か： その能力と作用	一定の領域を統治する政治組織としての国家の固有な能力について
3	国家と暴力（1）： 正当な暴力行使の独占	「正当な暴力行使の独占」というウェーバーの国家概念について
4	国家と暴力（2）： 国家と「文明化」	エリアスの「文明化」の過程について
5	国家と暴力（3）： 国家の暴力行使	ルーマンの権力論とアガンベンの「例外状態」論について
6	国家と官僚制（1）： ウェーバーの官僚制論	ウェーバーの官僚制概念について
7	国家と官僚制（2）： 官僚制の機能と逆機能	官僚制の機能と逆機能について
8	国家と戦争（1）： 国家形成における軍事・財政的要因	ティリーの国家論について
9	国家と戦争（2）： 間接統治から直接統治へ	ティリーの国家論について
10	国家と正当性（1）： 「象徴暴力」と「公共」性	ブルデューの「象徴暴力」概念について
11	国家と正当性（2）： 官僚制的公共性	ブルデューの国家形成論について
12	国家と社会（1）： 国家の民政化	国家の「民政化」について
13	国家と社会（2）： 社会の「国家帰属化」	マンのインフラストラクチャーの権力について
14	国家と情報管理： 国家と統計（学）	公式統計と国勢調査の歴史について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社、2014 年）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーに書かれた学生の疑問・質問から、授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【Outline and objectives】

In this course we will study different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 B II

穂山 新

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学理論 B I に引き続き「国家 (state)」という社会制度についての社会的な説明・分析のアプローチについて学ぶ。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちが、どのような関係にあるのかについて、社会的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回提出されるリアクション・ペーパーへの返答にも時間を割く。また、理解をチェックするための小テストを行う（ただし評価の対象外）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期の B I での講義の内容の復習。
2	国家とナショナリズム（1）： ナショナリズムの発生	近代主義と反近代主義のアプローチについて
3	国家とナショナリズム（2）： 国家論的アプローチ	ナショナリズムに関する国家論的アプローチについて
4	国家とナショナリズム（3）： ナショナリズムの「民族化」	ナショナリズムの「民族化」について
5	国家と資本主義： 国家と資本主義経済	国家と資本主義経済の発展に果たした役割について
6	国家と民主主義（1）： アメリカ政治学理論	第二次大戦後アメリカ政治学を代表するダール、イーストンの政治理論が国家をどう捉えていたのかを解説する。
7	国家と民主主義（2）： 民主主義にとっての国家	ティリーの民主主義論について
8	国家の社会福祉（1）： 福祉国家の発生	福祉国家の発生について
9	国家と社会福祉（2）： 福祉国家の「危機」	現代福祉国家の「危機」について
10	国家と社会福祉（3）： 福祉国家の多様性	エスピノー・アンデルセンの比較福祉国家論について
11	国家のグローバル化： 世界社会と国家	新制度主義について
12	国家の「崩壊」： アフリカからの視点	アフリカの新家産制国家論について
13	国民国家とグローバル化： 「衰退」か「復権」か	グローバル化と国民国家の変容について
14	国民国家の現在： 国家の機能不全と右翼ポピュリズム	現代の国民国家と右翼ポピュリズムの台頭について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社、2014 年）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーに書かれた学生の疑問・質問から、授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【その他の重要事項】

前期に開講される同一担当教員の社会学理論 B I を受講することを強く推奨する。社会学理論 B II は B I の内容を前提にして進められる。

【Outline and objectives】

In this course we will study different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions.

EDU200EC

社会教育概論 I

荒井 容子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

成人の学習とそれを支える社会教育実践に関わるさまざまな事例や考え方について、受講生同士の集団討議という、すぐれた社会教育実践における学習方法の一端を実体験しながら、人々の学習とそれを支える社会教育実践についての理解を深めていく。

【到達目標】

人々の学習・学習運動とそれを支える社会教育実践の実際について知り、そのあり方について深く考える力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

多様な実践事例、学習・実践に関する批判的理論、また社会教育職員という実践者からの見方などを紹介する。

講義期間中、各自に何らかの社会教育事業に参加して課題2を提出してもらい、講義最終日に、簡単な報告レポートをもって報告してもらおう（参加の課題は若干修正する場合がある）。

毎回課す宿題と講義後の感想・意見への応答は必要に応じて講義中に行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

全学行動制限レベル「0」になるまでは、オンラインによるバーチャル教室を使用して授業をすすめる。各回の授業計画の変更はその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1ラウンド 社会教育のイメージ	「社会教育のイメージ」について－バズ・セッションと概念説明－
2	第1ラウンド 社会教育のイメージ	日本の社会教育活動事例の紹介
3	第1ラウンド 社会教育のイメージ	社会教育のイメージについてのバズセッション
4	第2ラウンド 「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどのようなことか 1
5	第2ラウンド 「成人の学習」をどう考えるか	「学ぶ」とはどのようなことか 2
6	第3ラウンド 成人識字教育の実践と理論に学ぶ	成人の識字・非識字について 貧困と識字
7	第3ラウンド 成人識字教育の実践と理論に学ぶ	パウロ・フレイレの識字教育実践と理論 貧困・支配の中での学習の課題と方法
8	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	生活記録運動とその後の「書く」学習の展開
9	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史1
10	第4ラウンド 日本における社会教育実践の蓄積	公害と戦う学習運動の歴史2
11	第5ラウンド 社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例1
12	第5ラウンド 社会教育職員による社会教育実践事例	社会教育職員の実践史、実践事例2
13	第6ラウンド 現代の社会教育実践・社会教育運動	現代社会教育政策・成人教育政策の矛盾（生涯学習論の矛盾・学習権宣言ほか）
14	第6ラウンド 現代の社会教育実践・社会教育運動	社会教育事業参加 報告会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前に宿題を提出してもらう。宿題の中には、オンラインで提供するビデオ鑑賞したうえで書いてもらうものもある。宿題として提出したものは手元で見ることができるようにしておき、講義当日はそれをもとにバズセッション（グループ討議）を行う。グループ討議の内容はその場で担当者が記録し、記録者はそれをもとに、直後に行う全体の場で報告する。このグループ討議の記録は担当者が講義後に、学習支援システムを通じて提出してもらう。講義の感想や討議をへての追加の意見等、感想・意見は講義後に学習支援システムを通じて提出してもらう。従って、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】

社会教育全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所（第7版）2005年、（第8版）2011年、（第9版）2017年。

【成績評価の方法と基準】

社会教育事業参加レポート（課題2）の提出、報告会に参加しての報告、最終レポート（課題1）の提出の三つは単位習得の必須条件となる。評価は上記三つのうち二者で40%、後一者で60%とする。他に講義中に行うグループ討議前後等の感想文は最終レポートの課題と関わる可能性が高いので、積極的に取り組んでおくことを推奨する。

【学生の意見等からの気づき】

「感想・意見メモ」は熟考する機会として配布していること、次週までは提出することを認めていること、この授業では評価の対象にしていなかったことをさらに周知する必要がある。また、返却方法への不満に対応するには物理的に無理があることを伝えた上で、学生たちに返却の必要の有無を尋ねておく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to gain understanding of people's learning and social education that support it. Students will discuss about each cases and ideas in "buzz sessions" (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

EDU300EC

社会教育概論Ⅱ

荒井 容子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会教育・成人教育の歴史を、人々の学習運動と公権力による社会教育政策（法制度及び教育活動）の推進という二つの方向からとらえ、その関係について、史実をもとに考えていく。

【到達目標】

人々の学習運動と公権力による社会教育政策それぞれの展開と、「社会教育」をめぐる相互の展開についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

日本の社会教育史について講義したのち、他の国々の成人教育史について概観し、最後に、国際的な成人教育運動について紹介する。講義内容については毎回バズ・セッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）を行い、理解を深める。

毎回宿題、講義の感想・意見の提出を課すが、これについては講義時に必要に応じて講義時に応答する。課題については、最後の講義日に相互に検討する報告会を行なう。

全学行動制限レベル「0」になるまでは、オンラインによるバーチャル教室を使用して授業をすすめる。各回の授業計画の変更はその都度、学習支援システムに提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会教育・成人教育の歴史の概要	社会教育・成人教育の歴史をどう把握するか
2	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以前	近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 1
3	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以前	①近代化政策と自由民権運動の中での学習運動 2 ビデオ鑑賞（宿題）をもとに ②「通俗教育」政策の展開
4	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以前	「社会教育」制度化と民衆の自己教育運動の展開（労働学校運動、自由大学運動）
5	第1ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以前	社会教育制度の完成と崩壊
6	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以後	戦後社会教育法制度の新たな建設と統制政策の復活・自己教育運動の再展開
7	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以後	社会教育「民主化」運動と多様な自己教育運動・社会教育運動の展開 - 「学習権」「権利としての社会教育」と住民参加の展開
8	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以後	自治体社会教育行政の蛇行-行政「合理化」政策と「生涯学習」政策の登場
9	第2ラウンド 日本の社会教育政策・運動の歴史-第二次世界大戦以後	社会教育政策の後退・変質と社会教育を求める住民・職員の新たな運動
10	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	英国、スカンジナビア諸国、北アメリカ、ラテンアメリカでの成人教育運動
11	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	抑圧に対する抵抗としての文化運動 軍事政権下時代のチリ（ラテンアメリカ）での民衆文化運動
12	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	成人教育運動の国際的ネットワークの展開
13	第3ラウンド 世界の成人教育史・運動史	社会変革における学習運動・成人教育運動の力 シリアでの青年たちによる「秘密」図書館づくり
14	第4ラウンド 総括討論会	社会教育・成人教育の歴史から、その今後あり方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前に宿題を提出してもらおう。宿題の中には、オンラインで提供するビデオ鑑賞したうえで書いてもらうものもある。宿題として提出したものは手元で見ることができるようにしておき、講義当日はそれをもとにバズセッション（グループ討議）を行う。グループ討議の内容はその場で担当者が記録し、記録者はそれをもとに、直後に行く全体の場で報告するが、このグループ討議の記録は担当者が講義後に、学習支援システムを通じて提出してもらう。講義の感想や討議をへての追加の意見等、感想・意見は講義後に学習支援システムを通じて提出してもらう。従って、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義時に、適宜、講義内容に合わせた資料を提示する。

【参考書】

藤田秀雄、大串隆吉編『日本社会教育史』エイデル研究所 1984年12月。
千野陽一監修『現代日本の社会教育』エイデル研究所 2015年9月。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート（課題・期限は講義内で提示）を60%、講義内で適宜課す「宿題」と「感想・意見メモ」等は40%で評価する。最終レポートの課題は通常、講義を受講していなければ執筆できない内容になるので積極的に講義に参加して欲しい。また講義最終回では、最終レポートをもとにしたバズ・セッションを行う。このバズ・セッションへの参加は単位取得のための必要条件となる。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料はすべて学習支援システムを通じて提供することにしたので、煩雑さをさけることができた。特に提供する資料が多い場合には、選択して宿題に回答できるように配慮したことで、学生への負担を軽減できた。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」のeメールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【Outline and objectives】

This course will review the history of social education in Japan and adult education in the other countries. Some cases of adult education movements and policies will be introduced. Students will discuss about them in “buzz sessions” (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

PHL200EA

社会思想史 I

明戸 隆浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパおよびアメリカにおける近代以降の社会思想の流れを、「社会哲学の方法」に焦点を当てて見ていきます。

【到達目標】

(1) 重要な社会思想家が示した社会哲学の方法を、それが生まれた時代や地域などに即して理解する。(2) (1) で見た社会哲学の方法を現代社会の具体的な問題に適用し、その射程を見極める。(3) (1) (2) を通して、これから現代社会を生きる上で土台となるような視点の獲得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回一人の思想家を取り上げ、(a) その人となりや社会的背景を解説した上で、(b) 原典の抜粋の講読を行い、(c) それが現代においてどう応用できるかを考えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(全体の流れを概説します)
2	ホブズ	絶対主権が秩序を守る
3	ロック	市民の同意による政府
4	ルソー	「一般意志」による政治
5	カント	よい／悪いは理性が決める
6	功利主義	よい／悪いは功利で決まる
7	リベラリズム	平等な社会のために
8	リパタリアニズム	自由が最高の価値である
9	共同体主義	社会の土台としてのコミュニティ
10	フェミニズム	差異としてのジェンダー
11	最終レポートに向けて	(最終レポートに向けてのガイダンスを行います)
12	グループディスカッション I	(テーマは実施の際に提示します)
13	グループディスカッション II	(テーマは実施の際に提示します)
14	最終ディスカッション	(最終レポートをもとにグループごとの意見交換を行います)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回関連文献を提示するので、各自の関心に沿って積極的に読み進めてください。授業内では授業で得た知識があれば答えられる簡単な課題に取り組みますが、そこに時間外に学習したことが反映できている場合、より高く評価します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定せず、毎回資料を配布します。

【参考書】

ジョナサン・ウルフ『政治哲学入門』（晃洋書房、2000年）
マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう——いまを生き延びるための哲学』（早川書房、2010年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回簡単な課題に取り組みます）：30/100点、期末レポート：70/100点

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業内課題については原則として授業時間内に行うことを想定していますが、じっくり取り組みたい場合は授業時間外も使えるようにする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

後期に開講される「社会思想史Ⅱ」の受講は必須ではありませんが、併せて受講することでこの講義についてもより知識を深めることができます。

【Outline and objectives】

This course aims to explore the development of modern social thought in the West focusing on the "method" of social philosophy.

PHL200EA

社会思想史Ⅱ

明戸 隆浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀後半以降のアメリカにおけるエスニシティや多文化主義の問題を、関連する社会思想を通して見ていきます。

【到達目標】

(1) 多文化社会アメリカにおいて展開されてきた社会思想を、それが生まれた文脈に即して理解する。(2) (1) で見た社会思想の射程を現代日本の具体的な問題に適用し、視野を広げる。(3) (1) (2) を通して、これから現代社会を生きる上で土台となるような視点の獲得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回一人の思想家を取り上げ、(a) その人となりや社会的背景を解説した上で、(b) 原典の抜粋の講読を行い、(c) それが現代の日本においてどう応用できるかを考えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	(全体の流れを概説します)
2	公民権運動	多文化社会アメリカの原点
3	ブラック・パワー	「ラディカルなマイノリティ」をどう理解するか
4	ニューヨーク知識人	ユダヤ系知識人がアメリカで歩んだ道
5	アファーマティブ・アクション	「平等」と「能力」の狭間で
6	ヘイトスピーチ	「表現の自由の国」アメリカの限界
7	多文化主義	90 年代アメリカにおけるエスニック問題の複雑化 (1)
8	ポリティカル・コレクトネス	90 年代アメリカにおけるエスニック問題の複雑化 (2)
9	9.11	ニューヨーク知識人からネオコンへ
10	トランプ以降	多文化社会アメリカはどこへ行くのか
11	最終レポートに向けて	(最終レポートに向けてのガイダンスを行います)
12	グループディスカッションⅠ	(テーマは実施の際に提示します)
13	グループディスカッションⅡ	(テーマは実施の際に提示します)
14	最終ディスカッション	(最終レポートをもとにグループごとの意見交換を行います)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回関連文献を提示するので、各自の関心に沿って積極的に読み進めてください。授業内では授業で得た知識があれば答えられる簡単な課題に取り組みますが、そこに時間外に学習したことが反映できている場合、より高く評価します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定せず、毎回資料を配布します。

【参考書】

南川文里『アメリカ多文化社会論——「多からなる一」の系譜と現在』（法律文化社、2016 年）
中山俊宏『アメリカン・イデオロギー——保守主義運動と政治的分断』（勁草書房、2013 年）
堀邦維『ニューヨーク知識人——ユダヤ的知性とアメリカ文化』（彩流社、2000 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回簡単な課題に取り組みます）：30/100 点、期末レポート：70/100 点

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業内課題については原則として授業時間内に行うことを想定していますが、じっくり取り組みたい場合は授業時間外も使えるようにする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

前期に開講される「社会思想史Ⅰ」の受講は必須ではありませんが、併せて受講することでこの講義についてもより知識を深めることができます。

【Outline and objectives】

This course aims to examine the problem of ethnicity and multiculturalism in the United States since the latter half of the 20th century from the perspective of social philosophy.

SOC200EC

社会心理学 I

土倉 英志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、他者や集団との関わりにおける人びとの認知、感情、行動を探究する学問である。本講義では、社会心理学の多様な研究テーマのうち、他者や社会的現象に関する認知、他者から受ける影響、他者との関係性にかかわるテーマをとりあげて、代表的な知見を解説する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する
- ・社会心理学の研究手法を理解する
- ・知見を批判的に読み解くスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・講義を中心に展開する。社会心理学の調査を体験したり、グループワークに取りくむ機会を設けたいと考えている。

・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会心理学とはどのような学問か
2	対人認知	他者のイメージはいかに作られるのか
3	社会的推論 1	出来事の原因をいかに推論するのか
4	社会的推論 2	推論に影響する要因は何か
5	社会的推論 3	推論はいかなるプロセスでなされるのか
6	態度と態度変化	価値観がどのように変わるのか
7	説得と態度変化	人を説得するにはどうしたらいいか
8	対人魅力と親密化過程	どのような人に魅力を感じるのか
9	社会的自己 1	自己とはいかなるものか
10	社会的自己 2	他者に自分をどのように見せるか
11	社会的影響	他者の存在からどう影響を受けるのか
12	援助行動	どうして他者に手を差し伸べないのか
13	寛容性	他者にやさしくあるとは
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容の理解に努め、次回の講義までに復習を行なう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。

【参考書】

- ・池田謙一他（2019）『社会心理学・補訂版』（New Liberal Arts Selection）. 有斐閣.
- ・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内外で実施する課題で評価する（100%）。課題には授業内で実施するテストやレポートが含まれる。
- ・日々の取り組みが重要となる。
- ・課題の詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・研究の方法論の理解をうながせるよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。

【Outline and objectives】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in social cognition, social impact, interpersonal relations, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology.

SOC300EC

社会心理学 II

土倉 英志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、他者や集団との関わりにおける人びとの認知、情動、行動を探究する学問である。本講義では、社会心理学の多様な研究テーマのうち、文化と心理の関連性、文化的道具論、制度アプローチ、ステレオタイプと偏見、現在の社会システムを維持させる要因といったテーマをとりあげて、代表的な知見を解説する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する
- ・社会心理学の研究手法を理解する
- ・知見を批判的に読み解くスキルを習得する
- ・社会現象を社会心理学的に解釈できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・講義を中心に展開する。社会心理学の調査を体験したり、グループワークに取りくむ機会を設けたいと考えている。

・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	文化心理学、集団社会心理学・グループ・ダイナミクスとは何か
2	認知の文化歴史性	文化・歴史とともにある認知
3	認知と文化的道具	文化的道具によって媒介される認知
4	分散された認知	人びとの間に分散している認知と活動
5	活動理論と分業	人びとのあいだで分割される活動とその課題
6	実践共同体と学び	正統的周辺参加論
7	文化的実践と学び	私たちはなぜ学ぶのか
8	制度アプローチ	誘因の構造と行為の関連
9	制度アプローチ	誘因の構造をいかに変えるか
10	集団意思決定	集団意思決定と集団生産性
11	ステレオタイプと偏見	偏見がもたらす問題
12	ステレオタイプと偏見	偏見の解消に向けて
13	社会変化を阻害する要因	なぜ現行のシステムは維持されるのか
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容の理解に努め、次回の講義までに復習を行なう。
- ・グループワーク課題に取り組む。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。

【参考書】

- ・石黒広昭・亀田達也編（2010）『文化と実践』. 新曜社.
- ・ドナルド・ノーマン（1990）『誰のためのデザイン？』. 新曜社.
- ・レイヴ&ウエンガー（1993）『状況に埋め込まれた学習』. 産業図書.
- ・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内外で実施する課題で評価する（100%）。
- ・試験は実施しないため、毎回の取り組みが重要となる。
- ・課題の詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・研究の方法論の理解をうながせるよう教材を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。
- ・春学期の学習を前提に授業を進めるため、あわせて受講することをすすめます。

【Outline and objectives】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in cultural psychology, cognitive tools, group dynamics of community building, social dilemma, stereotypes, prejudice, just world hypothesis, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology.

SOS100EB

社会政策科学入門 A

惠羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会政策に関する基本的な知識と視点を学ぶ。前半では労働政策・社会保障政策について取り上げ、後半では福祉社会という観点から社会問題について考える。

【到達目標】

社会政策の基礎知識を身に着ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

配布資料やハンドアウトに基づく講義を基本とする。

進め方の詳細は、学習支援システムを通じて適宜連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	社会政策とは何か	社会政策の考え方、社会政策の歴史的展開
第3回	社会政策の視点1：賃金	賃金政策、同一価値労働同一賃金、働き方改革など
第4回	社会政策の視点2：労働時間	労働時間の理論、労働時間制度の歴史、労働時間規制、時間外労働、過労死・過労自殺など
第5回	社会政策の視点3：雇用・失業	雇用形態の多様化と不安定就業、雇用を問い直す
第6回	社会政策の視点4：労使関係	多面的な労使関係（個別的/集团的、産業別/企業別）およびその変容
第7回	社会政策の視点5：社会保障	社会保険、生活保護、医療保険、公的年金など
第8回	福祉社会とは何か	福祉の考え方
第9回	福祉社会の視点1：リスク社会と個人化	国が福祉を保障する仕組み、経済社会の変化と新しい困難
第10回	福祉社会の視点2：貧困と社会的排除	不平等と貧困、女性・子供の貧困、貧困の再生産
第11回	福祉社会の視点3：福祉レジーム	福祉の仕組みは国によって変わるのか？
第12回	福祉社会の視点4：市民社会と福祉	サードセクターの活動、社会運動と福祉、ガバナンスなど
第13回	福祉社会の視点5：人口構造と福祉	高齢化、家族の変化、社会政策との関係
第14回	まとめ	授業のまとめと期末レポートの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一道編著（2019）『よくわかる社会政策 [第3版] 雇用と社会保障』ミネルヴァ書房、2,600円（税抜）

武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明（2020）『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房、2,500 円（税抜）

【成績評価の方法と基準】

授業のリアクション・課題 40 %、期末レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当のため非該当

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of basic ideas of labor and social policy.

SOS100EB

社会政策科学入門 B

北浦 康嗣

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、社会政策科学科の学生にとって必要になる経済学の視点を身につけることです。経済学の基礎理論は、主にミクロ経済学とマクロ経済学によって構成されます。本講義では、ミクロ経済学やマクロ経済学を将来的に履修する上で必要となる経済学の基礎や、これらの科目ではカバーできない分野に関して解説します。

【到達目標】

- (1) 身近な問題を取り扱う際に経済学的な考え方ができる。
- (2) 需要と供給、資源配分について理解を深める。
- (3) 「計算問題が苦手だ」という学生に対しても経済学が理解できる。
- (4) 部分均衡の枠組みで効率性・公平性について議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

トレードオフや機会費用といった経済学的な発想にはじまり、価格の果たす役割に注目しながら、需要と供給や市場均衡、資源配分について理解を深めます。

2021 年度はオンライン授業の実施に伴い、変更の可能性があります。変更内容は学習支援システムで提示します。必ず、毎回、Hoppiiを確認するように心がけてください。

授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、効率性	経済学について議論します。
2	需要の理論（1）	支払意思額について図解します。
3	需要の理論（2）	消費者余剰について図解します。
4	供給の理論（1）	供給の理論を学んだ後、生産者余剰を図解します。
5	供給の理論（2）	生産者余剰の演習をします。
6	市場の理論（1）	社会的余剰を導出します。
7	市場の理論（2）	政府の介入について議論します。
8	市場の理論（3）	効率性・公平性について議論します。
9	中間試験	需要の理論、供給の理論および市場の理論について確認を行います。
10	市場の失敗（1）	市場の失敗について説明します。
11	市場の失敗（2）	市場の失敗について図解します。
12	外部性（1）	外部性について図解します。
13	外部性（2）	外部性について計算します。
14	外部性（3）	外部性の内部化について議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

家森 信善, 小川 光 [2016] 「ミクロ経済学の基礎 (【ベーシック+】)」中央経済社 ¥2,200

【成績評価の方法と基準】

2回の試験 (中間試験 50%, 期末試験 50%, 両方受験すること。) で評価します。試験に關しては, Hoppii 上でお知らせします。必ず, 毎回, Hoppii を確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して, 今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to acquire an economics perspective. The basic theory of economics is mainly composed of “microeconomics” and “macroeconomics”. In this course, we will explain the basics of economics required for future studies of “microeconomics” and “macroeconomics”, and the areas that cannot be covered by these subjects.

SOS100EB

社会政策科学入門C

白鳥 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政策科学、公共政策の基礎的な考え方を学ぶ

【到達目標】

政策科学、公共政策についての基本的知識を身につける。
理論のみならず事例の理解も試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1・DP5 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1) 前半 7 回の政策科学における政治学的位置を踏まえた上で, 後半 7 回では政策過程における社会科学のうちで, 「有権者」となる諸君に必須な政治学的アプローチに対する知識を深めてもらう。

2) 本講義では, 政策科学における統治機構の立法府において実際に政策決定に關連する政治家を中心とした諸アクターと, そうした統治機構に対するわれわれ国民からのインプットという, 基礎的な知識を身につけてもらうことを期待する。

3) 最後の講義で講義内容のまとめや, 課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により, 若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	政策科学とは何か? 国際政治学・政治学のアプローチ	政策科学を学ぶ上で, なぜ, 国際政治学・政治学が必要なのかを考える。
第 2 回	政策科学における国際政治学・政治学的位置	国際政治学・政治学とはいったいどういう学問なのかを理解する。
第 3 回	国際政治学・政治学の理論	理論を支える哲学を考える。
第 4 回	国際・国家・コミュニティの課題	政策科学の問題対象である三つの領域の課題を理解する。
第 5 回	政治システム論: イーストンを中心に	政治システム論の基礎的理解。
第 6 回	政治コミュニケーション論: ドイツを中心に	政治コミュニケーション論の基礎的理解。
第 7 回	国際・比較政治学の視座	国際・比較政治学の基礎的理解。
第 8 回	政治制度と政治過程	政治過程論の発展と現代政治学。
第 9 回	政策決定の主体	政治家とは?
第 10 回	政策過程における集団	集団の時代。
第 11 回	政党の理論: デュベルジェ	二大政党システムの基礎理論。
第 12 回	政党の理論: サルトーリ	デュベルジェの修正としての政党理論。
第 13 回	55 年体制と 93 年体制	日本政治の理論的理解。
第 14 回	政策科学における国際政治学・政治学の課題の総合的理解。	国際政治学・政治学の総合的理解の到達。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

時事問題も取り扱うので, 新聞、ニュースをできればチェックすること。また, 責任ある「有権者」として理解を深めるために読書レポートを準備してもらう。本年度はどの本を読むか未定であるが, かつて『衆参ねじれ選挙の政治学』ミネルヴァ書房, 2011年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

18歳選挙権の導入により, 有権者となった皆さんの主権者教育に資するために, ミネルヴァ書房の「現代日本の選挙シリーズ」の一冊をこれまで指示して使用したことがあった。そこで, 今年度も同等のものを, 講義において, 適宜指示するつもりである。

【参考書】

マックス・ウェーバー, 1984, 『職業としての政治』岩波文庫
白鳥浩, 2009, 『都市対地方の日本政治』芦書房

【成績評価の方法と基準】

試験 = 50% 講義への積極性 = 20% レポート = 30%を目安とする。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、教場試験が実現できない場合も想定される。学期末に最終的に教場での試験が行えない場合には、成績評価の方法と基準における試験をレポートで代替することを考える。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向コミュニケーションを大事にしたい

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic understandings of Public Policy.

SOS100EB

社会政策科学入門D

長沼 建一郎

サブタイトル：社会政策科学への招待

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は社会政策科学科の入門科目であり、政策科学を学ぶ上で不可欠なディシプリンの1つである法律学の特徴と基礎を理解することを目的とします。(教員の専門領域である法律学が中心になりますが、「社会政策科学への招待」としての意味合いも持たせるため、隣接する諸社会科学との関係についても配慮します。)

【到達目標】

社会問題や紛争に対して、法律的な観点から分析し、現行法を前提として、あわせて現行法を前提とせず政策的に、解決策を提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

なるべく日常的な事例をとりあげて、市民法（民事法）の領域を中心に、法律学的な思考（法解釈論および法政策論）について学びます。

皆さんからの質問やコメントに、次の授業で全体に対して答える予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	政策と法
第2回	法と法律学	法律の読み方、要件と効果
第3回	法の解釈	法解釈の方法
第4回	法の体系	民法と刑法、行政法
第5回	消費者と法（1）	詐欺、錯誤
第6回	消費者と法（2）	時効、景品表示
第7回	補説、中間試験	前半部分の補足、中間試験
第8回	財産と法	所有権、二重売買
第9回	サービスと法	契約、債務不履行、ネット規約
第10回	事故・安全と法	不法行為、過失、損害の評価
第11回	家族と法	親族（婚姻、親子）、相続
第12回	政策過程と行政法	法律による行政、行政行為、裁量
第13回	福祉・公共政策と憲法	私人間効力、公私の線引き
第14回	補説、期末試験	後半部分の補足、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記の教科書を使って予習、復習をおこなう。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『大学生のための法学』法律文化社（2018年）

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40%）および期末試験（60%）により評価する予定です。（試験を実施できない場合はレポートにより評価します。）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし（昨年度は担当しませんでした）。
テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。

【Outline and objectives】

This course deals with laws and legal policies.

SOC300EC

社会調査実習

池田 寛二

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本の地域社会は農村地域はもとより都市部においても急激な人口減少に直面している。そのため、人口減少に抗するにしても適応するにしても、いかに地域社会の持続可能性を高めることができるかが、あらゆる地域社会の喫緊の課題となっている。この授業では、八王子市、町田市、相模原市を主な対象として、住民や行政や企業など多様なアクターが人口減少の現状と課題に対してどのように取り組んでいるかを、主として質的社会調査の方法（参与観察、インタビュー調査、ドキュメント分析など）を駆使して解明し、社会調査というアクション・リサーチを通して、地域課題とその解決の方向性を社会的に考え実践する能力を高めることを目的とする。なお、調査の具体的なテーマ設定には、2020 年度と同様、もしくはそれ以上に、新型コロナウイルスの感染拡大が地域社会に及ぼした影響や変化が色濃く反映されることを想定している。

【到達目標】

具体的な問題を抱える地域社会の実態と政策課題をフィールドワーク型の社会調査によって把握・分析することを通して、学生に社会調査の全プロセスを経験させ、質的調査法を実践的に習得させることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は以下の大きく 4 つの段階に沿って進められる。

1：社会調査を実施する（「実査」する）ことの意味に関する基本認識を共有する。

2：社会調査を設計・計画する。（「フィールドノーツ」の重要性と作成法、基礎資料・基本情報の共有化、調査テーマの確定、調査地域の選定、調

査対象の確定、仮説の定立、調査方法の確定、質問項目の整理、質問文の作成、インタビューマニュアルの作成、調査スケジュールの作成、調

査対象者とのアポイントメントの心得の共有、インタビュー記録・観察記録のフォーマットの共有、収集した質的調査データの処理・分析の手法

、報告書の作成法、「調査倫理」としての対象者・協力者への結果報告の心得

3：社会調査を実施（実査）する：2 の設計・計画に応じて現地調査（フィールドワーク）を実践する。

4：調査結果のまとめと報告書作成：調査結果をまとめ調査対象者・協力者に報告する。

上記の 4 つの段階ごとに課題レポートを指示し、その結果に対する教員の評価をフィードバックしたうえで次の段階に進む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	序論、教員および参加学生の自己紹介	調査実習の趣旨の共有
2 回目	先行研究から学ぶ（1）	文献講読により、調査の方法と成果を読み解く
3 回目	先行研究から学ぶ（2）	文献講読により、調査の方法と成果を読み解く

4 回目	先行研究から学ぶ（3）	文献講読により、調査の方法と成果を読み解く
5 回目	先行研究から学ぶ（4）	文献講読により、調査の方法と成果を読み解く
6 回目	先行研究から学ぶ（5）	文献講読により、調査の方法と成果を読み解く
7 回目	予備調査（1）	調査地に関する基礎資料の収集と講読
8 回目	予備調査（2）	調査地に関する基礎資料の収集と講読
9 回目	予備調査（3）	調査地に関する基礎資料の収集と講読
10 回目	予備調査（4）	調査地に関する基礎資料の収集と講読
11 回目	予備調査（5）	調査地に関する基礎資料の収集と講読
12 回目	現地予備調査の実施（1）	地元の関係者を担当とするインタビュー
13 回目	現地予備調査の実施（2）	地元の関係者を担当とするインタビュー
14 回目	現地予備調査の実施（3）	地元の関係者を担当とするインタビュー
15 回目	現地予備調査の成果のまとめ	インタビュー結果の整理と共有、秋学期における本調査への留意点の確認
16 回目	本調査の計画と準備（1）	本調査における調査項目と調査方法の確認、マニュアル作成
17 回目	本調査の計画と準備（2）	本調査における調査項目と調査方法の確認、マニュアル作成
18 回目	本調査の計画と準備（3）	本調査における調査項目と調査方法の確認、役割分担とスケジュール作成
19 回目	本調査の計画と準備（4）	本調査における調査項目と調査方法の確認、分担とスケジュール作成、アポイントメント
20 回目	本調査の実施（1）	現地調査の実施、その都度報告、報告書の執筆を同時並行で進める
21 回目	本調査の実施（2）	現地調査の実施、その都度報告、報告書の執筆を同時並行で進める
22 回目	本調査の実施（3）	現地調査の実施、その都度報告、報告書の執筆を同時並行で進める
23 回目	本調査の実施（4）	現地調査の実施、その都度報告、報告書の執筆を同時並行で進める
24 回目	本調査の実施（5）	現地調査の実施、その都度報告、報告書の執筆を同時並行で進める
25 回目	本調査の実施（6）	現地調査の実施、その都度報告、報告書の執筆を同時並行で進める
26 回目	本調査の実施（7）	現地調査の実施、その都度報告、報告書の執筆を同時並行で進める
27 回目	調査結果のまとめ（1）	各自の調査結果の整理と共有、報告書の編集
28 回目	調査結果のまとめ（2）	報告書の原稿完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。また、調査対象地に関する自発的な資料・情報収集活動を主な宿題とします。

【テキスト（教科書）】

過去の池田が担当した社会調査実習の報告書＝池田寛二他編著『首都圏山村社会の現状と課題』（1）～（4）（2005 年度～2009 年度）・『首都圏農山村社会の現状と課題』（1）（2）（3）（2013 年度～2015 年度）

【参考書】

日本村落研究会編『むらの社会を研究する』（農山漁村文化協会、2006 年）、地域社会学会編『キーワード地域社会学』（ハーベスト社、2006 年）、池田寛二「制度資本としてのコモンズ政令指定都市の中の山村社会を事例として」宇沢・関編『社会的共通資本としての森』第 8 章（東京大学出版会、2015 年）など

【成績評価の方法と基準】

調査活動への参加度・貢献度（40％）、調査手法の習熟度（20％）、調査報告書の内容（40％）を主な評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This class mainly focuses on Hachioji City, Machida City, and Sagami City, and conducts a qualitative social research mainly on how various actors, such as residents, local governments, and business persons, are tackling the current issues of population decline. The purpose of this class is to enhance students' ability to do research on community issues sociologically through active learning called social research.

SOC300EC

社会調査実習

田嶋 淳子

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習の目的は社会調査を実施する方法を学ぶ。今年度のテーマは『コロナ禍の地域社会』です。

【到達目標】

本実習では社会調査の一連のプロセスを学び、自ら調査を計画し、実施できるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習支援システムに仮登録をし、担当教員まで必ず、事前に連絡メールを送って下さい。詳細は学習支援システムにて指示します。本実習においては、都市地域社会を対象とするフィールドワークを通じ、調査の流れに沿って、作業プロセスを体験します。ただし、昨年度同様、直接のインタビューは難しい可能性もあり、その場合には zoom を利用した調査になります。地域へのアプローチの仕方から問題の析出とドキュメント分析およびインタビューなどの調査プロセスを通じ、調査報告書の作成に至る社会調査の全プロセスを把握します。毎回の課題は学習支援システムの課題で設定します。提出物はコメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	調査概要と調査地について	調査地についての文献検索及び統計データの収集
2	調査報告書を読む	調査報告書を参考に調査報告の書き方を学ぶ
3	既存データの収集および講読	参考文献の検索方法および既存データを読み、問題の所在を把握する
4	調査地の社会地図	写真データの収集と共有化
5	文献の収集・検討	既存研究データ・ベースの作成作業、文献の講読を通じて、問題意識の明確化をはかる
6	既往研究の検討	既往研究の批判的検討。調査研究計画の立案
7	既存データの批判的検討	統計、ドキュメントなど資料の収集と講読、レポート
8	調査地域へのアプローチ	対象地域を地域組織へのインタビューから把握する
9	インタビュー記録の作成	インタビュー記録の作成作業とケース化
10	インタビュー記録の作成	ケース化作業
11	調査の準備作業	データの共有化
12	調査の準備作業	調査対象へのアプローチ方法の検討
13	調査計画の立案	夏休み中の調査計画立案
14	夏休み調査の準備作業	調査対象者へのアプローチとアポイントの確認
15	調査結果の検討	調査結果の批判的検討
16	データ・クリーニング	インタビューデータの確認
17	データの分析作業	分析作業を進める（各自の担当部分と全体とのつながり）
18	データの分析作業	サブ・グループを作り、データ分析作業
19	データの分析作業	データ分析から各自のテーマ化
20	補足調査実施	各自のテーマに必要な補足調査を実施
21	既往文献の再検索	既往文献を再検索する
22	データの公表の仕方	倫理規定についての検討
23	プレゼンテーションの準備	PPTを使った発表の仕方
24	論文構成の検討	各自の論文化へ向けた作業
25	報告書構成の確定	調査報告書の構成を確定し、論文のテーマを調整
26	報告書の執筆作業	報告原稿の完成に向けたブラッシュアップ
27	報告書の執筆作業	論文の書き方
28	報告書の執筆作業	報告書の完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業で出された課題を個人あるいはグループで実施するため、準備作業が重要となる。また、夏休み中のインタビュー調査と合宿は必ず参加すること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各年度で作成した調査報告書（これらは配布または貸し出し予定）
社会調査実習報告書,2019『多文化共生のありかをもとめて Part IV』
社会調査実習報告書,2018『コミュニティとしての横浜中華街 Part III』

【参考書】

田嶋ゼミ社会調査報告書,2006『多文化共生のありかをもとめてⅠ、Ⅱ、Ⅲ』。
田嶋淳子『池袋・新宿調査からの20年』『社会と調査』第4号,2010年。
田嶋淳子、2010『国際移住の社会学—東アジアのグローバル化を考える』明石書店。
田嶋ゼミナール『グローバル化の中の池袋』2010年調査報告。

【成績評価の方法と基準】

調査実習のすべての段階における課題提出（30%）、インタビュー記録などの調査データの作成（30%）および最終レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本社会調査実習は調査研究法B（田嶋担当）とセットで履修することが求められる。履修にあたっては、必ず事前に担当教員と相談すること。

【Outline and objectives】

Students will learn how to conduct social research. The theme this year is “The Local Community under the COVID19.”

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

社会調査実習**中筋 直哉**

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の目的は、コロナ禍で政策上要請された「新しい生活様式」の普及の実態とそれに対する市民の社会意識について計量的社会調査を通して探究することである。

【到達目標】

計量的社会調査とくに社会意識調査の方法を理解した上で、「新しい生活様式」の可能性と課題をデータ分析を通して掘り下げた報告書を完成させること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教室で対面を実施（予定）。社会意識論とパーソナル・ネットワーク研究の理論と方法を習得し、質問紙を作成してWebを利用して社会調査を実施し、エクセルを使って調査結果の集計、分析を行い、受講者各自の問題関心に基づいたレポートを執筆する。さらにレポートを編集して報告書を作成し、学内で報告会（Web上を含む）を行う。提出物については受講生で討論した上で、個別にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	メンバーの紹介と問題関心の発表
2	調査計画の検討 1	コロナ禍と「新しい生活様式」についての討論
3	調査計画の検討 2	前回は踏まえた調査計画の策定
4	文献講読 a	「友人のあいだで暮らす」
5	文献講読 b	「現代日本の「社会の心」」
6	文献講読 c	「マルクス・ガブリエル 危機の時代を語る」
7	質問紙の設計 1	「新しい生活様式」に関する質問文と選択肢の作成
8	質問紙の設計 2	社会意識に関する質問文と選択肢の作成
9	質問紙の設計 3	社会経済的屬性に関する質問文と選択肢の作成
10	標本の設計 1	標本抽出法の理論の学習
11	標本の設計 2	実際の標本抽出の設計
12	標本の設計 3	調査対象者を選定：Webでの調査方法をとくに検討する
13	実査と反省 1	13～15の期間中、質問紙の配布と回収を実施
14	実査と反省 2	回収された質問紙をチェックし、問題を検討
15	実査と反省 3	回収できなかった標本を補充
16	データシートの作成とクリーニング 1	エクセルで分析可能なデータシートの作成
17	データシートの作成とクリーニング 2	度数分布表を作成して、入力ミスをチェック
18	回答の集計と分析 1	講師による分析実演を通して、分析法を習得
19	回答の集計と分析 2	講師による分析実演を通して、分析法を習得
20	回答の集計と分析 3	講師による分析実演を通して、分析法を習得
21	レポート構成の検討 1	各自の問題関心を検討
22	レポート構成の検討 2	各自の問題関心を検討
23	レポート草稿の検討 1	各自の分析結果を検討
24	レポート草稿の検討 2	各自の分析結果を検討
25	報告書の編集 1	レポートを報告書に編集
26	報告書の編集 2	レポートを報告書に編集
27	報告書の完成	印刷・製本した報告書を合評
28	学内報告会の実施	報告書をもとに報告会（ウェブ上を含む）を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の作業の準備とその完成のために自宅等での追加的な学修が必要。本授業の準備学習、復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

C.S. フィッシャー, 2002, 『友人のあいだで暮らす』未来社.(貸与)
吉川徹, 2014, 『現代日本の「社会の心」』有斐閣, 2,530 円+税.
丸山俊一, 2010, 『マルクス・ガブリエル 危機の時代を語る』NHK 出版新書, 880 円+税.

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 1%×30 回で 30%、実査等作業への貢献度 30%、報告レポートの完成度 40%の 3 つを合わせて評価する。授業にはほぼ全回出席し、作業に積極的に関与し、レポートを提出することが成績評価の条件。到達目標に到達し、オリジナリティのあるレポートを作成できれば A。

【学生の意見等からの気づき】

講師初年度のため気づきなし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。また各自パソコンが必要。

【その他の重要事項】

際第受け入れ人数 15。同じ講師の「調査研究法 A」とセットで履修すること。また同じ講師の「政策データ分析実習」と連携して運営する。詳しくは社会調査実習ガイダンスで確認すること。

【Outline and objectives】

This seminar aims to study social research methods especially for social conscious study and directing an academic report by social research.

SOC100EC

社会調査入門

多喜 弘文

サブタイトル：社会調査 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会調査の歴史や方法および具体的な事例の学習を通じて、その社会的・学術的意義に関する理解を深めることを目指す。またそのことを通じて、調査者としての倫理と市民としての調査リテラシーを向上させることが、社会調査を取り巻く現在の状況との関連で今後ますます重要となることを説明する。

【到達目標】

社会調査とはどのようなものであるかをイメージすることができるようになること。また、調査者としての倫理と市民としての調査リテラシーを高めることの重要性を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4・DP9に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目は秋学期の「社会調査の方法（社会調査Ⅱ）」とセットで受講することが望ましい。リアクションペーパーの提出を求めた際は、授業で全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会調査の目的と意義	社会調査の目的と意義
2	社会調査の歴史 (1)	社会調査とその時代的背景
3	社会調査の歴史 (2)	社会調査とその時代的背景
4	国による調査の紹介	国勢調査などの基幹統計とその意義
5	社会調査の種類	さまざまな分類方法の紹介
6	量的調査と質的調査	共通点と相違点
7	量的調査を用いた研究の紹介 (1)	自殺論を読む
8	量的調査を用いた研究の紹介 (2)	自殺論を読む
9	質的調査を用いた研究の紹介 (1)	ストリートコーナースァエティを読む
10	質的調査を用いた研究の紹介 (1)	ストリートコーナースァエティを読む
11	量的調査と質的調査	共通点と相違点、方法の組み合わせ (トライアングレーション、ミックスメソッド)
12	学術的調査以外の調査や最近の調査の紹介	マーケティング調査、ウェブ調査など
13	社会調査を取り巻く現状と課題	調査倫理・個人情報の保護・調査リテラシー
14	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に指定しない。授業資料をアップロードするので必要に応じて復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

轟亮・杉野勇編, 2013, 『入門・社会調査法 [第 2 版]』法律文化社.
佐藤郁哉, 2006, 『フィールドワーク——書を持って街へ出よう (増訂版)』新曜社.
岸政彦・石岡丈昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣.
E. デュルケム (宮島喬訳), 『自殺論』中公文庫. W.F. ホワイ特 (奥田道大・有里典三訳), 『ストリート・コーナースァエティ』有斐閣.
その他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト (20 %)、コメントシート (10 %)、試験 (70 %)

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムを使った資料のアップロードは好評のようなので引き続きおこなう。

【Outline and objectives】

To develop a basic understanding of histories and the different methodological traditions of the social research

SOC200EC

社会調査の方法

多喜 弘文

サブタイトル：社会調査Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会調査データの創出・整理・保存・公開というサイクルを踏まえ、それぞれの段階における具体的な手続きを学んでいく。とりわけ、社会調査の企画段階からその実施に至るまでのプロセスについては、複数のトピックに分けて細かく検討していく。

【到達目標】

本講義を通じ、受講生は社会調査を企画した上で実施し、得られたデータを適切な形で整理・保存・寄託するための一連の方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4・DP9に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目は春学期の「社会調査入門（社会調査Ⅰ）」とセットで履修することが望ましい。リアクションペーパーの提出を求めた際は、授業で全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会調査のライフサイクル（1）	公共財としての社会調査と二次データ
2	社会調査のライフサイクル（2）	公的統計のデータベースとデータアーカイブの紹介
3	社会調査の企画	目的 予算 組織 調査デザイン
4	調査方法を選ぶ（1）	面接 郵送 電話 インターネット それぞれの調査方法と利点・欠点
5	調査方法を選ぶ（2）	面接 郵送 電話 インターネット それぞれの調査方法と利点・欠点
6	調査対象を確定する	母集団と標本 サンプリング
7	社会調査に伴う誤差	標本誤差と非標本誤差
8	質問票の作成（1）	概念から指標へ 変数と値
9	質問票の作成（2）	質問の形式 ワーディング
10	調査の実施方法	具体的な手順を考える
11	調査データの整理（1）	エディティング コーディング データ入力 クリーニング
12	データを保存する	調査票の管理、基礎集計表・コードブック・報告書の作成
13	データを寄託する	寄託に際して必要となるもの 具体的な手続き
14	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に指定しない。授業資料をアップロードするので、必要に応じて復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

盛山和夫、2004、『社会調査法入門』有斐閣。

佐藤博樹・石田浩・池田謙一編、2000、『社会調査の公開データ——2 次分析への招待』東京大学出版会。

その他、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（15%）、小テスト（15%）、試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし（前年度担当していない）。

【Outline and objectives】

This class intends students to understand general procedures to conduct quantitative survey in order to answer a research question of their choice. Covering topics include constructing a good questionnaire, sampling methods, secondary analysis of existing data, and so on.

SOC200EB, SOC200EC

社会調査のリテラシー

多喜 弘文

サブタイトル：特講（社会調査のリテラシー）
 開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 4/Wed.4
 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査によって得られたさまざまな形式のデータを用いて読み書きするために必要となる基礎的なリテラシーを学ぶ。現代社会におけるさまざまな問題を社会科学的に解釈、説明するための基本的な概念を理解する。

【到達目標】

社会調査によって得られたデータを使った論文や報告書の分析結果や社会的含意を理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4・DP6・DP9に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

おもにパワーポイントと配布資料を用いた講義形式で進める。リアクションペーパーの提出を求めた際は、授業で全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の目的	社会調査を読み書きするリテラシー
2	量的調査を読む (1)	量的データに関連するデータベースにアクセスする
3	量的調査を読む (2)	量的調査を用いた文献の紹介
4	質的調査を読む (1)	質的データに関連するデータベースにアクセスする
5	質的調査を読む (2)	質的調査を用いた文献の紹介
6	抽象化して考える	変数と値
7	データを記述する (1)	度数分布表の読み取りと作成、相対度数、累積度数、累積百分率
8	データを記述する (2)	代表値と散布度、各種のグラフの読み取りと作成
9	変数の関連を捉える (1)	2 変数間に関連があるとはどういうことか、相関関係と因果関係
10	変数の関連を捉える (2)	疑似相関、変数のコントロール
11	変数間の関連を記述する (1)	クロス集計表
12	変数間の関連を記述する (2)	尺度水準と分析方法
13	変数間の関連を記述する (3)	量的変数間の関連—散布図、共分散、相関係数
14	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

理解の積み上げが必要となる部分があるので、必要に応じて配布資料で復習して授業に臨むことを期待する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない

【参考書】

岩井紀子・保田時男, 2007, 『調査データ分析の基礎——JGSS データとオンライン集計の活用』有斐閣。
 岸政彦・石岡文昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

平常点（コメントシート、小テスト）35 %、期末テスト 65 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This lecture aims to study basic knowledge and methods for social research to understand the social world.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論 I

宇野 斉

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な社会状況を社会ネットワークとして捉え理解するプロセスを、社会ネットワークのシステムのな見方とともに、学びます。

【到達目標】

1 社会現象のネットワーク的な見方の理解 2 企業や地域を社会ネットワークに捉える有効性の理解 3 スモールワールドの理解 4 社会のシステムのな見方とネットワークの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として演習問題、実験、いくつかの課題によって進めます。毎回学習支援システムへのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	授業内容を概観し、学生と教員で確認します。
02	社会におけるネットワーク現象 (1)	社会現象のネットワーク的分析を紹介し、社会現象を起すネットワークの振る舞いを考察します。
03	社会におけるネットワーク現象 (2)	社会現象を起すネットワークの振る舞いを考察します。
04	ネットワーク、システム上の主体と関係	システム論的見方を提示し、ネットワークの主体の役割と相互関係を考察します。
05	企業のネットワーク (1)	企業内の制度におけるネットワークを考察します。
06	企業のネットワーク (2)	企業内の制度外のネットワークを考察します。
07	地域のネットワーク (1)	地域を成立させているネットワークを考察します。
08	地域のネットワーク (2)	ネットワーク現象による地域変化を考察します。
09	スモールワールドの理論	スモールワールドの理論分析モデルを学びます。
10	スモールワールドの実験	スモールワールドの分析を感じる実験を行います。
11	スモールワールドの実験と理論	実験結果を分析し理論との接合を考察します。
12	ネットワークの中に生じる認知組織	ネットワーク内に認知される組織を論じます。
13	社会、コミュニティ、組織、個人	社会における多段階のネットワーク関係を系統的に考察します。
14	まとめと質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 25 %、レポート 25 %、期末試験 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。その他必要に応じてインターネット上のサービスを利用します。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。特に、実験が出来ない場合、関連する時間に関して、削除または代替する内容に差し替えることがあります。

期末試験はレポートで代替する可能性があります。

なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline and objectives】

Learn how to view society from a systematic view and network view.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論Ⅱ

宇野 斉

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に組織内ネットワークの分析を、社会ネットワークの観点から分析できる理論と方法を学びます。

【到達目標】

- 1 ネットワーク分析が自分で出来る能力の獲得
- 2 ネットワーク分析手法による組織分析方法の習得
- 3 組織の社会ネットワーク的な意味と振舞いの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として演習問題、実験、いくつかの課題によって進めます。

個人間関係を基礎としミクロなネットワークで、誰がどのような役割を果たすかを分析する理論と手法の理解について、実験を行います。組織内のネットワークをどのように捉え、どう行動すべきかを扱います。

毎回学習支援システムへのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンス、イントロダクション	概観内容を説明し、学生と教員間で確認します。
02	ネットワーク分析のための理論提示	この授業でのネットワーク分析の理論と背景を提示します。
03	ネットワークの理論的分析	実験モデル状況の理論分析を行います。
04	ネットワークの実験	グループを作り実験に参加し、観察し、データを得ます。
05	実験結果の分析	データを理論との対比で分析します。
06	ネットワーク分析の代表値	ネットワーク分析における一般的な指標を説明します。
07	組織内公式関係分析	分析方法とケースで公式の関係状況の分析を考察します。
08	組織内非公式関係分析	同ケースで非公式な関係状況の分析を考察します。
09	組織内関係総合的分析	同ケースで公式と非公式の関係の同時状況分析を考察します。
10	組織内リンク追加の効果1	モデルでの関係追加の組織全体への効果を考察します。
11	組織内リンク追加の効果2	モデルでの関係追加の個人への効果を考察します。
12	組織内リンク追加の効果3	モデルでの関係追加の個人と組織への効果の差異を考察します。
13	クラスター、ネットワーク、組織、個人	4つの段階の様相相互の関係を考察します。
14	まとめと、質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システム等で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 30 %、レポート 25 %、期末試験 45 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更がありえます。特に、実験が出来ない場合、関連する時間に関して、削除または代替する内容に差し替えることがあります。

対面開講でない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。
なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

【Outline and objectives】

Learn the theory and method which can analyze the social networks in the organization.

LAW200EB

社会保障法Ⅰ

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。

【到達目標】

基本的な制度内容を理解し、政策的論点について考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

皆さん自身のライフサイクルやライフプランとの関わりで、日本の社会保障の基本的な仕組みを理解し、活用できるようになることを目指します。その上で政策的な論点や今後のあり方を検討します。

質問やコメントに次の授業で全体に対して答える予定です。

技術的に可能であれば、参加者との意見交換も行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	医療保険①	病気になったらどうするか
5	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
6	医療保険③	どういう医療を受けられるのか
7	補説、中間試験	前半部分の補足、中間試験
8	介護保険①	寝たきりや認知症になったら
9	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
10	雇用保険①	失業したらどうするか
11	雇用保険②	離職を防ぐため、再就職のための給付
12	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
13	労災保険②	過労死・過労自殺と労災認定
14	補説、期末試験	後半部分の補足、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。

【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40%）および期末試験（60%）により評価する予定です。

（試験を実施できない場合はレポートにより評価します。）

（時間及び技術的に、参加者との意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点の勘案も検討したいと思っています。）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし（昨年度は担当しませんでした）。

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。

担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline and objectives】

This course deals with social security law.

LAW300EB

社会保障法Ⅱ

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。

【到達目標】

基本的な制度内容を理解し、政策的論点について考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

皆さん自身のライフサイクルやライフプランとの関わりで、日本の社会保障の基本的な仕組みを理解し、活用できるようになることを目指します。その上で政策的な論点や今後のあり方を検討します。

質問やコメントに次の授業で全体に対して答える予定です。

技術的に可能であれば、参加者との意見交換も行いたいと思っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、公的年金①	年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのかー全国共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのかーサラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか
7	補説、中間試験	前半部分の補説、中間試験
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	最後のセーフティネットとして
10	生活保護②	稼働能力の要件
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、母子家庭への手当
14	補説、期末試験	後半部分の補説、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。
ただし講義の後半部分については、別のテキストを準備中。

【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（40%）および期末試験（60%）により評価する予定です。

（試験を実施できない場合はレポートにより評価します。）

（時間及び技術的に、参加者との意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点の勘案も検討したいと思います。）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし（昨年度は担当しませんでした）。

テキストの使用により、理解しやすくなります。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。

担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline and objectives】

This course deals with social problems and social policies.

SOC300EC, SOC300ED

社会問題とメディア

津田 正太郎

サブタイトル：メディア社会論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、様々な社会問題とメディアとの関係についての分析視角を提示する。

【到達目標】

この授業の目標は、受講者がメディアという観点から社会問題や日本社会の歩みについての理解を深めることに加えて、自らの問題関心に沿って分析を行うための方法論を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義という形態をとる。ただし、毎回の授業終了後に Google フォームによって質問を受けつけ、次の授業の冒頭で時間を割いて解説を行うことで、受講者の理解をより促進するよう心がけたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会病理学とモラルパニック論	社会問題を分析するための視座として、社会病理学およびモラルパニック論について考える
第2回	社会問題への社会構築主義アプローチ	社会問題を分析するための視座として、社会構築主義アプローチについて考える
第3回	リスク社会におけるメディア報道	リスク社会におけるメディア報道のあり方を考える
第4回	メディアが描く犯罪（前編）	メディアによる犯罪の描き方にはどのような問題があるのかを考える
第5回	メディアが描く犯罪（後編）	メディアがどのように犯罪被害者および加害者を描くのかを事例に即して考える
第6回	メディアが描く貧困	現代社会における貧困の現状を踏まえつつ、メディア報道の問題点について考える
第7回	貧困報道をめぐるジレンマ	メディアが貧困を報じるさいにどのようなジレンマが生じるのかを考える
第8回	排外主義とメディア	現代的な排外主義の特質を踏まえつつ、それとメディアとの関係について考える
第9回	排外主義をめぐるメディアのジレンマ	メディアが排外主義を報じるさいにどのようなジレンマが生じるのかを考える
第10回	原発問題とメディア	日本の原発導入過程においてメディアが果たした役割を考える
第11回	「原発安全神話」とメディア	「原発安全神話」とは何か、メディアがそれといかなる関係にあるのかを考える
第12回	大衆社会論の出現とその背景	戦後日本社会における大衆社会論の出現とそこにおけるメディアの位置づけについて考える
第13回	管理社会論の出現とその限界	戦後日本社会において管理社会論がどのように登場し、メディアといかなる関係にあったのかを考える
第14回	消費社会論とその陥穽	戦後日本社会において消費社会論がいかに高揚し、いかに失墜したのかを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書および講義で紹介した書籍などを読んでおくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

津田正太郎（2016）『メディアは社会を変えるのか メディア社会論入門』世界思想社。

大石裕編（2012）『戦後日本のメディアと市民意識 「大きな物語」の変容』ミネルヴァ書房。

【参考書】

講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に実施するテスト（30%）と学期末に提出するレポート（70%）の合計で決定する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の疑問点を解消すべく、Google フォームなどを活用してインタラクティブな授業運営を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

家庭からインターネットに接続できる環境であることが望ましい。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to explain the sociological perspectives for analyzing the relationship between media and social problems.

SOC300EA

社会を変えるための実践論

荒井 容子

サブタイトル：特講（社会を変えるための実践論）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会問題に当事者として立ち向かっていった複数の実践事例について学び、当事者としての教員やゲストを交えて、受講生同士で討議しながら、直面した社会問題の解決にむけて行動する力を養うことを目的とする。

【到達目標】

社会問題に直面したとき、その解決に向けて主体的に行動するとはどういうことか、その意味と方法を認識し、実践につなげる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業運営は複数の教員が集団で行う。社会問題の解決のために行動している多様な事例を取り上げ、当事者の立場を重視しながら受講生と教員が一緒になってそれらの事例について討議していく。当事者をゲストとして招く場合もある。

毎回宿題を課す。テキストの関係章、オンラインで提供するビデオを観たうえで取り組む課題がだされるときもある。宿題の回答は講義時に自分でも手元によりいして、講義当日のグループ討議に活用してもらう。講義の感想・意見も講義後に毎回提出してもらう。これらへの応答は講義時に必要に応じて行う。

なお授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。また全学行動制限レベル0になるまでは、オンラインでバーチャル教室を活用して授業を行う。宿題、感想・意見への返信は、必要に応じて講義内で対応するが、学習支援システムを通じてコメントを提示する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス バズセッション	自分が社会問題に直面するとはどういうことだろう（担当 全員）
2	生活を支える「お金」1	学生にとってのお金 -奨学金とブラックバイト- ゲスト講師 大内裕和（中京大学） （担当 鈴木宗徳）
3	生活を支える「お金」2	体験報告と討議「第1章 最低賃金を1500円に！ AEQUITAS がはじめた新しい『声のあげ方』」をもとに （担当 鈴木宗徳）
4	政治を動かす1	地方議員と地方議会「第5章 そろそろ政治の話しよう 地方議員と地方議会を知ろう」をもとに（担当 荒井・島本）
5	政治を動かす2	市民として政治に関わる「第6章 保育園民営化問題に直面して」をもとに（担当 島本）
6	働く誇りを育む海外の労働運動	労働権に目覚めるボリビアの子どもたち（子ども労働組合）（担当 荒井）
7	中間総括討議	バズセッション（担当 全員）
8	「ボランティア」って？	「自由意志」は新しい民主的な市民社会の創造の原動力となり得るのか （担当 大崎）
9	社会を変える海外の市民運動	フランスの黄色いジャケット運動（担当 中筋）
10	国際的に動く1	国際的な貧困格差問題 「第8章 グローバル市民社会と私たち」 「第9章 人類史の流れを変えるグローバル・ジャクインカムと歴史的不正義」 をもとに（担当 吉村）
11	国際的に動く2	国際社会と歴史的不正義-パレスチナ問題から考える（担当 岡野内）
12	メディアを動かす	ソーシャルメディアを活かす「第4章 社会を変えるためにソーシャルメディアを使う」をもとに （担当 藤代）
13	司法に訴える	不当解雇と闘う「第7章 教員の不当解雇と裁判闘争」をもとに

14 総括討議

現代を生きぬくために必要な力とは
バズセッション ～実践体験の分析も
交流～ (担当 全員)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、事前に宿題を提出してもらう。宿題の中には、事前にテキストを読んで準備してもらうときや、オンラインで提供するビデオ鑑賞したうえで書いてもらうときもある。宿題として提出したものは手元で見ることができるようにしておき、講義当日はそれをもとにバズセッション(グループ討議)を行う。グループ討議の内容はその場で担当者が記録し、記録者はそれをもとに、直後に行う全体の場で報告する。このグループ討議の記録は、講義後に学習支援システムを通じて記録担当者に提出してもらう。講義の感想・意見も講義後に学習支援システムを通じて提出してもらう。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

田中優子+法政大学社会学部「社会を変えるための実践論」講座編『そろそろ「社会運動」の話をしよう—自分ゴトとして考え、行動する。社会を変えるための実践論』改訂版明石書店 2019 年 4 月発行

【参考書】

講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間総括討議時と総括討論会時に活用するため、それぞれの講義の前に事前に提出してもらう中間レポート、最終レポート(各 35 %程度)を中心に、時々宿題、ほぼ毎回回収する感想・意見を 30 %程度で加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生自身の実践をもとにした報告の交流機会の導入は、学生たちが問題を現実的につかむ力を育む。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。

【その他の重要事項】

社会問題について学んできた問題意識の高い学生が受講することを推奨する。すべての学生にグループ討議を通じて発言が求められる。また講義の目的・運営上の必要から 150 人までに受講を制限する。春学期の受講登録手続きより前にウェブ抽選を行い、当選したものが受講登録を行うことができる。秋学期に受講登録を変更することはできない。

【Outline and objectives】

This course is to study how citizens/people can challenge social problems and difficulties by their own in the society. Lecturers offer various case studies of social movements. Students will discuss the way to survive in “buzz sessions” (small-group discussions) and will give presentations in the classroom. Students are required to prepare for written-reports and discussion each week as well as a mid-term discussion and the final report.

SOC200EC

宗教社会学

永井 美紀子

サブタイトル：現代社会と宗教

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

普段、宗教とは無関係な生活をしているように思えても、実は私たちは多くの宗教的な意味とともに暮らしていることに気づく。宗教文化に関する基礎的な知識を習得した上で、宗教を見つめる視点を構築し、社会との関わりの中かに存在する宗教的現象を客観的に捉えなおそう。

【到達目標】

①主要な宗教伝統に関して、それぞれの歴史的経緯や特徴などの基礎的な知識を身につけることができる。②それらの知識をもとに、社会にみられる多様な宗教的な現象に気づくことができる。③自分を取り巻く環境における宗教的な現象を客観的に把握し理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態についての詳しい情報は、学習支援システムで通知します。

①PDF版の資料教材を、学習支援システムにアップします。②テーマ毎(内容によっては、テーマの項目毎)確認の課題または小テストを行います。③課題を出した後の授業では、全体に対して課題に関するフィードバックを行いません。小テストの場合は解答を提示します。④中間レポートを学期半ばに提出します。提出期限については後日、授業内や学習支援システムを通じて通知します。課題図書は参考書に掲げた『グローバル現代社会論』です。生協でも取り扱いがあります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「宗教」という言葉・宗教と社会との関わり
2	主要な宗教伝統 1	唯一神信仰の大きな流れ・はじまりとしてのユダヤ教
3	主要な宗教伝統 2	ユダヤ教における新宗教運動としてのキリスト教
4	主要な宗教伝統 3	イスラームにおける共同体の意味
5	主要な宗教伝統 4	唯一神信仰の大きな流れ・補足解説
6	アジアにおける仏教の展開と変容 1	インドにおける新宗教運動としての仏教
7	アジアにおける仏教の展開と変容 2	仏教の大きな二つの流れ
8	アジアにおける仏教の展開と変容 3	日本における仏教受容・神仏習合
9	近代以降の日本の宗教状況 1	近代宗教行政政策の余波
10	近代以降の日本の宗教状況 2	神道の「解体」とその後
11	近代以降の日本の宗教状況 3	儀礼の変容と消費社会
12	社会のなかの宗教 1	日本人の宗教意識

- 13 社会のなかの宗教 2 宗教意識の国際比較・日本とヨーロッパ
- 14 社会のなかの宗教 3 アメリカの宗教意識

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り扱う宗教の基礎知識に関しては、日本史や世界史、倫理社会の参考書等で確認しておくといでしょう。新聞の中から宗教に関する記事を取り上げて読むことでさらに理解が深められます。学習支援システムにアップされる資料教材には目を通し、紹介された参考文献も関心を持って読んでみてください。資料はプリントアウト出来れば幸いですが、出来なくてもアップされた教材を読んで自分なりにまとめてノートに書き出してみるのもいいかもしれません。授業の内容に関する課題や小テストもありますので、学習支援システムをチェックして提出を逃すことのないようにしてください。提出期限は課題の種類によって変わることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業内での教材は学習支援システムにアップします。

【参考書】

世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版 2012 年
山田真茂留編『グローバル現代社会論』文眞堂 2018 年（2600 円＋税）
各テーマに関係する参考文献は配布資料にて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①学習支援システム上で出されるテーマ毎の課題や小テスト（合せて 10 回程度）の結果を 70 %②学期半ばに提出する中間レポートの内容を 30 %とする割合で総合的に判断・評価します。中間レポートは参考書に掲げた『グローバル現代社会論』を課題図書とします。生協でも扱っています。提出期限を過ぎたものは受け取りませんのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

意見を受け止め適宜改善に努めていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムが利用できる機器及び環境

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of religious studies from a sociological point of view while showing various religious cultures around the world.

MAN200EB, MAN200ED

消費者行動論

諸上 茂光

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のマーケティング戦略において、消費者がどのように商品・サービス、或はブランドなどの情報に接し、それらの情報を利用して最終的な購買行動を起こすのかを把握することは効果的な戦略の構築のためにも重要なことである。本講義では実際のマーケティング戦略の実例に触れながら消費者の認知や情報収集・態度形成・意思決定過程といった消費者行動のメカニズム、さらに、それらの処理に影響を与える外部環境要因について、社会心理学・認知心理学・経営学など学際的な視点に基づいて体系的に学習する。

【到達目標】

消費者がある製品・サービスに出会ってから実際の購買行動に至るまでの消費者の認知的・心理的特性について理解した上で、常に変化する市場や消費者動向に対応した効果的な消費者コミュニケーション戦略及びマーケティング戦略のあり方について考察・提案できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。授業内においてテーマに応じて随時ディスカッションを行ったり、リアクションペーパーの提出を求める。提出されたリアクションペーパーからいくつか良いものを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業概要
2.	消費者行動とマーケティング	マーケティング戦略における消費者心理・消費者行動の位置付け
3.	消費者の購買意思決定過程	情報入力から始まる各種意思決定モデルの紹介
4.	消費者の欲求と動機づけ	購買の動機について理解し、その調査方法について概観する
5.	消費者の知覚特性	心理学的な観点も取り入れ、消費者の知覚特性を理解
6.	消費者の情報探索と評価	消費者による商品・サービスに関する情報の探索と評価について
7.	消費者の記憶特性	広告等を通して与えられるブランド・商品情報に対する注意と記憶について
8.	消費者の態度形成と変容	消費者の評価と態度形成の過程およびその変容の仕組み
9.	消費者の関与	関与の概念の理解と、消費行動への影響について
10.	消費者行動の状況要因	状況依存的に変化する消費者の意思決定について事例を基に理解
11.	消費者の個人特性	消費者の統計学的・心理学的なセグメント分けと心理過程への影響
12.	マーケティング調査	消費者調査および市場調査の実際について
13.	対人関係と消費者行動	対人関係が消費者の情報探索行動や意思決定にもたらす影響について
14.	消費者の購買後行動	購買後行動と、ブランドロイヤリティの形成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的な事例に触れてもらうため、随時、事前課題を授業の最後に示す。この事前課題の一部が小レポートとして評価に加算される。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

『新・消費者理解のための心理学』（杉本徹雄編著、福村出版）

【成績評価の方法と基準】

小レポート類 (30%)
期末試験 (70 %)
による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討議を多く（なるべく授業の冒頭で）取り入れることとした（対面授業時）。

【Outline and objectives】

Deal with the basic concepts and principles of consumer psychology.

PRI200ED

情報科学とコミュニケーション

小川 有希子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーションを情報科学的な観点から総合的に把握し、分析することを目指す。主として情報理論、システム理論、認知科学、人工知能などの方法論を取り上げる。

【到達目標】

コミュニケーションを情報科学的な観点から分析できるようになる。また、情報理論やコンピュータ、デジタル技術の可能性と限界を理解したうえで、情報メディアが関わるコミュニケーションをデザインすることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義の第一部では、コンピュータの基本的な構造と仕組み、インターネットの基盤となっている通信のモデルや、コミュニケーションに対してより深く、また幅広くアプローチするモデルなどについて学ぶ。さらに中間論文課題提出後の本講義の第二部では、コンピュータ・メディア・ネットワークなどを基盤とするコンテンツやコミュニケーションの現場について、人工知能やコンピュータ、関連作品の最新情報を盛り込みつつ、第一部の内容や中間論文課題をふまえた講義と議論を行う。最終的には以上の内容をふまえた論文の提出が必要になる。授業中に、前回までの授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ったりもする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	授業の概要説明、情報科学へのイントロダクション
第 2 回	アナログとデジタル	アナログ情報とデジタル情報の違いについて議論する
第 3 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基本的な構造と仕組みについて学ぶ
第 4 回	通信ネットワークとセキュリティ	インターネットの基盤となっている通信のモデルについて議論する
第 5 回	情報とコミュニケーション	コンピュータで情報がどのように扱われているかを議論する
第 6 回	情報理論とコミュニケーション	コンピュータで情報がどのように伝達されているかを議論する
第 7 回	システム理論とコミュニケーション	現状のコンピュータの理論では実現不可能な事項は何かを議論する
第 8 回	中間論文課題へ向けたまとめ	最新の情報メディアに関する議論と、これまでの授業のまとめ
第 9 回	人工知能とコミュニケーション	コンピュータのプログラミングの限界について議論する
第 10 回	人間的・社会的コミュニケーション	日常のコミュニケーションの分析を、情報科学的な観点から行なう
第 11 回	音楽とコミュニケーション	音楽とコミュニケーションの関係について議論する
第 12 回	映像・広告とコミュニケーション	映像・広告とコミュニケーションの関係について議論する
第 13 回	芸術とコミュニケーション	芸術とコミュニケーションの関係について議論する
第 14 回	まとめと授業内論文	半期の授業のまとめと、それに基づいた論文執筆・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業を復習し、それをふまえて中間論文課題を提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題と中間論文課題 (50%)・最終授業内論文課題 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

情報科学の理系的側面および哲学的側面を扱う回数も数回あるので、そのことは意識しておいてください。数学を扱う回も1~2回あります。社会学ではなく、情報科学やプログラミングの観点を重視しますので、難解に感じられる回もあるかもしれませんが、デジタル機器やインターネットの基盤になっている内容ですので、深く探究してください。また、アナログ的な観点についても重視していく予定です。

【Outline and objectives】

This course mainly deals with the information theory, system theory, cognitive science and artificial intelligence.

CAR100EA

職業社会論

依田 素味

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業社会を大きな視点からとらえ、職業に就くとはどういうことかについて探ります。入門的な授業として、職業と社会のかかわりについて理解することを目的とし、自分なりの職業観を思考します。

【到達目標】

- ①職業キャリアを考える入口として、働く社会全体を俯瞰的することができる。
- ②様々な職業キャリアの在り方について概説することができる。
- ③自分自身の課題意識を明らかにし、新・社会人基礎力をキーワードとして客観的視点を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンラインの場合、設定されている時間にリアルタイム、zoomで双方向授業を実施します。前もって、レジュメをWeb上の授業支援システムにアップしますので、授業前に予習しておいてください。最終授業で、確認試験と解説だけでなく、小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	職業社会と自分自身	イントロダクション、職業と仕事
2	職業社会に関する諸定義	ライフキャリアとワークキャリア
3	社会の変遷と職業	AIの普及による職業の変化
4	雇用という職業生活Ⅰ	多様な働き方の概観
5	雇用という職業生活Ⅱ	雇用の歴史的概観
6	雇用という職業生活Ⅲ	正規雇用と非正規雇用
7	新・社会人基礎力	社会人として求められる力
8	公務員という職業生活	国や自治体で働く
9	自営という職業生活	様々な自営業者として働く
10	職業生活と地域社会	地域コミュニティとの関係
11	個人のキャリアデザイン	個人のキャリアを形成するとは
12	教育訓練	職業人生を磨くプロセス
13	職業社会の今日的課題	「働き方改革」と今後の課題
14	試験・まとめと解説	オンラインによる確認テストと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分を取り巻く職業社会に目を向け、テーマに基づき自ら課題を発見し、【レポート】として提出します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

授業内でその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ① web上で期末確認テスト 40% (最終的な全体理解の確認)
- ② 中間レポート 30% (課題に関する理解度の確認)
- ③ 授業内レポート 3回 30% (積極的な授業参加の状況評価)

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでも、学生のみならず一人一人と双方向のコミュニケーションが図れるように、個別の質問を受け付ける時間を設定します。

【その他の重要事項】

- ① 1年次から受講できる視野形成科目です。就職活動に関して情報提供は行いますが、そのためのスキルを身につけることを第一の目的とした科目ではありません。
- ② 社会学部を卒業し実際に企業で働く経験を持つ教員が、社会で職業に就くことについて講義します。

【Outline and objectives】

We will view the occupational society from wide viewpoint, and we will inquire what it means to hold an occupation.

As an introductory lesson, we aim to understand the relationship between occupation and society, and think about our own occupational views.

HSS100EA

身体論

越部 清美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物としての生きる基盤の「身体」に関する知識を広げると共に文化的存在、または社会的存在である身体の側面にも焦点をあて、身体に関する機能や意味などについて考察していく。

【到達目標】

「身体」に関する考え、知識を広げる。自己の将来を見通してのからだ・健康づくりの設計ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021年度はオンライン授業の可能性がある。詳細については学習支援システムを通じて提示する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	身体とは	健康を考える
第2回	生命について	いのちの成り立ちを見つめる
第3回	身体の構造と機能	身体の成り立ちを学ぶ
第4回	発育・発達・老化	人の一生を考える
第5回	性（1）	性とは何かを学ぶ
第6回	性（2）	異性との関係性について考える
第7回	性（3）	多様性について考える
第8回	生理学と身体（1）	身体運動の生理学的メカニズムを学ぶ
第9回	生理学と身体（2）	運動時の生理的効果（トレーニング効果）を学ぶ
第10回	環境と身体	身体と環境問題について考える
第11回	社会学と身体	社会学と身体について考える
第12回	芸術と身体	芸術と身体について考える
第13回	東洋と西洋の身体	東洋の身体観と西洋の身体観を比較する
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示されたプリント類を事前に読んでくる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

身体づくりや性について改めて深く学び考えた、と書いてくれた学生が多かった。うれしいことである。これからも、自分の身体としっかり向き合っていて生きていくという学生を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

とくに定めない。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of the body.

SOS300EB

人的資源論

惠羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人的資源論の入門書を使用して、急速な技術革新、先進国の急速な人口減少、新興市場の拡大などの変化の中で、いかに企業が人材を活用し価値を創造しようとしているのかについて、「働かせる側」および「働く側」の両方の視点から人的資源論の理論と実践についての基本的知識を学ぶ。その上で、雇用が不安定化する現代社会における働くことの意味ややりがいについて考える。

【到達目標】

人的資源管理の基本的知識を身につけるとともに、若者、女性、外国人材などの働き方について考える。それを通じて、将来のキャリア形成と問題解決に役立つ構造制度的・組織的背景への理解を深め、社会学的発想力をもてるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は4月13日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。各回の授業計画の変更がある場合、学習支援システムでその都度提示する。

課題等に対するフィードバックは、毎回および最終授業において前回まで提出されたリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	人的資源論の背景	社会変動と日本企業が直面する課題を考える
第3回	人的資源論の理論1	人事管理論・人的資源管理論をめぐる史の変遷を理解する
第4回	人的資源論の理論2	グローバル化と戦略的人的資源管理について理解する
第5回	人的資源論の展開	タレントマネジメント、人材争奪と人材定着について考察する
第6回	ジェンダー・ダイバーシティ	ジェンダー・ダイバーシティ論とその背景、日本企業における女性の働き方について考察する
第7回	雇用管理	日本型雇用管理の特質とその変容、採用・配置・離退職、教育訓練について考察する
第8回	賃金管理	賃金管理について理解し、日本企業における賃金制度の変遷について学ぶ
第9回	労働時間管理	「働き方改革」における労働時間管理の変容と労使の考え方について学ぶ
第10回	若者の働きかた	雇用のミスマッチ、非正規化、就労意識の変化、若者の働き方の現状と将来的展望について考察する
第11回	女性の働きかた	日本型雇用における女性の働き方について考察する

- 第12回 公務員の働きかた 公務部門の基本的性格、公務改革と公務労働の変質について考察する
- 第13回 外国人材の拡大と課題 外国人専門家や高度人材、技能人材、留学生に関する外国人労働者政策と課題について考察する
- 第14回 まとめ 授業のまとめと期末試験の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、テキストや参考書の指定された箇所を各自で読み、キーワードの意味や疑問点などを調べておく。また、関連するニュースなどをチェックする。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

守屋貴司・中村艶子・橋場俊展編著（2018）『価値創発（EVP）時代の人的資源管理 Industry4.0 の新しい働き方・働き方』ミネルヴァ書房、2800円

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50%）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当のため非該当

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（パソコン等、オンライン講義に対応できるもの）

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて適宜連絡するので、こまめに確認すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of basic ideas of human resources theory through the use of an introductory textbook.

PSY100EA

心理学 I

山下 大厚

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の扱う領域は広く専門ごとに印象も大きく異なり全体像の把握には到底及ぶべくもないが、本講義では心理学のいくつかの領域を概観し、基本的な問題設定、概念、理論について学ぶとともに、その歴史的・社会的背景を含めた心理学的な観点からも学習する。

【到達目標】

学術心理学と、通俗心理学、素朴心理学、心理技術（学）を区別し、心理学の基本的な概念や考え方について簡略に説明できる。心理学の発展とその社会的広がりについて時代背景と関連付けて科学的な捉え方ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。振り返りテストや小レポートで学習状況を確認するが、その都度、講評し、疑問や感想にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の展開予定と受講上の留意事項
第2回	学術心理学の諸領域	代表的な対象領域と諸学派について
第3回	知覚の心理学	心の機能としての知覚/錯覚
第4回	記憶の心理学	記憶の研究史/記憶論争とその背景
第5回	学習の心理学	条件付け、強化の行動主義/学習理論
第6回	認知・思考の心理学	「認知」とは何か、「思考」とは何か
第7回	知能の心理学	知能検査/知能神話の誕生
第8回	個人差の心理学	平均からのズレとしての個人差
第9回	パーソナリティの心理学	「人格」はどう分析されてきたか
第10回	発達心理学	発達の発見/問題としての発達
第11回	エソロジーと進化心理学	動物の心と心の「進化」
第12回	同調/服従の心理学	凡庸な悪/代理人状態/帰属の誤り
第13回	感情・意識の心理学	「感情」と「意識」の研究の系譜
第14回	脳神経科学と心理学	脳波と心/脳画像と心

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は基礎心理学の概論をベースに、なるべく難解にならないように進めるが、漫然と受け身で聞いて理解できる内容ばかりではない。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。教材の予習、振り返りテストを活用した復習により理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

指定はないが、数ある心理学概論書から何か1冊手に取って見てはどうか、

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：振り返りテスト（50%）と小レポート（50%）

評価の基準：振り返りテストは、学習内容の確認、小レポートについては、そのときのテーマを適切に理解し、自らの意見や疑問が述べられているか評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年オンライン授業では様々な要望があり、それに応えようと努めたが、大半の受講生は当初の緊張の糸が、いつの間にか切れてしまったようにみえた。今後も改善に動じむが、自らの学習姿勢についても改めて点検して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

この科目は心理学Ⅱと併せて履修することが望ましい。質問などはメールや学習支援システムの掲示板で受け付けます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic problem setting, concepts and theories of psychology. The goals of this course are to be able to understand the development of psychology from the viewpoint of historical and social contexts.

PSY200EA

心理学Ⅱ

山下 大厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心や精神の問題は、個人の失調や病理とみなされがちだが、社会的、文化的構造の問題が滲み出たものだともいわれる。いくつかの事象の検討を通じて、このように指摘される根拠や歴史の経緯、背景について理解を深める。

【到達目標】

心や精神の障害・病理の処遇にかかわる社会的・歴史的な事件や現代の専門的制度的枠組みなどについて、基本的な知識を持ち理解すること。これらの諸問題に、自ら興味を持ち今後の動向にも関心を持つこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。振り返りテストや小レポートで学習状況を確認するが、その都度、講評し、疑問や感想にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の展開予定と受講上の留意事項
第2回	心理主義とグローバル化	国際診断基準/エビデンス/向精神薬
第3回	メンタルヘルスと予防精神医学	労災としてのうつ病/ストレス・チェック
第4回	期待される行動療法と認知療法について	精神分析、薬物療法に代わる心理療法としての側面と、その批判的検討
第5回	狂気の歴史と反精神医学	その問題提起をどう引き継ぐか
第6回	バザリアの精神病院廃絶の挑戦	イタリア・トリエステの脱施設化と地域精神保健
第7回	わが国の精神病院問題	宇都宮事件/社会的入院/身体拘束
第8回	フェミニズムと精神分析	フェミニストはフロイトをどう読むか
第9回	優生思想と精神病患者	生きるに値しない命とは
第10回	発達障害が提起するもの	自閉症スペクトラムとアスペルガー
第11回	性・心・身体	性同一性障害/ジェンダーと心の病
第12回	戦争神経症と PTSD	歴史的背景と現代における諸問題
第13回	夢について	フロイト、ユングの夢研究/夢の仕事
第14回	司法と精神医学	保安処分と医療観察法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

難解なこともかみ砕いて説明していくが、漫然と受け身で聞いて理解できる内容ばかりではない。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。教材の予習、振り返りテストを活用した復習により理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

必要があれば、その都度に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：振り返りテスト（50%）と小レポート（50%）
評価の基準：振り返りテストは、学習内容の確認、小レポートについては、そのときのテーマを適切に理解し、自らの意見や疑問が述べられているか評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年のオンライン授業では様々な要望があり、それに応えようと努めたが、大半の受講生は当初の緊張の糸が、いつの間にか切れてしまったようにみえた。今後も改善に動むが、自らの学習姿勢についても改めて点検して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

この科目は心理学Ⅰと併せて履修することが望ましい。質問などはメールや学習支援システムの掲示板で受け付けます。

【Outline and objectives】

This course introduces the problematic raised by anti/critical psychiatry and critical history of psychiatry to students taking this course.

SOC300EC

数理社会学Ⅰ

斎藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の一分野である。そこでは、派閥ができるとそれを崩すのはなぜ難しいかなどの問いを可能な限りシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるならば、単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、主として社会関係や人間関係がつくる「構造」を扱ういくつかのモデルを紹介することで、社会現象を理論的に説明する方法を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探すと思考方法の基礎を習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。学習支援システムを活用して課題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	数理社会学と「モデル」について紹介する
2	「関係」の居心地とバランス(1)	関係のフォーマルな捉え方とハイダールのバランス理論について説明する
3	「関係」の居心地とバランス(2)	バランス理論と均衡概念について説明する
4	派閥が維持される時(1)	グラフ理論の基礎概念を導入する
5	派閥が維持される時(2)	バランス理論のモデルを導入する
6	派閥が維持される時(3)	モデルの展開と含意について説明する
7	弱いつながりの強さ(1)	紐帯と社会の統合について論じる
8	弱いつながりの強さ(2)	グラノヴェッターの「弱い紐帯の強さ」理論を導入する。
9	弱いつながりの強さ(3)	「弱い紐帯」とネットワークの特徴のとらえ方について説明する
10	弱いつながりの強さ(4)	グラノヴェッターの「弱い紐帯の強さ」理論の検証について論じる
11	つながりの産物としての権力(1)	「支配関係」がネットワークでどのような形をとるか考える
12	つながりの産物としての権力(2)	「支配関係」ネットワークに行列による表現を与える方法を学ぶ
13	つながりの産物としての権力(3)	権力（勢力）構造の表現について考える
14	構造をとらえるということ	授業のふり返りを通して「構造」について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・教士・三隅・渡辺（編）2004『社会をくモデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

【Outline and objectives】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models of the "structure" emerging from our daily interactions.

SOC300EC

数理社会学Ⅱ

齋藤 友里子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の一分野である。ここでは、人はどのように社会をイメージするのかなどの問いをシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるなら単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、制度の維持と社会過程を扱うモデルの紹介を通して、社会現象を理論的に説明する方法（とその多様性）を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探すとこの思考方法の適用例を学ぶこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。学習支援システムを活用して課題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	フォーマルセオリーの役割について紹介する
2	「世代交代」と制度の安定(1)	社会的分業と年齢階梯制について導入する
3	「世代交代」と制度の安定(2)	世代間の役割分担のシステムである「ガダ」のモデル化を説明する
4	「世代交代」と制度の安定(3)	ガダのモデルをもとに制度の安定について考える
5	きょうだいはなぜ結婚できないか(1)	インセスト・タブーへの理論的なアプローチについて紹介する
6	きょうだいはなぜ結婚できないか(2)	White (1963) のモデルについて解説する
7	きょうだいはなぜ結婚できないか(3)	親族システムによる秩序が維持されるための条件について考える
8	きょうだいはなぜ結婚できないか(4)	婚姻と出自をめぐるルールをどう表現するかを考える
9	きょうだいはなぜ結婚できないか(5)	White (1963) モデルの含意のいくつかを解説する
10	なぜ「中流」が多いのか(1)	社会のイメージに関する研究を紹介する
11	なぜ「中流」が多いのか(2)	人との出会いで社会イメージが形成されるというファラロのアイデアを紹介する
12	なぜ「中流」が多いのか(3)	ファラロ (1973) のモデルについて解説する
13	なぜ「中流」が多いのか(4)	社会イメージのパターンや格差の認識についてモデルから導出する
14	社会学と数理モデル	社会学と数理モデルの関係について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・数土・三隅・渡辺（編）2004『社会をくモデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

【Outline and objectives】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models for the maintenance of social institutions and its products.

LANs100EA

スペイン語初級A

乾 隆政、増山 久美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。発音や辞書の使い方のほか、規則・不規則動詞の活用、様々な時制の用法等、スペイン語基礎文法の学習に加え、スペイン語圏の文化等についても紹介する。

【到達目標】

- ・簡易な挨拶ができる
- ・主格人称代名詞と動詞の関係を理解し表現できる
- ・直説法現在の動詞が活用でき、その用法を理解している
- ・目的格人称代名詞を伴う表現を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

■■重要：オンラインでの開講に伴う具体的な受講方法、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音	アルファベット、母音、子音、二重母音と三重母音、アクセントの位置
第 2 回	1 課:Mira, hay una cafetería aquí.	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、hay の表現、形容詞
第 3 回	2 課:¿ Hablas español?	主格人称代名詞、直説法現在規則活用
第 4 回	2 課:¿ Hablas español?	文の組み立て、所有形容詞・前置形、estar と ser の用法
第 5 回	3 課:Soy japonés.	estar と ser の用法、指示形容詞
第 6 回	4 課:Voy a la Univ.	ir の直説法現在、所有形容詞・後置形
第 7 回	4 課:Voy a la universidad en tren.	hay と estar 存在・所在表現まとめ、主な前置詞
第 8 回	5 課:Quiero comer paella.	直説法現在不規則活用・一人称単数不規則型・綴り字変化
第 9 回	5 課:Quiero comer paella.	querer, poder 語幹母音変化動詞、tener, venir, decir
第 10 回	6 課:Me gusta mucho...	目的格人称代名詞、gustar 型構文
第 11 回	6 課:Me gusta mucho la música latina.	前置詞の後の人称代名詞、gustar 型動詞、代名詞の重複
第 12 回	7 課:Viajé a España...	直説法点過去規則活用
第 13 回	7 課:Viajé a España...	直説法点過去不規則、不定語と否定語
第 14 回	ここまでのまとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリター ― スペイン語入門コース ―』
j Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019 年 1 月 30 日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60 %、期末試験・課題：40 %とするが、オンラインでの開講に伴い変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish from the most basic like pronunciation, conjugations of verbs, etc. even the different verb tenses. It also introduces you to the cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100EA

スペイン語初級A

乾 隆政、増山 久美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。発音や辞書の使い方のほか、規則・不規則動詞の活用、様々な時制の用法等、スペイン語基礎文法の学習に加え、スペイン語圏の文化等についても紹介する。

【到達目標】

- ・簡易な挨拶ができる ・主格人称代名詞と動詞の関係を理解し表現できる
- ・直説法現在の動詞が活用でき、その用法を理解している
- ・目的格人称代名詞を伴う表現を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

■■重要：オンラインでの開講に伴う具体的な受講方法、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音	アルファベット、母音、子音、二重母音と三重母音、アクセントの位置
第 2 回	1 課:Mira, hay una cafetería aquí.	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、hay の表現、形容詞
第 3 回	2 課:¿ Hablas español?	主格人称代名詞、直説法現在規則活用
第 4 回	2 課:¿ Hablas español? 3 課:Soy japonés.	文の組み立て、所有形容詞・前置形、estar と ser の用法
第 5 回	3 課:Soy japonés.	estar と ser の用法、指示形容詞
第 6 回	4 課:Voy a la Univ.	ir の直説法現在、所有形容詞・後置形
第 7 回	4 課:Voy a la universidad en tren.	hay と estar 存在・所在表現まとめ、主な前置詞
第 8 回	5 課:Quiero comer paella.	直説法現在不規則活用・一人称単数不規則型・綴り字変化
第 9 回	5 課:Quiero comer paella.	querer, poder 語幹母音変化動詞、tener, venir, decir
第 10 回	6 課:Me gusta mucho...	目的格人称代名詞、gustar 型構文
第 11 回	6 課:Me gusta mucho la música latina.	前置詞の後の人称代名詞、gustar 型動詞、代名詞の重複
第 12 回	7 課:Viajé a España...	直説法点過去規則活用
第 13 回	7 課:Viajé a España...	直説法点過去不規則、不定語と否定語
第 14 回	ここまでのまとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストリレーター スペイン語入門コース ー』
j Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019 年 1 月 30 日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、オンラインでの開講に伴い変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish from the most basic like pronunciation, conjugations of verbs, etc. even the different verb tenses. It also introduces you to the cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100EA

スペイン語初級A

松井 賢治、杉守 慶太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。発音や辞書の使い方のほか、規則・不規則動詞の活用、様々な時制の用法等、スペイン語基礎文法の学習に加え、スペイン語圏の文化等についても紹介する。

【到達目標】

- ・簡易な挨拶ができる ・主格人称代名詞と動詞の関係を理解し表現できる
- ・直説法現在の動詞が活用でき、その用法を理解している
- ・目的格人称代名詞を伴う表現を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

■■重要：オンラインでの開講に伴う具体的な受講方法、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音	アルファベット、母音、子音、二重母音と三重母音、アクセントの位置
第 2 回	1 課:Mira, hay una cafetería aquí.	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、hay の表現、形容詞
第 3 回	2 課:¿ Hablas español?	主格人称代名詞、直説法現在規則活用
第 4 回	2 課:¿ Hablas español? 3 課:Soy japonés.	文の組み立て、所有形容詞・前置形、estar と ser の用法
第 5 回	3 課:Soy japonés.	estar と ser の用法、指示形容詞
第 6 回	4 課:Voy a la Univ.	ir の直説法現在、所有形容詞・後置形
第 7 回	4 課:Voy a la universidad en tren.	hay と estar 存在・所在表現まとめ、主な前置詞
第 8 回	5 課:Quiero comer paella.	直説法現在不規則活用・一人称単数不規則型・綴り字変化
第 9 回	5 課:Quiero comer paella.	querer, poder 語幹母音変化動詞、tener, venir, decir
第 10 回	6 課:Me gusta mucho...	目的格人称代名詞、gustar 型構文
第 11 回	6 課:Me gusta mucho la música latina.	前置詞の後の人称代名詞、gustar 型動詞、代名詞の重複
第 12 回	7 課:Viajé a España...	直説法点過去規則活用
第 13 回	7 課:Viajé a España...	直説法点過去不規則、不定語と否定語
第 14 回	ここまでのまとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストリレーター スペイン語入門コース ー』
j Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019 年 1 月 30 日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、オンラインでの開講に伴い変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish from the most basic like pronunciation, conjugations of verbs, etc. even the different verb tenses. It also introduces you to the cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100EA

スペイン語初級A

松井 賢治、杉守 慶太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。発音や辞書の使い方のほか、規則・不規則動詞の活用、様々な時制の用法等、スペイン語基礎文法の学習に加え、スペイン語圏の文化等についても紹介する。

【到達目標】

- ・簡易な挨拶ができる
- ・主格人称代名詞と動詞の関係を理解し表現できる
- ・直説法現在の動詞が活用でき、その用法を理解している
- ・目的格人称代名詞を伴う表現を理解している

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

■■重要：オンラインでの開講に伴う具体的な受講方法、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。■■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音	アルファベット、母音、子音、二重母音と三重母音、アクセントの位置
第 2 回	1 課:Mira, hay una cafetería aquí.	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、hay の表現、形容詞
第 3 回	2 課:¿ Hablas español?	主格人称代名詞、直説法現在規則活用
第 4 回	2 課:¿ Hablas español? 3 課:Soy japonés.	文の組み立て、所有形容詞・前置形、estar と ser の用法
第 5 回	3 課:Soy japonés.	estar と ser の用法、指示形容詞
第 6 回	4 課:Voy a la Univ.	ir の直説法現在、所有形容詞・後置形
第 7 回	4 課:Voy a la universidad en tren.	hay と estar 存在・所在表現まとめ、主な前置詞
第 8 回	5 課:Quiero comer paella.	直説法現在不規則活用・一人称単数不規則型・綴り字変化
第 9 回	5 課:Quiero comer paella.	querer, poder 語幹母音変化動詞、tener, venir, decir
第 10 回	6 課:Me gusta mucho...	目的格人称代名詞、gustar 型構文
第 11 回	6 課:Me gusta mucho la música latina.	前置詞の後の人称代名詞、gustar 型動詞、代名詞の重複
第 12 回	7 課:Viajé a España...	直説法点過去規則活用
第 13 回	7 課:Viajé a España...	直説法点過去不規則、不定語と否定語
第 14 回	ここまでのまとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的にを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストリレーター スペイン語入門コースー』
j Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019 年 1 月 30 日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、オンラインでの開講に伴い変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish from the most basic like pronunciation, conjugations of verbs, etc. even the different verb tenses. It also introduces you to the cultures of the Spanish-speaking world.

LANs100EA

スペイン語初級B

乾 隆政、増山 久美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。春学期に学習した文法事項や語彙、様々な表現をさらに一歩進め、スペイン語の基礎文法を概観する。

【到達目標】

- ・現在形不規則活用、目的格人称代名詞を理解している
- ・点過去と線過去を区別して表現できる
- ・完了表現を理解している
- ・再帰動詞、無人称文、比較、受身表現を習得している
- ・直説法未来・過去未来の活用とその用法を理解している
- ・接続法の用法、命令文を理解し、動詞を活用できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

■オンライン授業となった場合、詳細は各教員からの指示を参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期のおさらい	春学期の文法事項の復習
第 2 回	8 課:No pude ir...	直説法点過去不規則、使役・知覚表現
第 3 回	8 課:No pude ir... 9 課:Pasaba las...	直説法点過去・線過去
第 4 回	9 課:Pasaba las...	点過去と線過去、比較
第 5 回	10 課:Me levanto...	再帰動詞、基本・派生用法
第 6 回	10 課:Me levanto...	再帰動詞の表現
第 7 回	11 課:¿ Has estado...	過去分詞、直説法現在完了
第 8 回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	関係詞
第 9 回	12 課:Iremos de...	ここまでのおさらい
第 10 回	12 課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法未来
第 11 回	13 課:Te recomiendo...	直説法過去未来
第 12 回	13 課:Te recomiendo que visites el Parque Güell.	接続法の活用と用法
第 13 回	14 課:Oiga, por favor.	接続法現在・過去、肯定命令
第 14 回	14 課:Oiga, por favor.	肯定命令と否定命令
第 14 回	ここまでのまとめ	秋学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的にを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストリレーター スペイン語入門コースー』
j Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019 年 1 月 30 日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、オンラインでの開講に伴い変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish. Through what they learned during the first semester, students will be able to deepen their knowledge of Spanish both vocabulary and basic grammar.

LANs100EA

スペイン語初級B

乾 隆政、増山 久美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。春学期に学習した文法事項や語彙、様々な表現をさらに一歩進め、スペイン語の基礎文法を概観する。

【到達目標】

- ・現在形不規則活用、目的格人称代名詞を理解している
- ・点過去と線過去を区別して表現できる ・完了表現を理解している
- ・再帰動詞、無人称文、比較、受身表現を習得している
- ・直説法未来・過去未来の活用とその用法を理解している
- ・接続法の用法、命令文を理解し、動詞を活用できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら
<https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

■オンライン授業となった場合、詳細は各教員からの指示を参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期のおさらい	春学期の文法事項の復習
第 2 回	8 課:No pude ir...	直説法点過去不規則、使役・知覚表現
第 3 回	8 課:No pude ir... 9 課:Pasaba las...	直説法点過去・線過去
第 4 回	9 課:Pasaba las...	点過去と線過去、比較
第 5 回	10 課:Me levanto...	再帰動詞、基本・派生用法
第 6 回	10 課:Me levanto...	再帰動詞の表現
第 7 回	11 課:¿ Has estado...	過去分詞、直説法現在完了
第 8 回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	関係詞 ここまでのおさらい
第 9 回	12 課:Iremos de...	直説法未来
第 10 回	12 課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法過去未来
第 11 回	13 課:Te recomiendo...	接続法の活用と用法
第 12 回	13 課:Te recomiendo que visites el Parque Güell. 14 課:Oiga, por favor.	接続法現在・過去、肯定命令
第 13 回	14 課:Oiga, por favor.	肯定命令と否定命令
第 14 回	ここまでのおさらい	秋学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリターー スペイン語入門コースー』
j Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019 年 1 月 30 日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、オンラインでの開講に伴い変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish. Through what they learned during the first semester, students will be able to deepen their knowledge of Spanish both vocabulary and basic grammar.

LANs100EA

スペイン語初級B

松井 賢治、杉守 慶太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。春学期に学習した文法事項や語彙、様々な表現をさらに一歩進め、スペイン語の基礎文法を概観する。

【到達目標】

- ・現在形不規則活用、目的格人称代名詞を理解している
- ・点過去と線過去を区別して表現できる ・完了表現を理解している
- ・再帰動詞、無人称文、比較、受身表現を習得している
- ・直説法未来・過去未来の活用とその用法を理解している
- ・接続法の用法、命令文を理解し、動詞を活用できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら
<https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

■オンライン授業となった場合、詳細は各教員からの指示を参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期のおさらい	春学期の文法事項の復習
第 2 回	8 課:No pude ir...	直説法点過去不規則、使役・知覚表現
第 3 回	8 課:No pude ir... 9 課:Pasaba las...	直説法点過去・線過去
第 4 回	9 課:Pasaba las...	点過去と線過去、比較
第 5 回	10 課:Me levanto...	再帰動詞、基本・派生用法
第 6 回	10 課:Me levanto...	再帰動詞の表現
第 7 回	11 課:¿ Has estado...	過去分詞、直説法現在完了
第 8 回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	関係詞 ここまでのおさらい
第 9 回	12 課:Iremos de...	直説法未来
第 10 回	12 課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法過去未来
第 11 回	13 課:Te recomiendo...	接続法の活用と用法
第 12 回	13 課:Te recomiendo que visites el Parque Güell. 14 課:Oiga, por favor.	接続法現在・過去、肯定命令
第 13 回	14 課:Oiga, por favor.	肯定命令と否定命令
第 14 回	ここまでのおさらい	秋学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的に行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストレリターー スペイン語入門コースー』
j Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019 年 1 月 30 日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、オンラインでの開講に伴い変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish. Through what they learned during the first semester, students will be able to deepen their knowledge of Spanish both vocabulary and basic grammar.

LANs100EA

スペイン語初級B

松井 賢治、杉守 慶太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。春学期に学習した文法事項や語彙、様々な表現をさらに一歩進め、スペイン語の基礎文法を概観する。

【到達目標】

- ・現在形不規則活用、目的格人称代名詞を理解している
- ・点過去と線過去を区別して表現できる
- ・完了表現を理解している
- ・再帰動詞、無人称文、比較、受身表現を習得している
- ・直説法未来・過去未来の活用とその用法を理解している
- ・接続法の用法、命令文を理解し、動詞を活用できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら
<https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていく。

■オンライン授業となった場合、詳細は各教員からの指示を参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期のおさらい	春学期の文法事項の復習
第 2 回	8 課:No pude ir...	直説法点過去不規則、使役・知覚表現
第 3 回	8 課:No pude ir... 9 課:Pasaba las...	直説法点過去・線過去
第 4 回	9 課:Pasaba las...	点過去と線過去、比較
第 5 回	10 課:Me levanto...	再帰動詞、基本・派生用法
第 6 回	10 課:Me levanto...	再帰動詞の表現
第 7 回	11 課:¿ Has estado...	過去分詞、直説法現在完了
第 8 回	11 課:¿ Has estado alguna vez en España?	関係詞 ここまでのおさらい
第 9 回	12 課:Iremos de...	直説法未来
第 10 回	12 課:Iremos de excursión a Segovia.	直説法過去未来
第 11 回	13 課:Te recomiendo...	接続法の活用と用法
第 12 回	13 課:Te recomiendo que visites el Parque Güell. 14 課:Oiga, por favor.	接続法現在・過去、肯定命令
第 13 回	14 課:Oiga, por favor.	肯定命令と否定命令
第 14 回	ここまでのおさらい	秋学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生諸君は課題・宿題のほか、テキストの本文や練習問題の予習・復習を積極的にを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

栗林ゆき絵、他、著『新・エストリレーター スペイン語入門コース 1』
i Mira, la nueva estrellita! -curso de español elemental- (朝日出版社)
2019 年 1 月 30 日改訂初版発行

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、オンラインでの開講に伴い変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて練習問題をこなすことで、授業の進捗を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻や欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces students the fundamental basis of the communication in Spanish. Through what they learned during the first semester, students will be able to deepen their knowledge of Spanish both vocabulary and basic grammar.

LANs200EA

スペイン語中級 1

杉守 慶太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級で身につけたスペイン語をさらに向上させることを目的とします。とくにスペイン語の読解力（+リスニング力）を身につけることを目標とします。文法を段階的に復習しながら、同時に易しい文章から難しい文章へと進んでいきます。授業では、スペイン語圏の国々についての知識と理解を深めることができます。

なお、オンラインでの開講となった場合、詳細は授業開始までに学習支援システムで提示します。

【到達目標】

スペイン語の基礎文法を理解したうえで文章を読むことができる。スペイン語圏の国々の特徴について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら
<https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

■オンライン授業となった場合、詳細は授業日までに学習支援システムで提示する。

週に一度の授業なので、十分予習・復習に努めてもらいたい。基本的にテキストに沿って授業を進めていきます。テキストの他に、スペインの新聞記事などを使用する予定です。スペイン語を学びながらスペインやラテンアメリカ諸国の歴史・文化・社会について学んでいきましょう。なお、頻繁に映像・音声教材（映画、ニュース・ドキュメンタリー番組など）を利用する予定です。できるだけ参加者の意見や要望を取り入れながら授業を運営していきます。授業内で行った試験については、その次の授業で講評や解説を行います。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。少しでも興味があったら気軽に受講してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業説明
第 2 回	第 1 課 ラテンアメリカ	読解、文法：直接法現在
第 3 回	第 2 課 メキシコ①	読解、文法：比較
第 4 回	第 3 課 メキシコ②	読解、文法：関係代名詞
第 5 回	第 4 課 メキシコ③	読解、文法：直接法点過去
第 6 回	第 5 課 グアテマラ	読解、文法：再帰動詞
第 7 回	第 6 回までのまとめ	中間試験
第 8 回	第 6 課 エルサルバドル	読解、文法：直接法線過去
第 9 回	第 7 課 ホンジュラス	読解、文法：過去分詞
第 10 回	第 8 課 ニカラグア	読解、文法：現在完了形
第 11 回	第 9 課 コスタリカ	読解、文法：過去完了形
第 12 回	第 10 課 パナマ	読解、文法：現在分詞
第 13 回	第 12 回までのまとめ	期末試験
第 14 回	第 11 課キューバ 前期のまとめ	読解、文法：接続詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習（テキストの文章の和訳、内容の確認）本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

国本伊代ほか、『ラテンアメリカ旅行記』（弘学社）。その他必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、二度の試験（中間 [40%]、期末 [40%]）と平常点（[20%]）：レポート、授業への参加度等）により総合的に評価する。

オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する。詳細は授業開始までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に応じて授業の進捗を調整する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students enhance the skills developed in Basic Spanish. Students will be able to gain knowledge and understanding of Spanish speaking countries.

LANs200EA

スペイン語中級2

乾 隆政

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級で身につけたスペイン語をさらに伸ばしつつ、実際に使ってみることを第一義とします。ことばはあくまでも道具ですから、使ってこそその価値があり、使うことで新たな出会いや知識の習得へと繋がるのです。授業では、スペイン語のリスニングや読解に必要な既習の文法事項の復習と未習の文法事項の学習、語彙の確認をおこなった上で、会話文や読み物の内容を楽しみます。

【到達目標】

- ・辞書を使いながら新聞の見出しを理解できる
- ・文章の読解力、リスニング能力をさらに高める
- ・再帰動詞の表現や目的格人称代名詞が理解できる
- ・現在完了や分詞構文の理解・関係詞、点過去や線過去の表現が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、テキストに入る前のウォーミングアップとして、毎回スペイン新聞各紙の見出しから最新ニュースを読み解き、その後テキストを使用します。
■■重要：オンラインでの開講に伴う具体的な受講方法、各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。■■■

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	1. Autopresentación	直接法現在、se を使った無主語文
第2回	1. Autopresentación	El español: lengua viva.
第3回	2. En una cafetería	再帰動詞
第4回	2. En una cafetería	La vida de un universitario
第5回	3. Contemplación de...	現在完了
第6回	3. Contemplación de...	Hoy ha sido un día precioso.
第7回	ここまでのおさらい	3 課までのおさらい
第8回	4. Ir de compras	目的格人称代名詞
第9回	4. Ir de compras	La fiesta de cumpleaños de María
第10回	5. Sushi en...	現在分詞
第11回	5. Sushi en...	Tertulia de amigos
第12回	6. El fútbol	点過去・線過去・過去完了
第13回	6. El fútbol	Felipe II, el Prudente
第14回	春学期のまとめ	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ぜひ予習の徹底を！ 外国語を理解する喜びと新たな情報を得る満足感を味わうためには語彙を増やすための不断の努力と繰り返し“読むこと”が不可欠です。また予習をすることで、何が理解できなかったかを把握することもできます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

本間芳江、ほか著【会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語】Ejercicios prácticos de conversación e interpretación español / japonés — Nivel intermedio — (2020年、三修社) その他必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、オンラインでの開講に伴い変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて必要な文法事項の解説を行います。既習・未習を問わず、文法や構文、語彙等のあらゆる疑問は放置せずに積極的に質問して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻すや欠席日数が授業日数の3分の1を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

In this course the students will develop once again their linguistic skills of Spanish that they have learned during the Elementary Course. Language is a tool, so we should use it to obtain our purpose. Throughout the course, we will review the grammatical elements learned so that we can enjoy the content of the readings.

LANs200EA

スペイン語中級3

杉守 慶太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期同様、初級で身につけたスペイン語をさらに向上させることを目的とする。とくにスペイン語の読解力（+リスニング力）を身につけることを目標とする。文法を段階的に復習しながら、同時に易しい文章から難しい文章へと進んでいきます。授業では、スペイン語圏の国々についての知識と理解を深めることができます。

■オンライン授業となった場合、詳細は授業日までに学習支援システムで提示します。

【到達目標】

スペイン語の基礎文法を理解したうえで文章を読むことができる。スペイン、ラテンアメリカ諸国の特徴について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

■オンライン授業となった場合、詳細は授業日までに学習支援システムで提示する。

週に一度の授業なので、十分予習・復習に努めてもらいたい。基本的にテキストに沿って授業を進めていきます。スペイン語を学びながらスペインやラテンアメリカ諸国について学んでいきましょう。なお、頻繁に映像・音声教材（映画、ニュース・ドキュメンタリー番組など）を利用する予定です。できるだけ参加者の意見や要望を取り入れながら授業を運営していきます。授業内で行った試験については、その次の授業で講評や解説を行います。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。少しでも興味があったら気軽に受講してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業説明
第2回	第13課 ベネズエラ	読解、文法：不定詞
第3回	第14課 コロンビア	読解、文法：直接法未来
第4回	第15課 エクアドル	読解、文法：過去未来
第5回	第16課 ベルー①	読解、文法：再帰動詞
第6回	第17課 ベルー②	読解、文法：人称代名詞
第7回	第6回までのまとめ	中間試験
第8回	第18課 ボリビア	読解、文法：現在分詞
第9回	第19課 チリ	読解、文法：現在分詞
第10回	第20課 アルゼンチン	読解、文法：過去未来
第11回	第21課 ウルグアイ	読解、文法：接続法現在
第12回	第22課 パラグアイ	読解、文法：接続法過去
第13回	第12回までのまとめ	期末試験
第14回	第23課 ブラジル 後期のまとめ	読解、文法：接続法の表現 後期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習（テキストの文章の和訳、内容の確認）本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

国本伊代ほか、『ラテンアメリカ旅行記』（弘学社）。その他必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、二度の試験（中間 [40%]、期末 [40%]）と平常点（[20%]：レポート、授業への参加度等）により総合的に評価する。オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する。詳細は授業開始までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に応じて授業の進捗を調整する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students enhance the skills developed in Basic Spanish. Students will be able to gain knowledge and understanding of Spanish speaking countries.

LANs200EA

スペイン語中級4

乾 隆政

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級、さらには春学期に身につけたスペイン語をさらに伸ばしつつ、実際に使ってみることを第一義とします。ことばはあくまでも道具ですから、使ったことその価値があり、使うことで新たな出会いや知識の習得へと繋がるのです。授業では、スペイン語のリスニングや読解に必要な既習の文法事項の復習と未習の文法事項の学習、語彙の確認をおこなった上で、会話文や読み物の内容を楽しみます。

【到達目標】

- ・辞書を使いながら新聞の見出しを理解できる
- ・文章の読解力、リスニング能力をさらに高める
- ・比較級、完了形、過去形等の表現が理解できる
- ・接続法の表現の理解を深める ・命令文や条件文が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、テキストに入る前のウォーミングアップとして、毎回スペイン新聞各紙の見出しから最新ニュースを読み解き、その後テキストを使用します。■授業計画は初回授業時に受講生と討議の上で大筋を決定する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	7. En el tren	三人称複数の無主語文
第 2 回	7. / 8. En una posada...	Una experiencia... 未来・過去未来
第 3 回	8. En una posada...	Evolución de la población española
第 4 回	9. El Santuario...	受身 (ser 受身と再帰受身)
第 5 回	9. / 10. En un bar	La almadraba... gustar 型構文
第 6 回	10. En un bar	La afición de Margarita al cine
第 7 回	ここまでのおさらい	10 課までのおさらい
第 8 回	11. Una anecdota...	接続法現在
第 9 回	11. / 12. El tren bala	Paseo por... 接続法、比較級
第 10 回	12. El tren bala	Excursión a Monjuic
第 11 回	13. Cómo puedo ir...	命令文
第 12 回	13. / 14. Llamada...	Libro de gramática inglesa 条件文
第 13 回	14. / 15. En el Templo...	Las vacac. 接続法過去・過去完了
第 14 回	秋学期のまとめ	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生諸君には予習を徹底してもらいたい。外国語を理解する喜びと新たな情報を得る満足感を味わうためには語彙を増やすための不断の努力と繰り返し“読むこと”が不可欠です。また予習によって何が理解できなかったかを把握することもできます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

本間芳江、ほか著【会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語】Ejercicios prácticos de conversación e interpretación español / japonés — Nivel intermedio — (2020 年、三修社) その他必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、課題・小テスト・平常点：60%、期末試験・課題：40%とするが、オンラインでの開講に伴い変更が生ずる場合は担当教員が指示する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度に応じて必要な文法事項の解説を行います。既習・未習を問わず、分からない文法、構文、語彙等の疑問は放置せずに質問して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて映像や音声を活用する。

【その他の重要事項】

遅刻、欠席日数が授業日数の 3 分の 1 を上回るなど、正当な理由なく欠席、遅刻、早退が著しく多い場合は単位を認めないことがあります。

【Outline and objectives】

In this course the students will develop once again their linguistic skills of Spanish that they have learned during the Elementary Course and the first semester. Language is a tool, so we should use it to obtain our purpose. Throughout the course, we will review the grammatical elements learned so that we can enjoy the content of the readings.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

國井 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながらスポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。(授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。)

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

國井 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I（補講）

國井 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

越部 清美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

越部 清美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

清水 貴司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

清水 貴司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

高梨 泰彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

高梨 泰彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

永嶋 秀敏

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

永嶋 秀敏

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

平澤 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

平澤 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

星 貴洋

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

天野 勝弘

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

天野 勝弘

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

堀籠 佳宏

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第2回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

宮下 信一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - I

宮下 信一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える論理的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る。）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明と担当教員の確認
第 2 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

國井 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

國井 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II (補講)

國井 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。(授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る)

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料 (プリント) を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する。

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

越部 清美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。(授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る)

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料 (プリント) を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

越部 清美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

清水 貴司

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

清水 貴司

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

高梨 泰彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

高梨 泰彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

永嶋 秀敏

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

永嶋 秀敏

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

平澤 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

平澤 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

星 貴洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

天野 勝弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

天野 勝弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

堀籠 佳宏

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

宮下 信一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第 2 回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第 3 回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第 4 回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第 5 回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第 6 回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第 7 回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第 8 回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第 9 回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第 10 回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第 11 回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第 12 回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第 13 回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 1 - II

宮下 信一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体や健康に関する科学的知識を身につける。豊かな人間性の涵養を実現するため、運動・スポーツの実践が必要であることを理解する。他者とのコミュニケーション能力を高める。実践を通して理解したことや、自身の意図などを他者に伝える理論的コミュニケーション能力の習得を目的とする。

【到達目標】

いろいろな運動課題の実践を通して基礎体力を高め、他者と協力しながら運動・スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯を通じて継続的に運動を実践できる能力及び態度を身につける。自己の健康管理ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021年度はオンラインと対面での授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。各種フィジカル・エクササイズ、有酸素運動、各種球技などの実践を行う。また、からだに関する知識を学んだり自己と他者との関係について考察したりしながら多くの気づきが得られるようにしたい。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（授業計画に関して天候等によって、若干の変更があり得る）

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	各種スポーツの実践 1	各種スポーツの理解と安全な実践
第2回	各種スポーツの実践 2	各種スポーツの理解と安全な実践
第3回	各種スポーツの実践 3	各種スポーツの理解と安全な実践
第4回	各種スポーツの実践 4	各種スポーツの理解と安全な実践
第5回	各種スポーツの実践 5	各種スポーツの理解と安全な実践
第6回	各種スポーツの実践 6	各種スポーツの理解と安全な実践
第7回	各種スポーツの実践 7	各種スポーツの理解と安全な実践
第8回	各種スポーツの実践 8	各種スポーツの理解と安全な実践
第9回	各種スポーツの実践 9	各種スポーツの理解と安全な実践
第10回	各種スポーツの実践 10	各種スポーツの理解と安全な実践
第11回	各種スポーツの実践 11	各種スポーツの理解と安全な実践
第12回	各種スポーツの実践 12	各種スポーツの理解と安全な実践
第13回	各種スポーツの実践 13	各種スポーツの理解と安全な実践
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する
平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

運動の楽しさと必要性をより多くの学生に伝えたい。自己の“からだ”と向き合って生きていく学生を育てたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the knowledge about physical and health. To cultivate rich human nature, understand that exercise, sports practice is necessary.

HSS100EA

スポーツ総合 2 - I（バドミントン）

升 佑二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】

春学期は基本ストローク、フットワークを重視し、秋学期のゲーム形式授業に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本技術 1	グリップの握り方について学ぶ
第2回	基本技術 2	シャトルコンタクトについて学ぶ
第3回	基本技術 3	ラケットワークについて学ぶ
第4回	基本技術 4	ラケットスイングについて学ぶ
第5回	基本技術 5	サービスについて学ぶ
第6回	基本ストローク 1	ドライブについて学ぶ
第7回	基本ストローク 2	クリアについて学ぶ
第8回	基本ストローク 3	ドロップ&レシーブについて学ぶ
第9回	基本ストローク	プッシュ&レシーブについて学ぶ
第10回	基本ストローク	スマッシュ&レシーブについて学ぶ
第11回	基本ストローク 6	ヘアピンショットについて学ぶ
第12回	技術の展開 1	フットワークについて学ぶ
第13回	技術の展開 2	ダブルスのフォーメーションについて学ぶ
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業の復習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

DVD 教材「日本初の本格的バドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

【その他の重要事項】

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】

Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100EA

スポーツ総合2-I (バドミントン)

升 佑二郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してこれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】

春学期は基本ストローク、フットワークを重視し、秋学期のゲーム形式授業に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本技術 1	グリップの握り方について学ぶ
第2回	基本技術 2	シャトルコンタクトについて学ぶ
第3回	基本技術 3	ラケットワークについて学ぶ
第4回	基本技術 4	ラケットスイングについて学ぶ
第5回	基本技術 5	サービスについて学ぶ
第6回	基本ストローク 1	ドライブについて学ぶ
第7回	基本ストローク 2	クリアについて学ぶ
第8回	基本ストローク 3	ドロップ&レシーブについて学ぶ
第9回	基本ストローク	プッシュ&レシーブについて学ぶ
第10回	基本ストローク	スマッシュ&レシーブについて学ぶ
第11回	基本ストローク 6	ヘアピンショットについて学ぶ
第12回	技術の展開 1	フットワークについて学ぶ
第13回	技術の展開 2	ダブルスのフォーメーションについて学ぶ
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業の復習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

【その他の重要事項】

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ4の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】

Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100EA

スポーツ総合2-I (太極拳)

シン イェンリン

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマである「簡化24式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】

腹式深呼吸と動作の関係を理解し、音楽と合わせながら楽しい太極拳で健康な身体を作りあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	太極拳の発展史と医学的な効用を講義する。	目の保健体操を具体的に紹介する。
2	準備体操と目の体操及び太極拳の基本功。	気功とラジオ体操を交えたゆっくりした練功十八法（頭から足までの全身の関節と筋肉をほぐす準備体操）
3	練功十八法と目の保健体操。太極拳動作習得。	（目の疲れをとり、近視の予防）を毎回入れる。 太極拳動作：（一）起勢（二）左右野馬分鬃（三）白鶴亮翅
4	準備体操と新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（四）左右樓膝拗歩（五）手揮琵琶
5	新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（六）左右倒卷肱
6	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（七）左攬雀尾（八）右攬雀尾
7	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（九）單鞭（十）雲手（十一）單鞭
8	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（十二）高探馬（十三）右蹬脚（十四）雙峰貫耳
9	動作を直しながら一通りを復習する。	1の動作から6動作を集中的になおします。
10	動作を直しながら一通りを復習する。	7の動作から14動作を集中的になおします。
11	動作を直しながら一通りを復習する。	動作と音楽を合わせながら復習する。
12	動作を全面に直しながら一通りを復習する。	音楽と合わせながら一通りを練習する、呼吸との合わせ方を紹介する。
13	自分一人での練習	動作と呼吸、音楽と合わせながら気持ち良く練習する。
14	太極拳で身体を養生するの理解する	幾つもの太極拳、気功体操を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

太極拳に関する資料を調べ、DVDを見て太極拳の動作を勉強する。毎回授業で習った新しい動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配付します。

【参考書】

著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 %（授業中に音楽に合わせて実技テスト）
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

中国の伝統養生法を授業の中に取り入れる事。

【学生が準備すべき機器他】

普段着で良いですが体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-I (太極拳)

シン イェンリン

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを一通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】

腹式深呼吸と動作の関係を理解し、音楽と合わせながら楽しい太極拳で健康な身体を作りあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	太極拳の発展史と医学的な効用を講義する。	目の保健体操を具体的に紹介する。
2	準備体操と目の体操及び太極拳の基本功。	気功とラジオ体操を交えたゆっくりした練功十八法（頭から足までの全身の関節と筋肉をほぐす準備体操）
3	練功十八法と目の保健体操。太極拳動作習得。	（目の疲れをとり、近視の予防）を毎回入れる。 太極拳動作：（一）起勢（二）左右野馬分鬃（三）白鶴亮翅
4	準備体操と新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（四）左右樓膝拗歩（五）手揮琵琶
5	新しい太極拳動作の習得。	復習と動作の習得：（六）左右倒卷肱
6	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（七）左攬雀尾（八）右攬雀尾
7	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（九）單鞭（十）雲手（十一）單鞭
8	復習と新しい動作の習得。	動作習得：（十二）高探馬（十三）右蹬脚（十四）雙峰貫耳
9	動作を直しながら一通りを復習する。	1 の動作から 6 動作を集中的になおします。
10	動作を直しながら一通りを復習する。	7 の動作から 14 動作を集中的になおします。
11	動作を直しながら一通りを復習する。	動作と音楽を合わせながら復習する。
12	動作を全面に直しながら一通りを復習する。	音楽と合わせながら一通りを練習する、呼吸との合わせ方を紹介する。
13	自分一人での練習	動作と呼吸、音楽と合わせながら気持ち良く練習する。
14	太極拳で身体を養生するのを理解する	幾つの太極拳、気功体操を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て太極拳の動作を勉強する。毎回授業で習った新しい動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配付します。

【参考書】

著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 %（授業中に音楽に合わせてながら実技テスト）
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

中国の伝統養生法を授業の中に取り入れる事。

【学生が準備すべき機器他】

普段着で良いですが体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-I (ヨガ)

鈴木 伸枝

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。

自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】

- ・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
- ・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を感わされず、安定した自己を育む。
- ・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
- ・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
- ・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点を見つけ、行動に移せるようになる。
- ・瞑想の実践を通じ、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

アーサナ（ポーズ）/プラーナヤマ（呼吸法）/瞑想の実践と自己観察とフィードバック

ヨガの科学的側面と精神的側面の講義

ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣) の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana (氣) を学ぶ ・ヨガの実践
3	丹田開発	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ（ポーズ）④	バランスポーズ実践
9	アーユルヴェエダを学ぶ	ヨガと関わり深いインドの伝統医療「アーユルヴェエダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
10	プラティヤハーラ（感覚のコントロール）	・五感とその知覚をコントロールする。 ・プラティヤハーラを伴うヨガの実践
11	瞑想	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション

12	ハタヨーガと瞑想①	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨーガと瞑想②	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と気づきのシェア ヨガの実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】

使用しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70%、出席率、授業態度

技術点 20%、

その他 10% レポートなどを含めて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-I（ヨガ）

鈴木 伸枝

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。

自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】

- ・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
- ・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を感われない、安定した自己を育む。
- ・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
- ・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
- ・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点を見つけ、行動に移せるようになる。
- ・瞑想の実践を通じ、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

アーサナ（ポーズ）/プラーナヤマ（呼吸法）/瞑想の実践と自己観察とフィードバック

ヨガの科学的側面と精神的側面の講義

ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣)の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana（氣）を学ぶ ・ヨガの実践
3	丹田開発	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ（ポーズ）④	バランスポーズの実践
9	アーユルヴェーダを学ぶ	ヨガと関わり深いインドの伝統医療「アーユルヴェーダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
10	プラティヤハারা（感覚のコントロール）	・五感とその知覚をコントロールする。 ・プラティヤハারাを伴うヨガの実践
11	瞑想	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション

12	ハタヨーガと瞑想①	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨーガと瞑想②	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と気づきのシェア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】

使用しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70%、出席率、授業態度

技術点 20%、

その他 10% レポートなどを合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

ヨガマット

オンラインクラスを受講するための、スマホやパソコンなどのタブレット

※現在お持ちで無い方は、購入する必要はありません。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-I（野球・ソフトボール）

田中 善則

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。

ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。

楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】

キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。

積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。

ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第2回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第3回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第4回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第5回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第6回	ルールと戦術について	ルールブックの引用と実践によるチームプレー
第7回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第8回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第9回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第10回	練習 (レベルアップ)	今までの技術の見直しを行う
第11回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第12回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第13回	目標設定とチームワーク について	有識者を招いての講演（プロ野球等）
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。

個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。

時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】

「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。（秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる）」

男女を問わず初心者でも 1 年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100EA

スポーツ総合 2- I (野球・ソフトボール)

田中 善則

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。

ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。

楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】

キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。

積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。

ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第 2 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 3 回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第 4 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 5 回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第 6 回	ルールと戦術について	ルールブックの引用と実践によるチームプレー
第 7 回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 8 回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 9 回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第 10 回	練習 (レベルアップ)	今までの技術の見直しを行う
第 11 回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第 12 回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第 13 回	目標設定とチームワーク について	有識者を招いての講演（プロ野球等）
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。

個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。

時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】

「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。(秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる)」
男女を問わず初心者でも1年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100EA

スポーツ総合2-I (ユニバーサル・スポーツ)

坪内 友美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

子供や高齢者、障がいのある人など、誰もが楽しめるように工夫されたスポーツ (ユニバーサル・スポーツ) について学び、体験し、理解する。

【到達目標】

工夫されたスポーツを実際におこない、各種目が持つそれぞれの特徴を理解する。

運動のみならず、地域や職場等のような場面・場所でも、配慮や理解を必要とする様々な状態にある人達と共に活動していくための工夫ができる視点、姿勢を持つきっかけをつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

資料を使い運動の身体面・精神面への効果、病気や障害、障害をもつ人のスポーツが作られた背景、ルールなどを学ぶ。

車いすやアイマスクなどを使い様々な運動種目を体験する。

動きやすい服装で参加すること。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/感覚を研ぎ澄ます	ゴールボール、ミニ実践、レポート作成
第2回	障がいの理解/実践	脊髄・頸髄損傷について/バスケット用車いすの操作
第3回	障がいの理解/実践	障がいとは? /車いすツインバスケットボール
第4回	運動の効果の理解/実践	運動が身体に与える影響について/車いすツインバスケットボール
第5回	運動の効果の理解/実践	運動が脳に与える影響について/ボッチャ
第6回	車いすを使った運動	野球・ソフトボール
第7回	障がいの理解/実践	脳血管障害: 食事と運動と血管/四面卓球バレー
第8回	バリアフリー環境の体験	車いすで散歩
第9回	ターゲット型スポーツ	ディスクゴルフ
第10回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について/フライングディスク (アキュラシー競技ディスクリット・ファイブ等)
第11回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について/ゴールボール
第12回	感覚を研ぎ澄ます	見えない・見えにくい世界の体験/サウンドテーブルテニス
第13回	車いすを使った運動	車いす卓球
第14回	海と障がいとスポーツ	障がいのある人とスキューバダイビング

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

健康に留意し、自ら積極的に授業に参加できるよう心がける。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する

平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

We learn about the universal sports that were devised to be able to enjoy everyone and experience it.

HSS100EA

スポーツ総合2-I (サッカー)

星 貴洋

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ
サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】

身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。
サッカーをより専門的に理解し、表現する。
サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。
チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切に、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第2回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第3回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第4回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第5回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第6回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第7回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第8回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第9回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第10回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第11回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第12回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第13回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。

第14回 チーム戦術

状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技科目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。

参考書やDVDの映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】

ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イマジネーションサッカー ベネトレイション編 (DVD)

【成績評価の方法と基準】

平常点 55% 技能点 40% その他 5%

【学生の意見等からの気づき】

授業のテーマ・目標をより分かりやすくはっきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】

Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football

Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS100EA

スポーツ総合2-I（サッカー）

星 貴洋

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ

サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】

身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。

サッカーをより専門的に理解し、表現する。

サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。

集団の中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。

身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に参加できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか **Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move** などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切に、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第2回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第3回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第4回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第5回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第6回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第7回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第8回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第9回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第10回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第11回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第12回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第13回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。

第14回 チーム戦術

状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技種目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。

参考書やDVDの映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】

ワールドサッカーの戦術

クリエイティブサッカーコーチング

イメージーションサッカー ベネトレイション編 (DVD)

【成績評価の方法と基準】

平常点 55% 技能点 40% その他 5%

【学生の意見等からの気づき】

授業のテーマ・目標をより分かりやすくはっきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】

Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football

Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS100EA

スポーツ総合2-I (テニス)

宮崎 靖雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テニスの基本技術を習得し、ルール、歴史を学び、シングルス、ダブルスの試合を学習する。またテニスを通じて、体力の維持・向上を図り、コミュニケーション能力等の社会性を身に付け、生涯スポーツである事を学習する。

【到達目標】

- ①ショットの基礎技術を習得する。
- ②シングルス/ダブルスの戦略・戦術を習得する。
- ③ダブルス、シングルの試合を学習する。
- ④テニスのルール、マナー、歴史を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちらら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テニス実技を中心として、毎回のテーマに沿って各ショットの基礎技術と戦術、試合方法を学習する形で授業を進めていく。同時にテニスの歴史、現代のテニス理論について学習する。

授業後にリアクションペーパーを配布し、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー等からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

実技では、スポーツウェア、テニスシューズを着用すること。

雨天時の場合は原則として教室にて講義を行う。

授業計画は授業の展開や天候によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明
第2回	ストロークの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第3回	ストロークの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第4回	ネットプレーの基礎	打法、基本練習及びラリー
第5回	ネットプレーの応用	基本練習、ネットプレー対ストロークラリー、ミニゲーム
第6回	サービス・リターン	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第7回	サービス・リターンの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第8回	ゲーム戦術の基礎	アプローチ&ネットプレー、ミニゲーム
第9回	ゲーム戦術の応用	ポジショニング、カバーリング、ミニゲーム
第10回	シングルスまたはダブルスの基礎戦術	ルール説明、ポジショニング、カバーリング、試合形式練習
第11回	シングルスまたはダブルスの応用戦術	アプローチ&ネットプレー、試合形式練習
第12回	試合の基礎と進め方	ルール説明、ダブルスまたはシングルの試合の進め方
第13回	試合形式練習	ダブルスまたはシングルの試合形式練習
第14回	試合及び総括	ダブルスまたはシングルス試合形式練習、授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ放映されるグラนด์スラム大会などを見て、ショットのイメージや試合方法などを参考にする。実習に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

「テニスマガジン・テニスクラシック・スマッシュ」等の月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】

実技型の授業であるため、授業への参画姿勢などの平常点（70%）ならびにテニス技術上達度とルール理解度（20%）、授業態度（10%）を総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康上の理由による見学者については個別に対応、評価する。なお、3回の遅刻は1回の欠席とみなすため、遅刻、欠席については十分に留意すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のレベルに応じて、試合が上達できる様な練習方法を取り入れながら、授業を進めていく。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic technology of tennis, rule and History of tennis. It also enhances the development of students' skill in how to play the game.

HSS200CA

スポーツ総合2-I (バレーボール基礎)

野中 俊英

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バレーボールに関する基礎理論を学び、実践を通して基礎技術を習得する。また、バレーボールを媒介として、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】

- ①バレーボールの醍醐味といえる、ラリーを継続するために必要な基礎技術を習得する
- ②基礎技術を活用して、ゲームを楽しむことができるようになる
- ③身体に関する基礎知識を習得し、自己の健康管理を行うことができるようになる
- ④他者と積極的に交流し、相互作用を図ることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、実習と講義を通じ、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各種技術を身につけることを目指す。また、学期末に向けて、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。各回の初めや終わりに授業で取り上げた内容や課題に対するフィードバック（講評や解説）を行い更に学びを深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・授業概要の説明	教員、受講学生の自己紹介を行い、授業の概要および目標について解説、確認する。
第2回	オーバーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではオーバーパスの基礎技術を習得する。
第3回	アンダーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではアンダーパスの基礎技術を習得する。
第4回	レシーブの基本Ⅰ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第5回	レシーブの基本Ⅱ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第6回	フライングレシーブ・ミニゲーム	フライングレシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第7回	スパイクの基本Ⅰ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第8回	スパイクの基本Ⅱ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第9回	スパイクの基本Ⅲ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第10回	サーブ、レセプションの基本・ミニゲーム	サーブ、レセプションの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第11回	セットアップ、ブロックの基本・ミニゲーム	セットアップ（トス）、ブロックの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第12回	連携プレー・ミニゲーム	連携プレーの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第13回	ゲーム	チームに分かれ、3セットマッチのゲームを行う。
第14回	ゲーム	チームに分かれ、3セットマッチのゲームを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まずは、実習に当たり、心身の不備がないよう体調を整えて授業に臨むこと。また、バレーボールの試合を観戦したり、参加するなど、積極的にバレーボールに携わること。なお、本科目の準備・復習時間は、各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて適宜配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（90%程度）、レポート課題（10%程度）などを総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや自由記述などのコメントを踏まえ、バレーボールの楽しさや意義を実感できるように、授業を構成・展開していく予定であり、可能な限りゲーム形式を増やせるよう努めたい。

【その他の重要事項】

バレーボール経験者のみではなく、バレーボール未経験者の履修も歓迎する。

春学期・秋学期の継続的な履修を望む。なお、欠席・遅刻は減点の対象とする。

【Outline and objectives】

To learn a basic theory about the volleyball and learn a basic technic through practice.

To promote the communicative competence with ability for health care and others through volleyball.

HSS200CA

スポーツ総合2-I (サッカー・フットサル基礎)

水野 浩幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サッカーの基礎技術、戦術をミニゲーム、ゲームを通して習得することを目標とする。

【到達目標】

- ①サッカーの基礎技術、戦術の習得
- ②サッカーのチーム戦術、ゲーム戦術の学習

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業場所はサッカー、フットサルの技術向上をより見込める人工芝のピッチ(ラグビー場もしくはホッケー場)を使用します。授業の流れは、最初に基礎技術のトレーニングを行い、その後ゲームを行う形式で進行していきます。授業の多くの時間は、サッカー、フットサルのゲームの楽しさを十分に感じられるようにゲームを中心に行います。ゲームを進行する中で、その場面で必要な基礎的な技術や戦術をシンクロコーチングしていきます。サッカー、フットサルの初心者や女子学生の受講に対しては、必要な基礎技術の個別指導や安全にプレーするための条件設定等で柔軟に対処していきます。雨天の場合は、教室での講義もしくは室内でのトレーニングを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	教場や授業の用意について
第2回	ミニゲーム	コミュニケーション・体ならし
第3回	4vs4, 5vs5 のミニゲーム	ボール回し・GK 無しのゲーム
第4回	4vs4, 5vs5 のミニゲーム	フィジカルトレーニング・GK 無しのゲーム
第5回	6vs6, 7vs7 + GK	GK 有りのゲーム
第6回	6vs6, 7vs7 + GK	GK 有りのゲーム・守備の個人戦術
第7回	ボールポゼッションゲーム	攻撃方向制限なしのゲーム・守備のグループ戦術
第8回	ボールポゼッションゲーム	攻撃の個人戦術
第9回	ハーフコートゲーム	攻撃のグループ戦術・3人目の動き
第10回	ハーフコートゲーム	攻撃のグループ戦術・サイドからの崩し
第11回	チーム編成・チームミーティング	チームの役割決め・コミュニケーション
第12回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認
第13回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認
第14回	固定チームでのリーグ戦	個人、グループ戦術の確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

サッカーのルールについて予習することを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

自らのスキル向上への積極性、授業態度 60 %
 サッカーの技術的、戦術的理解度 30 %
 チームへの貢献度 10 %

【学生の意見等からの気づき】

授業当日のコンディションに配慮しながら、運動量を確保するようにします。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn basic skills and tactics of football by playing games.

HSS100EA

スポーツ総合2-II (バドミントン)

升 佑二郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】

基本ストロークをゲームの中で活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本技術 1	ラケットワークについて学ぶ
第2回	基本技術 2	フットワークについて学ぶ
第3回	指導理論 1	オーバーヘッドストロークについて学ぶ
第4回	指導理論 2	アンダーハンドストロークについて学ぶ
第5回	指導理論 3	サイドアームストロークについて学ぶ
第6回	応用技術 1	前後の打ち分けについて学ぶ
第7回	応用技術 2	左右の打ち分けについて学ぶ
第8回	シングルス 1	攻撃的な戦術を学ぶ
第9回	シングルス 2	守備的な戦術について学ぶ
第10回	ダブルス 1	コンビネーションについて学ぶ
第11回	ダブルス 2	サービスの展開について学ぶ
第12回	トリプルス	トリプルスについて学ぶ
第13回	団体戦	団体戦の展開について学ぶ
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業の復習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

DVD 教材「日本初の本バドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
 出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017 年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 (70%)、技術習得の実技試験 (30%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

【その他の重要事項】

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】

Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100EA

スポーツ総合2-II (バドミントン)

升 佑二郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】

基本ストロークをゲームの中で活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

運動実践を主体とするが、適宜講義をとり入れる。バドミントン経験者ももちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本技術 1	ラケットワークについて学ぶ
第 2 回	基本技術 2	フットワークについて学ぶ
第 3 回	指導理論 1	オーバーヘッドストロークについて学ぶ
第 4 回	指導理論 2	アンダーハンドストロークについて学ぶ
第 5 回	指導理論 3	サイドアームストロークについて学ぶ
第 6 回	応用技術 1	前後の打ち分けについて学ぶ
第 7 回	応用技術 2	左右の打ち分けについて学ぶ
第 8 回	シングルス 1	攻撃的な戦術を学ぶ
第 9 回	シングルス 2	守備的な戦術について学ぶ
第 10 回	ダブルス 1	コンビネーションについて学ぶ
第 11 回	ダブルス 2	サービスの展開について学ぶ
第 12 回	トリプルス	トリプルスについて学ぶ
第 13 回	団体戦	団体戦の展開について学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業の復習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017 年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

【その他の重要事項】

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】

Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.

HSS100EA

スポーツ総合2-II (太極拳)

シン イェンリン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを一通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】

腹式深呼吸を理解し、太極拳の音楽と合わせながら動作が出来、健康な身体を作り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	音楽と合わせながら春学期の動作を練習する。
2	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十五）轉身左蹬脚
3	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十六）左下勢獨立（十七）右下勢獨立
4	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十八）左右穿梭（十九）海底針（二十）閃通臂
5	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十一）轉身搬欄錘（二十二）如封似閉
6	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十三）十字手（二十四）收勢
7	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。十五動作から十七動作を集中的に直します。
8	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。十八動作から二十動作を集中的に直します。
9	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。二十一動作から二十二動作を集中的に直します。
10	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。二十三動作から二十四動作を集中的に直します。
11	動作を全面的に直しながら復習する。	音楽と合わせながら 24 式太極拳を一通り繰り返し練習をする。
12	動作を全面的に直しながら復習する。	24 式太極拳を一人で出来るように練習する。
13	24 式太極拳をできるように練習をする。	音楽と合わせながら 24 式太極拳をテストする。
14	太極拳で自律神経のパラメータを調節し、健康な身体を作る。	動作と腹式深呼吸と音楽の合わせ方を練習しながら、他の健康法を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て練習する。毎回授業で習った動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配付します。

【参考書】

著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 % (24 式太極拳を授業中に音楽に合わせてながら実技テスト)
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で中国伝統養生法を取り入れて紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に普段着が良いですが身体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-II（太極拳）

シン イェンリン

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマである「簡化 24 式太極拳」は、中国で国民の健康法として伝統的な型を短く簡略化して制定型とし、広く普及につとめている現代的な太極拳である。これを一通り自分自身でできるようにする事を目標とする。

【到達目標】

腹式深呼吸を理解し、太極拳の音楽と合わせながら動作が出来、健康な身体を作り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

太極拳では、心を静かに整えること、意識で動作を導くこと、呼吸を深く長く滑らかにして動作と一致させる。正しい呼吸は、正しい姿勢と滑らかな動作によって行われ、両者は相互補完の関係にたっていることが大切である。正しい低い姿勢で膝を曲げて動作すると脚力がつき、片足を上げたり、両手の滑らかな動作は全身運動となる。太極拳は特に神経系、血液の循環系、呼吸系などに著しい予防と改善の効果があることが知られている。だから世界中で医療体育として愛されている。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	音楽と合わせながら春学期の動作を練習する。
2	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十五）轉身左蹬脚
3	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十六）左下勢獨立（十七）右下勢獨立
4	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（十八）左右穿梭（十九）海底針（二十）閃通臂
5	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十一）轉身搬攔錘（二十二）如封似閉
6	復習と新しい動作を習得。	動作習得：（二十三）十字手（二十四）收勢
7	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。十五動作から十七動作を集中的に直します。
8	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。十八動作から二十動作を集中的に直します。
9	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。二十一動作から二十二動作を集中的に直します。
10	動作を直しながら復習する。	音楽と合わせながら春学期の動作を含めて復習。二十三動作から二十四動作を集中的に直します。
11	動作を全面的に直しながら復習する。	音楽と合わせながら 24 式太極拳を一通り繰り返し練習をする。
12	動作を全面的に直しながら復習する。	24 式太極拳を一人で出来るように練習する。
13	24 式太極拳をできるように練習をする。	音楽と合わせながら 24 式太極拳をテストする。
14	太極拳で自律神経のバランスを調節し、健康な身体を作る。	動作と腹式深呼吸と音楽の合わせ方を練習しながら、他の健康法を体験する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

太極拳に関する資料を調べ、DVD を見て練習する。毎回授業で習った動作を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配付します。

【参考書】

著書を紹介。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 70 %
2. 技術点 20 %（24 式太極拳を授業中に音楽に合わせてながら実技テスト）
3. その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で中国伝統養生法を取り入れて紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に普段着で良いですが身体を動かしやすい服装と靴を着用すること。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of tai chi and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-Ⅱ（ヨガ）

鈴木 伸枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。

自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】

- ・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
- ・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を感わされず、安定した自己を育む。
- ・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
- ・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
- ・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点を見つけ、行動に移せるようになる。
- ・瞑想の実践を通じ、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

アーサナ（ポーズ）/プラーナヤマ（呼吸法）/瞑想の実践と自己観察とフィードバック

ヨガの科学的側面と精神的側面の講義

ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣)の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana（氣）を学ぶ ・ヨガの実践
3	丹田開発	・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは？ ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ（ポーズ）④	バランスポーズの実践
9	アーユルヴェエダを学ぶ	ヨガと関わり深いインドの伝統医療「アーユルヴェエダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
10	プラティヤハーラ	・五感とその知覚をコントロールする。 ・プラティヤハーラを伴うヨガの実践

11	瞑想	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション
12	ハタヨーガと瞑想①	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨーガと瞑想②	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と気づきのシェア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】

使用しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70%、出席率、授業態度

技術点 20%、

その他 10% レポートなどを含めて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-Ⅱ（ヨガ）

鈴木 伸枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨガのポーズ、呼吸法、セルフマッサージ、ヨガ哲学を通じて自分で自分を調整する方法を習得する。

自分の能力や生命力を把握し、最大限に生かせるよう自らの心身を育て、またその能力を他者に役立てていく、コミュニケーション能力、社会性を高める。

【到達目標】

- ・ヨガのポーズ、呼吸法、瞑想が上達する。
- ・ヨガを通じ自分に意識を向け、外の情報や刺激を感われない、安定した自己を育む。
- ・体の中心点である丹田を鍛え、丹田の強さが生理的安定と精神的安定をもたらすことを実体験から理解する。
- ・解剖学、東洋医学、呼吸法を通じ、不要な力みを手放し、本来の柔軟性を取り戻す。
- ・ヨガを通して自分の生活習慣を見直し、健康になるための改善点を見つけ、行動に移せるようになる。
- ・瞑想の実践を通じ、生命の働き、自然法則を把握し、自分と他者双方を活かす生き方を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・アーサナ（ポーズ）/プラーナヤマ（呼吸法）/瞑想の実践と自己観察とフィードバック

・ヨガの科学的側面と精神的側面の講義

・ヨガ哲学講義とグループワークとディスカッション

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更がありえる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション/簡単なヨガ	・ヨガの歴史 ・ヨガの基本的概念 ・ヨガの効果、実践する上でのポイント ・ヨガの実践
2	呼吸と Purana(氣) の学習	・呼吸の解剖学的理解 ・呼吸を深める呼吸筋 ・Prana (氣) を学ぶ ・完全呼吸
3	丹田開発	・ヨガの実践 ・丹田とは ・脳と丹田の関わり ・丹田強化法の実践 ・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察
4	柔軟性	・西洋医学からの正しい柔軟性向上の知識 ・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ
5	アーサナ（ポーズ）①	・アーサナとは ・前屈後屈ポーズの ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
6	アーサナ（ポーズ）②	・ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝の実践。
7	アーサナ（ポーズ）③	・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント ・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ
8	アーサナ（ポーズ）④	・バランス
9	アーユルヴェーダを学ぶ	・ヨガと関わり深いインドの伝統医療「アーユルヴェーダ」の見地から、自分の心身の不調を見極め、整えていく方法を学ぶ。
10	プラティヤハারা（感覚のコントロール）	・五感とその知覚をコントロールする。 ・プラティヤハারাを伴うヨガの実践

11	瞑想	・「冥想」と「瞑想」の違い ・瞑想の実践とグループディスカッション
12	ハタヨーガと瞑想①	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
13	ハタヨーガと瞑想②	心・氣・体にアプローチするヨガの実践
14	授業の振り返り	全体を通しての復習と 気づきのシェア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】

使用しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70%、技術点 20%、その他 10%
出席率、授業態度、レポートなどを合わせて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度と同様に、ヨガのポーズだけでなく、哲学なども織り交ぜながら、日常生活の心身の健康に役立つ内容にしていきたい。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of yoga and also aim at acquiring skills of autonomous lifestyle habits.

HSS100EA

スポーツ総合2-II（野球・ソフトボール）

田中 善則

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。

ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。
楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】

キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。
積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。
ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら
<https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第2回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第3回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第4回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第5回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第6回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第7回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第8回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第9回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第10回	練習 (レベルアップ)	今までの技術の見直しを行う
第11回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第12回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第13回	目標設定とチームワーク について	有識者による講演（プロ野球等）
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する

【成績評価の方法と基準】

平常点 70%、技術点 20%、その他 10%とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。
個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。
時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】

「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。（秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる）」

男女を問わず初心者でも1年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100EA

スポーツ総合2-Ⅱ（野球・ソフトボール）

田中 善則

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

団体競技において必要とされるチームプレイからコミュニケーション能力の開発。

ルールにおけるフェアプレイ精神とスポーツマンシップの体得。

楽しく・明るく・元気良く、それらを身に付け将来に生かそう。

【到達目標】

キャッチボール・トスバッティングを基本とし、ゲーム（試合）が出来る。

積極的に参加することでコミュニケーション能力が身に付く。

ルールを知り、それを守ることで協調性を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

講義（歴史、規則、トレーニング理論）等と実技（練習、試合）をバランス良く計画的に進めて行く。競技を通じて個々の集中力、洞察力、協調性を磨き、技術向上において達成感を得て努力することの重要性を理解し、リーダーシップを発揮することで積極性を身につけることを目的とする。スポーツの楽しさとチームワークの大切さを体感してほしい。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基本練習 基本動作	アップ、キャッチボール、トスバッティングを学ぶ
第2回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第3回	基本練習 基本動作	ノック、バッティングを学ぶ
第4回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第5回	試合への展開	一ヶ所バッティングを学ぶ
第6回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第7回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第8回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第9回	試合 (チームプレー)	チーム分けを行い、ボールゲームを学ぶ
第10回	練習 (レベルアップ)	今までの技術の見直しを行う
第11回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第12回	試合 (勝敗にこだわる)	戦術的に試合を行う
第13回	目標設定とチームワーク について	有識者による講演（プロ野球等）
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の健康管理を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

必要に応じて資料（プリント）を配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点70%、技術点20%、その他10%とし、授業に対して積極的で真摯な態度、研究心、協調性、積極性等を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

技術の格差により、授業テーマに対して興味を示す割合が様々。

個人の能力に応じて、きめ細かい指導をしていきたい。

時には人生相談もあり。

【その他の重要事項】

「この科目は春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。（秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる）」

男女を問わず初心者でも1年かけて競技の楽しさを実感させます。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge of baseball and softball and also aim at acquiring skills of the game.

HSS100EA

スポーツ総合2-Ⅱ（ユニバーサル・スポーツ）

坪内 友美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子供や高齢者、障がいのある人など、誰もが楽しめるように工夫されたスポーツ（ユニバーサル・スポーツ）について学び、体験し、理解する。

【到達目標】

工夫されたスポーツを実際におこない、各種目が持つそれぞれの特徴を理解する。

運動のみならず、地域や職場等のような場面・場所でも、配慮や理解を必要とする様々な状態にある人達と共に活動していくための工夫ができる視点、姿勢を持つきっかけをつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

資料を使い運動の身体面・精神面への効果、病気や障害、障害をもつ人のスポーツが作られた背景、ルールなどを学ぶ。

車いすやアイマスクなどを使い様々な運動種目を体験する。

動きやすい服装で参加すること。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありうる。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明／バスケット用車いすの操作
第2回	運動の効果の理解／実践	なぜ運動が必要なか／車いすラグビー
第3回	運動の効果の理解／実践	運動と健康／車いすラグビー
第4回	運動の効果の理解／実践	運動による精神面への効果／車いすバドミントン
第5回	車いすを使った運動	車いすテニス
第6回	車いすを使った運動	車いすテニス
第7回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について／ブラインドテニス
第8回	感覚を研ぎ澄ます	視覚障害について／フロアバレーボール
第9回	ネット型スポーツ	シッティングバレーボール
第10回	車いすを使った運動	野球・ソフトボール
第11回	ターゲット型スポーツ	障がいとは？／ボッチャ
第12回	バリアフリー環境の体験	車いすで散歩
第13回	障がいの理解／実践	精神障がいと全国障害者スポーツ大会／ソフトバレーボール
第14回	障がいの理解／実践	事業所製品：福祉事業所が地域を救う／幻覚妄想かるた

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

健康に留意し、自ら積極的に授業に参加できるよう心がける。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

以下の基準に従い評価する

平常点 70 %、技術点 20 %、その他 10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この科目は、春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

We learn about the universal sports that were devised to be able to enjoy everyone and experience it.

HSS100EA

スポーツ総合2-II (サッカー)

星 貴洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ
サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】

身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。
サッカーをより専門的に理解し、表現する。
サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。
チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切に、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第2回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第3回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第4回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第5回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第6回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第7回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第8回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第9回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第10回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第11回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第12回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第13回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。

第14回 チーム戦術

状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技科目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。

参考書やDVDの映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】

ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イメージーションサッカー ベネトレイション編 (DVD)

【成績評価の方法と基準】

平常点 55% 技能点 40% その他 5%

【学生の意見等からの気づき】

授業のテーマ・目標をより分かりやすくはっきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】

Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football

Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS100EA

スポーツ総合2-II (サッカー)

星 貴洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康な生活を送るために必要な運動習慣を確立し、チームスポーツの醍醐味、サッカーの楽しさを学ぶ
サッカーをプレーする上で必要な、チームとの関わり中での個人技術・個人戦術の向上、さらにグループ戦術・チーム戦術への発展を目指す

【到達目標】

身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に挑戦する。
サッカーをより専門的に理解し、表現する。
サッカーの戦術に基づき、状況把握・判断能力を向上させ、ボールを扱う技術をつけてプレーの精度を上げる。
集団の中での協調性・自己表現の能力を向上させるとともに刻一刻と変化する状況に対応する力をつける。
身体を動かすことの楽しさを感じ、課題に積極的に参加できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標の達成のため、サッカーに必要な要素である、基本動作、体力、ボール・テクニック、グループ・スキル、チーム・スキルのほか **Look around・Think before・Meet the Ball・Pass & Move** などの個人戦術を、いろいろな形態のゲームを中心とした内容のなかで理解、獲得、向上させる。
チームスポーツにおけるコミュニケーションを大切に、積極的に楽しんでプレーする姿勢を目指す。
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要の説明
第2回	コミュニケーション	チームスポーツを円滑に進めるためのコミュニケーションをテーマとした、少人数のグループでのトレーニングやよりサッカーに近いゲームを行う。
第3回	コミュニケーション	前回の内容を踏まえ、より実践的なシチュエーションを設定したトレーニング、ゲームを行う。
第4回	ボールテクニック	自分の意図通りにボールをきちんと扱えるようことを目指す。
第5回	ボールテクニック	状況判断を伴う技術の向上をテーマに、トレーニング、ゲームを行う。
第6回	個人戦術	相手を攻略するために、良くまわりを見て判断することをトレーニング、ゲームの中で学ぶ。
第7回	個人戦術	チームとしてどのようにゲームを進めるかという課題の中で、個人がどのようなプレーをするべきか、学び実践する。
第8回	個人戦術	より実践的なシチュエーションの中で、判断力を向上させる。ゲームの流れの中で、相手を攻略するための方法を学び実践する。
第9回	グループ戦術	相手を突破する、または突破させないという目的の中で、チームメートとどのような協力が必要か学ぶ。
第10回	グループ戦術	より実践的なシチュエーションの中で、チームメートとの協力の仕方を学び実践する。
第11回	グループ戦術	ゲームの流れの中で、チームメートとの協力を実践する。
第12回	チーム戦術	チーム全体での協力の仕方を学ぶ。シチュエーション別にどう対応すべきか考え判断できるようにする。
第13回	チーム戦術	集団として機能するためのチームメートの理解と自分の役割について学び実践する。

第14回 チーム戦術

状況が変化するゲームの流れの中で迅速に対応し、協力できるよう、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技種目なので、きちんと活動できるよう授業外でも日々規律正しい生活を心がける。
参考書やDVDの映像などを紹介するので、授業外でも興味関心に応じてより専門的に学習を深める。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実技科目なので特にテキストは使用しません。

【参考書】

ワールドサッカーの戦術
クリエイティブサッカーコーチング
イメージーションサッカー ベネトレイション編 (DVD)

【成績評価の方法と基準】

平常点 55% 技能点 40% その他 5%

【学生の意見等からの気づき】

授業のテーマ・目標をより分かりやすくはっきりさせることで、さらに理解・実践しやすい授業にする。

【Outline and objectives】

Establish the exercise habits necessary to lead a healthy life, learn the pleasure of team sports, the enjoyment of football

Improvement of personal skill and individual tactics necessary for playing football, involvement with the team, development toward group tactics / team tactics

HSS100EA

スポーツ総合2-II (テニス)

宮崎 靖雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テニスの基本技術、応用技術を習得し、ルール、歴史を学び、シングルス、ダブルスの試合を学習する。またテニス実技を通じて、体力の維持・向上を図り、コミュニケーション能力等の社会性を身に付け、生涯スポーツであることを学習する。

【到達目標】

- ①ショットの基本技術を習得する。
- ②シングルス/ダブルスの戦略・戦術を習得する。
- ③ダブルス、シングルの試合を学習する。
- ④テニスのルール、マナー、歴史を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テニス実技を中心として、毎回のテーマに沿って各ショットの基本技術と戦術、試合方法を学習する形で授業を進めていく。同時にテニスの歴史、現代のテニス理論について学習する。

授業後にリアクションペーパーを配布し、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー等からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・試合の進め方・ルールの説明	授業の進め方の説明と、テニスの映像を用いて、試合の進め方などを学ぶ
第2回	ストロークの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第3回	ストロークの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第4回	ネットプレーの基礎	打法、基本練習及びラリー
第5回	ネットプレーの応用	基本練習、ネットプレー対ストロークラリー、ミニゲーム
第6回	サービス・リターンの基礎	打法、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第7回	サービス・リターンの応用	打法、球種、基本練習及びラリー、ミニゲーム
第8回	ゲーム戦術の基礎	アプローチ&ネットプレー、ミニゲーム
第9回	ゲーム戦術の応用	ポジショニング、カバーリング、ミニゲーム
第10回	シングルスまたはダブルスの基礎戦術	ルール説明、ポジショニング、カバーリング、試合形式練習
第11回	シングルスまたはダブルスの応用戦術	アプローチ&ネットプレー、試合形式練習
第12回	試合の基礎と進め方	ルール説明、ダブルスまたはシングルの試合の進め方
第13回	試合形式練習	ダブルスまたはシングルの試合形式練習学ぶ
第14回	試合及び総括	ダブルスまたはシングルス試合形式練習、授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ放映されるグランドスラム大会などを見て、ショットのイメージや試合方法などを参考にする。心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

「テニスマガジン・テニスクラシック・スマッシュ」等の月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】

授業への参画姿勢などの平常点（70%）ならびにテニス技術上達度とルール理解度（20%）、授業態度（10%）を総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康上の理由による見学者については、個別に対応、評価する。なお、3回の遅刻は1回の欠席と見なすため、遅刻や欠席については十分に留意すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生のレベルに応じて、試合が上達できる様な練習方法を取り入れながら、授業を進めていく。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic technology of tennis, rule and History of tennis. It also enhances the development of students' skill in how to play the game.

HSS200CA

スポーツ総合2-II (バレーボール応用)

野中 俊英

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バレーボールに関する基礎理論を学び、実践を通して基礎技術を習得する。また、バレーボールを媒介として、健康管理能力および他者とのコミュニケーション能力を育成する。

【到達目標】

- ①バレーボールの醍醐味といえる、ラリーを継続するために必要な基礎技術を習得する
- ②基礎技術を活用して、ゲームを楽しむことができるようになる
- ③身体に関する基礎知識を習得し、自己の健康管理を行うことができるようになる
- ④他者と積極的に交流し、相互作用を図ることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業では、実習と講義を通じ、継続的にバレーボールに取り組むことで、バレーボールについての理解を深めるとともに、各種技術を身につけることを目指す。また、学期末に向けて、ゲーム形式の時間を徐々に増やし、他者とのコミュニケーションや相互作用をより多く、体験的に学ぶことができるようにする。各回の初めや終わりに授業で取り上げた内容や課題に対するフィードバック（講評や解説）を行い更に学びを深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・授業概要の説明	教員、受講学生の自己紹介を行い、授業の概要および目標について解説、確認する。
第2回	オーバーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではオーバーパスの基礎技術を習得する。
第3回	アンダーパスの基本	前半はコーディネーショントレーニングを用いて身体づくりを行い、後半ではアンダーパスの基礎技術を習得する。
第4回	レシーブの基本Ⅰ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第5回	レシーブの基本Ⅱ・ミニゲーム	レシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第6回	フライングレシーブ・ミニゲーム	フライングレシーブの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第7回	スパイクの基本Ⅰ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第8回	スパイクの基本Ⅱ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第9回	スパイクの基本Ⅲ・ミニゲーム	スパイクの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第10回	サーブ、レセプションの基本・ミニゲーム	サーブ、レセプションの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第11回	セットアップ、ブロックの基本・ミニゲーム	セットアップ（トス）、ブロックの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第12回	連携プレー・ミニゲーム	連携プレーの基礎技術を習得し、授業後半ではチーム対抗のゲームを行う。
第13回	ゲーム	チームに分かれ、3セットマッチのゲームを行う。
第14回	ゲーム	チームに分かれ、3セットマッチのゲームを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まずは、実習に当たり、心身の不備がないよう体調を整えて授業に臨むこと。また、バレーボールの試合を観戦したり、参加するなど、積極的にバレーボールに携わること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて適宜配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（90%程度）、レポート課題（10%程度）などを総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや自由記述などのコメントを踏まえ、バレーボールの楽しさや意義を実感できるように、授業を構成・展開していく予定であり、可能な限りゲーム形式を増やせるよう努めたい。

【その他の重要事項】

バレーボール経験者のみではなく、バレーボール未経験者の履修も歓迎する。

春学期・秋学期の継続的な履修を望む。なお、欠席・遅刻は減点の対象とする。

【Outline and objectives】

To learn a basic theory about the volleyball and learn a basic technic through practice.

To promote the communicative competence with ability for health care and others through volleyball.

HSS200CA

スポーツ総合2-II（サッカー・フットサル応用）

水野 浩幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サッカーの基礎技術、戦術をミニゲーム、ゲームを行いながら習得することを目標とする。

【到達目標】

- ①サッカーのポジションごとの役割を理解する
- ②サッカーのゲームを通じてチームで働くことを学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業場所はサッカー、フットサルの技術向上をより見込める人工芝のピッチ（ラグビー場もしくはホッケー場）を使用します。授業の流れは、最初に基礎技術のトレーニングを行い、その後ゲームを行う形式で進行していきます。授業の多くの時間は、サッカー、フットサルのゲームの楽しさを十分に感じられるようにゲームを中心に行います。ゲームを進行する中で、その場面で必要な基礎的な技術や戦術をシンクロコーチングしていきます。サッカー、フットサルの初心者や女子学生の受講に対しては、必要な基礎技術の個別指導や安全にプレーするための条件設定等で柔軟に対処していきます。雨天の場合は、教室での講義もしくは室内でのトレーニングを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ミニゲーム	コミュニケーション・体ならし
第2回	ミニゲーム	ボール回し・フィジカルトレーニング
第3回	4vs4, 5vs5 のミニゲーム	攻撃のコンビネーション
第4回	ボールポゼッションゲーム	受け方・状況判断
第5回	ボールポゼッションゲーム	タッチ制限・状況判断
第6回	シュートゲーム	ゴール前での崩し
第7回	シュートゲーム	クロスからのシュート
第8回	ハーフコートゲーム	ポジションの役割
第9回	ハーフコートゲーム	ポジションの役割
第10回	チーム編成、チームミーティング	チームのシステム・スタイル
第11回	固定チームでのリーグ戦	チーム戦術・ゲーム戦術
第12回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術
第13回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術
第14回	固定チームでのリーグ戦	課題発見・ゲーム戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サッカーのルールについて予習することを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

自らのスキル向上への積極性、授業態度 60 %
サッカーの技術的、戦術的理解度 30 %
チームへの貢献度 10 %

【学生の意見等からの気づき】

授業当日のコンディションに配慮しながら、運動量を確保するようにします。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to learn basic skills and tactics of football by playing games.

HSS200EC

スポーツ文化論

越部 清美

サブタイトル：スポーツ社会学

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の社会においてスポーツは、一部の特権的な人々の所有物から大衆の文化として広く深く人々の生活に浸透している。本講義では、スポーツの歴史を学びながら、スポーツ文化を包括的に理解することを目的とし、その中でも特に現代に特徴的と思われる視点について考えていく。

【到達目標】

スポーツの歴史を学び、現代社会における文化としてのスポーツ活動の意義や機能を考え、理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

2021 年度はオンライン授業の可能性がある。詳細は学習支援システムで提示する。

各回の講義の中でリアクションペーパー等の提出を求める。ゲスト講師を予定している。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	スポーツ文化論とは	スポーツ文化論を学ぶ意義
第2回	スポーツの歴史	文化としてのスポーツの発生
第3回	スポーツの思想（1）	近代スポーツの思想
第4回	スポーツの思想（2）	現代スポーツの思想
第5回	メディアとスポーツ（1）	テレビとスポーツの関係を探る
第6回	メディアとスポーツ（2）	構造と機能
第7回	女性とスポーツ	歴史を振り返り問題点を問う
第8回	スポーツ競技者	アスリートと社会の関係を探る
第9回	スポーツファン	スポーツファンとは何か
第10回	オリンピックとパラリンピック	オリンピック・パラリンピックと政治・経済の関係
第11回	スポーツと環境問題	スポーツと環境の関係
第12回	体育の社会的構造と機能	体育はなぜ存在するのか
第13回	生涯スポーツ	生涯スポーツを考える
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示されたプリント類を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。

【参考書】

「よくわかるスポーツ文化論」井上俊・菊幸一編著ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

スポーツに思想があるのか、と驚く学生が結構多い。いろいろな事例を紹介しながら、さらに理解を深めてもらいたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the sports culture while learning the history of sports culture.

ECN200EB

政策データ分析実習

中筋 直哉

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「コロナ禍における新しい生活様式」の実証分析と政策提言

【到達目標】

政策課題について適切なデータ（統計資料、社会調査資料）を収集し、それらを適切な学問分野と分析手法に基づいて二次分析し、実現可能な政策提言を作成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教室で対面で実施（予定）。「コロナ禍における新しい生活様式」をテーマに、官公庁の統計やマスコミの世論調査データを収集、二次分析し、オリジナルな政策提言集をまとめる。授業前半では当該の課題に関する先行研究を講読し、データの収集方法や分析方法について検討する。授業後半では実際にデータを収集、二次分析し、各自政策提言を含むレポートにまとめる。課題や最終レポートについてはその都度個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	履修者の自己紹介と日程の相談
2	政策課題の理解 1	テキスト 1 の講読と討論
3	政策課題の理解 2	テキスト 2 の講読と討論
4	政策領域の理解 1	政策を要請する社会構造の概説
5	政策領域の理解 2	政策を遂行する行政機構の概説
6	政策データの収集 1	官庁統計の収集と整理
7	政策データの収集 2	マスコミ等の意識調査データの収集と整理
8	データ分析の基礎	基本統計量と相関、従属の概念
9	データ表現の基礎	さまざまなグラフ表現
10	データ分析の展開 1	回帰分析、重回帰分析の理論
11	データ分析の展開 2	エクセルによる重回帰分析の実習
12	レポート構想発表 1	受講生の発表と討論（グループディスカッション）
13	レポート構想発表 2	受講生の発表と討論（グループディスカッション）
14	レポート提出と合評会	レポートを提出し、各自口頭発表して、相互に評価、批判し合う（グループディスカッション）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの精読、指示されたデータハンドリング、レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 秋吉貴雄,2019,『入門 公共政策学』中公新書,880 円+税。
2. 稲葉剛他,2020,『コロナ禍の東京を駆ける』岩波書店,1900 円+税。

【参考書】

データ分析方法に関する参考書は、受講者の習熟度に合わせて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的関与 60 %、レポート 40 %。討論や作業をリードし、学術的価値のあるレポートを提出することが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】

よりたくさんの履修者に計量分析の楽しさを知ってもらえるよう、難易度を下げる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。また MS エクセルがインストールされたパソコンが必要。

【その他の重要事項】

この授業は、同じ講師の「社会調査実習」「調査研究法 A」と連動して運営する。受講予定人数は最大 15 人。詳細はガイダンスで確認すること。

【Outline and objectives】

This seminar aims to study multi regression analysis to use policy making on basic level.

LAW300EB

政策と制度

田中 充

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、様々な社会的課題の解決のめざす政府の取り組みです。その実現には制度を構築し運用することによって行動を組織する必要があります。また、地方自治体においては、それぞれの地域社会の特質に応じて制度を立案する必要性が高まっています。本講義では、環境政策を基軸として「政策と制度」の構築・運用に焦点を当てて政策実施のための考え方と手法について学びます。

【到達目標】

政策を実現するためのツールについて理解し、活用する能力を習得します。公共政策に携わるうえで必要な基礎的能力を形成するとともに、制度の在り方について考察する能力を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、新型コロナ問題の状況に応じて、対面またはオンライン方式で行います。授業終了時に授業内の課題に関するアクションペーパーの記入・提出を求めます。授業の初めに、前回のアクションペーパーを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。政策・制度の事例に係る映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。進行状況により予定変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方、政策的アプローチ	講義の進め方や受講上の注意を確認します。環境問題を例に、問題の設定や政策手段など政策の概論を学びます。政策の基本的な手段、法律と条例、計画の意味と役割について学びます。
2	法令と計画	制度のあり方として、問題の形成から政策の実施までのプロセスについて学びます。
3	制度設計（1）－問題解決	制度を規定するルールの基礎、ルールの設計、権利義務関係への介入について学びます。
4	制度設計（2）－ルール	政策の手段である規制的手法、経済的手法、計画的手法、補助的手法などについて学びます。
5	政策手段の類型と特徴	規制的手法の代表である規制的手法について、その類型、監視と制裁、私権制限などについて学びます。
6	規制的手法の仕組みと運用	経済的手法である負担金や権利（排出権）の取引、補助金、契約手法などについて学びます。
7	経済的手法の仕組みと運用	公共事業の実施、事業組織、受益と負担、意思決定システムなどについて学びます。
8	事業的手法の仕組みと運用	環境計画を例に、計画の立案と実施、運用の課題などについて学びます。
9	計画的手法の仕組みと運用	政策と制度における情報公開、情報提供と行動などについて学びます。
10	情報的手法の仕組みと運用	市民参加の手法、協働ルールやパートナーシップ原則などについて学びます。
11	参加的手法の仕組みと運用	経営管理システムである環境マネジメント、環境 ISO について学びます。
12	自主管理手法の仕組みと運用	地方自治体における条例の制定、法律による先占と条例の可能性などについて学びます。
13	自治立法	制度とは何か、事例をもとにした意見交換を行います。本講義のまとめをします。
14	講義のまとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政策と制度に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。授業期間中に課題レポートを作成し提出します。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。プリントを配布します。

【参考書】

授業内で指示します。政策・制度の事例に係る映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。

【成績評価の方法と基準】

・配分は、授業参加(平常点)60%、課題レポート40%(2回)とします。
 ・授業参加として、毎回リアクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーは記述内容に応じて採点(1回5~1点)、全回提出で満点60点とします。
 ・課題レポートを2回(うち1回を授業内小テストに代えることがある)行い、各回満点20点、合計40点とします。
 ・欠席の多い受講態度(概ね3割以上、14回中に4回以上の欠席)は、平常点を大きくマイナスし、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

・受講生への連絡、資料配布等は学習支援システムで行います。システムを随時チェックできるような通信環境の設定が必要です。
 ・授業方式(対面またはオンライン)は、学習支援システムでお知らせします。
 ・オンライン授業の場合は、Wi-Fi等のインターネット接続が必要です。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
 ・担当教員は、行政における政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等を事例を交えて解説します。

【Outline and objectives】

In this lecture we will learn the concept and method of constructing and operating "policy and institution" based on environmental policy.

SOS300EB

政策フィールドワーク実習

堅田 香緒里

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本演習では、東京都下において生活困窮状態にある人や、そのような人を支援する人・団体へのインタビュー調査や参与観察を通じ、フィールドワークの手法について実践的に学習していく。

【到達目標】

フィールドワークの一連のプロセスを学び、自ら調査を計画し、実施できるようにすること。

生活困窮状態にある人の生活実態と排除の諸相への理解を深め、その対策について何らかの提言ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は大きく分けると、調査の(1)準備段階、(2)実施段階、(3)分析段階から構成される。(1)では調査を円滑に実施するための予備的作業、(2)ではフィールドワークやインタビュー調査の実施、(3)では得られたデータをもとにした考察、レポートの作成などを行う。

課題については、その都度授業時間内にフィードバックを行う。

※今年度は、堅田担当の社会調査実習と一部合同で実施する予定です。

※状況に応じて、変更の可能性あり(フィールドワークは行わず、既存データの二次分析を行う、等)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	調査計画の確認	生活困窮の実態/調査方法
3	調査の準備作業	調査票の作成/対人調査に関する倫理審査、野宿者へのインタビューに伴う困難
4	予備調査(1)	調査票を活用し、模擬的なインタビューを実施する。
5	予備調査(2)	フィールドにおける参与観察を行う、フィールドノーツの作成
6	調査の実施(1)	フィールド(立川)にてインタビュー調査を実施する
7	調査の実施(2)	フィールド(立川)にてインタビュー調査を実施する
8	調査の実施(3)	フィールド(立川)にてインタビュー調査を実施する
9	調査の実施(4)	フィールド(新宿)にてインタビュー調査を実施する
10	調査の実施(5)	フィールド(新宿)にてインタビュー調査を実施する
11	調査データの整理	テープ起こし、得られたデータの整理、データのコード化
12	調査データの分析	データの分析作業を行う
13	分析結果の論文化(1)	データ分析の結果を基に、各自のテーマを確定する
14	分析結果の論文化(2)	調査結果・分析を踏まえ、論文を執筆

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

ほぼ毎回の授業で課題の提出を求める。

授業時間外にも積極的にフィールドに足を運ぶことを期待する。

本授業の準備学習(文献を事前に読む等)・復習時間(授業内で提示された課題に取り組む等)は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

必要に応じてそのつと指示する。

【参考書】

必要に応じてそのつと指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(主体的参加度や、共同作業への貢献など)30%、インタビュー記録などの調査データの作成30%、論文40%によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（貸与パソコン可）

【その他の重要事項】

4月初旬に実施する政策フィールドワーク実習のガイダンスに出席して担当教員の指示を受けること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn how to plan and implement fieldwork. Students also learn how to design structured questionnaires and visit some sites in Tachikawa and Shinjuku for fieldwork to collect information from the target persons. After the fieldwork, students make a fieldwork report and present the research outcomes.

POL200EB, POL200EC

政治学理論 I

白鳥 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論の理解のみならず、理論を使った事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといっている。現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必須な考え方をともに考える。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	政治学とは何か	導入
2)	政治学の基礎概念	基礎概念
3)	古代の政治理論 (1)	プラトンなど
4)	古代の政治理論 (2)	プラトンなど
5)	古代の政治理論 (3)	アリストテレスなど
6)	古代の政治理論 (4)	アリストテレスなど
7)	中世の政治理論 (1)	アキナスなど
8)	中世の政治理論 (2)	アキナスなど
9)	中世の政治理論 (3)	アウグスチヌスなど
10)	中世の政治理論 (4)	アウグスチヌスなど
11)	近代の政治理論 (1)	マキャベリなど
12)	近代の政治理論 (2)	マキャベリなど
13)	政治学理論と現代	最近の動向から
14)	過去の政治学理論の意義	今、古典を学ぶ意味とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の事例への理解を深めるために読書レポートを準備してもらおう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『政権交代選挙の政治学』ミネルヴァ書房、2010年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらおうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、教場試験が実現できない場合も想定される。学期末に最終的に教場での試験が行えない場合には、成績評価の方法と基準における試験をレポートで代替することを考える。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

POL200EB, POL200EC

政治学理論Ⅱ

白鳥 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論的理解のみならず、理論を使用した事例の理解に到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといつて良い。現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の選択を行う責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必須な考え方をともに考える。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	近代までの政治学
2)	近代とは何であったか	マキャベリ、ホッブス、ロックなど
3)	近代批判の政治理論 (1)	ルソーなど
4)	近代批判の政治理論 (2)	ルソーなど
5)	近代批判の政治理論 (3)	ヘーゲルなど
6)	近代批判の政治理論 (4)	マルクスなど
7)	現代の政治理論 (1)	ウェーバーなど
8)	現代の政治理論 (2)	制度論から過程論へ
9)	現代の政治理論 (3)	政治過程の理論
10)	現代の政治理論 (4)	国際化する政治
11)	最先端の政治理論 (1)	行動科学としての政治学
12)	最先端の政治理論 (2)	アメリカの研究
13)	国際政治の政治理論	ヨーロッパの研究、ロッキンなど
14)	現代政治理論の展望	最近の動向から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の理解を深めるために読書レポートを準備してもらおう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『政権交代選挙の政治学』ミネルヴァ書房、2010年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらおうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト70%、レポート20%、講義科目への積極度10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline and objectives】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

BAB100EA

生命の科学

鞠子 茂

サブタイトル：生命の科学Ⅰ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では生命科学に関する様々な話題を設定し、ヒトとの関連性を確認しながら授業を展開していく。学生は人間が生物の一員であることを再認識することで、現代社会における多種多様な問題を解決していくための規範の一つを学ぶ。

【到達目標】

ゲノムや新たな遺伝子発現に関する知識を得た上で、バイオテクノロジーによる生命操作や生殖補助医療の是非について考えるための遺伝子または科学リテラシーを身に付けることができる。また、病の一部は生物進化の産物であることを学び、病との向き合い方について新しい視点を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

パワポを使った講義を行う。事前に学習支援システムで配布資料をダウンロードし、予習をしたうえで授業に臨む。理解度確認のために課題を課し、解答を提出させる。次の授業で提示された解答例をみて各自理解度をチェックする。理解度の高低により授業テーマの順序や内容は多少変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと生命の特性について講義	授業の進め方と生命の共通性と多様性について講義する
第2回	生命の誕生物語	宇宙生物学が描く生命誕生誌の紹介
第3回	なぜ生命はそうなっているのか	エネルギーが生命の誕生と進化に制約を与えてきたことを論じる
第4回	遺伝子・DNA・ゲノムの違いを学ぼう	遺伝子リテラシーとセントラルドグマを講義する
第5回	全能なる受精卵と多能なるiPS細胞	エピジェネティクスという遺伝子発現を調節する仕組みを学ぶ
第6回	生命操作技術の光と闇	バイオテクノロジーの功罪を検証する
第7回	ウイルスは究極の寄生性微生物である	ウイルスの誕生と生物との進化的な関わりについて学ぶ
第8回	人獣共通感染症と人類の戦いを科学する	未曾有の災害であるコロナウイルス感染症について講義する
第9回	免疫という生体防御機構	免疫のメカニズムについて学ぶ
第10回	メタボと儉約表現型仮説	ヒトがメタボになる仕組みを学ぶ
第11回	魚にもうつ病がある	うつ病の進化的起源について解説する
第12回	性が存在するわけ	ヒトの基本形は女であることを学ぶ
第13回	生殖補助医療という人為選択がもたらすもの	体外受精などの生殖補助医療における生物学的な問題点について論じる
第14回	生物に流れる時間と全体のまとめ	生物が時間という物理量を感じ取り方について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで配布される資料を事前にダウンロードし、あらかじめ予習しておくこと。また、授業で出された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

「これが生物学だ」(E. マイア著 (八杉貞雄・松田学翻訳) シュプリンガー・フェアラク東京 1999年), 「人間のための一般生物学」(武村政春著 裳華房 2007年), 「人体600万年史(上・下):科学が明かす進化・健康・疾病」(ダニエル・E・リーバーマン著 (塩原通緒翻訳) 早川書房 2015)

【成績評価の方法と基準】

〔配分〕期末試験(80%), 平常点(20%)

〔評価基準〕期末試験では、3~4題の小問からなる大問を10問程度作成し、出題する。平常点は課題提出率と回答内容から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない

【Outline and objectives】

This course aims to develop an understanding of what life is at the genetic level. Based on the life sciences, the students also learn about pros and cons of biotechnology and origins of humanity and diseases.

LIT100EA

創作表現論 I

金原 瑞人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治時代からの日本語の変遷を学ぶ一方、創作の基本を身につける。

【到達目標】

明治時代の日本語の変遷についての基本的な知識および、文章表現の基本が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義＋実際の創作指導。明治時代の日本語の変遷、変革について 14 回に分けて講義する。一方、毎回、短い作品（ショートショート、短編小説、エッセイなど）を提出してもらう。また、2 週間に 1 冊、日本の文学作品を読んでもらう。なお、講義はすべて文章ファイルで送付。毎回の課題も文章ファイルで提出してもらう。提出してもらった課題に関してはすべて「講評」の形にまとめて、授業支援システムで送付する。また、毎週火曜日の 2 限に zoom の授業も行うが、これは質問のある人、議論したい人、最近の小説・映画・演劇などに関する話をしたい人・聞きたい人のためのもので、参加は自由。成績には関係ない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	小説と novel と落語	三遊亭圓朝
2	言文一致運動	『浮雲』
3	速記と言文一致運動	『怪談牡丹灯籠』
4	明治時代の日本語改革論	前島密と福沢諭吉
5	日本語とローマ字	森有礼と西周
6	国語教科書の変遷	文語から口語へ
7	日本語における横書きの誕生	幕末から明治初期にかけての変革
8	絵本と横書きと縦書き	戦前と戦後の比較
9	マンガと横書きと縦書き	日本のコミックの欧米版
10	様々な言語の表記	右縦書き、左縦書き、右横書き、左横書き
11	辞書の縦書きと横書き	中国と日本
12	明治の小説が目指したもの	近代リアリズム小説
13	一人称の小説と三人称の小説	どちらが書きやすい？
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義内容を読み、作品（ショートショート、短編小説、エッセイなど）を書いて提出する。また、2 週間に 1 冊、文学作品を読む。本授業の準備・復習時間は 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

提出された課題 100 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

読んでもらう文学作品のリストは 1 回目の授業のときに配布の予定。また、上記の授業計画は変更されることもある。

【Outline and objectives】

Learn about Japanese cultural history in the Meiji Era and learn the basics of creative writing in Japanese.

LIT100EA

創作表現論Ⅱ

金原 瑞人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

欧米の文学史を学ぶ一方、日本語での創作の基本を身につける。

【到達目標】

社会の文学に関する基本的な知識および、文章表現の基本が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義+実際の創作指導。欧米の文学史について 14 回に分けて講義する。一方、毎回、短い作品（ショートショート、短編小説、エッセイなど）を提出してもらう。また、2 週間に 1 冊、欧米の古典的な作品を読んでもらう。なお、講義はすべて文章ファイルで送付。毎回の課題も文章ファイルで提出してもらう。提出してもらった課題に関してはすべて「講評」の形にまとめて、授業支援システムで送付する。また、毎週火曜日の 2 限に zoom の授業も行うが、これは質問のある人、議論したい人、最近の小説・映画・演劇などに関する話をしたい人・聞きたい人のためのもので、参加は自由。成績には関係ない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ギリシア神話	『神統記』
2	ホメロス	『イリアス』と『オデュッセウス』
3	ギリシア演劇	『オイディプス王』と『メディア』
4	アイスキュロス	『オレスティア 3 部作』
5	ギリシア神話のエピソード	アポロンとカッサンドラ
6	中世の物語	『アーサー王物語』
7	『アーサー王物語』と漱石	『薙露行』
8	エリザベス朝の演劇	シェイクスピア概論
9	シェイクスピアの短い芝居と長い芝居	『マクベス』と『ハムレット』
10	近代リアリズム小説の誕生	『ロビンソン・クルーソー』
11	書簡体小説の誕生と可能性	『パミラ』
12	フランス心理小説の流れ	『危険な関係』から
13	恐怖小説の流れ	『フランケンシュタイン』から『鉄腕アトム』へ
14	児童文学の流れ	『不思議の国のアリス』から『指輪物語』へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義内容を読み、作品（ショートショート、短編小説、エッセイなど）を書いて提出する。また、2 週間に 1 冊、古典的な作品を読む。本授業の準備・復習時間は 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

提出物 100 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

読んでもらう作品のリストは 1 回目の授業のときに配布の予定。また、上記の授業計画は変更されることもある。

【Outline and objectives】

Learn about Western cultural history and learn the basics of creative writing in Japanese.

FRI300ED

ソーシャルメディア実習

藤代 裕之

サブタイトル：ウェブ・ジャーナリズム実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ソーシャルメディア論とソーシャルメディア分析で学んだことを活かし、ソーシャルメディアを利用した社会の課題解決について実践的に取り組みます。

【到達目標】

ソーシャルメディアを社会課題の解決に活かせるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ワークショップ形式の実習です。グループでの分析、作業、発表があります。リアクションペーパー紹介などのフィードバックを行う取組予定のテーマは、生活環境、情報環境の変化を想定して、実際の社会課題についてのサービスの検討を予定しています。詳細はガイダンス時に伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	調査分析	対象の調査
第 3 回	調査分析	対象の調査
第 4 回	調査分析	対象の技術的な分析
第 5 回	調査分析	対象の技術的な分析
第 6 回	調査分析の構造化	アイデア検討
第 7 回	調査分析の構造化	アイデア検討
第 8 回	中間まとめ	中間発表
第 9 回	企画立案	アイデアの再検討
第 10 回	企画立案	アイデアの再検討
第 11 回	実践計画	実践計画の策定
第 12 回	実践計画	実践計画の策定
第 13 回	実践	実施
第 14 回	最終まとめ	実践の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回は予習、復習が前提です。グループ作業が相当程度必要になります。ワークショップ形式で行われる参加型講義ですので、予習やグループ学習を必ず実施してください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。平常点はグループワークやディスカッションへの貢献など総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、プレゼンテーションソフトなど。

【その他の重要事項】

本授業は「ソーシャルメディア論/ソーシャルメディア分析」の受講を前提としています。受講希望者はガイダンスに出席して授業方針を確認してください。グループワーク形式で行われるため原則すべての回に出席する必要があります。どんな小さなアイデアでも発言し、前向きに議論することが求められます。

【Outline and objectives】

In this course, students will work on actual solutions to social issues by combining theories and analyses of social media.

SOC200ED

ソーシャルメディア分析

藤代 裕之

サブタイトル：メディア経営論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアの登場による情報環境の変化は、既存のメディアをはじめ、社会、生活者に大きな変化をもたらしています。ソーシャルメディアにより可視化された人々の口コミの分析は、メディアに関わる企業において必要不可欠な職業的技能となっています。本授業では、ソーシャルメディアの口コミの構造やデータの分析手法を学ぶことで、ジャーナリズムやマーケティングなどに生かすことができる能力を身につけることを目的としています。

【到達目標】

ソーシャルメディアの口コミを単に分析するだけでなく、発生や伝播の構造を理解した上で、社会に与える影響を分析し、表層ではなく本質的に捉えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業にはグループワークがあります。リアクションペーパーなどを紹介し、フィードバックを行います。企業見学の実施やゲストによる講義が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要と目的
第2回	概論	ソーシャルメディアの特徴
第3回	概論	消費行動モデルの変容
第4回	概論	口コミを利用したキャンペーン
第5回	概論	炎上とその要因
第6回	概論	拡散の構造
第7回	概論	社会記号と洞察
第8回	分析	ソーシャルリスニング
第9回	分析	口コミデータの収集
第10回	分析	口コミデータの分析
第11回	分析	関連情報の収集
第12回	分析	関連情報の分析
第13回	分析	リスクの検討
第14回	まとめ	分析結果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回は予習、復習が前提です。グループによる作業時間が相当程度必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

嶋浩一郎・松井剛（2017）『欲望する「ことば」「社会記号」とマーケティング』集英社新書

【参考書】

佐藤尚之（2011年）『明日のコミュニケーション「関与する生活者」に愛される方法』アスキー新書

シャーリーン・リーら（2008年）『グランズウェル~ソーシャルテクノロジーによる企業戦略』翔泳社

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート 50%。平常点は、提出するレジュメの内容、グループワークやディスカッションへの貢献で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

データの収集分析にパソコン、ソフトを使用します。

【その他の重要事項】

本授業は「ソーシャルメディア論」の受講を前提としています。受講希望者はガイダンスに出席して授業方針を確認してください。グループワーク形式で行われるため、原則すべての回に出席する必要があります。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn methods about social media data analysis.

SOC200EB, SOC200ED

ソーシャルメディア論

藤代 裕之

サブタイトル：ウェブ・ジャーナリズム論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアの登場による情報環境の変化は、社会に大きな変化をもたらしています。この授業では、ソーシャルメディアに関連する歴史、技術、法という基本概念を学ぶとともに、急速に発展する「ソーシャルメディア社会」がもたらす課題を考えることで、情報発信の当事者として基礎的なメディア・リテラシーを獲得することを目的としています。

【到達目標】

1) ソーシャルメディア社会のあり方を理解する。2) 情報発信の当事者としてメディア・リテラシーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は教科書の予習を前提に進め、質疑や議論を行います。提出された課題にすることで、授業の理解を深めます。現在進行形で起るメディアと社会の問題を扱うため、ゲストの招聘、時事問題への対応などで、授業計画を変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	歴史を知る	ソーシャルメディアの歴史
第 3 回	歴史を知る	技術の進化とオープンプライバシー社会
第 4 回	歴史を知る	社会の制度と法律
第 5 回	現在を知る	ソーシャルメディアとニュース
第 6 回	現在を知る	ソーシャルメディアと広告
第 7 回	現在を知る	ソーシャルメディアと政治
第 8 回	現在を知る	ソーシャルメディアとキャンペーン
第 9 回	現在を知る	ソーシャルメディアと都市
第 10 回	現在を知る	ソーシャルメディアとコンテンツ
第 11 回	現在を知る	ソーシャルメディアとモノ (IoT)
第 12 回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決 (地域)
第 13 回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決 (システム)
第 14 回	未来を考える	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

該当部分のテキスト（教科書）を予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤代裕之編（2019 年）『ソーシャルメディア論・改訂版：つながりを再設計する』青弓社

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、平常点 50%。平常点は、授業中の発言や質問、リアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ずガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。授業中の私語は退場とします。

【Outline and objectives】

This course will introduce the fundamental concepts, history, law, and technology of social media.

SOS200EB, SOS200EC

組織論

多田 和美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織論では、社会の基礎的構成要素である組織の存在、行動、変化および効率的な運営に関する原理・原則を考察します。授業では、組織論の基本理論とその実践的な活用方法を学びます。また、変化の激しい現代社会では組織はどのような取り組みが必要なのかといった、組織に関する諸問題を組織論の基本理論を通じて議論します。

【到達目標】

授業では、下記の 2 点に到達することを目標とします。

- 1) 組織論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、実践的に活用できる。
- 2) 現代社会における企業や各機関の組織の役割や課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	組織とは何か	組織の定義
第 2 回	多様な組織観	組織の機械観と有機体観
第 3 回	組織デザイン①	分業と調整
第 4 回	組織デザイン②	組織構造
第 5 回	経営組織論①	企業組織の特徴と管理
第 6 回	経営組織論②	企業組織の事例研究
第 7 回	公共組織論①	公共組織の特徴と管理
第 8 回	公共組織論②	公共組織の事例研究
第 9 回	コンティンジェンシー理論①	環境と組織
第 10 回	コンティンジェンシー理論②	組織の対環境戦略
第 11 回	資源依存理論	依存とパワー
第 12 回	コンフリクトとパワー	コンフリクトの発生と解消
第 13 回	取引コスト理論	取引コストと企業の境界
第 14 回	新制度派組織論	同型化、正当性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。

【参考書】

桑田耕太郎・田尾雅夫（2010）『組織論』有斐閣。
山田耕嗣・佐藤秀典（2014）『コア・テキスト マクロ組織論』新世社。
山田真茂留（2017）『集団と組織の社会学』世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題：60%、期末試験もしくは期末レポート：40%で評価します。

- ・課題の提出は期限厳守です。
- ・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、受講生の意見を把握し授業改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand the fundamentals of organization theory. The course is mainly composed of the followings:

- 1) Organization design
- 2) Management of organizations
- 3) Organizations in external environments

IDN100EA

多摩地域形成論

池田 寛二

サブタイトル：多摩地域形成論 I

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多摩キャンパスを取り巻く地域社会の歴史・文化・政治・経済・社会環境やそこで生きる人々から学び、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について探求する。

【到達目標】

近隣地域社会が抱える課題や可能性から学ぶことを通して、法政大学多摩キャンパスの学生としての自分が立っている〈場所〉への理解と認識を深め、その後の主体的学習・活動への手がかりとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業は、2013 年度に開設した「法政大学多摩地域交流センター」が、多摩 4 学部の教員と協力して実施する、4 学部共通の授業である。多様な専門領域の教員によるリレー形式で、近隣地域からのゲスト講師を多く招き、実践的かつ理論的に学ぶ。受け身な態度でなく、自らも当事者とともに地域の課題に向き合い、その解決に関わろうとする受講生を期待している。なお、ゲスト講師の都合や授業の展開によって、若干の変更があり得る。各回のリアクションペーパーに対しては、その都度講師が評価し、必要に応じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この科目をなぜ、どのように学ぶのか
第 2 回	多摩キャンパス版「法政学」	法政大学の歴史・建学の精神と多摩キャンパスの歴史
第 3 回	多摩キャンパスと近隣地域 (1)	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ
第 4 回	多摩キャンパスと近隣地域 (2)	多摩キャンパスで学び近隣地域で働く卒業生の視点から学ぶ
第 5 回	多摩キャンパスと近隣地域 (3)	多摩地域のエリアマネジメントを学ぶ
第 6 回	多摩地域の現代史 (1)	多摩地域の住民運動の歴史
第 7 回	多摩地域の現代史 (2)	団地開発とベッドタウンとしての多摩地域の形成
第 8 回	多摩地域の現代史 (3)	多摩の平和運動・子育て・自治体づくり
第 9 回	これからの多摩地域の形成 (1)	超高齢化によるコミュニティの持続可能性の危機
第 10 回	これからの多摩地域の形成 (2)	新たなつながりを創り出すコミュニティビジネス
第 11 回	これからの多摩地域の形成 (3)	地域の資源をエネルギーに
第 12 回	これからの多摩地域の形成 (4)	コミュニティ文化とスポーツ
第 13 回	まとめ	支え合いの地域社会と居場所づくり
第 14 回	これからの多摩地域の形成 (5)	ふりかえりのワークショップ：グループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて今回の授業内容の関連資料を紹介し、事前学習を課すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %程度）とレポート（70 %程度）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内でのアンケートから、「多摩地域を身近に感じられるようになった・地域での活動への関心が高まった」といった感想が寄せられており、今年度も更なる内容の充実を図っていく。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業支援システムを利用する。
- ・本授業の内容は、内部での記録作成のためビデオ録画を行う予定である。

【その他の重要事項】

○講義の目的・運営上の必要から 700 人までに受講を制限する科目とする。春学期の受講登録手続きより前にウェブ抽選を行い、当選したものが受講登録を行うことができる。

○本授業は先述のように、「多摩地域交流センター」と関連した科目であり、学生による自主活動に向けたきっかけづくり＝媒介的な学習の場となることを目指している。授業内容に刺激、触発を受けた受講生は、積極的に同センター（総合棟 2 階）を訪ね、フィールドワークや自主活動のきっかけづくりに結び付けて欲しい。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to make students learn about the history, culture, politics, economy, social environment and people's life in the area surrounding the Tama Campus, and explore the peculiar significance of living as university students and their social role in this region.

SOC200EC

地域環境論

池田 寛二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本と世界の地域社会とそれを取りまく環境の急激な変化を社会的に読み解く。なお、講義内容には、2020 年度と同様、もしくはそれ以上に、新型コロナウイルスの感染拡大が日本や世界の地域と環境に及ぼした影響や変化が色濃く反映される。

【到達目標】

受講生が、自らが生活している地域社会がどのような環境条件にさらされているか、どのような環境問題に直面しているかについて、意識的に目を向け、考え、実践できる想像力と行動力を体得することが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

日本と世界の地域と環境の実情を理解するのに役立つ文献、統計資料および多種多様な映像資料など豊富な資料を提示しながら授業を進め、その都度、リアクション・ペーパーを書かせて受講生の反応を確認し、優れた質問やコメントに対しては、各回の講義の導入部分で紹介しフィードバックする。また、受講生に身近な地域における環境の実情について、初歩的なフィールドワーク（現地での資料収集やヒヤリングあるいは参与観察）を課題として提示し、その結果をレポートさせる。ただし、この授業は講義科目であり、ここで言う「フィールドワーク」とは、受講生が独自に取り組む課題であって、グループディスカッションやディベートを伴うものではない。したがって、アクティブ・ラーニングには該当しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	地域とは何か？ 地域環境とは何か？
第 2 回	地域社会とはどんな社会なのか？（1）	community とは何か？
第 3 回	地域社会とはどんな社会なのか？（2）	日本の地域社会の歴史と現在（農村的 地域社会のとらえ方：「むら・村落・ 町・市町村・都市の中のむら」…）
第 4 回	地域社会とはどんな社会なのか？（3）	日本の地域社会の歴史と現在（都市的 地域社会のとらえ方：「宮廻・都・ 市・大都市・アーバニズム」…）
第 5 回	地域社会とはどんな社会なのか？（4）	世界の地域社会の概況（アジア、ヨー ロッパ、アメリカ、アフリカを中心に）
第 6 回	地域社会における人口と環境	人口と環境の相関性（ $I=P \cdot A \cdot T$ 、 「コモンスの悲劇」、エコロジカル・ フットプリント）
第 7 回	都市への人口集中と環境	都市への急激な人口集中は環境をどう 変えたか？（ヒートアイランド、都市 鉱山…）
第 8 回	高度科学技術文明と地域環境	情報通信技術と生命技術のイノベー ションは地域社会とその環境をどのよ うに変えるのか？（AI 農業、自動運転 …）
第 9 回	グローバル化と地域環境	グローバル化は地域（ローカルな社 会）とその環境をどう変えたか？
第 10 回	リスク社会と地域環境	現代の地域と環境はどのようなリス クに対処しなければならないのか？
第 11 回	廃棄物と地域環境	現代の地域社会は廃棄物を適切に管 理・処理できているのか？（東京多摩 地域を事例として）
第 12 回	エネルギーと地域環境	現代の地域社会は持続可能なエネ ルギー需給システムを構築できている のか？（原発と再エネを中心に考える）
第 13 回	気候変動と地域環境	極端気象の常態化を抑制するために地 域社会に求められている課題は何か？ （脱炭素社会は地域からしか構築でき ない）
第 14 回	まとめ：地球環境と地域環境	地球環境は地域環境からしか変えられ ない（地球工学・国連至上主義・「人新 世」言説の批判的検討）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は授業支援システムで予め配信するので、準備学習をしておくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

講義資料の中で多数指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（20 %）、受講生各自の身近な地域における環境の実情に関する初歩的なフィールドワーク（現地での資料収集やヒヤリングあるいは参与観察）にもとづくレポート（80 %）。

【学生の意見等からの気づき】

初めての開講のため、特記事項なし。

【Outline and objectives】

In this lecture, considering how drastically rural/urban communities and their environmental conditions are changing in contemporary Japan and the world.

ARSe200EC

地域研究（アジア）

吉村 真子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、アジアにおける社会・経済・政治などの問題について、様々な観点から議論していくことを課題とします。対象地域は、東アジア（中国、朝鮮半島、台湾）、東南アジア、南アジアです。

【到達目標】

本講義で、アジア社会における様々な問題について学び、多角的な視点で議論、分析することを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義は、アジアの社会や経済・政治について、様々な観点から議論、分析することを目的とします。対象地域は、東アジア（中国、朝鮮半島、台湾）、東南アジア、南アジア。アジア社会について具体的に考えること、問題を構造的に議論することが重要です。最終授業では 13 回までのまとめや復習に加え、授業内の小レポートや課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業のテーマと目的
第 2 回	世界の中のアジア	アジアとは何か
第 3 回	植民地支配と独立後	アジアの植民地化と現地社会
第 4 回	日本と「アジア」	日本と近隣アジア諸国との関係
第 5 回	アジア社会の重層性	エスニック集団（民族）、宗教、言語
第 6 回	アジアの多民族社会	地域研究のケースから
第 7 回	アジアの政治問題	現代アジアの政治
第 8 回	農村社会の近代化	農村開発、農業、貧困
第 9 回	アジアにおける工業化	グローバル化と新しい国際分業
第 10 回	アジアの都市化	アジアにおける都市問題
第 11 回	経済援助	開発援助、ODA、NGO など
第 12 回	アジアの環境問題	環境の諸問題とサステナビリティ
第 13 回	グローバル化とアジア	いまアジアで何が起きているのか
第 14 回	アジアの開発と市民社会	アジア社会の視点から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも、自分で関心をもってアジア社会について調べてほしいと思っています。授業でのグループ・ディスカッションのために、課題について調べてもらうことも予定しています。またアジアに関する文献・資料のほか、ドキュメンタリー、シンポジウムや講演会、アジア映画や展覧会など、教室外でアジアに触れることを目的に、「ミニ・レポート」は「文字メディア以外でふれたアジア」を課題にする予定です。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考文献などは適宜、紹介します。

【参考書】

参考文献などは適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準としては、①授業に関するコメントやミニ・レポート（30%）、②定期試験（70%）として、総合的に評価します。COVID-19 対応で学習支援システムなどのオンライン授業になる可能性もあり、毎週の授業資料の聴講や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

アジア社会について深い分析と議論につながるようにしたいと思っています。

【その他の重要事項】

授業支援システムなどを利用したオンライン授業の実施の可能性がありますので、その準備をしておいてください。

【Outline and objectives】

This course is to study Asian societies and economies. The issues include discussion on history, politics, ethnicity, rural development, industrialization, urbanization, environment, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in the globalizing Asian societies. Students are required to study social problems in Asian countries, to submit a short paper and to take a final term examination.

ARSe200EC

地域研究（中国）

大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古来、独自の文化的秩序観による一個の世界を形成してきた中国（中華）の歴史をふまえ、グローバル化の進展する現代の国際社会の中でその独自性と普遍性を分析、考察する。

【到達目標】

現代中国と東アジア地域について、特に近代以降の歴史を「通時的」に概観しながら、グローバルな視点も加えて「共時的」に解析、検証し、事象をより正確にとらえ、的確に分析していく視座を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は教員による概説と問題提起、グループ討論。後半はテーマ別に小グループを編成し、発表、議論をおこなう。学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションが実現可能な時間と空間としたい。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「中国」という文明体	中華世界と中国の世界秩序
2	中国をめぐる経と緯	中国と「屈辱の近代」
3	現代中国への視座	「改革・開放」と現代中国
4	疑問と誤解（1）	中国を理解するキーワード
5	疑問と誤解（2）	中国共産党と社会主義
6	疑問と誤解（3）	伝統的政治思想と「民主化」
7	ひとつの中国、たくさんの中国（1）	多民族国家の諸問題
8	ひとつの中国、たくさんの中国（2）	香港、マカオ、台湾
9	発表と討論（1）	格差と「小康社会」の実現
10	発表と討論（2）	さまざまな社会問題から検証する現代中国
11	発表と討論（3）	「北京コンセンサス」と「ワシントンコンセンサス」
12	発表と討論（4）	日・中関係の過去と歴史認識問題
13	発表と討論（5）	日・中関係の現在・未来
14	発表と討論（6）	中国と世界のこれから

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 読書（参考図書）
 2. 関連する新聞やネットの記事のチェック
 3. グループ発表、討論の準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の「教科書」はない。各回必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとに行き渡るだけ多く紹介する。

【成績評価の方法と基準】

現代中国と東アジア地域の「通時的」理解にグローバルな「共時的」解析、検証を加えて獲得した新しい視座により具体的な考察（書評など 20% + 小論文 50% = 70%）をおこなう。これに参加（教員と学生の書面の応答「交換日記」）や発表（30%）を加えて評価する。

オンライン授業となった場合には、書評など 35% + 小論文 65% と変更する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討論による相互学習、基本的な事項の確認等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきたい。

教室でも zoom でも従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【その他の重要事項】

北京駐在記者としての取材、報道の経験を踏まえ、現代中国に関する情報収集や分析の「リテラシー」を伝え、中国像の「歪み」と実像とを比較考量する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the knowledge and new point of view to contemporary China.

ARSA200EC

地域研究（ヨーロッパ）

高橋 愛

サブタイトル：地域研究（西欧）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多元性の上に成り立つヨーロッパに時間軸をたどりながらアプローチし、その形成の歴史的背景と過程をみる。現代ヨーロッパの特徴と今日の EU が抱える問題を複眼的な視点で眺め、今後の可能性を検討、議論する。

【到達目標】

ヨーロッパは底流にある共通の文化とローカルな地域的多様性によって形成され、二度にわたる世界大戦の経験から未来への指針をいかに引き寄せるべきかを模索してきた。そして、2020 年には、英国の EU 離脱によってヨーロッパ統合の流れは初めて後退した。こうした歴史も踏まえて、「多様性の中の統合」を掲げる EU の現状や今日における問題点を具体的に述べることができる。日本とヨーロッパの諸地域を比較し、関連付けて考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・講義形式で進め、授業の内容に関する受講生の質問等にも応じ、議論を深める。具体的な方法については「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示する。
・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と方法の説明
第 2 回	ヨーロッパとは？	ヨーロッパの地理的概念と文化的区分、ヨーロッパ意識をめぐる問題
第 3 回	ヨーロッパ世界の形成 (1)	古代ギリシャ・ローマの遺産と精神的故郷としての位置
第 4 回	ヨーロッパ世界の形成 (2)	キリスト教文化圏の形成、三大教派誕生の背景と特徴
第 5 回	ヨーロッパと世界大戦	二つの大戦におけるヨーロッパ
第 6 回	戦後ヨーロッパにおける記憶と対話	国際教科書改善運動、フランスとヴィシー体制をめぐる記憶など
第 7 回	東西冷戦	東西冷戦とヨーロッパ分断の歴史
第 8 回	ヨーロッパ統合 (1)	ヨーロッパ統合への共通意思とその理念・実像
第 9 回	ヨーロッパ統合 (2)	基本条約から欧州憲法条約、リスボン条約の発効まで、EU 独自のガバナンス
第 10 回	ヨーロッパ統合 (3)	EU の拡大と深化、ユーロ危機
第 11 回	ヨーロッパ統合 (4)	英国の EU 離脱と将来関係
第 12 回	ヨーロッパ統合 (5)	気候変動問題、新型コロナウイルス復興基金等、2021 年の EU
第 13 回	21 世紀のヨーロッパと移民・難民	ヨーロッパ域内の多様性、移民・難民政策をめぐる議論
第 14 回	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースを通して、ヨーロッパで何が問題となり、議論されているのかをきちんと把握する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内容に関するレポート課題（中間・期末の 2 回）で評価する。成績評価の内訳は、中間レポート（50 %）と期末レポート（50 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】

日々変化するヨーロッパの情勢を理解するために、2021 度も最新の記事や映像資料を積極的に紹介したい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students deepen knowledge and understanding of Europe.

ECN200EB

地域産業論 I

加藤 寛之

サブタイトル：地域産業論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な地域産業の具体例を紹介しつつ、地域産業を考える上で必要な眼（概念・理論）を習得し、受講者各自が地域産業の活性化に関われるようになることをテーマとする。

【到達目標】

農業や製造業、サプライヤーシステムなど、現代の地域産業で生じている国内での現状と課題を認識し、一方で国境を越えて地域産業をとらえる視点を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回授業前日までに、授業支援システムに教材と簡単な課題をアップします。課題は授業支援システム上で提出し、締切を設けます。締切は授業日です。最初の数回は授業のやり方に慣れるまでの移行期間とし、課題提出に遅延を認めます。締切後も授業支援システムに提出できるように設定しておきます。期末試験は実施せず、課題とレポートで評価します。フィードバックは課題ごとにコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	企業を見る眼、産業を見る眼、中小企業を見る眼、地域産業を見る眼
第 2 回	産業の立地	チューネンの農業立地論、ウェーバー・アロンゾの工業立地モデル
第 3 回	農業と立地	事例研究：ベルグアース、村上農園
第 4 回	地域経済の成長理論	需要主導型の成長モデル、供給主導型の成長モデル
第 5 回	都市と環境問題	公害としての環境問題、都市の環境問題
第 6 回	地方工業都市（1）	企業城下町、日立製作所、三菱重工業（東海・九州）
第 7 回	地方工業都市（2）	トヨタ生産システム、愛知と九州と東北の自動車産業
第 8 回	都市周縁の集積	大阪の金型工場の集積、岡山のジーンズ縫製
第 9 回	マザー工場	子工場、孫工場とマザー工場の共進化、富士通、川崎重工
第 10 回	産業集積の理論と事例	クラスター
第 11 回	国境を越える地域の連携	プロダクトサイクル説、雁行形態論、塩地モデル
第 12 回	国の競争優位（1）	タイの自動車産業のサプライヤーシステム
第 13 回	国の競争優位（2）	東アジアの優位産業の競争力
第 14 回	国境を越えるクラスター同士の連携	東アジアのハードディスクドライブ産業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、次回のプリントを配布しますので、講義内容をあらかじめ把握してください。また、日常的に新聞を読むなど社会ニュースに触れ、時事的な事柄に感心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

村上 英樹(著)、高橋 望(著)、加藤 一誠(著)、榎原 胖夫(著)『航空の経済学』ミネルヴァ書房

伊藤 正昭(著)『新地域産業論—産業の地域化を求めて』学文社

中村剛治郎編(2008)『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題評価による平常点 70 点、レポート 30 点

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論の関わりを理解できるよう、講義を進めます。毎回リアクションペーパーを課しますが、復習になる（期末試験対策になる）という意見が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC によるプレゼンテーション形式の講義を行います。

【その他の重要事項】

授業開始は延期後の学年歴通りです。最初は授業の進め方に試行錯誤が続きますが、どうかお付き合いください。

授業前日までに毎回の教材と簡単な課題を授業支援システム上にアップロードします。課題には提出締切を設けます。最初の数回は試行錯誤が続きますので、提出遅延をしても提出できるように設定しておきます。

【Outline and objectives】

To study about local industries.

ECN300EB

地域産業論Ⅱ

加藤 寛之

サブタイトル：特講（地域と産業）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC によるプレゼンテーション形式の講義を行います。

【Outline and objectives】

To bluish up your skills about researching local industries.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特性の異なる地域を取り上げて、地域産業の具体的な実態や理論の検討を行い、地域産業を考える際に必要な概念・理論の習得を目指す。また、実際の地域産業の分析・議論において、それらをどのように活用していくべきか考えることをテーマとする。なお、授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得る。

【到達目標】

製造業、農業、流通業、観光業など、現代の地域産業の実態、理論や政策課題について、一定程度以上の理解を得てもらうことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

指定テキストを参照しながら、最新動向を踏まえつつ、地域産業の実態と理論について学ぶ。各回、章毎にテキストを扱う予定である。数回に一度課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	地方消滅、地域産業を調べるということとは
第 2 回	地方消滅	東京一極集中、コンパクトシティ
第 3 回	G 型と L 型	グローバル経済圏とローカル経済圏
第 4 回	産業分析	統計指標の読み方
第 5 回	企業分析	財務諸表と企業分析
第 6 回	稼ぐまちとは	利益なくして再生なし
第 7 回	街づくりを成功させる鉄則	自立がまちを支える
第 8 回	町おこし：鯖江市	「めがねのまち」から「オープンデータのまち」へ
第 9 回	町おこし：今治タオル	地方発のブランド
第 10 回	温州商人	ソーシャルキャピタル、温州商人のネットワーク
第 11 回	琵琶湖水系	関西経済圏と琵琶湖水系、地盤沈下、水質汚染、環境と地域産業の共存
第 12 回	現代の二都物語	アナリー・サクセニアン の明らかにした経済地理
第 13 回	常石造船	沼隈町と常石造船
第 14 回	今治造船	瀬戸内海の波方船主達の生態と造船産業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回プリントを配布します。日常的に新聞を読むなど、社会経済に関するニュースに触れて、時事的な事柄に関心を持つように心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。参考書は適宜指定します。

【参考書】

木下 斉(著)『稼ぐまちが地方を変える―誰も言わなかった 10 の鉄則』NHK 出版新書

木下 斉(著)『まちづくりの「経営力」養成講座』学陽書房

富山 和彦(著)『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP 新書田村正紀(著)『リサーチ・デザイン』経営知識創造の基本技術』白桃書房

アナリー・サクセニアン(著)、本山 康之(監修、監修)、星野 岳穂(監修、監修)、酒井 泰介(翻訳)『最新・経済地理学』

アナリー・サクセニアン(著)、山形 浩生(翻訳)、柏木 亮二(翻訳)『現代の二都物語』日経 BP 社

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%、試験：80%

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論の関わりを理解できるよう、講義を進めます。

毎回アクションペーパーを課しますが、復習になる（期末試験対策になる）との意見が多いです。

PLN100EA

地球と自然 I

澤柿 教伸

サブタイトル：自然環境論 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間社会の多様な姿が生まれた背景には、歴史や文化の地域的特色、自然災害や地球温暖化などのグローバルな現象などがあり、それらは互いに密接に関連しています。本講義では自然本来の多様性に着目して、自然科学の諸分野と社会学との学際的アプローチを追求する上で不可欠となる「基礎的な地球観」を学びます。

【到達目標】

母なる地球に秘められた自然の摂理に思いを寄せる素養を培うとともに、地球科学が、物理・化学・生物・数学などの諸科学の基礎によって成り立っていることを理解できるようになる。特に、高校までに地球化学分野の基礎を修得してこなかった学生がもつ「素朴概念」を脱却し系統だった理学概念に置き換えることができるようになる。その上で、人間社会の歴史や、生活・文化の地域的特色の背景に地球の自然が深く関係していることを認識することや、地図や地理情報システムなどの諸資料に基づいて社会を理解し地球科学的な思考を正しく活用できるようになる。これらを通じて、現代社会がかかえる諸問題を、地球的思考を通して理解し、解決に向けて考察できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1 年次～4 年次の受講が可能です。春学期の開講です。この授業は例年、1 年生の 8 割以上が受講する科目です。入学ガイダンスが未実施のままのため、新入生はいろいろ不案内で迷っていることと思います。是非、手元に郵送されている「履修要項」を精読の上「履修登録」する授業を決めていただきたいと思ひます。それでもこの授業は、「視野形成科目」に指定されているため「履修登録」していただいで間違いのない、お勧めの授業です。

地球の全体像を広く理解するために、多方面から基礎的な項目を取り上げて解説します。スライド・動画・講義資料等をスクリーンや TV モニターに投影しながら実施します。授業支援システムを通じて、事前に講義資料および作業シートを配布します。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを推奨します。

対面・オンラインにかかわらず、毎回の授業でリアクションペーパーを提出してもらい、そこに記載された疑問や質問には学習支援システムを通じて、全体・個別に回答します。授業進行に従い、全体の理解度に応じて、資料を捕捉で提供したりや Web コンテンツを追加で紹介したりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員の自己紹介、講義の進め方・成績評価等について
第 2 回	地球科学入門と素朴概念	地球科学を構成する学問体系
第 3 回	メンタルマップ	地理学的手法としての地図
第 4 回	地誌モノグラフ	北海道のモノグラフを例として自然地理学的に地域を総合理解する方法を紹介
第 5 回	地質学のスケール	地球科学が扱う時間や空間スケール
第 6 回	地質学の原理	地球科学の基礎的理念・理論
第 7 回	地球科学と社会	日常の中の地球科学と防災
第 8 回	プレートテクトニクス	マントル対流と地磁気の基礎
第 9 回	地震と災害	地震の発生メカニズムと災害への備え方
第 10 回	大気と気象	地球の大気組成、気象と気候、世界の多様性と地域的特色
第 11 回	海洋	海洋の成り立ちと歴史、熱塩循環
第 12 回	南極観測事業	国家事業としての南極観測隊
第 13 回	南極の科学	南極観測の詳細
第 14 回	まとめと試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に学習支援システムを通じてレジュメを配布しますので、あらかじめ目を通してきてください。

・授業内に示した空欄穴埋め問題の解答を、授業後に学習支援システムを通じて配布しますので、答え合わせをしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを通じてレジュメを配付。

【参考書】

もう一度読む数研の高校地学（数研出版）、地球惑星科学入門（北海道大学出版会）、その他適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出、その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価 (50%) および定期試験による評価 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

大規模授業なので、個別対応は気迫になりがちなので、こまめに質問などにオンラインで対応します。

【学生が準備すべき機器他】

・コロナ感染対策でオンラインの場合は、録画した動画をオンデマンドで配信しますので、動画をみながらノートテイクできるネット・PC 環境を整えてください。

【その他の重要事項】

・対面の場合は、授業支援システムを通じて配布されるレジュメを毎回持参してください。

・対面の場合は、リアクションペーパーを指定します。事前にキャンパス内に設置されている印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトしてきてください。

【Outline and objectives】

This course provides students with the opportunity to learn about the structure of the Earth and its environment, together with fundamental scientific concepts and theories required to understand geological processes and the interaction between different spheres and phenomenon.

PLN200EA

地球と自然Ⅱ

吉岡 美紀

サブタイトル：自然環境論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、春学期の講義内容を基礎として、様々な自然現象と社会問題とが結びついている事項を学びます。特に極域の環境や日頃の身近にある例を題材にしながら、地球科学の知識や理念をどのように社会科学の諸問題の解決に生かしていくかについて理解を深めます。

【到達目標】

- ・人間社会の活動や構造と地球科学との関わりに気づく素養を培う。
- ・社会と地球科学のつながりを考える意義・影響・展望について自ら考察できる基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・春学期の「地球と自然Ⅰ」を受講していることを前提に進めます。
- ・スライド・動画・講義資料等をスクリーンに投影しながら実施します。
- ・学習支援システム (Hoppii) を通じて講義資料を配布します。
- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー等を元に、全体に対してフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明
第2回	地球科学概論	春学期末履修者や地球科学初学者のための概論、身近な地図
第3回	地球科学と社会	主題図、地理情報システム
第4回	風成堆積物	火山と火山噴出物
第5回	河川	河川地形と河川管理
第6回	段丘地形	武蔵野台地の地形
第7回	雪氷圏	雪と水の科学
第8回	地球温暖化	温暖化論争、IPCC
第9回	気候変動	古気候、氷期、間氷期
第10回	北極域	極域の自然と観測
第11回	核と地球	放射性物質や同位体と地球
第12回	自然環境と人類	人類の進化と自然環境との関わり
第13回	地図	地図利用の変遷、人類活動範囲の拡大
第14回	まとめ	全体のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に学習支援システムを通じてレジュメを配布しますので、あらかじめ目を通してきてください。
- ・授業内に示した空欄穴埋め問題の解答を、授業後に学習支援システムを通じて配布しますので、答え合わせをしてください。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムを通じてレジュメを配付します。

【参考書】

・日本列島 100 万年史、山崎晴雄/久保純子、講談社ブルーバックス、2017 年

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出、その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価 (50%)、および定期試験による評価 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

前期担当教員からの申し送りとして、マイクの音量や投影資料の見やすさに注意します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを通じて配布されるレジュメを毎回持参してください。
- ・リアクションペーパーを指定します。事前にキャンパス内に設置されている印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトしてきてください。

【Outline and objectives】

This course inherits the spring semester course of geology, provides students with the opportunity to learn about the structure of the Earth and its environment, especially focusing on the science-based understandings of climate change and its connection with social issues.

LAW200ED

知的財産権法

白田 秀彰

サブタイトル：情報メディア論B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報社会における財産として重要性を飛躍的に増した知的財産権法について、まず特許・商標・意匠および著作権といった全領域を概観しそれぞれの役割を理解したあと、文科系学生にとってもっとも身近で重要な著作権法について具体的に検討する。

【到達目標】

知的財産権制度全体の構造を理解し、とくに著作権について具体的かつ適切な取扱いができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション資料を用いながら講義する。課題解決型学習にも取り組みたい。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、オンデマンドによる対面講義とほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。提出された課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要および受講上の留意点。
2	創作概念	知的財産権の中核概念である「創作・発明」について検討する。
3	模倣概念	「創作・発明」と対になる概念である「模倣」について検討する。
4	権利と契約	知的財産権の保護に関して、法律の基本的な概念について説明する。
5	特許	特許・実用新案制度について解説する。
6	商標	商標制度について解説する。
7	意匠	意匠制度について解説する。
8	著作権・著作物	著作権の対象となる著作物について解説する。
9	著作権・派生著作物	二次的著作物、編集著作物等の派生的な著作物について解説する。
10	著作権・著作者	著作権の主体となる著作者について解説する。また、著作者人格権について解説する。
11	著作権・著作権の制限	著作権が制限される場合について解説する。
12	著作権・隣接権	メディア産業にかかわる隣接権について解説する。
13	著作権・特殊な規定	美術、音楽、レコード、映画、放送といった業界の特殊な事情を反映した規定をまとめて解説する。
14	事例検討	具体的な事例をいくつか取り上げながら、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指定された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、各セクションごとに適宜課小論文の合算点によって行う。すなわち、各小論文を10段階評価し、期末にその素点を合算する。最高得点をとった学生の素点を100点と換算し、以下全員の素点を換算する。このとき60点未満の学生は単位を落とすことになる。

また、小論文等において剽窃(コピー)を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【Outline and objectives】

Regarding intellectual property law which has increased its importance as property in the information society, students are given lectures on patent, trademark, design and copyright before considering the copyright law, which is familiar to those who study humanities.

ECN200EB

地方財政論

関口 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地方財政論」は地方公共団体の歳出・歳入を中心とする経済活動のあり方を研究する学問である。地方創生が模索される中で、さまざまな問題点が指摘されつつある。地方財政の理論と歴史を踏まえ、わが国の日本の地方財政制度を中心にその現状と問題点、シャープ勧告の歴史的意義と限界、さらに時間の許す限り現実問題として脚光を浴びている介護保険、医療保険、保育所の運営等々の福祉と地方財政のかかわり等を概説していく。

【到達目標】

講義を契機として、地方財政の理論と実際そして地方財政制度の基本的な知識を習得することにより、地方財政制度および政策の経済的意義と問題点を明らかにして、地域社会への参加の手がかりを得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 新型コロナウイルス感染症が収束しない間は遠隔講義形式を基本とする。毎回講義の感想等を提出してもらい、各受講生の意欲を確認するとともに、質問等に応じたい。なお、本講義では地方財政論で扱う分野全般を、半期講義という制約の下、できる限り取り扱うつもりである。
2. 関連科目は「財政学Ⅰ・Ⅱ」(火・2限)であり、併せて履修することが受講生自身の理解度を深めるために望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	I. 緒論（地方財政と地方財政論）	1. 地方財政の役割〈教科書：第25章〉
第2回	I. 緒論（地方財政と地方財政論）	2. 中央集権化と地方分権化〈教科書：第25章〉
第3回	I. 緒論（地方財政と地方財政論）	3. 地方自治の財政理論〈教科書：第26章〉
第4回	II. 政府間財政関係	1. 中央と地方の連繋および地方財務〈教科書：第25～26章〉
第5回	II. 政府間財政関係〈教科書：第26章〉	2. 地方財政分析（各都道府県・各市町村財政の現状と問題点）
第6回	II. 政府間財政関係	3. 国庫補助負担金〈教科書：第28章〉
第7回	II. 政府間財政関係	4. 地方財政調整制度〈教科書：第27章〉
第8回	III. 地方税	1. 地方税原則と地方税体系〈教科書：第29章〉
第9回	III. 地方税〈教科書：第16、29章〉	2. 住民税
第10回	III. 地方税〈教科書：第17、18、19、29章〉	3. 固定資産税
第11回	IV. 地方債〈教科書：第30章〉	4. 事業税
第12回	IV. 地方債	5. 地方消費税
第13回	V. 福祉と政府間財政関係	6. 受益者負担
第14回	V. 福祉と政府間財政関係	1. 地方債の特性と機能
		2. 地方債許可制から協議制へ
		3. 地方債発行・消化の問題〈教科書：第30章〉
		1. 介護保険財政の諸問題〈教科書：第12章〉
		2. 保育所財政の諸問題〈教科書：第12章〉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習にあたり2時間以上かけて、各回のシラバスに掲載されている教科書の該当箇所を読み、高等学校までに学んだ内容を確認し、不明語句ないし不明内容を明らかにしておく必要がある。各回の講義終了後には予習時の不明点を解明したことを確認すべく、教科書、配付資料を頼りに研究問題に2時間以上かけて取り組み、復習すること。

【テキスト（教科書）】

佐藤進・関口浩著『財政学入門【新版】』同文館、令和元年。

【参考書】

1. 池宮城秀正編『財政学』ミネルヴァ書房、平成31年。
2. 片桐正俊編『財政学（第3版）』東洋経済新報社、平成26年。

3. その他の参考文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 評価については第1回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。
2. 目安として、定期試験(70%)を中心にして、出席票のコメント(30%)、講義最終回指定提出物(必須)等を加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「地方財政論」では、より現実的な問題を扱うことになるので、各回の予習、復習を確実にしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

遠隔講義を受信したり、学習支援システムの掲示を閲覧・印刷等できる装置を、大学の貸与を含めて、受講者各自で準備されたい。

【その他の重要事項】

詳細については第1回講義の際に説明するので、聞き漏らさないようにしてほしい。

【Outline and objectives】

We learn the basics of "local public finance" to do a policy analysis, and study the theory and the practice of it.

POL200EB

地方自治論 I

谷本 有美子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2000年の地方分権改革や平成の大合併を経て、21世紀の地方自治では公共サービスの担い手が民へと拡大し、行政と民間の役割分担が大きく変化してきました。同時に少子高齢化の進行や人口減少が社会問題化する中で、政府が自治体に対し「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」の策定を求めるなど、自治体が将来を見通しながら地域をマネジメントする責任が問われてきています。この授業では、受講生が自治体の主人公の「市民(Citizen)」として地方自治に関わる際の基礎知識を習得し、これからの地方自治のあり方について主体的に思考する力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ・地方自治の歴史や理論、制度に関する基本的な知識を身につける
- ・地方自治の最近の動きを市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントやレジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、授業内でいくつか取り上げて全体に向けてフィードバックしていきます。

前半は、地方自治の成り立ちや歴史の変遷、欧米諸国との比較を通して日本の地方自治の特徴を学びます。その上で、基本的なしくみの解説と現場の運用事例の紹介をしながら、市民の視点で地方自治を実践的に検討していきます。後半では、国地方を通じた事務処理体制や中央地方の政府間関係も取り上げ、分権型の地方自治のあり方を考察します。それらを踏まえて、市民の政府としての自治体に必要なシステムについて、見識を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス「地方自治」と「自治」の概念	「地方自治」と「共同体の自治」との含意を概説し、講義で扱う内容を俯瞰する
第2回	欧米諸国の地方自治と日本の地方自治	日本の地方自治に影響を与えた欧米諸国の地方自治制度との比較の中から、日本の地方自治制度の特色を認識する
第3回	近代日本の地方自治の成り立ち	明治維新以降の日本の地方制度を学びながら、近代日本における国家と地方自治との関係性を理解する
第4回	中央集権的な地方自治と自治体による政策革新	戦後憲法で保障された地方自治の意義を踏まえつつ、講和期からの中央集権的な運用期を経て、1960年代以降の都市自治体の手掛けた先進的な都市政策を取り上げ、住民自治の観点から自治体のあり方を検討する
第5回	大都市自治体の特例と都市問題への対応	指定都市や中核市等の大都市制度と東京の都区制度を概説したうえで、人口が集中した大都市における自治体の役割や課題を検討する
第6回	二元代表制と長のリーダーシップ	二元代表で機関対立主義を採る自治体統治機構について概説し、その特色である首長（執行機関）の優位性に着目して、自治体運営で発揮される長のリーダーシップを考察する
第7回	自治体議会と地域政治	住民の代表として行政監視機能を果たす議会の活動を概説し、二元代表制における議会の政治的役割という観点から、議会による政策形成の可能性と代表制のあり方を考察する
第8回	住民自治を支える参加のシステム	地方自治法に定めのある住民の直接請求権や自治体が独自に定める市民参加のしくみを取り上げ、市民が主人公となる地方自治の民主主義的機能について検討する

第 9 回	21 世紀の中央地方関係と地域の自治	2000 年地方分権改革を経た対等な国地方関係のもとで、国と自治体との政策思考が対立した場合の調停のしくみを概説した上で、現実に自治体が直面している課題について考察する
第 10 回	自治体財政と住民による税負担	全国的な財政調整・財源保障制度を基礎に成り立つ自治体財政の特色を踏まえつつ、住民が負担する税の側面に着目して、地方自治の受益と負担という関係性を検討する
第 11 回	民に広がる公共サービス	公共サービスの担い手を民へと拡大するために導入された指定管理者制度・PFI、独立行政法人制度等の諸制度や、自治体レベルでNPOや地域住民組織とパートナーシップの名の下で展開する事業を学びつつ、公民の役割分担が大きく変化している現状について理解を深める
第 12 回	住民自治組織と地域コミュニティ	近年、各地で運用されている住民自治組織等の事例を取り上げながら、地域社会における住民の自治と地域コミュニティの問題を自治体政策の観点から検討する
第 13 回	人口減少時代の自治体の役割	平成の大合併を経て市町村数は3分の1に減少した。合併の功罪には今もさまざまな論議がある中、国は行政サービス維持の観点から、自治体間連携や公民連携の可能性を提示している。ここでは「住民自治」と「自治体の規模」の観点から、自治体の役割を検討する
第 14 回	「市民の政府」たる自治体のシステム	自治体を「市民の政府」として運用するにはどのようなシステムが必要か。自治基本条例や総合計画など自治体運営の基本的なルールの活用事例を参考にしながら、「市民」的な視点から今後の可能性を考えていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
 ・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
 ・自分の住んでいる自治体の状況を調べる
 ・地方自治に関連のあると考える新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

【参考書】

・幸田雅治編著『地方自治論－変化と未来』（法律文化社）
 ・大森彌／大杉覚『これからの地方自治の教科書』（第一法規）
 その他の参考文献は授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80％）に授業内のリアクションペーパー・小レポート提出状況等（20％）を加味し、総合的に評価します。大学の行動方針レベルに応じ、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の質問や理解度に応じ、後日授業での補足説明や追加資料配布を行います。

【Outline and objectives】

The role of public services in the local autonomy in the 21st century has expanded to the private sector, and the division of roles between the administration and the private sector has changed significantly in japan. At the same time, with the declining birthrate and aging population and the declining population becoming a social issue, the local government take responsibility to keep the area sustainable while making predictions about the future.

In this class students will learn the basic knowledge of local government as a “Citizen”, the main character of a local government, and to acquire the ability to think independently about the future of local government.

POL300EB

地方自治論 II

谷本 有美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の行政サービスの供給体制は、「官から民へ」の規制緩和や国地方を通じた行財政改革の推進とともに大きく変容し、公務の担い手を民間へと拡大してきました。いわば「公民連携」型の公共サービスの提供は、民間特性を活かした良質なサービス供給が期待されている中で、行政とサービスの受け手となる住民との距離は広がりつつあり、自治体の政策形成に「市民」の側から地域や現場のニーズをインプットする必要性が増えています。この授業では、自治体が担う諸政策を取り上げながら、自治体の仕事についての理解を深めた上で、地域社会の公共的な活動との連携や、税金投入の意義等も含めながら、自治体が果たすべき役割や公共サービスのあり方について考察していきます。

【到達目標】

・自治体の政策過程に関わるしくみや諸制度の基本的知識を身につける
 ・自治体が果たすべき役割や公共サービスのあり方について、財源や徴税の視点も踏まえながら判断できるシティズン・リテラシーを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントやレジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り自治体政策の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーは授業内でいくつか取り上げて、全体に向けてフィードバックします。

自治体政策をハード・ソフト含め個別分野ごとに取り上げますが、その一方で自治体の仕事を分野横断的・総合的に捉えるという基本的なスタンスに立脚しながら、政策課題や自治体の仕事を検討していきます。それらを踏まえて、自治体が限られた財源の中でも果たすべき役割や行政の責任領域について、納税者の視点を意識しながら考察します。

秋学期授業を理解するためには春学期の授業（地方自治論 I）で地方自治の基本的な事項を修得していることが前提となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	自治体が担う行政とその政策形成のしくみ	行政に関わる国・都道府県・市町村の役割分担を概説した上で、主な行政サービスの実施主体とされる基礎自治体を中心に、総合計画を軸とした政策体系と政策形成のしくみを理解する
第 2 回	自治体福祉政策とバリアフリーの地域づくり	「福祉」行政の歴史的な考え方と高齢者・障がい者という対象者ごと・縦割りの行政施策について概要を学び、「バリアフリー」のような縦割りを超えた観点からの共通対応を検討する
第 3 回	「人生 100 年時代」の高齢者施策	介護保険制度を含む高齢者福祉政策の課題を学んだ上で、近年、提唱される「人生 100 年時代構想」を踏まえて「生きがい」「働き方」の視点から超高齢社会の問題を考察する
第 4 回	地域福祉の視点と地域包括ケアシステムの展開	福祉施策の傾向として、「地域福祉」の観点から当事者に対し多様な主体を交えて総合的にサポートする「地域包括ケアシステム」へと転換しつつある現状を学び、行政と地域社会との連携のあり方を考察する
第 5 回	生活困窮者自立支援対策と就労支援の課題	憲法で保障された生活保護行政の現状を踏まえつつ、自治体がすすめる生活困窮者自立支援対策の中から明らかになった「就労支援」の現実的な課題を検討する
第 6 回	子ども・子育て政策と地域ニーズの反映	子ども子育て関連施策の運用事例を取り上げながら、大都市部と地方都市・農山間地域における政策課題の共通性や相違性を学び、地域ニーズに応じた政策の必要性を検討する

第7回	開かれる学校運営と多様な学びの保障	自治体において長が運営する総合教育会議が設置され、地域社会に開かれた学校運営が求められる現況を理解した上で、近年法制化された多様な学びの保障について、地域レベルでの展開可能性を考える
第8回	環境政策をめぐる多様なパートナーシップ	自治体における環境政策を取り上げる中から、地域住民の協力や専門性を持ったNPO等との連携や、「地球規模で考え地域で行動する」視点の必要性等を学び、パートナーシップ型の政策展開のモデルとして考察する
第9回	都市計画のしくみとまちの将来ビジョン	住宅や商業施設の建築の基本に土地利用や都市計画に関わる法制度が存在していることを学び、まちづくりの将来を考える際に、自治体が条例等によりルールを定めていくことやそれを支える理念の重要性について理解を深める
第10回	公共施設・インフラの老朽化と自治体の対策	高度成長期に整備された公共施設や道路、橋梁、下水道等のインフラの老朽化が進行する中で、人口減少に伴い都市機能を縮小させる必要が生じてきている現状を学び、これからの都市機能のあり方を検討する
第11回	人口減少・超高齢社会における住宅施策	近年深刻化し始めた空き家問題やマンションの空き室問題等について具体的な地域課題を取り上げ、自治体の対策が遅れている住宅関連の政策を、地域の空間管理やコミュニティ問題を視野に入れて考察していく
第12回	外国人住民の生活課題と多文化共生のまちづくり	政府が外国人労働者枠の拡大を進める中で、地域に居住する外国人に対し、自治体がこれまで予定してこなかった生活支援等の施策が求められるようになってきている。そうした取り組みを、多文化共生のまちづくりの必要性から検討する
第13回	市民社会から提起される政策課題	地域社会では自治体に政策課題と認識されていない公共的な課題に対しNPOや住民間の互助的な関係で対策が講じられているものがある。それらの取組みに関し「公共性」の観点から、自治体政策としてどう対応すべきかを考察する
第14回	自治体が果たすべきこと	災害対応のように地域住民の命や生活を守るといふ行政活動の本質を捉えながら、自治体が何を優先してその役割を果たしていくべきか、またその財政負担をどうするのかなど、今後の自治体のあり方を市民的視点から考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
 ・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
 ・自分の住んでいる自治体の政策を調べる
 ・自分たちの生活に影響があると考えた内容の新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジュメと資料を配付します。

【参考書】

磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治』（北樹出版）
 今川晃・牛山久仁彦・村上順編『分権時代の地方自治』（三省堂）
 その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80％）に授業内の小レポート提出状況（20％）を加味し、総合的に判断します。大学の行動方針レベルに応じ、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や理解度に応じ、後日授業での補足説明や追加資料配付を行います。

【Outline and objectives】

The supply system of administrative services in the 21st century has undergone a major transformation and has expanded the role of public affairs to the private sector in Japan. Although the provision of public services of the “public-private partnership” type is expected to provide high-quality services that make use of the characteristics of the private sector, the distance between the government and the people who will receive the services is expanding. So citizen's participation for public policy making process has become more important than before.

In this class, students will learn the public policy and the work of local governments, will consider the roll of the local government in the future and the way of keeping the public service in the view of the tax payer's request.

LANc300EA,LANc400EA

中国語上級A1・B1

大崎 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：火2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代漢語（中国語）で書かれた書籍、雑誌、新聞等の文章を正確に読み解く練習、訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深める。

【到達目標】

1. ローマ字（ピンイン）は補助的な使用のみにしていく
2. 文成分の分析が正確にできる
3. 文章語独自の表現や構造等に慣れる
4. 辞書を引くことに習熟しながら「類推する力」を涵養する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

主語、述語、修飾語、補語等の文成分や文構造の分析を徹底しながら文意を正確に理解する練習を重ねる。最初はローマ字（ピンイン）つきのテキストを用いるが、常用語から段階的にテキストのピンインは消去していく。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	精読の基礎（1）	文成分／構造分析① 主語
2	精読の基礎（2）	文成分／構造分析② 述語
3	精読の基礎（3）	文成分／構造分析③ 連体修飾語
4	精読の基礎（4）	文成分／構造分析④ 連用修飾語
5	精読の基礎（5）	文成分／構造分析⑤ 補語
6	精読の基礎（6）	文成分／構造分析⑥ その他の文成分
7	精読の基礎（7）	辞書を使いこなす①
8	精読の基礎（8）	辞書を使いこなす② webの活用
9	精読の基礎（9）	辞書にない単語の検索
10	精読の基礎（10）	辞書にない事項の検索
11	文章の精読（1）	現代中国を読み解く①
12	文章の精読（2）	現代中国を読み解く②
13	文章の精読（3）	現代中国を読み解く③
14	文章の精読（4）	現代中国を読み解く④

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 確実な予習
 2. 「中級」までの文法の系統的復習
 3. 新聞、雑誌、web等の記事検索
 4. 関連項目の調査、読書等
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。

e-learning には、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」
<http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを 100 % として総合的に評価する。公正で的確な評価の具体的な方法については、皆で改めて検討してみたい。

【学生の意見等からの気づき】

教室でも zoom でも従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【その他の重要事項】

せっかく「初級」、「中級」と積み上げてきた中国語、もう一踏ん張りして、仕事や研究で実際に「使える中国語」に取り組んでほしい。「上級」とはいえ、専攻課程ならば基礎を終えた 2 年次程度の内容である。

将来の留学や研究、業務に役立てるため本格的に読解力の向上に取り組みたい好奇心旺盛な学生は大歓迎。漢語文化圏における「現在進行形」の政治や経済、社会、文化に興味をもち、記事をもとに全員で活発な議論が展開できることを期待している。

【Outline and objectives】

Advanced Chinese (Reading)

LANc300EA,LANc400EA

中国語上級 A 2・B 2

謝 荔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語中級の授業を通じて身につけた「聴く・話す」力をさらに伸ばし、実用的な口語表現を習得して運用する力を身につける。

【到達目標】

実際の生活の様々な場面で応用できる実用的な口語表現を習得し、それを運用する力を向上させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

会話表現中心の多様な素材（短期留学生向けのテキスト・機内アナウンス・日本のマンガの中国語版・学生生活へのインタビュー・映画のセリフなど）を組み合わせて、聴解・問答・翻訳の練習を中心に授業を進めていく。また、ペアで応用練習を行う時間を設け、定着度や運用力を向上させる。HSK や中国語検定試験の練習（リスニング・会話）も適宜取り入れる。最終回の授業で、授業内で行った小テストに対する解説も行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、自己紹介	ガイダンス、会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 2 回	「別」、「瞧」などの表現の練習	やり取りを完成させる練習「 <input type="checkbox"/> 看」、置き換え練習、応用練習
第 3 回	外国での生活や体験（「現在完全習慣了」）	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 4 回	「過」、「哪里」などの表現	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第 5 回	友だち付き合い（「咱們从明天開始」）	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 6 回	「～来／去」、「得」、反語	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第 7 回	小テスト（1）	小テストを行う。総合練習
第 8 回	HSK の過去問題	HSK の問題の練習
第 9 回	機内・電車内のアナウンス	機内・電車内放送の内容の練習
第 10 回	マンガ『深夜食堂』の会話	登場人物の会話表現の練習
第 11 回	焦っている状況、対策（「放在哪里了」）	本文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 12 回	「正在赶」、「来得及」、「～在」などの表現の練習	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第 13 回	小テスト（2）	小テスト、総合練習
第 14 回	小テストと解説	小テストと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の意味や発音がわからない単語を調べておくこと。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用する。

【参考書】

HSK の過去問題、中国検定試験の過去問題

【成績評価の方法と基準】

予習・授業への積極的な参加は 30 %、テストの合計は 70 %。

【学生の意見等からの気づき】

多様な素材を使って楽しく学習していくのが効果的である。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定試験の受験を奨励し、サポートする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve the speaking skills in Chinese and reach higher levels.

LANc300EA,LANc400EA

中国語上級 A 3・B 3

謝 荔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語検定試験と HSK（新漢語水平考試）の過去問題を素材とし、人びとの日常生活でよく使われるような自然な言い回しなど「地道的漢語」にも触れながら、中国語のコミュニケーション能力を身につける。

【到達目標】

中国語検定試験 3 級、HSK（新漢語水平考試）4 級、またはそれ以上のレベルのコミュニケーション能力を身につける。口語表現と文章表現を通じて、中国語の発想（ニュアンス）を理解することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、中検と HSK の過去問題の一部を使って、口語表現と文章表現を学習していく。履修者に発話機会を多く与え、ただ問題を解くのではなく、それらを生かして表現力を高めるように練習する。また、辞書に載っていないような言い回しや新語の補足説明を行う。最終授業で、復習だけでなく、練習に対する解説も行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと練習	ガイダンス。過去問題を練習する。
第 2 回	中検の練習①（筆記問題）	単語・構文・表現・読解・翻訳の練習、説明
第 3 回	中検の練習①（リスニング）	一問一答や短い会話文などの聞き取り練習、聞き取りのコツの説明、応用練習
第 4 回	中検の練習②	筆記問題の練習、説明
第 5 回	中検の練習②	リスニング問題の練習、応用練習
第 6 回	HSK の練習①（聴力）	写真を見ながら関連表現を聞き取る練習、説明
第 7 回	HSK の練習①（聴力）	短い会話を理解する聞き取り練習、応用練習
第 8 回	HSK の練習①（閲読）	正しい表現の選択、短文の内容理解の練習、説明
第 9 回	中検の練習③	筆記問題の練習、説明
第 10 回	中検の練習③	リスニング問題の練習、応用練習
第 11 回	HSK の練習②（聴力）	聞き取りの練習、説明
第 12 回	HSK の練習②（聴力）	短い会話を理解する聞き取り練習、応用練習
第 13 回	HSK の練習②（閲読）	正しい表現の選択、短文の内容理解の練習
第 14 回	復習と解説	復習と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習が非常に重要である。新しい単語や表現の定着をはかり、間違えやすいところの理解に努める積極的な姿勢が望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用する。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加は 50 %、練習は 50 %。小テストや期末試験は行わない。
中検または HSK の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

資格試験に対応するアドバイスがほしい、練習したいといったご要望に答えたい。

【その他の重要事項】

中検 2 級、準 1 級、HSK4 級・5 級・6 級を練習するご要望にも対応することができる。

【Outline and objectives】

The purpose of the course is to practice Chinese using qualification exam questions.

LANc300EA,LANc400EA

中国語上級 A 4・B 4

大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代漢語（中国語）で書かれた書籍、雑誌、新聞等の文章を正確に読み解く練習、訓練を繰り返す。文章の読解を通じ、現代中国および中国語圏の社会や文化に対する理解をさらに深める。

【到達目標】

「1」で培った力をもとに新聞、雑誌、書籍などの文章の読解をおこなう。授業では、

1. 長く難解な文の読解（文成分、文の構造分析の徹底）
2. 辞書に載っていない新語や表現の解釈のための情報収集等の共同作業を通してさらに実力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

新聞や雑誌、書籍の文章の読解を通じ、「言語の翻訳」だけではなく背景理解＝「文化や制度の翻訳」にまで踏み込み、常用、慣用的表現にも習熟していく。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	時事的な文章の精読（1）	文成分、構造分析をしながらの精読（1）
2	時事的な文章の精読（2）	文成分、構造分析をしながらの精読（2）
3	時事的な文章の精読（3）	文成分、構造分析をしながらの精読（3）
4	時事的な文章の精読（4）	文成分、構造分析をしながらの精読（4）
5	時事的な文章の精読（5）	文成分、構造分析をしながらの精読（5）
6	時事的な文章の精読（6）	文成分、構造分析をしながらの精読（6）
7	時事的な文章の精読（7）	文成分、構造分析をしながらの精読（7）
8	多読、速読（1）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（1）
9	多読、速読（2）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（2）
10	多読、速読（3）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（3）
11	多読、速読（4）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（4）
12	多読、速読（5）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（5）
13	多読、速読（6）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（6）
14	多読、速読（7）	多様な形、内容の文をより多く、速く読む（7）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 確実な予習
2. 「中級」までの文法の系統的復習
3. 新聞、雑誌、web等の記事検索
4. 関連項目の調査、読書等

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学生の興味やレベルに合わせて教材を考え、プリントで配布する。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に具体的に指示する。

e-learningには、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」
<http://www.coelang.tufts.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

試験はおこなわず、毎回の積極的な参加と取り組みを100%として総合的に評価する。公正で的確な評価の具体的な方法については、皆で改めて検討してみたい。

【学生の意見等からの気づき】

教室でもzoomでも従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【その他の重要事項】

辞書を丹念に引きながら文成分を確認していくという地道な努力を重ねていくうちに、WEB上の記事や新聞などがだんだんとよくわかるようになり、自分でも驚くほどの力がついていることにある日突然気が付くはず。一日も早いその日の到来をお楽しみに！

【Outline and objectives】

Advanced Chinese (Reading)

LANc300EA,LANc400EA

中国語上級A5・B5

謝 荔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語中級の授業を通じて身に付けた「聴く・話す」力をさらに伸ばし、実用的な口語表現を習得して運用する力を身につける。

【到達目標】

実際の生活の様々な場面で応用できる実用的な口語表現を習得し、それを運用する力を向上させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

会話表現中心の多様な素材（短期留学生向けのテキスト・機内アナウンス・日本のマンガの中国語版・学生生活へのインタビュー・映画のセリフなど）を組み合わせて、聴解・問答・翻訳の練習を中心に授業を進めていく。また、ペアで応用練習を行う時間を設け、定着度や運用力を向上させる。HSKや中国語検定試験の練習（リスニング・会話）も適宜取り入れる。最終回の授業で、授業内で行った小テストに対する解説も行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、練習（歴史都市）	後期ガイダンス、会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第2回	歴史都市の庭園、漢詩	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第3回	名物グルメ（「忍不住要吃」）	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第4回	比較、同時進行に関連する表現	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第5回	予定と約束	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第6回	「別」、「約好了」などの表現	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第7回	小テスト（1）	小テストを行う。総合練習
第8回	HSKの過去問題の練習	HSKの過去問題の練習（会話）
第9回	学生生活へのインタビュー	インタビュー内容の練習（質問）
第10回	学生生活へのインタビュー	インタビュー内容の練習（回答）、応用練習
第11回	映画のセリフ	映画『和你在一起』のセリフの練習
第12回	アルバイト（「打工不只是为了钱」）	会話文と練習問題の聴解練習、ポイント説明、聞き取り練習
第13回	「老黄曆」、「再説」などの表現	やり取りを完成させる練習、置き換え練習、応用練習
第14回	小テスト（2）、解説	小テストと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の意味や発音がわからない単語を調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用する。

【参考書】

HSK 過去問題、中国語検定試験過去問題

【成績評価の方法と基準】

出席・予習・授業への参加状況は30%、テストの合計は70%。

【学生の意見等からの気づき】

多様な素材を使って楽しく学習していくのが効果的である。

【その他の重要事項】

HSKや中国語検定試験の受験を奨励し、サポートする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve the speaking skills in Chinese and reach higher levels.

LANc300EA,LANc400EA

中国語上級A6・B6

謝 荔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語検定試験と HSK（新漢語水平考試）の過去問題を素材とし、人びとの日常生活でよく使われるような自然な言い回しなど「地道的漢語」にも触れながら、中国語のコミュニケーション能力を身につける。

【到達目標】

中国語検定試験3級、HSK（新漢語水平考試）4級以上のレベルのコミュニケーション能力を身につける。口語表現と文章表現を通じて、中国語独特の発想（ニュアンス）を理解することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、中検と HSK の過去問題の一部を使って、口語表現と文章表現を学習していく。履修者に発言機会を多く与え、ただ問題を解くのではなく、それらを生かして表現力を高めるように練習する。また、辞書に載っていないような言い回しや新語の補足説明を行う。最終授業で、授業内で行った練習に対する解説も行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	後期ガイダンスと練習	ガイダンスと練習
第2回	中検の練習④（筆記問題）	単語・構文・表現・読解・翻訳の練習、説明
第3回	中検の練習④（リスニング）	一問一答や短い会話文などの聞き取り練習、応用練習
第4回	中検の練習⑤	筆記問題の練習、説明
第5回	中検の練習⑤	リスニング問題の練習、応用練習
第6回	HSK の練習③（聴力）	聞き取り練習、説明
第7回	HSK の練習③（聴力）	短い会話を理解する聞き取り練習、応用練習
第8回	HSK の練習③（閲読）	正しい表現の選択、短文の内容理解の練習、説明
第9回	中検の練習⑥	筆記問題の練習、説明
第10回	中検の練習⑥	リスニング問題の練習、応用練習
第11回	HSK の練習④（聴力）	聞き取り練習、説明
第12回	HSK の練習④（聴力）	短い会話を理解する聞き取り練習、応用練習
第13回	HSK の練習④（閲読）	正しい表現の選択、短文の内容理解の練習
第14回	復習と解説	復習と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習が非常に重要である。新しい単語や表現を覚え、間違えやすいところを理解しようとする積極的な姿勢が望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリント

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加は50%、練習は50%。小テストや期末試験は行わない。中検または HSK の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

資格試験に対応するアドバイスがほしい、練習したいといったご要望にたい。

【その他の重要事項】

中検2級、準1級、1級、HSK5級・6級を練習するご要望にも対応することが出来る。

【Outline and objectives】

The purpose of the course is to practice Chinese using qualification exam questions.

LANc300EA,LANc400EA

中国語上級A7・B7

謝 荔

サブタイトル：漢語暢談中国文化

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 履歴書などに使われる自己紹介文、メール・手紙連絡の表現を学び、文章を作る。(2) 中国語字幕付きの映画とドキュメンタリーを視聴し、その内容についての質問に答える短文を作る。(3) 関心のあるトピックについて、履修者の生活体験やネット情報をまとめて発表する。

【到達目標】

学習内容における表現を生かして短い文を書く練習を重ね、表現力を高める。自己紹介やフォーマルな連絡の文章と、自分の考え方を表現する短文を書けるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、自己紹介文、メール、手紙連絡の書き方を学習し、または映像資料を視聴する。添削済みの作文について解説し、表現のバリエーション、フォーマルな表現とくだけた表現の違いも補足説明する。また、履修者の発表内容をめぐって練習を行う。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス。近況報告関連の例文を学習する。
第2回	自己紹介文の書き方	自己紹介の例文の学習、作文の練習
第3回	メール・手紙の書き方	添削済みの作文の解説。フォーマルなメール・手紙の例文を学ぶ。
第4回	メール・手紙の書き方	添削済みの作文の解説。連絡事項や予定変更の例文を学び、応用練習をする。
第5回	映画の学習	法廷サスペンス『全民目撃』の視聴
第6回	映画の内容に関する練習	『全民目撃』の内容に関する中国語の質問文と答えの練習
第7回	映画の内容に関する練習	添削済みの作文の解説、映画の社会・文化背景の説明
第8回	映画の学習	自閉症青年の映画『海洋天堂』の視聴
第9回	映画の内容に関する練習	『海洋天堂』の内容に関する中国語の質問文と答えの練習
第10回	映画の内容に関する練習	添削済みの作文、映画の社会背景についての補足説明
第11回	ドキュメンタリーの学習	『不孤独的珈琲館』の視聴、その内容に関する練習
第12回	ドキュメンタリーの内容に関する練習	添削済みの作文、ドキュメンタリーの社会背景についての補足説明
第13回	履修者による発表	発表用の中国語のレジュメ（10前後の文）の作成
第14回	履修者による発表、まとめ	パワーポイントを用いる発表、補足説明、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習用の映像をインターネットで視聴する。自分の言いたいことを自然な中国語で表現するために準備学習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリント、映画とドキュメンタリー

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加は30%、練習は70%。小テストや期末試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

履修者のレベルに合わせて難易度の調整を行う。

【Outline and objectives】

The purpose of the course is primarily to improve students' skill in creative writing and speaking.

LANe100EA

中国語初級A

池田 麻希子、渡辺 浩司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。また最終授業では、それまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や課題に対する講評や解説もおこなう。

学生へのフィードバックについて、水曜は小テストは添削の上返却、期末テストは後日学習支援システムに総評を掲示します（春学期の期末試験は秋学期最初の授業で復習を兼ねて解説します）。金曜は、小テストは返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「I 発音の基本」まとめ、第六課	発音とピンインの復習、動詞述語文
9・10	第七課、第八課	形容詞述語文、名詞述語文
11・12	第九課、第十課	主述述語文、連体修飾語、連用修飾語
13・14	第十一課、「II 中国語の基本構造」まとめ	（数量）補語、四文型等の復習
15・16	「II 中国語の基本構造」まとめ、第十二課	修飾語・数量補語等の復習、動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「III 動詞述語文」まとめ	動詞述語文の復習
25・26	第十九課、第二十課	完了態、変化態
27・28	期末テスト	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜は期末試験7割、小テスト・授業態度を3割として評価します。期末試験・小テストの出題形式の詳細は講義中に説明します。出席回数が授業回数の3分の2に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は2回で欠席1回とします）。

金曜は、最終授業日の期末試験を7割、小テスト・授業態度等を3割として評価し、欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。水曜日・池田
できるだけわかりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。金曜・渡辺

【その他の重要事項】

状況によっては授業形態や評価方法に変更が生じる可能性もあります。学習支援システムの「授業情報表示」や「お知らせ」を随時確認して下さい（水曜日・池田）。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANe100EA

中国語初級A

池田 麻希子、加藤 昌弘

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

最終授業で、13回までに講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

学生へのフィードバックについて、水曜は小テストは添削の上返却、期末テストは後日学習支援システムに総評を掲示します（春学期の期末試験は秋学期最初の授業で復習を兼ねて解説します）。

金曜は各授業の課題をチェックし、正解とコメントを添えて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「I 発音の基本」まとめ、第六課	発音とピンインの復習、動詞述語文
9・10	第七課、第八課	形容詞述語文、名詞述語文
11・12	第九課、第十課	主述述語文、連体修飾語、連用修飾語
13・14	第十一課、「II 中国語の基本構造」まとめ	（数量）補語、四文型等の復習
15・16	中間テスト、第十二課	動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「III 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習
25・26	第十九課、第二十課	完了態、変化態
27・28	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態、持続態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日と金曜日で二名の教員が担当しますので、それぞれの評価基準が若干異なりますので、ご注意ください。

（水曜日）期末試験7割、小テスト、授業態度を3割として評価します。期末試験、小テストの出題形式の詳細は講義中に説明します。出席回数（金曜日）が授業回数の3分の2に及ばなかったものは、成績評価の対象としません。（遅刻、早退は2回で欠席1回とします。）

（金曜日）平常授業の課題40%、E宿題20%、期末試験40%計100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

（水曜日 池田）受講者にとってわかりやすく、また、興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

（金曜日 加藤）授業方法、参加方法、課題の提出期限などを、明確に伝達し、学生さんたちが混乱したりしないように、シンプルな形態を目指します。

【その他の重要事項】

状況によっては授業形態や評価方法に変更が生じる可能性があります。学習支援システムの「授業情報掲示」や「お知らせ」を随時確認してください。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANe100EA

中国語初級A

康 宏理、大崎 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聞き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。また最終授業では、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や課題に対する講評や解説もおこなう。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「Ⅰ 発音の基本」まとめ、第六課	発音とピンインの復習、動詞述語文
9・10	第七課、第八課	形容詞述語文、名詞述語文
11・12	第九課、第十課	主述述語文、連体修飾語、連用修飾語
13・14	第十一課、「Ⅱ 中国語の基本構造」まとめ	（数量）補語、四文型等の復習
15・16	中間テスト、第十二課	動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「Ⅲ 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習
25・26	第十九課、第二十課	完了態、変化態
27・28	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態、持続態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・康

対面授業の場合は期末テスト六割、平常点三割、小テスト一割で、オンライン授業の場合はZOOM+課題（e宿題も含むこと）+読むテストにします。

金曜日・大崎

Ⅰ. 発音の基本、Ⅱ. 中国語の基本構造、Ⅲ. 動詞述語文をそれぞれ学び終えたところで学習の成果を確認する。教室での対面授業の場合は小テスト、オンライン授業の場合は学習支援システムでの課題の提出を学習成果とみなす。そうした学習成果の評価を80%、学習過程（参加・実践）を20%として評価する。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日・康

練習問題は並べ替え、穴埋めなどを含め、多様な形式に変更したい。

金曜日・大崎

教室でもzoomでも従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANc100EA

中国語初級A

康 宏理、上村 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

最終授業で、13回までに講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「Ⅰ 発音の基本」まとめ、第六課	発音とピンインの復習、動詞述語文
9・10	第七課、第八課	形容詞述語文、名詞述語文
11・12	第九課、第十課	主述述語文、連体修飾語、連用修飾語
13・14	第十一課、「Ⅱ 中国語の基本構造」まとめ	（数量）補語、四文型等の復習
15・16	中間テスト、第十二課	動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「Ⅲ 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習
25・26	第十九課、第二十課	完了態、変化態
27・28	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態、持続態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・大崎

I. 発音の基本、II. 中国語の基本構造、III. 動詞述語文をそれぞれ学び終えたところで学習の成果を確認する。教室での対面授業の場合は小テスト、オンライン授業の場合は学習支援システムでの課題の提出を評価する。

金曜日・上村

平常点（授業への参加度、課題の提出、小テスト）20%と期末テスト80%、合計100%で評価する。平常点については対面授業かオンライン授業かで若干変更する可能性があり、詳細は初回に説明する。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日・大崎

教室でもzoomでも従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

金曜日・上村

一人一人とのコミュニケーションを大切にし、発音や簡単な対話の練習をおこなう。授業時間内および終了後でも質問を受けつける。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANe100EA

中国語初級A

加藤 昌弘、田中 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【成績評価の方法と基準】

加藤・田中とも、平常の課題・小テスト 40 %、期末試験・期末課題 40 %、e 宿題 20 %の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

つまづきやすい文法項目の説明をより丁寧に行っていく。
また授業方法や課題提出の仕方、期限をはっきりわかりやすく伝達することに留意する。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

最終授業で、13 回までに講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
授業計画は授業の展開によって、若干の変更・調整があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「Ⅰ 発音の基本」まとめ、第六課	発音とピンインの復習、動詞述語文
9・10	第七課、第八課	形容詞述語文、名詞述語文
11・12	第九課、第十課	主述述語文、連体修飾語、連用修飾語
13・14	第十一課、「Ⅱ 中国語の基本構造」まとめ	（数量）補語、四文型等の復習
15・16	中間テスト、第十二課	動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「Ⅲ 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習
25・26	第十九課、第二十課	完了態、変化態
27・28	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態、持続態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

LANe100EA

中国語初級 A

加藤 昌弘、田中 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【成績評価の方法と基準】

加藤・田中とも、平常の課題・小テスト 40 %、期末試験・期末課題 40 %、e 宿題 20 %の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】つまづきやすい文法項目の説明をより丁寧に行っていく。
また授業方法や課題提出の仕方、期限をはっきりわかりやすく伝えることに留意する。**【Outline and objectives】**

Basic Chinese class for beginners

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

最終授業で、13 回までに講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更・調整があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「Ⅰ 発音の基本」まとめ、第六課	発音とピンインの復習、動詞述語文
9・10	第七課、第八課	形容詞述語文、名詞述語文
11・12	第九課、第十課	主述述語文、連体修飾語、連用修飾語
13・14	第十一課、「Ⅱ 中国語の基本構造」まとめ	（数量）補語、四文型等の復習
15・16	中間テスト、第十二課	動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「Ⅲ 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習
25・26	第十九課、第二十課	完了態、変化態
27・28	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態、持続態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

LANe100EA

中国語初級A

大崎 雄二、上村 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1、金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聞き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。また最終授業では、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や課題に対する講評や解説もおこなう。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「Ⅰ 発音の基本」まとめ、第六課	発音とピンインの復習、動詞述語文
9・10	第七課、第八課	形容詞述語文、名詞述語文
11・12	第九課、第十課	主述述語文、連体修飾語、連用修飾語
13・14	第十一課、「Ⅱ 中国語の基本構造」まとめ	（数量）補語、四文型等の復習
15・16	中間テスト、第十二課	動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「Ⅲ 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習
25・26	第十九課、第二十課	完了態、変化態
27・28	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態、持続態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・大崎

I. 発音の基本、II. 中国語の基本構造、III. 動詞述語文をそれぞれ学び終えたところで学習の成果を確認する。教室での対面授業の場合は小テスト、オンライン授業の場合は学習支援システムでの課題の提出を学習成果とみなす。そうした学習成果の評価を80%、学習過程（参加・実践）を20%として評価する。

金曜日・上村

平常点（授業への参加度、課題の提出、小テスト）20%と期末テスト80%、合計100%で評価する。平常点については対面授業かオンライン授業かで若干変更する可能性があり、詳細は初回に説明する。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日・大崎

教室でもzoomでも従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

金曜日・上村

一人一人とのコミュニケーションを大切に、発音や簡単な対話の練習をおこなう。授業時間内および終了後でも質問を受けつける。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANe100EA

中国語初級 A

篠田 幸夫、杜 瑤琳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員で紹介し、情報を共有する。

最終授業で、13 回までに講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「Ⅰ 発音の基本」まとめ、第六課	発音とピンインの復習、動詞述語文
9・10	第七課、第八課	形容詞述語文、名詞述語文
11・12	第九課、第十課	主述述語文、連体修飾語、連用修飾語
13・14	第十一課、「Ⅱ 中国語の基本構造」まとめ	（数量）補語、四文型等の復習
15・16	中間テスト、第十二課	動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「Ⅲ 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習
25・26	第十九課、第二十課	完了態、変化態
27・28	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態、持続態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについての CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日は e 宿題 20 %、小テスト 20 %、期末テスト 60 % の割合で評価する。欠席回数が 4 回を超えた場合評価の対象外となります。

金曜日は e 宿題 20 %、小テスト 20 %、期末テスト 60 % の割合で評価する。課題の未提出が 4 回（授業回数の 3 分の 1）を超えた場合、または期末試験未受験の場合は評価しない。上記を変更する場合は、学習支援システムにて掲示する。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい説明を心がけます。進度は履修者のレベルに合わせて適宜調整することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン教材の e 宿題を実施するため、スマートフォンまたは PC が必要です。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

中国語初級 A

篠田 幸夫、杜 瑤琳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員で紹介し、情報を共有する。

最終授業で、13 回までに講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「I 発音の基本」まとめ、第六課	発音とピンインの復習、動詞述語文
9・10	第七課、第八課	形容詞述語文、名詞述語文
11・12	第九課、第十課	主述述語文、連体修飾語、連用修飾語
13・14	第十一課、「II 中国語の基本構造」まとめ	（数量）補語、四文型等の復習
15・16	中間テスト、第十二課	動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「III 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習
25・26	第十九課、第二十課	完了態、変化態
27・28	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態、持続態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについての CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日は e 宿題 20 %、小テスト 20 %、期末テスト 60 % の割合で評価する。欠席回数が 4 回を超えた場合評価の対象外となります。

金曜日は e 宿題 20 %、小テスト 20 %、期末テスト 60 % の割合で評価する。課題の未提出が 4 回（授業回数 3 分の 1）を超えた場合、または期末試験未受験の場合は評価しない。上記を変更する場合は、学習支援システムにて掲示する。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい説明を心がけます。進度は履修者のレベルに合わせて適宜調整することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン教材の e 宿題を実施するため、スマートフォンまたは PC が必要です。

LANe100EA

中国語初級 A

謝 荔、渡辺 浩司

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。また最終授業では、それまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や課題に対する講評や解説もおこなう。

学生へのフィードバックについて、水曜は、課題、計 2 回の小テストについての講評や注意点などについて、授業時間内に行います。金曜は、小テストは返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「Ⅰ 発音の基本」まとめ、第六課	発音とピンインの復習、動詞述語文
9・10	第七課、第八課	形容詞述語文、名詞述語文
11・12	第九課、第十課	主述述語文、連体修飾語、連用修飾語
13・14	第十一課、「Ⅱ 中国語の基本構造」まとめ	（数量）補語、四文型等の復習
15・16	「Ⅱ 中国語の基本構造」まとめ、第十二課	修飾語・数量補語等の復習、動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「Ⅲ 動詞述語文」まとめ	動詞述語文の復習
25・26	第十九課、第二十課	完了態、変化態
27・28	復習・講評、期末テスト	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級 A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級 B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜は、2 回の小テストを 5 割、授業参加と課題を 5 割として評価します。金曜は、最終授業日の期末試験を 7 割、小テスト・授業態度等を 3 割として評価します。

欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とする）。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANe100EA

中国語初級A

渡辺 浩司、大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語（現代漢語）の基礎を最初から学ぶ。

【到達目標】

声調を含めた発音の基礎を中国語独自のローマ字表記（「ピンイン」）によりマスターし、簡単なあいさつ言葉や基本四文型、動詞述語文の構造を理解し、聴き取り、簡体字とピンインで書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

四つの基本文型や動詞述語文のさまざまな表現等を学習する。テキストの簡単な会話文の理解、発音練習、暗唱、反復を通じ、読み、聴き、話し、書く練習を重ねる。特に発音と「ピンイン」の学習を徹底する。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。また最終授業では、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や課題に対する講評や解説もおこなう。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

学生へのフィードバックについて、水曜は、小テストは返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	はじめに、第一課	中国語とは、単母音、声調
3・4	第二課、第三課	声母（子音）、韻母
5・6	第四課、第五課	二音節語、あいさつことば
7・8	「Ⅰ 発音の基本」まとめ、第六課	発音とピンインの復習、動詞述語文
9・10	第七課、第八課	形容詞述語文、名詞述語文
11・12	第九課、第十課	主述述語文、連体修飾語、連用修飾語
13・14	第十一課、「Ⅱ 中国語の基本構造」まとめ	（数量）補語、四文型等の復習
15・16	中間テスト、第十二課	動詞述語文（一）
17・18	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、（三）
19・20	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、（五）
21・22	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）（七）
23・24	「Ⅲ 動詞述語文」まとめ、期末テスト	動詞述語文の復習
25・26	第十九課、第二十課	完了態、変化態
27・28	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態、持続態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語は第一に音声である。「初級A」でもっとも大事なことは、中国語の発音、声調に十分に習熟することである。これが習得できなければ、「初級B」はもちろん「中級」や「上級」には進めない。テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くくらの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・渡辺

最終授業日の期末試験を7割、小テスト・授業態度等を3割として評価し、欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は2回で欠席1回とする）。

金曜日・大崎

Ⅰ. 発音の基本、Ⅱ. 中国語の基本構造、Ⅲ. 動詞述語文をそれぞれ学び終えたところで学習の成果を確認する。教室での対面授業の場合は小テスト、オンライン授業の場合は学習支援システムでの課題の提出を学習成果とみなす。そうした学習成果の評価を80%、学習過程（参加・実践）を20%として評価する。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ50%ずつとして合算し、評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日・渡辺

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。金曜日・大崎

教室でもzoomでも従来どおり「1対多」ではなく「1対1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class for beginners

LANe100EA

中国語初級B

池田 麻希子、渡辺 浩司

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級 A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級 A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。また最終授業では、それまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や課題に対する講評や解説もおこなう。

学生へのフィードバックについて、水曜は小テストは添削の上返却、期末テストは後日学習支援システムに総評を掲示します（春学期の期末試験は秋学期最初の授業で復習を兼ねて解説します）。金曜は、小テストは返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態・持続態
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・連用修飾語」まとめ	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	第三十一課、連用修飾語と程度補語	程度補語、連用修飾語と程度補語の使い分け
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX さまざまな表現」のまとめ	さまざまな表現の復習
27・28	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級 B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級 A」と同様、テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口をついて出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜は期末試験 7 割、小テスト・授業態度を 3 割として評価します。期末試験・小テストの出題形式の詳細は講義中に説明します。出席回数が授業回数の 3 分の 2 に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とします）。

金曜は、最終授業日の期末試験を 7 割、小テスト・授業態度等を 3 割として評価し、欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とする）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。水曜日・池田

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。金曜・渡辺

【その他の重要事項】

状況によっては授業形態や評価方法に変更が生じる可能性もあります。学習支援システムの「授業情報表示」や「お知らせ」を随時確認して下さい（水曜日・池田）。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANc100EA

中国語初級B

池田 麻希子、加藤 昌弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級 A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級 A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

最終授業で、13 回までに講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

学生へのフィードバックについて、水曜は小テストは添削の上返却、期末テストは後日学習支援システムに総評を掲示します（春学期の期末試験は秋学期最初の授業で復習を兼ねて解説します）。

金曜は各授業の課題をチェックし、正解とコメントを添えて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級 A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・練用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX ささまざまな表現」のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級 B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級 B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級 A」と同様、テキストについての CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口をついて出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日と金曜日で二名の教員が担当しますので、それぞれの評価基準が若干異なりますので、ご注意ください。

（水曜日）期末試験 7 割、小テスト。授業態度を 3 割として評価します。期末試験。小テストの出題形式の詳細は講義中に説明します。出席回数 が授業回数の 3 分の 2 に及ばなかったものは、成績評価の対象としません。（遅刻。早退は 2 回で欠席 1 回とします。）

（金曜日）平常授業の課題 40 %、E 宿題 20 %、期末試験 40 % 計 100 % で評価します

【学生の意見等からの気づき】

（水曜日 池田）受講者にとってわかりやすく、また、興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

（金曜日 加藤）授業方法、参加方法、課題の提出期限などを、明確に伝達し、学生さんたちが混乱したりしないように、シンプルな形態を目指します。

【その他の重要事項】

状況によっては授業形態や評価方法に変更が生じる可能性があります。学習支援システムの「授業情報掲示」や「お知らせ」を随時確認してください。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANe100EA

中国語初級B

康 宏理、大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級 A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級 A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。また最終授業では、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や課題に対する講評や解説もおこなう。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・練用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX さまざまな表現」のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級 B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。

「初級 A」と同様、テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・康

対面授業の場合は期末テスト六割、平常点三割、小テスト一割で、オンライン授業の場合は ZOOM+課題（e 宿題も含むこと）+読むテストにします。

金曜日・大崎

IV. 中国語の態、V. 形容詞述語文、VI. 名詞述語文、VII. 連体修飾語連用修飾語、VIII. 補語、IX. さまざまな表現、それぞれ学び終えたところで学習の成果を確認する。教室での対面授業の場合は小テスト、オンライン授業の場合は学習支援システムでの課題の提出を学習成果とみなす。そうした学習成果の評価を 80 %、学習過程（参加・実践）を 20 %として評価する。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ 50 %ずつとして合算し、評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日：康

練習問題は並べ替え、穴埋めなどを含め、多様な形式に変更したい。

金曜日・大崎

教室でも zoom でも従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANc100EA

中国語初級 B

康 宏理、上村 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級 A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級 A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

最終授業で、13 回までに講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級 A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・練用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX さまざまな表現」のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級 B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級 B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級 A」と同様、テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口をついて出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・大崎

IV. 中国語の態、V. 形容詞述語文、VI. 名詞述語文、VII. 連体修飾語連用修飾語、VIII. 補語、IX. さまざまな表現、それぞれ学び終えたところで学習の成果を確認する。教室での対面授業の場合は小テスト、オンライン授業の場合は学習支援システムでの課題の提出を評価する。
金曜日・上村

平常点（授業への参加度、課題の提出、小テスト）20 %と期末テスト 80 %で、合計 100 %で評価する。平常点については対面授業かオンライン授業かで若干変更する可能性があり、詳細は初回に説明する。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ 50 %ずつとして合算し、評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日・大崎

教室でも zoom でも従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

金曜日・上村

一人一人とのコミュニケーションを大切にし、発音や簡単な対話の練習をおこなう。授業時間内および終了後でも質問を受けつける。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANe100EA

中国語初級B

加藤 昌弘、田中 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

最終授業で、13回までに講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更・調整があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・練用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX さまざまな表現」のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする語法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級A」と同様、テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口をついて出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

加藤・田中とも、平常の課題・小テスト 40%、期末試験・期末課題 40%、e宿題 20%の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

つまずきやすい文法項目の説明をより丁寧に行っていく。また授業方法や課題提出の仕方、期限をはっきりわかりやすく伝えることに留意する。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANe100EA

中国語初級B

加藤 昌弘、田中 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

最終授業で、13回までに講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更・調整があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・練用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX さまざまな表現」のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級A」と同様、テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

加藤・田中とも、平常の課題・小テスト 40%、期末試験・期末課題 40%、e宿題 20%の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

つまずきやすい文法項目の説明をより丁寧に行っていく。また授業方法や課題提出の仕方、期限をはっきりわかりやすく伝えることに留意する。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANe100EA

中国語初級B

大崎 雄二、上村 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級 A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級 A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。また最終授業では、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や課題に対する講評や解説もおこなう。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・練用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX さまざまな表現」のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級 B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級 A」と同様、テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・大崎

IV. 中国語の態、V. 形容詞述語文、VI. 名詞述語文、VII. 連体修飾語連用修飾語、VIII. 補語、IX. さまざまな表現、それぞれ学び終えたところで学習の成果を確認する。教室での対面授業の場合は小テスト、オンライン授業の場合は学習支援システムでの課題の提出を学習成果とみなす。そうした学習成果の評価を 80 %、学習過程（参加・実践）を 20 %として評価する。

金曜日・上村

平常点（授業への参加度、課題の提出、小テスト）20 %と期末テスト 80 %で、合計 100 %で評価する。平常点については対面授業かオンライン授業かで若干変更する可能性があり、詳細は初回に説明する。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ 50 %ずつとして合算し、評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日・大崎

教室でも zoom でも従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

金曜日・上村

一人一人とのコミュニケーションを大切に、発音や簡単な対話の練習をおこなう。授業時間内および終了後でも質問を受けつける。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANe100EA

中国語初級B

篠田 幸夫、杜 瑤琳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

最終授業で、13回までに講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・連用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX さまざまな表現」のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。

「初級A」と同様、テキストについているCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口をついて出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日はe宿題20%、小テスト20%、期末テスト60%の割合で評価する。欠席回数が4回を超えた場合評価の対象外となります。

金曜日はe宿題20%、小テスト20%、期末テスト60%の割合で評価する。課題の未提出が4回（授業回数の3分の1）を超えた場合、または期末試験未受験の場合は評価しない。上記を変更する場合は、学習支援システムにて掲示する。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい説明を心がけます。進度は履修者のレベルに合わせて適宜調整することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン教材のe宿題を実施するため、スマートフォンまたはPCが必要です。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANe100EA

中国語初級B

篠田 幸夫、杜 瑤琳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

最終授業で、13回までに講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・連用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX ささまざまな表現」のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。

「初級A」と同様、テキストについてのCDを十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口をついて出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日はe宿題20%、小テスト20%、期末テスト60%の割合で評価する。欠席回数が4回を超えた場合評価の対象外となります。

金曜日はe宿題20%、小テスト20%、期末テスト60%の割合で評価する。課題の未提出が4回（授業回数の3分の1）を超えた場合、または期末試験未受験の場合は評価しない。上記を変更する場合は、学習支援システムにて掲示する。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい説明を心がけます。進度は履修者のレベルに合わせて適宜調整することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン教材のe宿題を実施するため、スマートフォンまたはPCが必要です。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANe100EA

中国語初級B

謝 荔、渡辺 浩司

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級 A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級 A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。また最終授業では、それまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や課題に対する講評や解説もおこなう。

学生へのフィードバックについて、水曜は、課題、計 2 回の小テストについての講評や注意点などについて、授業時間内に行います。金曜は、小テストは返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	第二十一課、第二十二課	経験態、進行態・持続態
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・連用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	第三十一課、連用修飾語と程度補語	程度補語、連用修飾語と程度補語の使い分け
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX さまざまな表現」のまとめ	さまざまな表現の復習
27・28	復習・講評、期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級 B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級 A」と同様、テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜は、2 回の小テストを 5 割、授業参加と課題を 5 割として評価します。金曜は、最終授業日の期末試験を 7 割、小テスト・授業態度等を 3 割として評価します。

欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とする）。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANe100EA

中国語初級B

渡辺 浩司、大崎 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「初級 A」で学んだ中国語（現代漢語）の基礎を引き続き学習し、入門レベルの完成を目指す。

【到達目標】

「初級 A」で学んだ基礎の上に、さらに「態」や「補語」をはじめとする語法（文法）のルールや中国語らしい表現を学び、最低限、各課のポイントの例文を理解し、聞き、話し、書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の本文やポイントの理解、暗唱を通じ、「態」や「形容詞述語文」、「名詞述語文」、「連体・連用修飾語」、「補語」等を学習し、読み、聴き、話し、書く練習を重ね、中国語の基礎を完成させる。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。また最終授業では、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や課題に対する講評や解説もおこなう。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

学生へのフィードバックについて、水曜は、小テストは返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	「初級A」学習内容の総復習	第一課～第二十二課の復習
3・4	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、（二）
5・6	第二十五課、「V 形容詞述語文」まとめ	形容詞述語文（三）、形容詞述語文の復習
7・8	第二十六課、第二十七課	名詞述語文（一）、（二）
9・10	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（三）、連体修飾語
11・12	第三十課、「VI 名詞述語文」「VII 連体修飾語・連用修飾語」まとめ、	連用修飾語、名詞述語文と修飾語の復習
13・14	中間テスト、第三十一課	程度補語
15・16	第三十二課、第三十三課	数量補語、結果補語
17・18	第三十四課、第三十五課	方向補語、可能補語
19・20	「VIII 補語」のまとめ、第三十六課	補語の復習、助動詞
21・22	第三十七課、第三十八課	兼語文、受け身表現
23・24	第三十九課、第四十課	把構文、存現文
25・26	「IX ささまざまな表現」のまとめ、期末試験	さまざまな表現の復習
27・28	「初級B」学習内容の総復習	第二十三課～第四十課の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「初級 B」でもっとも注意すべきは、「態」と「補語」をはじめとする文法（語法）の理解、習熟である。よって、予習と復習は必須である。「初級 A」と同様、テキストについている CD を十分に活用し、通学時間にも音楽のかわりに何度も聴くなどの努力を重ね、文の暗記、暗唱をおこなない、本文のフレーズが自然に口について出てくるくらいになってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良・他著 『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』、東方書店、2010 年。

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

水曜日・渡辺

最終授業日の期末試験を 7 割、小テスト・授業態度等を 3 割として評価し、欠席回数が授業回数の 3 分の 1 を超えた場合は評価しない（遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とする）。

金曜日・大崎

IV. 中国語の態、V. 形容詞述語文、VI. 名詞述語文、VII. 連体修飾語連用修飾語、VIII. 補語、IX. ささまざまな表現、それぞれ学び終えたところで学習の成果を確認する。教室での対面授業の場合は小テスト、オンライン授業の場合は学習支援システムでの課題の提出を学習成果とみなす。そうした学習成果の評価を 80 %、学習過程（参加・実践）を 20 % として評価する。

水曜日と金曜日の成績をそれぞれ 50 % ずつとして合算し、評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

水曜日・渡辺

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。

金曜日・大崎

教室でも zoom でも従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【Outline and objectives】

Basic Chinese class after "Beginning Chinese A"

LANe200EA

中国語中級 1

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基本的語順を学ぶ。そして文章を分析する能力を高めること、発音を聞いて日本語を経由せずに概念が浮かんでくる単語を増やすことを柱に総合的な中国語の力を高めることを目的とする。

【到達目標】

1. 中国語の文成分を独力で分析できる。
2. 中国語の基本語順を説明できる。
3. 初見で意味が分からない場合、辞書さえ引けば文成分を正確に分析でき、文全体の意味を理解できる。
4. 聞き取れる単語数 500～1000 を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の進め方は概ね以下の通り。

1. 重要文法事項の確認
2. 発音練習・和訳練習・中訳練習・シャドーイング・暗誦対話練習（ペアワーク）
3. 読解（発表形式）・文成分分析練習（発表形式）
4. 並べ替え練習
5. 練習問題
6. 各課終了毎に小テスト

課題や試験のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在の實力を知る・復習	実力診断テストと解説
2	中国語の基本的語順	四つの述語文（動詞述語文・形容詞述語文・名詞述語文・主述述語文）
3	中国語の基本的語順	連体修飾語・連用修飾語完了態・経験態・進行態・持続態
4	中国語の基本的語順	補語（様態・数量・結果・方向・可能・程度）
5	第 1 課	名前のたずね方・省略疑問文、連体修飾語（読解と分析） 並べ替え練習
6	第 1 課・第 2 課	名前のたずね方・省略疑問文、連体修飾語（音読・聞き取り） 動詞述語文、前置詞「在」（読解・分析） 並べ替え練習
7	第 2 課	動詞述語文、前置詞「在」（音読・聞き取り） 並べ替え練習
8	第 3 課	形容詞述語文、主述述語文（読解・分析）
9	第 3 課第 4 課	形容詞述語文、主述述語文（音読・聞き取り） 動詞「有」と「在」、連動文（読解・分析） 並べ替え練習
10	第 4 課	動詞「有」と「在」、連動文（音読・聞き取り） 並べ替え練習
11	第 5 課	進行の表現、完了の「了」（読解・分析） 並べ替え練習
12	第 5 課・第 6 課	進行の表現、完了の「了」（音読・聞き取り） 助動詞「会・能」、助動詞「要」、変化の「了」、仮定表現（読解・分析）
13	第 6 課	助動詞「会・能」、助動詞「要」、変化の「了」、仮定表現（音読・聞き取り）
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 予習 辞書を引き本文・ポイント・閲読を事前に学習する。
2. 復習 CD を使い必ず 1 週間に 2 回以上、1 回につき 15 分以上発音練習等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鄭萍・安力著『チャイニーズ・ガーデン』白帝社
プリント

【参考書】

相原茂 他 『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』同学社
相原茂 『謎解き中国語文法』講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 % ・小テスト 20 % ・予習 20 %（「S」評価については絶対評価の後に相対評価する）。

授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

分りやすい授業を心がけます。小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

【Outline and objectives】

This course enhances the development of students' skill in analyze the construction of a sentence.

LANc200EA

中国語中級 1・2・3

謝 荔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

口語表現力と読解力の向上を目指す授業である。教科書の会話文およびドリルを通じてリスニングのトレーニングを行い、会話文の表現を生かした「聴く」「話す」と短文を読む練習が中心となる。中国語検定試験（準4級、4級）の練習も適宜行う。

【到達目標】

中国語初級の学習を通じて身につけた基礎力を生かして日常挨拶や簡単な日常会話を行うことができ、短い文で自分の言いたいことを表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、文法事項の解説をしたうえで、発音練習、聞き取り練習、話す練習、そしてペア・ワークによる応用練習を行う。毎回の授業内に質疑応答の時間を設け、第7回と最終授業では、小テスト（総合練習）に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、中国語レベルのチェック	ガイダンス、中国語検定試験の過去問題の練習（1）
第2回	中検過去問題の練習（2）	中検過去問題の練習（1）を通じて復習し、挨拶表現を補足して練習する。
第3回	テキストでの学習を開始、自己紹介についての表現	名前、専攻、電話番号の聞き方と答え方、初対面の時に使う挨拶を練習する。
第4回	アルバイトの内容や趣味についての表現	アルバイトの内容や趣味の聞き方と答え方の練習
第5回	食べ物についての表現	経験、飲食物の好みの表現を練習する。
第6回	小テスト（1）	小テスト。応用練習。
第7回	誘い、約束についての表現	誘い、約束に関連する表現を練習する。
第8回	評価についての表現	結果補語と様態（程度）補語を用いる表現の練習
第9回	歌の上手さを評価する表現	誘い・約束・評価に関する応用練習。
第10回	写真鑑賞についての表現	比較表現を練習する。
第11回	買い物についての表現	買い物の表現、方向補語、程度を表す表現を練習する。
第12回	中検過去問題の練習	中検の過去問題の練習、応用練習。
第13回	小テスト（2）	小テストを行う。補足練習
第14回	まとめと解説	学習内容のまとめと小テストの解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習したうえで授業に参加する人とそうでない人の力の差が次第に出てくる。予習したうえで授業に臨んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

陳淑梅・劉光赤『しゃべっていいとも中国語2 ステップアップ編』（朝日出版社、2013年）

【参考書】

中国語検定試験準4級、4級問題集

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（30%）と2回の小テスト（70%）。積極的な授業への参加が評価の前提となり、3分の1の授業を欠席した者は成績評価の対象外とする。検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

会話練習と短文の読解練習が両方とも取り入れられているテキストを選択した。

【その他の重要事項】

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to improve the students' skill in Chinese conversation and reading.

LANc200EA

中国語中級 2

大崎 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級から中級への展開を意識しながら、読解と作文により初級～中級の文法項目の要点の復習と学習、整理を進める。

【到達目標】

「中国語検定試験4級」合格レベル到達を具体的な目標とする。本授業では、そのうち文法と読解、作文に関する分野について集中して学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

最初は『ポイント学習 中国語初級』の既習事項の確認から始め、少しずつ学習のスピードを上げ、さらに深い文法の解説、応用へと進めていく。学習効果を上げるため、テキストの編集順ではなく、文法項目順に学習する予定。常に意識してほしいのは、文成分（主語、述語、修飾語、補語等）。正確な読解や作文ができるよう着実な実力養成をはかっていく。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、0、第16課	中国語の発音、文成分のまとめ
2	第1課	名詞・数詞・量詞
3	第2課	時間・年月日・お金
4	第4課	数のいろいろ
5	第3課	指示代詞と人称代詞
6	第5課	いろいろな形容詞と区別詞
7	第6課	形容詞述語文
8	第30課	比較の言い方
9	第11課	疑問文について
10	第12課	再び、疑問文について
11	第7課	動詞述語文
12	第8課	動詞述語文——“是”
13	第9課	存在の表現
14	第17課	存在・出現・消失の文・非主述文・命令文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 予習 本文の事前学習と理解
 2. 復習・暗唱 3課ごとの小テストで例文を暗記し、重要なポイントをきちんとマスターする
 3. 検定試験対策 練習問題の自習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

相原茂、石田知子、戸沼市子『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書 <新訂版>』、同学社、2016。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に指示する。

e-learning には、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」
<http://www.coelang.tufts.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

3 課ごとに小テストをおこない、その成績の累計を 100 % として絶対評価をする。小テストは学生がグループで相談し、テキストの中から重要な文を選び出し、担当教員がその中からさまざまな形式で出題する方式としたい。得点が 60 % 未満であった者、未受験者については再テストをおこなう。

教室での対面授業の場合は小テスト、オンライン授業の場合は学習支援システムでの課題の提出を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室でも zoom でも従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

【Outline and objectives】

Intermediate Chinese 2 (Chinese grammar)

LANc200EA

中国語中級 3

謝 荔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

聴解力と口語表現力の向上を目指す授業である。教科書の会話文およびドリルを通じてリスニングのトレーニングを行い、会話文の表現を生かした「聴く」「話す」の練習が中心となる。初級の学習で身につけた基礎力を生かし、実践的なコミュニケーション能力の向上をはかる。

【到達目標】

中国語検定試験準 4 級、さらに 4 級に合格するレベルに達することを具体的な目標の一つとし、また、その基礎力を踏まえて日常挨拶や簡単な日常会話などを耳で理解し、それを使って表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では発音練習、聞き取り練習、話す練習、そしてペア・ワークによる応用練習に力を入れる。授業中に積極的に発音・聞き取り・話す練習に取り組み、予習・復習をきちんとして学習を積み上げていけば、聴解力と会話力が少しずつ身につくことを実感することができる。最終授業で、授業内で行った総合練習とそれに対する解説も行う。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、練習	ガイダンス、初対面の挨拶の応用練習
第 2 回	道の尋ね方、入学式の服装	動詞“在”、疑問詞“怎么”、助動詞“要”の応用練習
第 3 回	食事の誘い、相談	仮定表現“如果…的话”、選択疑問文“还是”
第 4 回	食事の誘い、相談	食事の誘いに関連する表現の応用練習
第 5 回	待ち合わせ、評価	ラーメン屋に対する評価の表現、結果補語と方向補語の練習
第 6 回	注文の仕方、メニュー	定食と飲み物の関連表現、量詞の使い方
第 7 回	注文の仕方、メニュー	注文に使われる構文の応用練習
第 8 回	小テスト（1）	復習、総合練習
第 9 回	補足練習	中検と HSK の過去問題の練習
第 10 回	中国語の学習歴	経験に関連する表現
第 11 回	中国語の学習	様態（程度）補語、“是…的”の応用練習
第 12 回	夏季休暇、予定	旅行、アルバイトに関連する表現
第 13 回	夏季休暇、予定	比較表現、時間量、“快要…了”の応用練習
第 14 回	小テスト（2）と解説	総合練習、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

聴く力と話す力を着実に身につけるには、授業に出席するだけでは不十分である。予習したうえで授業に参加する人とそうでない人の力の差が次第に出てくる。予習したうえで授業に臨んでほしい。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

陳淑梅ほか『もっと話そう！ 異文化おもしろ体験 中級中国語』（朝日出版社、2021 年）

【参考書】

『HSK/中検対応 中国語基本単語帳』早稲田大学商学部中国語教室編著、2021 年、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（30 %）、2 回的小テスト（70 %）。

授業への参加が評価の前提となり、3 分の 1 の授業を欠席した者は成績評価の対象外とする。検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

応用会話の練習の時間をより多く設けるように心がけたい。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to improve the students' skill in Chinese conversation.

LANe200EA

中国語中級4

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基本的語順を学ぶ。そして文章を分析する能力を高めること、発音を聞いて日本語を経由せずに概念が浮かんでくる単語を増やすことを柱に総合的な中国語の力を高めることを目的とする。

【到達目標】

中国語の文成分を独力で分析できる。中国語の基本語順の理解を深める。初見で意味が分からない場合、辞書さえ引けば文成分を正確に分析でき、文全体の意味が理解できる能力を身に付ける。また聞き取れる単語数 500～1000 を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の進め方は概ね以下の通り。

1. 重要文法事項の確認
2. 発音練習・和訳練習・中訳練習・シャドーイング・暗誦対話練習（ペアワーク）
3. 読解（発表形式）・文成分分析練習（発表形式）
4. 並べ替え練習
5. 練習問題
6. 各課終了毎に小テスト
課題や試験のフィードバックは授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 7 課	比較・依頼表現（読解・分析） 聞き取り練習 7 課本文 1 並べ替え練習
2	第 7 課	比較・表現（音読・聞き取り） 聞き取り練習 7 課本文 2 並べ替え練習
3	第 8 課	方向補語、使役（読解・分析） 聞き取り練習 8 課本文 1 並べ替え練習
4	第 8 課	方向補語、使役（音読・聞き取り） 聞き取り練習 8 課本文 2
5	第 9 課	結果補語、数量表現（読解・分析） 聞き取り練習 9 課本文 1 並べ替え練習
6	第 9 課	結果補語、数量表現（音読・聞き取り） 聞き取り練習 9 課本文 2 並べ替え練習
7	第 10 課	選択疑問、可能補語（読解・分析） 聞き取り練習 10 課本文 1 並べ替え練習
8	第 10 課	選択疑問、可能補語（音読・聞き取り） 聞き取り練習 10 課本文 2
9	第 11 課	「是～的」構文、様態補語（読解・分析） 聞き取り練習 11 課本文 1 並べ替え練習
10	第 11 課	「是～的」構文、様態補語（音読・聞き取り） 聞き取り練習 11 課本文 2 並べ替え練習
11	第 12 課	受け身、処置文（読解・分析） 聞き取り練習 12 課本文 1 並べ替え練習
12	第 12 課	受け身、処置文（音読・聞き取り） 聞き取り練習 12 課本文 2
13	総復習	7 課から 12 課と並べ替え練習 7～15 の復習
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 予習 辞書を引き例文と練習問題を事前に学習する。
2. 復習 並べ替え・作文を再度行い語順と単語を記憶する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鄭萍・安力著『チャイニーズ・ガーデン』白帝社
プリント

【参考書】

相原茂 他 『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』同学社
相原茂 『謎解き中国語文法』講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%・小テスト 20%・予習 20%（「S」評価についてのみは絶対評価の後に相対評価する）。

授業の 3 分の 1 以上欠席の場合は評価しない。遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。大幅な遅刻は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

さらに分かりやすい授業を心がけます。小テスト対策など勉強方法に疑問がある場合早めに相談・質問に来てください。

【その他の重要事項】

受講生への要望

語学を習得する上で反復練習以外の近道はない。そのため授業は主に受講生が反復練習する時間であると考えている。練習する上で失敗を恐れる気持ちは上達の妨げとなる。失敗を指摘されることは決して恥ずかしいことではない。却ってより深い記憶に結びつきやすい。失敗を恐れず、むしろ積極的に失敗するつもりで大きな声を出して練習して欲しい。また語学を身につける上で大切なことは学習の習慣化である。1 日 5 分でも毎日積み重ねることができれば効果は大きい。復習・予習に励んで欲しい。

【Outline and objectives】

This course enhances the development of students' skill in analyze the construction of a sentence.

LANc200EA

中国語中級4・5・6

謝 荔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

口語表現力と読解力の向上を目指す授業である。教科書の会話文およびドリルを通じてリスニングのトレーニングを行い、会話文の表現を生かした「聴く」・「話す」と短文を読む練習が中心となる。中国語検定試験（4級）の練習も適宜行う。

【到達目標】

中国語中級1・2・3の学習を通して身につけた口語表現力と読解力をレベルアップする。日常生活用語を耳で理解することができ、短かい文で自分の言いたいことを表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では、文法事項の解説をしたうえで、聞き取り練習、話す練習、読む練習、そしてペア・ワークによる応用練習を行う。毎回の授業内に質疑応答の時間を設け、第7回と最終授業では、小テスト（総合練習）に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、練習	ガイダンス、中検4級の過去問題の練習（筆記問題）
第2回	中検4級の過去問題の練習（リスニング）	中検4級の過去問題の練習（リスニング問題）、解説、応用練習
第3回	パーティーについての表現	お祝いに関連する表現、複合方向補語の使い方の練習
第4回	映画鑑賞についての表現	映画の紹介に関連する表現、可能補語の練習
第5回	休暇の過ごし方についての表現	経験に関連する表現、不定疑問文の練習
第6回	小テスト（1）	小テストを行う。応用練習
第7回	学園祭についての表現	予定や期待に関連する表現の練習
第8回	スキーについての表現	自然現象や天候、注意・禁止に関連する表現の練習
第9回	診察についての表現	体調や病気の症状に関連する表現、受け身表現の練習
第10回	写真撮影についての表現	別れの挨拶、使役表現の練習
第11回	中検の過去問題（リスニング）の練習	中検の過去問題（リスニング）の練習
第12回	中検の過去問題（筆記）の練習	中検の過去問題を使って表現・読解の練習をする。
第13回	小テスト（2）	小テストを行う。補足練習
第14回	まとめ、テストの解説	学習内容のまとめと小テストの解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習したうえで授業に参加する人とそうでない人の力の差が次第に出てくる。予習したうえで授業に臨んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

陳淑梅・劉光赤『しゃべっていいとも中国語2 ステップアップ編』（朝日出版社、2013年）

【参考書】

中国語検定試験4級問題集

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（30%）と2回の小テスト（70%）。積極的な授業への参加が評価の前提となり、3分の1の授業を欠席した者は成績評価の対象外とする。検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

会話練習と短文の読解練習が両方とも取り入れられているテキストを選択した。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to improve the students' skill in Chinese conversation and reading.

LANc200EA

中国語中級5

大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として読解と作文により、中級文法項目の要点の学習、まとめをおこない、文法、語法の力の涵養と総合的な実力養成をはかる。

【到達目標】

「中国語検定試験4級」合格レベル到達を具体的な目標とする。本授業では、そのうち文法と講読、作文に関する分野について集中して学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

学習のスピードをさらに上げ、深い文法の解説、応用へと進めていく。学習効果を上げるため、テキストの編集順ではなく、文法項目順に学習していきたい。常に意識してほしいのは、文成分（主語、述語、修飾語、補語等）。正確な読解や作文ができるよう着実な実力養成をはかっていく。

課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有する。

授業計画は、授業の実際の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第33課	連動文II
2	第18課	能願動詞（助動詞）
3	第13課	介詞（前置詞）
4	第14課	介詞，“是…的”構文
5	第31課	“把”bǎ 構文
6	第32課	“被”bèi 構文
7	第15課、第20課	常用される副詞、進行のアスペクト
8	第21課	持続のアスペクト
9	第22課	完了・実現のアスペクト
10	第23課	経験と将然のアスペクト
11	第24課	補語——程度補語と様態補語
12	第25課	V+結果補語
13	第26課、第27課	方向補語、方向補語の派生義
14	第28課、第29課	結果補語・方向補語の可能形、動量、時量、差量

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 予習 本文の事前学習と理解
 2. 復習・暗唱 3課ごとの小テストで例文を暗記し、重要なポイントをきちんとマスターする
 3. 検定試験対策 練習問題の自習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

相原茂、石田知子、戸沼市子『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書 <新訂版>』、同学社、2016。

【参考書】

推薦辞書・参考書等は、開講時に指示する。

e-learning には、「東京外国語大学言語モジュール 中国語」<http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/zh/> を活用すること。

【成績評価の方法と基準】

3 課ごとに小テストをおこない、その成績の累計を 100 % として絶対評価をする。小テストは学生がグループで相談し、テキストの中から重要な文を選び出し、担当教員がその中からさまざまな形式で出題する方式としたい。得点が 60 % 未満であった者、未受験者については再テストをおこなう。

教室での対面授業の場合は小テスト、オンライン授業の場合は学習支援システムでの課題の提出を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教室でも zoom でも従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時間とする。個別の発音矯正を徹底する。支障がある学生は、事前に教員に連絡すること。

授業終了後、しばらく残るので、質問や連絡などがあれば個別に申し出ること。

さらによりわかりやすい授業、明確に伝わるよう努力を続ける。検定試験や留学等個別の相談にも応じる。

【Outline and objectives】

Intermediate Chinese 5 (Chinese grammar)

LANc200EA

中国語中級 6

謝 荔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

聴解力と口語表現力の向上を目指す授業である。会話文およびドリルを通じて語彙力を向上させ、「聴く」・「話す」練習が中心となる。初級の学習で身につけた基礎力を生かし、実践的なコミュニケーション能力の向上をはかる。

【到達目標】

中国語検定試験 4 級または 3 級に合格するレベルに達することを具体的な目標の一つとし、また、その基礎力を踏まえて日常挨拶や簡単な日常会話などを耳で理解し、それを使って表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では発音練習、聞き取り練習、話す練習、そしてペア・ワークによる応用練習に力を入れる。授業中に積極的に発音・聞き取り・話す練習に取り組み、予習・復習をきちんとして学習を積み上げていけば、聴解力と会話力が少しずつ身につくことを実感することができる。最終授業で、授業内で行った総合練習とそれに対する解説も行う。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、練習	接客用語、助動詞“可以”、“觉得”の使い方
第 2 回	買い物、試着	程度副詞“多、挺、太～了、非常、有点儿”の応用練習
第 3 回	体調	禁止表現、“一～就～”、助動詞“能”の練習
第 4 回	電車・地下鉄	複文、“虽然～但是～”、“不是～就是～”の使い方
第 5 回	電車・地下鉄	車内での行動に関連する表現の応用練習
第 6 回	休憩、自動販売機	可能補語、動詞の重ね型
第 7 回	休憩、自動販売機	提案に関連する表現の応用練習
第 8 回	小テスト（1）	復習、総合練習
第 9 回	補足練習	中検、HSK の過去問題の練習
第 10 回	クリスマス、贈り物	乾杯とプレゼント。前置詞“把”、“为了”の使い方
第 11 回	クリスマス、贈り物	祝福に関する表現の応用練習
第 12 回	年越し	使役表現、助動詞“得”、“越来越～”の使い方
第 13 回	年越し、春節	年越しの過ごし方に関する表現の応用練習
第 14 回	小テスト（2）	総合練習、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

きちんと予習したうえで授業に参加する人とそうでない人の力の差が次第に出てくる。予習したうえで授業に臨んでほしい。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

陳淑梅ほか『もっと話そう！異文化おもしろ体験 中級中国語』（朝日出版社、2021 年）

【参考書】

【HSK/中検対応 中国語基本単語帳】早稲田大学商学部中国語教室編著、2021 年、朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（30 %）、2 回的小テスト（70 %）。

授業への参加が評価の前提となり、3 分の 1 の授業を欠席した者は成績評価の対象外とする。検定試験の受験は義務ではないが、受験による合格はプラス評価になる。

【学生の意見等からの気づき】

応用会話の練習の時間をより多く設けるように心がけたい。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to improve the students' skill in Chinese conversation.

MAN200EB

中小企業論

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済の根幹を形成する「中小企業」に関して、既存研究では、資源制約があるがゆえに発展が妨げられているという「問題型」の議論、小さいことによる発展性／優位性に着目した「貢献型」の議論がなされてきました。本講義では、こうした中小企業をめぐる二面性を意識しつつ、中小企業に関する諸理論を学習します。具体的には、1) 中小企業とは何か？ 2) 中小企業はなぜ企業規模が小さいために問題性と発展性／優位性を有しているのか？ 3) 中小企業の一形態であるベンチャー企業とは何か？ というテーマで議論します。また、多摩で活躍する中小企業の経営者をゲストスピーカーとして招き、実践的な中小企業経営について議論します。

【到達目標】

本講義では、企業規模が小さいことに起因する「問題性」と「発展性／優位性」を認識した上で、両者を包含した複眼的な視点から中小企業に対する理解を深めることを目標とします。また、多摩地域の中小企業経営者をゲストに招き、現場の活きた知識の獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は主にパワーポイントを活用した講義形式で行います。ゲスト講師の回にはリアクションペーパーの提出を求められます。小テストなどの課題に対するフィードバックは講義中に行い、期末試験に関しては学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の目的と全体像
第 2 回	中小企業とは？	中小企業の定義、法律・経済・経営的な意味について、および日本経済の発展過程における中小企業の役割
第 3 回	複眼的視点からの中小企業論	中小企業を捉える視座について
第 4 回	イノベーションと中小企業	独自の視点からイノベーション活動を行う中小企業を紹介
第 5 回	ベンチャー企業の経営	ベンチャー企業マネジメントの要点
第 6 回	産業集積と産業クラスター	産業集積と産業クラスターの要点
第 7 回	中小企業のケース (1)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 8 回	中小企業のケース (2)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 9 回	中小企業のケース (3)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 10 回	中小企業のケース (4)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 11 回	中小企業のケース (5)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション

第 12 回	中小企業のケース (6)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 13 回	中小企業政策	中小企業政策を概観し、中小企業の活性化について考える
第 14 回	中小企業論のまとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義期間中に、中小企業／ベンチャー企業の経営者によって書かれた独自のマネジメント手法に関する書籍を講読してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー提出 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Small and medium enterprises (SMEs) form the basis of the Japanese economy. There are mainly two major arguments in the previous researches on SMEs. One is “Problem driven,” which claims that SMEs have difficulties growing due to limited resources. The other is 2) “Contribution driven,” which claims SMEs’ potentiality and advantages because of its flexibility. This course deals with general theories on SMEs, considering these two different arguments. We discuss the following subjects; 1) What is a small business? 2) Why do SMEs have problems and potentiality/advantages? 3) What is a venture business? Additionally, we invite guest lecturers from SMEs in the Tama area to acquire a comprehensive understanding of SMEs.

SOC300EC

調査研究法B

池田 寛二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査の基本的な意味と現実社会におけるその意義や役割を認識させたい。質的社会調査を主とする社会調査の方法を、国内外における質的社会調査の実例を極力具体的に提示しながら、実践的に習得させることを目的とする。

【到達目標】

環境社会学と地域社会学の分野で多用されるフィールドワークや参与観察、半構造化インタビューといった手法、その方法論と実際、可能性と限界について、体系的かつ実践的に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

質的調査の方法に関する入門的著作、質的調査の成果として評価されている国内外の古典的著作等をテキストとして講義を進め、講義の節目ごとにテキストの精読とレポートも課し、レポートの評価をその都度フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	総論：講義の目的と構成	講義全体の序論と到達目標、授業の進め方の概説
2 回目	質的調査法とは何か：その全体像と手法	質的／量的調査（データ）の対比、データの収集と分析、仮説の形成と検証、分析から報告書執筆まで
3 回目	先行研究に学ぶ（1）	地域社会学（農村社会学・都市社会学）および環境社会学における質的調査法の展開；今、地域社会調査の遺産をどう活用すべきか？
4 回目	先行研究に学ぶ（2）	地域・環境社会学における質的調査；その学問的成果と政策研究への貢献可能性、フィールドワークの重要性
5 回目	質的調査の手法（1）	課題設定と諸調査法；課題と方法の適合性、「正しい問い」とは何か、様々な方法論の存在とトライアングレーション
6 回目	質的調査の手法（2）	どのようにフィールドに接近するか / フィールドの選定とその入り方、フィールドの構築、調査倫理と調査者の行動原則
7 回目	質的調査の手法（3）	参与観察法とは何か；方法論的特徴、「参与」観察者と参与「観察者」、フィールドノートの作成、フィールドでの作法
8 回目	質的調査の手法（4）	構造化／半構造化インタビュー；インタビュー・データの可能性と限界、対象の選定、質問項目、インタビューの取り方、聞きたいこと／開けること、記録とコーディング

9 回目	質的調査の手法（5）	資料の収集方法と分析；言葉と視覚、史料の重要性、視覚データの重要性、方法と技術、定性／定量、データの作成手法
10 回目	質的調査の手法（6）	ドキュメント分析；ドキュメントの読解力、年表等一覧表のもたらす展望、内容と形式、他のデータとの相補性
11 回目	質的データ分析の諸相	コード化、カテゴリー化、文章のデータ化、KJ法の可能性と限界、「ぶ厚い記述」の可能性
12 回目	質的調査の実際（1）	地域調査対象の選択、調査者の位置取りとインタビュー、感性和倫理
13 回目	質的調査の実際（2）	自治体の政策調査；対象の選択、職務と調査、制度と運用のズレ、組織と「人」への着目、住民との関係
14 回目	質的調査に基づく報告書・論文執筆の作法	報告書・論文作成の全体像、分析の流れと注意点、執筆と形式上の注意、推敲過程の重要性、ライティングと典拠挙示の制限

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定したテキストの精読、2時間の予習、2時間の復習を要する。

【テキスト（教科書）】

佐藤健二・山田一成編著,2009『社会調査論』（八千代出版）、佐藤郁哉,2012『フィールドワーク・増訂版』（新曜社）、大谷信介他編著,2005『社会調査へのアプローチ（第2版）』（ミネルヴァ書房）

【参考書】

柳田國男『都市と農村』（岩波文庫,2017）、宮本常一『忘れられた日本人』（岩波文庫,2007）、日本村落研究学会編『むらの社会を研究する』（農山漁村文化協会,2006年）→池田寛二「開発と環境」

【成績評価の方法と基準】

平常点 15%、テキスト講読力 20%、提出物（論文・レポートなど）60%、出席回数 5%

【学生の意見等からの気づき】

社会調査法の修得は4年次の卒業論文にも役立つと好評です。

【その他の重要事項】

4月初旬に実施する政策研究実習ガイダンスに出席して担当教員の指示を受けること。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to make students aware of the basic meaning of social research and its significance and role in the real world, while presenting examples of qualitative social surveys as concretely as possible, and to practically acquire methods of social research, mainly qualitative social surveys.

SOC300EC

調査研究法 B

田嶋 淳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的調査方法を学ぶ

【到達目標】

調査方法に関する知識を学ぶと同時に、その知識を使って、自ら調査を実施できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP3・DP4・DP9・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

質的調査方法は都市社会学領域におけるシカゴ学派などの古典的調査研究から現代の都市地域社会を対象とする外国人居住調査まで幅広く用いられてきた調査手法である。これら既往研究の調査方法について、本講義では、できる限り原点における方法と課題とを現実の調査フィールドとの関係において、総合的な視点から論じていく。こうした作業を通じて、データの収集方法（観察、インタビュー、参与観察）ならびに分析方法について、それぞれの特徴と問題点を学ぶ。課題は学習支援システムに設定します。提出されたレポートにはコメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	本講義の概要と進め方の説明	調査方法上の特徴について説明する。
2	都市社会学における研究上の方法と課題（シカゴ・シリーズの概説）	都市地域調査をとりあげ、具体的にいかなる調査がおこなわれてきたのかを文献から学ぶ。
3	都市社会学における研究上の方法と課題	日本の代表的な質的調査法の概説
4	都市社会学における質的分析法（1）	課題設定と調査方法
5	都市社会学における質的分析法（2）	フィールドへの入り方
6	都市社会学における質的分析法（3）	参与観察
7	都市社会学における質的分析法（4）	フォーマル/インフォーマル・インタビュー
8	都市社会学における質的分析法（5）	視覚データの収集方法と分析
9	都市社会学における質的分析法（6）	データのコード化、カテゴリー化、文章化
10	都市社会学における資料分析の方法	ドキュメントの活用と分析
11	事例研究（1）	外国人居住調査の分析方法
12	事例研究（2）	外国人政策（国、市町村レベル）の分析方法
13	エスニック研究の分析方法	『ストリート・ワイズ』から学ぶこと
14	質的研究	分析から理論へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で指定された参考文献を読み、必要な作業をこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、必要な資料はコピーで配布する。

【参考書】

1. ウヴェ・フリック著小田他訳『質的研究入門』春秋社、2002 年。
2. 箕浦康子著『フィールドワークの技法と実際』ミネルヴァ書房、1998 年。
3. 箕浦康子著『フィールドワークの技法と実際Ⅱ分析・解釈編』ミネルヴァ書房、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題提出（20%）、講義中に指示する資料収集などの成果（30%）および期末のレポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は社会調査実習（田嶋担当）とセットで受講することになっている。受講希望者は事前に担当教員に受講希望を伝え、許諾を受けること。

【Outline and objectives】

Students will study qualitative research methods.

LANk100EA

朝鮮語初級A

荻野 優子、李 相旭

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語を初歩から学習します。
まず朝鮮語の文字・発音を正確に覚え、基本的な文法を学んでいきます。

【到達目標】

朝鮮語の文字（=ハングル）を読み、書けるようにすること、基本的な語彙約 300 語を習得すること、基本的な文法をマスターすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週水曜日と金曜日の 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていきます。
新型コロナウイルスの問題があるので、オンラインで開講する可能性もあります。それともなう授業計画の変更やアクセス方法等については、学習支援システム（Hoppii）で提示します。授業開始日より前に必ず学習支援システムをチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	イントロダクション、第 1 課	基本母音字
第 2 週	第 2 課	子音字 (1)
第 3 週	第 3 課、第 4 課	子音字 (2)
第 4 週	第 5 課、コラム	7 つの終声、漢字語と漢字音その 1
第 5 週	第 6 課、第 7 課	用言の「ですます」形、激音
第 6 週	第 8 課、第 9 課	合成母音字、濃音
第 7 週	まとめ	総復習 (1)
第 8 週	第 10 課、コラム	連音化、文字の順序と名称
第 9 週	第 11 課、第 12 課	疑問形と否定形、平音の濃音化 (1)
第 10 週	第 12 課、第 13 課	平音の濃音化 (2)、日本語のハングル表記 (1)
第 11 週	第 13 課、第 14 課	日本語のハングル表記 (2)、激音化
第 12 週	第 14 課、第 15 課	鼻音化、口蓋音化、子音語幹用言 (1)
第 13 週	第 15 課、コラム	子音語幹用言 (2)、外来語と外国地名
第 14 週	まとめと解説	総復習 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習は必要ありませんが、復習は必要です。小テストの準備を兼ねて復習をするようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』（白水社）

【参考書】

辞書も含め、必要ありません

【成績評価の方法と基準】

対面授業形式であれオンライン授業形式であれ、中間試験/課題および期末試験/課題が大きな評価対象になります。他に日頃の課題の提出状況や小テストの成績等を加味し、水曜日と金曜日を総合して評価をします。授業形式の差異に基づいて多少の調整可能性はありますが、概ね以下の通りです。

配分：中間試験 40 %、期末試験 40 %、課題等 20 %

評価基準：各教員の成績の素点を合計し、総合評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗については学生によって、早すぎる、遅いと、その見解はわかれますが、授業がある程度進んだ段階ごとに調節を図っていくようにします。

【Outline and objectives】

In the spring course, you will study Korean from the beginning.
On the first phase, let's learn Korean characters and pronunciation precisely to acquire basic grammar.

LANk100EA

朝鮮語初級A

荻野 優子、李 相旭

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語を初歩から学習します。
まず朝鮮語の文字・発音を正確に覚え、基本的な文法を学んでいきます。

【到達目標】

朝鮮語の文字（=ハングル）を読み、書けるようにすること、基本的な語彙約 300 語を習得すること、基本的な文法をマスターすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週水曜日と金曜日の 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていきます。
新型コロナウイルスの問題があるので、オンラインで開講する可能性もあります。それともなう授業計画の変更やアクセス方法等については、学習支援システム（Hoppii）で提示します。授業開始日より前に必ず学習支援システムをチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	イントロダクション、第 1 課	基本母音字
第 2 週	第 2 課	子音字 (1)
第 3 週	第 3 課、第 4 課	子音字 (2)
第 4 週	第 5 課、コラム	7 つの終声、漢字語と漢字音その 1
第 5 週	第 6 課、第 7 課	用言の「ですます」形、激音
第 6 週	第 8 課、第 9 課	合成母音字、濃音
第 7 週	まとめ	総復習 (1)
第 8 週	第 10 課、コラム	連音化、文字の順序と名称
第 9 週	第 11 課、第 12 課	疑問形と否定形、平音の濃音化 (1)
第 10 週	第 12 課、第 13 課	平音の濃音化 (2)、日本語のハングル表記 (1)
第 11 週	第 13 課、第 14 課	日本語のハングル表記 (2)、激音化
第 12 週	第 14 課、第 15 課	鼻音化、口蓋音化、子音語幹用言 (1)
第 13 週	第 15 課、コラム	子音語幹用言 (2)、外来語と外国地名
第 14 週	まとめと解説	総復習 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習は必要ありませんが、復習は必要です。小テストの準備を兼ねて復習をするようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』（白水社）

【参考書】

辞書も含め、必要ありません

【成績評価の方法と基準】

対面授業形式であれオンライン授業形式であれ、中間試験/課題および期末試験/課題が大きな評価対象になります。他に日頃の課題の提出状況や小テストの成績等を加味し、水曜日と金曜日を総合して評価をします。授業形式の差異に基づいて多少の調整可能性はありますが、概ね以下の通りです。

配分：中間試験 40 %、期末試験 40 %、課題等 20 %

評価基準：各教員の成績の素点を合計し、総合評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗については学生によって、早すぎる、遅いと、その見解はわかれますが、授業がある程度進んだ段階ごとに調節を図っていくようにします。

【Outline and objectives】

In the spring course, you will study Korean from the beginning.
On the first phase, let's learn Korean characters and pronunciation precisely to acquire basic grammar.

LANk100EA

朝鮮語初級 B

荻野 優子、李 相旭

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、朝鮮語の基本的な文法を学習します。教科書の本文は対話形式の会話文になり、文体も実際の会話で多く用いられ、親しみのあるヘヨ体という文体が出てきます。実際の会話でよく使う表現を学びます。

【到達目標】

基本的な文法と語彙約 100 語をさらに習得し、簡単な文の読み書きができ、作文練習を通して語彙や文法がしっかり身につくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週水曜日と金曜日の 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていきます。新型コロナウイルスの問題があるので、オンラインで開講する可能性もあります。それにとりまなう授業計画の変更やアクセス方法等については、学習支援システム（Hoppii）で提示します。授業開始日より前に必ず学習支援システムをチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	第 21 課	あいさつと尊敬形
第 2 週	第 22 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基
第 3 週	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
第 4 週	第 24 課	命令形と意思形
第 5 週	第 25 課	リウル語幹用言
第 6 週	第 26 課	形容詞の連体形
第 7 週	まとめ	総復習 (1)
第 8 週	第 27 課	希望の表現
第 9 週	第 28 課	勧誘の表現
第 10 週	第 29 課	パンマルとヘヨ体
第 11 週	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
第 12 週	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
第 13 週	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
第 14 週	まとめ	総復習 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習は必要ありませんが、復習は必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』（白水社）

【参考書】

辞書も含め、必要ありません

【成績評価の方法と基準】

対面授業形式であれオンライン授業形式であれ、中間試験/課題および期末試験/課題が大きな評価対象になります。他に日頃の課題の提出状況や小テストの成績等を加味し、水曜日と金曜日を総合して評価をします。授業形式の差異に基づいて多少の調整可能性はありますが、概ね以下の通りです。

配分：中間試験 40 %、期末試験 40 %、課題等 20 %

評価基準：各教員の成績の素点を合計し、総合評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期授業では、テキストに食べ物や生活習慣に関する記載もあるので、学生の知的興味を喚起するよう、朝鮮・韓国の歴史や文化、社会、生活、慣習などを折に触れて紹介していきます。

【Outline and objectives】

Following the spring semester, you will study basic Korean grammar. Sentences in the text will be advanced to interactive dialogue. Styles in the text are used in practical conversation, including 'haeyo' body which are familiar for you. You will learn common expressions in practical conversation.

LANk100EA

朝鮮語初級 B

荻野 優子、李 相旭

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、朝鮮語の基本的な文法を学習します。教科書の本文は対話形式の会話文になり、文体も実際の会話で多く用いられ、親しみのあるヘヨ体という文体が出てきます。実際の会話でよく使う表現を学びます。

【到達目標】

基本的な文法と語彙約 100 語をさらに習得し、簡単な文の読み書きができ、作文練習を通して語彙や文法がしっかり身につくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎週水曜日と金曜日の 2 回開講し、二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で順序よく効率的に学習を進めていきます。新型コロナウイルスの問題があるので、オンラインで開講する可能性もあります。それにとりまなう授業計画の変更やアクセス方法等については、学習支援システム（Hoppii）で提示します。授業開始日より前に必ず学習支援システムをチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	第 21 課	あいさつと尊敬形
第 2 週	第 22 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基
第 3 週	第 23 課	形容詞ともうひとつの否定形
第 4 週	第 24 課	命令形と意思形
第 5 週	第 25 課	リウル語幹用言
第 6 週	第 26 課	形容詞の連体形
第 7 週	まとめ	総復習 (1)
第 8 週	第 27 課	希望の表現
第 9 週	第 28 課	勧誘の表現
第 10 週	第 29 課	パンマルとヘヨ体
第 11 週	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
第 12 週	第 31 課	指定詞のパンマルとヘヨ体
第 13 週	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
第 14 週	まとめ	総復習 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習は必要ありませんが、復習は必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語』（白水社）

【参考書】

辞書も含め、必要ありません

【成績評価の方法と基準】

対面授業形式であれオンライン授業形式であれ、中間試験/課題および期末試験/課題が大きな評価対象になります。他に日頃の課題の提出状況や小テストの成績等を加味し、水曜日と金曜日を総合して評価をします。授業形式の差異に基づいて多少の調整可能性はありますが、概ね以下の通りです。

配分：中間試験 40 %、期末試験 40 %、課題等 20 %

評価基準：各教員の成績の素点を合計し、総合評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期授業では、テキストに食べ物や生活習慣に関する記載もあるので、学生の知的興味を喚起するよう、朝鮮・韓国の歴史や文化、社会、生活、慣習などを折に触れて紹介していきます。

【Outline and objectives】

Following the spring semester, you will study basic Korean grammar. Sentences in the text will be advanced to interactive dialogue. Styles in the text are used in practical conversation, including 'haeyo' body which are familiar for you. You will learn common expressions in practical conversation.

LANk200EA

朝鮮語中級 1

荻野 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法事項、語彙、作文、聞き取り、読解の能力向上を図り、総合的な実力の向上を目指します。

【到達目標】

初級で勉強したことを復習しつつ、さらに踏み込んだ文法理解、語彙力の強化、作文の書き方、聞き取り、読解問題などができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストにそって授業を進めていき、徐々にレベルアップを図っていきます。具体的な授業形態や課題等についての連絡は学習支援システムでお知らせしますので必ず確認してください。授業の進め方と方法については初回の授業で言及します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1 課 留学に行きたいと思っています (1)	・希望の表現 ・連体形
2	1 課 留学に行きたいと思っています (2)	・練習問題 ・連体形+コッ ・「～していた～」 ・類似表現の比較
3	2 課 私はソウルに住んでいる (1)	・書き言葉の文体、ハンダ体
4	2 課 私はソウルに住んでいる (2)	・練習問題 ・へ体
5	3 課 ドラマがお好きなんですか? (1)	・引用の表現
6	3 課 ドラマがお好きなんですか? (2)	・練習問題 ・平叙形の引用 ・疑問形・勧誘形・命令形の引用 ・引用連体形
7	4 課 ちょっと教えていただけますか (1)	・依頼の表現 ・授受表現
8	4 課 ちょっと教えていただけますか (2)	・シオツ変格用言 ・練習問題
9	5 課 一緒に買い物に行きましょう (1)	・許可の表現 ・接続形
10	5 課 一緒に買い物に行きましょう (2)	・練習問題 ・過去の事柄や話し手の意志、推量の理由づけ
11	韓国映画など視聴 (1)	単語、表現などを確認してから視聴する (1)
12	韓国映画など視聴 (2)	単語、表現などを確認してから視聴する (2)
13	まとめ	・総復習
14	試験・まとめと解説	1 課～5 課の範囲で実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学習した語彙、文法事項が身につくよう努めてください。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野間秀樹・金珍娥・高極旭著『はばたけ！ 韓国語 2 初中級編』朝日出版社

【参考書】

授業の中で必要な参考書や辞書について言及します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%

課題、小テストなど：20%

期末試験：60%

出席が2/3に満たない場合は評価対象となりません。

【学生の意見等からの気づき】

学生が理解しやすい授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

The intermediate course aims to improve your comprehensive ability, consisting of grammar items, vocabulary, composition, listening comprehension, reading comprehension skills.

LANk200EA

朝鮮語中級2

李 相旭

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中級レベルの朝鮮語を学ぶ。主に文章読解力の向上をめざします。

【到達目標】

ハングル能力検定4級・3級の文法と単語をベースとした、身近で実践的な文章を理解できるようにする。
朝鮮語で書かれた文章の読解に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って学びつつ、教科書とは別に朝鮮語資料（ニュース・社説・論考等々）も学んでいきます。教科書は平易ですが、資料の難易度は教科書を常に上回ると考えて下さい。読解力の向上が授業の主軸ですが、リスニング等も適宜実施します。

新型コロナウイルスの問題があるので、オンラインで開講する可能性もあります。それにもなう授業計画の変更やアクセス方法等については、学習支援システム（Hoppii）で提示します。授業開始日より前に必ず学習支援システムをチェックするようにしてください。

なお、授業計画は進捗状況により若干変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業ガイダンス、復習
第2回	第1課	学校生活（前半）
第3回	第1課	学校生活（後半）
第4回	第2課	アルバイト（前半）
第5回	第2課	アルバイト（後半）
第6回	第3課	私の一日（前半）
第7回	第3課	私の一日（後半）
第8回	第4課	プレゼント（前半）
第9回	第4課	プレゼント（後半）
第10回	第5課	風邪（前半）
第11回	第5課	風邪（後半）
第12回	第6課	休日（前半）
第13回	第6課	休日（後半）
第14回	まとめ	復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

なるべくして下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金京子『読んでみよう韓国語 中級読解コース』白水社、2018年

【参考書】

小学館／韓国・金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』（小学館、1993）等

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、課題等60%

【学生の意見等からの気づき】

語学の範囲にとどまらない情報の伝達を心がけます。

【Outline and objectives】

Intermediate Korean. This course focuses on reading skills.

LANk200EA

朝鮮語中級3

荻野 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期で勉強した内容を踏まえつつ、文法事項、語彙、作文、聞き取り、読解の能力向上を図り、総合的な実力の向上を目指します。

【到達目標】

春学期で勉強したことを復習し、さらに踏み込んだ文法理解、語彙力の強化、作文の書き方、聞き取り、読解問題などができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期に使用したテキストの後半部分を進めていきます。童話、新聞記事など、ある程度長い文章も読んでいきます。また、会話でよく使う話し言葉の表現なども実際に口に出して練習する時間を取ります。具体的な授業形態や課題等についての連絡は学習支援システムでお知らせしますので必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	6課 旅に出る(1)	・提案の表現 ・受け身(1)
2	6課 旅に出る(2)	・当為の表現 ・練習問題
3	7課 送別会(1)	・後悔と反省の表現 ・帰結、「するようになる」
4	7課 送別会(2)	・使役 ・印象描写、「～するみたいだ」
5	7課 送別会(3)	・練習問題 ・接続形
6	8課 訓民正音が創る知的世界(1)	・書き言葉の文章を読む、「～的」 ・結果状態の継続、「～している」
7	8課 訓民正音が創る知的世界(2)	・練習問題
8	8課 訓民正音が創る知的世界(3)	・まとめ ・応用練習
9	視聴覚教材	韓国文化や歴史など、映像を通して学ぶ
10	読解教材	様々なジャンルの文章を読む
11	9課 朝鮮の文学者たちと日本語(1)	・書き言葉の文章を読む、受け身(2)
12	9課 朝鮮の文学者たちと日本語(2)	・練習問題
13	9課 朝鮮の文学者たちと日本語(3)	・まとめ ・応用練習
14	試験・まとめと解説	6課～9課の範囲で実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学習した語彙、文法事項が身につくよう努めてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野間秀樹・金珍娥・高権旭著『はばたけ！韓国語2初中級編』朝日出版社

【参考書】

授業の中で必要な参考書や辞書について言及します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%
課題、小テストなど：20%
期末試験：60%
出席が2/3に満たない場合は評価対象となりません。

【学生の意見等からの気づき】

学生が理解しやすい授業展開を心がけます。

【Outline and objectives】

The intermediate course aims to improve your comprehensive ability, consisting of grammar items, vocabulary, composition, listening comprehension, reading comprehension skills.

LANk200EA

朝鮮語中級 4

李 相旭

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中級レベルの朝鮮語を学ぶ。主に文章読解力の向上をめざします。

【到達目標】

ハングル能力検定4級・3級の文法と単語をベースとした、身近で実践的な文章を理解できるようにする。
朝鮮語で書かれた文章の読解に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って学びつつ、教科書とは別に朝鮮語資料（ニュース・社説・論考等々）も学んでいきます。教科書は平易ですが、資料の難易度は教科書を常に上回ると考えて下さい。読解力の向上が授業の主軸ですが、リスニング等も適宜実施します。

新型コロナウイルスの問題があるので、オンラインで開講する可能性もあります。それにもなう授業計画の変更やアクセス方法等については、学習支援システム（Hoppii）で提示します。授業開始日より前に必ず学習支援システムをチェックするようにしてください。

なお、授業計画は進捗状況により若干変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業ガイダンス、復習
第2回	第5課	風邪（後半）
第3回	第6課	休日（前半）
第4回	第6課	休日（後半）
第5回	第7課	夏休み（前半）
第6回	第7課	夏休み（後半）
第7回	第8課	趣味（前半）
第8回	第8課	趣味（後半）
第9回	第9課	大学祭（前半）
第10回	第9課	大学祭（後半）
第11回	第10課	仕事（前半）
第12回	第10課	仕事（後半）
第13回	第11課	日記（前半）
第14回	まとめ	復習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

なるべくして下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金京子『読んでみよう韓国語 中級読解コース』白水社、2018年

【参考書】

小学館/韓国・金星出版社共同編集『朝鮮語辞典』（小学館、1993）等

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、課題等60%

【学生の意見等からの気づき】

語学の範囲にとどまらない情報の伝達

【Outline and objectives】

Intermediate Korean. This course focuses on reading skills.

GEO100CA

地理学 I

朴 宗玄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地理学」の講義が目指す最終的目標は、細分・専門化されてきた幅広い地理学の研究アプローチを理解するとともに、「空間（地域）」と「人間活動」との関連性を解明することである。講義を通じて、現代の日本・世界を理解する方法と様々な人文地理学を学習する。

【到達目標】

授業の到達目標は、地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し、諸課題について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は、教員の講義と授業内での発表、リアクションペーパー提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地理学の課題・方法・見方	地理学の課題・方法・見方について解説する。
2	大都市圏と地域区分の意義	都市をめぐるさまざまな概念を用いて、都市のテリトリーと地域区分の意義を学習する。
3	複写機メーカーの販売ネットワークの空間構造	経済・経営組織は、空間構造どのように活用しているのかを学習する。事例として、大手複写機メーカーの販売ネットワーク事例に空間構造を学習する。
4	企業の支店配置の原理	大手複写機メーカーの販売ネットワークを用いて、地域区分や支店・営業所配置の原理を学習する。
5	買い物行動圏	東京大都市圏における消費者の買い物行動を用いて、商圏と地域区分を学習する。
6	日本の国土構造の変遷	日本の国土構造の変遷を時期別に区分し、日本の国土構造の特徴を解説する。
7	地域政策と国土構造	日本の国土構造の変遷を時期別に区分し、国土政策の特徴を解説する。
8	日本の地域構造の特徴	統計データに基づいて、日本の国土構造の特徴を学習する。
9	中枢管理機能	中枢管理機能の概念を用いて、中枢管理機能からみた日本の都市システムの構造を学習する。
10	企業行動の空間構造	経済的中枢管理機能を用いて、経済的中枢管理機能からみた日本の都市階層を学習する。
11	支社配置と広域中心都市	日本の主要企業の支社配置を用いて、日本の国家的都市システムにおける広域中心都市の位置づけを学習する。

- | | | |
|----|--------------|---------------------------------------|
| 12 | 支社立地と日本の国土構造 | 企業の支社の空間的配置を用いて、日本の国家的都市システムの構造を学習する。 |
| 13 | 本社配置と日本の国土構造 | 企業の本社の空間的配置を用いて、日本の国家的都市システムの構造を学習する。 |
| 14 | まとめ | 地理学で学習した内容を整理し、地理学の課題を学習する。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地理に関連する社会問題について深く考え、授業中の議論に備えること。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

【参考書】

高橋ほか編『ジオグラフィー入門』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

小テスト (50%)、定期試験 (50%) などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The regional geography of the world with the perspective of how human, physical and environmental components interact will be learned.

GEO100CA

地理学Ⅱ

朴 宗玄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地理学」の講義が目指す最終的目標は、細分・専門化されてきた幅広い地理学の研究アプローチを理解するとともに、「空間（地域）」と「人間活動」との関連性を解明することである。講義を通じて、現代の日本・世界を理解する方法と様々な人文地理学を学習する。

【到達目標】

授業の到達目標は、地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し、諸課題について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義と学生の授業内での発表、リアクションペーパー提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地理学のモデルー都市内部構造理論	都市地理学について解説し、都市内部構造理論を学習する。
2	同心円モデルとセクターモデル	同心円モデルとセクターモデルを用いて、都市内部構造モデルを学習する。
3	多核心モデルと三地带モデル	多核心モデルと三地带モデルを用いて、都市内部構造理論を学習する。
4	工業立地と地理学	工業地理学について解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
5	ウェーバーの工業立地モデル	ウェーバーの工業立地モデルについて解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
6	日本の工業立地と空間構造	日本の工業立地の実態を用いて、工業立地の要因を学習する。
7	企業の海外進出行動と地理学 1	企業地理学について解説し、日本企業の海外進出の実態とその空間構造を学習する。
8	企業のグローバル活動	地理学の視点から企業のグローバル活動を学習する。
9	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の立地行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業を用いて、日経企業の業種別分布パターンを学習する。
10	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の取引行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の取引行動の現地化プロセスを学習する。
11	ジェンダー地理学	ジェンダー地理学について解説し、地理学の支店で、ジェンダー問題の捉え方を学習する。
12	男女の通勤行動の差	男女の通勤行動の違いからみた空間構造の違いを学習する。
13	ライフステージと通勤距離	ライフステージ別における通勤距離の違いを学習する。
14	まとめ	地理学全体で学習した内容を整理し、地理学の課題を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地理に関連する社会問題について深く考え、授業中の議論に備えること。講義内容をもとに、統計データを用いて、地図化と地域の見方を学習するとともに、フィールドワークの方法について学習する。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

【参考書】

高橋ほか編『ジオグラフィ入門』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

小テスト（50%）、定期試験（50%）などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The regional geography of the world with the perspective of how human, physical and environmental components interact will be learned, In addition, geographic analytical skills as well as geographic theory will be acquired.

FRI300ED

デジタル情報環境実習

土橋 臣吾

サブタイトル：特講（デジタル情報環境実習）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「デザイン思考」の視点と方法に基づきつつ、ウェブサービスやモバイルアプリの企画立案を行います（プログラミングによる実装はしません）。質的な方法を中心とした生活者調査を行い、その知見に基づいて、独自のアイデアを導き出します。

【到達目標】

「デザイン思考」の視点と方法に基づいたプランニングの能力を身につけることを最終的な到達目標とします。同時に、ウェブやモバイルを中心としたデジタル情報環境について、ユーザーの視点から新たなデザインを提案する能力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行われる一部の回を除いて、すべてグループワークの実習形式で行います。また、授業内で半期に2回程度のプレゼンテーションが課されます。調査、企画立案の進捗の度合いによって、スケジュールが変わることがあります。

- ・課題へのフィードバックは授業内で個別に行います。
- ・授業の形式（対面/オンライン）については、学習支援システムで周知します。
- ・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	目標／課題の設定について
2	視座と方法（1）	デザイン思考の思想と展開
3	視座と方法（2）	行動観察とデザイン
4	視座と方法（3）	行動観察のシミュレーション
5	調査（1）	メディア利用行動を振り返る
6	調査（2）	行動観察調査の設計
7	調査（3）	調査の知見の検討
8	調査（4）	調査の知見の検討
9	調査（5）	調査結果のプレゼン
10	プロトタイピング（1）	ペーパープロトタイピング
11	プロトタイピング（2）	プロトタイプ作成
12	プロトタイピング（3）	ペルソナシナリオの作成
13	プロトタイピング（4）	プロトタイプの修正
14	最終プレゼンテーション	企画案のプレゼン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査・制作の作業の多くはグループごとに課外の時間を使って行うこととなります。さらに、企画の段階でも必要に応じてグループでの作業が相当程度必要となります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

トム・ケリー&ジョナサン・リットマン（2002）『発想する会社—世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房
木浦幹雄（2020）『デザインリサーチの教科書』BNN

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、最終課題 50 %

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが軌道に乗るまでにはコミュニケーションの上で色々な難しさもありますが、その点についても適宜指導していきます。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業でノートパソコンを利用する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basic skills and knowledge to design the user experience of digital media. It also enhances the development of students' skill in ethnographic research of digital media use.

FRI200ED

デジタル情報環境分析

土橋 臣吾

サブタイトル：ウェブ・メディア論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活におけるウェブやモバイルメディアの影響を具体的に分析する視点および調査の方法を学びます。具体的には、アーキテクチャ分析、人やモノや空間の連関の分析などについて学び、さらに UX デザインの領域で活用される調査技法について学びます。

【到達目標】

身近なデジタルメディアや、自分たちの普段のメディア利用を分析的に捉える能力を身につけることが第一の目的です。その上で、ユーザー調査の技法についても学び、調査に基づいてメディアを設計する＝デザインする視点を獲得することが第二の目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目的を達成するために、授業の全体を「アーキテクチャの分析」「人・モノ・空間の分析」「ユーザー調査の方法」に分け、それぞれのセクションで各種の理論と調査法を具体的な事例と共に学んでいきます。各セクションの終了時には、課題として「分析レポート」が課されます。

・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

・授業の形式（対面/オンライン）については、学習支援システムで周知します。

・各回の授業で 10 分程度の短いグループディスカッションを行います。

・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の目的、内容および受講上の注意
2	アーキテクチャの分析 1	アーキテクチャとは何か
3	アーキテクチャの分析 2	動画共有サイトのアーキテクチャ
4	アーキテクチャの分析 3	ソーシャルメディアのアーキテクチャ
5	アーキテクチャの分析 4	セクションのまとめと課題の解説
6	人・モノ・空間の分析 1	アクターネットワークとは何か？
7	人・モノ・空間の分析 2	固定的なメディアをめぐる連関
8	人・モノ・空間の分析 3	移動的なメディアをめぐる連関
9	人・モノ・空間分析 4	セクションのまとめと課題の解説
10	ユーザー調査の方法 1	行動観察・エスノグラフィ
11	ユーザー調査の方法 2	カスタマージャーニーマップ・日記式調査
12	ユーザー調査の方法 3	ベルソナシナリオ
13	ユーザー調査の方法 4	セクションのまとめと課題の解説
14	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した文献や記事についてはできる限り目を通してください。また具体的なウェブサービスなどを事例に取り上げることがあるので、授業と並行としてそれぞれのサービスを利用し、その特徴を把握しておくことと理解が深まると思います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

セクションごとに 1 回ずつ課される「分析レポート」（計 3 回）で評価する（100 %）。ただし、授業内で採用されたリアクション・ペーパーを書いた受講者には特別点を加算する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例をできるだけ数多く取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布を授業支援システムで行います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire theoretical tools and research methods to study the user of digital media technologies.

FRI200ED

デジタル情報環境論

土橋 臣吾

サブタイトル：ウェブ・メディア論Ⅰ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日のデジタルメディアは、私たちの生活全域を覆う情報環境になっていきます。その来歴・現状・将来を、流動化・個人化・再帰化という 3 つの観点から考え、これらを通じて、今日のデジタル情報環境に関する社会学的理解を獲得することが授業の目的です。

【到達目標】

今日のデジタル情報環境がいかなる情報環境なのかを、身近な具体的な事例を通じて社会学的に理解することが第一の目標です。その上で、今後のデジタル情報環境がどうあるべきかについて一定の見解をもてるようになることが第二の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標を達成するために授業の全体を「流動化する情報環境」「個人化する情報環境」「情報環境の再帰的な構想」の三セクションに分け、それぞれのセクションをいくつかの社会理論と関連付けながら、その理論的理解に基づいて各種事例の分析を行っていきます。

・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行う。

・授業の形式（対面/オンライン）については、学習支援システムで周知する。

・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の概要
2	流動化する情報環境 1	「流動化」とは何か？
3	流動化する情報環境 2	ブロードキャストからネットワークへ
4	流動化する情報環境 3	固定的なメディアから移動的なメディアへ
5	流動化する情報環境 4	ソリッドなコンテンツからリキッドなコンテンツへ
6	個人化する情報環境 1	「個人化」とは何か？
7	個人化する情報環境 2	ソーシャルメディアとつながり・情報行動の変容
8	個人化する情報環境 3	パーソナライズ化される広告とコンテンツ
9	個人化する情報環境 4	ユビキタス環境における「わたし」と「みんな」
10	情報環境の再帰的構想 1	「再帰的構想」とは何か？
11	情報環境の再帰的構想 2	多角的リアリティに向き合う
12	情報環境の再帰的構想 3	テクノロジー的生活形式向き合うか
13	情報環境の再帰的構想 4	経験の断片化・非同期化向き合う
14	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した文献や記事についてはできる限り目を通してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻泉・南田勝也・土橋臣吾（2018）『メディア社会論』有斐閣

【参考書】

授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートによって評価を行う（100%）。ただし、授業内で採用されたリアクション・ペーパーを書いた受講者には特別点を加算する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例をできるだけ多く取り上げて議論を展開する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムもしくは Google Classroom を利用します。Google Classroom を使う場合は、使い方を授業支援システムでお知らせします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire a sociological understanding of digital media technologies.

PHL100EA

哲学 I

大橋 基

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「善／悪」や「美／醜」など、私たちの「常識」を形成している諸概念の内容や矛盾点を哲学的に考察することを通して、現代社会で実現されるべき「私の在り方」を探る。

【到達目標】

私たちが普段何気なく用いている「日本文化」・「アイデンティティ」・「倫理規範」といった諸概念に関して、その特徴や歴史的由来を説明できる。現在の社会生活を方向づけている「服飾」・「性愛」・「虚言」に関する規範に関して、その利点と難点を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」（学生各自が「学習支援システム」からプリントアウトする）を参照しながら、テキストの理解・考察を行う講義。毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（質問等に対する教員からの回答は次回授業時に示し、重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載する。そのさい学生の個人名は伏せる）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業案内	講義内容と成績評価についての説明
2	日本人にとっての「日本文化」とは？	和辻哲郎『風土』とベネディクト『菊と刀』
3	「自由意志」は西洋固有のものか？	デカルトの「自由意志」とアリストテレスの「政治的動物」の相違
4	「私」とは誰のことか？	法律上の「人格の同一性」と現実的な「自己同一性」の違い
5	「アイデンティティ」が成立する条件	ヘーゲルにおける「自己意識」と「相互承認」の関係
6	もろく曖昧な「善／悪」の境界線	「記憶の喪失」や「集団の狂気」は何をもたらすか？
7	「善悪の彼岸」から眺めた世界	ニーチェの「宗教批判」と「永遠回帰」の思想
8	お仕着せの「らしさ」への反抗	シャネルの「モード革命」とカントの「人間学」
9	高潔な「理性」と狡猾な「理性」	人間の本質は「善意志」（カント）か「生存本能」（ホッブズ）か？
10	「恋愛」に見出された対照的な目的	「結婚の準備」（ヘーゲル）と「性欲の偽装」（ショーペンハウアー）
11	「結婚生活」の近未来像	ラッセルの「試験結婚」とフロムの「愛する技術」
12	「嘘も方便」ではいけないのか？	「処世術」や「必要悪」といった日常的な許容条件
13	「正直でいること」の難しさ	カントの「定言命法」は今日でも通用するか？
14	期末試験	「日本」で実現されるべき「自由意志」のあり方とは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業までに、テキストの該当箇所を読み、要点や疑問を整理しておく。「学習支援システム」から該当回の「講義用資料」をプリントアウトして、テキスト同様、授業に持参する。毎回、前回の授業内容を前提として議論が組み立てられているので、講義前に復習しておく。講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大橋 基「18 歳で学ぶ哲学的リアル【改訂版】－「常識」の解剖学」ミネルヴァ書房、2019 年（3200 円＋税）

【参考書】

授業内に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点 30 % の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。リアクションペーパーや Eメール、口頭での質問・意見も平常点算出の参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、常時、確認可能にする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help student acquire an understanding of the basic concepts of philosophy in order to give careful consideration to the matters of our everyday life that depends on vague common sense. It deals with 6 themes as follow: 1. the conflicts between the Japanese culture and the free will, 2. the difference between juridical person and self-identity recognized in our social life, 3. the disintegration of the social norm to distinguish between "good" and "evil", 4. the attempt to change the instituted standard of "beauty" and "ugliness", 5. the modernization of the relation of love and sexual desire, 6. the reason to prohibit a lie.

PHL200EA

哲学Ⅱ

大橋 基

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの「常識」のなかに組み込まれている「生命」や「差別」をめぐる諸概念に関して、それらの内容や矛盾点を哲学的に考察することを通して、現代社会で実現されるべき「倫理的態度」を探る。

【到達目標】

医療技術の進歩に応じて生じた「病院死」や「安楽死」といった事例を通して、「生/死」に関する「常識」の歴史の変遷と問題点を説明できる。「異文化問題」・「自然破壊」・「人命軽視」といった事例を通して、「生命」の扱い方に関する現代哲学の提言とその難点を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」（学生各自が「学習支援システム」からプリントアウトする）を参照しながら、テキストの理解・考察を行う講義。毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（質問等に対する教員からの回答は次回授業時に示し、重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載する。そのさい学生の個人名は伏せる）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業案内	講義内容と成績評価についての説明
2	「死に場所」としての「病院」	現代医療の「進歩」が要求した「死の処方」
3	「孤独死」は「不幸な死」なのか？	「死」にまつわる偏見とメイヤロフの「ケアの倫理」
4	「人格」と「ヒト」の境界線は存在するか？	シンガーによる「パーソン論」と「功利主義」の接合
5	「障害」を避けたいのは誰？	「大人の事情」に抗うデイドロの「身体」論
6	「職業に貴賤はない」は本当か？	「リベラリズム」における「平等」の扱い方
7	「格差是正」は「もしも」のために	ロールズが導出した「正義」の理論とその難点
8	「管理社会」の心地よさ	「安心・安全」は「自由」に優先されるべきか？
9	「異文化共生」は云うに易く	国際化がもたらす「承認の欠如」や「歪んだ承認」
10	「名前」という呪縛	「自然保護」から「環境倫理」への転換
11	「ミート・イズ・マーダー？」	シンガーの「種差別」批判とネスの「ディーブ・エコロジー」
12	なぜ「人」を殺してはいけないのか？	サルトルとレヴィナスが見出した「禁止理由」
13	価値観が対立しても「善/悪」は成り立つか？	ハーバーマスの「討議倫理学」の意義と限界
14	期末試験	不透明な「現実」において望みうる「倫理」とは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業までに、テキストの該当箇所を読み、要点や疑問を整理しておく。「学習支援システム」から該当回の「講義用資料」をプリントアウトして、テキスト同様、授業に持参する。毎回、前回の授業内容を前提として議論が組み立てられているので、講義前に復習しておく。講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大橋 基『18歳で学ぶ哲学的リアル【改訂版】－「常識」の解剖学』ミネルヴァ書房、2019年（3200円＋税）

【参考書】

授業内に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験70%、平常点30%の比率で、成績評価を行い、60点以上を及第点とする。リアクションペーパーやEメール、口頭での質問・意見も平常点算出の参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、常時、確認可能にする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help student acquire an understanding of the basic concepts of philosophy in order to give careful consideration to the matters of our everyday life that depends on vague common sense. It deals with 6 themes as follow: 1. the forms of death in the modern society and the difficulty of "caring", 2. the grave situation of modern medicine resulted from the redefinition of "person", 3. the permission limit of the inequity in the liberal society, 4. the ethical attitude to "the others" in the multi-cultural society, 5. the human responsibility for "nature" as the victim of the industrial society, 6. the reason to prohibit murder.

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語上級A1・B1

三浦 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなテーマの文章を丁寧に読んで、読解力を増強し、ドイツ語圏事情をより詳しく理解する。

【到達目標】

30 行程度のまとまったテキストを丁寧に読むことができる。
 テキスト内容を理解したかどうかチェックするため、ドイツ語の質問文に答えることができる。
 穴埋め、文の書き換えといった文法問題を解いて、文法力をさらにアップさせる。
 テキストと文法問題の文から、ドイツ語圏の日常生活や社会の仕組みを理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と音声教材を用いた演習形式。一つの課について、第1回は本文の一部和訳を課題として提出し、第2回では、読んだ本文全体についての内容確認問題が課題となる。その間に、文法解説を行う。課題についてのフィードバックは、次の回に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ドイツ人は家族の間でなんと呼び合うか？	ガイダンスのあと、動詞の現在人称変化と動詞の位置について復習しながら、1 頁のテキストを読む。
2	形容詞の名詞的用法（名詞化）と「述語の 2 格」	2 頁の文法説明と 3 頁の「テキストの内容確認」
3	さすがドイツマン ションの掃除は当番制で！	集合住宅での掃除当番制について、5 頁のテキストを読む。
4	「枠構造」、前置詞目的語を取る動詞と形容詞	6 頁の文法説明と 7 頁の「テキストの内容確認」
5	ドイツ人は風呂が嫌い？	ドイツ人のシャワーの浴び方や入浴習慣について、1 1 頁のテキストを読む。
6	外交的接続法、特別な意味を持つ前置詞、「所有の 3 格」	1 2 頁の文法説明と 1 3 頁の「テキストの内容を確認しよう」
7	閉店法一日曜日には何も買えない！	日常生活と密接な関係がある「閉店法」について、1 5 頁のテキストを読む。
8	副文の短縮	1 6 頁の文法説明と 1 7 頁の「テキストの内容を確認しよう」
9	シュワルツェネッカーとポディービル	以前と違い、ポディービルディングなど、スポーツスタディオが人気上昇中の風潮を語った、2 1 頁のテキストを読む。
10	不定関係代名詞、冠飾句	2 2 頁の文法説明と 2 3 頁の「テキストの内容を確認しよう」

- | | | |
|----|-------------------------------|--|
| 11 | ドイツ人が一番好きなスポーツ—サッカー | サッカーとそれに関わるフリーガンやサッカーくじなどについて、2 5 頁のテキストを読む。 |
| 12 | さまざまな受動表現、関係副詞 | 2 6 頁の文法説明と、2 7 頁の「テキストの内容を確認しよう」 |
| 13 | 「独検にチャレンジ！」、2 級と準 1 級レベルの文法問題 | 教科書の 9、1 9、2 9 頁にある問題を解く。 |
| 14 | 期末試験 | 試験、まとめと解説を行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
 テキストを事前に読み、演習問題を予習して準備する。
 授業後、正答が出せなかった箇所に重点を置きながら、全般について確認し、復習する。

【テキスト（教科書）】

「グレードアップドイツ語」、橋本政義・Bernhard Neuberger・橋本淑恵 著、郁文堂、2017 年、本体 2500 円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

成績の内訳は、平常点（毎回の課題提出における学習状況、参加度）70 %、期末の課題 30%とする。

力をつけるには日ごろの努力が欠かせないので、提出課題に見る不断の学習状況を平常点で評価し、読解力がどの程度アップしたかを期末の提出物で確かめる。

【学生の意見等からの気づき】

原則、毎回課題の提出があるが（テキストの和訳かテキストの内容確認問題）、過度の負担にならないように、分量を適宜調節する。

【Outline and objectives】

Improve reading comprehension by means of various texts on Germany and become more familiar with actualities in Germany and Europe.

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語上級A2・B2

MARKUS GRASMUECK

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話・口語表現

【到達目標】

一般的な会話、簡単な説明、報告に関連した口頭による表現やその聞き取りの練習をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標に応じた口頭による表現やリスニングの練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Einführung	オリエンテーション
第2回	Goro will nach Deutschland fahren	助動詞の復習 ほか
第3回	Goro will nach Deutschland fahren	助動詞の復習 ほか
第4回	Anmeldung zum Sprachkurs	空間の表現 ほか
第5回	Anmeldung zum Sprachkurs	空間の表現 ほか
第6回	Im Studentenwohnheim	複合名詞 ほか
第7回	Im Studentenwohnheim	複合名詞 ほか
第8回	Wie waere es, wenn du am Samstag zu uns kommst?	接続法II式 ほか
第9回	Wie waere es, wenn du am Samstag zu uns kommst?	接続法II式 ほか
第10回	Sind die Japaner Buddhisten?	状態受動 ほか
第11回	Sind die Japaner Buddhisten?	状態受動 ほか
第12回	Im Biergarten	接続語句 ほか
第13回	Im Biergarten	接続語句 ほか
第14回	Pruefung	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習うドイツ語の語彙を復習する必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平高史也, Andreas Riessland, 木村護郎クリストフ, 薬谷郁美（執筆協力：太田達也, Marco Raindl）（2006）：『Modelle 3（問題発見のドイツ語 3）』三修社

【参考書】

家での学習には独和辞典が必要である（授業時の持参は不要）。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)
小テスト (30%)
期末試験 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

【Outline and objectives】

German conversation

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語上級A3・B3

MARKUS GRASMUECK

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の読書と作文

【到達目標】

実際の文章にふれ、読む力と書く力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では言語学習における2つの重要なスキルである「読む」と「書く」を組み合わせて扱います。毎週、授業ではドイツのさまざまなアクチュアルなテーマに関するテキストを読みます。そして、自宅での学習でそれについての意見やコメントを書きます。教員はその作文を添削して、より良いドイツ語を書くにはどうしたらよいかについて、アドバイスをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Einführung	オリエンテーション
第2回	Familie und Freunde	Freunde und Kollegen
第3回	Menschen und Orte	König Ludwig II.
第4回	Menschen und Orte	Drei berühmte Kaffeehäuser
第5回	Kleidung und Aussehen	Mode von fünf Generationen
第6回	Kleidung und Aussehen	Schönheiten aus Deutschland
第7回	Gesundheit	MEDIZIN? Ja, aber NATÜRLICH!
第8回	Gesundheit	Lachen ist gesund
第9回	Essen und Trinken	Unser tägliches Brot
第10回	Essen und Trinken	Sund die Deutschen Bierweltmeister?
第11回	Schule und Ausbildung	Als Gast Schüler in Deutschland
第12回	Schule und Ausbildung	Das duale Ausbildungssystem
第13回	Arbeit und Beruf	Sonntag: Ruhe- oder Werktag
第14回	Arbeit und Beruf	Was am Arbeitsplatz wichtig ist

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の具体的な内容についての簡単な文章の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Zwischendurch mal ... Landeskunde, Hueber

【参考書】

和独辞書が必要である。常に授業へ持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)
小テスト (30%)
期末試験 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

【Outline and objectives】

German reading and writing skills

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語上級A4・B4

三浦 美紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなテーマの文章を丁寧に読んで、読解力を増強し、ドイツ語圏事情をより詳しく理解する。

【到達目標】

30 行程度のまとまったテキストを丁寧に読むことができる。
 テキストの内容を理解したかどうかをチェックするため、ドイツ語の質問文に答えることができる。
 穴埋め、文の書き換えといった文法問題を解いて、文法力をさらにアップさせる。
 テキストと文法問題の文から、ドイツ語圏の現状について、グローバルな視点から理解し、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と音声教材を用いた演習形式。一つの課につき、1 回目には本文の一部和訳が提出課題であり、文法説明をはさんで、「テキストの内容を理解しよう」が 2 回目の提出課題となる。課題についてのフィードバックは、次の回に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	世界最大の民族祭—オクトーバーフェスト	ミュンヘンの有名なビール祭りである「オクトーバーフェスト」の歴史や現状について、31 頁のテキストを読む。
2	「枠外配置」、不定代名詞の名詞的用法	32 頁の文法説明のあと、33 頁「テキストの内容を確認しよう」
3	大学の授業料の行方は？	ドイツの国立大学は、長い間、「授業料は無料」でやってきたが、昨今の動きについて、35 頁のテキストを読む。
4	「機能動詞」	36 頁の問題を解きながら文法説明をしたのち、37 頁「テキストの内容を把握しよう」
5	ドイツ人の友達を作ろう！	ドイツでドイツ人の友人を得るにはどうしたらよいか、アドバイス形式になっている 41 頁のテキストを読む。
6	さまざまな命令表現	42 頁の練習問題を解きながら、命令のニュアンスを持つ様々な表現を学んだ後、43 頁「テキストの内容を確認しよう」
7	ドイツでは離婚が多い？	ドイツの離婚事情について、45 頁のテキストを読む。
8	話法の助動詞の注意すべき用法	46 頁、zu 不定詞や受動の不定詞と用いられる場合など、話法の助動詞のまとめのち、47 頁「テキストの内容を確認しよう」

9	シュタイナー学校—理想の教育とは？	ルードルフ・シュタイナーの教育論に基づく私立学校ヴァルドルフシュレーレについて、51 頁のテキストを読む。
10	es のさまざまな使い方	52 頁で es のさまざまな使い方をまとめたあと、53 頁「テキストの内容を確認しよう」
11	正しいドイツ留学のすすめ	ドイツの大学に留学して学ぶ場合のアドバイスを綴った、55 頁のテキストを読んでいく。
12	相関的接続詞	56 頁の説明のあと、57 頁「テキストの内容を確認しよう」
13	独検にチャレンジ！	教科書 39 頁、49 頁、59 頁にある、ドイツ語検定 2 級・準 1 級レベルの文法問題を解く。
14	期末試験	試験、まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
 テキストを事前に読み、練習問題を予習して準備する。
 授業後、正答が出せなかった箇所重点を置きながら、全般について確認し、復習する。

【テキスト（教科書）】

「グレードアップドイツ語」、橋本政義・Bernhard Neuberger・橋本淑恵著、郁文堂、2017 年、本体 2500 円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

成績の内訳は、期末試験 30%、平常点（授業での学習状況、参加度）70%とする。
 読解力がどの程度アップしたかを期末試験で確かめるが、実力をつけるには日ごろの努力が欠かせないので、予習を含めた不断の学習状況を平常点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

原則的には、毎週課題（和訳か内容確認問題）の提出があるが、テキスト内容や文法の重要度により、負担が大きくバラ内容、適宜、課題の分量を調節する。

【Outline and objectives】

Improve reading comprehension by means of various texts on Germany and become more familiar with actualities in Germany and Europe.

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語上級A5・B5

MARKUS GRASMUECK

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話・口語表現

【到達目標】

一般的な会話、簡単な説明、報告に関連した口頭による表現やその聞き取りの練習をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標に応じた口頭による表現やリスニングの練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Wiederholung	復習
第2回	Der öffentliche Verkehr in Deutschland	動詞の名詞化 ほか
第3回	Der öffentliche Verkehr in Deutschland	動詞の名詞化 ほか
第4回	Mein Rucksack ist gestohlen worden	受動の助動詞 werden の現在完了 ほか
第5回	Mein Rucksack ist gestohlen worden	受動の助動詞 werden の現在完了 ほか
第6回	Kennen Sie Bamberg?	好みや印象を伝える表現 ほか
第7回	Kennen Sie Bamberg?	好みや印象を伝える表現ほか
第8回	Der sechsjährige Autofahrer	接続法I式 ほか
第9回	Der sechsjährige Autofahrer	接続法I式 ほか
第10回	Schweigen ist Gold?	心態詞 ほか
第11回	Schweigen ist Gold?	心態詞 ほか
第12回	Windkraftwerke	話法の助動詞を使った受動文 ほか
第13回	Windkraftwerke	話法の助動詞を使った受動文 ほか
第14回	Pruefung	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習うドイツ語の語彙を復習する必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平高史也, Andreas Riessland, 木村護郎クリストフ, 藁谷郁美（執筆協力：太田達也, Marco Raindl）（2006）：『Modelle 3（問題発見のドイツ語 3）』三修社

【参考書】

家での学習には独和辞典が必要である（授業時の持参は不要）。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)
小テスト (30%)
期末試験 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

【Outline and objectives】

German conversation

LANd300EA,LANd400EA

ドイツ語上級A6・B6

MARKUS GRASMUECK

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の読書と作文

【到達目標】

実際の文章にふれ、読む力と書く力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では言語学習における2つの重要なスキルである「読む」と「書く」を組み合わせて扱います。毎週、授業ではドイツのさまざまなアクチュアルなテーマに関するテキストを読みます。そして、自宅での学習でそれについての意見やコメントを書きます。教員はその作文を添削して、より良いドイツ語を書くにはどうしたらよいかについて、アドバイスをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Konsum	Die Deutschen und ihr Geld
第2回	Konsum	Geld im Alltag
第3回	Natur und Umwelt	Wind im Aufwind
第4回	Natur und Umwelt	Umweltpolitik in Deutschland
第5回	Reisen	Die Deutschen und ihr Urlaub
第6回	Reisen	Berlin
第7回	Verkehr	VW Golf
第8回	Verkehr	Frankfurt Airport
第9回	Freizeit und Sport	Wo engagieren sich Jugendliche in ihrer Freizeit
第10回	Freizeit und Sport	Eine Nation greift zum Schläger
第11回	Feste	Feste feiern - rund ums Jahr
第12回	Feste	Die fünfte Jahreszeit
第13回	Medien	Bravo, eine deutsche Jugendzeitschrift
第14回	Medien	Made in Germany

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業での具体的な内容についての簡単な文章の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Zwischendurch mal ... Landeskunde, Hueber

【参考書】

和独辞書が必要である。常に授業へ持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)
小テスト (30%)
期末試験 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

【Outline and objectives】

German reading and writing skills

LANd100EA

ドイツ語初級A

齋藤 萌、武藤 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基本的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。オンライン授業の実施方法は、学習支援システムで確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方、 アルファベットとつづり
2	発音とあいさつ	発音、 あいさつ、 単語の発音、 数詞
3	Lektion 1 文法①	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化 (1)
4	Lektion 1 文法②	重要動詞の現在人称変化、語順
5	Lektion 1 会話	自己紹介
6	Lektion 1 復習	Lektion 1 文法事項復習
7	Lektion 1 読解	はじめまして
8	Lektion 2 文法①	名詞の性・冠詞、 名詞の格変化①
9	Lektion 2 文法②	名詞の格変化② 疑問代名詞の格変化、並列の接続詞
10	Lektion 2 復習	Lektion 2 文法事項復習
11	Lektion 2 会話	職業は何ですか
12	Lektion 2 読解	ジャーナリスト ヴェルナー・アーダム
13	Lektion 3 文法①	動詞の現在人称変化 (2)、 命令形
14	Lektion 3 文法②	人称代名詞の 3 格と 4 格、その語順、 非人称の es
15	Lektion 3	Lektion 3 文法事項復習
16	Lektion 3 会話	趣味は何？
17	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
18	Lektion 3 読解	ケルンのビール
19	Lektion 4 文法①	名詞の複数形、 冠詞類 1
20	Lektion 4 文法②	冠詞類 2、 kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
21	Lektion 4 復習	Lektion 4 文法事項復習
22	Lektion 4 会話	パン屋で買い物
23	Lektion 5 文法①	前置詞の格支配①
24	Lektion 5 文法②	前置詞の格支配②
25	Lektion 5 復習	Lektion 5 文法事項復習
26	Lektion 5 会話	どう行けばいいですか
27	Lektion 4/5 読解	ドイツのパン ザルツブルク
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文や読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。中間と期末のテストが各授業 20 %ずつ、課題・小テスト・小レポートの提出が各授業 30 %ずつの計 100 %で評価をだし、60 %以上の評価で単位の取得となります。

【学生の意見等からの気づき】

現時点では春学期はオンライン授業となっています。オンライン授業では自分のペースで学習できるという利点がある一方、つつい後回しにしてしまうことも可能ですので、気づくと大変な状態になっていることもあり得ます。そのため授業資料の掲示や課題提出の期限を設けることで、なるべく1週間のペースを作れるようにしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）を利用するためのパソコン、Word、PowerPoint を含む Microsoft Office（法政大学の学生は無償インストールできる）

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級A

齋藤 萌、武藤 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基本的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。オンライン授業の実施方法は、学習支援システムで確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方、 アルファベットとつづり
2	発音とあいさつ	発音、 あいさつ、 単語の発音、 数詞
3	Lektion 1 文法①	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化 (1)
4	Lektion 1 文法②	重要動詞の現在人称変化、語順
5	Lektion 1 会話	自己紹介
6	Lektion 1 復習	Lektion 1 文法事項復習
7	Lektion 1 読解	はじめまして
8	Lektion 2 文法①	名詞の性・冠詞、 名詞の格変化①
9	Lektion 2 文法②	名詞の格変化② 疑問代名詞の格変化、並列の接続詞
10	Lektion 2 復習	Lektion 2 文法事項復習
11	Lektion 2 会話	職業は何ですか
12	Lektion 2 読解	ジャーナリスト ヴェルナー・アーダム
13	Lektion 3 文法①	動詞の現在人称変化 (2)、 命令形
14	Lektion 3 文法②	人称代名詞の 3 格と 4 格、その語順、 非人称の es
15	Lektion 3	Lektion 3 文法事項復習
16	Lektion 3 会話	趣味は何？
17	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
18	Lektion 3 読解	ケルンのビール
19	Lektion 4 文法①	名詞の複数形、 冠詞類 1
20	Lektion 4 文法②	冠詞類 2、 kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
21	Lektion 4 復習	Lektion 4 文法事項復習
22	Lektion 4 会話	パン屋で買い物
23	Lektion 5 文法①	前置詞の格支配①
24	Lektion 5 文法②	前置詞の格支配②
25	Lektion 5 復習	Lektion 5 文法事項復習
26	Lektion 5 会話	どう行けばいいですか
27	Lektion 4/5 読解	ドイツのパン ザルツブルク
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文や読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。中間と期末のテストが各授業 20 %ずつ、課題・小テスト・小レポートの提出が各授業 30 %ずつの計 100 %で評価をだし、60 %以上の評価で単位の取得となります。

【学生の意見等からの気づき】

現時点では春学期はオンライン授業となっています。オンライン授業では自分のペースで学習できるという利点がある一方、ついつい後回しにしてしまうことも可能ですので、気づくと大変な状態になっていることもあり得ます。そのため授業資料の掲示や課題提出の期限を設けることで、なるべく1週間のペースを作れるようにしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システム（Hoppii）を利用するためのパソコン、
・Word、PowerPoint を含む Microsoft Office（法政大学の学生は無償インストールできる）

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級A

本田 博之、布川 恭子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1、金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。オンライン授業の実施方法は、学習支援システムで確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方、アルファベット
2	発音	つづりと発音
3	あいさつ	あいさつ、単語の発音、数詞
4	Lektion 1 文法①	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化 (1)
5	Lektion 1 文法②	重要動詞の現在人称変化、語順
6	Lektion 1 会話	自己紹介
7	Lektion 1 読解	はじめまして
8	Lektion 2 文法①	名詞の性・冠詞、名詞の格変化①
9	Lektion 2 文法②	名詞の格変化②
10	Lektion 2 文法③	疑問代名詞の格変化、並列の接続詞
11	Lektion 2 会話	職業は何ですか
12	Lektion 2 読解	ジャーナリスト ヴェルナー・アーダム
13	Lektion 3 文法①	動詞の現在人称変化 (2)、命令形
14	Lektion 3 文法②	人称代名詞の 3 格と 4 格、その語順、非人称の es
15	Lektion 3 会話	趣味は何？
16	Lektion 3 読解	ケルンのピエール
17	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
18	Lektion 4 文法①	名詞の複数形
19	Lektion 4 文法②	冠詞類
20	Lektion 4 文法③	kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
21	Lektion 4 会話	パン屋で買い物
22	Lektion 4 読解	ドイツのパン
23	Lektion 5 文法①	前置詞の格支配①
24	Lektion 5 文法②	前置詞の格支配②
25	Lektion 5 文法③	前置詞と定冠詞の融合形
26	Lektion 5 会話	どう行けばいいですか
27	Lektion 5 読解	ザルツブルク
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文や読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）
白水社『必携ドイツ文法総まとめ』（購入する必要はありませんが、文法事項がコンパクトにわかりやすくまとまっているので、おすすめです）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。

中間テストおよび期末テスト 70 % + 平常点（授業態度および小テストを含める）30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

勉強の手順や宿題の内容について説明を十分に行い、個々の宿題や質問及びテストのフィードバックをします。

他にも Hoppii 学習支援システム授業内「掲示板」を活用して、質問やコメントをしてください。「掲示板」を通して、クラス担当教員2名及びクラス受講生に連絡や、意見交換をすることができます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になる場合、コンピュータのマイクを使える状態にしてください。

カメラは口頭試験の時にオンにしてもらいます（特別な事情がある場合を除く）。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級A

本田 博之、布川 恭子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。オンライン授業の実施方法は、学習支援システムで確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方、アルファベット
2	発音	つづりと発音
3	あいさつ	あいさつ、単語の発音、数詞
4	Lektion 1 文法①	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化 (1)
5	Lektion 1 文法②	重要動詞の現在人称変化、語順
6	Lektion 1 会話	自己紹介
7	Lektion 1 読解	はじめまして
8	Lektion 2 文法①	名詞の性・冠詞、名詞の格変化①
9	Lektion 2 文法②	名詞の格変化②
10	Lektion 2 文法③	疑問代名詞の格変化、並列の接続詞
11	Lektion 2 会話	職業は何ですか
12	Lektion 2 読解	ジャーナリスト ヴェルナー・アーダム
13	Lektion 3 文法①	動詞の現在人称変化 (2)、命令形
14	Lektion 3 文法②	人称代名詞の 3 格と 4 格、その語順、非人称の es
15	Lektion 3 会話	趣味は何？
16	Lektion 3 読解	ケルンのピエール
17	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
18	Lektion 4 文法①	名詞の複数形
19	Lektion 4 文法②	冠詞類
20	Lektion 4 文法③	kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
21	Lektion 4 会話	パン屋で買い物
22	Lektion 4 読解	ドイツのパン
23	Lektion 5 文法①	前置詞の格支配①
24	Lektion 5 文法②	前置詞の格支配②
25	Lektion 5 文法③	前置詞と定冠詞の融合形
26	Lektion 5 会話	どう行けばいいですか
27	Lektion 5 読解	ザルツブルク
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文や読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）
白水社『必携ドイツ文法総まとめ』（購入する必要はありませんが、文法事項がコンパクトにわかりやすくまとまっているので、おすすめです）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。

中間テストおよび期末テスト 70 % + 平常点（授業態度および小テストを含める）30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

勉強の手順や宿題の内容について説明を十分に行い、個々の宿題や質問及びテストのフィードバックをします。

他にも Hoppii 学習支援システム授業内「掲示板」を活用して、質問やコメントをしてください。「掲示板」を通して、クラス担当教員2名及びクラス受講生に連絡や、意見交換をすることができます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になる場合、コンピュータのマイクを使える状態にしてください。

カメラは口頭試験の時にオンにしてもらいます（特別な事情がある場合を除く）。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級A

脇田 淳、濱中 春

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。オンライン授業の実施方法は、学習支援システムで確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方、アルファベット
2	発音	つづりと発音
3	あいさつ	あいさつ、単語の発音、数詞
4	Lektion 1 文法①	主語になる人称代名詞、動詞の現在人称変化 (1)
5	Lektion 1 文法②	重要動詞の現在人称変化、語順
6	Lektion 1 会話	自己紹介
7	Lektion 1 読解	はじめまして
8	Lektion 2 文法①	名詞の性・冠詞、名詞の格変化①
9	Lektion 2 文法②	名詞の格変化②
10	Lektion 2 文法③	疑問代名詞の格変化、並列の接続詞
11	Lektion 2 会話	職業は何ですか
12	Lektion 2 読解	ジャーナリスト ヴェルナー・アーダム
13	Lektion 3 文法①	動詞の現在人称変化 (2)、命令形
14	Lektion 3 文法②	人称代名詞の 3 格と 4 格、その語順、非人称の es
15	Lektion 3 会話	趣味は何？
16	Lektion 3 読解	ケルンのピエール
17	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
18	Lektion 4 文法①	名詞の複数形
19	Lektion 4 文法②	冠詞類
20	Lektion 4 文法③	kein と nicht の使い方、否定疑問文の答え方
21	Lektion 4 会話	パン屋で買い物
22	Lektion 4 読解	ドイツのパン
23	Lektion 5 文法①	前置詞の格支配①
24	Lektion 5 文法②	前置詞の格支配②
25	Lektion 5 文法③	前置詞と定冠詞の融合形
26	Lektion 5 会話	どう行けばいいですか
27	Lektion 5 読解	ザルツブルク
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文や読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %、中間・期末試験 30 % で評価します。
成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。

【学生の意見等からの気づき】

・音声面の学習にもより目配りしたい。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級B

齋藤 萌、武藤 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。オンライン授業の実施方法は、学習支援システムで確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	初級 A の復習
2	Lektion 6 文法①	話法の助動詞の現在人称変化
3	Lektion 6 文法②	従属の接続詞と副文
4	Lektion 6 文法③	時刻の表現、不定代名詞 man
5	Lektion 6 会話	ノイシュヴァンシュタイン城を見たい
6	Lektion 6 読解	ノイシュヴァンシュタイン城
7	Lektion 7 文法①	形容詞の 2 つの使い方、形容詞の格変化
8	Lektion 7 文法②	形容詞・副詞の比較
9	Lektion 7 会話	レストランでの料理の注文
10	Lektion 7 読解	ドイツ人が好む外国料理
11	Lektion 8 文法①	分離動詞、非分離動詞
12	Lektion 8 文法②	zu 不定詞、zu 不定詞句
13	Lektion 8 会話	週末の予定は？
14	Lektion 8 読解	München の伝統的な祭り
15	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
16	Lektion 9 文法①	動詞の 3 基本形、過去分詞に ge-をつけない動詞
17	Lektion 9 文法②	現在完了形①
18	Lektion 9 文法③	現在完了形②
19	Lektion 9 会話	週末に何をしたの？
20	Lektion 9 読解	ニーナの週末
21	Lektion 10 文法①	過去形
22	Lektion 10 文法②	再帰代名詞と再帰動詞
23	Lektion 10 会話	昨日はどこにいたの？
24	Lektion 10 読解	きつねとぶどう（インソップ寓話）
25	文法の補足①	関係代名詞①
26	文法の補足②	関係代名詞②、受動態①
27	文法の補足③	受動態②
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文、読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。中間と期末のテストが各授業 20%ずつ、課題・小テスト・小レポートの提出が各授業 30%ずつの計 100%で評価をだし、60%以上の評価で単位の取得となります。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期では授業の理解度にばらつきが出やすいため、なるべく学生間の理解度に差がつかないように工夫をしていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合
・学習支援システム（Hoppii）を利用するためのパソコン、
・Word、PowerPoint を含む Microsoft Office（法政大学の学生は無償インストールできる）

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級B

齋藤 萌、武藤 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。オンライン授業の実施方法は、学習支援システムで確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	初級 A の復習
2	Lektion 6 文法①	話法の助動詞の現在人称変化
3	Lektion 6 文法②	従属の接続詞と副文
4	Lektion 6 文法③	時刻の表現、不定代名詞 man
5	Lektion 6 会話	ノイシュヴァンシュタイン城を見たい
6	Lektion 6 読解	ノイシュヴァンシュタイン城
7	Lektion 7 文法①	形容詞の 2 つの使い方、形容詞の格変化
8	Lektion 7 文法②	形容詞・副詞の比較
9	Lektion 7 会話	レストランでの料理の注文
10	Lektion 7 読解	ドイツ人が好む外国料理
11	Lektion 8 文法①	分離動詞、非分離動詞
12	Lektion 8 文法②	zu 不定詞、zu 不定詞句
13	Lektion 8 会話	週末の予定は？
14	Lektion 8 読解	München の伝統的な祭り
15	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
16	Lektion 9 文法①	動詞の 3 基本形、過去分詞に ge-をつけない動詞
17	Lektion 9 文法②	現在完了形①
18	Lektion 9 文法③	現在完了形②
19	Lektion 9 会話	週末に何をしたの？
20	Lektion 9 読解	ニーナの週末
21	Lektion 10 文法①	過去形
22	Lektion 10 文法②	再帰代名詞と再帰動詞
23	Lektion 10 会話	昨日はどこにいたの？
24	Lektion 10 読解	きつねとぶどう（インソップ寓話）
25	文法の補足①	関係代名詞①
26	文法の補足②	関係代名詞②、受動態①
27	文法の補足③	受動態②
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文、読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。中間と期末のテストが各授業 20%ずつ、課題・小テスト・小レポートの提出が各授業 30%ずつの計 100%で評価をだし、60%以上の評価で単位の取得となります。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期では授業の理解度にばらつきが出やすいため、なるべく学生間の理解度に差がつかないように工夫をしていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合
・学習支援システム（Hoppii）を利用するためのパソコン、
・Word、PowerPoint を含む Microsoft Office（法政大学の学生は無償インストールできる）

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級B

本田 博之、布川 恭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。オンライン授業の実施方法は、学習支援システムで確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	初級 A の復習
2	Lektion 6 文法①	話法の助動詞の現在人称変化
3	Lektion 6 文法②	従属の接続詞と副文
4	Lektion 6 文法③	時刻の表現、不定代名詞 man
5	Lektion 6 会話	ノイシュヴァンシュタイン城を見たい
6	Lektion 6 読解	ノイシュヴァンシュタイン城
7	Lektion 7 文法①	形容詞の 2 つの使い方、形容詞の格変化
8	Lektion 7 文法②	形容詞・副詞の比較
9	Lektion 7 会話	レストランでの料理の注文
10	Lektion 7 読解	ドイツ人が好む外国料理
11	Lektion 8 文法①	分離動詞、非分離動詞
12	Lektion 8 文法②	zu 不定詞、zu 不定詞句
13	Lektion 8 会話	週末の予定は？
14	Lektion 8 読解	München の伝統的な祭り
15	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
16	Lektion 9 文法①	動詞の 3 基本形、過去分詞に ge-をつけない動詞
17	Lektion 9 文法②	現在完了形①
18	Lektion 9 文法③	現在完了形②
19	Lektion 9 会話	週末に何をしたの？
20	Lektion 9 読解	ニーナの週末
21	Lektion 10 文法①	過去形
22	Lektion 10 文法②	再帰代名詞と再帰動詞
23	Lektion 10 会話	昨日はどこにいたの？
24	Lektion 10 読解	きつねとぶどう（インソップ寓話）
25	文法の補足①	関係代名詞①
26	文法の補足②	関係代名詞②、受動態①
27	文法の補足③	受動態②
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文、読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）
白水社『必携ドイツ文法総まとめ』（購入する必要はありませんが、文法事項がコンパクトにわかりやすくまとまっているので、おすすめです）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。中間テストおよび期末テスト 70 % + 平常点（授業態度および小テストを含める）30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

勉強の手順や宿題の内容について説明を十分に行い、個々の宿題や質問及びテストのフィードバックをします。

他にも Hoppii 学習支援システム授業内「掲示板」を活用して、質問やコメントをしてください。「掲示板」を通して、クラス担当教員2名及びクラス受講生に連絡や、意見交換をすることができます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になる場合、コンピュータのマイクを使える状態にしてください。

カメラは口頭試験の時にオンにしてもらいます（特別な事情がある場合を除く）。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級B

本田 博之、布川 恭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。オンライン授業の実施方法は、学習支援システムで確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	初級 A の復習
2	Lektion 6 文法①	話法の助動詞の現在人称変化
3	Lektion 6 文法②	従属の接続詞と副文
4	Lektion 6 文法③	時刻の表現、不定代名詞 man
5	Lektion 6 会話	ノイシュヴァンシュタイン城を見たい
6	Lektion 6 読解	ノイシュヴァンシュタイン城
7	Lektion 7 文法①	形容詞の 2 つの使い方、形容詞の格変化
8	Lektion 7 文法②	形容詞・副詞の比較
9	Lektion 7 会話	レストランでの料理の注文
10	Lektion 7 読解	ドイツ人が好む外国料理
11	Lektion 8 文法①	分離動詞、非分離動詞
12	Lektion 8 文法②	zu 不定詞、zu 不定詞句
13	Lektion 8 会話	週末の予定は？
14	Lektion 8 読解	München の伝統的な祭り
15	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
16	Lektion 9 文法①	動詞の 3 基本形、過去分詞に ge-をつけない動詞
17	Lektion 9 文法②	現在完了形①
18	Lektion 9 文法③	現在完了形②
19	Lektion 9 会話	週末に何をしたの？
20	Lektion 9 読解	ニーナの週末
21	Lektion 10 文法①	過去形
22	Lektion 10 文法②	再帰代名詞と再帰動詞
23	Lektion 10 会話	昨日はどこにいたの？
24	Lektion 10 読解	きつねとぶどう（インソップ寓話）
25	文法の補足①	関係代名詞①
26	文法の補足②	関係代名詞②、受動態①
27	文法の補足③	受動態②
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文、読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）
白水社『必携ドイツ文法総まとめ』（購入する必要はありませんが、文法事項がコンパクトにわかりやすくまとまっているので、おすすめです）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。中間テストおよび期末テスト 70 % + 平常点（授業態度および小テストを含める）30 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

勉強の手順や宿題の内容について説明を十分に行い、個々の宿題や質問及びテストのフィードバックをします。

他にも Hoppii 学習支援システム授業内「掲示板」を活用して、質問やコメントをしてください。「掲示板」を通して、クラス担当教員2名及びクラス受講生に連絡や、意見交換をすることができます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になる場合、コンピュータのマイクを使える状態にしてください。

カメラは口頭試験の時にオンにしてもらいます（特別な事情がある場合を除く）。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd100EA

ドイツ語初級B

脇田 淳、濱中 春

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を学ぶ授業。基本的な文法の知識を習得し、初歩的な運用能力を養います。

【到達目標】

単語や文を正確に発音することができる。
基礎的な文法を習得し、短い文章の内容を読みとることができる。
簡単な会話表現を理解し、用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の発音、文法、会話表現、読解を総合的・段階的に学びます。授業は毎週2回開講し、2人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で進めていきます。

課題には授業内で、あるいは学習支援システムを通してフィードバックします。オンライン授業の実施方法は、学習支援システムで確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習	初級 A の復習
2	Lektion 6 文法①	話法の助動詞の現在人称変化
3	Lektion 6 文法②	従属の接続詞と副文
4	Lektion 6 文法③	時刻の表現、不定代名詞 man
5	Lektion 6 会話	ノイシュヴァンシュタイン城を見たい
6	Lektion 6 読解	ノイシュヴァンシュタイン城
7	Lektion 7 文法①	形容詞の 2 つの使い方、形容詞の格変化
8	Lektion 7 文法②	形容詞・副詞の比較
9	Lektion 7 会話	レストランでの料理の注文
10	Lektion 7 読解	ドイツ人が好む外国料理
11	Lektion 8 文法①	分離動詞、非分離動詞
12	Lektion 8 文法②	zu 不定詞、zu 不定詞句
13	Lektion 8 会話	週末の予定は？
14	Lektion 8 読解	München の伝統的な祭り
15	中間試験・まとめ	前半の学習内容についての確認
16	Lektion 9 文法①	動詞の 3 基本形、過去分詞に ge-をつけない動詞
17	Lektion 9 文法②	現在完了形①
18	Lektion 9 文法③	現在完了形②
19	Lektion 9 会話	週末に何をしたの？
20	Lektion 9 読解	ニーナの週末
21	Lektion 10 文法①	過去形
22	Lektion 10 文法②	再帰代名詞と再帰動詞
23	Lektion 10 会話	昨日はどこにいたの？
24	Lektion 10 読解	きつねとぶどう（インソップ寓話）
25	文法の補足①	関係代名詞①
26	文法の補足②	関係代名詞②、受動態①
27	文法の補足③	受動態②
28	期末試験・まとめ	後半の学習内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で示される課題（練習問題、会話文、読解テキストなど）に取り組み、各回の授業で学んだことをそのつど復習してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博『Deutsch A-Z（アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語）』（朝日出版社）

【参考書】

独和辞典（授業内で紹介します）

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %、中間・期末試験 30 % で評価します。
成績評価は週2回の授業でセットで2人の担当教員の合議によって行います。

【学生の意見等からの気づき】

・音声面の学習にもより目配りしたい。

【その他の重要事項】

「初級 A」の単位を取得するまで「初級 B」の履修はできません。同様に、「初級 B」の単位を取得するまでは「中級」の科目の履修はできません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of German.

LANd200EA

ドイツ語中級 1

兼子 安弘

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツの民話（文体はもう現代的、他ジャンルでも完全に応用可能）を読むことによって、文法的知識の補足とドイツの新聞や雑誌といったドイツ語のジャーナリスティックな文体を読みこなせる能力を身につける。

接続法を筆頭とする難易度の高い文法事項の理解する。

【到達目標】

ドイツの雑誌 Spiegel や Zeit、さらにネット上のドイツ関連の記事を調べつつも、読むことができる。

ドイツ語初年次、あまり触れられなかった子細だが、重要だった文法単元にかんする知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

実践的な文体で書かれたテキストを読むことによって「慣れ」を身につける。授業ではあらかじめ次回進行する範囲を明示しておくので、受講者は全員、その範囲を予習（読みと対訳をする）しておき、当該授業で課題として提出。

そして担当者による、受講者が提出した課題のコメント欄に記するコメントをもって、フィードバックとする。

春学期は当学 hoppii を介しての、資料提示型のオンライン授業での開講となる。もし万が一、授業計画の変更が生じた場合は学習支援システムでその都度、迅速に開示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文法後半事項の説明、	去年時、学習できなかった文法後半事項の説明 受動態
第 2 回	文法後半事項の説明	未学習の、定関係代名詞をとりあげる
第 3 回	独和訳のさいの注意。 テキスト事前説明	『花の精』（以下テキスト）第 1 話の表現上の注意点説明
第 4 回	テキスト事前説明 個別文法として副詞	テキスト第 1 話後半の表現上の注意点説明 副詞にたいする認識の強化
第 5 回	テキスト事前説明 個別文法として比較表現	テキスト第 2 話の表現上の注意点説明 比較表現 詳論
第 6 回	テキスト事前説明 文法単元の形容詞の語尾、3 つの変化を復習	テキスト第 2 話の後半の表現上の注意点説明 形容詞の名詞化 詳論
第 7 回	テキスト事前説明 文法単元の副文を復習	テキスト第 3 話の表現上の注意点説明 作文による副文感覚を再認識
第 8 回	テキスト事前説明 再帰動詞とその用法を復習	テキスト第 3 話後半の表現上の注意点説明 再帰表現の再認識
第 9 回	テキスト事前説明 文法単元の助動詞を読解、作文の方面から復習	テキスト第 4 話の表現上の注意点説明 助動詞とさまざまな不定詞（完了・受動）の組み合わせを学ぶ
第 10 回	接続法 1 式と間接話法をプリントを用いて学習	読解と作文の双方向で学習
第 11 回	接続法 1 式と要求話法をプリントを用いて学習	読解と作文の双方向で学習
第 12 回	テキスト事前説明 さまざまな難単語の説明	テキスト第 4 話中盤の表現上の注意点 doch の用法
第 13 回	テキスト事前説明 さまざまな難単語の説明	テキスト第 4 話後半の表現上の注意点 説明 da の用法
第 14 回	習熟度の最終チェックとしての独和訳テスト 文法事項の再確認	習熟度チェックとテキストの練習問題に取り組む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、上記で述べた進行範囲の丁寧な予習（読み発音と対訳）は絶対におこなねばならない。

それを課題として提出し、また課題提出後は、担当者が配布する参考訳などをもとにして、授業内容（重要表現、語彙）を確認せねばならない。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『花の精』 同学社

【参考書】

『独文解釈の研究』 郁文堂

【成績評価の方法と基準】

春学期はオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準は、各授業回の独和訳や文法単元にたいする受講者のコメントという形の課題（レポート）提出によって決まる。まず提出を第一とし、次にその内容を確認する。この両者の積み重ねによって最終的に評価が決まる。採点対象のレポート 1 本につき 10 点満点で、それを 10 本として 100 点換算する。なお、成績評価の基準としては、課題の総合点から、受講者のドイツ語における習熟度が十分なものと判断されることをあけておく。

【学生の意見等からの気づき】

重要表現の範囲を拡げ、それに対する例文をもっと紹介しようと思う。その他に受講者のドイツ語にたいする、さまざまな潜在化の要望を引き出すよう努め、そしてそれに柔軟に対応していきたい。

【Outline and objectives】

To review of German grammar.

Gain ability to read and to understand the German newspaper and magazine.

Learning of German conjunctive expression too.

LANd200EA

ドイツ語中級1・2・3

兼子 安弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の諸能力（読む・書く）の総合的なステップアップを目指す。また独検受験を希望する者には、独検受験合格に対する対応力を取得する。最終目的として挙げるのは、より高次のドイツ語能力を取得できることである。具体的には独検 3 級に合格、もしくはそれに準ずるドイツ語の能力の獲得である。

なお、この授業は学習支援システム **hoppii** を介した資料提示型のオンライン授業である。（もしこれに変更が生じた場合は、その内容を迅速に伝える）。

【到達目標】

ドイツ語力（読む・書く）を総合的に高める。難易度の高くない原書を読めるようになる。

具体的には独検 3 級に合格する、もしくはそれと同等のドイツ語力の獲得である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

見落とされがちだった多くの重要表現や語彙を認識させる。独検の過去問題を通し、読解や穴埋めなどのさまざまな問題に取り組むことによって、独検 3 級に対する傾向と対策を認識する。

授業の前にオンラインで資料をあげるため、受講者は授業当日にその資料を読み、ときには解答し、ときには自身のコメント、感想を課題という形で期限内に提出する。

なお、オンライン授業という授業形態に変更が生じた場合は、ここにも変更が生じる可能性があるため、迅速に、その旨を伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	助動詞	その余りにもさまざまなニュアンスを詳論
第 2 回	不定詞	不定詞の形態とその使い方を詳論
第 3 回	読む力の養成	難易度の高くない原文を実際に読んでみる
第 4 回	独検 3 級対策	独検 3 級に類出する表現総ざらい
第 5 回	独検 3 級対策	独検過去問題を解いてみる。（長文読解）
第 6 回	分詞	意外と知られていない現在分詞、過去分詞の使い方を紹介
第 7 回	前置詞	人称代名詞、疑問代名詞との融合形を中心に
第 8 回	受動表現	自動詞の受動態を含め、受動表現全般を紹介
第 9 回	命令表現	Mach,dass~ といったものも含め詳論
第 10 回	書く力の養成	副文以降の文法単元を中心に、作文してみる
第 11 回	接続法二式	その形態と基本的な使い方を概論的に紹介説明
第 12 回	接続法二式	非現実話法、婉曲話法を中心に詳論
第 13 回	接続法二式	仮定の認容や否定話法を中心に説明
第 14 回	接続法二式	接続法二式を用いたさまざまな文例を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、与えられた課題は必ず準備学習（発音や和訳）しておくこと。授業後は、授業に出てきた諸表現を暗唱・復習し、我がものとする。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは指定せず、担当者が作成したプリントをオンラインで随時配布する。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業内の複数回の課題（レポート）から 10 本を選定し、内容を精査したうえで、1 本 10 点満点とし、10 本分の総合点をもって、100 点換算とする。

なお、オンライン授業という授業形態に変更が生じた場合は上記の方法も変更する可能性があるため、迅速に伝える。

基準としては、独検 3 級合格と同程度、もしくはそれ以上のドイツ語力の総合的な向上が課題の総合点から認められることをあげる。

【学生の意見等からの気づき】

独検にかんする最新の情報を提供したい。

また、イデオム表現の面から、多少難しめの表現もこれまで以上に紹介しようと思う。

【その他の重要事項】

この科目は「中級 1・中級 2・中級 3」のいずれかが不合格だった場合、あるいはいずれかの履修を秋学期に始めたい場合に履修することができる。ただし「中級 1・中級 2・中級 3」のうちの 1 科目にのみ充当可能である。

【Outline and objectives】

To step up the abilities in German,for example reading,writing and speaking.

To be concrete,to pass the German-Certification of 3.degree.

LANd200EA

ドイツ語中級2

三浦 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な文法力を確認しながら、文法力のレベルを上げ、中級以上の文法知識を身につけるために練習問題を解いていく。

【到達目標】

基礎的な文法力を確認して定着させ、知覚動詞や使役動詞の構文など、さらに上のレベルの文法事項を理解できる。

ドイツ語検定試験に出題された問題と類似形式の文法練習問題を解いて、傾向を知ることができる。

ドイツ語検定試験の過去問で、読解力を含めて実力チェックができる。ドイツ語検定試験 4 級を受験できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と付属の音源を用いた演習形式。教科書に沿って、その回のポイントを文書で説明したのち、練習問題を解いて課題として提出する。提出した課題の正答など、フィードバックは次の回で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	発音とアクセント	ガイダンスののち、発音とアクセントの基礎を確認し、11 頁の問題に取り組む。
2	動詞と文	動詞の現在人称変化と動詞の位置について確認し、16、17 頁の問題を行う。
3	冠詞と名詞の格変化	定冠詞と不定冠詞の格変化を確認し、21 頁の問題を行う。
4	人称代名詞の 1 格と 4 格、疑問詞	よく使われる 1 格と 4 格の人称代名詞と疑問詞を確認し、23 頁と 25 頁の問題を行う。
5	複数形	名詞の複数形の作り方と格変化を確認し、30 頁の問題を行う。
6	定冠詞類と不定冠詞類	さまざまな冠詞の意味と格変化を確認し、35 頁の問題を行う。
7	不規則動詞と複合的な疑問詞	現在形で不規則な変化をする動詞とやや複雑な形の疑問詞について確認し、41 頁の問題を行う。
8	前置詞	前置詞の意味と格変化を確認し、46 頁と 47 頁の問題を行う。
9	検定試験にチャレンジ	ドイツ語検定試験 4 級の過去問を解いたあと、解説を行う。
10	人称代名詞と再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞の 3 格、主な再帰動詞の意味と変化について確認し、51 頁の問題を行う。
11	話法の助動詞、未来形	話法の助動詞と未来形について確認し、55 頁の問題を行う。 知覚動詞や使役動詞を用いた助動詞構文について、説明する。
12	分離動詞	主な分離動詞の意味と変化、文中での位置について確認し、58 頁の問題を行う。

13 命令形 命令形の作り方を確認し、61 頁の問題を行う。

14 期末試験 試験、まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
文法説明の頁を事前に読み、練習問題を予習して準備する。
正答がだせなかった箇所に重点を置きながら、全般について確認し、復習する。

【テキスト（教科書）】

「独検 5 級・4 級・3 級対応 ドイツ語文法」、在間進・亀ヶ谷昌秀著、三修社、2019 年、本体 2400 円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

成績の内訳は、平常点（毎回の課題提出における学習状況、参加度）70 %、期末の課題 30 %とする。

実力をつけるためには日ごろの努力が欠かせないので、提出物に見る不断の学習状況を平常点で評価し、文法がどの程度身につく、ドイツ語検定試験のレベルに達しているかどうかを期末の提出物で確かめる。

【学生の意見等からの気づき】

原則、毎回課題（教科書にある問題）を提出することになるが、ポイントとしての重要性を考慮して、分量が多くなる場合は分けるようにしたり、作成期間を長めにとるようにしたりして、適宜調節する。

【Outline and objectives】

By exercising check important basic grammar points and proceed own knowledge to the next level to prepare for taking a certification examination for German language.

LANd200EA

ドイツ語中級3

MARKUS GRASMUECK

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話

【到達目標】

ドイツ語で日常生活に必要な簡単な会話ができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の会話、発音、リスニングなどの練習を通じて習得する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Einführung	オリエンテーション
第2回	Die Zeitmaschine des Grossvaters	(2 格, 西暦の読み方, 序数)
第3回	Die Zeitmaschine des Grossvaters	(2 格, 西暦の読み方, 序数)
第4回	Mein Leben	(動詞の3 基本形, 過去人称変化, 副文の構造)
第5回	Mein Leben	(動詞の3 基本形, 過去人称変化, 副文の構造)
第6回	Ich habe meine Tasche verloren.	(形容詞の格変化, 身体と衣類の表現)
第7回	Ich habe meine Tasche verloren.	(形容詞の格変化, 身体と衣類の表現)
第8回	Die schönsten Staedte in Japan	(形容詞の比較変化, 比較級・最上級の用法, 2 格をとる前置詞)
第9回	Die schönsten Staedte in Japan	(形容詞の比較変化, 比較級・最上級の用法, 2 格をとる前置詞)
第10回	Goro ist krank.	(再帰代名詞, 再帰動詞 1, 非人称の表現, 体調・状態の表現 1, 体調・状態の表現 2)
第11回	Goro ist krank.	(再帰代名詞, 再帰動詞 1, 非人称の表現, 体調・状態の表現 1, 体調・状態の表現 2)
第12回	Hast du Lust mitzukommen?	(zu 不定句 1, 再帰動詞 2, 合意形成)
第13回	Hast du Lust mitzukommen?	(zu 不定句 1, 再帰動詞 2, 合意形成)
第14回	Pruefung	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題と毎回の授業で習う語彙の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Modelle 2 問題発見のドイツ語
三修社

【参考書】

家での学習には独和辞典が必要である（授業時の持参は不要）。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)
小テスト (30%)
期末試験 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

【Outline and objectives】

German conversation

LANd200EA

ドイツ語中級4

兼子 安弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキスト解説によって、ドイツ語のごく一般的な文体、表現方法にたいするさらなる柔軟な対応力を取得する。それによって、ドイツ語自体にたいする理解の深化を図る。それらによって、ドイツの雑誌、新聞を読み解ける力を養うのが本授業の目的である。そして、その延長として異文化理解の基礎を構築する。

【到達目標】

ドイツの雑誌 Spiegel や Zeit、ネット上のドイツ関連の記事を読んで、内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は本学 hoppii を介した資料提示型のオンライン（遠隔）授業である。（途中、変更が生じた場合は変更内容を迅速に伝える）。

担当者があらかじめ次回進行する範囲を明示し、予習の手引きを提示しておくので、受講者はその範囲を自習（対訳）をしっかりと準備しておく。課題（レポート）として、それを発表する。それにたいする担当者のコメントをもってフィードバックとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ドイツ語の時制（現在形から未来完了まで）に関する基本事項の復習とトリビア	テキスト『花の精』第5課前半を読む
第2回	助動詞とさまざまな不定詞の組み合わせについて説明	テキスト第5課後半を読む。そして5課全体の総括。
第3回	文法単元、関係代名詞の変則的な用法をプリントを用いて説明	テキスト第6課前半を読む、関係代名詞・関係文詳論。
第4回	文法単元、関係代名詞の変則的な用法をプリントを用いて説明	テキスト第6課後半を読む。
第5回	文法単元、比較表現の多様性をプリントを用いて説明	テキスト第7課前半を読む。作文による比較表現再確認。
第6回	文法単元、比較表現の多様性をプリントを用いて説明	テキスト第7課後半を読む。
第7回	ドイツ語におけるレトリックを隠喩を中心に説明	テキスト第8課前半を読む。別プリントにて、レトリック概論。
第8回	ドイツ語におけるレトリックを否定法法を中心に説明	テキスト第8課後半を読む。否定表現総まとめ。
第9回	文法単元、接続法 2 式の基本知識	接続法 2 式の表現方法概論。
第10回	文法単元、接続法 2 式の用法説明	非現実法法を中心に。
第11回	文法単元、接続法 2 式の用法と時制の説明	非現実法法の時制詳論。
第12回	文法単元、接続法 2 式の用法と説明	婉曲法法と接続法全般の総まとめ
第13回	文法実行、関係副詞の多様な用法を説明	テキスト第9課全体を読む。
第14回	習熟度最終チェックとしての独文和訳のテスト。重要表現総まとめ	プリントを用いて、類出する単語、熟語をチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

明示された範囲の徹底した予習（発音と読み、対訳）を準備学習として行わなければならない。授業後は授業内容（重要表現、語彙）を必ず確認する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『花の精』同学社

【参考書】

『独文解釈の研究』 郁文堂

【成績評価の方法と基準】

授業で出された課題（レポート）から 10 本を選定する。1 本 10 点満点と想定し、その内容を精査したうえで、100 点換算で算定します。各回の課題（レポート）の総合点は事前に知らせます。なお、授業形態に変更が生じた場合はここでも、その変更内容を迅速に知らせます。

基準としては、受講者が妥当な難易度のドイツ語文献を読むことができると担当者が認識（課題の総合点から）することを挙げておきます。

【学生の意見等からの気づき】

重要表現の範囲をさらに拡げて、ドイツ語初年度ではふれられなかった、より詳細な内容を持つ重要表現をもっと紹介したい。異文化理解の面から、ドイツに関するさまざまな、日本との相違点も紹介したい。

【Outline and objectives】

To gain flexibility to understand German and learn how to read journalistic sentences by German. As a final object, building a basis for intercultural understanding.

LANd200EA

ドイツ語中級 4・5・6

兼子 安弘

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語諸能力の向上や独検合格を目指して、読解力、語彙力、作文力を中心に学習する。到達目標は諸能力の向上が実現されることと具体的に独検 3 級合格である。

【到達目標】

独検合格や中級ドイツ語として求められる知識を習得する、書籍、雑誌、新聞等の原文をある程度、読みこなすことができるようになる。具体的には独検 3 級に確実に合格する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

見落とされがちなさまざまな重要表現や重要語彙を再確認するとともに、過去の独検問題にも取り組み、その傾向と対策を探る。ドイツ語初年度とはちがった観点からドイツ語を改めて見直す。

当授業は本学 hoppii を介した資料提示型のオンライン授業である（それに変更が生じた場合は迅速にその旨を伝える）。

各授業回にて次週の進行範囲を提示し、担当者が注釈や説明事項を明記するので、受講者はそれらをもとに進行範囲の予習（たとえば独文和訳や独作文）を課題（レポート）としてまとめ上げ、次週の授業前に提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	形容詞語尾の再確認	付加語的用法における形容詞語尾と形容詞の名詞化
第 2 回	形容詞副詞の比較表現	比較級と最上級の再確認
第 3 回	独検対策	独検 3 級の長文読解の過去問
第 4 回	独検対策	独検 3 級合格に必要なイディオム力育成
第 5 回	否定表現	nicht と kein の使い分けと様々な否定表現紹介
第 6 回	不定代名詞	意外と知られていない einer や jemand の使い方
第 7 回	定関係代名詞、不定関係代名詞	welcher など紹介
第 8 回	接続法一式	その変化と直接法との違い
第 9 回	間接話法と要求話法	その概論とさまざまな文例紹介
第 10 回	リーダーを読む	接続法一式が出てくるリーダーを読む
第 11 回	接続法一式と認容文	接続法一式の追補
第 12 回	独検対策	独検 3 級の長文読解の過去問
第 13 回	接続詞	接続詞一般とあまり知られていないものを紹介
第 14 回	習熟度チェック	独文和訳の筆記試験と春学期総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として自身のドイツ語力のチェック（どこがわかって、どこが曖昧か）を常に行っておく。授業後は担当者の説明をもとに、授業内容（イディオム、語彙）を再度チェックする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者が作成したプリントを配布します。

【参考書】

独検関連の総合的参考書

【成績評価の方法と基準】

春学期の授業はオンラインでの開講となったため、課題（レポート）提出による評価になる。具体的には、選定された課題 1 本を 10 点満点とし、課題 10 本をもって、100 点満点換算とする。（もし授業形態に変更が生じた場合、それに応じて成績評価方法も変更する、これにかんしては迅速に伝える）。

成績評価の基準としては、受講者の、ドイツ語初年度とは明らかにちがう、ドイツ語にたいする認識度の深化を課題の総合点から担当者が感知することをあげておきます。

【学生の意見等からの気づき】

重要表現の範囲をこれまでよりも広範囲に設定し、そのぶん、難易度も少々上がってしまうかもしれないが、

重要表現にかんする例文の紹介もより充実したものにならうと思う。

【その他の重要事項】

この科目は「中級4・中級5・中級6」のうち1科目にのみ充当できる。「中級4」は「中級1」、「中級5」は「中級2」、「中級6」は「中級3」の単位を取得していることを履修の前提とする。

【Outline and objectives】

To step up the abilities in German, for example reading, writing, speaking and vocabulary.

To pass the German- Certification(Dokken) of 3.degree is one of the final objects.

LANd200EA

ドイツ語中級5

三浦 美紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な文法力を確認しながら、さらにレベルを上げ、中級以上の文法知識を身につけるために練習問題を解いていく。

【到達目標】

基礎的な文法力を確認して定着させ、受動文の完了形や接続法など、さらに上のレベルの文法事項を理解できる。

ドイツ語検定試験に出題される問題と類似の文法問題を解いて、傾向を知ることができる。

ドイツ語検定試験の過去問で、読解問題を含めた実力チェックができる。

ドイツ語検定試験 3 級を受験できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と音声教材を用いた演習形式。毎回、その回のポイントを文書で説明したのち、教科書の問題を解いて、課題として提出する。その正答などのフィードバックは、次の回に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	三基本形	分離動詞・非分離動詞を含め、規則変化、不規則変化をする動詞の三基本形を確認し、64 頁の問題を行う。
2	過去形	過去形の人称変化を確認し、67 頁の問題を行う。
3	現在完了形	現在完了形の作り方を確認し、71 頁の問題を行う。
4	過去完了形、未来完了形	現在完了形の知識をもとに、過去完了形、完了不定詞、未来完了形について説明する。
5	受動文	受動文について、現在・過去・現在完了形の時制を確認し、75 頁の問題を行う。
6	接続詞と副文	並列の接続詞とそれを用いた慣用表現、従属の接続詞とそれを用いた副文について確認し、79 頁の問題を行う。
7	接続法第 1 式	接続法第 1 式の作り方と用法について説明し、83 頁 1 の (1) と (2)、2(1) の問題を行う。
8	接続法第 2 式	接続法第 2 式の作り方と用法について説明し、83 頁 1 の (3)、2 の (2)~(7) の問題を行う。
9	比較変化	形容詞と副詞の比較変化を確認し、86 頁の問題を行う。
10	独検にチャレンジ	読解問題を含め、ドイツ語検定試験 3 級の過去問を解いてみる。

11	関係文	定関係代名詞、不定関係代名詞について確認して、89 頁の問題を行った後、関係副詞について説明する。
12	zu 不定詞句	zu 不定詞句の作り方と使い方、zu 不定詞句を用いた熟語表現について確認し、92 頁の問題を行う。
13	形容詞の格変化	形容詞の格変化と名詞化を確認し、96 頁の問題を行った後、現在分詞と過去分詞の形容詞的・名詞的用法について説明する。
14	期末試験	試験、まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
文法説明の頁を事前に読み、演習問題を予習して準備する。
授業後、正答が出せなかった箇所重点を置きながら、全般について確認し、復習する。

【テキスト（教科書）】

「独検 5 級・4 級・3 級対応 ドイツ語文法」、在間進・亀ヶ谷昌秀著、三修社、2019 年、本体 2400 円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

成績の内訳は、期末試験 30%、平常点（授業での学習状況、参加度）70%とする。
文法がどの程度身につく、ドイツ語検定試験のレベルに達しているかどうかを期末試験で確かめるが、実力をつけるためには日ごろの努力が欠かせないので、予習を含めた不断の学習状況を平常点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

原則、毎回課題提出があるが、そのときどきのポイントの重要性に基づき、課題の分量が多いような場合は分けたり、あるいは、作成期間を長くしたり、適宜調節する。

【Outline and objectives】

By exercising check important basic grammar points and proceed own knowledge to the next level to prepare for taking a certification examination for German language.

LANd200EA

ドイツ語中級 6

MARKUS GRASMUECK

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話

【到達目標】

ドイツ語で日常生活に必要な簡単な会話ができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の会話、発音、リスニングなどの練習を通じて習得する授業。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Wiederholung	復習
第 2 回	Herr Wiesmann in Japan	(再帰動詞 3, zu 不定句 2)
第 3 回	Herr Wiesmann in Japan	(再帰動詞 3, zu 不定句 2)
第 4 回	Ein Bericht vom Campus	(受動文の基本構文, werden の用法, . . . のひとり, . . . のひとつ, Student 型の男性名詞
第 5 回	Ein Bericht vom Campus	(受動文の基本構文, werden の用法, . . . のひとり, . . . のひとつ, Student 型の男性名詞
第 6 回	Ich will eine Frau heiraten, die ich wirklich liebe.	(関係代名詞の原則, 形容詞の名詞化, es geht um . . . , Was fuer ein...?)
第 7 回	Ich will eine Frau heiraten, die ich wirklich liebe.	(関係代名詞の原則, 形容詞の名詞化, es geht um . . . , Was fuer ein...?)
第 8 回	Der Drucker ist kaputt.	(接続法 II 式, 外交的用法: 控えて丁寧な表現, 仮主語の es, zu 不定句の入れお色な用法, 使役助動詞 lassen)
第 9 回	Der Drucker ist kaputt.	(接続法 II 式, 外交的用法: 控えて丁寧な表現, 仮主語の es, zu 不定句の入れお色な用法, 使役助動詞 lassen)
第 10 回	Was wuerden Sie machen?	(接続法 II 式による非現実の表現, 過去を振り返っての非現実の話: 完了形, 「~だったらなあ」という願望を表す場合, 不定関係代名詞の was と wer)
第 11 回	Was wuerden Sie machen?	(接続法 II 式による非現実の表現, 過去を振り返っての非現実の話: 完了形, 「~だったらなあ」という願望を表す場合, 不定関係代名詞の was と wer)
第 12 回	Was haeltst du davon?	(意見を聞く・述べる, 副文を用いた表現)
第 13 回	Was haeltst du davon?	(意見を聞く・述べる, 副文を用いた表現)
第 14 回	Pruefung	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題と毎回の授業で習う語彙の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Modelle 2 問題発見のドイツ語
三修社

【参考書】

家での学習には独和辞典が必要である（授業時の持参は不要）。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)
小テスト (30%)
期末試験 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

【Outline and objectives】

German conversation

PRI100EA

統計学 I

鈴木 麻美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データの分析結果の手法として、社会科学・人文科学など広い分野において統計的分析が多く使われる。しかしながら、実際のその統計的分析の中には「正しくない分析」も多い。そこで、この講義では記述統計学の基本の理解と、基本的な統計分析の正しい理解を目指す。

【到達目標】

記述統計と推測統計の入口までを学ぶ。統計データの代表値および標準偏差をはじめとし、データの散らばり具合を示す指標および複数のデータ分布の相関関係を学ぶ。さらに、この授業に続く統計学Ⅱのテーマである推測統計学の中の代表的なデータ分布である正規分布について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Zoom 授業では、コンピュータを使わずに、各自電卓を用いて例題を実際に計算し、統計数値の導出方法を身につけることを目指す。この科目は、一つ一つの積み重ねが重要であるので、前回までの復習と予習を十分に行うことを前提に授業を進める。授業内で行うテストに関しては、採点した結果を返却し、授業内では問題の解説を行うので、間違えている部分は各自確認し、必ず復習すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび資料の整理	統計学の基礎概念と、講義の進め方および成績評価についての説明および様々なグラフや度数分布表によるデータの表現方法を学ぶ。
2	平均値	平均値の意味と、平均を求める方法を学ぶ。
3	いろいろな代表値(1)	平均値以外の代表値と、それぞれの特徴について学ぶ。
4	いろいろな代表値(2)	度数分布表から代表値を求める
5	データの散らばり具合(1)	データの散らばり具合を表すいくつかの値について学ぶ。
6	データの散らばり具合(2)	分散および標準偏差を学ぶ。さらに T スコア（偏差値）に関して学ぶ。
7	相関関係	2種類のデータについて、互いの関係性の有無についての判断方法を学ぶ
8	回帰分析	関係性を持つ2種のデータについて、その関係を表す関数を学ぶ。
9	全数調査と標本調査	調査の対象による2通りの方法について学ぶ。
10	正規分布と確率変数	正規曲線と正規分布の概念を導入し、確率変数と確率密度関数について学ぶ。
11	標準正規分布	標準正規分布における確率について学ぶ。

12	まとめ	前回までの講義のまとめ。
13	課題作成	これまでの講義をもう一度振り返り、重要な点に関して、もう一度確認をする。
14	課題提出	これまでの講義に関してのまとめと課題を提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は、一つ一つの積み重ねの学問であるので、授業前には教科書とノートで前回までの復習と予習を十分に行うことを前提として授業を進める。毎回の授業の予習復習は、通常合わせて4時間程度と考えるが、それ以外に試験の準備としては、授業の時間以上に十分な準備を要すると考える。

【テキスト（教科書）】

「看護学系の 統計入門」水野恭之 著、培風館

【参考書】

「確率統計序論」土井誠 他 著、東海大学出版

【成績評価の方法と基準】

授業内テスト(60%)・期末試験(40%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを書くことと課題への取り組みにより「学力が身に付いた・スキルが身に付いた」という回答が多かった。「もっと難しいテキストで応用を学んでみたい」と意欲的な学生も居たが、この場合は統計学Ⅱの履修を勧める。

【学生が準備すべき機器他】

平方根(√)の計算が可能な関数機能の無い電卓。

【Outline and objectives】

As a method of data analysis, statistical analysis is widely used in the social science, the humanities and in many other field.

However, in fact many of the statistical analyzes are "incorrect". Therefore, this lecture aims to understand the basics of descriptive statistics and the basic statistical analysis.

PRI100EA

統計学Ⅱ

鈴木 麻美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は統計学Ⅰの続きとして、母集団から抽出されたサンプルから母集団の様子を正しく推察する「推測統計学」を学び、世の中に氾濫する統計分析を正しく見極めることができる能力の習得を目指す。

【到達目標】

推測統計学のなかで最も基本と言える「正規分布」および社会科学では良く使われる「 t -分布」を中心に、その他いくつかの分布について「標本から母集団の分布の様子を推定する」あるいは「仮説を立ててその仮説を検定する」ことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

実際に数式から手計算を使って学ぶことで、統計数値の「導出方法」を見につけることを目指す。Zoomによる授業では、ホワイトボードを使って解読ならびに多くの例題や問題を実際に解く。問題を解く際には、各自ノートに問題を解き、解答を自ら導くこと。その後、模範解答をすべて書き写し、復習に役立ててほしい。授業内で行うテストに関しては、採点した結果を返却し、授業内では問題の解説を行うので、間違えている部分は各自確認し、必ず復習すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび母集団と標本	統計Ⅰで学んだ内容の確認と、講義の進め方および成績評価について説明し、また母集団と標本について学ぶ。
2	推定	不偏推定量と不偏推定値に関して学ぶ。
3	点推定と区間推定	点推定と区間推定の優位性と信頼度に関して学ぶ。
4	母平均の区間推定Ⅰ	正規分布である母集団の標本から母平均の推定を学ぶ。
5	中心極限定理	十分大きな標本から母平均の推定を学ぶ。
6	母平均の区間推定Ⅱ	小標本から母平均の推定を学ぶ。
7	t -分布による推定	t -分布を用いて標本から母平均を推定することを学ぶ。
8	検定	仮説検定の基礎概念を学ぶ。
9	仮説と検定（1）	正規分布による検定を学ぶ。
10	仮説と検定（2）	t -分布と χ^2 分布による検定を学ぶ。
11	仮説と検定（3）	分割表による検定を学ぶ。
12	中間まとめ	前回までのまとめ
13	課題作成	これまでの講義内容に関して全体を振り返り、重要な点に関しもう一度確認をする。
14	総括	これまでの講義に関しての総括および課題提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この科目は、一つ一つの積み重ねの学問であるので、授業前には教科書とノートで前回までの復習と予習を十分に行うことを前提として授業を進める。予習復習は通常合わせて1回の授業につき4時間程度と考えるが、この他、試験の準備に掛ける時間はさらに多くの時間が必要であろう。毎週この予習復習をしっかりとしておくことが重要である。

【テキスト（教科書）】

「看護学系の 統計入門」水野恭之 著、培風館

【参考書】

「確率統計序論」土井誠 他 著、東海大学出版、

【成績評価の方法と基準】

授業内テスト（60%）・期末試験（40%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

統計学Ⅱで「自分が分かっていない」ということが分かった」という意見が出るようになる。「どこがどう理解できていないのか」が明確になるように講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

平方根（ $\sqrt{\quad}$ ）の計算が可能な関数機能の無い電卓。

【その他の重要事項】

統計学Ⅰの続きの内容のため、「統計学Ⅰの単位取得」を前提とする。統計学の活用には「推測統計学」が重要なため、是非、統計学Ⅰの履修の後、統計学Ⅱまでの履修を期待する。

【Outline and objectives】

This lecture is a continuation of Statistics I, and we learn "inferential statistics" which correctly infers the state of a population from a sample extracted from the population. The purpose is to acquire the ability to correctly identify statistical analysis.

PRI200EA

統計基礎実習

橋本 政樹

サブタイトル：統計基礎実習 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフト MS-EXCEL を使いこなして、社会調査データの分析ができるようになる。

【到達目標】

- ・社会調査に必要なデータを収集し編集できること。
- ・表計算ソフト MS-EXCEL の専門的技法を習得すること。
- ・データを統計的に扱う意義と分析方法を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

表計算ソフト MS-EXCEL を利用して、社会調査や経済関連の「データ」を、収集・整理・分析・表現する。

授業の最初に各テーマの概要を説明し、サンプルデータを使ってパソコン学習を行い、続いて、各自が選択したテーマに従ってデータを収集・分析する。最後に、その結果を発表するまでを学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講座の目的・内容、課題等について説明する。また統計分析の意義を考える
第 2 回	表計算ソフトの操作復習	データ入力・表示形式、数式入力・関数計算・セル参照など、基本的な EXCEL の機能を復習する。
第 3 回	表計算ソフトの操作復習 2	サンプルデータから、目的に応じたグラフを作成し、見栄えの良いグラフへ装飾する。
第 4 回	データの収集・整理 1	様々なデータ収集法と、データの種類とそれらの整理の仕方を学ぶ。
第 5 回	グラフと表の作成	世界統計や政府統計を用いて、度数分布表・ヒストグラム、散布図を作成し、データの特徴を図表で把握する。
第 6 回	データの代表値・散布度	平均値・中央値・分散・標準偏差等の数値尺度を理解し、データの性質を数値で把握する。
第 7 回	従来の統計学の考え方 1	ピギナーズラックの原理、超能力の成否、を通じて従来の統計学（記述統計）の概要を学ぶ。
第 8 回	従来の統計学の考え方 2	実験の偏り、事象の関係をを通じて従来の統計学（推測統計）の概要を学ぶ。
第 9 回	質的データの処理	ピボットテーブルを用いて、クロス集計し、質的データの特徴を抽出する。
第 10 回	相関分析	経済指数や相性診断データを用いて、共分散・相関係数を求め、データ間の関連を見つける。
第 11 回	回帰分析	独立変数・従属変数・回帰係数を学び、回帰式を求める。また相関関係と因果関係の違いを理解する。
第 12 回	多項式・ロジスティック回帰分析	2 次関数や対数関数を用いて、非線形の回帰式を求める。また線形回帰式との比較を試みる。
第 13 回	VBA を用いた分析 1	VBA を使って、プロシジャを作成し、オリジナル関数による分析を試みる。
第 14 回	VBA を用いた分析 2	企業の財務データを用いて、簡単なプログラムによる投資シミュレーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計理論の学習と、統計ソフトによる実習を行うため、可能な限り出席し、継続的かつ積極的に授業に取り組むこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントおよび WEB の教材を使用する。

【参考書】

(参考 URL: <http://www.toranoko.net/tokei>)

【成績評価の方法と基準】

レポート (40%)、発表 (30%)、小テスト (30%) により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

いくつもの異なったデータを、1 つの手法で繰り返し分析実習することにより、その統計解析の意義を理解し、分析手法を会得する。

【学生が準備すべき機器他】

インターネット、表計算ソフト (MS-EXCEL)

【その他の重要事項】

社会調査士資格<C>区分の認評価方法
就職、資格取得、起業を真剣に考える人に、有用な課題を心掛けています。
また実社会で活躍する IT 系の専門家・経営者のセミナーなども随時紹介し、実践力への意識を高めるつもりである。

【Outline and objectives】

表計算ソフトを利用して、社会に散在するデータを、収集・整理・分析・表現する方法を学習する。

表計算ソフトの専門的な操作技法を習得し、実際のデータを統計的に扱う意味とその方法を理解する。

PRI200EA

統計基礎実習

橋本 政樹

サブタイトル：統計基礎実習 I

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフト MS-EXCEL を使いこなして、社会調査データの分析ができるようになる。

【到達目標】

- ・社会調査に必要なデータを収集し編集できること。
- ・表計算ソフト MS-EXCEL の専門的技法を習得すること。
- ・データを統計的に扱う意義と分析方法を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

表計算ソフト MS-EXCEL を利用して、社会調査や経済関連の「データ」を、収集・整理・分析・表現する方法を学習する。表計算ソフト MS-EXCEL を利用して、社会調査や経済関連の「データ」を、収集・整理・分析・表現する。授業の最初に各テーマの概要を説明し、サンプルデータを使ってパソコン学習を行い、続いて、各自が選択したテーマに従ってデータを収集・分析する。最後に、その結果を発表するまでを学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講座の目的・内容、課題等について説明する。また統計分析の意義を考える
第 2 回	表計算ソフトの操作復習	データ入力・表示形式、数式入力・関数計算・セル参照など、基本的な EXCEL の機能を復習する。
第 3 回	表計算ソフトの操作復習 2	サンプルデータから、目的に応じたグラフを作成し、見栄えの良いグラフへ裝飾する
第 4 回	データの収集・整理 1	様々なデータ収集法と、データの種類とそれらの整理の仕方を学ぶ。
第 5 回	グラフと表の作成	世界統計や政府統計を用いて、度数分布表・ヒストグラム、散布図を作成し、データの特徴を図表で把握する
第 6 回	データの代表値・散布度	平均値・中央値・分散・標準偏差等の数値尺度を理解し、データの性質を数値で把握する。
第 7 回	従来の統計学の考え方 1	ピギナーズラックの原理、超能力の成否、を通じて従来の統計学（記述統計）の概要を学ぶ。
第 8 回	従来の統計学の考え方 2	実験の偏り、事象の関係を通じて従来の統計学（推測統計）の概要を学ぶ。
第 9 回	質的データの処理	ピボットテーブルを用いて、クロス集計し、質的データの特徴を抽出する。
第 10 回	相関分析	経済指数や相性診断データを用いて、共分散・相関係数を求め、データ間の関連を見つける。
第 11 回	回帰分析	各変数・係数を学び、回帰式を求める。また相関関係と因果関係の違いを理解する。
第 12 回	多項式・ロジスティック回帰分析	2 次関数や対数関数を用いて、非線形回帰式を求める。また線形回帰式との比較を試みる。
第 13 回	VBA を用いた分析 1	VBA を使って、プロシジャを作成し、オリジナル関数による分析を試みる。
第 14 回	VBA を用いた分析 2	企業の財務データを用いて、簡単なプログラムによる投資シミュレーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計理論の学習と、統計ソフトによる実習を行うため、可能な限り出席し、継続的かつ積極的に授業に取り組むこと本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

統計理論の学習と、統計ソフトによる実習を行うため、可能な限り出席し、継続的かつ積極的に授業に取り組むこと

【参考書】

(参考 URL: <http://www.toranoko.net/tokei>)

【成績評価の方法と基準】

レポート (40%)、発表 (30%)、小テスト (30%) により総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

いくつもの異なったデータを、1 つの手法で繰り返し分析実習することにより、その統計解析の意義を理解し、分析手法を会得する。

【その他の重要事項】

社会調査士資格<C>区分の認評価方法就職、資格取得、起業を真剣に考える人に、有用な課題を心掛けています。また実社会で活躍する IT 系の専門家・経営者のセミナーなども随時紹介し、実践力への意識を高めるつもりである。

【Outline and objectives】

表計算ソフトを利用して、社会に散在するデータを、収集・整理・分析・表現する方法を学習する。

表計算ソフトの専門的な操作技法を習得し、実際のデータを統計的に扱う意味とその方法を理解する

SOC300EB, SOC300EC

統計調査法

齋藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的データ分析の基礎、社会調査から得られた量的データを分析する際に必要となる基本的な考え方と方法について学ぶ。これを通して、統計学の基礎知識を身につけ、初歩的な仮説検証の手法や考え方を理解することをめざす。

【到達目標】

社会調査から得られた量的データを分析するための基礎知識を習得する。データの分布をどのように把握するか、標本をもとに全体に関する情報をどのように推測するか、自らの仮説をどう検証すればよいか「わかる」ようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4・DP6・DP9 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

講義による。学習支援システムを活用して課題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容と目的について概説する
第 2 回	代表値と測度・分布の記述	データの測度がどのように分析と関連するかを概括する
第 3 回	確率の考え方	確率の概念を説明する
第 4 回	確率分布について	統計分布について説明する
第 5 回	統計的推測 (1)：推測統計の基本	母集団と標本、そして統計的推定との関係について論じる
第 6 回	統計的推測 (2)：統計的仮説検定の考え方と平均値の検定	平均値の検定の学習を通して統計的仮説検定の考え方と実際に学ぶ
第 7 回	「差がある」とはどういうことか	平均の差の検定・比率の差の検定について学ぶ
第 8 回	2つ以上の平均の差の検定	分散分析について説明する
第 9 回	クロス集計 (1)：解釈のしかた	クロス表の「読みかた」を学ぶ
第 10 回	クロス集計 (2)：検定と関連の指標	クロス表について、検定と関連の諸指標を概説する
第 11 回	変数のコントロール	変数のコントロールの考え方について説明する
第 12 回	相関係数と回帰係数	相関係数の性質と解釈、回帰係数との違いおよび関連について説明する
第 13 回	重回帰分析	重回帰分析について紹介する
第 14 回	まとめ	授業のふり返しを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】ボーンシュテット&ノーキ『社会統計学』ハーベスト社、1990。
ほか授業中に適宜指示。**【成績評価の方法と基準】**

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。受講生に数学の予備知識は必要ではないが、出された課題を着実にこなす努力は必要となる。

【Outline and objectives】

Students will learn the basics of quantitative analysis. In doing so, they should understand the logic and method for statistical hypothesis testing.

SES200EC, SES200ED

都市空間とデザイン I

齋藤 伊久太郎

サブタイトル：都市景観論
開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代とこれからの、ふつうの街の都市景観を理解し、消費者・有権者として参加できるようにすること。

【到達目標】

前半となる本講義では、そのうち、現代の都市空間の前提となる建築デザインを言語化するための学習を中心として、ヨーロッパ古典建築から近代建築までを概観し、さらに、戦後日本の具体的な事例を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

スライドを用いて授業を進め、リアクションペーパーの提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	通年の流れと概念の説明	都市景観を読み解くとは？
2	古典建築 1	ギリシア、ローマの建築
3	古典建築 2	ロマネスク・バロック
4	古典建築 3	19 世紀建築と西洋建築史まとめ
5	近代建築 1	アメリカ/西欧の近代建築運動
6	近代建築 2	世界への波及と日本の近代建築
7	都市空間への展開 1	建築物から都市空間へ
8	都市空間への展開 2	都市空間の変遷
9	現代日本の都市空間	現代日本の都市空間
10	都市景観と保全 1	アメリカの都市美運動
11	都市景観と保全 2	イギリスの都市計画
12	都市景観と保全 3	まちづくり活動と景観
13	都市景観と保全 4	都市計画と景観まちづくり
14	全体のまとめ	全体のまとめと期末レポートの出題 or テスト対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】1. 建築デザインについて予習もしくは復習
通学途中や身の回りの建物を意識して（少し分析的に）「見る」ようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
2. 建築デザインについて復習
授業内で興味のある建築があるとき、授業終了後※重要！ ※ゆっくりとウエブなどで画像を確認すること。また google map / street view などとあわせて確認するのも良い。**【テキスト（教科書）】**

使用しない

【参考書】西村幸夫：都市美、学芸出版社
大川三雄、川向正人、初田享、吉田綱市：近代建築の系譜、彰国社
日本建築学会（編）：景観まちづくり（まちづくり教科書〈第 8 巻〉、丸善出版**【成績評価の方法と基準】**リアクションペーパー：50 %
期末考査（レポートまたはテスト）：50%**【学生の意見等からの気づき】**

都市景観に対する新たな気づきがあったというメッセージをよくもらう。更により多くの気づきができるよう、授業内容を工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

レポート提出のため PC もしくはタイプ入力できるタブレットの準備をお願いします（実習室のものでは厳しいので）

【その他の重要事項】

民間の研究所在いは建設系コンサルタント勤務経験者である者が、都市景観について、単なる現象としてはなく、その形成要因についても説明する。

【Outline and objectives】
"urban landscapes" as popular culture

SES200ED

都市空間とデザイン II

齋藤 伊久太郎

サブタイトル：景観文化論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の都市景観とは、映画に出てくるような憧れの「見知らぬ街」でも、ノスタルジーあふれる「美しかった過去」でもなく、多くの本学 OGB がローンを組み家を建て、投票して実現する、ほくらにとって近未来に可能な「美しい街」参加するための目標である。

【到達目標】

日常的に目にする都市景観の裏側にある思想や文化、仕組みなどを学習する。表層を読みとるといったことはどういうことなのか、それを変容させる可能性はどこにあるのか、授業を通して考える力を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

スライドを用いて授業を進め、リアクションペーパーの提出を求める。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代日本の都市空間／建築デザイン	前期のまとめや、講義の目標、履修上の注意など
2	都市空間の概説	様々な都市空間をみていく
3	近代の都市計画史 1	都市計画の誕生と変容
4	近代の都市計画史 2	都市計画の成熟
5	都市空間における広場	広場の伝統、広場の再生
6	都市空間における街路 1	街路の文化、人間の場所
7	都市空間における街路 2	歴史的な町並みの保全
8	生活空間のデザイン 1	近隣住区論と住宅団地、そしてリノベーション
9	生活空間のデザイン 2	都市空間とストック活用
10	都市美 1	丸の内仲通り
11	都市美 2	アメニティの考え方
12	場所、空間の把握 1	場所を捉える
13	場所、空間の把握 2	場所を使う
14	全体のまとめ	まとめと期末レポート or テスト解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 建築デザインについて予習もしくは復習

通学途中や身の回りの建物を意識して（少し分析的に）「見る」ようにすること。これは洋服と一緒にダサいのも素敵なものもある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

2. カルチュラル・スタディーズについて復習

授業でくる概念に興味を持ったとき、一夜漬けにならないタイミングで、図書館に行って関連する参考書に目を通し、必要部分のメモをとっておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

随時紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー：50%

期末テスト or レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

授業をとおして、都市景観に対する新たな気づきがあったというメッセージをよくもらう。更により多くの気づきができるよう、授業内容を工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

自己所有のパソコンもしくはキーボード付き端末を用意してください。

【その他の重要事項】

民間の研究所あるいは建設系コンサルタント勤務経験者である者が、都市景観について、単なる現象としてはなく、その形成要因についても説明する。

【Outline and objectives】

"urban landscapes" as popular culture

COT300ED

都市空間分析

郭 東潤

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

流動化する多摩ニュータウンにおいて、コロナ禍は多様な価値観の中で働き方や暮らし方等といった地域の諸問題を顕在化させた。本授業では With/Post コロナ時代の新しい社会・都市の姿を予見し、人々の生活や多様な都市活動の実態を踏まえて、望ましい都市空間のあり方、および実現プロセスの組立て方を経験することを目的とする。

【到達目標】

都市の物的環境とその背後に存在する社会的諸条件への洞察力を養い、その上に立って生活の場所としての都市空間の計画とデザインを構想し、都市環境の質的向上を実現することができる能力を育てることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP12 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業は受講生がフィールドワークの計画から実施、集計・分析、考察、報告書作成に至る一連のプロセスを進める。授業実施にあたり、全体テーマを設定したうえで、複数のサブテーマに基づくグループを編成する。各グループは各立場（行政、住民、商店街、開発事業者、市民活動団体、専門家など）から都市の暮らし・住環境・まちづくり・企画政策・計画・デザインに関するプレゼンテーション&ディベート等を行い、これらを踏まえた報告書を執筆する。

<重要>

新型コロナウイルスの感染拡大等により、オンラインでの開講となる場合、それに伴う各回の授業計画については、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要説明
2	先行研究から学ぶ	先行研究から調査方法を理解する
3	地域の課題を考える	これまでの自分の経験や知見などに基づき、地域の課題を共有する。
4	地域の課題を見つける	実施にフィールドワークを行い、地域の課題や可能性等について整理する。
5	地域の情報を共有する	自分の視点からフィールドワークの課題や可能性等を整理し発表する。
6	計画や企画を立案する	自分の視点から地域の課題等を解決するための計画や企画を立案する。
7	都市空間分析を計画する	グループとして都市空間を分析するための資料収集の方法を計画する。
8	都市空間を分析する	収集情報から都市空間の分析を行う。
9	都市空間のあり方を構想する	各グループの都市空間分析について共有しながらディスカッションする。

10	計画実現のプロセスを考える 1	各立場（行政、住民、商店街、開発事業者、市民活動団体、専門家など）の視点から計画実現に向けて討議する
11	計画実現のプロセスを考える 2	各立場（行政、住民、商店街、開発事業者、市民活動団体、専門家など）の視点から計画実現に向けて討議する
12	実施計画を策定する	各立場の意見等に応じた具体的な実施計画を策定する
13	計画をプレゼンテーションする	地域の当事者にグループの計画が丁寧に伝達できるプレゼンテーション方法を考える。計画内容を5分程度で発表し、内容等に対して講評する。
14	報告書を執筆する	各立場の視点から報告書を執筆する。加えて、残された課題を明確にするとともに、全体のプロセスを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各グループのテーマに応じたフィールドワークやインタビュー調査等の準備・実施、収集データの分析、授業時間内の発表準備、報告書作成。なお、本授業の準備・復習時間は、各回につき標準的に4時間以上を目安とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

1. まちづくりの方法―まちづくり教科書1―、日本建築学会、丸善
2. わが町発見！―絵地図づくりからまちづくりへ―、世田谷まちづくりセンター編、晶文社
3. まちづくり学―アイデアから実現までのプロセス―、西村幸夫他、朝倉書店
4. まちの見方・調べ方―地域づくりのための調査法入門―、西村幸夫他、朝倉書店
5. Jan Gehl and irgitte Svarre, How To Study Public Life, Island Press

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席や共同作業への貢献など）30%、データ整理分析及び発表40%（個人20%/グループ20%）、報告書30%によって総合的に評価する。

<重要>

新型コロナウイルスの感染拡大等により、オンラインでの開講となる場合、成績評価と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This class has a series of lectures on how to understand the characteristics of urban space and society in TAMA new town, and basic approaches related to urban space design and planning.

LANj300EA

特講（ビジネス日本語）

村上 佳恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、日本語を使用して就職活動をしったり働いたりする際に必要な日本語を学ぶ。言語表現だけでなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのかといった文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

【到達目標】

- ①場面と相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
- ②履歴書等、就職活動の際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ③メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ④異文化に適応することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本科目は、ZOOM を使用しオンラインで行う。受講生は、文書作成や聴解問題等の事前課題に取り組んだうえで授業に参加する。授業では、受講生同士で課題を検討したり、会話の練習を行ったりする。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション／報告書の書き方を学ぶ。
第 2 回	エントリーシートの作成 (1)	履歴書を作成する。自己 PR 文を作成する。
第 3 回	エントリーシートの作成 (2)	志望動機を書く。
第 4 回	面接 (1)	グループ面接の練習をする。
第 5 回	面接 (2)	個人面接の練習をする。
第 6 回	面接 (3)	グループ討論の練習をする。
第 7 回	電話応対	電話応対の練習をする。
第 8 回	異文化摩擦のケース学習	異文化摩擦の事例を読み解決策を考える。
第 9 回	社内での会話	確認・報告の仕方を学ぶ。
第 10 回	社内のビジネスメール	社内宛てのメールを書く。
第 11 回	社外のビジネスメール	社外宛てのメールを書く。
第 12 回	会議 (1)	会議の内容を理解する。
第 13 回	会議 (2)	分析結果を話す。
第 14 回	会議 (3)	プレゼンテーションをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。受講生は、課題の文書作成に取り組む。

【テキスト（教科書）】

『課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション〈改訂新版〉』近藤彩・品田潤子・金孝卿・内海美也子 (2018) ココ出版 (2,400 円 税抜)

【参考書】

『日本語ビジネス文書マニュアル』奥村真希他 (2007) アスク (1,500 円 税抜)

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %，課題等提出物 60 %，定期テスト 15 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to job-hunt or work. We will discuss how to communicate with people who have different cultures.

LANj300EA

特講（ビジネス日本語）

村上 佳恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、日本語を使用して就職活動をしったり働いたりする際に必要な日本語を学ぶ。言語表現だけでなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのかといった文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

【到達目標】

- ①場面と相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
- ②履歴書等、就職活動の際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ③メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ④異文化に適応することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本科目は、ZOOM を使用しオンラインで行う。受講生は、文書作成や聴解問題等の事前課題に取り組んだうえで授業に参加する。授業では、受講生同士で課題を検討したり、会話の練習を行ったりする。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション／報告書の書き方を学ぶ。
第 2 回	エントリーシートの作成 (1)	履歴書を作成する。自己 PR 文を作成する。
第 3 回	エントリーシートの作成 (2)	志望動機を書く。
第 4 回	面接 (1)	グループ面接の練習をする。
第 5 回	面接 (2)	個人面接の練習をする。
第 6 回	面接 (3)	グループ討論の練習をする。
第 7 回	電話応対	電話応対の練習をする。
第 8 回	異文化摩擦のケース学習	異文化摩擦の事例を読み解決策を考える。
第 9 回	社内での会話	確認・報告の仕方を学ぶ。
第 10 回	社内のビジネスメール	社内宛てのメールを書く。
第 11 回	社外のビジネスメール	社外宛てのメールを書く。
第 12 回	会議 (1)	会議の内容を理解する。
第 13 回	会議 (2)	分析結果を話す。
第 14 回	会議 (3)	プレゼンテーションをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。受講生は、課題の文書作成に取り組む。

【テキスト（教科書）】

『課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション〈改訂新版〉』近藤彩・品田潤子・金孝卿・内海美也子 (2018) ココ出版 (2,400 円 税抜)

【参考書】

『日本語ビジネス文書マニュアル』奥村真希他 (2007) アスク (1,500 円 税抜)

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %，課題等提出物 60 %，定期テスト 15 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to job-hunt or work. We will discuss how to communicate with people who have different cultures.

SOC200ED

特講（ローカルジャーナリズム論）

藤代 裕之

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 単位数：2
単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアの登場により誰もが情報を発信できるようになり、東京を經由せずとも、地域から地域へとニュースは伝わるようになりました。このようなメディア環境の変化が、地域に根ざし、地域を記録し、課題を解決する、ローカルジャーナリズムが新たな展開を生み出しています。この授業では、地方新聞やローカルテレビ局による、調査報道やドキュメンタリーなどの取り組みから、ローカルメディアの魅力とローカルジャーナリズムの可能性と課題を学びます。

【到達目標】

地域社会の課題を知り、解決について自ら考える力を身につける。全国メディアとは異なるローカルメディアの特徴や役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義に加えワークショップを実施することで、講師や学生と議論することでより深い理解につながるよう進めていく。リアクションペーパーなどを紹介し、フィードバックを行う。なお、授業計画については、展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ローカルメディアの課題と可能性
第2回	課題と向き合う	社会課題とローカルメディア 1
第3回	課題と向き合う	社会課題とローカルメディア 2
第4回	課題と向き合う	社会課題とローカルメディア 3
第5回	ワークショップ	ローカルジャーナリズムと地域課題について考える
第6回	地域とつながる	ローカルメディアが生み出すつながり 1
第7回	地域とつながる	ローカルメディアが生み出すつながり 2
第8回	地域とつながる	ローカルメディアが生み出すつながり 3
第9回	ワークショップ	ローカルジャーナリズムと地域のつながりについて考える
第10回	地域を伝える	伝え方の新たなデザイン 1
第11回	地域を伝える	伝え方の新たなデザイン 2
第12回	地域を伝える	伝え方の新たなデザイン 3
第13回	ワークショップ	ローカルジャーナリズムの伝え方を考える
第14回	まとめ	振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義とワークショップを組み合わせで行いますので、積極的に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指示します。

【参考書】

寺島英弥（2005年）『シビック・ジャーナリズムの挑戦—コミュニティとつながる米国の地方紙』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

レポート 50%、平常点 50%。平常点は、授業中の発言や質問、リアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【その他の重要事項】

受講希望者はガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。授業中の私語は退場とします。この授業は、オータムセッションの集中講義として行われます。

ローカルメディアの記者やプロデューサーなどが、課題解決の事例について解説する。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the possibilities and challenges of local journalism.

LANe300EA

Topics in Comparative Culture

GEORGE HANN

サブタイトル：Comparative Culture

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class is for students who:

- 1) plan to study abroad in an English-speaking country
- 2) have returned to Japan after living in an English-speaking country
- 3) wish to learn more about world cultures

【到達目標】

This course has three goals: 1) to show students who will soon study abroad what to expect from a North American classroom environment; 2) to allow students returning from study abroad to maintain their English level; 3) to introduce students to current topics in cross-cultural communication and understanding.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, classes will be conducted entirely online (using Zoom Software).

Each lecture is based on a reading which focuses on a subtopic within the field of Comparative Culture. Students will engage in group and class discussions on the topic. Students will also perform independent research on one of the lecture topics and make a team presentation of their findings.

Past topics have included (but are not limited to):

- Language and Culture
- Work and Leisure
- Religion and Spirituality
- Monocultures vs Multicultures
- Marriage and Family Structure
- Cultural Imperialism
- Sexuality

Feedback will be in the form of annotated evaluations of student presentations and research reports by the instructor.

PLEASE NOTE THE FOLLOWING:

1) THIS CLASS IS CONDUCTED ENTIRELY IN ENGLISH. Students with no confidence in their English listening or speaking skills should NOT take this class.

2) Students must arrive on time and participate fully. 2 consecutive lates = one absence. Students who miss 5 classes for any reason will automatically receive a failing grade.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to the course	Interviews and introductions; Topic 01 introduction
2	Topic 01: What is Culture?	Introduction to macro culture and micro culture
3	Topics 01-02	Topics 01 and 02: Assimilation vs accommodation
4	Topics 02-03	Topics 02 and 03: LGBT culture in Japan and abroad
5	Topics 03-04	Topics 03 and 04: Leaving the nest
6	Topics 04-05	Topics 04 and 05: Work ethic - Japan vs. Europe
7	Topics 05-06	Topics 05 and 06: Proxemics
8	Topics 06-07	Topics 06 and 07: Can culture be protected?
9	Topics 07-08	Topics 07 and 08: World religions
10	Topics 08-09	Topics 08 and 09: Love and marriage
11	Research Day	Preparations for reports and presentations.
12	Topics 09-10	Topics 09 and 10: Education systems
13	Presentations 01	Research group presentations
14	Presentations 02	Research group presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts provided by instructor

【参考書】

To be announced in class

【成績評価の方法と基準】

Participation: 50%

Team Research Presentation: 25%

Research Report: 25%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

Each 100 minute class is a rare opportunity for you to interact in English. Don't waste the opportunity.

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

This class is for students who:

- 1) plan to study abroad in an English-speaking country
- 2) have returned to Japan after living in an English-speaking country
- 3) wish to learn more about world cultures

ECN200EB

日本経済論

澁谷 朋樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、戦前から引き継がれた要素をみながら、戦後復興期、高度成長期、バブル期を経て、現代へとつながる日本経済の姿を学ぶものである。日本経済の歩みを踏まえることで、財政赤字や少子高齢化、過疎化等、現代日本が抱える諸問題の理解にもつながる。最終的には、日本経済の現状を把握した上で、客観的なデータを用いつつ、今後どのように諸問題を解決していくかの方策を考える力を身につけることが目標となる。

【到達目標】

1. 戦前・戦後の日本における経済発展の仕組みを理解できる。
2. 日本経済の現状と課題についての基本的な知識を習得できる。
3. 各種データを活用しながら、日本経済の全体像を把握できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めていく。時事問題を織り込んでいく予定であるため、必ずしも以下の授業計画に沿って進めるとは限らない。また、前回の講義で提出されたりアクションペーパーで寄せられた質問・意見に回答する等を通じて、受講生との双方向性を高める工夫を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	経済学の基本	経済学の基本的な考え方
2 回	経済指標の読み方	基本的な経済指標の読み方
3 回	白書の読み方	『経済白書』・『経済財政白書』を読む
4 回	日本経済の全体像	長期統計を用いた日本経済の把握
5 回	戦前における日本経済	明治時代から戦時期までの日本経済
6 回	戦後日本の経済発展 (1)	戦後日本の経済復興
7 回	戦後日本の経済発展 (2)	高度成長時代から低成長時代へ
8 回	戦後日本の経済発展 (3)	戦後日本のエネルギー政策
9 回	戦後日本の経済発展 (4)	バブル景気とそのメカニズム
10 回	日本の長期経済停滞 (1)	バブル崩壊後の日本経済
11 回	日本の長期経済停滞 (2)	小泉構造改革における産業構造と雇用構造の変化
12 回	平成時代の日本経済	平成時代の日本経済を振り返る
13 回	日本の農業政策	日本の農業政策と農業構造問題
14 回	講義まとめ	講義全体を振り返り、日本経済の主要な課題を整理する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から各メディアの報道を通じて、日本経済の動向に目を向けておくことが望ましい。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に資料を適宜配付する。

【参考書】

1. 小峰隆夫、村田啓子『最新日本経済入門 [第6版]』日本評論社、2020（令和2）年。
2. N・グレゴリー・マンキュー／足立英之他訳『マンキュー 入門経済学 [第3版]』東洋経済新報社、2019（令和元）年。
3. その他の参考文献は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）、平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーで寄せられた学生からの意見を講義に反映させていく。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of history and development of the Japanese economy.

LANj100EA

日本語 1 - I

李 址遠

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

- ①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
- ②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では、様々なテーマに関する文章を読み、そのテーマに関する自らの考えを文章で表現する活動を中心に行う。文章作成の活動には、学生たちが互いの文章を検討し、協力して改善させていく作業が含まれる。課題へのフィードバックは主に Google Classroom を通じて個別に行うが、必要に応じて授業の中で取り上げ、共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	テーマ①異文化間コミュニケーション	定義と例を説明する
3	テーマ②ウィキペディア	仕組みを説明する
4	テーマ②ウィキペディア	長所と短所を述べる
5	テーマ②のレポートの作成	アウトラインの相互検討とレポート作成
6	テーマ②のピア・レスポンス	レポートの相互検討と推敲
7	テーマ③権利	新聞を引用する
8	テーマ③権利	反対意見に触れたうえで意見を述べる
9	テーマ③のレポートの作成	アウトラインの相互検討とレポート作成
10	テーマ③のピア・レスポンス	レポートの相互検討と推敲
11	テーマ④外来語	新聞を引用する
12	テーマ④外来語	論証する
13	テーマ④のレポートの作成	アウトラインの相互検討とレポート作成
14	テーマ④のピア・レスポンス	レポートの相互検討と推敲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習は、各 2 時間を標準とする。
・準備：次の授業で扱う資料を読んで内容を把握し、知らない語彙や表現の意味を調べる。
・復習：授業で扱った内容を復習する。学んだ語彙や表現を用いて作文・レポートを作成する。フィードバックを基に作文・レポートを修正する。

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料はその都度配布する。

【参考書】

『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通信子他著、東京大学出版会、2009 年、2,500 円＋税

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

作文に役立つモデル文の提示、書きやすいテーマの組み入れ

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100EA

日本語 1 - I

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

1. 事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
2. リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 事前課題をする。
2. 授業の始めに、1 に対してのフィードバックを行う。
3. 課題に対しての確認と質疑応答を行う。
4. グループ討論を行う。

レポート等のフィードバックは「Google Classroom」を通じて行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	書き言葉に統一する 1	事前課題、フィードバック 文の意味を明確にする 1
4	書き言葉に統一する 2	課題の解説、質疑応答 文の意味を明確にする 2
5	「こと」「の」の使い分け 1	事前課題、フィードバック 文をシンプルにする 1
6	「こと」「の」の使い分け 2	課題の解説、質疑応答 文をシンプルにする 2
7	中間レポート作成 1	レポート作成の注意点
8	中間レポート作成 2	題目「IT の進化と社会」
9	語彙を適切に選択する 1	事前課題、フィードバック 文を首尾一貫させる 1
10	語彙を適切に選択する 2	課題の解説、質疑応答 文を首尾一貫させる 2
11	類似表現の使い分け 1	事前課題、フィードバック 「は」と「が」の使い分け 1
12	類似表現の使い分け 2	課題の解説、質疑応答 「は」と「が」の使い分け 2
13	期末レポート作成 1	レポート作成の注意点
14	期末レポート作成 2	題目「権利について」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備）事前課題の問題を解くこと。
（課題）テーマに沿ったレポートを書くこと。
（復習）添削されたレポートを見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業の初めに言う

【参考書】

小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題 10 %、中間レポート 30 %、期末レポート 30 % をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100EA

日本語 1 - I

村上 佳恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

- ①事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
- ②リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、ZOOM を使用しオンラインで実施する。本授業では3つのテーマを取り上げ、それぞれのテーマでレポートを作成する。受講生は、事前課題として読み物を読み、読解問題と漢字の学習に取り組む。オンラインの授業では、読解の解答を確認しレポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として文章を書く課題に取り組む。オンラインの授業では、受講生同士の話し合いの機会を設ける。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画については、授業の展開により、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の説明/リアクションペーパーの書き方を学ぶ。
第2回	テーマ1：異文化コミュニケーション 読み物1	定義と例を書く。
第3回	テーマ2：ウィキペディア 読み物1	仕組みを説明する。
第4回	テーマ2：ウィキペディア 読み物2	長所と短所を述べる。
第5回	テーマ2：レポートの作成	テーマ2のレポートを作成する。
第6回	テーマ2：ピア・レスポンス	テーマ2のレポートを読み合い修正を加える。
第7回	テーマ3：権利 読み物1	新聞を引用する。
第8回	テーマ3：権利 読み物2	反対意見に触れたうえで意見を述べる。
第9回	テーマ3：レポートの作成	テーマ3のレポートを作成する。
第10回	テーマ3：ピア・レスポンス	テーマ3のレポートを読み合い修正を加える。
第11回	テーマ4：外来語 読み物1	書籍を引用する。
第12回	テーマ4：外来語 読み物2	論証する。
第13回	テーマ4：レポートの作成	テーマ4のレポートを作成する。
第14回	テーマ4：ピア・レスポンス	テーマ4のレポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。事前課題と事後課題、レポートの作成等に取り組む。

【テキスト（教科書）】

教材をオンラインで配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を増やしてほしいという意見があった。受講生の様子を見てさらに話し合いの時間を増やしていきたい。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100EA

日本語 1 - I

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。この授業では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

1. 事実やデータに基づいた意見文を書くことができる。
2. リアクションペーパーを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 事前課題をする。
2. 授業の始めに、1 に対してのフィードバックを行う。
3. 課題に対しての確認と質疑応答を行う。
4. グループ討論を行う。

レポート等のフィードバックは「Google Classroom」を通じて行う。秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	書き言葉に統一する 1	事前課題、フィードバック
	文の意味を明確にする 1	
4	書き言葉に統一する 2	課題の解説、質疑応答
	文の意味を明確にする 2	グループ討論
5	「こと」「の」の使い分け 1	事前課題、フィードバック
	文をシンプルにする 1	
6	「こと」「の」の使い分け 2	課題の解説、質疑応答
	文をシンプルにする 2	グループ討論
7	中間レポート作成 1	レポート作成の注意点
8	中間レポート作成 2	題目「ITの進化と社会」
9	語彙を適切に選択する 1	事前課題、フィードバック
	文を首尾一貫させる 1	
10	語彙を適切に選択する 2	課題の解説、質疑応答
	文を首尾一貫させる 2	グループ討論
11	類似表現の使い分け 1	事前課題、フィードバック
	「は」と「が」の使い分け 1	
12	類似表現の使い分け 2	課題の解説、質疑応答
	「は」と「が」の使い分け 2	グループ討論
13	期末レポート作成 1	レポート作成の注意点
14	期末レポート作成 2	題目「権利について」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備）事前課題の問題を解くこと。
（課題）テーマに沿ったレポートを書くこと。
（復習）添削されたレポートを見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業の初めに言う

【参考書】

小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題 10 %、中間レポート 30 %、期末レポート 30 %をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100EA

日本語 1 - II

李 址遠

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では、様々なテーマに関する文章を読み、そのテーマに関する自らの考えを文章で表現する活動を中心に行う。文章作成の活動には、学生たちが互いの文章を検討し、協力して改善させていく作業が含まれる。課題へのフィードバックは主に Google Classroom を通じて個別に行うが、必要に応じて授業の中で取り上げ、共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業運営に関する説明
2	テーマ①多文化共生	データを説明する
3	テーマ①多文化共生	比較をする
4	情報収集	情報の集め方・信頼性について学ぶ
5	テーマ①のレポートの作成	調査型レポートを作成する
6	テーマ①のピア・レスポンス	レポートを読み合う
7	テーマ②英語教育	2つの立場を引用する
8	テーマ②英語教育	引用し反論する
9	テーマ②のレポートの作成	論証型レポートを作成する
10	テーマ②のピア・レスポンス	レポートを読み合う
11	テーマ③概念の歴史化	先行研究をまとめる
12	テーマ③概念の歴史化	引用を入れて論証する
13	テーマ③のレポートの作成	論証型レポートを作成する
14	テーマ③のピア・レスポンス	レポートを読み合う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習は、各 2 時間を標準とする。

・準備：次の授業で読み物を読んで内容を把握し、知らない語彙や表現の意味を調べる。

・復習：授業で学んだ表現を用いて課題作文とレポートを作成する。講師や学生からのフィードバックを基に自身の作文・レポートを修正する。

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料はその都度配布する。

【参考書】

『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通通信他著、東京大学出版会、2009 年、2,500 円＋税

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

作文に役立つモデル文の提示、書きやすいテーマの組み入れ

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100EA

日本語 1 - II

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。

この授業では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 事前課題をする。
- 授業の始めに、1 に対してのフィードバックを行う。
- 課題に対しての確認と質疑応答を行う。
- グループ討論を行う。

レポート等のフィードバックは「Google Classroom」を通じて行う。

秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	書き手の視点を示す 1 過去と現在のつながり 1	事前課題、フィードバック
4	書き手の視点を示す 2 過去と現在のつながり 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
5	文章中の語を指し示す 1 前後の関係を表す 1	事前課題、フィードバック
6	文章中の語を指し示す 2 前後の関係を表す 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
7	中間レポート作成 1	レポート作成の注意点
8	中間レポート作成 2	題目「教育について」
9	前の文に関係づける 1	事前課題、フィードバック
10	前の文に関係づける 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
11	効果的に意見を述べる 1	事前課題、フィードバック
12	効果的に意見を述べる 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
13	期末レポート作成 1	レポート作成の注意点
14	期末レポート作成 2	題目「自由テーマ」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備）事前課題の問題を解くこと。

（課題）テーマに沿ったレポートを書くこと。

（復習）添削されたレポートを見直すこと。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業の初めに言う

【参考書】

小森万里他（2016）『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題 10 %、中間レポート 30 %、期末レポート 30 % をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。

授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100EA

日本語 1 - II

村上 佳恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

① 1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、ZOOM を使用しオンラインで行う。本科目では3つのテーマを扱い、それぞれのテーマでレポートを作成する。各回、受講生は事前学習として読み物を読み、読解問題と漢字の問題に取り組む。オンラインの授業では、読解の解答を確認しレポートの作成に必要な表現を学ぶ。事後学習として、各自、文章を書く課題に取り組む。オンラインの授業では、受講生同士の話し合いの機会を設ける。課題については、クラスで解説を行うとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
第 2 回	テーマ 1：多文化共生 読み物 1	データを説明する。
第 3 回	テーマ 1：多文化共生 読み物 2	比較をする。
第 4 回	情報収集	情報の集め方・信頼性について学ぶ。
第 5 回	テーマ 1：レポートの作成	テーマ 1 の調査型レポートを作成する。
第 6 回	テーマ 1：ピア・レスポンス	レポートを読み合い修正する。
第 7 回	テーマ 2：語学教育 読み物 1	2 つの立場を引用する。
第 8 回	テーマ 2：語学教育 読み物 2	引用し意見を述べる。
第 9 回	テーマ 2：レポートの作成	テーマ 2 の論証型レポートを作成する。
第 10 回	テーマ 2：ピア・レスポンス	レポートを読み合い修正する。
第 11 回	テーマ 3：概念の歴史化 読み物 1	先行研究をまとめる。
第 12 回	テーマ 3：概念の歴史化 読み物 2	引用を入れて論証する。
第 13 回	テーマ 3：レポートの作成	テーマ 3 のレポートを作成する。
第 14 回	テーマ 3：ピア・レスポンス	レポートを読み合い修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。事前学習、オンラインでの授業、事後学習という流れで学習を進める。

【テキスト（教科書）】

教材をオンラインで配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題等提出物 40 %、期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を増やしてほしいという意見があった。受講生の様子を見てさらに話し合いの時間を増やしていきたい。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100EA

日本語 1 - II

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 5/Fri.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学での学びに必要な文章作成力を養う。わかりやすい文章の書き方、レポート作成に必要な語彙や表現を学んでいく。

【到達目標】

1600 字程度のレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 事前課題をする。
- 授業の始めに、1 に対してのフィードバックを行う。
- 課題に対しての確認と質疑応答を行う。
- グループ討論を行う。

レポート等のフィードバックは「Google Classroom」を通じて行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	書き手の視点を示す 1 過去と現在のつながり 1	事前課題、フィードバック
4	書き手の視点を示す 2 過去と現在のつながり 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
5	文章中の語を指し示す 1 前後の関係を表す 1	事前課題、フィードバック
6	文章中の語を指し示す 2 前後の関係を表す 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
7	中間レポート作成 1	レポート作成の注意点
8	中間レポート作成 2	題目「教育について」
9	前の文に関係づける 1	事前課題、フィードバック
10	前の文に関係づける 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
11	効果的に意見を述べる 1	事前課題、フィードバック
12	効果的に意見を述べる 2	課題の解説、質疑応答 グループ討論
13	期末レポート作成 1	レポート作成の注意点
14	期末レポート作成 2	題目「自由テーマ」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(準備) 事前課題の問題を解くこと。
(課題) テーマに沿ったレポートを書くこと。
(復習) 添削されたレポートを見直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業の初めに言う

【参考書】

小森万里他 (2016) 『ここがポイント！ レポート・論文を書くための日本語文法』 ころしお出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題 10 %、中間レポート 30 %、期末レポート 30 % をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, reading and writing.

LANj100EA

日本語 2 - I

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】

1. 現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2. テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3. 他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業内容についての小テストを行う。
2. 発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3. 2に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4. テキストの本文を確認する。
5. グループ討論を行う。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	②都市の暮らし・地方の暮らし 1	本文読解、事前課題
4	②都市の暮らし・地方の暮らし 2	発表、本文解説、討論
5	③日本の旅を楽しもう 1	本文読解、事前課題
6	③日本の旅を楽しもう 2	発表、本文解説、討論
7	④いただきます! 1	本文読解、事前課題
8	④いただきます! 2	発表、本文解説、討論
9	⑤季節を楽しむ年中行事 1	本文読解、事前課題
10	⑤季節を楽しむ年中行事 2	発表、本文解説、討論
11	⑦伝統文化体験 1	本文読解、事前課題
12	⑦伝統文化体験 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(準備) 担当者は発表の準備を行うこと。
(準備) 授業の始めに行われる小テストの準備をしておくこと。
(課題) テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐々木瑞枝 (2017) 『クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパントタイムズ

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、発表 (15%)、スライド作成 (15%)、課題 (10%)、小テスト (10%)、定期試験 (20%) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100EA

日本語 2 - I

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】

1. 現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2. テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3. 他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業内容についての小テストを行う。
2. 発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3. 2に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4. テキストの本文を確認する。
5. グループ討論を行う。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	②都市の暮らし・地方の暮らし 1	本文読解、事前課題
4	②都市の暮らし・地方の暮らし 2	発表、本文解説、討論
5	③日本の旅を楽しもう 1	本文読解、事前課題
6	③日本の旅を楽しもう 2	発表、本文解説、討論
7	④いただきます! 1	本文読解、事前課題
8	④いただきます! 2	発表、本文解説、討論
9	⑤季節を楽しむ年中行事 1	本文読解、事前課題
10	⑤季節を楽しむ年中行事 2	発表、本文解説、討論
11	⑦伝統文化体験 1	本文読解、事前課題
12	⑦伝統文化体験 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(準備) 担当者は発表の準備を行うこと。
(準備) 授業の始めに行われる小テストの準備をしておくこと。
(課題) テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐々木瑞枝 (2017) 『クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパントタイムズ

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、発表 (15%)、スライド作成 (15%)、課題 (10%)、小テスト (10%)、定期試験 (20%) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100EA

日本語 2 - I

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】

1. 現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2. テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3. 他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業内容についての小テストを行う。
2. 発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3. 2 に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4. テキストの本文を確認する。
5. グループ討論を行う。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な自己紹介	発表「育った場所・自慢」
3	②都市の暮らし・地方の暮らし 1	本文読解、事前課題
4	②都市の暮らし・地方の暮らし 2	発表、本文解説、討論
5	③日本の旅を楽しもう 1	本文読解、事前課題
6	③日本の旅を楽しもう 2	発表、本文解説、討論
7	④いただきます！ 1	本文読解、事前課題
8	④いただきます！ 2	発表、本文解説、討論
9	⑤季節を楽しむ年中行事 1	本文読解、事前課題
10	⑤季節を楽しむ年中行事 2	発表、本文解説、討論
11	⑦伝統文化体験 1	本文読解、事前課題
12	⑦伝統文化体験 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしておくこと。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うのでパソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj200EA

日本語 2 - I

村上 佳恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。テキストを読み、まとめて発表をする。合わせて、大学での生活に必要な会話の訓練も行う。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
- ③他者と意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、ZOOM を使用しオンラインで行う。本科目は、受講生による発表と討論を中心に授業を進める。聞き手を説得するためには、どのような話し方をする必要があるのかを発表と討論を通して学ぶ。課題については、授業で解説をするとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明
第 2 回	発表の方法	発表の構成、表現
第 3 回	発表①故郷の紹介	受講生による発表
第 4 回	発表②故郷の紹介	受講生による発表
第 5 回	発表③故郷の紹介	受講生による発表
第 6 回	話し合い・質疑応答の表現	討論と質疑応答に必要な表現
第 7 回	発表④消費税 10 % の影響は？	受講生による発表
第 8 回	討論①消費税の引き上げ	討論と小レポートの作成
第 9 回	発表⑤これからのエネルギー	受講生による発表
第 10 回	討論②原子力発電	討論と小レポートの作成
第 11 回	発表⑥社会保障の未来	受講生による発表
第 12 回	討論③在職高齢者年金	討論と小レポートの作成
第 13 回	発表⑦働き方	受講生による発表
第 14 回	討論④働き方	討論と小レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】

『2021 年度版 ニュース検定 公式テキスト&問題集「時事力」基礎編（3・4 級対応）』毎日総合研究所・朝日新聞社 1,200 円（税抜き）
※こちらの書籍は、毎年刊行されます。使用するものは、2021 年度版です。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、発表 30 %、課題等提出物（期末レポートも含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】

発話の機会が多いということが日本語学習の一助になったという声がありました。発話の機会を増やしていきたいと思えます。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100EA

日本語 2 - II

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】

1. 現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2. テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3. 発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業内容についての小テストを行う。
2. 発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3. 2に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4. テキストの本文を確認する。
5. グループ討論を行う。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	⑧現代文化とポップカルチャー 1	本文読解、事前課題
4	⑧現代文化とポップカルチャー 2	発表、本文解説、討論
5	⑨スポーツの楽しみ方 1	本文読解、事前課題
6	⑨スポーツの楽しみ方 2	発表、本文解説、討論
7	⑫教育と子供たち 1	本文読解、事前課題
8	⑫教育と子供たち 2	発表、本文解説、討論
9	⑭政治と憲法 1	本文読解、事前課題
10	⑭政治と憲法 2	発表、本文解説、討論
11	⑮多文化共生社会を目指して 1	本文読解、事前課題
12	⑮多文化共生社会を目指して 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(準備) 担当者は発表の準備を行うこと。
(準備) 授業の始めに行われる小テストの準備をしておくこと。
(課題) テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐々木瑞枝 (2017) 『クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100EA

日本語 2 - II

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】

1. 現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2. テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3. 発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業内容についての小テストを行う。
2. 発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3. 2に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4. テキストの本文を確認する。
5. グループ討論を行う。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	⑧現代文化とポップカルチャー 1	本文読解、事前課題
4	⑧現代文化とポップカルチャー 2	発表、本文解説、討論
5	⑨スポーツの楽しみ方 1	本文読解、事前課題
6	⑨スポーツの楽しみ方 2	発表、本文解説、討論
7	⑫教育と子供たち 1	本文読解、事前課題
8	⑫教育と子供たち 2	発表、本文解説、討論
9	⑭政治と憲法 1	本文読解、事前課題
10	⑭政治と憲法 2	発表、本文解説、討論
11	⑮多文化共生社会を目指して 1	本文読解、事前課題
12	⑮多文化共生社会を目指して 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(準備) 担当者は発表の準備を行うこと。
(準備) 授業の始めに行われる小テストの準備をしておくこと。
(課題) テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐々木瑞枝 (2017) 『クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj100EA

日本語 2 - II

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は【外国人留学生】のみ受講できる。
この授業では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】

1. 現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
2. テキストの内容をまとめ、発表することができる。
3. 発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

1. 前回の授業内容についての小テストを行う。
2. 発表担当者が担当部分のスライドを作成し、口頭発表を行う。
3. 2 に対して質疑応答やフィードバックを行う。
4. テキストの本文を確認する。
5. グループ討論を行う。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行う。
秋学期の授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方等の説明
2	簡単な発表	発表「夏休みの思い出」
3	⑧現代文化とポップカルチャー 1	本文読解、事前課題
4	⑧現代文化とポップカルチャー 2	発表、本文解説、討論
5	⑨スポーツの楽しみ方 1	本文読解、事前課題
6	⑨スポーツの楽しみ方 2	発表、本文解説、討論
7	⑫教育と子供たち 1	本文読解、事前課題
8	⑫教育と子供たち 2	発表、本文解説、討論
9	⑭政治と憲法 1	本文読解、事前課題
10	⑭政治と憲法 2	発表、本文解説、討論
11	⑮多文化共生社会を目指して 1	本文読解、事前課題
12	⑮多文化共生社会を目指して 2	発表、本文解説、討論
13	日本事情-総まとめ	今まで学んで来たことのまとめと討論
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備）担当者は発表の準備を行うこと。
（準備）授業の始めに行われる小テストの準備をしておくこと。
（課題）テキストの指定されたページを予習し、課題をすること。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐々木瑞枝（2017）『クローズアップ日本事情 15 ― 日本語で学ぶ社会と文化』ジャパンタイムズ

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)、発表 (15 %)、スライド作成 (15 %)、課題 (10 %)、小テスト (10 %)、定期試験 (20 %) をもとにして、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の意見交換の機会をなるべく多く取りたいと思う。

【学生が準備すべき機器他】

授業の連絡や課題の提出は、「Google Classroom」を利用する。
授業がオンラインになる場合「zoom」を使うので、パソコンに設置しておくこと。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj200EA

日本語 2 - II

村上 佳恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、大学の学びに必要な口頭表現力を養う。また、発表と質疑応答を通して、他者と話し合う力を伸ばす。

【到達目標】

- ①現代日本のトピックについて書かれたテキストを読み、要点を理解することができる。
- ②テキストの内容をまとめ、発表することができる。
- ③発表について、質疑応答ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目は、ZOOM を使用しオンラインで行う。受講生による発表と討論を中心に進める。聞き手を説得するためには、どのような話し方をする必要があるのかを発表と討論を通じて学んでいく。課題については、授業で解説を行うとともに、個別に添削を行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の説明
第 2 回	ビブリオバトル 1	受講生による書籍の紹介
第 3 回	ビブリオバトル 2	受講生による書籍の紹介
第 4 回	ビブリオバトル 3	受講生による書籍の紹介
第 5 回	討論・質疑応答の表現	討論と質疑応答の表現
第 6 回	発表①民主主義を考える	受講生による発表
第 7 回	討論①棄権と白票	討論と小レポートの作成
第 8 回	発表②いのちの現場から	受講生による発表
第 9 回	討論②高齢者の運転免許	討論と小レポートの作成
第 10 回	発表③人権保障と裁判所	受講生による発表
第 11 回	討論③少年法	討論と小レポートの作成
第 12 回	発表④自然災害と原発事故	受講生による発表
第 13 回	討論④震災遺構	討論と小レポートの作成
第 14 回	討論⑤利便性と環境	討論と小レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。受講生は、教科書の予習と復習、発表の準備等に取り組む。

【テキスト（教科書）】

『2021 年度版 ニュース検定 公式テキスト&問題集「時事力」基礎編（3・4 級対応）』毎日総合研究所・朝日新聞社 1,200 円（税抜き）

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、発表 30 %、課題等提出物（期末レポートも含む）40 %

【学生の意見等からの気づき】

発話の機会が多いということが日本語学習の一助になったという声がありました。発話の機会を増やしていきたいと思えます。

【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to study effectively in an academic environment. You will learn how to study effectively using two skills, speaking and listening.

LANj200EA

日本語3-I

宮本 典以子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、レポート作成に必要なスキルを一つ一つ実践を通して学び、学期末にレポートを仕上げる。各回、文章を書く課題を課す。課題は、受講生同士で読み合い、修正点を話し合い、修正を加え教員に提出する。

【到達目標】

- ①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
- ②さまざまなジャンルの文章を書くことができる。
- ③論証型のレポートが書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Zoom と法政大学 Hoppi の併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、授業後に文章を書いて提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。期末レポートは、論証型のレポートとする。毎回、相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介ミニ発表準備	1年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。次週のミニ発表の準備。
第2回	発表①自己紹介	今後の円滑なピア活動のため、グループで自己紹介を行い、概要をクラスで共有する。
第3回	I Good Writing を目指そう 文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第4回	II パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマの一つ選択し執筆する。
第5回	II パラグラフライティング② 発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第6回	II パラグラフライティング③ 説明（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマの一つ選んで執筆する。
第7回	II パラグラフライティング④ 発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第8回	III リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第9回	III リサーチペーパー② 発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（5文程度）を書く。
第10回	III リサーチペーパー③ 発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第11回	III リサーチペーパー④ 執筆 「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。アウトラインをもとに執筆する。
第12回	III リサーチペーパー⑤ 執筆 「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第13回	III リサーチペーパー⑥ ピアレスポンス1	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第14回	III リサーチペーパー⑦ ピアレスポンス2、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田中真理／阿部新（2014）『Good Writing へのパスポート 読み手と構成を意識した日本語ライティング』（くろしお出版、¥2000＋税）

【参考書】

・近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房、・深澤のぞみ他（2018）『21世紀のカレッジ・ジャパニーズ 大学生のための日本語で読み解き、伝えるスキル』国書刊行会など。

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、課題等提出物50%、期末レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

20年度の授業内容、課題の量は良かった、学生のレベルが上がってきたら授業のレベルも上げてほしい、との意見があったので、大筋は20年度の内容（期末レポート作成を目指す授業構成）とし、新たに日本人学生向けのテキストを使用し、さまざまなジャンルやレベルに対応する予定。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてPC等使用。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200EA

日本語3-I

宮本 典以子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、レポート作成に必要なスキルを一つ一つ実践を通して学び、学期末にレポートを仕上げる。各回、文章を書く課題を課す。課題は、受講生同士で読み合い、修正点を話し合い、修正を加え教員に提出する。

【到達目標】

- ①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
- ②さまざまなジャンルの文章を書くことができる。
- ③論証型のレポートが書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Zoom と法政大学 Hoppi の併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、授業後に文章を書いて提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。期末レポートは、論証型のレポートとする。毎回、相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 自己紹介ミニ発表準備	1 年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。次週のミニ発表の準備。
第 2 回	発表①自己紹介	今後の円滑なピア活動のため、グループで自己紹介を行い、概要をクラスで共有する。
第 3 回	I Good Writing を目指そう 文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第 4 回	II パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマの一つ選択し執筆する。
第 5 回	II パラグラフライティング② 発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 6 回	II パラグラフライティング③ 説明（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマの一つ選んで執筆する。
第 7 回	II パラグラフライティング④ 発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 8 回	III リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第 9 回	III リサーチペーパー② 発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（5 文程度）を書く。
第 10 回	III リサーチペーパー③ 発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第 11 回	III リサーチペーパー④ 執筆 「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。アウトラインをもとに執筆する。
第 12 回	III リサーチペーパー⑤ 執筆 「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第 13 回	III リサーチペーパー⑥ ピアレスポンス 1	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第 14 回	III リサーチペーパー⑦ ピアレスポンス 2、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田中真理／阿部新（2014）『Good Writing へのパスポート 読み手と構成を意識した日本語ライティング』（くろしお出版、¥2000 + 税）

【参考書】

・近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房、・深澤のぞみ他（2018）『21 世紀のカレッジ・ジャパニーズ 大学生のための日本語で読み解き、伝えるスキル』国書刊行会など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %，課題等提出物 50 %，期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

20 年度の授業内容、課題の量は良かった、学生のレベルが上がってきたら授業のレベルも上げてほしい、との意見があったので、大筋は 20 年度の内容（期末レポート作成を目指す授業構成）とし、新たに日本人学生向けのテキストを使用し、さまざまなジャンルやレベルに対応する予定。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて PC 等使用。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200EA

日本語3-I

宮本 典以子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、レポート作成に必要なスキルを一つ一つ実践を通して学び、学期末にレポートを仕上げる。各回、文章を書く課題を課す。課題は、受講生同士で読み合い、修正点を話し合い、修正を加え教員に提出する。

【到達目標】

- ①レポート作成のために必要な資料を読み理解することができる。
- ②さまざまなジャンルの文章を書くことができる。
- ③論証型のレポートが書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Zoom と法政大学 Hoppi の併用で授業を進める。まず、テキスト等でさまざまな文章の書き方についての資料を読み、授業後に文章を書いて提出。次に、その文章をグループで発表し、ピアレスポンスを行う。期末レポートは、論証型のレポートとする。毎回、相互評価・自己評価を行い、ポートフォリオを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 自己紹介ミニ発表準備	1年間のクラス目標、テキスト・参考文献、授業概要等について知る。次週のミニ発表の準備。
第2回	発表①自己紹介	今後の円滑なピア活動のため、グループで自己紹介を行い、概要をクラスで共有する。
第3回	I Good Writing を目指そう 文章の構成	文章全体の構成（マクロ構成）、パラグラフ内の構成（ミクロ構成）について学ぶ。
第4回	II パラグラフライティング①ナラティブ	自分について語るナラティブのポイントを学び、テーマの一つ選択し執筆する。
第5回	II パラグラフライティング② 発表②ナラティブの文章	ナラティブの文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第6回	II パラグラフライティング③ 説明（「手順・定義」「比較・例示」「原因・結果」）	「説明モード」の文章の書き方について、構成、メタ言語等を学び、テーマの一つ選んで執筆する。
第7回	II パラグラフライティング④ 発表③説明モードの文章	「説明モード」の文章をグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第8回	III リサーチペーパー①「論証」「リサーチペーパーの作成手順」	論証モードの文章、リサーチペーパーの構成について学ぶ。
第9回	III リサーチペーパー② 発想法、情報収集、アウトライン	期末レポートのテーマを考え、情報収集しアウトライン概要（5文程度）を書く。
第10回	III リサーチペーパー③ 発表④アウトライン、引用資料の報告	レポートのアウトライン、引用資料についてグループで発表、相互評価、自己評価を行う。
第11回	III リサーチペーパー④ 執筆 「主張と根拠」	レポートの主張と根拠の書き方を学ぶ。アウトラインをもとに執筆する。
第12回	III リサーチペーパー⑤ 執筆 「引用の仕方」「序論と本論」	引用の表現を学ぶ。参考文献リストを作成する。
第13回	III リサーチペーパー⑥ ピアレスポンス1	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。
第14回	III リサーチペーパー⑦ ピアレスポンス2、春学期振り返り	完成したレポートを読み合い、修正点を検討する。春学期の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外でも積極的に日本語の文章・映像等の多読・多聴にチャレンジすることが望ましい。テキストや資料の予習・復習、さまざまな文章表現課題等を宿題とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田中真理／阿部新（2014）『Good Writing へのパスポート 読み手と構成を意識した日本語ライティング』（くろしお出版、¥2000 +税）

【参考書】

・近藤裕子他（2019）『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』ひつじ書房、・深澤のぞみ他（2018）『21世紀のカレッジ・ジャパニーズ 大学生のための日本語で読み解き、伝えるスキル』国書刊行会など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %，課題等提出物 50 %，期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

20年度の授業内容、課題の量は良かった、学生のレベルが上がってきたら授業のレベルも上げてほしい、との意見があったので、大筋は20年度の内容（期末レポート作成を目指す授業構成）とし、新たに日本人学生向けのテキストを使用し、さまざまなジャンルやレベルに対応する予定。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてPC等使用。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200EA

日本語3-I

村上 佳恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論証型のレポートの作成方法を学ぶ。資料を読み、情報を整理し、論理的に自分の考えをまとめる力を養う。

【到達目標】

- ①論理的なレポートを作成することができる。
- ②メール等、目的・場面に応じた適切な文書を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、ZOOM を使用してオンラインで行う。受講生は、事前課題に取り組んだうえで授業に参加する。授業では教員の講義を聞いたり受講生同士で話し合ったりし、事後課題として文書作成に取り組む。課題については、教員が授業で解説を行うとともに個別に添削を行う。なお、授業計画については、授業の展開により若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方を知る。
第2回	文章の構成	パラグラフ・ライティングで文章を書く。
第3回	ナラティブ	自分について語る文章を書く。
第4回	描写	図表の説明文を書く。
第5回	説明1	手順を説明する。
第6回	説明2	事物の分類をする。
第7回	説明3	事物を比較・対照する。
第8回	説明4	原因と結果を説明する。
第9回	レポートの作成1	情報を収集する。
第10回	論証	論証する。
第11回	レポートの作成2	アウトラインを作成する。
第12回	レポートの作成3	アウトラインを検討する。
第13回	レポートの作成4	レポートを執筆する。
第14回	ピア・レスポンス	完成したレポートを読み合い修正を加える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。受講生は、各回の課題の文章を作成したり、レポートの作成に必要な資料を読んだりする。

【テキスト（教科書）】

田中真理・阿部新（2014）『Good Writing へのパスポート』くろしお出版（2,000円税抜き）

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %，課題等提出物 40 %，期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

オンライン上でのファイルの配布や共有等に複数の方法が用いられることにに対し負担が大きいとの意見がありました。わかりやすい方法でファイルの配信等を行っていきたいと思います。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to write coherent and academically supported essays, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200EA

日本語3-II

宮本 典以子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】

- ①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
- ②時事問題や専門分野等について、自分の意見を発表することができる。
- ③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、情報のわかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて計画的に情報収集をし、発表原稿、スライドを作成し、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、積極的に質問したりコメントしたりする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第2回	情報のまとめ方と伝え方 発表①	情報をまとめて他者に伝える 課題1（夏休み語彙表現課題）についてグループで発表する。
第3回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第4回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第5回	発表③ プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第6回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第7回	発表④ スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第8回	発表⑤ 発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第9回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第10回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第11回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第12回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第13回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第14回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。必要に応じて資料・タスクシートを配付する。

【参考書】

仁科浩美『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版、2020、など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %，課題等提出物 30 %，期末プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】

授業内容、課題の量は概ね良かったとの意見から、期末プレゼンテーションを目指す授業を継続する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてPC等使用する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200EA

日本語3-II

宮本 典以子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】

- ①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
- ②時事問題や専門分野等について、自分の意見を発表することができる。
- ③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、情報のわかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて計画的に情報収集をし、発表原稿、スライドを作成し、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、積極的に質問したりコメントしたりする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第2回	情報のまとめ方と伝え方 発表①	情報をまとめて他者に伝える 課題1（夏休み語彙表現課題）についてグループで発表する。
第3回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第4回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第5回	発表③ プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第6回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第7回	発表④ スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第8回	発表⑤ 発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第9回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第10回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第11回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第12回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第13回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第14回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。必要に応じて資料・タスクシートを配付する。

【参考書】

仁科浩美『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版、2020、など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、課題等提出物 30 %、期末プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】

授業内容、課題の量は概ね良かったとの意見から、期末プレゼンテーションを目指す授業を継続する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてPC等使用する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200EA

日本語3-II

宮本 典以子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】

- ①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
- ②時事問題や専門分野等について、自分の意見を発表することができる。
- ③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、情報のわかりやすい伝え方等、口頭表現の技術を学んだ後で、クラスでプレゼンテーションを行い、振り返りを行う。受講生は、期末プレゼンテーションに向けて計画的に情報収集をし、発表原稿、スライドを作成し、発表の準備を行う。またクラスメートの発表の際は、積極的に質問したりコメントしたりする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 発表準備（発表テーマを考える）	わかりやすい発表、論理的な発表とはどのようなものかを考える、発表①を準備する。
第2回	情報のまとめ方と伝え方 発表①	情報をまとめて他者に伝える 課題1（夏休み語彙表現課題）についてグループで発表する。
第3回	発表②意見とその理由について説明する	身近な問題とその理由を他者に伝え、他者に質問するアクティビティを行う。
第4回	プレゼンテーションの準備（アウトライン作成）	プレゼンテーションの実例から発表の実際を知り、自分のプレゼンテーションのアウトラインを作成する。
第5回	発表③ プレゼンテーションのアウトライン検討	プレゼンテーションのアウトラインについて発表し、改善点を検討する。
第6回	プレゼンのコツとは？、スライド案、発表原稿案作成	プレゼンのコツについての資料を視聴し、スライド案を作成する。
第7回	発表④ スライド案検討	グループでスライド案を発表し、改善点を検討する。発表原稿を執筆する。
第8回	発表⑤ 発表練習、質疑応答の練習	質疑応答の方法を学び、練習する。発表原稿、スライドを完成し発表練習する。
第9回	受講生によるプレゼンテーション①	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第10回	受講生によるプレゼンテーション②	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第11回	受講生によるプレゼンテーション③	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第12回	受講生によるプレゼンテーション④	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第13回	受講生によるプレゼンテーション⑤	受講生による発表と質疑応答、相互評価、自己評価を行う
第14回	まとめと振り返り	発表の振り返りを行い、この授業での学びを振り返りシートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解資料、聴解資料の語彙や表現については、自分でノートにまとめる等、随時、予習・復習を行うこと。プレゼンテーションのスライド作成、発表原稿作成などは宿題とすることもある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。必要に応じて資料・タスクシートを配付する。

【参考書】

仁科浩美『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』くろしお出版、2020、など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、課題等提出物 30 %、期末プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】

授業内容、課題の量は概ね良かったとの意見から、期末プレゼンテーションを目指す授業を継続する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてPC等使用する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

LANj200EA

日本語3-II

村上 佳恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、論理的に話す力を養う。ニュース、新聞、専門の書籍等から情報をまとめ、論理的に自分の考えを発表する力を養う。

【到達目標】

- ①時事問題や専門分野等についての情報をまとめることができる。
- ②時事問題や専門分野等について、自分の意見を発表することができる。
- ③時事問題や専門分野等について、討論をしたり、質疑応答をしたりできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、ZOOMを使用しオンラインで行う。授業は、受講生の発表を中心に進める。各自、テーマを設定し情報を収集し発表する。課題については教員が授業で解説を行うとともに個別に添削する。なお、授業計画については授業の展開により、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。
第2回	情報のまとめ方と伝え方	ニュースや新聞の情報をまとめて他者に伝える。
第3回	出来事の原因を話す	身近な問題とその原因を他者に伝える。
第4回	グループ発表1	社会の現象とその原因を発表する準備をする。
第5回	グループ発表2	グループで社会の現象とその原因を発表する。
第6回	グループ発表3	主張と根拠を発表する準備をする。
第7回	グループ発表4	グループで主張と根拠を発表する。
第8回	質疑応答の方法	質疑応答の練習をする。
第9回	受講生による発表1	受講生が発表する。
第10回	受講生による発表2	受講生が発表する。
第11回	受講生による発表3	受講生が発表する。
第12回	受講生による発表4	受講生が発表する。
第13回	受講生による発表5	受講生が発表する。
第14回	まとめとレポートの作成	この授業で学んだことをレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とする。受講生は、発表の準備に取り組む。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料をオンラインで配布する。

【参考書】

仁科浩美『留学生のための考えを伝えようプレゼンテーション』（2020）くろしお出版

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、発表40%、課題等提出物（期末レポートを含む）40%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン上でのファイルの配布や共有等に複数の方法が用いられることに対し負担が大きいとの意見がありました。わかりやすい方法でファイルの配信等を行っていききたいと思います。

【Outline and objectives】

On this course, you will learn how to make a coherent presentation, based on texts related to academic topics dealt with in class.

SOC300ED

ニュース・ライティング

飯田 裕美子

サブタイトル：取材文章実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカデミックな論文と違い、ジャーナリズムでは、事実をできるだけ平易な言葉で、具体的に書くことが重要です。そのために必要なのは、取材相手にもう一步踏み込んでディテールを聞き出す質問力です。ズームの利点を生かし、普段会えないような人にインタビューし、記事を書いてみましょう。講師は、実務経験に基づく添削や書き方の提案をみなさんにフィードバックします。鳥の目より虫の目で、具体的に文章を書く力を身につければ、どんな仕事につくにせよ、社会人生活に必ず役立つ力になると思います。

【到達目標】

文章が具体的に書けるようになるには、ざっくりした理解で満足せず、相手の内側に踏み込んでいく取材が不可欠です。取材演習を通じ、「この言葉が引き出せたから、記事が成功した」という体験をたくさんしていただきたいと思えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

6回の記事作成は、①取材・インタビュー②記事を書く③互いに読み合うの3ステップを繰り返します。①はズームを使って授業時間にみなさん一緒にやります。②は各自で作業し、メールで提出をお願いします。③は学習支援システムの「授業内掲示板」やズームを使用します、変更もあり得ますので、毎回、学習支援システムの「お知らせ」とメールで案内します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	取材の手法	ニュース記事の特徴
2	インタビュー1	人から話を引き出すコツ
3	講評と研究	互いに読み合う。どの記事が印象的か
4	インタビュー2	その人からしか聞けないことは？
5	講評と研究	ググっても出てこない事実はあるか
6	インタビュー3	下調べと質問力
7	講評と研究	具体的に聞く・書くとは
8	ニュース記事を読む	最近の新聞報道を中心に
9	インタビュー4	対立する意見を扱う
10	講評と研究	読者に考える材料を与えられたか
11	インタビュー5	伝える技術
12	講評と研究	エントリーシート講座もやります
13	自由課題	あなたの最も書きたいことは？
14	講評とまとめ	自由課題、楽しみにしています！

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

記事は授業後に各自で書き、5日以内にメールで提出。長さは毎回800～1000字程度です。授業後の記事作成は2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。必要な資料は配布します。

【参考書】

そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

6回の記事作成（80%）と平常点（20%）で評価します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

学生生活に身近なテーマから取材対象を選んでいます。

【学生が準備すべき機器他】

ズームを使える環境をお願いします。カメラ・音声オンで参加してください。

【その他の重要事項】

講師は、通信社で記者17年、デスク・編集委員10年以上の実務経験があります。採用担当部長の経験もあり、学生さんのエントリーシートをたくさん読んできました。メディアの仕事に興味をもつ方を特に歓迎しますが、限定ではありません。質問や文章に関する相談はメールでも受け付けます。

【Outline and objectives】

This course introduces news writing. The aim is to help students acquire the skill to write specifically, not theoretically.

SOC300ED

ニュース・ライティング

別府 三奈子

サブタイトル：取材文章実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

報道写真を通して、ジャーナリズムの理解を深める。ニュース価値、取材倫理、ビジュアルコミュニケーション、リアルとフェイク、絵で伝える、光で描く、といったことを座学や事例観察で学び、かつ、半期を通して撮影の実践を重ねる。

【到達目標】

実践を通して、公的記録としてのニュース写真の表現手法と意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業。学外のプロフェッショナルに ZOOM で授業に参加していただき、共同指導を行う。報道写真の実践については、各自が授業外で撮影を行う。課題提出に対する評価・フィードバックを重ね、実践力を高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	報道写真って何？
第2回	良い写真と悪い写真	著名人の写真観察
第3回	写真批評1	身の回りの人を撮る
第4回	事例観察：瞬間の記憶	アンリ・カルティエ・ブレッソン
第5回	写真批評2	ポートレートを撮る
第6回	論争：撮るべきか？	事例観察：ハゲタカと少女
第7回	報道写真の倫理	被写体との関係性をどう考えるのか
第8回	写真批評3	ポートレートの組み写真を撮る
第9回	写真の歴史	世界編
第10回	写真の歴史	日本編
第11回	写真批評4	ポートレートの組み写真を編集する
第12回	星山道夫さんから学ぶ	好きなことを極める、ということ
第13回	企画書の作成	報道カメラマンとして企画する
第14回	最終発表	ポートレートの組み写真

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

撮影の実習は、授業時間外で各自で行う。毎週数時間を要する。

【テキスト（教科書）】

指定教材は使わない。授業内で映像素材を提供する。

【参考書】

『ビュリツァー賞 受賞写真 全記録 第2版』ハル・ビュエル編、ナショナル・ジオグラフィック編、日経ナショナルジオグラフィック社、2015年

【成績評価の方法と基準】

授業内討議 30%、作品制作 70%

【学生の意見等からの気づき】

ジャーナリズムに関する基礎知識を補足する。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具。学外から図書館データベースに入れるように準備してください。あればデジタル一眼レフ。なければ、スマホでも可。

【Outline and objectives】

Learn the news value and two sentence structures for articles as public records. In the second half, he ponders the significance of recording people through the creation of a portrait book, "That Day 75 Years Ago."

SOC100EC

人間・社会論

荒井 容子

サブタイトル：人間・社会論A

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会問題と格闘する人々の事例・思想について学び、自分の感じ方・考え方・生き方と対比させながら、人間と社会に対する感性を豊かにし、認識を深めていくことを目的とする。

【到達目標】

人間と社会の関係を、自分自身のものの見方・考え方・生き方を問い返ししながら、深くとらえ、社会問題をとらえる感性、認識の深化に自覚的になることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

社会問題と格闘する人々の事例及び思想について自分の感じ方、考えを問い直す。その上でバズセッション（受講者同士の小グループ討議と討議結果の全体での共有）に臨む。この過程で社会問題を感じ取り、問題に取り組もうとする能動性につながる感性を磨き、人間と社会に関する認識を深めていく。宿題は講義内の受講生との討議の前後でのコメントをすることで、また感想・意見については提出された後の講義の中で適宜取り上げることで、フィードバックする。最終課題については宿題同様の形で、最後の講義での討議の中でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第1ラウンド 感じとる カーセンス・オブ・ワンダー-自然、そして社会へ	「センス・オブ・ワンダー」とはなんだろー『子どもの文化権と文化的参加』他から
2	第1ラウンド 感じとる カーセンス・オブ・ワンダー-自然、そして社会へ	レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』をもとに考える。
3	第1ラウンド 感じとる カーセンス・オブ・ワンダー-自然、そして社会へ	レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』と『沈黙の春』をつなぐもの。
4	第2ラウンド 社会の矛盾をつくる眼差しはどこからくるのか	「ガタロさん」の眼差し。
5	第2ラウンド 社会の矛盾をつくる眼差しはどこからくるのか	自閉症の東田直樹さんの眼差し。
6	第2ラウンド 社会の矛盾をつくる眼差しはどこからくるのか	パウロ・フレイレの識字教育実践—非抑圧者の人間化—
7	第2ラウンド 社会の矛盾をつくる眼差しはどこからくるのか	夜間中学の教師がとらえた、学習者の「学ぶ」力。
8	第3ラウンド 「死」から「生」へ	山崎章郎『病院で死ぬということ』の問題提起をどうとらえるか。
9	第3ラウンド 「死」から「生」へ	死に向き合った生—そこから「人間と社会」をどのように感じとることができるか。
10	第4ラウンド 貧困・格差問題 再考	NHK 番組「ワーキングプア」I～働いても働いても豊かになれない～（2006年7月放映）、II～努力すれば抜け出せますか～（2006年12月）の感想をもとにバズセッション
11	第4ラウンド 貧困・格差問題 再考	人間にとっての「働く」意味 調査結果（宿題）とNHK番組「ワーキングプア」III（2007年）から考える
12	第5ラウンド 社会と人間—原理的な問いを受けとめて	ジャンジャック・ルソ（ルソー）『人間不平等起源論』の問題提起について
13	第5ラウンド 社会と人間—原理的な問いを受けとめて	ジャンジャック・ルソ『社会契約論』と『エミール（エミール）』の構造
14	第6ラウンド 総括討議	各自のレポートをもとにバズセッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前に宿題を提出してもらう。宿題の中には、オンラインで提供するビデオ鑑賞したうえで書いてもらうものもある。宿題として提出したものは手元で見ることができるようにしておき、講義当日はそれをもとにバズセッション（グループ討議）を行う。グループ討議の内容はその場で担当者が記録し、記録者はそれをもとに、直後に行う全体の場で報告する。このグループ討議の記録は担当者が講義後に、学習支援システムを通じて提出してもらう。講義の感想や討議をへての追加の意見等、感想・意見は講義後に学習支援システムを通じて提出してもらう。

従って、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布する資料と授業計画で記述している文献、映像（オンラインで提供す）。

【参考書】

授業計画で言及している文献のほか、講義時に紹介するものなど。

【成績評価の方法と基準】

毎回事前に提出を求める宿題と、講義後に提出する講義内容等への感想・意見（本人が内省する契機とするためのものであるため、執筆者自身にとって無意味と思われることや名前だけの記述等は減点とする）を 50 %、授業内試験として学期末に提出してもらう最終レポートを 50 % で評価する。この最終レポートをもとにしたバズ・セッションへの参加は単位取得のための必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

宿題、感想・意見の締切に気づかない学生には注意を喚起する必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムによる「お知らせ」を通じて講義に関する指示を出すこともあるので、「お知らせ」の e メールが確実に自分に届くようにしておくこと。全学行動制限が「0」になるまでは、オンラインでバーチャル教室を使うので、安定してオンラインにアクセスし、音声対話ができる環境を整えておくこと。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to gain profound understanding about the people and society together with sensitivity about them. Some stories that people fight the social problems or some hardship they have faced will be provided. Students will discuss about them in “buzz sessions” (small-group discussions) and will give presentations in the classroom.

SOC200EA

人間論

鈴木 智之

サブタイトル：人間論A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本年度は、「この身体を生きる」と題して、「人間」存在の基盤としての「身体」と「生命」について、人文社会科学的な視点から考察することを目指す。

【到達目標】

私たちは、身体的な存在として、この世界の中に投げ込まれている。身体は、「私」そのものであると同時に、「私」がなにごとか行う上での条件でもある。

身体的な所与との関係において、私たちの生活はどのように形作られていくのか。「身体的存在」としての「私」は、どのように他者と関わり、自己を実現していくのか。

本年度は、さまざまな「疾患」や「障害」に着目しながら、「身体を生きる」ものとしての人間のありようを考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

当面のあいだ、オンラインで「教材」を提示することによって講義を進める。毎週、木曜日の夕方（5 時間目が始まる時間）までに教材を提示するので、原則としてその日の内に確認すること。

毎回リアクションペーパーの提出を求め、そのなかから選んで、次週にリプライを示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	身体的な存在としての人間
第 2 回	チューブとしての身体	三木成夫の身体論から
第 3 回	身体の発生	ジェイミー・デヴィス『人体はこうして作られる』を中心に
第 4 回	この心臓を生きる	先天性心疾患とともに生きる人の語りから
第 5 回	他者の心臓を生きる	J-L. ナンシー『侵入者』から
第 6 回	自己免疫疾患を生きる	C. マラン『私の外で』から
第 7 回	植物状態を生きる	A. オーウェン『生存する意識』と西村ユミ『語りかける身体』から
第 8 回	A L S を生きる	伊藤智樹『開かれた身体との対話』を中心に
第 9 回	しびれている身体を生きる	坂井志織『しびれている身体で生きる』から
第 10 回	吃音を生きる	伊藤亜紗『どもる体』を中心に
第 11 回	身体の偶発性を生きる	磯野満穂・宮野真生子『急に具合が悪くなる』を読みながら
第 12 回	破局的経験と生命の可塑性	C. マラン『病い—内なる破局』から
第 13 回	生命と破壊的の可塑性	C. マラブー『偶発事存在論』から
第 14 回	まとめ	講義全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で参考にするテキストを指定する。そのテキストを読んだ上で、講義にのぞむことを原則とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

随時指示する

【成績評価の方法と基準】

出席は評価に関与しない。レポート（論文試験）によって評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでの講義は、教員学生双方の主體的な関わりが、いつも以上に求められます。積極的な受講を期待しています。

【その他の重要事項】

講義のプログラムは進めていく中で変更することもあります。

【Outline and objectives】

The aims of this lecture are to inquire the points of view to understand the human being as bodily existence and to describe the concrete situations of illness and disability. .

HUI200ED

認知映像論

小川 有希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、映像表現の在り方、および「映像作品を見る」という人間の行為について改めて問い直し、再考する授業である。映像作品の中でも、主に映画を取り上げる。今日、映像表現が私たちの生活に深く入り込んでいることを、様々な作品の鑑賞を通して学ぶ。また、映像を見る際の人間の認知（いわゆる心）について基礎的な知識を習得しながら、映像作品ひいては芸術全般と人間の関係性を考察していく。これらの講義に2回の映像作品鑑賞実習を交え、映像を見ることによって生じる人間の心の揺れ動きを、生で体感する。

【到達目標】

映像・映画の歴史と変遷を踏まえて、今日の映像表現（特に映画）がどのような状況にあるのかを統合的に理解できるようになることを1つ目の目標とする。それに基づき、人間の映像認知の特性や、人間と映像の関係性について、自分なりに分析考察できるようになることを2つ目の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では多くの映像に実際に接し、認知的に生じる効果について、皆さんが提出するレポートやリアクションペーパーを基に議論していく。なお、本講義を教室で実施する場合は授業開始30分後以降の教室への入室を禁じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入	授業の概要説明、映像を見ることへのイントロダクション
第2回	メディアの歴史、映像の歴史	メディアの変遷と、映像・映画の誕生について
第3回	映像表現の理論(1)	映像・映画の仕組みと、初期の映画について
第4回	映像表現の理論(2)	ストーリーを認知するプロセスについて
第5回	第1回レポート課題	第1回レポート課題映像の上映
第6回	第1回レポート課題映像の解説	関連する作家や作品にも触れながら、課題映像について考察する
第7回	人間の心の理論(1)	感情移入と共感について
第8回	人間の心の理論(2)	感情移入と異化効果について
第9回	第2回レポート課題	第2回レポート課題映像の上映
第10回	第2回レポート課題映像の解説	関連する作家や作品にも触れながら、課題映像について考察する
第11回	芸術の理論	主として近代以降の芸術の変遷について
第12回	映像表現とリアリズム(1)	映像作品の細部を見る観点について
第13回	映像表現とリアリズム(2)	今日の映像表現の可能性について
第14回	まとめと授業内論文	半期の授業のまとめと、それに基づいた論文執筆・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業を復習し、次週までに自分なりに理解を深めておくこと。授業後は関連する映像を自主的に見てみる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

2回のレポート提出60%（1回あたり30%）、最終授業内論文40%をおよその配分として、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義を教室で実施する場合、映像上映中は一切の電子機器の使用を禁じる。時間を見るのにも使わないこと。映像鑑賞環境の構築にご協力お願いいたします。

【その他の重要事項】

レポート課題映像を上映する日は早い時間に教室を閉め切るので、遅刻しないこと。

【Outline and objectives】

This course deals with the techniques of film and images, rhetoric, narrative, and cognition.

HUI300ED

認知科学

森 健治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの日常生活は、私たち自身すら意識しない知的な諸活動、すなわち認知機能の働きによって成り立っている。本講義は、人の生活を支える認知機能の仕組みをテーマとする。受講生は、記憶や注意など基礎的な認知の諸特性とその仕組みを学ぶ。さらに、ヒューマンエラー、認知の高齢化などのメカニズムを理解することで、私たちの日常生活と認知機能の関係を深く理解し、また、社会を分析的に捉えることが出来るようになる。

【到達目標】

基礎的な認知の働きとメカニズムについて説明することができる。また、その働きを踏まえ、私たちの日常場面を対象として、人間の諸活動を分析的に理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各回のテーマについて講義形式で学習する。記憶や注意などの基礎的な認知機能の理解から始め、人工物（モノ）の利用など、日常場面での認知の働きについて学習を進める。学習支援システムを用いた質問への回答と、全体へのフィードバックを適宜行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本講義の目的と目標を理解する
2	認知とは何か	私たちの「知」の捉え方を知る
3	記憶の多段階モデル	記憶のメカニズムを理解する
4	注意とは何か	注意の働きを理解する
5	記憶と注意のまとめ	記憶・注意のまとめと展開
6	ヒューマンエラー 1	人の失敗のメカニズムを学ぶ
7	ヒューマンエラー 2	社会生活におけるエラー発生と予防について
8	知識表現	知識がいかに蓄えられているか
9	問題解決	問題の解決過程を知る
10	認知的高齢化 1	加齢による認知機能の変化を学ぶ
11	認知的高齢化 2	認知加齢を理解し高齢社会を捉える
12	使いやすさの認知科学	モノの利用と認知、使いやすさについて学ぶ
13	魅力的なデザインと認知	感情、認知、ユーザ体験を考慮したデザインを学ぶ
14	総まとめ	まとめと復習、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の内容の理解に努め、分からない箇所については質問をする。講義を欠席した場合は、学習支援システムから配布資料を取得する。講義時間外の学習として、講義の復習及び紹介文献等の確認を推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

講義時に適宜紹介します（各回の配布資料に記載します）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を成績評価対象とします（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

受講生から受け取った質問やコメントを参考に、より分かりやすい講義とする。とともに、学習内容により興味をもって頂けるよう努めます。特に、人間の認知機能と私たちの日常生活、社会との関わりをより理解できるように、講義で取りあげる話題や事例を工夫した講義内容にします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や質疑応答のため、学習支援システムを利用できる環境を準備してください。

【Outline and objectives】

The theme of this lecture is the mechanism of the cognitive functions that support human life. Students learn about various characteristics of cognition such as memory, attention, and their mechanisms. Furthermore, by understanding the mechanisms such as human error and cognitive aging, students will be able to analytically comprehend our everyday life and society.

EDU200EC

発達・教育の理論 I

山下 大厚

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の歴史と思想、および人間発達の理論の形成と展開について学ぶ。

【到達目標】

主要な教育思想、発達論について理解し、歴史の中で子供たちの処遇はどう変化し、今またどうあるべきなのか、考える手立てを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。振り返りテストや小レポートで学習状況を確認するが、その都度、講評し、疑問や感想にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと受講上の注意	education の語源と「発達」/教育を受ける権利と子供の権利条約
第 2 回	人間の発達とは何か	人類史と霊長類研究における人の発達
第 3 回	子供（親）の歴史	前近代の産育/ルソーの「子供の発見」とアリエスの「子供の誕生」
第 4 回	児童中心主義の展開	ペスタロッチ/オーエン/フレール/エレン・ケイ/モンテッソーリ
第 5 回	近代公教育の展開	国民国家と義務教育/ヘルバルト派と新教育
第 6 回	近世、近代日本の教育思想	世阿弥/貝原益軒/福沢諭吉/森有礼
第 7 回	進歩主義教育の展開	デュルケム/デューイ/ラッセル
第 8 回	戦中・戦後の教育と人間観	戦時下の教育/戦後教育改革/高度経済成長と人的能力開発
第 9 回	発達の科学のはじまり	ダーウィン/ビネー/ワトソン/ゲゼル
第 10 回	発達の諸理論 (1)	ピアジェ/ヴィゴツキー/ブルーナー
第 11 回	発達の諸理論 (2)	バンデューラ/ボウルビー/クライン
第 12 回	発達の諸理論 (3)	A・フロイト/エリクソン/チョドロウ
第 13 回	近代学校教育への批判	再生産、脱学校、フリースクールほか
第 14 回	教育における今日的課題	神経科学時代の子供と教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。教材の予習、振り返りテストを活用した復習により理解を深めること。また、普段から子供・教育・学校に関する話題や報道にも関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

上笠一郎ほか編, 1977, 『日本子どもの歴史 1～7』 第一法規。ジョージ・バターワース, ハリス・マーガレット, 1997, 『発達心理学の基本を学ぶ：人間発達の生物学的・文化的基盤』 ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：振り返りテスト (50%) と小レポート (50%)。評価の基準：振り返りテストは、学習内容の確認、小レポートについては、そのときのテーマを適切に理解し、自らの意見や疑問が述べられているか評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年のオンライン授業では様々な要望があり、それに応えようと努めたが、大半の受講生は当初の緊張の糸が、いつの間にか切れてしまったようにみえた。今後も改善に勤しむが、自らの学習姿勢についても改めて点検して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

質問などは学習支援システムの掲示板やメールで受け付ける。なお、この科目は発達・教育の理論 II と併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces the modern/pres-modern history of education, philosophy of education and theories of human development to students taking this course.

EDU300EC

発達・教育の理論Ⅱ

山下 大厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新たな学習・学力、地域との連携、危機管理、多様性の包摂など「改革」が学校教育に求められる背景と課題、公教育を支える教育行政、学校経営、教員の役割に生じた新たな課題などについて理解する。

【到達目標】

社会の変化と課題、あるいはまた地域に対して「開かれた学校」であることが求められ、その対応が、学校の社会的・制度的・経営的課題となっている。「開かれた学校」づくりの意味と課題、問題点について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料や映像を用いて行なう。振り返りテストや小レポートはその都度、講評し疑問や感想に応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと受講上の注意	公教育を取り巻く現代的課題と「改革」を迫られる学校
第2回	公教育制度の基盤	公教育の原理と理念、教育法体系
第3回	公教育制度の行政と組織	教育行政機構及び学校組織と教員組織
第4回	学力とカリキュラム行政	「新しい学力」と教育課程行政
第5回	教育機会の保障と基盤	改正教育基本法と教育財政
第6回	教職員の働き方改革	改革のポイントと問題点
第7回	学校のガバナンス	学校経営とアカウンタビリティ
第8回	地域と連携協働する学校	コミュニティスクールの目的と課題
第9回	学級制度と学級経営	担任の職務と学級経営の課題
第10回	危機管理と安全教育	事故災害、いじめ、ハラスメントの対応
第11回	多様性の包摂と機会保障	不登校、LGBT、外国籍などへの対応
第12回	インクルーシブ教育	特別の支援や配慮が必要な子どもたち
第13回	非行少年の社会的包摂	自立支援、更生を支える仕組みと課題
第14回	学習指導要領の変遷	昭和と平成の教育は何を求めてきたか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。教材の予習、振り返りテストを活用した復習により理解を深めること。また、普段から子供・教育・学校に関する話題や報道にも関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）／佐藤晴雄,2017,『コミュニティ・スクールの成果と展望:スクール・ガバナンスとソーシャル・キャピタルとしての役割』ミネルヴァ書房／グループ・ディダクティカ編,2012,『教師になること、教師であり続けること—困難の中の希望—』勁草書房／田中正博,佐藤晴雄,2013,『教育のリスクマネジメント—子ども・学校を危機から守るために』時事通信出版局

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：振り返りテスト（50%）と小レポート（50%）。評価の基準：振り返りテストは、学習内容の確認、小レポートについては、そのときのテーマを適切に理解し、自らの意見や疑問が述べられているか評価する。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業の進め方については、未だ試行錯誤しながら改善を模索しているが、受講生の皆さん方にも、自らの学習姿勢について改めて点検を望む。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には必ず連絡の取れるメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

質問などは学習支援システムの掲示板やメールで受け付ける。この授業は、発達・教育の理論Ⅰと併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces the current education reform in Japan and the discussion of its social background and problems to students taking this course.

ART100EC

表象文化論A

高橋 愛

サブタイトル：文化表象論

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は自らが生きる世界を多様なシステムを通じて表象し、その行為によって、たえず文化を創造、展開してきた。本授業の目的は、さまざまな文化事象の歴史的脈や時代の政治的・社会的背景を検討し、表象を成り立たせている諸要素や様態について考察することである。

【到達目標】

本授業では、言語テキスト、絵画、写真、映画、建築などのジャンルを横断しながら、個々の作品がいかなる歴史的・社会的脈において制作され、いかなる装置によって表象されたのかを考え、文化事象を読み解く方法を提示する。それを手がかりとして、受講生は各自が関心を持つ対象にアプローチし、広い視野をもって、解析する。さらに、自ら適切に表現することもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、授業の内容に関する受講生の質問等にも応じ、議論を深める。具体的な方法については「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示する。
・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容と方法の説明
2	中世（1）	聖地巡礼とロマネスク聖堂
3	中世（2）	ゴシック大聖堂と聖母崇拜
4	ルネサンス	フランス・ルネサンス運動
5	古典時代（1）	ヴェルサイユ宮殿と宮廷文化
6	古典時代（2）	市民社会と思想・文化
7	近代（1）	ナポレオン伝説
8	近代（2）	産業革命とリアリズムの興隆
9	近代（3）	オスマンのバリ大改造と首都風景、芸術活動
10	近代（4）	世紀末芸術
11	現代（1）	エッフェル塔とパリ
12	現代（2）	モダニズム
13	現代（3）	今世紀にみる文化の継承と発展
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内容に関するレポート課題（中間・期末の2回）で評価する。成績評価の内訳は、中間レポート（50%）と期末レポート（50%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

2021年度も随時アクチュアルなテーマを交えて授業を進めたい。

【Outline and objectives】

The main aims of this course are to help students understand the various cultural phenomena in Europe and deepen knowledge of cultural representation.

ART200EC

表象文化論 B

野田 吉郎

サブタイトル：芸術文化論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「表象」の分析という観点から、日本の戦後美術へのさまざまなアプローチを試みる。また、20 世紀後半から現代までの通史的な考察を行い、世界美術史における日本の戦後美術、現代美術の特殊性について学ぶ。

【到達目標】

- 1) 日本の戦後美術に関する基礎知識を身につける。
- 2) 現代美術の作品を多角的に分析する能力を養う。
- 3) 獲得した知識と能力を美術以外の芸術文化の学習に生かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

レジュメとパワーポイントを用いて講義を行う。課題等の提出とフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスの解説と補足、導入
2	記憶	原爆の図
3	物質	肉体絵画
4	記録	ルポルタージュ絵画
5	アクション (1)	具体美術協会
6	アクション (2)	反芸術のパフォーマンス
7	ジェンダー	アンチ・アクション
8	映像鑑賞	未定
9	メディア	実験工房
10	環境	環境芸術、万博芸術
11	制度 (1)	もの派
12	制度 (2)	美術館
13	歴史	悪い場所
14	まとめと期末試験	総論、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 授業で指示された課題（リアクションペーパー、レポート）に取り組む。
- 2) 授業で紹介された参考文献を読み、知識を広げる（本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点…… 20 %
レポート課題…… 30 %
期末試験…… 50 %

【学生の意見等からの気づき】

社会学部で開講する意義を確かめながら授業を進めていきたいと考える。

【その他の重要事項】

授業に関連して展覧会鑑賞を求めることがある。その際の費用は自己負担となる。

【Outline and objectives】

This course introduces students to various approaches to postwar Japanese art.

SOC200EB, SOC200EC

福祉社会学 I

堅田 香緒里

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉が社会の中でどのような意味や機能をもつのかについて学ぶ。

【到達目標】

- 1) 福祉国家の歴史／学説史を理解する。
- 2) 現代社会における福祉の意味や機能ならびに課題を理解する。
- 3) これからの福祉社会を展望するために必要な基礎的能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、社会が福祉を必要としてきた背景やそれを支えてきた理念や規範について、福祉国家の歴史および学説史の検討を通して学ぶ。そのうえで、講義の後半では、現代社会における福祉の意味や課題を理解するために重要な幾つかの論点を取り上げ、解説する。これらを通して、これからの福祉社会を展望するために必要な基礎的能力を養うことを目的とする。
※なお、授業計画は、参加者の興味・関心および進捗状況に応じて変更の可能性もある。

※課題については、適宜授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉とは何か、必要とは何か
2	福祉国家とは何か	福祉国家の目的・編成・機能
3	福祉国家の歴史①生成期	救済法から戦後福祉国家誕生まで
4	福祉国家の歴史②拡大期	社会支出の増大、社会権の確立
5	福祉国家の歴史③危機と再編	右派からの批判、「新しい社会運動」による異議申し立て
6	福祉国家論①	産業主義理論、権力資源論から福祉レジーム論へ
7	福祉国家論②	福祉レジーム論の新展開、脱商品化と脱家族化
8	福祉国家論③	福祉レジーム論への批判と、新しいレジーム論
9	シティズンシップ	権利と義務、市民共和主義と自由主義、フェミニスト・シティズンシップ、国籍と難民
10	自由とセキュリティ	「生の保障」と「治安」、福祉国家の監視国家化
11	ケアと再生産	生産、再生産、ケア、家事労働
12	自立と依存	フェミニズム／障害学が投げかける問い
13	再分配と承認	「声」の政治、マイノリティ
14	福祉社会に向けて	福祉国家から福祉社会へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマに関わる文献やニュースから情報を積極的に集め、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】

武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明（2020）『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業毎に設定する課題の提出 40 %、最終レポート 60 %で行う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの応答を引き続き積極的に行う。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the history and the function of modern welfare state.

SOC300EB, SOC300EC

福祉社会学Ⅱ

堅田 香緒里

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

福祉政策および周辺の諸政策について学び、そのうえで、今日の福祉政策が抱える課題やそれを克服するための展望について考える。

【到達目標】

- 1) 既存の福祉政策の内容や目的・背景にある規範を理解する。
- 2) 福祉政策が現在直面している課題について理解する。
- 3) これからの福祉政策のあり方について各々が展望する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

今日、福祉国家を支えてきた様々な社会的諸条件が揺らぐ中、福祉政策の再編が進行しつつある。こうした現代の文脈を踏まえ、講義の前半では、とりわけ日本の福祉政策および周辺の諸政策を取り上げ、その目的・内容及び背景にある規範について学ぶ。講義の後半では、これらの福祉政策が現代社会において直面している諸課題を検討し、それを克服するために近年検討されている新しい政策構想に触れ、これからの福祉政策のあり方を展望する。
※授業計画は、参加者の興味・関心や進捗状況に応じて変更の可能性もある。
※課題については、適宜授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	福祉政策の目的・編成・機能
2	福祉政策の実際①： 障害者福祉	自立生活、介助サービス
3	福祉政策の実際②： 高齢者福祉	介護保険、介護労働、ケア
4	福祉政策の実際③： 子ども家庭福祉	社会手当、保育サービス、ソロマザードも家庭福祉
5	福祉政策の実際④： 所得者福祉	生活保護、生活福祉資金、生活困窮者支援
6	福祉政策の周辺①： 健康の保障	医療保険、予防的介入
7	福祉政策の周辺②： 教育の保障	教育政策、奨学金
8	福祉政策の周辺③： 住宅の保障	公営住宅、「ホームレス」政策
9	福祉政策の現代的課題①	雇用の不安定化に伴う諸課題
10	福祉政策の現代的課題②	家族の不安定化に伴う諸課題
11	福祉政策の現代的課題③	コミュニティの再編に伴う諸課題
12	新しい福祉政策①	ワークフェア
13	新しい福祉政策②	アクティベーション、参加所得
14	新しい福祉政策③	ベーシックインカム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマに関わる文献やニュースから情報を積極的に集め、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義は毎回の配布資料に沿って進めます。

【参考書】

武川正吾・森川美絵・井口高志・菊地英明（2020）『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、各回に設定する課題の提出 40 %、最終レポート 60 %で行う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出してもらったアクションペーパーへの授業内応答を、引き続き行う。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of challenges and prospects facing modern welfare state.

PHY100CA

物理学Ⅰ

藤田 貢崇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙はどのようにしてできたのか、宇宙にはなにがあるのか、また非常に小さなスケールの視点で、身の回りの物質がどのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、素粒子とはなにかを説明できること。さらに、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。
・これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
・提出期限は資料公開からおおむね 1 週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。
・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	ものはなにからできていますか	身の周りのものがどのようにできているかを理解する
4	素粒子の世界	原子のさらに微細な構造を理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	素粒子と力の関係	素粒子と力がどのように関係するかを理解する
7	宇宙の構造	宇宙はどのようなものでできているかを理解する
8	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
9	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
10	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
11	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
12	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する

- 13 粒子加速器 物質の研究を行う粒子加速器について理解する
- 14 科学技術が果たす役割 科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020年

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

・毎回の確認問題および小課題の提出【50%】

・最終課題の提出【50%】

の比率とし、得点率60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are origin of Universe, microscopic structures of matters, the laws of particle physics, and so on.

The course aims to understand the nature and structure of matters, as well as relation between science and society.

PHY100CA

物理学Ⅱ

藤田 貢崇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がまだまだ明らかにできない点は何であるのかを理解します。

また、科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

【到達目標】

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。

・これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。

・提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。

・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。

・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の実施方法・評価方法・教科書などについて説明する
2	物質はなにからできているか	物理学Bから学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学Aで学んだ内容のうち、原子の構成とクォークについて学ぶ
3	物質の構成要素はどのように結び付けられているか	物理学Bから学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学Aで学んだ内容のうち、素粒子の世界ではたらく力について学ぶ
4	素粒子の種類	素粒子は一体何種類あるのか、それらのはたらきとの関係は何かを理解する
5	電磁気力	電磁気力について詳しく理解する
6	弱い力	弱い力について詳しく理解する
7	重力	重力について詳しく理解する
8	強い力と中間子	中間子と強い力について詳しく理解する
9	ニュートリノ	ニュートリノについて理解する
10	素粒子を検出する方法	素粒子を検出する加速器や霧箱などについて理解する
11	放射能とはなにか	放射能とは何か、詳しく理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る

14 科学技術の未来 科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020年

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例: <http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

・毎回の確認問題および小課題の提出【50%】

・最終課題の提出【50%】

の比率とし、得点率60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are the structures of matters and quantum theories, and so on.

The course aims to understand the fundamental quantum physics as well as relation between science and society.

PHY100CA

物理学 I

藤田 貢崇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙はどのようにしてできたのか、宇宙にはなにがあるのか、また非常に小さなスケールの視点で、身の周りの物質がどのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、素粒子とはなにかを説明できること。

さらに、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。

・これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。

・提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。

・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。

・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	ものはなにからできていますか	身の周りのものがどのようにできているかを理解する
4	素粒子の世界	原子のさらに微細な構造を理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	素粒子と力の関係	素粒子と力がどのように関係するかを理解する
7	宇宙の構造	宇宙はどのようなものでできているかを理解する
8	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
9	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
10	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
11	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるかを理解する
12	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する

- 13 粒子加速器 物質の研究を行う粒子加速器について理解する
- 14 科学技術が果たす役割 科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020年

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

・毎回の確認問題および小課題の提出【50%】

・最終課題の提出【50%】

の比率とし、得点率60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are origin of Universe, microscopic structures of matters, the laws of particle physics, and so on.

The course aims to understand the nature and structure of matters, as well as relation between science and society.

PHY100CA

物理学Ⅱ

藤田 貢崇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がまだまだ明らかにできない点は何であるのかを理解します。

また、科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

【到達目標】

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。

・これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。

・提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。

・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。

・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の実施方法・評価方法・教科書などについて説明する
2	物質はなにからできているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、原子の構成とクォークについて学ぶ
3	物質の構成要素はどのように結び付けられているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、素粒子の世界ではたらく力について学ぶ
4	素粒子の種類	素粒子は一体何種類あるのか、それらはたたらきとの関係は何かを理解する
5	電磁気力	電磁気力について詳しく理解する
6	弱い力	弱い力について詳しく理解する
7	重力	重力について詳しく理解する
8	強い力と中間子	中間子と強い力について詳しく理解する
9	ニュートリノ	ニュートリノについて理解する
10	素粒子を検出する方法	素粒子を検出する加速器や霧箱などについて理解する
11	放射能とはなにか	放射能とは何か、詳しく理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る

14 科学技術の未来 科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020年

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例: <http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

・毎回の確認問題および小課題の提出【50%】

・最終課題の提出【50%】

の比率とし、得点率60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are the structures of matters and quantum theories, and so on.

The course aims to understand the fundamental quantum physics as well as relation between science and society.

LANf300EA,LANf400EA

フランス語上級A1・B1

高橋 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の成句的表現は、聖書やギリシャ・ローマ神話、フランスおよびヨーロッパの古典、有名な歴史上の出来事に由来しており、フランス文化のエッセンスであることは言を俟たない。本授業は『フランス語表現宝鑑』を通してこれらの成句的表現について読み、フランス語の力を向上させながら、フランス文化の重層性を理解することを目的とする。

【到達目標】

辞書を引き、授業内の教員の説明を通して、一般的なフランス語で書かれたある程度の長さの文章を読み、理解できるレベルを目指す。イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、さまざまなフランス語の文章を読むうえで必要となる表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・毎回、次週までに予習する箇所を教員が指定し、その箇所の文章を構文や時制などに注意しながら全員で読み進める。（予習の範囲を定め、難しいと思われるところはあらかじめ教員から説明するので、安心して臨んでほしい。）
・具体的な進め方については「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示する。
・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、教科書の説明
2	講読、第1回目	・ Sésame, ouvre-toi! ・ C'est la pomme de Newton
3	講読、第2回目	・ Le demi-monde ・ Les yeux d'Argus
4	講読、第3回目	・ Se porter comme le Pont-Neuf ・ Tuer la poule aux œufs d'or
5	講読、第4回目	・ Un narcissé
6	講読、第5回目	・ Une pomme de discorde ・ Un Don Quichotte
7	講読、第6回目	・ Attacher le grelot ・ Être médusé
8	講読、第7回目	・ Encore un moment, Monsieur le bourreau! ・ Le retour de l'enfant prodigue
9	講読、第8回目	・ L'argent n'a pas d'odeur ・ L'âne de Buridan ・ Adorer le veau d'or
10	講読、第9回目	・ Le Juif errant
11	講読、第10回目	・ La terre promise
12	講読、第11回目	・ Les bottes de sept lieues
13	講読、第12回目	・ Tendre l'autre joue
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次週の授業で読む部分を指定するので準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Sylvie Weil, Louise Rameau, 『フランス語表現宝鑑 第2集』 *Trésors des expressions françaises II* (中川信吾、原田佳彦編注)、駿河台出版社、1992年

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

宿題の取り組みも含めた授業への参加度を重視し、平常点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

予習をして難しかった部分や訳出しにくかったところは、遠慮なく質問してほしい。

[Outline and objectives]

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels.

LANf300EA,LANf400EA

フランス語上級A2・B2

瀬谷グロンダン アンヌオレリ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス文化や現代のフランス社会に関する知見・理解を深めるとともにフランス語の能力の向上を目指す授業。この授業はフランス語で行われ、毎授業ビデオ資料に基づき討論を行う。

【到達目標】

この授業の到達目標は、フランス文化への理解を深めることに加え、フランス語での話す、読む、聞く、これらのスキルが向上すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の具体的な進め方については、以下の通り

1. 届いた PDF ファイルを授業当日までに予習する。(毎週)

2.Zoom を通じて授業を実施する。

授業では、ビデオ資料を視聴します。その後、そのテーマについて、フランス語での討論を行います。(オンライン授業の場合は、事前にビデオの視聴をお願いいたします。)

毎週の予習 PDF の質問に対する回答を準備する。

討論のために、グループディスカッション及びロールプレイングゲームのようなグループアクティビティが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Le premier jour en France	初めてフランスに来る
2 回目	Les stéréotypes sur les Français	フランス人についての偏見
3 回目	La langue des signes	手話のこと
4 回目	L'auto-stop	フランスでヒッチハイク
5 回目	L'école à la maison	フランスのホームスクーリング
6 回目	Vivre dans une maison écologique	フランスでエコな暮らしを
7 回目	Vivre sur une péniche à Paris	パリで船上生活を楽しむ人々
8 回目	Vivre dans une « tiny house »	小さな家に暮らす
9 回目	Les films français	フランス映画
10 回目	Parlons de l'actualité en France (I)	フランスの時事 (I)
11 回目	Parlons de l'actualité en France (II)	フランスの時事 (II)
12 回目	Parlons de l'actualité en France (III)	フランスの時事 (III)
13 回目	Parlons de l'actualité en France (IV)	フランスの時事 (IV)
14 回目	Les Japonais en France dans les années 1960	パリの日本人コミュニティ (1960 年代)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PDF ファイルの予習 1 時間程度が必要。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

仏和・和仏の辞書が必須。

【成績評価の方法と基準】

レポート：40%

授業への取り組み（出欠と授業態度及び授業への参加）:60%

この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

In this class we will improve your understanding of French culture and French society.

This class will be conducted only in French, including the explanations. We will discuss different topics and use video support.

LANf300EA,LANf400EA

フランス語上級A3・B3

瀬谷グロンダン アンヌオレリ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はフランス語での作文と小論文の練習を行う。フランス語の基本文法をマスターし、自然で正確なフランス語の作文能力を身につける。

【到達目標】

フランス語の文章構成を理解し簡単な文を記述できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の具体的な進め方については、以下の通り

1. 届いた PDF ファイルを授業当日までに予習する。(毎週)
2. Zoom を通じて授業を実施する。

授業内では、フランス語の文章を読み、文法や文の構造を学ぶ。その後、短い文の作成練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Leçon 1: être/il y a	ある/いる
2 回目	Leçon 2: avoir/porter/tenir	持つ
3 回目	Leçon 3: aller et venir(1)/partir/arriver	行く/来る (1)
4 回目	Leçon 4: re-garder/voir/écouter/entendre	見る/聞く
5 回目	Leçon 5: aller et venir (2)	行く/来る (2)
6 回目	Leçon 6: faire	～をする ～を作る
7 回目	Leçon 7: apprendre/comprendre/connaître/savoir	知る
8 回目	Leçon 8: être capable de/pouvoir/savoir	できる
9 回目	Leçon 9: arriver/avoir lieu/se passer	起こる/生じる
10 回目	Leçon 10: demander/vouloir	尋ねる/欲する
11 回目	Leçon 11: devoir/être obligé de/avoir besoin de/falloir	義務/必要
12 回目	Leçon 12: croire/penser/trouver	思う
13 回目	Écrivons une histoire! (1)	ショートストーリーを書きましょう! (1)
14 回目	Écrivons une histoire! (2)	ショートストーリーを書きましょう! (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習が各 45 分間程度必要。

【テキスト（教科書）】

Le français tricolore : blanc 1 composition (フランス語プラン1 トリコロール 作文編), 朝日出版社 (1,200 円)
ISBN: 978-4-255-35236-7

【参考書】

仏和・和仏の辞書が必須。

【成績評価の方法と基準】

課題：60%

授業への取り組み（出欠と授業態度及び授業への参加）：40%

この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

In this class we will practice how to write short essays in French. We will put the stress on grammar and learn how to write more natural sentences.

LANf300EA,LANf400EA

フランス語上級A4・B4

高橋 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の成句的表現は、聖書やギリシャ・ローマ神話、フランスおよびヨーロッパの古典、有名な歴史上の出来事に由来しており、フランス文化のエッセンスであることは言を俟たない。春学期に引き続き、本授業は『フランス語表現宝典』の後半を通して成句的表現について読み、フランス語の力を向上させながら、フランス文化の重層性を理解することを目的とする。

【到達目標】

辞書を引き、授業内の教員の説明を通して、一般的なフランス語で書かれたある程度の長さの文章を読み、理解できるレベルを目指す。イディオムや動詞、多義語などの幅を広げ、さまざまなフランス語の文章を読むうえで必要となる表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・毎回、次週までに予習する箇所を教員が指定し、その箇所の文章を構文や時制などに注意しながら全員で読み進める。(予習の範囲を定め、難しいと思われるところはあらかじめ教員から説明するので、安心して臨んでほしい。)
- ・具体的な進め方については「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講読、第 1 回目	・ Le radeau de la Méduse
2	講読、第 2 回目	・ Un vilain petit canard
3	講読、第 3 回目	・ Le complexe d'Œdipe
4	講読、第 4 回目	・ Le chien d'Ulysse
5	講読、第 5 回目	・ Se reposer sur ses lauriers
6	講読、第 6 回目	・ Veni, vidi, vici
7	講読、第 7 回目	・ Franchir le Rubicon
8	講読、第 8 回目	・ Aller à Canossa
9	講読、第 9 回目	・ La porte étroite
10	講読、第 10 回目	・ Un saint Thomas
11	講読、第 11 回目	・ C'est la montagne qui accouche d'une souris
12	講読、第 12 回目	・ L'épée de Damoclès
13	講読、第 13 回目	・ Un écho
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次週の授業で読む部分を指定するので準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Sylvie Weil, Louise Rameau, 『フランス語表現宝典 第2集』 *Trésors des expressions françaises II* (中川信吾、原田佳彦編注)、駿河台出版社、1992 年

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期中の授業への取り組み、課題の提出状況とその内容を総合的に判断して平常点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

予習をして難しかった部分等は速慮なく質問してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve their French reading skills and reach higher levels.

LANf300EA,LANf400EA

フランス語上級 A 5・B 5

瀬谷グロンダン アンヌオレリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス文化や現代のフランス社会に関する知見・理解を深めるとともにフランス語の能力の向上を目指す授業。この授業はフランス語で行われ、毎授業ビデオ資料に基づき討論を行う

【到達目標】

この授業の到達目標は、フランス文化への理解を深めることに加え、フランス語での話す、読む、聞く、これらのスキルが向上すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の具体的な進め方については、以下の通り

1. 届いた PDF ファイルを授業当日までに予習する。(毎週)

2. Zoom を通じて授業を実施する。

授業では、ビデオ資料を視聴します。その後、そのテーマについて、フランス語での討論を行います。(オンライン授業の場合は、事前にビデオの視聴をお願いいたします。)

毎週の予習 PDF の質問に対する回答を準備する。

討論のために、グループディスカッション及びロールプレイングゲームのようなグループアクティビティが行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Vivre écolo (I)	プラなし生活 (1)
2 回目	Vivre écolo (II)	プラなし生活 (2)
3 回目	Les spécialités culinaires françaises (I)	フランス料理 (I)
4 回目	Les spécialités culinaires françaises (II)	フランス料理 (2)
5 回目	Parlons de l'art en France (I)	フランスの美術 (I)
6 回目	La télévision française	フランスのテレビ局
7 回目	La vie à la campagne	フランスの田舎暮らし
8 回目	Parlons de l'art en France (II)	フランスの美術 (II)
9 回目	Parlons de l'actualité en France (I)	フランスの時事 (I)
10 回目	Les départements d'Outre-Mer	フランスの海外県・海外領土
11 回目	Le cinéma français	フランス映画
12 回目	Parlons de l'actualité en France (II)	フランスの時事 (II)
13 回目	Parlons de l'actualité en France (III)	フランスの時事 (III)
14 回目	Les secrets de Paris	パリの穴場秘密スポット

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PDF ファイルの予習 1 時間程度が必要。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

仏和・和仏の辞書が必須。

【成績評価の方法と基準】

レポート：40 %

授業への取り組み（出欠と授業態度及び授業への参加）:60%

この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

In this class we will improve your understanding of French culture and French society.

This class will be conducted only in French, including the explanations. We will discuss different topics and use video support.

LANf300EA,LANf400EA

フランス語上級 A 6・B 6

瀬谷グロンダン アンヌオレリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はフランス語での作文と小論文の練習を行う。フランス語の基本文法をマスターし、自然で正確なフランス語の作文能力を身につける。

【到達目標】

フランス語の文章構成を理解し簡単な文を記述できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の具体的な進め方については、以下の通り

1. 届いた PDF ファイルを授業当日までに予習する。(毎週)
2. Zoom を通じて授業を実施する。

授業内では、フランス語の文章を読み、文法や文の構造を学ぶ。その後、短い文の作成練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Leçon 1: Les pronoms relatifs (1)	関係代名詞 (1)
2 回目	Leçon 2: Les pronoms relatifs (2)	関係代名詞 (2)
3 回目	Leçon 3: le participe présent et le gérondif	現在分詞
4 回目	Leçon 4: voir/entendre/regarder/écouter	知覚構文
5 回目	Leçon 5: laisser + infinitif / faire + infinitif	使役文
6 回目	Leçon 6: le complément d'objet indirect	無生物主語
7 回目	Leçon 7: La mise en relief	強調構文
8 回目	Leçon 8: Les tournures impersonnelles	非人称構文
9 回目	Leçon 9: Les conjonctions de coordination (1)	さまざまな接続詞 (1)
10 回目	Leçon 10: Les conjonctions de coordination (2)	さまざまな接続詞 (2)
11 回目	Leçon 11: Le discours rapporté	間接話法
12 回目	Leçon 12: Le discours direct/indirect et le subjonctif	直接法か接続法か？
13 回目	Écrivons une histoire (1)	短文を書きましょう! (1)
14 回目	Écrivons une histoire (2)	短文を書きましょう! (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習が各 45 分間程度必要。

【テキスト（教科書）】

Le français tricolore : blanc 2 composition (フランス語プラン 2 トリコロール 作文編), 朝日出版社 (1,200 円)

ISBN: 978-4-255-35237-4

【参考書】

仏和・和仏の辞書が必須。

【成績評価の方法と基準】

課題：60%

授業への取り組み（出欠と授業態度及び授業への参加）：40%

この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外になるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

In this class we will practice how to write short essays. We will put the stress on grammar and learn how to write natural sentences.

LANf100EA

フランス語初級A

大澤 瑞綺、村上 由美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。初歩的なフランス語を理解し、読み、聞き、書けるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。

（きちんとフランス語初級 B まで1年間学べば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級教科書を使って、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成、教科書と辞書の説明など
2	0 課	Alphabet、綴り字の読みかた (1)、挨拶の表現、数詞 (1~10)
3	1 課	名詞の性と数、主語の代名詞、
4	1 課	動詞 être の直説法現在形、否定形
5	1 課	綴り字の読みかた (2)、身分・職業
6	2 課	-er 動詞の直説法現在形
7	2 課	冠詞、形容詞 (1)
8	2 課	綴り字の読みかた (3)、言語・文房具の名詞、提示表現
9	3 課	avoir の直説法現在形、否定の de
10	3 課	疑問文、代名詞の強勢形、疑問形容詞
11	3 課	綴り字の読みかた (4)、趣味・数字 (11~20)、avoir を用いた表現
12	4 課	所有形容詞、不規則動詞 aller, venir, vouloir
13	4 課	国名につく前置詞、綴り字の読みかた (5)
14	4 課	家族・国・言語、vouloir を用いた表現
15	5 課	部分冠詞、近い未来・近い過去
16	5 課	指示形容詞、疑問代名詞
17	5 課	動詞 pouvoir, prendre, attendre、食べ物・飲み物、pouvoir を用いた表現/on
18	6 課	疑問副詞
19	6 課	前置詞 à/de+定冠詞の縮約、命令形
20	6 課	-ir 動詞の直説法現在形
21	6 課	動詞 devoir、時の表現 (曜日・月・季節)
22	7 課	形容詞 (2)
23	7 課	動詞 savoir, voir, mettre
24	7 課	色彩の形容詞
25	8 課	数量表現/名詞+à+不定詞
26	8 課	目的補語人称代名詞
27	8 課	非人称構文、数字 (21~69)
28	まとめと解説	動詞 connaître, faire, écrire まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題をきちんと行う。
- ・教科書付属の CD や音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。辞書については最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は週2回の授業でセットとなり、二人の担当教員の合議で行う。その際に考慮されるのは毎回の授業における予習と復習の状況、授業中の応答、複数回の課題の提出である。評価はそれらの総合点を 100 点満点として行われる。

成績評価の内訳は、課題 50 %、平常点 50 %（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。
- ・授業でわからないところは積極的に教員に質問してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級A

大澤 瑞綺、村上 由美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。初歩的なフランス語を理解し、読み、聞き、書けるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。

（きちんとフランス語初級 B まで1年間学べば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級教科書を使って、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成、教科書と辞書の説明など
2	0 課	Alphabet、綴り字の読みかた (1)、挨拶の表現、数詞 (1~10)
3	1 課	名詞の性と数、主語の代名詞、
4	1 課	動詞 être の直説法現在形、否定形
5	1 課	綴り字の読みかた (2)、身分・職業
6	2 課	-er 動詞の直説法現在形
7	2 課	冠詞、形容詞 (1)
8	2 課	綴り字の読みかた (3)、言語・文房具の名詞、提示表現
9	3 課	avoir の直説法現在形、否定の de
10	3 課	疑問文、代名詞の強勢形、疑問形容詞
11	3 課	綴り字の読みかた (4)、趣味・数字 (11~20)、avoir を用いた表現
12	4 課	所有形容詞、不規則動詞 aller, venir, vouloir
13	4 課	国名につく前置詞、綴り字の読みかた (5)
14	4 課	家族・国・言語、vouloir を用いた表現
15	5 課	部分冠詞、近い未来・近い過去
16	5 課	指示形容詞、疑問代名詞
17	5 課	動詞 pouvoir, prendre, attendre、食べ物・飲み物、pouvoir を用いた表現/on
18	6 課	疑問副詞
19	6 課	前置詞 à/de+定冠詞の縮約、命令形
20	6 課	-ir 動詞の直説法現在形
21	6 課	動詞 devoir、時の表現 (曜日・月・季節)
22	7 課	形容詞 (2)
23	7 課	動詞 savoir, voir, mettre
24	7 課	色彩の形容詞
25	8 課	数量表現/名詞+à+不定詞
26	8 課	目的補語人称代名詞
27	8 課	非人称構文、数字 (21~69)
28	まとめと解説	動詞 connaître, faire, écrire まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題をきちんと行う。
- ・教科書付属の CD や音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。辞書については最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は週2回の授業でセットとなり、二人の担当教員の合議で行う。その際に考慮されるのは毎回の授業における予習と復習の状況、授業中の応答、複数回の課題の提出である。評価はそれらの総合点を 100 点満点として行われる。

成績評価の内訳は、課題 50 %、平常点 50 %（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。
- ・授業でわからないところは積極的に教員に質問してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級A

高橋 久美、佐藤 久仁子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。初歩的なフランス語を理解し、読み、聞き、書けるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。

（きちんとフランス語初級 B まで1年間学べば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級教科書を使って、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成、教科書と辞書の説明など
2	0 課	Alphabet、綴り字の読みかた (1)、挨拶の表現、数詞 (1~10)
3	1 課	名詞の性と数、主語の代名詞、
4	1 課	動詞 être の直説法現在形、否定形
5	1 課	綴り字の読みかた (2)、身分・職業
6	2 課	-er 動詞の直説法現在形
7	2 課	冠詞、形容詞 (1)
8	2 課	綴り字の読みかた (3)、言語・文房具の名詞、提示表現
9	3 課	avoir の直説法現在形、否定の de
10	3 課	疑問文、代名詞の強勢形、疑問形容詞
11	3 課	綴り字の読みかた (4)、趣味・数字 (11~20)、avoir を用いた表現
12	4 課	所有形容詞、不規則動詞 aller, venir, vouloir
13	4 課	国名につく前置詞、綴り字の読みかた (5)
14	4 課	家族・国・言語、vouloir を用いた表現
15	5 課	部分冠詞、近い未来・近い過去
16	5 課	指示形容詞、疑問代名詞
17	5 課	動詞 pouvoir, prendre, attendre、食べ物・飲み物、pouvoir を用いた表現/on
18	6 課	疑問副詞
19	6 課	前置詞 à/de+定冠詞の縮約、命令形
20	6 課	-ir 動詞の直説法現在形
21	6 課	動詞 devoir、時の表現 (曜日・月・季節)
22	7 課	形容詞 (2)
23	7 課	動詞 savoir, voir, mettre
24	7 課	色彩の形容詞
25	8 課	数量表現/名詞+à+不定詞
26	8 課	目的補語人称代名詞
27	8 課	非人称構文、数字 (21~69)
28	まとめと解説	動詞 connaître, faire, écrire まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題をきちんと行う。
- ・教科書付属の CD や音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。辞書については最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は週2回の授業でセットとなり、二人の担当教員の合議で行う。その際に考慮されるのは毎回の授業における予習と復習の状況、授業中の応答、複数回の課題の提出である。評価はそれらの総合点を 100 点満点として行われる。

成績評価の内訳は、課題 40 %、平常点 60 %（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。
- ・授業でわからないところは積極的に教員に質問してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級A

高橋 久美、佐藤 久仁子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。初歩的なフランス語を理解し、読み、聞き、書けるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。

（きちんとフランス語初級 B まで1年間学べば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級教科書を使って、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成、教科書と辞書の説明など
2	0 課	Alphabet、綴り字の読みかた (1)、挨拶の表現、数詞 (1~10)
3	1 課	名詞の性と数、主語の代名詞、
4	1 課	動詞 être の直説法現在形、否定形
5	1 課	綴り字の読みかた (2)、身分・職業
6	2 課	-er 動詞の直説法現在形
7	2 課	冠詞、形容詞 (1)
8	2 課	綴り字の読みかた (3)、言語・文房具の名詞、提示表現
9	3 課	avoir の直説法現在形、否定の de
10	3 課	疑問文、代名詞の強勢形、疑問形容詞
11	3 課	綴り字の読みかた (4)、趣味・数字 (11~20)、avoir を用いた表現
12	4 課	所有形容詞、不規則動詞 aller, venir, vouloir
13	4 課	国名につく前置詞、綴り字の読みかた (5)
14	4 課	家族・国・言語、vouloir を用いた表現
15	5 課	部分冠詞、近い未来・近い過去
16	5 課	指示形容詞、疑問代名詞
17	5 課	動詞 pouvoir, prendre, attendre、食べ物・飲み物、pouvoir を用いた表現/on
18	6 課	疑問副詞
19	6 課	前置詞 à/de+定冠詞の縮約、命令形
20	6 課	-ir 動詞の直説法現在形
21	6 課	動詞 devoir、時の表現（曜日・月・季節）
22	7 課	形容詞 (2)
23	7 課	動詞 savoir, voir, mettre
24	7 課	色彩の形容詞
25	8 課	数量表現/名詞+à+不定詞
26	8 課	目的補語人称代名詞
27	8 課	非人称構文、数字 (21~69)
28	まとめと解説	動詞 connaître, faire, écrire まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題をきちんと行う。
- ・教科書付属の CD や音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。辞書については最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は週2回の授業でセットとなり、二人の担当教員の合議で行う。その際に考慮されるのは毎回の授業における予習と復習の状況、授業中の応答、複数回の課題の提出である。評価はそれらの総合点を100点満点として行われる。

成績評価の内訳は、課題40%、平常点60%（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。
- ・授業でわからないところは積極的に教員に質問してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級A

美頭 千不美、高橋 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。初歩的なフランス語を理解し、読み、聞き、書けるようにする。

【到達目標】

・基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。
(きちんと1年間学べば、実用フランス語技能検定試験4級レベルに達する。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・初級教科書を使って、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入授業	授業の構成、教科書と辞書の説明など
2	0 課	Alphabet、綴り字の読みかた (1)、挨拶の表現、数詞 (1~10)
3	1 課	名詞の性と数、主語の代名詞
4	1 課	動詞 être の直説法現在形、否定形
5	1 課	綴り字の読みかた (2)、身分・職業
6	2 課	-er 動詞の直説法現在形
7	2 課	冠詞、形容詞 (1)
8	2 課	綴り字の読みかた (3)、言語・文房具の名詞、提示表現
9	3 課	avoir の直説法現在形、否定の de
10	3 課	疑問文、代名詞の強勢形、疑問形容詞
11	3 課	綴り字の読みかた (4)、趣味・数字 (11~20)、avoir を用いた表現
12	4 課	所有形容詞、不規則動詞 aller, venir, vouloir
13	4 課	国名につく前置詞、綴り字の読みかた (5)
14	4 課	家族・国・言語、vouloir を用いた表現
15	5 課	部分冠詞、近い未来・近い過去
16	5 課	指示形容詞、疑問代名詞
17	5 課	動詞 pouvoir, prendre, attendre、食べ物・飲み物、pouvoir を用いた表現/on
18	6 課	疑問副詞
19	6 課	前置詞 à/de+定冠詞の縮約、命令形
20	6 課	-ir 動詞の直説法現在形
21	6 課	動詞 devoir、時の表現 (曜日・月・季節)
22	7 課	形容詞 (2)
23	7 課	動詞 savoir, voir, mettre
24	7 課	色彩の形容詞 数量表現/名詞+a+不定詞
25	8 課	目的補語人称代名詞
26	8 課	非人称構文、数字 (21~69)
27	8 課	動詞 connaître, faire, écrire
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・文法知識の定着を目的とする課題をきちんと行う。
・教科書付属の CD や音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。辞書については最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・単位認定は週2回の授業でセットとなり、二人の担当教員の合議で行う。その際に考慮されるのは毎回の授業における予習と復習の状況、授業中の応答、複数回の課題の提出である。評価はそれらの総合点を 100 点満点として行われる。
・成績評価の内訳は、課題 50 %、平常点 50 %（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

・教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。
・授業でわからないところは積極的に教員に質問してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級B

大澤 瑞綺、村上 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級 A に引き続き、フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。平易なフランス語を読み、書き、聞き、自分からメッセージを少しずつ発信できるようにする。

【到達目標】

・基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。
(初級 B まできちんと完成させれば、実用フランス語技能検定試験 4 級レベルに達する。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・初級 A で用いた教科書の後半部分を通して、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	9 課	代名動詞
2	9 課	よく使う代名動詞
3	9 課	日常の活動を表す表現
4	10 課	直説法単純未来
5	10 課	形容詞・副詞の比較級と最上級、特殊な優等比較級・優等最上級
6	10 課	指示代名詞、交通に関する表現、数字 (70~100)
7	11 課	直説法複合過去
8	11 課	中性代名詞 en
9	11 課	覚えておきたい副詞（程度を表す副詞、時を表す副詞）、よく使う接続詞
10	12 課	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去の違い
11	12 課	中性代名詞 y
12	12 課	学校・学科に関する表現、さまざまな否定表現
13	13 課	関係代名詞
14	13 課	強調構文
15	13 課	さまざまな場所 (1) 街の施設、時の表現 (2)
16	14 課	条件法現在形
17	14 課	条件法の用法
18	14 課	さまざまな場所 (2) 店、時の表現 (3) 前置詞 (句)
19	15 課	前置詞 (句)
20	15 課	現在分詞
21	15 課	ジェロンディフ
22	15 課	受動態
23	15 課	過去分詞の一致
24	16 課	序数、場所の表現、前置詞 (句)
25	16 課	接続法現在形
26	16 課	接続法の用法
27	16 課	身の回りに関する表現
28	16 課	よく使う接続詞
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・文法知識の定着を目的とする課題をきちんと行う。
・教科書付属の CD や音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018 年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は週 2 回の授業でセットとなり、二人の担当教員の合議で行う。その際に考慮されるのは毎回の授業における予習と復習の状況、授業中の応答、複数回の課題の提出である。評価はそれらの総合点を 100 点満点として行われる。
成績評価の内訳は、課題 50 %、平常点 50 %（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

・教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。
・授業でわからないところは積極的に教員に質問してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級B

大澤 瑞綺、村上 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級 A に引き続き、フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。平易なフランス語を読み、書き、聞き、自分からメッセージを少しずつ発信できるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。

(初級 B まできちんと完成させれば、実用フランス語技能検定試験 4 級レベルに達する。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級 A で用いた教科書の後半部分を通して、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	9 課	代名動詞
2	9 課	よく使う代名動詞
3	9 課	日常の活動を表す表現
4	10 課	直説法単純未来
5	10 課	形容詞・副詞の比較級と最上級、特殊な優等比較級・優等最上級
6	10 課	指示代名詞、交通に関する表現、数字 (70~100)
7	11 課	直説法複合過去
8	11 課	中性代名詞 en
9	11 課	覚えておきたい副詞（程度を表す副詞、時を表す副詞）、よく使う接続詞
10	12 課	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去の違い
11	12 課	中性代名詞 y
12	12 課	学校・学科に関する表現、さまざまな否定表現
13	13 課	関係代名詞
14	13 課	強調構文
15	13 課	さまざまな場所 (1) 街の施設、時の表現 (2)
16	14 課	条件法現在形
17	14 課	条件法の用法
18	14 課	さまざまな場所 (2) 店、時の表現 (3) 前置詞 (句)
19	15 課	前置詞 (句)
20	15 課	現在分詞
21	15 課	ジェロンディフ
22	15 課	受動態
23	15 課	過去分詞の一致
24	16 課	序数、場所の表現、前置詞 (句)
25	16 課	接続法現在形
26	16 課	接続法の用法
27	16 課	身の回りに関する表現
28	16 課	よく使う接続詞句
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題をきちんと行う。
- ・教科書付属の CD や音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018 年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は週 2 回の授業でセットとなり、二人の担当教員の合議で行う。その際に考慮されるのは毎回の授業における予習と復習の状況、授業中の応答、複数回の課題の提出である。評価はそれらの総合点を 100 点満点として行われる。

成績評価の内訳は、課題 50 %、平常点 50 %（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。
- ・授業でわからないところは積極的に教員に質問してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級B

高橋 久美、佐藤 久仁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級 A に引き続き、フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。平易なフランス語を読み、書き、聞き、自分からメッセージを少しずつ発信できるようにする。

【到達目標】

・基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。
(初級 B まできちんと完成させれば、実用フランス語技能検定試験 4 級レベルに達する。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・初級 A で用いた教科書の後半部分を通して、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	9 課	代名動詞
2	9 課	よく使う代名動詞
3	9 課	日常の活動を表す表現
4	10 課	直説法単純未来
5	10 課	形容詞・副詞の比較級と最上級、特殊な優等比較級・優等最上級
6	10 課	指示代名詞、交通に関する表現、数字 (70~100)
7	11 課	直説法複合過去
8	11 課	中性代名詞 en
9	11 課	覚えておきたい副詞（程度を表す副詞、時を表す副詞）、よく使う接続詞
10	12 課	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去の違い
11	12 課	中性代名詞 y
12	12 課	学校・学科に関する表現、さまざまな否定表現
13	13 課	関係代名詞
14	13 課	強調構文
15	13 課	さまざまな場所 (1) 街の施設、時の表現 (2)
16	14 課	条件法現在形
17	14 課	条件法の用法
18	14 課	さまざまな場所 (2) 店、時の表現 (3) 前置詞 (句)
19	15 課	現在分詞
20	15 課	ジェロンディフ
21	15 課	受動態
22	15 課	過去分詞の一致
23	15 課	序数、場所の表現、前置詞 (句)
24	16 課	接続法現在形
25	16 課	接続法の用法
26	16 課	身の回りに関する表現
27	16 課	よく使う接続詞句
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・文法知識の定着を目的とする課題をきちんと行う。
・教科書付属の CD や音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018 年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は週 2 回の授業でセットとなり、二人の担当教員の合議で行う。その際に考慮されるのは毎回の授業における予習と復習の状況、授業中の応答、複数回の課題の提出である。評価はそれらの総合点を 100 点満点として行われる。
成績評価の内訳は、課題 40 %、平常点 60 %（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

・教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。
・授業でわからないところは積極的に教員に質問してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級B

高橋 久美、佐藤 久仁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級 A に引き続き、フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。平易なフランス語を読み、書き、聞き、自分からメッセージを少しずつ発信できるようにする。

【到達目標】

- ・基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
- ・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。

(初級 B まできちんと完成させれば、実用フランス語技能検定試験 4 級レベルに達する。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・初級 A で用いた教科書の後半部分を通して、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
- ・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	9 課	代名動詞
2	9 課	よく使う代名動詞
3	9 課	日常の活動を表す表現
4	10 課	直説法単純未来
5	10 課	形容詞・副詞の比較級と最上級、特殊な優等比較級・優等最上級
6	10 課	指示代名詞、交通に関する表現、数字 (70~100)
7	11 課	直説法複合過去
8	11 課	中性代名詞 en
9	11 課	覚えておきたい副詞（程度を表す副詞、時を表す副詞）、よく使う接続詞
10	12 課	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去の違い
11	12 課	中性代名詞 y
12	12 課	学校・学科に関する表現、さまざまな否定表現
13	13 課	関係代名詞
14	13 課	強調構文
15	13 課	さまざまな場所 (1) 街の施設、時の表現 (2)
16	14 課	条件法現在形
17	14 課	条件法の用法
18	14 課	さまざまな場所 (2) 店、時の表現 (3) 前置詞 (句)
19	15 課	現在分詞
20	15 課	ジェロンディフ
21	15 課	受動態
22	15 課	過去分詞の一致
23	15 課	序数、場所の表現、前置詞 (句)
24	16 課	接続法現在形
25	16 課	接続法の用法
26	16 課	身の回りに関する表現
27	16 課	よく使う接続詞句
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文法知識の定着を目的とする課題をきちんと行う。
- ・教科書付属の CD や音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018 年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

単位認定は週 2 回の授業でセットとなり、二人の担当教員の合議で行う。その際に考慮されるのは毎回の授業における予習と復習の状況、授業中の応答、複数回の課題の提出である。評価はそれらの総合点を 100 点満点として行われる。

成績評価の内訳は、課題 40 %、平常点 60 %（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。
- ・授業でわからないところは積極的に教員に質問してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANf100EA

フランス語初級B

美頭 千不美、高橋 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2, 金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級 A に引き続き、フランス語運用力養成のための基礎を学習する授業である。平易なフランス語を読み、書き、聞き、自分からメッセージを少しずつ発信できるようにする。

【到達目標】

・基礎的な文法知識を学び、簡単な文の構成と意味が理解できる。
・短い文を聞き取り、必要な応答表現を用いることができる。
(初級 B まできちんと完成させれば、実用フランス語技能検定試験 4 級レベルに達する。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・初級 A で用いた教科書の後半部分を通して、フランス語の基礎を順序良く学習する。丁寧に文法を学び、発音練習し、簡単な会話表現なども覚える。二人の担当教員が同一の共通教科書を使った「リレー方式」で効率的に学習を進める。具体的な方法などは学習支援システムの「お知らせ」を通じて提示する。
・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	9 課	代名動詞
2	9 課	よく使う代名動詞
3	9 課	日常の活動を表す表現
4	10 課	直説法単純未来
5	10 課	形容詞・副詞の比較級と最上級、特殊な優等比較級・優等最上級
6	10 課	指示代名詞、交通に関する表現、数字 (70~100)
7	11 課	直説法複合過去
8	11 課	中性代名詞 en
9	11 課	覚えておきたい副詞（程度を表す副詞、時を表す副詞）、よく使う接続詞
10	12 課	直説法半過去、直説法複合過去と直説法半過去の違い
11	12 課	中性代名詞 y
12	12 課	学校・学科に関する表現、さまざまな否定表現
13	13 課	関係代名詞
14	13 課	強調構文
15	13 課	さまざまな場所 (1) 街の施設、時の表現 (2)
16	14 課	条件法現在形
17	14 課	条件法の用法
18	14 課	さまざまな場所 (2) 店、時の表現 (3) 前置詞 (句)
19	15 課	現在分詞
20	15 課	ジェロンディフ
21	15 課	受動態
22	15 課	過去分詞の一致
23	15 課	序数、場所の表現、前置詞 (句)
24	16 課	接続法現在形
25	16 課	接続法の用法
26	16 課	身の回りに関する表現
27	16 課	よく使う接続詞句
28	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・文法知識の定着を目的とする課題をきちんと行う。
・教科書付属の CD や音声アプリも利用し、みずから口に出して繰り返し練習する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子『Vas-y!—初級フランス語 会話・文法そして文化—』、駿河台出版社、2018 年。

【参考書】

仏和辞典（電子辞書も可）を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

・単位認定は週 2 回の授業でセットとなり、二人の担当教員の合議で行う。その際に考慮されるのは毎回の授業における予習と復習の状況、授業中の応答、複数回の課題の提出である。評価はそれらの総合点を 100 点満点として行われる。
・成績評価の内訳は、課題 50 %、平常点 50 %（小テスト、授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

・教科書で扱われているテーマや場面に注目し、フランス社会の動向やフランス語圏の歴史・文化についても幅広く紹介する。
・授業でわからないところは積極的に教員に質問してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the basics of French.

LANF200EA

フランス語中級 1

高橋 久美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【Outline and objectives】

The aim of this intermediate French course is to help students improve their reading comprehension.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法の基礎を学んだ学習者が、比較的平易でかつ読み応えのある文章を読むことで、中級フランス語を身につける。

【到達目標】

辞書を引きながら、自力である程度まとまった分量の文章を読みこなすことができる。(テキスト読解によって新しい語彙や表現を習得し、きちんとフランス語中級 4 まで学べば、仏検 3 級受験準備ができる。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・初級総合教本を使って、初級文法の基礎の復習と未習部分を学ぶ。発音練習や文法練習問題も混ぜながら、長文読解の練習をする。

・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 1. Le musée d'Orsay	授業の進め方の説明、 être と形容詞
第 2 回	2. Au bord de la Seine	avoir、-er 動詞、定冠詞の縮約、否定文と疑問文
第 3 回	3. Le canal Saint-Martin	pouvoir, vouloir、所有形容詞、指示形容詞、命令形
第 4 回	4. Les sources et les fontaines	近接未来、近接過去、強勢形、非人称構文
第 5 回	5.A la recherche du bal du Moulin de la Galette	比較級・最上級
第 6 回	5.A la recherche du bal du Moulin de la Galette (続き)	関係代名詞 qui, que、強調構文
第 7 回	6. Au café	-ir 動詞、savoir, boire、疑問形容詞 quel
第 8 回	6. Au café (続き)	疑問代名詞、その他の疑問詞
第 9 回	7. Le peintre et le poète	複合過去形
第 10 回	7. Le peintre et le poète (続き)	人称代名詞の直接・間接目的語形
第 11 回	8. La Commune de Paris	-er 動詞の特殊型、代名動詞
第 12 回	8. La Commune de Paris (続き)	受動態、指示代名詞
第 13 回	9. Le cirque	直説法半過去形、過去分詞の性数一致
第 14 回	9. Le cirque (続き)	関係代名詞 dont, où、指示代名詞 + 関係代名詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・必ず自分で辞書を使って課題に取り組むこと。
- ・付属の CD を利用し、自分で繰り返し読む練習をすること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中山真彦『オルセー美術館にて一初級フランス語総合教本一』、朝日出版社、2018 年。(2500 円 + 税)

【参考書】

- ・一年次に使用した教科書。
- ・仏和辞書（紙ポケット版は不適、プチ・ロワイヤル、スタンダードなど用例が載っている辞書）。電子辞書も可。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施せず、平常点で評価する。(平常点の内訳：毎回の授業への取り組み (40%)、課題の提出状況とその内容 (30%)、不定期に行う小テスト (30%))

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義の授業だが、音読練習も丁寧に行う。
- ・教科書はオルセー美術館の名画を扱うので、フランスの美術や歴史についても織り交ぜたい。

LANF200EA

フランス語中級1・2・3

美頭 千不美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法の総復習。およびその延長線上で問題となる中級文法事項の学習。

【到達目標】

練習問題を解きながら、フランス語の初級文法を一通り復習し、必要に応じて中級文法の事項にも少しずつ親しむこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

* 練習問題の解答・解説を中心に、フランス語の読み・書き・聴き取りの訓練を丁寧に行なう。

* 少人数のクラスであるため、受講生の実力に合わせた個別指導の形態を取ること可能である。初級文法における未習得分野・弱点の克服を重要な課題として各回の授業展開を考える。

* 教場での授業実施の場合、毎回の授業時間内に問題の解答・解説を行なう。文法上の未習得事項・苦手分野については宿題を課すなどして次回の授業で引き続き扱い、難点を克服して実力が高まるようにする。

* なお、2020年度同様のオンライン授業を実施する場合、語学であるので本来はZoomによる授業を行なうべきであるが、本授業では基本的にZoomによる授業は行なわず、学習支援システムを活用した添削指導中心の、オンデマンド型の授業を行なう予定である。

* その場合、具体的には、毎回学習支援システムの課題欄に提示される問題を期限までに提出して添削指導を受け、自分の弱点を把握し克服して、次回の課題に臨むという進行的な進捗を取る。

* この場合、完全な個別指導なので、わからないこと、質問、要望などを課題欄やGmailを通じて私に伝えやすくなる。また、個別指導であるがゆえに、臨機応変、受講生の要望や必要に応じて、たとえば或る期間、苦手分野の克服に集中的に取り組むということも十分可能である。

* また、文法問題の解答といった課題欄に提示される課題とは別に、毎回、フランスに関する話の種（たね）を入れたブログ風の記事を作成し、添付資料として配信するので、それを読んで知識を広げ、フランス通になるきっかけをつかみ、課題欄やGmailを通じて私に感想や意見を言えるようにするのも、語学学習と併せて大事な訓練であると考えている。

* いずれにせよ、初回のガイダンスで詳細を伝えることとするので、学習支援システムの「お知らせ」欄に告知される案内に留意されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	顔合わせ。秋学期授業内容と評価方法に関する簡単な案内。また、簡単な実力テストを実施する。
第2回	簡単で重要な日常会話の表現あれこれ／発音の練習①／-er 動詞の直説法現在	簡単で重要な日常会話の表現あれこれ（挨拶表現ほか）／発音の練習（rの発音、鼻母音ほか）／第1群規則動詞・直説法現在の活用
第3回	簡単で重要な日常会話の表現あれこれ／発音の練習②	簡単で重要な日常会話の表現あれこれ（学校で、旅先でよく使う表現）／発音の練習（リエゾン、アンシェヌマン、エリズィオンほか）
第4回	定冠詞・不定冠詞／指示形容詞／名詞の複数形	定冠詞・不定冠詞／指示形容詞／名詞の複数形
第5回	形容詞の位置	品質形容詞の位置の原則
第6回	所有形容詞	所有形容詞（son,sa,ses など）
第7回	S+V+A（属詞）文型／さまざまな質問文／前置詞	主語＋動詞＋属詞の文／さまざまな質問文／前置詞（chez,dans,pour,sur など）
第8回	S+V+OD（直接目的語）文型／疑問代名詞（1）／部分冠詞	主語＋動詞＋直接目的語の文／疑問代名詞／部分冠詞
第9回	S+V+OI（間接目的語）文型／-ir 型動詞の直説法現在	文型／第2群規則動詞・直説法現在の活用
第10回	疑問代名詞（2）／数詞	疑問代名詞（que など）／数詞（基数詞・序数詞）／年号・日付・時刻の表現ほか

第11回 不規則動詞の直説法現在あれこれ／疑問代名詞（3）／疑問形容詞・疑問副詞

第12回 非人称構文あれこれ 非人称構文（天候／時間／存在／必要の表現など）

第13回 S+V+OD+OI 文型 主語＋動詞＋直接目的語＋間接目的語の文

第14回 S+V+OD+A 文型／直説法半過去／否定の表現あれこれ 主語＋動詞＋直接目的語＋属詞／直説法半過去／否定の表現 ne～pas,ne～plus,ne～jamais など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 初級・中級クラスで使用したテキストを用い、これまで学習してきたことをひたすら復習する。どの文法事項をよくマスターしていないかを、自分できちんと自覚し、弱点の克服に努める。

* 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

* とにかく、学習していれば当然わからないことや疑問が出てくるはずなので、遠慮せずに積極的に質問をして問題を解決し、次のステップに進もうとする気構えが大事。

【テキスト（教科書）】

* 初回ガイダンスの折に受講生の要望を入れて選定する。場合によっては配布プリントをテキストとして使用する。

* ここ数年は、仏検4級の過去問を教材として扱うことが多い。

【参考書】

受講生に合わせて、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席の有無、授業態度、毎回の課題の習得度を評点化）のみにより100点満点で評価する。学期末試験（筆記試験）を特に行なわない代わりに毎回の授業参加が重視されるため、あまりに欠席しがちであると単位を取得できない恐れがある。

【学生の意見等からの気づき】

語学は、とかく学習の目的を見失いがちで、中途で意欲を失い、挫折することも多いと思う。そこで、本授業では、受講生のそのときどきの関心に合わせ、書籍・映像や音楽等に触れたりもしながら、多角的にフランス文化の簡単な紹介を随時行なう。そうした時間を多少なりとも共有することで、興味・知的好奇心を互いに刺激し合い、フランス的なものへの関心を新たに自分の中に呼び覚ましてもらう。そして、今自分がフランス語を学ぶことの意味や必要性を改めて確認してもらう。また、一緒にフランス語を学ぶことで、フランスに関する意外な知識を増やし、ちょっとしたフランス通になっただけで、フランス語の実力を自分の生きる力の一つに加えてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続することの可能な通信機器（スマートフォン等）は、持参していると便利である。

【その他の重要事項】

書籍でも電子辞書でも、仏和辞典（中辞典）が手元にあることが望ましい。

【Outline and objectives】

Totally reviewing of the French beginner's course grammar. And,as necessary, learning step by step about the intermediate level matters.

LANf200EA

フランス語中級2

高橋 愛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス世界遺産をめぐる教科書を使って、初級 A・B で学習した内容を丁寧に確認し、「読む・書く・話す・聞く」のすべての場面において必要な新しい文法知識や語彙、表現を習得する。

【到達目標】

基本的な語句や表現を用いた簡単な構文による内容を理解し、直説法、条件法、接続法の動詞を使うことができる。「フランス語中級5」とセットで履修して、仏検3級に合格できるレベルを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・教科書の一課につき、二回の授業を充てる。一回目は主に文法的な事項に関する説明をし、二回目はそれらを生かした具体的な表現を学び練習する。映像や写真、データ等を通じて、フランスの歴史や文化も紹介する。辞書を必ず持参すること。具体的な進め方については「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示する。

・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Leçon 0 : Voyage	イントロダクション
2	Leçon 1 : Le Havre et Rouen	直説法複合過去
3	Leçon 1 : Le Havre et Rouen	代名動詞の直説法複合過去
4	Leçon 2 : Le Mont-Saint-Michel	直説法半過去
5	Leçon 2 : Le Mont-Saint-Michel	直説法大過去
6	Leçon 3 : Les Châteaux de la Loire	直説法単純未来
7	Leçon 3 : Les Châteaux de la Loire	直説法前未来
8	Leçon 4 : Bordeaux	受動態
9	Leçon 4 : Bordeaux	強調構文、connaître と savoir
10	Leçon 5 : Carcassonne	現在分詞、ジェロンディフ
11	Leçon 5 : Carcassonne	使役動詞と知覚動詞
12	Leçon 6 : La Côte d'Azur	比較級、最上級
13	Leçon 6 : La Côte d'Azur	特殊な比較級と最上級
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法知識の定着を目的とする課題をおこなう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

有富智世他『なびふらんせ2ーフランス世界遺産をめぐる一』、朝日出版社、2019年

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

単位認定で考慮されるのは毎回の授業の状況、授業中の応答、複数回の課題の提出である。評価はそれらの総合点を100点満点として行われる。成績評価の内訳は、各課の課題50%、平常点50%（授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

2021年度もフランスの歴史や文化、社会が見えてくる授業を行いたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve their French skills and reach the intermediate level.

LANf200EA

フランス語中級3

瀬谷グロندان アンヌオレリ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランスの日常生活に触れながら、フランス語の会話の基礎を学ぶ。

【到達目標】

日常生活に必要な基本表現ができるようになる。具体的には、自己紹介、店舗での注文、人物描写、旅行、趣味、といった会話。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の具体的な進め方については、以下の通り。

1. 送付される資料を授業当日までに予習する

2.Zoom を介した授業の実施

フランス語でのオンラインセッションの時間を最大限確保するために、少人数のグループに分かれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Unité 1: Enchanté! (1)	Se présenter, saluer quelqu'un, présenter des personnes
2 回目	Unité 1: Enchanté! (2)	Se présenter, saluer quelqu'un, présenter des personnes
3 回目	Unité 2: Des questions? (1)	Poser des questions fermées et y répondre
4 回目	Unité 2: Des questions? (2)	Poser des questions fermées et y répondre
5 回目	Unité 3: Combien? (1)	Faire des courses, se renseigner sur les prix
6 回目	Unité 3: Combien? (2)	Faire des courses, se renseigner sur les prix
7 回目	Petit test et activités	Quizz et jeux de rôles
8 回目	Unité 4: Quand? (1)	Situer des événements dans le temps
9 回目	Unité 4: Quand? (2)	Situer des événements dans le temps
10 回目	Unité 5: Où? (1)	Situer dans l'espace, demander et indiquer le chemin
11 回目	Unité 5: Où? (2)	Situer dans l'espace, demander et indiquer le chemin
12 回目	Petit test et activités	Quizz et jeux de rôles
13 回目	Unité 6: Qui? (1)	Parler de sa famille ou de ses amis
14 回目	Unité 6: Qui? (2)	Parler de sa famille ou de ses amis

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習が各45分程度必要。

【テキスト（教科書）】

Rythmes et communication (リズムコミ！フランス語会話)、朝日出版社 (2500円)

ISBN: 978-4-255-35275-6

【参考書】

仏和・和仏辞典があると便利。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 :30%

授業内の活動（口頭発表、グループワーク等）:40%

授業への取り組み（欠欠と授業態度及び授業への参加）:30%

この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外であるため注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス文化により触れるような授業構成に変更。

【Outline and objectives】

This is a French conversation class for beginners. We will learn how to communicate in the daily life and also how to sound more natural.

LANF200EA

フランス語中級4

高橋 久美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、比較的平易でかつ読み応えのある文章を読むことで、中級フランス語を身につける。

【到達目標】

辞書を引きながら、自力である程度まとまった分量の文章を読みこなすことができる。(テキスト読解によって新しい語彙や表現を習得し、きちんとフランス語中級4まで学べば、仏検3級受験準備ができる。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・初級総合教本を使って、初級文法の基礎の復習と未習部分を学ぶ。発音練習や文法練習問題も混ぜながら、長文読解の練習をする。

・授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	10. Visite au village de Van Gogh	直説法大過去形
第2回	10. Visite au village de Van Gogh (続き)	現在分詞、ジェロンディフ
第3回	10. Visite au village de Van Gogh (続き)	中性代名詞 en, y, le
第4回	11. L'Opéra de Paris	直説法単純未来形、直説法前未来形
第5回	11. L'Opéra de Paris (続き)	関係代名詞 le quel、使役の faire、委任の laisser
第6回	12. Le chemin de fer, autrefois et aujourd'hui	条件法現在形・過去形
第7回	12. Le chemin de fer, autrefois et aujourd'hui (続き)	直接話法と間接話法
第8回	12. Le chemin de fer, autrefois et aujourd'hui (続き)	間接疑問文
第9回	13. Un coin d'exotisme au centre de Paris	接続法現在形
第10回	13. Un coin d'exotisme au centre de Paris (続き)	接続法過去形
第11回	Appendice 1. Loin de la civilisation occidentale	直説法単純過去形・前過去形
第12回	Appendice 1. Loin de la civilisation occidentale (続き)	長文読解 ポール・ゴーギャン
第13回	Appendice 2. A la fois classique et moderne	長文読解 マネ「草上の昼食」
第14回	Appendice 2. A la fois classique et moderne (続き)	マネ「オランピア」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・必ず自分で辞書を使って課題に取り組むこと。
- ・付属のCDを利用し、自分で繰り返し読む練習をすること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中山真彦『オルセー美術館にて—初級フランス語総合教本—』、朝日出版社、2018年。(2500円+税)

【参考書】

- ・一年次に使用した教科書。
- ・仏和辞書（紙ポケット版は不適、プチ・ロワイヤル、スタンダードなど用例の載った辞書）。電子辞書も可。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施せず、平常点で評価する。(平常点の内訳：毎回の授業への取り組み(40%)、課題の提出状況とその内容(30%)、不定期に行う小テスト(30%))

【学生の意見等からの気づき】

- ・講読の授業だが、音読練習も丁寧に行う。
- ・教科書はオルセー美術館の名画を扱うので、フランスの美術や歴史についても織り交ぜたい。

【Outline and objectives】

The aim of this intermediate French course is to help students improve their reading comprehension.

LANf200EA

フランス語中級4・5・6

美頭 千不美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法の総復習。およびその延長線上で問題となる中級文法事項の学習。

【到達目標】

フランス語の初級文法を確実に習得し、且つ中級文法の初歩を徐々に固めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- * 練習問題の解答・解説を中心に、フランス語の読み・書き・聴き取りの訓練を丁寧に行なう。
- * 少人数のクラスであるため、受講生の実力に合わせて個別指導の形態を取ること可能である。初級文法における未習得分野・弱点の克服を重要な課題として各回の授業展開を考える。
- * なお、オンライン授業を実施する場合、語学であるので本来は zoom による授業を行なうべきであるが、本授業では基本的に zoom による授業は行わず、学習支援システムを活用した添削指導中心の、オンデマンド型の授業を行なう予定である。具体的には、課題欄に提出される問題を期限までに提出して添削指導を受け、自分の弱点を把握し克服して、次回の課題に臨むという進行のかたちを取る。この場合、完全な個別指導なので、わからないこと、質問、要望などを私に伝えやすくなる。また、毎回、フランスに関する話の種（たね）を入れたブログ風の記事を作成し、添付資料として配信するので、それを読んで知識を広げ、フランス通になるきっかけをつかみ、私に感想や意見を言えるようにするのも、語学学習と併せて大事な訓練であると考えている。
- * いずれにせよ、初回のガイダンスで詳細を伝えることとするので、学習支援システムの「お知らせ」欄に告知される案内に留意されたし。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	具体的な教材の選定 簡単な実力テスト
第2回	近接未来・近接過去	aller+動詞の原形 venir de +動詞の原形
第3回	複合過去	助動詞 avoir/être の現在形+動詞の過去分詞
第4回	受動態	être + 他動詞の過去分詞 (+ par/de~)
第5回	関係代名詞	qui/que/dont/où
第6回	代名詞 (1)	人称代名詞
第7回	代名詞 (2)	指示代名詞
第8回	代名詞 (3) / 形容詞・副詞の比較級・最上級	中性代名詞 比較級・最上級表現
第9回	代名動詞	再帰代名詞 代名動詞の用法
第10回	直説法大過去 / 条件法現在	助動詞 avoir/être の半過去 + 過去分詞 条件法現在の活用
第11回	直接話法と間接話法	主節の動詞が過去の場合の時制表現
第12回	条件法過去	助動詞 avoir/être の条件法現在 + 過去分詞 条件法過去の用法
第13回	接続法の用法 (1)	接続法現在の活用
第14回	接続法の用法 (2)	接続法過去

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- * 初級・中級クラスで使用したテキストを用い、これまで学習してきたことをひたすら復習する。どの文法事項をよくマスターしていないかを、自分できちんと自覚し、弱点の克服に努める。
- * 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
- * とにかく、学習していれば当然わからないことや疑問が出てくるはずなので、遠慮せずに積極的に質問をして問題を解決し、次のステップに進もうとする気構えが大事。

【テキスト（教科書）】

- * 初回ガイダンスの折に受講生の要望を入れて選定する。場合によっては配布プリントをテキストとして使用する。
- * ここ数年は、仏検4級の過去問を教材として扱うことが多い。

【参考書】

受講生に合わせて、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席の有無、授業態度、毎回の課題の習得度を評点化）のみにより100点満点で評価する。学期末試験（筆記試験）を特に行わない代わりに毎回の授業参加が重視されるため、あまりに欠席しがちであると単位を取得できない恐れがある。

【学生の意見等からの気づき】

語学は、とかく学習の目的を見失いがちで、途中で意欲を失い、挫折することも多いと思う。そこで、本授業では、受講生のそのときどきの関心に合わせ、書籍・映像や音楽等に触れたりもしながら、多角的にフランス文化の簡単な紹介を随時行なう。そうした時間を多少なりとも共有することで、興味・知的好奇心を互いに刺激し合い、フランス的なものへの関心を新たに自分の中に呼び覚ましてもらう。そして、今自分がフランス語を学ぶことの意味や必要性を改めて確認してもらう。また、一緒にフランス語を学ぶことで、フランスに関する意外な知識を増やし、ちょっとしたフランス通になってもいいし、フランス語の実力を自分の生きる力の一つに加えてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続することの可能な通信機器（スマートフォン等）は、持参していると便利である。

【その他の重要事項】

書籍でも電子辞書でも、仏和辞典（中辞典）が手元にあることが望ましい。

【Outline and objectives】

Totally reviewing about the French beginner's course grammar. And, as necessary, learning step by step about the intermediate level matters.

LANf200EA

フランス語中級5

高橋 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、フランス世界遺産をめぐる教科書の後半部分を学習する。初級 A・B で学んだことを丁寧に確認しながら、「読む・書く・話す・聞く」のすべての場面において必要な新しい文法知識や語彙、表現を習得し、フランス語の運用能力を高める。

【到達目標】

基本的な語句や表現を用いた簡単な構文による内容を理解し、直説法、条件法、接続法の動詞を使うことができる。仏検3級に合格できるレベルを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書の一課につき、二回の授業を充てる。一回目は主に文法的な事項に関する説明をし、二回目はそれらを生かした具体的な表現を学びながら練習する。映像や写真、データ等を通じて、フランスの歴史や文化も紹介する。辞書を必ず持参すること。具体的な進め方については「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示する。

授業のはじめに、前回の課題等で示された質問や意見からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Leçon 7 : La Provence	中性代名詞
2	Leçon 7 : La Provence	代名詞の語順
3	Leçon 8 : Lyon	関係代名詞 (1)
4	Leçon 8 : Lyon	過去分詞の性・数一致、tout の用法
5	Leçon 9 : Dijon	疑問代名詞
6	Leçon 9 : Dijon	関係代名詞 (2)、所有代名詞
7	Leçon 10 : Strasbourg	条件法現在
8	Leçon 10 : Strasbourg	条件法過去
9	Leçon 10 : Strasbourg	仮定の用法
10	Leçon 11 : Nancy	話法
11	Leçon 11 : Nancy	時制の一致
12	Leçon 12 : Versailles	接続法現在
13	Leçon 12 : Versailles	接続法過去
14	まとめと解説	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法知識の定着を目的とする課題をおこなう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

有富智世他『なびふらんせ2ーフランス世界遺産をめぐるー』、朝日出版社、2019 年

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

単位認定で考慮されるのは毎回の授業の状況、授業中の応答、複数回の課題の提出である。評価はそれらの総合点を 100 点満点として行われる。成績評価の内訳は、各課の課題 50 %、平常点 50 %（授業参加度含む）とする。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度もフランスの歴史や文化、社会が見えてくる授業を行いたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students improve their French skills and reach the intermediate level.

LANf200EA

フランス語中級6

瀬谷グロندان アンヌオレリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランスの日常生活に触れながら、フランス語の会話の基礎を学ぶ。

【到達目標】

日常生活に必要な基本表現ができるようになる。具体的には、自己紹介、店舗での注文、人物描写、旅行、趣味、といった会話。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の具体的な進め方については、以下の通り。

1. 送付される資料を授業当日までに予習する

2. Zoom を介した授業の実施

フランス語でのオンラインセッションの時間を最大限確保するために、少人数のグループに分かれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Unité 6: Qui?	Parler de sa famille ou de ses amis
2 回目	Unité 7: Quoi? (1)	Décrire un objet, parler de ses loisirs
3 回目	Unité 7: Quoi? (2)	Décrire un objet, parler de ses loisirs
4 回目	Unité 8: Comment? (1) Parler de ses déplacements	Parler de ses déplacements
5 回目	Test et activités	Quizz et jeux de rôles
6 回目	Unité 8: Comment? (2)	Parler de ses déplacements
7 回目	Unité 8: Comment? (3)	Parler de ses déplacements
8 回目	Unité 9: Quelle histoire! (1)	Parler d'un événement ou d'une situation au passé
9 回目	Unité 9: Quelle histoire! (2)	Parler d'un événement ou d'une situation au passé
10 回目	Unité 9: Quelle histoire! (3)	Parler d'un événement ou d'une situation au passé
11 回目	Test et activités	Quizz et jeux de rôles
12 回目	Unité 10: Et si...? (1)	Hypothèses ou conditions
13 回目	Unité 10: Et si...? (2)	Hypothèses ou conditions
14 回目	Unité 10: Et si...? (3)	Hypothèses ou conditions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習が各 45 分間程度必要。

【テキスト（教科書）】

Rythmes et communication (リズムコミ！フランス語会話)、朝日出版社 (2500 円)

ISBN: 978-4-255-35275-6

【参考書】

仏和・和仏辞典があると便利。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 :30%

授業内の活動（口頭発表、グループワーク等）: 40%

授業への取り組み（出欠と授業態度及び授業への参加）:30%

この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外であるため注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス文化により触れるような授業構成に変更。

【Outline and objectives】

This is a French conversation class for beginners. We will learn how to communicate in the daily life and also how to sound more natural.

COT200EA

プログラミング初級

高村 恒人

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Java 言語によるプログラミングにはじめて挑戦する人を対象として、基本的な手順なじめるように導く。オブジェクト指向プログラミングというものを「知ってる」と言えるようになることを目指す。

【到達目標】

毎回のテーマに沿った簡単なプログラムを作成し、java 言語によるプログラムを解説する。最終的に、クラスという単位でプログラムをイメージできることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本格的なプログラミング環境の日本語化 eclipse(+java) を使用する。授業は毎回テーマを設け、そのテーマを含むプログラムについて、作成・実行・修正するという作業手順に沿って、進めてゆく。授業ごとに、プログラミング課題に取り組むでもらい、習得状況の把握を行う。習得状況を鑑み、授業を進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	導入	授業の目標、予定、進め方
2.	心構えと基本手順	最初の基本的なプログラミング
3.	変数と型	変数という概念、意義、使用方法
4.	メソッド	メソッドという概念、意義、使用方法
5.	オブジェクト指向 (1)	クラスという概念、意義、使用方法
6.	オブジェクト指向 (2)	インスタンスという概念、意義、使用方法
7.	コンストラクタ	コンストラクタという概念、意義、使用方法
8.	ここまでのまとめ	ここまでの振り返り
9.	情報のカプセル化 (1)	カプセル化という概念、意義、使用方法
10.	情報のカプセル化 (2)	カプセル化に“安全装置”を加えた使用方法
11.	クラスの継承	継承という概念、意義、使用方法
12.	ファイル入出力 (1)	テキストファイルに書き出す方法
13.	ファイル入出力 (2)	テキストファイルを読み込む方法
14.	最終課題	これまでの学習内容を盛り込んだ作品づくり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的には予習は不要である。但し、授業内での理解が不十分と感ずる場合、授業時間内に課題を提出できなかった場合、やむを得ず欠席した場合には自習が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定する教科書はない。なお、PowerPoint の資料を毎回提示する。

【参考書】

参考書や URL は必要に応じて講義の中で提示する。

【成績評価の方法と基準】

原則として、平常点 (50%) と最終提出課題 (50%) を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

スピードは人それぞれなので、一人ひとりに合わせた助言を行ってゆく。

【その他の重要事項】

質問は授業前後に受け付けることとする。

【Outline and objectives】

This class is designed for those who trying to write source code in Java programming language for the first time. Course objective is to introduce students to basic concept of object-oriented programming and to the use of Java programming language.

COT200EA

プログラミング初級

加藤 徹郎

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統合開発環境 eclipse を用いた本格的 Java 言語を学習することで、Processing で学んだプログラミングへの理解をさらに深めていきます。

【到達目標】

入門で学んだ知識をさらに発展させ、自身で問題解決できるような力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、Java のオブジェクト指向に基づき、メソッドやインスタンス、コンストラクタ、クラス、クラスの継承といった概念を理解していきます。抽象的思考と具体的な成果を行ったり来たりしながら、「プログラムを書く」ということの意味を、経験的に学んでいきましょう。

※ 課題のフィードバックについては、実習中質問があればその都度対応する。 ※ 授業の進行は、場合によって変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業進行についての説明。eclipse の使い方の確認。
2	Hello World	Processing から Java への移行・応用と新規学習
3	Variable	変数と代入文の確認
4	Control Structure	if 文、for 文の復習と、do-while、switch 文などの紹介
5	Array	for 文と配列を用いた複雑な繰り返し構文の理解
6	Method_01	Java におけるメソッドの考え方
7	Method_02	リターン文の習得
8	Object Orientation	オブジェクト指向の概念的理解
9	Instance	クラスとインスタンスの違いについて
10	Constructor	クラスにおけるコンストラクタの役割
11	Encapsulation	カプセル化。メソッドを限定的に制御するには
12	Inheritance	継承とスーパークラスの理解
13	Import Statement	インポート文とライブラリの活用
14	CUI / GUI	GUI でプログラムを作成してみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させるつもりでいてください。それが復習の役割を担うはずで。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)、毎回の課題提出 (90%)

【学生の意見等からの気づき】

いぜん学生から「シラバスのタイトルが英語ばかりで難しそうだ」という意見を聞きましたが、そんなことはありません（笑）。ひとつひとつの項目を、丁寧にわかりやすく説明することを心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリを持参してください。ファイル・データの管理に関しては、各自責任をもつこと。

【Outline and objectives】

This course deal with the basic of programming with Java / Eclipse.It also enhance the development of students' skill in making a program by oneself.

COT200EA

プログラミング初級

近藤 恵子

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラムにおける問題解決のアプローチの一手法であるオブジェクト指向の概念を学ぶ。
プログラミング入門で得た知識を更に深め、新たな技術を身に付ける。

【到達目標】

変数の扱いや制御構造を習得する。
提示された問題に対し、それを解くためのプログラムをオブジェクト指向でデザインし、実装する事が出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

統合開発環境を用いてオブジェクト指向言語 **Java** を学ぶ。動くプログラムを体感するために **Android** アプリ制作を取り入れている。
毎回説明と共にプログラムやアプリを作成し、途中やその回の最後に問題を課す。解説は該当授業回か次回に行う。
授業の最後に応用課題としてそれまでの内容を元に自分でアプリをデザイン、制作する。
なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	統合開発環境の使い方、変数と計算
第 2 回	変数と関数について基本学習	変数の型変換、関数の役割と作り方
第 3 回	クラス作成の基本	フィールド、コンストラクタ、メソッド
第 4 回	オーバーロード	コンストラクタとメソッドのオーバーロード
第 5 回	イベントによる画面操作	画面タップ等の操作（エミュレータではマウス操作）の取得
第 6 回	ファイル操作	テキストの書き出しと読み込み
第 7 回	繰り返し	for 文、while 文、do-while 文
第 8 回	配列（基本）	配列の考え方と基本的な操作
第 9 回	配列（応用）	クラスを配列に、2次元配列
第 10 回	カプセル化	アクセス修飾子とセッタ、ゲッタ
第 11 回	継承とオーバーライド	クラスの継承
第 12 回	応用課題 (1)	アプリをデザイン
第 13 回	応用課題 (2)	アプリ制作
第 14 回	応用課題 (3)	説明書制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラムの学習は毎回の積み重ねである。やむをえず欠席した場合、次回までに自習して補う。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の達成度と応用課題の完成度で総合的に評価する。

平常点 60%

応用課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

授業開始時のプログラムスキルにばらつきが大きい。スキルの高い学生は自分で学習を進められるよう資料を準備し、遅れている学生は個別にサポートするよう進める。

【Outline and objectives】

This course deals with the object-oriented method which is an approach to problem solving.
It also enhances the development of students'skills and knowledge in programming.

COT200EA

プログラミング初級

諸上 茂光

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界でシステムやアプリケーションの開発に幅広く使用されている **Java** の統合開発環境である **eclipse** を使用し、オブジェクト指向プログラミングに必要な知識とスキルの習得を目指す。

【到達目標】

プログラミングに必要な変数や制御構造等の知識を身につけるだけでなく、オブジェクト指向の構造を理解することや、プログラムをどのように設計するかというアルゴリズム自体の構成方法を学習し、基礎的な **Java** アプリケーションを「自分で一から作り上げる」ことができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業ではプログラミング入門の復習と、新しい文法の習得により、さらに幅広いプログラムスキルを身につけ、最終課題では実際に動くアプリケーションソフトを作成する。授業ないで随時実習の時間を設けるが、その際に質問を受け付け、随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習の概要説明
2.	eclipse の復習 (1)	変数、if 文
3.	eclipse の復習 (2)	while 文
4.	オブジェクト指向の基本 (1)	クラスとインスタンス
5.	オブジェクト指向の基本 (2)	継承
6.	オブジェクト指向の基本 (3)	キャスト・参照
7.	配列 (1)	for 文と配列処理
8.	配列 (2)	多次元配列
9.	ファイルの入出力 (1)	ファイルからの入力
10.	ファイルの入出力 (2)	ファイルへの出力
11.	最終課題作成 (1)	各自で最終課題を作成
12.	最終課題作成 (2)	各自で最終課題を作成
13.	最終課題作成 (3)	各自で最終課題を作成
14.	プログラミング初級Ⅱへの橋渡し	Android について紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

空いている時間に積極的に何度もプログラム作成を行って、身体で覚えられるようにすることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントの配布あるいはパワーポイントによる提示を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・小課題に対する評価 (50%)

・最終課題に対する評価 (50%)

による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生のスキルに合わせて授業内で復習を取り入れる

【Outline and objectives】

To acquire the basic concepts and skills of programming using JAVA(eclipse).

COT200EA

プログラミング初級

湯本 正実

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

週に一度、論理的に考え、プログラミングの「？」という感覚を「！」という感嘆に変えて行く（案外と心地良いものです）。課題については個々に指摘事項をフィードバックする。

【到達目標】

「プログラミング？ 基本的な部分は分かるよ。」と言えるようになることが目標。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初学者を対象とした授業である。主に Eclipse(開発用ソフト)を利用し、Java 言語の文法やプログラミングの書き方・考え方を基本から学ぶ。また、Python 言語の基礎部分も学習する。丁寧な解説と無理のない内容を心がけるので、考えつつ実習に取り組んでもらいたい。プログラミングに関連する IT 用語についても、きちんと解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	紹介 前編	プログラミング用語の解説 (Class という言葉がキー)。
第 2 回	紹介 後編	プログラミングで何が出来るか。またそれには何を必要とするか。
第 3 回	変数	たとえ数でなくても「変数」という紛らわしい用語。
第 4 回	構成	プログラムの構成要素。
第 5 回	既存のものの流用の仕方	プログラムをゼロから書くという「修行」は不要。
第 6 回	動かすための書き方	実はプログラムには「動かない」部分と「動く」部分がある。
第 7 回	読み書き	「ファイル」という単位での読み書きについて。
第 8 回	画面プログラム 前編	画面作成の取っかかり。
第 9 回	画面プログラム 中編	画面作成は一筆書きでも一枚岩でもない。
第 10 回	画面プログラム 後編	画面と実動作を結び付ける。
第 11 回	コンピュータの外部からアクションを起こす	イベントの話。
第 12 回	Python その 1	Java とは全然違うスクリプト言語の紹介。
第 13 回	Python その 2	計算等の機能。
第 14 回	Python その 3	繰り返し等の機能。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外での質問等は随時電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
(実習室での対面授業が実施出来ない場合は、課題提出により出席とみなす)

【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】

特に指定なし。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点：30% 提出課題：70% で評価する。
- ・最終課題提出は必須である。
- ・質問や意見の積極的な質問、平常点に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

各位からの的を射た意見は、講義に反映する。

【学生が準備すべき機器他】

各自、個人用パソコンを用意のこと。

【その他の重要事項】

・現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。

【Outline and objectives】

Changing questions about programming into admirations

COT300ED

プログラミングと論理的思考

鈴木 麻美

サブタイトル：特講（プログラミング上級）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、はじめに「どういう筋道でプログラムを組むか」を検討し、それを記述するところから始める。自分の考えをまとめ、さらに他人への説明を行うには、この「思考をきちんと記述すること」を学ぶことが重要である。プログラミング以外の様々な場面において「きちんと思考し、それを他人へ伝えること」を学ぶことを目的とする。さらに、各自のプログラミング技術を発展させ、より自由に目的に応じたプログラミングを組むための応用力の習得を目指す。

【到達目標】

目的にあったプログラムを、フローチャートをしっかり書くことで、自分自身の考え方を明確にし、その上で目的にあった他人も理解しやすく、間違いにも気づきやすいプログラムを組むことを目的とする。さらに、各課題について、毎回発表することで、互いの作品を理解し合いながらより深く理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

今年度に関しては Zoom を用いてのオンライン講義とする。課題について各自がプログラムを作成し、さらにその完成したプログラムを Zoom 上で他の学生へ紹介しあうことで、自分自身のスキルアップを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などに関しての説明と、各自のこれまでの授業で学んだ内容の確認
2	繰り返し計算 (1)	繰り返しの計算を用いた課題の作成
3	繰り返し計算 (2)	繰り返しの計算を用いた課題の発表
4	数値の判定 (1)	数値に対する判定を用いた課題の作成
5	数値の判定 (2)	数値に対する判定を用いた課題の発表
6	数値の判定 (3)	数値に対する判定を用いた応用問題への取り組み
7	数値の判定 (4)	作成したプログラムの発表
8	繰り返しと数値の判定の応用 (1)	応用問題についてのフローチャートの作成
9	繰り返しと数値の判定の応用 (2)	プログラム検討と作成
10	繰り返しと数値の判定の応用 (3)	プログラム成果発表
11	最終課題作成 (1)	フローチャート作成
12	最終課題作成 (2)	プログラム作成
13	最終課題作成 (3)	プログラム作成・検討
14	最終課題提出	プログラム成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題に関しては、これまで各自が学んだスキルの中からどれを用いて取り組んでも構わない。各自がそれぞれの工夫により、自由にプログラムを作成してもらいたい。授業に積極的に参加してくれることを期待する。毎回の授業の予習復習は、おおよね合わせて 4 時間程度と考えられるが、課題の内容によりもっと多くの時間を要することもあるが、しっかり取り組んでもらいたい。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない

【参考書】

適宜指定

【成績評価の方法と基準】

授業における課題の取り組み状況 (50%) と作品の提出物 (50%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

簡単なプログラムは考え方の道筋を示す「フローチャート」を書くよりも先にプログラムを完成させ、後からフローチャートを書く学生が多い。問題が難しくなると初めて「フローチャート」の必要性が分かるようだ。一方で、この「フローチャート」は、日々の生活の中でも常に頭に描きながら思考・行動することで「危機管理能力」などの様々な効果を得られるものである。論理的思考力を身につけるためには、はじめから自分の思考を記述できるように「フローチャート」をきちんと書くことで学習効果を高めたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業のために、Zoomでの講義に参加できる環境と、プログラミングが可能な自宅のPCまたは学内のPCを使って参加してください。

【Outline and objectives】

We learn logical thinking with programming, and we have an aim that apply it to programing.

PRI100EA

プログラミング入門

石井 由起

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初歩的なプログラミングを通して、既製のアプリケーションの基本操作だけの受け身のコンピュータ利用から、より積極的に問題解決思考でコンピュータと関わるための実習です。

【到達目標】

プログラミングの基礎を身につけ、ビジュアル表現を用いた簡単なプログラムを作成することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing を駆使して制作する実習です。プログラミングの一連の過程を体験し、段階的な解説と実習で、各自成果物を作成します。

課題へのフィードバックは原則として、学習支援システムを活用してコメントを提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロ 前編	プログラミング用語の説明
第2回	イントロ 中編	プログラミングの心構え
第3回	イントロ 後編	プログラミングの作法
第4回	変数 前編	2 進数にまつわる話
第5回	変数 中編	数値データの扱い方
第6回	変数 後編	文字データの扱い方
第7回	定数	値が一定しているデータの話
第8回	条件分岐 if 文	単純な分岐
第9回	条件分岐 switch 文	複雑な分岐
第10回	繰り返し for 文	何回繰り返すのか？ の話
第11回	繰り返し while 文	いつまで繰り返すのか？ の話
第12回	繰り返し do~while 文	いつまで繰り返すのか？ の話
第13回	アニメーション 前編	動画のつくり方の話
第14回	アニメーション 後編	簡単な動画の制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別な準備は必要ありませんが、授業期間は長丁場ですから、理解の深まらない回も出てくるものです。資料をよく読みなおしたり、質問したりする姿勢が重要になります。提示された課題については、授業内に終わらない場合、提出期限内に仕上げるよう努めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

毎回、PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進めます。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点、提出物（授業内で提示する課題）を総合的に判断して、成績を評価します。内訳は、平常点 60 %、課題（提出物）40 %です。平常点は、普段の実習への取り組みや姿勢に関する評価です。課題（提出物）は実習の内容を、どの程度、理解しているか？ を確認するために行います。課題（提出物）で主に評価するのは、プログラム制作に取り組んだプロセスです。次いでプログラムの完成度です。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの的を射たご意見は、常々、創意工夫と進取創造を以って、講義に反映したいと考えています。授業補完計画です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必要です。

【その他の重要事項】

原則、毎回出席して下さい。止むを得ず欠席した場合は、以後の講義に追いつけるように資料を入手し、講義内容を自習して下さい。

【Outline and objectives】

To create visual programming artifacts by using Processing application. To accomplish problem-solving approaches through the programming activities.

COT100EA

プログラミング入門

石井 由起

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初歩的なプログラミングを通して、既製のアプリケーションの基本操作だけの受け身のコンピュータ利用から、より積極的に問題解決思考でコンピュータと関わるための実習です。

【到達目標】

プログラミングの基礎を身につけ、ビジュアル表現を用いた簡単なプログラムを作成することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing という言語を駆使して制作する実習です。プログラミングの一連の過程を体験し、段階的な解説と実習で、各自成果物を作成します。課題へのフィードバックは原則として、学習支援システムを活用してコメントを提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロ 前編	プログラミング用語の説明
第2回	イントロ 中編	プログラミングの心構え
第3回	イントロ 後編	プログラミングの作法
第4回	変数 前編	2進数にまつわる話
第5回	変数 中編	数値データの扱い方
第6回	変数 後編	文字データの扱い方
第7回	定数	値が一定しているデータの話
第8回	条件分岐 if 文	単純な分岐
第9回	条件分岐 switch 文	複雑な分岐
第10回	繰り返し for 文	何回繰り返すのか？ の話
第11回	繰り返し while 文	いつまで繰り返すのか？ の話
第12回	繰り返し do~while 文	いつまで繰り返すのか？ の話
第13回	アニメーション 前編	動画の作り方話
第14回	アニメーション 後編	簡単な動画の制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別な準備は必要ありませんが、授業期間は長丁場ですから、理解の深まらない回も出てくるものです。資料をよく読みなおしたり、質問したりする姿勢が重要になります。提示された課題については、授業内に終わらない場合、提出期限内に仕上げるよう努めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

毎回、PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進めます。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点、提出物（授業内で提示する課題）を総合的に判断して、成績を評価します。内訳は、平常点 60 %、課題（提出物）40 %です。平常点は、普段の実習への取り組みや姿勢に関する評価です。課題（提出物）は実習の内容を、どの程度、理解しているか？ を確認するためにいきます。課題（提出物）で主に評価するのは、プログラム制作に取り組んだプロセスです。次いでプログラムの完成度です。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんからの的を射たご意見は、常々、創意工夫と進取創造を以って、講義に反映したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセス

【その他の重要事項】

原則、毎回出席して下さい。止むを得ず欠席した場合は、以後の講義に追いつけるように資料を入手し、講義内容を自習して下さい。

【Outline and objectives】

To create visual programming artifacts by using Processing application.
To accomplish problem-solving approaches through the programming activities.

COT100EA

プログラミング入門

小川 有希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、Processing というプログラミング言語の学習を通して、プログラミングにおける基本的なコードの書き方と考え方を習得することを目的とする実習形式の授業である。

【到達目標】

Processing の基本的なコードの意味を理解し、自分のアイデアをコードで書けるようになること、そしてオリジナルのグラフィックスを作れるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマに沿った課題に取り組むことでスキルを習得していく。授業の前半はコードや構文について説明した上でサンプル課題と一緒に試し、後半は応用的な課題に各自が取り組むという構成を予定している。必要に応じて課題の解説も挿入する。「話を聴くだけ」の授業ではなく、「自分の手を動かす」実習形式の授業なので、毎回出席して積極的に取り組む必要がある。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入	授業の概要説明、Processing への導入
第2回	Processing の基礎	Processing の基本事項と作業手順
第3回	図形描画 (1)	基本図形の書き方、色のつけ方
第4回	図形描画 (2)	より複雑な図形の書き方、色のつけ方
第5回	変数と計算、画像の表示	変数の使い方、画像の表示のさせ方
第6回	繰り返し	繰り返し構文の書き方
第7回	条件文	条件文・条件分岐 (if 文) の書き方
第8回	文字を描く	文字を表示させるコードの書き方
第9回	動きをつける (1)	直線的な動きをつけるコードの書き方
第10回	動きをつける (2)	曲線的な動きをつけるコードの書き方
第11回	動きをつける (3)	多様な動きを組合せたコードの書き方
第12回	動きをつける (4)	多様な動きを組合せたコードの書き方
第13回	最終課題作品制作	各自で最終課題作品を制作する
第14回	最終課題作品発表会	最終課題作品を発表し相互評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に理解が不十分だった点を復習し、授業中に終わらなかった課題を次週までに完成させていくこと。プログラミングのスキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていく。そのためには、授業時間外に自主学習の時間をとる必要がある。コードの意味を理解し、粘り強く試行錯誤を重ねて、オリジナリティの高いビジュアル表現を追求してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で出題する課題の提出内容 (50%) と最終課題の提出内容 (50%) で総合的に評価する。平常点も加味する。実習形式の授業であるため、遅刻・欠席回数が一定数を超えた場合には、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

その日の要点を最初に簡潔に説明し、作業時間を十分確保するように努める。

【Outline and objectives】

This lecture is a practical lesson that aims to acquire basic code writing and general idea in programming through program creation by Processing.

COT100EA

プログラミング入門

小川 有希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、Processing というプログラミング言語の学習を通して、プログラミングにおける基本的なコードの書き方と考え方を習得することを目的とする実習形式の授業である。

【到達目標】

Processing の基本的なコードの意味を理解し、自分のアイデアをコードで書けるようになること、そしてオリジナルのグラフィックスを作れるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマに沿った課題に取り組むことでスキルを習得していく。授業の前半はコードや構文について説明した上でサンプル課題を一緒に試し、後半は応用的な課題に各自が取り組むという構成を予定している。必要に応じて課題の解説も挿入する。「話を聴くだけ」の授業ではなく、「自分の手を動かす」実習形式の授業なので、毎回出席して積極的に取り組む必要がある。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと導入	授業の概要説明、Processing への導入
第 2 回	Processing の基礎	Processing の基本事項と作業手順
第 3 回	図形描画 (1)	基本図形の書き方、色のつけ方
第 4 回	図形描画 (2)	より複雑な図形の書き方、色のつけ方
第 5 回	変数と計算、画像の表示	変数の使い方、画像の表示のさせ方
第 6 回	繰り返し	繰り返し構文の書き方
第 7 回	条件文	条件文・条件分岐 (if 文) の書き方
第 8 回	文字を描く	文字を表示させるコードの書き方
第 9 回	動きをつける (1)	直線的な動きをつけるコードの書き方
第 10 回	動きをつける (2)	曲線的な動きをつけるコードの書き方
第 11 回	動きをつける (3)	多様な動きを組合せたコードの書き方
第 12 回	動きをつける (4)	多様な動きを組合せたコードの書き方
第 13 回	最終課題作品制作	各自で最終課題作品を制作する
第 14 回	最終課題作品発表会	最終課題作品を発表し相互評価する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に理解が不十分だった点を復習し、授業中に終わらなかった課題を次週までに完成させてくること。プログラミングのスキルは、繰り返し手を動かすことによって少しずつ身につけていく。そのためには、授業時間外に自主学習の時間をとる必要がある。コードの意味を理解し、粘り強く試行錯誤を重ねて、オリジナリティの高いビジュアル表現を追求してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。必要に応じて授業の中で資料を提示する。

【参考書】

必要に応じて授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で出題する課題の提出内容 (50%) と最終課題の提出内容 (50%) で総合的に評価する。平常点も加味する。実習形式の授業であるため、遅刻・欠席回数が一定数を超えた場合には、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

その日の要点を最初に簡潔に説明し、作業時間を十分確保するように努める。

【Outline and objectives】

This lecture is a practical lesson that aims to acquire basic code writing and general idea in programming through program creation by Processing.

COT100EA

プログラミング入門

橋本 政樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータは、日常生活、社会経済システム、エンターテインメントに大きな影響を与えると同時に、ある種の制約ももたらしめている。そのため、その基盤となっているプログラミングについての知識は、社会を考察していくうえでも重要になっている。

本授業では、コンピュータとそのプログラムの簡単な仕組みを学ぶと同時に、その利点と問題点を考察する。コンピュータとプログラムにおける物語的な側面にも注目する。

【到達目標】

一連の流れがあり、グラフィックス的にも工夫されたプログラムを作成できるようになる。それによって、プログラムを利用した情報の交換・加工・表現ができるようになる。それと共に、コンピュータの仕組み・情報ネットワークの問題点・新しい情報技術やコンテンツの意味と社会における様々な制約を、プログラムを通して理解できるようにすることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はプログラミングと、その社会的位置づけに関する考察ができるように、毎回の実習課題に基づいて進めるので、積極的な授業参加が必要になる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
【第 1 回】	プログラミングとは	プログラミングとその言語の説明
【第 2 回】	Processing のグラフィックス	プログラミングによるグラフィックスの練習
【第 3 回】	簡単な画像プログラム	画像に関するプログラミング練習
【第 4 回】	変数	プログラミングにおける変数とは
【第 5 回】	条件を伴うプログラム	条件に応じてプログラムの動作を変化させる
【第 6 回】	複雑な条件を伴うプログラム	複雑な条件に応じてプログラムの動作を変化させる
【第 7 回】	中間課題発表	6 回までの内容をまとめ、一つのプログラムを作成
【第 8 回】	繰り返しを伴うプログラム	繰り返し処理をさせてグラフィックスを描く
【第 9 回】	インタラクティブなプログラム	ユーザーの反応によってプログラムの動作を変化させる
【第 10 回】	インタラクティブで構造化されたプログラム	きちんと構造化された、インタラクティブなプログラムの練習
【第 11 回】	Android プラグラミング	プログラミングとスマートフォンの関係
【第 12 回】	最終課題作成	最終課題案に基づきプログラミング
【第 13 回】	最終課題発表	最終課題を完成させる
【第 14 回】	最終課題発表	最終課題を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の復習。中間課題・最終課題の提出が時間内に終了しなかった場合は、授業外での作業が必要になる。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

講義時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は最終課題（50％）と、毎回の実習の成績（50％）等を加味して総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

皆がプログラミングを楽しめるように、TAの人たちと協力しながら、様々な工夫をしていきたい。

【Outline and objectives】

Learn the simple mechanics of computers and their programs

COT100EA

プログラミング入門

加藤 徹郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基礎知識の習得。

【到達目標】

プログラミングの初歩的な作業を、スムーズに運用できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この実習では、初心者を対象として、プログラミングの基本的な知識の習得を目指します。具体的には、Processing を用いてプログラミングの実際と面白さを体験するとともに、プログラム構築の基本的な理屈と文法を学んでもらいます。まずは簡単な記述からはじめつつ、プログラムの組み方を、経験的に学んでいきましょう。

※ 春学期の「コンピューター入門」とセットで履修するのが好ましい。

※ 課題のフィードバックについては、実習中質問があればその都度対応する。

※ 授業の進行は、場合によって変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進行についての説明。 Processing の起動と保存。
2	Processing ①	簡単な図形の作成と関数について。
3	Processing ②	変数についての初歩。簡単な図形を変数を用いて描いてみる。
4	Processing ③	Processing に特有な変数の説明。 setup/draw 関数について。
5	Processing ④	制御文についての考え方。条件分岐（if 文）の解説。
6	Processing ⑤	演算子と変数の関係。繰り返し（for 文）について。
7	Processing ⑥	繰り返し（for 文）についての解説。 第 6 回の内容をさらに深めていく。
8	Processing ⑦	繰り返し（while 文）について。for 文との相違について。
9	Processing ⑧	条件分岐と繰り返しを組み合わせたプログラムの作成。
10	Processing ⑨	物体に動きをつけるアニメーションの作成。
11	Processing ⑩	Processing における画像と文字の挿入。
12	Processing ⑪	配列についての解説。コンソールボックスの使用を試してみる。
13	Eclipse ①	本格的な Java への第一歩。プロジェクト/パッケージ/クラスなどについての基本的な考え方について解説。
14	Eclipse ②	体験入門編。こちらが用意したテンプレートをもとに、Eclipse を使用してどのようなことができるのか、体験してみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させるつもりでいてください。それが復習の役割を担うはずで、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）。

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10％）、最終課題 = Processing のオリジナル作品（90％）

【学生の意見等からの気づき】

プログラムの“コツ”を、なるべく分かりやすく、繰り返し説明することを心がけますので、若干難しいと思ってもあきらめず、授業に参加するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリの用意。ファイル管理は各自で徹底すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic of programming with Processing to students taking this course.

COT100EA

プログラミング入門

加藤 徹郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基礎知識の習得。

【到達目標】

プログラミングの初歩的な作業を、スムーズに運用できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この実習では、初心者を対象として、プログラミングの基本的な知識の習得を目指します。具体的には、Processingを用いてプログラミングの実際と面白さを体験するとともに、プログラム構築の基本的な理屈と文法を学んでもらいます。まずは簡単な記述からはじめつつ、プログラムの組み方を、経験的に学んでいきましょう。

※ 春学期の「コンピューター入門」とセットで履修するのが好ましい。

※ 課題のフィードバックについては、実習中質問があればその都度対応する。

※ 授業の進行は、場合によって変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進行についての説明。 Processingの起動と保存。
2	Processing ①	簡単な図形の作成と関数について。
3	Processing ②	変数についての初歩。簡単な図形を変数を用いて描いてみる。
4	Processing ③	Processingに特有な変数の説明。 setup/draw関数について。
5	Processing ④	制御文についての考え方。条件分岐（if文）の解説。
6	Processing ⑤	演算子と変数の関係。繰り返し（for文）について。
7	Processing ⑥	繰り返し（for文）についての解説。 第6回の内容をさらに深めていく。
8	Processing ⑦	繰り返し（while文）について。for文との相違について。
9	Processing ⑧	条件分岐と繰り返しを組み合わせたプログラムの作成。
10	Processing ⑨	物体に動きをつけるアニメーションの作成。
11	Processing ⑩	Processingにおける画像と文字の挿入。
12	Processing ⑪	配列についての解説。コンソールボックスの使用を試してみる。
13	Eclipse ①	本格的なJavaへの第一歩。プロジェクト/パッケージ/クラスなどについての基本的な考え方について解説。
14	Eclipse ②	体験入門編。こちらが用意したテンプレートをもとに、Eclipseを使用してどのようなことができるのか、体験してみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありません。ただし進行上、授業内で終わらなかった作業については、翌週にまで完成させるつもりでいてください。それが復習の役割を担うはずで、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じてプリントを配布します）。

【参考書】

授業中に適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、最終課題＝Processingのオリジナル作品（90%）

【学生の意見等からの気づき】

プログラミンの“コツ”を、なるべく分かりやすく、繰り返し説明することを心がけますので、若干難しいと思ってもあきらめず、授業に参加するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

USBメモリの用意。ファイル管理は各自で徹底すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic of programming with Processing to students taking this course.

COT100EA

プログラミング入門

近藤 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基本技術を習得すると共に、プログラミング的思考を学ぶ。

【到達目標】

プログラムの基本的な命令や制御構造の書き方を理解する。
プログラムの目的を意識して流れを考えながら全体を組み立てる力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

プログラミング入門者を対象とし、初学者にも取り組みやすい Processing を用いて学習する。

まずその回の内容の説明を聞き、練習問題を解いていく。さらに課題を自力で解く事で学んだ内容を自分のものとする。次回授業最初に課題の解説を聞く事で次の学習につなげる。

この繰り返しにより知識を積み重ねスキルを身につける。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図形描画	座標を指定し画面に図形を描画する
第 2 回	変数	変数の型と基本的な使い方
第 3 回	繰り返し描画	setup 関数と draw 関数による繰り返し、変数のスコープ
第 4 回	ランダム	必要な範囲の乱数を発生させる
第 5 回	条件分岐 (1)	if 文による基本的な分岐構造、条件の記述方法
第 6 回	第 1 回テスト	ここまでの内容を確認する
第 7 回	解答と練習問題	第 1 回テストの解説と練習問題
第 8 回	条件分岐 (2)	複数条件がある場合
第 9 回	繰り返し構造	for 文を使用した繰り返し構造
第 10 回	マウスで描画	マウスの位置座標を用いたプログラミング
第 11 回	マウスクリックで操作	マウスクリックによる入力
第 12 回	第 2 回テスト	全体の内容の確認
第 13 回	解答と練習問題	第 2 回テストの解説と練習問題
第 14 回	自由課題	自分でプログラムを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全ての内容が積み重ねになっており、前回までの内容を理解していないと理解が覚束なくなる。やむをえず欠席した場合、次回までに自習して補う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

Processing をはじめよう 第 2 版 / Casey Reas, Ben Fry 著、オライリージャパン

【成績評価の方法と基準】

授業内で 2 回テストを実施する。テストは記述問題とプログラムの作成を課す。その成績と自由課題の成果、毎回の課題の達成度で総合的に評価する。

第 1 回試験 30%

第 2 回試験 30%

自由課題 10%

平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

授業が難しく付いていけないと言う学生が、必ずしも評価が低い訳ではない。なんとなく出来たではなく、分かったと自分で思えるようにする。

【Outline and objectives】

This course introduces fundamental technique of programming and computational thinking to students taking this course.

COT100EA

プログラミング入門

近藤 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングの基本技術を習得すると共に、プログラミング的思考を学ぶ。

【到達目標】

プログラムの基本的な命令や制御構造の書き方を理解する。
プログラムの目的を意識して流れを考えながら全体を組み立てる力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

プログラミング入門者を対象とし、初学者にも取り組みやすい Processing を用いて学習する。

まずその回の内容の説明を聞き、練習問題を解いていく。さらに課題を自力で解く事で学んだ内容を自分のものとする。次回授業最初に課題の解説を聞く事で次の学習につなげる。

この繰り返しにより知識を積み重ねスキルを身につける。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	図形描画	座標を指定し画面に図形を描画する
第 2 回	変数	変数の型と基本的な使い方
第 3 回	繰り返し描画	setup 関数と draw 関数による繰り返し、変数のスコープ
第 4 回	ランダム	必要な範囲の乱数を発生させる
第 5 回	条件分岐 (1)	if 文による基本的な分岐構造、条件の記述方法
第 6 回	第 1 回テスト	ここまでの内容を確認する
第 7 回	解答と練習問題	第 1 回テストの解説と練習問題
第 8 回	条件分岐 (2)	複数条件がある場合
第 9 回	繰り返し構造	for 文を使用した繰り返し構造
第 10 回	マウスで描画	マウスの位置座標を用いたプログラミング
第 11 回	マウスクリックで操作	マウスクリックによる入力
第 12 回	第 2 回テスト	全体の内容の確認
第 13 回	解答と練習問題	第 2 回テストの解説と練習問題
第 14 回	自由課題	自分でプログラムを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全ての内容が積み重ねになっており、前回までの内容を理解していないと理解が覚束なくなる。やむをえず欠席した場合、次回までに自習して補う。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。資料は必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

Processing をはじめよう 第 2 版 / Casey Reas, Ben Fry 著、オライリージャパン

【成績評価の方法と基準】

授業内で 2 回テストを実施する。テストは記述問題とプログラムの作成を課す。その成績と自由課題の成果、毎回の課題の達成度で総合的に評価する。

第 1 回試験 30%

第 2 回試験 30%

自由課題 10%

平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

授業が難しく付いていけないと言う学生が、必ずしも評価が低い訳ではない。なんとなく出来たではなく、分かったと自分で思えるようにする。

【Outline and objectives】

This course introduces fundamental technique of programming and computational thinking to students taking this course.

COT100EA

プログラミング入門

橋爪 絢子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

JAVA(processing)を使用したプログラムの作成を通じて、プログラミングの基本的な考え方や知識を習得する。

【到達目標】

ヴィジュアル表現の制御に長けている processing を使い、文系学生でも怖がらずに自信をもってプログラミングの世界に触れることができることを体感することが最大の目標である。その上で、本実習を通して、より実践的なプログラミングに興味を持ち、より上級科目を履修していくためのきっかけとなることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

簡易言語の processing を利用する事でプログラミングの感覚を掴み、プログラミングの楽しさを体験する。授業では毎回テーマを設け、そのテーマを含むプログラムを作成・実行・修正するという一連の作業手順を行う。

情報実習室での実施の場合には、授業内で行う演習課題について適宜フィードバックをしながら進めていくが、オンラインでの実施になった場合には、前回までに提出された課題の内容や得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習の概要説明と、JAVA についての講義
2.	processing の基礎	processing の概念と基本的な利用法の説明
3.	processing による図形描画 (1)	簡単な図形（楕円・四角形など）の描画
4.	processing による図形描画 (2)	色の指定とカラーモード
5.	変数、基礎プログラミング	変数の理解 コンソール表示 簡単な命令文
6.	processing による図形の制御 (1)	変数を用いた図形描画
7.	processing による図形の制御 (2)	図形の移動と回転
8.	processing による図形の制御 (3)	分岐・繰り返し処理を利用した複数図形の描画
9.	processing におけるインタラクティブ制御 (1)	マウス入力を反映
10.	processing におけるインタラクティブ制御 (2)	キーボード入力を取り込む
11.	最終課題作成 (1)	各自で最終課題を作成
12.	最終課題作成 (2)	各自で最終課題を作成
13.	最終課題作成 (3)	各自で最終課題を作成
14.	課題発表	課題の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラムは一回書いたら覚えられないような暗記科目ではありません。空いている時間に積極的に何度もプログラム作成を行って、身体で覚えられようように努力しましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントの配布あるいはパワーポイントによる提示を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・小課題に対する評価 (40%)

・最終課題に対する評価 (30%)

・平常点 (30%)

による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度の調整と配布資料の改良によって受講生の理解度を向上させる。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

【コロナウイルス感染症の状況に応じてオンラインでの実施になった場合、ご自身の PC もしくは貸出し PC を用意していただく必要性があります。】

【Outline and objectives】

This course aims at acquiring the basic concepts and knowledge of programming using JAVA(processing).

COT100EA

プログラミング入門

林田 和人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな問題を解決していくためには、論理的な思考ができることが必要となります。

この論理的な思考力を伸ばすために、コンピュータでアプリケーションを作成するための環境であるプログラミングを学習します。

動きがあり、またビジュアルなアプリケーションを作成することで、プログラミングの基礎的な知識を習得し、論理的な思考能力を高めます。

【到達目標】

プログラムは、与えられた教材を学ぶだけでは上達しません。アプリケーションをうまく作れるようになるためには、自分自身で作りたいものと考え、それを作っていくことが上達のための唯一の方法です。

よって、プログラミング言語の一つである **Processing** の基礎的な知識を学び、自分自身で作りたいものと考え、そしてそれを作れるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing は無料のアプリケーションを開発する環境で、時間変化のあるビジュアルな表現を容易に実現できます。

この **Processing** の基礎を学び、ビジュアルなアプリケーションを作成することで、プログラミング能力と、論理的な思考力を養います。

課題では、自分自身のオリジナリティを発揮したアプリケーションを制作してください。

試行錯誤し、試す能力を伸ばすことで、論理的な思考力を高めます。

なお、「課題 1」、「課題 2」提出時にクラスで発表、意見交換し、講評を行います。

授業内での活動を充実したものにするため、授業へ出席することを期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Processing の基本を知る	ガイダンス、変数を知り、簡単な画像を作成する
第 2 回	座標を理解する	座標を意識しながら、2次元の静止画（パソコンかスマホの待ち受け）を作る
第 3 回	条件分岐を知る	条件分岐 if を理解し、値段表を作る
第 4 回	繰り返しを知る	繰り返し for と条件分岐 if を理解し、静止画を作る
第 5 回	2次元の静止画を制作	座標を意識し、繰り返しを使って2次元の静止画（パソコンかスマホの待ち受け）を作る
第 6 回	イベントを知る 1	時間変化するアニメーションを理解する
第 7 回	イベントを知る 2	マウスイベント、キーボードイベントを理解する
第 8 回	「課題 1（アニメーション）」の制作 1	Processing で「課題 1（アニメーション）」を制作する、課題 1 のポイントは時間変化するアニメーション、インタラクティブ
第 9 回	「課題 1（アニメーション）」の制作 2	Processing で「課題 1（アニメーション）」を制作する
第 10 回	「課題 1（アニメーション）」の発表	「課題 1（アニメーション）」を発表し意見交換する
第 11 回	時間と音の制御を知る	時間を制御することを理解し、音を使った簡単なアニメーションを作成する
第 12 回	「課題 2（音とアニメーション）」の制作 1	Processing で「課題 2（音とアニメーション）」を制作する、課題 2 のポイントは音を使うことと時間のコントロール
第 13 回	「課題 2（音とアニメーション）」の制作 2	Processing で「課題 2（音とアニメーション）」を制作する
第 14 回	「課題 2（音とアニメーション）」の発表	「課題 2（音とアニメーション）」を発表し意見交換する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に授業に来れば、それだけで習得できるので、特に授業以外での学習は要求しません。

ただし、課題についての構想は授業外で考えてくるようにしてください。余裕のある人は、適宜配布するプリントで復習してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

授業時に、適宜プリントやデータの配布を行う。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）

課題点（40%）

平常点の評価は、積極的な授業への参加、授業開始時間の厳守を基準とする。

課題の評価は、授業で学んだことの意味、応用度を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための配布物（データ）を配布するようにする。

【その他の重要事項】

欠席は、他の学生の進捗に関わります。病欠など以外は頑張ってください。

授業への積極的な参加を期待しています。

【Outline and objectives】

In order to solve the problem, logical thinking skill is necessary.

Learn programming to extend logical thinking skills.

By creating an application, you will acquire the basic knowledge of programming.

And increase the logical thinking abilities.

COT100EA

プログラミング入門

林田 和人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな問題を解決していくためには、論理的な思考ができることが必要となります。

この論理的な思考力を伸ばすために、コンピュータでアプリケーションを作成するための環境であるプログラミングを学習します。

動きがあり、またビジュアルなアプリケーションを作ることで、プログラミングの基礎的な知識を習得し、論理的な思考能力を高めます。

【到達目標】

プログラムは、与えられた教材を学ぶだけでは上達しません。アプリケーションをうまく作れるようになるためには、自分自身で作りたいたものを考え、それを作っていくことが上達のための唯一の方法です。

よって、プログラミング言語の一つである **Processing** の基礎的な知識を学び、自分自身で作りたいたものを考え、そしてそれを作れるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing は無料のアプリケーションを開発する環境で、時間変化のあるビジュアルな表現を容易に実現できます。

この **Processing** の基礎を学び、ビジュアルなアプリケーションを作ることで、プログラミング能力と、論理的な思考力を養います。

課題では、自分自身のオリジナリティを発揮したアプリケーションを制作してください。

試行錯誤し、試す能力を伸ばすことで、論理的な思考力が高めましょう。

なお、「課題 1」、「課題 2」提出時にクラスで発表、意見交換し、講評を行います。

授業内での活動を充実したものにすることで、授業へ出席することを期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Processing の基本を知る	ガイダンス、変数を知り、簡単な画像を作成する
第 2 回	座標を理解する	座標を意識しながら、2 次元の静止画（パソコンかスマホの待ち受け）を作る
第 3 回	条件分岐を知る	条件分岐 if を理解し、値段表を作る
第 4 回	繰り返しを知る	繰り返し for と条件分岐 if を理解し、静止画を作る
第 5 回	2 次元の静止画を制作	座標を意識し、繰り返しを使って 2 次元の静止画（パソコンかスマホの待ち受け）を作る
第 6 回	イベントを知る 1	時間変化するアニメーションを理解する
第 7 回	イベントを知る 2	マウスイベント、キーボードイベントを理解する
第 8 回	「課題 1（アニメーション）」の制作 1	Processing で「課題 1（アニメーション）」を制作する、課題 1 のポイントは時間変化するアニメーション、インタラクティブ
第 9 回	「課題 1（アニメーション）」の制作 2	Processing で「課題 1（アニメーション）」を制作する
第 10 回	「課題 1（アニメーション）」の発表	「課題 1（アニメーション）」を発表し意見交換する
第 11 回	時間と音の制御を知る	時間を制御することを理解し、音を使った簡単なアニメーションを作成する
第 12 回	「課題 2（音とアニメーション）」の制作 1	Processing で「課題 2（音とアニメーション）」を制作する、課題 2 のポイントは音を使うことと時間のコントロール
第 13 回	「課題 2（音とアニメーション）」の制作 2	Processing で「課題 2（音とアニメーション）」を制作する
第 14 回	「課題 2(音とアニメーション)」の発表	「課題 2(音とアニメーション)」を発表し意見交換する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に授業に来れば、それだけで習得できるので、特に授業以外での学習は要求しません。

ただし、課題についての構想は授業外で考えてくるようにしてください。余裕のある人は、適宜配布するプリントで復習してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

授業時に、適宜プリントやデータの配布を行う。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）

課題点（40%）

平常点の評価は、積極的な授業への参加、授業開始時間の厳守を基準とする。課題の評価は、授業で学んだことの意味、応用度を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

復習のための配布物（データ）を配布するようにする。

【その他の重要事項】

欠席は、他の学生の進捗に関わります。病欠など以外は頑張っておくこと。授業への積極的な参加を期待しています。

【Outline and objectives】

In order to solve the problem, logical thinking skill is necessary.

Learn programming to extend logical thinking skills.

By creating an application, you will acquire the basic knowledge of programming.

And increase the logical thinking abilities.

COT100EA

プログラミング入門

堀 亜砂実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータプログラミング言語「Processing」によるプログラム作成を通して、コンピュータの動作への普遍的・抽象的な理解を深めます。

【到達目標】

自力で簡単なプログラムを企画・作成することで、アイデアを形にするための論理的思考力やコンピュータが動く仕組みへの理解、コンピュータを主体的に活用するための確かな自信を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回簡単なプログラムを作成し、自ら考え試行錯誤しながら段階的にプログラミングのルールや可能性を理解していきます。フィードバックは対面または学習支援システム上で、解答例の提示や個別コメントにより行います。なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基本	プログラム作成の基本手順を学ぶ
第 2 回	「関数」の理解	関数の意義と使用方法を学ぶ
第 3 回	「変数」と「代入」	変数および代入の意義と方法を学ぶ
第 4 回	「コンソール」の使用	コンソールを使う方法を学ぶ
第 5 回	フォントと画像の使用	フォントや画像を使う方法を学ぶ
第 6 回	変化に富むプログラム	色や動きを取り入れる方法を学ぶ
第 7 回	「演算子」と「if 文」	演算子や if 文の使用方法を学ぶ
第 8 回	「if 文」の応用と「データ型」の理解	if 文のより複雑な利用法とデータ型の必要性を学ぶ
第 9 回	「for 文」	for 文の意義と使い方を学ぶ
第 10 回	自らのアイデアに基づくプログラム	学んできた手法を応用しプログラムのベースを作成する
第 11 回	仕掛けのあるプログラム	学んだ手法を応用しプログラムに仕掛けを作成する
第 12 回	見栄えのよいプログラム	学んだ手法を応用し見栄えを工夫する
第 13 回	Java 言語の基本	Java 言語の基本を学ぶ
第 14 回	作成したプログラムの発表・評価	完成したプログラムを受講者同士で相互評価し発見や理解へつなげる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・復習を積極的に行うこと。
 - ・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的に取り組むこと。
 - ・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで、欠席分の授業資料に目を通し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

・Casey Reas, Ben Fry 著、船田巧 訳『Processing をはじめよう』オンラインジャーナル、2011 年 その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・毎回の授業内課題の合計点・・・60%

・2 回程度出題する大課題の合計点・・・40%

授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

最初のうちは慣れないプログラミングに戸惑う人も多いですが、努力の成果が表れやすい科目です。最終的には、自信がいった、達成感があった、自分で考えたプログラムが動いて感動した、考えることが楽しかったなど、前向きな感想が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は毎回、実習室のコンピュータ（Windows）を使用します。

課題作成や復習にもコンピュータを使用する必要があります。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to understand the basics of programming.

COT100EA

プログラミング入門

堀 亜砂実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータプログラミング言語「Processing」によるプログラム作成を通して、コンピュータの動作への普遍的・抽象的な理解を深めます。

【到達目標】

自力で簡単なプログラムを企画・作成することで、アイデアを形にするための論理的思考力やコンピュータが動く仕組みへの理解、コンピュータを主体的に活用するための確かな自信を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回簡単なプログラムを作成し、自ら考え試行錯誤しながら段階的にプログラミングのルールや可能性を理解していきます。フィードバックは対面または学習支援システム上で、解答例の提示や個別コメントにより行います。なお授業計画には若干の変更が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基本	プログラム作成の基本手順を学ぶ
第 2 回	「関数」の理解	関数の意義と使用方法を学ぶ
第 3 回	「変数」と「代入」	変数および代入の意義と方法を学ぶ
第 4 回	「コンソール」の使用	コンソールを使う方法を学ぶ
第 5 回	フォントと画像の使用	フォントや画像を使う方法を学ぶ
第 6 回	変化に富むプログラム	色や動きを取り入れる方法を学ぶ
第 7 回	「演算子」と「if 文」	演算子や if 文の使用方法を学ぶ
第 8 回	「if 文」の応用と「データ型」の理解	if 文のより複雑な利用法とデータ型の必要性を学ぶ
第 9 回	「for 文」	for 文の意義と使い方を学ぶ
第 10 回	自らのアイデアに基づくプログラム	学んできた手法を応用しプログラムのベースを作成する
第 11 回	仕掛けのあるプログラム	学んだ手法を応用しプログラムに仕掛けを作成する
第 12 回	見栄えのよいプログラム	学んだ手法を応用し見栄えを工夫する
第 13 回	Java 言語の基本	Java 言語の基本を学ぶ
第 14 回	作成したプログラムの発表・評価	完成したプログラムを受講者同士で相互評価し発見や理解へつなげる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・復習を積極的に行うこと。
- ・大課題は授業外の作業が必要なので、計画的に取り組むこと。
- ・やむを得ず欠席した場合は、次の出席時まで、欠席分の授業資料に目を通し、必要に応じて課題に取り組んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。授業資料は随時配布します。

【参考書】

・Casey Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』オライリージャパン、2011 年 その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の授業内課題の合計点・・・60%
- ・2 回程度出題する大課題の合計点・・・40%

授業内課題・大課題とも、事前に提示する要件に沿って厳正に採点します。また、全ての大課題提出を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

最初のうちは慣れないプログラミングに戸惑う人も多いますが、努力の成果が表れやすい科目です。最終的には、自信がついた、達成感があった、自分で考えたプログラムが動いて感動した、考えることが楽しかったなど、前向きな感想が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は毎回、実習室のコンピュータ（Windows）を使用します。課題作成や復習にもコンピュータを使用する必要があります。

【その他の重要事項】

質問・相談は、授業中のほか、授業時間の前後に受け付けます。

【Outline and objectives】

This course will help you to understand the basics of programming.

COT100EA

プログラミング入門

高村 恒人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

JAVA(processing)を使用したプログラムの作成を通じて、プログラミングの基本的な考え方や知識を習得する。

【到達目標】

ヴィジュアル表現の制御に長けている processing を使い、文系学生でも怖がらずに自信をもってプログラミングの世界に触れることができることを体感してもらう。本実習を通じて、より実践的なプログラミングに興味を持ち、より上級科目を履修していくためのきっかけとなることを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

簡易言語の processing を利用することで、プログラミングの感覚を掴み、プログラミングの楽しさを体験する。授業は毎回テーマを設け、そのテーマを含むプログラムについて、作成・実行・修正するという作業手順に沿って、進めてゆく。授業ごとに、プログラミング課題に取り組んでもらう。なお、授業計画は授業の展開により、若干の変更を行ってゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習の概要説明と JAVA についての講義
2.	processing の基礎	processing の概念と基本的な利用法の説明
3.	processing による図形描画（1）	簡単な図形（楕円・四角形など）の描画
4.	processing による図形描画（2）	色の指定とカラーモード
5.	変数、基礎プログラミング	変数の理解 コンソール表示 簡単な命令文
6.	processing による図形の制御（1）	変数を用いた図形描画
7.	processing による図形の制御（2）	図形の移動と回転
8.	processing による図形の制御（3）	分岐・繰り返し処理を利用した複数図形の描画
9.	processing におけるインタラクティブ制御（1）	マウス入力を反映
10.	processing におけるインタラクティブ制御（2）	キーボード入力を取り込む
11.	最終課題作成（1）	各自で最終課題を作成
12.	最終課題作成（2）	各自で最終課題を作成
13.	最終課題作成（3）	各自で最終課題を作成
14.	課題発表	課題の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラムは一回書いたら覚えられるような暗記科目ではない。空いている時間に積極的に何度もプログラムを作成し、身体で覚えられるようにすることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントの配布あるいはパワーポイントによる提示を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小課題に対する評価(40%)、最終課題に対する評価(30%)、平常点(30%)による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度の調整と配布資料の改良によって、受講生の理解度を向上させる。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を実施する。

【Outline and objectives】

To acquire the basic concepts and knowledge of programming using JAVA(processing).

COT100EA

プログラミング入門

諸上 茂光

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

JAVA(processing)を使用したプログラムの作成を通じて、プログラミングの基本的な考え方や知識を習得する。

【到達目標】

ビジュアル表現の制御に長けている processing を使い、文系学生でも怖がらずに自信をもってプログラミングの世界に触れることができることを体感することが最大の目標である。その上で、本実習を通して、より実践的なプログラミングに興味を持ち、より上級科目を履修していくためのきっかけとなることを期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

簡易言語の processing を利用する事でプログラミングの感覚を掴み、プログラミングの楽しさを体験する。授業では毎回テーマを設け、そのテーマを含むプログラムを作成・実行・修正するという一連の作業手順を行う。授業内で適宜実習時間を設けるがこの際に質問を受けフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習の概要説明と、JAVA についての講義
2.	processing の基礎	processing の概念と基本的な利用法の説明
3.	processing による図形描画（1）	簡単な図形（楕円・四角形など）の描画
4.	processing による図形描画（2）	色の指定とカラーモード
5.	変数、基礎プログラミング	変数の理解 コンソール表示 簡単な命令文
6.	processing による図形の制御（1）	変数を用いた図形描画
7.	processing による図形の制御（2）	図形の移動と回転
8.	processing による図形の制御（3）	分岐・繰り返し処理を利用した複数図形の描画
9.	processing におけるインタラクティブ制御（1）	マウス入力を反映
10.	processing におけるインタラクティブ制御（2）	キーボード入力を取り込む
11.	最終課題作成（1）	各自で最終課題を作成
12.	最終課題作成（2）	各自で最終課題を作成
13.	最終課題作成（3）	各自で最終課題を作成
14.	課題発表	課題の発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラムは一回書いたら覚えられないような暗記科目ではありません。空いている時間に積極的に何度もプログラム作成を行って、身体で覚えられないようにすることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントの配布あるいはパワーポイントによる提示を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・小課題に対する評価 (40%)
・最終課題に対する評価 (30%)
・平常点 (30%)
による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

授業進度の調整と配布資料の改良によって受講生の理解度を向上させる。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。

【Outline and objectives】

To acquire the basic concepts and knowledge of programming using JAVA(processing).

COT100EA

プログラミング入門

湯本 正実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングについての基礎知識を包括的に理解する。千里の道も一歩から。

【到達目標】

簡単なプログラミングをサンプルを見つけて作成できるレベルを達成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing および Java 言語のサンプル・プログラムの一部を改変することにより、徐々に共通にプログラミングに存在する勘所を身につける。課題については個々に指摘事項をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	導入部	・プログラミング言語の歴史と変遷 ・サンプル・プログラムの説明
第 2 週	導入部の続き 描画（グラフィックス）	・コメントとは？ 実は重要 ・数値データと文字データという融通の利かない概念 ・絵を描いてみる ・音を出してみる
第 3 週	マルチメディアおよび Java 言語	・Java 言語と Eclipse の紹介
第 4 週	演算	・定数、変数という概念。コンピュータは察してくれない。 ・数値データの算術操作
第 5 週	数値の表現および文字 コードについて	・10 進以外の数値表現 ・文字コードの概念：文字の数値との紐付け、複数のコード体系
第 6 週	条件分岐 (1)	・if 文という概念。プログラミング言語間での共通記述
第 7 週	条件分岐 (2)	・else 文：もはや英語とは言えない ・switch 文。if 文以外にこれが必要となる「ケース」
第 8 週	繰り返し処理	・for, while 文という概念。プログラミング言語間での共通記述
第 9 週	データの扱い	・文字&数値データ
第 10 週	配列	・配列って何？ - 具体例と操作方法
第 11 週	人間との「対話」	・キーボード入力を処理に反映させる
第 12 週	Java と Eclipse	・これであなたもエンジニアの一歩目！
第 13 週	提出課題の準備	・Processing または Eclipse を使って自由にプログラミングを動かしてみる
第 14 週	課題提出	・課題を仕上げて提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない

【参考書】

参考ウェブページも含めて講義時に随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

・平常点：30% 提出課題：70% で評価する。
・最終課題提出は必須である。

【学生の意見等からの気づき】

・途中で「ついていけない」と悲観しないでください。分野分野によって、得手不得手が出るのは当然のことです。長期的に見ると、知らない内に得意分野になっていることもあります。

【学生が準備すべき機器他】

大学の実習室での授業が出来ない場合は、各自パソコンの用意が必要になる。

【その他の重要事項】

現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。

【Outline and objectives】

Understand basic knowledge for programming

LIT100EA

文学

彭 丹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ： いにしへの恋歌 ―漢詩と和歌の世界

授業の概要と目的：この講義は、詩歌と人生最大の主題である「恋」を取りあげる。中国の漢詩と日本の和歌は、どのように恋を表現し、人生を豊かにしてきたのか。日本と中国の文学・文化の歴史を学ぶとともに、その比較を通じて、人間の生き方や歴史社会についての理解を深める。

【到達目標】

現代文学を生み出す源流である和歌や漢詩の中から、恋を主題とする作品をとりあげ、その鑑賞と批評を通して、東洋文学の精神と古代から未来への展望を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 1 オンライン形式か対面形式かはその時の学校規定に従います。
- 2 オンライン形式の場合は、学習支援システムにて資料を配布します。
- 3 皆さまに配布資料を読んでいただき、自分なりの感想や意見（リアクションペーパー 字数自由）をオンラインで提出していただきます。
- 4 皆さまのリアクションペーパーに対して、必要に応じてコメントをいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	日本文学と中国文学における恋歌の系譜の概観。授業内容の概説及び評価方法について説明する。
第 2 回	若菜 1	『万葉集』の巻頭歌・籠もよ籠持ちに見る古代日本の恋のかたち
第 3 回	若菜 2	『詩経』の巻頭歌・閑雅に見る古代中国の恋のかたち
第 4 回	恋の声 1	琴と雨の音に寄せる恋歌
第 5 回	恋の声 2	和歌と漢詩の美 無声は有声に勝る
第 6 回	秘すれば恋 1	在原業平と二条后高子の忍ぶ恋 なぜ歌人は忍ぶ恋をするのか
第 7 回	秘すれば恋 2	神女に恋する なぜ詩人は神女に恋するのか
第 8 回	秘すれば恋 3	和歌と漢詩の美 秘すれば花
第 9 回	恋と宇宙 1	建礼門院右京大夫と李清照、その恋と作品
第 10 回	恋と宇宙 2	悲劇の帝王詩人後鳥羽院と李后主
第 11 回	長恨歌 1	亡国の恋のものがたり
第 12 回	長恨歌 2	和歌と漢詩の美 ものあはれと雅怨
第 13 回	長恨歌 3	和歌と漢詩の美 憂国と恋
第 14 回	まとめ	まとめと試験ガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

和歌と漢詩を朗読してみる。ジャンル・題材を問わず、内外の文学作品を広く読む。映画・演劇・美術・音楽を鑑賞する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布。

【参考書】

授業時に指示。

【成績評価の方法と基準】

レポート (40%)：毎回の授業内容についてのリアクションペーパー（字数自由）。
期末試験 (60%)：小論文（字数自由）

【学生の意見等からの気づき】

近年は古典文学に馴染みのない受講生が多いので、近現代の文学作品、小説・演劇・映画なども取り入れて分かりやすく解説し、古典への理解と興味を高めてゆく。

【Outline and objectives】

Ancient Love Songs: The World of Chinese Poetry and Japanese Poetry

This course examines poetry and "love", which is the most important them for people's life. How did Chinese poetry (kanshi) and Japanese poetry (waka) express love and enrich our life? In this course we acquire basic knowledge of Japanese-Chinese literature and culture and deepen understanding about the way of life, history and society of human being through comparison on these topics.

SOC100EC

文化社会学A

武田 俊輔

サブタイトル：特講（文化社会学）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの日常や暮らしに文化社会学・歴史社会学の観点から光を当てる。一般的には「民俗学者」として考えられている柳田國男の『明治大正史世相篇』や他の幾つかの著書を手がかりに、私たちの日常の衣食住、人間同士の生活や文化のありように刻印された歴史性や社会性を分析する視点を学ぶ。その視角を現代にどう応用できるか説明することで、学生が具体的な生活の場から出発して「社会」のしくみを明らかにするための視点を身につけられることを目的としている。

【到達目標】

日常の生活や文化に対して（文化）社会学的な分析がどのような新たな見方をもたらすものなのか、何気ない暮らしの一コマからいかにして「社会」の姿を映し出すことができるのかを理解すること。また講義内で示した視点を自分なりに活用して、日常生活についての文化社会学的な分析を実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この講義は対面を予定しているが、感染状況によって大学の方針でオンデマンドになる可能性がある。変更がある場合はその都度、学習支援システムで連絡する。

受講生は、事前に指定する『明治大正史世相篇』の該当ページや、事前に配信する資料を予習し、読了していることを前提とする。毎回の資料の前半では、柳田の『明治大正史世相篇』をはじめとする幾つかのテキストから見出される日常生活の分析視角を発見し、読みといていく。その上で後半では、そうした視角から現代の私たちの生活を分析し、それによってどんなことが明らかになるかについて考えていく。

毎回、受講生各自にリアクションペーパーを提出してもらい、翌週の講義冒頭で代表的なものや興味深いものをピックアップしてフィードバックする。

なお授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「日常」の文化社会学	柳田國男『明治大正史世相篇』から考える
2	木綿以前の事	衣服・靴をめぐる模索と#KuToo
3	食物の個人自由	コンビニなのに「お母さん食堂」
4	家と住心地	「心の小座敷」をめぐる
5	風光推移	メディアを通じた風景の創出
6	新交通と文化輸送者	移動をめぐる社会学
7	旅行の進歩及び退歩	夜行バスとハッシュタグが開く「旅行道」
8	酒	酒をめぐる社交の変容
9	恋愛技術の消長	若者組からマッチングサイトまで
10	家永続の願い	家の分裂・孤独な死
11	労力の配賦	「ハケン」の困難
12	貧と病	所得の格差・希望の格差
13	言葉としぐさの近代	「言えない人」のための民主主義

14 まとめ 「実用の学」としての文化社会学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で使用するテキストはその前の回の講義内で提示する。事前に読んできた上で講義に臨むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

柳田国男,1930→1993,『明治大正史世相篇』講談社学術文庫。

【参考書】

佐藤健二,2015,『柳田国男の歴史社会学：続・読書空間の近代』せりか書房。

他についてはその都度、指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容（55%）

最終レポート（45%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーとそれに対するコメントを通じて、より理解を深めたい。

【Outline and objectives】

This lecture analyze our daily lives from sociology of culture and historical sociology while referring to the viewpoint shown by Kunio Yanagida. It explains how we can apply his perspective to the analysis of contemporary daily life, and intends to give students perspectives to clarify the structure of everyday life.

SOC100EC

文化社会学B

武田 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では伝統的な文化の変容や創造、(再)構築を手がかりとして、近現代における日本の地域社会やコミュニティについて論じる。そうした伝統文化を通じたまちづくりが地域住民や担い手、その当の文化そのものに対してどのような影響を与えるのかについて分析する。そうした中で地域やコミュニティにおいて文化を継承することの意味と可能性について学生が考えることができるようになることを目的としている。

【到達目標】

地域やコミュニティにおいて人口減少や過疎高齢化が進む中で継承をめぐる困難と共に、住民たちや担い手にとってなぜ伝統的な文化や芸能がかけがえないものと感じられるのか、それらが観光やまちづくりに活用される中での矛盾、一方でそうした状況を逆手に取りながら文化を継承していく人々のしたたかさといった点について、社会学的に分析・理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンドによる配信（音声付きパワーポイント）を中心とする。それ以外の方法で行う回がある場合には、講義初回に通知する。概念や理論を、具体的な文化やその担い手が置かれた社会的状況に即して把握してもらうために、オンラインで閲覧できる映像・視聴覚資料について指示しつつ講義を行う。配信する資料にURLを貼り付けるため、合わせて見ておいてほしい。毎回提出してもらったリアクションペーパーのうち、代表的なものや興味深いものをピックアップして、フィードバックを行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的と進め方の説明
2	戦後地域政策・文化政策の中の「伝統」文化	戦前・戦後日本において「伝統」を通じた「まちづくり」がなぜ喚起されてきたのかを論じる
3	「伝統」が創られるとき	創造された伝統としての「民謡」
4	「伝統」としての和太鼓イメージ	戦後における「和太鼓」をめぐる表象の構築
5	真正性をめぐる揺らぎ(1)	伝統文化における「保存」と「観光」
6	真正性をめぐる揺らぎ(2)	担い手にとっての「本物」・専門家にとっての「本物」
7	「伝統」のダイナミズム(1)	変化し続ける「伝統」としての都市祭礼
8	「伝統」のダイナミズム(2)	祭礼における観光化・文化遺産化の流用
9	「伝統」のダイナミズム(3)	原発反対運動から見出された祝島の「伝統」
10	移動と混淆が生みだす「伝統」(1)	移民たちによる複数の「十九の春」の創造

11	移動と混淆が生みだす「伝統」(2)	アイヌ舞踊の継承と再創造
12	新たな継承の形	アーティストを介した民俗芸能の継承
13	個人化・流動化した祝祭	都市部を中心とした個人化・流動化したネットワークを基盤とした祝祭
14	まとめ	現代の地域社会において「伝統文化が継承される意味と可能性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業内容は深く関連しているため、前回の講義内容を復習した上で授業に臨むこと。また毎回の授業後に、Hoppii でレスポンスを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

俵本悟,2018,『文化財／文化遺産としての民俗芸能：無形文化遺産時代の研究と保護』勉誠出版。

武田俊輔,2019,『コモズとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容（25%）、期末レポート（75%）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度と異なり、リアクションペーパーをピックアップして、毎回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【Outline and objectives】

This lecture discusses modern and contemporary local society and community focusing on the invention and (re)construction of traditional culture in Japan.

CUA200EC

文化人類学

謝 荔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学は人間の文化の多様性と普遍性を研究する分野である。授業では、人間の生活様式の多様性について、諸民族の事例を取りあげ、世界諸地域の人びとの生活、信仰、文化変容を理解すると同時に、自文化を相対化する考え方も学んでいく。

【到達目標】

講義を通じて、文化人類学の基礎的な知識、アプローチが理解できるようになる。フィールドワークに基づいて書き上げられた民族誌などにみられる事例を通して世界の諸地域に暮らす人びとの文化の多様性を知り、異文化についての理解を深め、視野を広げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業で取り上げるテーマに関連する文化人類学の概念について説明し、映像を含む資料を用いながら世界の諸民族の文化の事例を説明していく。講義においてはパワーポイントを使用し、講義内容の見出しと小見出しのレジュメを配布する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	(1) 文化人類学とは、(2) 隣接の研究分野との関連性、(3) 授業の内容、進め方と評価方法
2.	通過儀礼	通過儀礼の構造、季節儀礼（暦と年中行事）
3.	通過儀礼	祝祭日の重層性
4.	通過儀礼	葬送儀礼の構造、現代社会の「樹木葬」
5.	家族と親族	家族のかたちと住まい
6.	宗教と世界観	神話
7.	宗教と世界観	風水思想と実践
8.	人間と生業形態	狩猟採集社会の文化変容
9.	人間と生業形態	牧畜社会の文化変容
10.	人間と生業形態	農業（「文化的景観」と「世界農業遺産」）
11.	嗜好品文化	ワイン（ブドウ栽培、ワインづくり）
12.	嗜好品文化	コーヒー（栽培、飲用、儀礼）
13.	文化の展示	民族学博物館と文化の展示
14.	まとめ	まとめ、期末レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にノートをとる能力が要求される。十分にとれなかった場合は授業中に提示された参考書を読んで補足する。また、自ら授業内容に関連する資料を調べ、リアクションペーパーを通じて積極的に発言してほしい。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

授業の中で提示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）・平常点 50%と期末レポート 50%で成績を評価する。リアクションペーパーに書かれたものが授業の具体的な内容に即していない場合は評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

授業に画像や映像資料を多めに取り入れること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding about various culture of the world from the viewpoint of cultural anthropology.

SOC200EA

平和論

中村 長史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生じる問題は、自然現象ではなく社会現象である以上、一人一人の力によってわずかながらでも良くすることもできるし、さらに悪くしてしまうこともある。平和論の授業を受ける皆さんには、この点を意識し、自分の頭で国際問題の解決策を考えられるようになってほしい。

この講義では、国際問題を「諸国家・諸国民の共存」を脅かすものと「諸国家・諸国民の協力」を脅かすものとの便宜的に分けて学んでいく。具体的には、まず北朝鮮核開発問題（共存を脅かす）とシリア難民問題（協力を脅かす）という現在進行形の事例について、その「構図（What）」、「原因（Why）」、「解決策（How to do）」を考えてみる。次に、過去の事例を確認しながら、平和に関する基礎的な概念を学ぶ。最後に、これらの概念や過去の事例を踏まえて、北朝鮮核開発問題とシリア難民問題について再び考える。

この一連の学びを通して、授業で習った概念と事例を使いこなして、現在の世界における問題の構図や原因、解決策を自分の頭で考えられるようになることを目指す。

【到達目標】

- ①学んだ概念や事例に関するキーワードについて正確に説明することができる【2 回の小テストで評価】。
- ②現在の国際問題の構図について、概念を用いたり過去の事例と比較したりすることで、体系的に説明することができる【期末レポートで評価】。
- ③現在の国際問題の原因について、概念を用いたり過去の事例と比較したりすることで、体系的に説明することができる【期末レポートで評価】。
- ④現在の国際問題を解決するための政策の選択肢を複数挙げたうえで、概念を用いたり過去の事例と比較したりすることで、メリットとデメリットを比べて判断することができる【期末レポートで評価】。
- ⑤多様な利害・価値観に配慮したうえで、問題に対して自分なりの考えを持ち、他者と相談したり、ときには説得したりするという実社会でも求められる方法を習得する【期末レポートで間接的に評価】。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はオンデマンド形式（教員が事前収録した動画の視聴）で行なうが、授業中に複数の問いかけがなされる。その際には、動画を一時停止して自らの頭で考えたうえで、動画を再開して解説を聴くようにしてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 部：現在の国際問題に挑戦！	北朝鮮核開発問題とシリア難民問題
2	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	共存を脅かすもの：戦争 *教科書 I -2, 9, 11
3	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	共存のための方法①：自衛と集団安全保障

4	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	共存のための方法②：強制と安心供与 *教科書 II -2
5	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	共存のための方法③：軍縮と軍備管理 *教科書 I -5, 8, II -4, V -1, 3, 5, 6
6	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	共存のための方法④：基地問題を学ぶ！ *教科書 IV -3, 5, 6, 7
7	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-1 共存 >	小括（小テストの解説を含む）
8	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力を脅かすもの：貧困と人権侵害 *教科書 I -6, 12, II -3
9	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力のための方法①：開発援助
10	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力のための方法②：環境保護とエネルギー *教科書 VI -1, 3, 5, 6, 7, 8
11	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力のための方法③：歴史認識問題 *教科書 I -13, II -1, III 5, 6, 7, IV -12, V -10
12	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力のための方法④：難民保護 *教科書 I -10
13	第 2 部：概念と事例を学ぶ！ < 2-2 協力 >	協力のための方法⑤：人道的介入と保護する責任 *教科書 I -10, 16
14	第 3 部：現在の国際問題に再挑戦！	北朝鮮核開発問題とシリア難民問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日本平和学会編『戦争と平和を考える NHK ドキュメンタリー』（法律文化社、2020 年）、本体 2000 円＋税
*毎回の予習や期末レポートに際して利用するので手元に置いておくこと。

【参考書】

日本平和学会編『平和をめぐる 14 の論点』（法律文化社、2018 年）
*持参する必要はないが、授業中に関連箇所の頁数を述べるので、復習に役立ててほしい。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）【到達目標②～⑥に対応】

第 1 回小テスト（15%）【到達目標①に対応】

第 2 回小テスト（15%）【到達目標①に対応】

【学生の意見等からの気づき】

社会学部にはメディアに関心のある学生が多いと再確認したことから、メディアとの関係性を意識し、今年度より教科書を『戦争と平和を考える NHK ドキュメンタリー』に変更した。

【その他の重要事項】

学びに集中できる環境をつくるため、以下のルールを設ける。

- ①提出期限を遅れての課題提出は、いかなる理由であれ、受け付けない。
- ②小テストを受験できないことがわかっている者は、必ず事前に相談に来ること。追試の機会を別日に設ける。事前に相談に来なかった者の追試受験は認めない。
- ③配布物の予備は保管しないので、欠席した場合は、他の受講者から借りること。
- ④講義中の飲食は原則禁止。体調によりやむを得ない場合は認めるが、机上には飲食物を置かないこと。
- ⑤講義中の私語や通話は厳禁。
- ⑥レポートについて酷似した答案を発見した場合は、いずれも 0 点とする。

【Outline and objectives】

In this course, we will study global issues including the threat to "coexistence of nations and people" and the threat to "cooperation of nations and people". First, we will focus the ongoing cases of the Democratic People's Republic of Korea(DPRK) nuclear development issue (the threat to coexistence) and the Syrian refugee issue (the threat to cooperation). Next, while reviewing past cases, we will discuss the basic concepts of international politics. Finally, considering these concepts and past cases, we will reconsider the DPRK nuclear development issue and the Syrian refugee issue.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1

井上 里

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

重要文法の復習と語彙力の継続的な強化を行いながら、中級レベルの英語で書かれたアメリカの小説を精読します。

ワークシートで学んだ文法が、実際の文脈ではどのように用いられているのか、なぜその文法がその場面において必要なのか、英語のニュアンスを確かめながら細かく精読することで、文法をしっかりと身につけていきます。

【到達目標】

比較的口語的な文章で書かれたテキストを精読することで、英語の抽象的な表現や省略表現を正確に理解できるようにする。

いままで曖昧に読解していた文法を丁寧につぶしていくことで、応用に活かすための基礎力を確かなものにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半：単語と文法のワークシートのチェック。提出は不要ですが、理解できているか確認するため、数名の方を指名して質問します。授業後半：原文読解と翻訳。毎回指定範囲（原文半ページほど）を訳してきてもらいます。どのパートをあてられても答えられるように、しっかり準備してきてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Introduction to the course
第 2 回	Present and past 1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 3 回	Present and past 2	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 4 回	Present perfect and past1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 5 回	Present perfect and past2	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 6 回	Present perfect and past3	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 7 回	Future 1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 8 回	Future 2	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 9 回	If and wish 1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 10 回	If and wish 2	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 11 回	Relative clauses 1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 12 回	Relative clauses 2	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 13 回	Relative clauses 3	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 14 回	Review and exam	Review and exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、以下の課題を出します。

- ・原文半ページほどの和訳
- ・文法ワークシート
- ・単語ワークシート

すべて英語で書かれたテキストを使用します。問題文を含めしっかり精読してください。

【テキスト（教科書）】

ワークシートと原文はその都度プリントを交付します。

【参考書】

- ・Bromberg M, Gordon M, 1100 Words You Need to Know (Barrons Educational Series; Seventh edition, 2018)
- ・Murphy R, English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Students of English - with Answers (Cambridge University Press; 4th edition, 2012)

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題にどれくらいしっかり取り組んでいるかを重点的に評価します。

平常点 (70%) + 期末試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is designed to improve your English grammar and reading skills. The course includes a review of essential grammar, continuous vocabulary building, and close reading of a novel written in English at an advanced level.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 4

井上 里

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

重要文法の復習と語彙力の継続的な強化を行いながら、中級レベルの英語で書かれたアメリカの小説を精読します。

ワークシートで学んだ文法が、実際の文脈ではどのように用いられているのか、なぜその文法がその場面において必要なのか、英語のニュアンスを確かめながら細かく精読することで、文法をしっかりと身につけていきます。

【到達目標】

比較的口語的な文章で書かれたテキストを精読することで、英語の抽象的な表現や省略表現を正確に理解できるようにする。

いままで曖昧に読解していた文法を丁寧につぶしていくことで、応用に活かすための基礎力を確かなものにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半：単語と文法のワークシートのチェック。提出は不要ですが、理解できているか確認するため、数名の方を指名して質問します。授業後半：原文読解と翻訳。毎回指定範囲（原文半ページほど）を訳してきてもらいます。どこをあてられても答えられるように、しっかり準備してきてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Introduction to the course
第 2 回	Present and past 1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 3 回	Present and past 2	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 4 回	Present perfect and past1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 5 回	Present perfect and past1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 6 回	Present perfect and past1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 7 回	Future 1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 8 回	Future 2	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 9 回	If and wish 1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 10 回	If and wish 2	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 11 回	Relative clauses 1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 12 回	Relative clauses 2	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 13 回	Relative clauses 3	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 1, pp.5-21
第 14 回	Review and exam	Review and exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、以下の課題を出します。

- ・原文半ページほどの和訳
- ・文法ワークシート
- ・単語ワークシート

すべて英語で書かれたテキストを使用します。問題文を含めしっかり精読してください。

【テキスト（教科書）】

ワークシートと原文はその都度プリントを交付します。

【参考書】

- ・Bromberg M, Gordon M, 1100 Words You Need to Know (Barrons Educational Series; Seventh edition, 2018)
- ・Murphy R, English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Students of English - with Answers (Cambridge University Press; 4th edition, 2012)

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題にどれくらいしっかり取り組んでいるかを重点的に評価します。

平常点 (70%) + 期末試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is designed to improve your English grammar and reading skills. The course includes a review of essential grammar, continuous vocabulary building, and close reading of a novel written in English at an advanced level.

LANe100EA

Basic English 1 - I 2

石垣 弥麻

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NHK World Japan の海外向けニュース番組 NEWSLINE のテキストを取り上げます。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となりますので、基本はオンデマンド方式で授業を進める予定です。みなさんは授業時間になりましたら、学習支援システムにアップロードされた音声ファイルまたは動画を視聴し、問題を解いてから課題を提出してください。授業では、テキストに沿って、ニュースに関する予備知識や語彙を確認した後、リスニングや内容理解、作文練習、最後にトピックに関して意見を書くという流れになります。トピックに関する意見はユニットごとに提出となりますが、提出物に関しては、お一人ずつ内容を確認して点数をつけて返却します。みなさんのご意見を授業のファイルで紹介することもあります（課題に関しましては変更の可能性もありますので、その都度授業でお知らせします）。また、Unit は途中飛ばすものもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テキストの説明、及び授業の進め方
第 2 回	Unit 1 Making waves with a magical instrument (不屈のテルミン奏者)	ニュースの内容や語彙を確認した後、Unit 前半の問題を解きます（リスニング、内容理解）
第 3 回	Unit 1 Making waves with a magical instrument (不屈のテルミン奏者)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（英作文、トピックに関する意見を書く）
第 4 回	Unit 2 Backstage tour with augmented reality stars (AR アイドルの裏側に迫る)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（リスニング、内容理解）
第 5 回	Unit 2 Backstage tour with augmented reality stars (AR アイドルの裏側に迫る)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（英作文、トピックに関する意見を書く）
第 6 回	Unit 3 Drinking to eat (現代人の食事―「飲む」おにぎり)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（リスニング、内容理解）
第 7 回	Unit 3 Drinking to eat (現代人の食事―「飲む」おにぎり)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（英作文、トピックに関する意見を書く）
第 8 回	Unit 4 Next generation mobility (次世代の移動手段)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（リスニング、内容理解）
第 9 回	Unit 4 Next generation mobility (次世代の移動手段)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます（英作文、トピックに関する意見を書く）
第 10 回	Unit 5 Eco-friendly fashion statement (衣料品ロス―名前を変えて)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます（リスニング、内容理解）

第 11 回	Unit 5 Eco-friendly fashion statement (衣料品ロス一名前を変えて)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます(英作文、トピックに関する意見を書く)
第 12 回	Unit 6 Building a bridge to share to son's dream (日韓の架け橋になりたい)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます(リスニング、内容理解)
第 13 回	Unit 6 Building a bridge to share to son's dream (日韓の架け橋になりたい)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます(英作文、トピックに関する意見を書く)
第 14 回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの動画や音声は出版社のホームページからダウンロードできるようになっていますので、予習や復習だけでなく、普段から利用して耳を慣らしておくといいでしょう。ダウンロードの方法などは一回目の授業でお知らせします。

本授業の準備・復習時間は、合わせて約 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

NHK NEWSLINE 4 (山崎達朗、Stella M. Yamazaki 編著 金星堂 2021 年)

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % (課題その他)、試験 (50 %)

出欠に関しましては、課題の提出でつけますが、必ず締め切りがありますので注意してください。

5 回欠席がついた場合には単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業は学習支援システムを利用し、ファイルの視聴や課題の提出をしていただきます。

【その他の重要事項】

質問などは掲示板ではなく、なるべくメールにてお知らせください。

ただし、メール受信の時間や内容によっては返信が遅れることもあります。

アドレスは一回目の授業でお知らせします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the listening, reading, and writing skills through news.

LANe100EA

Basic English 1 - I 4

市川 由季子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全体の構成に注目して英文を読み、賛否両論を検討し、自身の考えを論理的に述べる。

【到達目標】

英文読解に加え、short essay や summary を書く能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式で配布される資料をもとに学習し、課題を提出する。課題は採点・コメントのあと返却し、次の授業で解答のいくつかを取り上げ、フィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講上の説明
第 2 回	Animals in Zoos ①	テキストの読解を中心とした授業
第 3 回	Animals in Zoos ②	議論を中心とした授業
第 4 回	Security Cameras ①	テキストの読解を中心とした授業
第 5 回	Security Cameras ②	議論を中心とした授業
第 6 回	中間課題	前半の学習内容の理解を確認する
第 7 回	Customer Service ①	テキストの読解を中心とした授業
第 8 回	Customer Service ②	議論を中心とした授業
第 9 回	Womenomics ①	テキストの読解を中心とした授業
第 10 回	Womenomics ②	議論を中心とした授業
第 11 回	Extreme Sports ①	テキストの読解を中心とした授業
第 12 回	Extreme Sports ②	議論を中心とした授業
第 13 回	期末課題	後半の学習内容の理解を確認する
第 14 回	Review	春学期の学習内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 1~2 時間程度を想定している。準備については、学習予定に従ってテキストを読み、単語の意味を確認する。復習ではフィードバックを参考に、返却された課題を復習する。

【テキスト（教科書）】

『Taking Sides: Opinions For or Against』、Mark Jewel、朝日出版社

【参考書】

自主学習用の教材については、オリエンテーションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

参加（課題提出回数）10% + 課題 60% + 期末課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える

【学生が準備すべき機器他】

資料配布と課題提出・返却、連絡はすべて授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course will focus on “critical reading”. The goal is to summarize and discuss what you have read with references to the text.

LANe100EA

Basic English 1 - I 15

岡村 盛雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在学生が持っている英語の能力を少しでも伸ばすことを目指します。まず英語を読むこと。そこから英語を書くことと聴く能力も伸ばしたいと思っています。

【到達目標】

辞書を使い、注などを参考にしながら、学生に向けて書かれた英文を読み、それを正確な日本語に置き換えられる。そこに書かれた英語を参考にして、簡単な英作文ができる。さらに文全体ではなくとも、知っている単語のレベルでは聞き取りができる。以上 3 点が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は1年生の授業なので、教科書用に書かれた簡単な英文を読んで訳すことを中心に、あわせてライティング（と教室で授業が行えるなら、リスニングも）の練習を行います。また、語学の習得には語彙を増やすことが必要なので、教室で授業が行えていることがあれば単語のテストを行います（教室で授業ができない時は行わない）。

教科書はリーディングのページの分量が多めで、英作問題も行うので、1 章に授業は2回から3回を予定しています。

教室で授業が行えた時には、学生の解答などで気づいたことは毎回口頭で伝える形でフィードバックします。

オンライン授業の時は、教科書の読み進むところの説明を教師がして、学生は指定されたところの訳を課題として提出する。教師は学生の提出したものをすべてに目を通し、参考になる学生の回答や訳は、課題の提出後に公開する教師の訳とともに提示する形でフィードバックします。また、必要に応じて Webex を使った授業を行うので（少なくとも英作問題は Webex をつかって行います）、その際にも気づいたことは学生に伝えるつもりです。

オンライン授業の時も 授業時間はいつでも授業に参加できるように、他の予定を入れてはいけません。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業について説明します
第 2 回	文化とアイデンティティ	文化とアイデンティティの関係
第 3 回	文化とアイデンティティ	アイデンティティは社会化から生まれる
第 4 回	文化とアイデンティティ	第 1 章の練習問題
第 5 回	隠れた文化	ポールとケンジの幻滅 二人に欠けているのは文化的柔軟性
第 6 回	隠れた文化	隠れた文化に気づくために必要なもの
第 7 回	隠れた文化	第 2 章の英作問題
第 8 回	ステレオタイプ	ステレオタイプの悲劇 マークとトモエを引き裂いたもの
第 9 回	ステレオタイプ	ステレオタイプの根拠
第 10 回	ステレオタイプ	ステレオタイプの罠にかからないためには
第 11 回	ステレオタイプ	第 3 章の英作問題
第 12 回	いじめ	いじめの問題と解決方 訳と英作問題
第 13 回	前期の復習	前期の復習
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で読む予定の文中に出てくる単語の中で、知らないものについてはその意味を調べること。

毎回単語の試験を行うので、その準備をすること（教室で授業が行える場合）。辞書を持参すること。

それと英米の映画を観たり、音楽を聴いたりすることも勉強になると思います。どんな形でも英語に触れることを増やすことが大切です。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・ショール 阿部珠理『異文化コミュニケーション』（南雲堂、2007 年）本体価格 2000 円

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他必要があれば授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験の結果をもって評価します（定期試験 100 パーセント）。試験は、読む、書くの 2 部門で試験します。試験における配分は、読む 60 点、書く 25 点、85 点満点です（教室で授業が数回でも行える場合は、聞き取り問題 15 点も含めて 100 点満点とする）。

オンラインになった場合は、訳すだけではなく、なぜその訳になるのかを問う問題を出すことも考えている。

【学生の意見等からの気づき】

学生に提示する説明文や、試験で入力ミスなどが多くあって迷惑をかけたので、それを少なくするように努めたい。また Webex を活用することも多くしたい。

【その他の重要事項】

毎年、授業中に行う予定だった単語の試験は、もし教室での授業が可能なら、今年も行うので、6 割以上の成績を取ることが必須です。オンライン授業のみになった場合は、単語試験は行わない。

今学期はオンライン授業なので、課題の提出を出席の代わりとする。課題の未提出が 5 回になると、無条件で不合格とする。

試験はかならず受験すること。できる限り追試になることは避けてください。やむを得ない理由で試験を受けられない場合も、当日試験の始まる前に連絡をすること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' abilities to read and write English, as well as to hear English words. At the end of the course, students read English texts well and translate them into Japanese correctly, and they write readable English sentences.

LANe100EA

Basic English 1 - I 16

岡村 盛雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在学生が持っている英語の能力を少しでも伸ばすことを目指します。まず英語を読むこと。そこから英語を書くことと聴く能力も伸ばしたいと思っています。

【到達目標】

辞書を使い、注などを参考にしながら、学生に向けて書かれた英文を読み、それを正確な日本語に置き換えられる。そこに書かれた英語を参考にして、簡単な英作文ができる。さらに文全体ではなくとも、知っている単語のレベルでは聞き取りができる。以上 3 点が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は 1 年生の授業なので、教科書用に書かれた簡単な英文を読んで訳すことを中心に、あわせてライティング（と教室で授業が行えるなら、リスニングも）の練習を行います。また、語学の習得には語彙を増やすことが必要なので、教室で授業が行えていることがあれば単語のテストを行います（教室で授業ができない時は行わない）。

教科書はリーディングのページの分量が多めで、英作問題も行うので、1 章に授業は 2 回から 3 回を予定しています。

教室で授業が行えた時には、学生の解答などで気づいたことは毎回口頭で伝える形でフィードバックします。

オンライン授業の時は、教科書の読み進むところの説明を教師がして、学生は指定されたところの訳を課題として提出する。教師は学生の提出したものをすべてに目を通し、参考になる学生の回答や訳は、課題の提出後に公開する教師の試訳とともに提示する形でフィードバックします。また、必要に応じて Webex を使った授業を行うので（少なくとも英作問題は Webex をつかって行います）、その際にも気づいたことは学生に伝えるつもりです。

オンライン授業の時も 授業時間はいつでも授業に参加できるように、他の予定を入れてはいけません。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業について説明します
第 2 回	文化とアイデンティティ	文化とアイデンティティの関係
第 3 回	文化とアイデンティティ	アイデンティティは社会化から生まれる
第 4 回	文化とアイデンティティ	第 1 章の練習問題
第 5 回	隠れた文化	ポールとケンジの幻滅 二人に欠けているのは文化的柔軟性
第 6 回	隠れた文化	隠れた文化に気づくために必要なもの
第 7 回	隠れた文化	第 2 章の英作問題
第 8 回	ステレオタイプ	ステレオタイプの悲劇 マークとトモエを引き裂いたもの
第 9 回	ステレオタイプ	ステレオタイプの根拠
第 10 回	ステレオタイプ	ステレオタイプの罠にかからないためには
第 11 回	ステレオタイプ	第 3 章の英作問題
第 12 回	いじめ	いじめの問題と解決方 訳と英作問題
第 13 回	前期の復習	前期の復習
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で読む予定の文中に出てくる単語の中で、知らないものについてはその意味を調べること。

毎回単語の試験を行うので、その準備をすること（教室で授業が行える場合）。辞書を持参すること。

それと英米の映画を観たり、音楽を聴いたりすることも勉強になると思います。どんな形でも英語に触れることを増やすことが大切です。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・ショール 阿部珠理『異文化コミュニケーション』（南雲堂、2007 年）本体価格 2000 円

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他必要があれば授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

定期試験の結果をもって評価します（定期試験 100 パーセント）。試験は、読む、書くの 2 部門で試験します。試験における配分は、読む 60 点、書く 25 点、8 5 点満点です（教室で授業が数回でも行える場合は、聞き取り問題 1 5 点も含めて 1 0 0 点満点とする）。

オンラインになった場合は、訳すだけでなく、なぜその訳になるのかを問う問題を出すことも考えている。

【学生の意見等からの気づき】

学生に提示する説明文や、試訳で入力ミスなどが多くあって迷惑をかけたので、それを少なくするように努めたい。また Webex を活用することも多くしたい。

【その他の重要事項】

毎年、授業中に行う予定だった単語の試験は、もし教室での授業が可能なら、今年も行うので、6 割以上の成績を取ることが必須です。オンライン授業のみになった場合は、単語試験は行わない。

今学期はオンライン授業なので、課題の提出を出席の代わりとする。課題の未提出が 5 回になると、無条件で不合格とする。

試験はかならず受験すること。できる限り追試になることは避けてください。やむを得ない理由で試験を受けられない場合も、当日試験の始まる前に連絡をすること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' abilities to read and write English, as well as to hear English words. At the end of the course, students read English texts well and translate them into Japanese correctly, and they write readable English sentences.

小林 テレサ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Presentation of ideas and inspiration using English language comprehension skills.

【到達目標】

Gain an understanding of the value of language as it guides one into another culture, a western culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The class will begin April 12,2021. As classes will be online a self-introductory short video with a written explanation which includes a nickname, autobiographical information plus An explanation of the video content will be the first assignment.The following assignments will include reading materials and study of vocabulary from the text and other selected materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductory exercise	Orientation of class materials. Self-introductory assignment . Short video presentation (2 minutes). Written Self introduction explaining video presentation 15 sentences(one paragraph)
2	Exercise I	Introduce Unit 1 of text. Study vocabulary and reading exercises.
3	Exercise II	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
4	Exercise III	Complete and review Unit 1. Test oral and written optional.
5	Exercise IV	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
6	Exercise V	Textbook unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
7	Exercise VI	Complete And review Unit. Test oral or written optional
8	Exercise VII	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
9	Exercise VIII	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
10	Exercise VIV	Complete And review Unit. Optional test or report.
11	Exercise X	Start Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
12	Exercise XI	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
13	Exercise XII	Complete and review unit. Choose topic for final report. Write outline for final report and for 2 minute video presentation.

Final reports on topic related to units studied in textbook. Incorporate vocabulary, grammar and information from textbook units Studied in class. Add extra data from independent research. Written 500 word report+audio file presentation required.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review readings,research and prepare final written reports. Final Oral presentation of written report. 本授業の準備学習・k 復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Textbook + selected readings

【参考書】

Textbook, selected readings

【成績評価の方法と基準】

Textbook exercises 25%,Tests 25%, Presentations 25%, Reports 25%

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with English comprehension, oral and written.

【学生が準備すべき機器他】

Smartphone, iPhone, iPad , computer

【Outline and objectives】

I. Introduction of textbook units.

II. Analysis of content and vocabulary of reading materials

III. Writing and Speaking excersizes in respect to class studies.

Objectives

I. Introduce cultural and historical information related to unit readings.

II.Improve vocabulary.

III. Improve English reading and speaking skills.

LANe100EA

Basic English 1 - I 3

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英語力を身につけるための授業である。Reading と listening に重点を置きつつ writing と speaking の練習も行い、英語運用能力の土台を作る。

【到達目標】

- ・ Reading：英文を読むことに慣れる；語彙を増やす。
- ・ Listening：英語の音に慣れる。
- ・ Writing：簡単なパラグラフが書けるようになる。
- ・ Speaking：英語を発音することに慣れる。簡単なプレゼンテーションができるようになる。
- ・ 独学：Web 上の教材を利用して自習できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・オンラインで授業を行う。パソコン等の機器とインターネットを安定して使用できる環境が必須
 - ・主な学習パターン：語彙チェック → 英文読解 → リスニング&音読反復練習 → 疑問点を質問
 - ・授業は Zoom によりリアルタイムで行う。
 - ・資料の配布、quiz・テストの受験、課題の提出などは主に Hoppii 上で行う。一部課題の提出に Google Classroom も併用する。
 - ・テスト、課題などへのフィードバックは Hoppii、Google Classroom 上で行う。
 - ・授業に関する連絡は Hoppii「お知らせ」で行う。定期的を確認すること。
- *詳しくは初回授業のガイダンスで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 英文 1.0	授業の説明。1.0 読解小テスト、リスニング&音読練習
第 2 回	英文 1.1	1.0 の精読、1.1 読解小テスト
第 3 回	英文 2.0 パラグラフ基礎	パラグラフの説明。「音読テストリハーサル」説明
第 4 回	英文 3.0	3.0 読解小テスト、リスニング&音読練習。パラグラフ作文実践。要約練習
第 5 回	英文 3.1	3.0 の精読、3.1 読解小テスト。「音読テスト 1 & 中間テスト」予告
第 6 回	英文 4.0	Web 教材、Pomodoro Technique について
第 7 回	音読テスト 1 & 中間テスト	第 1 ～ 6 回内容の確認テスト。学習相談
第 8 回	英文 5.0	5.0 読解小テスト、リスニング&音読練習。要約練習
第 9 回	英文 5.1	5.0 の精読、5.1 読解小テスト
第 10 回	英文 6.0	6.0 読解小テスト、リスニング&音読練習。「プレゼンテーション」、「音読テスト 2 & 学期末テスト」予告
第 11 回	英文 6.1	6.0 の精読、6.1 読解小テスト
第 12 回	英文 7.0	Web 教材、College and Mental Health について
第 13 回	プレゼンテーション	プレゼンテーション発表
第 14 回	音読テスト 2 & 学期末テスト	全授業内容の確認テスト。学習相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習・復習、宿題、課題
- ・音読・リスニングの反復練習
- ・Web 上の教材の自習
- ・上記の作業時間は授業 1 回あたり 1 ～ 2 時間程度

【テキスト（教科書）】

- ①教材は Hoppii 上で配布、指示する。
- ②英語辞書（Web 上のものではなく一般の学習向けのものが望ましい）

【参考書】

無し。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 50 %（毎回小テスト、Zoom 参加など）
- ・音読テスト（2 回）10 %
- ・プレゼンテーション 10 %
- ・パラグラフ作文 10 %
- ・中間&学期末テスト 20 %

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講生のニーズにあった柔軟な指導を目指す。必要に応じて授業時間外の個別相談や追加教材の提案などを行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必須。授業に関連した作業は Hoppii、Zoom、Google Classroom を利用して行う。

【その他の重要事項】

初回授業のガイダンスに必ず出席すること。授業についてより詳しく説明する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop basic English skills: reading, listening, writing, speaking.

LANe100EA

Basic English 1 - I 22

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英語力を身につけるための授業である。Reading と listening に重点を置きつつ writing と speaking の練習も行い、英語運用能力の土台を作る。

【到達目標】

- ・ Reading：英文を読むことに慣れる；語彙を増やす。
- ・ Listening：英語の音に慣れる。
- ・ Writing：簡単なパラグラフが書けるようになる。
- ・ Speaking：英語を発音することに慣れる。簡単なプレゼンテーションができるようになる。
- ・ 独学：Web 上の教材を利用して自習できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・オンラインで授業を行う。パソコン等の機器とインターネットを安定して使用できる環境が必須
 - ・主な学習パターン：語彙チェック → 英文読解 → リスニング&音読反復練習 → 疑問点を質問
 - ・授業は Zoom によりリアルタイムで行う。
 - ・資料の配布、quiz・テストの受験、課題の提出などは主に Hoppii 上で行う。一部課題の提出に Google Classroom も併用する。
 - ・テスト、課題などへのフィードバックは Hoppii、Google Classroom 上で行う。
 - ・授業に関する連絡は Hoppii「お知らせ」で行う。定期的に確認すること。
- *詳しくは初回授業のガイダンスで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 英文 1.0	授業の説明。1.0 読解小テスト、リスニング&音読練習
第 2 回	英文 1.1	1.0 の精読、1.1 読解小テスト
第 3 回	英文 2.0 パラグラフ基礎	パラグラフの説明。「音読テストリハーサル」説明
第 4 回	英文 3.0	3.0 読解小テスト、リスニング&音読練習。パラグラフ作文実践。要約練習
第 5 回	英文 3.1	3.0 の精読、3.1 読解小テスト。「音読テスト 1 & 中間テスト」予告
第 6 回	英文 4.0	Web 教材、Pomodoro Technique について
第 7 回	音読テスト 1 & 中間テスト	第 1 ～ 6 回内容の確認テスト。学習相談
第 8 回	英文 5.0	5.0 読解小テスト、リスニング&音読練習。要約練習
第 9 回	英文 5.1	5.0 の精読、5.1 読解小テスト
第 10 回	英文 6.0	6.0 読解小テスト、リスニング&音読練習。「プレゼンテーション」、「音読テスト 2 & 学期末テスト」予告
第 11 回	英文 6.1	6.0 の精読、6.1 読解小テスト
第 12 回	英文 7.0	Web 教材、College and Mental Health について
第 13 回	プレゼンテーション	プレゼンテーション発表
第 14 回	音読テスト 2 & 学期末テスト	全授業内容の確認テスト。学習相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習・復習、宿題、課題
- ・音読・リスニングの反復練習
- ・Web 上の教材の自習
- ・上記の作業時間は授業 1 回あたり 1 ～ 2 時間程度

【テキスト（教科書）】

- ①教材は Hoppii 上で配布、指示する。
- ②英語辞書（Web 上のものではなく一般の学習向けのものが望ましい）

【参考書】

無し。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 50 %（毎回小テスト、Zoom 参加など）
- ・音読テスト（2 回）10 %
- ・プレゼンテーション 10 %
- ・パラグラフ作文 10 %
- ・中間&学期末テスト 20 %

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講生のニーズにあった柔軟な指導を目指す。必要に応じて授業時間外の個別相談や追加教材の提案などを行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必須。授業に関連した作業は Hoppii、Zoom、Google Classroom を利用して行う。

【その他の重要事項】

初回授業のガイダンスに必ず出席すること。授業についてより詳しく説明する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop basic English skills: reading, listening, writing, speaking.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 1

JONATHAN D BROWN

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目の目的は個人的又は文化的なリーディング及びディスカッショントピックによって学生の英語の語彙及びコミュニケーション能力を向上です。学生は日本又は諸外国の伝統、実践及び価値観を分析しながら英語で意見を交わすことを学ぶ。

【到達目標】

Students learn to discuss topics related to culture in English. Students also improve their reading fluency and comprehension. 英語で様々な文化に関するテーマを英語でディスカッションすること、要点を正しく理解することができるようにする。また、読みの流暢さ及び読解力を向上です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This class will be conducted online through Zoom and Google Classroom. Assignments should be submitted via Google Classroom and/or email. この授業は Zoom や Google Classroom で行うことです。課題を Google Classroom やメールで提出することです。Presentations will be done live on Zoom. プレゼンテーションは同期に Zoom で発表することです。Feedback will be provided by direct comments to the student on Google Classroom or by email. 学生に Google Classroom のコメント又はメールで直接フィードバックを提供されます。

(この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ZOOM Course Guidance/Self- Introductions Unit 1: Names	Explanation of course and syllabus; Self-introductions Learning each other's names; naming practices in several countries; On Your Own (pp. 6-7)
第 2 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 1: Names continued	Vocabulary Quiz 1; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 3 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 2: Kiss, Bow, Or Shake Hands	Body language across cultures; On Your Own (pp. 12-13); ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 4 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 3: Prized Possessions	Vocabulary Quiz 2; Describing an object; On Your Own (pp. 18-19); ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 5 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 4: Cheers	Vocabulary Quiz 3; Expressing opinions; On Your Own (pp. 18-19); ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 6 回	Mid-term Presentations prep	Vocabulary Quiz 4; Mid-term Presentations prep; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 7 回	ZOOM Mid-term Presentations	Mid-term Presentations
第 8 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 5: What's the Occasion?	Talking about special occasions in Japan; On Your Own (pp. 30-31); ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 9 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 5: What's the Occasion?	Talking about special occasions in Japan; On Your Own (pp. 30-31); ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes

第 10 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 6: First Dates	Talking about dating; Comparing males' and females' ideas about dating; On Your Own (pp. 36-37); ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 11 回	GOOGLE CLASSROOM Review/Catch-up	Comprehensive Vocabulary Quiz; Catch-up on any incomplete assignments; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 12 回	Final Presentations prep	Final Presentations prep
第 13 回	ZOOM Final Presentations	Final Presentations
第 14 回	ZOOM Final Presentations continued	Final Presentations continued

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation prep; listening practice; vocabulary study; online reading practice

発表の準備；リスニングの復習；語彙学習；オンラインリーディング学習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

J-Talk: Conversation Across Cultures by Lee, Yoshida, and Ziolkowski;
Oxford University Press (ISBN-13: 978-0194361668)

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.
和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

Vocabulary Quizzes 単語小テスト: 20%

ReadTheory オンラインリーディング課題 30%

Mid-term Group Presentation 中期グループ発表: 20%

Final Presentations 最終発表: 30%

【学生の意見等からの気づき】

中期及び最終発表準備の時間を増やした。

Increased mid-term and final presentations preparation time.

宿題を減らした。

Reduced amount of homework.

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

ウェブカメラ

インターネット接続

【Outline and objectives】

The aim of this course is to build students' English vocabulary and communication skills by using personal and cultural issues as starting points for discussion. Students will learn how to share personal opinions and ideas as they examine the traditions, practices, and values of Japan and other countries.

LANe100EA

Basic English 1 - I 23

JONATHAN D BROWN

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目の目的は個人的又は文化的なディスカッショントピックによって学生の英語の語彙及びコミュニケーション能力を向上です。学生は日本又は諸外国の伝統、実践及び価値観を分析しながら英語で意見を交わすことを学ぶ。

【到達目標】

Students learn to discuss topics related to culture in English. Students also improve their reading fluency and comprehension. 英語で様々な文化に関するテーマを英語でディスカッションすること、要点を正しく理解することができるようにする。また、読みの流暢さ及び読解力を向上です

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This class will be conducted online through Zoom and Google Classroom. Assignments should be submitted via Google Classroom and/or email. この授業は Zoom や Google Classroom で行うことです。課題を Google Classroom やメールで提出することです。Presentations will be done live on Zoom. プレゼンテーションは同期に Zoom で発表することです。Feedback will be provided by direct comments to the student on Google Classroom or by email. 学生に Google Classroom のコメント又はメールで直接フィードバックを提供されます。

(この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ZOOM Course Guidance/Self- Introductions Unit 1: Names	Explanation of course and syllabus; Self-introductions Learning each other's names; naming practices in several countries; On Your Own (pp. 6-7)
第 2 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 1: Names continued	Vocabulary Quiz 1; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 3 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 2: Kiss, Bow, Or Shake Hands	Body language across cultures; On Your Own (pp. 12-13); ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 4 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 3: Prized Possessions	Vocabulary Quiz 2; Describing an object; On Your Own (pp. 18-19); ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 5 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 4: Cheers	Vocabulary Quiz 3; Expressing opinions; On Your Own (pp. 18-19); ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 6 回	Mid-term Presentations prep	Vocabulary Quiz 4; Mid-term Presentations prep
第 7 回	ZOOM Mid-term Presentations	Mid-term Presentations
第 8 回	GOOGLE CLASSROOM Review/Catch-up	Comprehensive Vocabulary Quiz (Units 1-6); Watch example final presentations; prepare presentations
第 9 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 5: What's the Occasion?	Talking about special occasions in Japan; On Your Own (pp. 30-31); ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 10 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 6: First Dates	Talking about dating; Comparing males' and females' ideas about dating; On Your Own (pp. 36-37); ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes

第 11 回	GOOGLE CLASSROOM Review/Catch-up	Comprehensive Vocabulary Quiz; Catch-up on any incomplete assignments; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 12 回	Final Presentations prep	Final Presentations prep
第 13 回	ZOOM Final Presentations	Final Presentations
第 14 回	ZOOM Final Presentations continued	Final Presentations continued

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation prep; listening practice; vocabulary study; online reading practice

発表の準備; リスニングの復習; 語彙学習; オンラインリーディング学習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

J-Talk: Conversation Across Cultures by Lee, Yoshida, and Ziolkowski;
Oxford University Press (ISBN-13: 978-0194361668)

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.

和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

Vocabulary Quizzes 単語小テスト: 20%

ReadTheory オンラインリーディング課題 30% Mid-term Group

Presentation 中期グループ発表: 20%

Final Presentations 最終発表: 30%

【学生の意見等からの気づき】

中期及び最終発表準備の時間を増やした。

Increased mid-term and final presentations preparation time.

宿題を減らした。

Reduced amount of homework.

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

ウェブカメラ

インターネット接続

【Outline and objectives】

The aim of this course is to build students' English vocabulary and communication skills by using personal and cultural issues as starting points for discussion. Students will learn how to share personal opinions and ideas as they examine the traditions, practices, and values of Japan and other countries.

LANe100EA

Basic English 1 - I 5

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- 一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- 様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Is it in your blood?(前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第3回	Is it in your blood?(後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第4回	An unpunished crime (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第5回	An unpunished crime (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第6回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第7回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第8回	課題の振り返り(前半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	Money matters (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第10回	Money matters (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第11回	Is netspeak harming the English language? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第12回	Is netspeak harming the English language? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第13回	課題の振り返り(後半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第14回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んできておく必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥ 2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。

平常点および課題 (60%)

期末の課題 (40%)

①授業課題の課題の提出回数が半数以下、または②期末の課題が提出されなかった場合、原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100EA

Basic English 1 - I 6

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- 一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- 様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Language and the world (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第3回	Language and the world (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第4回	Population crisis (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第5回	Population crisis (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第6回	The greatest show on earth (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第7回	The greatest show on earth (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第8回	課題の振り返り (前半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	Consumer beware: advertising techniques (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第10回	Consumer beware: advertising techniques (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第11回	For an effective interview (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第12回	For an effective interview (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第13回	課題の振り返り (後半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第14回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでおく必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥ 2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。

平常点および課題 (60%)

期末の課題 (40%)

①授業課題の課題の提出回数が半数以下、または②期末の課題が提出されなかった場合、原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100EA

Basic English 1 - I 7

東郷 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、アメリカの小説『グレート・ギャツビー』を英語で読み、それに必要な基本の文法知識と必要な語彙を身に付けます。そうすることで今までの英語学習の見直しと2年次に向けての英語の学力を確実なものとしします。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英文を通して小説の内容を深く理解するために、必要に応じてグループ・ディスカッションを行います。課題を授業終了時に毎回課しますが、次回授業時には課題の解説と講評を行い、小説への理解を深めていきます。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD は小説を読み進めた箇所まで鑑賞し、その表現方法の違いを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の授業の展開の仕方と予習方法の指示、小説の概要の説明。
2	Chapter1	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter1	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
4	Chapter1	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
5	Chapter2	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
6	Chapter2	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
7	Chapter2	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
8	Chapter3	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter3	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
10	Chapter3	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。

11	Chapter4	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
12	Chapter4	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
13	Chapter4	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
14	Chapter1-4	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時には辞書は必ず持参のこと。予習は必須です。授業で行うことになっている Chapter の英文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間と課題への取り組み時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『The Great Gatsby』(Oxford Bookworms), F.Scott Fitzgerald, Oxford University Press, 2013, ¥1183(参考価格)

【参考書】

『華麗なるギャツビー』, フィッツジェラルド, 野崎孝訳, 新潮文庫

【成績評価の方法と基準】

課題 40 % と期末試験 60% の合計 100% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題への解説と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出等のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 1 - I 10

東郷 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、アメリカの小説『グレート・ギャツビー』を英語で読み、それに必要な基本の文法知識と必要な語彙を身に付けます。そうすることで今までの英語学習の見直しと2年次に向けての英語の学力を確かなものとしします。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英文を通して小説の内容を深く理解するために、必要に応じてグループ・ディスカッションを行います。課題を授業終了時に毎回課しますが、次回授業時には課題の解説と講評を行い、小説への理解を深めていきます。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVDは小説を読み進めた箇所まで鑑賞し、その表現方法の違いを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の授業の展開の仕方と予習方法の指示、小説の概要の説明。
2	Chapter1	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter1	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
4	Chapter1	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD鑑賞。
5	Chapter2	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
6	Chapter2	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
7	Chapter2	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD鑑賞。
8	Chapter3	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter3	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
10	Chapter3	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD鑑賞。
11	Chapter4	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
12	Chapter4	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
13	Chapter4	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD鑑賞。
14	Chapter1-4	各Chapterの本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時には辞書は必ず持参のこと。予習は必須です。授業で行うことになっているChapterの英文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間と課題への取り組み時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『The Great Gatsby』(Oxford Bookworms), F.Scott Fitzgerald, Oxford University Press, 2013, ¥1183(参考価格)

【参考書】

『華麗なるギャツビー』, フィッツジェラルド, 野崎孝訳, 新潮文庫

【成績評価の方法と基準】

課題 40 % と期末試験 60%の合計 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題への解説と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出等のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 2

西田 佳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解をテーマにしたテキストを使用し、英語 4 技能の向上を目指す。とくに語彙力と内容解釈に重点を置いて学習する。

【到達目標】

英文を正しく解釈することができる。使用テキストで用いられるレベルの語彙力を身につける。英文をスムーズに音読できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は zoom を用いて行う。毎回課題の提出を求め、次の回ははじめに講評・解説する。テキストにそって授業を進め、適宜発表や発言を求める。クラスの人数や授業の展開によっては、授業を動画配信で行う可能性もあり、また下記授業計画にも若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、Unit1-1	授業の進行とテキストの説明、Unit 1 の英文解釈と音読。
第 2 回	Unit 1-2	「マンションとは？」和製英語について考える。
第 3 回	Unit 2-1	Unit1 の復習、Unit 2 の英文解釈と音読。
第 4 回	Unit 2-2	「犬を食べる？」食文化の違いを考える。
第 5 回	Unit 3-1	Unit 2 の復習、Unit 3 の英文解釈と音読。
第 6 回	Unit 3-2	「お金を落としたら？」治安の問題を考える。音読テスト
第 7 回	Unit 4-1	Unit 3 の復習、Unit 4 の英文解釈と音読。
第 8 回	Unit 4-2	「食事のマナーを知っている？」クロスワードパズル
第 9 回	Unit 5-1	Unit 4 の復習、Unit 5 の英文解釈と音読。
第 10 回	Unit 5-2	「洗濯物はどこに干す？」英作文、語彙。
第 11 回	Unit 6-1	Unit 5 の復習、Unit 6 の英文解釈と音読。
第 12 回	Unit 6-2	「不法労働とは？」英作文、語彙。
第 13 回	春学期全体の復習	関連資料を読む。音読テスト
第 14 回	期末テスト	テキストの内容からのテストと、レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習には合わせて 4 時間以上を目安とする。あらかじめテキストを読んで内容を把握しておくこと。提供されている音声ファイルを利用して、音読の練習をする。授業後はテキストを読みかえし、疑問点があれば課題に書き添えて提出する。

【テキスト（教科書）】

Crossroads that Link the World『異文化クロスロード』朝日出版社

【参考書】

参考書はとくに指定しないが、読んでほしい資料や見てほしい動画などを、授業内で適宜伝える。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 20 %、平常点 20 %、音読テスト 20 %、期末テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

初回授業で伝える

【学生が準備すべき機器他】

zoom で授業に参加できる環境

【Outline and objectives】

Improve four skills of English using a textbook that features different cultures and traditions in the world, focusing on reading and comprehension.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 3

GEORGE HANN

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this class emphasis is placed on reading aloud and comprehension of authentic English texts.

【到達目標】

Through reading aloud and oral elaboration, students will gain the ability to not simply translate English texts (直訳), but to comprehend the overall meanings and express them in natural, easy to understand summaries.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, classes will be conducted entirely online (using Zoom Software).

Text topics will have a connection to the students' life, covering such areas as health, work, culture, entertainment, etc. Each topic will introduce a reading and dialog, new vocabulary, grammar and idioms. Students will complete grammar exercises and complete short writing tasks about the topic. Feedback will be in the form of homework annotations from the instructor. Consultations during office hours are also possible upon student request.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course.	Explain goals of the class; explain evaluation criteria; distribute first reading.
第 2 回	Reading 01: Greetings Around the World	Reading aloud and oral explanation.
第 3 回	Reading 01 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 4 回	Reading 02: Directions & Getting Around	Reading aloud and oral explanation.
第 5 回	Reading 02 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 6 回	Reading 03: Architecture	Reading aloud and oral explanation.
第 7 回	Reading 03 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 8 回	Reading 04: American Customs	Reading aloud and oral explanation.
第 9 回	Reading 04 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 10 回	Reading 05: Travel and Hotels	Reading aloud and oral explanation.
第 11 回	Reading 05 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 12 回	Reading 06: Shopping and Haggling	Reading aloud and oral explanation.
第 13 回	Reading 06 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 14 回	Reading 07: Interior Design	Reading aloud and oral explanation; discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

BEFORE each class, students should read over the texts using a dictionary and have a general understanding of the topic. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Readings and exercises will be distributed by the instructor. Students do not need to buy a textbook.

【参考書】

A good English-Japanese Japanese-English dictionary is vital in this class.

【成績評価の方法と基準】

平常点（音読と訳読への取り組み；ディスカッションの参加）：40%

課題提出：60%

NOTE: 5 absences = automatic fail

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】

この授業計画は授業の展開に応じて若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】

In this class emphasis is placed on reading aloud and comprehension of authentic English texts.

LANe100EA

Basic English 1 - I 17

広川 治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

(1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習 (listening) を行う。

(2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味 (reading) を考える。

(3) 映画のセリフを画面に合わせて話す (speaking) 練習をする。

(4) 映画、舞台の動画を配信、YouTube などを見て、レポート (writing) にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることが目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン（課題提示、提出など）での開講となる。対面授業再開の場合は、それにとまう各回の授業計画の変更を学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオンデマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第 3 回	洋楽 (1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 4 回	洋楽 (2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 5 回	洋楽 (3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 6 回	映画 (1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 7 回	映画 (2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 8 回	映画 (3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 9 回	映画 (4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 10 回	映画 (5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 11 回	映画 (6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 12 回	映画 (7)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 13 回	映画 (8)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 14 回	まとめと解説	提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

・毎回の課題・宿題 = 60 %

・3 回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境

自習、レポート準備の際に、YouTube や映画配信等でセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。Zoom は使用しない。

2. 動画配信サービス（アマゾンプライム、U-NEXT、Netflix 等）

レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。

3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境 (wi-fi)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。

4. 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD（またはブルーレイ）プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD(再生画面付のもの、平均¥5,000 程度)を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、または販売店、アマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

・質問は 24 時間受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があります。質問方法については、初回の授業で説明します。
対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システムで授業方法・内容の変更点などを説明します。

【Outline and objectives】

I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 8

広川 治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

- (1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習 (listening) を行う。
- (2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味 (reading) を考える。
- (3) 映画のセリフを画面に合わせて話す (speaking) 練習をする。
- (4) 映画、舞台の動画を配信、YouTube などを見て、レポート (writing) にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることが目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン（課題提示、提出など）での開講となる。対面授業再開の場合は、それにとまう各回の授業計画の変更を学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオンデマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第 3 回	洋楽 (1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 4 回	洋楽 (2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 5 回	洋楽 (3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 6 回	映画 (1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 7 回	映画 (2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 8 回	映画 (3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 9 回	映画 (4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 10 回	映画 (5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 11 回	映画 (6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 12 回	映画 (7)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 13 回	映画 (8)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 14 回	まとめと解説	提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の課題・宿題 = 60 %
- ・3 回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境
自習、レポート準備の際に、YouTube や映画配信等でセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。Zoom は使用しない。
2. 動画配信サービス（アマゾンプライム、U-NEXT、Netflix 等）
レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。
3. 通信環境
課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境 (wi-fi)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。
4. 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD（またはブルーレイ）プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD(再生画面付のもの、平均¥5,000 程度)を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、または販売店、アマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

・質問は 24 時間受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があります。質問方法については、初回の授業で説明します。
対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システムで授業方法・内容の変更点などを説明します。

【Outline and objectives】

I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 1 - I 24

深松 亮太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界で問題となっている様々な社会事象について、映画を通じて検討していく。この授業では、社会の多様な視点を学ぶことによって、大学における学びの基礎を構築することを一つの目的とする。教科書に沿った学習を基本とするが、適宜、英文記事等の課題を課すことでリーディング力の向上を目指す。

【到達目標】

- ・長文の内容を理解し、それを簡潔にまとめる（要約）ことができるようになる。
- ・現代社会が抱える問題について関心を持てるようになる。
- ・与えられたテーマにそって情報を収集することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各 Unit を長文読解と課題活動の概ね 2 回に分けて学んでいく。尚、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。レポートの提出を基本課題とする。（課題配信型授業）尚、他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対応する。本授業は、課題配布を中心とする。課題に対するフィードバックは、個別に対応することを基本とし、学生からの質問はメールや Hoppii の掲示板を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、課題の進め方・提出方法・質問方法・フィードバックに関する指示。
2	Unit1 : United and Desperation: White Trush (1)	長文読解（訳文の提出）
3	Unit1 : United and Desperation (2)	課題活動（課題の答えを提出）
4	Unit2: Assigning a Label: LGBT (1)	長文読解（訳文の提出）
5	Unit2: Assigning a Label: LGBT (2)	課題活動（課題の答えを提出）
6	Unit 3:Prejudice and Egocentrism (1)	長文読解（訳文の提出）
7	Unit 3:Prejudice and Egocentrism (1)	課題活動（課題の答えを提出）
8	Unit4: Human vs. Property: Slavery Systems (1)	長文読解（訳文の提出）
9	Unit4: Human vs. Property: Slavery Systems (1)	課題活動（課題の答えを提出）
10	Unit 5: Choosing a Home: Immigrants (1)	長文読解（訳文の提出）
11	Unit 5: Choosing a Home: Immigrants (2)	課題活動
12	英文講読 1	新聞記事などの読解
13	英文講読 2	新聞記事などの読解
14	期末レポート授業の総括を含む)	期末レポート（詳細は授業内で説明する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

長文読解の回には訳文とそれぞれのテーマに対する考察をレポートとしてまとめ、提出する。（締切厳守）本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4.5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Joseph Tabolt, *Our Society, Our Diversity, Our Movies* (Kinseido, 2019).

【参考書】

適宜、授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の配点で評価を行う。第 2 回から第 13 回までの課題提出（1 回の提出当たり最高点 5 点、合計 60 点）、期末レポート（最高 20 点）、相対的な評価（20 点）他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対応する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のレベルに配慮した授業を心がける必要性を感じたが、何よりもシラバスをしっかりと読み、教科書のレベル等を理解した上で履修登録をしてほしい。

【その他の重要事項】

繰り返しになるが、教科書のレベルや内容が自身の関心、英語力に合っているかを確認の上で履修すること。

【Outline and objectives】

This course introduces social issues through movies to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

LANe100EA

Basic English 1 - I 8

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoom を用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、

「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要の説明
2	Unit 1a	How we see other cultures
3	Workbook 1a	National identity
4	Unit 1b	Culture and color
5	Workbook 1b	What color is Tuesday?
6	Unit 1c	A world together
7	Workbook 1c	Video games
8	Unit 2a	Music today
9	Workbook 2a	Street life
10	Unit 2b	Learning to dance
11	Workbook 2b	One of a kind
12	Unit 2c	Living statues
13	Workbook 2c	Life in a day
14	Workbook 2e	A portrait of an artist

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 4A Combo Split
著者: Helen Stephenson/John Hughes/Paul Dummett
出版社: National Geographic Learning
出版年: 2019
価格: 2,860 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2eAmeApp/level-4>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10 回提出)

期末試験に準じる課題:40% (4 回提出)

平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等) 学期中、4 回以上授業を無断欠席した場合、あるいは、4 回以上課題未提出の場合は、原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは「Zoom のブレイクアウトルームを使つての音読練習は良かった。英語は苦手なので、期末試験が課題形式で分野に分けて計 4 回で行われる形式も個人的には良かった」「主体的な発言を多く促して頂けたのでしっかりと予習をしていればそれを認められる機会があった」というコメントがあった一方で、「応用を急に聞かれることが多かったため対応に困った」という意見もありました。今年度は、心地よい緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 1 - I 1 9

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoom を用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、

「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要の説明
2	Unit 1a	How we see other cultures
3	Workbook 1a	National identity
4	Unit 1b	Culture and color
5	Workbook 1b	What color is Tuesday?
6	Unit 1c	A world together
7	Workbook 1c	Video games
8	Unit 2a	Music today
9	Workbook 2a	Street life
10	Unit 2b	Learning to dance
11	Workbook 2b	One of a kind
12	Unit 2c	Living statues
13	Workbook 2c	Life in a day
14	Workbook 2e	A portrait of an artist

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組み。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスクリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 4A Combo Split
著者: Helen Stephenson/John Hughes/Paul Dummett
出版社: National Geographic Learning
出版年: 2019
価格: 2,860 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2eAmeApp/level-4>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10 回提出)

期末試験に準じる課題:40% (4 回提出)

平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等) 学期中、4 回以上授業を無断欠席した場合、あるいは、4 回以上課題未提出の場合は、原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「主体的に勉強する習慣が身についた」「課題の内容は自分にとっては難しいものであったが、その分英語の能力が身についたように感じた。また、授業時間内でも一方的な授業ではなく、生徒一人一人に解答を聞いていくため、緊張感があり、英語を身につけるためには良い環境といえる」というコメントがありました。しかし、一方で、課題が難しすぎる、授業の緊張感が強すぎると感じた学生もいました。程よい緊張感が流れる授業環境づくりと、適度にチャレンジングな課題を提示できるよう工夫します。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 1 - I 20

堀 いづみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を読みます。日本を含め世界の様々な場所で起こった事を、英文で書かれた記事の中で読むことにより、読解力及び報道をより多角的に捉える力が増します。

【到達目標】

時事英語の特徴が分かるようになることと、馴染みのある単語であっても新しい文脈の中でより深い理解を発見していくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・教科書の内容に沿った文章を配信する形で進めます。
- ・毎回、課題を提出することになりますが、フィードバックは次の授業の中で行います。
- ・学期末に、期末試験に相当する「期末課題」を提出することになります。
- ・授業計画は授業の展開により、進度、内容に若干の変更もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Unit 1	Unit 1 の語彙の確認、精読
2	Don't freeze English education reform	Unit 1 の精読
3	Introduction to Unit 2	Unit 2 の語彙の確認、精読
4	News outlets are uncertain about the nation's future	Unit 2 の精読
5	Introduction to Unit 3	Unit 3 の語彙の確認、精読
6	Saving the Fire Victims	Unit 3 の精読
7	Introduction to Unit 4	Unit 4 の語彙の確認、精読
8	The posh boy's hollow self-confidence	Unit 4 の精読
9	Introduction to Unit 5	Unit 5 の語彙の確認、精読
10	Recycling Old Laptops	Unit 5 の精読
11	Introduction to Unit 6	Unit 6 の語彙の確認、精読
12	Why Are Some People More Infectious?	Unit 6 の精読
13	Introduction to Unit 7	Unit 7 の語彙の確認、精読
14	What's essential?	Unit 7 の精読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業前に予め記事を読みましょう。
 - ・配信された授業を参考に音読をしましょう。ダウンロード可能な音声のシャドウイングも試してみましょう。
 - ・毎回出題される課題を提出しましょう。
- (本授業の準備学習・復習時間は合わせて4時間が目安となります。)

【テキスト（教科書）】

- ・15 Selected Units of English through the News Media - 2021 - (高橋優身、伊藤典子、Richard Powell 編著・朝日出版社・2021 年) 1200 円+税
- ・Newspaper English [Revised Edition] (大澤岳彦 著・南雲堂・2018 年) 700 円+税

【参考書】

『京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110』(京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社 著・研究社・2009 年) 1400 円+税

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題提出の積み重ねが 50 %、学期末の「期末課題」が 50 % という比率で評価します。(どちらの課題も「到達目標」である英文記事の文脈理解が問われるものです。)

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明も加えながらゆっくり行きます。

【Outline and objectives】

In this course, you will read and read out various types of articles on many different topics so that you can grow your reading comprehension. You will enrich your understanding of stories around the world - and around you.

LANe100EA

Basic English 1 - I 2 1

堀 いつみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を読みます。日本を含め世界の様々な場所で起こった事の英文記事を読む中で、読解力及び報道をより多角的に捉える力を養います。

【到達目標】

時事英語の特徴が分かるようになることと、馴染みのある言葉に対しても新しい文脈の中でより深い意味を発見していくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・教科書の内容に沿った文章を配信する形で進めます。
- ・毎回、課題を提出することになりますが、フィードバックは次の授業の中で行います。
- ・学期末に、期末試験に相当する「期末課題」を提出することになります。
- ・状況によっては、授業進度、内容に変更もありません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Unit 1	Unit 1 の語彙の確認、精読
2	Don't freeze English education reform	Unit 1 の精読
3	Introduction to Unit 2	Unit 2 の語彙の確認、精読
4	News outlets are uncertain about the nation's future	Unit 2 の精読
5	Introduction to Unit 3	Unit 3 の語彙の確認、精読
6	Saving the Fire Victims	Unit 3 の精読
7	Introduction to Unit 4	Unit 4 の語彙の確認、精読
8	The posh boy's hollow self-confidence	Unit 4 の精読
9	Introduction to Unit 5	Unit 5 の語彙の確認、精読
10	Recycling Old Laptops	Unit 5 の精読
11	Introduction to Unit 6	Unit 6 の語彙の確認、精読
12	Why Are Some People More Infectious?	Unit 6 の精読
13	Introduction to Unit 7	Unit 7 の語彙の確認、精読
14	What's essential?	Unit 7 の精読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業前に予め記事を読みましょう。
 - ・配信された授業を参考に音読をしましょう。ダウンロード可能な音声のシャドウイングも試してみましょう。
 - ・毎回出題される課題を提出しましょう。
- (本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間が目安となります。)

【テキスト（教科書）】

・15 Selected Units of English through the News Media - 2021 - (高橋優身、伊藤典子、Richard Powell 編著・朝日出版社・2021 年) 1200 円+税
 ・Newspaper English [Revised Edition] (大澤岳彦 著・南雲堂・2018 年) 700 円+税

【参考書】

京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110 (京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社 著・研究社・2009 年) 1400 円+税

【成績評価の方法と基準】

・毎回の課題提出の積み重ねが 50 %、学期末の「期末課題」が 50 % という比率で評価します。(どちらの課題も「到達目標」である英文記事の文脈理解が問われるものです。)

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明も加えながらゆっくり行います。

【Outline and objectives】

In this course, you will read and read out various types of articles on many different topics so that you can grow your reading comprehension. You will enrich your understanding of stories around the world - and around you.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1

井上 里

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期と同様、重要文法の復習と語彙力の継続的な強化を行いながら、中級レベルの英語で書かれたアメリカの小説を精読します。ワークシートで学んだ文法が、実際の文脈ではどのように用いられているのか、なぜその文法がその場面において必要なのか、英語のニュアンスを確かめながら細かく精読することで、文法をしっかりと身につけていきます。

【到達目標】

比較的口語的な文章で書かれたテキストを精読することで、英語の抽象的な表現や省略表現を正確に理解できるようにする。いままで曖昧に読解していた文法を丁寧につぶしていくことで、応用に活かすための基礎力を確かなものにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半：単語と文法のワークシートのチェック。提出は不要ですが、理解できているか確認するため、数名の方を指名して質問します。授業後半：原文読解と翻訳。毎回指定範囲（原文半ページほど）を訳してきてもらいます。どこをあてられても答えられるように、しっかり準備してきてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Introduction to the course
第 2 回	Conjunctions and prepositions 1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 5, pp.42-45
第 3 回	Conjunctions and prepositions 2	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 5, pp.42-45
第 4 回	Prepositions 1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 5, pp.42-45
第 5 回	Prepositions 2	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 5, pp.42-45
第 6 回	Prepositions 3	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 5, pp.42-45
第 7 回	Modals 1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 6, pp.46-54
第 8 回	Modals 2	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 6, pp.46-54
第 9 回	Modals 3	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 6, pp.46-54
第 10 回	-ing and to ...	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 6, pp.46-54
第 11 回	Reported speech	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 6, pp.46-54
第 12 回	Questions	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 6, pp.46-54
第 13 回	Pronouns and determiners	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 6, pp.46-54
第 14 回	Review and exam	Review and exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、以下の課題を出します。

- ・原文半ページほどの和訳
- ・文法ワークシート
- ・単語ワークシート

すべて英語で書かれたテキストを使用します。問題文を含めしっかり精読してきてください。

【テキスト（教科書）】

ワークシートと原文はその都度プリントを送付します。

【参考書】

- ・Bromberg M, Gordon M, 1100 Words You Need to Know (Barrons Educational Series; Seventh edition, 2018)
- ・Murphy R, English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Students of English - with Answers (Cambridge University Press; 4th edition, 2012)

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題にどれくらいしっかり取り組んでいるかを重点的に評価します。

平常点 (70%) + 期末試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is designed to improve your English grammar and reading skills. The course includes a review of essential grammar, continuous vocabulary building, and close reading of a novel written in English at an advanced level.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 4

井上 里

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期と同様、重要文法の復習と語彙力の継続的な強化を行いながら、中級レベルの英語で書かれたアメリカの小説を精読します。ワークシートで学んだ文法が、実際の文脈ではどのように用いられているのか、なぜその文法がその場面において必要なのか、英語のニュアンスを確かめながら細かく精読することで、文法をしっかりとし身につけていきます。

【到達目標】

比較的口語的な文章で書かれたテキストを精読することで、英語の抽象的な表現や省略表現を正確に理解できるようにする。いままで曖昧に読解していた文法を丁寧につぶしていくことで、応用に活かすための基礎力を確かなものにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半：単語と文法のワークシートのチェック。提出は不要ですが、理解できているか確認するため、数名の方を指名して質問します。授業後半：原文読解と翻訳。毎回指定範囲（原文半ページほど）を訳してきてもらいます。どこをあてられても答えられるように、しっかり準備してきてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし / No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Introduction to the course
第 2 回	Conjunctions and prepositions 1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 5, pp.42-45
第 3 回	Conjunctions and prepositions 2	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 5, pp.42-45
第 4 回	Prepositions 1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 5, pp.42-45
第 5 回	Prepositions 2	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 5, pp.42-45
第 6 回	Prepositions 3	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 5, pp.42-45
第 7 回	Modals 1	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 6, pp.46-54
第 8 回	Modals 2	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 6, pp.46-54
第 9 回	Modals 3	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 6, pp.46-54
第 10 回	-ing and to ...	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 6, pp.46-54
第 11 回	Reported speech	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 6, pp.46-54
第 12 回	Questions	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 6, pp.46-54
第 13 回	Pronouns and determiners	Betty Smith's A Tree Grows in Brooklyn, chapter 6, pp.46-54
第 14 回	Review and exam	Review and exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、以下の課題を出します。

- ・原文半ページほどの和訳
- ・文法ワークシート
- ・単語ワークシート

すべて英語で書かれたテキストを使用します。問題文を含めしっかり精読してください。

【テキスト（教科書）】

ワークシートと原文はその都度プリントを交付します。

【参考書】

- ・Bromberg M, Gordon M, 1100 Words You Need to Know (Barrons Educational Series; Seventh edition, 2018)
- ・Murphy R, English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Students of English - with Answers (Cambridge University Press; 4th edition, 2012)

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題にどれくらいしっかり取り組んでいるかを重点的に評価します。

平常点 (70%) + 期末試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is designed to improve your English grammar and reading skills. The course includes a review of essential grammar, continuous vocabulary building, and close reading of a novel written in English at an advanced level.

LANe100EA

Basic English 1 - II 2

石垣 弥麻

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NHK World Japan の海外向けニュース番組 NEWSLINE のテキストを取り上げます。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えています。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

秋学期もオンライン授業の場合には、春学期同様オンデマンド方式で授業を進める予定です。授業時間になりましたら、学習支援システムにアップロードされた音声ファイルまたは動画を視聴し、問題を解いてから課題を提出してください。授業では、テキストに沿って、ニュースに関する予備知識や語彙を確認した後、リスニングや内容理解、作文練習、最後にトピックに関して意見を書くという流れになります。トピックに関する意見はユニットごとに提出となりますが、提出物に関しては、お一人ずつ内容を確認して点数をつけて返却します。みなさんのご意見を授業のファイルで紹介することもあります（課題に関しましては変更の可能性もありますので、その都度授業でお知らせします）。また、Unit は途中飛ばすものもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期のまとめや秋学期の予定について	授業の進め方などの確認後、課題を提出していただきます。
第 2 回	Unit 8 Boccia boom revitalizing Japanese companies (企業に広がるボッチャ競技)	Unit 前半の問題を解きます (リスニング、内容理解)
第 3 回	Unit 8 Boccia boom revitalizing Japanese companies (企業に広がるボッチャ競技)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます (英作文、トピックに関する意見を書く)
第 4 回	Unit 9 Rising Profile (人気のインスター「東北女子」)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます (リスニング、内容理解)
第 5 回	Unit 9 Rising Profile (人気のインスター「東北女子」)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます (英作文、トピックに関する意見を書く)
第 6 回	Unit 10 All blacks cause city to rethink ink (ラグビーがつなぐリスベクト)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます (リスニング、内容理解)
第 7 回	Unit 10 All blacks cause city to rethink ink (ラグビーがつなぐリスベクト)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます (英作文、トピックに関する意見を書く)
第 8 回	Unit 11 Man-made threat to Japanese deer (鹿を守れ！ プラごみの脅威)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます (リスニング、内容理解)
第 9 回	Unit 11 Man-made threat to Japanese deer (鹿を守れ！ プラごみの脅威)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます (英作文、トピックに関する意見を書く)

第 10 回	Unit 12 Home appliance maker leads comeback (家電メーカー海外の巻き返しを図れ)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます (リスニング、内容理解)
第 11 回	Unit 12 Home appliance maker leads comeback (家電メーカー海外の巻き返しを図れ)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます (英作文、トピックに関する意見を書く)
第 12 回	Unit 13 Hospitals breaking down language barrier (広がる医療通訳)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます (リスニング、内容理解)
第 13 回	Unit 13 Hospitals breaking down language barrier (広がる医療通訳)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます (英作文、トピックに関する意見を書く)
第 14 回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの動画や音声は出版社のホームページからダウンロードできるようになっていますので、予習や復習だけでなく、普段から利用して耳を慣らしておくといいでしょう。本授業の準備・復習時間は、合わせて約1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

NHK NEWSLINE 4 (山崎達朗、Stella M. Yamazaki 編著 金星堂 2021 年)

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % (出欠、課題)、試験 (50 %)

出欠に関しましては、課題の提出でつけますが、必ず締め切りがありますので注意してください。

5 回欠席がついた場合には単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業は学習支援システムを利用し、ファイルの視聴や課題の提出をしていただきます。

【その他の重要事項】

質問などは掲示板ではなく、なるべくメールにてお知らせください。

ただし、メール受信の時間や内容によっては返信が遅れることもあります。

アドレスは一回目の授業でお知らせします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the listening, reading, and writing skills through news.

LANe100EA

Basic English 1 - II 4

市川 由季子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

全体の構成に注目して英文を読み、賛否両論を検討し、自身の考えを論理的に述べる。

【到達目標】

英文読解に加え、short essay や summary を書く能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式で配布される資料をもとに学習し、課題を提出する。課題は採点・コメントのあと返却し、次の授業で解答のいくつかを取り上げ、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講上の説明
第 2 回	Space Exploration ①	テキストの読解を中心とした授業
第 3 回	Space Exploration ②	議論を中心とした授業
第 4 回	World Heritage Site ①	テキストの読解を中心とした授業
第 5 回	World Heritage Site ②	議論を中心とした授業
第 6 回	中間課題	前半の学習内容の理解を確認する
第 7 回	Lay-Judge System ①	テキストの読解を中心とした授業
第 8 回	Lay-Judge System ②	議論を中心とした授業
第 9 回	Life-prolonging Treatment ①	テキストの読解を中心とした授業
第 10 回	Life-prolonging Treatment ②	議論を中心とした授業
第 11 回	Trusting Statistics ①	テキストの読解を中心とした授業
第 12 回	Trusting Statistics ②	議論を中心とした授業
第 13 回	期末課題	後半の学習内容の理解を確認する
第 14 回	Review	秋学期の学習内容の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は各 1~2 時間程度を想定している。準備については、学習予定に従ってテキストを読み、単語の意味を確認する。復習ではフィードバックを参考に、返却された課題を復習する。

【テキスト (教科書)】

『Taking Sides: Opinions For or Against』、Mark Jewel、朝日出版社

【参考書】

自主学習用の教材については、オリエンテーションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

参加 (課題提出回数) 10% + 課題 60% + 期末課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える

【学生が準備すべき機器他】

資料配布と課題提出・返却、連絡はすべて授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course will focus on “critical reading”. The goal is to summarize and discuss what you have read with references to the text.

LANe100EA

Basic English 1 - II 15

岡村 盛雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English1 - I の授業を受けて授業を行います。英語の読む能力を中心に、書くと聴く能力をさらに伸ばすことを目指します。

【到達目標】

Basic English 1-I 春学期の到達地点からさらに進むこと。具体的に言えば、教科書の英語ではなく、普通の本レベルの英文を読んで、訳せること、2年生になってさらに高度な英語が読めるようになるよう準備することを目指します。英作文と聞きとりに関しては BE1 と同じです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、英文を読んで訳すことが中心です。学生が英文を読んで訳し、それを教師が補う。その後英作問題と聞きとり問題の練習を行います。教師は気づいたことを毎回授業中に伝えます。

オンライン授業になった時は、前期と同じように、教師がまず英文読解に必要なと思われる説明をこない、学生がその一部を英文を読んで訳し、レポートを提出する。教師は学生のレポートを確認後、訳しを提示する。参考になると思われる学生の回答や訳は、訳しとともに提示することでフィードバックします。また Webex を活用する授業も行うので、その際に気づいたことは説明する。

単語テストはできないかもしれませんが、毎回 15 問ずつだします。教室で授業が行えるなら、試験します。

授業計画には授業の展開によって若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業について説明します
第 2 回	言葉	言語を覚えることとは何か
第 3 回	言葉	言語の象徴的機能とは何か
第 4 回	言葉	第 4 章の英作問題
第 5 回	非言語的コミュニケーション	人はなぜ同じものを見ても、違う解釈をするのか
第 6 回	非言語的コミュニケーション	身振り、ボディランゲージ、空間の使い方
第 7 回	非言語的コミュニケーション	敏感さを持ちつつ、距離を置くことの必要性
第 8 回	非言語的コミュニケーション	第 5 章の英作問題
第 9 回	多様性	キョミ/サンミ ある在日韓国人の物語
第 10 回	多様性	多様性と差別について
第 11 回	多様性	他者への責任について
第 12 回	多様性	第 6 章の英作問題
第 13 回	光公害	街の灯りと自然に及ぼすその影響
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキストにある単語のうち知らないものについては、その意味を調べておくこと。

毎回単語の試験を行うので、その準備をしておくこと。

辞書を持参すること。教科書を必ず持ってくること。

それと英米の映画を観たり、音楽を聴くことの勉強になると思います。英語に接する機会を増やすことが大切です。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・シュールズ 阿部珠理『異文化コミュニケーション』（南雲堂、2007 年）本体価格 2000 円

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他、必要があれば授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの結果で評価します（期末テストの割合が 100 パーセント）。試験は、読む、書くことを試験します。配分は読む 60 点、書く 25 点で、聞く 15 点で、合計 100 点満点（オンラインでの試験となった時には聞き取りを除く、85 点満点で採点する予定です）。

【学生の意見等からの気づき】

学生に提示する訳語や文法の等の説明に入力ミス、などが多く学生に迷惑をかけたので、それをできる限り減らしたいと思います。

また Webex を活用する機会も増やしたいと思います。

【その他の重要事項】

単語の試験で 6 割以上の成績を取めること、出席を 3 分の 2 以上すること（授業開始後 20 分を過ぎてから来ても出席とはならない）は、単位取得の上で必須条件です。どちらか条件の一つでも満たせない場合、単位取得ができないので、気を付けてください。

教科書と辞書は必ず教室に持ってくる。持っていない場合は、出席を認めないので注意すること。

試験はかならず受けること、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時は、試験の始まる前までに連絡をすること。無断で受験しなかった場合は不可とします。

以上は例年の今教室で行う授業の基準ですが、オンライン授業になった時は、課題の提出を出席の代わりとするので、課題の未提出が 5 回以上になれば不可とします。試験を受けることは例年と同じく必須です。

【Outline and objectives】

Following BE 1, this course aims at improving students' basic English skills further. At the end of the course, students manage to read advanced English texts and write good sentences, as well as hear English sentences.

LANe100EA

Basic English 1 - II 16

岡村 盛雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English1 - I の授業を受けて授業を行います。英語の読む能力を中心に、書くと聴く能力をさらに伸ばすことを目指します。

【到達目標】

Basic English 1-I 春学期の到達地点からさらに進むこと。具体的に言えば、教科書の英語ではなく、普通の本レベルの英文を読んで、訳せること、2年生になってさらに高度な英語が読めるようになるよう準備することを目指します。英作文と聞きとりに関しては BE1 と同じです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、英文を読んで訳すことが中心です。学生が英文を読んで訳し、それを教師が補う。その後英作問題と聞きとり問題の練習を行います。教師は気づいたことを毎回授業中に伝えます。

オンライン授業になった時は、前期と同じように、教師がまず英文読解に必要なと思われる説明をこない、学生がその一部を英文を読んで訳し、レポートを提出する。教師は学生のレポートを確認後、訳読を提示する。参考になると思われる学生の回答や訳は、訳読とともに提示することでフィードバックします。また Webex を活用する授業も行うので、その際に気づいたことは説明する。

単語テストはできないかもしれませんが、毎回 15 問ずつだします。教室で授業が行えるなら、試験します。

授業計画には授業の展開によって若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業について説明します
第 2 回	言葉	言語を覚えることとは何か
第 3 回	言葉	言語の象徴的機能とは何か
第 4 回	言葉	第 4 章の英作問題
第 5 回	非言語的コミュニケーション	人はなぜ同じものを見ても、違う解釈をするのか
第 6 回	非言語的コミュニケーション	身振り、ボディランゲージ、空間の使い方
第 7 回	非言語的コミュニケーション	敏感さを持ちつつ、距離を置くことの必要性
第 8 回	非言語的コミュニケーション	第 5 章の英作問題
第 9 回	多様性	キョミ/サンミ ある在日韓国人の物語
第 10 回	多様性	多様性と差別について
第 11 回	多様性	他者への責任について
第 12 回	多様性	第 6 章の英作問題
第 13 回	光公害	街の灯りと自然に及ぼすその影響
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキストにある単語のうち知らないものについては、その意味を調べておくこと。

毎回単語の試験を行うので、その準備をしておくこと。

辞書を持参すること。教科書を必ず持ってくること。

それと英米の映画を観たり、音楽を聴くことの勉強になると思います。英語に接する機会を増やすことが大切です。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・シュールズ 阿部珠理『異文化コミュニケーション』（南雲堂、2007 年）本体価格 2000 円

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他、必要があれば授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの結果で評価します（期末テストの割合が 100 パーセント）。試験は、読む、書くことを試験します。配分は読む 60 点、書く 25 点で、聞く 15 点で、合計 100 点満点（オンラインでの試験となった時には聞き取りを除く、85 点満点で採点する予定です）。

【学生の意見等からの気づき】

学生に提示する訳読や文法の等の説明に入力ミス、などが多く学生に迷惑をかけたので、それをできる限り減らしたいと思います。

また Webex を活用する機会も増やしたいと思います。

【その他の重要事項】

単語の試験で 6 割以上の成績を取めること、出席を 3 分の 2 以上すること（授業開始後 20 分を過ぎてから来ても出席とはならない）は、単位取得の上で必須条件です。どちらか条件の一つでも満たせない場合、単位取得ができないので、気を付けてください。

教科書と辞書は必ず教室に持ってくる。持っていない場合は、出席を認めないので注意すること。

試験はかならず受けること、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時は、試験の始まる前までに連絡をすること。無断で受験しなかった場合は不可とします。

以上は例年の今教室で行う授業の基準ですが、オンライン授業になった時は、課題の提出を出席の代わりとするので、課題の未提出が 5 回以上になれば不可とします。試験を受けることは例年と同じく必須です。

【Outline and objectives】

Following BE 1, this course aims at improving students' basic English skills further. At the end of the course, students manage to read advanced English texts and write good sentences, as well as hear English sentences.

LANe100EA

Basic English 1 - II 9

小林 テレサ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Presentation of ideas and inspiration in English language comprehension skills.

【到達目標】

Gain an understanding of the value of language as it guides one into another culture. Absorb the contents of written and audio information. Gain a personal understanding of the difference language and culture may mean on a global scale.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The classes will continue from spring semester. As classes will be online a short video and essay about the summer break will be the first assignment. The following assignments will include reading materials and study of vocabulary from the text and other selected materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Exercise I	Review completed Textbook Units. Prepare video and essay about summer holidays using vocabulary from spring semester studies
2	Exercise II	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
3	Exercise III	Textbook Unit study. Reading and Vocabulary Drills. Q/A Session.
4	Exercise IV	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
5	Exercise V	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
6	Exercise VI	Textbook unit study. Listening Exercises. Vocabulary Drills.
7	Exercise VII	Textbook Unit study. Listening Exercises. Vocabulary Drills.
8	Exercise VIII	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
9	Exercise VIV	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
10	Exercise X	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
11	Exercise XI	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.

12	Exercise XII	Discussion and Q/A about topics for final report and presentation.
13	Exercise XIII	Discussion and Q/A about final report and presentation.
14	Exercise IV	Discussion and Q/A about final report and presentation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review readings, research and prepare final reports and presentations
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

"Reading Fusion 2", Selected independent Readings

【参考書】

Independent research of documentaries, articles, essays

【成績評価の方法と基準】

Class Participation 50%, Presentations 25%, Reports 25%

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with an "English speaking only" classroom environment.

【Outline and objectives】

Outline

I. Introduction of Units in Textbook.

II. Analysis of content and vocabulary of reading materials.

III. Writing and Speaking exercises in respect to class studies.

Objectives

I. Introduce cultural and historical information related to topics introduced in text.

II. Improve vocabulary.

III. Improve English reading and speaking skills.

LANe100EA

Basic English 1 - II 3

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英語力を身につけるための授業である。Reading と listening に重点を置きつつ writing と speaking の練習も行い、英語運用能力の土台を作る。

【到達目標】

- ・ Reading：英文を読むことに慣れる；語彙を増やす。
- ・ Listening：英語の音に慣れる。
- ・ Writing：簡単なパラグラフが書けるようになる。
- ・ Speaking：英語を発音することに慣れる。簡単なプレゼンテーションができるようになる。
- ・ 独学：Web 上の教材を利用して自習できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・ オンラインで授業を行う。パソコン等の機器とインターネットを安定して使用できる環境が必須
 - ・ 主な学習パターン：語彙チェック → 英文読解 → リスニング&音読反復練習 → 疑問点を質問
 - ・ 授業は Zoom によりリアルタイムで行う。
 - ・ 資料の配布、quiz・テストの受験、課題の提出などは主に Hoppii 上で行う。一部課題の提出に Google Classroom も併用する。
 - ・ テスト、課題などへのフィードバックは Hoppii、Google Classroom 上で行う。
 - ・ 授業に関する連絡は Hoppii「お知らせ」で行う。定期的を確認すること。
- *詳しくは初回授業のガイダンスで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 英文 8.0	授業の説明。8.0 読解小テスト、リスニング&音読練習
第 2 回	英文 8.1	8.0 の精読、8.1 読解小テスト
第 3 回	英文 9.0 Web 教材	Procrastination について。パラグラフの基本復習。
第 4 回	英文 10.0 パラグラフ作文	10.0 読解小テスト、リスニング&音読練習。要約練習。パラグラフ作文実践。「音読テストリハーサル」説明
第 5 回	英文 10.1	10.0 の精読、10.1 読解小テスト。「音読テストリハーサル」。「音読テスト 1 & 中間テスト」予告
第 6 回	英文 11.0	11.0 読解小テスト、リスニング&音読練習
第 7 回	音読テスト 1 & 中間テスト	第 1 ～ 6 回内容の確認テスト。学習相談
第 8 回	英文 12.0	12.0 読解小テスト、リスニング&音読練習
第 9 回	英文 12.1	12.0 の精読、12.1 読解小テスト
第 10 回	英文 13.0 Web 教材	New Year's Resolutions について。「プレゼンテーション」、「音読テスト 2 & 学期末テスト」予告
第 11 回	英文 14.0	14.0 読解小テスト、リスニング&音読練習
第 12 回	英文 15.0	12.0 の精読、15.0 読解小テスト、リスニング&音読練習
第 13 回	プレゼンテーション	プレゼンテーション発表
第 14 回	音読テスト 2 & 学期末テスト	全授業内容の確認テスト。学習相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 予習・復習、宿題、課題
- ・ 音読・リスニングの反復練習
- ・ Web 上の教材の自習
- ・ 上記の作業時間は授業 1 回あたり 1 ～ 2 時間程度

【テキスト（教科書）】

- ①教材は Hoppii 上で配布、指示する。
- ②英語辞書（Web 上のものではなく一般の学習向けのものが望ましい）

【参考書】

無し。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 平常点 50 %（毎回小テスト、Zoom 参加など）
- ・ 音読テスト（2 回）10 %
- ・ プレゼンテーション 10 %
- ・ パラグラフ作文 10 %
- ・ 中間&学期末テスト 20 %

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講生のニーズにあった柔軟な指導を目指す。必要に応じて授業時間外の個別相談や追加教材の提案などを行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必須。授業に関連した作業は Hoppii、Zoom、Google Classroom を利用して行う。

【その他の重要事項】

初回授業のガイダンスに必ず出席すること。授業についてより詳しく説明する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop basic English skills: reading, listening, writing, speaking.

LANe100EA

Basic English 1 - II 22

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英語力を身につけるための授業である。Reading と listening に重点を置きつつ writing と speaking の練習も行い、英語運用能力の土台を作る。

【到達目標】

- ・ Reading：英文を読むことに慣れる；語彙を増やす。
- ・ Listening：英語の音に慣れる。
- ・ Writing：簡単なパラグラフが書けるようになる。
- ・ Speaking：英語を発音することに慣れる。簡単なプレゼンテーションができるようになる。
- ・ 独学：Web 上の教材を利用して自習できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・オンラインで授業を行う。パソコン等の機器とインターネットを安定して使用できる環境が必須
 - ・主な学習パターン：語彙チェック → 英文読解 → リスニング&音読反復練習 → 疑問点を質問
 - ・授業は Zoom によりリアルタイムで行う。
 - ・資料の配布、quiz・テストの受験、課題の提出などは主に Hoppii 上で行う。一部課題の提出に Google Classroom も併用する。
 - ・テスト、課題などへのフィードバックは Hoppii、Google Classroom 上で行う。
 - ・授業に関する連絡は Hoppii「お知らせ」で行う。定期的を確認すること。
- *詳しくは初回授業のガイダンスで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 英文 8.0	授業の説明。8.0 読解小テスト、リスニング&音読練習
第 2 回	英文 8.1	8.0 の精読、8.1 読解小テスト
第 3 回	英文 9.0 Web 教材	Procrastination について。パラグラフの基本復習。
第 4 回	英文 10.0 パラグラフ作文	10.0 読解小テスト、リスニング&音読練習。要約練習。パラグラフ作文実践。「音読テストリハーサル」説明
第 5 回	英文 10.1	10.0 の精読、10.1 読解小テスト。「音読テストリハーサル」。「音読テスト 1 & 中間テスト」予告
第 6 回	英文 11.0	11.0 読解小テスト、リスニング&音読練習
第 7 回	音読テスト 1 & 中間テスト	第 1 ～ 6 回内容の確認テスト。学習相談
第 8 回	英文 12.0	12.0 読解小テスト、リスニング&音読練習
第 9 回	英文 12.1	12.0 の精読、12.1 読解小テスト
第 10 回	英文 13.0 Web 教材	New Year's Resolutions について。「プレゼンテーション」、「音読テスト 2 & 学期末テスト」予告
第 11 回	英文 14.0	14.0 読解小テスト、リスニング&音読練習
第 12 回	英文 15.0	12.0 の精読、15.0 読解小テスト、リスニング&音読練習
第 13 回	プレゼンテーション	プレゼンテーション発表
第 14 回	音読テスト 2 & 学期末テスト	全授業内容の確認テスト。学習相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習・復習、宿題、課題
- ・音読・リスニングの反復練習
- ・Web 上の教材の自習
- ・上記の作業時間は授業 1 回あたり 1 ～ 2 時間程度

【テキスト（教科書）】

- ①教材は Hoppii 上で配布、指示する。
- ②英語辞書（Web 上のものではなく一般の学習向けのものが望ましい）

【参考書】

無し。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 50 %（毎回小テスト、Zoom 参加など）
- ・音読テスト（2 回）10 %
- ・プレゼンテーション 10 %
- ・パラグラフ作文 10 %
- ・中間&学期末テスト 20 %

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講生のニーズにあった柔軟な指導を目指す。必要に応じて授業時間外の個別相談や追加教材の提案などを行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必須。授業に関連した作業は Hoppii、Zoom、Google Classroom を利用して行う。

【その他の重要事項】

初回授業のガイダンスに必ず出席すること。授業についてより詳しく説明する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop basic English skills: reading, listening, writing, speaking.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 1

JONATHAN D BROWN

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目の目的は個人的又は文化的なディスカッショントピックによって学生の英語の語彙及びコミュニケーション能力を向上です。学生は日本又は諸外国の伝統、実践及び価値観を分析しながら英語で意見を交わすことを学ぶ。

【到達目標】

Students learn to read and listen in English on topics related to culture. Also, students learn to effectively respond with their own ideas in English.

英語で様々な文化に関するテーマを読み及び聞き、要点を正しく理解することができるようにする。また、与えられたテーマについて、英語で効果的に自分の意見を発言できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This class will be conducted online through Zoom and Google Classroom. Assignments should be submitted via Google Classroom and/or email. この授業は Zoom や Google Classroom で行うことです。課題を Google Classroom やメールで提出することです。Presentations will be done live on Zoom. プレゼンテーションは同期に Zoom で発表することです。Feedback will be provided by direct comments to the student on Google Classroom or by email. 学生に Google Classroom のコメント又はメールで直接フィードバックを提供されます。

(この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ZOOM Course Guidance/Introductions	Explanation of course and syllabus; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 2 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 7: On the Job	Talking about part-time jobs; Have to vs. get to; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 3 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 8: A Gift for Me?	Vocabulary Quiz 1; Talking about gift giving in Japan and other countries; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 4 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 9: Feast On This	Vocabulary Quiz 2; Talking about food; Dishes from other cultures; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 5 回	Mid-term Group Presentations Preparation	Vocabulary Quiz 3; Prepare presentations
第 6 回	ZOOM Mid-term Group Presentations	Mid-term Presentations
第 7 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 10: Looking Good	Talking about fashion; Traditional wear in Japan and other countries; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 8 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 11: That's Shocking!	Vocabulary Quiz 4; Talking about embarrassing situations; Social rules across cultures; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 9 回	Review/Catch-up	Comprehensive Vocabulary Quiz; Catch-up on any incomplete assignments; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 10 回	Final Individual Presentations Preparation	Prepare presentations

第 11 回	Final Individual Presentations Preparation	Prepare presentations continued
第 12 回	ZOOM Final Individual Presentations continued	Final presentations
第 13 回	ZOOM Final Individual Presentations continued	Final presentations continued
第 14 回	ZOOM Christmas Movie Party	Christmas Movie Party

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation prep; listening practice; vocabulary study; online reading practice

発表の準備; リスニングの復習; 語彙学習; オンラインリーディング学習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

J-Talk: Conversation Across Cultures by Lee, Yoshida, and Ziolkowski; Oxford University Press (ISBN-13: 978-0194361668)

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.

和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

Vocabulary Quizzes 単語小テスト: 20%

ReadTheory オンラインリーディング課題 30%

Mid-term Group Presentation 中期グループ発表: 20%

Final Presentations 最終発表: 30%

(15分以上の遅刻で欠席とする。遅刻を3回した場合、1回の欠席として数えます。)

【学生の意見等からの気づき】

中期及び最終発表準備の時間を増やした。

Increased mid-term and final presentations preparation time.

宿題を減らした。

Reduced amount of homework.

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

ウェブカメラ

インターネット接続

【Outline and objectives】

The aim of this course is to build students' English vocabulary and communication skills by using personal and cultural issues as starting points for discussion. Students will learn how to share personal opinions and ideas as they examine the traditions, practices, and values of Japan and other countries.

LANe100EA

Basic English 1 - II 23

JONATHAN D BROWN

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目の目的は個人的又は文化的なディスカッショントピックによって学生の英語の語彙及びコミュニケーション能力を向上です。学生は日本又は諸外国の伝統、実践及び価値観を分析しながら英語で意見を交わすことを学ぶ。

【到達目標】

Students learn to read and listen in English on topics related to culture. Also, students learn to effectively respond with their own ideas in English.

英語で様々な文化に関するテーマを読み及び聞き、要点を正しく理解することができるようにする。また、与えられたテーマについて、英語で効果的に自分の意見を発言できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

This class will be conducted online through Zoom and Google Classroom. Assignments should be submitted via Google Classroom and/or email. この授業は Zoom や Google Classroom で行うことです。課題を Google Classroom やメールで提出することです。Presentations will be done live on Zoom. プレゼンテーションは同期に Zoom で発表することです。Feedback will be provided by direct comments to the student on Google Classroom or by email. 学生に Google Classroom のコメント又はメールで直接フィードバックを提供されます。

(この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ZOOM Course Guidance/Self-introductions	Explanation of course and syllabus
第 2 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 7: On the Job	Talking about part-time jobs; Have to vs. get to; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 3 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 8: A Gift for Me?	Vocabulary Quiz 1; Talking about gift giving in Japan and other countries; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 4 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 9: Feast On This	Vocabulary Quiz 2; Talking about food; Dishes from other cultures; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 5 回	Mid-term Group Presentations Preparation	Vocabulary Quiz 3; Prepare presentations
第 6 回	ZOOM Mid-term Group Presentations	Mid-term Presentations
第 7 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 10: Looking Good	Talking about fashion; Traditional wear in Japan and other countries; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 8 回	GOOGLE CLASSROOM Unit 11: That's Shocking!	Vocabulary Quiz 4; Talking about embarrassing situations; Social rules across cultures; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 9 回	Review/Catch-up	Comprehensive Vocabulary Quiz; Catch-up on any incomplete assignments; ReadTheory - Complete THREE readings and quizzes
第 10 回	Final Individual Presentations Preparation	Prepare presentations

第 11 回	Final Individual Presentations Preparation	Prepare presentations continued
第 12 回	ZOOM Final Individual Presentations continued	Final presentations
第 13 回	ZOOM Final Individual Presentations continued	Final presentations continued
第 14 回	Christmas Movie	Christmas Movie Party

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation prep; listening practice; vocabulary study; online reading practice

発表の準備; リスニングの復習; 語彙学習; オンラインリーディング学習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

J-Talk: Conversation Across Cultures by Lee, Yoshida, and Ziolkowski; Oxford University Press (ISBN-13: 978-0194361668)

【参考書】

English-Japanese and Japanese-English dictionary.

和英及び英和辞書を毎回用意すること。

【成績評価の方法と基準】

Vocabulary Quizzes 単語小テスト: 20%

ReadTheory オンラインリーディング課題 30%

Mid-term Group Presentation 中期グループ発表: 20%

Final Presentations 最終発表: 30%

(15分以上の遅刻で欠席とする。遅刻を3回した場合、1回の欠席として数えます。)

【学生の意見等からの気づき】

中期及び最終発表準備の時間を増やした。

Increased mid-term and final presentations preparation time.

宿題を減らした。

Reduced amount of homework.

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

ウェブカメラ

インターネット接続

【Outline and objectives】

The aim of this course is to build students' English vocabulary and communication skills by using personal and cultural issues as starting points for discussion. Students will learn how to share personal opinions and ideas as they examine the traditions, practices, and values of Japan and other countries.

LANe100EA

Basic English 1 - II 5

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- 一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- 様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Is it in your blood?(前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第3回	Is it in your blood?(後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第4回	An unpunished crime (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第5回	An unpunished crime (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第6回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第7回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第8回	課題の振り返り(前半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	Money matters (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第10回	Money matters (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第11回	Is netspeak harming the English language? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第12回	Is netspeak harming the English language? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第13回	課題の振り返り(後半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第14回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んできておく必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥ 2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。

平常点および課題 (60%)

期末の課題 (40%)

①授業課題の課題の提出回数が半数以下、または②期末の課題が提出されなかった場合、原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100EA

Basic English 1 - II 6

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけでなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- 一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- 様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Language and the world (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第3回	Language and the world (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第4回	Population crisis (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第5回	Population crisis (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第6回	The greatest show on earth (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第7回	The greatest show on earth (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第8回	課題の振り返り (前半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	Consumer beware: advertising techniques (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第10回	Consumer beware: advertising techniques (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第11回	For an effective interview (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第12回	For an effective interview (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第13回	課題の振り返り (後半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第14回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでおく必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥ 2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題 (60%)

期末の課題 (40%)

①授業課題の課題の提出回数が半数以下、または②期末の課題が提出されなかった場合、原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100EA

Basic English 1 - II 7

東郷 裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、アメリカの小説『グレート・ギャツビー』を英語で読み、それに必要な基本の文法知識と必要な語彙を身に付けます。そうすることで今までの英語学習の見直しと2年次に向けての英語の学力を確実なものとしします。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英文を通して小説の内容を深く理解するために、必要に応じてグループ・ディスカッションを行います。課題を授業終了時に毎回課しますが、次回授業時には課題の解説と講評を行い、小説への理解を深めていきます。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD は小説を読み進めた箇所まで鑑賞し、その表現方法の違いを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
2	Chapter5	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter5	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞
4	Chapter5	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
5	Chapter6	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
6	Chapter6	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞
7	Chapter6	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
8	Chapter7	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter7	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞
10	Chapter7	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。

11	Chapter8	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
12	Chapter8	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞
13	Chapter8	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
14	Chapter5-8	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時には辞書は必ず持参のこと。予習は必須です。授業で行うことになっている Chapter の英文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお本授業の準備・復習時間と課題への取り組み時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『The Great Gatsby』(Oxford Bookworms), F.Scott Fitzgerald, Oxford University Press, 2013, ¥1183(参考価格)

【参考書】

『華麗なるギャツビー』, フィッツジェラルド, 野崎孝訳, 新潮文庫

【成績評価の方法と基準】

課題 40%と期末試験 60%の合計 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題への解説と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 1 - II 10

東郷 裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、アメリカの小説『グレート・ギャツビー』を英語で読み、それに必要な基本の文法知識と必要な語彙を身に付けます。そうすることで今までの英語学習の見直しと2年次に向けての英語の学力を確かなものとしします。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英文を通して小説の内容を深く理解するために、必要に応じてグループ・ディスカッションを行います。課題を授業終了時に毎回課しますが、次回授業時には課題の解説と講評を行い、小説への理解を深めていきます。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVDは小説を読む進めた箇所まで鑑賞し、その表現方法の違いを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
2	Chapter5	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter5	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
4	Chapter5	DVD鑑賞 課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
5	Chapter6	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
6	Chapter6	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
7	Chapter6	DVD鑑賞 課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
8	Chapter7	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter7	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
10	Chapter7	DVD鑑賞 課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
11	Chapter8	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
12	Chapter8	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
13	Chapter8	DVD鑑賞 課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
14	Chapter5-8	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時には辞書は必ず持参のこと。予習は必須です。授業で行うことになっている Chapter の英文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお本授業の準備・復習時間と課題への取り組み時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『The Great Gatsby』(Oxford Bookworms), F.Scott Fitzgerald, Oxford University Press, 2013, ¥1183(参考価格)

【参考書】

『華麗なるギャツビー』, フィッツジェラルド, 野崎孝訳, 新潮文庫

【成績評価の方法と基準】

課題 40%と期末試験 60%の合計 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題への解説と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 2

西田 佳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解をテーマにしたテキストを使用し、英語 4 技能の向上を目指す。とくに語彙力と内容解釈に重点を置いて学習する。

【到達目標】

英文を正しく解釈することができる。使用テキストで用いられるレベルの語彙力を身につける。英文をスムーズに音読できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は zoom を用いて行う。毎回課題の提出を求め、次の回のはじめに講評・解説する。テキストにそって授業を進め、適宜発表や発言を求める。クラスの人数や授業の展開によっては、授業を動画配信で行う可能性もあり、また下記授業計画にも若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、Unit7-1	授業の進行とテキストの説明、Unit 7 の英文解釈と音読。
第 2 回	Unit 7-2	「西洋医学と東洋医学」
第 3 回	Unit 8-1	Unit7 の復習、Unit 8 の英文解釈と音読。
第 4 回	Unit 8-2	「西洋と東洋の教育の違いと今後」
第 5 回	Unit 9-1	Unit 8 の復習、Unit 9 の英文解釈と音読。
第 6 回	Unit 9-2	「スキヤキって？」世界の音楽と歌。音読テスト。
第 7 回	Unit 10-1	Unit 9 の復習、Unit 10 の英文解釈と音読。
第 8 回	Unit 10-2	「闘牛は残酷？」クロスワードパズル
第 9 回	Unit 11-1	Unit 10 の復習、Unit 11 の英文解釈と音読。
第 10 回	Unit 11-2	「火山で有名な国といえぱ？」英作文、語彙。
第 11 回	Unit 12-1	Unit 11 の復習、Unit 12 の英文解釈と音読。
第 12 回	Unit 12-2	「真珠湾で起こったこと」
第 13 回	秋学期全体の復習	関連資料を読む。音読テスト
第 14 回	期末テスト	テキストの内容からのテストと、レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習には合わせて 4 時間以上を目安とする。あらかじめテキストを読んで内容を把握しておくこと。提供されている音声ファイルを利用して、音読の練習をする。授業後はテキストを読みかえし、疑問点があれば課題に書き添えて提出する。

【テキスト（教科書）】

Crossroads that Link the World『異文化クロスロード』朝日出版社

【参考書】

参考書はとくに指定しないが、読んでほしい資料や見てほしい動画などを、授業内で適宜伝える。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 20 %、平常点 20 %、音読テスト 20 %、期末テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

初回授業で伝える

【学生が準備すべき機器他】

zoom で授業に参加できる環境

【Outline and objectives】

Improve four skills of English using a textbook that features different cultures and traditions in the world, focusing on reading and comprehension.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 3

GEORGE HANN

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this class emphasis is placed on reading aloud and comprehension of authentic English texts.

【到達目標】

Through reading aloud and oral elaboration, students will gain the ability to not simply translate English texts (直訳), but to comprehend the overall meanings and express them in natural, easy to understand summaries.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

NOTE: Due to the current COVID-19 pandemic, classes will be conducted entirely online (using Zoom Software).

Text topics will have a connection to the students' life, covering such areas as health, work, culture, entertainment, etc. Each topic will introduce a reading and dialog, new vocabulary, grammar and idioms. Students will complete grammar exercises and complete short writing tasks about the topic. Feedback will be in the form of homework annotations from the instructor. Consultations during office hours are also possible upon student request.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course.	Explain goals of the class; explain evaluation criteria; distribute first reading.
第 2 回	Reading 01: Humor	Reading aloud and oral explanation.
第 3 回	Reading 01 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 4 回	Reading 02: Stress	Reading aloud and oral explanation.
第 5 回	Reading 02 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 6 回	Reading 03: Health and Fitness	Reading aloud and oral explanation.
第 7 回	Reading 03 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 8 回	Reading 04: CPR	Reading aloud and oral explanation.
第 9 回	Reading 04 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 10 回	Reading 05: Fears and Phobias	Reading aloud and oral explanation.
第 11 回	Reading 05 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 12 回	Reading 06: The Automobile	Reading aloud and oral explanation.
第 13 回	Reading 06 (cont'd)	Reading aloud and oral explanation; discussion.
第 14 回	Reading 07: Complaints	Reading aloud and oral explanation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

BEFORE each class, students should read over the texts using a dictionary and have a general understanding of the topic. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Readings and exercises will be distributed by the instructor. Students do not need to buy a textbook.

【参考書】

A good English-Japanese Japanese-English dictionary is vital in this class.

【成績評価の方法と基準】

平常点（音読と訳読への取り組み；ディスカッションの参加）：40%

課題提出：60%

NOTE: 5 absences = automatic fail

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
この授業計画は授業の展開に応じて若干の変更があり得ます。

【Outline and objectives】
In this class emphasis is placed on reading aloud and comprehension of authentic English texts.

LANe100EA

Basic English 1 - II 17

広川 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画・演劇・音楽をテーマとし、
(1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習 (listening) を行う。
(2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味 (reading) を考える。
(3) 映画のセリフを画面に合わせて話す (speaking) 練習をする。
(4) 映画、舞台の動画を配信、YouTube などを見て、レポート (writing) にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることが目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン（課題提示、提出など）での開講となる。対面授業再開の場合は、それにもなう各回の授業計画の変更を学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオンデマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第 3 回	洋楽 (1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 4 回	洋楽 (2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 5 回	洋楽 (3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 6 回	映画 (1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 7 回	映画 (2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 8 回	映画 (3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 9 回	映画 (4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 10 回	映画 (5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 11 回	映画 (6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 12 回	映画 (7)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 13 回	映画 (8)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 14 回	まとめと解説	提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布。

【参考書】
授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】
・毎回の課題・宿題 = 60 %
・3 回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

- 学習環境
自習、レポート準備の際に、YouTube や映画配信等でセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。Zoom は使用しない。
- 動画配信サービス（アマゾンプライム、U-NEXT、Netflix 等）
レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。
- 通信環境
課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境 (wi-fi)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。
- 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD（またはブルーレイ）プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD(再生画面付のもの、平均¥5,000 程度)を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、または販売店、アマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

・質問は 24 時間受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があります。質問方法については、初回の授業で説明します。
対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システムで授業方法を提示します。

【Outline and objectives】

I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 8

広川 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

- (1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習 (listening) を行う。
- (2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味 (reading) を考える。
- (3) 映画のセリフを画面に合わせて話す (speaking) 練習をする。
- (4) 映画、舞台の動画を配信、YouTube などを見て、レポート (writing) にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることが目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン（課題提示、提出など）での開講となる。対面授業再開の場合は、それにとまう各回の授業計画の変更を学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオンデマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第 3 回	洋楽 (1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 4 回	洋楽 (2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 5 回	洋楽 (3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 6 回	映画 (1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 7 回	映画 (2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 8 回	映画 (3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 9 回	映画 (4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 10 回	映画 (5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 11 回	映画 (6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 12 回	映画 (7)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 13 回	映画 (8)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 14 回	まとめと解説	提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の課題・宿題 = 60 %
- ・3 回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境
自習、レポート準備の際に、YouTube や映画配信等でセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。Zoom は使用しない。
2. 動画配信サービス（アマゾンプライム、U-NEXT、Netflix 等）
レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。
3. 通信環境
課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境 (wi-fi)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。
4. 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD（またはブルーレイ）プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD(再生画面付のもの、平均¥5,000 程度)を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、または販売店、アマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

・質問は 24 時間受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があります。質問方法については、初回の授業で説明します。
対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システムで授業方法・内容の変更点などを説明します。

【Outline and objectives】

I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 1 - II 24

深松 亮太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界で問題となっている様々な社会事象を映画を通じて検討していく。この授業では、社会の多様な視点を学ぶことによって、大学における学びの基礎を構築することを一つの目的とする。教科書に沿った学習を基本とするが、適宜、英文記事等の課題を課すことでリーディング力の向上を目指す。

【到達目標】

- ・長文の内容を理解し、それを簡潔にまとめる（要約）ができるようになる。
- ・現代社会が抱える問題について関心を持てるようになる。
- ・与えられたテーマにそって情報を収集することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各 Unit を長文読解と課題活動の概ね 2 回に分けて学んでいく。尚、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。レポートの提出を基本課題とする。尚、他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対応する。本授業は、課題配布を中心とする。（課題配布型授業）課題に対するフィードバックは、個別に対応することを基本とし、学生からの質問はメールや Hoppii の掲示板を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、履修上の注意点などについて
2	Unit6 : Be a Intercultural Interpreter:	長文読解
3	Unit6 : Be a Intercultural Interpreter:	課題活動
4	Unit 7: An Illegal Life: Illegal Immigrants (1)	長文読解
5	Unit 7: An Illegal Life: Illegal Immigrants (2)	課題活動
6	Unit 10: An Individual or A Number: State Welfare(1)	長文読解
7	Unit 10: An Individual or A Number: State Welfare(2)	課題活動
8	Unit11:Pushing Past Boundaries: Physical Disability (1)	長文読解
9	Unit11:Pushing Past Boundaries: Physical Disability (2)	課題活動
10	Unit 12: Does It Divide or Unite? Disease (1)	長文読解
11	Unit 12: Does It Divide or Unite? Disease(2)	課題活動
12	英文講読 1	新聞記事などの講読
13	英文講読 2	新聞記事などの講読
14	期末レポート（授業の総括を含む）	レポート課題（詳細は授業内で説明する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書のレベルは中程度であり、各自、金星堂の HP に記載されたサンプルを読み、自身の英語力、学びたい内容と一致しているか確認した上で履修登録を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Joseph Tabolt, Our Society, Our Diversity, Our Movies (Kinseido, 2019).

【参考書】

適宜、授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の配点で評価を行う。第 2 回から第 13 回までの課題提出（1 回の提出当たり最高点 5 点、合計 60 点）、期末レポート（最高 20 点）、相対的な評価（20 点）他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対応する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のレベルに配慮した授業を心がける必要性を感じたが、何よりもシラバスをしっかりと読み、教科書のレベル等を理解した上で履修登録をしてほしい。

【その他の重要事項】

繰り返しになるが、教科書のレベルや内容が自身の関心、英語力に合っているかを確認の上で履修すること。

【Outline and objectives】

This course introduces social issues through movies to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.

LANe100EA

Basic English 1 - II 8

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 1-I までに学んだことを基礎に、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoom を用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、

「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことについて発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスク립トの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 3a	The story behind the photo
2	Workbook 3a	Underwater
3	Unit 3b	Return to Titanic
4	Unit 3c	Love and death in the sea
5	Workbook 3c	Bottled Water
6	Unit 4a	Will a robot take your job?
7	Workbook 4a	Future World
8	Unit 4b	What's next?
9	Unit 4c	A better life?
10	Unit 4f	Everest tourism changed Sherpa lives
11	Unit 5a	Pizza with a pedigree
12	Unit 5b	Imaginary eating
13	Unit 5c	A caffeine-fueled world
14	Unit 6b	Desert art

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスク립トを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 4A Combo Split

著者: Helen Stephenson/John Hughes/Paul Dummett

出版社: National Geographic Learning

出版年: 2019

価格: 2,860 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2eAmeApp/level-4>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10 回提出)

期末試験に準じる課題:40% (4 回提出)

平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等) 学期中の欠席、課題未提出は3回までとし、それ以上の授業欠席、課題未提出の場合は原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは「Zoom のブレイクアウトルームを使っただけの音読練習は良かった。英語は苦手なので、期末試験が課題形式で分野に分けて計 4 回で行われる形式

も個人的には良かった」「主体的な発言を多く促して頂けたのでしっかりと予習をしていけばそれを認められる機会があった」というコメントがあった一方で、「応用を急に聞かれることが多かったため対応に困った」という意見もありました。今年度は、心地よい緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 1 - II 1 9

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 1-I までに学んだことを基礎に、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoom を用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、

「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことについて発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 3a	The story behind the photo
2	Workbook 3a	Underwater
3	Unit 3b	Return to Titanic
4	Unit 3c	Love and death in the sea
5	Workbook 3c	Bottled Water
6	Unit 4a	Will a robot take your job?
7	Workbook 4a	Future World
8	Unit 4b	What's next?
9	Unit 4c	A better life?
10	Unit 4f	Everest tourism changed Sherpa lives
11	Unit 5a	Pizza with a pedigree
12	Unit 5b	Imaginary eating
13	Unit 5c	A caffeine-fueled world
14	Unit 6b	Desert art

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組み。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 4A Combo Split

著者: Helen Stephenson/John Hughes/Paul Dummett

出版社: National Geographic Learning

出版年: 2019

価格: 2,860 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2eAmeApp/level-4>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10 回提出)

期末試験に準じる課題:40% (4 回提出)

平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等) 学期中、4 回以上授業を無断欠席した場合、あるいは、4 回以上課題未提出の場合は、原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「主体的に勉強する習慣が身についた」「課題の内容は自分にとっては難しいものであったが、その分英語の能力が身についたように感じた。また、授業時間内も一方的な授業ではなく、生徒一人一人に解答を聞いていくため、緊張感があり、英語を身につけるためには良い環境といえる」というコメントがありました。しかし、一方で、課題が難しすぎる、授業の緊張感が強すぎると感じた学生もいました。程よい緊張感が流れる授業環境づくりと、適度にチャレンジングな課題を提示できるよう工夫します。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 1 - II 20

堀 いづみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を読みます。日本を含め世界の様々な場所で起こった事の英文記事を読むことにより時事英語に慣れ、報道をより多角的に捉える力を養います。

【到達目標】

時事英語の特徴が分かるようになることと、馴染みのある言葉でも新しい文脈の中でより深い意味を発見していくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・教科書の内容に沿った文章を配信する形で進めます。
- ・毎回課題を提出することになりますが、フィードバックは次の授業の中で行います。
- ・学期末に、期末試験に相当する「期末課題」を提出することになります。
- ・授業展開によっては、進度、内容などに若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Unit 8	Unit 8 の記事の精読、音読、語彙の確認
2	Foundation for a Wireless Society	Unit 8 の精読、音読
3	Introduction to Unit 9	Unit 9 の精読、音読、語彙の確認
4	Saudi Society is Changing	Unit 9 の精読、音読
5	Introduction to Unit 10	Unit 10 の精読、音読、語彙の確認
6	An Immigrant Influx	Unit10 の精読、音読
7	Introduction to Unit 11	Unit 11 の精読、音読、語彙の確認
8	Japanese Fans Laud Historic Effort	Unit 11 の精読、音読
9	Introduction to Unit 12	Unit12 の精読、音読、語彙の確認
10	Young Somalis Step in	Unit 12 の精読、音読
11	Introduction to Unit 13	Unit 13 の精読、音読、語彙の確認
12	Is India Becoming a Hindu Nation?	Unit 13 の精読、音読
13	Introduction to Unit 14	Unit 14 の精読、音読、語彙の確認
14	Oil is Making Guyana Wealthy but Intensifying Tensions	Unit 14 の精読、音読、復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業前に予め記事を読みましょう。
 - ・配信された授業を参考に音読をしましょう。ダウンロード可能な音声のシャドウイングも試してみましょう。
 - ・毎回出題される課題を提出しましょう。
- (本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間が目安となります。)

【テキスト（教科書）】

- ・15 Selected Units of English through the News Media - 2021 - (高橋優身、伊藤典子、Richard Powell 編著・朝日出版社・2021 年) 1200 円+税
- ・Newspaper English [Revised Edition] (大澤岳彦 著・南雲堂・2018 年) 700 円+税

【参考書】

京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110 (京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社 著・研究社・2009 年) 1400 円+税

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題提出の積み重ねが 50 %、学期末の「期末課題」が 50 % という比率で評価します。(どちらの課題も「到達目標」である英文記事の文脈理解が問われるものです。)

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明も加えながら(対面授業を想像しながら)行います。

【Outline and objectives】

In this course, you will read and read out various types of articles on many different topics so that you can enhance your reading skills. You will enrich your understanding of stories around the world and around you.

LANe100EA

Basic English 1 - II 2 1

堀 いづみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を読みます。日本を含め世界の様々な場所で起こった事の英文記事を読む中で、読解力及び報道をより多角的に捉える力を養います。

【到達目標】

時事英語の読み方に慣れることと、馴染みのある言葉に対しても新しい文脈の中でより深い意味を発見していくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・教科書の内容に沿った文章を配信する形で進めます。
- ・毎回課題を提出することになりますが、フィードバックは次の授業の中で行います。
- ・学期末に、期末試験に相当する「期末課題」を提出することになります。
- ・授業展開によっては、進度、内容に若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Unit 8	Unit 8 の記事の精読、音読
2	Foundation for a Wireless Society	Unit 8 の記事の精読、音読
3	Introduction to Unit 9	Unit 9 の記事の精読、音読
4	Saudi Society is Changing	Unit 9 の記事の精読、音読
5	Introduction to Unit 10	Unit 10 の記事の精読、音読
6	An Immigrant Influx	Unit 10 の記事の精読、音読
7	Introduction to Unit 11	Unit 11 の記事の精読、音読
8	Japanese Fans Laud Historic Effort	Unit 11 の記事の精読、音読
9	Introduction to Unit 12	Unit 12 の記事の精読、音読
10	Young Somalis Step in	Unit 12 の記事の精読、音読
11	Introduction to Unit 13	Unit 13 の記事の精読、音読
12	Is India Becoming a Hindu Nation?	Unit 13 の記事の精読、音読
13	Introduction to Unit 14	Unit 14 の記事の精読、音読
14	Oil is Making Guyana Wealthy	Unit 14 の記事の精読、音読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業前に予め記事を読みましょう。
 - ・配信された授業を参考に音読をしましょう。ダウンロード可能な音声のシャドウイングも試してみましょう。
 - ・毎回出題される課題を提出しましょう。
- (本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間が目安となります。)

【テキスト（教科書）】

・15 Selected Units of English through the News Media - 2021 - (高橋優身、伊藤典子、Richard Powell 編著・朝日出版社・2021 年) 1200 円+税
 ・Newspaper English [Revised Edition] (大澤岳彦 著・南雲堂・2018 年) 700 円+税

【参考書】

京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110 (京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社 著・研究社・2009 年) 1400 円+税

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題提出の積み重ねが 50 %、学期末の「期末課題」が 50 %という比率で評価します。(どちらの課題も「到達目標」である英文記事の文脈理解が問われるものです。)

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明も加えながら(対面授業を想像しながら)行います。

【Outline and objectives】

In this course, you will read and read out various types of articles on many different topics so that you can grow your reading comprehension. You will enrich your understanding of stories around the world and around you.

LANe100EA

Basic English 2 - I 1 1

井上 里

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

重要文法の復習と語彙力の継続的な強化を行いながら、中上級レベルの英語で書かれたアメリカの現代小説を精読します。ワークシートで学んだ文法が、実際の文脈ではどのように用いられているのか、なぜその文法がその場面において必要なのか、英語のニュアンスを確かめながら細かく精読することで、文法をしっかりと身につけていきます。

【到達目標】

比較的口語的な文章で書かれたテキストを精読することで、英語の抽象的な表現や省略表現を正確に理解できるようにする。いままで曖昧に読解していた文法を丁寧につぶしていくことで、応用に活かすための基礎力を確かなものにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半：単語と文法のワークシートのチェック。提出は不要ですが、理解できているか確認するため、数名の方を指名して質問します。授業後半：原文読解と翻訳。毎回指定範囲(原文半ページほど)を訳してきてもらいます。どこをあてられても答えられるように、しっかり準備してきてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	・ Introduction to the course
第 2 回	Present and past 1	Catherine Lacey's Pew, chapter 1(SLEEP), pp.3-9
第 3 回	Present and past 2	Catherine Lacey's Pew, chapter 1(SLEEP), pp.3-9
第 4 回	Present perfect and past1	Catherine Lacey's Pew, chapter 1(SLEEP), pp.3-9
第 5 回	Present perfect and past2	Catherine Lacey's Pew, chapter 1(SLEEP), pp.3-9
第 6 回	Present perfect and past3	Catherine Lacey's Pew, chapter 1(SLEEP), pp.3-9
第 7 回	Future 1	Catherine Lacey's Pew, chapter 1(SLEEP), pp.3-9
第 8 回	Future 2	Catherine Lacey's Pew, chapter 1(SLEEP), pp.3-9
第 9 回	If and wish 1	Catherine Lacey's Pew, chapter 1(SLEEP), pp.3-9
第 10 回	If and wish 2	Catherine Lacey's Pew, chapter 1(SUNDAY), pp.13-15
第 11 回	Relative clauses 1	Catherine Lacey's Pew, chapter 1(SUNDAY), pp.13-15
第 12 回	Relative clauses 2	Catherine Lacey's Pew, chapter 1(SUNDAY), pp.13-15
第 13 回	Relative clauses 3	Catherine Lacey's Pew, chapter 1(SUNDAY), pp.13-15
第 14 回	Review and exam	Review and exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、以下の課題を出します。

- ・原文半ページほどの和訳
- ・文法ワークシート
- ・単語ワークシート

すべて英語で書かれたテキストを使用します。問題文を含めしっかり精読してください。

【テキスト（教科書）】

ワークシートと原文はその都度プリントを送付します。

【参考書】

- ・Bromberg M, Gordon M, 1100 Words You Need to Know (Barrons Educational Series; Seventh edition, 2018)
- ・Murphy R, English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Students of English - with Answers (Cambridge University Press; 4th edition, 2012)

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題にどれくらいしっかり取り組んでいるかを重点的に評価します。

平常点 (70%) + 期末試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is designed to improve your English grammar and reading skills. The course includes a review of essential grammar, continuous vocabulary building, and close reading of a novel written in English at an advanced level.

LANe100EA

Basic English 2 - I 2

石垣 弥麻

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ CBS ニュースのテキストを取り上げます。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となりますので、基本はオンデマンド方式で授業を進める予定です。みなさんは授業時間になりましたら、学習支援システムにアップロードされた音声ファイルまたは動画を視聴し、問題を解いてから課題を提出してください。問題は、語彙問題、リスニング、内容理解、要約、作文練習、まとめとなっています。最後のまとめはニュースのトピックに関する意見を書いて提出となりますが、提出物に関しては、お一人ずつ内容を確認して点数をつけて返却します。みなさんのご意見を授業のファイルで紹介することもあります（課題に関しましては変更の可能性もありますので、その都度授業でお知らせします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テキストの説明、及び授業の進め方
第 2 回	Unit 1 Japan: Unusual Rental Universe- You can even rent a family (日本におけるレンタルサービスの世界)	Unit の前半の問題を解きます (トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 3 回	Unit 1 Japan: Unusual Rental Universe- You can even rent a family (日本におけるレンタルサービス)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます (要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 4 回	Unit 2 Is coffee the secret to a longer life? (コーヒーの効用)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます (トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 5 回	Unit 2 Is coffee the secret to a longer life? (コーヒーの効用)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます (要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 6 回	Unit 4 (Unit 3 は飛ばします) Lack of sleep costs Americans Billions of dollars each year (寝不足によるビジネスへの悪影響)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます (トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 7 回	Unit 4 Lack of sleep costs Americans Billions of dollars each year (寝不足によるビジネスへの悪影響)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます (要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 8 回	Unit 5 Your smartphone is making you a workplace slacker (仕事でのスマホ使用がもたらす弊害)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます (トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)

第 9 回	Unit 5 Your smartphone is making you a workplace slacker (仕事中のスマホ使用がもたらす弊害)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 10 回	Unit 6 Do happy people live long?(幸せな人は長生き?)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 11 回	Unit 6 Do happy people live long?(幸せな人は長生き?)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 12 回	Unit 7 Selling charity (寄付して利益を上げる新しいビジネスモデル)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 13 回	Unit 7 Selling charity (寄付して利益を上げる新しいビジネスモデル)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 14 回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テキストの動画や音声は出版社のホームページからダウンロードできるようになっていますので、予習や復習だけでなく、普段から利用して耳を慣らしておくといいいでしょう。ダウンロードの方法などは一回目の授業でお知らせします。

本授業の準備・復習時間は、合わせて約 1 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

CBS News Break 4 (熊井信弘編、成美堂、2019 年)

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % (出欠、課題)、試験 (50 %)

出欠に関しましては、課題の提出でつけますが、必ず締め切りがありますので注意してください。

5 回欠席がついた場合には単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業は学習支援システムを利用し、ファイルの視聴や課題の提出をしていただきます。

【その他の重要事項】

質問などは掲示板ではなく、なるべくメールにてお知らせください。

ただし、メール受信の時間や内容によっては返信が遅れることもあります。アドレスは一回目の授業でお知らせします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the listening, reading, and writing skills through news.

LANe100EA

Basic English 2 - I 3

石垣 弥麻

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

アメリカ CBS ニュースのテキストを取り上げます。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となりますので、基本はオンデマンド方式で授業を進める予定です。みなさんは授業時間になりましたら、学習支援システムにアップロードされた音声ファイルまたは動画を視聴し、問題を解いてから課題を提出してください。問題は、語彙問題、リスニング、内容理解、要約、作文練習、まとめとなっています。最後のまとめはニュースのトピックに関する意見を書いて提出となりますが、提出物に関しては、お一人ずつ内容を確認して点数をつけて返却します。みなさんのご意見を授業のファイルで紹介することもあります(課題に関しましては変更の可能性もありますので、その都度授業でお知らせします)。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	テキストの説明、及び授業の進め方
第 2 回	Unit 1 Japan: Unusual Rental Universe- You can even rent a family (日本におけるレンタルサービスの世界)	Unit 1 の前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 3 回	Unit 1 Japan: Unusual Rental Universe- You can even rent a family (日本におけるレンタルサービス)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 4 回	Unit 2 Is coffee the secret to a longer life? (コーヒーの効用)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 5 回	Unit 2 Is coffee the secret to a longer life? (コーヒーの効用)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 6 回	Unit 4 (Unit 3 は飛ばします) Lack of sleep costs Americans Billions of dollars each year (寝不足によるビジネスへの悪影響)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 7 回	Unit 4 Lack of sleep costs Americans Billions of dollars each year (寝不足によるビジネスへの悪影響)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 8 回	Unit 5 Your smartphone is making you a workplace slacker (仕事中のスマホ使用がもたらす弊害)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)

第 9 回	Unit 5 Your smartphone is making you a workplace slacker (仕事中のスマホ使用がもたらす弊害)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 10 回	Unit 6 Do happy people live long?(幸せな人は長生き?)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 11 回	Unit 6 Do happy people live long?(幸せな人は長生き?)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 12 回	Unit 7 Selling charity (寄付して利益を上げる新しいビジネスモデル)	前回の答え合わせをし、新しい Unit の前半の問題を解きます(トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解)
第 13 回	Unit 7 Selling charity (寄付して利益を上げる新しいビジネスモデル)	前回の答え合わせをし、Unit 後半の問題を解きます(要約、英作文、トピックに関する意見を書く)
第 14 回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テキストの動画や音声は出版社のホームページからダウンロードできるようになっていますので、予習や復習だけでなく、普段から利用して耳を慣らすしておくといいいでしょう。ダウンロードの方法などは一回目の授業でお知らせします。

本授業の準備・復習時間は、合わせて約 1 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

CBS News Break 4 (熊井信弘編、成美堂、2019 年)

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % (出欠、課題)、試験 (50 %)

出欠に関しましては、課題の提出でつけますが、必ず締め切りがありますので注意してください。

5 回欠席がついた場合には単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業は学習支援システムを利用し、ファイルの視聴や課題の提出をしていただきます。

【その他の重要事項】

質問などは掲示板ではなく、なるべくメールにてお知らせください。

ただし、メール受信の時間や内容によっては返信が遅れることもあります。アドレスは一回目の授業でお知らせします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the listening, reading, and writing skills through news.

LANe100EA

Basic English 2 - I 4

市川 由季子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

全体の構成に注目して英文を読み、賛否両論を検討し、自身の考えを論理的に述べる。

【到達目標】

英文読解に加え、short essay や summary を書く能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンドで配布する資料をもとに学習し、課題を提出する。課題は採点・コメントして返却し、次の授業で解答のいくつかを取り上げ、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講上の説明
第 2 回	Animals in Zoos ①	テキストの読解を中心とした授業
第 3 回	Animals in Zoos ②	議論を中心とした授業
第 4 回	Security Cameras ①	テキストの読解を中心とした授業
第 5 回	Security Cameras ②	議論を中心とした授業
第 6 回	中間課題	前半の学習内容の理解を確認する
第 7 回	Customer Service ①	テキストの読解を中心とした授業
第 8 回	Customer Service ②	議論を中心とした授業
第 9 回	Womenomics ①	テキストの読解を中心とした授業
第 10 回	Womenomics ②	議論を中心とした授業
第 11 回	Extreme Sports ①	テキストの読解を中心とした授業
第 12 回	Extreme Sports ②	議論を中心とした授業
第 13 回	期末課題	後半の学習の理解を確認する
第 14 回	Review	春学期の学習内容の総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は各 1~2 時間程度を想定している。準備については、学習予定に従ってテキストを読み、単語の意味を確認する。復習ではフィードバックを参考に、返却された課題を復習する。

【テキスト(教科書)】

『Taking Sides: Opinions For or Against』、Mark Jewel、朝日出版社

【参考書】

自主学習用の教材については、オリエンテーションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

参加(課題提出回数) 10% + 課題 60% + 期末課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布と課題提出・返却、連絡はすべて授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course will focus on “critical reading”. The goal is to summarize and discuss what you have read with references to the text.

LANe100EA

Basic English 2 - I 5

市川 由季子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文脈や論理構造に注目してクリティカルに英文を読む。

【到達目標】

英文読解に加え、short essay や summary を書く能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式で配布される資料（解説）をもとにテキストを読み、期日までに課題を提出する。課題は採点・コメントして返却し、次の授業で解答のいくつかを取り上げ、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講上の説明
第 2 回	Warming-up	プリント教材を用いた導入的授業
第 3 回	How to summarize a text	要約文の作り方
第 4 回	Chapter 1 Sweets	paragraph 構造の学習
第 5 回	Chapter 2 "Dessert stomach"	無生物主語の学習
第 6 回	Chapter 3 Japanese cuisine	paragraph 展開の学習
第 7 回	Skipping Breakfast	音声を使う学習①
第 8 回	中間課題	前半の学習内容の理解を確認する
第 9 回	Chapter 4 School meals	指示語の学習
第 10 回	Chapter 5 Vegetables	提案の表現の学習
第 11 回	Chapter 6 Food Sanitation	数値を含む表現の学習
第 12 回	Enjoying lunch	音声を使う学習②
第 13 回	期末課題	後半の学習内容の理解を確認する
第 14 回	Review	春学期の学習内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 1～2 時間程度を想定している。準備については、学習予定に従ってテキストを読み、単語の意味を確認する。復習では解説を参考に、返却された課題を復習する。

【テキスト（教科書）】

『Living Well, Eating Well』、 Josh Norman et al.、朝日出版社

【参考書】

自主学習用の教材については、オリエンテーションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

参加（課題提出回数）10%＋課題 60%＋期末課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布と課題提出・返却、連絡はすべて授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading texts through both skimming for main ideas and scanning for detail. The goal is to summarize and discuss what you have read with references to the text.

LANe100EA

Basic English 2 - I 16

岡村 盛雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生の持っている英語の能力を少しでも伸ばすことが目標です。まずは英語を読んで理解すること、そしてそれを他人に伝わる日本語に置き換えられることを練習します。そこから英語を書くこと、聴くことも練習します。通年での履修を希望します。

【到達目標】

辞書を使い、注などを参考にして、上級者向けの英語教科書を読める。またそこに使われている表現を用いて作文ができる。さらに、聴き取りは、文全体ではなくても、知っている単語は聞き取れる。以上 3 点が到達目標です。そして、映画に描かれた女性像と男性像に関するエッセイを読むことで、フェミニスト的思考にも触れることも目標です。自分もフェミニズムの事は知らないで、学生と一緒に勉強したいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

映画の中にどのように男性や女性が描かれてきたかを論じるエッセイを読むことを中心に授業を行います（この教科書は昨年度と同じものですが、昨年度の続きを読みたいと思います）。その他にライティングの（教室での授業ができればリスニングも）練習問題を行います。また語学の習得には語彙を増やすことが必要なので毎回テストを行います（オンライン授業の場合でも、毎回 15 個ずつ覚えていってください）教科書の英語は難しすぎるものではないと思いますが、授業は比較的ゆっくり行われるので、練習問題などとあわせると、1 回の授業で進むのは 1 ページ半から 2 ページになると思います。教室で授業が行えた時には、学生の訳や回答などで気づいたことがあれば、授業中に指摘する形でフィードバックします

今学期は授業はオンラインで行われる予定なので、教科書のすすむところの全体の文法の説明などを教師が行い、その一部を課題として学生が訳して提出する。教師は、学生の課題のすべてに目を通し、学生の回答の中から皆が参考になる回答や訳は、訳試を示す時に合わせて提示することでフィードバックします。

また Webex を使う授業の回数も増やす予定なので（少なくとも英作問題の時には Webex をつかって授業を行う）、その際に気づいたことは言うつもりです。授業時間にいつでも授業に参加できるように、他の予定を入れてはいけない。授業計画は授業の展開によって若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業についての説明 序章と第 1 章の途中までの概略
第 2 回	大戦中と大戦後の女性像	ロージー・ザ・リベッターに見る女性像
第 3 回	大戦中と大戦後の女性像	フィルム・ノワールと運命の女
第 4 回	大戦中と大戦後の女性像	1 回目から 3 回目の英作問題
第 5 回	大戦中と大戦後の女性像	戦後の女性に求められるもの
第 6 回	大戦中と大戦後の女性像	ケンゼイ報告書、『奇跡』をめぐる判決、そしてセックスコメディ
第 7 回	大戦中と大戦後の女性像	「金髪美人」の表象するもの
第 8 回	大戦中と大戦後の女性像	5 回目から 7 回目までの英作問題
第 9 回	大戦中と大戦後の女性像	郊外の主婦と隣の女の子
第 10 回	大戦中と大戦後の女性像	「女の居場所は家」というイデオロギー
第 11 回	大戦中と大戦後の女性像	9 回目都 10 回目の英作問題
第 12 回	オイディプスコンプレクス	オイディプスコンプレクスとは何か
第 13 回	アメリカ映画の男性像	男性社会と「女性という他者」
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキスト中に出てくる単語で知らないものについては、その意味を調べておくこと。

単語試験にそなえて、その準備をしておくこと
授業が行えた場合は、辞書を持参すること、教科書を購入して、忘れずに教室に持ってくること。
また英米の映画を観たり、音楽を聴いたりすることも勉強になると思います。英語に触れる機会を増やすことが大切です。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

H.M. ベンショフ S. グリフィン『映画の中の男と女』（英宝社、2005年）
本体価格 1900 円

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）
『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）
その他、必要があれば授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの結果で評価します（試験 100 パーセント）。試験は、読む、書く、聞くのすべてを試験をします。配分は、読む 60 点、書く 25 点、聞く 15 点、100 点満点で採点します。オンラインでの試験になった時は、聞きとり問題を除いた、85 点満点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生に提示する説明や訳で、入力ミスや変換ミスが多くあって学生に迷惑をかけたので、それが出来る限り少なくしたいと思います。
また Webex をもっと活用したいと思います。

【その他の重要事項】

教室で授業行えるなら、毎回単語の試験を行うので、6 割以上の成績を取めること、オンライン授業になっても毎回 15 問ずつ覚えていってください。授業が行えるようになったときにまとめて試験します。授業には 3 分の 2 以上出席すること。以上の二つは単位修得の上で前提条件となります。

教科書と辞書を必ず教室に持参すること。教科書は購入してください。教科書、辞書がない場合は、授業の出席を認めない。

オンラインの授業のみになった時には、課題の提出を出席の代わりとするので、課題をだしていただきます。課題の未提出が 5 回になったら、そのまま不合格とします。

なお、試験はかならず受けること、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時も、かならず試験の始まりまでに連絡をすること。無断で受験をしなかった場合は不可とする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to improve students' abilities to read advanced English texts, translate them into Japanese correctly, and write good English sentences, as well as to hear English sentences. At the end of the course, students read English textbooks well, and write good English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - I 1 3

岡村 盛雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English2 - I の授業を受けて授業を行います。英語の読む能力を中心に、書くと聴く能力をさらに伸ばすことを目指します。

【到達目標】

Basic English 2- I 春学期の到達地点からさらに進むこと。具体的に言えば、教科書の英語ではなく、時間をかければ、普通の原書（定期テストに出すレベルの）を読んで、他人が理解できる日本語に訳せること。また、リスニングにおいては、文の意味もつかめる程度に聞き取れること。ライティングについては同じですが、以上 2 点が違います

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の形は教室で授業が行える場合は、学生が英文を読んで訳すことが中心です。教師は学生が訳をしたのちにコメントや説明を行う。その後読んだ英文に出てくる表現を使った英作文をし、聞きとり問題もします。授業中に気づいたことを毎時間指摘する形でフィードバックします。

オンラインでの授業になった場合は、教師が先に英文の読解に必要と思われる説明をし、それを参考にして、英文の一部を学生が訳してレポートを提出します。教師は学生の課題レポートを確認して、参考になる学生の訳や回答を 教師による訳ととも提示することでフィードバックします。また読んだ英文を参考にした英作問題を行うことはオンライン授業でも同様です。単語テストはできないかもしれませんが、毎回 15 問出します。教室で授業が行える時にまとめて試験します。聞き取り問題はオンラインでは行わない予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイフォークス祭り
第 2 回	アメリカ映画の男性像	女性という「他者」
第 3 回	アメリカ映画の男性像	足かせとしてのジェンダー 特権としてのジェンダー
第 4 回	アメリカ映画の男性像	1 回目から 3 回目までの英作問題
第 5 回	アメリカ映画の男性像	父権性と男らしさの関係
第 6 回	アメリカ映画の男性像	映画は男らしさはを喧伝する
第 7 回	アメリカ映画の男性像	5 回目と 6 回目の英作問題
第 8 回	男らしさと初期映画	アメリカ社会の変化 男らしさと経済
第 9 回	男らしさと初期映画	男らしさの復権 エジソン映画の男たち
第 10 回	男らしさと初期映画	エドウィン・ポーターの映画とジョン・ウェインの登場
第 11 回	男らしさと初期映画	8 回目から 10 回目までの英作問題
第 12 回	男らしさと男性映画スター	男性映画スターのパラドクス
第 13 回	後期の復習	後期の復習
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキストにある単語のうち知らないものについては、その意味を調べておくこと。

毎回単語の試験を行うので、その準備をしておくこと。

辞書を持参すること。

また英米の映画を観たり、音楽を聴いたりすることも勉強になります。英語に触れる機会を増やすことが大切です。

教科書を必ず持ってくる。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

H・M・ベンショフ S・グリフィン『映画の中の男と女』（英宝社、2005年）本体価格1900円

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他、必要があれば授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの結果で評価します。試験は、読む、書くを試験します。配分は、読む60点、書く25点、聞く15点です（オンライン試験になった時は、聞き取りを除く85点で採点します）。

【学生の意見等からの気づき】

学生に示す訳や説明で入力ミスや変換ミスが多くあって、学生に迷惑をかけたと思うので、それを減らしていきたい。

また Webex をもっと活用したい。

【その他の重要事項】

単語の試験で6割以上の成績を収めること、出席を3分の2以上すること（授業開始後20分を過ぎてから来ても出席とはならない）は、単位取得の上で必須条件です。どちらか条件を一つでも満たせない場合、単位取得ができないので、気を付けてください。

試験はかならず受けること、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時は、試験の始まる前までに連絡をすること。無断で受験しなかった場合は不可とします。

以上は教室で授業を行う場合の基準ですが、オンラインでの授業にあった場合は、課題の提出を出席の代わりとするので、課題を出していただきます。課題の未提出が5回以上になったら不可とします。

試験を受けることは例年と同じく必須です。

【Outline and objectives】

Following Be2-1, this course aims at improving students' basic English abilities further. At the end of the course, students read English texts written for native speakers of English, translate them into good Japanese, and head English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - I 7

高 美智

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外の時事、社会問題、文化など様々なトピックを扱った英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけるとともに、英語の基本的な読解力ならびに語彙力の向上をはかります。またグループディスカッションやプレゼンテーションを通して英語で自分の意見を表現する練習も行います。

【到達目標】

- － 総合的な英語力の向上。
- － 幅広いトピックを扱った英文を理解できるようになる。
- － 自分の意見や考えを英語で表現できるようになる。
- － 英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 2021年度のBE授業は対面ではなくオンライン。
- 本クラスは基本的には課題・解説配信型のオンデマンド方式。ただし、初回および学期中に数回 ZOOM による授業を行う。
- 毎回の授業で課題を提示し、翌週に講評として詳しい解説・フィードバックを出す。通常課題の個別返却はしないが、英文エッセイなどの課題は個別に添削し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方の説明と自己紹介
第2回	Speech by Steve Jobs 1	スピーチを視聴後、ボキャブラリー確認
第3回	Speech by Steve Jobs 2	スピーチを視聴後、スピーチ原稿の読解
第4回	The Secret behind Tokyo Disneyland's success 1	英文記事の音読・読解
第5回	The Secret behind Tokyo Disneyland's success 2	英文記事の音読・読解
第6回	The Secret behind Tokyo Disneyland's success 3	英文記事の音読・読解
第7回	English Project: Planning Unusual One-day Tokyo Tour! 1	英語で'unusual' 東京ツアーを企画
第8回	English Project: Planning Unusual One-day Tokyo Tour! 2	英語で'unusual' 東京ツアーを企画
第9回	English Project: Planning Unusual One-day Tokyo Tour! 3	英語で'unusual' 東京ツアーを企画
第10回	English Project: Planning Unusual One-day Tokyo Tour! 4	プレゼンテーション
第11回	Supersize Me vs. McDonald 1	映画鑑賞とリスニング練習
第12回	Supersize Me vs. McDonald 2	英文記事の読解
第13回	Supersize Me vs. McDonald 3	英文記事の読解
第14回	期末試験（課題）・まとめ	期末試験（課題）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示します。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。プリントを教材セクションにアップロードしますので、自宅あるいはコンビニなどで必ずプリントアウトして授業課題を行うようにしてください。

【参考書】

適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業課題の提出とその内容）30%

宿題 30%

期末課題（期末テスト）40%

*学期中、特別な理由なしに欠席が3回を超えた場合は期末試験の受験（=期末課題の提出）を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

進捗状況によっては授業計画を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

The course aims to help students develop their English reading comprehension skills. Through reading various English articles dealing with domestic and international social and political issues, students will be able to build their vocabulary and improve their reading skills. While the course mainly focuses on reading, the students will also have the opportunity to develop English-speaking skills through a group project that involves discussions and presentations in English.

LANe100EA

Basic English 2 - I 8

高 美 智

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外の時事、社会問題、文化など様々なトピックを扱った英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけるとともに、英語の基本的な読解力ならびに語彙力の向上をはかります。またグループディスカッションやプレゼンテーションを通して英語で自分の意見を表現する練習も行います。

【到達目標】

- － 総合的な英語力の向上。
- － 幅広いトピックを扱った英文を理解できるようになる。
- － 自分の意見や考えを英語で表現できるようになる。
- － 英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 2021 年度の BE 授業は対面ではなくオンライン。
- 本クラスは基本的には課題・解説配信型のオンデマンド方式。ただし、初回および学期中に数回 ZOOM による授業を行う。
- 毎回の授業で課題を提示し、翌週に講評として詳しい解説・フィードバックを出す。通常課題の個別返却はしないが、英文エッセイなどの課題は個別に添削し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方の説明と自己紹介
第 2 回	Speech by Steve Jobs 1	スピーチを視聴後、ボキャブラリー確認
第 3 回	Speech by Steve Jobs 2	スピーチを視聴後、スピーチ原稿の読解
第 4 回	The Secret behind Tokyo Disneyland's success 1	英文記事の音読・読解
第 5 回	The Secret behind Tokyo Disneyland's success 2	英文記事の音読・読解
第 6 回	The Secret behind Tokyo Disneyland's success 3	英文記事の音読・読解
第 7 回	English Project: Planning Unusual One-day Tokyo Tour! 1	英語で'unusual' 東京ツアーを企画
第 8 回	English Project: Planning Unusual One-day Tokyo Tour! 2	英語で'unusual' 東京ツアーを企画
第 9 回	English Project: Planning Unusual One-day Tokyo Tour! 3	英語で'unusual' 東京ツアーを企画
第 10 回	English Project: Planning Unusual One-day Tokyo Tour! 4	プレゼンテーション
第 11 回	Supersize Me vs. McDonald 1	映画鑑賞とリスニング練習
第 12 回	Supersize Me vs. McDonald 2	英文記事の読解
第 13 回	Supersize Me vs. McDonald 3	英文記事の読解
第 14 回	期末試験（課題）・まとめ	期末試験（課題）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示します。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。プリントを教材セクションにアップロードしますので、自宅あるいはコンビニなどで必ずプリントアウトして授業課題を行うようにしてください。

【参考書】

適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業課題の提出とその内容）30 %

宿題 30%

期末課題（期末テスト）40%

*学期中、特別な理由なしに欠席が3回を超えた場合は期末試験の受験（=期末課題の提出）を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

進捗状況によっては授業計画を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

The course aims to help students develop their English reading comprehension skills. Through reading various English articles dealing with domestic and international social and political issues, students will be able to build their vocabulary and improve their reading skills. While the course mainly focuses on reading, the students will also have the opportunity to develop English-speaking skills through a group project that involves discussions and presentations in English.

LANe100EA

Basic English 2 - I 9

小林 テレサ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Presentation of ideas and inspiration in English language comprehension skills.

【到達目標】

Gain an understanding of the value of language as it guides one into another culture. Observation of social, political and cultural movements in the West.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The classes will begin April 12,2021. As classes will be online a self-introductory short video with a written explanation which includes a nickname, autobiographical information plus an explanation of the video content will be the first assignment. The following assignments will include reading materials and study of vocabulary from the text and other selected materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductory Exercise	Orientation of class materials. Self-introductory assignment . Short video presentation (2 minutes). Written Self introduction explaining video presentation 15 sentences(one paragraph)
2	Exercise I	Introduce Unit 1 of text. Study vocabulary and reading exercises.
3	Exercise II	Textbook unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to read full article learn pronunciation and vocabulary.
4	Exercise III	Complete and review Unit. Test oral and written optional.
5	Exercise IV	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
6	Exercise V	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
7	Exercise VI	Complete and review Textbook Unit. Test oral and written optional.
8	Exercise VII	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
9	Exercise VIII	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
10	Exercise VIV	Complete and review Unit. Test oral and written optional.
11	Exercise X	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
12	Exercise XI	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation,study vocabulary,confirm comprehension.
13	Exercise XII	Complete and review Unit. Choose topic for final report. Write outline for final report and for 2 minute video presentation.

14 Exercise XIII

Final reports on topic related to Units studied in textbook. Incorporate vocabulary, grammar and information from textbook units Studied in class. Add extra data from independent research. Written 500 word report+audio file presentation required.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review readings, research and prepare final reports and presentations. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Textbook and Selected Readings

【参考書】

Textbook, selected research readings, video clips, websites

【成績評価の方法と基準】

Textbook exercises 25%, Tests 25%, Presentations 25%, Reports 25%

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with an "English speaking only" environment.

【学生が準備すべき機器他】

Smartphone or iPhone Or iPad or computer

【Outline and objectives】

Outline

I. Introduction of textbook units.

II. Analysis of content and vocabulary of reading materials

III. Writing and Speaking exercises in respect to class studies.

Objectives

I. Introduce cultural and historical information related to unit readings.

II. Improve vocabulary.

III. Improve English reading and speaking skills.

LANe100EA

Basic English 2 - I 10

小林 テレサ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Presentation of ideas and inspiration in English language comprehension skills.

【到達目標】

Gain an understanding of the value of language as it guides one into another culture. Observation of social, political and cultural movements in the West.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The class will begin April 12,2021. As classes will be online a self-introductory short video with a written explanation which includes a nickname, autobiographical information plus An explanation of the video content will be the first assignment. The following assignments will include reading materials and study of vocabulary from the text and other selected materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductory Exercise	Orientation of class materials. Self-introductory assignment. Short video presentation (2 minutes). Written introduction explaining video presentation 15 sentences(one paragraph)
2	Exercise I	Introduce Unit 1 of text. Study vocabulary and reading exercises.
3	Exercise II	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
4	Exercise III	Complete and review Unit 1. Test oral and written optional.
5	Exercise IV	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
6	Exercise V	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
7	Exercise VI	Complete and review Unit. Test oral and written optional.
8	Exercise VII	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
9	Exercise VIII	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
10	Exercise VIV	Complete and review Unit. Test oral and written optional.
11	Exercise X	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
12	Exercise XI	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
13	Exercise XII	Complete and review Unit. Choose topic for final report. Write outline for final report and for 2 minute video presentation.

- 14 Exercise XIII Complete and review Unit. Choose topic for final report. Write outline for final report and for 2 minute video presentation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review readings, research and prepare final reports. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Textbook, Selected Readings

【参考書】

Textbook, Selected readings, video clips, websites

【成績評価の方法と基準】

Textbook exercises 25%, Tests 25%, Presentations 25%, Reports 25%

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with an "English speaking only" environment.

【学生が準備すべき機器他】

Smartphone or iPhone or iPad or computer

【Outline and objectives】

I. Introduction of textbook units.

II. Analysis of content and vocabulary of reading materials

III. Writing and Speaking excersizes in respect to class studies.

Objectives

I. Introduce cultural and historical information related to unit readings.

II. Improve vocabulary.

III. Improve English reading and speaking skills.

LANe100EA

Basic English 2 - I 1

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【再履修向け授業】英語力が比較的低い学生を主な対象とし、基礎的な英語力の習得に重点を置く。読解、リスニング、音読の練習を中心に行う。

【到達目標】

- ・英語に慣れる。
- ・英文読解のスピード・正確さを向上させる。
- ・リスニング力を向上させる。
- ・英文を自信をもってスムーズに音読できるようになる。
- ・Web上の教材を利用して独学できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

*オンラインで授業を行う。パソコン等の機器とインターネットを安定して使用できる環境が必須

・主な学習パターン：語彙チェック → 英文読解 → リスニング&音読反復練習

- ・授業はZoomによりリアルタイムで行う。
 - ・資料の配布、quiz・テストの受験、課題の提出などは主にHoppii上で行う。一部課題の提出にGoogle Classroomも併用する。
 - ・課題などへのフィードバックはHoppii、Google Classroom上で行う。毎回の授業で質問時間を設ける。
 - ・授業に関する連絡はHoppii「お知らせ」で行う。定期的に確認すること。
- *詳しくは初回ガイダンスで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 英文 07	授業の説明。読解、小テスト
第2回	英文 07.1	07の音読、精読。07.1小テスト。要約練習
第3回	英文 08	読解、小テスト。「音読テスト」説明
第4回	英文 08.1	08の音読、精読。08.1小テスト。「音読テスト」リハーサル
第5回	英文 09	読解、小テスト。「音読テスト1」&「中間テスト」予告
第6回	英文 09.1	09の音読、精読。09.1小テスト
第7回	音読テスト1 & 中間テスト	第1～6回内容の確認テスト。学習相談
第8回	英文 010	読解、小テスト。Web教材
第9回	英文 010.1	010の音読、精読。010.1小テスト
第10回	英文 011	読解、小テスト。Web教材。「プレゼンテーション」説明
第11回	英文 011.1	011の音読、精読。011.1小テスト
第12回	英文 012	読解、小テスト。Web教材。「音読テスト2」&「学期末テスト」予告
第13回	プレゼンテーション	各履修者によるプレゼンテーション
第14回	音読テスト2 & 学期末テスト	全授業内容の確認テスト。学習相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習、復習
- ・リスニング&音読の反復練習
- ・Web上の教材を利用した自習
- ・1回につき1～2時間程度かかる見込み

【テキスト（教科書）】

- ①教材はHoppii上で配布、指示する。
- ②英語辞書（Web上のものではなく一般の学習辞書が望ましい）

【参考書】

・文法参考書：基礎的な文法事項については、高校時代に使った文法書を復習するなどして自習すること。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（Zoom参加、小テストなど）：50%
- ・音読テスト1 & 2：15%
- ・プレゼンテーション：15%
- ・中間テスト&学期末テスト：20%

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講生のニーズに応じてより柔軟な指導を行いたい。学生の要望があれば、追加教材の提案や授業時間外の個別指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必須。Hoppii、Zoom、Google Classroom を使用する。

【その他の重要事項】

初回授業のガイダンスに必ず出席すること。授業についてより詳しく説明する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop basic English skills, with particular attention paid to their reading and listening comprehension skills and reading aloud.

LANe100EA

Basic English 2 - I 6

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけでなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Is it in your blood?(前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第3回	Is it in your blood?(後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第4回	An unpunished crime (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第5回	An unpunished crime (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第6回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第7回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第8回	課題の振り返り (前半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	Money matters (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第10回	Money matters (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第11回	Is netspeak harming the English language? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第12回	Is netspeak harming the English language? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第13回	課題の振り返り (後半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第14回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでもらう必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャック/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥ 2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題（60%）
期末の課題（40%）

①授業課題の提出回数が半数以下、または②期末の課題が提出されなかった場合、原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100EA

Basic English 2 - I 1 4

東郷 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、イギリスの小説『嵐が丘』を読み、それに必要な基本の文法知識と必要な語彙を身に付けます。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英文を通して小説の内容を深く理解するために、必要に応じてグループ・ディスカッションを行います。課題を授業終了時に毎回課しますが、次回授業時には課題の解説と講評を行い、小説への理解を深めていきます。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD は小説を読み進めた箇所まで鑑賞し、その表現方法の違いを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス。	今後の授業の展開の仕方と予習方法の指示、小説の概要の説明。
2	Chapter1	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter1	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
4	Chapter2	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
5	Chapter2-3	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
6	Chapter3	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
7	Chapter3-4	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
8	Chapter4	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter4-5	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
10	Chapter5-6	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
11	Chapter6-7	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
12	Chapter7-8	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
13	chapter9	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
14	Chapter1-9	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書は毎回持参すること。予習は必須です。授業で行うことになっている Chapter の本文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間と課題の取り組み時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Wuthering Heights』(Oxford Bookworms), Emily Bronte, Oxford University Press, 2007, ¥1137(参考価格)

【参考書】

『嵐が丘』, エミリー・ブロンテ, 河島弘美訳, 岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

課題 40%と期末試験 60%の合計 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題への解説と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出等のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - I 15

東郷 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、イギリスの小説『嵐が丘』を読み、それに必要な基本の文法知識と必要な語彙を身に付けます。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英文を通して小説の内容を深く理解するために、必要に応じてグループ・ディスカッションを行います。課題を授業終了時に毎回課しますが、次回授業時には課題の解説と講評を行い、小説への理解を深めていきます。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD は小説を読み進めた箇所まで鑑賞し、その表現方法の違いを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス。	今後の授業の展開の仕方と予習方法の指示、小説の概要の説明。
2	Chapter1	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
3	Chapter1	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
4	Chapter2	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
5	Chapter2-3	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
6	Chapter3	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
7	Chapter3-4	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
8	Chapter4	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
9	Chapter4-5	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
10	Chapter5-6	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
11	Chapter6-7	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
12	Chapter7-8	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
13	chapter9	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。DVD 鑑賞。
14	Chapter1-9	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書は毎回持参すること。予習は必須です。授業で行うことになっている Chapter の本文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間と課題の取り組み時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Wuthering Heights』(Oxford Bookworms), Emily Bronte, Oxford University Press, 2007, ¥1137(参考価格)

【参考書】

『嵐が丘』, エミリー・ブロンテ, 河島弘美訳, 岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

課題 40%と期末試験 60%の合計 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題への解説と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出等のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - I 17

西田 佳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの社会や文化を扱うテキストを使用し、イギリスについての理解を深めつつ、英語 4 技能の向上を目指す。とくに語彙力と内容解釈に重点を置いて学習する。

【到達目標】

英文を正しく解釈することができる。使用テキストで用いられるレベルの語彙力を身につける。英文をスムーズに音読できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は zoom を用いて行う。毎回課題の提出を求め、次の回ははじめに講評・解説する。テキストにそって授業を進め、適宜発表や発言を求める。クラスの人数や授業の展開によっては、授業を動画配信で行う可能性もあり、また下記授業計画にも若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、Unit1-1	授業の進捗とテキストの説明、会話文の音読と解釈
第 2 回	Unit 1-2	ロンドンについての長文の解釈。一般動詞、現在時制
第 3 回	Unit 2-1	Unit1 の復習、会話文の音読と解釈
第 4 回	Unit 2-2	パスについての長文の解釈。動名詞
第 5 回	Unit 3-1	Unit 2 の復習、会話文の音読と解釈
第 6 回	Unit 3-2	カーディフについての長文の解釈。不定詞 音読テスト
第 7 回	Unit 4-1	Unit 3 の復習、会話文の音読と解釈
第 8 回	Unit 4-2	アフタヌーンティーについての長文の解釈。受動態
第 9 回	Unit 5-1	Unit 4 の復習、会話文の音読と解釈
第 10 回	Unit 5-2	シェイクスピアについての長文の解釈。比較級と最上級
第 11 回	Unit 6-1	Unit 5 の復習、会話文の音読と解釈
第 12 回	Unit 6-2	ビートルズについての長文の解釈。動詞 become
第 13 回	春学期全体の復習	関連資料を読む。音読テスト
第 14 回	期末テスト	テキストの内容からのテストと、レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習には合わせて 4 時間以上を目安とする。あらかじめテキストを読んで内容を把握しておくこと。提供されている音声ファイルを利用して、音読の練習をする。授業後はテキストを読みかえし、疑問点があれば課題に書き添えて提出する。

【テキスト（教科書）】

Exploring Great Britain『イギリスへ行きたい！』朝日出版社
ISBN978-4-255-15426-8

【参考書】

参考書はとくに指定しないが、読んでほしい資料や見てほしい動画などを、授業内で適宜伝える。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 20 %
平常点 20 %
音読テスト 20 %
期末テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

初回授業で伝える

【学生が準備すべき機器他】

zoom で授業に参加できる環境

【Outline and objectives】

Improve four skills of English using a textbook dealing with the British society and culture, focusing on reading and comprehension.

LANe100EA

Basic English 2 - I 1 8

西田 佳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの社会や文化を扱うテキストを使用し、イギリスについての理解を深めつつ、英語 4 技能の向上を目指す。とくに語彙力と内容解釈に重点を置いて学習する。

【到達目標】

英文を正しく解釈することができる。使用テキストで用いられるレベルの語彙力を身につける。英文をスムーズに音読できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は zoom を用いて行う。毎回課題の提出を求め、次の回ははじめに講評・解説する。テキストにそって授業を進め、適宜発表や発言を求める。クラスの人数や授業の展開によっては、授業を動画配信で行う可能性もあり、また下記授業計画にも若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、Unit1-1	授業の進行とテキストの説明、会話文の音読と解釈
第 2 回	Unit 1-2	ロンドンについての長文の解釈。一般動詞、現在時制
第 3 回	Unit 2-1	Unit1 の復習、会話文の音読と解釈
第 4 回	Unit 2-2	パスについての長文の解釈。動名詞
第 5 回	Unit 3-1	Unit 2 の復習、会話文の音読と解釈
第 6 回	Unit 3-2	カーディフについての長文の解釈。不定詞 音読テスト
第 7 回	Unit 4-1	Unit 3 の復習、会話文の音読と解釈
第 8 回	Unit 4-2	アフタヌーンティーについての長文の解釈。受動態
第 9 回	Unit 5-1	Unit 4 の復習、会話文の音読と解釈
第 10 回	Unit 5-2	シェイクスピアについての長文の解釈。比較級と最上級
第 11 回	Unit 6-1	Unit 5 の復習、会話文の音読と解釈
第 12 回	Unit 6-2	ビートルズについての長文の解釈。動詞 become
第 13 回	春学期全体の復習	関連資料を読む。音読テスト
第 14 回	期末テスト	テキストの内容からのテストと、レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習には合わせて 4 時間以上を目安とする。あらかじめテキストを読んで内容を把握しておくこと。提供されている音声ファイルを利用して、音読の練習をする。授業後はテキストを読みかえし、疑問点があれば課題に書き添えて提出する。

【テキスト（教科書）】

Exploring Great Britain『イギリスへ行きたい!』朝日出版社
ISBN978-4-255-15426-8

【参考書】

参考書はとくに指定しないが、読んでほしい資料や見てほしい動画などを、授業内で適宜伝える。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 20 %
平常点 20 %
音読テスト 20 %
期末テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

初回授業で伝える

【学生が準備すべき機器他】

zoom で授業に参加できる環境

【Outline and objectives】

Improve four skills of English using a textbook dealing with the British society and culture, focusing on reading and comprehension.

LANe100EA

Basic English 2 - I 1 2

広川 治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画・演劇・音楽をテーマとし、
(1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習 (listening) を行う。
(2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味 (reading) を考える。
(3) 映画のセリフを画面に合わせて話す (speaking) 練習をする。
(4) 映画、舞台の動画を配信、YouTube などを見て、レポート (writing) にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン（課題提示、提出など）での開講となる。対面授業再開の場合は、それにとまう各回の授業計画の変更を学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオンラインデマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第 3 回	洋楽 (1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 4 回	洋楽 (2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 5 回	洋楽 (3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 6 回	映画 (1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 7 回	映画 (2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 8 回	映画 (3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 9 回	映画 (4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 10 回	映画 (5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 11 回	映画 (6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 12 回	映画 (7)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 13 回	映画 (8)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 14 回	まとめと解説	提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の課題・宿題 = 60 %
- ・3回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境

自習、レポート準備の際に、**YouTube** や映画配信等でセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。**Zoom** は使用しない。

2. 動画配信サービス (アマゾンプライム、**U-NEXT**、**Nerflix** 等)
レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。

3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境 (**wi-fi**)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。

4. 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと **DVD** (またはブルーレイ) プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル **DVD**(再生画面付のもの、平均¥5,000 程度) を準備し、**DVD** は **TSUTAYA DISCUS** の宅配レンタル、または販売店、アマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

・質問は **24 時間** 受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があります。質問方法については、初回の授業で説明します。対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システムで授業方法・内容の変更点などを説明します。

【Outline and objectives】

I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 2 - I 1 9

広川 治

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

- (1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習 (listening) を行う。
- (2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味 (reading) を考える。
- (3) 映画のセリフを画面に合わせて話す (speaking) 練習をする。
- (4) 映画、舞台の動画を配信、**YouTube** などで見て、レポート (writing) にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン (課題提示、提出など) での開講となる。対面授業再開の場合は、それにとまう各回の授業計画の変更を学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオンデマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第 3 回	洋楽 (1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 4 回	洋楽 (2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 5 回	洋楽 (3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 6 回	映画 (1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 7 回	映画 (2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 8 回	映画 (3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 9 回	映画 (4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 10 回	映画 (5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 11 回	映画 (6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 12 回	映画 (7)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 13 回	映画 (8)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 14 回	まとめと解説	提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の課題・宿題 = 60 %
- ・3回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境

自習、レポート準備の際に、**YouTube** や映画配信等でセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。**Zoom** は使用しない。

2. 動画配信サービス (アマゾンプライム、**U-NEXT**、**Nerflix** 等)

レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。

3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境 (**wi-fi**)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。

4. 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD（またはブルーレイ）プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD(再生画面付のもの、平均¥5,000 程度)を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、または販売店、アマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

・質問は 24 時間受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があります。質問方法については、初回の授業で説明します。
対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システムで授業方法・内容の変更点などを説明します。

【Outline and objectives】

I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 2 - I 24

深松 亮太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を用いて、読解力と内容要約力・考察力の向上を目指す。

【到達目標】

- (1) まとまりのある英語の文章を理解できるようになる。
- (2) 英訳した文章を適切に日本語で要約できるようになる。
- (3) 日ごろのニュースを通じて、社会的な問題について考察する態度が身に付く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。尚、他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対応する。本授業は、課題配布を中心とする。課題に対するフィードバックは、個別に対応することを基本とし、学生からの質問はメールや Hoppii の掲示板を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、課題の提出方法、注意事項などについて解説する。
2	新聞講読（1）	英字新聞の記事を読み、要約する。
3	新聞講読（2）	英字新聞の記事を読み、要約する。
4	新聞講読（3）	英字新聞の記事を読み、要約する。
5	新聞講読（4）	英字新聞の記事を読み、要約する。
6	新聞講読（5）	英字新聞の記事を読み、要約する。
7	新聞講読（6）	英字新聞の記事を読み、要約する。
8	新聞講読（7）	英字新聞の記事を読み、要約する。
9	新聞講読（8）	英字新聞の記事を読み、要約する。
10	新聞講読（9）	インタビュー記事を読み、要約する。
11	新聞講読（10）	英字新聞の記事を読み、要約する。
12	英文講読（1）	インタビュー記事を読み、要約する。
13	英文講読（2）	インタビュー記事を読み、要約する。
14	期末レポート（授業の総括を含む）	レポートの詳細は授業内で説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞講読・英文講読の回には、課された課題に関するレポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。（対面での授業に移行された際には再度検討する）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

毎回課される課題の提出（100%）。締め切りを過ぎた課題は受け取らない。評価は以下の配点で採点する。

第 2 回から第 13 回の課題（各最高 5 点、合計 60 点）、期末レポート最高 20 点、相対評価点 20 点。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のレベルに配慮した授業を心がける必要性を感じたが、何よりもリバスをしっかりと読み、レベル等を理解した上で履修登録をしてほしい。

【その他の重要事項】

他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対処する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire reading skill through the Daily News.

LANe100EA

Basic English 2 - I 2 3

深松 亮太

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を用いて、読解力と内容要約力・考察力の向上を目指す。

【到達目標】

- (1) まとまりのある英語の文章を理解できるようになる。
- (2) 英訳した文章を適切に日本語で要約できるようになる。
- (3) 日ごろのニュースを通じて、社会的な問題について考察する態度が身に付く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。尚、他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対応する。本授業は、課題配布を中心とする。課題に対するフィードバックは、個別に対応することを基本とし、学生からの質問はメールや Hoppii の掲示板を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、課題の提出方法、注意事項などについて解説する。
2	新聞講読 (1)	英字新聞の記事を読み、要約する。
3	新聞講読 (2)	英字新聞の記事を読み、要約する。
4	新聞講読 (3)	英字新聞の記事を読み、要約する。
5	新聞講読 (4)	英字新聞の記事を読み、要約する。
6	新聞講読 (5)	英字新聞の記事を読み、要約する。
7	新聞講読 (6)	英字新聞の記事を読み、要約する。
8	新聞講読 (7)	英字新聞の記事を読み、要約する。
9	新聞講読 (8)	英字新聞の記事を読み、要約する。
10	新聞講読 (9)	インタビュー記事を読み、要約する。
11	新聞講読 (10)	英字新聞の記事を読み、要約する。
12	英文講読 (1)	インタビュー記事を読み、要約する。
13	英文講読 (2)	インタビュー記事を読み、要約する。
14	期末レポート（授業の総括を含む）	レポートの詳細は授業内で説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞講読・英文講読の回には、課された課題に関するレポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。(対面での授業に移行された際には再度検討する)

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

毎回課される課題の提出 (100%)。締め切りを過ぎた課題は受け取らない。評価は以下の配点で採点する。
第 2 回から第 13 回の課題 (各最高 5 点、合計 60 点)、期末レポート最高 20 点、相対評価点 20 点。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のレベルに配慮した授業を心がける必要性を感じたが、何よりもシラバスをしっかりと読み、レベル等を理解した上で履修登録をしてほしい。

【その他の重要事項】

他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対処する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire reading skill through the Daily News.

LANe100EA

Basic English 2 - I 2 0

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 1 (大学 1 年) までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoom を用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、

「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要の説明
2	Unit 1a	Unlikely friends
3	Workbook 1a	A tradition in decline?
4	Unit 1b	The selfie generation
5	Workbook 1b	Young and old
6	Unit 1c	Bloodlines
7	Workbook 1c	A dynamic society
8	Unit 2a	A key moment
9	Unit 2b	Visual storytelling
10	Workbook 2b	March of the Penguins
11	Unit 2c	Once upon a time ...
12	Workbook 2c	Children's stories
13	Workbook 2e	A real-life drama
14	Unit 2 Review	Unit 2 の補足資料を読む、聞く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書： Life (Second Edition) 5A Combo Split
著者： Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社： Cengage Learning
出版年： 2019
価格： 2,860 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2eAmeApp/level-5>

<http://www.bbc.co.uk/radio>
<http://www.npr.org/>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10 回提出)

期末試験に準じる課題:40% (4 回提出)

平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等) 学期中、4 回以上授業を無断欠席した場合、あるいは、4 回以上課題未提出の場合は、原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアナケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、テキストの内容を補足するためのプリントに費やす時間がやや多かったため、「せっかく買った教科書をもっと読みたかった」という学生からの指摘もあったので、この点を改善することに努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 2 - I 2 1

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 1 (大学 1 年) までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoom を用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、

「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要の説明
2	Unit 1a	Unlikely friends
3	Workbook 1a	A tradition in decline?
4	Unit 1b	The selfie generation
5	Workbook 1b	Young and old
6	Unit 1c	Bloodlines
7	Workbook 1c	A dynamic society
8	Unit 2a	A key moment
9	Unit 2b	Visual storytelling
10	Workbook 2b	March of the Penguins
11	Unit 2c	Once upon a time ...
12	Workbook 2c	Children's stories
13	Workbook 2e	A real-life drama
14	Unit 2 Review	Unit 2 の補足資料を読む、聞く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 - テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 - 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 - 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 - リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 - 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書：Life (Second Edition) 5A Combo Split
 著者：Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
 出版社：Cengage Learning
 出版年：2019
 価格：2,860 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2eAmeApp/level-5>

<http://www.bbc.co.uk/radio>
<http://www.npr.org/>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10 回提出)

期末試験に準じる課題:40% (4 回提出)

平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等)
 学期中、4 回以上授業を無断欠席した場合、あるいは、4 回以上課題未提出の場合は、原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアナケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、テキストの内容を補足するためのプリントに費やす時間がやや多かったため、「せっかくな買った教科書をもっと読みたかった」という学生からの指摘もあったので、この点を改善することに努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 2 - I 2 2

堀 いづみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を読みます。様々な分野における英文記事に触れることにより、読解力及び情報をより多角的に捉える力を養います。

【到達目標】

時事英語の読み方に慣れることと、馴染みのある言葉に対しても新しい文脈の中でより深い意味の発見をしていくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・教科書の内容に沿った文章を配信する形で進めます。
- ・毎回、課題を提出することになりますが、フィードバックは次の授業の中で行います。
- ・学期末に、期末試験に相当する「期末課題」を提出することになります。
- ・授業展開によっては、進捗や内容に若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Chapter 1	第一章の導入と精読
2	国内政治	第一章の精読
3	Introduction to Chapter 2	第二章の導入と精読
4	経済・ビジネス（1）	第二章の精読
5	Introduction to Chapter 3	第三章の導入と精読
6	経済・ビジネス（2）	第三章の精読
7	Introduction to Chapter 4	第四章の導入と精読
8	外交・国際会議	第四章の精読
9	Introduction to Chapter 5	第五章の導入と精読
10	軍事	第五章の精読
11	Introduction to Chapter 6	第六章の導入と精読
12	海外政治情勢	第六章の精読
13	Introduction to Chapter 7	第七章の導入と精読
14	文化・社会	第七章の精読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業前に予め記事を読みましょう。
 - ・配信された授業を参考に音読をしましょう。ダウンロード可能な音声のシャドウイングも試してみましょう。
 - ・毎回出題される課題を提出しましょう。
- (本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間が目安となります。)

【テキスト（教科書）】

・English for Mass Communication・2021 Edition (堀江洋文、他 編著・朝日出版社・2021 年) 1700 円＋税

【参考書】

京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110 (京都大学英語学術語彙研究グループ+研究社 著・研究社・2009 年) 1400 円＋税

【成績評価の方法と基準】

・毎回の課題提出の積み重ねが 50 %、学期末の「期末課題」が 50 % という比率で評価します。(どちらの課題も「到達目標」である英文記事の文脈理解が問われるものです。)

【学生の意見等からの気づき】

文構造の説明も加えながらゆっくり行います。

【Outline and objectives】

In this course, you will read and read out various types of articles on many different topics so that you can grow your reading comprehension. You will enrich your understanding of stories around the world and around you.

LANe100EA

Basic English 2 - II 1 1

井上 里

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期同様、重要文法の復習と語彙力の継続的な強化を行いながら、中上級レベルの英語で書かれたアメリカの小説を精読します。ワークシートで学んだ文法が、実際の文脈ではどのように用いられているのか、なぜその文法がその場面において必要なのか、英語のニュアンスを確かめながら細かく精読することで、文法をしっかりと身につけていきます。

【到達目標】

比較的口語的な文章で書かれたテキストを精読することで、英語の抽象的な表現や省略表現を正確に理解できるようにする。いままで曖昧に読解していた文法を丁寧につぶしていくことで、応用に活かすための基礎力を確かなものにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半：単語と文法のワークシートのチェック。提出は不要ですが、理解できているか確認するため、数名の方を指名して質問します。授業後半：原文読解と翻訳。毎回指定範囲（原文半ページほど）を訳してきてもらいます。どこをあてられても答えられるように、しっかり準備してきてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Introduction to the course
第 2 回	Conjunctions and prepositions 1	Catherine Lacey's Pew, chapter 1 (SUNDAY) pp.16-28
第 3 回	Conjunctions and prepositions 2	Catherine Lacey's Pew, chapter 1 (SUNDAY) pp.16-28
第 4 回	Prepositions 1	Catherine Lacey's Pew, chapter 1 (SUNDAY) pp.16-28
第 5 回	Prepositions 2	Catherine Lacey's Pew, chapter 1 (SUNDAY) pp.16-28
第 6 回	Prepositions 3	Catherine Lacey's Pew, chapter 1 (SUNDAY) pp.16-28
第 7 回	Modals 1	Catherine Lacey's Pew, chapter 1 (SUNDAY) pp.16-28
第 8 回	Modals 2	Catherine Lacey's Pew, chapter 1 (SUNDAY) pp.16-28
第 9 回	Modals 3	Catherine Lacey's Pew, chapter 1 (SUNDAY) pp.16-28
第 10 回	-ing and to ...	Catherine Lacey's Pew, chapter 1 (SUNDAY) pp.16-28
第 11 回	Reported speech	Catherine Lacey's Pew, chapter 1 (SUNDAY) pp.16-28
第 12 回	Questions	Catherine Lacey's Pew, chapter 1 (SUNDAY) pp.16-28
第 13 回	Pronouns and determiners	Catherine Lacey's Pew, chapter 1 (SUNDAY) pp.16-28
第 14 回	Review and exam	Review and exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、以下の課題を出します。

- ・原文半ページほどの和訳
- ・文法ワークシート
- ・単語ワークシート

すべて英語で書かれたテキストを使用します。問題文を含めしっかり精読してきてください。

【テキスト（教科書）】

ワークシートと原文はその都度プリントを送付します。

【参考書】

- ・Bromberg M, Gordon M, 1100 Words You Need to Know (Barrons Educational Series; Seventh edition, 2018)
- ・Murphy R, English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Students of English - with Answers (Cambridge University Press; 4th edition, 2012)

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題にどれくらいしっかり取り組んでいるかを重点的に評価します。

平常点 (70%) + 期末試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is designed to improve your English grammar and reading skills. The course includes a review of essential grammar, continuous vocabulary building, and close reading of a novel written in English at an advanced level.

LANe100EA

Basic English 2 - II 2

石垣 弥麻

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期と同じアメリカ CBS ニュースのテキスト後半に入ります。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

授業の進め方は春学期と同じです。ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

秋学期もオンライン授業の場合には春学期同様オンデマンド方式で授業を進める予定です。授業時間になりましたら、学習支援システムにアップロードされた音声ファイルまたは動画を視聴し、問題を解いてから課題を提出してください。問題は、語彙問題、リスニング、内容理解、要約、作文練習、まとめとなっています。最後のまとめはニュースのトピックに関する意見を書いて提出となりますが、提出物に関しては、お一人ずつ内容を確認して点数をつけて返却します。みなさんのご意見を授業のファイルで紹介することもあります（課題に関しましては変更の可能性もありますので、その都度授業でお知らせします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期の授業について	授業の進め方などの確認をした後で課題となります。
第 2 回	Unit 8 The power of music: using music to help unlock Alzheimer's patients' memories. (記憶を呼び覚ます音楽の力)	Unit の前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解）
第 3 回	Unit 8 The power of music: using music to help unlock Alzheimer's patients' memories. (記憶を呼び覚ます音楽の力)	Unit 前半の答え合わせをし、後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を英語で書く）
第 4 回	Unit 9 A stitch in time: teen turns thrift store finds into trendy clothing for homeless(仕立て直した古着でホームレスを支援する十代の若者)	前回の答え合わせをし、新しい Unit 前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解）
第 5 回	Unit 9 A stitch in time: teen turns thrift store finds into trendy clothing for homeless(仕立て直した古着でホームレスを支援する十代の若者)	Unit 前半の答え合わせをし、後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を英語で書く）
第 6 回	Unit 10 How microfibers in clothes are polluting our oceans (洗濯で排出される超極細繊維による海洋汚染)	前回の答え合わせをし、新しい Unit 前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解）
第 7 回	Unit 10 How microfibers in clothes are polluting our oceans (洗濯で排出される超極細繊維による海洋汚染)	Unit 前半の答え合わせをし、後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を英語で書く）

第 8 回	Unit 11 True meaning of Christmas found in family's magical reunion(思いがけない再会にみるクリスマスの本当の意味)	前回の答え合わせをし、新しい Unit 前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解）
第 9 回	Unit 11 True meaning of Christmas found in family's magical reunion(思いがけない再会にみるクリスマスの本当の意味)	Unit 前半の答え合わせをし、後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を英語で書く）
第 10 回	Unit 12 The joy of cleaning: the life-changing magic of tidying up (世界に広がる人生を変える片づけの極意)	前回の答え合わせをし、新しい Unit 前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解）
第 11 回	Unit 12 The joy of cleaning: the life-changing magic of tidying up (世界に広がる人生を変える片づけの極意)	Unit 前半の答え合わせをし、後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を英語で書く）
第 12 回	Unit 13 High schooler's "sit with us" app tackles lunchtime bullying (高校生が考案した昼食時のいじめをなくすアプリ)	前回の答え合わせをし、新しい Unit 前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解）
第 13 回	Unit 13 High schooler's "sit with us" app tackles lunchtime bullying (高校生が考案した昼食時のいじめをなくすアプリ)	Unit 前半の答え合わせをし、後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を英語で書く）
第 14 回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの動画や音声は出版社のホームページからダウンロードできるようになっていますので、予習や復習だけでなく、普段から利用して耳を慣らしましょう。秋学期からの受講の方にはダウンロードの方法につきましては一回目の授業でお知らせします。

本授業の準備・復習時間は、合わせて約 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 4（熊井信弘編、成美堂、2019 年）

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %（出欠、課題）、試験（50 %）

出欠に関しましては、課題の提出でつけますが、必ず締め切りがありますので注意してください。

5 回欠席がついた場合には単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業では学習支援システムを利用し、ファイルの視聴や課題の提出をしていただきます。

【その他の重要事項】

質問などは掲示板ではなくメールにてお知らせください。ただし、メール受信の時間や内容によっては返信が遅れることもあります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the listening, reading, and writing skills through news.

LANe100EA

Basic English 2 - II 3

石垣 弥麻

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期と同じアメリカ CBS ニュースのテキスト後半に入ります。毎回ニュースの内容を確認しながら時事英語に触れ、英語の総合力を鍛えていきます。二回で一つのユニットを終わらせる予定です。

【到達目標】

授業の進め方は春学期と同じです。ニュース映像を通して、リスニング、語彙力、表現力が向上するように予習、復習を怠らず、問題を解いてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

秋学期もオンライン授業の場合には春学期同様オンデマンド方式で授業を進める予定です。授業時間になりましたら、学習支援システムにアップロードされた音声ファイルまたは動画を視聴し、問題を解いてから課題を提出してください。問題は、語彙問題、リスニング、内容理解、要約、作文練習、まとめとなっています。最後のまとめはニュースのトピックに関する意見を書いて提出となりますが、提出物に関しては、お一人ずつ内容を確認して点数をつけて返却します。みなさんのご意見を授業のファイルで紹介することもあります（課題に関しましては変更の可能性もありますので、その都度授業でお知らせします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期の授業について	授業の進め方などの確認をした後で課題となります。
第 2 回	Unit 8 The power of music: using music to help unlock Alzheimer's patients' memories. (記憶を呼び覚ます音楽の力)	Unit の前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解）
第 3 回	Unit 8 The power of music: using music to help unlock Alzheimer's patients' memories. (記憶を呼び覚ます音楽の力)	Unit 前半の答え合わせをし、後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を英語で書く）
第 4 回	Unit 9 A stitch in time: teen turns thrift store finds into trendy clothing for homeless(仕立て直した古着でホームレスを支援する十代の若者)	前回の答え合わせをし、新しい Unit 前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解）
第 5 回	Unit 9 A stitch in time: teen turns thrift store finds into trendy clothing for homeless(仕立て直した古着でホームレスを支援する十代の若者)	Unit 前半の答え合わせをし、後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を英語で書く）
第 6 回	Unit 10 How microfibers in clothes are polluting our oceans (洗濯で排出される超極細繊維による海洋汚染)	前回の答え合わせをし、新しい Unit 前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解）
第 7 回	Unit 10 How microfibers in clothes are polluting our oceans (洗濯で排出される超極細繊維による海洋汚染)	Unit 前半の答え合わせをし、後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を英語で書く）

第 8 回	Unit 11 True meaning of Christmas found in family's magical reunion(思いがけない再会にみるクリスマスの本当の意味)	前回の答え合わせをし、新しい Unit 前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解）
第 9 回	Unit 11 True meaning of Christmas found in family's magical reunion(思いがけない再会にみるクリスマスの本当の意味)	Unit 前半の答え合わせをし、後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を英語で書く）
第 10 回	Unit 12 The joy of cleaning: the life-changing magic of tidying up (世界に広がる人生を変える片づけの極意)	前回の答え合わせをし、新しい Unit 前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解）
第 11 回	Unit 12 The joy of cleaning: the life-changing magic of tidying up (世界に広がる人生を変える片づけの極意)	Unit 前半の答え合わせをし、後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を英語で書く）
第 12 回	Unit 13 High schooler's "sit with us" app tackles lunchtime bullying (高校生が考案した昼食時のいじめをなくすアプリ)	前回の答え合わせをし、新しい Unit 前半の問題を解きます（トピックに関する短い作文、語彙問題、リスニング、内容理解）
第 13 回	Unit 13 High schooler's "sit with us" app tackles lunchtime bullying (高校生が考案した昼食時のいじめをなくすアプリ)	Unit 前半の答え合わせをし、後半の問題を解きます（要約、英作文、トピックに関する意見を英語で書く）
第 14 回	定期試験	定期試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの動画や音声は出版社のホームページからダウンロードできるようになっていますので、予習や復習だけでなく、普段から利用して耳を慣らしましょう。秋学期からの受講の方にはダウンロードの方法につきましては一回目の授業でお知らせします。

本授業の準備・復習時間は、合わせて約 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 4（熊井信弘編、成美堂、2019 年）

【参考書】

授業内で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %（出欠、課題）、試験（50 %）

出欠に関しましては、課題の提出でつけますが、必ず締め切りがありますので注意してください。

5 回欠席がついた場合には単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業では学習支援システムを利用し、ファイルの視聴や課題の提出をしていただきます。

【その他の重要事項】

質問などは掲示板ではなくメールにてお知らせください。ただし、メール受信の時間や内容によっては返信が遅れることもあります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the listening, reading, and writing skills through news.

LANe100EA

Basic English 2 - II 4

市川 由季子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全体の構成に注目して英文を読み、賛否両論を検討し、自身の考えを論理的に述べる。

【到達目標】

英文読解に加え、short essay や summary を書く能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式で配布される資料をもとに学習し、課題を提出する。課題は採点・コメントのあと返却し、次の授業で解答のいくつかを取り上げ、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講上の説明
第2回	Space Exploration ①	テキストの読解を中心とした授業
第3回	Space Exploration ②	議論を中心とした授業
第4回	World Heritage Site ①	テキストの読解を中心とした授業
第5回	World Heritage Site ②	議論を中心とした授業
第6回	中間課題	前半の学習内容の理解を確認する
第7回	Lay-Judge System ①	テキストの読解を中心とした授業
第8回	Lay-Judge System ②	議論を中心とした授業
第9回	Life-prolonging Treatment ①	テキストの読解を中心とした授業
第10回	Life-prolonging Treatment ②	議論を中心とした授業
第11回	Trusting Statistics ①	テキストの読解を中心とした授業
第12回	Trusting Statistics ②	議論を中心とした授業
第13回	期末課題	後半の学習内容の理解を確認する
第14回	Review	秋学期の学習内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 1～2 時間程度を想定している。準備については、学習予定に従ってテキストを読み、単語の意味を確認する。復習ではフィードバックを参考に、返却された課題を復習する。

【テキスト（教科書）】

『Taking Sides: Opinions For or Against』、Mark Jewel、朝日出版社

【参考書】

自主学習用の教材については、オリエンテーションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

参加（課題提出回数）10%＋課題 60%＋期末課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える

【学生が準備すべき機器他】

資料配布と課題提出・返却、連絡はすべて授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

【Outline and objectives】

This course will focus on “critical reading”. The goal is to summarize and discuss what you have read with references to the text.

LANe100EA

Basic English 2 - II 5

市川 由季子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文脈や論理構造に注目してクリティカルに英文を読む。

【到達目標】

英文読解に加え、short essay や summary を書く能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式で配布される資料（解説）をもとにテキストを読み、期日までに課題を提出する。課題は採点・コメントして返却し、次の授業で解答のいくつかを取り上げ、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講上の説明
第2回	Chapter 7 Frozen food	listing paragraph の学習
第3回	Chapter 8 Slow Food	数値を含む表現の学習
第4回	Chapter 9 Fermentation	手順の説明の学習
第5回	Cooking Dinner	音声を使う学習①
第6回	中間課題	前半の学習内容の理解を確認する
第7回	Chapter 10 Taking medicine	前置詞の学習
第8回	Chapter 11 Dieting	提案の表現の学習
第9回	Chapter 12 Collagen	後置修飾の学習
第10回	Doing exercise	音声を使う学習②
第11回	Chapter 13 Water content	対比表現の学習
第12回	Chapter 14 Tea	分類表現の学習
第13回	期末課題	後半の学習内容の理解を確認する
第14回	Review	秋学期の学習内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 1～2 時間程度を想定している。準備については、学習予定に従ってテキストを読み、単語の意味を確認する。復習では解説を参考に、返却された課題を復習する。

【テキスト（教科書）】

『Living Well, Eating Well』、Josh Norman et al.、朝日出版社

【参考書】

自主学習用の教材については、オリエンテーションで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

参加（課題提出回数）10%＋課題 60%＋期末課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

オリエンテーションで伝える

【学生が準備すべき機器他】

資料配布と課題提出・返却、連絡はすべて授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading texts through both skimming for main ideas and scanning for detail. The goal is to summarize and discuss what you have read with references to the text.

LANe100EA

Basic English 2 - II 16

岡村 盛雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English2 ー I の授業を受けて授業を行います。英語の読む能力を中心に、書くと聴く能力をさらに伸ばすことを目指します。

【到達目標】

Basic English 2-I 春学期の到達地点からさらに進むこと。具体的に言えば、教科書の英語ではなく、時間をかければ、普通の原書（定期テストには、教科書とは違う、ふつうの原書から一部問題を出します）を読んで、他人が理解できる日本語に訳せること。また、リスニングにおいては、文の意味もつかめる程度に聞き取れること。ライティングについては同じですが、以上2点が違います

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の形は教室で授業が行える場合は、学生が英文を読んで訳すことが中心です。教師は学生が訳をしたのちにコメントや説明を行う。その後読んだ英文に出てくる表現を使った英作文をし、聞きとり問題もします。授業中に気づいたことを毎時間指摘する形でフィードバックします。

オンラインでの授業になった場合は、教師が先に英文の読解に必要と思われる説明をし、それを参考にして、英文の一部を学生が訳してレポートを提出します。教師は学生の課題レポートを確認して、参考になる学生の訳や回答を 教師による試訳とともに提示することでフィードバックします。また読んだ英文を参考にした英作問題を行うことはオンライン授業でも同様です。単語テストはできないかもしれませんが、毎回 15 問出します。教室で授業が行える時にまとめて試験します。聞き取り問題はオンラインでは行わない予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイ・フォークス祭り
第 2 回	アメリカ映画の男性像	女性という「他者」
第 3 回	アメリカ映画の男性像	足かせとしてのジェンダー 特権としてのジェンダー
第 4 回	アメリカ映画の男性像	1 回目から 3 回目までの英作問題
第 5 回	アメリカ映画の男性像	父権性と男らしさの関係
第 6 回	アメリカ映画の男性像	映画は男らしさはを喧伝する
第 7 回	アメリカ映画の男性像	5 回目と 6 回目の英作問題
第 8 回	男らしさと初期映画	アメリカ社会の変化 男らしさとお金の関係
第 9 回	男らしさと初期映画	男らしさの復権 エジソン映画の男たち
第 10 回	男らしさと初期映画	エドウィン・ポーターの映画とジョン・ウェインの登場
第 11 回	男らしさと初期映画	8 回目から 10 回目までの英作問題
第 12 回	男らしさと男性映画スター	男性映画スターのパラドクス
第 13 回	後期の復習	後期の復習
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキストにある単語のうち知らないものについては、その意味を調べておくこと。

毎回単語の試験を行うので、その準備をしておくこと。

辞書を持参すること。教科書を必ず持ってくること。

また英米の映画を観たり、音楽を聴いたりすることも勉強になると思います。

英語に触れる機会を増やすことが大切です。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

H・M・ベンショフ S・グリフィン『映画の中の男と女』（英宝社、2005 年）
本体価格 1900 円

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）

『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）

その他、必要があれば授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの結果で評価します。試験は、読む、書くを試験します。配分は、読む 60 点、書く 25 点、聞く 15 点です（オンライン試験になった時は、聞き取りを除く 85 点で採点します）。

【学生の意見等からの気づき】

学生に示す訳や説明で入力ミスや変換ミスが多くあって、学生に迷惑をかけたと思うので、それを減らしていきたい。

また Webex をもっと活用したい。

【その他の重要事項】

単語の試験で 6 割以上の成績を取めること、出席を 3 分の 2 以上すること（授業開始後 20 分を過ぎてから来ても出席とはならない）は、単位取得の上で必須条件です。どちらか条件の一つでも満たせない場合、単位取得ができないので、気を付けてください。

試験はかならず受けること、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時は、試験の始まる前までに連絡をすること。無断で受験しなかった場合は不可とします。

以上は教室で授業を行う場合の基準ですが、オンラインでの授業にあった場合は、課題の提出を出席の代わりとするので、課題を出してってください。課題の未提出が 5 回以上になったら不可とします。

試験を受けることは例年と同じく必須です。

【Outline and objectives】

Following Be2-1, this course aims at improving students' basic English abilities further. At the end of the course, students read English texts written for native speakers of English, translate them into good Japanese, and head English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - II 1 3

岡村 盛雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English2 ー I の授業を受けて授業を行います。英語の読む能力を中心に、書くと聴く能力をさらに伸ばすことを目指します。

【到達目標】

Basic English 2- I 春学期の到達地点からさらに進むこと。具体的に言えば、教科書の英語ではなく、時間をかければ、普通の原書（定期テストには、教科書とは違う、ふつうの原書から一部問題を出します）を読んで、他人が理解できる日本語に訳せること。また、リスニングにおいては、文の意味もつかめる程度に聞き取れること。ライティングについては同じですが、以上 2 点が違います

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業の形は教室で授業が行える場合は、学生が英文を読んで訳すことが中心です。教師は学生が訳をしたのちにコメントや説明を行う。その後読んだ英文に出てくる表現を使った英作文をし、聞きとり問題もします。授業中に気づいたことを毎時間指摘する形でフィードバックします。

オンラインでの授業になった場合は、教師が先に英文の読解に必要と思われる説明をし、それを参考にして、英文の一部を学生が訳してレポートを提出します。教師は学生の課題レポートを確認して、参考になる学生の訳や回答を 教師による訳試とともに提示することでフィードバックします。また読んだ英文を参考にした英作問題を行うことはオンライン授業でも同様です。単語テストはできないかもしれませんが、毎回 15 問出します。教室で授業が行える時にまとめて試験します。聞き取り問題はオンラインでは行わない予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイ・フォークス祭り
第 2 回	アメリカ映画の男性像	女性という「他者」
第 3 回	アメリカ映画の男性像	足かせとしてのジェンダー 特権としてのジェンダー
第 4 回	アメリカ映画の男性像	1 回目から 3 回目までの英作問題
第 5 回	アメリカ映画の男性像	父権性と男らしさの関係
第 6 回	アメリカ映画の男性像	映画は男らしさを喧伝する
第 7 回	アメリカ映画の男性像	5 回目と 6 回目の英作問題
第 8 回	男らしさと初期映画	アメリカ社会の変化 男らしさとお金の関係
第 9 回	男らしさと初期映画	男らしさの復権 エジソン映画の男たち
第 10 回	男らしさと初期映画	エドウィン・ポーターの映画とジョン・ウェインの登場
第 11 回	男らしさと初期映画	8 回目から 10 回目までの英作問題
第 12 回	男らしさと男性映画スター	男性映画スターのパラドクス
第 13 回	後期の復習	後期の復習
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に読む予定のテキストにある単語のうち知らないものについては、その意味を調べておくこと。
毎回単語の試験を行うので、その準備をしておくこと。
辞書を持参すること。教科書を必ず持ってくること。
また英米の映画を観たり、音楽を聴いたりすることも勉強になると思います。英語に触れる機会を増やすことが大切です。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

H・M・ベンショフ S・グリフィン『映画の中の男と女』（英宝社、2005 年）本体価格 1900 円

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（研究社）
『ジーニアス英和辞典』（大修館書店）
その他、必要があれば授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの結果で評価します。試験は、読む、書くを試験します。配分は、読む 60 点、書く 25 点、聞く 15 点です（オンライン試験になった時は、聞き取りを除く 85 点で採点します）。

【学生の意見等からの気づき】

学生に示す訳や説明で入力ミスや変換ミスが多くあって、学生に迷惑をかけたと思うので、それを減らしていきたい。

また Webex をもっと活用したい。

【その他の重要事項】

単語の試験で 6 割以上の成績を取めること、出席を 3 分の 2 以上すること（授業開始後 20 分を過ぎてから来ても出席とはならない）は、単位取得の上で必須条件です。どちらか条件の一つでも満たせない場合、単位取得ができないので、気を付けてください。試験はかならず受けること、追試はできる限り避けてください。やむを得ず受験できない時は、試験の始まる前までに連絡をすること。無断で受験しなかった場合は不可とします。以上は教室で授業を行う場合の基準ですが、オンラインでの授業にあった場合は、課題の提出を出席の代わりとするので、課題を出していただきます。課題の未提出が 5 回以上になったら不可とします。試験を受けることは例年と同じく必須です。

【Outline and objectives】

Following Be2-1, this course aims at improving students' basic English abilities further. At the end of the course, students read English texts written for native speakers of English, translate them into good Japanese, and head English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - II 7

高 美智

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外の時事、社会問題、文化など様々なトピックを扱った英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけるとともに、英語の基本的な読解力ならびに語彙力の向上をはかります。また英語プロジェクトを通して英語で自分の意見を表現する練習も行います。

【到達目標】

- － 総合的な英語力の向上。
- － 幅広いトピックを扱った英文を理解できるようになる。
- － 自分の意見や考えを英語で表現できるようになる。
- － 英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 2021年度のBE授業は対面ではなくオンライン。
- 本クラスは基本的には課題・解説配信型のオンデマンド方式。ただし、初回および学期中に数回 ZOOM による授業を行う。
- 毎回の授業で課題を提示し、翌週に講評として詳しい解説・フィードバックを出す。通常課題の個別返却はしないが、英文エッセイなどの課題は個別に添削し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方の説明と自己紹介
第2回	著名人のスピーチ 1	スピーチを視聴後、スピーチ原稿の読解
第3回	著名人のスピーチ 2	スピーチを視聴後、スピーチ原稿の読解
第4回	Japanese society and culture 1	英文記事の音読・読解
第5回	Japanese society and culture 2	英文記事の音読・読解
第6回	English Project: Predicting the best hit product of the year (1)	今年のベストヒットプロダクトを予測する。
第7回	English Project: Predicting the best hit product of the year (2)	予測レポートを英語で書く
第8回	English Project: Predicting the best hit product of the year (3)	プレゼンテーションの準備をする。
第9回	English Project: Predicting the best hit product of the year (4)	プレゼンテーション
第10回	Global issues 1	英文記事の音読・読解
第11回	Global issues 2	英文記事の音読・読解
第12回	True Cost: The Bitter Truth behind Fast Fashion	映画鑑賞とリスニング練習
第13回	True Cost: The Bitter Truth behind Fast Fashion	パラグラフ・ライティングの基礎を学ぶ
第14回	期末試験（課題）・まとめ	期末試験（課題）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示します。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを授業内に配布します。

【参考書】

適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業課題の提出とその内容）30%

宿題30%

期末課題（期末テスト）40%

*学期中、特別な理由なしに欠席が3回を超えた場合は期末試験の受験（=期末課題の提出）を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

進捗状況によっては授業計画を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

The course aims to help students develop their English reading comprehension skills. Through reading various English articles dealing with domestic and international social and political issues, students will be able to build their vocabulary and improve their reading skills. While the course mainly focuses on reading, the students will also have the opportunity to improve English writing through English project.

LANe100EA

Basic English 2 - II 8

高 美智

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外の時事、社会問題、文化など様々なトピックを扱った英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけるとともに、英語の基本的な読解力ならびに語彙力の向上をはかります。また英語プロジェクトを通して英語で自分の意見を表現する練習も行います。

【到達目標】

- ー 総合的な英語力の向上。
- ー 幅広いトピックを扱った英文を理解できるようになる。
- ー 自分の意見や考えを英語で表現できるようになる。
- ー 英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- 2021年度のBE授業は対面ではなくオンライン。
- 本クラスは基本的には課題・解説配信型のオンデマンド方式。ただし、初回および学期中に数回 ZOOM による授業を行う。
- 毎回の授業で課題を提示し、翌週に講評として詳しい解説・フィードバックを出す。通常課題の個別返却はしないが、英文エッセイなどの課題は個別に添削し返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方の説明と自己紹介
第2回	著名人のスピーチ 1	スピーチを視聴後、スピーチ原稿の読解
第3回	著名人のスピーチ 2	スピーチを視聴後、スピーチ原稿の読解
第4回	Japanese society and culture 1	英文記事の音読・読解
第5回	Japanese society and culture 2	英文記事の音読・読解
第6回	English Project: Predicting the best hit product of the year (1)	今年のベストヒットプロダクトを予測する。
第7回	English Project: Predicting the best hit product of the year (2)	予測レポートを英語で書く
第8回	English Project: Predicting the best hit product of the year (3)	プレゼンテーションの準備をする。
第9回	English Project: Predicting the best hit product of the year (4)	プレゼンテーション
第10回	Global issues 1	英文記事の音読・読解
第11回	Global issues 2	英文記事の音読・読解
第12回	True Cost: The Bitter Truth behind Fast Fashion	映画鑑賞とリスニング練習
第13回	True Cost: The Bitter Truth behind Fast Fashion	パラグラフ・ライティングの基礎を学ぶ
第14回	期末試験（課題）・まとめ	期末試験（課題）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示します。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを授業内に配布します。

【参考書】

適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業課題の提出とその内容）30%

宿題 30%

期末課題（期末テスト）40%

*欠席が3回を超えた場合は期末試験の受験（=期末課題の提出）を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

進捗状況によっては授業計画を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

The course aims to help students develop their English reading comprehension skills. Through reading various English articles dealing with domestic and international social and political issues, students will be able to build their vocabulary and improve their reading skills. While the course mainly focuses on reading, the students will also have the opportunity to improve English writing through English project.

LANe100EA

Basic English 2 - II 9

小林 テレサ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The introduction of topics from text. Independent research of topics studied is encouraged.

【到達目標】

Gain an understanding of the value of language as it guides one into another culture. Observation of social, political and cultural movements in the West.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The classes will continue from spring semester. As classes will be online a short video and essay about the summer break will be the first assignment. The following assignments will include reading materials and study of vocabulary from the text and other selected materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductory Exercise	Review of Textbook Units studied from first semester.
2	Exercise I	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
3	Exercise II	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
4	Exercise III	Complete and review Unit. Test oral and written optional.
5	Exercise IV	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
6	Exercise V	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
7	Exercise VI	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
8	Exercise VII	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
9	Exercise VIII	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
10	Exercise IV	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
11	Exercise X	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
12	Exercise XI	Decide Topic for final presentation and Report.
13	Exercise XII	Textbook Review. Preparation for final report and presentation.
14	Exercise XIII	Textbook Review. Preparation for final report and presentation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review readings, research and prepare final reports. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Selected Readings

【参考書】

Textbook "Reading Fusion 2"

【成績評価の方法と基準】

Class Participation 50%, Presentations 25%, Reports 25%

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with an "English speaking only" classroom environment.

【Outline and objectives】

Outline

I. Introduction of Units in Textbook.

II. Analysis of content and vocabulary of reading materials.

III. Writing and Speaking exercises in respect to class studies.

Objectives

I. Introduce cultural and historical information related to topics introduced in text.

II. Improve vocabulary.

III. Improve English reading and speaking skills.

LANe100EA

Basic English 2 - II 10

小林 テレサ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Presentation of ideas and inspiration in English language comprehension skills.

【到達目標】

Gain an understanding of the value of language as it guides one into another culture. Observation of social, political and cultural movements in the West.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

The classes will continue from spring semester. As classes will be online a short video and essay about the summer break will be the first assignment. The following assignments will include reading materials and study of vocabulary from the text and other selected materials.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	First Class	Review of Textbook Units studied from first semester.
2	Exercise I	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
3	Exercise II	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Vocabulary Drills. Use audio PDF or Cd to read full article. Learn pronunciation and vocabulary.
4	Exercise III	Complete and review Unit. Test oral and written optional.
5	Exercise IV	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
6	Exercise V	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
7	Exercise VI	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
8	Exercise VII	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
9	Exercise VIII	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
10	Exercise IV	Textbook Unit study. Listening and Reading Exercises. Use audio PDF or Cd to prepare for reading of full article practice pronunciation, study vocabulary, confirm comprehension.
11	Exercise X	Introduce Textbook Unit. Study vocabulary and reading exercises.
12	Exercise XI	Proposal of topics for final presentation and report.
13	Exercise XII	Discussion and Q/A about topics for final report and presentation.
14	Exercise XIII	Discussion and Q/A about topics for final report and presentation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review readings, research and prepare final reports. 本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

"Reading Fusion 2". Selected Readings

【参考書】

Independent Research on topics covered in textbook. Documentaries, Articles and Essays.

【成績評価の方法と基準】

Class Participation 50%, Presentations 25%, Reports 25%

【学生の意見等からの気づき】

Working with the students on a more personal and sincere level. Help overcome the fear and difficulty students have with an "English speaking only" classroom environment.

【Outline and objectives】

Outline

I. Continue Units in Textbook.

II. Analysis of content and vocabulary of reading materials.

III. Writing and Speaking exercises in respect to class studies.

Objectives

I. Introduce cultural and historical information related to topics introduced in text.

II. Improve vocabulary.

III. Improve English reading and speaking skills.

LANe100EA

Basic English 2 - II 1

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【**再履修向け授業**】英語力が比較的低い学生を主な対象とし、基礎的な英語力の習得に重点を置く。読解、リスニング、音読の練習を中心に行う。

【到達目標】

- ・英語に慣れる。
- ・英文読解のスピード・正確さを向上させる。
- ・リスニング力を向上させる。
- ・英文を自信をもってスムーズに音読できるようになる。
- ・Web上の教材を利用して独学できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

*オンラインで授業を行う。パソコン等の機器とインターネットを安定して使用できる環境が必須

・主な学習パターン：語彙チェック → 英文読解 → リスニング&音読反復練習

- ・授業は Zoom によりリアルタイムで行う。
 - ・資料の配布、quiz・テストの受験、課題の提出などは主に Hoppii 上で行う。一部課題の提出に Google Classroom も併用する。
 - ・課題などへのフィードバックは Hoppii、Google Classroom 上で行う。毎回の授業で質問時間を設ける。
 - ・授業に関する連絡は Hoppii「お知らせ」で行う。定期的に確認すること。
- *詳しくは初回ガイダンスで説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 英文 01	授業の説明、読解、小テスト
第 2 回	英文 01.1	01 の音読、精読。01.1 小テスト。要約練習
第 3 回	英文 02	読解、小テスト。「音読テスト」説明
第 4 回	英文 02.1	02 の音読、精読。02.1 小テスト。「音読テスト」リハーサル
第 5 回	英文 03	読解、小テスト。「音読テスト 1」&「中間テスト」予告
第 6 回	英文 03.1	03 の音読、精読。03.1 小テスト
第 7 回	音読テスト 1 & 中間テスト	第 1 ～ 6 回内容の確認テスト。学習相談
第 8 回	英文 04	読解、小テスト。Web 教材
第 9 回	英文 04.1	04 の音読、精読。04.1 小テスト
第 10 回	英文 05	読解、小テスト。Web 教材。「プレゼンテーション」説明
第 11 回	英文 05.1	05 の音読、精読。05.1 小テスト
第 12 回	英文 06	読解、小テスト。Web 教材。「音読テスト 2」&「学期末テスト」予告
第 13 回	プレゼンテーション	各履修者によるプレゼンテーション
第 14 回	音読テスト 2 & 学期末テスト	全授業内容の確認テスト。学習相談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習、復習
- ・リスニング&音読の反復練習
- ・Web上の教材を利用した自習
- ・1回につき1～2時間程度かかる見込み

【テキスト（教科書）】

- ①教材は Hoppii 上で配布、指示する。
- ②英語辞書（Web上のものではなく一般の学習辞書が望ましい）

【参考書】

・文法参考書：基礎的な文法事項については、高校時代に使った文法書を復習するなどして自習すること。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（Zoom参加、小テストなど）：50%
- ・音読テスト1&2：15%
- ・プレゼンテーション：15%
- ・中間テスト&学期末テスト：20%

【学生の意見等からの気づき】

個々の受講生のニーズに応じてより柔軟な指導を行いたい。学生の要望があれば、追加教材の提案や授業時間外の個別指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの機器及びインターネットを安定して使用できる環境が必須。Hoppii、Zoom、Google Classroom を使用する。

【その他の重要事項】

初回授業のガイダンスに必ず出席すること。授業についてより詳しく説明する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students develop basic English skills, with particular attention paid to their reading and listening comprehension skills and reading aloud.

LANe100EA

Basic English 2 - II 6

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけでなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- 一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- 様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Language and the world (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第3回	Language and the world (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第4回	Population crisis (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第5回	Population crisis (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第6回	The greatest show on earth (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第7回	The greatest show on earth (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第8回	課題の振り返り (前半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	Consumer beware: advertising techniques (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第10回	Consumer beware: advertising techniques (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第11回	For an effective interview (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第12回	For an effective interview (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。 リスニング課題を行う。
第13回	課題の振り返り (後半)	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第14回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでおく必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥ 2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。

平常点および課題 (60%)

期末の課題 (40%)

①授業課題の課題の提出回数が半数以下、または②期末の課題が提出されなかった場合、原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline and objectives】

In this course, students will improve skills for English reading comprehension and for summarizing paragraphs.

LANe100EA

Basic English 2 - II 1 4

東郷 裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、イギリスの小説『嵐が丘』を読み、それに必要な基本的な文法知識と必要な語彙を身に付けます。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英文を通して小説の内容を深く理解するために、必要に応じてグループ・ディスカッションを行います。課題を授業終了時に毎回課しますが、次回授業時には課題の解説と講評を行い、小説への理解を深めていきます。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD は小説を読み進めた箇所まで鑑賞し、その表現方法の違いを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス。	英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
2	Chapter10	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
3	Chapter10-11	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
4	Chapter11	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
5	Chapter11-12	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
6	Chapter12	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
7	Chapter12-13	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
8	Chapter13	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
9	Chapter13-14	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
10	Chapter15	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
11	Chapter16	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
12	Chapter17	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
13	Chapter18	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
14	Chapter10-18	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書は毎回持参のこと。予習は必須です。授業で行うことになっている各 Unit の本文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間と課題への取り組み時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

[Wuthering Heights] (Oxford Bookworms), Emily Bronte, Oxford University Press, 2007, ¥1137(参考価格)

【参考書】

『嵐が丘』, エミリー・ブロンテ, 河島弘美訳, 岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

課題 40%と期末試験 60%の合計 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題への解説と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出等のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - II 15

東郷 裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の読解能力を向上させるために、イギリスの小説『嵐が丘』を読み、それに必要な基本的な文法知識と必要な語彙を身に付けます。

【到達目標】

この授業では二つのことを目標とします。すなわち、1) 語彙を増やし文法知識を身につける。2) 平易な英文を辞書を使いながら読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

英文を通して小説の内容を深く理解するために、必要に応じてグループ・ディスカッションを行います。課題を授業終了時に毎回課しますが、次回授業時には課題の解説と講評を行い、小説への理解を深めていきます。また小説を読むにあたって必要な文化的背景も適宜説明していきます。DVD は小説を読み進めた箇所まで鑑賞し、その表現方法の違いを議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス。	英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
2	Chapter10	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
3	Chapter10-11	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
4	Chapter11	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
5	Chapter11-12	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
6	Chapter12	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
7	Chapter12-13	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
8	Chapter13	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
9	Chapter13-14	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
10	Chapter15	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
11	Chapter16	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
12	Chapter17	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。 DVD 鑑賞
13	Chapter18	課題の講評。英文を読み和訳する。読解に必要な文法知識と単語の確認。
14	Chapter10-18	各 Chapter の本文の内容確認、文法事項の理解と単語の定着の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書は毎回持参のこと。予習は必須です。授業で行うことになっている各 Unit の本文はあらかじめ読んでおき、分からない単語は調べておくこと。また理解できない文章も授業中に解決できるように心がけ、授業終了時には本文すべてが理解できた状態にすること。なお、本授業の準備・復習時間と課題への取り組み時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

[Wuthering Heights] (Oxford Bookworms), Emily Bronte, Oxford University Press, 2007, ¥1137(参考価格)

【参考書】

『嵐が丘』, エミリー・ブロンテ, 河島弘美訳, 岩波文庫

【成績評価の方法と基準】

課題 40%と期末試験 60%の合計 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業評価アンケート結果から、今年度も課題への解説と講評に多少時間を使います。

【学生が準備すべき機器他】

資料や課題の配布、課題提出等のために学習支援システムを使用する場合があります。その場合、パソコンなどの情報機器が必要です。

【Outline and objectives】

In this course students will have a chance to acquire the ability to learn the basic grammar and vocabulary in order to read the simple English sentences.

LANe100EA

Basic English 2 - II 1 7

西田 佳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの社会や文化を扱うテキストを使用し、イギリスについての理解を深めつつ、英語 4 技能の向上を目指す。とくに語彙力と内容解釈に重点を置いて学習する。

【到達目標】

英文を正しく解釈することができる。使用テキストで用いられるレベルの語彙力を身につける。英文をスムーズに音読できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は zoom を用いて行う。毎回課題の提出を求め、次の回ははじめに講評・解説する。テキストにそって授業を進め、適宜発表や発言を求める。クラスの人数や授業の展開によっては、授業を動画配信で行う可能性もあり、また下記授業計画にも若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、Unit7-1	授業の進行とテキストの説明、会話文の音読と解釈
第 2 回	Unit 7-2	湖水地方についての長文の解釈。関係代名詞、関係副詞
第 3 回	Unit 8-1	Unit7 の復習、会話文の音読と解釈
第 4 回	Unit 8-2	ネス湖についての長文の解釈。助動詞
第 5 回	Unit 9-1	Unit 8 の復習、会話文の音読と解釈
第 6 回	Unit 9-2	ゴルフの起源についての長文の解釈。規則動詞と不規則動詞 音読テスト
第 7 回	Unit 10-1	Unit 9 の復習、会話文の音読と解釈
第 8 回	Unit 10-2	ヨークシャーについての長文の解釈。強調構文
第 9 回	Unit 11-1	Unit 10 の復習、会話文の音読と解釈
第 10 回	Unit 11-2	オックスフォード・ケンブリッジ両大学についての長文の解釈。過去分詞の修飾
第 11 回	Unit 12-1	Unit 11 の復習、会話文の音読と解釈
第 12 回	Unit 12-2	英王室についての長文の解釈。since と for
第 13 回	秋学期全体の復習	関連資料を読む。音読テスト
第 14 回	期末テスト	テキストの内容からのテストと、レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習には合わせて 4 時間以上を目安とする。あらかじめテキストを読んで内容を把握しておくこと。提供されている音声ファイルを利用して、音読の練習をする。授業後はテキストを読みかえし、疑問点があれば課題に書き添えて提出する。

【テキスト（教科書）】

Exploring Great Britain『イギリスへ行きたい!』朝日出版社 ISBN978-4-255-15426-8 (春学期と同じ)

【参考書】

参考書はとくに指定しないが、読んでほしい資料や見てほしい動画などを、授業内で適宜伝える。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 20 %
平常点 20 %
音読テスト 20 %
期末テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

初回授業で伝える

【学生が準備すべき機器他】

zoom で授業に参加できる環境

【Outline and objectives】

Improve four skills of English using a textbook dealing with the British society and culture, focusing on reading and comprehension.

LANe100EA

Basic English 2 - II 1 8

西田 佳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの社会や文化を扱うテキストを使用し、イギリスについての理解を深めつつ、英語 4 技能の向上を目指す。とくに語彙力と内容解釈に重点を置いて学習する。

【到達目標】

英文を正しく解釈することができる。使用テキストで用いられるレベルの語彙力を身につける。英文をスムーズに音読できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は zoom を用いて行う。毎回課題の提出を求め、次の回ははじめに講評・解説する。テキストにそって授業を進め、適宜発表や発言を求める。クラスの人数や授業の展開によっては、授業を動画配信で行う可能性もあり、また下記授業計画にも若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、Unit7-1	授業の進行とテキストの説明、会話文の音読と解釈
第 2 回	Unit 7-2	湖水地方についての長文の解釈。関係代名詞、関係副詞
第 3 回	Unit 8-1	Unit7 の復習、会話文の音読と解釈
第 4 回	Unit 8-2	ネス湖についての長文の解釈。助動詞
第 5 回	Unit 9-1	Unit 8 の復習、会話文の音読と解釈
第 6 回	Unit 9-2	ゴルフの起源についての長文の解釈。規則動詞と不規則動詞 音読テスト
第 7 回	Unit 10-1	Unit 9 の復習、会話文の音読と解釈
第 8 回	Unit 10-2	ヨークシャーについての長文の解釈。強調構文
第 9 回	Unit 11-1	Unit 10 の復習、会話文の音読と解釈
第 10 回	Unit 11-2	オックスフォード・ケンブリッジ両大学についての長文の解釈。過去分詞の修飾
第 11 回	Unit 12-1	Unit 11 の復習、会話文の音読と解釈
第 12 回	Unit 12-2	英王室についての長文の解釈。since と for
第 13 回	秋学期全体の復習	関連資料を読む。音読テスト
第 14 回	期末テスト	テキストの内容からのテストと、レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習には合わせて 4 時間以上を目安とする。あらかじめテキストを読んで内容を把握しておくこと。提供されている音声ファイルを利用して、音読の練習をする。授業後はテキストを読みかえし、疑問点があれば課題に書き添えて提出する。

【テキスト（教科書）】

Exploring Great Britain『イギリスへ行きたい!』朝日出版社 ISBN978-4-255-15426-8 (春学期と同じ)

【参考書】

参考書はとくに指定しないが、読んでほしい資料や見てほしい動画などを、授業内で適宜伝える。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 20 %
平常点 20 %
音読テスト 20 %
期末テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

初回授業で伝える

【学生が準備すべき機器他】

zoom で授業に参加できる環境

【Outline and objectives】

Improve four skills of English using a textbook dealing with the British society and culture, focusing on reading and comprehension.

LANe100EA

Basic English 2 - II 1 2

広川 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

- (1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習 (listening) を行う。
- (2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味 (reading) を考える。
- (3) 映画のセリフを画面に合わせて話す (speaking) 練習をする。
- (4) 映画、舞台の動画を配信、YouTube などを見て、レポート (writing) にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP
についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン（課題提示、提出など）での開講となる。対面授業再開
の場合は、それにもなう各回の授業計画の変更を学習支援システム
でその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン
授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオン
デマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第 3 回	洋楽 (1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 4 回	洋楽 (2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 5 回	洋楽 (3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 6 回	映画 (1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 7 回	映画 (2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 8 回	映画 (3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 9 回	映画 (4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 10 回	映画 (5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 11 回	映画 (6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 12 回	映画 (7)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 13 回	映画 (8)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 14 回	まとめと解説	提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間
は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回の課題・宿題 = 60 %
- ・3 回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境

自習、レポート準備の際に、YouTube や映画配信等でセリフを
聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が
必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性
がある。Zoom は使用しない。

2. 動画配信サービス (アマゾンプライム、U-NEXT、Netflix 等)

レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要に
なる場合がある。

3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環
境 (wi-fi)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配して
おく。

4. 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD (また
はブルーレイ) プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータ
ブル DVD(再生画面付のもの、平均¥5,000 程度) を準備し、DVD
は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、または販売店、アマゾン
などから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談
する。

【その他の重要事項】

・質問は 24 時間受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があり
ます。質問方法については、初回の授業で説明します。
対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システム
で授業方法・内容の変更点などを説明します。

【Outline and objectives】

I've been strong advocates for the benefits of acting through
films for a long time as it's one of the active ways for Japanese
students to learn English. Feelings, emotions and moods are
indispensable for reading aloud. These practices will lead you
to master the appropriate way to read texts.You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing
better than watching the scene repeatedly on the DVD or the
internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 2 - II 19

広川 治

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画・演劇・音楽をテーマとし、

- (1) 映画のセリフや洋楽の歌詞を聞き取る練習 (listening) を行う。
- (2) 映画のセリフや洋楽の歌詞の意味 (reading) を考える。
- (3) 映画のセリフを画面に合わせて話す (speaking) 練習をする。
- (4) 映画、舞台の動画を配信、YouTube などを見て、レポート (writing) にまとめる。

【到達目標】

映画、演劇、音楽を題材にして英語に慣れ親しみ、文化的視野を広げることが目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン（課題提示、提出など）での開講となる。対面授業再開の場合は、それともなう各回の授業計画の変更を学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的にはオンデマンド型の課題提出を中心とした方法が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明。
第 2 回	レポート対象作品の解説	映画、演劇の紹介、解説。
第 3 回	洋楽 (1)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 4 回	洋楽 (2)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 5 回	洋楽 (3)	洋楽の歌詞をテキストにしたリスニング、リーディング。
第 6 回	映画 (1)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 7 回	映画 (2)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 8 回	映画 (3)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 9 回	映画 (4)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 10 回	映画 (5)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 11 回	映画 (6)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 12 回	映画 (7)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 13 回	映画 (8)	映画のシナリオを教材とした内容。
第 14 回	まとめと解説	提出されたレポートの紹介など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出のための準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布。

【参考書】

授業内にて紹介、解説。

【成績評価の方法と基準】

- ・ 毎回の課題・宿題 = 60 %
- ・ 3 回提出のレポート課題 = 40 %

【学生の意見等からの気づき】

質問等の連絡に対する対応に、より迅速に対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学習環境

自習、レポート準備の際に、YouTube や映画配信等でセリフを聞きながら、配布教材の穴埋め、書き取り等の作業ができる環境が必要。スマートフォンのみでパソコンがないと学習しにくい可能性がある。Zoom は使用しない。

2. 動画配信サービス（アマゾンプライム、U-NEXT、Netflix 等）

レポートによっては動画配信サービスの会員登録と視聴が必要になる場合がある。

3. 通信環境

課題、レポート等で、動画を数多く見ることになるので、通信環境 (wi-fi)、通信量を他の授業分も含めて対応できるように手配しておく。

4. 通信環境、通信量 (料金) に問題がある場合

通信環境などで困難が予想される場合は、テレビと DVD（またはブルーレイ）プレイヤーを活用する。自宅にない場合は、ポータブル DVD(再生画面付のもの、平均¥5,000 程度)を準備し、DVD は TSUTAYA DISCUS の宅配レンタル、または販売店、アマゾンなどから購入する。それでも特別な困難がある場合は、個別に相談する。

【その他の重要事項】

・ 質問は 24 時間受け付けますが、回答は翌日以降になる場合があります。質問方法については、初回の授業で説明します。

対面授業が可能になった場合については、改めて学習支援システムで授業方法・内容の変更点などを説明します。

【Outline and objectives】

I've been strong advocates for the benefits of acting through films for a long time as it's one of the active ways for Japanese students to learn English. Feelings, emotions and moods are indispensable for reading aloud. These practices will lead you to master the appropriate way to read texts.

You need to listen, listen, listen and imitate. There's nothing better than watching the scene repeatedly on the DVD or the internet. Acting is re-acting.

LANe100EA

Basic English 2 - II 2 4

深松 亮太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を用いて、読解力と内容要約力・考察力の向上を目指す。

【到達目標】

- (1) まとまりのある英語の文章を理解できるようになる。
- (2) 英訳した文章を適切に日本語で要約できるようになる。
- (3) 日ごろのニュースを通じて、社会的な問題について考察する態度が身に付く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。尚、他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対応する。本授業は、課題配布を中心とする。課題に対するフィードバックは、個別に対応することを基本とし、学生からの質問はメールや Hoppii の掲示板を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、課題の提出方法、注意事項などについて解説する。
2	新聞講読 (1)	英字新聞の記事を読み、要約する。
3	新聞講読 (2)	英字新聞の記事を読み、要約する。
4	新聞講読 (3)	英字新聞の記事を読み、要約する。
5	新聞講読 (4)	英字新聞の記事を読み、要約する。
6	新聞講読 (5)	英字新聞の記事を読み、要約する。
7	新聞講読 (6)	英字新聞の記事を読み、要約する。
8	新聞講読 (7)	英字新聞の記事を読み、要約する。
9	新聞講読 (8)	英字新聞の記事を読み、要約する。
10	新聞講読 (9)	インタビュー記事を読み、要約する。
11	新聞講読 (10)	英字新聞の記事を読み、要約する。
12	英文講読 (1)	アカデミックな内容の文章を読解する。
13	英文講読 (2)	アカデミックな内容の文章を読解する。
14	期末レポート（授業の総括を含む）	レポートの詳細は授業内で説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞講読・英文講読の回には、課された課題に関するレポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。（対面での授業に移行された際には再度検討する）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

毎回課される課題の提出（100%）。締め切りを過ぎた課題は受け取らない。評価は以下の配点で採点する。
第 2 回から第 13 回の課題（各最高 5 点、合計 60 点）、期末レポート最高 20 点、相対評価点 20 点。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のレベルに配慮した授業を心がける必要性を感じたが、何よりもシラバスをしっかりと読み、レベル等を理解した上で履修登録をしてほしい。

【その他の重要事項】

他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対処する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire reading skill through the Daily News.

LANe100EA

Basic English 2 - II 2 3

深松 亮太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を用いて、読解力と内容要約力・考察力の向上を目指す。

【到達目標】

- (1) まとまりのある英語の文章を理解できるようになる。
- (2) 英訳した文章を適切に日本語で要約できるようになる。
- (3) 日ごろのニュースを通じて、社会的な問題について考察する態度が身に付く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。尚、他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対応する。本授業は、課題配布を中心とする。課題に対するフィードバックは、個別に対応することを基本とし、学生からの質問はメールや Hoppii の掲示板を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、課題の提出方法、注意事項などについて解説する。
2	新聞講読 (1)	英字新聞の記事を読み、要約する。
3	新聞講読 (2)	英字新聞の記事を読み、要約する。
4	新聞講読 (3)	英字新聞の記事を読み、要約する。
5	新聞講読 (4)	英字新聞の記事を読み、要約する。
6	新聞講読 (5)	英字新聞の記事を読み、要約する。
7	新聞講読 (6)	英字新聞の記事を読み、要約する。
8	新聞講読 (7)	英字新聞の記事を読み、要約する。
9	新聞講読 (8)	英字新聞の記事を読み、要約する。
10	新聞講読 (9)	インタビュー記事を読み、要約する。
11	新聞講読 (10)	英字新聞の記事を読み、要約する。
12	英文講読 (1)	アカデミックな内容の文章を読解する。
13	英文講読 (2)	アカデミックな内容の文章を読解する。
14	期末レポート（授業の総括を含む）	レポートの詳細は授業内で説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞講読・英文講読の回には、課された課題に関するレポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。（対面での授業に移行された際には再度検討する）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

毎回課される課題の提出（100%）。締め切りを過ぎた課題は受け取らない。評価は以下の配点で採点する。
第 2 回から第 13 回の課題（各最高 5 点、合計 60 点）、期末レポート最高 20 点、相対評価点 20 点。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のレベルに配慮した授業を心がける必要性を感じたが、何よりもシラバスをしっかりと読み、レベル等を理解した上で履修登録をしてほしい。

【その他の重要事項】

他人のレポートの盗用（剽窃）については、厳しく対処する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire reading skill through the Daily News.

LANe100EA

Basic English 2 - II 20

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 2-I までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoom を用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、

「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 3a	Is technology the answer?
2	Workbook 3a	No magic answer
3	Unit 3b	Just press "print"
4	Workbook 3b	Smart technology
5	Unit 3c	Appropriate technology
6	Workbook 3c	The simplest ideas are the best
7	Unit 4a	Reverse graffiti
8	Workbook 4a	Is graffiti art?
9	Unit 4b	All about Melbourne
10	Workbook 4b	What's on in London?
11	Unit 4c	Why do we need music?
12	Unit 5b	The Kerala model
13	Unit 5c	The teenage mind
14	Unit 6a	Staycations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書：Life (Second Edition) 5A Combo Split

著者：Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社：Cengage Learning

出版年：2019

価格：2,860 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2eAmeApp/level-5><http://www.bbc.co.uk/radio><http://www.npr.org/>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10 回提出)

期末試験に準じる課題:40% (4 回提出)

平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等) 学期中、4 回以上授業を無断欠席した場合、あるいは、4 回以上課題未提出の場合は、原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、テキストの内容を補足するためのプリントに費やす時間がやや多かったので、「せっかく買った教科書をもっと読みたかった」という学生からの指摘もあったので、この点を改善することに努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 2 - II 2 1

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Basic English 2-I までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業前半は、Zoom を用いてリアルタイムでオンライン授業を行います。後半は、

「学習支援システム」を用いて「授業内課題」に取り組みます。

授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。また、授業の初めに、前回の課題について講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 3a	Is technology the answer?
2	Workbook 3a	No magic answer
3	Unit 3b	Just press "print"
4	Workbook 3b	Smart technology
5	Unit 3c	Appropriate technology
6	Workbook 3c	The simplest ideas are the best
7	Unit 4a	Reverse graffiti
8	Workbook 4a	Is graffiti art?
9	Unit 4b	All about Melbourne
10	Workbook 4b	What's on in London?
11	Unit 4c	Why do we need music?
12	Unit 5b	The Kerala model
13	Unit 5c	The teenage mind
14	Unit 6a	Staycations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書：Life (Second Edition) 5A Combo Split
著者：Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社：Cengage Learning
出版年：2019
価格：2,860 円

【参考書】

<https://eltngl.com/sites/Life2eAmeApp/level-5>

<http://www.bbc.co.uk/radio>

<http://www.npr.org/>

【成績評価の方法と基準】

授業内課題:40% (10 回提出)

期末試験に準じる課題:40% (4 回提出)

平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等) 学期中、4 回以上授業を無断欠席した場合、あるいは、4 回以上課題未提出の場合は、原則として単位は認められません。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「集中して学習することができた」「意識高く講義を行ってくれた」「英語学習に対する意欲が湧く授業であった」といったコメントがある一方で、「近寄り難い」「プレッシャーが強すぎる」という意見もありました。今年度は、快適な緊張感が流れる学習環境を作ることができるよう工夫するつもりです。また、テキストの内容を補足するためのプリントに費やす時間がやや多かったので、「せっかく買った教科書をもっと読みたかった」という学生からの指摘もあったので、この点を改善することに努めます。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to enhance the students' reading and listening skills. By the end of the course, they will have become more active and independent learners of English and will be able to find suitable learning materials for themselves. In order to reach this goal, in class, students will read a lot, listen a lot and think a lot. Also, depending on the nature of the text and the purpose of its reading, students will read quickly or attentively. It will allow students to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbook is a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To beat this kind of stress, they have only to come to class well prepared (self-study is vital!), so they will get the most out of the textbook. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. In other words, they are 'mentally present' in the classroom.

LANe100EA

Basic English 2 - II 2 2

堀 いづみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：1 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文の新聞記事を読みます。様々な分野の英文記事に触れることにより、読解力と情報をより多角的に捉える力がさらに向上します。

【到達目標】

時事英語の読み方に慣れることと、馴染みのある言葉に対しても新しい文脈の中でより深い意味を発見していくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・教科書の内容に沿った文章を配信する形で進めます。
- ・毎回、課題を提出することになりますが、フィードバックは次の授業の中で行います。
- ・学期末に、期末試験に相当する「期末課題」を提出することになります。
- ・授業展開によっては、進度、内容に若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Chapter 8	Chapter 8 の導入と精読
2	犯罪・事件	Chapter 8 の精読
3	Introduction to Chapter 9	Chapter 9 の導入と精読
4	裁判・法令	Chapter 9 の精読
5	Introduction to Chapter 10	Chapter 10 の導入と精読
6	地球環境	Chapter 10 の精読
7	Introduction to Chapter 11	Chapter 11 の導入と精読
8	気象・災害	Chapter 11 の精読
9	Introduction to Chapter 12	Chapter 12 の導入と精読
10	人口・労働問題	Chapter12 の精読
11	Introduction to Chapter 13	Chapter 13 の導入と精読
12	テクノロジー	Chapter13 の精読
13	Introduction to Chapter 14	Chapter 14 の導入と精読
14	スポーツ	Chapter14 の精読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業前に予め記事を読みましょう。
- ・配信された授業を参考に音読をしましょう。ダウンロード可能な音声のシャドウイングも試してみましょう。
- ・毎回出題される課題を提出しましょう。
- （本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間が目安となります。）

【テキスト（教科書）】

・English for Mass Communication・2021 Edition（堀江洋文、他 編著・朝日出版社・2021 年）1700 円＋税

【参考書】

京大・学術語彙データベース 基本英単語 1110（京都大学英語学術語彙研究グループ＋研究社 著・研究社・2009 年）1400 円＋税

【成績評価の方法と基準】

・毎回の課題提出の積み重ねが 50 %、学期末の「期末課題」が 50 % という比率で評価します。（どちらの課題も「到達目標」である英文記事の文脈理解が問われるものです。）

【学生の意見等からの気づき】

解説は丁寧に（対面授業を想像しながら）行います。

【Outline and objectives】

In this course, you will read and read out various types of articles on many different topics so that you can grow your reading comprehension. You will enrich your understanding of stories around the world and around you.

LAW200EA

法と社会

白田 秀彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における法の機能について概観したあと、歴史をたどりながら、社会の状況と法がどのようにかわりあい、現在のような法の姿となったのかを解説する。また、受講生にとって身近であり、社会変動の影響を強く受けた、家族制度を例として具体例を提示する。

【到達目標】

現代社会における法の実際の機能について考察して、多面的な理解を得ることを目的とする。また、常識を疑う問題意識を獲得してほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

広い意味での法の発展史をまとめたプレゼンテーションを使いながら、その当時の事例や学説を紹介し、それが現在の法のあり方をどのように導いたのかを解説する。新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面講義とほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	法の現実的機能	社会において現実に法が果たしている機能について。
2	法の歴史的遷移 その 1 日本法の基盤	現在の法制度が形成されるまでの歴史を法制史・社会史から解説する。明治期に現行法が導入された経緯や思考様式について。
3	その 2 支配権力なき紛争解決	法が前提としている「権力」が制度的に存在していない状態での紛争解決法について。
4	その 3 古代ローマ法	西洋法の基礎を形成している古代ローマ法について。
5	その 4 古代ローマの法学	古代ローマ共和政期に成立した法学の状況について。また、現代まで続く普遍的な思考法について。
6	その 5 中世初期の部族法	古代ローマを継いだゲルマン諸部族において行われた紛争解決法や法について。
7	その 6 ローマ法の再発見	ルネサンス期に再発見されたローマ法の遺産が、現代の法の基盤として再構成される様子について。
8	その 7 教会の法と世俗の法	1 市民生活に強い影響力を及ぼしていた教会法について。また、世俗の法との違いを法理や管轄の面から。
9	その 8 絶対王政下の法と法律	絶対王政下の法の様子を解説。また、この時期生じた「法」概念の変化について。
10	その 9 自然法という切り札	絶対王政の問題点を克服するために、法の歴史に通底してきた基本的思想が理論化・制度化されていく様子について。
11	その 10 大法典時代と法	現在一般的な「法典」が形成されていく過程について。また、法典形成を支えた法学・法理論について。
12	家族と結婚の制度 1	家族制度を素材として、現行法が依拠している社会状況について解説する。
13	家族と結婚の制度 2	現在の家族制度が形成されてきた歴史的背景について、主として西洋法制史・文化史から解説する。
14	家族と結婚の制度 3	現在の家族制度が形成されてきた歴史的背景について、主として日本法制史・文化史から解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指定された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。講義内容を整理した小冊子を準備する。頒布方法については、この講義の Google Classroom にて説明する予定である。

【参考書】

参考書は適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、各セクションごとに適宜課す小論文の合算点によって行う。すなわち、各小論文を 10 段階評価し、期末にその素点を合算する。最高得点をとった学生の素点を 100 点と換算し、以下全員の素点を換算する。このとき 60 点未満の学生は単位を落とすことになる。また、小論文等において剽窃（コピペ）を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力する。

【Outline and objectives】

Firstly, we will overview functions of law in the modern society. Then students will be given an explanation of how social circumstances and laws have interacted each other ending up with a form of law which we see these days, while tracing back history.

LAW100EA

法学

清水 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①市民として知識を備えておくべき基本的な法である刑法、民法、労働法の、趣旨と基本内容を学ぶ。②刑法、民法、労働法の現実社会での適用の仕組みを学ぶ。

【到達目標】

①刑法の基礎知識の修得を通じて、公正かつ適切に判断する基本知識を得る。②民法の基礎知識の修得を通じて、権利と義務の関係、自由と責任について法的にとらえる力を得る。③労働法の基礎知識の修得を通じて、少子高齢問題や社会保障財源不足問題を抱える現代の社会の中で働く際の法的根拠を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義。①レジュメを学習支援システムにアップします。PDF 版とワード版を同時にアップしますので使いやすい方を利用してください。②同時に、各頁に対応する音声ファイルを、M4 a と m p 3 の形で同じものをアップします。これも使いやすい方を利用してください。③授業時間内に掲示板を設け、随時質問を受け付けます。④毎回「リアクションペーパー」があります。掲示板に書きにくい内容や考えたことなどはこの「リアクションペーパー」に記入してください。適時、返答を教材コーナーにフィードバックします。⑤また、成績評価としての各テストを、各テスト終了ごとに統計とともにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要の説明。刑法の役割	全体の流れと学び方。罪とは刑罰とは何か。
第 2 回	刑法の基本原則	罪刑法定主義
第 3 回	刑法の適用①	犯罪の構成要件
第 4 回	刑法の適用②	違法性阻却事由、責任阻却事由、故意
第 5 回	民法の役割と 3 原則	過失責任主義と私的自治の原則と所有権絶対の原則
第 6 回	民法の 3 原則の例外①	PL 法、時効
第 7 回	民法の 3 原則の例外②	制限行為能力者
第 8 回	家族関係と法	婚姻、夫婦、扶養
第 9 回	財産関係と法①	契約の成立と意思表示
第 10 回	労働法①	労働法の意義と労働条件の決定
第 11 回	労働法②	労働契約の成立まで
第 12 回	労働法③	労働時間
第 13 回	労働法④	賃金、休憩、休日
第 14 回	試験。まとめと解説	学び残したこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

<準備学習> 翌週範囲や参考資料を前週に示すので、大まかな理解を独自にしておく。準備学習 2 時間。

<復習> 小テストに備え制度や根拠法を復習し自分なりにまとめ、理解を確認する。復習 2 時間

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

末川博、伊藤正巳、碧海純一先生等、どなたのでもよいので、「法学」の入門書を薦めます。

【成績評価の方法と基準】

①各回の内容についての、1 問程度の授業内ミニテスト。計 10 回以上を予定しています。20%

②各領域の各テーマごとの、授業内小テスト。選択、穴埋め問題計 3 回。50%

③各領域の各テーマごとの、授業内記述問題テスト。こちらは計 2 回以上を予定しています。30%

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい言葉で、ゆっくり伝えるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

受信環境

【その他の重要事項】

- ①疑問点は、遠慮なく、授業内に掲示板で質問してください。時間内に返答し
たい質問に対しては、「お知らせ」上で回答します。
②成績評価は、テストのみです。範囲が広く、進度が早いので復習すること
が苦にならない人、テストの提出を怠らない人の受講を希望します。
③各テストを提出し忘れると、単位取得が困難になります。

【Outline and objectives】

- ① You learn the basic knowledge of criminal law,civil law,labour law,of
basic law which should have knowledge as citizen. ② You learn the
mechanism of practical application of criminal law,civil law, labor law.

LAW100EA

法学（日本国憲法）

清水 弥生

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①日本国憲法は誰に対し何を定め、どのように国家をコントロールしているのかという基本知識を包括的に学ぶ。②基本的人権の保障と民主主義という観点から、統計などの諸資料を通じ、社会事情の変化や社会通念の変化を学ぶ。そしてそれらが最高裁判例にどのように映り込んできたかを学ぶ。

【到達目標】

- ①各テーマごとに、憲法の基本的な法的性質をひとに説明することができる。
②各テーマごとに、憲法の現代における課題をひとに説明することができる。
③広い視野から現代の社会について主体的に考察するための、少しでも高いレベルの基礎知識を得ている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義。①レジュメを学習支援システムにアップします。PDF 版とワード版を同時にアップしますので使いやすい方を利用してください。②同時に、各頁に対応する音声ファイルを、M4 a とmp 3 の形で同じものをアップします。これも使いやすい方を利用してください。③授業時間内に掲示板を設け、随時質問を受け付けます。④毎回「リアクションペーパー」があります。掲示板に書きにくい内容や考えたことなどはこの「リアクションペーパー」に記入してください。適時、返答を教材コーナーにフィードバックします。⑤また、成績評価としての各テストを、各テスト終了ごとに統計とともにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要の説明。憲法とはなにか。	憲法の特徴。
第 2 回	憲法の構造	権力分立と法の支配について。
第 3 回	国会・内閣・裁判所	三権と裁判所の権能。
第 4 回	国民主権と象徴天皇制	主権と国民主権。天皇
第 5 回	基本的人権の及ぶ範囲	人権と外国人（マクリン事件）
第 6 回	基本的人権の適用関係	憲法の私人間適用（三菱樹脂事件等）
第 7 回	平等とは何か	絶対的平等と相対的平等。実質的平等と形式的平等。
第 8 回	日本国憲法と平等	（夫婦別姓事件）（生後認知子国籍法事件）
第 9 回	13 条と新しい人権	13 条と幸福追求権
第 10 回	13 条と新しい人権	13 条と人格権
第 11 回	表現の自由	今日的意義。事前抑制と検閲の禁止。
第 12 回	表現の自由	名誉棄損、プライバシー侵害。「宴のあと」事件
第 13 回	平和主義	9 条の歴史的背景と意味。平和主義と国際協調主義。
第 14 回	試験。まとめと解説	学び残したこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

<準備学習> 2 時間①翌週範囲や判例等の参考資料を前週に示すので、社会背景等の大まかな理解を独自しておく。

<復習> 2 時間①事件や判例について、背後にある制度や根拠法を復習し、判例の意義を自分なりにまとめ、理解を再構築する。②小テストに備える

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

学びの助けとして、できれば芦部信喜、伊藤正巳、末川博先生など「憲法」関連著作。

【成績評価の方法と基準】

①各回の内容についての、1 問程度の授業内ミニテスト。計 10 回以上を予定しています。20%

②各領域の各テーマごとの、授業内小テスト。選択、穴埋め問題計 3 回。50%

③各領域の各テーマごとの、授業内記述問題小テスト。こちらは計 2 回以上を予定しています。30%

【学生の意見等からの気づき】

なるべくわかりやすい言葉を用いるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

受信環境

【その他の重要事項】

- ①疑問点は、遠慮なく、授業内に掲示板で質問してください。時間内に返答しづらい質問に対しては、「お知らせ」上で回答します。
 ②成績評価は、テストのみです。範囲が広く、進度が早いので復習することが苦にならない人、テストの提出を怠らない人の受講を希望します。
 ③各テストを提出し忘れると、単位取得が困難になります。

【Outline and objectives】

① You learn comprehensively the basic knowledge of the Japanese Constitution. You learn how the Japanese Constitution controls the state. ② From the viewpoint of fundamental human rights security and democracy, you learn changes in social circumstances and changes in social wisdom through materials such as statistics. And you learn how it affected the Supreme Court precedent

MAN300ED

マーケティング実践

諸上 茂光

サブタイトル：ソーシャル・シミュレーション

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競争力のある商品開発や、訴求力のある広告活動を行うためには、消費者心理に関する理論的な基礎と、妥当性の高いアンケート調査やその分析の遂行に基づいたマーケティング戦略の立案が重要である。そのため、本授業では、実際のマーケティング課題を題材に、同一モジュールですでに履修した「消費者行動論」における消費者の心理の理解と「消費者行動モデリング」で習得した消費者の分析技法を駆使し、実践的なマーケティング戦略の構築を行う。

【到達目標】

消費者心理の理論と分析技法に基づいた、マーケティング戦略の企画と発表を行えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP12に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

実際の商品開発やブランディング等の課題を題材に、消費者心理や行動に関する理論や各種データ、シミュレーション手法などを使用し、グループワークによりマーケティング戦略を構築し、発表を行う。中間報告や最終報告に対し、講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	実習内容の説明、グルーピング等
2.	マーケティング戦略の立案1	市場分析・ポジショニング分析
3.	マーケティング戦略の立案2	ニーズの把握
4.	課題のキックオフ	取り組む課題と制約条件の確認、質疑応答（キックオフミーティング）
5.	課題の分解	課題の客観的な分析
6.	戦略の構築活動1	課題の分析（現状分析）
7.	戦略の構築活動2	ゴールの設定
8.	調査1	ヒアリング調査・アンケート調査の実施
9.	調査2	調査結果の分析
10.	中間報告会	各グループ活動の中間報告と質疑応答
11.	課題解決活動1	中間報告での質疑応答を受けた戦略の再検討
12.	課題解決活動2	データの分析と効果考察
13.	課題解決活動3	提案資料の作成
14.	最終発表	構築した課題解決の戦略について発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外にも、実地調査や分析など、進度によってグループワークの時間を一部確保する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

必要に応じて適宜プリント配布を行う。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

実践活動における平常点（60%）と最終発表（40%）による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

多様なバックボーンを持った学生が主体的に参加できるようにグループワークを取り入れている。

【Outline and objectives】

To develop the students' skill in making marketing strategy.

ECN200EB, ECN200ED

マクロ経済学

北浦 康嗣

サブタイトル：マクロ経済学 I

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、マクロ経済学上の問題について概観することです。とくに、国民所得の決定や雇用（失業）について学びます。また、財政政策や金融政策など政府の役割についても議論します。

【到達目標】

- (1) 日常の経済問題について経済学的な発想ができる。
- (2) 簡単な数値計算によって均衡国民所得や政府支出増大の効果などが導出できる。
- (3) 45 度線分析を用いて財政政策の有効性を議論できる。
- (4) IS-LM 分析を用いて、財政政策と金融政策の効果を議論できる。
- (5) AD-AS 分析を用いて、失業、インフレ・デフレについて説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半では、とくに国民所得の概念を中心として財市場の分析を行います。財政政策の有効性について議論します。後半、財市場と貨幣市場を同時に分析して財政政策と金融政策の効果を確認します。さらに労働市場に注目して総需要曲線と総供給曲線を用いた分析を行います。

2021 年度はオンライン授業の実施に伴い、変更の可能性があります。変更内容は学習支援システムで提示します。必ず、毎回、Hoppii を確認するように心がけてください。

授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、ミクロ経済学とマクロ経済学の違い	経済学の発想法を紹介します。
2	GDP	GDP について解説します。
3	三面等価の原則	三面等価の原則について解説します。
4	消費の決定	財市場における需要の構成項目として大事な消費について解説します。
5	投資の決定	財市場における需要の構成項目として大事な投資について解説します。
6	財市場の分析— IS 曲線の導出	財市場の需要と供給を等しくさせる国民所得と利率の関係を示す IS 曲線を導出します。
7	貨幣市場	貨幣市場の需要と供給を取り上げ、利率の決定を解説します。
8	貨幣市場の分析— LM 曲線の導出	貨幣市場の需要と供給を等しくさせる国民所得と利率の関係を示す LM 曲線を導出します。

9	IS-LM 分析	IS 曲線と LM 曲線を用いて、均衡国民所得と均衡利率を導出します。
10	中間試験	計算問題中心の試験を行います。
11	IS-LM 分析と財政・金融政策	財政政策の効果について IS-LM 曲線を用いて図解します。
12	労働市場	労働市場の均衡について古典派とケインズ派を解説します。
13	物価水準の決定— 総需要と総供給（1）	総需要曲線と呼ばれる AD 曲線を定義した後、導出します。
14	物価水準の決定— 総需要と総供給（2）	総供給曲線と呼ばれる AS 曲線を定義した後、導出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくに前提となる専門知識は必要ありませんが毎回復習を心がけてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2 回の試験（中間試験 50 %、期末試験 50 %、両方受験すること。）で評価します。試験に関しては、Hoppii 上でお知らせします。必ず、毎回、Hoppii を確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline and objectives】

The objective of the course is to provide the students with the overview of macroeconomic issues: the determination of output, employment, unemployment, interest rates. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) how the aggregate levels of production, employment, income and prices are determined in a market driven global economy;
- (2) the role of fiscal and monetary policy.

SOC200ED

マス・コミュニケーション論

加藤 徹郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マス・コミュニケーションにおける理論的解釈の変遷を解説しながら、それを応用した現代的課題についても考察を加える。

【到達目標】

マス・コミュニケーション理論を単に学説史として把握するのではなく、現代のメディア現象をとらえる視座を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

それぞれのマス・コミュニケーション研究を紹介を通じ、その社会的背景や現代にもつなげる課題を考えていく。

※ 授業内容は変更する場合があります。

※ フィードバックは、授業冒頭で前回授業のリアクション・ペーパーに返答する形で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業内容・履修方法などの確認
第2回	メディア史概説	マス・メディアの発達史を概説する。
第3回	弾丸効果モデル	マス・メディアの効果が強調されるケースの解説。
第4回	限定効果モデル	マス・メディアの効果への懐疑が問われるケースの解説。
第5回	中範囲の理論	議題設定理論や世論の構築過程などの解説。
第6回	メディアイベント論	マス・メディアの効果の見直しについて解説。
第7回	デジタルメディア論	デジタル時代の新たなメディア論についての解説。
第8回	強力効果論の捉えなおし①	沈黙のらせんと第三者効果。
第9回	強力効果論の捉えなおし②	培養理論の解説。
第10回	カルチュラル・スタディーズ①	エンコーディング／デコーディングモデルの解説。
第11回	カルチュラル・スタディーズ②	物語論を基礎にした映画・ドラマなどの分析手法について。
第12回	カルチュラル・スタディーズ③	物語論を基礎にしたバラエティ番組などの分析手法について。
第13回	普及過程論①	情報の社会的浸透過程の考察。
第14回	普及過程論②	量的調査によるメディアコンテンツへの接近。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習時間は、それぞれ1時間程度とします。授業内容をもとに、常日頃から自分の「情報行動」について「絶えず問い直す」ようにしてください。理解が深まるはずですが。

【テキスト（教科書）】

使用しません（授業中、適宜指示します）。

【参考書】

毎回、授業プリントに参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

大教室の授業ですが、なるべく双方向で意見を言い合える講義環境にしたいと考えます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of general knowledge of mass media.

ECN200EB, ECN200ED

ミクロ経済学

北浦 康嗣

サブタイトル：ミクロ経済学 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) ミクロ経済学の基礎的な概念・理論についてグラフを活用して学ぶ。

(2) 一般均衡分析の枠組みで需要と供給、資源配分について理解を深める。

(3) 「計算問題が苦手だ」という学生に対しても経済学が理解できる。

【到達目標】

(1) 身近な問題を取り扱う際にミクロ経済学的な考え方ができる。

(2) ミクロ経済学の重要な基礎用語を正しく説明できる。

(3) 数値計算によって効用最大化問題が解ける。

(4) 一般均衡の枠組みで効率性・公平性について議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

トレードオフや機会費用といった経済学的な発想にはじまり、価格の果たす役割に注目しながら、需要と供給や市場均衡、資源配分について理解を深めます。

2021年度はオンライン授業の実施に伴い、変更の可能性があります。変更内容は学習支援システムで提示します。変更内容は学習支援システムで提示します。必ず、毎回、Hoppiiを確認するように心がけてください。

授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、部分均衡と一般均衡の違い	経済学の発想法を紹介します。（機会費用、比較優位など）
2	経済学で必要な数学の復習	効用最大化問題を解くために必要な数学の復習を行います。
3	家計の行動（1）	効用最大化問題について解説します。
4	家計の行動（2）	予算制約式について図解します。
5	家計の行動（3）	効用について図解します。
6	家計の行動（4）	無差別曲線について図解します。
7	家計の行動（5）	最適消費点について図解します。
8	中間試験	効用最大化問題に関する試験を行います。
9	所得効果	所得効果について図解します。
10	価格効果	価格効果について図解します。
11	厚生経済学の定理	効率性・公平性について議論します。
12	純粋交換経済（1）	純粋交換経済について説明します。
13	純粋交換経済（2）	純粋交換経済について図解します。
14	純粋交換経済（3）	純粋交換経済で、厚生経済学の定理を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくに前提となる専門知識は必要ありませんが毎回復習を心がけてください。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

宮澤 和俊, 焼田 党 [2019] 「財政学(ライブラリ今日の経済学 12)」新世社 ¥2,750

【成績評価の方法と基準】

2回の試験(中間試験50%, 期末試験50%, 両方受験すること。)で評価します。試験に関しては, Hoppii 上でお知らせします。必ず, 毎回, Hoppii を確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して, 今年度も板書中心の授業を行います。

【Outline and objectives】

The objective of the course is to provide the students with the basic understanding and tools of microeconomics. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) the basic concepts of scarcity and opportunity cost;
- (2) the forces of demand and supply and how they interact to determine an equilibrium price;
- (3) the theory of consumer behavior.

LAW200EB

民法（財産法）

松田 佳久

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「財産」に関する民法の基本的な制度を理解する

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる（レベルC）
2. 民法の基本的な制度を理解できる（レベルB）
3. 社会に生起するさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルA）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち, DP1・DP5・DP6に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンドでの受講となります。

学習支援システムの「教材」に授業ビデオ、参考図、判例等をUPしておきますので、教材等を印刷し、ビデオを視聴してください。

わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問をしてください（担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

民法は昨年（2020年）4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	所有権と占有権 1	物権の客体、物権の本質、物権の効力、所有権の性質と効力
2	所有権と占有権 2	相隣関係、所有権の特別な取得原因、占有権の成立と態様、占有権の効力
3	債権の回収と債権の確保 1	債権回収の基本原則、責任財産の保全（債権者代位権）
4	債権の回収と債権の確保 2	詐害行為取消権
5	責任財産の拡大による債権の担保	連帯債務、保証債務
6	優先弁済権による債権の担保 1	担保物権の基本原則、抵当権
7	優先弁済権による債権の担保 2	非典型担保
8	物の貸借契約 1 物の貸借契約 2	総説、賃貸借契約（基本的な法律関係） 賃貸借関係（賃貸借の効力、第三者との関係、当事者の変更、賃借権の譲渡・転貸、賃貸借契約の終了）
9	物の貸借契約 3	借地借家法（借地関係、借家関係）
10	他人の労務を目的とする契約 1	総説、雇用契約、請負契約
11	他人の労務を目的とする契約 2	委任契約
12	法律の規定に基づいて生ずる債権 1	総説、事務管理
13	法律の規定に基づいて生ずる債権 2	不当利得
14	法律の規定に基づいて生ずる債権 3	一般的不法行為
14	法律の規定に基づいて生ずる債権 4	特殊的不法行為

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○テキストに事前に目を通してから授業ビデオを視聴し、授業後に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著「新・コンダクト民法」（嵯峨野書院、2020年）

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人『民法判例百選Ⅰ総則・物権』（有斐閣、第8版、2020年）
2. 窪田充見＝森田宏樹『民法判例百選Ⅱ債権』（有斐閣、第8版、2020年）

【成績評価の方法と基準】

民法の財産法（物権法・債権法）に関する基本的な知識の修得ができ、関連する裁判例や法解釈について理解できたかにつき、定期試験の結果によって100%評価する。

定期試験は授業支援システムの「レポート」に問題を提示し、添付の解答用紙で所定の期間内に解答し、「レポート」に提出します。

民法は昨年（2020年）4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っている場合でもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には14回の授業ビデオをきちんと視聴する必要があります。

わからないところがありましたら、いつでも担当教員のメールアドレスにメールで質問をしてください（担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの「教材」に授業ビデオ、参考図、判例等をUPしておきますので、参考図等を印刷し、videoを視聴できるパソコン等が必要です。

【その他の重要事項】

○本科目を履修するためには、春学期に「民法（総則）」を履修しておくことが望ましい。

○授業ビデオの視聴にはあたっては小六法を準備しておくこと。

○民法は昨年（2020年）4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っている場合でもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】

常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline and objectives】

Understand the basic system of the Civil Code relating to "property"

LAW200EB

民法（総則）

松田 佳久

サブタイトル：民法（入門）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法を通じて私たちの生活する社会の基本的な法制度を理解する

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる（レベルC）
2. 民法の基本的な制度を理解できる（レベルB）
3. 社会に生起するさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルA）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンデマンドでの受講となります。

学習支援システムの「教材」に授業ビデオ、参考図、判例等をUPしておきますので、教材を印刷し、ビデオを視聴してください。

わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメールアドレス： yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

民法は昨年（2020年）4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っている場合でもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	民法典とその構成	民法典、民法典の構成、物権と債権、
2	売買契約の有効な成立1	契約の成立要件
3	売買契約の有効な成立2	契約の有効要件
4	売買契約の有効な成立3	無効原因 取消しと無効
5	売買契約の有効な成立4	代理
6	売買契約の有効な成立5	無権代理 条件と期限
7	売主の義務と買主の義務1	物の引渡し
8	売主の義務と買主の義務2	代金の支払い
9	売主の義務と買主の義務3	購入資金の借入れ
10	売主の義務と買主の義務4	債権関係の終了
11	売主の義務と買主の義務5	現実的履行の強制
12	売主の義務と買主の義務6	損害賠償請求 契約の解除
13	売買契約による所有権の移転1	物権変動の基本原則
14	売買契約による所有権の移転2	動産取引における公示の原則と公信の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○テキストに事前に目を通してから授業を視聴すること

○視聴後に各自で内容を復習すること

○学習した内容を踏まえて社会を法的な視点から眺めてみる。

○本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『新・コンダクト民法』（嵯峨野書院、2020年）

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ総則・物権』（有斐閣、第8版、2018年）

2. 窪田充見＝森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ債権』（有斐閣、第8版、2018年）

【成績評価の方法と基準】

民法の全体的なイメージを把握するとともに基本的な制度を理解できたかどうかにつき定期試験の結果によって判断する。

定期試験結果が100%。

民法は昨年（2020年）4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使っている場合でもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には14回の講義ビデオをきちんと視聴することが必要です。わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの「教材」に講義ビデオ、参考図、判例等をUPしますので、参考図等を印刷でき、ビデオを視聴できるパソコン等が必要になります。

【その他の重要事項】

○秋学期の「民法（財産法）」を履修するためには、本科目を修得していることが望ましい。

○授業視聴には小六法を必ず準備すること。

○民法は昨年（2020年）4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】

常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline and objectives】

Understand the basic legal system of the society in which we live through civil law.

SOC100ED

メディア研究法入門A

土橋 臣吾

サブタイトル：メディア社会学入門A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア研究における質的調査の様々な方法について、その概略を学びます。指定教科書の理解と、授業内で紹介する研究事例の理解を経て、独自の調査企画の立案を行います。

【到達目標】

メディアのコンテンツやユーザーを質的に分析することの重要性と面白さを理解し、独自の視点から質的調査の企画を立案できるようになることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で、教科書の解説、および教科書の各章で扱われる質的調査の方法に基づいた研究事例の解説を行います。ただし、授業の終盤ではグループワークを取り入れて展開します。

・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

・授業の形式（対面/オンライン）については、学習支援システムで周知します。

・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要
2	質的調査とは何か	質的調査の面白さと難しさについて
3	観察法	観察法の解説と研究事例の紹介
4	参与観察	参与観察の解説と研究事例の紹介
5	インタビュー法	インタビュー法の解説と研究事例の紹介
6	ライフストーリー法	ライフストーリー法の解説と研究事例の紹介
7	雑誌分析法	雑誌分析法の解説と研究事例の紹介
8	文化資料分析法	文化資料分析法の解説と研究事例の紹介
9	映像分析法	映像分析法の解説と研究事例の紹介
10	生活財生態学	生活財生態学法の解説と研究事例の紹介
11	調査企画課題ガイダンス	学期末課題の説明
12	調査のアイデア出し	オーディエンス調査・ユーザー調査のアイデア出し
13	調査のアイデア出し	コンテンツ分析・モノ調査のアイデア出し
14	調査倫理について	調査倫理について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で扱う教科書の該当章を通読した上で授業に臨んでください。また、復習として、授業内で研究事例として紹介する論文を実際に読んでみて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

工藤保則・寺岡伸悟・宮垣元編, 2016, 『質的調査の方法：都市・文化・メディアの感じ方』法律文化社

【参考書】

授業内で、各調査手法の研究事例を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートによって評価を行う（100%）。ただし、授業内で採用されたリアクション・ペーパーを書いた受講者には特別点を加算する。

【学生の意見等からの気づき】

担当が初年度につきありません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。大学付与のメールアドレスを使用し授業支援システムからのメールを受信できるようにしておくこと。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of qualitative media research.

SOC100ED

メディア研究法入門B

宇野 齊

サブタイトル：メディア社会学入門B

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 量的調査データの分析を学びます。2 グループ実習で量的調査を体験します。

【到達目標】

1 調査プロセスの体験。2 数量データの基本的分析に必要な知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業とグループ実習を折り返して進めます。随時レポート提出、発表と評価があります。

毎回学習支援システムへのコメント記入があります。記入された内容に随時返信でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンスと課題設定	進め方と課題説明、グループテーマ設定、先行研究調査の開始。
02	表・グラフを読む	表・グラフ表現を適切に考察するプロセスを学びます。
03	テーマと先行研究調査分析の発表	テーマに対応する先行調査研究をグループごとに発表します。
04	数値を読む	分析に必要な尺度、時間、単位、集計やグラフ表現を学びます。
05	調査の企画と作成	仮説内容と設問内容の発表と具体的な調査作成説明をします。
06	調査票の作成	各グループで仮説に則した調査票を作成します。
07	調査票の確認	各グループの調査票の内容、構造を発表し確認します。
08	調査の実施とデータ分析準備	調査に相互回答し、調査データを得ます。必要な変換をし、分析を始めます。
09	調査の分析・考察1	調査での設問ごとの単純集計から分析考察します。
10	調査の分析・考察2	調査での設問間のクロス集計から分析考察します。
11	調査結果の記述	分析考察から、仮説に対応した結果の記述、確認を行います。
12	調査レポートの作成	調査企画作成実施内容を順次記述し、レポート作成を始します。
13	まとめ発表1	調査の分析結果をグループ発表します。相互評価します。
14	まとめ発表2	調査の分析結果をグループ発表します。相互評価します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ作業での先行研究の調査・分析、調査企画、作成、実施、集計、分析、レポート作成、プレゼン資料作成、発表が設定されます。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。必要に応じて追加の作業時間が生じます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

轟、杉野編(2017)『入門・社会調査法【第3版】』法律文化社

その他は必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常コメント点 28%、グループレポート相互評価 20%、グループプレゼン相互評価 14%、グループ内相互評価 14%、期末試験 24%。

【学生の意見等からの気づき】

不明点はすみやかに質問しましょう。

大学提供の MS-Office 最新版を利用して下さい。

グループ内での作業負担が偏らないようにグループ内でサブグループを作って対応し、サブグループ内とサブグループ間で協働してください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。その中で大学付メールアドレスを登録し、受信対応設定して下さい。その他必要なインターネットサービスも利用します。

学内での授業や作業でPCを利用したい人は持参または多摩情報センターからの貸出等を利用してください。

【その他の重要事項】

授業計画は授業展開により若干変更があり得ます。

対面開講でない場合はリアルタイム・オンラインで実施します。

基礎演習クラス単位でのグループ作業への参加は必須です。

春学期開講コンピュータ入門の内容を相互に確認理解し利用が必要です。

なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行）履修して下さい。

【Outline and objectives】

1: Learn to analyze quantitative survey data. 2: Experience quantitative research in groups.

FRI300ED

メディアコンテンツ分析

西田 善行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「メディアコンテンツ論」で解説した方法論を使い、映像論、計量言語分析、言説分析によりメディア・コンテンツを分析する受講生の力を養います。

【到達目標】

映像論、計量言語分析、言説分析によりメディア・コンテンツを分析することができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP12 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教員が課題を提示し、受講生が報告するアクティブ・ラーニング方式で行います。授業の前半は、映像論などからテレビ番組や CM などのメディア・コンテンツを、後半は、計量言語分析、言説分析により様々なメディア・コンテンツを受講生自ら分析してもらいます。受講生相互に報告を評価してもらいます。フィードバックとして、授業時の中間報告やコメントに対するリプライに加えて、毎回の課題とレポートについて、いくつかの提出課題とレポートを授業時に紹介し、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進行について	授業内容の説明
第 2 回	映像の技巧と意味（復習）①	構図、カメラワーク（テキスト 1 章 2 章）
第 3 回	映像の技巧と意味（復習）②	編集、語り（テキスト 3 章 5 章）
第 4 回	中間課題の提示①	コンテンツ分析とストーリーマッピングの仕方
第 5 回	映像分析の実際（復習）	構造主義的分析、ジェンダー批評（テキスト 9 章 12 章）
第 6 回	受講生の報告①	分析結果の報告
第 7 回	受講生の報告②	分析結果の報告
第 8 回	言説分析とは（復習）	言説分析の原理を知る
第 9 回	計量言語分析とは（復習）	計量言語分析の原理を知る
第 10 回	中間課題の提示②	計量言語分析、言説分析の応用課題
第 11 回	受講生の報告③	分析結果の報告
第 12 回	受講生の報告④	分析結果の報告
第 13 回	最終課題の提示	最終レポートの作成方法
第 14 回	メディアコンテンツの意義	実務などへの応用を知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。毎回、テキストの読むべき章ないし課題提示を行いますので、必ず取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

末吉美喜（2019）『テキストマイニング入門 Excel と KH Coder でわかるデータ分析』オーム社、2500 円＋税

【参考書】

マイケル・ライアン、メリッサ・レノス（2014）『Film Analysis-映画分析入門』田畑暁生訳、フィルムアート社、2400 円＋税
これは「メディアコンテンツ論」のテキストです。その他授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間に 2 回各 2000 字程度、学期末に 1 回 4000 字程度のメディアコンテンツを分析したレポートを提出してもらいます。ただし授業時の課題を 3 回以上提出していることがレポート評価の要件となります。

①レポート（3 回）＝ 80 % ②毎回の課題＝ 20 % による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

計量言語分析のツールとして、KH Coder を使います。Windows は無料ですが、Mac の場合は、導入費用（3,980 円）がかかります。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of media contents research.

SOC200ED

メディアコンテンツ論

西田 善行

サブタイトル：コミュニケーション論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の前半は、映像論を軸に映画などのメディア・コンテンツを分析します。後半は、計量言語分析、言説分析について論じます。

【到達目標】

受講者自らが、映像分析および計量言語分析でメディアコンテンツを分析する方法論を理解できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業の前半では映画を中心に映像の技巧と意味について考えていきます。授業の最後に課題にあたる映像を繰り返しお見せします。また後半では言説分析や計量言語分析の方法を解説した後に、受講者自らが選んだテキストで、これらの方法論を使って、分析を試みてもらいます。フィードバックとして、毎回の課題やレポート課題について、いくつかの提出課題とレポートを授業時に紹介し、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	映像における意味（授業ガイダンス）	授業全体で行う内容の説明とテキスト序章解説
2	映像の技巧と意味①	構図について（テキスト 1 章）
3	映像の技巧と意味②	カメラワークについて（テキスト 2 章）
4	映像の技巧と意味③	編集について（テキスト 3 章）
5	映像の技巧と意味④	語りについて（テキスト 5 章）
6	物語分析の応用	コンテンツ分析とストーリーマッピングの仕方
7	映像分析の実際①	歴史的分析（テキスト 8 章）
8	映像分析の実際②	構造主義的分析（テキスト 9 章）
9	言説分析とは	言説分析の原理を知る
10	言説分析の応用	言説分析を応用した成果を知る
11	計量言語分析とは	計量言語分析の原理を知る
12	計量言語分析の応用①	計量言語分析を応用した成果を知る
13	計量言語分析の応用②	言説分析を応用した成果を知る
14	メディアコンテンツへの視点	メディアコンテンツへの分析方法をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業時に授業内容に即した課題を出します。毎回授業支援システムを通じて課題を提出してください。

【テキスト（教科書）】

マイケル・ライアン、メリッサ・レノス（2014）『Film Analysis-映画分析入門』田畑暁生訳、フィルムアート社、2400 円＋税

【参考書】

末吉美喜（2019）『テキストマイニング入門 Excel と KH Coder でわかるデータ分析』オーム社、2500 円＋税

これは「メディアコンテンツ分析」のテキストです。その他授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間と学期末に 2 回 3000 字程度（最低でも 2000 字）の授業で学習した内容を用いてメディアコンテンツを分析したレポートを提出してもらいます。ただし授業時の課題を 3 回以上提出していることがレポート評価の要件となります。

①レポート（2 回）＝ 80 % ③毎回の課題＝ 20 % による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業プリントは、授業支援システムによって配布します。また毎回の課題の提出も授業支援システムで行います。受講する学生は、2 回目の授業までには必ずこの科目の「自己登録」を完了しておいてください。

【その他の重要事項】

この授業では、授業後にみなさんに授業内容に即した課題を出します。毎回期限までに授業支援システムを通じて課題を提出してください。また、授業の妨げになる私語は厳禁とします。私語は見つけ次第退場とします。授業ではリアクションペーパーは配布しませんので、質問・注文などがあれば、授業終了時に直接受け付けます。

【Outline and objectives】

Students will learn about the image and discourse theory.

SOC200EC, SOC200ED

メディア社会学基礎A

土橋 臣吾

サブタイトル：音楽社会学

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポピュラー音楽を議論の対象としながらメディア社会学の基礎を学ぶことが目的です。音楽に関する身近な事例の分析を通じて、様々な文化実践をメディア社会学的に捉えるための視点を獲得していきます。

【到達目標】

ポピュラー音楽に関するメディア社会学的な分析に触れることで、メディアと文化に関する社会的視点を身につけることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP11 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、授業の全体を「マスメディアと音楽」「デジタルメディアと音楽」「参加のメディアと音楽」「生成のメディアと音楽」の4セクションに分け、それぞれのセクションの初回で重要な理論や概念について学び、その上で、事例の分析を行います。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更がありえます。

・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

・授業の形式（対面/オンライン）については、学習支援システムで周知します。

・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の概要
2	マスメディアと音楽 1	マスメディアと共同体
3	マスメディアと音楽 2	テレビと音楽
4	マスメディアと音楽 3	音楽雑誌という文化装置
5	個人化するメディアと音楽 1	デジタルメディアと個人化
6	個人化するメディアと音楽 2	音楽配信とストーリーミング
7	個人化するメディアと音楽 3	調査から見るリスナーの姿
8	参加のメディアと音楽 1	ソーシャルメディアと現場
9	参加のメディアと音楽 2	フェスの隆盛とライブ文化の変容
10	参加のメディアと音楽 3	ソーシャルメディアとファンダム
11	生成のメディアと音楽 1	インターネットの生成力
12	生成のメディアと音楽 2	ボーカロイドと N 次創作
13	生成のメディアと音楽 3	ネットに生まれる新しいシーン
14	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した文献や記事についてはできる限り目を通してください。また具体的なウェブサービスなどを事例に取り上げることがあるので、授業と並行としてそれぞれのサービスを利用し、その特徴を把握しておくことと理解が深まると思います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で多数紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートによって評価を行う（100%）。ただし、授業内で採用されたリアクション・ペーパーを書いた受講者には特別点を加算する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的事例をできるだけ多く取り上げて議論を展開する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムもしくは Google Classroom を利用します。Google Classroom を使う場合は、使い方を授業支援システムでお知らせします。

【Outline and objectives】

To acquire the basic perspectives of current media studies, we will learn the changing relationship between media technology and popular music.

SOC200EC, SOC200ED

メディア社会学基礎B

稲増 龍夫

サブタイトル：特講（メディア社会学基礎）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像メディアの制作・情報発信の基礎となる技術を取得し、送り手の立場からメディアの総体を理解することを目指します。受け身の授業ではない、ワークショップ形式の「アクティブラーニング」を目指します。

【到達目標】

個人やグループで企画し、スマホやビデオカメラを使って撮影し、PCを使って編集作業をおこないます。さらには YouTube からの情報発信をおこなう映像制作技術を習得します。その過程を通して、実践的にコンテンツ制作の実相を体得してもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP11に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半の数回は実践の基礎となる理論枠組みを講義し、後半の数回は、現代メディア論の実践課題について全員参加で議論してもらいます。さらに講義後半で、数人のグループに分かれ、相互自己紹介ビデオを制作してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の概要説明
2	映像コミュニケーションの歴史と特色	映像の基礎理論と機能の解題
3	メディア実践の基礎(1)	企画する
4	メディア実践の基礎(2)	撮影する
5	メディア実践の基礎(3)	編集する
6	メディア実践の基礎(4)	デジタルする
7	メディア実践の基礎(5)	プロデュースする
8	映像課題ガイダンス	制作オリエンテーション
9	現代メディア課題議論(1)	自粛警察問題
10	現代メディア課題議論(2)	テラスハウス問題
11	現代メディア課題議論(3)	クラウド問題
12	現代メディア課題議論(4)	Youtuber 問題
13	相互自己紹介ビデオ発表-1	上映と講評
14	相互自己紹介ビデオ発表-2	上映と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ、映画、ネットなどの最新映像コンテンツに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。なお、課題制作にかかる時間が別途必要になります。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業時間内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）+ 課題作品制作・上映（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

座学ではない、実践的授業を目指します。よって、授業時間外の活動も多くなるので、課題作品を制作するためには相応の負担を覚悟してください。映像コンテンツ関係への進路を希望している学生にとっては必須の基礎スキルを学ぶのと同時に、映像制作を通して、自分自身を見つめ直し、これからの大学生活へのビジョンを構築してもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホはほぼ所有していると思うので、そのカメラ機能は必須です。ビデオカメラ・三脚・ライト・マイクや編集用のパソコンは社会学部の映像実習室を利用できるので、個人で用意する必要はありません。

【Outline and objectives】

Introduction to Practical Study of Video Production

LAW200EC, LAW200ED

メディア社会学基礎C

白田 秀彰

サブタイトル：情報・メディア関係法 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報が社会の様々な場面において重要になっている。この情報は、今後もさらに進んでいくものと予測される。こうしたなか、これまで法律学のテーマとしては直接的に取り扱われなかった「情報」に関する一定の法領域が形成されてきた。こうした「情報法」として括られる領域には、複数の法領域が少しずつ関係しており、範囲が広いものとなっている。また、論者によって対象としている領域に差があるのも事実である。このため本講義では、基本的な視点から「情報」と「法」のかかわりについて解説する。

【到達目標】

「法」が「情報」をどのように取り扱ってきたのかという歴史を理解すること。加えて情報社会の現状を把握し、現在から将来へ向かって「法」がどのように変化するか見通せることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP11 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目を受講したのちに秋学期の「メディア法」を履修することが望ましい。新型コロナウイルス状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面講義とほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報法の現在	「情報法」という学問領域は何を問題としているのか。情報法という領域の成立史と現状について紹介する。
2	情報と社会	法律学とかかわる情報概念について検討する。また、文明史と未来学の見解をもとに、現在の社会とこれからの社会について検討する。
3	情報化社会とこれから	文明史と未来学の見解をもとに、現在の社会とこれからの社会について検討する。
4	情報技術 / 法と経済学 1	コンピュータやネットワークの動作原理を説明する。また、それらの技術がもつ法的意味について説明する。
5	情報技術 / 法と経済学 2	経済学の考え方を法律学に応用する手法について紹介する
6	ネットワークと刑事法 1	犯罪白書でのネットワーク関連犯罪の取り上げ方およびマスコミでのネットワーク関連犯罪の取り上げ方を検討。
7	ネットワークと刑事法 2	ネットワーク世界での法執行について概観する。
8	言論表現の自由 1	言論規制と言論の自由の歴史。情報化が言論の自由に寄与するために、いかにあるべきか。
9	言論表現の自由 2	議会制民主主義政体における言論表現の自由の重要性について解説。
10	言論表現の自由 3	情報技術の発展にともない基礎条件がどのように変化しつつあるか。
11	秘密の保護 1	伝統的な秘密の概念および近年までの法律における秘密の定義や取扱いに関する解説。
12	秘密の保護 2	情報社会への移行にともない、法律における秘密の定義や取扱いがどのように変化したのかの解説。
13	情報公開/公文書管理 1	情報公開制度の理念、沿革、先行国の制度について解説したうえで、情報公開制度について概観する。
14	情報公開/公文書管理 2	公文書管理制度の理念、沿革、先行国の制度について解説したうえで、公文書管理制度について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『情報法テキスト』講義中の配布物や出席票をまとめたもの。入手方法は Google Classroom にて案内する。

【参考書】

Google Classroom のストリームにて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、各セクションごとに適宜課す小論文の合算点によって行う。すなわち、各小論文を 10 段階評価し、期末にその素点を合算する。最高得点をとった学生の素点を 100 点と換算し、以下全員の素点を換算する。このとき 60 点未満の学生は単位を落とすことになる。

また、小論文等において剽窃（コピペ）を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【Outline and objectives】

Information has played an important role in numerous social circumstances. This development of a computer network is estimated to make much progress. In such circumstance, an area of law that deals with information, which has long been ignored, has been formed in some degree. Such area so-called "information law" relates with multiple areas of law, therefore it has a wide spectrum. Therefore it is true that advocates' points of view differ from each others'. For these reasons, this subject focuses on explaining relationship between information and law from basic perspective.

SOC100ED

メディア社会入門 I

津田 正太郎

サブタイトル：メディア社会論 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「メディア社会」とは何か、それを学ぶために知っておくべき基礎概念について説明したのち、国家や政治とメディアとの関わりを中心に解説を行う。

【到達目標】

この授業の目標は、受講者がメディアの役割をより幅広い視点から理解できるようにすることに加えて、自らの手で分析、研究を行うための方法論を学ぶことにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義という形態をとる。ただし、毎回の授業終了後に Google フォームによって質問を受け付け、次回の授業の冒頭で時間を割いて解説を行うことで、受講者の理解をより促進するよう心がけたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「メディア社会」について考えることの意味	授業全体のイントロダクション
第 2 回	メディアと「現実危機」	「現実」とは何か、メディアといかなる関係にあるのかを考える
第 3 回	近代国家の形成と情報通信ネットワークの発達	国家とは何か、国家と情報ネットワークはどのような関係にあるのかを考える
第 4 回	国民共同体の形成過程におけるメディアの役割	国民共同体の形成においてメディアがどのような役割を果たしてきたのかを考える
第 5 回	ナショナル・アイデンティティの構築とメディア	日常生活において当たり前のものとしてナショナリズムが再生産される過程を考える
第 6 回	ナショナリズムの「日常化」とメディア	日常生活において当たり前のものとしてナショナリズムが再生産される過程を考える
第 7 回	戦争プロパガンダとメディア（前編）	戦争時にメディアが国内でどのような役割を担うのかを考える
第 8 回	戦争プロパガンダとメディア（後編）	戦争時の対外的宣伝のためにメディアが果たす役割について考える
第 9 回	メディアは資本主義といかに結びついてきたのか（前編）	資本主義の発達過程においてメディアが果たしてきた役割について考える
第 10 回	メディアは資本主義といかに結びついてきたのか（後編）	消費を促進する手段としてのメディアとその社会的文脈について考える
第 11 回	変容する都市空間とメディア（前編）	都市とメディアはいかなる関係にあるのかを考える
第 12 回	変容する都市空間とメディア（後編）	東京の歴史的な発展過程を踏まえながら、メディアによる空間の意味づけについて考える
第 13 回	開発途上国とメディア	開発途上国の発展にとってメディアはいかなる役割を果たしうると考える
第 14 回	グローバル化とメディア	国境を越えるメディア流通とそれが社会にもたらす影響について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書や講義で紹介した書籍などを読んでおくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

津田正太郎（2016）『メディアは社会を変えるのか メディア社会論入門』世界思想社。

【参考書】

講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中に実施するテスト（30%）と学期末に提出するレポート（70%）の合計で決定する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の疑問点を解消するべく、Google フォームなどを活用してインタラクティブな授業運営を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

家庭内からインターネットに接続できる環境であることが望ましい。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to explain the basic concepts for learning 'mediated-society'.

SOC100ED

メディア社会入門Ⅱ

藤代 裕之

サブタイトル：特講（メディア社会入門）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ジャーナリズム、広告、ネットなど、多様な「メディアによる社会の課題解決」の方法を学びます。

【到達目標】

メディアによる社会の課題解決の方法を知り、自らの関心に基づいた解決方法を考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半はフェイクニュースを中心に情報生態系の構造を学び、後半はメディアによる社会課題解決の事例を紹介する。リアクションペーパーなどを紹介し、フィードバックを行う。前半は教科書の予習を前提に進め、後半では自らの問題意識に基づき事例を調査してもらい、質疑や議論を行います。なお、授業計画については、展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明
第 2 回	構造	メディア環境の現在地
第 3 回	構造	フェイクニュース問題とその定義
第 4 回	構造	フェイクニュースの生成と拡散
第 5 回	構造	ファクトチェックの取り組みと課題
第 6 回	構造	情報生態系の汚染とメディア・リテラシー
第 7 回	中間まとめ	振り返り
第 8 回	事例	ジャーナリズムによる社会課題の解決事例
第 9 回	事例	広告による社会課題の解決事例
第 10 回	事例	ネットによる社会課題の解決事例
第 11 回	事例	クリエイティブによる社会課題の解決事例
第 12 回	リサーチ	問題意識を表現したメディアを調査する
第 13 回	企画立案	メディアによる課題解決方法を考える
第 14 回	まとめ	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の問題意識を明確にするために、日々の新聞やテレビの報道番組やドキュメンタリーを見るようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤代裕之（2021 刊行予定）『フェイクニュースの生態系（仮）』青弓社 秋学期開始時には生協等で購入できるようにします

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、平常点 50%。平常点は、授業中の発言や質問、リアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。ポスターセッションの準備も大学のパソコン等を利用して進めることが可能です。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ずガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。授業中の私語は退場とします。

【Outline and objectives】

In this course, students will explore ways to provide solutions to challenges faced by our society through the media.

FRI200ED

メディアテクノロジーと社会

橋爪 絢子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーの発展と、それに伴う社会における課題について考えます。また、それらの諸課題を解決するための設計の基礎として、ユーザ中心設計の基本概念と考え方について学びます。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の基本概念と設計プロセスにおける各活動の理解
- (2) メディアテクノロジーの発展に伴う社会における諸課題の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

以下のテーマについて、主に講義形式で授業を行います。内容の理解を深めるために、適宜グループワーク等を入れたり、ゲストを招聘したりします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干変更する場合があります。前回までに提出されたアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザとインタフェース	ユーザの多様性
3	ユーザとインタフェース	インタフェースにおけるインタラクション
4	生活の中のメディアテクノロジー	コンピュータの浸透と生活の変化
5	アンユーザーズブルなコンピュータ	ユーザビリティの概念の誕生
6	設計プロセス 1	設計プロセスの基本
7	設計プロセス 2	ユーザ中心設計の活動の進め方
8	インタフェースデザイン 1	人間の身体・生理的特性を考慮したデザイン
9	インタフェースデザイン 2	人間の認知的特性を考慮したデザイン
10	インタフェースデザイン 3	デザインアプローチの基本
11	コミュニケーション	人間の社会的側面を支援するメディアテクノロジー
12	テクノロジーとの共生 1	VR と AR
13	テクノロジーとの共生 2	ソーシャルネットワークの構造とネット炎上
14	テクノロジーとの共生 3	情報社会に存在する様々な格差と情報へのアクセシビリティ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、平常点 50%。

平常点は、授業への参加の姿勢やアクションペーパーの内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特ありません。

【Outline and objectives】

We will consider the development of media technology and the resulting issues in society. We will also learn basic concepts and ideas of the User Centered Design (UCD) as a basis for the design so that we can solve related issues.

FRI300ED

メディアテクノロジーと社会実習

橋爪 絢子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユーザ中心設計の設計プロセスに沿って、各自の問題意識に基づいて、それを解決するためのサービス案を検討していきます。また、ユーザを理解するための手法に関して、実践的スキルの習得を目指します。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計で行う各活動で用いる手法の習得
- (2) メディアテクノロジーのユーザを理解するための実践的スキルの習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

授業は、基本的にグループワークで行います。分析に関する理解を深めるために、見学やゲストによる講義を行うことがあります。各グループの進捗状況や得られたコメントなどに対して、授業のはじめにフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザ調査の準備 1	計画の立案、予備調査
3	ユーザ調査の準備 2	ゴールの設定
4	ユーザ調査の準備 3	仮説生成、RQ の作成
5	中間発表 1	グループによる発表と質疑
6	ユーザ調査の準備 4	計画の再検討、RQ の見直し
7	ユーザ調査の実施 1	調査の実施と分析
8	ユーザ調査の実施 2	調査の実施と分析
9	中間発表 2	グループによる発表と質疑
10	ユーザ調査の実施 3	再調査、分析
11	調査に基づく設計 1	サービス案の検討
12	中間報告 3	グループによる発表と質疑
13	調査に基づく設計 2	サービス案の再検討
14	最終発表	グループによる発表と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特ありません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。

授業への参加の姿勢やグループへの貢献、提出物の内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特ありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンと Office 系ソフトウェア (Word、Excel、PowerPoint) を使用します。

【その他の重要事項】

本授業は、応募して前年度に「メディアテクノロジーと社会」と「メディアテクノロジーと社会分析」の 2 つを受講済みであることを前提としています。また、グループワーク形式で授業を実施するため、全ての回への出席が求められます。

なお、本授業は受講許可科目であるため、許可された受講生しか履修ができません。履修を希望される場合には、3 月 29 日に実施予定の実践科目ガイダンスに必ず参加の上、必要な手続きを取ってください。

【Outline and objectives】

We will consider service proposals to solve the issues along with the User Centered Design process based on the awareness of each problem. We'll also aim at acquiring practical skills for understanding users.

FRI200ED

メディアテクノロジーと社会分析

橋爪 絢子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーのユーザに着目しながら、ユーザ中心設計の設計プロセスで用いられる手法について学び、それらの技法を習得します。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の各活動で用いる手法の理解
- (2) メディアテクノロジーのユーザを理解するためのスキルの習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

授業は、講義と実践のための個人ワークもしくはグループワークで行います。分析に関する理解を深めるために、見学やゲストによる講義を行うことがあります。

前回までに提出されたリアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザ中心設計	ユーザ中心設計における調査と評価
3	ユーザ調査	利用状況の理解と明示
4	UX 評価	ユーザの経験の把握とその評価
5	ユーザビリティ評価	利用におけるユーザビリティとその評価
6	ユーザ調査法	ユーザ調査のための様々な手法
7	調査の準備 1	ゴールと RQ の設定
8	調査の準備 2	練習と RQ の確認
9	調査の実施 1	調査を実施する際の留意点
10	調査の実施 2	調査の実施
11	結果の分析 1	調査結果の分析手法
12	結果の分析 2	調査結果の分析の実施
13	発表 1	グループによる発表と質疑
14	発表 2	グループによる発表と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。

授業への参加の姿勢やグループへの貢献、提出物の内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンと Office 系ソフトウェア (Word、Excel、PowerPoint) を使用します。

【その他の重要事項】

本授業は、春学期の「メディアテクノロジーと社会」の受講を前提としています。また、グループワーク形式で授業を実施することもあるため、全ての回への出席が求められます。

【Outline and objectives】

We will learn methods used in the User Centered Design (UCD), and acquire these skills by taking into account of the user of media technology.

SOC200ED

メディアと人間 I

李 舜志

サブタイトル：比較文化論 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアと人間が切っても切り離せない関係で結ばれていることを学び、メディアの分析、設計、表現に資する基礎的な知見を習得する。メディアと人間 I は基礎編として主に理論を学び、メディアと人間 II では応用編として作品分析を多く行う予定である。

【到達目標】

書物やラジオ、映画などの各メディアがどのように誕生し、人間社会にどのような影響を与えたのかを大まかに理解する。それにより自分なりの「メディア観」を作り上げていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に、各回ごとに具体的なメディア（書物やラジオ、漫画など）を取り上げつつ、その歴史的意義を考察する。リアクションペーパーに沿って授業内容を変更する場合もある。授業内でリアクションペーパーによる感想や質問に回答する時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法、課題について説明する。
2	文字（アルファベット）の誕生	アルファベットの誕生が人間社会に与えたインパクトについて学ぶ。
3	書物の誕生	ヨーロッパにおける書物の誕生を例に、書物の生産・流通・消費が人間社会に与えた影響について学ぶ。
4	学校の誕生	書物をはじめとする「教育メディア」を取り上げつつ、学校の誕生について学ぶ。
5	絵本の誕生	子ども向け絵本の誕生にまでさかのぼり、子ども観の変遷と現代的課題を学ぶ。
6	新聞の誕生	新聞に関する知見をもとにして、近代ジャーナリズムの歴史について学ぶ。
7	ラジオの誕生	玉音放送を取り上げつつ、ラジオの誕生がもたらしたインパクトについて学ぶ。
8	写真の誕生	写真が誕生当時与えたインパクトと、加工が容易になった現代における写真の意義について学ぶ。
9	映画の誕生	ニュースや娯楽、プロパガンダなど、黎明期の多面的な映画について学ぶ。
10	「被災地」の誕生	「ヒロシマ」や「ナガサキ」がいかにメディアによって構築されてきたのかについて学ぶ。

11	カルチュラル・スタ ディーズの介入	カルチュラル・スタディーズの視点がメディア論にもたらしたものについて学ぶ。
12	「人間」の条件	ハンナ・アレントの議論を参考に、現代のメディア環境における「人間」の条件について学ぶ。
13	インターネットは民主 主義の敵か	インターネットの持つ政治的なポテンシャルがどのように議論されているかについて学ぶ。
14	アテンション・エコノ ミーの誕生	「注意」を奪い合う現代社会について、その問題点について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

佐藤卓己『現代メディア史 新版』、岩波書店、2018 年。
吉見俊哉『メディア文化論 メディアを学ぶ人のための 15 話 改訂版』、有斐閣アルマ、2012 年。
石田英敬『大人のためのメディア論講義』、筑摩書房、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

前半（第一回～第七回）のレポート：50 %
後半（第八回～第十四回）のレポート：50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

To learn the relationship between media and human being and acquire knowledges and skills regarding analyze, design and expression of media.

SOC200ED

メディアと人間Ⅱ

李 舜志

サブタイトル：比較文化論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアと人間が切っても切り離せない関係で結ばれていることを学び、メディアの分析、設計、表現に資する基礎的な知見を習得する。メディアと人間Ⅰは基礎編として主に理論を学び、メディアと人間Ⅱでは応用編として作品分析を多く行う予定である。

【到達目標】

映画や漫画、テレビ番組などのコンテンツを通して、メディアがどのような意図のもとで設計・表現されているのか、そしてそれらをどのように分析すればよいのか、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コンテンツの持つ歴史的意義と、それが現代においてどのように反省的に捉えられるのかを考察する。リアクションペーパーに沿って授業内容を変更する場合もある。授業内でリアクションペーパーによる感想や質問に回答する時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法、課題について説明する。
2	ナチズムと映画	ナチズムのプロパガンダ映画を分析する。
3	戦争はどのように描かれてきたか	第二次世界大戦が日本のメディアでどのように描かれてきたか、いくつかの作品を参照して分析する。
4	「ショアー」と「シンドラーのリスト」	ナチスによるユダヤ人虐殺の表象をめぐる議論と作品を分析する。
5	絵本と子どもの哲学	子ども向けのメディアである絵本が哲学と結び付けられる意義を分析する。
6	近代日本文学の起源	「私」や「国語」といった自明の概念が、近代日本文学というメディアと共に構築されてきた経緯を分析する。
7	漫画、虚構と現実	漫画表現がどのように現実とコミットするのか分析する。
8	少女漫画とジェンダー	少女漫画がジェンダー観とどのように結び付き、また刷新するのか分析する。
9	桐島、スクールカースト	「桐島、部活やめるってよ」を中心に、スクールカーストとその描かれた方を分析する。
10	ビデオゲーム	ゲーム脳、e スポーツ、ゲーミフィケーションなど、社会の様々な領域に進出するゲームについて分析する。
11	メディアアート	メディアアートの歴史と作品を通して、技術と芸術の関係について分析する。
12	写真、他者の苦痛へのまなざし	戦争報道写真を例に、写真から他者の苦痛を感受することができるか分析する。
13	リテラシー教育	近年のリテラシー教育への関心の高まりを確認し、これからのリテラシー教育について分析する。
14	メディアと人間総まとめ	メディアと人間Ⅰ・Ⅱを通じたまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

前半（第一回～第七回）のレポート：50%

後半（第八回～第十四回）のレポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

必須ではないが、メディアと人間Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

To learn the relationship between media and human being and acquire knowledges and skills regarding analyze, design and expression of media.

FRI300EC, FRI300ED

メディアの思想

小林 直毅

サブタイトル：記号論

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「思想」とは **thought**、つまり「思考されたこと」です。メディアについてどのような問題が、どのように思考され、今日のメディアをめぐるどのような思考が必要なのかを理解することがこの授業の目的です。

【到達目標】

メディアによって人びとが、どのようにして、どのような出来事を経験しているのかを理解できるようなることを第一の目標とします。その上で、今日のメディア環境の可能性と課題を実践的に考えることができるようになることを第二の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン授業で進める予定です。時間割で指定された授業曜日に毎週、講義動画、スライドのPDFファイル、配布資料を配信しますので、それらを使って受講を進めてもらいます。

配布資料は受講の事前、事後の学習のためのものです。受講者は講義動画を視聴しながら、スライドや配布資料を参照してノートを作成していきます。受講後さらに、配布資料や参考文献などを参照して、**学んだことを文章化した「講義ノート」を作成**します。これを毎週重ねてもらいます。

授業期間内で3～5回のリアクションペーパーの提出を求めます。それについての授業内での講評、もしくはリプライペーパーの配信をします。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この講義の概要とねらい
2	環境世界という考え方	理論生物学の成果に学ぶ。
3	環境世界としてのメディア環境	メディアと身体と生活とのかかわりを考える。
4	小括「環境世界・身体・メディア」	リアクションペーパーへのリプライ(1)
5	記号とその意味の成り立ち	記号学の思想に学ぶ。
6	記号の意味の多様性	記号の可能性を考える。
7	映像記号と身体	「コードのないメッセージ」を考える。
8	小括「記号・身体・メディア」	リアクションペーパーへのリプライ(2)
9	読まれ、見られる出来事	メディア環境の可能性を考える。
10	語られ、描かれる出来事	メディア環境の秩序を考える。
11	意味としての出来事	メディア環境における出来事の実験を考える。
12	小括「メディアテキスト・メディア言説・メディア表象」	リアクションペーパーへのリプライ(3)
13	メディアと権力	メディア環境のポリティクスを考える。
14	メディアと主体	メディア環境におけるイデオロギーを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の前に、**配布資料を必ず熟読**してください。そして講義の概要を自分なりに把握し、**分かりにくい事項については、「何が、どう分からないか」を考えてメモとして書き出す**といった作業が必須です。

毎回の講義後に、テキストや参考文献を参照しながら講義ノートを整理することも必須です。その際、**事項の箇条書きメモではなく、文章として整理**するように心がけてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しません。

【参考書】

毎回の配布資料で示しますが、そこで紹介された文献をできるだけ多く読んでください。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーがすべて提出されていて、いずれの内容も問題がない場合は、それをもって**成績全体の60%**の評価とします。さらに学期末に小レポートを課しますので、これを**単位認定の必須要件**とするとともに、その評価を**成績全体の40%**の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムで資料配布します。

【Outline and objectives】

Students will be able to understand the thought of media as technology and institution.

FRI200EC, FRI200ED

メディアの歴史

小林 直毅

サブタイトル：メディア史 I

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

どのようなメディアが、何を、どのように語り、描いてきたのかを考えながらメディアと人間と技術の歴史を理解し、「記録と記憶」としてのメディアの可能性と課題を考えることを目的とします。

【到達目標】

政治、経済、社会、文化の変容とメディアの変容との結びつきから、出来事を経験にメディアが不可欠であることを理解し、後半では、「戦後史としてのメディア史」をテーマにして、これを実践的に考えることができるようになるのがこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

オンライン授業で進める予定です。時間割で指定された授業曜日に毎週、講義動画、スライドのPDFファイル、配布資料を配信しますので、それらを使って受講を進めてもらいます。

配布資料は受講の事前、事後の学習のためのものです。講義動画を視聴しながら、スライドや配布資料を参照してノートを作成していきます。その後さらに、配布資料や参考文献などを参照して、学んだことを文章化した「講義ノート」を作成します。受講者にはこれを毎週重ねてもらいます。

授業期間内で3～5回のリアクションペーパーの提出を求めます。それについての授業内での講評、もしくはリプライペーパーの配信をします。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更がありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この講義の概要とねらい
第2回	メディアの歴史を読み解く視点	「記録と記憶」の考古学をめざして。
第3回	メディアと近代社会	何が、どのように印刷され、どのように読まれたのか。
第4回	「眼の隠喩」としての映像メディア	「見えないもの」を見る経験。
第5回	戦争とメディア	「動員」と「告発」、「記録」と「記憶」。
第6回	メディア表象としての近代	リアクションペーパーへのリプライ(1)
第7回	「玉音放送」と「終戦」の記憶	敗戦はどのように語られ、記憶されたのか。
第8回	原爆と原子力「平和利用」のメディア表象	「核」の記録と記憶に見る敗者の心性。
第9回	ナショナルメディアとしての放送とその技術	ラジオとテレビの連続性。
第10回	敗戦の記録と記憶	リアクションペーパーへのリプライ(2)
第11回	「テレビを見ること」で何が経験されたのか	高度経済成長とテレビの普及。
第12回	テレビが描いた「豊かさ」と「平和」(その1)	人びとは「皇太子ご成婚」に何を見たのか。
第13回	テレビが描いた「豊かさ」と「平和」(その2)	人びとは「東京オリンピック」に何を見たのか。
第14回	3.11 後のメディア	メディア・アーカイブの可能性と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の前に、配布資料を熟読してください。講義の概要を把握し、分かりにくい事項については、「何が、どう分からないか」を考えてメモとして書き出すといった作業が必須です。

講義後に、配布資料や参考文献などを参照しながら講義ノートを整理することも必須です。事項の箇条書きメモではなく、文章として整理するように心がけてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

毎回の配布資料で示します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーがすべて提出されていて、いずれの内容も問題がない場合は、それをもって成績全体の60%の評価とします。さらに学期末に小レポートを課しますので、これを単位認定の必須要件とするとともに、その評価を成績全体の40%の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配布します。

【Outline and objectives】

Students will be able to understand the history of media as technology and institution.

COT300ED

メディアプログラミング実習

湯本 正実

サブタイトル：プログラミング中級 D

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアという多義語の中で、ここでは大きく①情報媒体②電子媒体の2つについて、この両方を扱う「手段」を、Web ページ作成方法の基本を中心に説明する。

【到達目標】

メディア・リテラシーとコンピュータ・リテラシーの両方の基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初学者を対象とし、基本重視の内容と丁寧な解説を行う。Web ページの基本となる HTML の知識を軸として、他の周辺的な説明も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Web ページの基本	HTML(HyperText Markup Language) の基本概念
第 2 回	HTML タグ	HTML タグの基本：タグは応用範囲が広い。
第 3 回	HTML タグ(続き)	様々な HTML タグについて。
第 4 回	HTML 属性	属性とは？ リソース/イメージデータについて。マルチメディアの萌芽。
第 5 回	クラス/リンク	HTML のクラス、リンクおよびアンカー、Java 言語のクラスについて。
第 6 回	表(テーブル)	HTML のテーブルについて。テーブルとは 2 次元情報のこと。
第 7 回	表(テーブル):続き	HTML のテーブルについて(続き)。実は Excel もテーブル。
第 8 回	箇条書き(リスト)	HTML のリストについて。リストの Linux や Windows の例。
第 9 回	レイアウト	HTML レイアウト (id attribute, division etc.)。
第 10 回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念および Javascript の例。
第 11 回	イベント処理	HTML + Javascript でのイベント処理。
第 12 回	より細かい表現のために	HTML のブロックとインライン。Java プログラムの紹介。
第 13 回	最終提出課題作成検討	Search Engine Object と Protoptye および最終提出課題作成。
第 14 回	最終提出課題作成および全体的 Q&A	最終提出課題作成および全体的な授業に関する質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】

指定なし。

【成績評価の方法と基準】

・平常点：30% 提出課題：70% で評価する。
・最終課題提出は必須である。
・質問や意見の積極的な提起は、平常点に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

各位からの的を射た意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

各自、個人用パソコンを用意のこと。

【その他の重要事項】

・現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。

【Outline and objectives】

Enable acquiring basic effective information via programming

COT300ED

メディアプログラミング実習

湯本 正実

サブタイトル：プログラミング中級 D

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアという多義語の中で、ここでは大きく①情報媒体②電子媒体の2つについて、この両方を扱う「手段」を、Web ページ作成方法の基本を中心に説明する。

【到達目標】

メディア・リテラシーとコンピュータ・リテラシーの両方の基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初学者を対象とし、基本重視の内容と丁寧な解説を行う。Web ページの基本となる HTML の知識を軸として、他の周辺的な説明も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Web ページの基本	HTML(HyperText Markup Language) の基本概念。
第 2 回	HTML タグ	HTML タグの基本：タグは応用範囲が広い。
第 3 回	HTML タグ(続き)	様々な HTML タグについて。
第 4 回	HTML 属性	属性とは？ リソース/イメージデータについて。マルチメディアの萌芽。
第 5 回	クラス/リンク	HTML のクラス、リンクおよびアンカー、Java 言語のクラスについて。
第 6 回	表(テーブル)	HTML のテーブルについて。実は Excel はテーブル。
第 7 回	表(テーブル):続き	HTML のテーブルについて(続き)。2 次元情報。
第 8 回	箇条書き(リスト)	HTML のリストについて。リストの Linux や Windows の例。
第 9 回	レイアウト	HTML レイアウト (id attribute, division etc.)。
第 10 回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念および Javascript の例。
第 11 回	イベント処理	HTML + Javascript でのイベント処理。Processing でのイベント処理。
第 12 回	より細かい表現のために	HTML のブロックとインライン。Java プログラムの紹介。
第 13 回	最終提出課題作成検討	Search Engine Object と Protoptye および最終提出課題作成。
第 14 回	最終提出課題作成および全体的 Q&A	最終提出課題作成および全体的な授業に関する質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】

指定なし。

【成績評価の方法と基準】

・平常点：30% 提出課題：70% で評価する。
・最終課題提出は必須である。
・質問や意見の積極的な提起は、平常点に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

各位からの的を射た意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

各自、個人用パソコンを用意のこと。

【その他の重要事項】

・現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。

【Outline and objectives】

Enable acquiring basic effective information via programming

SOC200EC, SOC200ED

メディア文化論

稲増 龍夫

サブタイトル：メディア文化論Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポストモダン社会の深化と、ネットメディアの発展が相関している構図を多角的に析出し、今を映したビビッドな現代社会論を目指します。

【到達目標】

日常的に接しているメディア文化現象を素材に、ポストモダン社会論とネットメディア論がいかにシンクロしているかを理解し、テクノロジーの文脈で語られてきたネットメディアの社会学的背景を概観します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に
関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本は映像資料を駆使した講義形式ですが、全員参加の「白熱教室」＝ソクラテス的対話形式を導入します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概略と進め方のオリエンテーション
2	ポストモダンとは何か	すみわけ社会と分断社会の相克
3	高度消費社会の実相	現代広告における「差異化」の文法
4	アイデンティティの変容	「自分探し」の現代的構図
5	第1回白熱教室	ミニレポートと討論
6	価値の相対化と「正義」の解体	アメコミヒーローの変遷
7	アイドル工学	アイドル文化の日本的特性
8	メディアとしてのテレビゲームとARの位相	双方向のベクトルの進化とリアリティの変容
9	第2回白熱教室	ミニレポートと討論
10	インターネットの社会的変革力	インターネットの歴史とそのポストモダン性
11	グーグル化する社会におけるプライバシー問題	個人情報と私企業に提供して得られる便益とその危険性
12	ネット時代の著作権と二次創作の時代	モダンの時代に確立した著作権の変容を解説
13	第3回白熱教室	動画投稿サイトによって生まれた新たなメディア制作者としてのYouTuberに注目する
14	白熱教室（補講）、	総括とミニレポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今という時代のメディア文化の変容に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

3+1回の白熱教室で評価をおこない（100%）、定期試験はおこないません。毎回の出席は取りませんが、白熱教室に参加するには出席が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

ネットに関する最新の動向をフォローしている受講者から「話題が古い」という指摘がありましたが、情報番組ではないので、最新情報ではなく、理論的文脈に沿った現象を取りあげています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【Outline and objectives】

Study of Contemporary Media Culture

FRI200ED

メディア分析技法

小林 直毅

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テレビアーカイブという「記録」の森に分け入り、それを読み解き、たんなる過去の記録としてではなく、「いま」を問い、未来を照らし出していく方法を学びます。

【到達目標】

水俣病事件は「近代とは何か」を問いつづけています。そのような「水俣」の「記録と記憶」を考えることこそが、メディアの可能性と課題を考えることです。狭苦しい「メディア研究」から脱却して、「水俣」の「記録と記憶」としてのテレビドキュメンタリー・アーカイブを読み解き、近現代社会への問いを構築する方法を獲得できることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

選定した5編のドキュメンタリー番組のそれぞれが、「水俣」の何を、どのように表象し、記録し、どのような記憶を想起するのかについて、水俣病事件史研究の成果、写真集、文学作品などを読み解き、参照することで分析していきます。5編の番組のそれぞれの分析課題に応じたリアクションペーパーの提出を求めます。それについての授業内での講評、もしくはリプライペーパーを配信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業の概要とねらい。
第2回	「記録と記憶」としてのテレビアーカイブ	テレビドキュメンタリーとそのアーカイブをどのように分析するのか。
第3回	水俣病事件史とテレビドキュメンタリー	NHK（1959）『奇病のかげに』の概説。
第4回	テレビが初めて描いた「水俣」	NHK（1959）『奇病のかげに』のシーンの解説。
第5回	水俣病事件の構図と責任を読み解く（1）	NHK（1976）『埋もれた報告』の概説。
第6回	水俣病事件の構図と責任を読み解く（2）	NHK（1976）『埋もれた報告』のシーンの解説。
第7回	「政府公式見解」の発表と地域社会「水俣」（1）	RKK（1969）『111』の概説。
第8回	「政府公式見解」の発表と地域社会「水俣」（2）	RKK（1969）『111』のシーンの解説。
第9回	テレビアーカイブで考える「水俣」の記録と記憶	中間総括。
第10回	「水俣」の混迷（1）	RKK（2006）『国の病としての水俣病』の概説。
第11回	「水俣」の混迷（2）	RKK（2006）『国の病としての水俣病』のシーンの解説。
第12回	「水俣」の長い時間（1）	RKK（2006）『水俣病2度目の幕引きへ』の概説。
第13回	「水俣」の長い時間（2）	RKK（2006）『水俣病2度目の幕引きへ』のシーンの解説。
第14回	「近代化」と「水俣」の記録と記憶	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げるドキュメンタリー番組を授業の前夜で視聴することが必須です。また、参考文献、資料を精読して、番組の視聴経験と重ねて考察することも必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。毎回の授業の前夜でこれらができていなければ、リアクションペーパーも期末課題もけって書けませんので、単位取得はできません。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

授業のなかで随時提示します。

【成績評価の方法と基準】

所定の回数（5～6回程度）のリアクションペーパーがすべて提出され、かつその内容に問題がなければ、それをもって平常点として成績評価の60%とします。

学期末に「小レポート」を課しますので、その内容によって残りの40%の成績評価とします。なお、この学期末の「小レポート」を単位認定の必須要件としますの注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーと期末課題以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

MP4の動画ファイルの再生が可能なPCを必ず準備してください。

【Outline and objectives】

Students learn techniques to read and understand television archives as records and memories.

FRI200ED

メディア分析実践

小林 直毅

サブタイトル：特講（メディア分析実践）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法政大学環境アーカイブズに構築された「放送アーカイブ」と地域民放局との連携によって「水俣」のテレビアーカイブを分析、再構築するとともに、「水俣」の記録と記憶としてのテレビドキュメンタリーの企画案を構想します。

【到達目標】

一世紀以上の長い時間をかけて「近代とは何か」を問いつづけている「水俣」の「記録と記憶」を考えることは、メディアの可能性と課題を考えることです。その一環として、水俣病事件研究の成果をはじめとして、写真や文学作品とテレビドキュメンタリー・アーカイブとの相互作用による「水俣」の「記録と記憶」の可能性と課題を明らかにし、近現代社会を問うドキュメンタリーの企画を構想できるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP12に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

法政大学環境アーカイブズに構築された「放送アーカイブ」が所蔵する 16 編のドキュメンタリー番組を対象として、それらを構成するシーンが、「水俣」の何を、どのように記録し、そうしたシーンにどのような「水俣」の記憶としての可能性があるのかを分析し、その結果について学生相互の議論を重ねていきます。対象としたドキュメンタリー番組ごとに分担を決めて「番組分析シート」の提出を求めます。これらについて授業内での講評、もしくはライブペーパーの配信をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業の概要とねらい。
第 2 回	テレビドキュメンタリー・アーカイブとは何か	「記録と記憶」としてのテレビアーカイブをとらえる視点を形成する。
第 3 回	「水俣」のテレビドキュメンタリー史（1）	1970 年代までの「水俣」のテレビドキュメンタリーを概説する。
第 4 回	「水俣」のテレビドキュメンタリー史（2）	1980～1990 年代の「水俣」のテレビドキュメンタリーを概説する。
第 5 回	「水俣」のテレビドキュメンタリー史（3）	2000 年代以降の「水俣」のテレビドキュメンタリーを概説する。
第 6 回	近代という名の「水俣」の変貌（1）	水俣病事件の長い時間の記録と記憶を構成する。
第 7 回	近代という名の「水俣」の変貌（2）	失われた「水俣」の生活と文化の記録と記憶を構成する。
第 8 回	水俣病という苦難とは何か（1）	水俣病患者と家族の苦難の記録と記憶を構成する。
第 9 回	水俣病という苦難とは何か（2）	言葉を奪われる患者と家族の記録と記憶を構成する。
第 10 回	加害としての「豊かさ」（1）	潜在化の力学、抑圧と排除の構造の記録と記憶を構成する。
第 11 回	加害としての「豊かさ」（2）	加害・原因者としての企業と国の記録と記憶を構成する。
第 12 回	水俣病事件の「解決」、患者の「救済」とは何か（1）	「水俣」の混迷の記録と記憶を構成する。
第 13 回	水俣病事件の「解決」、患者の「救済」とは何か（2）	「近代」への問いの記録と記憶を構成する。
第 14 回	「水俣」に耳を澄まし、その声を語り、描く	「水俣」のテレビドキュメンタリー・アーカイブの可能性と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる 16 編のドキュメンタリー番組は全員が必ず視聴することが必須です。また、参考文献、資料を精読することも必須です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。毎回の授業の前でこれらができていなければ、ほぼ毎回提出を求められる「番組分析シート」もリアクションペーパーも期末課題もけって作成できませんので、単位取得はできません。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

授業のなかで随時提示します。これを読むことがドキュメンタリー番組の視聴とともに履修上必須です。

【成績評価の方法と基準】

「番組分析シート」、もしくはリアクションペーパーによる分析結果の報告（50 %）と、期末課題（50 %）の達成度で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーと期末課題以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

MP4 形式の動画の編集ができる PC と、この授業専用に 32 G バイト以上の USB メモリー等の記録媒体を準備してください。

【Outline and objectives】

Students will be able to practice reconstruction of television archives as record and memory.

LAW300ED

メディア法

白田 秀彰

サブタイトル：情報・メディア関係法Ⅱ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報が社会の様々な場面において重要になっている。この情報は、今後もさらに進んでいくものと予測される。こうしたなか、これまで法学学のテーマとしては直接的に取り扱われなかった「情報」に関する一定の法領域が形成されてきた。こうした「情報法」として括られる領域には、複数の法領域が少しずつ関係しており、範囲が広いものとなっている。また、論者によって対象としている領域に差があるのも事実である。このため本講義では、基本的な視点から「情報」と「法」のかかわりについて解説する。

【到達目標】

「法」が「情報」をどのように取り扱ってきたのかという歴史を理解すること。加えて情報社会の現状を把握し、現在から将来へ向かって「法」がどのように変化するか見通せることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目は春学期「情報社会学基礎 C」を履修したのちに履修することが望ましい。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面講義とはほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	名誉・信用棄損 1	メディアにおいて頻繁に問題となる名誉・信用棄損の概念について解説する。
2	名誉・信用棄損 2	名誉・信用棄損の実例について日本とアメリカの事例を挙げながら検討する。
3	放送規制 / 通信規制 1	放送事業や通信事業はどのような性質を理由として、法的規制のもとにあるのか。
4	放送規制 / 通信規制 2	放送事業や通信事業はどのような歴史的経緯をたどりながら現在の形態になったのか。
5	放送規制 / 通信規制 3	情報社会においてどのように基礎条件が変化し、規制内容が変化するのだろうか。
6	プライバシー 1	プライバシーとは、その始まりにおいてどのような概念なのか。
7	プライバシー 2	プライバシーとは、現在においてどのような概念なのか。
8	プライバシー 3	情報社会におけるプライバシー概念はどのように変化するか。
9	個人情報保護 1	個人情報保護とは、その始まりにおいてどのような概念なのか。
10	個人情報保護 2	個人情報保護とは、また現在においてどのような概念なのか。
11	個人情報保護 3	情報社会における個人情報保護にはどのような課題があるのだろうか。
12	猥褻と社会と法 1	生命に必要な生殖がなぜ猥褻概念と結合したのか。なぜ抑制されるのか。
13	猥褻と社会と法 2	猥褻概念の歴史的発展について、イギリス・アメリカと日本での展開を開設する。
14	猥褻と社会と法 3	情報社会において私たちは何を抑圧すべき表現として認識するのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「情報法テキスト」講義中の配布物や出席票をまとめたもの。入手方法は Google Classroom にて案内する。

【参考書】

Google Classroom のストリームにて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【Outline and objectives】

Information has played an important role in numerous social circumstances. This development of a computer network is estimated to make much progress. In such circumstance, an area of law that deals with information, which has long been ignored, has been formed in some degree. Such area so-called "information law" relates with multiple areas of law, therefore it has a wide spectrum. Therefore it is true that advocates' points of view differ from each others'. For these reasons, this subject focuses on explaining relationship between information and law from basic perspective.

HUI300ED

物語シミュレーション

小川 有希子

サブタイトル：特講（物語プログラミング）

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【その他の重要事項】

本授業は受講許可科目につき、春学期の履修登録時に然るべき事務手続きをとること。

【Outline and objectives】

This course deals with the narrative simulation and cognitive processes.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータと（広義の）物語は密接な関係があり、コンピュータゲームやグラフィックス、Web、さらには昨今のほとんどの映像など、デジタル技術が関わるコンテンツは、プログラミング的な発想に基づく物語として捉えなおすことができる。さらに、検索や翻訳、言語処理、ロボットなどで実用化されている様々な人工知能自体が、物語論や言語学などの強い影響下にある。本授業では、コンピュータ上で、シミュレーション的にベースとなる物語を操作することで、様々な物語生成を行なう。特に、ストーリー的側面を強調する物語と、切断技法によってストーリー以外の側面も強調する物語に関し、それぞれの原理と意義、その認知を、プログラミングに基づく物語シミュレーションを通して考察していく。

【到達目標】

コンピュータ・デジタル情報と物語の関係に関し、切断的観点も含め、深い探究を行うとともに、コンピュータ上のプログラムを用いて複数の物語をシミュレーション的に生成できるようになることを目的とする。さらに、デジタル技術の制約と限界についても考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業期間中に随時、課題を出す。プログラミ的な課題だけでなく、物語的な課題もある。これらを通し、皆で議論しながら、物語とプログラムについての考察を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の説明
第2回	コンピュータ上の物語とその表現	コンピュータと物語のつながり
第3回	物語と、その例	物語についての説明
第4回	物語の構造	切断的観点も含め、物語の構造についての説明
第5回	シミュレーションの原理	シミュレーションの原理と物語やその修辞（表現）との関係
第6回	物語論と人工知能	人工知能と物語やその修辞（表現）との関係
第7回	映像とプログラミング	映像修辞とプログラミングの関係
第8回	映像と物語のシミュレーション	物語的側面から、映像修辞に基づくシミュレーションを行う
第9回	まとめと中間課題	ここまでのまとめと中間課題
第10回	中間課題発表	中間課題の発表
第11回	Webと物語シミュレーション	Webと物語シミュレーションの関係について
第12回	最終課題案作成	最終課題の物語を決定する
第13回	最終課題に関する議論	決定した物語に関する議論
第14回	最終課題提出・発表	最終課題の提出と発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングを実際に行わない場合でも、随時、物語とシミュレーション、デジタル技術に関する考察を行い、授業へ活かしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示する。

【参考書】

小方孝・金井明人(2010)『物語論の情報学序説』学文社

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題(40%)と、最終的な課題(50%)を総合して判断する。また、授業中の議論への積極的な参加(10%)についても評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループでの議論なども重視していきたいが、具体的な方法は、皆さんと話し合って決めていきたい。どのような物語を具体的に扱うかは、早い段階で設定する予定。

SOC300EC

理論社会学

鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学は、文字通り「社会」というものの成り立ちを問う科学である。それは、社会学が、社会についての科学はいかにして可能になるのかという問いを内在させねばならないということを意味している。ゆえに、社会学は自らの方法についての自省をバネに発展してきた。これを踏まえて本講義では、「社会学の方法」の成り立ちに焦点を置いて、「社会についての学」の可能性、ひいては「社会というものの成り立ち方」について考察する。

【到達目標】

社会学の方法を単一の規範として学ぶのではなく、方法論争の歴史として理解することが基本的な目的である。

講義では、デュルケムとウェーバーの方法論上の対立点を確認することから始めて、現代社会学におけるいくつかの方法論争に関わるテキストを素材に、それぞれの「論争の文脈」を学生自らが調べ、報告し、自らの意見を示しながら議論することを反復的に行う。

半期の講義中に7回ほどの課題を提示する。受講者はこの課題に対する「回答」を準備し、講義の場でこれを発表しうる状態で参加しなければならない。

この講義は、大学院進学者を想定した、アドヴァンストな内容の習得を目的とするものである。自分自身の研究課題を踏まえて、方法論的な反省を行うことができるようになることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

半期の講義期間中に7回ほどの「課題」を提示する。受講生は、この課題に対する「回答」を次週の講義までに準備すること。課題提出者の内、1名または複数名を指名し、その内容を教室で報告してもらう。これを起点として、「課題」の文脈性と方法論争上の意味についての理解を深めていく。

課題は講義時間中に報告してもらうこともある。また、提出された課題からいくつかをピックアップし、講義時間中にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
序論	講義の狙い	方法論争としての社会学
起点	はじまりとしての「デュルケムとウェーバー」	人々の知識を疑うこと 人々の理解を理解すること
課題1	社会学的説明と理解可能性	もし、デュルケムとウェーバーがともに正しいとしたら
展開	知識の知識としての社会学	ピーター・バーガーとピーター・ウィンチ
課題2	実践知と暗黙知	身体化された知識をいかに位置づけるか
展開	対話型専門知	ハリー・コリンズの提案
課題3	越境的熟慮	社会に身を浸す/社会から身を引き離す
展開	ハビトゥスをめぐる対話	コリンズからブルデューへ

課題4	構築主義？	「世界がみな構築主義者であったなら」
課題5	約束としての実在論	岸・桜井論争
展開	他者の実践知	「対話的」学としての社会学
課題6	障害学と障害社会学	どこで「常識を手放す」か
展開	社会学的反省とその着地点	共にある技法としての社会学
課題7	方法を反省する	自分自身の社会学をふり返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

提出された「課題」に対する「回答」を準備すること。そのためには、各回について1冊以上の理論書を読むことが求められる。

「課題」が提出されなかった回については、講義中に紹介されたテキストを読んで内容の理解を深めること。

この講義にともなって求められる授業時間外の学習時間は、毎週4時間程度である。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

Harry Collins, Forms of Life, The Method and Meaning of Sociology, The MIT Press, 2019.

他は随時指示する

【成績評価の方法と基準】

最終課題に対する「回答」(40%)

その他の課題に対する「回答」(30%)

各回の講義におけるディスカッションへの参加(30%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度が初めての担当なので、特になし。

積極的な参加を求めます。

【その他の重要事項】

講義の構成と順番は、変更されることがあります。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to investigate methodological problems of the sociology.

SOC200EB, SOC200EC

臨床社会学Ⅰ

木矢 幸孝

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「病いを思う」とは、どのような経験なのだろうか。私たちの人生において、病気を避けることは不可避であるにもかかわらず、病いの経験についてはわからないことが多い。病いとともに生きている人はどのような日々をおくり、どのような葛藤を抱えているのだろうか。本授業では、病いとともに生きる人々の経験に焦点をあて、現代社会において「病いを思う」ことの意味を考える。

【到達目標】

病いとともに生きる人々の経験を学ぶとともに、病いの経験について多様な視点があることを理解する。そこから、自己と他者への想像力を喚起する力を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

病気になることをめぐる理論的水準から授業をスタートさせ、実際に病いをめぐる経験を歴史的・政策的・個別的観点から論じていく。具体的な疾患名については、ハンセン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、糖尿病、認知症、うつ病等である。

なお、授業は毎回配布するレジュメに沿って行い、授業の最後にリアクションペーパーを記入してもらう（学習支援システムの「テスト/アンケート」タブより回答）。リアクションペーパーの結果は、次回の授業で学生にフィードバックする。

本授業はオンライン（オンデマンド型）での開講となる。各授業のレジュメは学習支援システム（「教材」タブ）より各自でダウンロードすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	臨床の社会学とは何か	概要の解説
第2回	病気になる	諸概念の検討
第3回	医療化	病いとは何か
第4回	スティグマ	病いとスティグマ
第5回	「病い」の経験（1）	ハンセン病
第6回	「病い」の経験（2）	筋萎縮性側索硬化症（ALS）
第7回	「病い」の経験（3）	糖尿病
第8回	セルフヘルプ・グループ	ピア・サポートの意味
第9回	家族の視点	家族を介護する
第10回	当事者の視点	当事者研究
第11回	未診断	診断の意味
第12回	精神医療	うつ病をめぐって
第13回	視覚という感覚	視覚障害者
第14回	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書やテキストを各自で読みこなすことを要する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、レジュメを配布する予定。

【参考書】

講義やレジュメの中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）と期末レポート（70%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進行に応じて、変更の可能性がある。

【Outline and objectives】

What kind of experience is "living with illness"? It is inevitable in our lives to avoid illness. However, We don't know much about my experience of illness. How do people living with an illness live and what conflicts do they have? This class focuses on the experiences of people living with illness and considers the meaning of "living with illness" in modern society.

SOC300EC

臨床社会学Ⅱ

木矢 幸孝

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療技術の進展は私たちに恩恵をもたらしたが、新たな問題も浮上させている。本授業が主として焦点を当てるのは医療技術の利点および諸問題である。医療技術における利点と諸問題を把握したうえで、今後の医療とのかかわり方を考えてゆく。

【到達目標】

医療技術の利点および諸問題を理解し、説明できるようになる。

医療技術に対して、自分なりの考えを持てるようになる。

医療技術の利点や諸問題を検討する際に、他者の視点からも検討できる想像力を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

優生思想と障害者運動の歴史を確認したのち、医療技術の利点と諸問題を検討してゆく。医療技術によってどのようなことが可能になり、どのような問題が生じているのか、という点を踏まえて授業を進めていく。

なお、授業は毎回配布するレジュメに沿って行い、授業の最後にリアクションペーパーを記入してもらう（学習支援システムの「テスト/アンケート」タブより回答）。リアクションペーパーの結果は、次回の授業で学生にフィードバックする。

本授業はオンライン（オンデマンド型）での開講となる。各授業のレジュメは学習支援システム（「教材」タブ）より各自でダウンロードすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	概要の説明
第2回	優生思想	優生思想の歴史
第3回	障害者運動	自立生活運動
第4回	医学研究とインフォームド・コンセント	臨床研究・治験
第5回	生殖技術	妊娠と出生前検査
第6回	脳死と臓器移植	人の死としての脳死
第7回	終末期医療	死にゆく過程を考える
第8回	ヒトゲノムと ELSI	知る権利/知らないでいる権利
第9回	遺伝情報	遺伝学的知識と病い
第10回	告知	がんや遺伝性疾患の告知
第11回	再生医療	幹細胞研究をめぐる倫理
第12回	医療 AI	医療における AI とのかかわり方
第13回	感染症	COVID-19 をめぐる差別・偏見
第14回	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書やテキストを各自で読みこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、レジュメを配布する予定。

【参考書】

講義やレジュメの中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）と期末レポート（70%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進行に応じて、変更の可能性がある。

【Outline and objectives】

Although advances in medical technology have benefited us, new issues are emerging. This class focuses on issues related to medical technology. In this class, we will understand the benefits and issues of medical technology and examine how to relate to medicine in the future.

SOC300EC

歴史社会学Ⅰ

鈴木 智道

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史を通して考える」という全体を貫く主題のもと、いくつかのより身近なテーマを素材にしながら、日本社会の歴史的経験を、とりわけ明治以降に照準しつつ（必要に応じてその外側に広がる地理的空間をも視野に入れつつ）読み解いていくことで、われわれの今日の生活世界や社会生活のあり方を、その起源にまで遡って再認識していく。同時に、そうした作業を通して、より大きくは「近代」とは何か」という問題を相対的な視野のなかで捉え直していく。

【到達目標】

・社会的な歴史研究の射程を理解しながら、そこから立ち上がる「歴史」からの問いに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
・あわせて、歴史的な視点が、〈いま・ここ〉を見据え、考える手段としてのどのような可能性をもっているかということについて、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で授業を進めていく。ただし、その都度「考える素材」を提示し、リアクションペーパーやレポートを通して、その回答を求める。リアクションペーパーについては、可能な限り授業内でフィードバックを行う。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	〈文明化〉する社会①	〈伝統〉から〈文明〉へ
3	〈文明化〉する社会②	社会秩序としての〈近代〉
4	〈文明化〉する社会③	社会秩序を支える「身体」
5	〈都市〉に暮らす①	近代都市の離陸と空間編制
6	〈都市〉に暮らす②	理想的な都市のあり方を求めて
7	〈都市〉に暮らす③	都市郊外の開発と都市型ライフスタイル
8	〈職〉に就く①	メリトクラシー社会としての近代社会
9	〈職〉に就く②	学校と職業の不幸な関係
10	〈職〉に就く③	「身分」から「職業」へ
11	〈家族〉をつくる①	〈家族〉の歴史性
12	〈家族〉をつくる②	「家庭」的な〈家族〉の誕生
13	〈家族〉をつくる③	イデオロギーとしての〈近代家族〉
14	エビローク	「歴史」からの問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各トピックごとに提示される参考文献一覧のうち、興味をもった文献を手に取り、通読してみると、授業内容について理解を深める。
・中間および期末の2度にわたり、授業内容をふまえた課題についてレポートを執筆する。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜レジュメを配布し、それに基づき講義を進めていく。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

各トピックごとに課題される課題レポート（25%×4回）により評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業であっても、対面授業と同様の効果があり、かつ受講生が取り組みやすい教材のあり方がないか、なお一層模索する。

【Outline and objectives】

The main theme of this course is to rethink some topics on Japanese experiences of the period after the Meiji Restoration from the sociological perspective.

SOC300EC

歴史社会学Ⅱ

鈴木 智道

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史とは何かを考える」という全体を貫く主題のもと、近年、提起されている「歴史」なるものをめぐる理論的あるいは実践的な論点について、具体的な事例を織り交ぜつつ概観しながら、歴史と聞けば高校までの「日本史」や「世界史」を想起してしまう思考を超えたところで展開している〈歴史〉の姿に様々な角度から向き合っていく。同時に、そうした作業を通して、私たちがこれまでに作り上げてきた「歴史」を相対的な視野のなかで問い直していく。

【到達目標】

・「暗記科目としての「歴史」」を超えた地平に広がる、その奥行きと広がりに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
・あわせて、様々な形で提示される「歴史」への問いを前にして、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で授業を進めていく。ただし、その都度「考える素材」を提示し、リアクションペーパーやレポートを通して、その回答を求める。リアクションペーパーについては、可能な限り授業内でフィードバックを行う。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	歴史を〈書く〉①	歴史が作られる「現場」を覗く
3	歴史を〈書く〉②	歴史はいかにして科学たりえるのか？
4	歴史を〈書く〉③	フィクションとノンフィクションの間
5	〈問題化される〉歴史①	書き換えられる歴史(1)
6	〈問題化される〉歴史②	書き換えられる歴史(2)
7	〈問題化される〉歴史③	歴史と責任～終わらない過去
8	歴史を〈学ぶ〉①	〈日本史〉的歴史の文法
9	歴史を〈学ぶ〉②	〈日本史〉的歴史の機能
10	歴史を〈記憶する〉①	人は誰もみな歴史家
11	歴史を〈記憶する〉②	過去をいかにして記憶するか
12	歴史を〈イメージする〉①	〈近代化〉と何なのか？
13	歴史を〈イメージする〉②	歴史の想像力のゆくえ
14	エビローク	「歴史」への問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各トピックごとに提示される参考文献一覧のうち、興味をもった文献を手に取り、通読してみると、授業内容について理解を深める。
・中間および期末の2度にわたり、授業内容をふまえた課題についてレポートを執筆する。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜レジュメを配布し、それに基づき講義を進めていく。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

小課題レポート（20%×2回）+期末試験（60%）により評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業であっても、対面授業と同様の効果があり、かつ受講生が取り組みやすい教材のあり方がないか、なお一層模索する。

【Outline and objectives】

The main theme of this course is to introduce students to some viewpoints on history as contemporary events.

LANr100EA

ロシア語初級A

佐藤 裕子、中堀 正洋

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてロシア語を学ぶ学生を対象とし、アルファベットから始め、基礎文法と基本単語を修得し、初歩的なコミュニケーション能力を養成することを目的とします。

1年間の学習を通して、ロシア語が自由に音読できるようになること、約 550 語の単語力を身につけ、名詞、動詞、形容詞、代名詞の基本的な変化形をマスターすることを目指します。また簡単な自己紹介や会話ができるように練習します。ロシア文化など紹介しつつ、多面的な文化理解も目指します。

【到達目標】

本科目では、教科書『初級ロシア語 20 課 CD 付』全 20 課のうち、1～7 課まで進む予定です。

基礎文法を中心に学び、ロシア語アルファベットの読み方や発音を身につけたあと、最初歩の文法と単語（収録単語 550 語のうち約 180 語）を習得し、初歩的なコミュニケーション能力の養成を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目（ロシア語初級 A・B）は、二人の講師（佐藤と中堀）が連携して授業を行います。

①新出単語の音読、②文法解説、③本文の解説と発音練習、④練習問題、という流れで進めていきます。

授業内で実施した試験や小テストなど、課題に対する講評や解説は授業中に行う予定です。

この授業は必修のため、春学期・秋学期を通じて履修する必要があります。

なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ロシア語の予備知識
第 2 回	文字と発音	アルファベット 母音文字 子音文字
第 3 回	文字と発音の続き	アクセント 母音の弱化 子音の同化
第 4 回	1 課 この人は誰ですか？	基本文型 1 「はい」の表現
第 5 回	2 課 あなたは医者ですか？	基本文型 2 「いいえ」の表現
第 6 回	3 課 郵便局はどこですか？	動詞の現在変化 1 名詞の性
第 7 回	4 課 これは誰の写真ですか？	綴り字の規則 所有代名詞
第 8 回	これまでの復習	中間 復習 1～4 課の中間試験
第 9 回	5 課 どこにお勤めですか？	前置詞 名詞の前置格

第 10 回 6 課 彼はロシア語を話します 動詞の現在変化 2 形容詞の性数変化

第 11 回 6 課の続き 形容詞の用法

第 12 回 7 課 どこに住んでるの？ 名詞・人称代名詞の生格

第 13 回 7 課の続き 所有の表現

第 14 回 総復習 期末試験 総復習 5～7 課の期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストや練習問題は事前に取り組んでから授業に臨んでください。

随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。

本科目の予習・復習は各 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語 20 課』（桑野隆著、白水社、¥1900 + 税）

【参考書】

・『入門ロシア語文法』（和久利誓一著、白水社、1970、¥1300 + 税）必須購入

・露和辞典（博友社ロシア語辞典、1995 年、¥6291 が望ましい）

・『ティータムのロシア語』（土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019、¥2310）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と中間・期末試験（50%）から総合評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is intended for students who study Russian for the first time. Starting with the study of the Russian alphabet, the course aims to master basic grammar and vocabulary and to develop elementary communication skills in Russian. The goal is to be able to read Russian naturally aloud, to acquire a vocabulary of about 550 words, and to master the basic word forms of nouns, verbs, adjectives, and pronouns. We will also practice simple self-introduction and conversation. Students will also be introduced to Russian culture, aiming for cultural understanding.

LANr100EA

ロシア語初級B

佐藤 裕子、中堀 正洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1, 金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてロシア語を学ぶ学生を対象とし、アルファベットから始め、基礎文法と基本単語を修得し、初歩的なコミュニケーション能力を養成することを目的とします。

1年間の学習を通して、ロシア語が自由に音読できるようになること、約 550 語の単語力を身につけ、名詞、動詞、形容詞、代名詞の基本的な変化形をマスターすることを目指します。また簡単な自己紹介や会話ができるように練習します。ロシア文化など紹介しつつ、多面的な文化理解も目指します。

【到達目標】

本科目では、教科書『初級ロシア語 20 課 CD 付』全 20 課のうち、8～14 課まで進む予定です。

春学期に学んだ文法知識や語彙力（収録単語 550 語のうち約 400 語）を定着させ、より進んだ文法知識を身につけることで、複雑な文章でも理解できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目（ロシア語初級 A・B）は、二人の講師（佐藤と中堀）が連携して授業を行います。

①新出単語の音読、②文法解説、③本文の解説と発音練習、④練習問題、という流れで進めていきます。

授業内で実施した試験や小テストなど、課題に対する講評や解説は授業中に行う予定です。

この授業は必修のため、春学期・秋学期を通じて履修する必要があります。

なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 復習	春学期の復習
第 2 回	8 課 こんにちは、ア ンナ！	動詞の過去形 名詞の与格
第 3 回	9 課 どこへ行くところ？	移動の動詞
第 4 回	9 課の続き	名詞の対格 不定人称文
第 5 回	10 課 何をする予定？	動詞の未来形 対格の用法
第 6 回	10 課の続き	曜日の表現
第 7 回	これまでの復習 中間 試験	復習 8～10 課の中間試験
第 8 回	11 課 読み終わりましたか？	動詞の体 体と時制
第 9 回	12 課 私は忙しかっ た	形容詞の短語尾形 順序数詞
第 10 回	13 課 スープは何が おすすめですか？	2 人称命令法
第 11 回	13 課の続き	名詞の造格 不規則変化の動詞
第 12 回	14 課 ご気分はいかが ですか？	比較級 比較の対象の表し方

第 13 回 14 課の続き 否定生格 「～が痛い」の表現

第 14 回 総復習 期末試験 総復習 11～14 課の期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストや練習問題は事前に取り組んでから授業に臨んでください。

随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。

本科目の予習・復習は各 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語 20 課』（桑野隆著、白水社、¥1900 + 税）

【参考書】

・『入門ロシア語文法』（和久利誓一著、白水社、1970、¥1300 + 税）必須購入

・露和辞典（博友社ロシア語辞典、1995 年、¥6291 が望ましい）

・『ティータイムのロシア語』（土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019、¥2310）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）と中間・期末試験（50 %）から総合評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is intended for students who study Russian for the first time. Starting with the study of the Russian alphabet, the course aims to master basic grammar and vocabulary and to develop elementary communication skills in Russian. The goal is to be able to read Russian naturally aloud, to acquire a vocabulary of about 550 words, and to master the basic word forms of nouns, verbs, adjectives, and pronouns. We will also practice simple self-introduction and conversation. Students will also be introduced to Russian culture, aiming for cultural understanding.

LANr200EA

ロシア語中級 1

清沢 紫織

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級を履修した学生を対象とし、ロシア語初級では扱わなかった文法事項を学習します。ロシア語の文章を読み、理解していくうえで必要となる比較の表現、関係代名詞、仮定法、数詞を用いた表現などの文法事項を学び、基本的な文法をひとつと終えることを目指します。また、ロシア語圏の国々の社会や文化についても理解を深めます。

【到達目標】

既習の文法事項を的確に運用できること。動詞の体、命令法、比較の表現、関係詞、仮定法、数量に関する表現など本学期に学習した文法事項をきちんと理解して表現できること。辞書を用いてロシア語で書かれた文章を読解し日本語に訳せること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では、「ロシア語初級」で扱わなかった文法事項を学習します。教材は授業毎に配布し、受講生には新出単語を調べる、テキストを訳出する、練習問題を解くなどの課題を必要に応じて課します。課題に対する講評や解説は授業中に行う予定です。

なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

これまで学習したロシア語文法を定着させるためにも、春学期・秋学期を通じて履修することを推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「ロシア語初級」の復習
第2回	動詞の体	完了体と不完了体
第3回	動詞の体と時制	体と時制の関係について
第4回	勧誘の表現	1人称と3人称命令法
第5回	比較級	合成比較級、単一比較級
第6回	最上級	合成最上級、単一最上級
第7回	関係代名詞	который, кто, что
第8回	関係代名詞の続き	какой, чей
第9回	関係副詞	когда, где, куда, откуда
第10回	仮定法	願望、提案、命令、要求など
第11回	数詞、順序数詞	個数詞と形容詞・名詞の結合
第12回	数量に関する表現	数量生格、年齢など
第13回	数量に関する表現の続き	時間、年月日、値段など
第14回	試験・まとめと解説	春学期のまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストや練習問題は事前に取り組んでから授業に臨んでください。随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

「入門ロシア語文法」和久利智一著、白水社、1970、¥1404 必須購入
辞書については授業で紹介するので、事前に購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験 60%、平常点（授業参加態度、課題提出などを含む）40%の総合評価

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is intended for students who finished learning Russian for the first grade(Beginning Russian A / B). Students will learn grammatical items that were not covered in Beginning Russian, such as comparative expressions, relative pronouns, the subjunctive, and expressions using numerals, which are necessary for reading and understanding Russian texts. The aim of this course is to finish basic grammar. Students will also deepen their understanding of the society and culture of Russian-speaking countries.

LANr200EA

ロシア語中級 2

中堀 正洋

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級を履修した学生を対象とし、ロシア語初級では扱わなかった文法事項を学習します。ロシア語の文章を読み、理解していくうえで必要となる比較の表現、関係代名詞、仮定法、数詞を用いた表現などの文法事項を学び、基本的な文法をひとつと終えることを目指します。ロシアの文化や社会に関する知識も増えます。

【到達目標】

既習の文法事項を的確に運用できること。動詞の体、命令法、比較の表現、関係詞、仮定法、数量に関する表現など本学期に学習した文法事項をきちんと理解して表現できること。辞書を用いてロシア語で書かれた文章を読解し日本語に訳せること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では、「ロシア語初級」で扱わなかった文法事項を学習します。教材は授業毎に配布し、受講生には新出単語を調べる、テキストを訳出する、練習問題を解くなどの課題を必要に応じて課します。課題に対する講評や解説は授業中に行う予定です。

これまで学習したロシア語文法を定着させるためにも、春学期・秋学期を通じて履修することを強く推奨します。

なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「ロシア語初級」の復習
第2回	動詞の体	完了体と不完了体
第3回	動詞の体と時制	体と時制の関係について
第4回	勧誘の表現	1人称と3人称命令法
第5回	比較級	合成比較級 単一比較級
第6回	最上級	合成最上級 単一最上級
第7回	関係代名詞	который, кто, что
第8回	関係代名詞の続き	какой, чей
第9回	関係副詞	когда, где, куда, откуда
第10回	仮定法	願望、提案、命令、要求など
第11回	数詞 順序数詞	個数詞と形容詞・名詞の結合
第12回	数量に関する表現	数量生格、年齢など
第13回	数量に関する表現の続き	時間、年月日、値段など
第14回	総復習 試験	春学期のまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストや練習問題は事前に取り組んでから授業に臨んでください。随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。

本科目の予習・復習は各2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970、¥1404 必須購入
辞書については授業で紹介しますので、事前に購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と期末試験（60％）から総合評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is intended for students who finished learning Russian for the first grade(Beginning Russian A/B). Students will learn grammatical items that were not covered in Beginning Russian, such as comparative expressions, relative pronouns, the subjunctive, and expressions using numerals, which are necessary for reading and understanding Russian texts. The aim of this course is to finish basic grammar. And also strengthen the foundations for reading and understanding Russian texts.

LANr200EA

ロシア語中級3

清沢 紫織

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級を履修した学生を対象とし、ロシア語初級では扱わなかった文法事項を学習します。学期前半は関係代名詞、副動詞、形動詞などの文法事項を学習し、学期後半は文章読解を通してこれまで学んだことの確認、定着、応用を目指すと共にロシア語圏の国々の社会や文化についても理解を深めます。

【到達目標】

既習の文法事項を的確に運用できること。特に、関係代名詞、副動詞、形動詞など本学期に学習した比較的複雑な文法事項をきちんと理解して表現できること。辞書を用いてロシア語で書かれた文章を読解し日本語に訳せること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では、前半は「ロシア語中級1」までに扱わなかった文法事項を学習し、後半はロシア語で書かれた様々な文章を読んでいくことで読解力を養う訓練を行います。教材は授業毎に配布し、受講生には新出単語を調べる、テキストを訳出する、練習問題を解くなどの課題を必要に応じて課します。課題に対する講評や解説は授業中に行う予定です。受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。これまで学習したロシア語文法を定着させるためにも、春学期・秋学期を通じて履修することを推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 復習	春学期の復習
第2回	練習	関係代名詞の練習
第3回	副動詞、分詞	能動形動詞
第4回	分詞の続き	被動形動詞 被動相
第5回	否定代名詞・副詞	ничто、никто、никогда、некого、нечего、некогдаなど
第6回	不定代名詞・副詞	-то、-нибудь/-либо、кое-
第7回	文章読解（ロシア人の名前）	テキストの音読と翻訳、文法解説
第8回	第7回の続き	テキストの音読と翻訳、文法解説
第9回	文章読解（ロシア人と甘いもの）	テキストの音読と翻訳、文法解説
第10回	第9回の続き	テキストの音読と翻訳、文法解説
第11回	文章読解（ロシアの世界遺産）	テキストの音読と翻訳、文法解説
第12回	第11回の続き	テキストの音読と翻訳、文法解説
第13回	第12回の続き	テキストの音読と翻訳、文法解説
第14回	試験・まとめと解説	秋学期のまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストや練習問題は事前に取り組みながら授業に臨んでください。随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970、¥1404 必須購入
辞書については授業で紹介しますので、事前に購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験60%、平常点（授業参加態度、課題提出などを含む）40%の総合評価

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is intended for students who finished learning Russian for the first grade(Beginning Russian A/B, Intermediate Russian 2). In the first half, we aim to finish the remaining grammar. In the second half, through reading comprehension, we aim for confirmation, fixing and application of what we have learned so far. Students will also deepen their understanding of the society and culture of Russian-speaking countries.

LANr200EA

ロシア語中級4

中堀 正洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級を履修した学生を対象とし、ロシア語初級では扱わなかった文法事項を学習します。学期前半は関係代名詞、副動詞、形動詞などの文法事項を学習し、学期後半は既習の文法事項を運用し、辞書を用いながら、ロシア語で書かれた文章を読解して日本語に訳せるようになることを目指します。ロシアの文化や社会に関する知識も培います。

【到達目標】

既習の文法事項を的確に運用できること。特に、関係代名詞、副動詞、形動詞など本学に学習した比較的複雑な文法事項をきちんと理解して表現できること。辞書を用いてロシア語で書かれた文章を読解し日本語に訳せること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本科目では、前半は「ロシア語中級2」までに扱わなかった文法事項を学習し、後半はロシア語で書かれた様々な文章を読んでいくことで読解力を養う訓練を行います。教材は授業毎に配布し、受講生には新出単語を調べる、テキストを訳出する、練習問題を解くなどの課題を必要に応じて課します。課題に対する講評や解説は授業中に行う予定です。

これまで学習したロシア語文法を定着させるためにも、春学期・秋学期を通じて履修することを強く推奨します。

なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 復習	春学期の復習
第2回	練習	関係代名詞の練習
第3回	副動詞、分詞	能動形動詞
第4回	分詞の続き	被動形動詞 被動相
第5回	否定代名詞・副詞	ничто、никто、никогда、некого、ничего、некогдаなど
第6回	不定代名詞・副詞	-то、-нибудь/-либо、кое-
第7回	文章読解（モスクワ大学）	テキストの音読と翻訳、文法解説
第8回	第7回の続き	テキストの音読と翻訳、文法解説
第9回	文章読解（トレチャコフ美術館）	テキストの音読と翻訳、文法解説
第10回	第9回の続き	テキストの音読と翻訳、文法解説
第11回	ニュース記事を読む	テキストの音読と翻訳、文法解説
第12回	第11回の続き	テキストの音読と翻訳、文法解説
第13回	第12回の続き	テキストの音読と翻訳、文法解説
第14回	総復習 試験	秋学期のまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定されたテキストや練習問題は事前に取り組んでから授業に臨んでください。随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。

本科目の予習・復習は各 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970、¥1404 必須購入

辞書については授業で紹介しますので、事前に購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と期末試験（60％）から総合評価を出します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is intended for students who finished learning Russian for the first grade(Beginning Russian A / B, Intermediate Russian 2). In the first half, we aim to finish the remaining grammar. In the second half, through reading comprehension, we aim for confirmation, fixing and application of what we have learned so far.